

IMS

バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 1

巻:

DFS メッセージ

IBM

IMS

バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 1

巻:

DFS メッセージ

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、1199 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS 15 (プログラム番号 5635-A06)、IMS Database Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-DS5)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-TM4)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-6789-00
IMS
Version 15.1.0
Messages and Codes, Volume 1:
DFS Messages
(November 2, 2017 edition)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1974, 2017.

目次

本書について	vii	第 15 章 DFS メッセージ DFS551I -	
前提知識	vii	DFS600I.	173
新規および変更された情報の識別方法	viii	第 16 章 DFS メッセージ DFS601I -	
IMS 15 のアクセシビリティ機能	viii	DFS650E	187
第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード	1	第 17 章 DFS メッセージ DFS0651W	
IMS 15 の新しいメッセージとコード	1	- DFS700I	203
IMS 15 で変更されたメッセージとコード	2	第 18 章 DFS メッセージ DFS701I -	
IMS 15 で削除されたメッセージおよびコード	3	DFS0750I	219
第 2 章 IMS 問題判別	9	第 19 章 DFS メッセージ DFS0751I -	
第 3 章 DFS メッセージ	13	DFS0800I	243
第 4 章 DFS メッセージ DFS000I -		第 20 章 DFS メッセージ DFS0801I -	
DFS050A	17	DFS0850W.	259
第 5 章 DFS メッセージ DFS051I -		第 21 章 DFS メッセージ DFS0851W	
DFS100	37	- DFS0900A	275
第 6 章 DFS メッセージ DFS101 -		第 22 章 DFS メッセージ DFS0901A -	
DFS150	53	DFS0950I	287
第 7 章 DFS メッセージ		第 23 章 DFS メッセージ DFS0951I -	
DFS151-DFS200	63	DFS1000I	299
第 8 章 DFS メッセージ DFS201 -		第 24 章 DFS メッセージ DFS1001I -	
DFS250	71	DFS1050I	315
第 9 章 DFS メッセージ DFS251 -		第 25 章 DFS メッセージ DFS1051I -	
DFS0300I.	81	DFS1100I	327
第 10 章 DFS メッセージ DFS301A -		第 26 章 DFS メッセージ DFS1101I -	
DFS350A	93	DFS1150I	337
第 11 章 DFS メッセージ DFS351W -		第 27 章 DFS メッセージ DFS1151I -	
DFS400I.	107	DFS1200I	347
第 12 章 DFS メッセージ DFS401I -		第 28 章 DFS メッセージ DFS1201I -	
DFS0450I	119	DFS1250I	359
第 13 章 DFS メッセージ DFS0451A -		第 29 章 DFS メッセージ DFS1251I -	
DFS0500I	137	DFS1300I	365
第 14 章 DFS メッセージ DFS0501I -		第 30 章 DFS メッセージ DFS1301I -	
DFS550I.	155	DFS1350I	379

第 31 章 DFS メッセージ DFS1351I - DFS1400I 385	第 49 章 DFS メッセージ DFS2251W - DFS2300I 559
第 32 章 DFS メッセージ DFS1401I - DFS1450I 391	第 50 章 DFS メッセージ DFS2301I - DFS2350I 569
第 33 章 DFS メッセージ DFS1451I - DFS1500I 397	第 51 章 DFS メッセージ DFS2351A - DFS2400I 579
第 34 章 DFS メッセージ DFS1501I - DFS1550I 403	第 52 章 DFS メッセージ DFS2401I - DFS2450I 589
第 35 章 DFS メッセージ DFS1551I - DFS1600I 411	第 53 章 DFS メッセージ DFS2451W - DFS2500I 601
第 36 章 DFS メッセージ DFS1601I - DFS1650I 419	第 54 章 DFS メッセージ DFS2501W - DFS2550I 615
第 37 章 DFS メッセージ DFS1651I - DFS1700I 425	第 55 章 DFS メッセージ DFS2551I - DFS2600A 627
第 38 章 DFS メッセージ DFS1701I - DFS1750I 431	第 56 章 DFS メッセージ DFS2601I - DFS2650A 637
第 39 章 DFS メッセージ DFS1751I - DFS1800I 439	第 57 章 DFS メッセージ DFS2651A - DFS2700A 647
第 40 章 DFS メッセージ DFS1801I - DFS1850I 447	第 58 章 DFS メッセージ DFS2701W - DFS2750A 655
第 41 章 DFS メッセージ DFS1851I - DFS1900I 455	第 59 章 DFS メッセージ DFS2751A - DFS2800I 663
第 42 章 DFS メッセージ DFS1901I - DFS1950 467	第 60 章 DFS メッセージ DFS2801A - DFS2850E 671
第 43 章 DFS メッセージ DFS1951I - DFS2000I 481	第 61 章 DFS メッセージ DFS2851I - DFS2900I 683
第 44 章 DFS メッセージ DFS2001I - DFS2050 501	第 62 章 DFS メッセージ DFS2901I - DFS2950A 691
第 45 章 DFS メッセージ DFS2051I - DFS2100 511	第 63 章 DFS メッセージ DFS2951I - DFS3000I 697
第 46 章 DFS メッセージ DFS2101I - DFS2150I 525	第 64 章 DFS メッセージ DFS3001W - DFS3050A 711
第 47 章 DFS メッセージ DFS2151I - DFS2200I 539	第 65 章 DFS メッセージ DFS3051A - DFS3100I 719
第 48 章 DFS メッセージ DFS2201I - DFS2250I 551	第 66 章 DFS メッセージ DFS3101I - DFS3150 727

第 67 章 DFS メッセージ DFS3151 - DFS3200	739	第 85 章 DFS メッセージ DFS4101A - DFS4150I	1003
第 68 章 DFS メッセージ DFS3201 - DFS3250	761	第 86 章 DFS メッセージ DFS4151I - DFS4200I.	1007
第 69 章 DFS メッセージ DFS3251W - DFS3300I	775	第 87 章 DFS メッセージ DFS4201I - DFS4250	1019
第 70 章 DFS メッセージ DFS3301W - DFS3350E	799	第 88 章 DFS メッセージ DFS4251 - DFS4300	1023
第 71 章 DFS メッセージ DFS3351E - DFS3400I	813	第 89 章 DFS メッセージ DFS4301E - DFS4350E.	1035
第 72 章 DFS メッセージ DFS3401I - DFS3450	827	第 90 章 DFS メッセージ DFS4351E - DFS4400E.	1045
第 73 章 DFS メッセージ DFS3451 - DFS3500W.	845	第 91 章 DFS メッセージ DFS4401E - DFS4450I	1057
第 74 章 DFS メッセージ DFS3501W - DFS3550I	863	第 92 章 DFS メッセージ、DFS4451I - DFS4500E.	1075
第 75 章 DFS メッセージ DFS3551E - DFS3600I	871	第 93 章 DFS メッセージ DFS4501 - DFS4600I.	1093
第 76 章 DFS メッセージ DFS3601 - DFS3650I	887	第 94 章 DFS メッセージ DFS4601E - DFS4650I	1115
第 77 章 DFS メッセージ DFS3651I - DFS3700	909	第 95 章 DFS メッセージ DFS4651E - DFS4700	1129
第 78 章 DFS メッセージ DFS3701I - DFS3750A.	921	第 96 章 DFS メッセージ DFS4701 - DFS4750	1139
第 79 章 DFS メッセージ DFS3751A - DFS3800	941	第 97 章 DFS メッセージ DFS4751 - DFS4800	1147
第 80 章 DFS メッセージ DFS3801 - DFS3850A.	955	第 98 章 DFS メッセージ DFS4801 - DFS4900	1155
第 81 章 DFS メッセージ DFS3851I - DFS3900I	965	第 99 章 DFS メッセージ DFS4901 - DFS5000	1163
第 82 章 DFS メッセージ DFS3901W - DFS3950A	975	第 100 章 DFS メッセージ DFS5001 - DFS5100	1167
第 83 章 DFS メッセージ DFS3951 - DFS4000I	991	第 101 章 DFSD メッセージ (DRD ユ ーティリティー)	1169
第 84 章 DFS メッセージ DFS4001 - DFS4050A	1001	第 102 章 DFSIX メッセージ (インス トール検査プログラム・ダイアログ) . .	1175

第 103 章 DFSI メッセージ (構文チェッカー)	1191
第 104 章 DFSS メッセージ (IMS 異常終了検索および通知)	1195
特記事項	1199

プログラミング・インターフェース情報	1201
商標	1201
製品資料に関するご使用条件	1201
IBM オンライン・プライバシー・ステートメント	1202
参考文献	1205

本書について

本書には、IMS™ によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

本書には、IMS によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

第 1 巻は、DFS 接頭部が付いた IMS メッセージの参照情報を、それに関連する戻りコードと一緒に提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断情報も提供します。

第 2 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、および IBM® リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などに関連する、DFS 以外の接頭部が付いた IMS メッセージについて、参照情報を提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報を提供します。

第 3 巻は、すべての IMS 異常終了 (アベンド) コードに関する参照情報を、分析、説明、考えられる原因、および APAR 処理命令も含めて提供します。

第 4 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、IBM リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などの戻りコード、理由コード、センス・コード、機能コード、および状況コードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報も提供します。

本書は、IBM Knowledge Centerの一部として www.ibm.com/support/knowledgecenter で入手できます。

前提知識

本書を使用する際には、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) の知識が必要です。さらに、z/OS® および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書を使用する際には、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のいずれかの知識が必要となります。さらに、z/OS および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書の読者は、z/OS、そのシステム生成、および通信について、また、IMS で使用されるアクセス方式について理解しておく必要があります。関連資料は、『参考文献』にリストされています。

z/OS の詳細については、IBM Knowledge Center の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳しいリストについては、IBM Skills Gateway にアクセスして、IMS を検索してください。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカー) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカーは含まれていません。

改訂マーカーは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。
- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マーカーが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マーカーが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見えることがあります)。

改訂マーカーは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マーカーでマークを付けることはできないためです。

IMS 15 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS 15 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS 15 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS 15 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS 15 のオンライン資料は、IBM Knowledge Center で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード

IMS 15 には、新規、および変更または削除されたメッセージとコードが多数あります。

IMS 15 の新しいメッセージとコード

IMS 15 には、以下にリストされている新しいメッセージが含まれています。

新しい **CQS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

CQS0224E

新しい **DFS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

DFS0745E

DFS3253W

DFS3458

DFS4690I

DFS4691I

DFS4692E

DFS4861W

DFS4862W

DFS4863W

DFS4864W

新しい **G** メッセージ

以下は新規メッセージです。

G116

G117

G118

G119

G120

G121

G122

新しい **HWS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

HWSX0915W

HWSX0916W

新しい異常終了コード

以下の異常終了コードは新規コードです。

0421
0423
0424
0425
0426

新しいコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードは新規コードです。
IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で変更されたメッセージとコード

このリリースでは、以下にリストされている、DSP メッセージが変更されています。

変更された **DFS** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DFS0413I
DFS1934E
DFS2205I
DFS2385E
DFS2679A
DFS3254I
DFS3377
DFS3398E
DFS4610E
DFS4615E
DFS554A
DFS3438
DFS3446

変更された **DSP** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DSP0012I

変更された異常終了コード

以下の異常終了コードが変更されました。

U0711
U0070
U0071
U0073
U1002
1143

変更されたコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードが変更されました。

OTMA C/I 戻りコード

IMS 15 で削除されたメッセージおよびコード

以下のセクションにリストされているメッセージは、IMS 15 では削除されています。

このリリースでは、以下のメッセージが削除されました。

DFS2211I

G040

G043

G904

G042

G1205

G1212

削除された **LGEN** メッセージ

大規模システム定義 (LGEN) のサポートの中止により、以下のメッセージが削除されました。

DFS3512I	G008
DFS3514I	G1211
DFS3516I	
DFS3518I	
DFS3520I	
DFS3522I	
DFS3524I	
DFS3526I	
DFS3528I	
DFS3530I	
DFS3532I	
DFS3534I	
DFS3536I	
DFS3538I	
DFS3540I	
DFS3546I	
DFS3548I	
DFS3550I	
DFS3552I	
DFS3554I	
DFS3556I	
DFS3558I	
DFS3559A	
DFS3560I	
DFS3562I	
DFS3564I	
DFS3566I	
DFS3567I	
DFS3568I	
DFS3569I	
DFS3570I	
DFS3572I	
DFS3574I	
DFS3577A	
DFS3593I	
DFS3599I	

削除された RSR メッセージ

リモート・サイト・リカバリー (RSR) のサポートの中止により、以下のメッセージおよび異常終了が削除されました。これらのメッセージには、トランスポート・マ

ネージャー・サブシステムおよびその他の RSR サービス (オンライン順方向リカバリー、ログ・ルーター、DBRC などのサービス・グループ) により発行されるメッセージが含まれます。

異常終了	DFS2953I	DFS4030A
360	DFS2954I	DFS4031A
361	DFS2955W	DFS4032A
362	DFS2956I	DFS4033I
363	DFS2959I	DFS4034A
364	DFS2960A	DFS4034I
365	DFS2961I	DFS4035A
378	DFS2962I	DFS4036I
379	DFS2963A	DFS4037A
380	DFS2964I	DFS4039A
381	DFS2965A	DFS4041I
388	DFS2966A	DFS4042A
3090	DFS2967A	DFS4043A
3091	DFS2968A	DFS4044A
3399	DFS2969A	DFS4045A
DFS メッセージ (IMS)	DFS2980E	DFS4046A
DFS170	DFS2981E	DFS4047A
DFS176	DFS2982E	DFS4048I
DFS2903I	DFS2983E	DFS4049I
DFS2908I	DFS2984I	DFS4050A
DFS2909I	DFS2989I	DFS4051I
DFS2910I	DFS4010W	DFS4052A
DFS2911I	DFS4011I	DFS4053A
DFS2912I	DFS4012I	DFS4054A
DFS2913I	DFS4013W	DFS4055I
DFS2914I	DFS4014I	DFS4056I
DFS2915I	DFS4015I	DFS4057A
DFS2916W	DFS4016A	DFS4058A
DFS2917I	DFS4017A	DFS4060I
DFS2918A	DFS4018I	DFS4061A
DFS2922A	DFS4019I	DFS4062W
DFS2923I	DFS4020I	DFS4063I
DFS2924I	DFS4021I	DFS4064W
DFS2925I	DFS4022I	DFS4065A
DFS2926I	DFS4024I	DFS4066I
DFS2927I	DFS4025I	DFS4067A
DFS2928I	DFS4026I	DFS4068A
DFS2929A	DFS4027I	DFS4069A
DFS2931I	DFS4028I	DFS4070A
DFS2932I	DFS4029I	DFS4071I
DFS2933I		
DFS2935I		
DFS2936I		
DFS2937I		

DFS4072A	DSP メッセージ (DBRC)
DFS4073A	DFS4130I
DFS4074W	DFS4131A
DFS4075A	DFS4132A
DFS4076A	DFS4133A
DFS4077I	DFS4134I
DFS4078I	DFS4135I
DFS4079A	DFS4136I
DFS4085W	DFS4150I
DFS4086W	DFS4152A
DFS4087A	DFS4153W
DFS4088A	DSPM058I
DFS4089A	DSPM059I
DFS4090A	DSP1001I
DFS4091I	DSP1002I
DFS4092A	DSP1030I
DFS4094A	DSP1004I
DFS4095A	DSP1005I
DFS4096A	DSP1006I
DFS4097I	DSP1007I
DFS4098A	DSP1009I
DFS4099A	DSP1010I
DFS4100I	DSP1011I
DFS4101A	DSP1012I
DFS4102A	DSP1013I
DFS4103I	DSP1014I
DFS4104A	DSP1016I
DFS4105A	DSP1017I
DFS4106I	DSP1021I
DFS4107A	DSP1022I
DFS4108A	DSP1025I
DFS4109	DSP1027I
DFS4111I	DSP1028I
DFS4112A	DSP1029I
DFS4113I	DSP1030I
DFS4114A	DSP1032I
DFS4115I	DSP1035I
DFS4121I	DSP1036I
DFS4122A	DSP1037I
DFS4123I	DSP1038I
DFS4124I	DSP1042I
DFS4125I	DSP1043I
DFS4126I	DSP1044I
DFS4127A	

ELX メッセージ (TMS)		G メッセージ (SYSGEN)
ELX0001A	ELX0201W	G1205
ELX0002A	ELX0202I	G1212
ELX0003A	ELX0203W	
ELX0004A	ELX0204I	
ELX0005A	ELX0205I	
ELX0100A	ELX0209I	
ELX0101W	ELX0210A	
ELX0102W	ELX0211I	
ELX0103I	ELX0212A	
ELX0104A	ELX0213A	
ELX0105I	ELX600A	
ELX0106A	ELX1001E	
ELX0107I	ELX1002I	
ELX0108I	ELX1003W	
ELX0109I	ELX1004W	
ELX0111A	ELX1005W	
ELX0112I	ELX1010I	
ELX0113A	ELXC106I	
ELX0114I	ELXC109I	
ELX0115I	ELXC112A	
ELX0116A	ELXC160I	
ELX0118A	ELXC161I	
ELX0119I	ELXC162A	
ELX0120I	ELXC181I	
ELX0122I	ELXC315I	
ELX0128I		
ELX0129I		
ELX0130I		
ELX0150I		
ELX0170I		
ELX0171A		
ELX0181A		
ELX0183A		
ELX0184I		
ELX0185I		
ELX0187I		
ELX0188I		
ELX0189I		
ELX0200I		

第 2 章 IMS 問題判別

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

問題判別は、障害のあるモジュールまたはプログラムを特定し、示された問題の解決をユーザーまたは IBM のどちらが担当するかを判別するための手順を使用して行われます。

本書内にリストされたメッセージおよびコードに、該当する場合は、問題判別情報が含まれています。ほとんどの場合、メッセージまたはコードの『問題判別』という見出しの後に、1 つ以上の番号 (例えば、「4、6」) が表示されています。これらの番号は、以下に示す、ユーザーが取る標準的な問題判別処置リストの番号付き項目への相互参照です。

1. z/OS コンソールからコンソール・シートを保管します。
2. ジョブに関連する入力を保管します。
3. ジョブに関連する SYSOUT (システム出力) を保管します。
4. IMS 制御領域の障害時のストレージ・メモリー・ダンプを保管し、関連するすべてのメッセージ領域のメモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
5. IMS ログ印刷出力を保管します。
6. IMS マスター端末の印刷出力を保管します。
7. ローカルまたはリモート端末の印刷出力を保管します。
8. JCL リストを保管します。
9. ACB 生成の出力を保管します。
10. MSGEN リストを保管します。
11. SYSABEND メモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
12. ユーザー修正の IMS モジュールのアセンブリー・リストを保管します。
13. バインド・マップを保管します。
14. LOG トレースを保管します。
15. 異常終了の直前に書き込まれたレコードで始まる IMS ログの印刷出力を保管します。
16. MFS 言語ユーティリティーの実行の出力リストを保管します。
17. 次の問題に関連するデータを収集します。
 - a. バッチで実行している場合、システム・メモリー・ダンプ。
 - b. オンラインで実行している場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FF' (疑似異常終了) を印刷します。これらのレコードを印刷するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用します。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

- c. 障害のあった呼び出しの前後で、SNAP ステートメントを指定した DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) を実行します。
 - d. 障害に関連した PSB および DBD のリストまたはステートメント (あるいは両方) を保管します。
 - e. ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FE' (プログラム分離トレース) のメモリー・ダンプを作成します。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、レコードを印刷します。ログを作成するときに、プログラム分離トレースを使用可能にする必要があります。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA40 を指定する必要があります。
 - f. オンラインの場合、オンライン領域のログからのスナップ。
 - g. データベースのバックアウト、リカバリー、および再編成のアクティビティの履歴。
18. 関連する DBD のアセンブリー・リストを保管します。
 19. 関連する PSB のアセンブリー・リストを保管します。
 20. 障害時の関連データ・セットの VSAM カタログ項目のリストを保管します。
 21. 将来の利用のために予約済み。
 22. 将来の利用のために予約済み。
 23. IBM に連絡して、ハードウェア・サポートを要求します。
 24. IMS ログから 3270 診断エラー・ログ・レコード (レコード・タイプ X'67': サブレコード・タイプ X'03') のメモリー・ダンプを作成します。
 25. IMS ログのコピーを実行します。
 26. スクラッチパッド域の SPACCB フィールド、または CTBCCBPT フィールドから、関連する CCB を判別します。関連する (a) ソースと出力 CNT、および (b) 回線と PTERM (CTB) を判別します。

ログ・レコード 01、02、03、07、08、11、12、および 13 から、会話の状況を判別します。

- a. メッセージは準備できたが、アプリケーションがスケジュールされませんでした。01 宛先は会話型 SMB です。
- b. アプリケーションがスケジュールされ、08 レコードが生成されました。
- c. アプリケーションが、会話型端末にセグメントを挿入しました。メッセージの宛先が CNT の場合、03 および 13 レコードが生成されます。
- d. アプリケーションが、会話型プログラムにセグメントを挿入しました。SPA は、03 レコード内のメッセージの最初のセグメントです。
- e. アプリケーションは正常に終了したか、または異常終了しました。07 レコードに、会話型アプリケーションの完了コードが入っています。DLRFLAG2 エリア (07 ログ・レコードの最終ワード) に、同期点情報が入っています。
- f. 12 レコードは、会話が終了したことを示します。
- g. コマンド /EX1、/HOLD、/REL、または /START LINE (PTERM なし) に対して生成された 02 レコードが、会話中の端末に影響を与えたかどうかを判別します。
- h. IMS の再始動が会話に影響を与えますか?詳しくは、再始動への入力ログおよび再始動からの出力ログを参照してください。

27. z/OS ハードコピー・メッセージ・ログ出力を保管します。
28. 通常操作中に、このシステムが接続されている他のシステム内で作動している z/OS および IRLM の状況を判別します。
29. 障害時に生成された IRLM アドレス・スペース・ダンプを保管します。
30. IRLM 障害の近辺の時間に障害のあった IMS オンラインまたはバッチのアドレス・スペースのメモリー・ダンプを保管します。IMS メモリー・ダンプに関連する IMS の問題判別手順に従ってください。IMS 障害は、IRLM 障害に関連している可能性があります。
31. IRLM 始動プロシージャ JCL のリストを保管します。
32. IRLM をインストールするために実行された IMSGEN のリストを保管します。
33. IRLM をインストールするために実行された VTAM[®] 定義のリストを保管します。
34. 障害時のアクティビティーを示すために使用可能であれば、GTF トレース出力を保管します。
35. 問題を解決するためにさらに支援が必要であれば、次のマニュアルを参照してください。
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード
 - IMS Version 15 Diagnosis

すべての入力 that 正確かどうかを調べ、すべてのメモリー・ダンプを分析します。

それでも問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

36. 問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
37. タイプ X'02' ログ・レコードのコピーを実行依頼します。
38. CCTL SNAP または SDUMP データ・セットを保管します。
39. DBRC RECON のリストを保管します。
40. SVC メモリー・ダンプを取得し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

第 3 章 DFS メッセージ

DFS メッセージは、プログラムの実行中に何らかのイベントまたは一連のイベントが発生した場合、それを示すために IMS によって発行されます。

DFS メッセージは、**DFSnnnnZ** の形式です。*nnnn* は 3 桁または 4 桁の数字で、文字 *Z* は接尾部コードを表します。メッセージは、*nnnn* の数値に従ってソートされています。

システム・コンソール向けのキー・コール・メッセージには、接尾部 **I** が付加されています。

メッセージによっては、IMS システム ID が付加されているものがありますが、これは、複数の IMS システムの稼働時に、メッセージを受信する IMS システムを識別するためです。

TIMESTAMP が COMM または IMSGEN マクロで指定されていると、次のメッセージではそれぞれ、メッセージ番号とテキストの間に時刻が挿入されます。

DBCTL 環境では、時刻は挿入されません。

DFS001 から DFS056	DFS2231 から DFS2274	DFS3411 から DFS3413
DFS058 から DFS091	DFS2290	DFS3420
DFS093 から DFS193	DFS2418	DFS3431
DFS195 から DFS300	DFS2460	DFS3438
DFS574 から DFS577	DFS2468	DFS3440 から DFS3442
DFS968	DFS2476	DFS3451 から DFS3454
DFS999	DFS2530 から DFS2538	DFS3457
DFS2000 から DFS2010	DFS2577	DFS3460
DFS2013 から DFS2018	DFS2610	DFS3461
DFS2020 から DFS2078	DFS2717	DFS3470 から DFS3472
DFS2100 から DFS2144	DFS3101 から DFS3117	DFS3656
DFS2151 から DFS2173	DFS3200 から DFS3250	DFS3800

該当する場合は、それぞれのメッセージに添えて、次の情報が示してあります。

説明: メッセージはどのような意味をもつか、なぜ表示されるか、何が原因か、可変項目フィールドは何か、について記述しています。

システム処置: メッセージが出される原因となった条件の結果として何が起きているのか、システムは応答待ちかどうかについて記述しています。この情報が示されていない場合は、該当しないということです。

オペレーター、システム・プログラマー、プログラマー、またはユーザーの応答: 応答が必要な場合、誰が処置を実行し、どのような応答が適切か、およびそれらがシステムまたはプログラムに与える影響について記述しています。この情報が示されていない場合は、該当しないということです。

問題判別: 問題が再発したり、持続したりして、システム効率が影響を受ける場合、このセクションでは、熟練したハードウェアまたはプログラミングのサポート担当

者が問題を診断するための十分なデータを入手するために、どのような処置を実行する必要があるかについて記述しています。この情報が示されていない場合は、該当しないということです。

問題判別では、9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』に示された問題判別処置のリストを参照します。こうした一般的な処置の表は、診断技法を教えようというものではなく、問題が再発したら、どうすればよいかについて、オペレーターやプログラマーの方々に説明するものです。問題判別処置は、ハードウェアまたはプログラミングの問題を特定するのに役立ち、資格のあるサポート担当者が障害を診断して訂正するために使用できる基本的なプログラミング情報を提供します。

メッセージが機能「ff」を参照している場合は、次に示す 2 文字コードで表される、下記のユーティリティーのいずれか 1 つに該当します。

コード	意味
PO	事前再編成
CA	変更累積
IM	イメージ・コピー
RV	データベース・リカバリー
SU	HISAM 再編成アンロード
RU	副次索引アンロード
SR	HISAM 再編成再ロード
RR	副次索引再ロード
DU	HD 再編成アンロード
DR	HD 再編成再ロード
ZB	データベース ZAP
ZM	モジュール ZAP
SN	データベース・スキャン
PR	接頭部解決
PU	接頭部更新

重大度: 下の表は、MFS 言語ユーティリティー・プログラムの重大度コードに該当します。重大度コードは、メッセージの重大さを示すものです。

MFS 言語ユーティリティーのプリプロセッサ・フェーズで生じるメッセージでは、重大度コードは、それぞれのメッセージ番号の右に示されています。それ以外のフェーズで生じるメッセージでは、重大度コードはメッセージ・テキストには含まれていません。それぞれのメッセージに関連した特定の重大度コードについては、個々のメッセージ記述を参照してください。

重大度コード

	意味
0	このメッセージは、単に通知メッセージに過ぎません。
4	重大度コード 4 が生じるのは、警告、マイナー・エラー、有効と思われるデフォルトが想定された場合です。有効ブロックが作成される可能性が高いと考えられます。
8	これは重大なエラーであり、デフォルトに疑問が生じたり、指定の無視を招く結果になります。無効ブロックが作成される可能性があります。
12	必須オペランドが省略されているか、示された指定間に矛盾があります。無効ブロックが作成される可能性が高いと考えられます。
16	言語変換は、機能限定で続行します。作成されたブロックが無効か、ブロックの作成が抑制されます。

20 言語変換は続行できず、即時に終了します。作成されたブロックは無効です。

あるジョブ・ステップ中に重大度が最も高いコードが MFS 言語ユーティリティー・プログラムによって出された場合は、完了コードとして、オペレーティング・システムに戻されます。

第 4 章 DFS メッセージ DFS000I - DFS050A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS000I *various*

説明: このメッセージ番号は、次の状態の場合に使用されます。

- IMS キューを通してシステム・コンソールに送信されるユーザー・メッセージの接頭部として、IMS メッセージ番号が付く場合。
- メッセージ ID が /DISPLAY 応答を表す場合。
- メッセージ番号が、システム・コンソールに切り替えられるメッセージを表す場合。
- 継続行が複数セグメントのメッセージにわたる場合。
- DBRC 領域の名前がオンラインで組み込まれる場合。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール: DFSCINB0、DFSDNSC0、DFSDFR60

DFS001 UNDETERMINED ERROR ON 3270. LINE *x* PTERM *y*

説明: モジュール DFSDN130 (リモート 3270)、または DFSDN140 (ローカル 3270) でエラーが検出されましたが、判別されていません。

システムの処置: 回線は停止されています。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して、書き込まれています。

オペレーターの応答: (マスター端末) /START LINE *x* PTERM ALL コマンドを使用して、回線の再始動を試行できます。この障害が相変わらず起こる場合は、ログ・データ・セットを印刷して、エラーの原因を判別してください。

問題判別: 1、5、6、36

モジュール: DFSDN130、DFSDN140

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS002I MONITOR WILL NOT BE AVAILABLE-NOT SL TAPE

説明: データ通信モニター・プログラム・テープは、標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベル付きのスクラッチ・テープである必要があります。

システムの処置: IMS は、モニター・プログラム・ロギングなしで処理を続行します。

オペレーターの応答: データ通信モニター・プログラム・ロギングが必要な場合は、IMS を再始動する必要があります。

プログラマーの応答: データ通信モニター・プログラム・ロギングが必要な場合は、IMSMON DD ステートメントで標準ラベルまたは標準ユーザー・ラベルを必ず指定するようにしてください。

モジュール: DFSXLG10

DFS003I *xxx* MODE COMPLETED.

または

DUP MODE COMPLETED. *nnnnn* ERRORS.

説明: このメッセージは、どちらかの形式で出されますが、どちらの形式でも、ログ・リカバリー・ユーティリティーが DUP、REP、または CLS 機能を正常に完了したことを示しています。*nnnnn* では、DUP 処理中に中間ログ・データ・セットに書き込まれたエラー・レコードの数が示されます。*xxx* では、CLS または REP モードを表しています。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが正常に終了します。

プログラマーの応答: CLS モードおよび REP モードの場合は、応答は必要ありません。

DUP モードの場合は、*nnnnn*=0 であれば、出力ログはエラー・フリーであり、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) として使用できます。*nnnnn*=1 であり、指定したのが ERRC=00000 であった場合は、入力ログでエラーが発生し、出力ログはエラー・ポイントで切り捨てられました。入力ログをエラー・ポイントでチェックして、出力ログが切り捨てられたのが正しいポイントであったか判別してください。そうでない場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーを REP モードで使用して、エラー・フリー OLDS を作成してください。

モジュール: DFSULG10

DFS0005A REPLY "Y" IF THIS IS A REMOTE DRRS SITE

説明: 共用される仮想記憶オプション (VSO) エリアのオープン処理中に、IMS が管理する二重構造サポートで、構造の DEALLOCATE PENDING CONNECTIVITY LOST 状況が検出されました。災害復旧リモート・サイト (DRRS) および実動サイトの両方で同一の CFRM ポリシーを使用する災害復旧用の DASD ミラーリング・ソリューションを採用している場合、Y と答えると、このシステムが災害復旧サイトの IMS と見なされます。エラー状況がバイパスされます。実動サイトと災害復旧サイト CF の両方を、SVSO 構造の設定リストに含めるようにしてください。

システムの処置: このシステムがリモート災害復旧サイトであることを指示した場合、IMS は、新規の構造を作成してそれに接続することにより、エリアのオープン処理を実行します。

このシステムがリモート災害復旧サイトではないことを指示した場合、エリアのオープン処理は終了し、メッセージ DFS3702I が理由コード 41 と共に送られます。

システム・プログラマーの応答: この IMS がリモート災害復旧サイトにある場合は、Y または y と答えてください。それ以外の応答は、この IMS が災害復旧サイトにあるのではないことを示します。

モジュール: DBFVXAS0

**DFS0006E REQUESTED VERSION *req_v_nmbr*
AND CURRENT VERSION *cur_v_nmbr*
OF DEDB *dedbname* ARE
INCOMPATIBLE**

説明: アプリケーション・プログラムが、現行バージョン以外のバージョンの高速処理データベース (DEDB) へのアクセスを試みましたが、IMS が現行バージョン以外のデータベースへのアクセスに必要な内部ブロックを構築できません。これは、現行バージョンのデータベースに、データベースのバージョン管理でサポートされていない、データベース定義 (DBD) 内の変更が含まれているためです。

アプリケーション・プログラムは、そのプログラムが変更されない限り、またはサポートされない変更がそのデータベースから削除されない限り、以前のバージョンのデータベースにアクセスできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cur_v_nmbr

メッセージ・テキスト内に示される DEDB データベースの現行バージョンのバージョン番号。現行バージョンとは、DASD に保管されているデータベースの実際の物理構造が含まれたデータベースのバージョンです。現行バージョン

のデータベースには、前のバージョンのデータベースとは互換性がない構造的な変更が含まれています。

req_v_nmbr

メッセージ・テキストに示される DEDB データベースの要求されたバージョンのバージョン番号。アプリケーション・プログラムは要求されたバージョンへのアクセスを試みましたが、IMS は、要求されたバージョンのデータベースで定義されたフォーマットでデータを返すことができません。これは、現行バージョンに互換性がない構造的な変更が含まれているためです。


考えられる原因: IMS がこのメッセージの前にコンソールに発行する 1 つ以上の DFS0123E メッセージで、互換性がない変更が示されています。

システムの処置: データベースへのアクセスは失敗し、アプリケーション・プログラムは状況コードを受け取ります。

システム・プログラマーの応答: すべての DFS0123E メッセージの戻りコードを確認してください。DFS0123E の資料で戻りコードの意味を参照してください。

モジュール: DBFVER10

関連概念:

 データベースのバージョン管理方式によってサポートされるデータベースの変更 (データベース管理)

関連情報:

56 ページの『DFS0123E』

**DFS0007I /STA MADSIO COMMAND
IGNORED. MADSLOT ALREADY
ACTIVE.**

説明: /START MADSIO コマンドが出されましたが、そのとき MADSIO 機能はすでにアクティブでした。/START MADSIO コマンドを出して MADSLOT 機能を再開するのは、それが停止している場合です。

システムの処置: /START MADSIO コマンドは処理されませんでした。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFCST00

**DFS0008I /STO MADSIO COMMAND
IGNORED. MADSLOT IS NOT
ACTIVE.**

説明: /STOP MADSIO コマンドが出されましたが、MADSLOT はアクティブではありませんでした。

システムの処置: /STOP MADSIO コマンドは処理されませんでした。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFCST00

**DFS009 timestamp COMMAND NOT
AUTHORIZED AS ENTERED FROM
OM API**

説明: 入力されたコマンドは、OM API からの入力が許可されていません。このコマンド許可は、DFSCGxxx CSL PROCLIB メンバーの CMDSEC= パラメーター (RACF® (または等価)、または DFSCCMD0、あるいはその両方) で指定されましたが、OM API のユーザー ID がこのコマンドを出すのを許可していません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: 許可された USERID を使用して OM API からコマンドを再入力するか、現行 USERID の許可情報を更新して、OM API からコマンドを再入力してください。

モジュール: DFS0CM30

**DFS0011W AREA=areaname DD=ddname
ALLOCATION FAILED**

説明: 指定された DD は、/START AREA コマンドで割り振られませんでした。指定された DD は、DD ステートメントで指定されておらず、ALLOCATE/DEALLOCATE パラメーター・リストでも指定されていません。

システムの処置: 処理は続行されますが、指定された DD の割り振りは行われなままです。

プログラマーの応答: ALLOCATE/DEALLOCATE パラメーター・リストの DD を訂正し、/START AREA コマンドを再入力するか、UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行してください。

モジュール: DBFARDA0

**DFS0012I SPOOL DATASET UNALLOCATION
ERROR - aaaaaaaaa,bbb,
ccccccc,dddd,eeee,ff,gggg,hhhh,ii..ii**

説明: IAAP JES SPOOL データ・セットの割り振り解除中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

割り振り解除が失敗した IMS 従属領域のジョブ名。

bbbb

ジョブ aaaaaaaaa に対応するジョブ番号

ccccccc

SPOOL データ・セットの DD 名

dddd

従属領域番号

eeee

SPOOL データ・セット割り振り解除処理からの戻りコード

ff

割り振り解除要求タイプ。可能な値としては、次のものがあります。

80 特殊要求なし

40 保留状況から除去

20 リモート宛先に送信

08 データ・セットを削除

gggg

動的割り振り解除エラー・コード

hhhh

動的割り振り解除エラー情報

ii..ii

44 バイトのデータ・セット名

このメッセージが戻されるのは、アプリケーション・プログラムが IAAP= オプション・パラメーターでデータ・セットに関する『メッセージ』を要求した場合のみです。

IMS 同期点またはスレッド終了の処理時に、参照されている印刷データ・セットが割り振り解除されませんでした。印刷データ・セットは、従属領域が終了するまで、従属領域に割り振られたままになっています。従属領域は、MVS がデータ・セットを割り振り解除できるように、できるだけ早く終了する必要があります。MVS オペレーターが、印刷データ・セットの適切な後処理を制御する必要がある場合もあります。割り振り解除エラーに関する詳細な情報については、メッセージ DFS0013E を参照してください。このエラーについての追加情報は、IMS システムのログであるログ・レコード・タイプ 67D0 でも入手できます。

システムの処置: 処理は中断されず、続行されます。

プログラマーの応答: このメッセージの ff セクションを検討してください。ff=8 の場合は、データ・セットの削除を試みている最中に、割り振り解除障害が発生しています。従属領域が終了したら直ちにデータ・セットを削除してください。ff にそれ以外の値が入っている場

DFS0013E • DFS0015I

合は、従属領域の終了後に、データ・セットを印刷してください。

問題判別: エラー・コードおよび情報コードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608)を参照してください。

モジュール: DFSIAFP0

関連資料:

➡ z/OS: リソースの割り振り解除

➡ z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

関連情報:

『DFS0013E』

DFS0013E IAFP SPOOL PROC. ERR.
LTERM=ccccccc, REGION=xxxx,
OPERATION=xxx, R.C.=xxxx, REASON
CODE=xxxx

説明: IMS または z/OS システム・エラーが、IAFP JES SPOOL データ・セットの処理中に発生しました。アプリケーションによって "Dest Name" として指定された操作、戻りコード、理由コード、および LTERM 名が表示されています。REGION は、エラーが発生した IMS 従属領域番号です。操作は、次のとおりです。

DYN JES SPOOL データ・セットが動的に割り振られませんでした。

MEM メモリーが IAFP 処理用として取得されました。これは、重大なシステム・エラーです。戻りコードの意味について、システム・プログラマーに相談してください。

OPN JES SPOOL データ・セットが開かれませんでした。

OUT 動的に割り振られた JES SPOOL データ・セットの OUTPUT 記述子が作成されませんでした (SVC 109 障害)。

UNA JES SPOOL データ・セットが動的に割り振り解除されませんでした。

WRT JES SPOOL データ・セットが書き込まれませんでした。

BSAM WRT 操作では、LLZZ の値が llzz の値よりも 4 バイト大きくない場合は、書き込みエラーが発生し、IMS スプール API インターフェースによって、このメッセージが出されます。ISRT 呼び出しの状況コードは AX です。

システムの処置: 処理は中断されず、続行されます。

プログラマーの応答: IMS がエラーを検出したのは、IMS システム・サービスと z/OS システム・サービス

のどちらかです。メッセージ・テキストを参照すれば、IMS と z/OS のどちらのサービスを使用中か分かります。このエラーについての追加情報は、IMS システムのログであるログ・レコード・タイプ 67D0 でも入手できます。

問題判別: 戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608)を参照してください。

モジュール: DFSIAFP0

関連資料:

➡ z/OS: リソースの割り振り解除

➡ z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

DFS0014I JES SPOOL D.S. REQUIRES
ccccccc,JOBNAME=ccccccc,
JOB#=aaaa,DDNAME=cccccccc,
DATASET=aa..aa

説明: アプリケーション・プログラムが IAFP= オプション・パラメーターでデータ・セットに関するメッセージを要求しました。IMS の再始動中に、IAFP JES SPOOL データ・セットの状況が不確実になり、そのとき、直前の IMS が終了しました。メッセージの保全性を確保するには、z/OS オペレーターがこのデータ・セットを、示されているとおりに処理する必要があります。示されているデータ・セットが検出できない可能性があります。

このメッセージは、問題を表していない可能性があり、IMS アプリケーションがデータ・セットに関する印刷の後処理を要求した場合にしか該当しません。

システムの処置: 処理は中断されず、続行されます。

オペレーターの応答: 次のいずれかの処置を実行します。

DELETION
示されている JES SPOOL データ・セットを削除します。

PRINTING
JES SPOOL ドライバーによる処理 (例えば、PSF) のために、示されている JES SPOOL データ・セットを割り振り解除します。

モジュール: DFSIAFP0

DFS0015I mmmm nn FAILED TO GET
CONTROL BLOCK cccc

説明: DBFCDR0 が WORK ストレージを取得できま

せんでした。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mmmm モジュールの短縮名。

nn メッセージが発行されたモジュール内の位置。

cccc 制御ブロック名。

短縮名は DRC0 です。モジュール名は DBFCDR00 です。機能は、/DISPLAY RTCODE コマンドの処理です。

システムの処置: /DISPLAY RTCODE コマンドは打ち切られました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFCDR00

DFS0017I 無効なサービス呼び出しが **FP** コマンド **ITASK** に対して発行されました。

説明: 無効な呼び出しが発行されました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFCST00

DFS0019I **DBRC UNAUTH REQUEST FAILED FOR DBD=*dbdname*, AREA=*areaname* RC=*xx***

説明:


DBFARD30、DBFARD40、DBFMLCL0、DBFHDEP0、または DBFSTAP0 が DBRC に対して UNAUTH 要求を発行しましたが、DBRC は 16 以下のゼロでない戻りコードを戻しました。


システムの処置: 不成功を示す戻りコードが呼び出し側に渡されます。

ユーザーの処置: 戻りコードの意味については、『許可取り消し呼び出しからの戻りコード』のトピックを参照してください。追加支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFARD30、DBFARD40、DBFMLCL0、DBFHDEP0、DBFSTAP0

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

 無許可呼び出しからの戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS0020I **DMAC HAS BAD POINTER TO DMCB, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED**

または

NO DDIR WAS FOUND, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

または

NO DMCB WAS FOUND NO FP DB IS AVAILABLE, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

または

DMCB HAS BAD POINTER TO DDIR, /DIS STATUS DB COMMAND REJECTED

説明: /DIS STATUS DB コマンド処理中に制御ブロックの矛盾が検出されました。

システムの処置: 非ゼロ戻りコードが呼び出し側に設定されます。/DIS STATUS DB コマンドは終了します。

ユーザーの処置: データベースに関する情報を収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFCRAR0

DFS022I **DYNAMIC BACKOUT WAS NOT SUCCESSFUL FOR *jobname***

説明: このバッチ・ジョブのログは DASD にあり、実行パラメーター BKO=Y (動的バックアウト) が指定されました。ジョブは疑似異常終了し、IMS が動的バックアウトを呼び出しました。このメッセージでは、バックアウトが正常に行われたかどうかを示します。

システムの処置: バッチ・ジョブが異常終了します。

プログラマーの応答: 動的バックアウトが正常に行われなかった場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティーを使用して、バックアウトを試行できます。

問題判別: 1、2、8、11、36

モジュール: DFSDLA00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0023I **COMMAND REJECTED. MADSLOT KEYWORD NOT FOUND IN DFSVSM*xx*.**

説明: /START MADSIO または /STOP MADSIO コマンドが発行されましたが、MADS 入出力タイミング

DFS024 • DFS027

機能がこの IMS で使用可能になっていませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: MADS 入出力タイミング機能を使用可能にするには、次のフォーマットを使用して、キーワード MADSIOT を DFSVSMxx PROCLIB メンバーで指定してください。

MADSIOT=(StructureName,IOTime)

ここで:

- StructureName は 16 文字です。
- IOTime は、メディア・マネージャーが入出力要求の状況を戻すタイム・スパンを指定する、3 桁の数値 (0 から 255) です。

MADSIOT 機能が使用可能になるのは、IMS のリサイクル後です。

モジュール: DBFCST00

DFS024 INVALID PASSWORD FORMAT

説明: 最後に入力されたパスワードのフォーマットは、次のいずれかの理由で無効でした。

- 左括弧または迂回文字が、入力データの最後の文字になっている。
- パスワードの長さが 8 文字を超えている。
- 右括弧または迂回文字がない。

システムの処置: IMS は、入力されたデータを無視します。

オペレーターの応答: 正しいパスワード・フォーマットを使用して、データを再入力してください。

モジュール: DFSICIO0

DFS025 UNABLE TO FIND INPUTTING TERMINAL. LINE STOPPED. LINE x PTERM y

説明: 示されている回線で入力を受信され、発信元端末が判別できませんでした。

システムの処置: 回線は停止されています。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。障害の原因 (ハードウェア誤動作の可能性、または端末が IMS に対して未定義) を判別してください。回線は、/START LINE コマンドを使用して再始動できません。

プログラマーの応答: 障害の原因を判別してください。

問題判別: 5、6、14、36

モジュール: DFSDN030

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS026 UNABLE TO FIND INPUTTING TERMINAL. LINE DEACTIVATED. LINE x PTERM y

説明: 示されている回線で入力を受信されましたが、発信元端末または制御装置が判別できませんでした。

システムの処置: 回線は非活動化されました。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。IMS システムがシャットダウンされて再始動されるまでは、回線を再活動化できません。

プログラマーの応答: 障害の原因を判別してください。

問題判別: 14、36

モジュール: DFSFTRM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS027 I/O ROUTINE ERROR

説明: 装置モジュールが通信アナライザーと正しくインターフェースをとることができませんでした。装置依存のモジュール論理エラーが原因でした。

システムの処置: 回線はシャットダウンされています。ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。IMS 制御領域がシャットダウンされて再活動化されるまでは、回線を再活動化できません。

プログラマーの応答: 障害の原因を判別してください。

問題判別: 14、36

モジュール: DFSICIO0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS028 INVALID ATTENTION INPUT
DETECTED**

説明: 受信された入力には処置が必要でしたが、DFSCFEP0 (MFS ページング・プロセッサ) がこの入力を認識しませんでした。

システムの処置: 入力は無視され、端末は作動不能になります。

プログラマーの応答: 端末がプログラマブルの場合は、アテンションがホストに送信されるロジックをチェックしてください。端末がプログラマブルでない場合は、ハードウェア・エラーがあると考えられます。この問題が再発する場合は、DC トレースまたは GTF トレースを取ってください。

モジュール: DFSCFEP0

DFS029 DDM LOGIC ERROR DETECTED

説明: 無効の要求が装置依存のモジュールから MFS 出力制御モジュール (DFSCFEO0) に戻されました。装置依存モジュールがデータを要求したのが、EOM または EOD の発生後でした。

システムの処置: 端末は作動不能になります。

プログラマーの応答: 実際の端末と IMS での端末の定義の間に矛盾がないかどうかを確認してください。端末がプログラマブルの場合は、出力に論理エラーがないかについてもチェックしてください。

モジュール: DFSCFEO0

**DFS030I DBRC VERUOR REQUEST FAILED,
RC=yy**

または

DBRC REQUEST FAILED, REASON=xx, RC=yy

または

DBRC SIGNOFF REQUEST FAILED xx, RC=yy

または

DBRC SAVUOR REQUEST FAILED, RC=yy

または

DBRC UPDUOR REQUEST FAILED, RC=yy

説明: 最初の形式のメッセージを出すのは、モジュール DFSDBAU0、DFSDDUI0、DFSDLOC0、および

DBFPICT0、2 番目の形式のメッセージを出すのは、モジュール DFSPCCC0 です。SAVUOR、UPDUOR、および VERUOR バージョンのメッセージを出すのは、DFSRBOI0 と DFSDBDR0 と DFSST500 のいずれかです。

特定の DBRC 要求は、理由コード xx の有無にかかわらず、失敗すると、戻りコード yy が表示されます。

理由コード yy によって示された障害の原因を判別するには、「IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード」に記載されている DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

次の理由コードには、xx 値が示してあります。

コード (16 進数)

意味

- 01 同期化プロセスまたは緊急時再始動バックアウト・プロセスが、DBRC に対してデータベース・バックアウト障害の通知を試みました。DBRC は、データベースが未登録であることを示していました。データベースが未登録である場合は、いずれのプロセスも DBRC に通知することはない、この条件は生じません。
- 02 同期化プロセスまたは緊急時再始動バックアウト・プロセスが、DBRC に対してデータベース・バックアウト障害の通知を試みました。DBRC は、サブシステムにはデータベースを使用する許可がないことを示していました。この許可がない限り、データベースに対する変更は行えなかったため、この条件が生じるはずはありませんでした。
- 03 データベース許可呼び出しが DBRC に対してなされました。サブシステムが DBRC にサインオンしていなかったことを示す戻りコード X'0C' が、戻った時点で受信されました。IMS サブシステムの初期設定または DBRC にエラーがない限り、この条件が生じるはずはありませんでした。
- 05 サインオフ呼び出しが DBRC に対してなされましたが、IMS が終了しようとしている最中でした。戻りコードで、サブシステム・エントリが検出されなかったということ、内部エラーが許可取り消しプロセス中に検出されたということ、サブシステム・エントリは検出されたが、異常終了したということ、リカバリー処理が開始されていたということのいずれかが示されていました。
- 06 DBRC がデータベースを許可取り消しするために呼び出されましたが、DL/I クローズ処理中でした。DBRC によって設定された戻りコードは、データベースが RECON データ・セットに未登録であることを示していました。許可取

- り消し呼び出しが出されるのは、データベースが DBRC に登録されている場合のみであるため、内部エラーが発生しています。
- 07** DBRC がデータベースを許可取り消しするために呼び出されましたが、DL/I クローズ処理中でした。DBRC によって設定された戻りコードは、サブシステムが RECON データ・セットに未登録であることを示していました。サブシステムが登録されたのは、データベースに対する許可が取得されたときであったため、内部エラーが発生しています。
- 08** DBRC がデータベースを許可取り消しするために呼び出されましたが、DL/I クローズ処理中でした。DBRC からの戻りコードは、サブシステムにはデータベースに対する許可がないことを示していました。データベースに対する許可を取得したのは、データベースが開かれる前であったため、この条件が生じるはずはありません。
- DBRC がこのコードを戻し、しかもシステムの緊急時再始動が行われていない場合は、異常終了コード 3275 が出されます。緊急時再始動中に、/ERESTART コマンドが実行される前に HALDB マスターに対して /DBRECOVERY コマンドが出されると、この条件が存在する可能性があります。
- 09** DBRC がデータベースを許可取り消しするために呼び出されましたが、DL/I クローズ処理中でした。DBRC によって設定された戻りコードは、内部 DBRC エラーが発生したのは、許可プロセス中、またはその後であったこと、または許可取り消しプロセスでは、データベースに対する新しい許可状態を生じることとはできないことを示していました。さらに説明が必要な場合は、異常終了前に DBRC が出していたメッセージを参照してください。
- 0A** DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、処理中のデータベースが DBRC に未登録であることを示していました。データベースに対する許可が以前に DBRC から取得されていない限り、DBRC がオープン処理中に呼び出されることはないため、この状態が生じるはずはありません。
- 0B** データベース・オープン呼び出しの処理時に DBRC によって設定された戻りコードは、サブシステムが DBRC に未登録であることを示していました。DBRC が DL/I オープン処理中に呼び出されるのは、サブシステムが以前に、DBRC に登録される必要があった時点で、データベースに対する許可を取得していた場合のみであるため、この状態が生じるはずはありません。
- 0C** DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、サブシステムにはデータベースに対する許可がないことを示していました。DBRC に対するオープン呼び出しが出されるのは、DL/I オープン処理の開始前に、データベースに対する許可が取得されていた場合のみであるため、この状態が生じるはずはありません。
- 0D** DBRC に対するデータベース・オープン呼び出しが出されましたが、DL/I オープン処理中でした。DBRC からの戻りコードは、内部 DBRC エラーが検出されたことを示していました。
- 0E** データ・セットを再検査するための DBRC 呼び出しが失敗しました。
- 0F** DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、示されているイメージ・コピー・レコードは検出されなかったことを示しています。そのイメージ・コピー・レコードは、HSSP イメージ・コピー開始呼び出しで作成される必要があります。
- 10** DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、データベース/領域が RECON データ・セットに未登録であったことを示しています。HSSP イメージ・コピーが処理できるのは、登録済みデータベース/領域のみです。
- 20** DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、このイメージ・コピー処理については、HSSP イメージ・コピー終了呼び出しがすでになされていたことを示しています。DBRC がこのコードを戻し、しかもシステムの緊急時再始動が行われていない場合は、異常終了コード 3275 が出されます。
- 30** DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、内部 DBRC エラーが発生したことを示しています。
- 40** DBRC が HSSP イメージ・コピー終了呼び出しを受信しましたが、イメージ・コピー終了中でした。DBRC 戻りコードは、無効なパラメータが検出されたことを示しています。
- 53** DBRC がデータベースに関する REORG レコードを作成するために呼び出されました。DBRC からの戻りコードは、要求の処理で問題

があったことを示しています。RELOAD ユーティリティからの戻りコードの追加情報を調べ、障害の原因を判別するには、「IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード」に記載されている DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

- 54 DBRC がデータベースに関する REORG レコードを作成するために呼び出されました。戻りコード X'04' で、データベースが未登録であることが示されていました。
- 55 DBRC がデータベースに関する REORG レコードを作成するために呼び出されました。戻りコード X'08' で、RECON データ・セットの読み取り中に入出力エラーが発生したか、または再編成するデータ・セットの DD ステートメントが含まれていなかったことが示されていました。
- 56 DBRC への再編成通知呼び出しで、無効な区画再編成番号が渡されました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3275 が示されます。

プログラマーの応答: 戻りコードを調べて、適切な処置を行ってください。

問題判別: 1、4、10、35

モジュール: DFSDDUI0、DFSDLOC0、DFSPCCC0、DBFPIC0

関連資料:

➡ DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS031I IRLM QUIT REQUEST FAILED, RC=xx-yy

説明: IMS の正常終了中に、IRLM に対する終了要求が失敗しました。戻りコード xx および理由コード yy は、エラー条件を示しています。障害の原因を判別するには、QUIT 要求コードについて、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 問題の原因を確認し、必要であれば、/ERE を使用して IMS を再始動してください。

問題判別: 1、4、10、36

モジュール: DFSPCCC0

関連資料:

➡ IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS032I DUPLICATE ENTRY ON IDENTIFY REQUEST, RESTART ABORTED

説明: 識別要求が IRLM に対して出され、戻りコードで、その名前のエントリが存在することが示されました。

システムの処置: 再始動は打ち切られます。

オペレーターの応答: バックアウトの必要がない場合は、/ERE COLDSYS と入力して、IMS を再始動してください。

モジュール: DFSRST00

DFS033I DUPLICATE ENTRY ON SIGNON REQUEST, RESTART ABORTED

説明: サインオン要求が DBRC に対して出され、受信した戻りコードで、IMS システムに関する RECON データ・セットに、エントリがすでに存在することが示されていました。

システムの処置: 再始動が打ち切られます。

オペレーターの応答:

XRF 代替システムが開始されている場合は、/ERE BACKUP コマンドを入力し、そうでない場合は、/ERE OVERRIDE を入力してください。

モジュール: DFSRST00

DFS034I DATA BASE AUTHORIZATION AND LOCKS RELEASED

説明: /ERE COLDSYS コマンドを使用して緊急 COLDSYS 開始が指定され、直前の IMS の実行から許可されていたデータベースおよびグローバル・ロックが解放されました。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: オフライン・リカバリーかバックチ、またはその両方のバックアウトを必ず行ってください。

モジュール: DFSRST00

DFS035I TYPE INITIALIZATION COMPLETE

説明: このメッセージは、初期設定プロセスが完了していることを示しています。このメッセージの発行後、プロセスはアプリケーション・プログラムにリンクします。

「TYPE」フィールドに BATCH と表示されているのは、DL/I バッチ環境について、初期設定プロセスが完了しているときです。「TYPE」フィールドに TMBATCH と表示されているのは、TM バッチ環境について、初期設定プロセスが完了しているときです。

システムの処置: 実行が継続されます。

モジュール: DFSPCC30

**DFS036A BATCH BACKOUT /NOT
REQUIRED/IS REQUIRED/ FOR
jobname**

説明: このメッセージは、バッチ・ジョブが異常終了し、更新がコミットされた後で、バッチ・バックアウトが必要かどうかを示しています。バッチ・バックアウトの必要がないのは、アプリケーション・プログラムが最後のチェックポイントの前ですべての更新を行ったか、バッチによる動的バックアウト (BKO=Y) が正常に実行された場合です。バッチ・バックアウトが必要なのは、アプリケーション・プログラムが最後のチェックポイントの後で更新を行った場合です。

システムの処置: バッチ・ジョブは終了しました。

プログラマーの応答: バッチ・バックアウトの必要がない場合は、プログラムを最後のチェックポイントまたはそれよりも早期のチェックポイントのどちらかから再始動する必要があります。早期のチェックポイントからジョブを再始動するオプションは、データ共用環境では使用不能です。

- 最後のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、XRST 呼び出しを使用してください。
- 早期のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、次のいずれか一方を実行してください。
 - プログラムが更新をまったく行っていない時点で生じた最初のチェックポイントに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、プログラムを再実行する。
 - プログラムが一部の更新を行った後で生じたチェックポイントの 1 つに対してバッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、XRST 呼び出しを使用して、バッチ・バックアウト・ジョブで使用したチェックポイントでプログラムを再始動する。

バッチ・バックアウトの必要がある場合は、プログラムを最後のチェックポイントまたはそれよりも早期のチェックポイントのどちらかから再始動する必要があります。早期のチェックポイントからジョブを再始動するオプションは、データ共用環境では使用不能です。

- 最後のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、XRST 呼び出しを使用してプログラムをしてください。
- 最後のチェックポイントよりも早期のチェックポイントからプログラムを再始動する場合は、次のいずれか一方を実行してください。
 - プログラムが更新をまったく行っていない時点で生じた最初のチェックポイントに対して、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、プログラムを再実行する。
 - プログラムが一部の更新を行った後で生じたチェックポイントの 1 つに対してバッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してから、XRST 呼び出しを使用して、バッチ・バックアウト・ジョブで使用したチェックポイントでプログラムを再始動する。

モジュール: DFSPCCC0、DFSFLST0

**DFS036I BATCH BACKOUT /NOT
REQUIRED/IS REQUIRED/ FOR
jobname**

説明: このメッセージは、異常終了するバッチ・ジョブに、バッチ・バックアウトが必要かどうかを示しています。バッチ・バックアウトが必要ないのは、アプリケーション・プログラムの異常終了の理由が、次のいずれかである場合です。

- データベースの更新がまったく行われなかった。
- ジョブにログがない。
- バッチによる動的バックアウトが正常に実行された。

バッチ・バックアウトが必要なのは、アプリケーション・プログラムがデータベースの更新を行うが、CHKPT チェックポイント呼び出しが行われなかった場合です。メッセージ DFS68II は出されません。

バッチ・バックアウトは、更新はまったく行われていないが、GET TYPE 呼び出しの結果、ポインター・セット修正が拡張されたジョブの場合も、必要になる可能性があります。

システムの処置: バッチ・ジョブは終了しました。

プログラマーの応答: バッチ・バックアウトが必要な場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してください。バックアウトを最初から再実行するか、または XRST を使用するか、についてはお客様または

アプリケーションによるオプションです。すなわち、バックアウトが正常に行われた後は、IMS の保全性の問題はありません。

モジュール: DFSPCCC0、DFSFLST0

関連情報:

209 ページの『DFS681I』

DFS037I IRLM SPECIFIED, DBRC NOT ACTIVE

説明: IMS のこの実行では、IRLM=Y は指定されていましたが、DBRC が IMSGEN で指定されていませんでした。JCL EXEC ステートメントでオーバーライドされた可能性があります。

システムの処置: IMS は異常終了し、IRLM 異常終了コード 0037 が示されます。

プログラマーの応答: DBRC が IMSGEN で指定されたか、または DBRC=N が EXEC ジョブ制御ステートメント・パラメーター・リストで指定されなかったか確認してください。

問題判別: 8、10

モジュール: DFSXLIC0、DFSRST00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS038I PURGE REQUEST FAILURE, UNABLE TO RELEASE LOCKS

説明: 直前の実行以降このサブシステムによって保留されていたすべてのロックを解放するためのページ・コマンドが失敗しました。緊急時再始動またはバッチ・バックアウト実行の完了時に、すべてのロックを解放するために、ページ・コマンドが IRLM に対して出されず、ロックの解放を試みた結果、誤った戻りコードが出されることになりました。レジスター 15 に戻りコードが入っています。障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報で PURGE 要求コードを参照してください。


システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0038 が示されます。

プログラマーの応答: IRLM がアクティブであることを確認してください。

問題判別: 1、4、10、35

モジュール: DFSPCCC0、DFSRST00

関連資料:

 IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS039I IMS WAITING FOR IRLM ARM READY.

または

IRLM IDENTIFY REQUEST FAILED, RC=xx-yy

説明: このメッセージは DFS039A に伴って出力されます。詳細な説明および処置については、そのメッセージの情報を参照してください。戻りコード *xx-yy* については、戻りコードおよび理由コードを参照してください。

関連情報:

DFS039A

DFS039A *insid* ACTIVE, REPLY RETRY, CANCEL, OR DUMP.

または

xxxx NOT ACTIVE. REPLY RETRY, CANCEL, OR DUMP.

説明: このメッセージの後にメッセージ DFS039I が続いています。

IRLM に対する IDENTIFY 要求が失敗すると、メッセージ DFS039I がまず最初に出されます。戻りコード *xx* および理由コード *yy* で、エラー条件が示されます。戻りコード 00 または 04 が戻されるのは、IRLM が DL/I バッチ・ジョブに関するサブシステム情報を保持している場合です。F IRLMPROC,STATUS コマンドを使用して、情報を表示させてください。RC=00 または RC=04 が検出された DL/I バッチ・ジョブについて、バッチ・バックアウトを実行してください。

メッセージ DFS039I に関する障害の原因を判別するには、IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード情報の IDENTIFY 要求の説明を参照してください。このメッセージの後には、2 番目の DFS039I メッセージまたは DFS039A メッセージが続きます。

2 番目のバージョンの DFS039I が出される可能性があるのは、IMS および IRLM が z/OS 自動リスタート・マネージャー用に使用可能になっている場合です。このメッセージは、IRLM が自動リスタート・マネージャーに READY を送信するのを、IMS の再始動が WAITING 中であることを示しています。

DFS039A メッセージは WTOR です。最初の形式のメッセージが出されるのは、*xxxx* フィールドで指定されたファイル IRLM がアクティブでないことが、*xx-yy*

フィールドで示されている場合です。2 番目の形式のメッセージが出されるのは、IRLM に対して識別されている IMS ID がすでにアクティブである場合です。

システムの処置: IMS が自動リスタート・マネージャーに登録されていない場合で、IRLM がアクティブでないこと、またはこの IMS サブシステムが IRLM に対してすでに識別されていることが、*xx-yy* フィールドで示されている場合は、WTOR 形式のメッセージが出されます。他のエラー戻りコードおよび理由コードの場合、IMS は異常終了し、0039 が出されます。

IMS が自動リスタート・マネージャーによる再始動の過程にあり、IRLM がアクティブでないこと、またはこの IMS サブシステムが IRLM に対してすでに識別されていることが、*xx-yy* フィールドで示されている場合は、IRLM が直前の IMS の実行で自動リスタート・マネージャーに登録されたかどうか、IMS が判別します。IRLM が以前に自動リスタート・マネージャーに登録されている場合は、IMS は 2 番目の形式の DFS039I を出し、IRLM が作業の準備ができていないことを、自動リスタート・マネージャーが認識するまで、WAIT します。他のエラー戻りコードおよび理由コードの場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0039 が示されません。

オペレーターの応答: メッセージが WTOR 形式の場合は、オペレーター処置が必要です。

xxxx フィールドで指定された IRLM がアクティブでない場合は、*xxxx* 名が正しいか確認してください。*xxxx* が正しい名前でない場合は、オペレーターは、WTOR に対して ABEND 応答した上で、正しい IRLMNM を指定して、IMS を再度開始できます。*xxxx* が正しい場合は、オペレーターは、IRLM がアクティブになるまで待った上で、WTOR に対して RETRY 応答できます。

IMS サブシステムがすでに IRLM に対して識別されている場合は、オペレーターは、現在 IRLM に対して識別されているサブシステムの状況を調べる必要があります。IRLM に対する識別で遅延が必要になる可能性のある状態が、少なくとも 2 つあります。まず最初は、たまたまジョブ名が同じ複数の IMS バッチ・ジョブの実行依頼が生じる可能性のある場合です。最初のバッチ・ジョブが完了するのを待った上で、RETRY 応答すれば、次いで 2 番目のジョブが続くことができます。同じジョブがたまたま 2 回実行依頼されても、そのジョブが実行されるのは 1 回だけであり、ご使用のシステムがオペレーターに、CANCEL 応答によって 2 回目のジョブを終了させるよう要求するはずです。

2 番目は、代替 CICS® XRF によるテークオーバーが行われるような一部の障害の結果、サブシステムがすでにアクティブであることを示す識別戻りコードが出される可能性のある場合です。この場合は、RETRY 応答の前

に、IRLM を強制的に未確定状態に置き、次いで障害状態に置く IRLM 訂正処置が呼び出されます。

WTOR 応答とそれぞれの意味は、次のとおりです。

RETRY

この場合は、IMS が IRLM IDENTIFY を再試行することになります。状態が訂正されない場合は、メッセージ DFS039I および DFS039A が再度表示されます。

CANCEL

この場合は、IMS サブシステム初期設定が終了し、異常終了コード 0039 が出されますが、メモリー・ダンプが取られることはありません。IRLM がアクティブでないときに、OS オペレーターが RECONNECT コマンドで IMS を変更した場合、CANCEL と応答すると、IRLM の再接続処理だけが終了し、その結果、OS オペレーターは 08 コードを伴ったメッセージ DFS625I を受信します。

DUMP

この問題は、IMS サブシステムが 0039 で異常終了し、メモリー・ダンプが取られる原因となります。

問題判別: 1、4、10、35

モジュール: DFSRST00、DFSPCCCC

関連タスク:

➡ 戻りコードおよび理由コード

関連情報:

27 ページの『DFS039I』

➡ 0039 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS040I UNABLE TO ACQUIRE COMMAND LOCK, DATA SHARING DISCONTINUED

説明: IMS が、IRLM とのリンケージの確立後に、コマンド・ロックの獲得を試みました。コマンド・ロックは、共用 IMS サブシステム間での通信に使用され、データの共用時に必要です。

システムの処置: IMS は、データ共用なしで処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 通信が共用 IRLM 間で再確立されていることを確認してください。データ共用が必要な場合は、IMS をいったんシャットダウンしてから再始動してください。

モジュール: DFSRST00、DFSPCCCC

DFS041I DBRC SIGNON REQUEST RC=cc

説明: DBRC に対するサインオン要求が完了し、戻りコード *cc* が示されました。戻りコードの定義については、DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: 戻りコードが重大エラーを示している場合、IMS は、異常終了コード 0041 で終了しますが、それ以外の場合は、実行が継続されます。

戻りコードが 16 および 24 の場合は、IMS が異常終了コード 0041 で終了する可能性があります。

戻りコード 8、12、20、28、32、および 41 の場合、IMS は異常終了コード 0041 で終了します。

プログラマーの応答: サインオン障害が発生する可能性があるのは、RECON データ・セットに存在するサブシステム ID を、サインオン要求で指定した場合です。RECON のサブシステム・レコードの更新に関する情報が必要な場合は、DBRC CHANGE.SUBSYS または DELETE.SUBSYS コマンドを参照してください。

戻りコード *cc* に応じて、以下のアクションを取ることができます。その他の戻りコードはすべて、システム・エラーの可能性を示します。ここにリストされていない戻りコードについては、DBRC 要求戻りコードの情報を参照してください。

8、12、16、20

この問題は、オンライン・システムのコールド・スタート中またはウォーム・スタート中、もしくはバッチ・システムの初期設定中に発生します。このコードは、このシステムのサブコード・システム ID と DBRC の間に競合があることを示しています。サブシステム ID とは、オンライン・システムの IMSID、またはバッチ・システムのジョブ名です。このサブシステムのサブシステム ID を変更して、ジョブを再実行依頼するか、DBRC に既知のサブシステム・エントリーをリストして、重複が存在する理由を判別するか、いずれかを行ってください。

24 この問題は、緊急時再始動中またはバッチ・バックアウト中に、通知目的のために生じ、直前の実行は、異常終了を DBRC に通知しないまま失敗したことを示します。処置は必要ありません。

28 この問題はバッチ・バックアウト中に生じ、バッチ・バックアウトに提供されたログに関するサブシステム・エントリーが、DBRC には認知されていないことを示します。適切なログが使用されていることを確認してください。適切なログが使用されていれば、バッチ・バックアウトは不要であり、それ以上の処置は必要ありません。これはバッチ・バックアウト中に生じ、

DBRC には、サブシステム・エントリーは認知されていないことを示します。バッチ・バックアウトは実行する必要がないと考えられ、処置は必要ありません。

32 この問題は緊急時再始動中またはバッチ・バックアウト中に生じ、変更が IRLM 名で行われていることを示します。元の実行で使用したものと同一 IRLM 名を指定して、ジョブを再実行してください。


41 この問題は DBRC へのサインオン中に生じ、サブプール 0 ストレージに対する 24 K IMODULE GETMAIN 要求が失敗したことを示します。異常終了レジスターのレジスター 8 に、IMODULE GETMAIN 障害からの戻りコードが入ります。詳しくは、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。


96 サインオンしようとしているサブシステムは、許可されているリリースより以前のもので、RECON データ・セットの MINIMUM VERSION の値をチェックしてください。

問題判別: 1、4、10、35

モジュール: DFSRST00、DFSPCCC0、DFSRCPO0

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS042I BACKOUT REQUIRED, DBRC SIGNON FAILED

説明: 入力ログの処理後に、バックアウトが必要であると判別されました。このサブシステムに関するエントリーが存在しないこと、および直前のこのサブシステムの実行中は DBRC がアクティブであったことが DBRC へのサインオンで示されました。緊急時再始動の実行時には、同じ条件が確立されている必要があります。

システムの処置: クリティカル・エラーが発生すると、IMS は異常終了して、異常終了コード 0042 が示されません。

プログラマーの応答: DBRC が IMS のこの実行に関して指定されているか、または同じ RECON データ・セットが使用されていることを確認してください。

問題判別: 1、4、10、35

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0042

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS043I DBRC SIGNON REQUEST FOR RECOVERY END FAILED, RC=cc

説明: 緊急時再始動またはバッチ・バックアウトのプロセスが完了すると、『recovery end』のサインオンが出されて、リカバリー・プロセスが正常に完了したことを DBRC に通知します。ただし、要求は正常に実行されず、DBRC によって検出されたエラーが戻りコードで示されています。戻りコードの定義については、DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0043 が示されます。

プログラマーの応答: 戻りコードをチェックし、適切な処置を取ってください。

問題判別: 1、4、10、35

モジュール: DFSPCCC0、DFSRST00

関連資料:

➡ DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ 0043 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS044I DBRC TURNED OFF FOR THIS EXECUTION

または

DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION

説明: 次の問題のいずれか 1 つが発生すると、DBRC REQUIRED FOR または TURNED OFF が表示されます。

- ユーティリティー・プログラムが、DBRC がない HALDB に対して実行を試みました。
- DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION**
インストール・システムのデフォルト・モジュール DFSIDEF0 で、DBRC=FORCE が指定されました。DBRC=N がこのステップの実行時パラメーターとして指定されました。
データベース・バックアウトが実行中で、DBRC がアクティブでなく、実行時パラメーター DBRC の IMS の直前の実行によってオーバーライドされませんでした。DBRC 使用されており、この実行 DBRC

に指定されていません。前回の実行で使用された条件、つまり、DBRC の使用状況と同じ条件がデータベース・バックアウトに関するこの条件で使用される必要があります。ただし、DBRC が DBRC=N でオーバーライドされている場合は、その限りではありません。IRLM が前回の実行中にアクティブであった場合は、DBRC は、今回のデータベース・バックアウトの実行中、常にアクティブである必要があります。

- DBRC TURNED OFF FOR THIS EXECUTION**
データベース・バックアウトが実行中です。DBRC=N がこの実行に関して定義され、前回の実行では DBRC はアクティブでした。処理は、通常 DBRC なしで続行されます。

システムの処置: DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION が表示されるのは、ジョブが異常終了するときです。DBRC TURNED OFF THIS EXECUTION が表示されているときは、処理は正常に続行されています。この実行中、DBRC は使用されません。

プログラマーの応答: DBRC REQUIRED FOR THIS EXECUTION が表示されているときは、この実行では、DBRC が存在しているか確認してください。データベース・バックアウトでは、実行時パラメーター DBRC=N が指定できるのは、IRLM が前回の実行では存在していなかった場合です。

DBRC TURNED OFF FOR THIS EXECUTION が表示されるときは、処理は DBRC なしで続行されます。DBRC を再活動化する前に、DBRC が非アクティブであった間に今回のバックアウトの実行で作成された OLDS データ・セット (IMS ログ) に関する情報を、DBRC コマンド NOTIFY.PRILOG および NOTIFY.SECLOG で RECON に記録してください。

問題判別: 2、8

モジュール: DBFUMIN0、DFSRLP00、DFSBACKI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS045I IRLM REQUIRED FOR THIS EXECUTION

説明: /ERE が緊急時再始動のために入力されたか、データベース・バックアウトが実行中で、IRLM はアクティブではありませんでした。前回の IMS の実行で IRLM を使用し、今回の実行では、IRLM は指定されませんでした。緊急時再始動およびデータベース・バックアウトの場合は、前回の IMS の実行で使用された条件と同じ条件が、今回の実行で存在することが必要です。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0045 が示されます。データベース・バックアウトが終

了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 今回の実行で IRLM が存在している、または適切な IRLM が指定されていたことを確認してください。IRLM= または IRLMNM= パラメーターで同じ指定になる必要があります。

問題判別: 2、8

モジュール: DFSBCKI0、DFSRLP00、DFSRST00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS046A PROCESSING INTENT *ppppppp* FOR
DATA BASE *xxxxxxx* NOT
COMPATIBLE WITH ACCESS *zz*.
PSB=PSB *name*.**

説明: 指定された PSB に入っている DB-PCB の 1 つで参照されていた、指定されたデータベース *xxxxxxx* は、PROCESSING INTENT *ppppppp* が、IMS オンライン・サブシステムに関するデータベース・ステートメントで定義された ACCESS パラメーター *zz* と互換性がありませんでした。PROCESSING INTENT、READ-GO、READ、UPDATE、または EXCL は、PSBGEN の PROCOPT 仕様から派生しています。IMS がオンライン・サブシステムである場合は、PSB 名だけがメッセージ・テキストに現れます。

システムの処置: バッチ領域 (DL/I または DBB 領域) は、異常終了 0046 で強制終了されます。従属領域は処理を続けますが、プログラムはデータベースにアクセスできません。データベースへのアクセスを試みると、プログラムが INIT 呼び出しを実行していれば、'BA' 状況コードが生じ、プログラムが INIT 呼び出しを実行していなければ、異常終了コード 3303 が生じる結果になります。データベースが高速機能 DEDB である場合、PSB は停止します。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

プログラマーの応答: 次のいずれかの応答が必要です。

- マスター端末オペレーターに連絡を取って、データベースの ACCESS パラメーターを PROCESSING INTENT と互換性のあるレベルに変更してもらいます。
- PROCOPT オペランド仕様を、IMS オンライン・サブシステムに関するデータベース・ステートメントで定義された ACCESS パラメーターと互換性のあるレベルに変更する。まず ACBGEN を、次いでジョブを再実行してください。

問題判別: 6、10、29

モジュール: DBFDBPV0、DFSDBAU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS047A UNABLE TO OBTAIN
AUTHORIZATION FOR DATA BASE
xxxxxxx. REASON CODE = *zz*. PSB=
psbname.**

説明: IMS は、*xxxxxxx* によって示されたデータベースのデータベース許可を取得できませんでした。データベースは、PSB スケジューリング中に、*psbname* に取められた DB PCB のいずれかで現れます。IMS がオンライン制御領域である場合は、PSB 名だけがメッセージ・テキストに現れます。

コード (16 進数)

意味

- 01 要求された状態と現行許可状態 (RECON データ・セットを参照) に互換性がありません。データベースは、別のアクティブな、もしくは、異常終了した IMS サブシステムによって許可され、その許可状態は、現行許可要求と互換性がありません。
- 02 データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
- 03 次のいずれかの理由により、データベースにそれ以上の許可を禁止するマークが付けられています。グローバル /DBRECOVERY、グローバル /STOP、UPDATE DB STOP、または CHANGE.DB(NOAUTH) コマンド。
- 04 データベースが許可されるのは、グローバル /DBDUMP または UPDATE DB STOP(UPDATES) コマンドのために、要求された状態が「READ」または「READ-GO」の場合だけです。
- 05 データベースに、イメージ・コピーが必要というマークが付けられています。
- 06 データベースに、リカバリーが必要というマークが付けられています。
- 07 データベースに、バックアウトが必要というマークが付けられています。データ共用環境では、LIST.DB コマンドを使用して、メッセージで指定されたデータベースに関して、バックアウトを必要とするサブシステムを判別できません。
- 08 ホスト内での共用の場合は、要求サブシステムは許可ホスト内にはありません。
- 09 1 つ以上のサブシステムにデータベースが以前から許可されている場合は、そのようなサブシステムは、アクティブであると想定されますが、IRLM にとって既知ではありません。

- IRLM=N または別の IRLM 名がサブシステムで指定されている可能性があります。
- 10 データベースは、以前からサブシステムに許可されています。
- 11 データベース使用互換性評価プロセス中に、無効なパラメーターが検出されています。RECON データ・セットのデータベース・レコードに誤りがある可能性があります。
- 12 無許可エラーのため、DBRC の現行許可状態は無効です。
- 13 許可要求の処理を試行中に、エラーが DBRC で発生しました。
- 14 許可変更要求の処理を試行中に、エラーが DBRC で発生しました。
- 15 データベースは、アクティブ IMS サブシステムにすでに許可されています。
- 16 エリアに、DEDB 初期設定ユーティリティに関してリカバリーが必要というマークが付けられていません。
- 18 高速機能エリアは現在変更中です。
- 19 DBRC に渡されたデータベース・データ・セットのデータ・セット名が、RECON データ・セット内のデータ・セット名と一致しません。
- 20 データベース許可が失敗しました。データベースが DBRC に登録されていないためです。また、DBRC RECON データ・セットが FORCER を使用して初期設定されましたが、これにはすべてのデータベースが登録済みである必要があります。
- このエラーは、RECON データ・セットと動的割り振りブロック (DFSMDA メンバー) 内のデータ・セット名の不一致の結果である可能性があります。
- 22 データベースは、現在別のサブシステムに許可されています。
- 31 HALDB の定義が変更されました。区画構造の再作成を行わないと、その区画に対する許可を付与することはできません。HALDB マスターが再作成を実行するために、OPEN キーワードを指定して /START DB コマンドを発行してください。
- 32 HALDB は、初期設定する必要があります。
- 33 HALDB マスターを許可しようとして、許可は、区画レベルでしか要求できません。
- 34 区画初期設定が、初期設定を必要としない区画に関して許可を要求しています。
- 35 ハイ・キーが定義されるまでは、DB 区画は許可できません。キーが必要なのは、HALDB マスターでは区画選択ルーチンを使用しないからです。
- 36 HALDB OLR 処理の間、イメージ・コピーは許可されません。
- 37 区画データベースの M-V DBDS へのロードは許可されていません。
- 38 オフライン再編成は、HALDB OLR がアクティブで HALDB OLR が IMS サブシステムによって所有されている場合は、許可されません。
- 39 HALDB 区画データベースはオンラインで再編成できます。このリリースの IMS は OLRCAP データベースに対してデータベース・ユーティリティを実行することはサポートしていません。
- 40 データベースに対して REORG INTENT = ON が設定されている場合、バッチ・ジョブは許可を与えることができません。データベースは現在再編成中です。オンライン・イメージ・コピーも許可に失敗します。
- 41 データベースが静止されているか、静止処理中です。
- 42 データベースは静止保留中ではなく、イメージ・コピーが許可を試行中です。
- 43 渡されたランダムマイザー名が、RECON に保管されているランダムマイザー名と異なっています。
- 80 指定された HALDB 区画の区画名テーブル DFSPNT が初期設定されていません。
- 81 指定された HALDB 区画のマスター DMB をロードしようとしているときにエラーが発生しました。
- 82 メッセージ・テキストに DATA BASE = xxxxxxxx で識別されている変更バージョンの HALDB 区画の DMB をロードしようとしているときにエラーが発生しました。メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS3547E に、DMB をロードできなかった理由に関する情報が含まれています。
- 83 IMS は、RECON データ・セットで ALTER IN PROGRESS の状況になっている HALDB 区画にアクセスするために必要な内部ブロックを構築できませんでした。そのため、その HALDB 区画に対する許可が失敗しました。この区画は、メッセージ・テキストに DATA BASE = xxxxxxxx で識別されています。メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS1849E に、内部ブロックを構築できなかった理由が示されています。

システムの処置: バッチ領域 (DL/I または DBB 領域) が終了し、異常終了コード 0047 が示されます。データベースは停止します。従属領域は処理を続けますが、プログラムはデータベースにアクセスできません。データベースへのアクセスを試みると、プログラムが INIT 呼び出しを実行していれば、BA 状況コードが生じ、プログラムが INIT 呼び出しを実行していなければ、異常終了コード 3303 が生じる結果になります。

理由コード 41 および 42 の場合、許可要求はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 理由コード 01 から 09 および 15 から 19 は、一時許可障害を示しますが、次のいずれかの処置で訂正できます。

- 現在許可されているサブシステムが終了するのを待つか、/DBRecovery UPDATE DB STOP(ACCESS) を入力して、現在許可されているサブシステムから、そのデータベースの許可を取り消してください。サブシステムが異常終了している場合は、バッチ・バックアウトまたは緊急時再始動が必要になる可能性があります。(RC 01、08、または 15)
- DBRC=C を使用中の場合は、正しいログがバッチ・バックアウト・ユーティリティーに対する入力になっているかどうかを検査してください。(RC 01)
- /START DB、または UPDATE DB START(ACCESS)、/DBDUMP または UPDATE DB START(UPDATES)、または CHANGE.DB (auth) コマンドを入力してください。(RC 03)
- /START DB または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを入力してください。(RC 04)
- 適切な IMS ユーティリティーを実行してください。(RC 05、06、または 07)
- データベースが現在許可されているホストで、この IMS サブシステムを実行してください。(RC 08)
- 失敗したサブシステムが緊急時再始動またはデータベース・バックアウトを完了するのを待ってください。(RC 09)
- DBRC コマンド CHANGE.SUBSYS を使用して、IMS サブシステムがアクティブではなくなっていることを示してください。(RC 15)
- DBRC CHANGE.DBDS コマンドを使用して、エリアにリカバリーが必要というマークを付けてください。(RC 16)
- DBRC INIT.DBDS コマンドを使用して、DBDS または DEDB エリアを DBRC に登録してください。(RC 18、19)
- DEDB 変更ユーティリティーが完了するまで待つか、あるいは DBRC CHANGE.DB NOALTER コマンドを使用して、DEDB 変更ユーティリティーがアクティブではなくなっていることを示してください (RC 18)。RECON で「QUIESCE」状況が設定され

ている場合は、CHANGE.DBDS NODBQUI コマンドを使用して、静止状況をリセットしてください。

- ACBSHR=N 環境で、DEDB 変更ユーティリティーは IMS がダウンしている間にランダムマイザーを変更しました。
- RECON データ・セットをチェックして、正しい許可状態を判別してください。

理由コード 10 から 14 は、システム・エラーが発生していることを示しています。これらの問題が引き続き発生する場合は、IBM に連絡して、問題判別支援を要求してください。

理由コード 33 の場合は、データベースの DBDLIB レベルをチェックして、RECON レベルと一致しているかを確認してください。

理由コード 41 および 42 の場合、静止が終了するまで待つから、許可が失敗したジョブを再実行してください。データベースの状況を判別するには、/DISPLAY DB QSC、/DISPLAY STATUS DB、または Query DB、または LIST.DB DBD(*dbname*) を発行し、出力を調べます。イメージ・コピーが失敗した場合、静止が終了するまで待つか、QUIESCE HELD フラグがオンに設定されるまで待ちます。静止が生じた場合、UPD START(QUIESCE) OPTION(HOLD) コマンド処理によって、QUIESCE HELD フラグをオンに設定することができます。

理由コード 82 の場合は、メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS3547E を参照してください。

理由コード 83 の場合は、メッセージ DFS047A の前にシステム・コンソールに出されるメッセージ DFS1849E を参照してください。

問題判別: 35

モジュール: DFSDBAU0

関連情報:

453 ページの『DFS1849E』

868 ページの『DFS3547E』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0048I DBRC INITIALIZATION FAILED - RC = *nn*

説明: DBRC の初期設定が、次のいずれかの理由で失敗しました。

コード (10 進数)

意味

- 4 DFSRCWK に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 8 IMODULE LOAD が、IMS/DBRC 制御モジュール (CM) の 1 つに関して失敗しました。
- 12 データベース・リカバリー管理初期設定の最初のパス (INIT-0) が正常に行われませんでした。
- 16 データベース・リカバリー管理初期設定の 2 番目のパス (INIT-1) が正常に行われませんでした。
- 20 IMS DBRC 制御モジュールの 1 つに関して、高速保管取得が失敗しました。
- 24 IMS DBRC 制御モジュールの 1 つに関して、ITASK CREATE が失敗しました。
- 28 DFSRSMDO に関する IMODULE LOAD が失敗しました。
- 32 DFSRSMDO 呼び出しが失敗しました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0048 が示されます。

プログラマーの応答: 異常終了コード 0048 を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12

モジュール: DFSXRIC0、DFSXRID0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS049I UNABLE TO OBTAIN STORAGE TO BUILD DATA BASE AUTHORIZATION REQUEST LIST. PSB yyyyyyyy STOPPED.

説明: データベース許可要求リストを作成するためにさらに大きい作業用ストレージ域の取得を試みている過程で、条件付き GETMAIN が出されました。ただし、この GETMAIN は失敗しました。この失敗の理由は、PSB yyyyyyyy に入っているデータベース PCB が多すぎるからか、JOB 始動 JCL で指定されている REGION サイズが小さいからか、どちらかです。

システムの処置: 指定された PSB が停止しています。MPP の場合は、入力メッセージがメッセージ・キューに戻されます。BMP、IFP、DBB、または DLI 領域タイプの場合は、その領域が異常終了して、異常終了コード 0047 が示されます。

/START DB コマンドなどのコマンドの処理中は、プログラム仕様ブロック (PSB) が存在せず、異常終了コード 0047 は発行されません。未確定のリカバリー単位で

再始動中に障害が発生した場合は、異常終了コード 0484 が発行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。


プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。


- オンライン・サブシステムの場合は、IMS 制御領域始動 JCL の REGION パラメーターのサイズを増やします。バッチ・サブシステムの場合は、JOB 始動 JCL の REGION パラメーターのサイズを増やします。
- PSB を変更して、入るデータベース PCB の数を減らす。まず ACBGEN を、次いでジョブを再実行する。

問題判別: 6、10、19

モジュール: DFSDBAU0

関連情報:

 0047 (メッセージおよびコード)

 0484 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS050A SHARED ACCESS TO VSAM DATASET ddname NOT ALLOWED BY CATALOG

説明:

データ・セット ddname が入っているデータベースの DL/I オープン処理で、SHR (3,3) がアクセス方式サービス・プログラムの DEFINE コマンドで指定されておらず、DISP=SHR がデータ・セットに関する DD ステートメントで指定されていないことが検出されました。SHR(3,3) および DISP=SHR は、以下が当てはまる場合は指定する必要があります。

- SHARELVL=2 または 3 が、INIT.DB または CHANGE.DB コマンドでデータベースに関して指定されている。
- ACCESS=RD または UP がシステム定義 DATA BASE マクロ・ステートメントまたは /START コマンドで、データベースに関して指定されている。

XRF 対応 IMS システムの場合は、データベースは SHR(3,3) である必要があります。メッセージ DFS0730I には、データベース名が含まれています。

システムの処置: メッセージ DFS0730I 理由コード I,33 が出されます。メッセージ DFS0730I の『システム処置』のセクションを参照してください。

プログラマーの応答:

データベースへの共用アクセスが望ましい場合は、データ・セットに関して指定されている SHR オプションお

よび後処理を訂正してください。そうでない場合は、CHANGE.DB コマンドを使用して、データベースに関する SHARELVL 指定を 0 または 1 に変更できません。ACCESS=RO または EX が IMS システム定義用のデータベースについて指定されているか、あるいは /START コマンド上で指定されている場合、このエラーが発生することはありません。

問題判別: 2、6、8、10、20

モジュール: DFSDLOC0

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 5 章 DFS メッセージ DFS051I - DFS100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS051I **hh.mm.ss RESTART IN PROGRESS**
LINE *xxxx aa,bbbb,cc,dd,ee, ff,gg,hh,iii,jjjj*

説明: 回線番号で示されているリモート 3270 ネットワークのコンポーネントで、入出力エラーが発生しました。リモート 3270 装置依存のモジュールが、入出力エラーによる影響を受けた物理端末を再始動する試みとして、該当する物理端末に関して /RSTART コマンドを生成します。このエラーが引き続き発生する場合は、装置依存のモジュールは、指定された回数だけ /RSTART コマンドを試み、試行回数が限度に達すると、該当するコンポーネントに作動不能のマークを付けます。以下は、このメッセージに含まれているエラー情報についての説明です。

aa このフィールドには、ECB 完了コードが入っています。

bbbb DECTYPE フィールドでは、障害を起こしている操作のタイプを示します。

cc DECTPCOD フィールドには、チャンネル・プログラムで最後に実行された CCW からのデータ通信命令コードが示されています。

dd DECFLAGS フィールドには、BTAM から IMS に渡されたフラグ・バイトが入っています。このフィールドには、障害の原因についての情報が含まれている場合があります。

ee DECSSENS0 フィールドには、CSW の状況が装置チェックを示している場合は、DECBC からのセンス情報が入っています。

ff DECERRST は、DECBC からのエラー状況フィールドです。

gg DECCSWST は、DECBC からの CSW 状況フィールドです。

hh このフィールドには、装置依存のモジュール・コードが入っています。3270 装置依存のモジュールがデータ通信ネットワークのコンポーネントをシャットダウンすると、装置依存のモジュールの理由コードが CLBTEMP1 フィールドに入り、装置依存のモジュールがそのコンポーネントをシャットダウンした理由を示します。

iii このフィールドには、BSCK 戻りコードが入っています。このコードは、BSC チェック・ルーチン (DFSBSCK0) から装置依存のモジュールに渡されます。BSC チェック・ルーチンは、入出力完了を分析し、DECBC フィールドの

内容に応じて、固有の戻りコードを装置依存のモジュールに渡します。

フィールド *iii* に表示される機能コードおよび応答コードについては、この後で説明しています。

jjjj このフィールドには、3270 装置からの SENSE/STATUS 情報が入っています (ただし、該当する場合)。SENSE/STATUS コードの説明については、「IBM 3270 Information Display System」を参照してください。

機能コードは、フィールド *iii* の先頭の 2 文字を置き換えます。レジスター 0 で戻され、次のいずれかの意味を示します。

コード	意味
X'00'	未判別
X'01'	選択
X'02'	ポーリング
X'03'	データ読み取り
X'04'	データ書き込み
X'05'	予約済み
X'06'	予約済み
X'07'	予約済み

応答コードは、フィールド *iii* の末尾の 2 文字を置き換えます。レジスター 15 で戻され、次のいずれかの意味を示します。

コード	意味
X'00'	エラーは検出されませんでした
X'01'	肯定応答待ち (WACK)
X'02'	競合
X'03'	否定応答 (NACK)
X'04'	伝送終了 (EOT)
X'05'	逆中断 (RV1)
X'06'	ポーリング・リストにエントリがありません
X'07'	否定応答
X'08'	応答なし
X'09'	ENQ で終了するブロック (または ENQ のみ)
X'10'	SOH%S メッセージ

DFS052 • DFS056

- X'11' SOH%R メッセージ
X'12' 予約済み
X'13' 無効応答
X'14' テキスト開始 - エンキュー (STX-ENQ) シー
ケンス
X'15' テキスト一時遅延 (TTD)
X'16' 誤りの代替肯定応答
X'17'-X'31'
予約済み
X'32' 未判別エラー
X'33' 270X エラー
X'34' 回線エラー
X'35'-X'63'
予約済み

BTAM DECB からのフィールドは、BTAM から IMS に渡されるのに応じて表示されます。これらのフィールドの説明については、「OS/VS BTAM」(GC27-6980) を参照してください。また、メッセージに含まれているエラー情報に加えて、装置依存のモジュールは X'6703' レコードでの障害発生時点からの IMS 制御ブロックのすべてを、IMS ログ・データ・セット上でログアウトします。

モジュール: DFSC3270

DFS052 CARD ENTRY INDICATED, NO CARD DATA FOUND

説明: 3270 磁気カード・リーダーでハードウェア誤動作が起きました。読み取り操作が要求されたが、カード・データが TP バッファで受信されなかったことを、AID バイトが示していました。

システムの処置: 入力は無視されます。

オペレーターの応答: カードを注意深く再挿入してください。問題が再発する場合は、端末トラブルシューティング手順を実行してください。

モジュール: DFSCFE00

DFS053 TERMINAL RESTARTED-PLEASE REFORMAT SCREEN

説明: 入出力エラーの結果として、会話モードまたは排他モードであった端末が停止しましたが、現在は再始動しています。

システムの処置: システムは、通常の処理を続行します。

オペレーターの応答: 端末が会話モードであった場合は、/HOLD コマンドの後に続けて /RELEASE コマンドを入力して、このメッセージの前に送信された最後のフォーマットで画面を再フォーマットしてください。

モジュール: DFSDN130

DFS054 INPUT NOT ALLOWED TILL PRINTER IS AVAILABLE

説明: 3277 からの入力は、3284/3286 プリンターがコピー操作の処理でビジーである間は許可されません。

システムの処置: 入力は無視されます。

オペレーターの応答: (端末オペレーター) プリンターが使用可能になるまで待ってください。

モジュール: DFSCFEP0

DFS055 INCORRECT RESPONSE REQUESTED

説明: 論理装置によって要求された応答が、システム定義でこのトランザクションに関して指定されている INQUIRY= パラメーターに合致しませんでした。

システムの処置: 入力はリジェクトされます。

オペレーターの応答: セッションを再開してください。

問題判別: この問題は、システム定義または論理装置内のインテリジェント・リモート・プログラムにおける、ユーザー・エラーと思われます。更新トランザクション、リカバリー可能照会トランザクション、およびメッセージ通信では、肯定応答を要求する必要があります。回復不能トランザクションでは、肯定応答は要求してもしなくてもかまいません。

モジュール: DFSICIO0

DFS056 COMMAND NOT VALID WITH MFS OPTION 3

説明: コマンドが入力され、メッセージ入力記述 (MID) にパラメーター OPT=3 がコーディングされました。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: (リモート端末) このメッセージは、オプション 3 を使用しないデフォルト・ブロックを使用してフォーマットされたため、この時点でコマンドを再入力できません。

モジュール: DFSICL30

DFS057I REQUESTED BLOCK NOT AVAILABLE: blockname RC = reason

説明: MFS が、出力メッセージの処理、または /FORMAT 要求の処理に必要な制御ブロックをフェッチできません。メッセージ内の *blockname* は、フェッチできなかったブロックを示し、MOD 名と DOF 名のどちらかです。DOF 名である場合は、名前の先頭の 2 バイトは、16 進数で印刷された装置タイプおよび装置機構です。これらの 2 バイトの解釈については、フォーマット・ライブラリー・メンバーの選択 (アプリケーション・プログラミング API) を参照してください。

理由コード *reason* は、発生した障害のタイプを示しています。

コード (16 進数)

意味

- 04** 示されているブロック名が、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーで検出されませんでした。この理由コードが示されるのは、次の条件が原因である可能性があります。
- メッセージ出力記述子 (MOD) 名につづりの誤りがあるか、その MOD がアクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在しない。
 - 装置タイプおよび装置機構を示して、メッセージに示されている MOD の装置出力形式 (DOF) が、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在しない。
- 08** アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに永続入出力エラーがあります。
- 0C** MOD または DOF、もしくはその両方に必要な主記憶域スペースが、メッセージ・フォーマット・バッファ・プールで現在使用可能な最大スペースよりも大きくなっています。あるいは、使用可能なフェッチ要求エレメント (FRE) がありませんでした。この戻りコードを出すのは、プリフェッチ・ルーチンのみであり、即時取り出しルーチンが出すことはありません。
- 14** MOD ブロックがフェッチされるはずでした。フェッチされたブロックは、MOD ではありませんでした。
- 18** フェッチされた MOD ブロックは、IMS のリリース 1.1.1 よりも前にコンパイルされていました。
- 1C** フェッチされた MOD と DOF が非互換でした (同時にコンパイルされていませんでした)。z/OS ユーティリティを使用し、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーを変更しましたが、この問題の原因である可能性があります。

- 20** MOD または DOF に無効のフィールドが含まれています。この問題は、フォーマット・ライブラリーまたはテスト・フォーマット・ライブラリーに対する変更もしくは損傷が原因の可能性もあります。
- 24** 要求された MOD または DOF が大きすぎて、メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) では対応できません。MFBP を大きくする必要があります。システム・プログラマーに通知してください。
- 28** DOF と CIB の画面サイズに互換性がありません。この問題は、3270-AN 装置タイプの場合にのみ起こります。システム定義で定義された画面サイズが、装置特性テーブル DFSUDTOX にあるサイズと異なっていました。システム・プログラマーは、必ず正しい装置特性テーブルが使用されるようにする必要があります。
- 38** MOD を使用すると、HIOP ストレージ・プールが上書きされてしまうため、MOD は使用できません。
- 78** DOF を使用すると、HIOP ストレージ・プールが上書きされてしまうため、DOF は使用できません。

システムの処置: 要求されたブロックが使用不能であったため、IMS は、「デフォルト・ブロック・エラー・メッセージ・フォーマット (DFSMO3)」を使用して、メッセージのフォーマットおよび送信を行ってから、メッセージをデキューしました。

この NODE/PTERM の場合に、TRACE がオンに設定されていると、X'67' レコードが「FERR」という ID で IMS ログに作成されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) エラーを訂正するために、以下のアクションを取ってください。

理由コード **20** の場合:

ブロックをメッセージ・フォーマット内の他のブロックで置き換えるまで十分な時間を確保するために、MOD か DOF、またはその両方を使用するトランザクションの使用を停止してください。失敗したトランザクションを再試行してください。エラーが引き続き発生するのは、FORMAT または TFORMAT ライブラリー内でブロックが破棄されたか、エラーがブロック内にコンパイルされたか、MFS オンライン・モジュールの 1 つにエラーがある場合です。エラーが再発しない場合は、データがメッセージ・フォーマット・バッファ・プール内でオーバーレイされていたためです。いずれの場合も、X'67' ログ・レコードに役に立つ情報が入っています。

理由コード **38** および **78** の場合:

ブロックが置き換えられるようになるまで、MOD、DOF、またはその両方を使用するトランザクションの使

用を停止してください。MOD または DOF、およびそのフォーマット・セットは、再コンパイルした上で、オンライン変更プロセスを使用して置き換える必要があります。無効のブロックが FORMAT ライブラリー内で破棄されたか、エラーがブロック内にコンパイルされたか、または MFS オンライン・モジュールの 1 つにエラーがあります。

2 つの X'67' ログ・レコードが IMS ログに書き込まれます。最初のレコードには、MTRP という ID が付き、上書きの可能性がある理由の診断に役立つ情報が入っています。2 番目のレコードには、FERR という ID が付き、MOD または DOF の使用不能が記録されています。

プログラマーの応答: 以下の処置を取って、エラーを訂正してください。

理由コード 04 の場合:

- 以前のメッセージ入力記述 (MID) NXT= パラメーターによって、または /FORMAT コマンドで、アプリケーション・プログラムから提供された MOD 名が正しくつづられているか、その MOD がアクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在するか、確認してください。
- DOF が、エラー・メッセージを受信する端末の装置タイプおよび装置機構で、アクティブ・フォーマット・データ・セット・ライブラリーに存在するか確認してください。MOD が IGNORE オプションを指定する場合は、DOF は IGNORE 機構が指定されている必要があります。

理由コード 0C の場合:

MFS ユーティリティを使用して、MOD と DOF を結合したサイズを判別してください。「HHH」パラメーターを IMS 制御領域 EXEC ステートメントで使用して、メッセージ・フォーマット・バッファー・プールでフォーマット・ブロックに使用可能なスペースを増やしてください。

理由コード 14 および 1C の場合:

MFS 言語ユーティリティを使用して、メッセージ送信元定義を再処理してください。


理由コード 18 の場合:

以前のバージョンからの MFS ライブラリーは使用できません。メッセージおよびフォーマットのソース定義はすべて、MFS 言語ユーティリティを使用して再コンパイルする必要があります。

問題判別: 5、14、16

モジュール: DFSCFEO0

関連資料:

 フォーマット・ライブラリー・メンバーの選択 (アプリケーション・プログラミング API)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS058I **CCC COMMAND COMPLETED**
EXCEPT KKK P01, P02, P03, P04, P05,
P06, P07, ...ETC.

または

CCC COMMAND IN PROGRESS

または

CCC COMMAND COMPLETED

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

CCC 長さが 3 文字以上のコマンド名
 KKK 3 つ以上の変数からなるキーワード名
 P0n パラメーター名で、n=1 から 10。ほとんどのご使用のシステムでは、リソース名が 3 文字以上なので、少なくとも 3 文字と想定しています。
 ETC コマンドを入力する端末で、1 行の例外パラメーターを受信しました。例外がさらに続く場合は、この後に ETC が続きます。

EXCEPT 句では、処理されなかったパラメーターを示します。EXCEPT 句が使用されているときに起きる可能性があるエラーを理解するには、コマンドに関する情報を参照してください。

総称パラメーターの処理中に例外が検出されると、この総称パラメーターと一致する、エラーの特定リソース名が最大 10 個まで、圧縮コマンド・バッファーの末尾に移されます。その上で、エラーというマークが付けられます。したがって、コマンドで処理できなかった、総称パラメーターと一致するリソースが 20 あっても、圧縮コマンド・バッファーに移されて、エラーというマークが付けられるのは、そのうちの 10 だけです。10 という数が選択されて、ETC が DFS058 メッセージの末尾に表示されることを保証します。メッセージの表示行は最大 79 バイトであることが前提になっています。

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: 現在のコマンドが正しいか検査してください。

モジュール: DFSCLM00

DFS059I TERMINAL status

説明: ローカルまたはリモート端末の情報が、オペレーターに端末状況を通知します。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 状況情報に応じて必要な処置を取ってください。

モジュール: DFSCLM00

DFS060 mnn IS AN INVALID MESSAGE KEY

説明: 番号 (*mnn*) が、システム内の他のモジュールによってメッセージ生成プログラム・モジュールに渡されました。しかし、このメッセージ番号がメッセージ・テーブルで検出されませんでした。

問題判別: 1 または 6 または 7 および 36

モジュール: DFSCLMR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0061I INVALID CALL TO MESSAGE GENERATOR: reason

説明: *reason* の値には、以下のものがあります。

- 'CONSOLE CNT(WTOR) NOT FOUND.'
- 'ERROR HAPPENED ON REROUTE.'
- 'MSG NOT LOCKED INCORE FOR ICIO.'
- 'INCORRECT CALLER.'
- 'REMOTE DESTINATION IS NOT A CNT.'
- 'QUEUES ARE NOT AVAILABLE.'
- 'NEGATIVE MSG LENGTH.'
- 'INNER SEG LENGTH > TOTAL LENGTH.'
- 'INVALID MSG TYPE.'
- 'NONZERO RETURN CODE FROM ROUTER.'
- 'CQS ENQUEUE FAILS.'

IMS 内のモジュールがメッセージ生成プログラムを呼び出し、適切な呼び出しインターフェースを提供できませんでした。

問題判別: 1、6、または 7

モジュール: DFSCLMR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0062W LOAD FAILED FOR DRU EXIT

xxxxxxx TMEMBER=yyyyyyyyyyyyyyyyyy

説明: クライアント・ビッド要求またはパートナー作成要求で指定された OTMA 宛先解決 (DRU) 出口が、ロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

DRU 出口の名前。

yyyyyyyyyyyyyyyyyy

トランザクション・メンバー (tmember) 名

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

このメッセージは、IMS マスター端末のみに表示されます。

システムの処置: クライアント・ビッドまたはパートナー作成は、DRU 出口なしに続行します。

プログラマーの応答: 指定された DRU 出口が必要であることを確認してください。必要でない場合は、このメッセージを無視できます。DRU 出口が必要な場合は、クライアントを切断し、DRU 名が正しいこと、およびモジュールが IMS STEPLIB にあることを確認して問題を訂正してください。それから、クライアントを再接続してください。

DFS063I RESTART COMMAND REQUIRED

説明: 再始動コマンドより前に、入力することはできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) /ERESTART または /NRESTART コマンドのいずれかを入力してください。

モジュール: DFSICIO0、DFSICL30

DFS064I DESTINATION CAN NOT BE FOUND OR CREATED, DEST=destination [I: sss1/name1, D: sss2/name2]

説明: 入力の最初の 8 文字が、有効なトランザクション、論理端末名、またはコマンドとして認識できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

宛先 検出も作成もできなかった宛先の名前。

以下の条件がすべて真である場合、このメッセージが出されることがあります。

- 端末が会話モードでも事前設定モードでもない。
- 端末に対する Global Physical Terminal Input 編集ルーチンが存在しなかった。
- MODname DFS.EDTN を指定した MFS バイパスが使用される。

これらの 3 つの条件がすべて真である場合、アテンション識別 (AID) バイトがデータ域の最初の項目になります。これは無効なトランザクション・コードとしてリジェクトされます。

以下の条件のいずれかが真である場合も、このメッセージが出されることがあります。

- メッセージ制御/エラー出口ルーチン (DFSCMUX0) が受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定する。
- 出口フラグは正しいが、IMS が要求された処置を実行していたときに、IMS が代わりに関連デフォルト処置を実行した場合、エラーが検出された。

TP プロファイル (TPN) が削除された結果として CPIC/APPC トランザクションが DFS064 で失敗する場合、メッセージには、検出されなかった TPName の先頭 8 文字のみが入っています。この情報を使用して、検出されなかったリソースを識別してください。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) データを正しく再入力してください。MFS バイパスが使用されていなかった場合は、/SET TRANSACTION コマンドを使用して、事前設定モードを確立してください。それでもやはり障害が起こる場合は、システム・プログラマーに通知してください。

(マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、ブロックが同期されていないことをシステム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 14

モジュール: DFSICIO0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS065 TRAN/LTERM STOPPED, T/L=name [I: sss1/name1, D: sss2/name2]

説明: /STOP コマンドは、宛先キューでキューイングを停止しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

名前 停止したトランザクションまたは LTERM の名前。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) システム・プログラマーに連絡してください。トランザクションまたは論理端末を開始し、データを再入力してください。

このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、トランザクションまたは論理端末を開始してください。その後、宛先システムのマスター端末オペレーターおよびシステム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 14

モジュール: DFSICIO0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0066I NOTIFY RESPONSE HAS COME BACK FROM ims_id

説明: IMS 高速機能には、IRLM 通知プロセスを使用してシスプレックス内のすべての共用 IMS サブシステムと通信する、シスプレックス通信プロトコルがあります。IMS は、すべての IMS サブシステムが IMS シスプレックス通信プロトコルに応答するまで、または通知を送信した IMS が通知をタイムアウトして要求された機能を終了するまで、待機します。この IMS は、シスプレックス通信メッセージを他のシスプレックス・メンバーに送信し、ims_id から応答が戻ってきました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id NOTIFY メッセージに対して正常に応答を返した、シスプレックス・メンバーの IMS ID。

システム・プログラマーの応答: この特定の *ims_id* に対するアクションは不要です。ただし、このメッセージがシスプレックスの別のメンバーに戻されていない場合には、シスプレックス上のその IMS に、何らかの中断による待機中または問題がないか確認してください。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0067W SLDS READ DATASPACE STORAGE RELEASED

説明: /STOP SLDSREAD コマンドが入力されたか、または、補助ストレージの不足が検出されたことを z/OS が IMS に通知しました。IMS は、システム・ログ・データ・セット (SLDS) の読み取りアクティビティを終了し、そのデータ・スペース・ストレージを解放しました。

システムの処置: SLDS データ・セットを必要とする内部 IMS 機能は失敗します。以下に示す 1 つ以上の機能が、失敗する可能性があります。

- 動的バックアウト
- バッチ・メッセージ処理 (BMP) 拡張再始動 (XRST)
- 作業単位テーブル項目 (UOWE) の再同期

他の IMS 処理は続行されます。

オペレーターの応答: ストレージ不足は、複数の内部作業単位が同時に SLDS データを必要とした結果であることがしばしばあります。XRST を使用する BMP は、ログ上に広く分かれているレコードを必要とする場合、特にぜい弱です。失敗した機能を連続して再試行することにより、多くの場合、問題は解決します。

UOWE 再同期では、機能の再試行を繰り返すことにより徐々に改善し、成功の結果が得られることがあります。

補助ストレージ不足が、他のジョブまたは z/OS コンポーネントとの競合に関係があり、失敗した機能が動的バックアウトだった場合は、より多くのストレージが使用可能になった時点で、影響を受けたデータベースの再始動を試行してください。再始動を行わない場合は、バッチ・バックアウトが必要です。

DFS068 BACKSPACE BEYOND MSG START

説明: 入力エディター・モジュールが、バックスペース文字の除去を試みていて、メッセージの先頭を超えてステップバックワードしてしまいました。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: データを訂正して、コマンドを再実行してください。

モジュール: DFSCFEI0、DFSICIO0

DFS069 TERMINAL INACTIVE

説明: 次のことが原因で、ソース物理または論理端末がアクティブになっていません。

- LOCKED 状態である。
- /STOP または /PSTOP が入力された。
- 入力 /PURGE コマンドによって停止された。
- LTERM が入力 PTERM に対して割り当てられていない。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: UNLOCK、START、または /ASSIGN コマンドによって条件を訂正し、データを再入力してください。

モジュール: DFSICIO0

DFS070 UNABLE TO ROUTE MESSAGE

RSN=xxyy (I: sss1/name1, D: sss2/name2)

説明: 次のいずれかの条件が生じ、メッセージのルーティング中にエラーが検出されました。

- IMS がメッセージのエンキューを試みた。
- /FORMAT コマンドが入力された。
- 「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口 (DFSMSCE0) 内の以下のエントリー・ポイントのいずれかが、メッセージの転送を試みました。
 - リンク受信経路指定
 - プログラム・ルーティング
 - 端末経路指定

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx エラーを検出した IMS モジュール:

コード 意味

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 00 | 不明のモジュールまたは DFSMSCEC
リクエスト |
| 01 | DC コミュニケーション・マネージャー
(DFSICIO0) |
| 02 | LU 6.2 受信 LU マネージャー
(DFSRLM10) |
| 03 | OTMA 受信 LU マネージャー
(DFSYTIB0) |
| 04 | DC 呼び出しハンドラー (DFSCLA30) |
| 05 | MSC アナライザー (DFSCMS00) |
| 06 | /FORMAT コマンド・プロセッサ
(DFSICLK0) |
| 08 | IMS 終了 (DFSTRM00) |
| 10 | IMS 初期設定 (DFSINB0) |

yy エラーの理由:

コード	意味	19	出口が入出力 PCB メッセージに関して転送を要求しました。
02	出口がユーザー接頭部を 2 つ要求しました。	20	出口が宛先名をコマンド (例えば、/CMDVERB) に変更しました。
03	出口が内部接頭部を 2 つ要求しました。内部接頭部は、IMS 内部ツール用に予約済みです。	21	MSNAME のユーザー出口オーバーライドが無効でした。
04	接頭部バッファ長が大きすぎました。	22	ローカル共用キュー登録が、ローカル共用キューへのトランザクションの転送に関して失敗しました。
05	DFSPOOL エラーが接頭部バッファ取得で発生しました。	23	出口が無効のリモート宛先にトランザクションをルーティングしました。
06	出口戻りコードの値が負でした。	24	出口が無効の MSC システム識別番号 (例えば、SYSID) にメッセージを転送しました。
07	出口戻りコードの値が大きすぎました。	25	出口が無効の MSNAME にメッセージをルーティングしました。
08	BCB 制御ブロックの取得中に DFSBCB エラーが発生しました。	26	出口がこのローカル IMS に中間メッセージをルーティングしましたが、ソース SYSID がこのローカル IMS では不明でした。
09	誤りの SYSID が検出されました。	27	出口がリモート IMS へのルーティングを指示しましたが、宛先 SYSID または MSNAME を設定しませんでした。
10	接頭部の挿入中にメッセージ・キュー・マネージャー・エラーが発生しました。	28	出口がソース・システムへの再ルーティングを要求しましたが、MSC がシステムで定義されていないか、ソース SYSID が無効でした。
11	ゼロ以外の戻りコードが DFSICLR1 から受診されました。	29	出口が直接経路オーバーライドを要求しましたが、オーバーライドが正常に行われませんでした。
12	メッセージ宛先が AVM/ISC リンクでは無効のタイプです。	30	出口がリモート IMS へのフロントエンド交換機メッセージに関して無効な再ルーティングを要求しました。
13	宛先変更エラー。ユーザー出口は、MSLR2CHG、MSPR2CHG、または MSTR2CHG を設定することによって宛先名を別のトランザクションに変更するように、要求しました。 MSLRDEST、MSPRDEST、または MSTRDEST での新しい宛先名はトランザクションの宛先ではありません。	31	出口が応答メッセージに関して転送を要求しました。
14	宛先変更エラー。ユーザー出口は、MSLR2CHG、MSPR2CHG、または MSTR2CHG を設定することによって宛先名を別の LTERM に変更するように、要求しました。 MSLRDEST、MSPRDEST、または MSTRDEST での新しい宛先名は LTERM の宛先ではありません。	33	DFSMSCSV がサポートされていないため、DFSMSCEO の初期設定が失敗しました。
15	DFSMSCEC 出口ルーティング・フラグがエラーです。	34	DFSMSCSV 長が無効のため、DFSMSCEO の初期設定が失敗しました。
16	DFSUSRX インターフェース・エラーが発生しました。	35	文字ストリング VECTOR が存在していないため、DFSMSCEO の初期設定が失敗しました。
17	宛先変更エラー。ユーザー出口は、MSTR2CHG、MSLR2CHG、または MSPR2CHG を設定することによって宛先名を変更するように、要求しました。MSTRDEST、MSLRDEST、または MSPRDEST で新しい宛先名が見つかりませんでした。	36	出口が IMS に戻ったとき、ユーザー接頭部セグメント (MSCEUPR) が無効でした。
18	出口が入出力 PCB メッセージ宛先名を変更しました。	37	出口が IMS に戻ったとき、内部接頭部セグメント (MSCEIPR) が無効でした。内部接頭部は、IMS 内部ツール用に予約済みです。

- 38 出口が 512 バイトのユーザー作業域バッファをオーバーレイしました。
- 39 出口が MSEB BCB ブロック名をオーバーレイしました。
- 40 出口がパラメーター・リストをオーバーレイしました。

コード 41 から 52 は、/FORMAT コマンドに適用されます。

- 41 端末がフォーマットされるための CNT が検出されませんでした。
- 42 指定された端末はリモート LTERM です。
- 43 指定された端末は動的 MSNAME (LNB) です。
- 44 予定された端末 (入力端末とは異なる) が MFS フォーマット済みではありません。
- 45 予定された端末が回線応答モードです。
- 46 予定された端末が TERMINAL 応答モードです。
- 47 会話が予定された端末でアクティブでした (LTERM がコマンドで指定されたとき)。
- 48 端末が入力専用モードです。
- 49 端末が排他モードです (LTERM がコマンドで指定されたとき)。
- 50 キュー・マネージャーに対する呼び出しが put locate 呼び出しで失敗しました。
- 51 キュー・マネージャーに対する inset prefix 呼び出しが失敗しました。
- 52 メッセージをエンキューするための呼び出しが失敗しました。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: /Format コマンドまたはメッセージ経路指定要求が取り消されます。

いずれかの出口がメッセージの再ルーティングを試みたか、IMS がメッセージのエンキューを試みた場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブコード X'01' (ID=AER1 か ID=MSCE、またはその両方) がログに書き込まれます。エラーを記録するために、複数のレコードが書き込まれる場合もあります。これらのレコードには、エラーの検出時に IMS またはユーザー出口が使用

する IMS 制御ブロックおよび保管域が含まれています。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの状態によってエラーが引き起こされた可能性があります。

- オペレーター・エラー。例えば、誤りのあるトランザクション・コードや LTERM 名が入力された可能性があります。
- ユーザー出口ルーティングが発生した。
- IMS 内部エラーが発生しました。

エラーが DFSMSCE0 ユーザー出口によって引き起こされた場合は、ルーティング・オプションの説明について、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)およびサンプル DFSMSCE0 出口のプロログを参照してください。

それ以外のすべての状態の場合は、メッセージ DFS070 に関する診断情報について、データ通信保守援助プログラム (診断)を参照してください。RSN を確認し、原因の判別に関する説明に従ってください。追加情報が必要な場合は、6701 ログ・レコードを印刷します。

モジュール: DFSCMS00、DFSDLA30、DFSICLK0、DFSICIO0、DFSIHNB0、DFSRLM10、DFSTRM00、DFSYTIB0

DFS071 SYSTEM DISCONNECT

説明: サインオンの試みが 5 回とも無効でした。

システムの処置: このメッセージは、交換端末オペレーターに IMS が回線を切断しようとしていることを通知します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 正しいサインオン・コマンドを確立してから、あらためてサインオンを試行してください。

モジュール: DFSICA10、DFSICIO0

DFS072I UNABLE TO OUTPUT LINE x PTERM y

説明: メッセージに示されている IMS 回線および物理端末へのメッセージの書き込みを試みているとき、永続入出力エラーが検出されました。

システムの処置: 端末は PSTOPPED されています。

オペレーターの応答: (マスター端末) 誤動作が訂正された後で、/START LINE x PTERM y または /RSTART LINE x PTERM y コマンドを使用して、端末での操作を再開できます。

DFS074 QUEUE ERROR-MESSAGE
CANCELED RSN=xxyy

説明: キュー・バッファを獲得しようとした。ISRT locate、ISRT move、または位置変更呼び出しが発行されましたが、呼び出しでエラーが検出されたか、呼び出しを処理できませんでした。

共用キュー環境では、このメッセージは、挿入処理中のCQSPUT 処理の障害、CQS 構造障害、または CQS が使用不可であることを示す可能性があります。

理由コード RSN=xxyy はオプションであり、必ずしも含まれるとは限りません。理由コードが存在している場合は、次のいずれかの値です。

xx エラーを検出した IMS モジュール:

01 /DIS CPLOG (DFSDCPL0)

02 通信アナライザー (DFSICIO0)

03 /DIS コントローラー (DFSICLD0)

04 /NRE、/ERE (DFSICL20)

05 /CQQUERY STATISTICS (DFSICQ20)

06 OTMA SYNC プロセッサ (DFSYTIB0)

yy エラーの理由:

01 要求したサイズが 1 バイト未満です。例えば、LLZZ + 1 バイト以上。

02 QMGR または CQS ISRT エラーが発生しました。

03 キュー・バッファ位置変更エラーが発生しました。

04 ユーザー出口 DFSQSPC0 または IQCQMRI0 エラーが発生しました。IBM IMS Queue Control Facility for z/OS が使用されている場合、ノードおよびクライアントが使用しているキュー・バッファが多すぎるため、要求されたメッセージは取り消されました。

システムの処置: キュー・バッファは取り消されません。一部のエラーについて、タイプ 6701-AER1 および 67D0 レコードがログに記録されます。

OTMA の場合、メッセージ DFS1269E RC4011 も出され、X'67D0' トレース項目がログに書き込まれます。

システム・プログラマーの応答: このエラーは次のいずれかの理由で起きる可能性があります。

- IMS または CQS 内部エラーが発生しました。
- メッセージ・キューがいっぱいです。
- 共用キューの問題が検出されました。
- ユーザー・キュー・スペース通知ユーザー出口 (DFSQSPC0) またはこの出口を使用するツール (IMS

キュー制御機能出口ツール (IQCQMRI0) など) が、キュー・バッファ要求をリジェクトしました。

応答は、次のように理由コード yy によって異なります。

- 01 要求されたサイズが 1 バイト未満です。
- 応答: この問題は、IMS 内部エラーです。6701 および 67D0 レコード (使用可能な場合) を印刷します。
- 02 QMGR ISRT または CQS エラー
- 応答: QMGR がゼロ以外の戻りコードを戻しました。IMS が共用キューを使用しない場合、この状態はローカル・キューの問題である可能性があります。共用キューを使用している場合は、これは CQS エラーであるかまたは共用キューに関する問題である可能性があります。6701 および 67D0 レコード (使用可能な場合) を印刷します。
- 03 キュー・バッファ位置変更エラー
- 応答: この問題は、IMS 内部エラーです。6701 および 67D0 レコード (使用可能な場合) を印刷します。
- 04 ノードおよびクライアントが使用するキュー・バッファが多すぎるため、ユーザー出口 DFSQSPC0 または IMS キュー制御機能出口 IQCQMRI0 がメッセージの取り消しを要求しました。

応答: 呼び出し元が使用するキュー・バッファが多すぎたことを判別したため、ユーザー出口 DFSQSPC0 または IMS キュー制御機能出口 IQCQMRI0 は、出口 DFSPARM エリアで QSPCFLG2 = QSPCF2NO を設定しました。次に、QMGR は呼び出し元の DFSQMGR パラメーター域で QMGRO3NO フラグを設定し、ISRT を取り消して、キュー・バッファを解放しました。プールの使用量を判別するには、6701 レコード (使用可能な場合) を印刷します。その上で、詳細については、DFSQSPC0 出口、または IQCQMRI0 出口 (IMS キュー制御機能を使用している場合)、および /DIS POOL QBUF コマンドからのキュー使用を参照してください。

モジュール: DFSICIO0、DFSICLD0、DFSICL20、DFSYTIB0、DFSDGS96

DFS075I REQUESTED BLOCK NOT
AVAILABLE: MID name

説明: メッセージ・フォーマット・サービス (MFS) が、入力メッセージの処理に必要な制御ブロックをフェ

タッチできません。メッセージでは、要求された MID および DIF 対の MID 名を識別しています。MID または DIF に無効のフィールドが入っていますが、フォーマット・ライブラリーまたはテスト・フォーマット・ライブラリーに対する変更または損傷が原因と考えられません。

システムの処置: MFS は入力メッセージを無視しません。

プログラマーの応答: この MID か DIF ブロック、またはその両方を必要とするトランザクションの使用を、これらのブロックがメッセージ・フォーマット・ライブラリー内にある別のブロックによって置き換えられるまで十分な時間を確保するために、停止してください。その上で、障害のあるトランザクションを再試行してください。エラーが引き続き発生するのは、フォーマット・ライブラリーまたはテスト・フォーマット・ライブラリー内でブロックが破棄されたか、エラーがブロック内にコンパイルされたか、MFS オンライン・モジュールの 1 つにエラーがある場合です。

モジュール: DFSCFEI0

DFS076 MULTI-SEGMENT INPUT INVALID [I: sss1/name1, D: sss2/name2]

説明: バッファ付き端末装置が、入力の複数のセグメントの送信を試みましたが、この入力は単一セグメント・トランザクションとして定義されていました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

システムの処置: メッセージは取り消されました。入力が MFS ユーティリティで処理されたとすれば、入力メッセージは複数セグメントで定義されていました。

オペレーターの応答: メッセージを正確に再入力してください。

このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、ブロックが同期されていないことをシステム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 14

モジュール: DFSCON00, DFSICIO0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS077 COMMAND INPUT EXCEEDS MAXIMUM LENGTH

説明: コマンドの最大長が、キュー・メッセージ・バッファに収まる長さとして定義されています。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドの長さを短縮して、再入力してください。この長さのコマンドが必要な場合は、メッセージ・バッファ・サイズを大きくして、システムを再定義できます。

モジュール: DFSICIO0

DFS078 COMMAND INVALID AS SECOND SEGMENT

説明: このコマンドが入力されたとき、複数セグメント入力メッセージが処理中でした。

システムの処置: メッセージとコマンドの両方が取り消されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) メッセージとコマンドを別々に再入力してください。

モジュール: DFSICIO0

DFS079 INPUT IGNORED-SYSTEM IN SHUTDOWN

説明: シャットダウン・チェックポイントが処理中であり、端末からの入力はすべて中断されています。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) システムが再始動してから、データを再入力してください。

モジュール: DFSICIO0

DFS080 MESSAGE CANCELED BY INPUT EDIT ROUTINE

説明: ユーザー提供の編集ルーチンが最後の入力メッセージをリジェクトし、取り消しました。

システムの処置: 入力されたメッセージは無視されます。

オペレーターの応答: 編集仕様に受け入れ可能なフォーマットでメッセージを再入力してください。

モジュール: DFSICIO0

**DFS081 TRACE EXIT COMMAND
UNSUCCESSFUL RSN=xxyy**

説明: /TRACE EXIT コマンドが誤って入力されたか、このコマンドがこの IMS システムでサポートされていないか、あるいはこの問題が IMS 内部エラーです。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- xx エラーを検出した IMS モジュール:
- 01 トレース・コマンド・プロセッサ (DFSICLN5)
- yy エラーの理由:
- 01 トレース出口に関して指定されたキーワードが無効でした。
- 02 トレース出口コマンドに関して指定されたパラメーター・タイプが無効でした。
- 03 トレース出口コマンドに関して、パラメーター・タイプが指定されませんでした。
- 04 トレース出口コマンドに関して、複数のパラメーター・タイプが指定されました。
- 05 トレース出口 (DFSMSCE0) コマンドに関して、DFSMSCD 制御ブロックが欠落しています。
- 06 トレース出口コマンドに関して指定されたパラメーター・サブタイプが無効でした。
- 07 この環境に関しては、トレース出口がサポートされていません。
- 08 トレース開始コマンドに関して、必須出口がロードされていませんでした。
- 09 トレース開始コマンドに必要な出口がロードされていません。
- 10 システム・コマンド障害が起きました。
- 11 パラメーター長が無効でした。

システムの処置: コマンド全体が無視されたか、1 つ以上のパラメーターが無視されました。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドの構文をチェックして、正しいか確認してください。適切なキーワードおよびパラメーターを使用して、コマンドを再発行してください。/DISPLAY TRACE EXIT コマンドを発行して、コマンドのうちで正常に実行された部分を判別し、出口がインストールされているかどうかを判別してください。出口がインストールされていない場合は、すべての出口エントリー・ポイントの状況が表示出力で N/A になっています。問題が引き続き発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの状態に

よってエラーが引き起こされた可能性があります。

- オペレーター・エラー。例えば、入力された構文に誤りがあった可能性があります。
- ユーザー・ルーティング出口 (DFSMSCE0) 初期設定エラー
- IMS 内部エラー。

メッセージ DFS081 に関する診断情報については、「IMS Version 15 Diagnosis」で『DC-Data Communication Service Aids』の項を参照してください。RSN を参照し、原因の判別に関する説明に従ってください。追加情報が必要な場合は、6701 ログ・レコードを印刷する必要がある可能性もあります。

モジュール: DFSICLN5

**DFS082 ERROR READING QUEUE, QUEUE
SHUTDOWN [I: sss1/name1, D:
sss2/name2] [name RC = nn]**

説明: 論理端末キューからレコードの読み取りを試みているとき、回復不能入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- sss1/name1
入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。
- sss2/name2
処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード

この情報が表示されるのは、エラーがリモート・システム (sss2) で検出されたときのみです。

- nn キュー・マネージャー戻りコードの 10 進数値。表示される可能性があるキュー・マネージャー戻りコードは、次のとおりです。
- 04 宛先名に関して戻されたセグメントはありません。
- 08 宛先名に関してメッセージはもうキュー上にありません。
- 12 宛先名は使用中です。
- 36 MSC 接頭部が存在しません。メッセージはデキューされています。
- 40 ISC 接頭部が存在しません。メッセージはデキューされています。

システムの処置:

そのキューは停止されました。ログ・レコード・タイプ X'6701'、ID=MER1 が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して書き込まれました。

オペレーターの応答: (マスター端末) このメッセージのオプションの部分が印刷される場合は、宛先システム

の端末オペレーターおよびシステム・プログラマーとの間でリソースの再始動について調整してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージがデキューされている場合は、MER1 レコードを調べて、デキューされたメッセージを判別してください。

モジュール: DFSCM7A0、DFSCM7B0、DFSICIO0

DFS084 CONVERSATION IN PROCESS

説明: 会話型プログラムが最後の入力メッセージにまだ応答していませんでした。会話は両方向交換です。このメッセージがページングされている場合は、応答が完了する前に、オペレーターが完全に表示し、削除する必要があります。

システムの処置: IMS が入力されたデータを廃棄しません。端末がページ保護されていない場合は、最後に受け入れられた入力にアプリケーション・プログラムが応答します。

オペレーターの応答: プログラムからの応答を待ち、データを再入力するか、最後のページを削除して、データを再入力するか、/EXIT して、会話を終了し、データを再入力してください。ページングが指定されている場合は、PA2 キーを押して、メッセージを削除する必要があります。

プログラマーの応答: 画面保護が、端末オプションと MFS オプションのいずれかとして指定されています。これがこのトランザクションで必要かどうか判別してください。

モジュール: DFSCON00、DFSICLH0

DFS085I CONVERSATION CANNOT BE CONTINUED: {NO PREVIOUS OUTPUT MESSAGE|STORAGE ERROR|SPA NOT FOUND IN OUTPUT MESSAGE|CQS ERROR OR CQS NOT AVAILABLE|SPA HAD BAD DATA OR FORMAT}

説明: IMS は、直前の出力メッセージから入力メッセージに関する SPA の取得を試みましたが、エラーが発生しました。メッセージに示されている次のエラーのため、会話型トランザクションはこの時点では継続できません。

- NO PREVIOUS OUTPUT MESSAGE
直前の会話型出力メッセージが見つかりませんでした。
- STORAGE ERROR
一時記憶域の獲得を試みているとき、エラーが発生しました。

- SPA NOT FOUND IN OUTPUT MESSAGE
SPA が直前の会話型出力メッセージで検出できませんでした。
- CQS ERROR OR CQS NOT AVAILABLE
共通キュー・サーバー (CQS) が使用不能であったか、CQS エラーが発生したか、いずれかです。

- SPA HAD BAD DATA OR FORMAT
IMS が SPA を内部パック・フォーマットからアンパック・フォーマットに変換しようと試みましたが、正常に変換できませんでした。

システムの処置: 入力データは無視されます。

オペレーターの応答: 該当する処置を取ってください。

- NO PREVIOUS OUTPUT MESSAGE
多くの場合、IMS はこの会話を続行できません。/EXIT コマンドを使用して、会話を終了してください。OTMA ユーザーの場合、会話は IMS によって終了されます。

- STORAGE ERROR
ストレージ不足がなくなるまでしばらく待った後で、入力データを再入力してください。

- SPA NOT FOUND IN OUTPUT MESSAGE
多くの場合、IMS はこの会話を続行できません。/EXIT コマンドを使用して、会話を終了してください。OTMA ユーザーの場合、会話は IMS によって終了されます。

- CQS ERROR OR CQS NOT AVAILABLE
CQS が使用可能になるまでしばらく待った後で、入力データを再入力してください。問題の原因が CQS エラーにある場合は、/EXIT コマンドを使用して、会話を終了する必要がある可能性があります。OTMA ユーザーの場合、会話は IMS によって終了されます。

- SPA HAD BAD DATA OR FORMAT
IMS は、この会話を続行できなくなります。/EXIT コマンドを使用して、会話を終了してください。

モジュール: DFSCON00、DFSYTIB0

DFS086 CONVERSATION RESOURCES UNAVAILABLE

説明: 同時会話の最大許容数 (65,535) を超えました。

システムの処置: 会話は開始されません。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 誰かが完了し、再度試行するのを待ってください。この応答がしばしば生じる場合は、システム操作担当者に通知してください。

問題判別: 7

モジュール: DFSCON00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS087 USER PTERM INPUT EDIT
ERROR-INPUT IGNORED**

説明: ユーザー物理端末入力編集出口ルーチンが、トランザクション・コードまたはパスワードの挿入を試み、しかも次のとおりでした。

- MFS バイパスがアクティブではなかった。
- 試行された挿入の合計サイズが 6 より小、または 22 より大であった。

システムの処置: ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (これによって IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップが提供される) を使用して書き込まれました。入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: ユーザー物理端末入力編集出口ルーチンの、エラーを訂正してください。

モジュール: DFSICIO0

**DFS0088I LSO INITIALIZATION FAILED -
identifier**

説明: *identifier* に示されている理由により、ローカル・ストレージ・オプションの初期設定が失敗しました。メッセージ DFS0088I で識別されているモジュールまたは制御ブロックが、エラーの発生時に処理中止した。

ID 理由

1. DFSKLSM

IMODULE GETMAIN が失敗しました。

2. DFSKLSM0 または DFSKLSD0

IMODULE LOAD がこれらのモジュールのどちらかについて失敗しました。

3. DFSXMCTL

LSO に関して初期設定されませんでした。

4. SAP

LSO に関して割り当てられた SAP が不足していました。

システムの処置: このメッセージには、後に異常終了コード 0088 が続きます。

システム・プログラマーの応答:

理由 処置

1. IMS 制御領域サイズを大きくしてください。
2. JOB/STEPLIB DD ステートメントを訂正するか、LSO モジュールを正しいライブラリーにバインドしてください。
3. モジュール DFSMINIO を参照して、DFSXMCTL 問題を判別してください。IBM に連絡して、支援を要求してください。
4. モジュール DFSXLIC0 を参照して、SAP 問題を判別してください。IBM に連絡して、支援を要求してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12

モジュール: DFSKLSI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0089 OUTPUT EXCEEDS BUFFER SIZE
LTERM xxxxxxxx LINE yyy PTERM zzz
OUTPUT EXCEEDS BUFFER SIZE
LTERM xxxxxxxx NODE yyyyyyyyyy**

説明: MFS バイパスを使用しているアプリケーション・プログラムが送信を試みた出力メッセージが、システム定義時に TERMINAL マクロの OUTBUF パラメーターで指定された長さを上回っています。さらに、使用中のアクセス方式は、VTAM 非 SNA か、あるいは OPTIONS=NOXPAR を指定した別の IMS サポート端末です。OUTBUF 値は、端末 (および VTAM とその NCP) で受け入れ可能な最大 RU サイズに等しく設定する必要があります。IMS は、アプリケーションによって挿入された、この値を超える出力メッセージを送信しないためです。

システムの処置: ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを準備する) を使用して、書き込まれています。DD6 によって回線バッファ (=OUTBUF) に移された最後のメッセージ・セグメントが正確に収まったのは、この回線バッファの内容がすでに端末に送信されていた場合です。端末は作動不能になり、メッセージ DFS998I がマスター端末オペレーターに送信されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) メッセージ DFS998I の受信と同時に、LTERM の再割り当てが必要であり、そうしないと、メッセージがデキューされません。そうすれば、端末を再始動できます。システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- システム定義の TERMINAL マクロの OUTBUF 値を大きくする。

- 長さが OUTBUF 値より大きいメッセージは送信しないように、アプリケーション・プログラムに制約を加える。

モジュール: DFSCD600、DFSCD610、DFSCD620

関連情報:

312 ページの『DFS998I』

DFS0090 USE OF MODNAME DFS.EDTN REQUIRES TERMINAL INPUT EDIT ROUTINE

説明: MFS BYPASS オプションが選択されており、MODNAME DFS.EDTN が使用されている場合、ユーザーは物理端末入力編集ルーチンを提供する必要があります。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。


オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: ユーザー物理端末入力編集ルーチンをシステム定義に組み込んでください。

「IMS V15 出口ルーチン」のトピック『物理端末 (入力) 編集ルーチン』を参照してください。

モジュール: DFSICIO0

関連資料:

 物理端末 (入力) 編集ルーチン (DFSPIXT0) (出口ルーチン)

DFS091I UNABLE TO LOCATE X'42' LOG RECORD

説明: バッチ・バックアウトが初期設定されているところでしたが、X'42' ログ・レコードが入力ログ・ポリリューム上で検出されませんでした。

システムの処置: バッチ・バックアウトは終了します。

プログラマーの応答: このエラーが発生する可能性があるのは、データベース・バックアウトに提供された入力ポリリュームが 1 つだけで、しかもそのポリリュームには、X'42' ログ・レコードがまだ書き込まれていなかった場合です。最後の 2 つのポリリュームを入力として指定して、データベース・バックアウトを再実行してください。複数のポリリュームがすでに提供されていたか、作成されたポリリュームが 1 つだけであった場合は、システム・エラーが発生しています。

問題判別: 1、4、5

モジュール: DFSBCKI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS092I IMS LOG TERMINATED

説明: この通知メッセージは、IMS システム・ログが終了したことを示します。

システムの処置: IMS は終了しました。

モジュール: DFSFDLS0

DFS093 COMMAND NOT AUTHORIZED AS ENTERED WITH CRC FROM MCS OR E-MCS CONSOLE

説明: このコマンドは、MCS コンソールからは入力できません。このコマンド許可は、CMDMCS 実行パラメーター (RACF (またはそれと同等のもの) か DFSCCMD0、またはその両方) で指定され、コンソールのユーザー ID にコマンドを発行する許可を付与しませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドを許可コンソールから再入力するか、許可情報を更新して、コンソールからコマンドが入力できるようにしてください。

モジュール: DFSICLP0

DFS094I THE COMMAND WAS UNABLE TO ACQUIRE A LATCH


説明: コマンドがラッチを取得しようとして失敗しました。例えば、コマンドは、MSC リソースの更新または MSC リソースへのアクセスを行うために DRSC ラッチを取得しようとしたが失敗しました。これは、内部エラーが原因と考えられます。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置: IMS ダンプを収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSCML70、DFSICLG0、DFSICLN0、DFSICL60、DFSIC460

関連概念:

 IMS 診断情報の収集 (診断)

DFS0095I VSO1THLD n | VSO2THLD n | VSO3THLD n

説明: IMS の初期設定時に、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内の <SECTION=FASTPATH> セクションで指定されているパラメーター VSO1THLD、VSO2THLD、または VSO3THLD の値を表示するために n が使用された場合に、このメッセージが発行されます。

VS01THLD=

800 以下の制御インターバル (CI) を含む VSO エリアのキャストアウトしきい値時間を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 から 300 です。デフォルト値は 300 です。

VS02THLD=

801 から 3500 までの CI を含む VSO エリアのキャストアウトしきい値時間を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 から 300 です。デフォルト値は 240 です。

VS03THLD=

3500 を超える CI を含む VSO エリアのキャストアウトしきい値時間を秒単位で指定します。有効な範囲は 1 から 300 です。デフォルト値は 180 です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFFATC1

**DFS0096W DATA BASE BUFFERS PURGED,
UPDATE INTENT, NOLOG
SELECTED.**

説明: バッチ IMS ジョブが IMS ログ・データ・セットなしで実行され、UPDATE INTENT を指定した PSB を使用中に異常終了しました。データベース・バッファはページされましたが、データベースにはまだ誤りがある可能性があります。

システムの処置: IMS (E)STAE は異常終了の処理を続行します。

プログラマーの応答: 異常終了のタイプおよび異常終了プログラムについて問い合わせ、データベースにまだその保全性があるか判別してください。

モジュール: DFSFLST0

DFS097 LTERM/S LOCKED/STOPPED

説明: 指定された LTERM がロックされていたか、または停止していました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) LTERM を始動またはアンロックするか、あるいは別の端末に対してサインオンするか、どちらかを行ってください。

モジュール: DFSICA10

DFS098 PTERM LOCKED/STOPPED

説明: 物理端末がロックされていたか、停止していたか、または作動不能でした。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) マスター端末オペレーターに、PTERM を開始またはアンロックさせてください。

モジュール: DFSICA10

DFS099 MULTIPLE LINE PARAMETERS ARE INVALID

説明: 1 台以上の物理端末を参照するコマンドは、1 回線しか指定できません。以下に例を示します。

- PTERM ALL が指定できるのは、単一回線に対してだけです。
- 属性別に回線を表示するときは、PTERM ALL を指定できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL10、DFSICL30、DFSIC440

DFS100 LINE KEYWORD NOT PRESENT

説明: PTERM キーワードが存在している場合は、LINE キーワードも必要です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL10

第 6 章 DFS メッセージ DFS101 - DFS150

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS101 MULTIPLE RESTART COMMANDS ARE INVALID

説明: /NRESTART または /ERESTART コマンドによってシステムが開始した後は、このコマンドは再度入力できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 別の方法で再始動したい場合は、システムをシャットダウンした上で、あらためて立ち上げてください。

モジュール: DFSICL30

DFS102 PTERM KEYWORD NOT PRESENT

説明: キーワード PTERM は、キーワード LINE と一緒に使用する必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL10、DFSICL80

DFS103 DATABASE/AREA KEYWORD NOT PRESENT

説明: DBDUMP では、キーワード DATABASE の後に続けて要求されたデータベース名を入力する必要があります。/DBRECOVERY では、キーワード DATABASE の後に続けて要求されたデータベース名を入力するか、キーワード AREA の後に続けて要求されたエリア名を入力する必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL20

DFS104 NO TEXT SUPPLIED, CANNOT BROADCAST

説明: /BROADCAST コマンドでは、ブロードキャストするデータをメッセージの 2 番目のセグメントとして入力する必要があります。何も入力されませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

モジュール: DFSICL30

DFS105I COMMAND VERB xxxxxxxxxxxx IS INCORRECT

説明: コマンド verb xxxxxxxxxxxx に誤りがあります。コマンド verb の最初の 3 文字は正しいのですが、コマンドはその後に誤りがあります。誤りのあるコマンド verb のうち最大 11 文字までが、エラー・メッセージに含まれています。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 最初の 3 文字だけを使用するか、コマンド verb 全体を正しくつづって、再入力してください。

モジュール: DFSICL30

DFS106 TRAN KEYWORD NOT PRESENT

説明: TERMINAL キーワードと一緒に使用できる唯一のキーワードは、TRAN です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL80

DFS107 REQUIRED KEYWORD NOT PRESENT

説明: このコマンドの許容キーワードがいずれも示されていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 稼働しているシステム (IMS DB/DC、DBCTL、または DCCTL) に有効なキーワードかどうかを確認してください。有効なキーワードを選択してから、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSCML70、DFSICA10、DFSICLE0、DFSICLG0、DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICLQ0、DFSICLU0、DFSICL10、DFSICL20、

DFSICL40、 DFSICL60、 DFSICL70、 DFSICL80、
DFSICL90、 DFSICM00、 DFSIDPK0、 DFSIDP00

DFS108 COMMAND SYNTAX INVALID

説明: 入力されたコマンドが、規定の構文規則に準拠していませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: つづりや区切り文字の誤りも含めて、構文エラーがないかチェックしてから、コマンドを正しく再入力してください。

モジュール:

DFSICL30、 DFSICLN2、 DFSICLN3、 DFSICLN4

**DFS110I COMMAND KEYWORD *yyyyyyyyyyyyyy*
INVALID FOR *imstype***

説明: キーワード *yyyyyyyyyyyyyy* は、IMS のこの *imstype* に関するコマンドではサポートされていません。無効のキーワードのうち最大 12 文字までがエラー・メッセージに含まれています。 *imstype* は、次のいずれかです。

- ACTIVE
- DBCTL
- DCCTL
- XRF ALTERNATE
- NON-DBCTL
- NON-DCCTL

アクティブ・サブシステムではサポートされないキーワードには、BACKUP (これがサポートされるのは、XRF ALTERNATE の場合のみ) があります。

DBCTL でサポートされないキーワードは、DC に関係しています。

DCCTL でサポートされないキーワードは、DB に関係しています。

XRF 代替システムでサポートされないキーワードには、XRF ALTERNATE を操作するコマンドで必須のキーワードを除けば、ほとんどのキーワードが含まれます。

NON-DBCTL でサポートされないキーワードは、DBCTL に関係しています。

NON-DCCTL でサポートされないキーワードは、DCCTL に関係しています。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: キーワードを確認し、コマンドを再度実行してください。

モジュール: DFSICL30、 DFSDGSA1、 DFSDGSB0、
DFSDGSD0、 DFSDGSL0、 DFSDGSL1、
DFSDGSL2、 DFSDGSN0、 DFSDGSR0、
DFSDGST0、 DFSDGSU0

DFS111 TIMEOUT-RESEND MESSAGE

説明: メッセージの文字間には、ハードウェアがタイムアウトになり、そのメッセージを取り消すまでに、28 秒が許容されています。

システムの処置: メッセージは取り消されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 遅延が超過しないようにして、メッセージを再入力してください。

モジュール: DFSDN020、 DFSDS010、 DFSDS020、
DFSDS040、 DFSICL30

DFS112 BLDQ KEYWORD NOT PRESENT

説明: /ERESTART コマンドで、チェックポイント 0 の場合、または FORMAT キーワードが /ERESTART コマンドで示されている場合は、BLDQ キーワードが示されている必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

マスター端末オペレーターの応答: コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL20

DFS113 LINE KEYWORD PARAMETER NOT PRESENT

説明: LINE キーワードが示されていましたが、その後続くパラメーターがまったくありませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 正確に指定し、再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0、 DFSICLN0、 DFSICL10、
DFSICL50、 DFSICL80、 DFSIC440、 DFSIDP60、
DFSIDP70、 DFSIDP80

DFS114 LTERM KEYWORD PARAMETER NOT PRESENT

説明: LTERM キーワードの後に続くパラメーターが何も指定されていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドの構文を確認し、再入力してください。

モジュール: DFSICA10、DFSICLJ0、DFSICL80、
DFSICL90、DFSICV10、DFSIC440、DFSIDP40、
DFSIDP70

**DFS115 PTERM KEYWORD PARAMETER
NOT PRESENT**

説明: PTERM キーワードの後に続くパラメーターが何も指定されていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答:

コマンドを正しく再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICL10、
DFSICL50、DFSICL80、DFSIC440、DFSIDP60、
DFSIDP70、DFSIDP80

**DFS116 DATABASE|AREA KEYWORD
PARAMETER NOT PRESENT**

説明: データベースまたはエリア・キーワードの後に続くパラメーターが何も指定されていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを再入力してください。

モジュール: DBFCNDAR0、DFSICL20、DFSICL80、
DFSICL90、DFSIC430、DFSIDPJ0、DFSIDP50

**DFS117 PROGRAM KEYWORD PARAMETER
NOT PRESENT**

説明: PROGRAM キーワードの後にプログラムを指定するパラメーターが続いていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL80、DFSICL90、DFSIC430、
DFSIDP50

**DFS118 COMMAND IS INVALID FOR
NONSWITCHED TERMINAL**

説明: /IAM コマンドが無効です。

システムの処置: コマンドは無視されました。

モジュール: DFSICLA0

**DFS119 LTERM IN USE, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明: LTERM は、メッセージがデキューされ、送信されているか、別のタスクによる使用のマークが付けられているか、いずれかです。この LTERM は、メッセージがデキューされて送信された後か、または他のタスクがその使用を終えた後まで、再割り当てすることができません。

TCO がアクティブの場合、このメッセージは TCO 論理端末 DFSTCFI を参照している可能性があります。

STM がアクティブである (STM=Y) 場合、このメッセージは、別のタスクによって RM リソース構造で LTERM が更新中であることを示している場合があります。端末を再割り当てできるのは、IMS が RM リソース構造から LTERM 情報を取得できるようになった後です。この場合、DFS4447 メッセージも出されます。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。コマンドが /ASSIGN LTERM PRIMARY であった場合は、1 次マスター端末割り当ては正常に行われた可能性があります。

オペレーターの応答: コマンドを再入力してください。コマンドが引き続きこのエラー・メッセージを表示してリジェクトされる場合は、システム・プログラマーに即時に通知してください。

システム・プログラマーの応答: 割り当て中の LTERM のノードに関して /CLS NODE XXX コマンドを入力してから、あらためて /ASSIGN コマンドを入力してください。

コマンドが正常に完了するかどうかを検証します。引き続き失敗する場合は、SVC メモリー・ダンプを作成し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSICL70

**DFS120 MESSAGE CANCELED, TEXT
SEGMENT DID NOT END IN EOB**

説明: ブロックの終わり (EOB) が存在することにより、入力されたデータの IMS エラー・チェックが有効になります。IMS は、EOB のないメッセージは受け入れません。データはすべて EOB で終了する必要があります。

システムの処置: メッセージは取り消されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) EOB を単独で入力して、複数セグメント・トランザクションを終了してください。

DFS121I PARAMETER TOO LONG

説明: パラメーターは、長さが 8 バイト以下に制限されています。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効な長さパラメーターを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DBFICL20、 DFSICA10、 DFSICL30、
DFSICL60、 DFSICLN3、 DFSICLN4

**DFS122 SPECIFIC PARAMETER MIXED WITH
ALL PARAMETER**

説明: ALL パラメーターが指定されている場合は、同じキーワードに関しては、他のパラメーターは組み込みません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: ALL パラメーターと一緒に指定したパラメーターがあれば、すべて除去してください。ALL パラメーターが正しく指定されている場合は、次の項目をチェックしてください。

- つづりの誤りがある、または無効のキーワード
- 稼働しているシステム (IMS DB/DC または DBCTL) では無効のキーワード

キーワードを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL30、 DFSICV10

**DFS0123E DBD CHANGE UNSUPPORTED BY
VERSIONING: DB=*dedbname* RSN=*rc*
SEG *segmname* *variable text***

または

**DBD CHANGE UNSUPPORTED BY VERSIONING:
DB=*dedbname* RSN=*rc* SEG *segmname* FLD *fld_name*
*variable_text***

説明: アプリケーション・プログラムが、現行バージョン以外のバージョンの高速処理データベース (DEDB) へのアクセスを試みましたが、IMS が現行バージョン以外のデータベースへのアクセスに必要な内部ブロックを構築できません。これは、現行バージョンのデータベースに、データベースのバージョン管理でサポートされていない、データベース定義 (DBD) 内の変更が含まれているためです。

アプリケーション・プログラムは、そのプログラムが変更されない限り、またはサポートされない変更がそのデータベースから削除されない限り、以前のバージョンのデータベースにアクセスできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dedbname

データベースのバージョン管理でサポートされない変更が含まれる DEDB の名前。

fld_name

サポートされない変更に関連したフィールドの名前。

rc

データベースのバージョン管理でサポートされない DBD の変更を識別する理由コード。サポートされない変更の追加情報については、以下の表で戻りコードを調べてください。

segmname

サポートされない変更に関連したセグメントの名前。

variable_text

データベースのバージョン管理でサポートされない変更の簡略説明。サポートされない変更の追加情報については、以下の表で戻りコードを調べてください。

表 1. DFS0123E の戻りコードと可変テキストの意味

RC	可変テキスト	意味
01	SEG <i>segmname</i> EXPECTED, FOUND SEG <i>segmname</i> INSTEAD	<p>現行バージョンのデータベースのセグメントの配列が、要求されたバージョンのデータベースでの配列と一致しません。</p> <p>現行バージョンのデータベースに以下のいずれかの変更が行われた場合に、セグメント配列の不一致が起こる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予期されたセグメントが削除された • 予期されたセグメントの前にセグメントが挿入された • セグメントの配列が変更された <p>IMS では、検証プロセスにおいて、予期されたセグメントが直前エラーによってスキップされた場合にもこのメッセージを発行する場合があります。</p> <p>IMS は、予期されるセグメントではないことが判明した各セグメントに、このメッセージを発行します。</p>
02	SEG <i>segmname</i> NEW	要求されたバージョンのデータベースのすべてのセグメントを検証した後に、追加のセグメントが現行バージョンのデータベースに含まれます。
03	SEG <i>segmname</i> NOT FOUND	<p>要求されたバージョンのデータベースのセグメントが現行バージョンに見つかりませんでした。このセグメントが見つからなかった理由として、以下のいずれかが考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • セグメントが名前変更された • セグメントが削除された • 別のセグメントの検索中にセグメントがスキップされた
04	SEG <i>segmname</i> INSERTION RULE CHANGED	このセグメントへのデータ挿入方法を指定する規則が変更されました。
05	SEG <i>segmname</i> COMPRESSION EXIT CHANGED	セグメントの圧縮出口ルーチンが変更されました。
06	SEG <i>segmname</i> TYPE CHANGED	セグメントのタイプ (直接従属から順次従属) が変更されました。
07	SEG <i>segmname</i> SUBSET POINTER(S) CHANGED	サブセット・ポインターが変更されました。
08	SEG <i>segmname</i> MINIMUM LENGTH CHANGED	セグメントの最小長が拡大または縮小されました。このメッセージは、セグメントが可変長から固定長に変更される (またはその逆) の場合にも発行されます。
09	SEG <i>segmname</i> MAXIMUM LENGTH DECREASED	セグメントの長さが縮小されました。
10	SEG <i>segmname</i> DATA CAPTURE EXIT CHANGED	1 つ以上のデータ・キャプチャー出口ルーチンが変更されました。
11	FLD <i>fld_name</i> NOT FOUND	古いセグメントのフィールドが、現行バージョンのセグメントに見つかりませんでした。フィールドが削除されたか、前のエラーによってフィールドがスキップされたかのどちらかです。
12	FLD <i>fld_name</i> EXPECTED, FOUND FLD <i>fld_name</i> INSTEAD	古いセグメント・バージョンのフィールドとの一致を検索中、異なるフィールドが代わりに検出されました。このメッセージは、予期されたフィールドではないことが検出された各フィールドに対して発行されます。前のエラーのために予期されたフィールドがスキップされた場合、セグメント内の残りの各フィールドに対してメッセージが発行されます。
13	FLD <i>fld_name</i> OFFSET CHANGED	要求されたデータベースのフィールドのオフセットが、現行バージョンのデータベース内で変更されました。
14	FLD <i>fld_name</i> LENGTH CHANGED	要求されたデータベースのフィールドの長さが、現行バージョンのデータベース内で変更されました。
15	FLD <i>fld_name</i> TYPE CHANGED	フィールドで埋め込みのタイプが変更されました。
16	FLD <i>fld_name</i> SEQUENCING CHANGED	フィールドが順次から非順次へ (またはその逆) 変更されました。

表 1. DFS0123E の戻りコードと可変テキストの意味 (続き)

RC	可変テキスト	意味
17	FLD <i>fld_name</i> OVERLAPS FLD <i>fld_name</i>	現行バージョンのデータベースのフィールド定義は、要求されたデータベースのフィールド定義と互換性がありません。これは、現行バージョンのデータベースの複数の新規フィールドのオフセットおよび長さが、お互いにオーバーラップするためです。
18	SEG <i>segmname</i> MAX LENGTH OF VAR LENGTH SEG INCREASED	可変長セグメントの長さが増加しました。
19	SEG <i>segmname</i> SECONDARY INDEX RELATIONSHIP CHANGED	セグメントが、副次索引に関与している状態から、副次索引に関与しない状態に変更されました。
20	SEG <i>segmname</i> REFERENCED BY SECONDARY INDEX, CHANGED	副次索引に関与するセグメントの長さが増加したか、新規フィールドが追加されました。
21	SEG <i>segmname</i> SDEP CHANGED	SDEP の長さが増加したか、新規フィールドが追加されました。

システムの処置: IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスを提供するために必要な内部ブロックを作成できません。データベースの最新バージョンにのみアクセスできます。

IMS は、他のサポートされない変更を引き続き確認します。

プログラマーの応答: データベース内の変更を保持する必要があるか、変更を解除する必要があるかを判断します。


データベース内の変更を保持する場合、既存のアプリケーション・プログラムは、新規データベース構造を使用するように変更されるまで、そのデータベースにアクセスできません。以前のバージョンのデータベースには、アクセスできません。

サポートされない変更をデータベースから削除する必要がある場合、そのデータベースを前のバージョンにリカバリする必要があります。現行バージョンのデータベースを使用するアプリケーション・プログラムが、データベースを更新していた場合、その更新はすべて失われます。

現行バージョンのデータベースとアプリケーション・プログラムがアクセスを試みていたバージョンのバージョン番号は、メッセージ DFS0006E で示されます。メッセージ DFS0006E は、最後のメッセージまたは DFS0123E メッセージの後にのみ、コンソールに発行されます。

モジュール: DBFVER10

関連概念:

 データベースのバージョン管理 (データベース管理)

関連情報:

18 ページの『DFS0006E』

DFS124 CANNOT ENQUEUE LTERM ON LINE

説明: キュー・モジュールが新規回線上の論理端末をエンキューできませんでした。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・エラーであることを示しているため、システムをシャットダウンし、問題の分析に備えて、できるだけ早くダンプを取る必要があります。IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSICL70

DFS0126I IMS CONNECTION WITH APPC/MVS HAS BEEN STOPPED

説明: /STOP APPC コマンドが入力されました。MVS™ との IMS APPC 接続が正常に停止します。APPC/MVS と IMS の間の接続が正常に停止した後、システムからこのメッセージが発行されます。IMS は、LU 6.2 装置からのトランザクションのスケジューリングを停止します。

システムの処置: IMS APPC/MVS LU 6.2 サービスなしで、処理を続行します。これらのサービスが使用不可になるのは、/STA APPC コマンドを入力した後です。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS6ECT0

DFS127 TOO MANY KEYWORDS

説明: 指定されたキーワードが多すぎました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: コマンドのフォーマットを再チェックし、不要なキーワードを削除してください。

モジュール: DFSCML70、DFSICA10、DFSICLE0、DFSICLG0、DFSICLJ0、DFSICLQ0、DFSICLU0、DFSICL10、DFSICL20、DFSICL60、DFSICL70、DFSICL80、DFSICL90、DFSICM00、DFSIC430、DFSIDP00、DFSIDP30

DFS128 TOO FEW KEYWORDS

説明: このコマンドで指定されているキーワードが少なすぎました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: コマンド・フォーマットをチェックし、コマンドを正しく再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0、DFSICLQ0、DFSICL80

DFS129 INPUT ERROR, ONLY KEYBOARD BEING READ

説明: コンポーネントからの読み取り中に、入力エラーが検出されました。/RDR ステートメントをキーボードから入力して、コンポーネントが再始動されるまでは、入力を受け入れられる唯一の装置がキーボードです。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 問題を訂正し、/RDR ステートメントを入力してください。

モジュール: DFSDN020

DFS130 INVALID KEYWORD COMBINATION

説明: 入力された 1 つ以上のキーワードが、指定されている別のキーワードと非互換でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: キーワードの組み合わせを訂正し、コマンドを入力し直してください。

モジュール: DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICL20、DFSICL30、DFSICL40、DFSICL60、DFSICL80、DFSIC430、DFSIC470、DFSIDP00、DFSICLN1、DFSICLN2、DFSICLN3、DFSICLN4

DFS131 PTERM IN/OUT NOT THE SAME

説明: マスター端末論理端末は、その出力物理端末がその入力物理端末としても割り当てられている必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 端末を正しく再割り当てしてください。

モジュール: DFSICL70

DFS132 ALL DATABASE AREA PARAMETERS ARE INVALID

説明: このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- データベースまたはエリアの名前が無効である。
- パラメーターは有効であるが、処理に失敗した (例えば、データベース上で割り振りエラーが発生したなど)。
- 指定されたパラメーターは有効であったが、稼働している特定のタイプの IMS がそのパラメーターをサポートしていない。
- /START DB *partname* 中にこのメッセージを受け取り (ここで、*partname* は追加された HALDB 区画)、区画構造の再作成が実行されていない場合は、/START DB *haldbmst* OPEN を発行する (ここで、*haldbmst* は区画のマスター)。その後で、/START DB *partname* を発行するか、新規または再定義された区画のキー範囲のキーを呼び出します。この応答により、区画構造の再作成が実行され、区画が使用可能になります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: IMS に対して定義されている正しいデータベースまたはエリアの名前を再入力してください。パラメーターが有効な場合は、他のエラー・メッセージについて訂正または調査し、コマンドを再入力してください。コマンドのキーワードまたはパラメーターが、稼働している IMS の種類に有効かどうかを確認してください。

モジュール: DBFCNDAR0、DFSDBDR0、DFSICL20、DFSIC430、DFSIDPJ0、DFSIDP50

DFS133 BLDQ MUST NOT BE PRESENT

説明: BLDQ キーワードは、コールド・スタートでは許可されていません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL20

DFS134 SHUTDOWN CHECKPOINT NOT IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- /DISPLAY SHUTDOWN 状況コマンドが入力されましたが、チェックポイント・コマンドが発行される前でした。
- /IDLE コマンド (NOSHUT キーワードの指定なし) が入力されましたが、チェックポイント・コマンドが発行される前でした。
- /IDLE NODE コマンドが入力されましたが、/STOP DC コマンド、または /CHE コマンドが発行される前でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) /IDLE NODE の場合は、/STOP DC コマンド、または /CHE コマンドの発行後に、コマンドを再入力してください。それ以外のコマンドの場合は、チェックポイントの進行中よりも後で、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLG0、DFSIDP90

DFS135 INVALID COMMAND ATTRIBUTE COMBINATION

説明: 指定した 1 つ以上のコマンド属性が、指定した別の属性と両立しませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 正しい属性の組み合わせを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSIDP50

DFS136I COMMAND xxxxxxxxxx INVALID FOR imstype

説明: コマンド xxxxxxxxxx は、この IMS タイプ *imstype* ではサポートされていません。コマンド *verb* のうち最大 10 文字までが、エラー・メッセージに含まれています。*imstype* は、次のいずれかです。

- DBCTL - DBCTL でサポートされないコマンドは、DC に関係しています。
- DCCTL - でサポートされないコマンドは、DB に関係しています。
- XRF ALTERNATE - XRF 代替システムでサポートされないコマンドは、XRF ALTERNATE を操作するのに必要でないコマンドです。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 稼働している IMS の種類に有効なコマンドを検証し、コマンドを再度実行依頼してください。

モジュール: DFSICL30

DFS137 CANNOT PROCESS UPDATE TRANSACTION FROM INQUIRY TERMINAL

説明: 交換端末が照会のためにサインオンしました。論理端末名は、データベースの更新として定義されていたトランザクション・コードを処理できません。

システムの処置: メッセージは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) このトランザクションに関して、サブプールまたはサブプール CNT のために再度サインオンしてください。

モジュール: DFSICIO0

DFS138 LINE NOT STARTED, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: マスター端末を新しい回線またはノードに割り当てるためには、その回線が開始済みまたは作動可能状態である必要があります。

オペレーターの応答: 回線、またはノードを開始し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL70

DFS139 PTERM OR COMPONENT IS NOT OPERABLE

説明: マスター端末を物理端末またはノードに割り当てるためには、その物理端末が開始済みまたは作動可能であるか、またはそのノードがセッション中である必要があります。

オペレーターの応答: (マスター端末) 物理端末および回線が開始済みで作動可能かどうかを確認してください。そうでない場合は、/RSTART LINE x または /RSTART LINE x または /RSTART LINE x PTERM y コマンドを出してください。端末またはそのコンポーネントが作動不能の場合は、作動可能になった時点で、コマンドを再入力してください。回線および端末が作動可能な場合は、再割り当てされる論理端末が、接続された作動可能なコンポーネントに割り当てられていることを確認してください。コンポーネントのある端末からコンポーネントのない端末に再割り当てするときは、ICOMPT と COMPT のどちらかのキーワードに value=1 を指定して、使用してください。

VTAM: 参照されているノードがセッション中かどうかを確認してください。その上で、割り当てコマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL70

**DFS140I CHECKPOINT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND**

説明: コマンドが入力されました。しかし、以前に入力されたコマンドからのチェックポイント、または自動システム・チェックポイントが進行中でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: チェックポイント ID が表示されるのを待って、コマンドを再入力してください。

モジュール: DBFARDA0、DFSICL20、DFSICL40、DFSICLQ0

**DFS141 ERESTART IN PROGRESS, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明: /ERESTART コマンドが現在処理されています。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 他のコマンドを実行しようとする前に、このコマンドが完全に実行するまで待機してください。

モジュール: DFSICL20、DFSICL30

**DFS142 NRESTART IN PROGRESS, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明: コマンドを入力しましたが、/NRESTART コマンドが処理中でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) システムに何らかの入力を試みる前に、このコマンドが完了するのを待ってください。

モジュール: DFSDNSC0、DFSICL20、DFSICL30

**DFS143 PTERM/LTERM IN USE, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明: 指定された端末は、別の端末により使用中です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 別の端末にサインオンするか、後で再試行してください。

モジュール: DFSICA10、DFSICL50

**DFS145I DATABASE IS EMPTY AFTER
RELOAD COMPLETED**

説明: HD 再ロード・ユーティリティーが、DFSUIIPT データ・セットの読み取り中に論理的なフ

ァイルの終わりを検出しました。しかし、再ロードされているデータベースに挿入されるレコードは検出されませんでした。

システムの処置: 処理は終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: 適切なデータ・セットが HD 再ロード・ユーティリティーに提供されたかどうか、検証してください。データ・セットは、指定されたデータベースに関する HD アンロード・ユーティリティーの以前の実行によって作成されました。

問題判別: 2、3、8、35

モジュール: DFSURGL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS146 TRAN KEYWORD PARAMETER NOT
PRESENT**

説明: トランザクション・キーワードに、トランザクションを指定するパラメーターがありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL80、DFSICL90、DFSIC430、DFSIDP40

**DFS147 REQUIRED KEYWORD PARAMETER
NOT PRESENT**

説明: このコマンドで指定された 1 つ以上のキーワードにパラメーターがありませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSCML70、DFSICLG0、DFSICLN0、DFSICLQ0、DFSICL10、DFSICL70、DFSICM00、DFSICV10、DFSIC460、DFSIDPC0、DFSIDPD0、DFSIDP30、DFSIDP40

**DFS148 FORMAT KEYWORD PARAMETER
NOT PRESENT**

説明: FORMAT キーワードが入力されましたが、フォーマット設定するデータ・セットを指定するパラメーターが指定されていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

DFS150

モジュール: DFSICL20

DFS150 LINE KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 指定された回線番号が無効であることが検出されました。非数値であるか、1 より小さいか、またはシステム定義で指定された最大値より大きい値でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0、 DFSICLN0、 DFSICL30、
DFSICL50、 DFSICL70、 DFSICL80、 DFSIC440、
DFSIDP60、 DFSIDP70、 DFSIDP80

第 7 章 DFS メッセージ DFS151-DFS200

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS151 LTERM KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 指定された論理端末名は、システムに対して定義されていませんでした。

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシプレックスの一部である場合は、その論理端末 (LTERM) 名がオンになって (活動して) いるか、別の IMS システムに所有されている可能性があります。その結果、たとえ LTERM 名がこのシステムに対して静的に定義されていても、この IMS 上でその名前を検出できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: LTERM パラメーターを訂正して、コマンドを再入力します。

モジュール: DFSICA10、DFSICLE0、DFSICLJ0、DFSICL70、DFSICV10

DFS152 PTERM KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 指定された物理端末が数値以外か、または回線にその相対番号で指定された端末がありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 定義されたとおりにシステムを確認し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0、DFSICL30、DFSICL50、DFSICL70、DFSIDP80

DFS153 DATABASE KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 指定されたデータベースが、このシステム用として定義されているデータベースとして検出できませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) パラメーターを訂正し、コマンドを再入力してください。

DFS154I COMMAND xxxxxxxxxx INVALID; REQUIRES COMPONENT component

説明: コマンド xxxxxxxxxx は、指定されたコンポーネント *component* がなく、無効でした。コマンド *verb* のうち最大 10 文字までが、エラー・メッセージに含まれています。*component* は、次のコンポーネントのいずれかになります。

CQS
FAST PATH
MSC
VTAM

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 指定されたコンポーネントを備えた IMS を始動し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL30、DFS DGSA1、DFS DGSR0

DFS155 CHECKPOINT KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 再始動コマンドの CHECKPOINT パラメーターとして、ゼロ以外のチェックポイント ID が指定されました。IMS が再始動のために使用する正しいチェックポイントを決定するので、オーバーライドとして受け入れられる唯一の CHECKPOINT パラメーターは、ゼロのみです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: IMS を初めて開始する (以前にシャットダウンしたことがない) 場合、または IMS コールド・スタート時に取ったチェックポイントを使用して再始動したい場合は、次の処置のいずれかを講じてください。

- CHECKPOINT 0 を指定して、再始動コマンドを再発行する。
- CHECKPOINT キーワードを省略して、再始動コマンドを再発行する。

モジュール: DFSICL20

DFS156 TRAN KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 次のいずれかの理由で、TRAN キーワード・パラメーターが無効です。

- トランザクション・キーワードに指定された名前が、有効なトランザクション・コードではなかった。

DFS157 • DFS164

- トランザクション・キーワードの後にパラメーターを許容しないコマンドであるのに、パラメーターが入力された。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

モジュール: DFSICLE0、DFSIC430、DFSIDP30

DFS157 PRIORITY KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: トランザクションの優先順位は 0 から 14 の範囲である必要があり、したがって、それ以外のパラメーターはすべて無効です。BMP トランザクションの場合は、通常優先順位および限界優先順位を /ASSIGN コマンドで変更することはできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

モジュール: DFSICL70

DFS158 PARAMETER ALL IS NOT SUPPORTED IN THIS COMMAND

説明: このメッセージが生成されるのは、次のいずれかの理由がある場合です。

- PTERM パラメーターが指定されている場合は、LINE ALL は指定できない。
- パラメーター ALL がこの形式のコマンドでサポートされていない。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 特定のパラメーターを指定してコマンドを再度入力してください。LINE ALL を指定してすべての回線にブロードキャストするには、PTERM キーワードを指定しないでコマンドを入力してください。他の /LOCK および /UNLOCK コマンド・フォーマットがないかチェックしてください。

モジュール: DFSIDPD0、DFSIDP60、DFSICL10、DFSICL80、DFSICL90、DFSICLN2

DFS159 FORMAT KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: FORMAT キーワードに関して指定されたパラメーターが、システムで認識不能でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマン

ド構文を調べて、コマンドを再入力します。

モジュール: DFSICL20

DFS160 MSDB PARAMETER INVALID WITH GLOBAL KEYWORD

説明: 予約済みパラメーター MSDB は、GLOBAL キーワードではサポートされていません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: キーワード GLOBAL を指定しないで、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICM40

DFS161 LIMIT/PROCESS COUNT KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 限界カウントまたはプロセス・カウントは、ゼロより大で、65536 より小である必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

モジュール: DFSICL70

DFS163 KEYWORD IS INVALID

説明: 指定された 1 つ以上のキーワードが、入力されているコマンドに対して無効でした。あるいは、使用されたキーワードがシステム上に存在しないオプション・フィーチャー (VTAM または高速機能など) 用でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンド・フォーマットを調べて、コマンドを再入力します。

モジュール: DFSCML70、DFSICA10、DFSICLD0、DFSICLE0、DFSICLG0、DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICLQ0、DFSICLU0、DFSICL10、DFSICL20、DFSICL40、DFSICL60、DFSICL70、DFSICL90、DFSICM00、DFSICVA0、DFSIC460、DFSIDPK0、DFSIDP00、DFSIDP80、DFSICLN1

DFS164 FIRST KEYWORD IS INVALID

説明: コマンドの最初のキーワードが、/ASSIGN コマンドでは無効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) フォーマットをチェックし、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSCML70、DFSICL70

DFS165 COMMAND VERB IS INVALID

説明: コマンド verb が有効として認識できませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して再実行してください。

モジュール: DFSICIO0、DFSICLP0

**DFS166I CHECKPOINT ID NOT ON LOG
RE-ENTER RESTART COMMAND**

説明: IMS がこのメッセージを出すのは、次の理由がある場合です。

- OLDS/SLDS に指定したチェックポイントが含まれていなかったか、またはチェックポイントが無効であった。
- IMS が再始動チェックポイントを検索している。OLDS データ・セットが使用されていない場合は、PRIOLDS および SECOLDS レコードを RECON から除去する必要があります。アーカイブおよびエラー状況フラグでは、ログが再始動処理から除外されることはありません。

システムの処置: IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 再始動コマンド /NRE または /ERE を出し直してください。

モジュール: DFSRBCP0

**DFS167 INVALID RESTART FROM CHKPT
SPECIFIED. RE-ENTER RESTART
COMMAND**

説明: このメッセージが生成されるのは、オペレーターが次のいずれかの無効な組み合わせを要求したときです。

- 単純チェックポイントからの通常ウォーム・スタート
- FREEZE または SIMPLE チェックポイントからの BLDQ タイプの再始動
- PURGE または DUMPQ チェックポイントからの非 BLDQ タイプの再始動
- /ERE コマンドは CHKPT 0 を指定しているが、ロガーによって戻されたチェックポイントはコールド・スタート・チェックポイントではない。

システムの処置: IMS は、別の RESTART コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 正しいコマンドを入力するか、コールド・スタートを行ってください。コールド・スタートを行う場合は、IMS を再ロードする

必要があります。直前の再始動コマンドで制御ブロックが変更された可能性があるからです。コールド・スタートは、制御ブロックが以前に使用されていないことが前提になります。

問題判別: 4、5

モジュール: DFSRBCP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS168I CHECKPOINTED BLOCKS DO NOT
MATCH LOADED BLOCKS. REASON
CODE xxxx.**

説明: メッセージ DFS0168I の説明を参照してください。

関連情報:

『DFS0168I』

**DFS0168I CHECKPOINTED BLOCKS DO NOT
MATCH LOADED BLOCKS. REASON
CODE xxxx.**

説明: このメッセージが生成されるのは、指定されたチェックポイントが取られた時点以降に、IMS チェックポイントか、ロードされたブロックのどちらかを変更している場合です。理由コードの説明については、異常終了コード 0168 の項を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0168 が示されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システムをコールド・スタートするか、チェックポイントを取るときに使用した中核を使用して IMS を再 IPL し、再度ウォーム・スタートを試みてください。


プログラマーの応答: 異常終了コード 0168 の説明を参照してください。

問題判別: 4、5

モジュール:

DBFEROC0、DBFNRSSTO、DFSRLP00、DFSFD10

関連情報:

 0168 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS169I INITIALIZATION IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND**

説明:

トラッキング・サブシステムのログ・ルーティング機能

は、初期設定中で、コマンドに応答できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 後でコマンドを再入力してください。

モジュール: DFSIDPO0

**DFS172 MULTIPLE PHYSICAL PAGE INPUT
MUST BE FROM SAME PARTITION**

説明: 複数物理ページ入力処理中に、以前は入力区画ではなかった区画から、入力データが入力されました。入力メッセージが作成されませんでした。

システムの処置: 進行中の出力メッセージがある場合は、メッセージ・キューに戻されます。入力データは無視されます。

オペレーターの応答: 進行中の出力メッセージがあった場合は、次のメッセージにその取得を要求してください。

問題判別: 16

モジュール: DFSCFEI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS173I A NORMALLY COMPLETED JOB
MAY NOT BE BACKED OUT IF THE
IRLM WAS ACTIVE**

説明: データベース・バックアウトが実行中です。DBRC=C がこの実行で指定されましたが、IRLM は直前の実行でアクティブでした。

システムの処置: バックアウト・ジョブは終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

モジュール: DFSBCKI0

**DFS174 AREA|DATABASE|DATAGROUP
KEYWORD NOT PRESENT**

説明: キーワード AREA、DATABASE、または DATAGROUP が /DBDUMP または /DBRECOVERY コマンドで示されていません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

モジュール: DFSICM40

**DFS175 DATABASE|DATAGROUP
KEYWORD PARAMETER NOT
PRESENT.**

説明: DATABASE または DATAGROUP キーワードの後に続けてパラメーターが指定されていません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

モジュール: DFSICM40、DFSIC4C0

**DFS177 DATA FOLLOWED EOB OR EOM.
REENTER MESSAGE**

説明: IBM 2740 モデル 2 バッファでは、ブロックの終わり (EOB) またはメッセージ終結 (EOM) の後にデータを続けることはできません。オペレーターが、メッセージ全体を正しく再入力する必要があります。

システムの処置: メッセージは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) メッセージを入力端末にルーティングバックしてください。

モジュール: DFSDN040

**DFS178I INTERNAL ERROR, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明: DBRC が次のコマンドのいずれかに関してデータベースまたはエリアの名前のリストを戻すために呼び出されたとき、内部エラーを検出しました。

- DBRECOVERY DATAGROUP
- START DATAGROUP
- STOP DATAGROUP

このメッセージは、下記のようなオンライン変更コマンドから生じる内部エラーに対しても出されます。

- /MODIFY ABORT
- TERMINATE OLC
- /MODIFY COMMIT
- INITIATE OLC PHASE(COMMIT)
- /MODIFY PREPARE
- INITIATE OLC PHASE(PREPARE)

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

モジュール: DFSIC4C0、DFSICM30、DFSICM40、DFSICV30、DFSICV80、DFSOLC10

**DFS179 TERMINATION IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND.**

説明: IMS は終了します。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

モジュール: DFSIDPO0、DFSIC4A0、DFSIC4B0

DFS180 NO ACTIVE CONVERSATION IN PROCESS, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 会話型コマンドが入力されましたが、端末またはユーザーにアクティブ会話がありませんでした。

システムの処置: コマンドは無視されました。

オペレーターの応答: (マスター端末) ユーザーがページングに関する非自動削除を指定し、会話型応答をデキューしなかった場合は、/EXIT コマンドの入力の結果として、このメッセージが出る可能性があります。この場合は、システムが続行できるようにするには、疑問符文字 (?) を入力して、最後にページングされたメッセージをデキューしてください。

モジュール: DFSICLH0

DFS181 INVALID OR MISSING KEYWORD

説明: 必須キーワードが 1 つ以上指定されていなかったか、このコマンドでは無効のキーワードが指定されていました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

問題判別: フォーマットを確認し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSIC430、DFSIC460、DFSICLG0、DFSICLH0、DFSICLQ0、DFSICLW0、DFSICLY0、DFSICL40、DFSICL50、DFSICL60、DFSICM00、DFSICV10、DFSIDPB0

DFS182I INVALID OR MISSING PARAMETER

説明: 指定されたキーワードの 1 つ以上でパラメーターが欠落していたか、キーワードの指定が無効であったか、いずれかです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

データ・グループに対するコマンドの実行中、またはデータ・グループに対するコマンドの入力後に、このメッセージを受信した場合は、DBRC コマンド

INIT.DBDSGRP GRPNAME(name) DBGRP(dbname) を使用してそのグループを作成したことを確認してください。

オペレーターの応答: コマンドを正しいフォーマットで再入力してください。

モジュール: DFSCML70、DFSICLE0、DFSICLG0、DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICLK0、DFSICLM0、DFSICLN0、DFSICLQ0、DFSICLW0、DFSICLU0、DFSICLY0、DFSICL10、DFSICL20、DFSICL50、

DFSICL60、DFSICL70、DFSICL90、DFSICM00、DFSICM40、DFSICVA0、DFSIC410、DFSIC420、DFSIC430、DFSIC450、DFSIC460、DFSIC470、DFSIC480、DFSIDPL0、DFSIDP00、DFSIDP60、DFSIDP70、DFSIDP80、DFSIDPB0、DFSIDPH0、DFSIDPI0、DFSICLN1、DFSICLN2、DFSICLN3、DFSICLN4

DFS183I CONVERSATION ID INACTIVE ON PTERM OR USER, COMMAND UNPROCESSED

説明: このコマンドの ID によって指定された会話は、指定されている端末またはユーザーに割り当てられていませんでした。したがって、アクションは一切起こされませんでした。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 端末またはユーザーの仕様の ID を訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLH0

DFS184 CONVERSATION IN USE. CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- 会話メッセージが現在キュー内において、メッセージ処理プログラムによる処理を待っています。
- 最後の出力メッセージが、再始動再同期が不完全なため、一時的に使用不能になっています。
- 「Use Manager LOCK」要求は、会話制御ブロック (CCB) が現在別のプロセスによって使用されているため、失敗しました。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: プログラムからの応答を待ってから、/HOLD または /EXIT コマンドを再入力してください。再始動再同期が未完了のために会話が使用中の場合、または CCB が別のプロセスで使用されている場合は、この条件が短時間だけ存在します。

モジュール: DFSICLH0

DFS185 CONVERSATION NOT SCHEDULED, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 会話はまだ開始の過程にあります。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 最初のメッセージが完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLH0

DFS186 CONVERSATION ID IS INVALID

説明: 会話に関する ID として入力されたパラメーターが、長さ 4 文字でなかったか、このシステムでは無効の会話番号であったか、非アクティブ会話に関するものでした。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを正確に再入力してください。

モジュール: DFSICLH0

DFS187 NO HELD CONVERSATION ON THIS PTERM, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 現行端末に関して保留されている会話はありません。保留されていた会話があったとしても、/RELEASE または /EXIT コマンドによって、すでにすべて終了または保留解除されています。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

モジュール: DFSICLH0

DFS188 CONVERSATION IN PROCESS, CANNOT ACTIVATE ANOTHER

説明: 端末上である時点でアクティブであることができる会話は、1 つだけです。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 新規会話をアクティブにしたい場合は、現行会話の終了か保留かいずれかを行ってから、/RELEASE コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLH0

DFS189 TERMINAL OR USER NOT STOPPED AND IDLE, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 端末またはユーザーを停止またはアイドルにするか、あるいはその両方を行った後でなければ、そのコマンドを処理できません。

/DEQUEUE LINE、LTERM、MSNAME、または NODE コマンドの場合は、PURGE/PURGE1 キーワードが指定されていたら、回線、MSC リンク、またはノードを停止またはアイドルにするか、あるいはその両方を行う必要があります。

PURGE/PURGE1 キーワードが指定された /DEQUEUE LTERM では、STM=YES オプションが指定された共用キュー環境で動的 LTERM に対してコマ

ンドが発行された場合、ユーザーを停止し、アイドルにする必要があります。

/DEQUEUE LUNAME の場合は、LU 6.2 宛先を停止する必要があります。

/DEQUEUE USER の場合は、PURGE/PURGE1 キーワードが指定されていたら、ユーザーを停止する必要があります。

/EXIT コマンドの場合は、回線またはノードを停止およびアイドルにして、会話とそのセグメントの入力中に終了することがないように、会話型ユーザーを保護する必要があります。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) /DEQUEUE LINE、/DEQUEUE LTERM、/DEQUEUE MSNAME、および /DEQUEUE NODE の場合は、回線/ノード/リンクを停止し、アイドルにしてください。/DEQUEUE LUNAME の場合は、LU 6.2 宛先を停止してください。/DEQUEUE USER の場合は、ユーザーを停止してください。

PURGE/PURGE1 キーワードが指定された /DEQUEUE LTERM では、以下のステップを実行します。

1. /STOP USER コマンドを発行して、ユーザーを停止状況に設定します。
2. PURGE/PURGE1 キーワードを指定した /DEQUEUE LTERM コマンドを再度発行します。
3. /STOP USER コマンドの発行後、/DEQUEUE LTERM(PURGE/PURGE1) コマンドの再発行前に IMS チェックポイントがトリガーされたために、DFS189 メッセージでコマンドが再度失敗した場合は、ユーザーを再始動し、ステップ 1 から 2 を繰り返してください。

モジュール: DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICL50

DFS190 CANNOT OUTPUT PRINTER 1

説明: 指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置: 端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答: 問題を訂正し、出力を続けるための適切なコンポーネント再始動コマンドを入力してください。

モジュール: DFSDN020、DFSDS020

DFS191 CANNOT OUTPUT PRINTER 2

説明: 指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置: 端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答: 問題を訂正し、出力を続けるための適切なコンポーネント再始動コマンドを入力してください。

モジュール: DFSDN020、DFSDS020

DFS192 CANNOT OUTPUT PUNCH 1

説明: 指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置: 端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答: 問題を訂正し、正しいコンポーネント再始動コマンドを入力して出力を続けてください。

モジュール: DFSDN020、DFSDS020

DFS193 CANNOT OUTPUT PUNCH 2

説明: 指定された端末コンポーネントが入出力エラーを起こしています。

システムの処置: 端末コンポーネントはシャットダウンされます。

オペレーターの応答: 問題を訂正し、正しいコンポーネント再始動コマンドを入力して出力を続けてください。

モジュール: DFSDN020、DFSDS020

DFS194W DATA BASE xxxxxxxx REFERENCED BY PSB yyyyyyyy IS NOT REGISTERED WITH DBRC.

説明: 指定された PSB で参照されている、指定されたデータベースは、DBRC に登録されていませんでした。IMS は、このデータベースを、ユーザーがサブシステム専用として指定した場合とまったく同じように取り扱います。

システムの処置: PSB スケジューリングが続行されません。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- データベース保全性保護がデータ共用環境で望ましい場合は、データベースを DBRC に登録してください。
- 登録が望ましくない場合は、現在複数のサブシステムにまたがってこのデータベースを更新しているアプリケーション・プログラムが存在しないことを確認してください。

モジュール: DFSDBAU0

DFS195 UNABLE TO ACQUIRE BUFFER FOR LOOP TEST

説明: 使用可能なバッファがないために、ループ・テスト操作を開始できませんでした。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: この状態が持続する場合は、システム操作担当者に連絡してください。

モジュール: DFSICL50

DFS196 INPUT ONLY DEVICE, TEST/LOOPTEST INVALID

説明: /TEST および /LOOPTEST コマンドは、入力専用端末からは入力できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSICL50

DFS197 CONVERSATION NOT ALLOWED ON SHARED LOGICAL TERMINAL

説明: 複数の物理端末が、ご使用の端末に割り当てられている論理端末を使用していたか、出力用の別の端末に割り当てられていました。会話型トランザクションは、このタイプの通信ネットワークからは入力できません。

システムの処置: 要求された会話は開始されません。

オペレーターの応答: 必須トランザクションである場合は、この PTERM への非共用論理端末の割り当てをマスター端末オペレーターに要求してください。

モジュール: DFSCON00

DFS198 SHUTDOWN IN PROCESS

説明: /DISPLAY SHUTDOWN STATUS コマンドが入力されたときは、シャットダウンがすでに進行中でした。シャットダウンが、進行中のメッセージがない時点で達し、アクティブの通信回線も物理端末もないときは、状況要求は無視されます。

DFS199 • DFS200

システムの処置: シャットダウンが続行されます。

モジュール: DFSIDP90

DFS199 BTAM DISCONNECTED LINE *x* PTERM *y*

説明: BTAM エラー・リカバリーが、入出力エラーのため、回線を切断しました。BTAM は、システム・コンソール上のログにエラーを記録します (交換およびダイヤル通信回線のみ)。

オペレーターの応答: (リモート端末) リモート端末オペレーターは、再度システムにサインオンする必要があります。

モジュール:

DFSCBTC0、DFSCBTH0、DFSDS020、DFSDS040、
DFSDS050、DFSDS060

DFS200 IMS DISCONNECTED LINE XXX

説明: 1050 交換通信回線上で、PRINTER 1 への送信中またはキーボードからの読み取り中にエラーが発生しました。3275 交換回線上で、訂正不能入出力エラーが発生しました。

システムの処置: IMS が端末を切断しました。回線は再始動しました。再接続が必要ななら、再接続を試行してかまいません。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 1050 では、リモート端末での交換機設定をチェックしてください。3275 では、処置は必要ありません。

モジュール:

DFSDS020、DFSDS040、DFSDS050、DFSDS060

第 8 章 DFS メッセージ DFS201 - DFS250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS201 INVALID LTERM CHAIN FOR FORMAT SPECIFIED

説明: /ASSIGN コマンドで指定された LTERM は、複数物理端末 (LTERM) の入力 LTERM です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 望ましい結果を得るために適切なフォーマットを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL70

DFS202 2770/2265 PROCEDURAL ERROR.

説明: /TRACE SET ON または /TRACE SET OFF コマンドが入力されましたが、モニター・パラメーターが指定されていませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: (端末の入力) 端末をリセットし、操作を再試行してください。

モジュール: DFSDN070

DFS203 LOOPTEST NOT VALID FOR THIS LINE

説明: /LOOPTEST コマンドが入力されましたが、交換回線またはリモート・プロセッサ回線、つまり、System/3 または System/7 でした。/LOOPTEST コマンドは、これらのタイプの回線では無効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

モジュール: DFSICL50

DFS204 INVALID LTERM ASSIGNMENT FOR 2770.

説明: LTERM 割り当てが 2770 端末に関して行われましたが、無効でした。この端末では、コンポーネント LTERM が入力専用コンポーネント・スロットに割り当てられています。端末は停止しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 一時的な問題の迂回として、エラーの LTERM を再割り当てしてください。

プログラマーの応答: 端末に関するシステム定義が正しく指定されていたか確認してください。

モジュール: DFSDN090

DFS205 STORAGE NOT AVAILABLE FOR BUILDING PARTITION CIBS

説明: MFS は、区画 CIBS (通信インターフェース・ブロック・ストレージ) を作成するためのメッセージを受信しましたが、区画 CIBS を作成するためのストレージを獲得できませんでした。

システムの処置: LTERM に作動不能のマークが付けられ、問題を引き起こしたメッセージがメッセージ・キューに戻されました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。LTERM の使用を続ける場合は、/START LTERM xxx コマンドを出す必要があります。メッセージは、/DEQUEUE LTERM P1 PURGE1 コマンドを使用して、メッセージ・キューから除去できます。

プログラマーの応答: システム・アクティビティが低下し、使用可能なストレージが増えたら、出力メッセージを送信するか、IMS で使用可能な主記憶域を増やしてください。

モジュール: DFSCFEO0

DFS206 QBLK D/S LIMIT REACHED. MUST REBUILD.

説明: IMS.QBLKS システム・データ・セット上のシャットダウン域内で、レコードが割り振られました。

システムの処置: 内部 /CHE DUMPQ コマンドが開始され、ほとんどの場合、システムはシャットダウンします。XRF 環境では、入出力許容データがある VSO 域がある場合は、/CHE SNAPQ が開始され、システムはシャットダウンしません。

オペレーターの応答: システムがシャットダウンした場合は、IMS.QBLKS システム・データ・セット用のスペース割り振りを増やし、メッセージの後に続く DUMPQ チェックポイントから再始動してください。2 次割り振りは、通常、IMS キュー・データ・セットには適用されません。また、再始動時にこのデータ・セット

DFS207I • DFS210

をフォーマット設定する場合は、FORMAT パラメーターを使用する必要があることにも注意してください。

SNAPQ が発行されている場合は、システムは稼働し続けますが、キュー・データ・セット上のしきい値に近づきます。システムが異常終了する場合は、キュー・データ・セット割り振りを増やし、/ERE BUILDQ コマンドを使用して、SNAPQ チェックポイントからシステムを再始動してください。

モジュール: DFSQMGR0

DFS207I SMSG D/S LIMIT REACHED. MUST REBUILD.

説明: IMS.SHMSG システム・データ・セット上のシャットダウン域内で、レコードが割り振られています。


システムの処置: 内部 /CHE DUMPQ コマンドが開始され、ほとんどの場合は、システムがシャットダウンします。XRF 環境では、入出力許容データがある VSO 域がある場合は、/CHE SNAPQ が開始され、システムはシャットダウンしません。

オペレーターの応答: (z/OS システム) システムがシャットダウンした場合は、IMS.SHMSG システム・データ・セット用のスペース割り振りを増やし、メッセージの後に続く DUMPQ チェックポイントから再始動してください。2 次割り振りは、通常、IMS キュー・データ・セットには適用されません。再始動時にこのデータ・セットを再フォーマット設定する場合は、FORMAT パラメーターを使用する必要があります。


SNAPQ が発行されている場合は、システムは稼働し続けますが、キュー・データ・セット上のしきい値に近づきます。システムが異常終了する場合は、キュー・データ・セット割り振りを増やし、/ERE BUILDQ コマンドを使用して、SNAPQ チェックポイントからシステムを再始動してください。

モジュール: DFSQMGR0

関連概念:

 メッセージ・キュー・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

 /NRESTART コマンド (コマンド)

DFS208I LMSG D/S LIMIT REACHED. MUST REBUILD.

説明: IMS.LGMSG システム・データ・セット上のシャットダウン域内で、レコードが割り振られています。

システムの処置: 内部 /CHE DUMPQ コマンドが開始され、ほとんどの場合は、システムがシャットダウン


します。XRF 環境では、入出力許容データがある VSO 域がある場合は、/CHE SNAPQ が開始され、システムはシャットダウンしません。

オペレーターの応答: (z/OS システム・オペレーター) システムがシャットダウンした場合は、IMS.LGMSG システム・データ・セット用のスペース割り振りを増やし、メッセージの後に続く DUMPQ チェックポイントから再始動してください。2 次割り振りは、通常、IMS キュー・データ・セットには適用されません。再始動時にこのデータ・セットを再フォーマット設定する場合は、FORMAT パラメーターを使用する必要があります。

SNAPQ が発行されている場合は、システムは稼働し続けますが、キュー・データ・セット上のしきい値に近づきます。システムが異常終了する場合は、キュー・データ・セット割り振りを増やし、/ERE BUILDQ コマンドを使用して、SNAPQ チェックポイントからシステムを再始動してください。

モジュール: DFSQC010

関連概念:

 メッセージ・キュー・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

DFS209 STOP FOR DEPENDENT REGION IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND.

説明: /STOP または /PSTOP コマンドは、現在処理中です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを再入力してください。メッセージを受信したのが何回も試行した後である場合は、MVS の変更 (modify) (F) コマンドを使用して IMS システムを終了し、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: 1、4、6、7、25

モジュール: DFSIC470

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS210 LTERM MAY NOT BE REASSIGNED

説明: システム・コンソール LTERM および照会 LTERM が再割り当てできません。特定の物理端末に LTERM が 1 つしか割り当てられていない場合は、その LTERM は、物理端末が作動不能でない限り、再割り当てできません。LTERM は、それ独自の位置には再割り当てできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 異なる LTERM 名を使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL70

DFS211 INVALID REASSIGNMENT FOR NAMED LTERM

説明: 次の試みがなされました。

- マスター端末を不適格な装置に割り当てる。
- 論理端末を分割することになりかねない、VTAM ノードに関する不適切な割り当てを行う。
- 状況データを保存するために作成されたノードまたはユーザーに関する不適切な割り当てを行う。
- 入力専用装置に出力を割り当てる。

マスター端末は、次のいずれにも割り当てできません。

- ユーザー
- 交換回線
- 入力専用端末
- 出力専用端末
- NTO 端末
- 不在 SLUTYPE1 端末
- LUTYPE6 ノード

VTAM ノードに関して論理端末を分割する割り当ては、許可されていません。コマンドのフォーマットは、次のとおりです。

```
/ASSIGN INPUT LTERM lterm1 TO NODE node1
/ASSIGN OUTPUT LTERM lterm1 TO NODE node1
/ASSIGN LTERM lterm1 TO LTERM lterm2 (ここで、
lterm1 または lterm2 は VTAM ノードに関連付け
られています。)
```

状況データを保存するために作成されただけであり、ログオンもサインオンもなされていないノードまたはユーザーは、/ASSIGN コマンドでは使用できません。例えば、端末ログオンを見込んで、状況がトレースのノードを作成する /TRACE SET ON NODE コマンドは、/ASSIGN コマンドのノード・パラメーターとしては使用できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) /ASSIGN コマンドを有効な形式で入力してください。

モジュール: DFSICL70

DFS211I INVALID REASSIGNMENT FOR NAMED LTERM

説明: メッセージ DFS211 を参照してください。

関連情報:

『DFS211』

DFS212 PTERM IN USE, CANNOT PROCESS

説明: 物理端末が会話型モードか、事前設定モードか、応答モードか、あるいはサインオン・サブプールです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 端末がフリーになるか、別の端末を使用するのを待ってください。

モジュール: DFSICLE0、DFSICL70

DFS213 COMMAND FORMAT IS INVALID FOR LTERM

説明: /ASSIGN コマンド・フォーマットが無効であるか、LTERM 構造が特定のコマンド・オペランドで無効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンド構文を検証して、コマンドを再入力します。

モジュール: DFSICL70

DFS214 ASSIGNMENT TO SWITCHED LINES NOT ALLOWED

説明: LTERM は、交換回線に割り当てできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) LTERM を有効な回線に割り当ててください。

モジュール: DFSICL70

DFS215I COMMAND INVALID ON THIS IMS SYSTEM

説明: このコマンドを発行できるのは、コマンド・マスターとして指定された IMS システムだけです。ローカル IMS (MTO、ローカル・ユーザー端末、または AOI) から入力されたすべてのコマンドは、コマンド・マスターとして扱われます。Operations Manager (OM) TSO 単一制御点 (SPOC) から入力されたコマンドの場合は、そのコマンドを処理するために OM によって選択された IMS のうちの 1 つだけがコマンド・マスターとして扱われます。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

DFS216 • DFS221

オペレーターの応答: /OPNDST コマンドを OM TSO SPOC から入力し、ノードを特定の IMS に記録したい場合は、ROUTE(*imsid*) を指定してください。

ROUTE(*imsid*) が指定されていない /OPNDST コマンドは、すべての IMS システムに送られますが、IMS によって処理されるのは、コマンド・マスターとして指定された IMS に送られたコマンドだけです。それ以外の IMS システムは、このメッセージを出します。

モジュール: DFSICLQ0

DFS216 SYSTEM COMMAND FAILURE, NOTIFY SYSTEM PROGRAMMER

説明: コマンド・プロセッサが、リカバリー不能のエラーと、コマンド・アクション・モジュールとの無効のインターフェースのどちらかを検出しました。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) メッセージが出る原因となったコマンドを判別して、システム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 6、36

モジュール: DFSDBDR0、DFSDGS98、DFSICLC0、DFSICLG0、DFSICLH0、DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICLP0、DFSICLZ0、DFSICL40、DFSICL60、DFSIC410、DFSIC420、DFSIC430、DFSIC440、DFSIC450、DFSIC460、DFSIC470、DFSIDP60、DFSIDPB0、DFSIDPH0、DFSIDPK0、DFSICLN1、DFSICLN2

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS217 7770-3 USER INPUT EDIT ERROR, LINE STOPPED. LINE xxx PTERM mmm

説明: ユーザー・モジュール DFSI7770 が 7770 装置モジュールに渡した情報に誤りがありました。

システムの処置: 回線は停止し、処理は続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。回線は再始動しないでください。

モジュール: DFSDS030

DFS218 7770-3 USER OUTPUT EDIT ERROR, LINE STOPPED. LINE xxx PTERM yyy

説明: ユーザー・モジュール DFSO7770 が 7770 装置モジュールに渡した情報に誤りがありました。

システムの処置: 回線は停止し、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。回線は再始動しないでください。

モジュール: DFSDS030

DFS219 7770-3 USER SIGN ON EDIT ERROR, LINE STOPPED. LINE xxx PTERM mmm

説明: ユーザー・モジュール DFSS7770 は、7770 装置モジュールに正しくない情報を渡しました。

システムの処置: 回線は停止し、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。回線は再始動しないでください。

モジュール: DFSDS030

DFS220 NO MESSAGE IS AVAILABLE FOR REPEAT.

説明: 7770 端末がメッセージの繰り返しを要求しました。以前に呼び出し元に送信されたメッセージがまったくなかったか、最後の出力メッセージの検索中に、READ/WRITE キュー・エラーが発生したかのどちらかです。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 通常の処理を続け、出力メッセージを受信するまでは、繰り返しは使用しないでください。

モジュール: DFSDS030、DFSICIO0

DFS221 7770-3 CONTROL UNIT HAS MAKE BUSY SWITCH SET FOR LINE xxx PTERM mmm

説明: LINE xxx の 7770 制御装置の make-busy スイッチがオンになっています。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 交換機アクションが予定どおりである場合は、通常の処理を続けてください。このアクションを予定していない場合は、交換機を確実にオフしてから、LINE および PTERM を START して続行してください。

モジュール: DFSDS030

DFS222 INVALID PAGE REQUEST

説明: 「request-for-new-page」 エントリーのフォーマットが不適切または誤りです。

システムの処置: 要求は無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: メッセージ DFS223 を参照してください。

モジュール: DFSCFEP0、DFSPAGE0

関連情報:

『DFS223』

DFS223 PAGE REQUESTED NOT CONTAINED IN CURRENT MESSAGE

説明: ページを要求しましたが、このメッセージの最初のページの前か最後のページの後でした。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末)

- 装置が 2260 または 2265 の場合
 - このメッセージ内のページに対する要求を再入力するか、
 - 疑問符 (?) を入力してください。
- 装置が 3270 モニターか、3600 モニターか、または MFS DPM フォーマット設定機能を使用するリモート・プログラムである場合
 - 元のメッセージが、まだこの LTERM のキューにあります。
 - この物理端末に割り当てられている LTERM が 1 つだけである場合は、NEXTMSG 要求で (または、3270 または SLU2 装置で PA2 キーを押すと) 元のメッセージの最初の物理ページが得られます。
 - この物理端末に複数の LTERM が割り当てられている場合は、NEXTMSG 要求で (または、3270 または SLU2 装置で PA2 を押すと) この物理端末に割り当てられている次の LTERM に宛てられたメッセージの最初の物理ページが得られます。
 - PA2 キー以外の任意のキー (3270 または SLU2 装置の) を押すと、元のメッセージがまだキューにある間に、新しいメッセージが表示されます。
- 端末がプログラマブルの場合
 - システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 端末がプログラマブルの場合は、ロジックをチェックして、ページング要求がどのようにして IMS に送信されるか判断してください。

モジュール: DFSCFEO0、DFSCFEP0、DFSPAGE0

DFS224 MULTI-PAGE MESSAGE NOT IN PROCESS, REQUEST IGNORED

説明: ページング要求がなされましたが、そのとき表示されていたメッセージは、複数ページ・メッセージとしてフォーマットされていませんでした。したがって、要求は実行できません。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: 要求を再実行依頼します。

モジュール: DFSCFEP0、DFSPAGE0

DFS225A CTL REGION WAITING FOR DBRC REGION (name) INIT

説明:

制御領域は、IMS Ready メッセージを発行する前に、必要であれば DBRC 領域が初期設定されるのを待ちます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 DBRC 領域 JCL が含まれる、SYS1.PROCLIB 内のメンバーの名前。

システムの処置: 制御領域は、DBRC 領域が初期設定するのを待ちます。

オペレーターの応答: z/OS コマンド D A,L を使用して、DBRC ジョブが存在しているかどうかを判断してください。存在している場合は、処置は必要ありません。DBRC は最終的にその初期設定を完了し、IMS Ready メッセージが出されます。DBRC JCL にエラーがあった場合は、訂正されたプロシージャが z/OS コンソールから手動で開始されれば、制御領域を取り消す必要はありません。

プログラマーの応答: JCL エラーの場合は、DBRC 領域 JCL を訂正してください。

モジュール: DFSXCIC0

DFS0226A CTL REGION WAITING FOR CQS (name) RESPONSE TO CONNECT REQUEST - imsid

説明: このメッセージは、IMS 制御領域が CQS CONNECT 要求を発行し、CQS からの応答を待っていることを示しています。

このメッセージは、次のシステムに関するメッセージ DFS810 の前に出されます。

- XRF 対応ではない
- XRF アクティブ・システムに関する IMS 再始動時
- XRF 代替システムに関する XRF テークオーバー時

IMS が CQS に接続した後で、CQS 領域が停止した場合は、CQS 領域が再度使用可能になった後で、IMS を CQS に再接続する必要があります。このメッセージは、再接続処理中にも出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 CQS= パラメーターで指定する名前。これは、CQS 領域 JCL が含まれる SYS1.PROCLIB メンバーの名前と、CQS プロシージャーを開始するのに使用する z/OS START コマンドが含まれるメンバーの名前のどちらでもかまいません。

imsid IMS ID。

システムの処置: 制御領域は、CQS 領域が CONNECT 要求に回答するのを待ちます。CQS 領域は、CQS が初期設定を完了し、CQS READY メッセージ CQS0020 を出すまでは、CONNECT 要求を完了できません。

オペレーターの応答: CQS が初期設定中の場合は、処置は必要ありません。CQS が CONNECT 処理を完了します。CQS が CQS 初期設定の一環として WTOR を発行した場合は、WTOR に応答して、CQS 初期設定が完了できるようにしてください。CQS アドレス・スペースが CONNECT 要求に回答する前に障害を起こした場合は、IMS 制御領域に通知され、処置は必要ありません。

モジュール: DFSSQ020

DFS227A CTL REGION WAITING FOR DLS REGION (name) INIT

説明:

制御領域は、IMS Ready メッセージを発行する前に、必要であれば DL/I 従属アドレス・スペースが初期設定されるのを待ちます。*name* は、DL/I 従属アドレス・スペース JCL が含まれる、SYS1.PROCLIB 内のメンバーの名前です。

システムの処置: 制御領域は、DL/I 従属アドレス・スペースが初期設定するのを待ちます。

オペレーターの応答: z/OS コマンド D A,L を使用して、DL/I 従属アドレス・スペース・ジョブが存在しているかどうかを判別してください。存在している場合は、処置は必要ありません。DL/I 従属アドレス・スペースは最終的にその初期設定を完了し、IMS Ready メッセージが出されます。DL/I 従属アドレス・スペース JCL にエラーがあった場合は、訂正された DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャーが z/OS コンソ

ールから手動で開始されれば、制御領域を取り消す必要はありません。

DLISAS 領域が開始済みのように見える場合、実際には DLISAS は DBRC 領域が初期化されるのを待っている可能性があります。DBRC 領域の JCL エラーもチェックしてください。

プログラマーの応答: JCL エラーの場合は、DL/I 従属アドレス・スペース領域 JCL を訂正してください。

モジュール: DFSXCIC0

DFS228I DLS RECALL TCB INITIALIZATION COMPLETE

または

DLS REGION DYNAMIC ALLOCATION INITIALIZED

または

DLS REGION STORAGE COMPRESSION INITIALIZED

または

DLS REGION INITIALIZATION COMPLETE

説明: DL/I 従属アドレス・スペースにある、示されている機能の初期設定が正常に完了しました。

モジュール: DFSXBC60、DFSXDL10、DFSXDYA0

DFS0229W CSA PSB POOL SIZE GT OR EQ TO DLS PSB POOL SIZE

説明: DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。IMS 初期設定により、CSA PSB プールのサイズが DL/I 従属アドレス・スペース・ローカル・ストレージ内の PSB プールのサイズ以上であったことが判別されました。

システムの処置: IMS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 2 つの PSB プールのサイズは、制御領域 JCL では CSAPSB= および DLIPSB= パラメーターを使用して指定します。通常は、DL/I 従属アドレス・スペース PSB プールの方が CSA PSB プールよりもはるかに大きくする必要があります。

モジュール: DFSIINS0

**DFS230 TRAN SPECIFIED WITH ABDUMP
OR TRAN KEYWORD IS NOT
VALID**

説明: ABDUMP または TRAN キーワードを使用して指定されたトランザクション名が、有効なトランザクション名ではないか、または欠落していました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効なトランザクション名を使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSIC470

**DFS231 ONLY ONE REGION MAY BE
SPECIFIED WITH ABDUMP, TRAN,
CANCEL, AOITOKEN, OR SYNC**

説明: ABDUMP、TRAN、CANCEL、AOITOKEN、または SYNC キーワードが指定されている /STOP REGION または /PSTOP REGION コマンドで、複数の領域 ID を指定しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 領域 ID を 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSIC470

**DFS232 CLASS PARAMETER IS MISSING
OR INVALID**

説明: CLASS キーワードを使用して、コマンドが発行されました。クラス・キーワードに続くパラメータは、以下のいずれかです。

- 無効なクラス番号
- 指定なし

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 正しい CLASS パラメータを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL70、DFSIC430

**DFS233 UNABLE TO PERFORM TEST, NO
LOGICAL TERMINAL ASSIGNED.**

説明: テキストが、TEST モードの端末から入力されました。この端末には LTERM が割り当てられていないので、テストは実行できません。

システムの処置: 入力されたデータは無視されます。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: 端末に LTERM を /ASSIGN するか、/END を入力して、端末をテスト・モードから外してください。

モジュール: DFSICIO0、DFSCFEO0、DFSCFEP0、DFSPAGE0

DFS234 INVALID RETURN FROM PAGING

説明: 入力メッセージの処理中に、ページング・プロセッサが呼び出しモジュール内の無効のロケーションに戻りました。

システムの処置: 入力は無視されます。

プログラマーの応答: この問題は、IMS 論理エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSCFEI0

DFS235 SYSIN DATA STREAM CLOSED

説明: SYSIN データ・ストリームが読み取られました。

モジュール: DFSDN150

**DFS236 TERMINAL IS NOT RECEIVING A
MESSAGE.**

説明: /DEQUEUE コマンドが受信されましたが、メッセージを受信していない端末に関するものでした。LTERM が指定されていた場合は、PTERM が受信している可能性があります。LTERM は受信していませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 適切な PTERM か LTERM、またはその両方のパラメータが指定されたかどうか、および端末がメッセージを受信していたかどうかを検証してください。LINE が停止し、アイドルになっている場合は、PURGE キーワードを使用して、すべてのメッセージをデキューできます。

モジュール: DFSICLJ0

**DFS237 DUPLICATE KEYWORDS ARE
INVALID.**

説明: コマンドで使用できるのは、各キーワードのいずれか 1 つのみです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0、DFSICLN0、DFSICVA

DFS238 LTERM NOT ASSIGNED TO LINE/PTERM

説明: コマンドで指定された LTERM は、指定されている LINE および PTERM に割り当てられていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 適切な LINE/PTERM/LTERM の組み合わせを識別し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0

DFS239 NO PARAMETER ALLOWED WITH PURGE OR PURGE1.

説明: PURGE では、指定された端末に関するすべてのメッセージがデキューされることを要求し、PURGE1 では、指定された論理端末に関するトップ・メッセージがデキューされることを要求します。パラメーターは使用できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを適切なフォーマットで再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0

DFS240 UNABLE TO COMPLETE DEQUEUE PURGE/PURGE1

説明: コマンドが、次のいずれかの理由でリジェクトされました。

- OTMA がクライアントに出力メッセージを送信している。OTMA では、クライアントから ACK または NAK による確認を受信するまでは、デキュー処理を実行できません。
- 指定された端末とアプリケーション・プログラムの間に、IMS 会話が存在する。
- メッセージをデキューする過程で、エラーが検出された。DFSQMGR0 が戻したコードが 0 または 8 以外でした。
- LU 6.2 装置の場合は、LU 6.2 会話が進行中である。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: IMS 会話が存在する場合は、/EXIT コマンドを使用して IMS 会話を終了し、メッセージをデキューしてください。LU 6.2 装置の場合は、装置を停止し、VTAM V NET,INACT コマンドを使用して、LU 6.2 会話を終了してください。

IMS 会話が存在しない場合、または LU 6.2 サポートまたは OTMA サポートが使用されていない場合は、

IMS システム・プログラマーに通知してください。

デキュー処理のために TPIPE が停止される前に、OTMA クライアントが IMS に ACK または NAK メッセージを必ず送信するようにしてください。ACK または NACK が OTMA クライアントで送信できない場合は、/STOP OTMA コマンドを出し、メッセージをデキューしてください。

問題判別: 5、6、7、36

モジュール: DFSICLJ0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS241 EXCLUSIVE CMD INVALID FOR INPUT TERMINAL

説明: LINE/PTERM パラメーターを指定した /EXCLUSIVE コマンドが適用できるのは、PTERM が入力能力のない端末を記述しているときのみです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 適切な端末タイプおよびパラメーターが使用されていることを確認して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICL50

DFS242 AUDITOR'S KEY REQUIRED

説明: 2980 モデル 4 端末では、メッセージを受信するために監査員キーの挿入を必要とする出力メッセージが存在します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 監査員キーを挿入し、疑問符 (?) を入力してください。その後、IMS がメッセージの送信を試みます。

モジュール: DFSDN110

DFS243 TRANSACTION BUSY-REENTER COMMAND

説明: 現在スケジュールされているトランザクションを指定するオペランドを使用して、/ASSIGN コマンドが出されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 少し時間が経過してから、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICL70

**DFS244 COMMAND INVALID FROM
INPUTTING TERMINAL**

説明: /FORMAT コマンドが入力されていますが、MFS がサポートしていない端末からです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 必要なアクションはありません。

/FORMAT コマンドは、MFS でサポートされていない端末から入力してはなりません。

モジュール: DFSICLK0

**DFS245 UNABLE TO FETCH ERROR
DEFAULT BLOCK-TEST MODE
RESET**

説明: MFS テスト・モード中に、出力メッセージの MFS ブロックのフェッチを試みているとき、エラーが発生しました。IMS エラー・デフォルト・ブロック DFMS03 および DFSDF2 のフェッチを試みているときにも、エラーが発生しました。

システムの処置: この端末に関して、MFS テスト・モードがリセットされています。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 次のメッセージに対する要求があると、その結果として、IMS がプロダクション・ライブラリーから MFS ブロックのフェッチを試みます。

プログラマーの応答: 障害の説明については、メッセージ DFS271 を参照してください。フォーマット・ブロックが現在、テスト・ライブラリーに追加されている最中である場合は、入出力エラーを招く可能性があります。追加が完了してから、再試行してください。

問題判別: ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID'FERR' には、診断情報が含まれますが、これが作成されるのは、障害時に /TRACE が PTERM に関してオンに設定されている場合です。

モジュール: DFSCFEO0

関連情報:

86 ページの『DFS271』

**DFS246 SPACE EXCEEDED-TEST MODE
RESET**

説明: MFS テスト・モード中に、テスト・フォーマット・ブロックに必要なスペースを超えました。MFS TEST フォーマット・ブロックは、CIOP プールの 16MB 境界の下にロードされます。このメッセージが出されるのは、CIOP プールが 16MB 境界の下でストレージ不足の場合です。

システムの処置: この端末に関して、MFS テスト・モードがリセットされています。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 別の回線の端末も MFS テスト・モードである場合は、端末がアクティブであるか、MFS テスト・モードでないときは、再試行が正常に行われる可能性があります。他に MFS テスト・モードの端末がない場合は、ブロックは定義されている最大スペースを超え、MFS テスト・モードでは使用不能です。さらに、CIOP プールの 16MB 境界の下のストレージの使用を減らせます。

問題判別: ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID'FERR' には、診断情報が含まれますが、これが作成されるのは、障害時に /TRACE が PTERM に関してオンに設定されている場合です。

モジュール: DFSCFEO0、DFSCFE10

**DFS247 FIELD LENGTH ERROR-INPUT
IGNORED**

説明: フィールドに関してデータが受信されましたが、表示されているフォーマットの場合に有効なデータ量を超えています。推定原因は、端末オペレーターが CLEAR キーを押したとき、端末が出力受信保護されていなかったことです。

システムの処置: 入力データは無視されました。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 直前の出力の受信前に最後に行ったオペレーター処置が、クリアでもなく、電源を切って電源オンするシーケンスでもなかった場合は、ハードウェアまたはソフトウェアの障害である可能性があることを、システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCFEO0

**DFS248 MID AND DIF ARE
INCOMPATIBLE-INPUT IGNORED**

説明: アクティブ・フォーマット・データ・セットの MID および DIF が、MFS 言語ユーティリティーによって同時に処理されませんでした。それらは、オンライン編集で使用不能でした。

システムの処置: 入力は無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 入力 MSG および FMT を再コンパイルしてください。FMT に、適切な装置タイプおよびフィーチャーに関する DEV ステートメントが組み込まれるようにしてください。また、フェーズ 4 出力がオンライン・フォーマット・データ・セットに挿入されるようにしてください。

モジュール: DFSCFE10

DFS249 NO INPUT MESSAGE CREATED

説明: このメッセージが出されるのは、次の場合です。

- 入力データの編集の結果、データのない、システムによって無視されるメッセージになったか、
- 非 3270 装置からの単一セグメント・メッセージが、メッセージ・セグメントの終わりが '**' で取り消されたとき。
- 次のいずれかの理由で、送信エラーが APPC (LU 6.2 会話) で発生したとき。
 - IMS パートナーがデータのないデータ・セグメント (NULL セグメント) を送信した。
 - ユーザー編集出口が、着信メッセージ・セグメントの処理中に、戻りコード 8 (delete all) を出した。
 - ユーザー編集出口が、着信メッセージ・セグメントの処理中に、すべてのセグメントに関して、戻りコード 4 (delete current) を出した。
 - IMS パートナーが、IMS 会話型トランザクションの反復時に、データを送信しないで受信コマンドを出した。

システムの処置: 入力データは無視され、システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: このフォーマットの必須入力データすべてを入力してください。必須の入力データすべてが入力されていた場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: APPC に関して送信エラーが発生したとき、メッセージが出された場合は、エラーのタイプを判別してください。受諾不能の応答であった場合は、エラーを訂正してください。

モジュール: DFSCFEI0、DFSICIO0

**DFS250 INTERVENTION REQUIRED, LINE *x*
PTERM *y***

説明: リモート・テレプロセシング制御装置に接続されている装置で、要介入状態が検出されました。

システムの処置: システムは、READY 指示を待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 装置を作動可能にすると、操作が再開します。進行中の出力メッセージがあれば、すべて再始動します。進行中の入力があれば、いずれも再入力する必要があります。

モジュール: DFSDN130

第 9 章 DFS メッセージ DFS251 - DFS0300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS251 REMOTE CONTROL UNIT INOPERABLE [LINE x PTERM y]

説明: 情報と処置については、DFS251I を参照してください。

関連情報:

DFS251I

DFS251I hh.mm.ss CONTROL UNIT INOPERABLE LINE x PTERM y-z aa,bbbb,cc,dd,ee,ff,gg,hh, iii,jjj

説明: 1 つ以上の装置のリモート制御装置が作動不能になっています。障害が起こっている端末装置に関連したすべての端末は、停止しています。回線エラーおよび TCU エラーについては、z/OS システム・エラー・メッセージ IEA000I を、3270 装置エラーについては、IMS エラー・メッセージ DFS973I を、それぞれ参照してください。

このメッセージの DFS251I 形式が出されるのは、リモート 3270 装置が BTAM を通じてサポートされている場合のみです。

次の説明は、リモート 3270 装置に該当します。

コード 意味

y-z このフィールドでは、制御装置に接続されている範囲の PTERM を示します。

aa このフィールドには、ECB 完了コードが入っています。

bbbb DECTYPE フィールドでは、障害を起こしている操作のタイプを示します。

cc DECTPCOD フィールドには、チャンネル・プログラムで最後に実行された CCW からのデータ通信命令コードが示されます。

dd DECFLAGS フィールドには、BTAM から IMS に渡されたフラグ・バイトが入っています。このフィールドには、障害の原因についての情報が含まれている場合があります。

ee DECSENS0 フィールドには、CSW の状況が装置チェックを示している場合は、DECB からのセンス情報が入っています。

ff DECERRST は、DECB からのエラー状況フィールドです。

gg DECCSWST は、DECB からの CSW 状況フィールドです。

hh このフィールドには、装置依存のモジュール・コードが入っています。3270 装置依存のモジュールがデータ通信ネットワークのコンポーネントをシャットダウンすると、装置依存のモジュールがコンポーネントをシャットダウンした理由を、装置依存のモジュールの理由コードが示します。装置依存のモジュール・コードについては、後で説明します。

iii このフィールドには、BSCK 戻りコードが入っています。このコードは、BSC チェック・ルーチン (DFSBSCK0) から装置依存のモジュールに渡されます。BSC チェック・ルーチンは、入出力完了を分析し、DECB フィールドの内容に応じて、固有の戻りコードを装置依存のモジュールに渡します。

注: BSCK 戻りコード X'0108' が、リモート制御装置からの選択タイムアウトのために設定されます。ポートが存在しない場合は、使用不能 PTERMS は組み込まない /START コマンドを発行する必要があります。

jjj このフィールドには、3270 装置からの SENSE/STATUS 情報が入っています (ただし、該当する場合)。SENSE/STATUS コードの説明については、「IBM 3270 Information Display System」を参照してください。

装置依存のモジュール・コード (フィールド hh) には、それぞれ次の意味があります。

コード (10 進数)
意味

01 受信したデータがテキスト開始/ヘッダー開始 (STX/SOH) で開始しなかったか、伝送終了ブロック (ETB) またはテキスト終了 (ETX) で終了しませんでした。

02 3270 から受信したアテンション識別 (AID) 文字が無効でした。

03 次のいずれかが発生しました。

- Start/stop (S/S) READ が実行されましたが、受信されたのは S/S メッセージ以外のデータでした。
- S/S READ で読み取られたバイト数が 9 バイト未満でした。

- S/S メッセージで STX 文字が正しい場所ではありませんでした。
 - S/S メッセージにある装置アドレスが通信端末ブロック (CTB) にある装置アドレスと一致しません。
- 04 DFSBSCK0 から CLBTEMP5 で渡された戻りコードが無効でした。
- 05 受信した S/S の組み合わせが無効でした。
- 06 コピー操作に関連した S/S が受信されました。しかし、進行中のコピー操作がなかったか、コピー操作でエラーが発生し、装置依存のモジュールが無効の DECTYPE またはデータ・ストリームを検出しました。
- 07 3275 ビデオ・モニターからの割り込み要求の受信が無効でした。
- 08 装置終了 S/S メッセージが受信されましたが、装置依存のモジュールが READ セットアップも READ 割り込み論理でもありません。
- 09 読み取られたバイト数が 5 バイト未満でした。
- 10 データ・ストリームにある装置アドレスが、この制御装置または回線上の装置では無効です。
- 11 一時エラーに対する試行回数が使い尽くされました。

BTAM DECB からのフィールドは、BTAM から IMS に渡されるのに応じて表示されます。これらのフィールドの説明については、「OS/VS BTAM」(GC27-6980)を参照してください。

オペレーターの応答: (マスター端末) 誤動作を訂正し、LINE *x* PTERM *y* に関するリモート制御装置に関連したすべての端末を再始動してください。進行中の操作があれば、いずれも再始動してください。

問題判別: 1、6、23、24

モジュール: DFSC3270 (DFS251I)、DFSDN030、DFSDN130 (DFS251)

関連資料:

 z/OS: IEA000I

関連情報:

304 ページの『DFS973I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS252 ATTEMPT TO OUTPUT DETECTED BUSY CONDITION

説明: リモート 3271/3275 または 3275 ダイアル制御装置に接続されている装置で、使用中状態が検出されています。使用中状態は、検出された時点では正常と見な

されず、通常は、画面が無保護時に端末で試みられる操作の結果です。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 進行中の出力メッセージがあれば、このエラー・メッセージの後ですべて送信されます。無保護画面での端末操作の実行は控えてください。

モジュール: DFSDN130、DFSDS060

DFS253 TCU INOPERABLE LINE *x* PTERM *y*

説明: 説明と処置については、メッセージ DFS253I を参照してください。

関連情報:

DFS253I

DFS253I *hh.mm.ss* TCU INOPERABLE LINE *x* PTERM *y-z aa,bbbb,cc,dd, ee,ff,gg,hh,iiii,jjjj*

説明: LINE *x* PTERM *y* に関する 270X が作動不能です。回線上のすべての PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線はアイドル状態に置かれています。回線エラーおよび TCU エラーについては、z/OS システム・エラー・メッセージ IEA000I を、3270 装置エラーについては、IMS エラー・メッセージ DFS973I を、それぞれ参照してください。

重要: このメッセージの DFS253I 形式が出されるのは、リモート 3270 回線の場合のみです。

次の説明は、リモート 3270 回線に該当します。

コード 意味

y-z このフィールドでは、回線に接続されている範囲の PTERM を示します。

aa このフィールドには、ECB 完了コードが入っています。

bbbb DECTYPE フィールドでは、障害を起こしている操作のタイプを示します。

cc DECTPCOD フィールドには、チャンネル・プログラムで最後に実行された CCW からのデータ通信命令コードが示されます。

dd DECFLAGS フィールドには、BTAM から IMS に渡されたフラグ・バイトが入っています。このフィールドには、障害の原因についての情報が含まれている場合があります。

ee DECSENS0 フィールドには、CSW の状況が装置チェックを示している場合は、DECB からのセンス情報が入っています。

ff DECERRST は、DECB からのエラー状況フィールドです。

gg DECOSWST は、DECB からの CSW 状況フィールドです。

- hh* このフィールドには、装置依存のモジュール・コードが入っています。3270 装置依存のモジュールがデータ通信ネットワークのコンポーネントをシャットダウンすると、装置依存のモジュールの理由コードが CLBTEMP1 フィールドに入り、装置依存のモジュールがそのコンポーネントをシャットダウンした理由を示します。
- iii* このフィールドには、BSCK 戻りコードが入っています。このコードは、BSC チェック・ルーチン (DFSBSCK0) から装置依存のモジュールに渡されます。BSC チェック・ルーチンは、入出力完了を分析し、DECБ フィールドの内容に応じて、固有の戻りコードを装置依存のモジュールに渡します。
- jjjj* このフィールドには、3270 装置からの SENSE/STATUS 情報が入っています (ただし、該当する場合)。

BTAM DECБ からフィールドは、BTAM から IMS に渡されるのに応じて表示されます。これらのフィールドの説明については、「OS/VS BTAM」(GC27-6980) を参照してください。


オペレーターの応答: (マスター端末) 誤動作を訂正し、/START または /RSTART LINE x PTERM ALL コマンドを出してください。

問題判別: 1、6、23、24

モジュール: DFSC3270 (DFS253I)、DFSDN130 (DFS253)

関連資料:

 z/OS: IEA000I

 z/OS: 例外条件およびセンス情報

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS254 BUFFER SIZE INCREASED

説明: 3270 ローカル回線グループ用のバッファ・サイズが十分ではなかったため、入力メッセージが収まりませんでした。その後のすべてのメッセージに対しては、バッファ・サイズが 300 バイト増やされています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージが繰り返される場合は、3270 ローカル回線に関する IMS システム定義時に指定された BUFSIZE パラメータの値を大きくするか、端末で入力されるデータの量を減らしてください。

モジュール: DFSDN140

DFS255 COPY NOT ALLOWED

説明: プリンターへのビデオ・モニターのコピー要求が出されています。しかし、モニターのバッファは、プログラム・アクションでロックされていました。

オペレーターの応答: モニターのロックが意図されたものである場合は、現行モニターのコピーは不可能です。現行モニターのコピーが必須である場合は、ご使用のシステムの 3270 端末メッセージ・フォーマットの開発担当責任者に連絡してください。

モジュール: DFSDN130

DFS256 PRINTER FOR COPY NOT CURRENTLY AVAILABLE

説明: 3270 端末上でコピー操作が要求されましたが、その時に印刷装置が使用できませんでした。あるいは、介入要求が 3275 のプリンター・コンポーネントによって戻されました。

オペレーターの応答: 指定された端末からのコピー操作に使用できるプリンターの候補を表す PTERM を、マスター端末オペレーターに開始させてください。3275 装置のプリンター・コンポーネントに要介入状態が存在する場合は、プリンターを作動可能にしてください。

問題判別: 端末を含む回線に関して、/DISPLAY LINE x PTERM ALL を行ってください。

問題判別: 4、36

モジュール: DFSDN130、DFS060

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS257 ERROR OCCURRED DURING LAST TRANSMISSION.

説明: 3270 端末への最後の入力または出力の伝送中に、入力エラーまたは出力エラーが発生しました。

オペレーターの応答: 最後の入力メッセージを再入力するか、該当するキーを押して、最後のメッセージが再送されるようにしてください。

問題判別: 1、6、23

モジュール: DFSDN130、DFS060

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS258 UNABLE TO LOCATE MESSAGE
DESCRIPTION-INPUT IGNORED**

説明: メッセージ入力記述子ブロックまたは装置入力形式ブロックのフェッチを試みている最中に、入出力エラーが発生したか、ブロックがアクティブ・フォーマット・データ・セットになかったか、フェッチされたブロックがメッセージ入力記述子ブロックではなかったか、いずれかです。

システムの処置: 入力データは無視されました。

オペレーターの応答: 画面を消去し、/FORMAT コマンドを入力してください。IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSCFEI0

DFS259 NO MATCHING STATION CTB.

説明: IMS リモート・ステーション・サポートに問題が発生しました。ポーリング・リストのアドレスと一致するステーション通信端末装置ブロック (CTB) が検出できませんでした。通信は終了しました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCRSS0

**DFS260 PERMANENT TRANSMISSION
ERROR LINK x**

または

**PERMANENT TRANSMISSION ERROR LINE x
PTERM y**

説明: メッセージによって識別されているリモート・ステーション、または識別されているリンク上にある別のIMS システムとの通信中に、永続伝送エラーが発生しました。

注: このメッセージの LINK x 部分は、複数システム結合に関係しています。

システムの処置: IMS はリンク上のデータ・トラフィックを停止します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 問題を修正したら、/START LINE x PTERM y または /RSTART LINK x コマンドを使用して、通信を再開してください。

プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別してください。

モジュール: DFSCRST0、DFSCS7T0

**DFS261 INVALID DATA FLAGS LINE x
PTERM y**

説明: IMS リモート・ステーション・サポートがエラーを検出しました。データ・ブロック内のフラグに矛盾がありました。つまり、メッセージの進行中に、最初のセグメントが示されました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCRSV0

**DFS262 MESSAGE STARTED DURING
SHUTDOWN. LINE x PTERM y**

説明: IMS リモート・ステーション・サポート。IMS が、即時シャットダウン要求を送信したか、シャットダウン要求またはシャットダウン完了のいずれかを受信しました。その後、メッセージの最初のセグメントを受信しました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCRSV0

**DFS263 INVALID TERMINAL IDENTIFIER IN
DATA BLOCK LINE x PTERM y**

説明: IMS リモート・ステーション・サポートで、IMS システム定義に定義されていない端末 ID が、受信したデータ・ブロックに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCRSV

**DFS264 INVALID TERMINAL ID IN STATUS
CHANGE SEGMENT LINE x PTERM
y**

説明: IMS リモート・ステーション・サポート。IMS システム定義に対して定義されていない端末 ID が、受信した状況変更セグメントに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCRSX0

**DFS265 INVALID TERMINAL ID IN I/O
 SYNCH SEGMENT LINE *x* PTERM *y***

説明: IMS リモート・ステーション・サポートで、IMS システム定義に定義されていない端末 ID が、受信した入出力同期セグメントに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCR2Y0

**DFS266 OUTPUT NOT IN PROGRESS LINE *x*
 PTERM *y***

説明: IMS リモート・ステーション・サポートで、進行中の出力メッセージがない、またはシステム・メッセージ (Q3 出力) が進行中である端末を指定するエラー・メッセージが受信されました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCR2Z0

**DFS267 INVALID TERMINAL IDENTIFIER IN
 ERROR MESSAGE LINE *x* PTERM *y***

説明: IMS リモート・ステーション・サポートで、IMS システム定義に対して定義されていない端末 ID が、受信したエラー・メッセージに入っていました。通信は終了しました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 端末 ID を訂正してください。

モジュール: DFSCR2Z0

**DFS268 INVALID BLOCK FORMAT LINE *x*
 PTERM *y***

説明: IMS リモート・ステーション・サポート。次のいずれかの問題が発生しました。

- ブロック内の最初の 2 文字が DA でも SY でもない。
- 入力ブロック変換ルーチンで、受信したブロックを伝送コードから EBCDIC へ変換不能であった。
- 長さが入力ブロックの終了を超えていた。

リモート・ステーションとの通信は終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCRSU0、DFSCRSV0、DFSCS7U0

**DFS269 SHOULD NOT OCCUR TYPE ERROR
 ON LINK *x***

または

SHOULD NOT OCCUR TYPE ERROR ON LINE *x*

説明: IMS リモート・ステーション・サポートがエラーを検出しました。このエラーは、次の問題のいずれかによって起こることがあります。

- ハードウェアの誤動作
- z/OS システム定義に対する無効な指定
- インテリジェント・リモート・ステーションに常駐するプログラムのプログラミング論理エラー

注: このメッセージの LINK *x* 部分は、複数システム結合フィーチャー・システムに関係しています。

システムの処置: IMS は、回線またはリンクを停止します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 問題を修正したら、 /START LINE *x* または /RSTART LINK *x* コマンドを使用して、通信を再開してください。

モジュール: DFSCMS70

**DFS270 PARTITIONED FORMAT SENT TO: [
 NODE *nodename*|LINE *x* PTERM *y*]**

説明: MFS は、区画記述子ブロック (PDB) を指定した装置出力形式 (DOF) を使用してメッセージをフォーマット設定するよう指示されましたが、メッセージが送信された先が SLU2 端末ではありませんでした。

システムの処置: LTERM に作動不能のマークが付けられ、問題を引き起こしたメッセージがメッセージ・キューに戻されました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーは、メッセージを SLU2 端末に送信し、正しい装置出力形式 (DOF) を使用する必要があります。LTERM の使用を続ける場合は、 /START LTERM *xxx* コマンドを出す必要があります。このメッセージは、 /DEQUEUE LTERM P1 PURGE1 コマンドを使用して、メッセージ・キューから除去できます。

プログラマーの応答: メッセージを SLU2 端末に送信してください。

問題判別: 診断情報が含まれているログ・レコード X'67' (サブレコード X'01'、ID'FERR') は自動的に作成されます。

モジュール: DFSCFEO0

重大度: ありません。

**DFS271 UNABLE TO LOAD ERROR
MESSAGE OUTPUT DESCRIPTION**

説明: システムは、エラー・メッセージ出力記述をロード不能でした。

システムの処置: IMS デフォルト・メッセージ出力記述またはそれに関連する装置出力形式のブロック・フェッチが失敗しました。要求されたメッセージ出力記述または装置出力形式に関しても、フェッチは失敗しました。LTERM に QERROR 状態で作動不能のマークが付けられ、問題を引き起こしたメッセージがメッセージ・キューに戻されました。このメッセージは、関与した LTERM がマスター端末である場合、z/OS システム・コンソールへ送信されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに通知してください。MTO は、IMS デフォルト・メッセージ出力記述および装置出力形式がフォーマット・ライブラリーにあり、入出力エラーが発生していないか確認する必要があります。LTERM の使用を続ける場合は、/START LTERM xxx コマンドを出す必要があります。このメッセージは、/DEQUEUE コマンドを使用して、メッセージ・キューから除去できません。

プログラマーの応答: ブロック・フェッチ・エラーを起こす可能性のある原因については、メッセージ DFS057I の説明を参照してください。

問題判別: 診断情報が含まれているログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID'FERR' は自動的に作成されます。

モジュール: DFSCFEO0

関連情報:

39 ページの『DFS057I』

**DFS272 FORMAT BLOCK LEVEL
ERROR-INPUT IGNORED**

説明: 入力を処理するためにフェッチされた DIF ブロックが、メッセージのフォーマットに使用された MID ブロック、または装置のフォーマットに使用された DOF ブロックと同じレベルではありませんでした。MFS テスト・モードでは、端末への最後の出力以降に、新しいフォーマット・ブロックがテスト・ライブラリーに追加されています。MFS テスト・モードでない場合は、端末への最後の出力以降に、/MODIFY または INITIATE OLC コマンドによるフォーマット・データ・セットの切り替えで、フォーマット・ブロックが変更されています。

システムの処置: 入力データは無視されました。

オペレーターの応答: 画面をフォーマットし、入力を再入力してください。最後の出力がオペレーターによって論理的にページングされた場合でも、使用可能であることに変わりはないので、次のメッセージを要求してください。最後の出力メッセージが完全に (全ページ) 送信されなかった場合でも、使用可能であることに変わりはないので、次のメッセージを要求してください。

モジュール: DFSCFEI0

**DFS273 QUEUE ERROR ON MESSAGE
DELETION**

説明: 進行中のメッセージの削除を試みている最中に、エラーが発生しました。入出力エラーがメッセージ・キュー・データ・セットで発生しているか、内部論理エラーが発生しているか、どちらかです。

システムの処置: 入力データは無視されました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSCFEO0

**DFS274 LOAD MODULE DATASET NOT
OPEN LINE x PTERM y**

説明: System/7 がロード・モジュール要求を発行しましたが、ロード・モジュール・データ・セットが開けませんでした。通信は終了しました。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSCS7B0

**DFS275 BUFFER TOO SMALL FOR IPL
REQUEST LINE x PTERM y**

説明: System/7 が IMS からの IPL シーケンスを要求し、回線用に指定された入力バッファの大きさが不十分です。

システムの処置: 通信は終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSCS7B0

**DFS276 TRANS ERROR DURING LOAD
MODULE TRANSMISSION LINE x
PTERM y**

説明: System/7 にロード・モジュールを伝送している最中に、永続伝送エラーが発生しました。

システムの処置: 通信は終了します。

オペレーターの応答: 必要に応じて、システムの IPL を実行します。IMS マスター端末から /START line x pterm y コマンドを使用して通信を開始してください。System/7 にロード要求を再発行させてください。

モジュール: DFSCS7B0

**DFS277 I/O ERROR ON THE SYSTEM/7
LOAD MODULE DATASET LINE x
PTERM y**

説明: System/7 ロード要求を処理している最中に、入出力エラーがロード・モジュール・データ・セットで発生しました。

システムの処置: 通信は終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSCS7B0

**DFS278 MODULE REQUESTED BY SYSTEM/7
DOES NOT EXIST LINE x PTERM y**

説明: System/7 がロードを要求したモジュールが、ロード・モジュール・データ・セットで検出されませんでした。

システムの処置: 通信は終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSCS7B0

**DFS279 LEVEL KEYWORD IS MISSING OR
HAS INVALID PARAMETER**

説明: LEVEL キーワードはコマンドで必須であるが、入力されなかったか、パラメーターが複数指定されたか、または 1 から 4 の範囲の数値が指定されていません。

オペレーターの応答: フォーマットを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0

**DFS280 SET KEYWORD IS MISSING OR
HAS INVALID PARAMETER**

説明: 入力されたコマンドには SET キーワードが必要ですが、提供されませんでした。キーワードにパラメーターが複数指定されていたか、パラメーターが ON または OFF ではありませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: エラーを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0、DFSICLN4

**DFS281 MODULE KEYWORD IS MISSING
OR HAS INVALID PARAMETER**

説明: 入力されたコマンドにはモジュール・キーワードが必要ですが、提供されていないか、指定された DDM、MFS、または ALL 以外のパラメーターがあります。

オペレーターの応答: エラーを訂正し、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0

DFS282 TEST MFS NOT OPERATIVE

説明: MFS TEST 機能がシステム定義に含まれていなかったか、テスト・フォーマット・データ・セットをIMS の初期設定時に開くことができませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

問題判別: 16、36

モジュール: DFSICL50

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS283 TEST MFS NOT SUPPORTED FOR
THIS TERMINAL**

説明: TEST MFS が非 MFS 端末用として指定されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) コマンドを訂正し、正確に再入力してください。

モジュール: DFSICL50

**DFS284 CANNOT START TEST MFS MODE
WITH MESSAGE IN PROGRESS**

説明: メッセージの処理中は、状況は変更できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 端末がアクティブでないとき、または停止しているときに、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICL50

DFS285 CANNOT STOP TEST MFS MODE WITH MESSAGE IN PROGRESS

説明: メッセージの処理中は、状況は変更できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 端末がアクティブでないとき、または停止しているときに、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICL50

DFS286 SECURITY VIOLATION LINE *x* PTERM *y*

または

SECURITY VIOLATION NODE *nodename*[USER *username*]

または

SECURITY VIOLATION USERID *userid* PROGRAM *programname*

説明: このメッセージは DFS286I に関連しています。詳細な説明および処置については、そのメッセージを参照してください。

関連情報:

DFS286I

DFS286I SECURITY VIOLATION USERID *userid* PROGRAM *programname*

または

SECURITY VIOLATION LINE *x* PTERM *y*

または

SECURITY VIOLATION USERID *userid*

説明: ユーザーがマスター端末で通知を要求したとき、セキュリティ・エラーのしきい値カウントに達していました。このしきい値に達したのは、次のいずれかの場合です。

- LINE *x* PTERM *y*
- NODE *nodename* (USER *username*)
- USERID *userid* PROGRAM *programname*

IMS が NODE *nodename* を使用して USER *username* を発行するのは、端末へのサインオンに /SIGN コマンドが使用された場合です。IMS が USERID *userid* PROGRAM *programname* を発行するのは、アプリケーション・プロ

グラムが ICMD 呼び出しを発行し、そのためにセキュリティ・エラーが発生した場合です。USERID *userid* は、ICMD 呼び出しを発行したプログラムを呼び出したユーザーのユーザー ID です。ユーザー ID は、プログラムが実行中であった領域のタイプ、および Get Unique (GU) 呼び出しが行われたかどうかに応じて、次のようになります。

領域タイプ	GU の実行	ユーザー ID
BMP	N/A	BMP JCL USER
DBT	N/A	PAPL で渡されるセキュリティ・トークン
IFP	NO	プログラム名
IFP	YES	ユーザー ID (端末サインオンの場合) またはトランザクションが発行された LTERM 名
MPP	NO	プログラム名
MPP	YES	ユーザー ID (端末サインオンの場合) またはトランザクションが発行された LTERM 名
BMP	NO	BMP JCL USER
BMP	YES	ユーザー ID (端末サインオンの場合) またはトランザクションが発行された LTERM 名

システム定義を使用して IMS に対して定義されているリソースの場合、セキュリティしきい値は、COMM、IMSGEN、または SECURITY マクロで SECCNT キーワードを使用して定義されます。動的リソースの場合は、SECCNT パラメーターがゼロでなければ、常にしきい値 1 が使用されます。しきい値に達する可能性は、DL/I CMD 呼び出しの発行を試みる無許可トランザクションにも起因し、この場合は、かかわりのあるトランザクション・コードが識別されます。

システムの処置: 処置は、マスター端末オペレーターが決定します。

このユーザー ID は、スケジュールしようとしているリソースに対する許可を持っていることを確認してください。

オペレーターの応答: (マスター端末) ご使用のセキュリティ手順で指示されている通りに処理してください。

モジュール: DFSCMD30、DFSICLZ0、DFSICIO0

関連情報:

DFS286

**DFS0287A THERE IS NO SECONDARY INDEX
TO PROCESS. DO NOT USE
MIGRATX.**

説明: MIGRATX=YES が指定されましたが、マイグレーションしようとしているデータベースに副次索引がありません。

システムの処置: HD 再編成アンロード・ユーティリティー・ジョブは、戻りコード 16 で終了しました。

ユーザーの処置: 副次索引のないデータベースをマイグレーションしようとしている場合は、SYSIN 制御カードに MIGRATX=YES を指定しないでください。

モジュール: DFSURGU0

**DFS0288E HISAM REORG UTILITIES CANNOT
BE USED FOR FAST PATH
SECONDARY INDEX DATABASE,
xxxxxxx**

説明: HISAM 再編成アンロード・ユーティリティーまたは再ロード・ユーティリティー (DFSURUL0 または DFSURRL0) への入力として、高速機能副次索引データベース (FPSI DB) を指定することはサポートされません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

高速機能副次索引データベースの名前。

システムの処置: バッチ・ジョブは、IMS 異常終了 0288 で異常終了します。

プログラマーの応答: 適切なユーティリティーを使用して、高速機能副次索引データベースを再編成またはリカバリーします。FPSI DB を再編成するには、IDCAMS REPRO が有効です。FPSI DB をリカバリーするには、IMS リカバリー・ユーティリティーである DFSURDB0、または IMS ベンダーによる索引ビルダー・ツールのいずれかを使用します。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



0288 (メッセージおよびコード)

**DFS289 INVALID VALUE FOR
SEGNO/SEGSIZE SPECIFIED**

説明: 以前に入力されたコマンドには、SEGNO または SEGSIZE キーワードがあり、無効なパラメーターが指定されていました。このパラメーターは、キーワードの直後に続きます。SEGNO および SEGSIZE の有効な

値は、0 から 65,535 (両端を含む) の範囲です。

システムの処置: コマンドは処理されません。別のコマンド、メッセージ通信、またはトランザクションが入力できます。

オペレーターの応答: (端末の入力) SEGNO または SEGSIZE パラメーターとして指定される正しい値を判別し、コマンドを再入力してください。

問題判別: 入力したコマンドと、得られた応答のコピーを手元に用意し、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: DFSICL70

**DFS290 NO MESSAGES AVAILABLE FOR
OUTPUT**

説明: IMS MFS メッセージ先送り保護 (Message Advance Protect)、または VTAM 受信準備済み標識を IMS が受信し、使用可能なメッセージがなかったか、端末が出力不能の特殊な状況にあります。

システムの処置: MFS の場合は、端末がビデオ装置であれば、ページ保護状況に置かれます。VTAM 受信準備済み標識で、出力が静止されていない場合は、ビデオ・コンポーネントがあれば、無保護状況に置かれたままです。

オペレーターの応答: メッセージが予期されている場合は、短時間待って、要求を再入力し、次のメッセージ要求を入力して待つか、適切なコマンドを入力して、特殊状況条件が存在していれば、それを解放するか、どちらかを行ってください。

プログラマーの応答: /DISPLAY NODE コマンドを使用して、メッセージがキューに入れられているかどうか、および端末が、CONVERSATION や EXCLUSIVE などといった特殊状況にあるかどうかについて、判別してください。

問題判別: 1、5、6、7、14

モジュール: DFSCFEP0、DFSCVFC0、DFSCVFZ0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS291 INPUT MUST BEGIN FROM FIRST
PHYSICAL PAGE**

説明: 入力データが入力されましたが、複数物理ページ入力が指定された DPAGE の最初の物理ページ以外からでした。入力メッセージが作成されていませんでした。

システムの処置: 出力メッセージが進行中の場合は、メ


ッセージ・キューに戻されます。入力データは無視されます。

オペレーターの応答: 進行中の出力メッセージがあった場合は、次のメッセージにその取得を要求してください。複数物理ページの入力手順についての情報を参照してください。

問題判別: 16

モジュール: DFSCFEI0

関連概念:

 複数物理ページの入力 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS292I INVALID RANGE SPECIFICATION

説明: このメッセージが出る可能性のある原因は、次のとおりです。

- 範囲パラメーターが指定されたが、範囲パラメーターをサポートしないキーワードが使用されている。
- 範囲指定の 2 番目のメンバーが最初のメンバーより大きい値でなかった。
- 指定されたノードの 1 つがシステム内がない。
- 指定されたノードが両方とも動的である。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

範囲指定が適用されるのは、キーワード LINE、LINK、NODE、および PTERM のみです。NODE キーワードに関する範囲指定が適用されるのは、静的ノードのみです。範囲指定のメンバーは両方とも存在する必要があり、システム定義を通して定義されている必要があります。

動的端末またはユーザーの場合は、総称パラメーター・サポートが範囲指定に代わります。総称パラメーターには、1 つ以上の特殊文字 * または ' が含まれます。アスタリスクは、少なくとも 1 文字でアスタリスクを置き換えることができ、有効なリソース名が作成されることを示します。例えば、/DISPLAY NODE *SLU6* では、文字ストリング SLU6 が含まれるノードが表示されます。

モジュール: DFSICL30

DFS0293 INVALID ID CARD READER INPUT

説明: オペレーター識別カード読取機構からの入力が無効でした。入力データを終了するための "EOR" 文字も "EOI" 文字も検出されなかったか、LRC チェックに失敗しました。

システムの処置: 進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 操作を再試行してください。エラーが引き続き発生する場合は、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答:

1. すべてのカード・データが入るだけの十分な大きさがあるフィールドに、エントリーが行われるようにしてください。
2. 使用されているカードと 3270 ハードウェアが正しく機能しているか確認してください。

問題判別: /TRACE および DFSERA10 を使用して、IMS が受信した端末入力データの印刷出力を入手してください。データ・フォーマットについては、「IBM 3270 Information Display System」を参照してください。

モジュール: DFSCFEI0、DFSCFE00

DFS294 ID CARD READER USE ALLOWED ONLY ONCE PER MESSAGE

説明: 複数物理ページ入力メッセージの作成時に、3270 オペレーター ID カード読取装置が使用できるのは 1 回だけです。

システムの処置: 進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されます。

オペレーターの応答: ID カード読取装置を 1 回だけ使用して、メッセージを再入力してください。

問題判別: 16

モジュール: DFSCFE00、DFSCFEI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS295 IMMEDIATE PEN DETECT LITERAL ALLOWED ONLY ONCE PER MESSAGE

説明: 3270 即時ペン検出が混合モードで、または入力リテラルを作成するために使用できるのは、1 つのメッセージにつき 1 回だけです。

システムの処置: 進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されます。

オペレーターの応答: 即時ペン検出機能を 1 回だけ使用して、メッセージを再入力してください。

問題判別: MFS

モジュール: DFSCFE00

**DFS296 PROGRAM FUNCTION KEY
LITERAL ALLOWED ONLY ONCE
PER MESSAGE**

説明: 複数物理ページ入力メッセージの作成時に、プログラム・ファンクション・キーを使用して、リテラル値を作成できるのは 1 回だけです。オペレーター制御用として定義されているキーは、複数回使用できます。

システムの処置: 進行中の入力メッセージがあれば、いずれも廃棄されます。

オペレーターの応答: 正しいプログラム・ファンクション・キーを使用して、入力メッセージを再入力してください。

問題判別: 16

モジュール: DFSCFE00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS297 MULTIPLE PHYSICAL PAGE INPUT
IS NOT IN PROGRESS**

説明: オペレーターが複数物理ページ入力の終了要求 (ENDMPPI) を入力しましたが、複数物理ページ入力メッセージの作成中ではありませんでした。

システムの処置: 入力データは廃棄されます。

オペレーターの応答: 適切な手順を使用して、入力を再入力してください。

問題判別: 16

モジュール: DFSCFE10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS298 INPUT MESSAGE CANCELED BY
SEGMENT EDIT EXIT**

説明: ユーザー提供 MFS セグメント編集出口ルーチンが、DPM-B による入力メッセージの取り消しまたはエコーを要求しました。

取り消しの理由が、入力が無効で、アプリケーションに応じて異なるのか、配布プレゼンテーション管理 B (DPM-B) が入力メッセージのエコーを要求しているのか、いずれかです。エコーされたメッセージは、DPM-B ではサポートされません。

システムの処置: 進行中の入力メッセージは削除されません。

オペレーターの応答: 出口ルーチンで必要な方法で、メッセージを入力してください。

プログラマーの応答: ユーザー提供の出口ルーチンの操作が正しいか検証してください。端末入力データは、/TRACE 機能の使用によって調べられます。

モジュール: DFSCFE10

**DFS299 SEGMENT EDIT EXIT
FAILURE-NOTIFY SYSTEMS
PROGRAMMER**

説明: ユーザー提供 MFS セグメント編集出口ルーチンが、許容最大値を超えてセグメント・サイズを大きくしたか、無効の戻りコードを戻したか、どちらかです。編集ルーチン障害のため、システム保全性が損なわれる可能性があります。

システムの処置: 進行中の入力メッセージは削除されません。

オペレーターの応答: このメッセージが表示される前に入力された内容を記録して、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: セグメント編集出口ルーチンを訂正し、IMS 中核内で置き換えてください。ユーザー提供の出口ルーチンの操作が正しいか検証してください。端末入力データは、/TRACE 機能の使用によって調べられます。

モジュール: DFSCFE10

**DFS0300I OUTPUT DATA SET SPECIFIED BY
DDNAME *ddname* WAS NOT
SUCCESSFULLY CLOSED**

説明: データベース・イメージ・コピー 2 (DFSUDMT0) ユーティリティ処理中に、*ddnameddname* で指示された出力データ・セットに対して、データ・セット・クローズが異常終了したか、またはデータ・セット・クローズが (DFSMSDss により) 試行されませんでした。したがって、このデータ・セットは、イメージ・コピーとして使用できません。

システムの処置: エラーが検出されなかった別の出力コピー (1 次または 2 次) がある場合、イメージ・コピー処理は入力 DBDS に対して継続します。それ以外の場合、DBDS についての処理は失敗し、メッセージ DFS3144A が発行されます。

オペレーターの応答: 別のイメージ・コピー 2 ジョブをサブミットして、イメージ・コピー処理が失敗した DBDS をコピーします。

モジュール: DFSUDUI1

第 10 章 DFS メッセージ DFS301A - DFS350A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS301A UNABLE TO OPEN DDNAME-ddname

説明: 発行ユーティリティー・プログラムが、メッセージに示されている *ddname* を使用して、DCB をオープンできませんでした。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 実行に必須とされている必要な DD ステートメントがすべて提供されているか確認してください。欠落している JCL ステートメントがあれば、すべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、18、20、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中にこのメッセージが生成された場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=301 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。

モジュール: DFSPIRP0、DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUC150、DFSUC350、DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGU0、DFSURRL0、DFSURUL0、DFSUTR20、DFSUTR30

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)

DFS302A INVALID OR MISSING FUNCTION *ff* SPECIFIED ON REQUEST *nnnn*

説明: 制御機能コードが無効または欠落しているユーティリティー制御ステートメントが検出されました。*ff* が省略されているか、存在する場合は、有効な 2 文字コードではありませんでした。有効なコードについては、ユーティリティー制御機能に関する情報を参照してください。*nnnn* は制御要求番号です。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 実行されているユーティリティー・プログラムに応じて、制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=302 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。PSB プールの方が CSA PSB プールよりもはるかに大きくする必要があります。

モジュール: DFSUCP40

関連資料:

 DFSUCF00 ユーティリティーの制御ステートメント (データベース・ユーティリティー)

DFS0303I xxxx <DYNAMIC BLOCK>

または

THE FOLLOWING BLOCKS WILL BE <DYNAMICALLY FIXED | ALLOCATED IN DREF STORAGE>:

説明: ブロック用のストレージが取得されると、DDNAME=PROCLIB で記述されているデータ・セットの DFSFIXnn メンバーで指定されている動的 BLOCKS がページ固定されます。DDNAME=PROCLIB で記述されているデータ・セットの DFSDRFnn メンバーで指定されているブロックが DREF ストレージ・サブプール内で割り振られます。xxxx は、ページ固定される、または DREF ストレージ内で割り振られる、ブロックの IMS 名です。

システムの処置: IMS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSXFIX0

DFS304A DBD NAME NOT SPECIFIED FOR FUNCTION *ff* ON REQUEST *nnnn*

説明: ユーティリティー・プログラムが、DBD 名フィールドがブランクの制御ステートメントを検出しました。*nnnn* は制御要求番号です。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、

DBD 名を組み込み、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=304 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS305A DBD/PSB LIBRARY DOES NOT CONTAIN DBD/PSB *dbdname*

説明: ユーティリティ・プログラムが、ユーティリティ制御ステートメントに名前が指定されている DBD/PSB を検出できませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: ユーティリティ制御ステートメントと DBD/PSB ライブラリーを指定する DD ステートメントのどちらかを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、18、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=305 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップでは、SYSUDUMP DD ステートメントを指定する必要があります。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSURUL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0302
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS306A DBD *dbdname* DOES NOT CONTAIN DDNAME FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムが、制御ステートメントで指定されている DD 名を、示されている DBD *dbdname* で見つけようと試みましたが、この試みは失敗しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: エラーの制御ステートメントを訂

正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=306 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCCT0、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSUDMP0、DFSURDB0

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS307A NO DDNAME SPECIFIED FOR DATA BASE *dbdname* FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムが検出した制御ステートメントには、DD 名が必要でしたが、これが含まれていませんでした。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=307 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSPRSDI、DFSUCP40

関連情報:

 IMS 異常終了 0302

DFS308A NO OUTPUT DDNAME SPECIFIED FOR FUNCTION *ff* ON REQUEST *nnnn*

説明: ユーティリティ・プログラムが検出した制御要求では、制御ステートメントで出力データ・セット DDNAME の指定を必要としていましたが、これが示されていませんでした。*nnnn* は制御要求番号です。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 制御要求を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=308 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS309A CONTROL STATEMENT
ERROR-INVALID/MISSING
KEYWORD *keyword***

説明: 制御プログラムが、必須キーワードの欠落を検出したか、キーワードを識別できなかったか、どちらかです。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=309 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS310A INPUT RECORD IMAGE FOR
dddddddddddd IS IN ERROR AND
FOLLOWS THIS MESSAGE**

説明: ユーティリティ・プログラムが、制御ステートメントにエラーがあることを検出した後で、このメッセージを出します。メッセージ・テキストで、エラーのステートメントを識別しています。dddddddddddd により、カスタマイズされたメッセージを生成するために現在実行中のユーティリティが、固有のデータを識別します。このメッセージが出される可能性があるのは、次の状態の場合です。

- DFSURGSO の実行時に、データベースをスキャンする必要がなかった。
- OLIC の実行時に、入力制御ステートメントで指定された DBD 名が OLIC PSB、または PSB 指定の

LANG=PL/I の DB PCB で検出されなかった。

OLIC は LANG=ASSEM を必要とします。

- トラック・リカバリー・オプションが索引 KSDS に関して指定された。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=310 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップで SYSUDUMP DD ステートメントを指定してください。

モジュール:

DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0、
DFSUDMP0、DFSUICP0、DFSURDB0、DFSURGP0、
DFSURGS0、DFSURG10、DFSURRL0、DFSURUL0、
DSPLRC10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS311A RESTART WAS NOT SPECIFIED
AND NO DFSYSIN DATASET
EXISTS**

説明: ユーティリティ制御機能が、制御ステートメントを見つけられなくて、その処理を決定できませんでした。DFSYSIN データ・セットと『start』パラメーターのどちらかが必要です。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=311 制御ステートメントを使用して、ジョブを実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS312A DDNAME *ddname* DOES NOT
CONTAIN A VALID IMAGE OR
REORGANIZED COPY FOR
FUNCTION RV**

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティーに、DDNAME *ddname* で定義された入力データ・セットが示されましたが、そのヘッダー・レコードが正しいフォーマットではありませんでした。このタイプのエラーは、イメージ・コピー・ヘッダー・レコードのフォーマットが、現在サポートされているリリースの IMS のフォーマットと一致しないときに発生する場合があります。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 入力が入力正しかったか確認するか、入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=312 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURDB0

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS313A HD UNLOAD CANNOT BE USED TO UNLOAD INDEX DATABASE - *dbdname*

説明: 階層直接 (HD) 再編成ユーティリティーは、索引データベースのアンロードまたは再ロードには使用できません。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 索引データベースを再編成する場合は、階層順次 (HS) アンロード/再ロード・ユーティリティーを使用する必要があります。

モジュール: DFSUFGU0

DFS314I TRAP KEYWORD HAS INVALID PARAMETER

説明: /TRACE SET ON TRAP コマンドが発行されましたが、TRAP キーワード・パラメーターが欠落していたか、無効でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンド・フォーマットを調べて、訂正したコマンドを再入力してください。

96 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: DFSICLN0

DFS315A DEVTYPE MACRO FAILED ON DDNAME *ddname* FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティー・プログラムが、入力装置または出力装置についての情報を入手するために、SVC 24 (DEVTYPE) を発行しました。戻りコードで、この試みが正常に行われなかったことが示されました。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: システム操作担当者にこれを報告してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=315 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40, DFSURGP0, DFSURGS0, DFSURGU0, DFSURG10, DFSURUL0

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS316A DBD *dbdname* CONTAINS AN UNKNOWN ORGANIZATION CODE *cc*

説明: 指定された DBD *dbdname* に有効なデータベース編成コードが含まれていませんでした。値 *cc* が問題のコードです。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 指定された DBD が IMS DBD であったかどうかを確認してください。矛盾があれば訂正し、ジョブを再実行してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=316 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40, DFSUDMP0, DFSURDB0, DFSURGU0

関連情報:

0302 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS317W **HEADER RECORD FOR DDNAME**
ddname **NOT FOUND ON DDNAME**
ddname **FOR FUNCTION** *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムが、指定されたデータ・セットが提供されましたが、正常な DBD 用であり、必要な正常データ・セット用ではありませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=317 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS318A **RECORDS FROM DDNAME** *ddname*
ARE LARGER THAN DDNAME
ddname **SUPPORTS.**

説明: ユーティリティ・プログラムに出力装置が指定されましたが、その最大レコード長が入力レコード長より小でした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 指定された DD ステートメント装置タイプを入力レコード長を処理できる装置に変更し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=318 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS319A **DDNAME** *ddname* **HAD A**
PERMANENT I/O ERROR FOR
FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムが、指定されたデータ・セットにリカバリー不能入出力エラーがあることを検出しました。

システムの処置: エラーが発生したのが出力ボリュームで、複数の出力コピーが指定されていた場合は、プログラムはエラーで終了します。データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) の場合は、イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0E のメッセージ DFS3144A も出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

問題判別: 2、3、8、17g、36

モジュール: DFSBCKI0、DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSUDMT0、DFSURGU0、DFSURUL0

関連情報:

736 ページの『DFS3144A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS320I **DDNAME** *ddname* **IS STOPPED BUT**
DDNAME *ddname* **CONTINUES**

説明: ユーティリティ・プログラムが、出力ボリュームに入出力エラーがあることを検出しました。コピーが 2 つ指定されました。プログラムは、良好な代替コピーから続行します。

システムの処置: 処理は、1 つの出力コピーのみを続行します。

プログラマーの応答: ダンプされたデータ・セットのコピーが 1 つ作成されます。コピーが 2 つ必要な場合は、出力装置および出力ボリュームが正常に使用できる状態であることを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8

モジュール: DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSURGU0、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS321W **FUNCTION** *ff* **EXPERIENCED AN**
ERROR AND MUST BE RESTARTED

説明: ユーティリティ・プログラムが、要求された操作の正常終了を禁じるエラーを検出しました。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: このメッセージよりも前に気付いたエラーがあればすべて訂正して、失敗した要求を再実行してください。ユーティリティ制御機能の下で実行していた場合は、エラーを訂正し、JCL の PARM= を変更して、RESTART が必要であることを示すか、FUNCTION=OP,REQUEST=RESTART を指定して、制御ステートメントを DFSYSIN データ・セットに追加してください。ユーティリティによっては、その実行内で再始動できないものもあります。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=321 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUDMP0

関連資料:

 ユーティリティ制御機能 (DFSUCF00) (データベース・ユーティリティ)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS322W FUNCTION ff WAS NOT SUPPLIED AN IMAGE COPY INPUT

説明: ユーティリティ ff が、イメージ・コピー入力データ・セットが DD DUMMY として指定されているのを検出しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 入力が必要なかった場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、入力データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36

また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=322 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS323W FUNCTION ff WAS NOT SUPPLIED A CHANGE ACCUMULATION INPUT

説明: ユーティリティ・プログラムが、累積変更入力データ・セットが DD DUMMY として指定されているのを検出しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 入力が必要なかった場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、入力データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=323 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS324W FUNCTION ff WAS NOT SUPPLIED AN INPUT LOG FILE

説明: ユーティリティ・プログラムが、ログ入力データが DD DUMMY として指定されているのを検出しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 入力が必要なかった場合は、処置は必要ありません。そうでない場合は、入力データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=324 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS325A PURGE DATE ON DDNAME ddname IS LATER THAN DATE ON DDNAME ddname FOR FUNCTION ff

説明: 累積変更入力データ・セットが作成されたとき指定されたパーズ日付が、イメージ・コピー入力データ・

セットが作成された日付より後であることを、ユーティリティーが検出しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 対象日付間に変更レコードが作成され、データベース保全性のために必要な場合は、累積変更入力を再作成し、リカバリー・ジョブを再度実行依頼する必要があります。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=325 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS326A DDNAME *ddname* INPUT IGNORED DUE TO PURGE DATE ON DDNAME *ddname*

説明: 累積変更入力データ・セットの作成日がイメージ・ダンプ・データ・セットの作成日より前になっていることを、データベース・リカバリー・ユーティリティー・プログラムが検出しました。すべてのレコードがすでにダンプ上にあるため、累積変更入力データ・セットは使用されていません。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=326 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS327W NO RECORDS ON DDNAME *ddname* FOR RECOVERED DATASET

説明: ユーティリティー・プログラムが、入力データ・セット *ddname* をスキャンして、リカバリーされるデータ・セットに適用されるレコードを検索しましたが、まったく検出されませんでした。

プログラマーの応答: 入力データ・セットが正しかった

か確認してください。正しくなかった場合は、JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=327 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS328A DDNAME *ddname* REQUIRED BUT WAS NOT SUPPLIED FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティー・プログラムが、必須データ・セット *ddname* が指定されていないことを検出しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 必要な DD ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=328 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS329A HEADER RECORD ON DDNAME *ddname* IS NOT CONSISTENT WITH *ddnameldbpcb* FOR FUNCTION *ff*

説明: データ・セット記述が DBD 記述と一致しない入力データ・セット・ヘッダー・レコード、または示されている他の入力データ・セットのヘッダー・レコードを、ユーティリティー・プログラムが検出しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: すべての入力が正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・

セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=329 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

 IMS 異常終了 0302

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS330A DDNAME *ddname* IS OUT OF SEQUENCE FOR FUNCTION *ff* REASON=*r*

説明: ユーティリティ・プログラムが、相対ブロック番号が最後のレコード更新より低い値である OSAM/ESDS を、データ・セット *ddname* 内で検出しました。理由コードとその意味は、次のとおりです。

コード

説明

- 1 ESDS または OSAM RBN キー・シーケンス・エラーが発生しました。
- 2 KSDS キー・シーケンス・エラーが発生しました。
- 3 ログ日付の順序が狂っています (昇順ではありません)。
- 4 変更累積レコード内の日時が、マージされるログ・レコード内の日付より後になっています。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 入力ファイルがエラーです。これを再作成し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=330 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURDB0

関連情報:

 IMS 異常終了 0302

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS331A DDNAME *ddname* IS AN EMPTY DATASET BUT SHOULD NOT BE

説明: ユーティリティ・プログラムがデータ・セットの読み取りを試みましたが、即時ファイルの終わり条件に至りました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 適切なデータ・セットが提供されたことを確認してください。エラーがあれば訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=331 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS332A OSAM RECORD FROM DDNAME *ddname* HAS RBN *nnnnnnnn* AND IS BEYOND THE CURRENT END OF THE DATASET

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティが、累積変更またはログ入力データ・セット (*ddname*) で、データ・セットの終わりの後の次のブロックの RBN 値よりも大きい RBN 値が入った、OSAM レコードを検出しました。これは、正常な操作の下では決して存在するはずのない条件です。その理由は、データ・セットの終わりの後では、挿入は常に次の順次 RBN 値を使用するからです。この原因として最も可能性が高いと思われるのは、適用可能ログ・データ・セットがこの実行にも累積実行にも組み込まれていなかったということです。もう 1 つの可能性としては、HISAM 再編成アンロードが実行され、対応する再ロードは実行されず、アンロード・テープがリカバリー・プログラムへの入力として使用されたことが考えられます。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: 指定されたすべての入力正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、5、6、8、12、14、17g、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=332 制御ステートメントを

使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS333A KEY ID ON DDNAME *ddname* DOES NOT EXIST IN DDNAME *ddname* DATASET

説明: リカバリー・プログラムが KSDS データ・セットに関する変更累積またはシステム・ログ・レコードを検出しましたが、キーがリカバリーされたデータ・セットに存在しません。これは、指定された入力は正しくなかったことを示しています。正常な操作では、変更累積またはシステム・ログにあるレコードがレコード全体として完全でない場合は、データベース・データ・セットまたはイメージ・コピーに必ず存在していることを必要とします。このメッセージが出されるについては、基本的な理由が 2 つあります。これらのデータベース・エラーは、通常、間違ったイメージ・コピーを使用したことが原因で起こるか、変更累積中にログ・データ・セットが脱落したために発生します。

- 変更累積またはシステム・ログ・レコードが部分更新 (ゼロより大きいオフセットで示される) です。このレコードは、データベース・レコードが存在しないため、処理できません。
- 変更累積レコードに、データベース・レコード内の 2 つの別々の区域に関する変更が入っています。このレコードは、データベース・レコードが存在しないため、処理できません。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: すべての入力データ・セットが正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=333 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURDB0

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS334I DDNAME *ddname* DATASET MAY BE SCRATCHED

説明: ユーティリティ制御機能が、指定された *ddname* について、RESTART で必要ではなく、他の使用のために解放できると判別しています。

プログラマーの応答: この判別が正しいか検証し、通常の手順でデータ・セットを処理してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=334 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCPA0、DFSUCP60

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS335A DDNAME *ddname* DATASET MUST BE KEPT IF RESTART IS TO BE USED

説明: ユーティリティ制御機能の判別によると、DFSYSIN データ・セットで要求されている機能を完了するためには、*ddname* が特定されたデータ・セットの指定が必要です。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 指定されたデータ・セットを後続の RESTART に備えて、保持しておいてください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=335 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS336I WTOR REPLY REQUESTS TERMINATION, RESTART MESSAGE WILL BE WRITTEN

説明: オペレーターがユーティリティ制御機能に応答し、プログラムを終了する必要があると指定しました。

システムの処置: RESTART の実行が可能になるよう

に、適切なメッセージが書き込まれます。

プログラマーの応答: RESTART に対応できるように JCL を変更し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=336 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCPA0、DFSUCP60

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS337A BUFFER POOL TOO SMALL FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムがバッファ・プール・スペースを要求しましたが、使用可能なバッファ・プール・スペースがありませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: バッファ・プール仕様を増やし、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=337 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGU0、DFSURRL0、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS338A DATASET DDNAME *ddname* IS TOO SMALL FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムがデータ・セット *ddname* にレコードを追加しようと試みましたが、使用可能なエクステントはすべて使用されており使用不可能でした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: データ・セットが HISAM 編成の場合は、スペース割り振りを増やしてください。データ・セットが HD 編成の場合は、入力データが正しかったか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=338 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS339I FUNCTION *ff* HAS COMPLETED {NORMALLY|ABNORMALLY}{*rc=nm*|*x* NO. OF UPDATES=*nnnnnnnn*}

説明: ユーティリティ・プログラムが処理を完了しました。ユーティリティ処理によっては、戻りコードが印刷されない場合もあります。英字 *x* は、ソート・フェーズを示し、ユーティリティ処理に応じて表示されます。個々のユーティリティ・プログラムの戻りコードは、ユーティリティに関する情報と共に記載されています。

FUNCTION PU の場合は、NO. OF UPDATES=*nnnnnnnn* 句が組み込まれています。ただし、*nnnnnnnn* は、接頭部解決ユーティリティ (Prefix Resolution utility) によって生成された入力 DFSURWF3 データ・セット上のレコードのカウントです。このカウントは、データとデータベースの構成の組み合わせによっては、同じユーティリティの実行でも、UCF の下と非 UCF の下とで異なる場合があります。

問題判別: 2、3、8、18、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=339 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。このステップで SYSUDUMP DD ステートメントを指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0、DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURPR0、DFSURRL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS340I DATABASE *dbdname* HAS BEEN SUCCESSFULLY {UNLOADED|LOADED|RECOVERED} BY FUNCTION *ff* [DATASET *ddname*]

説明: 記述されている機能は完了しています。

DATASET *ddname* の印刷は、実行されるユーティリティーによります。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=340 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGL0、DFSURGS0、DFSURGU0、DFSURRL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS341A CATASTROPHIC ERROR OCCURRED IN DL/I DURING FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティー・プログラムが、処理されているデータ・セットに対して DL/I が操作を実行することを要求しました。PST 戻りコード (PSTRTCDE) により、タスクが実行できない理由が示されます。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: IMS システムおよびすべての制御ステートメントが有効であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=341 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUDMP0、DFSURDB0、DFSURGL0、DFSURGU0、DFSURRL0、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS342I RESTART NOT REQUESTED, NORMAL PROCESSING BEGINS

説明: このメッセージは、ユーティリティー制御機能に関する正常始動を示します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

DFS343W DDNAME *ddname* WAS SPECIFIED AS DD DUMMY OR WAS OMITTED FOR FUNCTION *ff*

説明: 記述されている *ddname* に、エラーの可能性があるとフラグが立てられました。*ff* は、機能の名前を示します。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: JCL が正しいか検証してください。正しくない場合は、訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36

また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=343 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS344W DDNAME FOR *output* COPY WAS|WAS NOT SUPPLIED, *n* COPY REQUESTED FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティー・プログラムが制御ステートメントによって、出力データ・セットのコピー *n* 部の作成を指図されましたが、*ddname* が指定されていました(または、指定されていませんでした)。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 要求されたコピーが 1 部の場合は、2 番目のコピーの DD 名を制御ステートメントから除去してください。要求されたコピーが 2 部の場合は、制御ステートメントに 2 番目の DD 名を追加してください。要求されたコピーが 1 部で、DD 名が指定されていない場合は、これを指定して、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=344 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS345I RESTART REQUESTED, RESTART PROCESSING BEGINS

説明: このメッセージは、PARM= または DFSYSIN データ・セット内の
FUNCTION=OP,REQUEST=RESTART 制御ステートメントが RESTART を要求しているときに、ユーティリティー制御機能についての始動を示します。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

DFS346A NO ALTERNATE UNIT AVAILABLE FOR DDNAME *ddname* FOR FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティー・プログラムが出力データ・セットで永続出力エラーを検出しましたが、使用可能な代替出力装置がありませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: コピーが 2 部要求されていた場合は、入出力エラーのため、1 部はすでに終了していました。この実行では有効な出力はありません。したがって、出力装置および出力ボリュームに関する作業指示が適切であることを確認して、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、23、36

また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の
FUNCTION=OP,MSGNUM=346 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS347I CONTROL DATASET BUILT ON DDNAME *ddname*

説明: ユーティリティー制御機能は、制御データ・セットを構成して、それをデータ・セット *ddname* に書き込んでいます。このデータ・セットが必須なのは、RESTART が必要な場合です。

プログラマーの応答: ユーティリティー制御機能の処理が正常終了した時点で、このデータ・セットはスクラッチできます。再始動できる条件が検出されたら、このデータ・セットを DFSOCDS DD データ・セットとして指定する必要があります。

104 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

DFS348A UNEXPECTED RETURN STATUS *ss* ON CALL FROM FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティー・プログラムが、DL/I 呼び出し後に、予期しない戻り状況を検出しました。*ss* が、受信された実際の状況で置き換えられます。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の
FUNCTION=OP,MSGNUM=348 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGL0、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS349I ALL FUNCTION TYPE *ff* REQUESTS COMPLETED

説明: ユーティリティー制御機能が、示されているタイプの要求すべての処理を完了しました。このメッセージは、この処理に対して追加のクロスチェックを提供します。このタイプの処理を要求しなかった場合でも発行され、すべての機能が試みられたか検証できます。

プログラマーの応答: すべてのメッセージについて充足が得られれば、それ以上の処置は必要ありません。すべての機能が完了しなかった場合、DFSYSIN データ・セット制御ステートメントを変更して、完了しなかった機能を要求し、ジョブを再実行依頼してください。RESTART は指定しないでください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

DFS350A DATABASE *dbname* CONTAINS NO DATASETS

説明: ユーティリティー・プログラムが、データ・セット・グループがまったく含まれていない DBD を検出しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: このデータベースを定義している DBD をチェックしてください。1 次データ・セット名

が必要です。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=350 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのデータ・セットで指定してください。

モジュール: DFSUCCT0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 11 章 DFS メッセージ DFS351W - DFS400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS351W DFSYSIN DATA SCANNED FOR OPTION REQUESTS ONLY

説明: ユーティリティー制御機能が再始動しました。古い制御データ・セットで、使用される機能が定義されているため、新規 DFSYSIN データ・セットが処理されるのは、FUNCTION=OP タイプの制御要求の場合です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 処理は、本当に再始動の必要があったか検証してください。その必要があった場合は、それ以上の処置は必要ありません。その必要がなかった場合は、JCL を訂正して、RESTART に対する要求を除去し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=351 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS352I DFSYSIN DATA OPTIONS HAVE BEEN SUPPLEMENTED WITH DEFAULTS

説明: ユーティリティー制御機能によって、デフォルトによる DFSYSIN データ・セット要求が増えています。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

DFS353A CONTROL DATASET IS INVALID OR CONTAINS CONFLICTING REQUESTS

説明: 制御データ・セットを使用不能にするエラーが、ユーティリティー制御機能によって検出されています。前のメッセージにこの条件が生じる理由が定義されています。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: エラーがあればすべて訂正し、ジ

ョブを再実行依頼してください。RESTART を指示しないでください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=353 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS354I NO ERRORS DETECTED. DATA BASE RELOAD SUCCESSFUL.

説明: HD 再編成再ロード・ユーティリティーが、データベースを正常に再ロードしました。

モジュール: DFSURGL0

DFS355I ERRORS DETECTED. DATA BASE RELOAD UNSUCCESSFUL.

説明: 前のメッセージで記述されていたエラーにより、データベースの正常な再ロードが妨げられています。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURGL0

DFS356A HEADER RECORD NOT FOUND ON DDNAME *ddname* FOR FUNCTION *ff*

説明: 入力データ・セット *ddname* がこの機能では無効のデータ・セットであることを、ユーティリティー・プログラムが検出しました。入力ファイルのヘッダー・レコードが、要求された処理では、無効であったか、フォーマットに誤りがありました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: 入力が入力ファイルに誤りがないか確認してください。正しかった場合は、この入力ファイルに誤りがあり、再作成する必要があります。ファイルを訂正した

ら、ジョブを再実行依頼してください。異常終了コード 0302 を参照してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=356 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSUC350、DFSURDB0

関連情報:

 0302 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS357A RESTART FAILURE-DFSOCDS IS NOT READABLE

説明: ユーティリティ制御機能が RESTART の実行を試みていたときに、エラーが発生して、古い制御データ・セットの正常な読み取りができませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 正しいデータ・セットが提供されたことを確認してください。データ・セットを別の装置に移動し (入出力エラーの場合)、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=357 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS358A INVALID SEGMENT CODE *ss* FOUND IN DATABASE *dbdname* DDNAME *ddname* ON FUNCTION *ff*

説明: ユーティリティ・プログラムが、物理セグメント・コードがゼロ、または関連 DBD *dbdname* データ・セット *ddname* 内で最も値の大きいセグメント・コードよりも大きい、セグメントを検出しました。このセグメント・コードが *ss* を置き換えます。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 指定されている DBD がデータベースを正確に記述しているか確認してください。デー

タベースのデータ保全性に疑問がある場合は、問題のデータベースに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティ・プログラムを実行し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=358 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS359A RESTART FAILURE-FUNCTION *ff* NOT FOUND IN DFSOCDS

説明: ユーティリティ制御機能が、機能の RESTART を実行しようとしていたところ、機能 *ff* は、制御データ・セットで必須として示されていませんでした。このエラーは、通常の処理では起こりません。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 適切な制御データ・セットが DFSOCDS DD ステートメントで指定されていることを確認してください。適切なジャーナル・データ・セットが DFSOJRNLD DD ステートメントで指定されていることを確認してください。RESTART が必要であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=359 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS360I ERROR-ID CARD ERROR ENCOUNTERED

説明: 変更累積ユーティリティが、ID の制御コードが無効の制御ステートメントを検出しました。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUCCT0

**DFS361A DFSNCDS IS NOT READABLE,
RESTART NOT POSSIBLE, RE-RUN
JOB FROM BEGINNING**

説明: ユーティリティ制御機能が DFSNCDS ファイルに対して新規制御データ・セットの書き込みまたは読み取りを試みていたとき、エラーが検出されました。このエラーは、本質として物理装置指向の場合も論理的な場合もあります。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 行われている処理が RESTART の場合は、DFSNCDS データ・セットが適切に割り振られていたか検証してください。処理が RESTART ではなかった場合は、エラーの原因はユーザー提供の制御ステートメント情報にあったと考えられ、前のメッセージにこのエラーが反映されます。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=361 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS362I *function* HAS TERMINATED WITH
RETURN CODE *nn***

説明: 現在実行中のユーティリティが終了し、戻りコード *nn* を渡します。

プログラマーの応答: 戻りコードがゼロであれば、それ以上の処置は必要ありません。戻りコードがゼロ以外の場合は、エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=362 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS363A {*ALL|*OTHER} SPECIFIED MORE
THAN ONCE FOR FUNCTION CA**

説明: 示されているパラメーターが複数回指定されました。DB0 ステートメントが使用されている場合は、DB1*ALL ステートメントも使用することはできません。*OTHER パラメーターを指定できる DB ステートメントは 1 つだけです。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=363 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCCT0, DFSUCP40, DFSUCUM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS364W DDNAME *ddname* SPECIFIED MORE
THAN ONCE**

説明: 制御ステートメントが、複数の制御ステートメントで *dbdname/ddname* の組み合わせを指定しています。

システムの処置: 処理は続行され、重複制御ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=364 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCUM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS365A {DDNAME|DBNAME} TABLE HAS
OVERFLOWED**

説明: ユーティリティ・プログラムが、指定された数を超える DD 名および DB 名を検出し、メモリー内テーブルの予想サイズを超えました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: ID 制御ステートメントが提供された場合は、DD 名および DB 名の最大指定を大きくしてください。そうでない場合は、正しい変更を使用して指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=365 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCUM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS366A REQUEST *nnnn* IS A DUPLICATE FUNCTION REQUEST OF REQUEST *nnnn* AND IS AN ERROR

説明: ユーティリティー制御機能が重複する要求を検出しました。2 つの入力制御要求番号が、*nnnn* の値に取って代わります。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 要求の 1 つを除去し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=366 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCUM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS367I UTILITY CONTROL FACILITY RUNNING, ENTER REQUESTS AS NEEDED

説明: ユーティリティー制御機能が初期設定を完了し、要求された機能の実行準備をしています。このメッセージは WTOR メッセージでもあり、オペレーター・コンソールに表示されるので、実行プログラムとの通信が可能になります。

プログラマーの応答: 特殊な終了または状況情報が必要でない限り、処置は必要ありません。

モジュール: DFSUCP40、DFSUCUM0

DFS368I ERLG RECORD ENCOUNTERED FOR DATABASE *dbdname* DATASET *ddname* ON VOLUME *vol. ser.* FOR FUNCTION CA

説明: 変更累積ユーティリティーが、入力ファイルでエラー・ログ・レコード (ERLG) を検出しました。トラック・リカバリーを検討してもよいと考えられます。

オペレーターの応答: コンソール・オペレーターは、ジョブの実行依頼者にこの問題を報告する必要があります。

プログラマーの応答: データベース管理担当者に通知して、データベース管理担当者が、この変更累積データについて使用すべきデータベース・リカバリーのタイプを判別できるようにしてください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=368 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS369I {FUNCTION IS *ff* [FOR DATABASE *dbdname*] [DATASET *ddname*]||INVALID REPLY}

説明: このメッセージは、ユーティリティー制御機能 WTOR への応答に対応して出されます。無効の応答がなされた場合は、2 番目のメッセージが出されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSUCUM0

DFS370W REQUEST *nnnn* IS NOT REQUIRED AND IS IGNORED

説明: DB スキャン、接頭部解決、または接頭部更新の制御要求が指定されましたが、それが必要ではないときでした。処理は続行されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=370 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。

SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS371A A RECORD KEY LENGTH *nnn* IS LONGER THAN SPECIFIED FOR FUNCTION CA

説明: 入力レコードが検出されていますが、キー長さ *nnn* が ID 制御ステートメントで指定された長さよりも長いか、ID ステートメントが指定されていなかった場合であれば、10 バイトより長いキーが検出されました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 正しいキー長さ指定を使用して、ID 制御ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=371 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCCT0、DFSUCUM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS372A DBD *dbdname* CONTAINS A BLANK DDNAME

説明: テキストに指定されている DBD *dbdname* は、基本 *ddname* がブランクです。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: このエラーは、指定されている DBD が論理 DBD であることを示しています。制御ステートメント指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=372 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS373A DDNAME DFSUCUM0 IS NOT A VALID OLD CHANGE ACCUMULATION DATASET

説明: 正しいフォーマットのヘッダー・レコードを持たない、古い累積データ・セットが提供されました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=373 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUC350

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS374W WARNING-NO CHANGE RECORDS FOUND ON LOG(S)

説明: 提供されたログ入力に、ログ・レコード・コードが X'50' のレコードがまったく含まれていなかったか、ページ日付より前のレコードばかりであったか、どちらかです。

システムの処置: 処理は続行されます。


プログラマーの応答: すべての入力が正しいか確認してください。そうでない場合は、入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。さらに、次のようにしてください。

- ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=374 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行する。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。
- メッセージ DSP0281I を受信したため、変更累積を実行している場合は、RECON を更新して、変更実績が実行されたことを示す。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUCUM0

関連情報:

 DSP0281I (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS375A DFSOJRNL IS NOT CONSISTENT,
RESTART NOT POSSIBLE**

説明: 入力された古いジャーナル・データ・セットが正しくないか、関連 DFSOCDS データ・セットの場合は適切でないことを、ユーティリティ制御機能が判別しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 適切な入力ファイルが提供され、RESTART が行われるのを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=375 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS376A AN APPARENT SORT SEQUENCE
ERROR HAS BEEN DETECTED**

説明: EXIT 35 でレコードが受信されていますが、最後に受信されたレコードより順序が低いものです。これは、内部システム・エラーです。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=376 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS377A CHECKPOINT INPUT INVALID ON
DDNAME *ddname* FOR FUNCTION *ff***

説明: ユーティリティ・プログラムに再始動データ・セットが提供されましたが、適切なフォーマットではありませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: RESTART が必須ではなかった場合は、DD ステートメント DFSURSRT を除去してください。RESTART が必須であった場合は、DD ステートメントが正しいことを確認し、ジョブを再実行依頼してください。DD ステートメントが正しかった場合は、チェックポイント・データ・セットが破棄されていて、使用できないためです。ジョブを始めから RESTART してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=377 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS378I CHECKPOINT RESTART
SUCCESSFULLY POSITIONED FOR
FUNCTION *ff***

説明: ユーティリティ制御機能が、入力ファイル、出力ファイル、およびデータベース・ファイルを正常に位置指定しています。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=378 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS379I ERRORS DETECTED-CHECKPOINT
RESTART UNSUCCESSFUL**

説明: チェックポイント・リスタートの試みが正常に行われませんでした。前のメッセージに記述されていた条件が原因です。

プログラマーの応答: 検出されたエラーが訂正可能であれば、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。それ以外の場合は、ジョブを始めから再始動してください。

モジュール: DFSURGU0

**DFS380A UNABLE TO POSITION DATABASE
dbdname FOR FUNCTION ff**

説明: データベース *dbdname* の位置指定を試みているとき、ユーティリティー・プログラムがチェックポイント・セグメントを見つけれませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントがすべて正しく、データベースが元のアンロードと RESTART の試みの間で変更されていないか確認してください。訂正が行える場合は、ジョブを再実行依頼してください。それ以外の場合は、ジョブを始めから再始動してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=380 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS381I CHPNTnnnn, {**|vol1}, {****|vol2},
segname**

説明: システムは、HD 再編成アンロード・ユーティリティー・プログラムによってチェックポイントが取られるたびに、このメッセージをコンソールに書き込みます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn 1 から 9999 の範囲の 10 進値で、チェックポイントが取られるごとに 1 ずつ増分する。

vol1 現行の 1 次出力ボリューム通し番号、または 1 次出力ボリュームが使用中でないことを示すアスタリスク。

vol2 現行の 2 次出力ボリューム通し番号、または 2 次出力ボリュームが使用中でないことを示すアスタリスク。

segname

チェックポイントが取られた時点で検索中のセグメントの名前。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSURGU0

**DFS382A DBD dbdname IS NOT A VALID DBD
FOR THIS FUNCTION ff**

説明: 制御ステートメントで指定された DBD *dbdname* が、DBD をロードするために使用されました。DBD を調べた時点で、DBD が有効な IMS DBD ではないか、HALDB であり、ユーティリティーが HALDB をサポートしていないことが分かりました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正するか、制御ステートメントが正しい場合は、DBD を有効な IMS DBD で置き換えてください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=382 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS383A INPUT RECORDS ARE NOT IN
SEQUENCE FROM DDNAME ddname
FOR FUNCTION ff**

説明: ルート・セグメントのシーケンス・フィールド (キー) が、処理された直前のルート・セグメントのそれに等しいか、それよりも小さいことが検出されています。


システムの処置: 実行は終了されます。

プログラマーの応答: 異常終了 0359 が出され、ストレージ・ダンプが作成されたのは、異常終了オプションが指定され、SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメントが指定されていた場合です。異常終了への入り口にあるレジスター 11 が現行キーのアドレスで、レジスター 9 が直前のキーのアドレスです。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=383 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報:

 0359 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS384A PROCESSING OF LAST UCF
REQUEST COMPLETED-RESTART
NOT ALLOWED**

説明: ユーティリティ制御機能は、すべての要求を正常に完了しています。正常な完了が達成されたので、RESTART は使用できません。

システムの処置: 処理は続行されます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=384 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS385A WORK AREA EXCEEDED IN FIELD
name FOR REQUEST nnnn**

説明: ユーティリティ制御機能が DFSYSIN データ・セットからの要求を処理していたとき、DFSUCP70 作業域のフィールド *name* がオーバーフローしました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 制御要求 *nnnn* で指定されたパラメーターが多すぎました。1 つの制御要求に実行させてエラーになったのと同じ機能を、複数の制御要求に実行させてください。この処置により、テーブル要件の全長は短縮されますが、それでも必要な機能は実行されます。ジョブを再実行依頼し、RESTART は実行しないでください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=385 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS386A A PREMATURE EOF WAS
ENCOUNTERED ON DDNAME
ddname**

説明: ユーティリティ・プログラムが入力ファイルを読み取っているとき、ファイルの終わりに達しました。この条件が予想されていた正確な時刻ではなかったので、エラーになります。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: データ・セットが完全であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=386 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURUL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS387I ERROR-NO VALID RECORDS ON
INPUT DATASET**

説明: HD 再編成再ロード・プログラムへの入力データ・セットに、アンロードされた有効なデータベース・レコードが含まれていませんでした。戻りコードは 16 です。

プログラマーの応答: 無効の入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。HD アンロードが正常に行われ、アンロードされたデータ・セットが有効であることを確認してください。ジョブを再実行依頼する前に、アンロード・プログラムを再実行して、再ロード用の入力を再作成する必要がある場合もあります。

モジュール: DFSURGL0

**DFS388A DDNAME ddname DID NOT HAVE A
STATISTICS RECORD FOR
FUNCTION ff**

説明: ユーティリティ・プログラムは、入力ファイル *ddname* を処理中に、統計レコードの検出を予想していました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: "NSTAT" が HISAM アンロードで指定されていた場合は、OPTIONS=(NSTAT) を HISAM 再ロード用の SYSIN データ・セットで指定し

てください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=388 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS389W PROCESSING FOR THE
 {FOLLOWING | PRECEDING}
 REQUEST HAS TERMINATED
 {ABNORMALLY | NORMALLY}**

説明: この通知メッセージは、要求がどのように完了したかをユーザーに知らせるために出されます。

システムの処置: 処理は、このメッセージに示されるように、正常または異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了が生じた場合は、このメッセージより前に印刷されているエラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。正常終了が行われた場合は、それ以上処置は必要ありません。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=389 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCP40、DFSURGL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS390A DDNAME *ddname*HAS AN INVALID
 LOGICAL RECORD FOR FUNCTION
 *ff***

説明: 発行プログラムが次のいずれかのエラーを検出しました。

- 入力レコードが有効なタイプではない。有効なタイプには 00 (論理親)、10 (論理子)、60 (ダミー)、および 80 (チェックポイント) があります。
- タイプ 00 またはタイプ 10 の処理時に、無効の論理記述が DBD に存在する。

- 作業ファイル・データ・セットの入力処理中に、セグメント記述子ブロック (SDB) で検出されなかったセグメントが含まれるファイル・レコードが検出された。

上記のうち最初の 2 つの場合は、無効の条件が生起すると、そのつど作業ファイル・レコードが印刷されます。3 番目の場合は、作業ファイル・レコードが印刷されるのは 1 回だけで、ジョブが終了します。この作業ファイル・レコードは、DFSURWF3 DD ステートメントで指定されたデータ・セットからのものです。レコードは、16 進法で印刷され、EBCDIC 変換付きです。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 完全なログ・データ・セット・ファイルが入力として指定されているか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=390 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS391I *This message is variable*

説明: ユーティリティーが汎用メッセージを印刷する必要がある場合は、いつでもこのメッセージが使用されます。警告やエラー・メッセージでこの番号が使用されることはありません。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=391 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール:

DFSUARC0、DFSUARPO、DFSUCCT0、DFSUCP40、DFSUDMP0、DFSUICP0、DFSURDB0、DFSURRL0、DFSULG20、DFSUPNT0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS392A DUPLICATE NAMES *name* SPECIFIED
ON CONTROL REQUEST FOR
FUNCTION *ff***

説明: 制御ステートメントに重複データ定義名 (DD 名) が含まれています。この条件によってシステム異常終了 0013 が起こったことが考えられます。


システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: エラーの制御要求に出力プリンターでフラグが立てられました。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=392 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCMN0、DFSUCP40、DFSUDMP0

関連情報:

 0013 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS393A BLDL FAILED FOR MODULE *cccccccc*

説明: メッセージにリストされているモジュール *cccccccc* は、BLDL マクロが PDS ディレクトリーで STEPLIB、JOBLIB、SYS1.LINKLIB を検索したとき、検出されませんでした。

システムの処置: このユーティリティに関しては、処理が停止します。

プログラマーの応答: JCL で正しいライブラリーが指定されているか、このモジュールがプログラム・ライブラリーのいずれかにあるか、検証してください。ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=393 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCF00、DFSURDB0

関連資料:

 z/OS: BLDL の完了コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS394A AN RBA SEQUENCE ERROR
OCCURRED FOR FUNCTION *ff***

説明: ユーティリティ・プログラムが ESDS を読み取り中で、戻されたレコードの相対バイト・アドレス (RBA) が前のものより高くありませんでした。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: データベースがエラーです。データ・セットのリカバリーが必要です。データベース・リカバリー・ユーティリティを使用してこのリカバリーを実行してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=394 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUDMP0、DFSURDB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS395I BACKOUT COMPLETE FOR PSB
psbname [TO CHKPT *chkptid*] [FOR
REGION *regid*]**

説明: データベース・バックアウト・ユーティリティが要求されたデータベース・バックアウトを正常に完了しました。CHKPT オプションが SYSIN データ・ファイルで指定された場合は、TO CHKPT *chkptid* でバックアウトが完了したチェックポイントを識別し、FOR REGION *regid* で PSB が実行中であった領域を識別しています。(デフォルト =01)

オペレーターの応答: 再始動処置を要求する必要がある場合は、チェックポイント番号とボリューム通し番号を記録してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0、DFSURDBC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS396I SYSTEM ERROR DURING BACKOUT
OF DATA BASE *dbname* PROGRAM
*psbname***

説明: データベース・バックアウト・ユーティリティが、指定されたデータベースに関するデータ管理プロ

ク・ディレクトリー・エントリーを見つけれませんでした。

プログラマーの応答: この問題は、バックアウトに使用された PSB が元の実行以降に変更されていることを示しています。EXEC ステートメントで要求された PSB をチェックして、名前および PSB が正しいか確認してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS397I BACKOUT UNABLE TO OPEN DATA
BASE *dbname* PROGRAM *psbname***

説明: データベース・バックアウト・ユーティリティーが、指定されたデータベースを開けませんでした。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在していることを確認し、データ・セットを正しく識別してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS398I I/O ERROR DURING BACKOUT IN
DATA BASE *dbname* PROGRAM *name***

説明: データベース・バックアウト・ユーティリティーが、指定されたデータベースに対してバックアウトを試みている最中に、入出力エラーを検出しました。

プログラマーの応答: エラーのデータベースに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティーを実行してください。このバックアウト試行の出力も含めて、すべてのログ・データ・セットを使用しています。その上で、バックアウト・ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS399I BUFFER POOL TOO SMALL FOR
BACKOUT OF DATA BASE *dbname*
PROGRAM *psbname***

説明: データベース・バックアウト・ユーティリティーの実行を試みていた際に、データベース・バッファー・プールが小さすぎて、指定されたデータベースに対応し切れませんでした。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントでデータベース・バッファー・プール・サイズを大きくし、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0、DFSRDBC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS400I BATCH BACKOUT UNABLE TO
OPEN THE INPUT LOG *ddname***

説明: バッチ・バックアウト・ユーティリティー (データベース・ユーティリティー) が、*ddname* IMSLOGR または IMSLOGRx で指定されているログ・データ・セットを開けませんでした。

システムの処置: バッチ・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 は終了し、戻りコード X'14' が示されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントをチェックし、エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0、DFSBACKI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 12 章 DFS メッセージ DFS401I - DFS0450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS401I DBRC CALL FAILURE - RETURN CODE = *xx* - CALL = *yyyyyy*

説明: バッチ・バックアウト・ユーティリティーが DBRC から予期しない戻りコードを受信しました。*yyyyyy* が DBRC に対してなされた呼び出しであり、*xx* が DBRC からの戻りコードです。

システムの処置: メッセージで識別されている呼び出しが SAVUOR、LOGSET、または VERUOR であれば、バッチ・バックアウト・ジョブは終了しました。呼び出しが UPDUOR、INIT、または EOJ の場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティーが実行されていた PSB に関連したデータベースから、必要な変更は正常にバックアウトされています。

プログラマーの応答: メッセージで識別されている呼び出しが SAVUOR、LOGSET、VERUOR、または UPDUOR の場合は、IBM に連絡して、問題判別支援を要求してください。

呼び出しが INIT または EOJ の場合は、次の戻りコードのいずれかを参照してください。

コード (16 進数) 説明

08 バックアウトの実行対象にされた IMS サブシステムには、バックアウトされる変更を含んでいる 1 つ以上のデータベースの使用権限が与えられていませんでした。

以前のエラーによって、データベース許可の消失が生じていた可能性があります。以前のエラーがあれば、その原因を判別してください。以前のエラーがない場合は、DBRC EOJ 呼び出しが失敗している、RECON データ・セットが更新を必要としている可能性があります。

2C 内部 DBRC エラーが発生しました。DBRC が RECON データ・セットにアクセスできませんでした。RECON データ・セットに関する該当の DD ステートメントが使用可能であることを確認してください。

30 DBRC に渡されたパラメーターが無効でした。RECON データ・セットは、手動で更新する必要があります。IBM に連絡して、問題判別支援を要求してください。

問題判別: 1、2、20、25

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0401I DBRC CALL FAILURE - RETURN CODE = *xx* - CALL = *yyyyyy*

説明: DFS401Iを参照してください。

関連情報:

『DFS401I』

DFS0402 DATABASE *dbname* NOT STARTED DUE TO RECOVERY NEEDED.

説明: /START DB コマンドの処理中、システムが、データベース *dbname* に据え置きバックアウトが必要であることを検出しました。DBRC を使用するこのバックアウトの検証 (バックアウトがバッチ・バックアウト・ユーティリティーで行われなかったか確認するため) によって、データベースには最初に順方向リカバリーが必要であることが検出されました。この条件は、リモート・テークオーバー後の最初のアクティブ開始時に発生します。シャドーイングが行われたデータベースは、テークオーバー時点でトラッキング・システムに対して許可されていませんでしたが、アクティブのコピーはテークオーバー前に更新されました。

システムの処置: データベースは開始されず、バックアウトは行われません。

ユーザーの処置: データベースの順方向リカバリーを行ってから、開始コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSDBDR0

DFS0403W IMS *xxxxxxx* CALL TO MVS ARM FAILED - RETURN CODE= *nn*,REASON CODE=*nnnnn*.

説明: z/OS 自動再始動マネージャー (ARM) の呼び出しが失敗しました。メッセージ・テキストには、呼び出しのタイプが *xxxxxxx* で表され、戻りコードおよび理由コードが含まれています。*xxxxxxx* の値は、次のとおりです。

REGISTER

z/OS ARM に登録する。

READY

IMS が作業の受け入れ準備ができていることを z/OS ARM に通知する。

ASSOCIATE

これが XRF 代替領域または高速 DB リカバリ領域であることを z/OS ARM に通知する。

UNKNOWN


不明の要求値が DFSARM00 に渡された。

システムの処置: IMS は戻りコードを無視し、実行を継続します。

プログラマーの応答: 障害の理由を判別するには、IXCARM の戻りコードおよび理由コードを確認してください。その後、問題を修正してください。

モジュール: DFSARM00

関連資料:

 z/OS: IXCARM の戻りコードおよび理由コード

せんでした。オンライン変更機能を使用する場合は、非アクティブ ACBLIB が両方のプロシージャで定義されている必要があります。zzz は、指定が欠落しているプロシージャを識別します。IMS プロシージャの場合は 001、DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャの場合は 002 です。

004

IMSACBA または IMSACBB の DD ステートメントが欠落しています。zzz は次の場合があります。

001 - IMS プロシージャから欠落している DD ステートメント

002 - DL/I SAS プロシージャから欠落している DD ステートメント

システムの処置: yyy が 1 または 2 であるのは、DL/I 従属アドレス・スペースが異常終了して、0023 が示され、それが原因で、制御アドレス・スペースが異常終了して、0150 が示されている場合です。yyy が 3 であれば、初期設定が続いています。

yyy が 004 である場合、IMS は異常終了コード 0023 で異常終了します。

プログラマーの応答: yyy が 1 または 2 の場合は、示されている DDNAME に関する指定を訂正してください。指定されているデータ・セットおよびその連結順序が、IMS と DL/I の両アドレス・スペース・プロシージャで同じである必要があります。yyy が 3 の場合は、オンライン変更機能を使用する予定であれば、制御領域を取り消して、非アクティブ ACBLIB に関して欠落している指定を行ってください。

yyy が 004 の場合は、示されている DDNAME に関する指定を訂正してください。

モジュール: DFSSDLC0

DFS0404W INCONSISTENT ACBLIB SPECIFICATION - IMSACBx - CODE=yyy-zzz

説明: DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。IMS プロシージャでの ACBLIB 指定が、DL/I 従属アドレス・スペース・プロシージャでの対応する指定と一致しません。メッセージでは、エラーの DDNAME が IMSACBA と IMSACBB のどちらかであることを示しています。yyy は、次のように定義されています。

コード

説明

001

DDNAME に関して指定されたデータ・セットの数が同じではありませんでした。zzz は該当しません。

002

データ・セットの数は同じでした。ただし、データ・セットの名前およびボリューム通し番号が一致しませんでした。zzz では、エラーのデータ・セット指定を識別します。例えば、zzz が 002 の場合は、IMSACBx に関して指定された 2 番目のデータ・セットが、両方のプロシージャで同じではないことを示しています。

003

IMSACBx は非アクティブ ACBLIB を表しています。この DDNAME は、一方のプロシージャでは定義されていましたが、他方では定義されてい

DFS0406A AN ERROR OCCURRED DURING AUTHORIZATION PROCESSING FOR DATABASE xxxxxxxx. RETURN CODE = yy. PSB=zzzzzzzz

説明: IMS は、指定の PSB に収められた DB PCB の 1 つに示されている、指定されたデータベースに関して、データベース許可を取得できませんでした。オンライン・アプリケーションからの呼び出しで障害が発生した場合、メッセージ・テキストには PSB 名のみが表示されます。

戻りコード (16 進数) yy には、次の値と意味がありません。

コード (10 進数)

意味

01 HALDB 区画の許可時に、区画が割り振り済み

であり、許可されないことが検出されました。許可を実行する前に区画を割り振り解除する必要がありますが、割り振り解除に失敗しました。割り振り解除失敗のメッセージ DFS2503W を見て、失敗した理由を調べて、必要な変更を行ってください。その後でジョブを再実行してください。

システムの処置: アプリケーションは、プログラムが INIT STATUS GROUPA 呼び出しを実行した場合は、BA 状況コードのいずれかで終了します。プログラムが INIT 呼び出しを実行しなかった場合は、アプリケーションは異常終了コード 3303 で異常終了します。


プログラマーの応答: 戻りコードに応じて適切な処置を取ってください。

問題判別: 35

モジュール: DFSDBAU0

関連情報:

DFS2503W

 3303 (メッセージおよびコード)
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0407I REGION TOO SMALL


説明: モジュール DFSILTA0 が十分なストレージを取得できなかったため、キュー項目を作成できませんでした。

システムの処置: DFSILTA0 は異常終了し、異常終了コード 0407 が示されます。

プログラマーの応答: 領域を大きくしてジョブを再実行するか、EXEC ステートメントで ST= パラメーターをコーディングして、処理時間を短縮してください。

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

 0407 (メッセージおよびコード)

DFS0408I INVALID 'ST' PARAMETER.

説明: EXEC ステートメントに無効な ST パラメーターがありました。

システムの処置: ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が異常終了し、異常終了コード 0415 が示されます。


プログラマーの応答: EXEC ステートメントのパラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: ログ・トランザクション分析ユーティリティ

で、EXEC ステートメントのパラメーターのフォーマットを確認してください。

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

 IMS 異常終了 0415

DFS0409I INVALID 'OUT' PARAMETER.

説明: EXEC ステートメントに無効な OUT パラメーターがありました。


システムの処置: ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が異常終了し、異常終了コード 0415 が示されます。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントのパラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: ログ・トランザクション分析ユーティリティで、EXEC ステートメントのパラメーターのフォーマットを確認してください。

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

 IMS 異常終了 0415

DFS0410I END OF FILE ON LOG DATASET

説明: 入力ログ・データ・セットのファイルの終わりに達しました。

システムの処置: ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が正常に終了します。

モジュール: DFSILTA0

DFS0411I DDNAME OPEN FAILED.

説明: メッセージの中で DD 名が定義されているデータ・セットで、OPEN が失敗しました。レジスター 11 がデータ・セットの DCB を指しています。


システムの処置: DFSILTA0 は異常終了し、異常終了コード 0411 が示されます。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: DCB および DD ステートメントをチェックしてください。

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

 IMS 異常終了 0411

DFS0412I MISSING 08 RECORD

説明: ログ・トランザクション分析プログラム DFSILTA0 が、終了レコード (X'07') を以前のスケジュール・レコード (X'08') に接続できませんでした。

システムの処置: DFSILTA0 は処理を続行します。X'08' レコード・アプリケーション・プログラム・スケジュールに関連したトランザクションがあれば、いずれも無視されます。

問題判別: この問題は、IMS エラーと考えられます。
1、2、3、 8、25、36

モジュール: DFSILTA0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0413I INCORRECT LOG DATASET xxxxxxxx
- DISCARDED RC=zz**

説明: ログ・データ・セットに関する DD ステートメント xxxxxxxx の指定に誤りがありました。エラーの原因は、次のいずれかです。

- DD DUMMY または DSN=NULLFILE が指定された。
- ログ記録モードが単一であるため、指定された 2 次ログ・データ・セットが使用されない。
- OLDS DD 名に関する必須 1 次または 2 次パートナーが指定されなかった。ログ記録モードが重複であり、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) は、対 (1 次と 2 次) で指定する必要があります。
- バッチ・プログラムに関して、DD ステートメントの指定に誤りがあった。
- オンライン・プログラムに関して、DUAL ログ記録モードが要求されていなかった。1 次 OLDS に関する割り振りは正常に行われましたが、2 次 OLDS に関する割り振りが失敗しました。

- | • DD 名で先行書き込みデータ・セット (WADS) を指
- | 定する際に、属性の指定が誤っていた。

理由コード zz には、次の値と意味があります。

コード (10 進数)

意味

- 04 次のいずれかの理由で、DDNAME=xxxxxxx
に関して、割り振りが失敗しました。
 - DFSMDA メンバーは検出されず、DD ステートメントが JCL ストリームで検出されませんでした。
 - メッセージ DFS2503W も受信された場合は、割り振り失敗の理由について、DFS2503W を参照してください。

- 08 OLDS/WADS 装置が DASD ではありませんでした。
- 12 DEVTYPE が DDNAME=xxxxxxx に関して失敗しました。
- 16 DDNAME=xxxxxxx が DD DUMMY または DSN=NULLFILE として指定されました。
- 20 RDJFCB が DDNAME=xxxxxxx に関して失敗しました。
- 28 OBTAIN が、DDNAME=xxxxxxx で定義されたデータ・セットに関して失敗しました。
- 32 OLDS ブロック・サイズが 2K の倍数ではありませんでした。
- 36 重複 OLDS が指定され、2 次 OLDS ブロック・サイズ (DFSOLSmm) が 1 次 OLDS ブロック・サイズ (DFSOLPnn) と異なっていました。
- 40 OLDS ブロック・サイズが、正常に割り振られた最大の OLDS ブロック・サイズ (DFSOLPnn,DFSOLSmm) より小でした。
- 44 WADS 装置タイプが不整合 (特殊) でした。
- 48 OLDS ブロック・サイズがトラック容量より大でした。
- 52 BUFSTOR=64 が OLDSDEF ステートメントに指定されましたが、この OLDS は拡張フォーマット・データ・セットではありませんでした。
- 56 WADS が 5 トラックより小さくなっています。
- | 60 IMS ロガーは、CONNECT (OPEN) コマンド
- | を使用して WADS に接続したときに、
- | DFSMS Media Manager からゼロ以外の戻り
- | コードを受け取りました。このエラーの最も一
- | 般的な理由は、WADS が VSAM データ・セ
- | ャットではないことです。
- | 64 WADS CI サイズが 4 KB ではありませんで
- | した。

システムの処置: DD エラー・ステートメントは廃棄され、システム初期設定は続行されます。DUAL が要求され、エラーが OLDS 対に存在する場合は、OLDS 対は廃棄されます。システム初期設定が続行されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントをチェックし、エラーがあれば、すべて訂正して、次のシステム初期設定時には、データ・セットが使用可能になるようにしてください。

問題判別: 1、3、8、11、36

モジュール: DFSFDLS0、DFSXLGI0

関連情報:

615 ページの『DFS2503W』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0414I CONTINUING WITH ALTERNATE LOG

説明:

または

PERMANENT I/O ERROR ON *ddname* - DURING LOG *zzzz* *xx*

説明: このメッセージは、どちらかの形式で出される可能性があります。最初の形式の場合は、DD 名で指定されたログ・データ・セットで、永続入出力エラーが発生したことを示しています。ログ・データ・セットは、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) と先行書き込みデータ・セット (WADS) とバッチ・システム・ログ・データ・セット (SLDS) のいずれかです。*zzzz* の値は、WRITE または READ です。

2 番目の形式では、システムが代替ログ・データ・セットから続けることを示しています。

WRITE エラーの場合は、*xx* は、無効の DECB 通知コードで、ECB (ECBCC) の最初のバイトに含まれています。WRITE エラーで *xx* 値がない場合は、ログ・データ・セット CLOSE エラーが EOV 処理時に発生したことを示しています。

READ エラーの場合は、*xx* は OSAM エラー戻りコードです。

xx の値と意味は、次のとおりです。

コード (16 進数)

説明

- 01** DD ステートメントが欠落しています。
- 02** 連結データ・セット。
- 03** DASD データ・セットに関して指定されたボリュームよりも装置の数が少なくなっています。
- 04** JCL が指定した DSORG タイプが、OSAM で許可されていません。
- 05** データ・セットの DSCB が検出されません。
- 06** 最初のボリューム DSCB が指定した DSORG タイプが、OSAM で許可されていません。
- 07** DCB ブロック・サイズが、JFCB/DCB マージ後の DSCB ブロック・サイズに等しくありません。
- 08** DCB LRECL サイズが、JFCB/DCB マージ後の DSCB LRECL サイズに等しくありません。
- 09** LRECL サイズもブロック・サイズも DSCB、DCB、または JCL で指定されていませんでした。

- 0A** 指定されたブロック・サイズが LRECL より小です。
- 0B** 指定されたブロック・サイズが、指定された装置のトラック・サイズを超えています。
- 0C** 以前の OPEN または EOV が失敗しました。
- 0D** VIO が OSAM でサポートされていません。データ・セットは VIO 装置に割り振られています。
- 0E** 磁気テープ装置はサポートされていません。データ・セットは磁気テープ装置に割り振られています。
- 0F** 何らかの内部エラーが OSAM DEB サブルーチンで発生しました。DCBWRK1 がエラー・コードを示します。
- 10** ブロック・サイズがトラック・サイズより大です。

| IOS によってエラーが検出された場合は、メッセージ・テキストに入出力完了コードも含まれていることがあります。詳しくは、z/OS: IOSB マッピングの IOSCOD フィールドを参照してください。

ハードウェア・エラーが発生した場合は、このメッセージより前に発行された z/OS IOS000I メッセージを参照してください。

システムの処置: IMS はスペア WADS (DFSWADS*n*, *n*=0,1,...9) (ただし、使用可能な場合) から実行を続けます。そのような WADS が存在しない場合、IMS は、ログ先行書き込みプロトコル (LWA) の保存を確保するために、ログ・バッファを切り捨てることで、低下モードでログインを続けます。

他の WRITE エラーの場合は、次のいずれかが発生します。

OLDS 2 つ以上の OLDS が残っている場合、IMS は実行を続けます。残っている OLDS が 1 つだけの場合は、内部 CHECKPOINT FREEZE が実行されます。OLDS が残っていない場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0616 が示されます。

SLDS 重複ロギングが有効で、代替 SLDS が存在する場合、IMS は実行を続けます。代替 SLDS が使用不可の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0616 が示されます。

オペレーターの応答: エラーが OLDS で発生し、重複ロギングが使用されていない場合、またはエラーが重複 OLDS ログの両方のコピーで発生した場合は、エラーの OLDS をクローズするために、ログ・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

関連するハードウェア・エラーがない無効な DECB 通知コードの場合は、SLIP を設定して次回にメッセージ

DFS0415W

が発生したときにメモリー・ダンプを収集し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

割り振り装置に使用できるパスがないことを示すエラー IOS002A が検出され、さらに入出力要求を伴う CLOSE 処理が開始されると、CLOSE がハングした状態で表示されることがあります。UCB に対して V OFFLINE を出してください。

モジュール: DFSFDLS0

関連資料:

➡ z/OS: IOS000I

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0616

```
DFS0415W  PARTITIONED DATABASE INIT |
          TERM | START EXCEPTION
          CONDITION - FUNC= ffffffff,
          DBNAME= dddddddd, PARTNAME=
          ppppppppp, REASON= rr
```

説明: HALDB 構造の INIT、TERM、または START 処理中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

fffffff エラーが検出された INIT、TERM、または START 機能を指定するキーワード。fffffff は、次のいずれかです。

SYS DDIR

HALDB DDIR 構造のシステム初期設定

SYS DMB

HALDB DMB 構造のシステム初期設定

SEL DMB

選択された HALDB DMB 構造のシステム初期設定

PART DB

HALDB (DDIR および DMB 構造) の初期設定

RBLD PDB

HALDB 名前テーブルの再初期設定

PART DB

HALDB 構造の終了

PART DDIR

区分 DB DDIR 構造のコマンド初期設定

PART DMB

区分 DB DMB 構造のコマンド初期設定

ddddddd

エラーが検出したデータベースを識別します。

pppppppp

エラーが検出された dddddddd 内の区画を識別します。エラーがデータベース全般に関係している場合は、区画名は N/A として指定されません。

rr

理由コードでエラーの原因を識別します。

理由コード

意味

- | | |
|----|---|
| 01 | 機能コードが無効 |
| 02 | XPARTW ストレージの割り振り不能 |
| 03 | データベース DDIR が検出されない |
| 04 | データベースが区分として定義されていない |
| 05 | HALDB が初期設定されていない。マスター HALDB はオフラインである。データベースが初期化されていないか、または /DBRECOVERY コマンドでオフラインになっている可能性がある。/DIS DB または QRY DB NAME() SHOW(ALL) を使用して、データベースの状況を表示する。 |
| 06 | ストレージ・スタック域の割り振り不能 |
| 07 | 無効のデータベース編成 |
| 08 | データベース編成が不整合 |
| 09 | 無効の STR 変更状態 |
| 10 | 区画リスト・ストレージの割り振り不能 |
| 11 | DFSPNT ストレージの割り振り不能 |
| 12 | 区画 DDIR の割り振り不能 |
| 13 | 区画 DMB の割り振り不能 |
| 14 | 区画 DCB の割り振り不能 |
| 15 | ACB の割り振り不能 |
| 16 | DBRC 名前リストの割り振り不能 |
| 17 | 区画固有ストレージの割り振り不能 |
| 18 | PHIDAM 索引 ACB の割り振り不能 |
| 19 | データベース・ディレクトリー拡張ブロックのストレージを取得できませんでした。 |
| 20 | 選択出口のロード不能 |
| 21 | 選択出口が再入可能でリンクされていない |
| 22 | 選択出口を見つけれない |
| 30 | DFSPTX ストレージの割り振り不能 |
| 31 | DFSPTK ストレージの割り振り不能 |
| 32 | DFSPDA ストレージの割り振り不能 |
| 40 | 区画データベース DDIR が非アクティブでない |
| 41 | 区画 DDIR が非アクティブでない |

- 43 区画データベース DMB が初期設定されていない
- 44 重複データベース名 DDIR が検出された
- 45 dfsdt150 のロード不能
- 46 最大の 32,767 データ管理ブロック (DMB) を超えた
- 50 HALDB が検出されない
- 51 区分構造が不要
- 60 区画データベース DDIR リストが検出されない
- 61 区分データ・セットの割り振り解除不能
- 70 DXPXDLIL ストレージの割り振り不能
- 71 DBRC 照会エラー
- 72 DBRC によって戻された区画データなし
- 73 ターゲット区画データは DBRC によって検出されなかった
- 74 DBRC がアクティブでない
- 75 指定された未登録 HALDB はカタログ・データベースではない。HALDB 構造が作成されておらず、HALDB は使用可能でない
- 76 DFSHDBSC データ・セットには、指定された HALDB の構造に関する情報は含まれていない
- 77 未登録データベース構造の作成中にエラーが発生した
- 83 Resource Manager (RM) 照会中にエラーが発生した。新たに追加された区画のグローバル状況が適用されなかった
- 90 警告、区画は再作成から除外された。
- 91 作業用ストレージを取得できないため、区画の DDIR ブロックを DDIR チェーンからデキューできない。
- 92 区画の DDIR ブロックは使用されなくなり、DDIR チェーンから削除されている。
- 99 1 つ以上のデータベースに関してエラーが検出された。

システムの処置: 区画構造処理は終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

システム・プログラマーの応答: メッセージ・テキストに入れて戻される理由コード *rr* で示されている障害の原因を判別してください。適切な措置を講じて、理由コードの説明に応じて問題を訂正してください。

問題判別: 1、3、6、11、36、40

モジュール: DFSPSM10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

➡ 0880 (メッセージおよびコード)

DFS0416I INITIALIZATION FAILED-(E)STAE ERROR

説明: IMS 初期設定で、IMS (E)STAE 環境を確立できませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

モジュール: DFSXCIC0、 DFSXLGIO

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0071

DFS417I PAGE FREE FAILED.

説明: STAE 出口処理中に、モジュール DFSFCST0 がページ固定リストに含まれているページの解放を試みましたが、正常に行えませんでした。ページ・フリー・リスト・アドレスは、SCD のラベル SCDFIX にあります。

システムの処置: メッセージが発行された後で、STAE 出口処理は続行されます。

問題判別: 1、4、5、6、8、11、36

モジュール: DFSFCST0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS418A PSB IS NOT AUTHORIZED FOR ON-LINE IMAGE COPY

説明: このメッセージが出るのは、OLIC=YES オプションが PSBGEN マクロで指定されていないのに、ユーザーが指定した PSB が生成された場合です。

システムの処置: ユーティリティーは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: PSB を訂正するか、またはオプションを適切に指定した PSB を使用するか、どちらかを行ってください。

モジュール: DFSUICP0

**DFS0420A DBD *dbdname* STOPPED ---
PREVIOUS WRITE ERROR
DETECTED.**

説明: 再始動処理が、以前に書き込みエラーを被ったデータベースを検出しました。データベースをリカバリーした場合は、/DBR DB *dbdname*、UPDATE DB NAME(*name*) STOP(Access)¹、/START DB、または UPDATE DB START(Access) コマンドを発行してください。このデータベースをリカバリーしていなかった場合は、データベースの再始動前にリカバリーしておく必要があります。そうしないと、データ安全性が失われる恐れがあります。

¹ これらのコマンドは、OPTION(FE0V) を指定した場合以外、チェックポイントを自動的に発行しません。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。データベースが再始動の前にリカバリーされている場合は、/DBR コマンドと /START DB コマンド、または UPDATE DB NAME(*dbdname*) STOP(Access) と UPDATE DB NAME(*dbdname*) START(Access) でデータベースを開始してください。リカバリーが行われていない場合は、データベースを開始する前に、リカバリーが実行されるまで待ってください。

プログラマーの応答: IMS が再始動する前に、データベース・リカバリーを実施してください。データベースが再始動前にリカバリーされているか確認してください。

問題判別: 1、6、25

モジュール: DFSRST00、DFSSDL40

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS421I UNABLE TO OPEN SYSPRINT
DATASET, JOB TERMINATED.**

説明: SYSPRINT データ・セットに関する DD ステートメントが、SYSOUT 印刷ユーティリティに示されませんでした。このメッセージは、z/OS プログラマー向け書き込み機能を使用して印刷されます (戻りコード = 8)。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUPRT0

**DFS422I I/O ERROR WRITING SYSPRINT
DATASET, JOB TERMINATED.**

説明: SYSOUT 印刷ユーティリティが SYSPRINT データ・セットに書き込んでいる最中に、永続出力エラーが発生しました。このメッセージは、z/OS プログラマー向け書き込み機能を使用して印刷されます (戻りコード = 0C)。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUPRT0

DFS423I *jobname, stepname, dev addr, DA, ddname, GET, status, disk addr, QSAM*

説明: 印刷ユーティリティ DFSUPRT0 でスプール SYSOUT データ・セットを処理している最中に、出力エラーが発生しました。データ・セットはクローズされ、処理は次から続行しました。

このメッセージ内の情報は、SYNADAF z/OS マクロから入手したものです。DFSUPRT0 を実行するバッチ環境では、メッセージのフィールドおよびその意味は、それぞれ次のとおりです。

jobname

JOB JCL ステートメントのラベル

stepname

EXEC JCL ステートメントのラベル

dev addr

データ・セットが常駐する装置のハードウェア・アドレス

DA

直接アクセス

ddname

データ・セットに関する DD JCL ステートメントのラベル

GET

エラーが検出された QSAM 操作

status

エラーの説明

disk addr

実際のトラック・アドレスとブロック番号。フォーマットは、16 進形式の BBCCHHR (2 バイトの 2 進数、2 バイトのシリンダー番号、2 バイトのヘッドまたはトラックの番号、トラック上の 1 バイトのレコード番号) です。

QSAM

ユーティリティで使用する待機順次アクセス方式

プログラマーの応答: 必要な場合は、さらに使用する前に、障害が起こっているデータ・セットを再割り振りするか、代替トラックを割り当ててください。

モジュール: DFSUPRT0

関連資料:

➡ z/OS: SYNADAF - SYNAD 分析機能
(BDAM、BISAM、BPAM、BSAM、EXCP、QISAM、
および QSAM) の実行

**DFS424I NO SPOOL DATASETS TO BE
PRINTED.**

説明: スプール SYSOUT 印刷ユーティリティーが実行
されましたが、DD 名が SPOOLnnn の形式ではありま
せんでした。ジョブは終了し、戻りコード 4 が示され
ます。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行
依頼してください。

モジュール: DFSUPRTO

**DFS425I INVALID SPOOL DATASET
FORMAT.**

説明: 非初期設定スプール・データ・セットか、DD 名
形式が SPOOLnnn の非スプール・データ・セットか、
または状況レコード書き込み中のオンライン・システム
障害か、いずれかが原因で、印刷ユーティリティー・プ
ログラムがスプール・データ・セットの印刷をリジェク
トしました。

プログラマーの応答: さらに実行を継続するために印刷
プログラムをサブミットする前に、このデータ・セット
を使用して、IMS オンライン制御システムの再初期設定
を実行しておく必要があります。

モジュール: DFSUPRTO

**DFS0426I PHYSICAL I/O ERROR IN STEP
stepname prcstpnm**

説明: ステップ名が prcstpnm のステップ stepname プ
ロシージャで使用されているデータベースで、物理入
力または出力のエラーが発生しました。エラーの種別を
示すメッセージ DFS0451I (または、DFS0451A) が
出されました。さらに、このステップが異常終了し
ます。このステップに関する PSB の IOEROPN パラメー
ターが、異常終了コード 0451 を出すように要求しまし
ましたが、ステップは何か別の理由で異常終了しまし
た。異常終了コード 0451 は出されませんでした。

プログラマーの応答: 該当する処置を取って、入出力エ
ラーの原因となった条件および異常終了条件を訂正し
てください。

問題判別: 1、2、3、4、35

モジュール: DFSDVBH0

関連情報:

137 ページの『DFS0451I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0427I LOGICAL ERROR ON ddname,
ERROR CODE Vxx or Iyy.**

説明: VSAM データベースの処理中に、論理エラーが
発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

ddname 論理エラーが発生したデータ・セットの DD
名

xx エラーであった要求に対して、VSAM が RPL
フィードバック・フィールドに入れた、16 進
数の論理エラー戻りコード。VSAM 論理エラ
ー戻りコードの説明については、「z/OS
DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参
照してください。

yy IMS バッファ・ハンドラー論理エラー。

Vxx

予期しない論理エラーが VSAM によって戻さ
れました。

システムの処置: アプリケーション・プログラ
ムは異常終了して、疑似異常終了コード 0427
が示され、IMS は処理を続行します。ただし、
DUMP=YES が DL/I バッファ・オプション・ステ
ートメントで指定されていた場合は、ア
プリケーションは異常終了して、IMS の標準
的な異常終了コード 0427 が示され、制御領域
は異常終了します。

Iyy

DFSDVSM0 で予期しない条件が発生しまし
た。

04 カップリング・ファシリティ・サー
ビスの使用によるバッファ妥当性検
査のテスト中に、無効のローカル・ベ
クトル索引が検出されました。

08 カップリング・ファシリティ・サー
ビスの使用によるバッファ妥当性検
査のテスト中に、予期しない戻りコ
ードが VSAM から戻されました。

システムの処置: バッファ・ハンドラーがア
プリケーション・プログラムを終了させ、異
常終了コード 0427 が示されます。

ある PCB には PROCOPT=L が含まれ、別の PCB に
は PROCOPT=I (または GIRD または A) が含まれる
プログラム仕様ブロック (PSB) がある場合、結果は予
測不能です。このメッセージが発行される可能性があり
ます。

DFS0428I • DFS0430I

0427 異常終了コードの項も参照してください。

問題判別: 1、4、35

モジュール: DFSDVSM0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0427

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0428I PSB SPECIFIED IN EXECUTE PARMS DOES NOT MATCH PSB ON LOG DATASET.

説明: バッチ・バックアウト・ジョブの EXEC パラメーターで指定された PSB が、バッチ・バックアウトに示されたログ・データ・セットの中の更新 (タイプ X'50') レコード上の PSB と一致しませんでした。

このエラーが発生するのは、IRLM がデータ共用のために使用されているバッチ・ジョブのバックアウト中です。EXEC パラメーターで指定された PSB に誤りがあった場合は、バッチ・バックアウトによって、失敗したバッチ・ジョブに関して、すべての IRLM ロックが解放されれば、このチェックでデータ保全性のエクスポージャーが防止されます。

システムの処置: バッチ・バックアウトが終了します。

プログラマーの応答: EXEC パラメーターで指定された PSB が、バックアウトされるバッチ・ジョブで指定された PSB と一致することを確認してください。

モジュール: DFSBCKI0

DFS0429I VSAM {GENCB|MODCB} ERROR, RETURN CODE X'yy'.

説明: DL/I VSAM プールの初期設定で、VSAM GENCB または MODCB マクロを発行し、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。X'yy' が VSAM から戻された、レジスター 15 の 16 進数戻りコードです。

システムの処置: 異常終了コード 0430 が出て、ステップは終了します。

プログラマーの応答: VSAM GENCB および MODCB からの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、35

モジュール: DFSDVBI0

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0430I UNABLE TO INITIALIZE DL/I BUFFERING SERVICES, REASON CODE xx

説明: DL/I バッファリング・サービス機能が初期設定出来ません。変数 xx が障害の理由であり、次の値のいずれかになります。

理由コード: 01

DL/I または DBB 領域では、PSB に VSAM データベースの PCB が 1 つ以上含まれていました。ただし、DL/I バッファ・プール・パラメーター・データ・セット (DFSVSAMP) は指定されていませんでした。

プログラマーの応答: ジョブ・ステップ用の VSAM バッファ・サブプールを記述するために、DL/I バッファ・プール・パラメーター・データ・セットを指定してください。

理由コード: 02

DL/I がバッファ・プール制御ステートメント・データ・セットを OPEN できませんでした。バッチ領域の場合は、このデータ・セットは DDNAME DFSVSAMP で定義されています。オンライン領域の場合は、このデータ・セットは DDNAME PROCLIB で定義されています。

プログラマーの応答: DD ステートメントが領域タイプに応じて正しいか確認してください。さらに、オンライン領域の場合は、パラメーター VSPEC で指定された値が、DFSVSMMxx のメンバー名、および PROCLIB に存在するメンバー名を完成する有効な接尾部であることを確認してください。VSPEC が指定されていない場合は、メンバー名 DFSVSM00 が使用されません。

理由コード: 03

DLI または DBB 領域では、PSB に VSAM データベースの PCB が 1 つ以上含まれていましたが、有効なサブプール定義ステートメントが検出されませんでした。メッセージ DFS0434I か DFS0435I、またはその両方が発行されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0434I または DFS0435I を参照してください。

理由コード: 04

DLI または DBB 領域では、PSB に VSAM データベースの PCB が 1 つ以上含まれていましたが、サブプール定義ステートメントが検出されませんでした。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを調べ、必要に応じて訂正してください。

理由コード: 05

DL/I バッファ・プール・パラメーター・データ・セットの読み取り中に、入出力エラーが検出されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0436I を参照してください。

理由コード: 06

VSAM 共用リソース・プールの作成を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0432I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0432I を参照してください。

理由コード: 07

DL/I モジュールのロードを試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0438I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0438I を参照してください。

理由コード: 08

VSAM SHOWCB マクロの発行中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0429I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0429I を参照してください。

理由コード: 09

DL/I バッファ・ハンドラー・プール用の主記憶域の取得を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0431I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0431I を参照してください。

理由コード: 10

VSAM GENCB マクロの発行中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0429I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0429I を参照してください。

理由コード: 11

特定のサブプールまたは共用プール ID テーブルに関する DBD ステートメントの処理中、または特定の共用プール ID テーブルに関する POOLID ステートメントの処理中に、GETMAIN 障害が起きました。

プログラマーの応答: 領域サイズ・パラメーターを大きくして、IMS を再実行してください。

理由コード: 12

DD 名オープン・テーブル用の主記憶域の取得を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS0441I が示されました。

プログラマーの応答: メッセージ DFS0441I を参照してください。

理由コード: 13

互換性のない制御ステートメントの組み合わせが、DFSVSAMP データ・セットで検出されました。IOBF= ステートメントでは、OSAM バッファ・プールの定義および割り振りを要求していましたが、OSAMOP IOSCB=NO ステートメントでは、OSAM リソースがバッチ環境で使用されることがないように要求していました。

プログラマーの応答: OSAM データベースにアプリケーションでアクセスしてよいかどうか判断してください。該当する制御ステートメントを使用してください。

理由コード: 14

ハイパースペース (Hiperspace™) バッファリングが、サイズが 4 KB より小さいサブプールに対して指定されているか、拡張ストレージの大きさが不十分で指定されたサブプール・サイズに対応できないため、使用不能であるか、どちらかです。

プログラマーの応答: バッファ・サイズが 4 KB より小さいバッファに対する Hiperspace バッファリング指定は、すべて除去してください。拡張ストレージの問題については、「z/OS MVS 初期設定およびチューニング ガイド」(SA88-8563) を参照してください。

理由コード: 15

VSAM サブプール定義の VSRBF キーワードが、最初の POOLID ステートメントより前で検出されました。POOLID ステートメントを使用して、VSAM ローカル共用リソース・プールを 1 つ以上定義するときは、各 VSAM ローカル共用リソース・プールごとの VSRBF

DFS0431I

サブプール定義ステートメントは、それが関係する POOLID ステートメントの後に続く必要があります。

プログラマー応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。制御カードを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 16

CFNAMES 制御ステートメントで指定されたカップリング・ファシリティ構造名が重複しています。メッセージ DFS3385I も、このエラーを定義するために出されます。

プログラマー応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 17

すべてのキーワード (CFIRLM、CFOSAM、および CFVSAM) を CFNAMES 制御ステートメントで指定する必要があります。メッセージ DFS3388I も、このエラーを定義するために出されます。

プログラマー応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 18

エラーが CFNAMES 制御ステートメントで検出されました。メッセージ DFS0437I も、このエラーをさらに定義するために出されます。

プログラマー応答: メンバー DFSVSMxx に関する情報を検討してください。CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

理由コード: 19

説明: バッチ環境では、IRLM は使用されますが、DBRC は使用されません。

プログラマーの応答: DBRC が IMS システム定義で指定されたかどうか、または DBRC=N が実行 JCL の EXEC ステートメントで指定されなかったことを確認してください。

理由コード: 21

ブロック直列化ラッチ・テーブル用の主記憶域の取得を試みている最中に、エラーが検出されました。メッセージ DFS3287E が発行されました。

プログラマー応答: メッセージ DFS3287E を参照してください。

システムの処置: IMS は終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

問題判別: 1、2、3、4、35

モジュール: DFSDVBI0、DFSXBAT0、DFSTRA00

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0430

- 786 ページの『DFS3287E』
- 128 ページの『DFS0429I』
- 『DFS0431I』
- 131 ページの『DFS0432I』
- 131 ページの『DFS0433I』
- 131 ページの『DFS0434I』
- 131 ページの『DFS0435I』
- 132 ページの『DFS0436I』
- 132 ページの『DFS0437I』
- 132 ページの『DFS0438I』
- 133 ページの『DFS0441I』
- 9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0431I STORAGE NOT AVAILABLE FOR VSAM BUFFER POOL, RETURN CODE *nn*

説明: DL/I VSAM バッファ・プール用としての GETMAIN ストレージを試みている最中に、エラーが検出されました。*nn* は、IMODULE GETMAIN マクロからの戻りコードです。これらの戻りコードについての説明は、IMODULE 戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

プログラマーの応答: 使用可能なストレージが不足している場合は、IMS で使用できる主記憶域を増やしてください。LSO (ローカル・ストレージ・オプション) が DL/I SAS 領域用として選択されている場合は、DL/I 領域用のサブプール 251 (low private storage) では、DL/I バッファ・プール用として大きさが十分ではありません。DL/I 始動 JCL の領域パラメーターの値を大きくしてください。LSO=N (別の DL/I アドレス・スペースなし) が選択されている場合は、十分なサブプール 231 が使用可能ではありません。制御領域 JCL の領域パラメーターの値を大きくしてください。

問題判別: 1、2、3、4、18、35

モジュール: DFSDVBI0

関連資料:

➡ IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0432I VSAM SHARED RESOURCE POOL
CANNOT BE BUILT, RETURN CODE
X'yy', POOL ID xxxx, zzzzz**

説明: IMS が VSAM 共用リソース・プールを作成するために、VSAM BLDVRP マクロを発行しました。VSAM は、エラー条件を検出し、プールを作成しませんでした。変数 *yy* は、VSAM によって戻された 16 進数のエラー・コードです。複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID *xxxx* がエラーの特定の共用リソース・プールを示します。zzzzz は共用リソース・プール・タイプで、INDEX と DATA のどちらかです。

システムの処置: エラーになっている共用リソース・プールが、要求された唯一の、またはデフォルトの共用リソース・プールである場合、IMS は異常終了します。異常終了コード 0430 が出されます。それ以外の場合、IMS はデフォルトの共用リソース・プールにデータ・セットを再割り当てします。

プログラマーの応答: VSAM BLDVRP マクロからの戻りコードについての詳細な説明は、z/OS DFSMS Macro *Instructions for Data Sets* を参照してください。

モジュール: DFS0432I

関連資料:

➡ z/OS: BLDVRP 戻りコード

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0430

**DFS0433I NUMBER OF BUFFERS FOR
SUBPOOL SIZE nnnnn CHANGED TO
mmm**

説明: VSAM または OSAM サブプール・サイズに関して指定されたバッファの数の *nnnnn* が、必要最小数より小であったか、最大許容数より大でした。

システムの処置: システムは *mmm* 個のバッファをサブプール内に作成しました。

プログラマーの応答: バッファの数のについては、VSAM および OSAM サブプールの指定 (システム定義) を参照してください。

問題判別: 1、2、3、36

モジュール: DFS0432I

関連概念:

➡ VSAM および OSAM サブプールの指定 (システム定義)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0434I BUFFER SIZE OR KEYWORD
INVALID ON CARD nnn**

説明: バッファ・プール・パラメーター・データ・セットの *n* 番目のステートメントが、無効なバッファ・サイズまたは無効なキーワードを指定しました。バッファ・サイズは 512、1024、2048、4096、または 32768 を最大とする 4096 の倍数であることが必要です。

システムの処置: ステートメントはバイパスされます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、36

モジュール: DFS0434I

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0435I NUMBER OF BUFFERS INVALID ON
CARD n**

説明: バッファ・プール・パラメーター・データ・セットの *n*th ステートメントで指定されたバッファの数が無効であったか、指定された値が数値ではありませんでした。

システムの処置: VSAM が使用される (しかも、値が数値でない) 場合は、ステートメントはバイパスされず、OSAM の場合は、残りのパラメーターすべてでデフォルトが取られます。パラメーターが数値の場合は、メッセージ DFS0435I を参照してください。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、36

モジュール: DFS0435I

関連情報:

『DFS0435I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0436I I/O ERROR ON CONTROL CARD DATASET

説明: モジュール DFSCVBIO がバッファ・プール・パラメータ・データ・セット (DFSVSAMP) の読み取りを試み、入出力エラーを検出しました。

システムの処置: 領域タイプ DBB または DLI では、VSAM を使用するデータベースが PSB で指定されていた場合は、異常終了コード 0430 が出されました。それ以外のすべての場合は、処理が DL/I VSAM バッファ・プールなしで続行されます。

プログラマーの応答: DFSVSAMP に関する DD ステートメントが正しいか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、4、18、19

モジュール: DFSDVBI0

関連情報:



IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0437I CARD *nnn*, ERROR IN PARAMETER *mmm*

説明: バッファ・プール・パラメータ・データ・セットの *n*th ステートメントは、*m*th パラメータにエラーがあります。オンライン・システムでは、このエラーが発生するのは、システム定義に DBD が含まれていない場合です。バッチ・ジョブでは、このエラーが発生するのは、使用されている PSB 内で DBD が生成されない場合です。次のステートメントでパラメータが無効の場合も、このエラーが発生する可能性があります。

CFNAMES

IOBF

DBD

OPTIONS

VSRBF または VSAM バッファ・プール定義

RESVPOOL

LOCKTIME

FFROLR

システムの処置: パラメータは無視され、処理は続行されます。

バッファ・プール・パラメータ・データ・セットで、データベース・パラメータが A から J、L、または X のデータ・セット番号付きで HALDB に指定されているが、データベースが NON HALDB である場合に、システムはこのメッセージを発行します。割り振りは発生しません。その後にデータベースが HALDB に変換された場合は、この項目のための割り振りが、データベースの始動と同時に (IMS のリサイクルなしで) 有

効になります。同じことが、データ・セット番号 1 で HALDB から NON HALDB へ変換を行っているときに発生します。

プログラマーの応答: パラメータは無視されています。制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。パラメータのフォーマットについては、IMS システム定義の説明を参照してください。

問題判別: 2、3、18、19

モジュール: DFSDVBI0、DFSTRA00、DFSRDB30

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0438I UNABLE TO LOAD MODULE *m*,
return code X'*nn*'**

説明: モジュール名が *m* のモジュールのロードを試みている最中に、エラーが検出されました。X'*nn*' は、IMODULE LOAD マクロからの 16 進数戻りコードです。これらのコードについての説明は、IMODULE 戻りコードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

プログラマーの応答: エラーを起こさずにアクセスできるライブラリーにあるモジュールを指定してください。

問題判別: 1、2、3、35

モジュール: DFSDVBI0

関連資料:



IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:



IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0439I WARNING, VSAM SUBPOOLS WITH
EQUAL LENGTH BUFFERS HAVE
BEEN DEFINED, POOL ID *xxxx***

説明: 複数の VSAM サブプール定義ステートメントで同じバッファ・サイズを指定しています。複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID *xxxx* がエラーの特定の共用リソース・プールを示します。

システムの処置: バッファの数の合計を指定して、サブプールが作成されます。

プログラマーの応答: 別々のサブプールを作成する意図であった場合は、サブプール定義ステートメントを訂正

して、異なるバッファ・サイズを指定してください。

問題判別: 2、3、18、19

モジュール: DFSDVBI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0440A GSR POOL ALREADY EXISTS,
REPLY 'LOCAL' 'DELETE' OR
'ABEND'**

説明: IMS が VSAM グローバル共用リソース・プールを作成するために、VSAM BLDVRP マクロを発行しました。戻りコード 4 が戻されたら、GSR プールが存在することを示しているため、システム・オペレーターは応答する必要があります。

システムの処置: IMS はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかの応答を使用します。

LOCAL

別の IMS システムが GSR を使用して実行中であり、初期設定を続行したい場合に使用します。このオプションでは、IMS のこの実行にローカル共用リソース (LSR) プールを使用する結果になります。

DELETE

ほかに現時点で実行中の IMS システムは存在せず、グローバル共用リソース (GSR) プールを使用したい場合に指定します。このオプションでは、現行 GSR プールが削除され、新しい GSR プールがこの実行のために作成される結果になります。

注: 現行 IMS システム GSR プールを使用して実行中にこのオプションを選択すると、プールは削除されます。結果は予測不能です。

ABEND

別の IMS システムが GSR を使用して実行中であり、LSR を使用してこのシステムを実行したくない場合、または別のシステムが GSR を使用して実行中か分からず初期設定を終了したい場合に、指定します。このオプションでは、メッセージ DFS0432I の後に続いて、異常終了コード 0430 が示される結果になります。

問題判別: 1、2、3、4、35

モジュール: DFSDVBI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0441I STORAGE NOT AVAILABLE FOR
OPEN TABLE, RETURN CODE X'yy'**

説明: オープン・テーブル用としての GETMAIN ストレージを試みている最中に、エラーが検出されました。yy' は、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。これらのコードについての説明は、IMODULE 戻りコードに関する情報を参照してください。


システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

プログラマーの応答: 使用可能なストレージが不足している場合は、IMS で使用できる主記憶域を増やしてください。


問題判別: 1、2、3、4、18、22

モジュール: DFSDVBI0

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0442A VSAM RDF/CIDF BAD DBD=*dbdname*
DD=*ddname***

説明: VSAM 制御インターバルを書き込む前に、レコード定義フィールド (RDF) および制御インターバル定義フィールド (CIDF) が検査され、それらが無効であるか、IMS に必要なレコード・フォーマットと整合しないことが分かりました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: データベース・リカバリー手順を使用して、エラーのデータベースを再構成してください。

問題判別: 4、5、9、11、18、20

モジュール: DFSDVSM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0443I *dbname* IS REGISTERED AS
NON-RECOVERABLE**

説明: 詳細情報および処置については、メッセージ DFS0443W を参照してください。

関連情報:

DFS0443W

DFS0443W dbname IS INCONSISTENT WITH OTHER DBS IN THE DBNET

説明: 識別されているデータベースが DBRC に回復不能として登録されると、スケジューリングによりこのメッセージが最初の形式で出されます。

識別されているデータベースが回復不能として登録され、関連データベースがリカバリー可能として登録されると、スケジューリングではこのメッセージを 2 番目の形式で出します。関連データベースはすべてがリカバリー可能か回復不能のいずれかにします。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

これは通知メッセージです。

モジュール: DFSDBLN0

DFS0444 MESSAGE LENGTH EXCEEDS FAST PATH BUFFER LENGTH - INPUT IGNORED

説明: 端末オペレーターが入力した高速機能メッセージ・セグメントが長すぎて、急送メッセージ処理バッファ (EMHB) に収まりませんでした。EMHB は、TERMINAL マクロの FPBUFLN キーワードで定義されています。

システムの処置: トランザクション・メッセージは廃棄されます。

オペレーターの応答: トランザクション・メッセージのフォーマットを訂正してから、コマンドを再入力してください。

モジュール: DBFSUIX0

DFS0445I WARNING - INVALID VSAM SHARED RESOURCE POOL DEFINITION, POOLID xxxx, REASON CODE yy

説明: VSAM 共用リソース・プールに関する定義が無効です。xxxx ではプール ID を、yy では次の理由コードのいずれかを、それぞれ識別しています。

理由コード: 01

同じ VSAM 共用リソース・プール内にはデータ・サブプールがない索引サブプールの定義を試みていて、エラーが検出されました。IMS が特定の共用リソース・プールを作成することはできません。

プログラマーの応答: 次のジョブの実行の前に、制御ステートメントを訂正してください。

理由コード: 02

VSAM 共用リソース・プールの最大数を超過しています。限度に達した後で検出された POOLID ステートメント (および、対応する VSRBF ステートメント) があっても、すべて無視されます。警告メッセージが出されるのは、最初に限度を超えた有効な POOLID ステートメントの場合のみです。

プログラマーの応答: 限度を超える VSAM POOLID サブプール定義ステートメントは、結合または除去してください。

理由コード: 03

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中に、無効のプール ID が検出されました。IMS は POOLID ステートメント、およびその共用リソース・プール内のサブプールを定義するすべての VSRBF ステートメントを無視します。警告メッセージに表示されるのは、無効のプール ID の最初の 4 文字のみです。POOLID ステートメントの説明については、VSAM バッファ・プールの定義 (システム定義) を参照してください。

理由コード: 04

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中にコーディングされた POOLID ステートメントで、重複プール ID が使用されました。IMS は、プール ID が重複している POOLID ステートメントを無視します。IMS は、その共用リソース・プールのサブプールを定義している VSRBF ステートメントもすべて無視します。

プログラマーの応答: 次のジョブの実行の前に、制御ステートメントを訂正してください。

理由コード: 05

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中に、無効なパラメーターが検出されました。IMS は、特定の POOLID ステートメントの残りを無視し、残っているパラメーターのデフォルト値を使用します。POOLID ステートメントの説明については、VSAM バッファ・プールの定義 (システム定義) を参照してください。

理由コード: 06

POOLID サブプール定義ステートメントの処理中に、エラーが検出されました。POOLID サブプール定義ステートメントの VSAM 共用リソース・プール ID (デフォルトのプール以

外の共用リソース・プールの場合) は、有効なバッファ・プール DBD ステートメントのいずれでも参照されませんでした。VSAM 共用リソース・プールは、作成されましたが、使用されませんでした。POOLID ステートメントの説明については、VSAM バッファ・プールの定義 (システム定義)を参照してください。

理由コード: 07

サブプールが含まれていない VSAM 共用リソース・プールの定義を試みていて、エラーが検出されました。POOLID サブプール定義ステートメントの後には、VSRBF サブプール定義ステートメントではなく、別の POOLID ステートメントが続いています。VSAM 共用リソース・プールに定義済みサブプールがない場合は、無視されます。POOLID ステートメントの説明については、VSAM バッファ・プールの定義 (システム定義)を参照してください。

理由コード: 08

RESVPOOL ステートメントを使用して予約された共用プールの数を考慮すると、VSAM 共用リソース・プールの最大数を超過しています。通常、許容される共用プールの最大数は、次のとおりです。

- 15 バッチ環境またはユーティリティー環境の場合
- 16 DC 環境または DBCTL 環境の場合

限度に達した後で検出された POOLID ステートメント (および、対応する VSRBF ステートメント) があっても、すべて無視されます。警告メッセージが出されるのは、最初に限度を超えた有効な POOLID ステートメントの場合のみです。

IMS バッファ・プールの初期設定が続行されます。

プログラマーの応答: 限度を超える VSAM POOLID サブプール定義ステートメントは、結合または除去してください。

理由コード: 20

高速機能応答モードの端末が、高速機能に対応していない IMS システムにログオンしようとしてしました。

モジュール: DBFSUIX0、DFSRDB30

DFS0446I WARNING - VSAM SHARED RESOURCE POOLID *xxxx* ON DBD STATEMENT IN ERROR

説明: DBD ステートメントの処理中に、エラーが検出されました。DBD ステートメントの VSAM 共用リソース・プール ID が、有効な POOLID サブプール定義ステートメントのいずれでの ID にも一致しません。

システムの処置: IMS は、デフォルトの共用リソース・プールにデータ・セットを再割り当てします。

プログラマーの応答: 次のジョブの実行の前に、制御ステートメントを訂正してください。

モジュール: DFSRDB30

DFS0447I NUMBER OF BUFFERS FOR VSAM SUBPOOL SIZE *nnnnn* CHANGED TO *mmm*, POOL ID *xxxx*

説明: VSAM サブプール・サイズに関して指定されたバッファの数 *nnnnn* が、必要最小数より小か、32767 より大のいずれかでした。複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID *xxxx* がエラーの共用リソース・プールを示します。

システムの処置: *mmm* 個のバッファがサブプール内に作成されました。

プログラマーの応答: バッファ・プール仕様の説明については、IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール: DFSDVBI0

DFS0448I VSAM HIPERSPACE BUFFERING INVALID|UNAVAIL|FAILED FOR SUBPOOL SIZE *nnnnn*, POOL ID *xxxx*

説明: VSAM ハイパースペース・バッファリングは、サイズが 4 K バイトより小さいサブプールに対して指定されたときは無効です。VSAM ハイパースペース・バッファリングが示されているサブプール・サイズでは無効なのは、拡張ストレージのサイズが不十分なためであり、ハイパースペース・バッファはデフォルトであったか、またはオプションとして指定されました。

VSAM ハイパースペース・バッファリングが示されているサブプール・サイズで失敗したのは、拡張ストレージのサイズが不十分なためであり、ハイパースペース・バッファが必須として指定されました。

複数の共用リソース・プールが要求された場合は、POOL ID *xxxx* がエラーの共用リソース・プールを示します。

システムの処置: INVALID または FAILED の場合、

DFS0448W • DFS0450I

IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

UNAVAIL の場合、IMS の初期設定は、示されている VSAM サブプール用のハイパースペース・バッファリングなしで続行されます。

プログラマーの応答: バッファ・サイズが 4K バイトより小さいバッファに対するハイパースペース・バッファリング指定は、すべて除去してください。

十分な拡張ストレージが存在し、このメッセージにストレージが使用不能であることが示されている場合は、PWSS=(min,max) に関する IPS ステートメントの z/OS SRM の値を大きくすることを試みてください。

「z/OS MVS 初期設定およびチューニング ガイド」(SA88-8563) を参照してください。

モジュール: DFSDVBI0

DFS0448W VSAM HIPERSPACE SIZE SPECIFIED EXCEEDS THE 2GB LIMIT, POOL ID xxxx.

説明: ハイパースペース・プール・サイズが 2 GB の制限を超えました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx ローカル共用リソース (LSR) VSAM バッファ・プール ID

システムの処置: ハイパースペース・プール・サイズのデフォルトの制限は 2 GB です。

プログラマーの応答: バッファの指定を確認します。

モジュール: DFSDVBI0

DFS449A VOLUME..... IS INCORRECT FOR RESTART-MOUNT VOLUME.....

説明: 再始動処理中に、イメージ・データ・セットの継続用としてマウントされたボリュームが間違っていることを、ユーティリティーが検出しました。

システムの処置: ユーティリティーは、データ・セットをクローズして、間違っているボリュームを強制的にデマウントさせてから、データ・セットを開きます。正しいボリュームがマウントされるまで、ユーティリティーはこれを続けます。

オペレーターの応答: ボリューム通し番号が JCL またはカタログに特に示されていない場合は、メッセージの後半部に示されているボリュームをマウントしてください。ボリュームが記述されている場合は、ユーティリティーが必要としているボリュームが最終的にマウントされるまで、z/OS が受け入れるボリュームをマウントし続けてください。

136 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: DFSUICP0

DFS0450I DFSDDLE0 dbdname STOPPED-LOGICAL ERROR DDNAME=ddname VSAM ERROR CODE=nm

説明: モジュールが、DDNAME データ・セットにあるデータベース定義名で読み取りまたは書き込みエラーを検出しました。このメッセージは、VSAM が (レジスタ 15 で) 戻りコード 8 をモジュール DFSDDLE0 から VSAM PUT に戻したことを示しています。RPL からの論理エラー・コードも、論理エラーをさらに定義するために印刷されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSDDLE0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 13 章 DFS メッセージ DFS0451A - DFS0500I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0451A *modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field*

説明: このメッセージは DFS0451I に関連しています。詳細な説明および処置については、そのメッセージを参照してください。

関連情報:

DFS0451I

DFS0451I *modname, dbdname, ddname, i/o error, decb field*

または

hhmmss, variable text

説明: このメッセージは、いずれかの形式で出されません。入出力操作中に READ エラーまたは WRITE エラーが発生しました。

モジュール *modname* が、入出力操作中、またはデータベース *ddname* 内の識別されている *dbdname* に関して、書き込みエラー・キュー・エレメント (WEQE) を処理している最中に、エラーを検出しました。変数 *i/o error* では、READ エラーかどうか、WEQE が検出されているかどうか、状況コードがアプリケーション・プログラムに戻されるかどうかを示します。WRITE エラーの場合は、状況コードが戻されることはありません。

アクセス方式が VSAM の場合、このメッセージの前に、接頭部 DFS0451I *hhmmss* が付いた、26 から 125 バイトの長さの VSAM 物理エラー・メッセージが表示されます。このメッセージのフォーマットと内容については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。

アクセス方式が OSAM の場合は、*decb field* は、入出力操作で使用される DECBC からのフィールド DECBCSTAT であり、その後エラーの説明が続きます。DECBC 状況コード (DECBCSTAT) 定義については、メッセージ DFS0762I を参照してください。

PSB の生成時に IOEROPN=(n,WTOR) パラメーターが指定されている場合、およびシステムがバッチ (DLI または DBB) の場合は、オペレーターが異常終了または継続を指定できます。このオプションは、要処置メッセージの場合にバッチでのみ、指定されます。

値は、次のように定義されます。

modname

次のいずれかのモジュールがメッセージを発行しました。

DFSDVSM0

DFSDBH00

DFSDDL00

dbdname

データベース名

ddname DD 名

i/o error

READ または WRITE エラーが入出力処理中に発生したこと、または WEQE (書き込みエラー・キュー・エレメント) が検出されたことを示します。WRITE エラーが発生し、サブシステムにデータのコピーがないときは、いつでもそのブロックに関して、WEQE が作成されます。

アプリケーションが WEQE のあるブロック内のデータを要求する場合は、このメッセージが生成され、状況コードがアプリケーション・プログラムに渡されて戻ります。データベース・リカバリーが実行された後で、そのデータベース用の WEQE がすべて解放されます。WRITE エラー (データ共用環境または非データ共用環境) が生じているサブシステム内の WEQE にフラグが立てられて、そのサブシステム内のそのブロックに関して、エラー・フリー READ 操作が可能になります。データ共用環境では、WRITE エラーが生じているサブシステム以外のサブシステムで実行されているアプリケーションが、示されているデータベース・ブロック内のセグメントを要求した場合は、このメッセージが生成され、状況コードがアプリケーション・プログラムに渡されて戻ります。READ がブロックに関して発行されることはありません。ブロックが間違っていたからです。データベース・リカバリーが実行された後で、そのデータベース用の WEQE がすべて解放されます。非データ共用環境では、データベースがクローズされ、リカバリーしないで再使用された (例えば、/DBD ではなく /DBR) 場合は、このフラグが除去され、そのブロックに関する

READ 要求がそれ以降に行われると、このメッセージが出される結果になります。

decb field

DECB フィールドは、DECBSTAT または DECBEXC で示されます。

hhmmss、variable text バージョンの場合:

入出力操作中に READ エラーまたは WRITE エラーが発生しました。この形式のメッセージは VSAM エラーの場合に出されます。hhmmss はタイム・スタンプで、variable text は VSAM からの可変テキストです。

VSAM エラー IEQE は、キー順データ・セット (KSDS) 入出力許容拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) の存在を示し、EEQE によって指し示されたレコードへのアクセスを防ぎます。

システムの処置: 要処置メッセージの場合は、DL/I はオペレーターが応答するのを待ってから続行します。オペレーターの応答に ABEND が伴う場合は、アプリケーション・プログラムが終了して、疑似異常終了コード 0451 が示され、IMS は処理を続行します。ただし、DUMP=YES が DL/I バッファ・オプション・ステートメントで指定されていた場合は、アプリケーションは異常終了して、標準的な異常終了コード 0451 が示されます。オペレーターの応答が CONT であれば、IMS は処理を続行します。

通知メッセージの場合は、処理は続行されます。

IOEROPN=(451,WTOR) の場合は、DFS0451A メッセージに対するオペレーターの応答が CONT の場合でも、IMS は終了して、異常終了コード 0451 が示されます。

オペレーターの応答: (システム) 要処置メッセージの場合は、ABEND と応答して、異常終了コード 0451 を行わせるか、CONT と応答して、IMS に処理を続けさせてください。通知メッセージの場合は、処置は必要ありません。

(マスター端末) データベースのリカバリーを担当する責任を担うサポート要員に連絡してください。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの形式がどちらでも、永続 READ エラーまたは WRITE エラーの場合、データベースをリカバリーしてください。ただし、発生するのが WRITE エラーのみの場合は、データベースはオンライン・システムで引き続き使用できるので、リカバリーは都合のよい時点まで延期できます。アプリケーション・パフォーマンスに影響が生じたり、READ エラーが発生したりする場合は、データベースはリカバリーする必要があります。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

モジュール: DFSDBH40、DFSDDLE0、DFSDEVSM0

関連資料:

 z/OS: RPLERRCD 理由コード

関連情報:

245 ページの『DFS0762I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0452I DUP-CLOSE NO LONGER
SUPPORTED -- USE DUP AND REP
THEN RERUN CLS MODE**

または

CONTROL CARD INPUT NOT PRESENT

または

ERROR IN CONTROL CARD FORMAT

説明: 制御ステートメント入力欠落していたか、制御ステートメントがエラーであったか、どちらかです。エラーの制御ステートメントが SYSPRINT データ・セットで印刷されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメント、または訂正した制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSULG10

DFS0453I UNABLE TO OPEN xxx

説明: データ・セット (xxx) が正常に開けませんでした。xxx は、データ・セットの記述名に DD 名を加えたもので構成されています。

xxx の値は、次のとおりです。

CARD INPUT ddname
PRINT OUTPUT ddname
INPUT OLDS ddname
INPUT SLDS ddname
OUTPUT LOG ddname
NEXT OLDS ddname

システムの処置: このエラーが発生したのが重複 WADS または重複 Next の場合は、OLDS 処理は、代替データ・セットを使用して続行されます。それ以外の場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答: ログ・リカバリー・ユーティリティーが失敗した場合は、DD ステートメントが存在し、正しく指定されているか確認してください。ハードウェア障害が示された場合は、代替装置を指定して、ジ

ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSULG10、DFSULG20

DFS0454I UNSUCCESSFUL ALTERNATE LOG DATASET POSITION---REASON x

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティに対して、重複入力ログが指定されました。入力ログの一方を読み取っている最中に、エラーが検出されました。

理由コード *x* の値は 2 または 3 です。

コード (16 進数)

意味

- 02** 重複 SLDS 入力が指定されました。2 つの SLDS が同じブロックのデータから開始することはありませんでした。DFSULG20 処理は、両方の入力ログとも終了していますが、両方のログに共通のデータのブロックが正常に読み取られることはありませんでした。
- 03** 重複入力ログが指定されました。DFSULG10 は、入力が有効かどうか判別するために、それぞれのログから最初のブロックを読み取るうとしました。OLDS の場合は、ブロックの最初の対が読み取り可能で、同一である必要があります。SLDS の場合は、ブロックの最初の対が読み取り可能である必要があります。SLDS ブロックが同一でない場合は、ログ・シーケンス番号の高い方 (最初のログ・レコードの) が保管されます。その入力ログ (および、対応する出力ログ) の処理は、ログ・シーケンス番号の高い方が他の残りの入力ログで検出されるまで中断されます。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了し、メモリー・ダンプが取られます。

プログラマーの応答: 理由コード 02 の場合は、エラー・ブロック・リストおよび入力ログを調べてください。マッチング・ブロックが読み取られなかった理由を判別してください。(マッチング・ブロックは、エラー・ブロックであるか、入力ログで欠落しているか、いずれかです) ブロックがエラーである場合は、z/OS システム・ユーティリティを使用して、ブロックを訂正してください。ブロックが欠落している場合は、すべての SLDS ボリュームを入力として指定してください。その上で、ユーティリティを再実行してください。

理由コード 03 の場合は、z/OS システム・ユーティリティを使用して、入力ログを調べてください。エラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSULG10、DFSULG20

DFS0455I I/O ERROR ON xxx DURING mmm OPERATION

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティ DFSULTR0 が、モード *mmm* での処理中に、データ・セット *xxx* で入出力エラーを検出しました。*mmm* の値は、CLS、DUP、または REP です。*xxx* は、データ・セットの記述名に DD 名を加えたもので構成されています。

xxx の値は、次のとおりです。

```
INPUT OLDS ddname
INPUT SLDS ddname
OUTPUT LOG ddname
NEXT OLDS ddname
```

システムの処置: 入出力エラーが発生したのが二重データ・セットの場合は、処理は代替データ・セットを使用して続行されます。それ以外の場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答: ログ・リカバリー・ユーティリティが失敗した場合 (つまり、戻りコード = 8 の場合は、次のいずれかを行ってください。

- エラーが発生したのが一時ログ・データ・セットで、REP モード、入力 OLDS、次の OLDS のいずれかであった場合は、DUP モードを実行して、データ・セットをクローズまたはリカバリーする。
- エラーが発生したのが中間ログ・データ・セットで、DUP モード時または出力ログ中であった場合は、ジョブを再実行し、別のドライブまたはボリュームを指定する。

モジュール: DFSULG10、DFSULG20

DFS0456I ERROR ID'S ON STATEMENT AND INTERIM LOG DO NOT MATCH

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- REP モード操作に対する入力制御ステートメントの順序が狂っていた。
- シーケンス番号が間違っていた。
- 制御ステートメントが欠落していた。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答: 次のことを行ってください。

- 制御ステートメントが DUP モードでの実行で作成された印刷出力と一致しているか検証する。
- ジョブを訂正して、再実行依頼する。
- 適切な中間ログ・データ・セットが使用されたことを確認する。

モジュール: DFSULG10

DFS0457I CONTROL CARD SPECIFIED 'B' RECORD--NO 'B' RECORD ON INTERIM LOG

説明: SYSIN 入力には、データの置換が行われるのは、示されているシーケンス番号の B レコードであると指定されていました。A レコードは検出されましたが、対応する B レコードは存在していませんでした。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答: 以下の処置を行ってください。

- 直前の DUP 実行の印刷出力をチェックして、B レコードが作成されていたか確認する。
- 適切な中間ログ・データ・セットが使用されたことを確認する。

モジュール: DFSULG10

DFS0458I CONTROL CARD OUT OF SEQUENCE

説明: 制御カードの順序が狂っています。

プログラマーの応答: 制御カードを適切な順序にして、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSULG10

DFS0459I EOF ON INTERIM LOG WITH CONTROL CARD YET TO PROCESS

説明: 制御ステートメントが、中間ログ・データ・セットにないレコードに関してサブミットされました。残りの未処理制御ステートメントが SYSPRINT データ・セットで印刷されます。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答: 余分の制御ステートメントが有効かどうか判別してください。これが有効でないとすれば、中間ログ・データ・セットのボリュームがジョブから省略されていた場合が考えられます。

モジュール: DFSULG10

DFS0460I REPLACEMENT DATA WILL NOT FIT IN RECORD

説明: オフセットに REP ステートメントで指定されたデータの長さを加えると、示されているブロックに収まりません。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答: 直前の DUP 実行の印刷出力を

チェックして、適切なオフセットおよび長さを判別してください。制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSULG10

DFS0461I USER HAS SPECIFIED 'REP' IN BOTH A AND B RECORDS

説明: 示されているシーケンス番号の場合は、データは A レコードでも B レコードでも置き換えられます。ただし、両方のレコードで置き換えることはできません。

プログラマーの応答: A レコードと B レコードのいずれかで "REP" を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSULG10

DFS0462 NOBUILDQ KEYWORD MUST NOT BE PRESENT

説明: NOBUILDQ キーワードが使用できるのは、/NRE コマンドに FORMAT キーワードを組み込んで使用して、IMS をウォーム・スタートするときのみです。(BUILDQ キーワードが /ERE コマンドで有効な場合でも、NOBUILDQ は無効です。) /NRE および /ERE コマンドの構文の説明については、「IMS V15 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M」を参照してください。

モジュール: DFSICL20

関連資料:

➡ /NRESTART コマンド (コマンド)

➡ /ERESTART コマンド (コマンド)

DFS0463I BUILDQ OR NOBUILDQ KEYWORD REQUIRED

説明: IMS のウォーム・スタートのために、/NRE FORMAT コマンドを入力しましたが、BUILDQ または NOBUILDQ キーワードを指定しませんでした。FORMAT キーワードで示されたデータ・セットをフォーマット設定した後で、キューを構築するのであれば、BUILDQ を、キューを再構築しないでデータ・セットをフォーマット設定するのであれば、NOBUILDQ を、それぞれ指定する必要があります。

コマンド /NRE FORMAT SP および /NRE FORMAT ALL の場合は、NOBUILDQ は無効であり、BUILDQ を指定する必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

モジュール: DFSICL20

DFS0464A THE SECONDARY INDEX INDICATOR IS NOT ON IN THE DBD FOR MEMBER (*dbdname*)

説明: このメッセージより前に印刷されている制御ステートメント・イメージには、指定された *dbdname* は副次索引であると示されていますが、副次索引フラグは DBD メンバーにはありません。

システムの処置: ユーティリティがユーティリティ制御機能 (UCF) の下で実行されているのではなく、OPTIONS=ABEND が選択されていない場合は、実行は次の制御ステートメント・イメージへ続きます。ステップは終了し、戻りコード 8 が示されます。

OPTIONS=ABEND カードが指定されている場合は、ユーティリティは、ユーザー異常終了により終了します。

ユーティリティが UCF の下で実行されている場合は、処理は停止し、実行は終了して、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメント・イメージが正しく指定されているか検証し、メッセージで出力されているデータベース名がソース DBD にあるかチェックしてください。該当する訂正を施したら、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSURUL0

DFS0465I PSB *psbname* IS INCORRECT FOR DBD *dbdname*, PSB STOPPED.

説明: 指定された PSB に、高速機能 (MSDB または DEDB) DMB を参照する DL/I PCB ステートメントがあります。

システムの処置: PSB は停止します。

プログラマーの応答: エラーの PSB を訂正し、ACBGEN を再実行し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDBLP0、DFSXRBL0

DFS0466I NO xxxxxxxx DD CARD SPECIFIED

説明: ユーティリティ・プログラムが検出した制御ステートメントで必要とされている xxxxxxxx は、指定されていない DD 名です。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントまたは JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS467I xxxxxxxx DDDUMMY CARD SPECIFIED

説明: ユーティリティ・プログラムが検出した制御ステートメントで必要とされていた DD 名 xxxxxxxx は、DD DUMMY です。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティが処理を終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントまたは JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS468 INCORRECT VTAM LEVEL - RNR DISABLED

説明: 迅速ネットワーク再接続 (RNR) は、VTAM 4.4 以上で実行する必要があります。VTAM が正しいレベルでない場合、RNR は使用不可です。

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS469 ALL SESSION RECONNECTS HAVE BEEN INITIATED

説明: IMS 迅速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) オプションのためのセッション再接続がすべてスケジュールされています。セッション再接続機能は、通常の IMS 処理とは非同期で実行され、再接続障害があれば、すべて MTO に通知されます。

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS470 RAPID NETWORK RECONNECT STARTING

説明: IMS が迅速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) プロセスを開始します。

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSVTP00

DFS0471I IMS CANNOT LOCATE NODE xxxxxxxx DURING RAPID NETWORK PROCESS

説明: セッション再接続プロセス中に、すべてのセッションがリカバリーを保留していることを、VTAM が IMS に通知します。個々のセッションをそれぞれ復元するために、IMS はそれに対応する制御ブロックを見つける必要があります。しかし、ノード xxxxxxxx の制御ブロックが見つかりませんでした。

DFS0472I • DFS0475I

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答: セッションは、必要に応じて、通常のセッション開始手順を使用して再始動できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

モジュール: DFSIDC00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0472I RNR FUNCTION DISABLED FOR IMS/ESA EXECUTION WITH XRF

説明: RNR オプションが、XRF を使用して生成された IMS システムに対して、IMS 実行パラメーターとして指定されました。

システムの処置: IMS の実行は、RNR 機能を使用不可にして継続します。

オペレーターの応答: (マスター端末) RNR を使用不可にして、実行を継続してください。RNR の使用には、XRF を組み込まない (IMSCTRL マクロ・ステートメントで HSB=NO を指定) 新しい IMS システム定義が必要です。

問題判別: 2、6、1

モジュール: DFSIIDC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS473 PROTECTED DATA FIELD ALTERED - INPUT IGNORED

説明: メッセージ・フォーマット・サービス (MFS) は、保護フィールドの内容が、3270 装置または SLU2 装置の入力とは異なっていることを検出しています。装置に送信された保護フィールドの内容が、受信した内容と異なります。

システムの処置: システムは入力を見捨て、ID が MFSP の X'6701' ログ・レコードを作成します。

出力宛先: 3270 装置または SLU2 装置。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答: 装置がセキュリティーで保護され、正常に動作しているかどうかを確認してください。

問題判別: 3, 5, 16, 23, 24, 36

モジュール: DFSCFE00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0474W RAPID NETWORK RECONNECT FAILED INQUIRE/RESTORE RC=*nm*, FDB2=*mm*

説明: 迅速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) 中に VTAM INQUIRE コマンドまたは RESTORE コマンドが発行され、VTAM が誤ったコードを戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nm VTAM から受信した戻りコード。

mm VTAM が戻した FDB2。

VTAM によって戻される情報、および可能な処置については、「z/OS Communications Server SNA メッセージ」(SC88-9052) および「z/OS Communications Server: SNA Programming」(SC31-8829) を参照してください。


システムの処置: IMS が高速ネットワーク再接続 (Rapid Network Reconnect) を終了します。

オペレーターの応答: セッションは、必要に応じて、通常のセッション開始手順を使用して再始動できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

モジュール: DFSIDC00

関連資料:

 z/OS: RPL 戻りコード (RTNCD、FDB2) の組み合わせ

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0475I POSITION FAILURE DURING REPOSITIONING ON FILENAME, EXPECTED *xxxxxxx*, FOUND *yyyyyyyyy*

または

GETMAIN FAILURE DURING REPOSITIONING
ON FILENAME, RETURN CODE *RETCODE*

または

BSP FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, RETURN CODE *RETCODE*, REASON
CODE *REACODE*

または

READ FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, POST CODE *POSTCODE*

または

**WRITE FAILURE DURING REPOSITIONING ON
FILENAME, POST CODE POSTCODE**

説明: このメッセージは、メッセージ DFS0414I の後に続きます。重複ロギングを使用している一方の OLDS での入出力エラーの後で、IMS は、対を成しているもう一方の OLDS に書き込まれたデータのバックアウトを試みます。このために、IMS はファイル内の位置の再確立を試みます。この位置変更プロセス中は、さまざまなエラーが発生する可能性があります。このメッセージは、それぞれの形式ごとに特定の位置変更エラーを示します。IMS がこのメッセージの最初の形式を発行するのは、一時読み取り/書き込みバッファを取得するための IMODULE GETMAIN 呼び出しが失敗したときです。呼び出しからの戻りコードで次の条件が示されません。

コード

説明

- 4 ストレージが未割り振り
- 8 パラメーター・エラー
- 38 呼び出し元が SRB または XM モード

IMS がこのメッセージの 2 番目の形式を発行するのは、BSP (BACKSPACE) 要求が失敗したときです。戻りコードと理由コードについての説明は、z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets を参照してください。IMS がこのメッセージの 3 番目と 4 番目の形式を発行するのは、BSAM 読み取りまたは書き込み要求が失敗したときです。通知コードの説明については、「MVS/DFP V3R3 Customization」(SC26-4560) を参照してください。この資料では、これらの通知コードは ECB の状況標識と呼ばれています。IMS がこのメッセージの 5 番目の形式を発行するのは、OLDS での IMS 自体の位置変更を行い、その点にあるブロックに予想されたシーケンス番号がないことを検出したときです。予想されたシーケンス番号が xxxxxxxx です。検出されたシーケンス番号が yyyyyyyy です。

システムの処置: IMS は処理を続け、OLDS を切り替えます。

プログラマーの応答: データのブロックによっては、新旧の OLDS 対で重複する可能性がある場合があるので、ログ・リカバリー・ユーティリティを実行して、余分なブロックを除去し、OLDS をクローズしてください。(これが行われていない場合は、DBRC は OLDS をアーカイブしません)DFSOLP、DFSOLS、DFSNOLP、および DFSNOLS DD ステートメントを使用して、ユーティリティを CLS モードで実行してください。したがって、DFSWADSn DD ステートメントは使用しないでください。DFSOLP および DFSOLS DD ステートメントでは、入出力エラーが発生した OLDS 対を参照

する必要があります。DFSNOLP および DFSNOLS DD ステートメントでは、IMS が次の入出力エラーを切り替えた先の OLDS 対を参照する必要があります。

モジュール: DFSFDLB0、DFSFDLS0

関連資料:

 z/OS: BSP の完了コード

関連情報:

123 ページの『DFS0414I』

**DFS0476A SPOOL DATASET ABEND --
DDNAME = xxxxxxxx**


説明: OPEN、CLOSE、または EOV 処理中に永続入出力エラーが発生し、IMS DCB 異常終了出口が制御を受け取りました。メッセージ・テキストの中で、xxxxxxx は、異常終了時点で処理中であった DD 名です。z/OS もこの異常終了を記述するメッセージを出します。z/OS コンソール・ログに、この DD 名に関連したこのメッセージが含まれます。

システムの処置: IMS は、異常終了を無視し、使用可能な次のデータ・セットに切り替えます。

プログラマーの応答: 使用可能なスプール・データ・セットがあるか確認してください。使用可能なスプール・データ・セットがない場合は、スプール印刷ユーティリティをスケジューリングして、スプール・データ・セットをアンロードしてください。さらに、XRF 環境では、テークオーバーを出し、新規スプール・データ・セットを割り振ることを検討してください。使用可能なスプール・データ・セットがない場合、IMS は、スプール LTERM 宛のすべてのメッセージをメッセージ・キューに入れます。この問題は、異常終了コード 0758 に至る可能性があります。

モジュール: DFSND155

関連情報:

 IMS 異常終了 0758

**DFS0477A INVALID CLOCK SETTING.
EXCESSIVE UTC OFFSET. RESET
CLOCK AND REPLY C FOR
CONTINUE OR A FOR ABORT.**

説明: UTC オフセットは、-11:00 から +14:00 時間の範囲内である必要があります。値がこの範囲から外れています。オペレーターが SET CLOCK コマンドでエラーを犯したものと考えられます。

このメッセージは WTOR メッセージであり、オペレーターが応答するまで、システム初期設定は中断されません。オペレーターが応答した後も、クロック設定がまだ

モジュール: DFSMAID0

DFS0483A HD UNLOAD ENCOUNTERED AN ERROR OPENING THE SYSIN DATASET

説明: SYSIN DD カードで記述されているデータ・セットが開けませんでした。

システムの処置: 処理は一時停止します。

ユーザーの処置: SYSIN DD カードで参照されているデータ・セットを訂正してください。

モジュール: DFSURGU0

DFS0484A THE FOLLOWING DATASETS FOR DATA BASE *dbdname* ARE NOT REGISTERED TO DBRC: *ddname1* *ddnamen*

説明: データベース *dbdname* の DL/I オープン処理が失敗しました。データベースは登録されていても、リストされているオープン・データ・セットが RECON データ・セット内で登録されていないからです。

システムの処置: メッセージ DFS0730I が理由コード I,35 を伴って出されました。メッセージ DFS0730I に関するシステムの処置を参照してください。

プログラマーの応答: DBRC INIT.DBDS コマンドを使用して、データ・セットを RECON データ・セット内で登録して、リカバリー関連情報が実行中に記録されるようにしてください。

問題判別: 1、6

モジュール: DFSDDUI0

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0485W RECOVERY DATA FOR [DATA BASE *dbdname*|AREA *areaname*] MISSING FROM THE RECON DATASET

説明: データベース *dbdname* またはエリア *areaname* に関するリカバリー情報が、RECON データ・セットから欠落している可能性があります。データベースまたはエリアが、DBRC による更新のために開かれて、実行中に生成されたログ・データ・セットが RECON データ・セットに記録されます。データベースまたはエリアへの更新 ACCESS が可能であった以前の実行では、DBRC は使用されませんでした。したがって、明示的処置が取られない限り、有効なリカバリー JCL の生成に必要な、以前の実行からのログ・データ・セットのレコ

ードが、RECON データ・セットに含まれることはありません。

以前の実行からのログ・データ・セットが RECON に明示的に追加された場合は、RECON がリカバリー情報を記録するために再度使用されることが、このメッセージで確認されます。DBRC を使用しなかった最後のデータベースまたはエリアの更新以降に、イメージ・コピーが RECON に記録された場合、および以前の実行からのログ・データ・セットが RECON に記録されなかった場合は、DBRC を使用しない更新以前のイメージ・コピーからのリカバリーは無効であることが、このメッセージで示されます。

システムの処置: 実行を継続します。データベース内の DBRC 使用標識 (DUI) が、現在リカバリー情報を記録している RECON データ・セットの識別によって更新されます。

プログラマーの応答: 次の処置のいずれかが取れます。

- 該当する DBRC コマンドを使用して RECON データ・セットを手動で更新し、リカバリーまたは変更累積のための入力として必要なログがすべて、必ず記録されるようにしてください。
- RECON データ・セット内のデータベース (またはエリア) のイメージ・コピーを取って記録し、新しいリカバリーの基本にしてください。

DBRC を使用しない更新処理のためにこのデータベースまたはエリアを最初に開いた実行で、メッセージ DFS0486W が出されました。

モジュール: DFSDDUI0、DBFMOPC0

DFS0486W THE RECON DATASET WILL NOT BE UPDATED FOR [DATA BASE *dbdname*|AREA *areaname*]

説明: データベース *dbdname* またはエリア *areaname* が、DBRC 制御を使用しない更新処理のために開かれようとした。データベースまたはエリアへの更新 ACCESS が可能であった直前の実行時には、DBRC が確かに使用されていましたが、現行実行時に生成されるログ・データ・セットが RECON データ・セットに自動的に記録されることはありません。明示的処置が取られない限り、有効なデータベース・リカバリー・ユーティリティ処理のために JCL を生成するのに必要なデータが、RECON データ・セットに含まれることはありません。

重要: このメッセージが発行されるための条件は、常にユーザーの直接管理下にある必要があります。指定されたデータベースまたはエリアが、DBRC を使用し、データベースまたはブロック・レベルのデータ共用を実行しているサブシステムによって、同時並行的に更新され

ている場合は、直接 DBRC 制御を使用しないで実行が継続されるようにすると、データベースまたはエリアの健全性およびリカバリー可能性が損なわれる恐れがあります。

システムの処置: 実行を継続します。データベース内の DBRC 使用標識 (DUI) が更新されて、このデータベースまたはエリアが DBRC を使用しないで更新されるのが反映されます。

プログラマーの応答: 次の処置のいずれかが取れます。

- RECON データ・セットを手動で更新する場合に使用する該当の DBRC コマンドを使用して、リカバリーのための、または変更累積のための入力として必要なログ・データ・セットがすべて、必ず記録されるようにしてください。
- RECON データ・セット内のデータベースまたはエリアのイメージ・コピーを取って記録し、新しいリカバリーの基本にしてください。

このデータベースまたはエリアにアクセスするすべてのサブシステムの JCL を変更して、それらのサブシステムすべてが同じ RECON データ・セットおよび DBRC を使用するようにしてください。

モジュール: DFSDDUI0、DBFMOPC0

DFS0487W THE RECON DATASET USED FOR [DATA BASE *dbdname* | AREA *areaname*] HAS CHANGED

説明: データベース *dbdname* またはエリア *areaname* が、更新処理のために開かれています。これは、データベースまたはエリアの更新ログを記録するために使用されている RECON データ・セットに、データベースまたはエリアの最新リカバリー生成データが含まれない可能性があることを警告するメッセージです。使用されている RECON データ・セットは、直前の実行時にデータベースまたはエリアに関するログを記録するために使用された RECON データ・セットではない可能性があることが、データベースまたはエリアの DL/I (または高速機能) オープン処理によって検出されました。したがって、データベースまたはエリアのリカバリー処理ユーティリティー用の正しい JCL を生成するために必要なデータが、RECON データ・セットには含まれていない可能性があります。

重要: エリアが更新または排他的アクセス意図によって以前に開かれたことがなかった場合は、RECON データ・セットがたとえ変更されていない場合でも、このメッセージが表示される可能性があります。

システムの処置: 実行を継続します。データベース内の DBRC 使用標識 (DUI) が、現在リカバリー情報を記録

している RECON データ・セットの識別によって更新されます。

プログラマーの応答: データベースまたはエリアが複数の RECON データ・セットに登録されている場合は、この実行で正しい RECON データ・セットが使用されているか確認してください。該当する DBRC コマンドを使用して RECON データ・セットを手動で更新し、リカバリーまたは変更累積のための入力として必要なログがすべて記録されるようにするか、もしくは、データベースまたはエリアのイメージ・コピーが取られ、RECON データ・セットに記録されて、新しいリカバリーの基本になるようにしてください。

モジュール: DFSDDUI0、DBFMOPC0

DFS0488I DBR | DBD | STA | STO
COMMAND COMPLETED.
DATAGROUP (*groupname*)

または

DBR | DBD | STA | STO | LOCK | UNLOCK
COMMAND COMPLETED. DBN=*database_name*
RC=*nn*.

または

DBR | DBD | STA | STO | VUN COMMAND
COMPLETED. DBN | AREA | ADS=*database_name*
| *area_name* | *adsname* RC=*nn*

または

UNLOCK COMMAND COMPLETED. RC=*nn*

または

DBR | DBD | STA | STO COMMAND
COMPLETED. KEYWORD ALL

説明: /DBRECOVERY、/DBDUMP、/START、または /STOP コマンド処理が完了しました。戻りコードがゼロの場合は、指定されたデータベースが正常に処理されたことを示しています。ADS 指定が有効なのは、/STOP コマンドの場合のみです。そのエリアは、/DBRECOVERY、/START、および /STOP コマンド専用です。戻りコードがゼロ以外の場合は、処理中に予期しないエラーが検出されたことを示しています。

データ・グループに全機能データベースと高速機能データベースの両方が含まれている場合、高速機能エリアが正常に開始しなかったことを示すメッセージが表示される前に、コマンド完了メッセージが表示されることがあります。

/VUNLOAD コマンドがエリア xxxxxxxx に関する処理を完了しました。DFS0488I が出されるのは、/VUNLOAD コマンドが失敗したエリアに関する場合のみで、その場合は、理由コードも示されます。理由コードでは、コマンドの結果が示されています。最終的な DFS0488I メッセージが出されて、コマンドが完了したことを示します。

このメッセージの 2 番目の形式では、戻りコード *nn* の値は 00、04、または 20 になります。

このメッセージの 3 番目と 4 番目の形式は、操作が正常に行われた場合の個別メッセージの数が極端になるのを避けるために発行されます。

キーワード ALL が指定されているときは、エラーのあるデータベース名、エリア名、または ADS 名ごとに DFS0488I が 1 回ずつ出され、その後続けて最終的な DFS0488I DBR|DBD|STA|STO|VUN COMMAND COMPLETED メッセージが表示されます。DFS0488I は、データベース名、エリア名、または ADS 名ごとに、戻りコード 00 を伴って出されることはありません。RC=00 は、コマンドが成功したことを示します。

このメッセージは、OM API から発行された LOCK コマンドについてのみ受信されます。

戻りコード (10 進数)

意味

- 01** 要求された状態と現行許可状態 (RECON データ・セットを参照) に互換性がありません。データベースは、別のアクティブな、もしくは、異常終了した IMS サブシステムによって許可され、その許可状態は、現行許可要求と互換性がありません。
- 02** グローバル・コマンドは、すべてのデータ共用パートナーと同期できたわけではありませんでした。コマンドは、このメッセージを受信したサブシステムに対しては完了しましたが、パートナーに問い合わせたコマンドが正常に完了したかどうかを判別する必要があります。
- 03** 次のいずれかの理由により、データベースにそれ以上の許可を禁止するマークが付けられています。グローバル /DBRRECOVERY、グローバル /STO、または DBRC CHANGE.DB(NOAUTH) コマンド。
- 04** データベースのクローズ時に、エラーが発生しました。理由コードの詳細な説明については、メッセージ DFS730I を参照してください。

モジュール DFSMDA00 も、動的な割り振りまたは割り振り解除が失敗した場合に戻りコード 4 を発行する場合があります。このコードは、別の IMS モジュールと IMS 動的割り振りモジュール DFSMDA00 の間にインターフ

ェース問題があることを示しています。このコードによって、DFSMDA00 メンバーに欠落または誤りのあることを示すこともできます。

/VUNLOAD コマンドの場合は、指定されたエリアがデータ・スペースにもカップリング・ファシリティー構造にも検出されなかったことを示します。エリア名が正しいことを検証してください。/DISPLAY FPVIRTUAL コマンドを発行して、データ・スペースまたはカップリング・ファシリティー構造にあるエリアを検索してください。

このメッセージの 2 番目の形式の場合は、この戻りコードは、/UNLOCK SYSTEM コマンドが部分的にしか正常に実行されなかったことを示しています。少なくとも許容ブロックまたは CI の 1 つは、ページできませんでした。後で再度 /UNLOCK SYSTEM コマンドを入力してください。

戻りコード 04 では、グローバル /DBD コマンドのため、データベースが許可されるのは、要求状態が "READ" または "READ-GO" の場合のみであることを意味している可能性もあります。

- 05** データベースに、イメージ・コピーが必要というマークが付けられています。
- 06** データベースに、リカバリーが必要というマークが付けられています。
- 07** データベースに、バックアウトが必要というマークが付けられています。
- 08** 動的割り振りが失敗しました (DFSMDA00 から)。このコードは、IMS 動的割り振りモジュール (DFSMDA00) が、MVS 動的割り振りからゼロ以外の戻りコードを受信したことを示しています。

/VUNLOAD、/STOP AREA GLOBAL、/DBRECOVERY AREA GLOBAL、または /STOP ADS コマンドの場合は、カップリング・ファシリティー構造内のエリアについて VUNLOAD ロックを取得しようとして失敗しました。/VUNLOAD、/STOP AREA GLOBAL、/DBRECOVERY AREA GLOBAL、または /STOP ADS コマンドは終了します。VUNLOAD、STOP、または DBR 処理は行われません。

- 09** 許可変更処理中に、IRLM は 1 つ以上のサブシステムを識別できませんでした。IRLM=N または別の IRLM 名がサブシステムで指定されている可能性があります。
- 11** データベース使用互換性に関する評価プロセス中に、無効なパラメーターが検出されました。

- RECON データ・セット内のデータベース・レコードが無効の可能性があります。
- 12 DFSMDA00 から使用できるストレージがないために、動的な割り振りまたは割り振り解除が失敗しました。
- 戻りコード 12 は、許可取り消しエラーのために DBRC の現行許可状態が無効であることを意味している可能性もあります。
- 14 次のいずれかの条件が生じている可能性があるため、指定されたデータベースが開始できません。
- DBRC は、すでに他の IMS サブシステムの他の READ アクセス・ユーザーにデータベースへのアクセスを許可しています。前回発行された /DBDUMP コマンドのために、他のサブシステム用に付与された許可レベルが、現行サブシステム用の本来の許可レベルと互換性がありません。したがって、現行サブシステムに関しては、元の許可レベルは復元できません。
 - 変更されたデータベース許可レベルが、/STA DB ACCESS コマンドによって要求されています。ACCESS パラメーターの変更を求める要求は失敗しました。その理由は、データベースが他の IMS サブシステム内で現在保持されている許可レベルと互換性がないためです。
- 戻りコード 14 は、許可変更要求の処理を試行中に、エラーが DBRC で発生したことを意味している可能性もあります。
- 15 /DBRECOVERY AREA コマンドの重複 AREA エントリは無視されました。このエリアは、DBRC によってすでに許可取り消されました。
- 16 システム・エラーのため、動的割り振りまたは割り振り解除は失敗しました。理由コードの詳細な説明については、メッセージ DFS2498I を参照してください。
- 20 /UNLOCK SYSTEM コマンドの場合は、次のいずれかの条件が生じました。
- パージの対象となる EEQE がありませんでした。
 - /UNLOCK コマンドが、XRF に非対応の IMS システムで入力されました。
 - /UNLOCK コマンドがアクティブ・システムで入力されましたが、これが以前の代替システムではありませんでした。このコマンドが入力できるのは、代替システムのみです。
 - /UNLOCK コマンドが代替システムで入力されましたが、代替システムが XRF テークオーバーを完了する前でした。このコマンドは、以下の 1 つ以上のイベントが発生した後に、代替システムでのみ入力する必要があります。
- 障害を起こしたアクティブ・システムが終了した。
 - 障害を起こしたアクティブ・システムを収容しているプロセッサがリセットされた。
 - アクティブ・システム上の入出力防止が完了した。
- 21 次のいずれかが発生しました。
- /START AREA または /VUNLOAD AREA コマンドの処理時に、VLOCK 要求を付与できません。エリアに STOPPED のマークが付けられています。共用 IMS システムの 1 つが保存 VLOCK を排他的に保持しています。
 - /VUNLOAD AREA コマンドまたは /START AREA コマンド処理中に、IMS 共用パートナーが、DASD 上の DEDB エリア制御ブロック (DMAC) とストレージ内の DMAC の間で、VSO オプションの不整合を検出しました。エリアに STOPPED のマークが付けられています。
- /START AREA コマンドを発行して不整合を訂正してください。
- /VUNLOAD コマンドまたは /START AREA コマンド処理中に、IMS 共用パートナーが、DASD 上の DMAC とストレージ内の DMAC の間で VSO オプションの不整合を検出しました。AREA は停止されません。/START AREA コマンドを発行して不整合を訂正してください。
 - /START AREA コマンド処理中に、障害のある持続接続を以前の障害を起こしたシステムから削除するために、IXLFORCE コマンドが発行されます。IXLFORCE コマンドは、障害を起こした持続接続を削除できませんでした。この場合、以下のメッセージが生成されます。
- DFS2783A UNABLE TO DELETE FAILED-PERSISTENT CONNECTION TO STR: SSSSSSSSSSSSSSSS REASON=RRRR
 - DFS0488I STA COMMAND COMPLETED. AREA= XXXXXXXX RC=21
- 24 ALL キーワードを指定したコマンドは、高速機能 MSDB に関しては処理されません。/START DB ALL アクセスが入力された場合は、モジュール DFSDBDR0 に MSDB は組み込まれません。

- 28 次の条件のため、指定されたデータベースは開始できません。
- /START DB ACCESS コマンドにより、高速処理データベース (DEDB) へのデータベース許可レベルの変更要求が出されました。参照されている DEDB が領域により使用中であるため、DEDB に対する許可レベルの変更は行えません。
 - DEDB アクセス意図を変更するには、ターゲット DEDB にアクセスできるすべての PSB のスケジューリングを停止する必要があります。このコードでは、WFI トランザクションに関連した PSB が現在スケジュールされている領域を停止し、非 WFI トランザクション用のトランザクションまたは PSB を停止することが必要となる場合があります。
- 31 /START AREA コマンドが失敗しました。エリアに DBRC RECON データ・セット内で recovery-needed というマークが付いているか、エリアに関して使用可能なエリア・データ・セットがないことが、DBRC RECON で示されているからです。
- 34 /START DB ACCESS コマンドが発行されたため、データベース許可変更要求が IMS から DBRC に対して出されました。DBRC から戻された、エンコードされたデータベース状態が値ゼロに設定されました。
- 35 データベースに関して、バックアウト・エラーが発生しました。/DBRECOVERY コマンドが発行され、バッチ・バックアウトが実行されるまでは、データベースに関する /START コマンドは無効です。
- 37 次のいずれかのイベントが発生しました。
- データベースに関して、書き込みエラーが発生しました。発行されているコマンドは、/DBRECOVERY コマンドが発行されるまでは無効です。
 - 共用 VSO 域に関するオープン処理中に、新しいデータ・スペースに対する要求が出されました。メッセージ DFS0488I の前に出されたメッセージ DFS2444I を参照してください。
- 38 /START DB コマンドが実行されませんでした。IMS XRF テークオーバーの間、データベースが拡張中であり、入出力防止がまだ完了していなかったからです。入出力防止が完了したことを IMS が認識するまでは、データベースを開始できません。
- 39 ACCESS=RO または RD を指定する /START DB コマンドは、データベースに関して、未完了の再始動可能バックアウトが存在している間は無効です。未完了のバックアウトを再実行するには、IMS がデータベースに対する更新アクセスまたは排他的アクセスができる必要があります。指定されたデータベースについては、コマンドは処理されません。
- 41 エリアがカップリング・ファシリティにロードされていません。このコードによってエリアへのアクセスが妨げられることはありませんが、このコードより前にメッセージ DFS2819A が出されている場合は除きます。
- 42 区画構造マネージャーにエラーがあるため、指定された HALDB 区画を /START DB コマンドに対する応答として処理することができません。関連する DFS0415W メッセージがないかどうか、システム・コンソールを調べてください。
- 43 データベースに 1 つ以上の未確定 EEQE が存在し、IMS PROCLIB データ・セットの DFSVSMxx メンバーで NODBR キーワードが指定されているため、指定されたデータベースを /DBRECOVERY コマンドに対する応答として処理することができません。
- 44 /STOP ADS コマンドが入力されたとき、指定された DD 名の ADS はすでに停止していました。この /STOP ADS コマンドは無視されます。
- 45 /DBR、/DBD、/STA、または /STO コマンドが、QUIESCED であるか、QUIESCE が進行中の指定データベースまたは HALDB 区画に対して発行されました。QUIESCE が解除された後、コマンドを再試行してください。静止が保留状態である場合、UPDATE DB STOP(QUIESCE) コマンドを使用して解除してください。
- 50 /DBRECOVERY、/START、または /STOP コマンドが、AREAGROUP または DBGROUP を指定して出されました。ただし、AREAGROUP には、指定されたデータベースが含まれ、DBGROUP には、指定されたエリアが含まれていました。AREAGROUP におけるデータベース、または DBGROUP におけるエリアに関しては、コマンドは処理されません。
- 高速機能をサポートするよう定義されたシステムで、キーワード「MSDB」が /START、/STOP、または /DBRECOVERY コマンドで入力されました。(MSDB は、/DBDUMP で使用できます。) このキーワードは無視され、コマンドの残りの部分は処理されます。
- 52 /DBRECOVERY または /START コマンドが

- データベースに関して入力されましたが、このデータベースは、HSM からの再呼び出しが行われている最中でした。コマンド・プロセスはこの時点では実行されません。データベースが再呼び出しされた後に、/DBRECOVERY コマンドを再度入力する必要があります。/START コマンドは、再呼び出しの完了後、自動的に実行されます。
- 54 IMS によって割り振られた ADS の数と DBRC に認識されている ADS の数の間に矛盾があります。矛盾を訂正してから、/DBRECOVERY または /STOP コマンドを再発行して、データ・セットの割り振りを解除してください。
- 55 FF DB または FP エリアが現在リカバリー中であるため、コマンドは失敗しました。
- 56 指定されたデータベースまたは HALDB 区画をオープンしようとしているときに、エラーが発生しました。システム・コンソールをチェックして、メッセージ DFS0730I で失敗の理由を判別してください。
- 57 指定されたデータベースは HALDB マスターであり、OPEN キーワードには無効です。ただし、必要な場合、コマンドで 1 つだけ HALDB マスターが指定されている場合限り、区画構造の再作成が試行されます。コマンドに複数のデータベース名がリストされている場合には、再作成は試行されません。
- 58 指定された HALDB 区画を、/DBDUMP、/DBRECOVERY、/START、または /STOP コマンドに応じて処理できません。この区画は、アクティブ HALDB OLR が使用中です。コマンドは、メッセージに名前が示された HALDB 区画に対しては処理されません。ただし、コマンドで指定されている他のデータベースまたは HALDB 区画に対する処理は続行されます。
- 60 コマンドは、エリアがオンライン変更によって削除されたために失敗しました。
- 62 指定されたデータベースがディレクトリーの初期設定に失敗したか、DBB または PSB プール・スペースにブロックを収容するだけの大きさがなかったかのどちらかです。このデータベースに言及したメッセージがないか、システム・コンソールを調べてください。
- 70 指定されたデータベースまたは HALDB 区画が、許可に失敗しました。許可の失敗に関連したメッセージがないか、システム・コンソールを調べてください。許可の失敗に関連するメッセージが見つからない場合には、指定されたデータベースまたは HALDB マスターの状況を確認します。
- 71 HALDB マスターに対して /DBRECOVERY コマンドが出されていたので、指定された HALDB 区画に対して OPEN キーワード処理を続けることができませんでした。HALDB マスターを開始し、コマンドを再発行して HALDB 区画を開始してください。区画が削除され、区画構造の再作成が行われた場合にも、この状態になることがあります。区画構造の再作成は、/START DB *haldbmst* OPEN コマンドまたは UPD DB NAME(*haldbmst*) START(ACCESS) OPTION(OPEN) コマンドを発行するか (ここで、*haldbmst* は区画のマスター)、または区画のキー範囲内のキーに対して修飾付き GU 呼び出しを出す方法で行えます。区画が存在するか、削除されたかを調べるには、LIST.RECON コマンドを使用します。
- 72 指定された HALDB 区画に対する区画 DBM 構築が失敗しました。システム・コンソールでメッセージ DFS0415W の有無を調べ、失敗の理由を判別してください。
- 73 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。システム・コンソールをチェックして、DFS0561 または DFS0592I メッセージで失敗の理由を判別してください。
- 74 データ管理ブロック・プール (DMB プール) が小さすぎて、必要なデータ管理ブロックの全部は収まらないため、指名されているデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。該当するパラメーターを変更して、プールのサイズを大きくし、システムを再始動してください。メッセージ DFS0992I も出される可能性があります。
- 75 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。指名されたデータベースまたは HALDB 区画用の DMB ブロックをロードしようとしたときに、IMS が DMB プール不足を検出しました。DMB プールのサイズは、アクティブに使用される DMB のすべてを収容するだけの大きさがなければなりません。該当するパラメーターを変更して、プールのサイズを大きくし、システムを再始動してください。
- 76 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。システム・コンソールをチェックして、メッセージ DFS0564I で失敗の理由を判別してください。
- 77 指定されたデータベースまたは HALDB 区画に対する DMB 構築処理が失敗しました。予期しない戻りコードが受信されました。関連する

- メッセージがないかどうかシステム・コンソールを調べ、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。
- 79 まだ Restart Parallel Database Open によって処理中のデータベースに対して、コマンドを発行しました。そのプロセスが完了するまで待つて、再度コマンドを試行してください。
- 80 指定された DEDB データベースが、非 FP システムで開始できませんでした。
- 81 このメッセージは、読み取りが許可されたデータベース内のエリアについて、ユーザーが /VUN コマンドを発行したために生成されました。/VUN コマンドは、データベースについての更新許可を持つ IMS サブシステムで入力する必要があります。
- 82 /DBR、/STO または /VUN area コマンドが、静止したエリアに対して発行されました。UPDATE AREA STOP(QUIESCE) コマンドを発行して静止を停止し、コマンドを再発行してください。
- 83 /UNLOCK コマンドの場合、共通サービス域 (CSA) 不足のために、内部データベースの開始 (/STA) コマンドが失敗しました。テキスト IEQE FOUND を含むメッセージ DFS0451I を受信したデータベースごとに、手動で /STA DB コマンドを発行してください。
- 84 データベースの /START、/STOP、/DBR、または /DBD コマンドは、リソースが IMS 変更リストからのインポート中であるか、変更リストからのインポートが失敗したために処理できませんでした。リソースは、正常にインポートされるまでタイプ 1 コマンドによって処理することができません。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

問題判別: 6、11

モジュール:

DBFARD10、DBFARD40、DBFARDA0、DFSDBDR0、DFSRRDSH0、DBFCVUN0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0489I DATA BASE *database name* IS CHANGED TO INQUIRY ONLY STATUS

説明: 要イメージ・コピー・フラグが DBRC RECON データ・セットに設定されているため、メッセージ内で指定されたデータベースは、INQUIRY ONLY 状況に変更されます。オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティーがデータベースをコピーするようにスケジュー

ルされているときは、オンライン・イメージ・コピーが実行できるようにするために、データベース許可レベルは、読み取りレベルに変更する必要があります。オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティーが、IMS サブシステムに代わって、読み取りレベルの許可を要求しています。

システムの処置: IMS 処理は、オンライン・イメージ・コピーから続行します。ただし、データベースには、照会専用としての使用のマークが付けられます。

オペレーターの応答: オンライン IMS サブシステム用の更新許可レベルまたは排他的許可レベルが必要な場合は、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティーの完了後に、/START DB または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを入力してください。

問題判別: 4、6

モジュール: DFSDBAU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0490I HD UNLOAD OF PARTITIONED DATA BASES IS NOT SUPPORTED FOR UCF

説明: HALDB の HD アンロードは、ユーティリティー制御機能 (UCF) ではサポートされません。

システムの処置: 実行は一時停止し、戻りコードが 16 に設定されます。

モジュール: DFSURGU0

DFS0491A ERROR IN DFSCTL DATASET

説明: DFSCTL データ・セット内のステートメントにエラーが含まれていました。このメッセージの後に続くメッセージで誤りのある行が表示され、エラーが記述されます。このメッセージでは、可能な場合は、エラーの影響を受けている領域が表示されます。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: 後続のメッセージに基づいて、エラーのある行を訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0、DBFPHI00、DBFPHI10、DBFPHI20、DBFPHI30

DFS0492I *line in error*

説明: このメッセージでは、DFSCTL データ・セット内で誤りのある行が表示されています。このメッセージの後にメッセージがさらに 1 つ以上続いて、追加情報が提供されます。このメッセージでは、可能な場合は、

DFS0493I • DFS0498I

エラーの影響を受けている領域が表示されます。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: このメッセージおよび次に続くメッセージの情報に基づいて、エラーを訂正してください。

モジュール:

DBFPCAA0、DBFPHI00、DBFPHI10、DBFPHI20、
DBFPHI30

DFS0493I INVALID CHARACTERS IN DATABASE NAME

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のデータベース名に無効な文字が含まれていました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0494I NO DATABASE NAME GIVEN

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントでデータベース名が指定されていませんでした。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0495I NO PCB LABEL GIVEN

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに PCB ラベルが欠落していました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0496A PARTITION SELECTION FOR DATA BASE DATASET FAILED

説明: ジョブ・パラメーター・カードで指定されたデータベースに属する区画または区画の範囲のデータベース・セグメントをアンロードする準備をしている最中に、HDUNLOAD が IMS 区画選択からエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコード 16 が示されます。

ユーザーの処置: ジョブ・パラメーター・カードでのデータベース入力か正しいか検証してください。

NUMBER= を使用して SYSIN で区画の範囲を指定した (例えば、PARTITION=PART2,NUMBER=5) 場合は、範囲値を訂正するか、追加の区画を定義して RECON を訂正する必要がある可能性があります。区画選択出口ルーチンを調べて、有効範囲内の区画名を識別してください。

区画が欠落している場合は、「区画定義ユーティリティー (Partition Definition utility)」の TSO パネルを使用して区画を定義し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURGU0

DFS0497I INVALID CHARACTERS IN PCB LABEL

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中の PCB ラベルに、無効な文字が含まれていました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0498I INVALID DATABASE NAME LENGTH

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のデータベース名の長さが無効でした。名前は長さが 1 から 8 文字の範囲である必要があります。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0499I INVALID PCB LABEL LENGTH

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中の PCB ラベルの長さが無効でした。PCB ラベルは長さが 1 から 8 文字の範囲である必要があります。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0500I DANGLING COMMA ON END OF STATEMENT

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントがコンマで終わっています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

第 14 章 DFS メッセージ DFS0501I - DFS550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0501I IC OPTION SPECIFIED FOR NON PROCOPT H PCB *x*. RGN *n*

説明: PCB *x* がイメージ・コピー (IC) オプションを指定していますが、処理オプション H (PROCOPT=H) が指定されていません。IC オプションが有効なのは、PROCOPT H PCB の場合のみです。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: この PCB に関する IC オプションを除去するか、PROCOPT H を指定するか、いずれかを行って、PSBGEN を再実行してください。

モジュール: DBFCPY00

DFS0502I MULTIPLE DATABASE NAMES GIVEN

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに DATABASE= (または DB=) キーワードが 2 つ含まれています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0503I DATABASE *x* NOT FOUND IN SYSTEM. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントで DATABASE= (または DB=) キーワードが指定しているデータベースは、存在しません。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI00

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0504A NO PCB FOUND WITH LABEL *x* FOR DATA BASE *y*. RGN *n*

説明: データベース *y* のラベル *x* の PCB が検出されませんでした。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFCPY00

DFS0505I MULTIPLE PCB LABELS GIVEN

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに PCB= キーワードが 2 つ含まれています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0506I SUBSET POINTER IS NOT VALID FOR SENSEG *segmentname* IN PCB *dbdname* IN PSB *psbname*

説明: SSPTR サブセット・ポインターは、SENSEG ステートメントで指定されていますが、対応する SEGM ステートメントでは定義されていません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

segmentname

無効のサブセット・ポインターが含まれている SENSEG

dbdname

SSPTR サブセット・ポインターが定義されていない DBD の SEGM *segmentname*

psbname

無効のステートメントが含まれている PSB

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- アプリケーション・プログラムがサブセット・ポインターを使用しない場合は、このメッセージは無視してください。
- PSB の SENSEG ステートメントから SSPTR サブセット・ポインターを除去してください。次に

PSBGEN を再実行してから、PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB ユーティリティを再実行してください。

- DBD の SEGM ステートメントに SSPTR サブセット・ポインターを追加してください。次に DBDGEN を再実行してから、PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DBFUDLBO

DFS0507I PRIMARY MASTER LOGICAL TERMINAL IS NOT DEFINED


説明: IMS の初期設定で、1 次マスター論理端末 (PMTO) がシステム内で定義されていないことが検出されました。

システムの処置: IMS の初期設定は、異常終了コード 3477 で終了します。

システム・プログラマーの応答: システム定義の中で PMTO が正しく指定されていることを確認してください。

モジュール: DFSAINBO

関連情報:

 IMS 異常終了 3477

DFS0508I ADJACENT COMMAS IN STATEMENT. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントにコンマが隣接して (,,) 含まれています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0、DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0509A PARTITION SELECTION FAILED

説明: オンライン変更コピーのために HALDB 区画にアクセスしているとき、論理エラーが検出されました。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 08 で終了します。

システム・プログラマーの応答: コピーされている区画 DBDS のリスト・ヒストリーを調べて、原因を判別してください。

モジュール: DFSUICPO

DFS0510E THE SETI STATEMENT IS INVALID. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0491A または後続のメッセージに示されているステートメントに、無効なプログラム仕様ブロック (PSB) 名が含まれていました。*n* は領域 ID 番号です。

BMP アプリケーションの DFSCTL データ・セット内の「索引の保守をオフに設定」(SETI) ステートメントでの PSB=*psbname* が、BMP アプリケーションで参照される高速副次索引データベースの索引保守を抑制するために使用されています。しかし、SETI ステートメントで PSB= パラメーターにエラーがありました。

次のいずれかのエラーが発生しました。

- SETI ステートメントの PSB = パラメーターの PSB 名が、BMP アプリケーションの PSB 名と一致しない。
- PSB = パラメーターが SETI ステートメントから省略されている。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPCAA0、DBFINTE0

関連情報:

151 ページの『DFS0491A』

DFS0511I DUPLICATE OPTIONS FOR DB=*x* AREA=*y*. RGN *n*

説明: エリアは、メッセージ DFS0492I に示されている SETO ステートメントで、暗黙的または明示的のいずれかにより 2 回指定されています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0512I UNRECOGNIZED KEYWORD. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されている SETO ステートメントに、無効なキーワードが含まれています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0513I NO PARAMETERS SPECIFIED ON *x* KEYWORD. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されている SETO ステートメントの IC= (または NOIC=) キーワードの後に続くパラメーター・リストがありませんでした。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0514I UNRECOGNIZED TEXT AFTER ENDING PAREN ON *x* KEYWORD. RGN *n*

説明: IMS が IC= (または NOIC=) キーワード・パラメーター・リストと次のコンマの間のテキスト (例えば、IC=(AREA1)bad,) を認識しませんでした。メッセージ DFS0492I に、エラーが含まれている SETO ステートメントが示されています。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0515I INVALID AREA NAME LENGTH. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のエリア名の長さが無効です。エリア名は長さが 1 から 8 文字の範囲である必要があります。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI30

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0516I INVALID CHARACTERS IN AREA NAME. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントの中のエリア名に無効な文字が含まれていました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI30

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0517I AREA *x* NOT FOUND IN DATA BASE *y*. RGN *n*

説明: エリア *x* がデータベース *y* で定義されていませんでした。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI30

DFS0518I INVALID DASH SEPARATOR. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントで、3 つ以上のエリア名がダッシュで区切られていました (例えば、IC=(A1-A2-A3))。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

DFS0519I AREAS *x* AND *y* ARE IN THE WRONG ORDER. RGN *n*

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントで、エリア範囲の開始点および終了点であるエリア *x* と *y* の順序が間違っていました。エリアは、DBDGEN 順に指定する必要があります。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

**DFS0520I TERMINATION ITASK WAITS DUE
TO LONG BUSY FAST PATH ADS
AREA=*areaname* DDN=*ddname***

説明: シャットダウン処理時に、1 つ以上の高速機能 ADS がロング・ビジー条件下にあると、IMS が判別しました。シャットダウン処理を続ける前に、ロング・ビジー・リカバリーが完了する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

長時間使用中 ADS が属しているエリアの名前
ddname RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

システムの処置: 高速機能ロング・ビジー ADS がリカバリーを完了した後で、終了 ITASK が通知されます。IMS シャットダウン処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFTERM0

**DFS0521I UNMATCHING PARENTHESIS. RGN
*n***

説明: メッセージ DFS0492I に示されているステートメントに含まれている小括弧の数は、右小括弧よりも左小括弧の方が多くなっていました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10、DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

**DFS0522I AREA *x* SPECIFIED TWICE IN AREA
LISTS. RGN *n***

説明: メッセージ DFS0492I に示されている SETR ステートメントのエリア・リストに、このエリア名が 2 回含まれていました。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI20

関連情報:

151 ページの『DFS0492I』

**DFS0523I UNRECOGNIZED TEXT AT END OF
AREA LIST. RGN *n***

説明: IC= キーワードに関するエリア・リストの末尾のテキストが無効でした。エリア・リストの末尾で有効に使用できるのは、1ABEND、2ABEND、または CONTINUE (およびこれらの同義語) のみです。

システムの処置: 領域は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある行を訂正してください。

モジュール: DBFPHI10

**DFS524I DFSZDI00-GSAM INIT.
AUTHORIZATION DENIED**

説明: IMSAUTH マクロは、モジュール DFSZDI40 が許可ライブラリーにないことを示す、ゼロ以外のコードを戻しました。


システムの処置: 領域は終了し、異常終了コード 0657 が示され、メモリー・ダンプが取られます。

オペレーターの応答: ジョブを再実行してください。この状態が持続する場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IMS ライブラリーの状況を検査してください。

モジュール: DFSZDI40

関連情報:

 IMS 異常終了 0657

**DFS0525A A PROCOPT H PCB WAS SPECIFIED
TO AN *xxx* REGION. PCB *x* IN PSB
y. RGN *n***

説明: PSB *y* の PCB *x* で処理オプション H が指定されましたが、領域は IFP、MPP、メッセージ・ドリブン BMP、WFI BMP、または CCTL スレッドです。さらに、この領域の JCL には、//DFSCCTL データ・セットの SETO ステートメントの一部も含まれています。HSSP (PROCOPT=H) を使用するプログラムが実行できるのは、BMP 領域のみです。


システムの処置: IFP、MPP、メッセージ・ドリブン BMP、または WFI BMP の場合は、領域は終了し、異常終了コード 1060 が示されます。DBCTL スレッドの場合は、1060 異常終了コードが CCTL に戻されて、スケジューリング障害を示します。

プログラマーの応答: IFP、MPP、メッセージ・ドリブン BMP、WFI BMP、または DBCTL スレッドでは、処理オプション H を使用する PCB が含まれる PSB

はスケジュールできません。処理オプションを訂正してください。

モジュール: DBFCPY00

関連情報:

 IMS 異常終了 1060

DFS0526A AN INCONSISTENCY EXISTS BETWEEN THE PSB AND THE DEDB'S DBD. PCB *x* IN PSB *y*. RGN *n*


説明: DBD は、DBDLIB で変更され、ACBGEN が PSB を作成するために使用されました。DBD は ACBLIB 内で置き換えられなかったことを示す警告メッセージが ACBGEN 中に出されました。

システムの処置: 異常終了コード 1013 が CCTL に戻されて、スケジュール要求の失敗を示します。

プログラマーの応答: ACBGEN ユーティリティを再実行して、PSB と DBD の間の不整合を訂正してください。

モジュール: DBFCPY00

関連情報:

 IMS 異常終了 1013

DFS0527A A GETMAIN FAILED TO OBTAIN SEGMENT WORKAREAS IN SP231 ECSA. ECSA NEEDS TO BE FREED UP.


説明: IMS は、要求されたストレージを取得できませんでした。

システムの処置: 異常終了コード 1061 が CCTL に戻されて、スケジュール要求の失敗を示します。

プログラマーの応答: ECSA ストレージを解放し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DBFCPY00、DBFCPY20

関連情報:

 IMS 異常終了 1061

DFS0528I PSTOP/STOP CMD FOR RGN *nnnn* WAITING IN QSN EXIT. CODE = *x*

説明: DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用がユーザー限度またはデフォルト限度を超えたことに応じて生じました。従属領域が待

ち状態にある間、この領域に対して /STOP または /PSTOP コマンドが入力されました。この状態のアプリケーション・プログラムまたは領域を終了する場合は、次のいずれかの方法を使用してください。

- QCF TSO/ISPF インターフェースを使用する。
- /STOP REGION *x* ABDUMP *trannname* コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを終了してから、/STOP REGION *x* コマンドを入力して、領域を終了する。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- | | |
|-------------|--|
| <i>nnnn</i> | 待ち状態に置かれた従属領域 |
| <i>x</i> | 理由コード。次のいずれかの値を取ります。 |
| 1 | 従属領域が終了し、異常終了コード 0408 が出ることを示します。/STOP REGION <i>x</i> ABDUMP <i>trannname</i> コマンドが出された場合は、この異常終了は正常です。 |
| 2 | 領域がキュー・スペース通知出口内で待ち状態ではなくなったこと、またはコマンドが発行された時点では、その状態で認識されなかったことを示します。 |
| 3 | /STOP または /PSTOP コマンド (DFSSTOP) を処理するためのスペースの獲得に失敗したことを示します。このエラーが生じることがあってはなりません。 |

システムの処置: ありません。

オペレーターの応答: 戻りコードに応じて、次のように該当する処置を取ってください。

- 1 /DISPLAY ACTIVE REGION コマンドを入力してください。表示される状況が WAIT-QSN の場合は、/STOP REGION *x* ABDUMP *trannname* コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを終了してから、/STOP REGION *x* コマンドを入力してください。特定の領域に関して、理由コード 1 が引き続き受信される場合は、システム・プログラマーに問題を報告してください。
- 2 /DISPLAY ACTIVE REGION コマンドを入力してください。表示される状況が WAIT-QSN の場合は、/STOP REGION *x* ABDUMP *trannname* コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを終了してから、/STOP REGION *x* コマンドを入力してください。/DISPLAY コマンドにより WAIT-QSN の表示が続いているとき、メッセージ DFS0528I があらためて出され、理由コード 1


が示された場合は、システム・プログラマーに問題を報告してください。

- 3 システム・プログラマーに問題を報告してください。

システム・プログラマーの応答: 理由コード 1 が引き続き表示されていたり、理由コード 3 が示されたりする場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール: DFSSTOP0

関連情報:

 IMS 異常終了 0408

DFS529E AN INVALID VALUE IS SPECIFIED ON THE JVM EXEC PARAMETER

説明: EXEC ジョブ制御ステートメントの PARM= リスト内の定位置 JVM パラメーターに無効値が指定されたため、従属領域を初期設定できません。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答: EXEC ジョブ制御ステートメントの JVM パラメーターに指定された値を訂正し、ジョブを再実行してください。

JVM パラメーターの有効な値は 64 または 31 です。

問題判別: 2、8

モジュール: DSFRRA40

**DFS0530I DFSZDC00 I/O ERROR
DBDNAME=*dbdname* DDNAME=*ddname*
GBCRTNCD=*xxxx***

説明: パージまたはチェックポイント操作時に、GSAM コントローラーがバッファ書き出しエラーを検出しました。


xxxx は、16 進数の 2 バイト・フィールド GBCRTNCD です。GBCRTNCD フィールド・ビットの定義については、GB DSECT を参照してください。

システムの処置: GSAM が終了し、異常終了コード 0271 が示されます。

プログラマーの応答: データ・リカバリー手順を使用して、エラーのデータ・セットを再構成してください。

モジュール: DFSZDC00

関連情報:

 IMS 異常終了 0271

**DFS0531I IMAGE COPY DATASET OPEN
FAILED**

または

**REASON CODE=01 AREA=*areaname* REGID=*regid*
DEVICE TYPE NOT SUPPORTED. DD=*ddname*
DSN=*dsname***

または

**REASON CODE=02 AREA=*areaname* REGID=*regid*
MAXIMUM PICS ALREADY EXIST**

または

**REASON CODE=03 AREA=*areaname* REGID=*regid*
AREA IS NOT REGISTERED IN DBRC**

または

**REASON CODE=04 AREA=*areaname* REGID=*regid*
INVALID PARAMETER FOUND IN DBRC**

または

**REASON CODE=05 AREA=*areaname* REGID=*regid*
INTERNAL DBRC ERROR**

または

**REASON CODE=06 AREA=*areaname* REGID=*regid*
DBRC DID NOT HAVE ENOUGH IDS(S)**

または

**REASON CODE=07 AREA=*areaname* REGID=*regid*
NO IDS(S) COULD BE USED**

または

**REASON CODE=08 AREA=*areaname* REGID=*regid*
AREA DOES NOT HAVE REUSE ATTRIBUTE**

または

**REASON CODE=09 AREA=*areaname* REGID=*regid*
HSSP IC ALREADY IN PROCESS**

または

**REASON CODE=10 AREA=*areaname* REGID=*regid*
DUPLICATE DDNAME FOUND DD=*ddname*
DSN=*dsname***

または

REASON CODE=11 AREA=*areaname* REGID=*regid*
SPACE FOR IDSC(S) UNAVAILABLE DD=*ddname*
DSN=*dsname*

または

REASON CODE=13 AREA=*areaname* REGID=*regid*
QSAM OPEN CIC XFP TCB RETRY DD=*ddname*
DSN=*dsname*

または

REASON CODE=14 AREA=*areaname* REGID=*regid*
GETMAIN FAILED - DBRC BLKS

または

REASON CODE=15 AREA=*areaname* REGID=*regid*
QSAM OPEN FAILED DD=*ddname* DSN=*dsname*

または

REASON CODE=16 AREA=*areaname* REGID=*regid*
GETMAIN FAILED FOR HSSP IC BLOCKS AND
BUFFER

または

REASON CODE=17 AREA=*areaname* REGID=*regid*
ALLOC FAILED DDNAME NOT FOUND IN TIOT
DD=*ddname* DSN=*dsname*

または

REASON CODE=18 AREA=*areaname* REGID=*regid*
EEQE EXISTS WITHOUT A BUFFER

または

REASON CODE=19 AREA=*areaname* REGID=*regid*
AREA IS NONRECOVERABLE

または

REASON CODE=20 AREA=*areaname* REGID=*regid*
RDJFCB/MODCB ERROR DD=*ddname* DSN=*dsname*

または

REASON CODE=31 AREA=*areaname* REGID=*regid*
ALLOCATED SPACE NOT ENOUGH

説明: HSSP イメージ・コピー・オープン処理が、イメージ・コピー・データ・セット (IDS) またはイメージ・コピー・セットアップで失敗しました。2 番目の DFS0531I メッセージに理由コード、およびエラーの要旨が示されます。

システムの処置: IDS オープン障害が次の理由コードのいずれかが示す理由で発生したときに、HSSP イメージ・コピー処理が終了しました:

02、03、04、05、06、07、08、09、12、16、および 18

IDS オープン障害が次のいずれかの理由コードで示される理由で生じると、HSSP イメージ・コピー処理は終了する可能性があります: 01、10、11、13、17、20、31。イメージ・コピー・プロセスが終了するかどうかは、指定したイメージ・コピー・オプションによります。

理由コードが 19 の場合は、HSSP/IC ジョブがユーザー異常終了 1062 で失敗します。

どの IDS オープン障害理由コードの場合も、HSSP 処理がイメージ・コピーの有無にかかわらず継続できるか、または終了するかは、指定した HSSP イメージ・コピー・オプションによります。指定できる有効なオプションには、CONTINUE、1ABEND、2ABEND、および IC=0,1,2 があります。

プログラマーの応答: 受信した理由コードに応じて、次のように該当する処置を取ってください。

コード

処置

- 01 該当する VSAM カタログまたは JCL DD ステートメントをチェックして、指定された IDS 用としてディスク装置が指定されているかどうか判別してください。動的割り振りが行われている場合は、動的割り振りパラメーター・リストをチェックして、指定された IDS 用として指定されている装置タイプを検索してください。ディスク以外の装置が指定されていた場合は、装置タイプをディスク装置に変更してから、ジョブを再実行してください。
- 02 競合が解決したらすぐにプログラムを再実行してください。有効なイメージ・コピーを作成します。
- 03 欠落しているリソース記述を DBRC に追加し、プログラムを再実行してください。
- 04、05 これらのコードは、内部システム問題を示しています。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。
- 06、07、08 欠落しているリソース記述を DBRC に追加し、プログラムを再実行してください。
- 09 CHANGE.IC コマンドを出して、直前の HSSP IC プロセス (部分的または完全な HSSP IC データ・セットの作成) を終了させてください。
- 10 メッセージで識別されている DD 名は、IMS サブシステムに存在します。つまり、IDS がすでに開かれているか、DD 名に誤りがあるか、どちらかであ

ることを意味します。IDS がすでにオープンしている場合は、その DD 名に関する DD ステートメントを削除してください。DD 名は間違っていたが、IMS サブシステム内の別の DD 名と一致した場合は、入力 DD 名を訂正して、ジョブを再実行してください。

- 11 共通サービス域 (CSA/ECSA) が低使用のときは、ジョブを再実行してください。
- 12 ユーザーが処置を決定します。(可能な処置の 1 つとして、エリアをリカバリーして、ジョブを再実行することが考えられます。)
- 13 順次アクセス方式 OPEN が異常終了する可能性があります。順次アクセス方式メッセージで推奨されている処置を取ってください。
- 14 共通サービス域 (CSA/ECSA) が低使用のときは、ジョブを再実行してください。
- 15 順次アクセス方式 OPEN で、順次アクセス方式メッセージに戻りコードが表示されます。
- 16 共通サービス域 (CSA/ECSA) が低使用のときは、ジョブを再実行してください。

コード
説明

- 17 DD ステートメントが指定されている場合は、DD 名が正しいか確認してください。DD ステートメントが欠落している場合は、DD ステートメントを指定してください。動的割り振りが失敗した場合は、メッセージ DFS2502W または DFS2503W で推奨されている処置を取ってください。その後でジョブを再実行します。

コード
説明

- 18 ユーザーが処置を決定します。(可能な処置の 1 つとして、共用システムが所有している EEQE がこのエリアに関してページされた後で、ジョブを再実行することが考えられます)

コード
説明

- 19 HSSP イメージ・コピー (HSSP/IC) が回復不能 DEDB に対して要求されました。回復不能 DEDB に対してはファジー・イメージ・コピーは許可されません。

次のいずれかの処置を取ってください。

- HSSP/IC 指定から回復不能 DEDB エリアを除去してください。

- イメージ・コピー・ユーティリティーまたはイメージ・コピー 2 ユーティリティーを実行して、非ファジー・イメージ・コピーを作成してください。

コード
説明

- 20 物理データ・セットを削除し、再定義してください。その後でジョブを再実行します。
- 31 指定されたイメージ・コピー・データ・セットを削除し、少なくともエリア・データ・セットと同じスペースを指定して、再定義してください。その後でジョブを再実行します。

問題判別: 1、2、3、8、40

モジュール: DBFPICE0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0532I IMAGE COPY FAILED FOR AREA=*areaname*[IMAGE COPY ITASK CREATE FAILED | IMAGE COPY ITASK ABORTED DURING INITIALIZATION | EEQE EXISTS WITHOUT BUFFER]

または

IMAGE COPY PROCESS (STARTED|TERMINATED) FOR AREA=*areaname* REGID=*regid*, RC=((0|4)|8.) DSN1=*dsname1*

または

IMAGE COPY PROCESS (STARTED|TERMINATED) FOR AREA=*areaname* REGID=*regid*, RC=((0|4)|8.) DSN1=*dsname1* | DSN2=*dsname2*

または

IMAGE COPY STARTED FOR AREA=*areaname*

説明: HSSP イメージ・コピー・セットアップが完了し、イメージ・コピーは開始したか、終了したか、失敗したかのいずれかです。

戻りコードでは、以下で説明しているように、どの処置が取られてかを示しています。

コード
説明

- 00 イメージ・コピーは、識別されている DSN で正常に開始しました。

- 04** イメージ・コピー・データ・セットを開こうとしているとき、エラーが発生しました。イメージ・コピー処理は、ユーザー・イメージ・コピー仕様に従って、残りのデータ・セット (メッセージで識別されている) から続行します。メッセージ DFS0531I がこのメッセージより先に表示されて、IDS オープン障害の原因について説明しています。
- 08** イメージ・コピー・データ・セットを開こうとしているとき、またはイメージ・コピー・セットアップ中に、エラーが発生しました。イメージ・コピー・プロセスは終了します。メッセージ DFS0531I がこのメッセージより先に表示されて、イメージ・コピーのセットアップ障害またはオープン障害の原因について説明しています。

注: このメッセージの 2 番目の形式が出される場合は、DFS0532I メッセージの 2 つの形式の間に他のメッセージが表示される可能性があります。

このメッセージの IMAGE COPY FAILED 形式が表示された場合は、処置は後に続くテキストによって異なります。

- IMAGE COPY ITASK CREATE FAILED は、イメージ・コピー ITASK の動的作成時に、障害が発生したことを示します。
- IMAGE COPY ITASK ABORTED DURING INITIALIZATION は、イメージ・コピー ITASK が打ち切られたことを示します。メッセージ DFS0531I を参照してください。
- EQE EXISTS FOR SAME RBA FOR ALL ADS(S) は、イメージ・コピーが不可能であることを示します。
- EEQE EXISTS WITHOUT BUFFER は、データがイメージ・コピーには使用不可であることを示します。

システムの処置: イメージ・コピー・プロセスは、続かなか終了するかどうかです。

プログラマーの応答: メッセージの情報に基づいて適切な処置を取ってください。

モジュール: DBFPICSO

DFS0533E SETO WITH IC= AND SETU WITH FPBP64U=Y ARE MUTUALLY EXCLUSIVE PARAMETERS

説明: HSSP ジョブに、IC= が指定された SETO 制御ステートメントと、FPBP64U=Y が指定された SETU 制御ステートメントが含まれていました。それらは同時に指定できないパラメーターです。64 ビット・ユーティリティ専用バッファ・プールを HSSP イメージ・コピー処理で使用することはできません。

システムの処置: HSSP ジョブは異常終了コード 1060 (U1060) で終了します。

プログラマーの応答: SETO ステートメントから IC= オプションを削除するか、あるいは SETU ステートメントを削除してください。それから、HSSP ジョブを再実行依頼します。

モジュール: DBFPHI10

DFS0534I FPBP64U=Y WAS SPECIFIED ON THE SETU STATEMENT

説明: HSSP ジョブに、FPBP64U=Y が指定された SETU 制御ステートメントが含まれていました。HSSP ジョブは 64 ビット・ユーティリティ専用バッファ・プールを割り振り、使用します。

システムの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFPHI00

DFS0535A xxxx DISC PROCESS ATTEMPTED AREA a

または

RGN=r, xxxx CONN PROCESS ATTEMPTED AREA a, PCB LABEL z

説明: 詳細な説明および処置については、DFS0535I の情報を参照してください。

関連情報:

DFS0535I

DFS0535I RC=01, yyyy ALREADY RUNNING

または

RC=03, AREA LOCK FAILED

または

RC=04, AREA IS STOPPED

または

RC=05, AREA FAILED TO OPEN

または

RC=06, 2ND CI UPDATE AND/OR NOTIFY FAILED

または

RC=07, UOW LOCK MODE INITIATION FAILED

DFS0535I

または

RC=08, INSUFFICIENT STORAGE FOR AREA PRIVATE BUFFER POOL. STORAGE REQUESTED=nnnnnnnK. STR MGR RC=xxx

または

RC=09, PRIVATE BUFFER POOL ALREADY EXISTS sysid

または

RC 10, COULD NOT GET AN AWE sysid

または

RC 11, INVALID REQUEST SENT TO DBFPAPB0 sysid

または

RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE sysid

説明: あるプロセスが試みられましたが、メッセージにリストされている理由により、完了できませんでした。

- RGN=r, xxxx CONN PROCESS ATTEMPTED AREA a, PCB LABEL z
プロセス xxxx は開始されませんでした。プロセス xxxx は、次のいずれでもありえます。
HSRE 高速再編成ユーティリティ
HSSP 高速順次処理
PREL VSO プリロード・プロセス

領域 r は、影響を受けた領域を示します。

- xxxx DISC PROCESS ATTEMPTED AREA a
プロセス xxxx は切断できませんでした。プロセス xxxx は、次のいずれでもありえます。
HSRE 高速再編成ユーティリティ
HSSP 高速順次処理
PREL VSO プリロード・プロセス
- RC=01, yyyy ALREADY RUNNING
プロセス yyyy は、エリアでアクティブであり、エリアから切断されていません。プロセス yyyy は、次のいずれでもありえます。
DA00 DEDB 変更ユーティリティ
HSRE 高速再編成ユーティリティ
HSSP 高速順次処理
MDLO DEDB 順次従属削除ユーティリティ
MMHO DEDB エリア・データ・セット比較ユーティリティ

MRIO DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティ

MSCO DEDB 順次従属スキャン・ユーティリティ

PREL VSO プリロード・プロセス

- RC=03, AREA LOCK FAILED
プロセス xxxx は、エリアに関するエリア・ロックの獲得に失敗しました。
 - RC=04, AREA IS STOPPED
プロセス xxxx は、停止されたエリアでは実行できません。
 - RC=05, AREA FAILED TO OPEN
エリア a を開く試みが失敗しました。
 - RC=06, 2ND CI UPDATE AND/OR NOTIFY FAILED
IRLM 通知が失敗したか、2 番目の CI 更新にエラーがあったため、プロセス xxxx は失敗しました。
 - RC=07, UOW LOCK MODE INITIATION FAILED
UOW ロッキング・モードへの遷移が正常に行われませんでした。共用サブシステムへの通知プロセスでの障害が原因と考えられます。
 - RC=08, INSUFFICIENT STORAGE FOR AREA PRIVATE BUFFER POOL. STORAGE REQUESTED=nnnnnnnK. STR MGR RC=xxx.
専用バッファ・プールの作成不能。十分なストレージが利用不能でした。メッセージの中で、nnnnnnn は、要求された 1014 バイト分のストレージの数であり、xxx は、IMS ストレージ・マネージャーによって設定された戻りコードです。
 - RC=09, PRIVATE BUFFER POOL ALREADY EXISTS sysid
プロセス xxxx がエリア専用バッファ・プールの作成を要求しましたが、バッファ・プールはすでに存在しています。
 - RC 10, COULD NOT GET AN AWE sysid
AWE 制御ブロックに対する要求が xxxx の処理に失敗しました。
 - RC 11, INVALID REQUEST SENT TO DBFPAPB0 sysid
呼び出しモジュールが DBFPAPB0 に渡した要求コードが無効でした。
 - RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE sysid
このプロセスは静止されたエリアでは実行できません。
- システムの処置: このメッセージのさまざまな形式について、システムが取る処置がリストされます。
- RGN=r, xxxx CONN PROCESS ATTEMPTED AREA a, PCB LABEL z
プロセス xxxx は終了します。
 - xxxx DISC PROCESS ATTEMPTED AREA a

プロセス *xxxx* は、切断しないで終了します。

- RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE *sysid*
ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージのさまざまな形式について、取るべき処置がリストされます。

- RGN=*r*, *xxxx* CONN PROCESS ATTEMPTED AREA *a*, PCB LABEL *z*

付随する DFS0535I メッセージを参照してください。

- *xxxx* DISC PROCESS ATTEMPTED AREA *a*

付随する DFS0535I メッセージを参照してください。

- RC=01, *yyyy* ALREADY RUNNING

プロセス *yyyy* が完了した時点で、ユーティリティまたはプロセスを再度実行してください。このメッセージは、前のプロセスが正常に完了しなかった場合にも出される可能性があります。その場合は、エリアで要求されたプロセスが実行できるようにするために、/STOP と /START のコマンド対を発行してください。このメッセージがデータ共用環境で受信された場合は、すべての共用サブシステムに対して /STOP と /START のコマンド対を発行してください。

- RC=03, AREA LOCK FAILED

ロック障害の原因を判別し、問題を訂正してください。エリア・ロック障害のため、切断が完了しなかった場合は、他のプロセスが実行できるようにするために、/STOP と /START のコマンド対を発行する必要がある可能性があります。

- RC=04, AREA IS STOPPED

/START コマンドを出して、エリアを開始してください。

- RC=05, AREA FAILED TO OPEN

メッセージ DFS3702I を参照して、オープンが失敗した理由を判別してください。

- RC=06, 2ND CI UPDATE AND/OR NOTIFY FAILED

詳しくは付随するメッセージを調べてください。

- RC=07, UOW LOCK MODE INITIATION FAILED

障害のあるコンポーネントを訂正して、再実行してください。

- RC=08, INSUFFICIENT STORAGE FOR AREA PRIVATE BUFFER POOL

ストレージが使用可能なとき、プロセス *xxxx* を再度実行してください。

- RC=09, PRIVATE BUFFER POOL ALREADY EXIST *sysid*

これは、ソフトウェアに論理エラーがあることを示しています。プロセス *xxxx* を再度実行してください。引き続きエラーが発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

- RC=10, COULD NOT GET AN AWE *sysid*

ストレージが使用可能なとき、プロセス *xxxx* を再度実行してください。

- RC=11, INVALID REQUEST SENT TO DBFPAPB0 *sysid*

これは、ソフトウェアに論理エラーがあることを示しています。プロセス *xxxx* を再度実行してください。引き続きエラーが発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

- RC=12, AREA IS IN A QUIESCE STATE *sysid*

UPDATE AREA STOP(QUIESCE) コマンドを発行して静止を停止し、指定されたユーティリティを再実行してください。

プログラマーの応答: HSSP ジョブを再始動する前に、HSSP プロセスまたはユーティリティがエリアでアクティブでないことを確認してください。

モジュール: DBFPMMSG0, DBFPSET0, DBFUHDR0

DFS536A LAST CONVERSATION MESSAGE UNAVAILABLE - *reason*

説明: /RELEASE コマンドが、メッセージ・テキストの *reason* で示す以下のいずれかの理由により、IMS 会話に関する最後の出力メッセージの検索に失敗しました。

STORAGE UNAVAILABLE
RESTART RESYNC INCOMPLETE
QUEUE ERROR

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: これらのエラーはすべてが、一時的である可能性が大了。障害を引き起こした原因が解消されるまでしばらく待ってから、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLH0

DFS0537I AREA=*areaname* DD=*ddname*, DSN=*dsname* CLOSED, IC FAILED

または

AREA=*areaname* DD=*ddname*, DSN=*dsname*
OPEN|CLOSED

または

AREA=*areaname* DD=*ddname*, DSN=*dsname* CLS
RETRY FP TCB

説明: HSSP イメージ・コピーがイメージ・コピー・データ・セットを正常にオープンまたはクローズしました。

エラーの後でデータ・セットがクローズされる場合は、IC FAILED 形式のメッセージが表示されます。CLS

DFS0538I • DFS0540I

RETRY FP TCB は、イメージ・コピーがクローズされ、障害があることを示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFMPCL0、DBFICSQ0、DBFPICT0、DBFPIOS0

DFS0538I I/O ERROR *qsam_info*

説明: SYNADAF ACSMETH=QSAM マクロが QSAM から情報を収集しました。*qsam_info* には、メッセージの内容を説明するシステム・メッセージ番号が含まれています。

システムの処置: IMS は、データ・セットに関する処理を停止します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

モジュール: DBFICSQ0

DFS0539A HD RELOAD IS UNABLE TO PROCESS THE UNLOAD FILE DUE TO INVALID STAT RECORD


説明: HD アンロード・データ・セット内の統計レコードが、HD 再ロード・ユーティリティによって認識できません。

システムの処置: HD 再ロード・ユーティリティは異常終了コード 0355 で終了します。

プログラマーの応答: HD アンロード・データ・セットおよび HD 再ロード・ジョブ出力を保管します。その上で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSURGL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0355

DFS0540I *xxxxx* PROGRAM=*program name*, CKPTID=*checkpointid*, REGID=*regionid*, DAY=*ddd*, TIME=*hhmmsssthmjju+0000*

説明: 拡張 (または、シンボリック) チェックポイント、または拡張リスタート (XRST) 要求が処理されました。メッセージ・テキストで *xxxxx* は、以下のいずれかの値になります。

EXTENDED CHECKPOINT

拡張 (または、シンボリック) チェックポイントが完了しました。X'18' のログ・レコードが記録されました。メッセージ DFS0540I および

DFS0542I が出ないように抑止するには、NOMSG540 を CKPTID= EXEC パラメーターで指定してください。また、メッセージ DFS681I が出ないように抑止する場合は、NOMSGS を指定してください。

XRST IN PROGRESS

拡張再始動呼び出し (BMP アプリケーションの場合は XRST、JBP アプリケーションの場合は IMSTransaction.getTransaction().restart) が処理されました。X'18' のレコードはログにあります。

XRST CKPT NOT IN OLDS

BMP および JBP アプリケーションが XRST を要求しました。OLDS には、もはや前回のシンボリック・チェックポイントの X'18' レコードは入っていません。

XRST LAST CKPT ID IS

BMP が、チェックポイント ID 値を指定して、XRST を要求しました。指定された値は、BMP の最後のチェックポイントとして IMS が記録した値と同じではありません。IMS によって記録された最後のチェックポイント ID がメッセージで表示されています。

表示されている日時は、チェックポイントが取られた万国標準時 (UTC) 時刻です。

システムの処置: 最初の 2 つの場合は、処理は正常に続行されます。最後の 2 つの場合は、BMP ジョブに IMSLOGR DD データ・セットが含まれるかどうかで、処置が異なります。データ・セットが存在している場合は、XRST のログ入力として使用されます。存在しない場合は、BMP は終了し、異常終了コード 0102 が示されます。

プログラマーの応答: プログラムが異常終了 0102 で終了したときは、XRST チェックポイント ID が入っているログ・データ・セットおよびボリュームを判別してください。このログ・データ・セットおよびボリュームを指定して、IMSLOGR DD ステートメントを JCL に追加してください。BMP チェックポイント ID EXEC パラメーターを、必要なチェックポイント ID と等しくなるように設定し、ジョブを再実行依頼してください。


IMS が *XRST CKPT NOT IN OLDS* と *XRST LAST CKPT ID IS* のいずれかのメッセージを出し、プログラムが異常終了 0102 で終了した後で、IMS に認識されている最後のユーザー・チェックポイントから再始動できます。LAST を XRST シンボリック・チェックポイント ID 値として指定して、BMP ジョブを再実行依頼してください。

XRSTCKPT NOT IN OLDS メッセージの場合は、ジョブの再実行依頼時に、LAST を XRST チェックポイ

ント ID として指定できます。

モジュール: DFSZSC00、DFSDLA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0102

**DFS541 INVALID OR MISSING OPTION
 PARM**

説明: /ERE コマンドで、キーワード OPTION が入力されました。このキーワードの後に無効なパラメーターが続いているか、またはパラメーターがありません。

システムの処置: /ERE コマンドはリジェクトされません。

プログラマーの応答: /ERE コマンドから OPTION パラメーターを除去するか、またはこのキーワードに SYNCPLX パラメーターを追加してください。

モジュール: DFSICL20

DFS0542I *EXTENDED CHECKPOINT*
DAY=ddd,
TIME=HHMMSSSTHMIJU+0000

説明: 拡張チェックポイントが処理されました。このメッセージは、メッセージ DFS0540I の後に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddd 年間通算日

HHMMSSSTHMIJU+0000

 チェックポイントが取られた万国標準時 (UTC)
 時刻

メッセージ DFS0540I が抑止された場合は、このメッセージは抑止されます。発行メッセージ DFS0542I だけを抑止するには、NOMSG542 を CKPTID=EXEC パラメーターでコーディングしてください。メッセージ DFS681I も抑止したい場合は、N0681542 をコーディングしてください。メッセージ DFS681I、DFS0540I、および DFS0542I を抑止したい場合は、NOMSGS をコーディングしてください。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSZSC00

関連情報:

166 ページの『DFS0540I』

**DFS0543I MADS I/O TIMING RECOVERY
 STARTED FOR AREA=AAAAA
 DDN=DDDDDD**

説明: このメッセージは、長時間使用中エリアのリカバリー・プロセスが始まっていることを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

AAAAA

 リカバリーが開始された長時間使用中エリアの
 名前

DDDDDD

 長時間使用中エリアのデータ記述名

システムの処置: このシステムがメッセージ DFS1558I を受信するのは、エリア・データ・セット (ADS) に関する MADS 入出力タイミング・リカバリーが終了したときです。

システム・プログラマーの応答:

モジュール: DBFMLBR0

**DFS0546I LONG BUSY ADS CLOSED.
 AREA=xxxxxxx,ADS=yyyyyyyy,
 UNIT=nnnn**

説明: 長時間の使用状態が、最大 CI 限度 (1 エリアにつき 1000 CI) を超えるのに十分な長期間、継続しました。これが発生した場合、MADSIOT 機能は内部 STOP ADS コマンドを発行します。この STOP ADS プロセスは、XFP TCB の下でメディア・マネージャー DISCONNECT 機能呼び出し、DASD が依然として長時間の使用状態にある場合、DISCONNECT 機能は長時間の使用状態が解除されるか IOTIMING に到達するまでの間、中断状態になります。

その中断状態の間、すべての ITASK は、XFP TCB の下での OTHREAD、CHKPT、および FP コマンドも含め、サービスを受けることができません。その影響を少なくするため、このメッセージを自動化操作プログラムで使用して、長時間の入出力装置のオフラインを強制することができます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール: DBFARD20

**DFS0548A RRS NOT ACTIVE BUT RRS=Y
 SPECIFIED - REPLY: RETRY,
 CONTINUE OR CANCEL**

説明: IMS は、RRS がアクティブでないことを示す、CRGSEIF (出口の設定) 呼び出しから CRG_EM_STATE_ERROR 戻りコードを受け取りました。

システムの処置: システムは、このメッセージに対する応答を待ちます。

オペレーターの応答: RRS を開始し、メッセージに対して RETRY を応答します。IMS に対して作成された自動的な非同期接続を使用して、RRS を後で開始する場合は CONTINUE と応答します。今回の IMS 実行で RRS が必要ない場合は、CANCEL と応答します。

バッチ環境では、CONTINUE 応答は CANCEL と同じです。

モジュール: DFSRRSI0、DFSRRSB0

**DFS0548E ERROR BUILDING RESOUC
CLEANUP ENVIRONMENT, RC=*rc* -
*details***

説明: IMS が、IMS 初期設定中にリソース・クリーンアップおよびオンライン・ダンプ・フォーマット設定環境を確立しようとしているときにエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc 失敗したサービスからの戻りコード。
details 検出したエラーのタイプに関する 1 行の説明。

DFS0458E メッセージの *details* 部分は検出したエラーを詳しく説明しており、次のいずれかの値になります。

ERROR OBTAINING GRMB STORAGE
IMS は、GRMB (グローバル・リソース・マネージャー・ブロック) に必要なストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

ERROR OBTAINING XSSCT STORAGE
IMS は、XSSCT (IMS 31 ビット拡張 SSCT) に必要なストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

ERROR OBTAINING DFSMRC20 STORAGE

IMS は、モジュール DFSMRC20 を直接ロードするためのストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

BPESVC FUNC=INIT ERROR
BPESVC FUNC=INIT 処理中にエラ

ーが発生しました。メッセージ内の *rc* は、BPESVC マクロからの戻りコードです。

ERROR ISSUING BLDL FOR DFSMRC20
モジュール DFSMRC20 のための BLDL マクロ呼び出しを発行中にエラーが起きました。メッセージ内の *rc* は、z/OS BLDL マクロからの戻りコードです。

ERROR LOADING DFSMRC20
IMS は、モジュール DFSMRC20 をロードできませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。

ERROR LOADING DFSRTM00
IMS は、モジュール DFSRTM00 をロードできませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。

ERROR ADDING ADDRSPC RESMGR
IMS は、システムにアドレス・スペース・リソース・マネージャーを動的に追加できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS RESMGR マクロからの戻りコードです。

ERROR ADDING TASK RESMGR
IMS は、システムにタスク・リソース・マネージャーを動的に追加できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS RESMGR マクロからの戻りコードです。

AN ABEND OCCURRED
IMS リソース・クリーンアップ環境の構築中に異常終了が発生しました。メッセージ内の *rc* は異常終了コードです。

UNABLE TO ESTABLISH ESTAE
IMS は、リソース・クリーンアップ環境の初期設定を保護するための ESTAE リカバリー・ルーチンを確立できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS ESTAEX マクロからの戻りコードです。

ENQ FAILED ON SYSZDFS DFSGRMB
IMS は、リソース「SYSZDFS DFSGRMB」についての排他的 ENQ を入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS ENQ マクロからの戻りコードです。

ERROR OBTAINING DFSMRC00 STORAGE
IMS は、モジュール DFSMRC00 を

直接ロードするためのストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。

ERROR ISSUING BLDL FOR DFSMRC00

モジュール DFSMRC00 のための BLDL マクロ呼び出しを発行中にエラーが起きました。メッセージ内の *rc* は、z/OS BLDL マクロからの戻りコードです。

ERROR LOADING DFSMRC00

IMS は、モジュール DFSMRC00 をロードできませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。

UNKNOWN ERROR

IMS Resource Manager のクリーンアップ初期設定中に予期しないエラーが発生しました。

ERROR OBTAINING DFSAFMX0

STORAGE

IMS は、モジュール DFSAFMX0 を直接ロードするためのストレージを入手できませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS STORAGE OBTAIN マクロからの戻りコードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

ERROR ISSUING BLDL FOR DFSAFMX0

モジュール DFSAFMX0 のための BLDL マクロ呼び出しを発行中にエラーが起きました。メッセージ内の *rc* は、z/OS BLDL マクロからの戻りコードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

ERROR LOADING DFSAFMX0

IMS は、モジュール DFSAFMX0 をロードできませんでした。メッセージ内の *rc* は、z/OS LOAD マクロからの戻りコードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSI ADD FAILED

IMS は、IMS で SNAP、SYSABEND、および SYSUDUMP のダンプ・フォーマット設定を実行できるようにするために、サブシステムを動的に z/OS に追加することができませんでした。メッセ

ージ内の *rc* の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSI REQUEST=ADD マクロからの戻りコードです。メッセージ内の *rc* の下位 2 バイトは、IEFSSI からの理由コードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSI ACTIVATE FAILED

IMS は、IMS が SNAP、SYSABEND、および SYSUDUMP のダンプ・フォーマット設定を実行できるようにするために、サブシステムを動的に z/OS に対して活動化することができませんでした。メッセージ内の *rc* の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSI REQUEST=ACTIVATE マクロからの戻りコードです。メッセージ内の *rc* の下位 2 バイトは、IEFSSI からの理由コードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSVT CREATE FAILED

IMS は、IMS で SNAP、SYSABEND、および SYSUDUMP のダンプ・フォーマット設定を実行できるようにするために、IMS が追加したサブシステムのサブシステム・ベクトル・テーブルを作成することができませんでした。メッセージ内の *rc* の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSVT REQUEST=CREATE マクロからの戻りコードです。メッセージ内の *rc* の下位 2 バイトは、IEFSSVT からの理由コードです。IMS 初期設定は続行されますが、IMS のオンライン・ダンプ・フォーマット設定は使用できません。

DFSAPMX0 IEFSSVT EXCHANGE

FAILED

IMS は、DFSAPMX0 サブシステム・ベクトル・テーブル・エントリを、前にインストールされたコピーよりも新しい DFSAPMX0 のコピーを指すように更新することができませんでした。メッセージ内の *rc* の上位 2 バイトは、z/OS IEFSSVT REQUEST=EXCHANGE マクロからの戻りコードです。メッセージ内の *rc* の下位 2 バイトは、IEFSSVT からの

理由コードです。IMS の初期設定が続行されます。前にインストールされた DFSAFMX0 のコピーが、IMS オンライン・ダンプ・フォーマット設定の出口として使用されます。

システムの処置: オンライン・ダンプ・フォーマッター出口 DFSAFMX0 の初期設定中のエラーの場合、エラーを検出したモジュール DFSRTMI0 は、呼び出し元にゼロの戻りコードを返します。IMS は実行を継続しますが、IMS オンライン・ダンプ・フォーマット設定は、IMS のこのインスタンスでは使用できない可能性があります。

その他のすべてのエラーの場合、エラーを検出したモジュール DFSRTMI0 は、呼び出し元にゼロ以外の戻りコードを返します。

システム・プログラマーの応答: このメッセージの中で記述されているエラーの原因が環境条件 (例えば、ストレージの不足や IMS.SDFSRESL からのモジュールの欠落など) にある場合は、示された問題を訂正してアドレス・スペースを再始動してください。それ以外の場合は、ダンプおよび SYSLOG 情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSRTMI0

関連資料:

- ➡ BPESVC コード (メッセージおよびコード)
- ➡ z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード
- ➡ z/OS: BLDL の完了コード
- ➡ z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード
- ➡ z/OS: ADD 機能からの戻りコード (RESMGR)
- ➡ z/OS: ESTAEX の戻りコードおよび理由コード
- ➡ z/OS: ENQ の戻りコードおよび理由コード
- ➡ z/OS: IEFSSI の戻りコードおよび理由コード
- ➡ z/OS: IEFSSVT の戻りコードおよび理由コード

DFS549I ESAF SIGNON ACEE ENABLED

説明: この永続 Java 仮想マシン (JVM) 従属領域の IMS PROCLIB データ・セットの DFSJVMEV メンバーで ESAF_SIGNON_ACEE=YES が指定されました。

出力宛先: システム・コンソール

モジュール: DFSPCC20, DFSPCJM0, DFSPCJB0

関連資料:

- ➡ DFSJVMEV (JVM 環境設定メンバー) (システム定義)

DFS550I DFSNDMI0 {SUCCEEDED|FAILED}
REGION=rrrrr JOBNAME=jjjjjjj
STEPNAME=ssssssss
TRANSACTION=ttttttt PSB=ppppppppp
SSYSID=wwwww[FAILURE CODE=xxx
RETURN CODE=yyy|N/A]
[DESTINATION=ddddddd
DSYSID=zzzzz|N/A] timestamp

説明: トランザクション ttttttt の処理中に、PSB ppppppppp に関連したアプリケーション・プログラムが異常終了しました。廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 インターフェース (DFSNDMI0) が、トランザクション ttttttt に関連した入力メッセージ宛先 dddddddd への再キューイングを正常に行ったか、失敗したかいずれかでした。

DFSNDMI0 が正常に行った場合は、DESTINATION および DSYSID= 情報が表示されます。FAILURE CODE 情報および RETURN CODE 情報が表示されることはありません。

DFSNDMI0 が失敗した場合は、FAILURE CODE および RETURN CODE 情報が表示されます。DESTINATION および DSYSID 情報が表示されるのは、一部の障害コードの場合のみです。DESTINATION および DSYSID 情報が表示される場合は、FAILURE CODE 情報および RETURN CODE 情報の後に続きます。

このメッセージの SUCCEEDED バージョンの後には、常にメッセージ DFS554A が続き、DFS555I も続く場合があります。SUCCEEDED バージョンが出されるのは、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 DFSNDMX0 から戻りコード 16 を受信した後で、DFSNDMI0 がトランザクション ttttttt に関連した入力メッセージ宛先 dddddddd に正常にキューイングした場合のみです。

メッセージ・フィールドの意味は、それぞれ次のとおりです。

- rrrrr 領域 ID
- jjjjjj ジョブ名 (ブランクで埋め込み)
- ssssssss ステップ名 (ブランクで埋め込み)
- ttttttt PSB ppppppppp に関連したアプリケーションが、異常終了したとき処理中であったトランザクション

ppppppppp 異常終了したアプリケーション・プログラムに関連した PSB

wwwww

トランザクション *ttttttt* に関連し、処理中の入力メッセージが発信された元のシステムのシステム ID (ソース・システム ID)

xxx

次のいずれかの障害コードが表示されるのは、メッセージの FAILED バージョンのみです。

- 001 キュー・マネージャーは、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージを入手できませんでした。
- 002 NDM SPA バッファ用ストレージの取得不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。
- 003 メッセージ・セグメント・バッファ用ストレージの取得不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。
- 004 入力メッセージがありません。
- 005 OTMA FINDDEST が失敗しました。
- 006 システム探索サービスが失敗しました (DFSSLC 障害)。
- 007 FINDDEST が失敗しました (DFSNDST 障害)。
- 008 LUM が APPC メッセージ接頭部の構築に失敗しました。
- 009 キュー・マネージャーがメッセージの挿入に失敗しました。
- 010 追加の挿入はこの UOW によって許可されていません。
- 011 廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が、再キューイング用に無効な宛先トランザクションを指定しました。
- 012 メッセージがその永続宛先に再キューイングされませんでした (DFSICLR2 障害)。
- 013 NDM インターフェース・ブロック用ストレージの取得不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。
- 014 USRX インターフェース・ブロック用ストレージの取得不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。
- 015 廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が開始されませんでした (DFSUSRX 障害)。
- 016 再キューイング用として指定された宛先がゼロまたは空白です (廃棄不能メッセージ・ユーザー出口からの戻りコード 16)。
- 017 メッセージ・レコード・バッファ用ストレージの取得不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。
- 018 単一セグメント・メッセージ・バッファ用ストレージの取得不能 (IMODULE GETSTOR 障害) です。

- 019 IMS が入力メッセージをトランザクションに再キューイングすることを、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が要求しました。ただし、次のいずれかの条件が存在します。

- 入力メッセージ・セグメントのいずれか 1 つが、宛先トランザクションの許容セグメント長さを超えている。
- 入力メッセージ・セグメントの総数が、宛先トランザクションの許容セグメント数を超えている。

yyy

失敗した IMS サービスの戻りコード、また xxx が 004、010、011、016、または 019 の場合は、N/A。このフィールドが表示されるのは、FAILED バージョンのメッセージの場合のみです。

ddddddd

廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が入力メッセージの再キューイングを要求した宛先 (戻りコード 16)。このフィールドは、SUCCEDED バージョンのこのメッセージの場合は必ず表示され、FAILED バージョンのこのメッセージの場合は時々表示されます。

zzzzz

宛先システム ID - トランザクション *ttttttt* に関連し、処理中の入力メッセージが送信された (SUCCEDED バージョン)、または送信されるはずであった (FAILED バージョン) 先のシステムのシステム ID、また xxx = 005、006、または 007 の場合は、N/A。このフィールドは、SUCCEDED バージョンのこのメッセージの場合は必ず表示され、FAILED バージョンのこのメッセージの場合は時々表示されます。

システムの処置: このメッセージが SUCCEDED バージョンの場合は、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージは宛先 *ddddddd* に再キューイングされてから、トランザクション *ttttttt* から削除されます。このメッセージが FAILED バージョンの場合は、アプリケーション異常終了が 3303、2478、0777、または 2479 の場合を除いて、トランザクション *ttttttt* に関連した入力メッセージはシステムから削除されます。

オペレーターの応答: このメッセージが SUCCEDED バージョンの場合は、このメッセージに後に続いて必ず IMS マスター端末に表示されるメッセージ DFS555I および DFS554A を参照してください。該当する担当者にアプリケーション・プログラム異常終了について知らせてください。このメッセージが FAILED バージョンの場合は、障害コード xxx を参照して、DFSNDMI0 が失敗した理由を判別してください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラム異

DFS550I

常終了の原因を訂正してください。


問題判別: 1、4、5、6


モジュール: DFSNDMI0


関連情報:


173 ページの『DFS554A』

176 ページの『DFS555I』

 IMS 異常終了 0777

 IMS 異常終了 2478

 IMS 異常終了 2479

 IMS 異常終了 3303

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 15 章 DFS メッセージ DFS551I - DFS600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS551I {IFP | MESSAGE | BATCH | JMP | JBP} REGION xxxxxxxx STARTED.
ID=yyyyyy TIME=zzzz
CLASSES=xxx,xxx,xxx,xxx

説明: 従属処理領域が開始しました。考えられる従属処理領域として次のものがあります。

- バッチ
- 高速機能 (Fast Path)
- JVM バッチ
- JVM メッセージ
- メッセージ

xxxxxxx はジョブ名で、yyyyyy は PST 番号で、zzzz は開始された時刻 (hhmm) で、それぞれ置き換えられています。

ID フィールドは、領域を識別し、/STOP REGION コマンドで使用されます。

システムの処置: メッセージ、BMP、JMP、または JBP 領域は、指定されたクラスのトランザクションの処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSMIC0

DFS552I {IFP | MESSAGE | BATCH | JMP|JBP} REGION xxxxxxxx STOPPED. ID=yyyyyy TIME=zzzz

説明: 従属処理領域が停止しました。考えられる従属処理領域として次のものがあります。

- バッチ
- 高速機能 (Fast Path)
- JVM バッチ
- JVM メッセージ
- メッセージ

xxxxxxx はジョブ名で、yyyyyy は PST 番号で、zzzz は停止された時刻 (hhmm) で、それぞれ置き換えられています。

システムの処置: メッセージまたは BMP 領域は終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSDA10、DFSSDA20

DFS553I JOBNAME STEPNAME UNKNOWN
CALL FUNCTION CODE

説明: IMS 制御プログラムが、従属領域でのプログラムのスケジュールを要求を受信しました。要求のタイプは識別できません。

システムの処置: 呼び出し機能は無視され、処理は続行されます。

問題判別: 1、5、6、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS554A jobname.region.stepname. prog PSBname(x)
transaction-code
sys-completion-code user-completion-code
PSB SMB
LTERM:|LUNAME:|RTKN=token
REASON=reason originating terminal

説明: prog PSBname で示された IMS アプリケーションで、それぞれ sys-completion-code または user-completion-code で示されたシステム異常終了またはユーザー異常終了が発生しました。

このメッセージに関する情報が、示されているとおりに印刷されます。このメッセージは、複数行になることがあります。

プログラム PSB 名は、(x) で示される以下の領域タイプのいずれかと関連付けられています。

- 0 IMS プログラム・コントローラー
- 1 MPP 領域
- 2 BMP 領域
- 3 コーディネーター制御 (CCTL) スレッド
- 4 IFP 領域
- 5 JMP 領域 (JMP region)
- 6 JBP 領域 (JBP region)
- 7 Application Execution Region (AER) 領域。
例えば、AER で実行されている ODBM アプリケーション。

DBCTL/CCTL スレッドの場合は、ワード NOPSBAVL がメッセージ・テキストの PSBNAME として表示され

る可能性があります。この条件は、スレッドの初期確立のために、サインオン・スレッド作成呼び出しが CCTL を使用して DBCTL に対して行われたことを示しています。ただし、PSB をスケジュールするために呼び出しがなされる前に、スレッドは停止されました。PSB をスケジュールするために呼び出しがなされるまでは、PSB の名前は DBCTL には不明です。

(x) ジョブ名に関連した領域タイプを示します。

- MPP 領域の場合は、x = 1
- BMP 領域の場合は、x = 2
- DBCTL 領域の場合は、x = 3
- IFP 領域の場合は、x = 4
- JMP 領域の場合は、x = 5
- JBP 領域の場合は、x = 6
- AER 領域の場合は、x = 7。

CCTL スレッドが終了した原因は、次のいずれかです。

- CCTL アプリケーションの異常終了または疑似異常終了
- CCTL 異常終了
- スレッドがまだアクティブの間に、CCTL による DBCTL へのその接続の終了要求

SMB は、トランザクションが停止されたことを示し、SMB がないときは、トランザクションは停止されなかったことを示します。PSB は、プログラムが停止されたことを示し、PSB がないときは、プログラムは停止されなかったことを示します。LTERM または LUNAME は端末の名前です。LUNAME 情報が遷移中でない場合、LTERM の代わりに LUNAME が表示されるのは、発信元端末が LU6.2 または OTMA のときです。LUNAME 情報が遷移中の場合は、UNKNOWN が表示されます。

DBCTL/CCTL スレッドの場合は、このメッセージでリカバリー・トークンが表示されます。このトークンの最初の 8 バイトは EBCDIC で、文字として表示され、2 番目の 8 バイトは 16 進形式で表示されます。ただし、DBCTL が PSB のスケジューリング中に障害を検出した (例えば、異常終了 0428、0437、0456、0457、および 0458) 場合は、リカバリー・トークンはゼロばかりで表示されます。これは、未スケジュール PSB のリカバリーは必要ないことを示しています。

DBCTL を例外として、ユーザー完了コードが U428 の場合は、PSB 名はブランクになります。PSB が検出されなかったからです。

ユーザー完了コードが 0448、0452、0456、または 0458 の場合は、トランザクション・コード、および停止された SMB 名はブランクになります。

ユーザー完了コードが 0464 の場合は、SYS はシステム完了コードを表すのではなく、応答 SVC からのエラー戻りコードを表しています。これらの戻りコードは、次のとおりです。

コード
説明

- 001** シミュレートされた領域終了または応答再帰
- 002** 従属領域 TCB のアドレスが無効です。
- 003** 従属タスクが終了します (TCBFLGS1 が設定されている)。
- 004** 従属タスクが終了します (TCBFLGS5 が設定されている)。
- 005** 従属タスクに RCPARMS がありません。
- 006** PSTID が RCID と一致しません。
- 009** 従属領域が z/OSによって取り消されたと思われる。

REASON=*reason* は、異常終了理由コードがある場合にのみ表示されます。メッセージは、スレッド作成処理中に与えられるか、従属領域環境コントローラー・モジュール (例えば、DFSECP10) によって与えられます。*reason* は、次の形式です。

異常終了 **0711** の場合

REASON=*xxxxyyyy*。ここで、*xxxx* は、z/OS リカバリー・リソース管理サービス (RRMS) または z/OS UNIX システム・サービスからの戻りコードで、*yyyy* は異常終了 0711 理由コードです。

異常終了 **0129** の場合

REASON=*xxxxyyyy*。ここで、*xxxx* は SAF 戻りコードで、*yyyy* は RACF または同等の戻りコードです。

異常終了 **0128** の場合

REASON=*xxxxxxx*。ここで、*xxxxxxx* は、APPC 関連付けサービス (ATBASOC) からの戻りコードです。

異常終了 **0109** の場合

REASON=*xxxxxxx*。ここで *xxxxxxx* は、APPC/OTMA 同期共用キューからの戻りコードです。

| 異常終了 **0425** の場合

| DFS554A メッセージの REASON=*xxxxxxx*

は、ランタイム・プログラム・リソースまたはランタイム・データベース・リソースを作成できなかった理由を示す理由コードまたは完了コードを識別します。理由コードまたは完了コードの説明については、DFSCMDRR を参照してください。

異常終了 0426 の場合

DFS554A メッセージの REASON=xxxxxxx は、ランタイム・プログラム・リソースまたはランタイム・データベース・リソースを作成できなかった理由を示す理由コードまたは完了コードを識別します。理由コードまたは完了コードの説明については、DFSCMDRR を参照してください。

システムの処置: このメッセージはメッセージ DFS555I の後に続く場合があります。アプリケーション・プログラムが異常終了する原因となったトランザクション入力メッセージが使用可能な場合は、入力メッセージの最初の 79 バイトがメッセージ DFS555I によって印刷されます。トランザクションが『使用可能』と見なされるのは、アプリケーションによるプロセス中の入力メッセージがメッセージ・キューにある場合です。例外は以下のとおりです。

- アプリケーションが GU 呼び出しを実行していない場合。したがって、このメッセージが異常終了の原因になることはありません。
- スケジュール変更が可能な異常終了 (例えば、PI ロックアウト) が発生した場合。ただし、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口が IMS に入力メッセージの廃棄を指示した場合を除きます。
- このメッセージより先にメッセージ DFS550I の SUCCEEDED バージョンが出ている場合。

上記の例外の場合は、メッセージを再度実行できます。

アプリケーション・キューから最後のメッセージが除去された後で、アプリケーション・プログラムが異常終了した場合は、トランザクションは使用不能で、メッセージ DFS554A のみが印刷されます。

新しいメッセージ領域の初期設定中に前の領域が取り消されたことを IMS 制御領域が判別できる場合は、このメッセージのジョブ名フィールドとステップ名フィールドに「REGION CANCELED」というワードが入ります。region は、新規従属領域の ID です。

永続 JVM 従属領域内でシステム異常終了 806 が発生した場合、メッセージ DFS480E の後にこのメッセージが発行される場合があります。

オペレーターの応答: (マスター端末) 該当する担当者にアプリケーション・プログラム異常終了について知らせてください。異常終了 0448、0452、0456、0458 を参

照してください。IMS マスター端末でこのメッセージより先に表示されている可能性のあるメッセージ DFS550I を参照してください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラム異常終了の原因を訂正してください。

問題判別: 4、5、6、8、10、18、19

モジュール: DFSFXC30、DFSDSC00

関連情報:

170 ページの『DFS550I』

➡ IMS 異常終了 0109

➡ IMS 異常終了 0128

➡ IMS 異常終了 0129

➡ IMS 異常終了 0448

➡ IMS 異常終了 0452

➡ IMS 異常終了 0456

➡ IMS 異常終了 0458

➡ IMS 異常終了 0711

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS555A SUBSYSTEM xxxx OASN
 yyyyyyyyyyyyyyyy STATUS
 COMMIT|ABORT

説明: このメッセージ DFS555I への追加は、IMS 同期点ポイント処理モジュールによって生成されます。このメッセージの目的は、オペレーターに十分な情報を提供して、外部サブシステム・リソースを適切に管理できるようにすることにあります。xxxx はサブシステム名を表し、y 値はスレッドのリカバリー ID の一部である発信アプリケーション・シーケンス番号 (OASN) を表します。

システムの処置: IMS は、コミット・コーディネーターとして機能し、メッセージに示されているとおりに、スレッドの管理を試みます。条件によって IMS がこれを実行できない場合は、システム・プログラマーが該当する外部サブシステム・コマンドを使用して行うことができます。システム・プログラマーが該当するコマンドを実行したら IMS に通知しなければなりません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにメッセージで表示されているこのセグメントについて通知してください。

システム・プログラマーの応答: IMS と外部サブシステムの間のスレッド状況の不整合が訂正される必要があ

ります。/CHANGE コマンドを使用すると、IMS 状況を訂正できます。外部サブシステムは、スレッドのうちその半分に関して、同じような機能を用意する必要があります。

モジュール: DFSFXC30、DFSFXC40

関連情報:

170 ページの『DFS550I』

**DFS555I TRAN ttttttt ABEND (SYSID sss);
REASON=reason; MSG IN PROCESS:
xxxx (UP TO 78 BYTES OF DATA)
time-stamp**

説明: トランザクション ttttttt (マルチシステム環境のシステム sss 内) の処理中に、アプリケーション・プログラム異常終了が起きました。変数 xxxx は、処理される入力トランザクションの最大 78 文字で置き換えられます。入力トランザクション・データの後にタイム・スタンプが続きます。

入力トランザクションが欠落している場合は、次のメッセージが表示されます: QMGR RC NE 0, MSG. NOT AVAIL.

REASON=reason は、異常終了理由コードがある場合にのみ表示されます。メッセージは、スレッド作成処理中に出されるか、従属領域環境コントローラー・モジュール (例えば、DFSECP10) によって出されます。reason は、次の形式です。

異常終了 0109 の場合

REASON=xxxxxxx。ここで xxxxxx は、APPC/OTMA 同期共用キューからの戻りコードです。

異常終了 0119 の場合

REASON=00000008は、タイムアウトの問題があることを示しています。

REASON=00000012、APPC 装置または OTMA クライアントは、同期点処理を打ち切るように IMS に明示的に指示しました。

異常終了 0128 の場合

REASON=xxxxxxx。ここで、xxxxxxx は、APPC 関連付けサービス (ATBASOC) の戻りコードです。

異常終了 0129 の場合

REASON=xxxxyyyy。ここで、xxxx は SAF 戻りコードで、yyyy は RACF または同等の戻りコードです。

異常終了 0711 の場合

REASON=xxxxyyyy。ここで、xxxx は障害を起こした RRMS サービスの戻りコードで、yyyy は異常終了 0711 の理由コードです。

システムの処置: このメッセージで識別されている入力トランザクションは、システムから削除されますが、こ

のメッセージより先にメッセージ DFS550I の SUCCEEDED バージョンが出ている場合は、その限りではありません。

オペレーターの応答: (端末オペレーター) この複数セグメント・メッセージがメッセージ形式サービスを使用して、SYSMSG フィールドを指定して定様式画面を送信する場合は、一度に送信されるセグメントは 1 つだけです。残りのセグメントを検索する場合は、PA1 を押してください。

(マスター端末) IMS マスター端末で必ずこのエラー・メッセージの後に続いて表示されるメッセージ DFS554A を参照してください。IMS マスター端末でこのメッセージより先に表示されている可能性のあるメッセージ DFS550I を参照してください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラム異常終了の原因を訂正してください。

問題判別: 4、5、6、8、10、18、19

モジュール: DFSFXC40

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0109

➡ IMS 異常終了 0119

➡ IMS 異常終了 0128

➡ IMS 異常終了 0129

➡ IMS 異常終了 0711

170 ページの『DFS550I』

173 ページの『DFS554A』

175 ページの『DFS555A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0556I COMMAND REJECTED; DBCTL
THREAD IS ACTIVE**

説明: /STOP REGION または /STOP THREAD コマンドを入力しましたが、データベース制御 (DBCTL) サブシステム・スレッドがアクティブでした。(例えば、DBCTL スレッドは PSB がスケジュールされています。)

システムの処置: コマンドは無視され、スレッドは処理を続行します。

プログラマーの応答: 指定した領域 ID が正しかったかどうか判別するか、またはコマンドの ABDUMP 形式を使用してください。

問題判別: 5

モジュール: DFSDSTP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0557I STOP REGION NOT VALID-REGION
nn IS BMP.**

説明: /STOP REGION コマンドが入力されましたが、従属領域では BMP が処理中です。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。IMS および、nn で識別されている従属領域は実行を継続します。

プログラマーの応答: 正しい領域 ID が使用されていたかどうか判別するか、または /STOP REGION コマンドの ABDUMP 形式を使用してください。

問題判別: 5

モジュール: DFSSTOP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0558I TRAN xxxxxxxx NOT SCHEDULED

説明: /STOP REGION ABDUMP または /PSTOP REGION x TRAN y コマンドが入力されましたが、トランザクション xxxxxxxx は、指定されている領域ではスケジュールされていません。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。IMS および、nn で識別されている従属領域は実行を継続します。

プログラマーの応答: 正しい領域 ID が使用されていたかどうか判別するか、または未スケジュール領域用の /STOP REGION コマンドを使用してください。

問題判別: 5

モジュール: DFSSTOP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0559I ABEND ALREADY SCHEDULED FOR
REGION nn, TRAN xxxxxxxx**

説明: /STOP REGION コマンドで指定された領域またはアプリケーションが異常終了の過程にあります。

プログラマーの応答: 従属領域が終了しない場合は、最後の手段として、ユーザーが従属領域を取り消す可能性があります。この処置は、IMS システム全体の異常終了の原因となる恐れがあります。

モジュール: DFSSTOP0

**DFS560I PROC OPTION L OR LS SPECIFIED
FOR PSB psbname**

説明: 指定された PSB 内の 1 つ以上の PCB で、L または LS が処理オプションとして指定されています。これが有効なのは、バッチ領域のみです。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: エラーの PSB を訂正し、アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSDBLM0、DFSXRBL0

**DFS561A ERROR READING ACBLIB,
{PSB=psbname | DMB=dmbname}**

説明: 指定された PSB またはデータ管理ブロックをアプリケーション制御ブロック・ライブラリーから読み取っている最中に、入出力エラーが発生しました。PSB またはデータ管理ブロックは停止されています。影響を受けたブロックを読み取る試みは続けられず、そのブロックを使用するプログラムはスケジュールされません。データ・セットが 2 次エクステンツに拡張される原因となる、ACBLIB の連結に動的 PSB が追加される場合、その PSB は、ACBLIB がクローズされた後で IMS によって再オープンされるまで、オンライン・システムで使用できません。

オンライン変更プロシージャがこのメッセージを出す場合があります。ACBLIB データ・セットに対する読み取りエラーの場合、オンライン変更プロセスは終了します。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

オンライン変更プロシージャ中にこのメッセージを受け取った場合、オンライン変更は終了します。

プログラマーの応答: 影響を受けたブロックを再び使用できるようにするには、ACBLIB オンライン変更 (/MODIFY PREPARE ACBLIB および /MODIFY COMMIT) を行うかシステムをシャットダウンし、エラー状態を訂正してシステムを再始動します。

TERM OLC または /MODIFY ABORT コマンドを発行することによって、オンライン変更プロシージャを完了する必要があります。

問題判別: 始動時にメッセージ DFS825I が出される場合は、DRD が使用可能である場合に、アクティブな ACBLIB 内に少なくとも 1 つの DBD が作成されていることを確認してください。

モジュール: DFSDBLR0、DFSXRBL0、DBFOLC01

**DFS561E GETMAIN FAILED FOR QSAVE
AREA, ACB LOAD/READ
TERMINATED**

説明: ACBLIB ロードまたは読み取り処理中に、16 MB 境界の下の QSAVE 領域で GETMAIN 障害が発生しました。

システムの処置: ACBLIB ロード/読み取りは終了します。

プログラマーの応答: CSA の使用率が高いアプリケーション・プログラムを調べて、可能であればそれを取り消してください。

モジュール: DFSDBLR0

プログラマーの応答: PSB とシステム定義のどちらかを訂正してください。DEDB オンライン・ユーティリティの場合、以下のいずれかの処置を行ってください。

- EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドのデータベース名を訂正し、ジョブを再実行依頼する。
- 指定されたデータベース名を DEDB として再定義し、IMS 制御領域を次回始動したときに ACBGEN を再実行し、ジョブを再実行依頼する。

常駐 PSB は、IMS を再始動することによってのみ再ロードできます。

モジュール: DFSDBLI0、DFSXRBL0、DFSDBLM0

**DFS562I INVALID CORE SIZE REQUIRED
FOR {PSB *psbname* | DMB *dmbname*}**

説明: 名前が示されているブロックは、PSB またはデータ管理プール内で使用可能なスペースよりも大きいスペースを必要としていました。この状態は、影響を受けたプールでは大きさが不十分で、最大のブロックに対応できないことを示しています。

システムの処置: この従属領域は異常終了します。

プログラマーの応答: プール・サイズをもっと大きく指定して、システムを再始動してください。

モジュール: DFSDBLD0

**DFS564I DMB *dmbname1* REFERENCES
UNKNOWN DMB *dmbname2*, DMB
STOPPED**


説明: 最初のデータ管理ブロックに 2 番目のデータ管理ブロックへの参照が含まれています。2 番目のデータ管理ブロックは、システム定義時に指定されていませんでした。


システムの処置: BMP 領域は異常終了 0458 により終了します。バッチ DBB 領域が異常終了 0821 で終了します。メッセージが IMS 初期設定中に出された場合は、実行は継続されますが、最初のデータ管理ブロックに使用不能のマークが付きます。

プログラマーの応答: データ管理ブロックまたはシステム定義を訂正してください。

モジュール: DFSDBLD0、DFSXRBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0458

 IMS 異常終了 0821

**DFS563I PSB *psbname* REQUIRES UNKNOWN
DMB *dmbname*, PSB STOPPED**

説明: システムは、データ管理ブロック (DMB) *dmbname* を見つけることができませんでした。

- 指定された PSB が参照しているデータ管理ブロックは、システム定義時に指定されていませんでした。IFP DEDB オンライン・ユーティリティ・プログラムを実行中の場合は、PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドで指定されているデータ管理ブロック名が、DEDB として定義されていませんでした。

DEDB オンライン・ユーティリティが開始されている場合は、EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの 2 番目の定位置オペランドで指定された、指定されたデータ管理ブロックが、DBDGEN で DEDB として定義されていません。

- 指定された PSB は常駐 PSB であり、IMS はこの PSB をスケジュールしようとしています。この PSB が参照しているデータ管理ブロック番号は、データベースのデータ管理ブロック番号と一致していません。IMS 初期設定時にロードされた常駐 PSB のコピーは、もう使用できません。

**DFS0565I cccc COMMAND NOT PROCESSED
DB=xxxxxxx IN USE BY PSB=*psbname*,
REG=*region-number***

説明: 指定された DL/I データベース xxxxxxx が、/DBDUMP、/DBRECOVERY、または /START コマンドに対する応答として処理できません。アクティブ・バッチ・メッセージ処理プログラムによってまだ使用中です。

region-number は、プログラムがデータベース xxxxxxx を使用している領域の番号です。

このメッセージで示されている MPP 領域が発生したために、オンライン変更と、MPP によって使用されているデータベースに対する DBR または STA コマンド、

および ICMD または CMD 呼び出しを発行する MPP で実行中のアプリケーションとの間の、潜在的なデッドロック状態が中断されることがあります。

システムの処置: コマンドは、メッセージに指定されたデータベースに関しては処理されませんが、コマンドで指定されているデータベースが他にあれば、それに関しては処理が続行されます。

NOFEOV キーワードが /DBR または /DBD で指定されていない場合は、新しいログ・ボリュームがマウントされます。

/DBD または /DBR が入力される場合は、単純チェックポイントが取られます。

オペレーターの応答: プログラムが終了するのを待ち、/DBDUMP、/DBRECOVERY、または /START コマンドを再発行してください。

問題判別: 4、6

モジュール: DFSDBDR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0566I PSTOP OR STOP NOT VALID FOR
 TRAN xxxxxxxx**

説明: /PSTOP REGION TRAN または /STOP REGION TRAN コマンドが、WFI (入力待ち) タイプでも高速機能専用タイプでもないトランザクションに対して入力されました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール: DFSSTOP0

**DFS0567I PSB POOL TOO SMALL-PSB
 nnnnnnnn STOPPED.**

説明: 初期設定中に、十分なスペースが使用可能にならなかったため、示されている PSB の意図リストをロードできませんでした。

システムの処置: PSB に使用不能のマークが付けられ、これを使用するトランザクションはスケジュールされません。正常な実行が継続されます。

プログラマーの応答: 次の IMS 実行時には、PSB プールのサイズを大きくしてください。

モジュール: DFSXRBL0

**DFS0568I CANCEL INVALID FOR REGION xx;
 NO PRIOR STOP REGION ABDUMP
 COMMAND**

説明: /STOP REGION CANCEL コマンドが領域 xx

に関して入力されました。しかし、このコマンドは、その前に /STOP REGION ABDUMP コマンドが出されていなければ無効です。

オペレーターの応答: この領域に関して /STOP REGION ABDUMP コマンドを発行してください。/STOP REGION ABDUMP コマンドでは問題が訂正されない場合は、/STOP REGION CANCEL コマンドを発行してください。

モジュール: DFSSTOP0

**DFS0569I PSTOP OR STOP COMPLETE FOR
 REGION nnnmttttxxxxxxxx**

説明: /PSTOP または /STOP コマンドが、示されている領域およびトランザクションに関して正常に完了しました。QC 状況コードが、領域で処理中の入力待ち (WFI) アプリケーション・プログラムに戻されます。待ちオプションを指定して GMSG 呼び出しを実行した AO アプリケーションが、AOI トークン上のメッセージを待っている可能性があります。AOI トークン待ちのアプリケーションが戻りコード X'00000004' および AIB 理由コード X'0000004C' を受信します。アプリケーションが同期コールアウト ICAL 呼び出しを発行した場合、ICAL 呼び出しからの応答を待っている可能性があります。同期コールアウト応答待ちのアプリケーションが AIB 戻りコード X'00000100' および AIB 理由コード X'00000104' を受信します。

nnnn コマンドで入力された領域番号。

tttt AOIT、TRAN、または SYNC。AOIT は、後に続く名前が AOI トークン名であることを意味します。TRAN は、後に続く名前がトランザクション名であることを意味します。SYNC は、後に続く名前が TPIPE 名であることを意味します。

xxxxxxxx

コマンドで入力された AOI トークン名、トランザクション名、または TPIPE 名。

システムの処置: tttt が AOIT である場合は、領域は AOI トークンを待たなくなります。tttt が SYNC である場合は、領域は同期コールアウト応答を待たなくなります。それ以外の場合は、示されている領域はまだスケジュールで使用可能です。

入力待ち (WFI) トランザクションに対してスケジュールされたバッチ・メッセージ処理領域 (BMP) が QC 状況コード (追加のメッセージなし) を戻すのは、/PSTOP REGION、/DBD、/DBR、または /START コマンドの場合のみです。

モジュール: DFSSTOP0

**DFS0570I INVALID SECONDARY LIST TYPE
WAS FOUND IN DBD *dbdname***


説明: 内部システム・エラーが発生しました。
SYSUDUMP または SYSABEND DD ステートメント
が指定されていた場合は、メモリー・ダンプが取られて
います。

システムの処置: 異常終了 0947 が実行されます。

プログラマーの応答: 指定された DBD を参照するす
べての PSB を制御ステートメント・リストから除去
し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUAMB0

関連情報:

 IMS 異常終了 0947

**DFS0571E I/O ERROR ATTEMPTING TO STOW
IN ACBLIB DIRECTORY**

説明: モジュール DFSUAMB0 内の OS STOW マク
ロの実行中に、入出力エラーが発生しました。

プログラマーの応答: 入出力エラーに至った条件を訂正
し、プログラムを再実行してください。ACBLIB エラー
からのリカバリーの詳細については、「IMS V15 オペ
レーションおよびオートメーション」の IMS 障害から
のリカバリーの説明を参照してください。

モジュール: DFSUAMB0

**DFS0572A THE ACBLIB DIRECTORY IS FULL.
INCREASE DIRECTORY SIZE AND
RERUN.**

説明: IMS.ACBLIB 区分データ・セットで割り振られ
たディレクトリー・スペースが不十分です。

プログラマーの応答: DELETE 機能を使用して、
ACBLIB から未使用の PSB および DBD を削除する
か、ディレクトリー割り振りを増やした新しいデータ・
セットに現行 ACBLIB の内容をコピーするか、いずれ
かを行ってください。

モジュール: DFSUAMB0

**DFS0573E I/O ERROR DURING BLDL ON
ACBLIB DIRECTORY**

説明: モジュール DFSUAMB0 内の OS BLDL (ビル
ド・ライブラリー・ディレクトリー・リスト) マクロの
実行中に、入出力エラーが発生しました。

プログラマーの応答: 入出力エラーに至った条件を訂正
し、プログラムを再実行してください。ACBLIB エラー
からのリカバリーの詳細については、「IMS V15 オペ

レーションおよびオートメーション」の IMS 障害から
のリカバリーの説明を参照してください。

モジュール: DFSUAMB0

関連資料:

 z/OS: BLDL の完了コード

**DFS574 UNEXPECTED DATA
RECEIVED-INPUT IGNORED**

説明: MFS が 3270 装置からフィールドを受信しまし
ましたが、装置入力記述子で定義されていないものでした。
IMS システム定義時に行われた装置の画面サイズの定義
に誤りがあったか、ハードウェア誤動作が生じたことが
考えられるか、いずれかです。

システムの処置: 入力を取り消されます。

オペレーターの応答: 入力を再試行してください。引き
続きエラーが発生する場合は、IMS システム・プログラ
マーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答: この装置に関する IMS システム
定義で使用された TYPE または TERMINAL マクロの
SIZE キーワードの行および列の指定が正しいかチェッ
クして確認してください。この指定が正しく行われてい
る場合は、/TRACE コマンドを使用して、IMS が受信
した端末入力データの印刷出力を入手してください。
DIF の印刷出力を入手し、バッファ・アドレスを比較
して、ハードウェア・エラーが起こったかどうか判別し
てください。

問題判別: 3、5、16、17、23、36

モジュール: DFSCFE00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS575 SPA ERROR-CONVERSATION
TERMINATED**

説明: IMS が、無効なプログラム間通信を検出しまし
た。アプリケーション・プログラムが試みていたのは、
次のいずれかのアクションであったため、無効です。

- LTERM 名への切り替え
- 高速機能専用トランザクションへの切り替え
- 未定義トランザクションへの切り替え

システムの処置: IMS はトランザクションを停止しま
す。

オペレーターの応答: マスター端末オペレーターに知ら
せてください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを

変更して、記述されている不整合が生じないようにしてください。

モジュール: DFSCMS00

DFS576I EXIT COMPLETED, TRANSACTION DISCARDED

説明: /EXIT 処理によって、トランザクションがこのシステムで使用可能なことが分かり、廃棄できました。

システムの処置: 会話は終了します。

モジュール: DFSICLH0

DFS577I EXIT COMPLETED, TRANSACTION STILL ACTIVE

説明: /EXIT コマンド処理によって、トランザクションがリモート・システムにあるか、すでに処理のためにスケジュールされていることが判明しました。コマンド処理が完了し、会話は終了しますが、会話型トランザクションは引き続き実行されます。会話型応答が受信されると、会話型異常終了出口 (DFSCONE0) が呼び出され、応答メッセージが応答端末へのキューに入れられます。

システムの処置: 会話は終了します。

モジュール: DFSICLH0

DFS0578I READ SUCCESSFUL FOR DDNAME xxxxxxxx MEMBER yyyyyyyyyy

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セットからメンバー yyyyyyyyyy が正常に読み取られました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール:

DFSXRPS0, DFSIILD0, DFSDFN10, DFSDFN20

DFS0579W FIND FAILED FOR DDNAME xxxxxxxx MEMBER=yyyyyyyyyy RC=zz

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セットのメンバー yyyyyyyyyy に関して、FIND が失敗しました。この問題のために、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。記述子メンバーが使用不能の場合は、MFS 装置特性テーブル・ユーティリティに関して、このメッセージが受信されます。

16 進戻りコード zz は、次の値を取ります。

コード (16 進数)

説明

04 名前が検出されない

08 ディレクトリー検索の永続入出力エラー

システムの処置: そのメンバーが IMS に必要な場合、IMS は異常終了 0015 で終了する可能性があります。IMS が異常終了 1012 で終了するのは、メンバーが DBFMSDBn の場合です。MFS DCT ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、メンバー yyyyyyyyyy がご使用のシステムで必要かどうか判別してください。MFS DCT ユーティリティの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答: 必須メンバーの場合は、正しい接尾部が指定され、メンバー yyyyyyyyyy が有効であるか確認してください。RC=08 の場合は、エラーを伴わずにアクセスできるデータ・セットにメンバーを入れてください。

問題判別: 1、3、6、8

モジュール: DFSXRPS0, DFSIILD0, DFSPMBR0, DFSUTB00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0580E UNABLE TO OPEN DCB-DDNAME=ddname

説明: メッセージで ddname によって示されるデータ制御ブロック (DCB) をオープンできませんでした。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: JCL をチェックし、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUACB0

DFS0581E I/O ERROR ON unit address, device type, ddname, operation, error type, bbcchhr, access method

説明: メッセージ・テキストで示されている装置で永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: エラー条件を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUACB0

DFS0582E PERMANENT I/O ERROR DURING BLDL ON REQUESTED DBDS IN ACBLIB

説明: ACBLIB のディレクトリーの検索を試みている

最中に、BPAM が永続入出力エラーを検出しました。BPAM は、BUILD または DELETE 制御ステートメントで要求された 1 つ以上のデータベース記述 (DBD) のエントリーを検出しようと試みていました。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: PSB=ALL オプションを指定して ACBLIB を再作成するか、使用可能なら、バックアップ・コピーを使用して、ACBLIB を復元してください。ACBLIB エラーからのリカバリーの詳細については、「IMS V15 オペレーションおよびオートメーション」の IMS 障害からのリカバリーの説明を参照してください。

モジュール: DFSUACB0

関連概念:

➡ その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

➡ z/OS: BLDL の完了コード

DFS0583E PERMANENT I/O ERROR WHILE TRYING TO DELETE DBD|PSB=name FROM ACBLIB USING STOW WITH DELETE OPTION.

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) またはデータベース記述 (DBD) が、特定の DELETE 要求の結果とし、または要求されたブロックが作成できなかったため、ACBLIB から削除されることになりました。この削除中に、永続エラーが発生しました。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: PSB=ALL オプションを指定して ACBLIB を再作成するか、バックアップ・コピーが使用可能なら、ACBLIB を復元してください。ACBLIB エラーからのリカバリーの詳細については、「その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)」の IMS 障害からのリカバリーの説明を参照してください。

モジュール: DFSUACB0

DFS0584E ERROR DURING PRE|POST-COMPRESS

説明: IEBCOPY ユーティリティが、ACBLIB の圧縮を試みた後で、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: IEBCOPY エラー・メッセージで示されているようなエラー条件を訂正してください。

モジュール: DFSUACB0

DFS0585E UTILITY TERMINATED DUE TO ERROR

説明: すべての機能が完了しないうちに、以前のメッセージで示されていたエラーが原因で、プログラムが終了しました。戻りコードは 16 です。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUACB0

DFS0586I {PSB psbname|DBD dbdname} REQUESTED IN A {BUILD|DELETE OPERATION} {NOT FOUND IN ACBLIB|IS A PSB}-REQUEST IGNORED.

説明: ビルド・エラーは、示されている PSB または DBD に関連があり、その PSB または DBD はビルドまたは削除操作で要求されたものでした。

- メッセージが NOT FOUND IN ACBLIB である場合は、PSB または DBD が ACBLIB データ・セット内に存在しません。
- メッセージが IS A PSB である場合は、このメンバーのディレクトリー・エントリーは PSB です。

ACB 保守ユーティリティ-SYSIN 入力制御ステートメントには、先入れ先出し (FIFO) はありません。BUILD PSB= パラメーターと BUILD DBD= パラメーターが同一のアプリケーション制御ブロック (ACB) 生成ジョブの SYSIN 制御ステートメントで指定されている場合、DBD= オペランドは、ブロック・ビルダー・ユーティリティ・プログラムに渡されます。メッセージ DFS0586I は、SYSIN 制御ステートメントのどこに DBD= オペランドが指定されているかにかかわらず、まだ DBD が ACBLIB データ・セットにない場合に発行されます。

システムの処置: この要求は無視されます。処理は続行されますが、戻りコードは 8 です。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUACB0

**DFS0587I ERROR BUILDING PSB=*psbname*-IT
WILL BE DELETED FROM ACBLIB**

説明: ブロック・ビルダーが、示されている PSB の処理後に、ゼロ以外の完了コードを戻しました。PSB は ACBLIB から削除され、処理が継続されて、戻りコードが 8 に設定されます。このメッセージよりも先にメッセージ DFS0921I が出ている場合は、示されている PSB が DBD であるため、ACBLIB から削除されるメンバーはありません。

プログラマーの応答: エラー・メッセージで示されているメンバーがあれば、すべて訂正し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

291 ページの『DFS0921I』

**DFS588I CONTROL CARD SYNTAX ERROR-
{INVALID LABEL|OP CODE|BLK
TYPE|OPERAND|OPTION|FORMAT|
CONTINUATION} <'symbol'>**

説明: 詳しくは、メッセージ DFS0588I を参照してください。

関連情報:

『DFS0588I』

**DFS0588I CONTROL CARD SYNTAX ERROR-
{INVALID LABEL|OP CODE|BLK
TYPE|OPERAND|OPTION|FORMAT|
CONTINUATION} <'symbol'>**

説明: 制御ステートメント構文エラーが検出されました。残りのステートメントはスキャンされますが、処理は試行されません。引用符に囲まれているシンボルが、エラーを引き起こしたシンボルまたは区切り文字です。FORMAT が示されているのは、ステートメントが完了する前に、ステートメントの論理終了に達した場合です。CONTINUATION が示されているのは、無効の継続が検出された場合です。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSUACB0

**DFS0589I PROCESSING COMPLETED FOR PSB
psbname. PCB=*xxxxxx*, PSB=*xxxxxx*,
WORKAREA=*xxxxxx*, TOTAL
SIZE=*xxxxxx***

説明: 示されている PSB に関するブロックが正常に作成され、ACBLIB に書き込まれました。領域間コピー用の必須バッファ・サイズが示されています。IMS プロシージャのパラメータの説明 (システム定義) で、IMSBATCH プロシージャの DIRCA パラメータに関する説明を参照してください。PCB は、MSG または BMP 領域で必要な作業域サイズです。PSB は、PSB プールに必要な固定 PSB ブロックのサイズです。

WORKAREA は、PSB で必要なさまざまな作業域のサイズであり、PSB 作業プール (PSBW プール) から取得します。さまざまな作業域のそれぞれのサイズについては、メッセージ DFS0593I を参照してください。

WORKAREA は ACBGEN 時のサイズを示します。これは作業域の最小サイズです。スケジューリング時に、このサイズは増やせます。サイズが長メッセージ・キュー・バッファに変更される場合は、大幅な増加が行えます。TOTAL SIZE は、ACBGEN 時の所要 PSB プール・サイズと PSB 作業プール・サイズを結合したサイズです。EPCB 用として使用される FP 作業域は、上記の WORKAREA には含まれていません。

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

184 ページの『DFS0593I』

**DFS0590I END OF ACBLIB MAINTENANCE.
HIGHEST CONDITION CODE WAS
*code***

説明: ACB 保守ユーティリティは、要求された操作を完了しました。実行中に検出された最も値の大きい条件コードが示されます。

モジュール: DFSUACB0

**DFS0591I MAX PCB SIZE=*xxxxxx*, MAX PSB
SIZE=*xxxxxx*, MAX WORKAREA
SIZE=*xxxxxx*, MAX TOTAL
SIZE=*xxxxxx***

説明: この実行の結果として動作の対象となった PSB には、示されている領域間コピー・バッファ要件が最大値として必要です。IMS プロシージャのパラメータの説明 (システム定義) で、IMSBATCH プロシージャの DIRCA パラメータに関する説明を参照してください。個々のサイズは、メッセージ DFS0589I に示されています。

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

『DFS0589I』

DFS592I EMBEDDED EOF FOUND IN ACBLIB
{DMB|PSB} name

説明: 示されている PSB またはデータ管理ブロックには、メンバー内にファイル終わりがあります。

システムの処置: PSB またはデータ管理ブロックは停止します。

プログラマーの応答: 連結ライブラリーが IMSACB に関して指定されている場合は、ブロック・サイズが最も大きいライブラリーが最初に指定されているか検証してください。オンライン・システムと共用されているライブラリーに対して、ACBGEN が実行されている場合は、COMPRESS オプションが指定されていないことを確認してください。上記のエラーのいずれも発生していない場合は、エラー・メッセージで示されている、ACBLIB 内のメンバーを再作成して、エラー条件を訂正する必要があります。

モジュール: DFSDBLR0、DFSXRBL0

DFS0593I PSB-psbname WORKAREA
BREAKOUT. NDX=xxxx, XIO=xxxx,
IOA=xxxxxx, SEG=xxxxx, SSA=xxxxx

説明: 示されている PSB 用の合計作業域がそのコンポーネントに分割されます。NDX は、DL/I ACTION モジュール用として必要な作業域です。XIO は、索引保守によって使用される作業域です。IOA は、従属領域との間で相互にコピーされるデータを入れるために使用されるエリアです。このサイズは、PSB 上で指定可能です。SEG は、圧縮可能セグメント操作のために必要なエリアです。SSA は、従属領域からコピーされた SSA を入れるために必要なエリアです。この値は、PSB 上で指定可能です。

モジュール: DFSUACB0

DFS594I MFS TEST FACILITY NOT
AVAILABLE-xxxxx

説明: 初期設定で、MFS TEST ライブラリー用の DCB が開けませんでした。MFS TEST が使用不可でした。xxxxx が NOFND の場合は、DD ステートメントは検出されませんでした。xxxxx が DUMMY の場合は、DD DUMMY が指定されました。xxxxx が NOOPN の場合は、OPEN は失敗しました。

プログラマーの応答: xxxxx=NOFND または DUMMY の場合は、次回の IMS 実行に備えて JCL を訂正してください。xxxxx=NOOPN の場合は、OPEN 障害を記述する z/OS メッセージが出される可能性があります。z/OS メッセージを受け取った場合は、詳細について「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」(SA88-8597) を参照してください。

184 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: DFSIINB0

DFS595I REGION SIZE TOO SMALL FOR
DFSUTR20 REPORT

説明: EXECUTE ステートメントの領域パラメーターで指定された仮想記憶域の量が不十分だったため、モニター報告書印刷ユーティリティの入力フェーズ中に生成されたサマリー表が保持されませんでした。

プログラマーの応答: 領域を広げてジョブに割り当て、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0596W READ FAILED FOR DDNAME
xxxxxxx MEMBER= yyyyyyyyy

variable text

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セットのメンバー yyyyyyyyyy に関して、READ が失敗しました。この問題は、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。

DDNAME xxxxxxxx データ・セットが無効で、処理のために使用できません。この問題は、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。このメッセージに先立って、メッセージ DFS0596W である READ FAILED が出され、試みられた READ に関するメンバー名が示されます。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

xxxxxxx

データ・セット名

yyyyyyyyy

メンバー

variable text

オペレーティング・システム SYNADAF マクロ命令によって、このメッセージのテキストが示されます。

システムの処置: そのメンバーが IMS に必要な場合、IMS は異常終了 0015 で終了する可能性があります。IMS が異常終了 1012 で終了するのは、メンバーが DBFMSDBn の場合です。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、メンバー yyyyyyyyyy がご使用のシステムで必要かどうか判別してください。

プログラマーの応答: 必須メンバーの場合は、正しい接尾部が指定され、メンバー yyyyyyyyyy が有効であるか確認してください。データ・セット内の別のロケーションでメンバーの再作成を試みてください。


問題判別: 1、3、6、8


モジュール: DFSXRPS0、DFSPMBR0

関連資料:

 z/OS: SYNADAF エラーの説明

関連情報:

 IMS 異常終了 0015

 IMS 異常終了 1012

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0597W OPEN FAILED FOR DDNAME

xxxxxxx

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セットに関して、OPEN が失敗しました。このメッセージが IMS 初期設定時に出た場合は、IMS は初期設定に必要な情報を獲得できない可能性があります。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーがこのメッセージを出した場合は、記述子メンバーが使用不能です。

システムの処置: IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。


オペレーターの応答: (マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、DDNAME xxxxxxxx がご使用のシステムで必要かどうか判別してください。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答: DDNAME xxxxxxxx データを妥当性検査し、DDNAME xxxxxxxx DD ステートメントが JCL に組み込まれているか確認してください。

問題判別: 1、3、6、8

モジュール: DFSXRPS0、DFSPMBR0

関連情報:

 IMS 異常終了 0016

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS598I NO DLI CALL REPORT REQUESTED

説明: DLI ステートメントも ONLY DLI ステートメントも分析制御データ・セットに組み込まれていません。

プログラマーの応答: DL/I 呼び出し報告書が必要な場合は、DLI または ONLY DLI のどちらかを分析制御データ・セットに組み込み、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSUTR10

DFS599I UNDEFINED ANALYSIS CARD IGNORED

説明: 認識不能制御ステートメントが分析データ・セットにあるのが表示されました。

システムの処置: 処理は、次の制御ステートメント (ただし、それがあある場合) から継続されます。

プログラマーの応答: 分析制御データ・セット内のステートメントを調べて、訂正してください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS600I NUMBER EXCEEDS 8 DIGITS

説明: 配布再定義ステートメント内の番号が 8 桁を超えています。

システムの処置: 処理は終了します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答: 配布再定義ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

第 16 章 DFS メッセージ DFS601I - DFS650E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS601I NONNUMERIC DIGIT IN NUMERIC FIELD

説明: 配布再定義ステートメントの数値フィールドに非数値文字が表示されました。

システムの処置: 処理を続行します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答: 再定義ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS602I INVALID DISTRIBUTION IDENTIFIER

説明: 無効の配布 ID が分析制御データ・セットの中のステートメントにあるのが表示されました。

システムの処置: 処理を続行します。エラーのステートメントは実行時に無視されます。

プログラマーの応答: 配布再定義ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS603I IMS DLS CLEANUP (type) status FOR task jobname.stepname.procstepname RC=xx

説明: 詳細情報および処置については、DFS603W を参照してください。

関連情報:

DFS603W

DFS603W IMS DLS FAILURE (xx) FOR task id

説明: IMS DL/I 従属アドレス・スペース (DLS) リソース・クリーンアップ処理 (SSI ルーチン) によって、メッセージ DFS603 は 2 つの形式、つまり、警告と情報の 2 つの形式が生成されます。

警告メッセージ DFS603W は、クリーンアップ処理中にリカバリー可能障害が生じると、そのつど表示されます。このメッセージでは、障害が検出された時点で実行中の機能を示す、障害コード *xx* が示されます。DLS リソース・クリーンアップ処理は、終了プロセスにおける次の機能から再開されます。

通知メッセージ DFS603I は、クリーンアップの終了時のジョブ・ステップ TCB に関して 1 回と、サブタスクの下における ESTAE 障害ごとにそれぞれ 1 回ずつ生成されます。ESTAE 障害が起こるのは、SDWA が存在していないか、再試行が不可能なときです。すべての TCB がエラーを伴わずに完了すれば、通知メッセージでは、COMPLETE の状況が戻りコード 0 を伴って表示され、それ以外の場合は、サブタスク・エラー記録が不可能な例外的障害の場合を除いて、状況は FAILED で、戻りコード X'FF' が示されます。(戻りコード X'FF' の意味については、このメッセージについて後で説明する 16 進戻りコードを参照してください。)

要確認: ESTAE が入力され、再試行が可能になると、SDWA が SYS1.LOGREC に書き込まれます。エントリーに含まれるのは、ジョブ名、終了する IMS のリリースとレベル、および障害コードです。以下の表は、メッセージ・テキストを示します。

表 2. DFS603W メッセージ・テキスト

キーワード	値	意味
<i>type</i>	EOM EOT ESTAE	メモリーの終わり (End of Memory)、タスクの終わり (End of Task)、ESTAE 障害。再試行不能。
<i>status</i>	COMPLETE FAILED	IMS DLS リソース・クリーンアップが正常に完了。IMS DLS リソース・クリーンアップ中に障害を少なくとも 1 つ検出。
<i>task</i>	ST JS	サブタスク・ジョブ・ステップ・タスク
<i>id</i>	jobname ID=imsid	タスクの終わり (End of Task) 障害、メモリーの終わり (End of Memory) 障害

戻りコード *xx* は、DLS リソース・クリーンアップ処理の結果を示します。戻りコード X'00' は、DLS リソース・クリーンアップが正常に完了したことを示します。戻りコード値が X'30' から X'58' の場合は、タスクの終わり (End of Task) 終了時の障害を表します。戻りコード値が X'C0' から X'D8' の場合は、メモリーの終わり (End of Memory) 終了時の障害を表します。戻りコードの値と意味は、それぞれ次のとおりです。

コード (16 進数)

- 意味
- 00 クリーンアップが正常に完了しました。
- 01 GETMAIN が作業域に関して失敗しました。最小クリーンアップ処理が実行されます。
- 02 SSCD イメージと SCD アドレスのいずれか一方、またはその両方の取得を試みている最中の障害。実行されるクリーンアップは、DLS REAL SSCT の NULL 化のみです。
- 03 クリーンアップ処理中に障害が発生するか、またはオペレーター取り消しが行われて、ESTAE をリカバリー不能障害に駆り立てる原因になります。簡略クリーンアップが試みられます。ESTAE は、障害メッセージ用のストレージを取得不能です。処理は終了します。
- 04 ESTAE が確立できませんでした。最小クリーンアップ処理が実行されます。
- 08 SSCD イメージまたは SCD アドレスの取得を試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 0C DLS DUMP SSCT を探している最中か、SSCD イメージまたは SCD アドレスの取得を試みている最中の障害。実行されるクリーンアップは、DLS REAL SSCT の NULL 化のみです。
- 10 IMS DLS REAL SSCT を NULL に設定しようとして試みている最中の障害。処理は終了します。
- 30 DLS 制御ビットを更新している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 34 仮想記憶間テーブルを切断している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 38 終了 TCB によって取得された固定ストレージのページ解放を試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 3C タスクに関する全サブプール削除機能の実行中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 50 IMS DLS REAL SSCT を NULL に設定しようとして試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 54 制御領域のポストを試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 58 IMS DLS DUMP SSCT を NULL に設定しようとして試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- D0 IMS DLS REAL SSCT を NULL に設定しようとして試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- D4 制御領域のポストを試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。

- D8 IMS DLS DUMP SSCT を NULL に設定しようとして試みている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- FC DLS クリーンアップ処理がオペレーターによって取り消されました。異常終了 X'x22' が ESTAE によってインターセプトされ、処理の再試行は一切許されません。簡略された形式のクリーンアップ処理が ESTAE ルーチンによって実行されます。
- FF DLS クリーンアップ処理は完了しましたが、クリーンアップ中に障害が 1 つ以上発生しました。

システムの処置: タスクの終わり (End of Task) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、DLS リソース・クリーンアップ処理は正常に完了した場合は、メモリーの終わり (End of Memory) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、クリーンアップ処理は正常に完了しましたが、それがタスク非関連機能のみに限定されます。戻りコードが X'FF' の場合は、障害が 1 つ以上発生し、そうした障害に関連するクリーンアップ処理は完了しなかった可能性があります。

問題判別: 1、11、36

モジュール: DFSDRCL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0604W DCBRECFCM IS NOT FIXED BLOCK FOR DDNAME xxxxxxxx

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セット・レコード・フォーマットが無効です。レコード・フォーマットは固定または固定ブロックである必要があります。このメッセージが IMS 初期設定時に受信された場合は、IMS は初期設定に必要な情報を獲得できない可能性があります。このメッセージが MFS 装置特性テーブル・ユーティリティから受信された場合は、記述子メンバーが使用不能です。

システムの処置: IMS 初期設定は異常終了し、DDNAME PROCLIB に関する異常終了コード 0010 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティは、戻りコード 12 で終了します。


オペレーターの応答: (マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、DDNAME xxxxxxxx DD ステートメントがご使用のシステムで必要かどうか判別してください。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答: DDNAME xxxxxxxx データ・セットが RECFM=F または RECFM=FB であるか確認してください。

問題判別: 1、3、6、8

モジュール: DFSXRPS0、DFSILD0、DFSUTB00、DFSPMBR0

関連情報:

 IMS 異常終了 0010

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0605W DCBBLKSIZE IS NOT VALID FOR DDNAME xxxxxxxx

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セット・ブロック・サイズが無効でした。このメッセージが IMS 初期設定時に受信された場合は、この問題のために IMS が初期設定に必要な情報を獲得できない可能性があります。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティがこのメッセージを出した場合は、記述子メンバーが使用不能です。

システムの処置: IMS 初期設定は異常終了し、DDNAME PROCLIB に関する異常終了コード 0012 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティは、戻りコード 12 で終了します。


オペレーターの応答: (マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、DDNAME xxxxxxxx DD ステートメントがご使用のシステムで必要かどうか判別してください。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティの場合は、DDNAME xxxxxxxx は必須です。

プログラマーの応答: DDNAME xxxxxxxx データ・セット・ブロック・サイズが 80 の倍数であるか確認してください。

問題判別: 1、3、6、8

モジュール: DFSPMBR0、DFSXRPS0、DFSILD0、DFSUTB00

関連情報:

 IMS 異常終了 0012

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0606I MINIMUM CORE OF 16K BYTES WAS NOT AVAILABLE FOR SUMMARY TABLE.

説明: 累積データを収容するテーブル用としてストレージを取得する初期 GETMAIN が、失敗しました。

システムの処置: プログラムは終了し、報告書を伴わずに戻ります。

プログラマーの応答: 領域サイズを大きくし、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS607I UNEXPECTED CONTINUATION CARD RECEIVED.

説明: 少なくとも最初の 1 文字がブランク文字であるステートメントが分析制御データ・セットにあることが表示されました。これは継続ステートメントですが、継続を示す配布再定義ステートメントがその前にありません。次行に継続する場合は、最後のオペランドの後にコンマが必要です。

システムの処置: 処理を続行します。エラーのステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: このステートメントが継続ステートメントでない場合は、ステートメントを訂正してください。継続ステートメントの場合は、後で実行するために以前に定義した配布再定義ステートメントで継続の指定をしてください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0608W NULL ENTRY FOR DDNAME xxxxxxxx MEMBER = yyyyyyyyyy

説明: DDNAME xxxxxxxx データ・セットのメンバー yyyyyyyyyy が空でした。

システムの処置: そのメンバーが IMS に必要な場合、IMS は異常終了 0015 で終了する可能性があります。


オペレーターの応答: (マスター端末) IMS が異常終了しない場合は、メンバー yyyyyyyyyy がご使用のシステムで必要かどうか判別してください。

プログラマーの応答: 正しいメンバー接尾部が指定され、メンバー yyyyyyyyyy に有効なデータが入っているか確認してください。

問題判別: 1、3、6、8

モジュール: DFSXRPS0、DFSPMBR0

関連情報:

 IMS 異常終了 0015

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS609I EXPECTED CONTINUATION CARD NOT RECEIVED.

説明: 配布再定義ステートメントの最後のオペランドの末尾がコンマであるため、次行に継続するものと見なされました。しかし、次のステートメント・イメージが継続行ではありませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答: 必要な場合は、欠落している継続ステートメントを指定してください。継続しない場合は、配布再定義ステートメントを訂正して、最後のオペランドをブランクにしてください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0610W GETMAIN FAILED FOR TABLE =
 zzzzzzzz

説明: テーブル zzzzzzzz が作成できませんでした。この問題は、IMS が初期設定に必要な情報を獲得できなくなる可能性があります。

システムの処置: テーブル zzzzzzzz が IMS で必要とされる場合は、IMS は異常終了 0008 で終了する可能性があります。IMS が異常終了 1012 で終了するのは、メンバーが DBFMSDBn の場合です。

オペレーターの応答: 領域サイズを増やして、IMS を再実行します。

プログラマーの応答: 領域のサイズを妥当性検査してください。

問題判別: 1、3、6、8

モジュール: DFSXRPS0、DFSPMBR0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0008

➡ IMS 異常終了 1012

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS611I EXPECTED CONTINUATION CARD
NOT RECEIVED AT ANALYSIS
 EODAD.

説明: 配布再定義ステートメントの最後のオペランドの末尾がコンマであるため、次行に継続するものと見なされました。しかし、継続ステートメント・イメージを取得できないまま、分析制御データ・セットの終わりに達しました。

システムの処置: 処理を続行します。暗黙指定されている配布 ID については、再定義は無視されます。

プログラマーの応答: 必要な場合は、欠落している継続ステートメントを指定してください。継続しない場合は、配布再定義ステートメントを訂正して、最後のオペランドをブランクにしてください。

モジュール: DFSUTR20、DFSUTR30

DFS0612I IMS LOGIC ERROR. R14=xx R15=yy

説明: IMS がエラーを検出しました。xx 値 (16 進数) は、呼び出し先ルーチンからの戻りコードを表し、呼び出し先ルーチンがエラーを検出したときだけ表示されます。それ以外の場合は、xx フィールドには 00 が入っています。yy 値 (16 進数) は、エラーの理由を示します。

xx yy 意味

00 10 データベース DDIR または高速機能 DMAC は検出されず、EEQE CREATE 呼び出しで渡されませんでした。モジュール DFSTOPR0 が戻りコード X'10' を出します。

00 11 EEQE が EEQE DELETE に関して検出されませんでした。モジュール DFSTOPR0 が戻りコード X'11' を出します。

00 12 バッファ長が EEQE CREATE で指定されませんでした。この問題は後で EEQE COPY 呼び出しが行われるまで、発見されない場合があります。モジュール DFSTOPR0 が戻りコード X'12' を出します。

xx 14 バッチ・バックアウト処理中に、EEQE タイプを変更するために、DBRC が呼び出されました。DBRC が、後でこのメッセージで説明するゼロ以外の戻りコードを戻しました。モジュール DFSTOPR0 が戻りコード X'14' を出します。

00 15 XRF テークオーバー時の入出力許容 EEQE CREATE が、EEQE を検出しましたが、この IMS が所有していない、したがって、この IMS では許容できない無効の EEQE でした。モジュール DFSTOPR0 が戻りコード X'15' を出します。

00 1F EEQE COPY 要求が EEQE を検出しましたが、所有されていないか、ユーザー・タイプか、いずれかの EEQE でした。この IMS には、バッファ・プールにブロック・インターバルや制御インターバルがあってはなりません。モジュール DFSTOPR0 が戻りコード X'1F' を出します。

nm 22 データベース・クローズ時または入出力許容 PURGE 処理時の入出力再試行が、バッファ・ハンドラー・ルーチンからゼロ以外の戻りコードを受信しました。nm 値は、バッファ・ハンドラーからの 16 進戻りコードです。追加情報については、戻りコードおよび機能コードの情報を参照してください。モジュール DFSTOBH0 が戻りコード X'22' を出します。

00 31 バッファ・イメージが入っている X'26' または X'4026' ログ・レコードが検出されましたが、対応する EEQE が検出されませんでした

た。EEQE は、以前の X'25' または X'4025' EEQE ログ・レコードから作成されます。モジュール DFSTORS0 が戻りコード X'31' を出します。

- 00 32 処理対象の X'25' または X'4025' EEQE ログ・レコードが、EEQE に示されているデータベースに関して、DDIR を検出できませんでした。モジュール DFSTORS0 が戻りコード X'32' を出します。
- xx 41 XRF テークオーバー時に作成された入出力許容 EEQE が DBRC から 16 進戻りコード xx を受信しました。DBRC 戻りコードについては、後でこのメッセージで説明します。モジュール DFSTODI0 が戻りコード X'41' を出します。
- xx 42 EEQE の削除中に、戻りコード xx が DBRC から戻されました。DBRC 戻りコードについては、後でこのメッセージで説明します。モジュール DFSTODI0 が戻りコード X'42' を出します。
- xx 43 EEQE の追加時に、戻りコード xx が DBRC から戻されました。DBRC 戻りコードについては、後でこのメッセージで説明します。モジュール DFSTODI0 が戻りコード X'43' を出します。

DBRC 戻りコード

XX フィールドに入っている DBRC 16 進戻りコードには次の値があり、その意味はそれぞれ次のとおりです。

- | | |
|----|----------------------------------|
| xx | 意味 |
| 04 | DBDS にはすでに EEQE があります。 |
| 08 | データベースが RECON データ・セットに登録されていません。 |
| 0C | DBDS が RECON データ・セットに登録されていません。 |
| 10 | サブシステムが RECON データ・セットに登録されていません。 |
| 14 | サブシステムにはデータベースを使用する許可がありません。 |
| 18 | DBDS には EEQE がありません。 |
| 1C | パラメーターの EEQE 変更がすべては満たされませんでした。 |
| 20 | データベースの EEQE 限度に到達しました。 |
| 2C | 内部 DBRC エラー |
| 30 | 無効なパラメーターが検出されました。 |

システムの処置: この通知メッセージは、マスター端末オペレーターおよび z/OS コンソールに送信されます。異常終了コード 0602 より先にします。

モジュール:

DFSTOBH0、DFSTODI0、DFSTOPR0、DFSTORS0

関連資料:

➡ 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

```
DFS0613I  CTL|DBC RGN U113 DUE TO Sxxx
          Uyyyy DURING DL/I CALL IN
          MPP|CCTL zzzzzzzz
```

説明: 従属領域 TCB の下、またはコーディネーター制御 (CCTL) 用の DRA スレッド TCB の下での並列 DL/I 呼び出しにおける DL/I 呼び出しの処理中に、異常終了が発生しました。この問題は、IMS 制御領域の異常終了を必要とする重大な障害の原因でした。

xxx システム異常終了コード。このコードは、ユーザー異常終了であれば S000 です。

yyyy ユーザー異常終了コード。このコードは、システム異常終了であれば 0000 です。

zzzzzzzz

異常終了する従属領域のジョブ名、または CCTL のジョブ名

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 異常終了コード 0113 を参照してください。

問題判別: 1、4、6、14、36

モジュール: DFSPCC20、DFSASK00

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0113

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

```
DFS0614I  I/O RETRY SUCCESSFUL. DATA
          BASE dbname DDNAME ddname
          RBN/RBA nnnnnnnnn
```

説明: 再読み取り/再書き込みがデータベース・クローズ時に行われたとき、データベース dbname 内のブロック番号または RBA nnnnnnnnn に関する入出力エラー・ブロックまたは制御インターバル (CI) が、直接アクセス・ストレージ・デバイス (DASD) に対して正常に再書き込みまたは再読み取りされました。DD ステートメントは dbname によって識別されています。入出力エラーは訂正されました。

システムの処置: この通知メッセージは、入出力再書き込みまたは再読み取りが正常に行われたとき、マスター端末および z/OS コンソールに送信されます。他のブロック・レベル共用サブシステムには、入出力エラーのレコードを除去するよう、IRLM NOTIFY を使用して通知されます。DBRC には、データベース・データ・セ

DFS0615I • DFS616I

ット (DBDS) レコードからの入出力エラー RBN/RBA の除去を指示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

入出力エラーは訂正されました。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

入出力エラーは訂正されました。

モジュール: DFSTOBH0

DFS0615I ALL I/O ERRORS SUCCESSFULLY CORRECTED FOR DATA BASE *dbname*

説明: データベース *dbname* に関するすべての入出力エラー・ブロックまたは制御インターバルは正常に再試行されました。このメッセージは、以前の入出力エラーが訂正され、データベースのリカバリーは必要がないことを示しています。IMS は、データベース・クローズ時に入出力エラーの書き込みまたは読み取りの再試行を試みます。

システムの処置: この通知メッセージは、マスター端末および z/OS コンソールに送信されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: データベースをリカバリーする必要はありません。

モジュール: DFSTOCL0

DFS616I SYSTEM LOG DATASET NOT CLOSED- LOG WRITE ERROR

または

SYSTEM LOG DATASET NOT CLOSED- LOG
WRITE ERROR. LAST LOG SEQ NUMBER
=xxxxxxx

または

OLDS BUFFER PURGE FAILED

または

OLDS BUFFER PURGE FAILED. LAST LOG SEQ
NUMBER =xxxxxxx

または

OLDS BUFFERS SUCCESSFULLY PURGED

説明: 永続入出力エラーが最後に残っている IMS ログ・データ・セットで発生しました。重複ロギングが IMS バッチで有効な場合は、エラーが発生するのは、ロ

グ・データ・セットが両方とも損傷した場合です。IMS オンラインの場合は、エラーが発生するのは、最後に残っている OLDS に永続入出力エラーがあるか、スペースが不十分でチェックポイント凍結が完了できないときです。このメッセージには 5 つの形式があります。

最初の形式が出されるのは、永続入出力エラーが最後に残っている IMS ログ・データ・セットで発生した場合です。IMS バッチ領域が、バッチ・ログ (SLDS) を正常にクローズすることなく異常終了し、IMS が、バッチ SLDS に書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号を見つけられなかった場合も、この最初の形式が出されます。最後のログ・レコード・シーケンス番号がメッセージに含まれないのは、次の場合です。

- IMS オンライン・システムが実行中のとき。
- 異常終了時に、ブロックがログに書き込まれない場合。
- 無効のブロック番号がログ・バッファーで検出されている場合。

2 番目の形式が出されるのは、IMS バッチ領域が、バッチ・ログ (SLDS) を正常にクローズすることなく異常終了し、バッチ・ログに書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号がログ・バッファーにあるときです。

このメッセージの 3 番目の形式が出されるのは、IMS オンライン・システムが、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) を正常にクローズすることなく異常終了し、IMS が、OLDS に書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号を見つけられなかった場合です。最後のログ・レコード・シーケンス番号がメッセージに含まれないのは、次の場合です。

- OLDS バッファー・ページ ESTAE ルーチン (DFSFDLF0) が制御を受け取ったとき、OLDS が開かれていない場合。
- DFSFDLF0 がそのメッセージ領域に関する GETMAIN 要求に失敗した場合。
- DFSFDLF0 が、すべての OLDS バッファー内の OLDS に書き込まれている最後のログ・シーケンス番号を見つけられなかった場合。

4 番目の形式が出されるのは、IMS オンライン・システムが、OLDS を正常にクローズすることなく異常終了し、OLDS に書き込まれている最後のログ・レコード・シーケンス番号がログ・バッファーにあるときです。

5 番目の形式が出されるのは、IMS オンライン・システムが OLDS バッファー・ページ ESTAE 中に、OLDS バッファーすべてを正常にページすることなく異常終了した場合です。

システムの処置: このメッセージの最初の 2 つの形式

の場合、IMS は異常終了します。それ以外の場合、IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 最初の 2 つの形式の場合、新しいログ・データ・セットを割り振り、入出力エラーを起こしたログ・データ・セットと置き換えます。ログ・リカバリー・ユーティリティを使用して、WRITE または CLOSE エラーがないログ・データ・セットを作成する必要がある可能性があります。十分な数のログ・データ・セットが使用可能な場合は、IMS を緊急時再始動して処理を続けてください。そうでない場合、処置は必要ありません。

モジュール: DFSFDLS0、DFSFDLG0

DFS0617I RDS BUFFERS HAVE BEEN SUCCESSFULLY PURGED.

説明: IMS の正常な終了処理または STAE 終了処理時に、再始動データ・セット (RDS) バッファが正常にパーズされました。チェックポイント・テーブルに書き込まれています。

システムの処置: IMS はその終了プロセスを続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRDS00

DFS0618A A RESTART OF A NON-ABNORMALLY TERMINATED SYSTEM MUST SPECIFY EMERGENCY BACKUP OR OVERRIDE.

説明: DBRC が異常終了としてフラグを立てなかった IMS システムを再始動する試みが失敗しました。この問題が最も一般的に発生するのは、電源障害の後や、XRF 対応環境での代替システムの再始動時ですが、それ以外の状態でも起こる可能性があります。

システムの処置: IMS は再始動を終了し、オペレーターが別の再始動コマンドを入力するのを待ちます。

オペレーターの応答:

同じサブシステム名をもち、現在アクティブの IMS システムがないか確認してください。以前の CTL 領域の障害後もまだアクティブの可能性がある DBRC および DLISAS 領域がないかチェックしてください。DBRC または DLISAS 領域が、対応する CTL 領域なしで、まだアクティブの場合は、処理の前にそれらを取り消してください。

同じサブシステム名をもち、現在アクティブの IMS システムがない場合は、/ERE OVERRIDE コマンドを出

してください。XRF 環境では、/ERE BACKUP コマンドを出してください。

モジュール: DFSRST00

DFS0619I JOBNAME.STEPNAME. PROCSTEPNAME MADE NON-SWAPPABLE

説明: 指定されたジョブ・ステップは、IMS SVC の IMS のスワップ不可サービス呼び出しを使用して (DFSV4200)、スワップ不能にされています。このメッセージは、情報目的のみで表示されます。

システムの処置: 要求された呼び出し元はスワップ不能にされます。

モジュール: DFSV4200

DFS0620I RESTART DATASET CLOSED

説明: 再始動データ・セットは正常にクローズされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSFDPL0

DFS621W IMS type LEVEL (level) INCOMPATIBLE WITH REGION

説明: IMSIMS 領域のリリース・レベルがメッセージを発行するモジュールのインストール済みリリース・レベルと互換性がありません。モジュールが必要な機能を実行できない可能性があります。以下の表は、メッセージの意味を示しています。

表 3. DFS621W キーワードの意味

キーワード	値	意味
<i>type</i>	RTM	IMS リソース終了マネージャー (DFSRTM00) がアセンブルされているリリース・レベルが、終了 IMS 領域よりも古いリリース・レベルです。DFSRTM00 は、必要なリソース・クリーンアップを実行できない可能性があります。
	SVC	IMS SVC (DFSV4200) がアセンブルされているリリース・レベルが、初期設定 IMS 領域と互換性がありません。この IMS 領域に関する SVC 機能が失敗したか、または予期しない結果をもたらしています。
<i>level</i>	<i>nnn</i>	メッセージを発行する IMS モジュールのリリース・レベル

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 正しいレベルの DFSVC200 または DFSRTM00 をインストールしてください。

モジュール: FSMRCL2、DFSRTM00、DFSVC200

DFS0622I *job.step.proc*-KEY 0-7 NOT ALLOWED FOR DLI, DEP OR UTILITY RGN


説明: DL/I、DEP、またはユーティリティ領域に対して保護キー 0 から 7 を指定しました。z/OS では、0 から 7 の範囲の保護キーの下で実行できるのは、オンライン制御領域のみです。

システムの処置: IMS は、このメッセージを出した領域に関して、異常終了コード 0622 を出します。

プログラマーの応答: 異常終了コード 0622 を参照してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 異常終了 0622

DFS0623I *job.step.proc*-KEY 0-7 REQUIRED FOR ONLINE CONTROL REGION


説明: IMS が z/OS でオンライン制御領域の初期設定を試みましたが、8 から 15 の範囲の保護キーが使用されました。保護キーは 0 から 7 の範囲である必要があります。

システムの処置: IMS は、このメッセージを出した領域に関して、異常終了コード 0623 を出します。

プログラマーの応答: 異常終了コード 0623 の情報を参照してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 異常終了 0623

DFS624I COMMAND VERB/OPTION NOT SUPPORTED (y)

説明: IMS でサポートされていないコマンド verb またはオプションが、オペレーティング・システム MODIFY コマンド・インターフェース、または外部サブシステムによって入力されました。値 y は、最大 12 バイトまでコマンド verb またはオプション入力データを表します。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: MODIFY コマンドがオペレーターによって入力された場合は、コマンドにスペル・エラーまたはフォーマット・エラーがないかチェックしてく

ださい。コマンドを訂正し、再実行します。

プログラマーの応答: コマンド構文が正しいかを確認します。

モジュール: DFSFCTT0

DFS625I IRLM RECONNECT COMMAND FAILED, CODE - *nn*

説明: OS オペレーターが、RECONNECT を指定して、IMS に対する OS MODIFY コマンドを入力し、IMS は IRLM RECONNECT コマンドが完了できませんでした。

nn の値は、次のいずれかのコードで示されます。

コード (10 進数)

意味

04 IRLM が IRLM 障害に関して、IMS 状況出口制御を示しませんでした。つまり、IMS のこの実行中は、IRLM がまったく使用されていないか、IMS-IRLM 間接続がまだアクティブであるか、どちらかを意味します。再接続の試み中は、次のことを心得ていてください。

- データベースを使用する意図がある従属領域は、いずれもスレッド終了処理を完了する必要があります。
- そのような従属領域で終了しないものがあると、IMS が IRLM 障害からのクリーンアップに必要なステップを完了できません。
- 領域切断処理がすべて完了するまでは、IMS は IRLM に再接続したり、終了したりできません。
- 切断処理のさまざまな段階 (例えば、アプリケーションでのタイマー表示待ちや WTOR への応答待ちなど) にある領域を異常終了する必要があります。

08 IMS が再度 IRLM にサインオンできなかったため、オペレーターがメッセージ DFS039A に対して CANCEL を応答しました。

12 IRLM 障害時にアクティブであったため、IRLM 再接続コマンドを実行できなかったデータベースに対して、アプリケーションがまだスケジュールされたままであることを、IMS が検出しました。

システムの処置: 処理は、IRLM を使用せずに続行されます。

モジュール: DFSFCTT0、DFSRDSH0

**DFS626I IRLM RECONNECT COMMAND
SUCCESSFUL**

説明: OS オペレーターが、RECONNECT を指定して、IMS に対する OS MODIFY コマンドを入力し、IMS は、再始動された IRLM に正常に再接続されました。このメッセージは、マスター端末オペレーターと OS オペレーターの両方に送信され、再接続が行われたことを知らせます。これで、マスター端末オペレーターは停止していたデータベースを必要に応じて開始できます。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSRDSH0

**DFS627I IMS RTM CLEANUP (type) status FOR
task jobname.stepname.procstepname
RC=xxx**

説明: 詳細情報および処置については、メッセージ DFS627W を参照してください。

関連情報:

DFS627W

DFS627W IMS RTM FAILURE (xxx) FOR task id

説明: IMS リソース終了マネージャー (RTM) によって、メッセージ DFS627I には 2 つの形式、つまり、警告と情報の 2 つの形式が生成されます。

警告メッセージ DFS627W は、RTM 処理中にリカバリー可能障害が生じたり、RTM によって呼び出されたルーチンからゼロ以外の戻りコードが受信されると、そのつど表示されます。このメッセージでは、障害が検出された時点で実行中の機能を示す、障害コード xxx が示されます。RTM は、終了プロセスにおける次の機能から処理を再開します。

通知メッセージ DFS627I は、クリーンアップの終了時のジョブ・ステップ TCB に関して 1 回と、サブタスクの下における ESTAE 障害ごとにそれぞれ 1 回ずつ生成されます。ESTAE 障害が起こるのは、SDWA が存在していないか、再試行が不可能なときです。すべての TCB がエラーを伴わずに完了すれば、通知メッセージでは、COMPLETE の状況が戻りコード X'00' を伴って表示され、それ以外の場合は、状況は FAILED で、戻りコード X'FF' が示されます。(戻りコード X'FF' の意味については、このメッセージについて後で説明する 16 進戻りコードを参照してください。)

要確認: ESTAE が入力され、再試行が可能になると、SDWA が SYS1.LOGREC に書き込まれます。エントリーに含まれるのは、ジョブ名、終了する IMS のリリースとレベル、および障害コードです。

以下の表は、メッセージ・テキストを示します。

表 4. DFS627W メッセージ・テキスト

キーワード	値	意味
<i>type</i>	EOM EOT ESTAE	メモリーの終わり (End of Memory)、タスクの終わり (End of Task)、ESTAE 障害。再試行不能。
<i>status</i>	COMPLETE FAILED	IMS が正常に完了。IMS がクリーンアップ中に障害を少なくとも 1 つ検出。
<i>task</i>	ST JS	サブタスク・ジョブ・ステップ・タスク
<i>id</i>	jobname ID=imsid	タスクの終わり (End of Task) 障害、メモリーの終わり (End of Memory) 障害

戻りコード xxx は、リソース・クリーンアップ処理の結果を示します。戻りコード値 X'00' から X'FF' は、DFSRTM00 によって生成されます。値が X'04' から X'74' の場合は、タスクの終わり (End of Task) 終了時の障害を表します。値が X'C8' から X'EC' の場合は、メモリーの終わり (End of Memory) 終了時の障害を表します。他の値が DFSRTM00 によって生成された場合は、いずれかのタイプの終了に該当します。値が X'100' 以上の戻りコードは、DFSRC20 によって生成されません。戻りコードの値と意味は、それぞれ次のとおりです。

コード (16 進数)

	意味
00	クリーンアップが正常に完了しました。
01	GETMAIN が作業域に関して失敗しました。最小クリーンアップ処理が実行されます。
04	ESTAE が確立できませんでした。最小クリーンアップ処理が実行されます。
08	未使用
0C	TCB 妥当性検査時に TCB テーブルをスキャンしている最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
10	可用性マネージャー切断処理を実行している最中の障害 (XRF 環境の場合のみ)。処理は次の機能から再開されます。
14	可用性マネージャー切断処理中に、ストレージが保管域用として要求されたとき、RTM が GETMAIN からゼロ以外の戻りコードを受信しました (XRF または高速データベース・リカバリー環境の場合のみ)。処理は次の機能から再開されます。
18	IMS サブシステム間インターフェース終了処理を実行している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。

- 1C** メモリー間ウィンドウ・ヘッダーを切断している最中の障害。処理は次の機能から再開されません。
- 20** TCB DEB チェーンをスキャンしている最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。
- 24** チャンネル間装置に関して HALT 入出力または静止機能を実行している最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。
- 28** OSAM データ・セットをクローズしている最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。
- 2C** OS データ・セットをクローズしている最中の障害。処理はチェーン上の次の DEB から続行されます。
- 30** 処理中の障害、または IMS リソース・ロック・マネージャー終了機能からのゼロ以外の戻りコードの受信。処理は次の機能から再開されます。
- 34** OSAM 短期入出力ページのページ解放中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 38** 仮想記憶間テーブルを切断している最中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 3C** RGPparms 用 CSA ストレージを解放している最中の障害。処理は次の機能から再開されません。
- 40** 処理中の障害、または SVC 終了および CSA クリーンアップ・ルーチンからのゼロ以外の戻りコードの受信。処理は SVC ディレクトリー・クリーンアップから再開されます。
- 44** 処理中の障害、または SVC ディレクトリー・クリーンアップ・ルーチンからのゼロ以外の戻りコードの受信。処理は次の機能から再開されます。
- 48** IMS ENF listen 出口を削除する ENFREQ DELETE 呼び出しを実行中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 4C** カップリング・ファシリティ構造からの切断を行う IXLDISC 呼び出しを実行中の障害。処理は次の機能から再開されます。
- 50** IMS ARM ENF listen 出口のために ENFREQ DELETE 呼び出しを実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 54** オープンされた高速機能 DEDB 領域のためにメディア・マネージャーが制御ブロックのクリーンアップを実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 58** 高速機能 64 ビット・バッファ・クリーンアップの実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 59-5B** 未使用
- 5C** ロガー・クリーンアップの実行中に障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 5D-67** 未使用
- 68** バッチ IRLM PC クリーンアップ。
- 70** IMS DUMP SSCT を NULL に設定しようとしているときに障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- 74** IMS サブタスクに関する全サブプール削除機能の実行中の傷害。処理は次の機能から再開されます。
- C8** RTM が SVC ディレクトリー・クリーンアップ・ルーチンからゼロ以外の戻りコードを受信。処理は次の機能から再開されます。
- CC** RTM が IRLM 終了機能からゼロ以外の戻りコードを受信。処理は次の機能から再開されません。
- D0** DFSRTM00 へ制御をルーティングする試みで障害。DFSRC020 の ESTAE が異常終了をインターセプトし、簡略クリーンアップを試みます。
- EC** IMS DUMP SSCT を NULL に設定しようとしているときに障害が発生しました。処理は次の機能から再開されます。
- F0** DL/I 従属アドレス・スペースが、領域に関するリソース・クリーンアップを正常に実行できないで終了する可能性。このことが起こった場合は、DLS 領域が終了した後で、DLS SSCT が残される可能性があり、それによって、マスター・スケジューラー・ブロードキャスト機能に異常終了が生じる恐れがあります。DLS 領域を使用して実行する場合に、一部の異常終了の発生を防止する試みで、制御領域ジョブ・ステップ TCB がクリーンアップ処理中に DLS SSCT を検索します。いずれかの SSCT が検出されれば、SSCT クリーンアップが試みられます。DLS SSCT のクリーンアップが正常に行われた場合は、メッセージ DFS627W IMS RTM FAILURE (F0) FOR DLS が発行されます。クリーンアップが失敗した場合は、標準形式の警告メッセージが出されます。処理は次の機能から再開されます。
- FC** オペレーターによるリソース・クリーンアップ処理の取り消し。異常終了 X'x22' が ESTAE によってインターセプトされ、処理の再試行は一切許されません。簡略された形式のクリーンアップ処理が ESTAE ルーチンによって実行されます。
- FF** リソース・クリーンアップ処理は完了しましたが、クリーンアップ中に障害が 1 つ以上発生しました。メッセージ DFS627W に障害の理由が説明されています。
- 100** IMS TCB に代わって処理している最中に、

DUMP SSCT が無効であることを、DFSRC20 が判別しました。終了 TCB に関しては、クリーンアップは一切試みられません。

- 104 ESTAE が確立できませんでした。制御は DFSRTM00 に渡されません。唯一試みられたのは、DUMP SSCT を NULL に設定する処理のみです。
- 108 DFSRTM00 アドレスが SSCT でゼロです。簡略クリーンアップが試みられます。
- 10C DFSRTM00 へ制御をルーティングする試みで障害。DFSRC20 の ESTAE が異常終了をインターセプトし、簡略クリーンアップを試みます。
- 110 直前のジョブ・ステップまたはメモリー終了クリーンアップが試みられましたが、失敗しました。DFSRC20 は IMS DUMP SSCT をヌルにリセットし、z/OS に戻ります。一部の IMS リソースがクリーンアップされていない可能性があります。
- 114 DFSRC20 が、アクティブな IMS SSCT をもつアドレス・スペース内の非 IMS ジョブ・ステップ TCB のために呼び出されました。これは、通常、直前の IMS リソース・クリーンアップが失敗したか、または IMS ジョブ・ステップ TCB 終了の制御を DFSRC20 が受け取らなかった結果です。DFSRC20 は IMS DUMP SSCT をヌルにリセットし、z/OS に戻ります。一部の IMS リソースがクリーンアップされていない可能性があります。
- 118 モジュール DFSRTM00 で IMS ジョブ・ステップ TCB が最終終了に入った後、DFSRC20 がタスク終了のために呼び出されました。ジョブ・ステップ・タスクはまだアクティブです。この状態はエラーではありません。ただし、このコードは、診断のためにこのイベントをトレースするために内部的に使用されます。

システムの処置: タスクの終わり (End of Task) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、IMS 領域に関するリソース・クリーンアップ処理が正常に完了した場合は、メモリーの終わり (End of Memory) 終了の場合に戻りコードが X'00' であれば、クリーンアップ処理は正常に完了しましたが、それがタスク非関連機能のみに限定されます。戻りコードが X'FF' の場合は、障害が 1 つ以上発生し、そうした障害に関連するクリーンアップ処理は完了しなかった可能性があります。

問題判別: 1、11、36

モジュール: DFSRTM00、DFSRC20

関連情報:

195 ページの『DFS627I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS628I ABNORMAL TERMINATION SCHEDULED

説明: z/OS システム・コンソール・オペレーターが MODIFY IMS.DUMP コマンドを入力して、IMS 領域を異常終了させました。

システムの処置: IMS 領域は異常終了し、メモリー・ダンプが取られます。

モジュール: DFSFCTT0

```
DFS629I  IMS ttt TCB <action> IMS|SYS
          sss|uuuuuuuuuuIMS ttt TCB <action>
          IMS|SYS sss|uuuuuuuuuu
```

または

```
IMS BATCH REGION ABEND - IMS|SYS uuuuu
```

または

```
PSW AT ERROR = hhhhhhhh hhhhhhhh
```

または

```
MODID = ccccccc EPA = aaaaaaaa
```

または

IMS DBC REGION ABEND

説明: IMS オンラインの場合は、このメッセージは最初の形式が出され、3 番目および 4 番目の形式が出されることもあります。IMS バッチの場合は、2 番目の形式が出され、3 番目の形式が出されることもあります。

データベース制御 (DBCTL) サブシステムの場合は、DBCTL または z/OS オペレーターが MODIFY コマンドを出して、DBCTL 領域を停止すると、5 番目の形式が出されます。

メッセージ・テキストで、各変数の意味は以下のとおりです。

ttt IMS TCB タイプ名

action 処置はIMS 制御領域が終了する場合は ABEND で、メモリー・ダンプが従属領域に関して生成される場合は DUMP です。

sss システム異常終了コード (使用可能な場合)

uuuu ユーザー異常終了コード (使用可能な場合) またはシステム異常終了コード

vvvv 障害が起こっている IMS アドレス・スペース
または外部サブシステム

DLS 障害が DL/I アドレス・スペースの
TCB の場合

IES 障害が外部サブシステムの IMS サポ
ート・コードの場合

ESC 障害が障害の起こっている外部サブシ
ステムに関する IMS サポート・コー
ドではなかった場合

U0027 元の異常終了コード

値なし 障害が IMS CTL アドレス・スペース
の場合

hh..hh 16 進 PSW の内容

cccccccc エラーの発生時に実行中のモジュール

aaaaaaaa モジュール・エントリー・ポイントの 16 進ア
ドレス

システムの処置: IMS TCB 障害によっては、IMS シス
テムが終了する場合があります。それ以外の IMS TCB
障害 (例えば、動的割り振り障害、高速機能従属領域障
害、ストレージ圧縮障害、一部の DBRC 障害など) の
場合は、IMS は処理を続行します。IMS 外部サブシス
テム障害の場合は、外部サブシステム・タスクが終了し
ます。

オペレーターの応答: 外部サブシステム・タスクが終了
した場合は、 /START SUBSYS コマンドを使用して、
そのタスクを再始動してください。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別するには、次の
ものも含めて、診断出力を調べてください。

- IMS 外部サブシステムまたは DBRC で作成される
スピンオフ・ダンプ
- 動的割り振りによって作成されるソフトウェア
LOGREC エントリー
- 高速機能従属領域で作成される高速機能従属領域ダ
ンプ

モジュール: DFSFDMP0、DFSFLST0

DFS630I WAITING FOR IRLM INITIAL STATE.

説明: IRLM は、すべての現行サブシステムが識別さ
れ、それぞれのデータベースが再検証され、バックアウ
トが処理されるのを待つ初期 WAIT 状態にあります。
このメッセージは、WAIT 状態以前に、OS オペレータ
ーおよびマスター端末オペレーターに送信されます。

システムの処置: 短時間待った後で、処理は続行されま
す。

オペレーターの応答: 待ち時間が極端になった場合は、

IRLM に接続されているサブシステムすべてを検査し、
遅延を起こしている原因を判別する必要がある可能性が
あります。このサブシステム (IMS) が DFS630I メッセ
ージを出したとは考えられません。

モジュール: DFSSDLB0

DFS631I DBRC ADDRESS SPACE TERMINATION UNPREDICTABLE DUE TO CONTROL REGION ABNORMAL TERMINATION

説明: IMS と DBRC の間の接続が完了する前に、IMS
制御領域が終了した可能性があります。この場合、
DBRC アドレス・スペースは異常終了するときもあれ
ば、まったく終了しないときもあります。

DBRC アドレス・スペースが異常終了した後に、IMS
制御領域が終了した可能性もあります。

システムの処置: DBRC は異常終了する場合もあり、
そうでない場合もあります。

オペレーターの応答: DBRC が終了しない場合は、コ
ンソールを使用して DBRC を終了する必要があります。

モジュール: DFSFSTM0

DFS632I job.step.proc-EXCESSIVE NUMBER OF PARAMETERS IN PARM FIELD

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドに
入っていた定位置パラメーターが多すぎます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行
依頼してください。

モジュール: DFSRRA20

DFS0633I DBRC PARAMETER SPECIFIED VALID ONLY FOR BATCH BACKOUT


説明: DBRC=C が指定されましたが、プログラム名は
DFSBB000 ではありませんでした。DBRC=C パラメー
ターを使用して指定できる唯一の有効なプログラムは、
バッチ・バックアウトのみです。

システムの処置: IMS ジョブは異常終了し、異常終了
コード 0633 が示されます。

プログラマーの応答: DBRC パラメーターと MBR パ
ラメーター間の矛盾を訂正してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0633

DFS634I *job.step.proc*-BLANK ENCOUNTERED
AS FIRST CHAR OF PARAM VALUE

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの
定位置パラメーターに、1 つ以上の先行ブランクが含ま
れています。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行
依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

DFS635 COMMAND BUFFER TOO LARGE:
CANNOT PROCESS COMMAND.

説明: 入力されたコマンドでは、X'FFFF' (65,535) バイ
トを超えるバッファ長が必要でした。X'FFFF' は
/DISPLAY コマンドの場合の限度であり、その他のす
べてのコマンドの場合は X'7FFF' (32,767) バイトが限度
です。エラーのコマンドには、ALL パラメーターを指
定した NODE キーワードが含まれていたと考えられま
す。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: 指定された範囲の複数のコマンド
としてコマンドを再入力することによって、ストレージ
要件を減らしてください。/DISPLAY コマンドの場合
は、指定できるパラメーターの数は概略 5500 であり、
その他のすべてのコマンドの場合は、2500 です。シス
テム・プログラマーに連絡して、支援を要請してくださ
い。

モジュール: DFSICL30

DFS636I *job.step.proc*-LAST FIXED LENGTH
PARAM VALUE TOO SHORT

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの
最後の固定長パラメーター値が短すぎました。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: 先行する値に誤っているものがな
いか検証してください。エラーがあれば訂正し、ジョブ
を再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA20

DFS0637W *xxxx* REQUEST NOT SATISFIED DUE
TO POOL EXPANSION LIMIT

説明: IMS ストレージ・プール *xxxx* のストレージに
対する 1 つ以上の要求に応じられませんでした。要求
に応じるには、プール・サイズが拡張上限を超えること

になります。上限は実行パラメーターで指定されていま
す。

システムの処置: IMS ストレージ・プール・マネー
ジャーがストレージを待つことを、呼び出し元が指定した
場合は、呼び出し元は、要求に応じられる十分なスト
レージがストレージ・プールに戻されるまで待つか、また
は呼び出し元が最大圧縮サイクル数を待ち終えるまで待
ちます。要求に応じられない場合は、ゼロ以外の戻りコ
ードが呼び出し元に戻されます。

プログラマーの応答: このメッセージが同じストレ
ージ・プールに関して繰り返し出される場合は、それらの
プールの拡張上限を引き上げてください。

モジュール: DFSSTAT0

DFS638I *job.step.proc*-COMMA FOUND WITHIN
EXTENT OF FIXED LENGTH PARAM

説明: コンマが固定長フィールドのエクステン
ト内で検出されました。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行
依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

DFS639W INVALID STG POOL DEF FOR (*xxxx*)
(*) *parm*

説明: IMS.PROCLIB メンバー DFSSPMnn に、パラ
メーターが無効のストレージ・プール定義ステートメント
が入っています。許容パラメーターは、プール名とバッ
ファ定義です。

parm が FPL=zzzz を示している場合は、プール名が無
効です。IMS ストレージ・プール zzzz が定義されてい
ません。

parm が (a, b, c, d) を示している場合は、バッファ
定義がプール *xxxx* に関して無効です。次のリストにバ
ッファ定義サブパラメーターが定義してあります。

- a バッファ・サイズを固有の 1 から 5 桁の数
値で定義します。許容範囲は 8 から 65536 で
す。バッファ・サイズは、丸めて最も近い 8
の倍数に切り上げます。
- b 1 次ストレージ割り振りのバッファの数を定
義します。値は、2 から 65535 の範囲の 1 か
ら 5 桁の数値である必要があります。
- c 2 次ストレージ割り振りのバッファの数を定
義します。値は、2 から 65535 の範囲の 1 か
ら 5 桁の数値である必要があります。
- d 1 次ストレージ割り振りが IMS 初期設定中
に取得されるかどうか定義します。許容値は Y

と N です。Y が指定されている場合は、1 次ストレージ割り振りは初期設定中に取得されず、N が指定されている場合は、1 次ストレージ割り振りは、バッファ要求に応じるために必要になるまで、取得されることはありません。

DFS639W メッセージは、無効なパラメーターが生起すると、そのつど 1 回ずつ出されます。

システムの処置: プール名パラメーターが無効の場合は、ストレージ・マネージャーは、そのプールに関する定義は無視しながら、残りのパラメーターの妥当性検査を続行します。

バッファ定義パラメーターが無効の場合は、そのパラメーターは解釈されるか無視されるか、いずれかです。

サブパラメーター **a** の値が許容最大値 65536 を超える場合は、値 65536 が使用されます。サブパラメーター **b** または "c" の値が許容最大値 65535 を超える場合は、値 65535 が使用されます。サブパラメーター **d** が無効の場合は、1 次ストレージ割り振りが取得されるのは、処理のために必要なときであって、IMS 初期設定中ではありません。

サブパラメーター **a** の値がゼロ、または前に定義した値である場合は、バッファ定義は無視されます。最大 32 の定義が 1 つのプールに関して許容されます。* が PARM の前にくるのは、最大数を超え、PARM が妥当性検査されていない場合です。これは無視されます。

プログラマーの応答: 無効のステートメントを訂正してください。

モジュール: DFSXSPM0

DFS640I *job.step.proc*-REQUIRED PARAMETER OMITTED FROM PARM FIELD

説明: EXEC ステートメントの PARM フィールドの最初の 3 文字で指定されている実行の必要パラメーターが省略されました。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA20

DFS641I *jobname.jobstep*-INCORRECT REGION PARAMETER IN EXEC STATEMENT


説明: データベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 が実行された領域タイプが無効です。
//EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーター

で指定されるバッチ領域は、UDR である必要があります。

システムの処置: IMS は、このメッセージを出した領域に関して、異常終了コード 0641 を出します。

プログラマーの応答: 異常終了コード 0641 を参照してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0641

DFS642I *job.step.proc*-PARAM EXCEEDS MAX ALLOWABLE LENGTH

説明: パラメーター値 (例えば、DL/I 実行でのプログラム名など) が許容される最大長を超えました。

システムの処置: システムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

DFS643I *job.step.proc*-NON-NUMERIC VALUE SPECIFIED FOR NUMERIC PARAMETER IN PARM FIELD

説明: すべての数値パラメーターが調べられます。非数値の値が数値パラメーターに指定されている場合は、このメッセージがコンソール・オペレーターに送信されます。


システムの処置: このメッセージを出す IMS 領域は、異常終了 0643 で終了します。

プログラマーの応答: JCL の EXEC ステートメント・パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼します。

問題判別: 1、2、3、4

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0643

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS644I *job.step.proc*-INTERNAL DESTINATION LIST IS INVALID

説明: システム・エラーが発生しました。

システムの処置: システムは異常終了します。

オペレーターの応答: (z/OS システム・オペレーター) このエラーについては、IMS システム操作の担当者にお問い合わせください。

問題判別: 1、2、3、4、36。また、現場で使用されてい

る DFSRRA00 のアセンブリー・リストを入手してください。

モジュール: DFSRRA20

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS645W PRIMARY xxxx STORAGE EXCEEDED
POOL EXPANSION LIMIT**

説明: xxxx ストレージ・プールの初期設定中に、示されている 1 次バッファ割り振りの累積サイズが、指定されている拡張上限を超えました。このメッセージは、バッファ用のストレージの取得を試みる前に出されます。指定されている拡張限界値が、指定されている 1 次バッファ・サイズすべての割り振りに必要なストレージの合計より小さい場合は、このメッセージが出されます。1 次ストレージはプールに割り振られていません。ストレージ・ブロックが必要に応じて割り振られません。プール内のすべてのブロックが圧縮可能です。

システムの処置: IMS 初期設定は正常に続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: プールに関するデフォルトの拡張上限が、EXEC パラメーターまたは DFSPBxxx メンバーを使用してオーバーライドされた可能性があります。デフォルトの 1 次および 2 次ストレージ・プール割り振りは、IMS.PROCLIB メンバー DFSSPMxx のストレージ・プール定義ステートメントによってオーバーライドする必要がある可能性があります。ストレージ・プール定義で適切なサイズの 1 次ブロックを指定しているか、累積 1 次ストレージ割り振り指定が指定されている上限を超えていないか確認してください。

モジュール: DFSSPM30

**DFS646I job.step.proc-SPIE OPTION IN PARM
FIELD INVALID**


説明: パラメーター・フィールドに無効な SPIE オプションが検出されました。パラメーター・フィールドの SPIE オプションは、0 か 1 である必要があります。

システムの処置: 異常終了 0646 が出されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0646

**DFS0647W READ OF PSB *psbname* OR INTENT
LIST FOR PSB RECEIVED INVALID
DATA. PSB STOPPED.**

説明: ディレクトリー・エントリー・リストを生成するために BLDL が PSB に関して行われ、TTR に対して発行された読み取りが BLDL マクロによって戻されました。読み取りの完了後、結果が無効でした。問題は、次のいずれかの原因によって発生した可能性があります。

- DOPT PSB の場合は、圧縮と読み取りが同時に行われた。
- 非常駐 PSB の場合は、IMS システムが起動した後で圧縮が行われた。

オペレーターの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- DOPT PSB の場合は、圧縮が完了してから、PSB を開始します。その上で、ジョブをスケジュール変更してください。
- 非常駐 PSB の場合は、オンライン変更は圧縮の完了後に行う必要があります。

**DFS648I job.step.proc-VALIDITY CHECK
OPTION IN PARM FIELD INVALID**


説明: PARM フィールドの妥当性検査オプションの指定に誤りがありました。

システムの処置: 異常終了 0648 が出されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA20

関連情報:

 IMS 異常終了 0648

**DFS0649W PSB *psbname* INSUFFICIENT FREE
STORAGE BELOW 16 MEG.
REQUIRED = xxxxxxxx
AVAILABLE=yyyyyyyyy**

説明: ACB 生成機能が *psbname* 用の PSB ブロックの作成を試みましたが、PSB 生成サイズは、16 MB 境界の下に xxxxxxxx バイトのストレージを必要としながら、使用可能であったのは yyyyyyyy バイトだけでした。

システムの処置: PSB は ACBLIB から削除され、戻りコード 8 が設定されます。ACBGEN は次の PSB から続行されます。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントまたは PCB ステートメント、あるいはその両方の数を減らし

DFS650E

て、PSB を再設計してください。

モジュール: DFSUAMB0

DFS650E **NON-LE COMPLIANT PROGRAM IN
PERSISTENT JVM ENVIRONMENT,
NAME=*program_name***


説明: 永続 JVM 従属領域環境で言語処理環境 (LE) に準拠していないプログラムをロードして実行しようとした。永続 JVM 従属領域環境で実行されるプログラムはすべて、LE 準拠でなければなりません。


システムの処置: アプリケーションを終了するために異常終了 U0101-05 (理由コード 5) が発行されます。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して LE 準拠にします。プログラムに、有効な LE 項目プロローグが入っていませんでした。プログラムが現行の LE 対応コンパイラでコンパイルされたことを確認してください。

モジュール: DFSPCC20

関連概念:

 z/OS: 言語環境プログラムによるアプリケーションの作成

 z/OS: 言語環境プログラムで実行するためのアプリケーションの準備

第 17 章 DFS メッセージ DFS0651W - DFS700I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0651W ERROR XX READING DBD PSB INT yyyyyyyyy FROM ACBLIB.

説明: PSB、DBD、または、ACBLIB から読み取られた意図リストの妥当性検査によって、エラーが示されました。エラーのあるブロックは使用されません。

yyyyyyyyy フィールドに、妥当性検査エラーが検出された PSB、DBD、または意図リストの名前が示されています。xx フィールドには、検出された妥当性検査エラーが次のように示されます。

- xx 妥当性検査エラー
- 01 読み取りが DMB yyyyyyyyyy を戻したはずですが、読み取られたデータの妥当性検査によって、読み取られたのが DMB ではないことが示されました。
- 02 読み取りが PSB yyyyyyyyyy を戻したはずですが、読み取られたデータの妥当性検査によって、読み取られたデータが予想された PSB ではないことが示されました。
- 03 読み取られた PSB が、初期設定時に ACBLIB PDS ディレクトリーから取得された PSB サイズと整合性がありません。
- 05 PSB yyyyyyyyyy に関する意図リストの読み取りがゼロ・バイトばかりでした。
- 06 PSB yyyyyyyyyy に関するリスト自体内に保管された意図リストの長さが無効です。
- 07 PSB yyyyyyyyyy に関して読み取られた意図リストの長さが、IMS 初期設定時に ACBLIB PDS ディレクトリーから取得された意図リストの長さとの整合性がありません。
- 08 PSB yyyyyyyyyy に関する意図リストに無効のオフセットが含まれています。
- 09 PSB に関する意図リストに DMB A は組み込まれていましたが、DMB B が組み込まれていませんでした。DMB B は、副次索引と論理関係のいずれかによって DMB A に関連付けられ、意図リストに組み込まれている必要があります。したがって、PSB はその DBD と整合性がありません。ACBGEN ユーティリティーを実行して、この不整合を解消する必要があります。
- 10 DSG DMB オフセットが意図リスト長さとの整合性がありません。このオフセットは、PSB 意図リストから DDIR アドレスを検索するのに

使用されます。DSG DMB オフセットがゼロ、負、または意図リスト長さより大きい場合、DDIR アドレスが検索できませんでした。この不整合を解消するためには、ACBGEN が必要です。

- 11 PSB yyyyyyyyyy に関して作成されたデータ・セット・グループが、関連 DBD で定義されているデータ・セット・グループと整合性がありません。この矛盾を解消するためには、ACBGEN を実行して DBD を再作成してください。これは、PSB が参照している DBD が、ACBLIB 内になかった場合にも発生します。
- 12 この PSB が最後に再作成されたときのタイム・スタンプが読み取りで戻されませんでした。タイム・スタンプは、この PSB とその DMB 間の整合性の検証に使用されました。タイム・スタンプは ACBGEN ユーティリティーによって生成され、PSB の終わりに保管されました。ACBGEN ユーティリティーを再度実行して PSB を再作成する必要があります。
- 13 PSB 意図リストで参照される 1 つ以上の DMB には構造の変更があり、再作成されました。PSB は再作成されていないため、その DBD との整合性がありません。ACBGEN ユーティリティーを再度実行して、不整合を解決する必要があります。
- 14 PSB 意図リストで参照される DMB は、メンバー・オンライン変更によってコミット中です。この PSB を使用するプログラムをスケジュールできません。
- 15 PSB ディレクトリー内の PSB サイズは、ACB オンライン変更時に ACBLIB PDS ディレクトリーから取得されたサイズとの整合性がありません。

上記のエラーの理由としては、次の場合が考えられます。

- アクティブ ACBLIB が IMS による使用中に圧縮された。
- LLA (ライブラリー・ルックアサイド機能) が不適切に使用された。例えば、LLA が非アクティブ ACBLIB に関して使用され、非アクティブ ACBLIB へのステー징・ライブラリーのコピーの後に続いて、常駐ディレクトリーが更新されませんでした。そこで、/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC

PHASE(COMMIT) コマンドが、メモリー内に残されている ACBLIB 用の PDS ディレクトリーのバックレベル・コピーを使って、非アクティブからアクティブに切り替えました。ACBLIB データ・セットに関しては、LLA は決して使用しないようにすることを、ぜひともお勧めします。

- PSB が、/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドより前に、非アクティブとアクティブの両方の ACBLIB にコピーされた。これが行われた場合は、アクティブと非アクティブの日付の比較が等しくなり、PSB が変更されなかったことを示唆します。したがって、PSB ディレクトリーに保持されている PSB サイズをリフレッシュしないで、新しい PSB を読み取ることになります。
- 論理関係のあるデータベースに関する重複データベース定義がある。NAMECHK=NO が IMSCTRL マクロで指定されたため、同じ DDIR のコピーが 2 つ生成され、最初の DDIR には有効な DMB アドレスが入っていますが、2 番目にはゼロばかりの DMB アドレスが入っています。PSB 意図リストでは、最初と 2 番目の DDIR のどちらも指す可能性があります。このエラー・メッセージが出るのは、2 番目の DDIR の無効の DMB アドレスを指している場合です。

システムの処置: エラーが DMB で発生した場合は、その DMB に誤りのマークが付きます。この DMB を使用するプログラムはスケジュールされません。オンライン変更を使用してこの DMB を置き換えない限り、この条件は訂正できません。このエラーが PSB または意図リストで発生した場合は、PSB に誤りのマークが付きますが、DOPT PSB である場合は別で、停止されません。この PSB を使用するプログラムはスケジュールされません。PSB が DOPT PSB である場合は、ACBLIB の PSB を置き換えることで、条件を訂正できます。PSB が DOPT PSB でない場合は、オンライン変更を使用して PSB を置き換える以外の方法では訂正できません。

PSB が DOPT PSB ではなく、検証エラー・コードが 15 の場合には、アクティブおよび非アクティブな ACBLIB の連結両方に同じ ACBLIB データ・セットを指定しない方法でのみ、このエラー状態を修正できません。その結果、ACB オンライン変更は機能しなくなります。

モジュール: DFSXRBL0、DFSDBLD0、DFSDBLI0、DFSDBLP0

DFS652I *job.step.proc*-PARM FIELD OMITTED

説明: すべての IMS 実行ステートメントには PARM フィールドが含まれる必要があります。


システムの処置: 異常終了コード 0652 が出されます。

204 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA20

関連情報:

 IMS 異常終了 0652

DFS0653I PROTECTED CONVERSATION PROCESSING WITH RRS ENABLED

説明: IMS がリソース・リカバリー・サブシステム (RRS/MVS) と共に初期設定され、保護会話作業に参加する準備ができています。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRRSIO

DFS654I *job.step.proc*-PARM FIELD TOO SHORT


説明: EXEC ステートメントで指定されている PARM フィールドの長さが 3 文字より小でした。

システムの処置: 異常終了コード 0654 が出されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0654

DFS655I CTL RGN U780 RC=xxxx DUE TO Syyy Uzxxx WHILE HOLDING A LATCH IN MPP nnnnnnn

説明: IMS ラッチを保留している最中に、異常終了が発生し、これが原因で IMS 制御領域の異常終了を必要とするような重大な障害が起きました。

xxxx 異常終了 0780 の戻りコードを表します。個々の戻りコードの説明については、異常終了 0780 の情報を参照してください。

yyy 従属領域のシステム異常終了の異常終了コードを表します。(異常終了がユーザー異常終了である場合は、システム・コードは S000 で表されます)


zzzz 従属領域のユーザー異常終了の異常終了コードを表します。(異常終了がシステム異常終了である場合は、システム・コードは 0000 で表されます。)

nnnnnnn

終了する従属領域のジョブ名

モジュール: DFSASK00

関連情報:

 IMS 異常終了 0780

DFS656I *job.step.proc*-PROTECT KEY OPTION
INVALID IN PARM FIELD

説明: オンライン制御プログラム (CTL) の EXEC ステートメントで指定されている値が無効でした。有効な値は 0 と 1 のみです。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、IMS START コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSRRA20

DFS0657I IMS *rrr* ABEND *Uaaaa*
MODULE=*mmmmmmmmmm* LABEL=*llllllll*
R14=*xxxxxxx*

説明: GSAM 初期設定プロセスでエラーを検出しました。変数フィールドは、次のように定義されています。

IMS *rrr*

IMS リリース・レベル

Uaaaa IMS 異常終了コード

MODULE=

エラーを検出したモジュール

LABEL=

エラーが検出された固有のラベル。この値は、エラー理由コードに対応しています。IMS 異常終了コードについての情報を参照してください。


R14= (エラーを発見したモジュールへの) BAL 戻りレジスター

システムの処置: プログラムは異常終了し、*aaaa* として識別されている異常終了コードが示されます。

オペレーターの応答: エラーの原因を判別し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSZDI00

関連概念:

 IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

DFS658I *job.step.proc*-PROGRAM NAME
PARAMETER OMITTED FROM
PARM FIELD

説明: プログラム名パラメーターが PARM フィールドから省略されました。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

DFS0659I CTL RGN U780 RC=*xxxx* BECAUSE
CCTL *yyyyyyyy* WAS TERMINATED
WHILE DBCTL THREAD HELD
LATCH

説明: DBCTL スレッドが IMS 回復不能ラッチを保留している最中に、CCTL が終了しました。この問題は、IMS 制御領域の異常終了を必要とする重大な障害の原因でした。


xxxx ラッチ・リカバリーで失敗した試みからの戻りコードを表します。戻りコードの説明については、IMS 異常終了 0780 の情報を参照してください。

yyyyyyyy

終了した CCTL 領域のジョブ名

モジュール: DFSSDA30

関連情報:

 IMS 異常終了 0780


DFS660I *job.step.proc*-PARM FIELD OMITTED
FROM EXEC STATEMENT

説明: すべての IMS 実行ステートメントには、PARM フィールドが含まれる必要があります。


プログラマーの応答: PARM フィールドに関する情報を参照してください。

モジュール: DFSRRA00

関連概念:

 IMS 実行パラメーターの指定 (システム定義)

関連資料:

 IMS プロシーチャーのパラメーターの説明 (システム定義)

DFS0661I CANNOT PROCESS /START REGION
COMMAND: MEMBER=*member_name*
JOB NAME=*job_name* RC=*X'xxxxxxxx'*

説明:

示されているメンバー名およびジョブ名を使用した /START REGION コマンドが、次のいずれかの理由で失敗しました。

- 04 JOB ステートメントが PROCLIB メンバーから欠落しています。
- 08 不完全なステートメントが検出されました。
- 0C IMSID パラメーターを EXEC ステートメントに追加できません。
- 10 パラメーター・フィールドの継続に誤りがあります。

- 14 EXEC ステートメントにパラメーターがありません。
- 18 PROCLIB が開けません。
- 1C データ・セット・レコード・フォーマットが誤りです。
- 20 データ・セット・ブロック・サイズが誤りです。
- 24 PROCLIB メンバーが検出できません。インストリーム・プロシージャが総称 /START REGION コマンドでサポートされていません。
- 28 PROCLIB メンバーの最初のステートメントが JOB ステートメントではありません。
- 2C プロシージャ・ステートメントが無効です。インストリーム・プロシージャが総称 /START REGION コマンドでサポートされていません。
- 30 EXEC ステートメントが欠落しています。

プログラマーの応答: メンバー名およびジョブ名が正しいか検証してください。また、示されているメンバーの JCL ステートメントもチェックしてください。必要な訂正を施し、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSPMBR0

DFS662I *job.step.proc*-FIRST POSITIONAL
PARAM IN PARM FIELD IS
INVALID


説明: PARM フィールドの最初の定位置パラメーターが無効でした。

システムの処置: 異常終了コード 0662 が出されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0662

DFS0663I (Message text varies for DFS0663I,
DFS0664W, and DFS0665E)

説明: DFS0665E の説明を参照してください。

関連情報:

DFS0665E

DFS0664W (Message text varies for DFS0663I,
DFS0664W, and DFS0665E)

説明: DFS0665E の説明を参照してください。

関連情報:

DFS0665E

DFS0665E (Message text varies for DFS0663I,
DFS0664W, and DFS0665E)

説明: 高速機能トレース・ルーチンがメッセージ DFS0663I、DFS0664W、および DFS0665E を出します。問題を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。受信したメッセージ番号とテキストのコピーを保管してください。

モジュール: DBFTRAK0 (DFS0663I)、DBFTRAK0 (DFS0664W および DFS0665E)

DFS0666I AREA xxxxxxxx COULD NOT BE
PROCESSED DUE TO LOCK
FAILURE

説明: xxxxxxxx は、以下のいずれかの理由のため処理できませんでした。

- AREA LOCK が失敗したため、/START、/STOP、/DBR AREA、または /STOP ADS コマンドが処理できませんでした。
- AREA LOCK を保持している別のサブシステムが故障しているため、/STOP または /DBR AREA GLOBAL コマンドがリジェクトされました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

プログラマーの応答: 2 番目の問題の場合は、GLOBAL キーワードではなく、LOCAL キーワードを使用してください。

モジュール: DBFARDA0

DFS667I NON-REENTRANT MODULES HAVE
BEEN PRELOADED

説明: プログラム・モジュール・プリロード機能によって、指定された再入不可プログラム・モジュールが領域/区画にロードされました。

モジュール: DFSPCC20

DFS0668I PROCLIB BLKSIZE NOT MULTIPLE
OF 80.

説明: IMS PROCLIB データ・セット・ブロック・サイズが 80 の倍数以外であることが、IMS 初期設定プロセスによって検出されました。論理レコード長は 80 である必要があります。

システムの処置: モジュールはプリロードされませんでした。初期設定が続行されます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: IMS PROCLIB の LISTCTLG および LISTVTOC を保管してください。

モジュール: DFSRRA00

DFS0669I PROCLIB RECFM NOT 'F' OR 'FB'

説明: IMS PROCLIB データ・セット・レコード・フォーマットが「固定」でも「固定ブロック」でもないことが、IMS 初期設定プロセスによって検出されました。

システムの処置: モジュールはプリロードされませんでした。初期設定が続行されます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。IMS PROCLIB が使用可能であるためには、「F」または「FB」である必要があります。

問題判別: IMS PROCLIB コンソール・ログの LISTCTLG および LISTVTOC を保管してください。

モジュール: DFSRRA00

DFS670I *job.step.proc*-MODULES HAVE BEEN PRELOADED

説明: プログラム・モジュール・プリロード機能により、指定されたプログラム・モジュールが初期設定時に領域/区画にロードされました。

モジュール: DFSPLDR0

DFS671I *job.step.proc* - FOR THIS EXECUTION, DBRC IS SET TO FORCE FORCE | YES | NO

説明: すべてのパラメーター処理の完了後、最終的な DBRC パラメーター設定が FORCE、YES、または NO でした。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRRA70、DFSRRRA80

DFS0671W MEMBER DFSIDEF0 NOT FOUND - REQUIRED FOR INITIALIZATION


説明: IMS 初期設定に必要なメンバー DFSIDEF0 をロードできませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0015 が示されます。

プログラマーの応答: DFSIDEF0 モジュールは、構文チェッカーによって構築されます。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 IMS 異常終了 0015

DFS672I *job.step.proc* - MODULE DFSIDEF0 CONTAINS UNEXPECTED DATA

説明: オプションのデフォルト・モジュール DFSIDEF0 が正常にロードされましたが、内容の検証で予期しないデータが検出されました。

システムの処置: この IMS の実行には、初期デフォルトとして DBRC=YES が設定されます。

プログラマーの応答: DFSIDEF0 が正しくビルドされているかどうかを検証してください。

モジュール: DFSRRA70、DFSRRRA80

DFS0673E EPCB BUFFER REQUEST EXCEEDS POOL SIZE. JOBNAME=*job_name* REQ-SIZE=*X'req_size'*

説明: IMS は EPCB バッファーを取得しようとした。指定された長さが EPCB プール・サイズよりも大きいものでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

job_name

EPCB バッファーに対するストレージ要求を発行した従属領域ジョブの名前

req_size


要求された EPCB バッファーの長さ (16 進数)

システムの処置: 従属領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 次回の IMS 始動時にさらに大きい EPCB プール・サイズを指定するか、または従属領域の EPCB サイズ要件を小さくします。

モジュール: DBFDBPV0

関連情報:

 IMS 異常終了 0709

DFS674I *job.step.proc*-PROCLIB MEMBER CONTAINS BLANK RECORD

説明: IMS 初期設定プロセスは、IMS PROCLIB の指定されたメンバーの読み取り中に、無効なレコードを検出しました。最初の 71 文字がブランクでした。

システムの処置: 仮想取り出し (VF) のためにモジュールはプリロードまたは識別されずに、初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS675I • DFS679I

システム・プログラマーの応答: メッセージで *job.step.proc* によって示されたメンバーをチェックして、それが有効かどうかを確認してください。

モジュール: DFSPLPP0

DFS675I *job.step.proc*-PROCLIB MEMBER DELIMITER NOT FOUND

説明: IMS 初期設定プロセスで、IMS PROCLIB の指定されたメンバーからレコードをスキャン中に、以下のいずれか以外の文字を検出しました。

- ブランク - モジュールのリストを終了するために使用される
- コンマ - モジュール名の間に使用される
- \$#@ - 国別文字
- ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ - 英字
- 0123456789 - 数字

システムの処置: 仮想取り出し (VF) のためにモジュールはプリロードまたは識別されずに、初期設定が続行されます。

モジュール: DFSHLIN0、DFSPLPP0

DFS676I *job.step.proc*-NO MODULES HAVE BEEN PRELOADED

説明: プリロードに指定されたモジュールに適格モジュールがありませんでした。

システムの処置: モジュールはプリロードされませんが、初期設定は続行されます。

オペレーターの応答: ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: プリロード機能が正しく使用されているかどうかを判別するには、システム定義の説明を参照してください。

問題判別: 1、8、36

モジュール: DFSPLDR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS677I PERMANENT I/O ERROR ON JOB/LINK/SVCLIB FOR FOLLOWING MODULES:

説明: モジュール・プリロードが、PDS ディレクトリで STEPLIB、JOB LIB、SYS1.LINKLIB、または SYS1.SVCLIB をスキャンしているとき、入出力エラーを検出しました。このディレクトリでのスキャンの対象になっていたモジュールがこのメッセージの後にリストされています。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0718 が示されます。


オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答: これが永続条件であると決まった場合は、PDS リカバリー手順どおりに行ってください。

問題判別: 1、4、8、36

モジュール: DFSPLPP0

関連情報:

 IMS 異常終了 0718

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS678I BLDL FAILED FOR FOLLOWING MODULES:

説明: リストされているモジュールは、モジュール・プリロードが PDS ディレクトリをスキャンしたとき検出されませんでした: STEPLIB、JOB LIB、SYS1.LINKLIB、または SYS1.SVCLIB

システムの処置: 初期設定が続行されます。モジュールが LINKPACK になかった場合は、806 システム異常終了が生じます。

オペレーターの応答: 806 システム異常終了が発生した場合は、ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに、ストレージ・メモリー・ダンプおよび z/OS コンソール印刷出力を提出してください。

プログラマーの応答: 806 システム異常終了が生じた場合は、PDS を調べて損傷がないかチェックしてください。

問題判別: 1、4、36

モジュール: DFSPLDR0、DFSPLPP0

関連資料:

 z/OS: BLDL の完了コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS679I FOLLOWING MODULES NOT LOADED: *module_names*

説明: モジュール・プリロードは、リストされているモジュールのロードを試みましたが、z/OS に障害が起きたか、IMS モジュール・マネージャー (DFSMODU0) がロード要求をリジェクトしました。それぞれのモジュール名の後に戻りコードが続きます。IMODULE LOAD 戻りコードについての説明は、IMS システム・

サービスの戻りコード情報を参照してください。

十分なストレージが使用不能な場合も、このメッセージが出される可能性があります。

システムの処置: モジュールのいずれかが IMS で必要とされる場合は、異常終了 0718 が後に続きます。モジュールのすべてがオプションの場合は、初期設定が実行されます。

オペレーターの応答: ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: JOB/STEPLIB PDS メンバー属性をチェックしてください。DASD パックにもたらされる可能性のある物理的損傷を避けたい場合は、ロードされなかったモジュールを再度バインドできます。

十分なストレージが使用可能でない場合は、必要に応じて、SQA、CSA、または領域サイズを大きくしてください。

問題判別: 1、4、36

モジュール: DFSPLDR0

関連資料:

➡ IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0718

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS680I USING CHKPT yydddhhmmss

説明: システムが緊急または正常再始動用として、このチェックポイントを選択しました。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

モジュール: DFSRBCP0

DFS681I CHKPT xxx PSB psbname JOB jobname ID userckptid yyy zzzzzz [X'nnnnnnnnnnnnnnnnnn']

説明: IMS バッチまたはバッチ・メッセージ処理 (BMP) ジョブが CHKPT チェックポイント呼び出しを発生しました。バッチ・ジョブの場合は、xxx は DLI、yyy は SER、zzzzzz は出力ログの現行ボリューム通し番号です。BMP の場合は、xxx は BMP、yyy は DDN、zzzzzz は現行出力オンライン・ログ・データ・セット OLDS の DD 名です。

いずれの場合も、メッセージ・テキストの各項目は、次のとおりです。

- *psbname* は、チェックポイント呼び出しを実行した PSB の名前です。
- *userckptid* は、アプリケーション・プログラムによって指定された 8 バイトのチェックポイント ID 値です。
- *nnnnnnnnnnnnnnnnnn* が表示された場合は、チェックポイント ID の 16 進値の EBCDIC 表記です。

このメッセージが出ないように抑止するには、CKPTID= EXEC パラメーターで NOMSG681 をコーディングしてください。また、メッセージ DFS0540I および DFS0542I が出ないように抑止するには、NOMSGS をコーディングしてください。メッセージ DFS681I および DFS542I だけを抑止したい場合は、NO681542 をコーディングしてください。

注: ほとんどの場合、チェックポイント ID は印刷可能汎用文字データで構成されます。チェックポイント ID が印刷可能汎用文字データで構成されている場合は、チェックポイント ID の 16 進値の EBCDIC 表記は表示されません。16 進値の EBCDIC 表記が表示される場合は、再始動目的のためにバイナリーに変換する必要があります。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

モジュール: DFSRDBL0、DFSRBLB0

DFS682I BATCH-MSG PROGRAM pgmname JOB jobname MAY BE RESTARTED FROM CHKPT ID id-value [X'nnnnnnnnnnnnnnnnnn']

説明: 次のいずれかが発生しました。

- IMS がチェックポイント FREEZE コマンドを処理中で、リストされているバッチ・メッセージ処理プログラムが、示されているチェックポイント ID 値を使用して、CHKP 呼び出しを行った。
- 緊急時再始動処理時に、リストされているバッチ・メッセージ処理プログラムがシステム障害発生時点で処理中だった。示されている CHKPT-ID は、出された最後の CHKPT 呼び出しでした。CHKP 呼び出しが出された時点で存在していた状況を反映するために、すべてのデータベースおよびメッセージ・キューが復元されています。

注: このメッセージが緊急時再始動時に出力された場合は、*jobname* と *psbname* は同じです。

- 示されている CHKPT-ID は、リストされているバッチ・メッセージ処理プログラムの異常終了前に出された最後の CHKPT 呼び出しでした。CHKP 呼び出しが出された時点で存在していた状況を反映するために、すべてのデータベースおよびメッセージ・キューが復元されています。

注: ほとんどの場合、チェックポイント ID は印刷可能汎用文字データで構成されます。チェックポイント ID が印刷可能汎用文字データで構成されている場合は、チェックポイント ID の 16 進値の EBCDIC 表記は表示されません。EBCDIC 16 進値 `nnnnnnnnnnnnnnnn` が表示される場合は、再始動目的のためにバイナリー値に変換する必要があります。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・メッセージ処理プログラムがメッセージ・キューからメッセージを読み取り、再始動ルーチンを必要としない場合は、プログラムを通常の方法で開始してください。
- バッチ・メッセージ処理プログラムがキューからメッセージを読み取らないか、再始動ルーチンを必要とする場合は、プログラムをリストされているチェックポイント ID から再始動してください。

問題判別: 4、再始動に使用されているログ・データ・セット、または現行 IMS システム・ログ (再始動が進行中でない場合)。

モジュール: DFSRBLB0、DFSRBOI0、DFSRDBL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS683I *nnnnn* **DFS681I MESSAGES SKIPPED FOR BMP=PSBNAME JOB=JOBNAME**

説明: このメッセージが出されるのは、バッチ/BMP 領域ごとに多数 *nnnnnn* の DFS681I メッセージが省略されたときです。ユーザーは、バッチ/BMP 領域内で毎秒出される DFS681I メッセージの最大数を指定できます。これは、DFSVSMxx メンバー内の

OPTION,ISSUE681= ステートメントで行われます。これらのメッセージの一部が結果として省略されると、DFS683I によって省略された数が示されます。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

オペレーターの応答: 多数の DFS681I メッセージが 1 つの BMP 領域に関してスキップされる場合は、アプリケーションがループしている可能性があります。ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: DFSRDBL0

関連情報:

209 ページの『DFS681I』

DFS684I *job.step.proc*-CTL **PROGRAM NOT EXECUTED, SVC INITIALIZATION FAILED**

説明: IMS タイプ 2 SVC 初期設定が失敗しました。障害の理由として、次のものが考えられます。

- すでに実行中のものと同じ IMSID の IMS 制御領域の 2 番目のコピーを開始する試みがなされた。同じ IMSID を使用した、以前の IMS の実行で IMS の SVC の終了が失敗した場合も、これが起こる可能性があります。
- IMS SDFSRESL が許可されていないか、IMS SVC モジュールが無許可ライブラリーからロードされようとした。
- 領域サイズが小さすぎる。
- 使用可能な CSA が不十分である。

異常終了コード 0684 とメッセージ DFS686W が、このメッセージに伴います。

システムの処置: 異常終了コード 0684 を出した領域は異常終了します。


プログラマーの応答: 次のいずれかを実行してください。

- 重複した IMSID 状態を訂正し、ジョブを再実行する。
- IMS SDFSRESL が許可されていることを確認するか、IMS SVC モジュールが入っている許可ライブラリーを指す DFSRESLB DD ステートメントを組み込む。
- 領域サイズを大きくする。
- 追加 CSA を割り振り、システムの IPL を行う。

追加情報については、異常終了コード 0684 とメッセージ DFS686W を参照してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 異常終了 0684

DFS686W

DFS0685I **WRITE TO INTERNAL READER FAILED: DDNAME=data_set_name MEMBER=member_name JOB NAME=job_name**

説明: 示されているメンバーの内部読み取りプログラムへの書き込みが失敗しました。

プログラマーの応答: 内部読み取りプログラムが出したメッセージがあれば、それをチェックしてください。メンバー、データ・セット、およびジョブ名が正しいか検

証してください。必要な訂正を施し、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSPMBR0

**DFS686W IMS jobname imsid INIT/TERM (nn)
FAILURE RC=xxxxyyzz**

説明: SVC 初期設定または終了の障害が処理中に発生しました。jobname および imsid が IMS システムを識別しています。imsid フィールドが N/A であるのは、imsid がメッセージの発行時に使用不能であった場合です。機能コード nn は、エラー発生時に処理中の SVC 初期設定または終了の機能を示しています。機能コードの値として表示される可能性があるものは、次のとおりです。

コード 機能

- 01 INITSVC、SVC 初期設定
- 02 INITDEP、従属領域初期設定
- 03 予約済み
- 04 TERMSVC、SVC 終了
- 05 TERMDEP、従属領域終了
- 06 予約済み
- 07 INITSCD、IMS SVC ベクトル・テーブルの SCD の初期設定
- 08 KILLSVC、SVC ディレクトリー・エントリーをクリア
- 09 INITBAT、バッチ領域初期設定

戻りコード xxxxyyzz は、障害のタイプおよび障害が発生した場所を示しています。

xxxx ゼロ以外の場合、xxxx は、SVC によって呼び出されたサービスからの戻りコードです。

IMODULE および IMSAUTH の障害については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

yy メッセージを発行したモジュール。

03=DFSVC200

05=DFSVC100

zz 発生した障害のタイプを示す、SVC モジュールからの戻りコード。

DFSVC200 障害に関する yyzz の値は、次のとおりです。

- 301 GETMAIN が DFSVC100 パラメーター・リストに関して失敗しました。
- 302 無効な機能。
- 303 SVC ディレクトリー・ブロックがゼロ、または領域に関するディレクトリー・エントリーが見つかりません。
- 304 呼び出し元の領域タイプが要求では無効です。
- 305 ベクトル・テーブル・アドレスがゼロです。

306 SVC リリースに IMS リリースとの互換性はありません。

307 SVC 番号が SSCD/SCD で無効です。

308 GETMAIN が DCB 作業域に関して失敗しました。

309 SSCD コピーが失敗しました。

30A SVC 番号が、SVC の妥当性検査後、SSCD で変更されました。

30B SCD アドレスがゼロです。

30C RMPL アドレスがゼロです。

30D 許可された機能に対する無許可の呼び出し元。

30E 無効な SCDRGTYP 値。

30F オンライン IMS 呼び出し元がシステム・キー内にありません。

DFSVC100 障害に関する yyzz の値は、次のとおりです。

501 無効な機能。

502 無効の呼び出し元

503 重複 IMSID

505 GETMAIN が SVC ディレクトリー・ブロックに関して失敗しました。

506 GETMAIN が SVC ベクトル・テーブルに関して失敗しました。

507 IMSAUTH BLDSSCT が失敗しました。

508 DLS/LSO テーブルに関する IMODULE LOAD が失敗しました。

509 IMS SVC ルーチンの IMODULE LOAD が失敗しました。

バッチ IMS の場合、このルーチンは DFSAOS70、DFSV4200、DFSV4300、または DFSV4400 のいずれかです。

これらのモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

オンライン IMS の場合、このルーチンは DFSAOS70、DFSASK00、DFSBACK00、DFSICSC0、DFSUICC0、DFSV4100、DFSV4200、DFSV4300、DFSV4400、または DFSVES00 のいずれかです。

これらのモジュールが IMS SDFSRESL データ・セット内にあることを確認してください。

50A DFSAOSF0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

50B DFSISI00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。

50C GETMAIN が SSVT に関して失敗しました。

50D 呼び出し元が無効の SVC 番号を使用しています。

- 50E キー 7 SCD に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 50F IMSAUTH SSCTSCD が失敗しました。
- 510 DFSSTM00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 511 DFSKPXT0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 512 DFSTOPR0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 513 CBT ヘッダーに関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 514 DFSBC000 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 515 DFSCBT10 ブロックの初期設定不能です。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 516 CBTE ブロックの初期設定不能です。
- 517 DFSSPF00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 518 DFSLMGR0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 519 GETMAIN が DFSSTM00 作業域に関して失敗しました。
- 51A SRBC IPAGE の取得不能です。
- 51B 呼び出し元が渡した SSCD ブロック内の SSCD の目印が無効です。
- 51C DFSLRH00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 51D モジュールが IMS リリースと互換性のないレベルでアSEMBルされました。
- 51E バッチ領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペース内の 2 つの IMS イメージが同じ IMS ID を使用しています。
- 51F バッチ領域初期設定が失敗しました。同じ TSO アドレス・スペース内に 2 つの IMS イメージがあります。
- 520 バッチ領域初期設定が失敗しました。同じアド
レス・スペース内の 2 つの IMS イメージが、同じ TCB を使用しています。
- 521 従属領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペースに 2 つの IMS イメージがあり、同じ IMS ID で、一方のイメージは従属領域ではありません。
- 522 従属領域初期設定が失敗しました。2 つの IMS イメージが同じアドレス・スペースにあり、同じ IMS ID で、両方とも従属領域ですが、TCB が異なります。(これは、制御領域が起動するのを待ち、SVC INIT 再試行論理をやり通す従属領域ではありません。)
- 523 従属領域初期設定が失敗しました。同じアドレス・スペースに 2 つの IMS イメージがあり、一方のイメージは制御領域です。
- 524 従属領域初期設定が失敗しました。同じ TSO アドレス・スペース内に 2 つの IMS イメージがあります。
- 525 従属領域初期設定が失敗しました。同じ非 TSO アドレス・スペースに 2 つの IMS イメージがあり、それらは制御領域ではありませんが、同じ TCB です。
- 526 DFSDCFR0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 527 DFSDXES0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 528 DFSDMAW0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 529 キー 7 CFB に関する IMODULE GETMAIN が失敗しました。
- 52A DFSDCF00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 52B DFSRRSB0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 52C モジュール DFSRTMI0 をロードできません。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。
- 52D IMS 用のリソース・クリーンアップ環境を確立できません。
- 52E IMS は、z/Architecture® モードで実行されて

いないマシンで開始されました。IMS を実行するには、z/Architecture モードであることが必要です。

52F IMS は、64 ビット仮想ストレージ・サービスをサポートしない z/OS リリースで開始されました。IMS を実行するには、64 ビット・ストレージ・サービスが必要です。

530 IMODULE サービスの初期設定が失敗しました。失敗についての詳細は、先行する DFS4342E メッセージを参照してください。メッセージ内の *xxxx* は、IMODULE サービス初期設定モジュール DFSMODX0 からの戻りコードです。

531 IMS が、サポートされないプロセッサ・タイプで開始されました。IMS 15 以降では、System z10[®] プロセッサ (マシン・タイプ 2097) 以上が必要です。サポートされるプロセッサの詳しいリストについては、「IMS V15 リリース計画」を参照してください。

532 INITBAT 呼び出しが二重で行われました。バッチ SVC 初期設定で DFSVCI00 が呼び出されましたが、バッチ初期設定が既に行われていました。

533 バッチ SVC 初期設定で DFSVCI00 が呼び出されましたが、領域タイプはそれがバッチ IMS 領域であることを示していませんでした。

534 DFSMDA00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。バッチ IMS の場合は、このモジュールが許可ライブラリー内にあることを確認してください。

システムの処置: SVC 初期設定または終了の処理が終了しました。SVC モジュールは戻りコードを呼び出し元に渡し、呼び出し元は IMS 異常終了を発行する場合があります。

プログラマーの応答: 障害の原因を判別し、問題を訂正してください。IMODULE LOAD に関する IMS バッチ・ジョブの DFSVCI00 エラーの場合、ロードされるモジュールは APF 許可ライブラリーから取得されたものでなければなりません。バッチ・ジョブで DFSRESLB DD ステートメントを使用している場合は、の『Specifying the DFSRESLB DD statement in IMS batch procedures』にリストされているモジュールがすべて DFSRESLB に含まれていること、および DFSRESLB DD 連結内のすべてのデータ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

問題判別: 1、11、36

モジュール: DFSVCI00、DFSVC200

関連資料:

➡ IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ プロセッサ要件 (リリース計画)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS687I DBRC INDICATES DBD=*x* WITHIN PSB=*y* WITH TOKEN=*z* WAS BACKED OUT, RIS HAS BEEN PURGED.

説明: IMS がリカバリー可能な未確定構造 (RIS) を構築しようとしているときに、PSB=*y* 内のデータベース *x* がトークン *z* によって識別されているリカバリー単位の下で変更され、バッチ・バックアウトを通じてバックアウトされたことを、DBRC が IMS に通知しました。オンライン領域は、変更されたデータが未確定状態にあると見なしました。

システムの処置: オンライン・システムは、識別されているデータベースを停止しますが、リカバリー可能な未確定構造をデータのために構築することはありません。

プログラマーの応答: データのバックアウトが意図されていた場合は、/START DB または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを使用すると、データベースが使用可能になります。しかし、データのバックアウトが意図されていなかった場合や、複数の Resource Manager が関わっている場合は、未確定データの解決のために調査する必要があります。

モジュール: DFSDRIS0

DFS688I *job.step.proc*-CANCELED BY OPERATOR. CTL PGM NOT ACTIVE *hh.mm.ss*

説明: 制御領域がアクティブではありませんでした。この状態は、従属領域パラメーター分析によって判別されました。ジョブ・ステップは次の理由で取り消されました。

- 取り消しオプション (OPT=C) が従属領域 EXEC ステートメントで指定された。
- オペレーターがエラー・メッセージ DFS690A に対する応答として、CANCEL または C を入力した。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

214 ページの『DFS690A』

DFS689I *job.step.proc--DBRC/DLS REGION*
CANCELED HH.MM.SS


説明: DBRC と DL/I のいずれかの従属アドレス・スペース領域が、その関連制御領域に正常に接続できませんでした。制御領域が異常終了した可能性が大了。

システムの処置: 示されている領域は異常終了 0689 で終了します。

プログラマーの応答: 異常終了コード 0689 を参照してください。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

 異常終了 0689

DFS690A **CTL xxxx NOT ACTIVE, REPLY**
'WAIT' OR 'CANCEL' - yyyyyyyyyy

または

job.step.proc-CTL PGM NOT ACTIVE, REPLY
'WAIT' OR 'CANCEL' OR 'alt-id'

説明: このメッセージには 2 つの形式があります。データベース制御 (DBCTL) サブシステム環境で、コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムが識別を試みた先の IMS 制御プログラムが、アクティブではありませんでした。非アクティブ IMS 制御プログラムは xxxx で、識別する CCTL は yyyyyyyyyy です。

このメッセージの 2 番目の形式の場合、従属領域が実行を開始したとき、IMS 制御またはデータベース制御 (DBCTL) 領域がアクティブではありませんでした。

システムの処置: WAIT を入力した場合は、従属領域は待ち、CANCEL を入力した場合は、従属領域は終了します。このどちらも指定しなかった場合は、従属領域では応答を、識別を試みる先となる代替制御領域の名前として使用します。

WAIT を入力した場合は、CCTL は、識別を再度試みる前に待ちます。CANCEL を入力した場合は、現行初期設定トランザクションが終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) WAIT と CANCEL のいずれかが該当する場合は、それを応答してください。制御領域がまもなく使用可能になる場合は、WAIT と応答してください。アクティブな代替制御領域 ID があれば、それを使用して応答してください。

従属ジョブ領域に関する JCL で、同じ IMSID および SDFSRESL を IMS 制御領域として指定する必要があります。従属領域 JCL IMSID に誤りがある場合は、正しい制御領域 ID を使用して応答してください。

SDFSRESL に誤りがある場合は、CANCEL と応答し、

214 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

従属領域 JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSRRA00、DFSRA10

DFS691I **WAITING FOR CTL xxxx - yyyyyyyyyy**

説明: データベース制御 (DBCTL) 環境では、IMS がこのメッセージを出すのは、オペレーターが DFS690A メッセージに対する応答として WAIT を入力したときです。コーディネーター制御 (CCTL) サブシステムは、IMS 制御プログラムがアクティブになるのを待っています。非アクティブ・プログラムは xxxx で、識別する CCTL は yyyyyyyyyy です。

システムの処置: CCTL は、DBCTL に対して識別を試みる前に、DRA 始動テーブル DFSPZPxx の TIMER=パラメーターから取った、ユーザー指定の秒数だけ待ちます。

モジュール: DFSRRA00

関連情報:

『DFS690A』

DFS692I *jobname.stepname.proctimestepname* **BUFFER**
CONTROL-BUF=value

説明: ログ・データ・セットをクローズするために、ログ終了プログラムが必要になったとき、バッファ制御値が使用される可能性があります。

モジュール: DFSDLN00

DFS0693I **RIS ESTABLISHED FOR PSB**
xxxxxxx, PRTKN=yyyyyyyyy,
TOKEN=zzzzzzzz, RRS-
URID=wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww

説明:

CCTL-IMS 環境または RRS 保護会話環境のいずれかで、リカバリー可能未確定構造 (RIS) がスレッドに関して確立されています。RRS-URID は、保護会話作業のみのために提供され、RRS リカバリー単位インタレスト・トークンです。参照されている PSB は xxxxxxxx、疑似トークンは yyyyyyyyyy、実際の IMS リカバリー・トークンは zzzzzzzz です。RIS は、再同期プロセスが IMS で実行されるまで維持されます。

モジュール: DFSDRIS0

DFS694I **'CTL' WAS SPECIFIED FOR JOB**
STEP EXECUTION

説明: IMS 制御領域がジョブ JCL を使用して開始されましたが、実行 JCL パラメーターで CTL が指定され

ていました。IMS の初期設定が続行されました。

システムの処置: IMS 制御プログラムは、ジョブ・ステップ・タスクとして作動します。

CTX パラメーターを使用した場合、または IMS 制御領域をシステム・タスクとして開始した場合は、このメッセージを回避できます。

プログラマーの応答: これを行う前に、ご使用のシステムの IMS システム・プログラマーに相談してください。

モジュール: DFSRRA00

**DFS0695I OSAM (OPEN|CLOSE|EOV)
INTERCEPT,ABEND=sss-rc,
DDN=ddddddd**

説明: OSAM が OPEN、CLOSE、または EOV マクロ呼び出しを発行し、異常終了条件のため、DCB 異常終了出口ルーチンに入りました。この異常終了は無視でき、それによって IMS 領域の異常終了を防止できません。要求された機能は実行されず、可能な場合は、データ・セットはクローズされます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss-rc システム完了コード (異常終了)、および異常終了に伴う場合があるサブコード (異常終了の説明については、「z/OS MVS システム・コード」(SA88-8592) を参照してください)。

ddddddd

エラーを検出しているデータ・セットのデータ定義名 (ddname)。

システムの処置: ゼロ以外の戻りコードが OSAM の呼び出し元に渡されます。要求された機能


(OPEN、CLOSE、または EOV) に応じて、呼び出し元は、追加のエラー・メッセージを表示するか、またはエラーを無視して処理を続行することができます。

プログラマーの応答: このメッセージの目的は、無視可能異常終了条件が生じた事実を記録することにあります。異常終了は、例えば、名前変更または削除されたデータ・セットをクローズしている最中は、予測または許可される場合があります。この異常終了が、VTOC を処理中かファイル・マークをデータ・セットに書き込み中の入出力エラーの結果である場合は、データ・セットのタイプ (データベース、IMS システム・データ・セット、またはログ・データ・セット) によって、従うべきリカバリー処理が決まります。

問題判別: 1、2、27

モジュール: DFSAOSF0

関連資料:

 z/OS: システム完了コード

**DFS0696I COMMAND REJECTED, UNABLE TO
GET STORAGE**

説明: コマンド・モジュールがストレージの取得を試みましたが、使用したパラメーターが無効でした。ストレージ・マネージャーがストレージ要求をリジェクトしました。コマンドは処理できません。この問題は内部エラーであり、システム・プログラマーによる処置が必要です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: コマンドが失敗した時点で、ストレージ・マネージャー・トレースがアクティブである場合は、ストレージ要求の失敗に関連したトレース・ログ・レコードを検索してください。

コマンドが失敗した時点でストレージ・マネージャー・トレースがアクティブでなかった場合は、/TRACE SET ON TABLE STRG コマンドを使用してトレースをオンにしてください。コマンドを再入力してください。コマンドが再度失敗した場合は、関連ストレージ・マネージャー・トレース・ログ・レコードで必要な情報を検索してください。

モジュール: DFSICA20、DFSICLI0、DFSICLM0、DFSICL60、DFSICL90、DFSICV40、DFSIC410、DFSIC460

**DFS697I IMODULE FAILED REG15=xx IN
DFSDINB0 FOR EPLOC=yyyyyyyy**

説明: IMODULE LOAD または IMODULE GETMAIN が、データベース制御 (DBCTL) サブシステム初期設定 (DFSDINB0) 中に失敗しました。レジスター 15 に、IMODULE ルーチン (DFSMODU0) からの戻りコードが入ります。戻りコードの意味については、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。フィールド yyyyyyyy は、エラーが発生した DFSDINB0 内ロケーションです。

システムの処置: DBCTL 専用システムの場合、IMS は IMODULE LOAD の障害については異常終了 0718 を発行し、IMODULE GETMAIN の障害については異常終了 0580 を発行します。

オンライン DBCTL システムの場合、オンライン・システムは実行を継続し、IMS はコーディネーター制御 (CCTL) サブシステムに DBCTL 初期設定が失敗したことを知らせます。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに

DFS0698W

連絡して、問題の診断について支援を受けてください。

モジュール: DFSDINB0

関連資料:

➡ IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0580

➡ IMS 異常終了 0718

DFS0698W PROTECTED CONVERSATION PROCESSING NOT ENABLED - RRS IS NOT AVAILABLE

説明: IMS は、z/OS システムの z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) で初期設定を試みましたが、RRS がアクティブではありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 保護会話処理を使用したい場合は、RRS をアクティブにしてください。IMS と RRS は自動的に接続し、再始動を調整して実行します。そこで、保護会話処理が使用可能になります。

モジュール: DFSRRSI0

DFS0698W PROTECTED CONVERSATION PROCESSING NOT ENABLED - UNABLE TO BUILD VECTOR TABLE OF RRMS SERVICES

説明: IMS は、SYSQ.CSSLIB からの RRMS サービスの内部ベクトル・テーブルを作成できませんでした。

システムの処置: 保護会話処理は、この IMS のインスタンスについて使用不可にされ、再始動処理が続行されます。

ユーザーの処置: IMS との保護会話を使用したい場合は、SYSQ.CSSLIB に RRMS サービス・スタブ (CRG、CTX、および ATR モジュール) が含まれていることを確認してください。その後、IMS を再始動します。

モジュール: DFSRRSI0

DFS0698W PROTECTED CONVERSATION PROCESSING NOT ENABLED - UNABLE TO REGISTER AS A RESOURCE MANAGER RC=xxxxxxx

説明: IMS は、Resource Manager として RRMS 登録サービスに登録できませんでした。戻りコード

xxxxxxx は、CRGGRM サービスからです。

システムの処置: 保護会話処理は、この IMS のインスタンスについて使用不可にされ、再始動処理が続行されます。

ユーザーの処置: 保護会話処理を使用したい場合は、IMS を再始動してください。

モジュール: DFSRRSI0

関連資料:

➡ z/OS: Resource_Manager
(CRGGRM、CRG4GRM) の登録

DFS0698W PROTECTED CONVERSATION PROCESSING NOT ENABLED DUE TO ABEND *wxxxx* REASON CODE=*yyyyyyyy* RRS RC=*zzzzzzzz*

説明: IMS が、再始動中または z/OS リソース・リカバリー・サービス との再同期処理中に異常終了しました。

w S (システム異常終了) または U (ユーザー異常終了)

xxxx 異常終了コード。システム異常終了コードは 16 進数で、ユーザー異常終了コードは 10 進数です。

yyyyyyyy 異常終了理由コード (該当する場合)

zzzzzzzz RRS サービスからの戻りコード (該当する場合)

システムの処置: 保護会話処理は、この IMS のインスタンスについて使用不可にされ、再始動処理が続行されます。

ユーザーの処置: 保護会話処理を使用したい場合は、IMS を再始動してください。

モジュール: DFSRRSI0

DFS0698W PROTECTED CONVERSATION PROCESSING NOT ENABLED - NOT SUPPORTED IN LSO=Y ENVIRONMENT

説明: ローカル・ストレージ・オプション環境では z/OS リソース・リカバリー・サービス サポートを提供できません。

システムの処置: 処理は RRS なしで続行されます。

ユーザーの処置: RRS 接続が必要な場合は、LSO=S を指定する必要があります。

モジュール: DFSIRST0

**DFS0698W PROTECTED CONVERSATION
PROCESSING NOT ENABLED -
OPERATOR DECISION**

説明: オペレーターは DFS0548A メッセージに対して CANCEL で応答します。

システムの処置: システムは z/OS リソース・リカバリー・サービス なしで続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRRSIO

関連情報:

167 ページの『DFS0548A』

**DFS0698W PROTECTED CONVERSATION
PROCESSING NOT ENABLED -
PREVIOUS ACTIVE IMS HAS NOT
TERMINATED**

説明: RRS=Y が指定されているため、IMS は z/OS リソース・リカバリー・サービス で出口を設定しようと試みました。この IMS がすでに RRS で出口を設定したことを示す戻りコードが受信されました。これは、以前のアクティブまたは古い XRF アクティブが終了していない場合に起こります。

システムの処置: システムは、重大度を示すためにこのメッセージを強調表示し、他の処理とは非同期で、出口を設定しようと繰り返し試みます。

オペレーターの応答: たとえ手動の処置が必要でも、以前のアクティブが終了していることを確認します。

モジュール: DFSRRSIO

**DFS0698W PROTECTED CONVERSATION
PROCESSING NOT ENABLED -
PREVIOUS RRS SYSTEM HAS NOT
TERMINATED**

説明: IMS は、ATRIBRS (再始動開始) 呼び出しから ATR_RESTART_WRONG_SYSTEM 戻りコードを受信しました。このコードは、IMS が誤ったシステム上で再始動中であることを示しています。これは、IMS が別のシステム上で開始されようとしているか、XRF 代替システムがテークオーバーを行おうとしている事例です。z/OS リソース・リカバリー・サービス は、解決すべき作業が存在する場合、Resource Manager が以前と同じシステム上で再始動されることを必要とします。ただし、以前のシステム上で RRS が非アクティブである場合は除きます。

システムの処置: IMS は RRS なしで処理を続行しますが、RRS を使用した再始動を繰り返し試みます。

オペレーターの応答: たとえ手動の処置が必要でも、以前のアクティブが終了していることを確認します。

モジュール: DFSRRSIO

**DFS0699I RESYNC (COMMIT|ABORT)
COMPLETE FOR PSB xxxxxxxx,
PRTKN=yyyyyyyy, TOKEN=zzzzzzzz,
RRS-
URID=wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww**

説明: フェーズ 2 COMMIT または ABORT プロセスが、疑似トークン yyyyyyyy および PSB xxxxxxxx によって識別されている未確定作業単位 (UOW) に関して完了しました。IMS リカバリー・トークンは zzzzzzzz です。UOW が保護会話の一部であった場合は、z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) リカバリー単位インタレスト・トークン wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww も指定されません。

モジュール: DFSDRID0

**DFS700I INVALID CONTROL CARD
FORMAT. SUBCODE=xxxx**

説明: このメッセージより前に印刷された制御ステートメントにエラーがあります。

システムの処置: 制御ステートメントは無視され、標準的なデフォルトが使用されます。

プログラマーの応答: これはユーザー・エラーです。制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。以下のサブコード xxxx リストを参照して、エラーを判別してください。

コード メッセージのサブコード

0001	制御ステートメントの 10 桁目が無効
0002	SKIP キーワードに値がない
0003	SKIP が 2 回指定されている
0004	SKIP 値が長すぎる
0005	SKIP 値が無効
0006	STOPAFT キーワードに値がない
0007	STOPAFT が 2 回指定されている
0008	STOPAFT 値が範囲外
0009	STOPAFT 右括弧が欠落
0010	STOPAFT コンマが欠落
0011	STOPAFT 値が長すぎる
0012	STOPAFT 値が無効
0013	DDNAME キーワードに値がない
0014	DDNAME が 2 回指定されている
0015	DDNAME 値が長すぎる
0016	DDNOUT キーワードに値がない
0017	DDNOUT が 2 回指定されている
0018	DDNOUT 値が長すぎる

0019 16 桁目に無効のキーワード
0020 未使用
0021 未使用
0022 未使用
0023 D= キーワードに値がない
0024 K= キーワードに値がない
0025 H= キーワードに値がない
0026 O= キーワードに値がない
0027 未使用

モジュール: DFSERA10

第 18 章 DFS メッセージ DFS701I - DFS0750I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS701I INVALID CARD TYPE.

説明: ステートメントの 1 桁目に CONTROL、OPTION、*、または END が入っていません。

システムの処置: ステートメントは印刷され、無視されます。処理は続行されます。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正するか、入力データから除去して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSERA10

DFS702I INVALID OPTION CARD OR PRIOR ERROR. SUBCODE=xxxx

説明: メッセージ・テキストで xxxx によって示される OPTION ステートメントがエラーであるか、以前のエラーが原因でこのステートメントが無視されました。

プログラマーの応答: オプション・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。以下のサブコード・リストを参照して、エラーを判別してください。

xxxx メッセージのサブコード

- 0001 キーワードは 10 桁目が無効
- 0002 オプション・ステートメントに無効のキーワード
- 0003 V= キーワードに値がない
- 0004 VALUE= キーワードに値がない
- 0005 同じオプションに SYM= & VALUE= キーワード
- 0006 VALUE= が 2 回指定されている
- 0007 VALUE= & にシンボル名がない
- 0008 VALUE= &symbol、シンボル名 > 8
- 0009 FLDTYP キーワードに値がない
- 0010 FLDTYP が 2 回指定されている
- 0011 FLDTYP が無効
- 0012 COND= キーワードが 2 回指定されている
- 0013 COND= キーワードに値がない
- 0014 COND=T に Y または N がない
- 0015 COND= のブランクまたはコンマが欠落
- 0016 FLDLEN が COND=T と一緒に使用されている
- 0017 COND= 値が無効
- 0018 FLDLEN キーワードに値がない
- 0019 FLDLEN が 2 回指定されている

- 0020 FLDLEN 値が長すぎる
- 0021 FLDLEN 値が無効
- 0022 FLDLEN 値が範囲外
- 0023 OFFSET= キーワードに値がない
- 0024 OFFSET= が 2 回指定されている
- 0025 OFFSET= 値が長すぎる
- 0026 OFFSET= 値が無効
- 0027 OFFSET= 値が範囲外
- 0028 未使用
- 0029 SYM= キーワードに値がない
- 0030 SYM= 先頭文字が '&' ではない
- 0031 SYM= が 2 回指定されている
- 0032 SYM=& にシンボル名がない
- 0033 SYM=&symbol、シンボル名 > 8
- 0034 STOPAFT= キーワードに値がない
- 0035 STOPAFT= が 2 回指定されている
- 0036 STOPAFT= 値が長すぎる
- 0037 STOPAFT= 値が無効
- 0038 STOPAFT= 値が範囲外
- 0039 STARTAF= キーワードに値がない
- 0040 STARTAF= が 2 回指定されている
- 0041 STARTAF= 値が長すぎる
- 0042 STARTAF= 値が無効
- 0043 STARTAF= 値が範囲外
- 0044 STOPAFT= が COND=E なしで使用されている
- 0045 STARTAF= が COND=E なしで使用されている
- 0046 C= 値が無効
- 0047 EXITR= キーワードに値がない
- 0048 EXITR= が 2 回指定されている
- 0049 EXITR= 値が長すぎる
- 0050 未使用
- 0051 未使用
- 0052 未使用
- 0053 未使用
- 0054 DDNAME= キーワードに値がない
- 0055 DDNAME= が 2 回指定されている
- 0056 DDNAME= 値が長すぎる
- 0057 PRSYS= キーワードに値がない
- 0058 PRSYS= が 2 回指定されている
- 0059 PRSYS= にオプション COPY がない
- 0060 PRSYS= 値が無効
- 0061 H= キーワードに値がない
- 0062 B= キーワードに値がない

- 0063 O= キーワードに値がない
- 0064 L= キーワードに値がない
- 0065 C= キーワードに値がない
- 0066 T= キーワードに値がない
- 0067 E= キーワードに値がない
- 0068 未使用
- 0069 D= キーワードに値がない
- 0070 P= キーワードに値がない
- 0071 PARM パラメーターが複数回指定されている
- 0072 PARM パラメーターが指定されていない
- 0073 PARM リストのフォーマット・エラー (左括弧の欠落)
- 0074 PARM リストのフォーマット・エラー (長さが3より小)
- 0075 PARM リストのフォーマット・エラー (長さが258より大)
- 0076 PARM リストのフォーマット・エラー (右括弧の欠落)
- 0077 FLDLEN または FLDTYP が指定されましたが、VALUE が指定されていません。

モジュール: DFSERA10

DFS703I NORMAL END OF JOB.

説明: プログラムは終了していますが、制御不能エラーはありません。エラー・メッセージは印刷された可能性があります、異常終了条件は起こりませんでした。

プログラマーの応答: すべてのオプションが正常に完了したか検証してください。

モジュール: DFSERA10

DFS704I NO OPTION CARDS SUPPLIED.

説明: このメッセージは、次のいずれかの理由で出されました。

- OPTION ステートメントが省略されました。
- エラーのため、すべてのオプションが無視されました。

システムの処置: テスト・シーケンスが無視されました。

プログラマーの応答: OPTION ステートメントが省略されていた場合は、必要に応じて OPTION カードを組み込んでください。

それ以外の場合は、前に SYSOUT 印刷で指摘されたエラーを訂正してください。

モジュール: DFSERA10

DFS705I UNABLE TO OPEN INPUT FILE.

説明: 最後の制御ステートメントに関連したデータ・セットの OPEN が失敗しました。

システムの処置: エラー・メッセージが印刷され、処理は次の入力ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: JCL が正しか検証し、データ・セットで標準ラベルが使用されていない場合は、DCB パラメーターが指定されているか検証して、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSERA10

DFS706I ELEMENT LIST ERROR.

説明: RC=04 であるは、DFSERA10 が重複シンボルを検出したか、VALUE= オプションで指定されたシンボルが検出されなかった場合です。そのシンボルが入っている VALUE= ステートメントより前で、SYM= ステートメントを指定する必要があります。

システムの処置: 処理は終了し、次のテスト・シーケンスが構成されます。

プログラマーの応答: 以前のエラーが印刷されていた場合は、それらを訂正して、ジョブを再実行してください。

問題判別: エラーが引き続き発生する場合は、2、4、36を参照してください。

モジュール: DFSERA10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS707I END OF FILE ON INPUT.

説明: 入力ファイルが EOF に達しました。現行テスト・シーケンスは終了します。

モジュール: DFSERA10

DFS708I OPTION COMPLETE.

説明: 現行テスト・シーケンスは終了します。

システムの処置: 処理は次のシーケンスに続きます。

モジュール: DFSERA10

DFS709I UNABLE TO OPEN OUTPUT FILE.

説明: 最後の制御ステートメントに関連したデータ・セットの OPEN が失敗しました。

システムの処置: エラー・メッセージが印刷され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: JCL が正しか検証し、データ・セットで標準ラベルが使用されていない場合は、DCB パラメーターが指定されているか検証して、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSERA10

DFS710A UCF TERMINATING DUE TO STOP REQUEST

説明: ユーティリティー制御機能の下で処理中に、システム・オペレーターが「処理の停止」を要求したか、制御機能はその制御ステートメントに EXEC=STOP を含めました。

システムの処置: 処理は停止し、戻りコード 4 が次のステップに渡されます。

プログラマーの応答: 処理がさらに必要な場合は、ユーティリティー制御機能の下での再始動に対応できるように JCL を変更し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、8、11、36。また、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=710 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCF00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS711W VERIFY FAILED FOR *module/database csect/data set* ON REQUEST *nnnn* FOR FUNCTION *ff*

説明: ZAP 機能 (*ff*) の処理中に、データの検査が失敗しました。*module* と *csect*、または *database* と *data set* が識別されています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 入力制御ステートメント・データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、8、11、36。また、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=711 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCF00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0712A *xxxxx* KEYWORD REPEATED-MAY BE SPECIFIED ONLY ONCE

説明: モジュール DFSPIRP0 への制御ステートメントのキーワードが複数回指定されていました。

システムの処置: さらにエラーがないか制御ステートメントがスキャンされ、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントがキーワードを 1 回だけ指定するように訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0713A DATE INVALID

説明: 無効の DATE パラメーターが指定されました。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- 日付が MM/DD の形式ではなかった。ただし、MM は 1 から 12 の範囲の 1 桁または 2 桁の数値であり、DD は 1 から 31 の範囲の 1 桁または 2 桁の数字です。
- 指定された日付 (DD) が、対応する月 (MM) にとっては大きすぎる。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: DFSPIRP0 制御ステートメントの DATE パラメーターを訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0714A *xxxxx* PARAMETER DOES NOT END WITH COMMA OR SPACE

説明: モジュール DFSPIRP0 に対する制御ステートメントのパラメーターがコンマまたはスペースで終わっていませんでした。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0715A STOP TIME SPECIFIED PRECEDES START OF TRACING

説明: モジュール DFSPIRP0 に対する制御ステートメントの DATE オペランドが、PI トレースの開始より前の日付を指定していました。STOP パラメーターに指定された時分 (HHMM) を、指定されている日付と組み合わせると、トレース開始の日付の 00:00:00 より前になります。このメッセージは、制御ステートメント・スキャンが完了した後で出されます。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: DATE オペランドまたは STOP

パラメーターが省略されている制御ステートメントを訂正するか、停止時刻が PI トレースの開始より後になるように、これらのオペランドやパラメーターを指定してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0716A PRINT MUST BE SPECIFIED BEFORE ANY KEYWORDS

説明: モジュール DFSPIRP0 への制御ステートメントで、PRINT 以外のキーワードが最初に指定されました。

システムの処置: さらにエラーがないか制御ステートメントがスキャンされ、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントが PRINT を最初のキーワードとして指定するように訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0717A STOP TIME SPECIFIED PRECEDES START TIME SPECIFIED

説明: STOP パラメーターの方が START パラメーターより時刻が早くなっていました。このメッセージは、制御ステートメント・スキャンが完了した後で出されません。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントが停止時刻を開始時刻より後に指定するように訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0718W BLANK OR NO CONTROL CARD SPECIFIED-IGNORED

説明: SYSIN DD ステートメントが組み込まれましたが、入力データ・セットにブランク行が含まれていたか、またはデータ・セットが空 (レコードなし) でした。

システムの処置: 報告書には、ログ・データ・セットの開始から終了までのレコードが組み込まれます。制御ステートメント処理は迂回されます。

プログラマーの応答: 時間枠が必要な場合は、有効な制御ステートメントを指定してください。制御ステートメントが必要でない場合は、SYSIN DD ステートメントは省略する必要があります。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0719I X'4006' CHECKPOINT RECORD NOT FOUND ON THE INPUT LOG

説明: X'4006' チェックポイント・ログ・レコードは、たとえ PI トレース・ログ・レコードがあっても、それよりも前に処理する必要があります。X'4006' ログ・レコードが検出されなかったため、報告書は生成されませんでした。LOGTAPE DD ステートメントでログ・データ・セットの一部しか指定しなかったときは、X'4006' ログ・レコードが失われる可能性があります。

システムの処置: IMS プログラム分離トレース報告書ユーティリティ DFSPIRP0 は終了します。

プログラマーの応答: すべてのボリュームを正しい順序で組み込んだ、正しい SLDS を LOGTAPE DD ステートメントで指定してください。

問題判別: 3、5、8、36

モジュール: DFSPIRP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0720A xxxxx TIME INVALID

説明: 開始または停止の時刻が、時間については 00 から 99 の範囲の 2 桁の数字で、分数については 00 から 59 の範囲の 2 桁の数字で指定されていませんでした。

システムの処置: さらにエラーがないか制御ステートメントがスキャンされ、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントの開始または停止の時刻を訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0721A INVALID KEYWORD IN DFSPIRP0 CONTROL CARD

説明: モジュール DFSPIRP0 への制御ステートメントに PRINT=、START=、STOP=、または DATE= 以外のオペランドが含まれていました。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0722I NO TRANSACTION HAD TO WAIT FOR AN ENQUEUE DURING THE TIME PERIOD

説明: 時間枠の間、エンキューを待つ必要があったトラ

ンザクションはなく、報告書は生成されませんでした。

システムの処置: プログラムは正常完了に達します。

プログラマーの応答: これは正常な条件である可能性があります。制御ステートメントが組み込まれていた場合は、時間枠が正しかったか確認してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0723A REGION SIZE TOO SMALL FOR PROGRAM DFSPIRP0

説明: プログラム DFSPIRP0 に関して指定された領域サイズの大きさが不足で、共通作業域、入力ログ・バッファ、およびデータ管理ブロック・リストが収まりませんでした。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 領域サイズを大きくし、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSPIRP0

DFS0724A NO TRACE RECORDS ON LOG DATASET FOR THE TIME PERIOD

説明: プログラム分離 (PI) トレース・ログ・レコードが、指定された時間枠の間、ログ・データ・セットで検出されませんでした。この問題が発生した原因は、次のとおりです。

- PI トレースがこの時間枠の間、有効でなかった。
- IMS システムが、この時間枠の間、休止しており、トレースを必要とするアクティビティが生じなかった。
- IMS プログラム分離トレース報告書ユーティリティー用の制御ステートメントで指定された時間枠が、ログ DD ステートメントで指定されたログ・データ・セットに対応する時間枠にオーバーラップしませんでした。

システムの処置: 報告書は生成されず、プログラムは正常に完了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントで指定された時間枠が、指定されているログ・データ・セットに対応するか確認してください。コンソール・レコードをチェックして、時間枠の間、PI トレースがアクティブであったかどうか判別してください。PI トレースがアクティブであった場合は、システムが休止していたか、チェックして確認してください。

問題判別: 3、5、8、36

モジュール: DFSPIRP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0725I INITIATE|UPDATE|TERMINATE OLREORG COMMAND FOR DB dbnamexx COMPLETE. CC= mm

説明: /INITIATE、/UPDATE、または /TERMINATE OLREORG コマンド処理が完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbnamexx

コマンドで入力された HALDB 区画名です。

mm

完了コードです。

ゼロの完了コードは、コマンドは正常に処理されたことを示しています。メッセージ DFS2970I は、OLR 初期設定が完了した後、HALDB OLR が開始されたことを示すために発行されます。ゼロ以外の完了コードは、コマンドの処理中に予期しないエラーが検出されたことを示しています。

完了コード

意味

- | | |
|----|---|
| 0 | REQUEST SUCCESSFUL |
| 10 | RESOURCE NAME INVALID |
| 14 | RESOURCE NOT A PARTITION NAME |
| 1C | RESOURCE IS A PARTITION SECONDARY INDEX |
| 20 | INIT OLREORG ISSUED, OLR IS ALREADY IN PROGRESS |
| 24 | NO OLREORG IS IN PROGRESS |
| 28 | NO DMB LOADED - DB を参照する PSB をスケジュールする必要があります。 |
| AE | DYNAMIC ALLOCATION ERROR |
| C1 | OLREORG DDIR MISSING |
| C3 | OLREORG PARTITION STOPPED、または LOCKED、または DBDUMPED |
| C4 | OLREORG PARTITION BEING RECOVERED |
| C5 | OLREORG PARTITION ACCESS NOT UPDATE/EXCLUSIVE |
| C6 | OLREORG SCHEDULING FAILED - 必要なブロック/PSB の作成に失敗したか、または区画選択に失敗しました。 |
| C7 | OLREORG PARTITION NOT AUTHORIZED - HALDB マスターの状況を確認してください。 |
| C8 | OLREORG MASTER STOPPED、または LOCKED、または DBDUMPED |
| C9 | OLREORG MASTER ACCESS NOT UPDATE または EXCLUSIVE |
| CA | OLREORG SET OWNERSHIP FAILED |
| CB | PARTITION NOT IN SPECIFIED STATUS |
| CC | OLR は、すでに区画用にアクティブです。 |

CE EEQE が存在するので、HALDB OLR は区画内のすべてのデータにはアクセスできません。

DA DATABASE BEING RECALLED FROM HSM

システムの処置: IMS は処理を続行します。

問題判別: 6、11

モジュール: DFSORC10、DFSORP50

関連情報:

698 ページの『DFS2970I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0726A CONTROL CARD ERROR-
PROCESSING TERMINATED**

説明: モジュール DFSPIRP0 への制御ステートメントに、前のメッセージで示されていたエラーが 1 つ以上含まれているか、またはデータが入力されたのが、制御ステートメントの 71 桁目を超えました。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSPIRP0

**DFS0727A DATE/TIME SPECIFIED NOT
WITHIN 12 DAYS OF DATE PI
TRACE STARTED**

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- PI トレースが開始された日付よりも 13 日以上前または後の日付を、DATE オペランドで指定しました。
- START オペランドと DATE オペランドを組み合わせると、開始時刻が PI トレースの開始日付から 12 日を超える結果になりました。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントが有効な日付または開始時刻を指定するように訂正してください。

モジュール: DFSPIRP0

**DFS0728W DATE SPECIFIED PRECEDES DATE
TRACING STARTED**

説明: 指定された日付が、PI トレースの開始日付よりも前でした。IMS が 2 日以上にわたってアクティブであった場合、PI トレースは、IMS が開始された最初の日より後に開始された可能性があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 指定された日付が意図どおりであったかどうか判別してください。

モジュール: DFSPIRP0

**DFS0729I UNABLE TO OBTAIN WORK AREA
FOR DL/I OPEN/CLOSE
PROCESSING**

説明: DL/I データベースのオープンまたはクローズを試みているとき、OPEN/CLOSE 処理に必要な作業域用の主記憶域スペースが使用不可であることが検出されました。

システムの処置: DL/I 呼び出しの処理は終了し、状況コード AI が PCB で戻されます。さらに、IMODULE ルーチンからのエラー・コードが PSTRTCDE に保管されます。

プログラマーの応答: このステップのアドレス・スペースを広くして、作業域が得られるようにしてください。

問題判別: 1、2、3、17b、36

モジュール: DFSDLOC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0730I UNABLE TO OPEN OR CLOSE
DATASET WITH DDNAME *ddname*
FOR REASON *x, yy, z* DATABASE
*dbdname programid***

説明: IMS がデータベースの OPEN または CLOSE を試みている最中に、エラーが発生しました。*ddname* は、エラーが発生したデータ・セットの DD ステートメント名です。*x, yy* は、メジャー理由コードおよびマイナー理由コードを表します。データ・セット *ddname* は、DBD *dbdname* の一部です。IMS がデータベースの OPEN を試みている最中にエラーが発生した場合、*programid* がメッセージ内に含まれます。スケジューラー・メッセージ・ブロック (SMB) が存在するときは、*programid* はトランザクション・コード (TRN) を表します。SMB が存在していないときは、*programid* は PSB 名を表します。

以下の情報には、さまざまなメジャーおよびマイナー理由コードに関する説明、プログラマー応答、および問題判別コードが示してあります。

コード

説明

A,yy

OSAM データ・セットを開こうとしました。

OSAM OPEN ルーチンがエラー表示を戻しました。*yy* は、レジスター 15 で戻された 16 進エラー・コードです。

コード (16 進数)

- 意味
- 00 これは正常な状態です。
- 04 DCB はすでに開かれているか、クローズされています。
- 08 DCB はすでに開いています。
- 0C DECBTYPE は無効です。
- 10 IMS SVC で障害が発生しました。DCBWRK1 が理由を示します。
- 14 OSAM OPEN ルーチンがファイル・マークのスキャン、フォーマット設定、またはファイル・マークの書き込みを行っている最中に、入出力エラーが発生しました。追加情報については、DECBSTAT を参照してください。
- 18 無効の RBN が計算されました。RBN は、ゼロであるか、データ・セットの最大 RBN より大であるか、いずれかです。
- 1C データ・セットに関する TCLOSE 処理中に、エラーが発生しました。DCBWRK1 が理由を示します。
- 20 IMODULE を使用してストレージを獲得している最中に、エラーが発生しました。
- 24 データ・セットに関する EOVS 処理中に、エラーが発生しました。
- 28 OSAMOP IOSCB=NO が制御ステートメント・データ・セットで指定されました。この値により、BATCH 初期設定が OSAM 入出力ブロックの割り振りを迂回し、OSAM アクセス方式の使用を回避することになりました。

z は、モジュール DFSAOSF0 によってフィールド名 DCBWRK1 の最終バイト (バイトナンバー 4) で戻される、16 進エラー・サブコードです。メッセージのこのサブフィールドが使用されるのは、理由コード A,10 が含まれるメッセージのみです。

z 値 (16 進数)

- 意味
- 01 DD ステートメントが欠落しているか、動的割り振りデータ・セットの場合は、まだデータ・セットが割り振られていません。
- 02 データ・セットは連結データ・セットです。
- 03 DASD データ・セットに対して、ボリューム数よりも少ない装置数が指定されました。
- 04 JCL が指定した DSORG タイプが、OSAM で許可されていません。
- 05 データ・セットの DSCB が見つかりませんでした。

- 06 最初のボリューム DSCB が指定した DSORG タイプが、OSAM で許可されていません。
- 07 DCB ブロック・サイズが、ジョブ・ファイル制御ブロック/DCB マージ後の DSCB ブロック・サイズに等しくありません。
- 08 DCB LRECL サイズが、ジョブ・ファイル制御ブロックまたはデータ制御ブロック (DCB) マージ後の DSCB LRECL サイズと等しくありません。
- 09 LRECL サイズもブロック・サイズも DSCB、DCB、または JCL で指定されていませんでした。
- 0A 指定されたブロック・サイズが LRECL より小です。
- 0B 指定されたブロック・サイズが、指定された装置のトラック・サイズを超えています。
- 0C 以前の OPEN または EOVS が失敗しました。
- 0D VIO が OSAM でサポートされていません。データ・セットは VIO 装置に割り振られています。
- 0E 磁気テープ装置はサポートされていません。データ・セットは磁気テープ装置に割り振られています。
- 0F 内部エラーが OSAM DEB サブルーチンで発生しました。DCBWRK1 がエラー・コードを示します。
- 01 ブロック・サイズがトラック・サイズより大きくなっています。
- 02 DEB 長さが許容最大長より大きくなっています。エクステントが多すぎます。この状態は、同じジョブまたは異なるジョブによって以前に発行された DFS0842I メッセージ REASON=5 の結果である可能性があります。
- 10 IEFDDSRV は、機能の実行に失敗しました。
- 11 割り振られる装置の数が矛盾しています。
- 12 ジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) の再読み取りが失敗しました。
- 13 ユーザー記述域 (UDA) SSI インターフェース・エラー。
- 14 DCM は既に DD ダミーとしてオープンされています。
- 15 これは OSAM オープン呼び出しではありません。

- 16 DCB は既に MVS によってオープンされています。
- 17 無効なパラメーター。
- 18 ジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) の読み取りエラー。
- 19 異常終了を伴わない、オープン障害。
- 1A OSAM データ・セットの最初のボリュームにおける DSCB 取得エラー。
- 1B OSAM データ・セットの全ボリュームに及ぶ拡張の構成エラー。OSAMDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になります。
- 1C OSAM 入出力ルーチンの位置指定またはロードのエラー。
- 1D キャプチャーされた UCB の解放エラー。
- 1E 現行のボリューム DSCB TTR からディスク・アドレス MCCHHR への誤変換。
- 99 DCB 異常終了出口に入りました。メッセージ DFS0695I も表示されます。エラーの説明については、そのメッセージを参照してください。

プログラマー応答: 示されているメジャーおよびマイナー理由コードを使用して、JCL エラーを訂正してください。

B,40

カップリング・ファシリティ (CF) 環境エラーが発生しました。

プログラマー応答: IMS DFSERA10 ユーティリティを使用し、IMS ログから X'67FD' レコードを選択して、エラーを正確に判別してください。このレコードには、理由コード RSNC=xxxxxxx を持つ REQUEST=IXLCCACHE マクロが含まれます。数値ストリング xxxxxxxx の最後の 4 桁が、真のエラー・コードです。例えば、理由コードが RSNC=0C170C19 である場合は、理由コード 0C19 を検索してください。理由コードの説明は、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」を参照してください。

B,yy

DL/I OPEN/CLOSE が、バッファリング・サービスの DL/I バッファ・ハンドラーを呼び出しました。バッファ・ハンドラーがエラー標識を戻しました。yy は、バッファ・ハンドラーによって PSTRTICDE で戻された 16 進値です。

プログラマー応答: バッファ・ハンドラーの戻りコードについては、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

C,yy

エラーが VSAM CLOSE によって検出されました。yy は、VSAM ACB からの 16 進エラー・フィールドです。

プログラマー応答: VSAM CLOSE エラー・コードの説明を参照してください。

E,yy

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM ERASE マクロを発行し、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。物理 (入出力) エラーが発生した場合は、エラーの種別を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出され、yy は、VSAM によってレジスター 15 で戻される 16 進値です。それ以外の場合、yy は、VSAM によって戻される 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラーおよび物理エラーの戻りコードの説明を参照してください。

G,yy

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM GET マクロを発行し、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。物理 (入出力) エラーが発生した場合は、エラーの種別を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出され、yy は、VSAM によってレジスター 15 で戻される 16 進値です。それ以外の場合、yy は、VSAM によって戻される 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラーおよび物理エラーの戻りコードの説明を参照してください。

I,01

DBD からの相対キー位置が、VSAM に対して定義された相対キー位置と同じではありません。

プログラマー応答: VSAM に対して指定された相対キー位置を訂正してください。VSAM に関して定義される正しい相対キー位置は、DBD 生成からの出力リストで指定されます。

I,02

DBD からのキー長さが、VSAM に対して定義されたキー長さと同じではありません。

プログラマー応答: VSAM に対して指定されたキー長さを訂正してください。VSAM に関して定義される正しいキー長さは、DBD 生成からの出力リストで指定されます。

I,03

オープンの対象になるデータ・セット用の OSAM データベース区画に関するレコード・サイズまたは

ブロック・サイズの大きさが不十分であり、データベース内の最長セグメントに必要な IMS オーバーヘッドを加えた長さが収まりません。

プログラマー応答: VSAM に対して指定されたレコード・サイズを訂正してください。OSAM データベース区画の場合は、ブロック・サイズを訂正してください。VSAM に関して定義する正しいレコード・サイズは、DBD 生成からの出力リストで指定されます。

I,04

オープンの対象になっている HD VSAM ESDS のレコード・サイズが、CI サイズよりも 7 バイト小さいとして VSAM に定義されていませんでした。HD VSAM ESDS データ・セットのレコード・サイズは、CI サイズよりも 7 バイト小さくする必要があります。

プログラマー応答: VSAM データ・セットを再定義して、レコード・サイズが CI サイズよりも 7 バイト小さくなるようにしてください。

I,05

ロードのためにオープンの対象になっている HS VSAM KSDS または ESDS のレコード・サイズが 2 の倍数ではありません。VSAM HS データ・セットのレコード・サイズは偶数である必要があります。

プログラマー応答: VSAM に対して指定されたレコード・サイズを訂正してください。

I,06

HSAM VSAM データ・セットのオープン時に、ブロック・サイズが LRECL よりも小さいことが検出されました。ブロック・サイズは LRECL 以上である必要があります。

プログラマー応答: VSAM に対して指定されたブロック・サイズを訂正してください。

I,07

HS VSAM データベースが、KSDS レコード・サイズより短い ESDS レコード・サイズで定義されています。

プログラマー応答: VSAM 定義を変更して、ESDS レコード・サイズが KSDS レコード・サイズ以上になるようにしてください。

I,08

DD ステートメントがない VSAM データ・セットをオープンする試みがなされました。または、動的割り振りデータ・セットの場合、まだデータ・セットが割り振られていません。オープンされたデータ・セットに関連した DD 名が、メッセージに示されています。

プログラマー応答: ジョブの JCL および DBD をチェックして、DD ステートメント要件を判別してください。

システム・オペレーターの応答: UPDATE DB START(ACCESS) または /START DB コマンドを使用して、割り振り再試行を行います。

I,09

VSAM または OSAM DCB をオープンする試みがなされ、DD 名はすでにオープン・テーブルにありました。これは、データ・セットが現在 1 つのデータ管理ブロックの下でオープンされており、そのデータ・セットを別のデータ管理ブロックの下でもオープンしようとしたことを示しています。その原因は、同じ DD 名を参照する DBD が 2 つ存在することにあります。2 つの DBD が同一 DD 名を参照することはできません。

プログラマー応答: 同じ DD 名を参照している 2 つの DBD を検出し、一方を削除してください。新しい DBD を参照するように PSB を変更してから、PSB 生成ユーティリティーを実行してください。

I,10

VSAM ACB をオープンする試みがなされ、DD 名はすでにオープン・テーブルにありました。これは、データ・セットが現在 1 つのデータ管理ブロックの下でオープンされており、そのデータ・セットを別のデータ管理ブロックの下でもオープンしようとしたことを示しています。その原因は、同じ DD 名を参照する DBD が 2 つ存在することにあります。2 つの DBD が同一 DD 名を参照することはできません。

プログラマー応答: 同じ DD 名を参照している 2 つの DBD を検出し、一方を除去してください。新しい DBD を参照するように PSB を変更してから、PSB 生成ユーティリティーを実行してください。

I,11

ISAM DCB または ISAM DCB に関連した OSAM DCB をオープンする試みがなされました。IMS は、ISAM が含まれている組み合わせをサポートしません。

このコードは、HSAM データベースのロード処理時にも発行される場合があります。これは、現行の DCB で DCBE が欠落しているからです。

プログラマー応答: HISAM、または HIDAM 構造の索引データベースを、サポートされている VSAM 編成に変換してください。

I,12

指定されている VSAM 共用リソース・プールにある VSAM ACB をオープンする試みがなされました。十分な大きさのサブプールが共用リソース・プールにありませんでした。IMS は、デフォルトの VSAM 共用リソース・プールを使用して VSAM ACB を再度オープンしようとしてしました。

プログラマー応答: このデータ・セット用の VSAM 共用リソース・プールがないか、VSRBF サブプール定義ステートメントを調べてください。このデータ・セットおよび KSDS 索引用として十分な大きさのサブプール・バッファ・サイズを定義してください。

I,13

システムは、追加の DD 名オープン・テーブルに関する GETMAIN 要求に応じられませんでした。このエラーは、DCB のオープン中に発生しました。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,14

システムは、追加の DD 名オープン・テーブルに関する GETMAIN 要求に応じられませんでした。このエラーは、ACB のオープン中に発生しました。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,15

HSAM または OSAM データ・セットの OPEN 処理中に、エラーが検出されました。IMS がデータベースについての DBRC 許可を取得しようとした時点では、データ・セットは割り振られていませんでした。エラーの詳しい説明については、戻りコード I,16 を参照してください。

プログラマー応答: データ・セットの動的割り振りに誤りがあるか、割り振りプログラムまたはプロダクトに互換性がない場合は、/DBR コマンドを使用して、データベースを割り振り解除してください。動的割り振り指定、またはプログラムやプロダクトを訂正してから、データベースに対して UPDATE DB START(ACCESS) または /START を入力してください。

I,16

VSAM データ・セットの OPEN 処理中に、エラーが検出されました。IMS がデータベースについての DBRC 許可を取得しようとした時点では、データ・セットは割り振られていませんでした。後で、デー

タ・セットがオープンされた時点で、割り振られませんでした。これは次のいずれかの理由で起こる可能性があります。

- データ・セットに関する動的割り振り指定に誤りがある。データ・セットに関する DFSMDA TYPE=DATASET ステートメントが、異なるデータベースに関する DFSMDA TYPE=DATABASE ステートメント内に組み込まれていました。例えば、HIDAM データベースの索引に関する DFSMDA TYPE=DATASET ステートメントが、HIDAM データベースに関する DFSMDA TYPE=DATABASE ステートメント内に組み込まれます。
- データ・セットに関する動的割り振り指定に誤りがある。先行するメッセージ DFS2499W に、データベースに関する割り振り要求が無効であることが示されています。例えば、データベースに関する MDA メンバーで 2 つのデータ・セットを指定します。JCL には、データ・セットの一方に関する DD ステートメントは組み込まれますが、データ・セットのすべてが MDA メンバーに組み込まれるわけではありません。
- 互換性のない割り振りプログラムまたはプロダクトによって割り振りが実行され、データベースの割り振りは、データベースに関する許可の後ではあったが、データベースのオープンの前に行われた。

プログラマー応答: エラーの原因が、データ・セットの動的割り振りの誤りにあった場合は、次のようにします。

1. /DBR コマンドを入力して、データベースを割り振りを解除する。
2. 動的割り振り指定を訂正する。
3. データベースに対して UPDATE DB START(ACCESS) または /START を入力する。

エラーの原因が、割り振りプログラムまたはプロダクトの非互換性にあった場合は、次のようにします。

1. /DBR コマンドを入力して、データベースを割り振りを解除する。
2. プログラムまたはプロダクトを訂正する。
3. データベースに対して UPDATE DB START(ACCESS) または /START を入力する。

I,20

順次モードのためにオープンの対象になっている KSDS のレコード・サイズに関する GETMAIN 要求に、システムが応じられません。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,21

HSAM データベースのブロック・サイズに関する GETMAIN 要求に、システムが応じられません。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,22

ロード処理のためにオープンの対象になっている ESDS データ・セットの最初の CI を書き込むために使用する制御インターバル・サイズに関する GETMAIN 要求に、システムが応じられません。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,23

オープンの対象になっている ESDS のレコード・サイズに関する GETMAIN 要求に、システムが応じられません。このエリアは、データ・セットに関する終了 RBA が CA 境界上にないとき、現行 CA をフォーマット設定する場合に使用されます。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,25

一時作業バッファとして使用される KSDS のレコード・サイズに関する GETMAIN 要求に、システムが応じられません。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,26

データベースに含まれるすべてのデータ・セットの DD 名を入れるためのエリアに関する GETMAIN 要求に、システムが応じられません。DD 名のリストを作成するための一時作業域は、DBRC に登録されるデータベースの更新のためのオープン処理時に必要になります。

プログラマー応答: このステップに見合うようにアドレス・スペースを大きくして指定してください。

I,30

処理オプション L がある PCB に関連した VSAM データ・セットをオープンする試みがなされ、そのデータ・セットが空ではありません。

プログラマー応答: 古いデータ・セットをスクラッチする場合は、VSAM AMS プログラムを使用して削除してください。データ・セットをスクラッチしない場合は、処理オプションが L 以外の PCB を使用してください。

I, 31

処理オプションが L 以外の PCB に関連した VSAM データ・セットをオープンする試みがなされ、そのデータ・セットが空でした。

プログラマー応答: 処理オプションが L の PCB を使用して、データベースの初期ロードを実行してください。JCL を開発するときは、次の手順を使用してください。

1. KSDS データ・セットの削除または定義を行います。
2. 間接リスト項目 (ILE) および基本索引データ・セットの再ビルドを行う、DFSPRECO ジョブを実行します。

注: 2 の途中でジョブを取り消した場合は、ジョブ全体を 1 から再実行してください。2 から再開しないでください。

I,32

VSAM KSDS データ・セットのオープンを試みている最中に、索引 VSI にデータ VSI を加えた全長に、IMS NCB のサイズを加えると、10 進数 255 (長さフィールドを含む) より大きくなることが判別されました。この値は、通知中にメッセージ領域の長さとして IRLM に渡されますが、IRLM に制限があるため、10 進数 256 (長さフィールドを含む) より小である必要があります。

プログラマー応答: キー範囲に関するクラスター定義をチェックしてください。それぞれのキー範囲ごとに、索引 VSI のサイズが 10 進 32 バイトずつ大きくなります。IMS は、VSAM キー範囲を使用したりサポートしたりしません。

I,33

DL/I オープン処理で、共用アクセスはデータ・セットに関しては許容されていますが、アクセス方式サービス DEFINE で指定された SHR オプションは、データ共用には適切でないことが判別されました。メッセージ DFS050A が出されました。障害の詳しい説明については、メッセージ DFS050A を参照してください。

プログラマー応答: メッセージ DFS050A を参照してください。

I,34

VSAM KSDS データ・セットのオープンを試みているとき、索引コンポーネントとデータ・コンポーネントのどちらかが開きませんでした。

プログラマー応答: オープンの対象になっている DD ステートメントに関して指定されたデータ・セット名が、クラスターの各コンポーネントの 1 つ

のデータ・セット名ではなく、VSAM クラスタに関するデータ・セット名であるか検証してください。

I,35

データベースの更新のためのオープン処理中に、データベースに含まれているデータ・セットのすべてが DBRC に登録されるわけではないことが判別されました。メッセージ DFS0484A が出され、登録されないデータ・セットのリストが表示されていました。

プログラマー応答: メッセージ DFS0484A を参照してください。

I,36

VSAM KSDS データ・セットのオープンを試みている最中に、KSDS は IMS がサポートしない EXTENDED ADDRESSABILITY 属性を備えた SMS データ・セットであると判別されました。データ・セットが JCL で DD DUMMY として定義されている場合は、拡張アドレス可能度に関するテストを完了することができず、それが原因で、このサブコードが示されます。

プログラマー応答: データ・セットは、IMS で使用するデータ・セットでは許されない EXTENDED ADDRESSABILITY を指定したデータ・クラスを使用して割り振られました。データ・セットは、EXTENDED ADDRESSABILITY を指定しないデータ・クラスを使用して割り振る必要があります。

DD DUMMY の場合は、必要に応じてデータ・セット名を訂正するか除去してからジョブを再実行し、拡張アドレス可能度の検査を進めてください。

I,37

VSAM ESDS データ・セットのオープンを試みている最中に、ESDS は IMS がサポートしない EXTENDED ADDRESSABILITY 属性を備えた SMS データ・セットであると判別されました。データ・セットが JCL で DD DUMMY として定義されている場合は、拡張アドレス可能度に関するテストを完了することができず、それが原因で、このサブコードが示されます。

プログラマー応答: データ・セットは、IMS で使用するデータ・セットでは許されない EXTENDED ADDRESSABILITY を指定したデータ・クラスを使用して割り振られました。データ・セットは、EXTENDED ADDRESSABILITY を指定しないデータ・クラスを使用して割り振る必要があります。

DD DUMMY の場合は、必要に応じてデータ・セット名を訂正するか除去してからジョブを再実行し、拡張アドレス可能度の検査を進めてください。

I,50

次のいずれかのエラーが発生しました。

- 十分な大きさのバッファがある VSAM バッファ・サブプールがないため、オープンの対象になっているデータ・セットに関連した制御インターバルが取りません。
- DFSVSAMP DD ステートメントが欠落しています。
- 十分な大きさのバッファがある OSAM バッファ・プールがないため、関連ブロックが取りません。

プログラマー応答: ステップを再実行してください。ただし、今回は、制御インターバル・ブロックを入れられる十分な大きさのバッファ・サブプールを指定してください。

I,51

IMS は、ESDS 内の最後に使用されたレコードの RBA を、そのデータ・セットの最初の CI に保存します。DL/I OPEN 時に、この RBA がデータ・セットの最後の CI に入らなかったことが検出されました。

I,52

ランダム化ルーチン、副次索引データベース保守出口ルーチン、またはセグメント編集/圧縮出口ルーチンのロードまたは削除の最中に、IMS の IMODULE 機能が失敗しました。

プログラマー応答: メッセージ DFS0733I が発行され、障害の原因が示されました。メッセージ DFS0733I を参照してください。

I,53

HSAM データ・セットがオープンしませんでした。

プログラマー応答: 障害を起こす可能性のある理由については、DL/I 状況コード情報の項の AI 状況コードの説明を参照してください。

I,54

HSAM データ・セットがオープンしませんでした。

プログラマー応答: 障害を起こす可能性のある理由については、DL/I 状況コード情報の項の AI 状況コードの説明を参照してください。

問題判別のために、問題のボリュームの VTOC リストを保管してください。

I,55

以前に VERIFY 中に失敗したデータ・セットを、オープンする試みがなされました。データ・セットはオープンまたはクローズできませんでした。

I,56

HSAM データベースを OPEN する試みがなされました。データ・セットに関する DCB BLKSIZE は、JCL でもボリューム上のラベルでも示されていませんでした。したがって、結果的にブロック・サイズはゼロになります。

プログラマー応答: ジョブに関する JCL が正しく、データベースがロードされているか確認してください。

問題判別のために、問題のボリュームの VTOC リストを保管してください。

I,57,Z

VSAM のオープンおよび検査が HISAM または非固有副次索引 ESDS データ・セットに関して行われた後で、拡張エラー・キュー・エレメント・ブロック (EEQE) が存在していたため、データ・セットの終わりが調整されました。VSAM SVC 109 が VSAM に通知するために出されたので、VSAM が VSI 情報を調整できました。SVC がレジスター 15 でゼロ以外の戻りコードを戻しました。メッセージの中のサブコード Z は、レジスター 15 で戻された 16 進エラー・サブコードです。

コード

説明

I,58

初期設定エラーがセグメント編集/圧縮出口ルーチンによって検出されました。

プログラマー応答: メッセージ DFS0749I が発行され、障害の原因が示されました。メッセージ DFS0749I を参照してください。

コード

説明

I,60

VSAM データ・セットにある CI サイズが DL/I でサポートされている最大 CI サイズである 30720 を超えています。

プログラマー応答: 30720 以下の CI サイズを使用して、AMS 定義を再実行してください。

I,61

VSAM または OSAM データ・セットのオープンを試みているとき、ロックが獲得できませんでした。

問題を判別するには、異常終了 3303 を参照してください。

I,62

間接リスト・データ・セット (ILDS) 内の相対キー位置がゼロではありません。

プログラマー応答: 間接リスト・データ・セット (ILDS) に関する VSAM クラスター定義で、相対キー位置を ZERO として定義してください。

I,63

間接リスト・データ・セット (ILDS) 内のレコード長が正しくありません。

プログラマー応答: 間接リスト・データ・セット (ILDS) に関する VSAM クラスター定義で、レコード長を 50 として定義してください。

I,64

間接リスト・データ・セット (ILDS) 内のキーの長さが正しくありません。

プログラマー応答: 間接リスト・データ・セット (ILDS) に関する VSAM クラスター定義で、キーの長さを 9 として定義してください。

I,65

データ・セット内の区画 ID が、オープンの対象となっている区画 ID と一致しません。

プログラマー応答: データ・セットの名前を訂正して、区画 ID と一致するようにしてください。

I,66

データベースが区分に変更されてから、PSB の ACBGEN が実行されていません。

プログラマー応答: 適切な ACBGEN を実行してください。STATUSAI がアプリケーションに戻されます。これを使用して、アプリケーションで使用している PSB、およびその PSB が生成されている ACB を検索してください。また、ジョブの JCL をのぞいて、どの ACB ライブラリーに対して実行中かを判別できます。

I,67

ESDS データベースのデータ・クラスター上で、フリー・スペースが定義されています。ESDS データベースにはフリー・スペースは定義できません。

プログラマー応答: データ・クラスター定義からフリー・スペースを除去してください。

I,68

VSAM 出力データ・セットの最初の CI のフォーマット設定時に、OLR の初期処理中にエラーが検出されました。

プログラマー応答: 出力データ・セットをスクラッチおよび再割り振りしてください。

I,70

PSB 生成時に PCB の SENSEG ステートメントの INDICES パラメーターに無効な索引が定義されています。

プログラマー応答: 該当の PCB の SENSEG ステートメントの INDICES パラメーターに指定された INDEX 名を訂正します。

I,71

OSAM データ・セットのクローズ処理中に、エラーが検出されました。入出力エラーが検出されました。メッセージ内のサブコード *z* は、モジュール DFSAOSF0 によってフィールド名 DCBWRK1 の最終バイト (バイトナンバー 4) で戻される、16 進エラー・サブコードです。

Z 値(16 進数)

意味

- 01 ボリューム・エクステンツのクローズ処理中に、エラーが発生しました。OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 です。
- 02 OSAM データ拡張ブロック (DEB) から MVS DEB への変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 です。
- 03 DCB は既にクローズ中です。
- 04 DEB/DCB 検証チェックが失敗しました。
- 05 ボリューム・エクステンツのクローズ処理中に、エラーが発生しました。OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 です。
- 06 OSAM データ拡張ブロック (DEB) から MVS DEB への変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 です。
- 07 DCB 拡張域の解放エラー。
- 99 DCB 異常終了出口に入りました。メッセージ DFS0695I も表示されます。エラーの説明については、そのメッセージを参照してください。

プログラマー応答: 入出力エラーの前に出されたメッセージを確認してください (DFS0762I および DFS0451I である可能性が高い)。障害を修正します。

I,71

OSAM データ・セットのクローズ処理中に、エラーが検出されました。入出力エラーが検出されました。

プログラマー応答: 入出力エラーの前に出されたメッセージを確認してください (DFS0762I および DFS0451I である可能性が高い)。障害を修正します。

0,yy

VSAM OPEN がエラーを検出しました。*yy* は、VSAM ACB からの 16 進エラー・フィールドです。

プログラマー応答: *yy* が DC であり、データベースが VSAM KSDS として編成されている場合は、LISTCAT コマンドを実行して、VSAM カタログから報告書を取得してください。インストール・バッファ・プールが DFSVSAMP データ・セットでバッチ・ジョブ用に、または DFSVSMxx メンバーでオンライン・システム用に定義されている索引コンポーネント・データ・セットの CISIZE を検討します。インストールで指定された CI が少なくとも LISTCAT からの CISIZE と同じ大きさであるか検証してください。

VSAM OPEN エラー・コードの説明を参照してください。

P,yy

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM PUT マクロを発行し、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。物理 (入出力) エラーが発生した場合は、エラーの種別を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出され、*yy* は、VSAM によってレジスター 15 で戻される 16 進値です。それ以外の場合、*yy* は、VSAM によって戻される 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラーおよび物理エラーの戻りコードの説明を参照してください。

R,01

データベース *dbdname* が開けませんでした。その理由は、ご使用のシステムのセキュリティ製品が IMS に対して、必要なレベルで *ddname* の VSAM データ・セットにアクセスすることを許可しなかったからです。特定の原因またはエラーについては、*dbdname* および *ddname* に関するメッセージ DFS0735I-R01 で説明されています。

プログラマーの応答: 問題判別については、メッセージ DFS0735I を参照してください。

R,02

データベース *dbdname* をオープンできませんでした。IMS が *ddname* 用のデータ・セット・アソシエーション・ブロック (DSAB) にアクセスできなかったからです。特定の原因またはエラーについては、*dbdname* および *ddname* に関するメッセージ DFS0735I-R02 で説明されています。

プログラマーの応答: 問題判別については、メッセージ DFS0735I を参照してください。

R,03

データベース *dbdname* がオープンできませんでした。DFP カタログ管理機能が VSAM データ・セットに関するカタログにアクセスしていて、エラーを検出したからです。特定の原因またはエラーについては、*dbdname* および *ddname* に関するメッセージ DFS0735I-R03 で説明されています。

プログラマーの応答: 問題判別については、メッセージ DFS0735I を参照してください。

S,yy

DL/I OPEN/CLOSE は、VSAM SHOWCB マクロを発行し、ゼロ以外の、エラー条件を示す戻りコードを戻されました。*yy* は VSAM によってレジスター 0 で戻され、エラーの種別を示す 16 進値です。

プログラマー応答: VSAM 論理エラーおよび物理エラーの戻りコードの説明を参照してください。

V,yy

DL/I OPEN/CLOSE が VSAM VERIFY マクロを発行し、VSAM から戻されたエラー条件を検出しました。物理 (入出力) エラーが発生した場合は、エラーの種別を示すメッセージ DFS0731I または DFS0451I が出され、*yy* は、VSAM によってレジスター 15 で戻される 16 進値です。それ以外の場合、*yy* は、VSAM によって戻される 16 進論理エラー・コードです。

プログラマー応答: VSAM 論理エラーおよび物理エラーの戻りコードの説明を参照してください。

システムの処置: IMS がエラー・メッセージを出します。

DL/I 呼び出しの処理は終了し、状況コード AI が PCB で戻されます。さらに、メッセージの *ddname* は、セグメント名に保管されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡して、支援を受けてください。

問題判別: 1、3、8、17b、17d、18、20、36

モジュール: DFSDLOC0

関連概念:

➡ IMS バッファ・プール (システム定義)

関連資料:

➡ IMS 戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

➡ DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

➡ z/OS: RPLERRCD 理由コード

➡ z/OS: CLOSE の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

34 ページの『DFS050A』

137 ページの『DFS0451I』

145 ページの『DFS0484A』

215 ページの『DFS0695I』

234 ページの『DFS0733I』

234 ページの『DFS0735I』

241 ページの『DFS0749I』

245 ページの『DFS0762I』

➡ IMS 異常終了 3303

➡ AI (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0731I (VSAM メッセージ・バイト 26 から始まる VSAM 物理エラー・メッセージ。)

説明: VSAM オープンまたはクローズを実行している最中に、物理入出力エラーが発生しました。この障害の詳細を説明するために、メッセージ DFS0730I が出されています。

システムの処置: メッセージ DFS0730I を参照してください。

プログラマーの応答: VSAM 物理エラー・メッセージについては、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。必要であれば、IMS リカバリー・ユーティリティを使用して、データベースをリカバリーしてください。

問題判別: 1、17b、18、20、23

モジュール: DFSDLOC0

関連資料:

➡ z/OS: 理由コード (物理エラー)

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0732I WARNING MULTIPLE VSAM ACBS
OPEN FOR DATASET WITH DD
CARD xxxxxxxx

説明: VSAM オープン・マクロからの戻りコードで、オープンが完了したことが示されましたが、示されているデータ・セットに関しては、オープンしている ACB

がすでに 1 つ以上ありました。VSAM DEFINE ユーティリティの SHR オプションを使用すると、ユーザーは、データ・セットが共用できる範囲を制御できるようになります。DEFINE によって、現行データ・セットが共用できるようになっています。

システムの処置: IMS システムはエラーを無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答: IMS データベースは、複数のバッチ領域またはバッチおよびオンライン領域で決して共用しないでください。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSDLOC0

DFS0733I IMODULE ERROR *xx* {LOADING | DELETING} {RANDOMIZING | INDEX EXIT | COMPRESSION EXIT} MODULE *moduname*

または

IMODULE ERROR *xx* {LOADING | DELETING} {RANDOMIZING | INDEX EXIT | COMPRESSION EXIT} MODULE *moduname* FOR DATABASE *dedbname*

または

IMODULE ERROR *xx* {LOADING | DELETING} {RANDOMIZING | INDEX EXIT | COMPRESSION EXIT | SPARSE EXIT | PARTITION EXIT} MODULE *moduname* FOR DATABASE *dedbname*

説明: IMS の IMODULE 機能は、以下のいずれかの出口ルーチンのロードまたは削除を試みたときにエラーを検出しました。

- ランダム化ルーチン
- 副次索引出口ルーチン
- 編集出口ルーチンまたは圧縮出口ルーチン
- 高速副次索引を持つ DEDB データベースに関する、スパース出口ルーチンまたは区画出口ルーチン

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx IMODULE からの 16 進戻りコード。

moduname

出口ルーチンの名前

IMODULE 戻りコードの説明は、「IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)」を参照。

高速機能データベース圧縮出口ロード・エラーの場合、または高速機能副次索引スパース出口または区画出口ロ

ード・エラーの場合、DEDB データベース名 (*dedbname*) がメッセージ・テキストに表示されます。この場合、付随するメッセージ DFS0730I はありません。


システムの処置: メッセージ DFS0730I 理由コード I,52 が出されます。出口ルーチンをロードする試みが失敗した場合は、データベース (メッセージ DFS0730I に指定された) は停止します。メッセージ DFS0730I に関するシステムの処置の説明を参照してください。

プログラマーの応答: エラーを起こさずにアクセスできるライブラリーにあるモジュールを指定してください。

問題判別: 1、2、3、17b、36

モジュール: DFSDLOC0、DBFMSIU0、DBFOLC02、DFSDOCA0

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0734I UNABLE TO MERGE LOG DATASETS

説明: ログ・マージ・ユーティリティ DFSLTMG0 への入力ログ・データ・セットの 1 つに入出力エラーがありました。

システムの処置: プログラムは終了し、10 進戻りコード 12 が示されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: オペレーティング・システム・メッセージを参照してください。

モジュール: DFSLTMG0

DFS0735I SAF ACCESS FAILED-*Rnn*
dbdname-ddname RETURN CODE=*nnnn*.
REASON CODE=*nnnn*. *module-name*.

説明: VSAM またはメディア・マネージャー・データ・セットに関するアクセス許可プロセスがエラーを検出して、失敗しました。*Rnn* が、この障害の IMS 理由コードです。*dbdname-ddname* は、チェックされるデータ・セットの DBD またはメディア・マネージャー・エリア名および DD 名です。RC=*nnnn* REASON CODE=*nnnn* は、この障害に関連した戻りコードと理由コードです。*module-name* は、失敗したモジュールの名前です。

理由コードは、発生した障害のタイプを示しています。

コード (*nnn*)

意味

- R01** データベース *dbdname* をオープンできませんでした。その理由は、IMS が、必要なレベルでの *dbdname-ddname* 用データ・セットへのアクセスを許可されなかったからです。
- R02** データベース *dbdname* をオープンできませんでした。IMS が *ddname* 用のデータ・セット・アソシエーション・ブロック (DSAB) へのアクセスを許可されなかったからです。*ddname* を使用して発行された z/OS マクロ GETDSAB からのエラー戻りコードを参照してください。
- R03** データベース *dbdname* がオープンできませんでした。DFP カタログ管理機能がデータ・セットに関するカタログにアクセスしていて、エラーを検出したからです。エラーを検出したカタログ管理モジュールが *module-name* です。

システムの処置: データ・セットが開きません。

プログラマーの応答: 応答は、理由コードに応じて異なります。

理由コード **R01** の場合:

セキュリティー・プロダクト・メッセージだけでなく、戻りコードおよび理由コードもチェックしてください。

理由コード **R02** の場合:

GETDSAB マクロの戻りコードおよび理由コードに関する文書を「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」(SA22-7610) で確認してください。

理由コード **R03** の場合

カタログ管理メッセージ IDC3009I に関する戻りコードおよび理由コードについての文書を、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻」(SA88-8602) で確認してください。

問題判別:

理由コード **R01** の場合:

IDC3009I メッセージおよびセキュリティー・プロダクト文書を参照してください。

理由コード **R02** の場合:

GETDSAB の文書を参照してください。


理由コード **R03** の場合:

IDC3009I メッセージを参照してください。

モジュール: DFSDRAC0

関連資料:

 z/OS: IDC3009I

 z/OS: GETDSAB の戻りコードおよび理由コード

DFS736 PARM SYNCPLEX INVALID ON NRE COMMAND

説明: /NRE コマンドで、パラメーター SYNCPLEX を指定して、キーワード OPTION が入力されました。この組み合わせは無効です。SYNCPLEX パラメーターは、/ERE コマンドでのみ有効です。

システムの処置: /NRE コマンドはリジェクトされません。

プログラマーの応答: /NRE コマンドから OPTION SYNCPLEX を除去してください。

モジュール: DFSICL20

DFS0737A DBRC SHOWS NO AVAILABLE OLDS. REPLY 'RETRY' OR 'ABEND'.

説明: テークオーバー時または緊急時再始動時に、IMS が使用可能な OLDS への切り替えを試みたとき、最後の OLDS に WADS データと最終的なアカウントング・レコード用の十分なスペースがありませんでした。DBRC が使用可能 OLDS のいずれも使用可能ではないと判別すると、このメッセージが出されます。

システムの処置: このメッセージを出した後で、IMS は「ABEND」以外に応答がないかどうか、OLDS 可用性スキャンを再試行します。

プログラマーの応答: RECON データ・セットから該当する PRIOLDS レコードのリストを入手してください。使用不可としてリストされている OLDS があれば、それをすべて使用可能にするように試み、特に、アーカイブする必要がある OLDS があれば、それをすべてアーカイブしてください。IMS に対し、OLDS 可用性が変更されたときは必ずこの切り替えを再試行するよう指示できます。問題が訂正できない場合は、ABEND と応答した上で、OLDS を増やして、緊急時再始動を試みてください。

モジュール: DFSFDLN0

DFS0738I tt...tt DDNAME=ddddddd LOGSEQ=nnnnnnnn

説明: エラーが発生し、IMS の再始動中に OLDS が終了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

DFS0738X

dddddddd

エラーが検出された時点で処理中であったデータ・セットの DD 名。dddddddd は、ブランクでかまいません。

nnnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnnn は、ブランクでかまいません。

tt...tt 理由ストリング。以下のいずれかのストリングになります。

OPEN ERROR FOR IMS LOG

データ・セットを開けませんでした。

READ ERROR ON IMS LOG

読み取りエラー

LOG SEQ ERROR ON IMS LOG

次の順次ブロックまたはログ・レコードが検出されませんでした。

MISSING BLOCK ON IMS LOG

次の順次ログ物理ブロックは検出されませんでしたでしたが、それよりもシーケンスが上位のログ物理ブロックが検出されました。

TRKCALC FAILED FOR IMS LOG

TRKCALC マクロが失敗しました。

LOGIC ERROR

論理エラーが検出されました。

LOG TERMINATION FAILED FOR IMS

LOG ログは適切に終了できませんでした。

VERIFY ERROR FOR IMS LOG

WADS は、OLDS が使用されたときに使用されたものではありませんでした。

MISSING RECORDS IN WADS

WADS レコードのシーケンスは、あるべき数よりも少ないレコード数でした。

システムの処置: 問題が生じたデータ・セットに対して二重特性が指定されていた (例えば、二重 WADS または二重 OLDS) 場合は、IMS を続行できます。それ以外の場合、IMS はメッセージ DFS0738X を発行し、異常終了 0005 で終了します。

プログラマーの応答: ログ・リカバリー・ユーティリティーを使用して OLDS を終了してから、IMS を再始動してください。

問題判別: 1、5、8、11、36

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール: DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLP0、DFSFDLR0、DFSFDLT0

関連情報:

236 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

『DFS0738X』

IMS 異常終了 0005

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0738X ERROR TERMINATING OLDS RC=xx
dddddddd nnnnnnnn

説明: IMS の再始動時に、OLDS を終了しようとしてエラーが起きたので、再始動を進めることができません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dddddddd

エラーが検出された時点で処理中であったデータ・セットの DD 名。dddddddd は、ブランクでかまいません。

nnnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnnn は、ブランクでかまいません。

xx 16 進エラー・コード。レジスター 14 に、エラーを検出したルーチンのアドレスが入っています。レジスター 15 にエラー・コードが入っています。

コード (16 進数)

意味

- 01 最後に使用された WADS を見つけようとしていて、WADS が開けませんでした。
- 02 WADS は、OLDS が使用されたときに使用されたものではありませんでした。
- 05 WADS は、OLDS が使用されたときに使用されたものではありませんでした。
- 06 最後の IMS 障害時の WADS が使用不可でした。最後に使用された WADS を見つけようとしていたとき、エラーが発生しました。
- 07 最後に使用された WADS を見つけようとしていたとき、TRKCALC マクロが失敗しました。
- 09 OLDS ブロックの再構築中の OLDS ブロック・シーケンス・エラー (次の順次ブロックは検出されませんでしたでしたが、それよりもシーケンスが上位のブロックが WADS 内で検出されました)。OLDS の中段で読み取りエラーが発生した可能性があります。

- 0B OLDS ブロックの再構築時に、WADS セグメント TOD が昇順ではありません。
- 0C 再構築 OLDS ブロックで無効の BDW が検出されました。
- 0D 再構築 OLDS ブロックで無効の RDW が検出されました。
- 0E X'FFXX' という RDW が再構築 OLDS ブロックで検出されましたが、これは WADS の最後のブロックではありませんでした。
- 0F 再構築 OLDS ブロックでログ・レコード・シーケンス・エラーが検出されました。
- 10 OLDS ブロックの再構築時の WADS での読み取りエラー
- 11 OLDS ブロックを再構築している最中に、WADS で EOF が検出されました。
- 12 OLDS を再構築している最中に、無効のセグメント ID (セグメント・カウントが大きすぎる) が検出されました。
- 13 OLDS ブロックを再構築している最中に、装置エラー (セグメントが連続する WADS レコードに書き込まれなかった) が検出されました。
- WADS レコードのシーケンスは、あるべき数よりも少ないレコード数でした。
- 14 論理エラーがモジュール DFSFDLW0 で検出されました。
- 1C OLDS 終了プロセスが失敗しました。エラーの原因を示すメッセージ DFS0738I が、このメッセージよりも前に出されている可能性があります。
- 20 再使用可能 OLDS が使用不可です。WADS から OLDS をコピーしているとき、IMS が OLDS を検出できませんでした。すべての OLDS にエラーか未アーカイブか、どちらかのマークが付けられています。
- 21 現行 OLDS 上のスペースが不十分で、WADS データがすべては収まらない上、OPEN または再使用可能 OLDS が使用不能です。
- 22 論理エラーがモジュール DFSFDLU0 で検出されました。

システムの処置: IMS は異常終了 0005 で終了します。

プログラマーの応答: ログ・リカバリー・ユーティリティ

ィーを使用して OLDS を終了してから、IMS を再始動してください。

問題判別: 1、5、8、11、36

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール:

DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLP0、DFSFDLR0

関連情報:

235 ページの『DFS0738I』

➡ IMS 異常終了 0005

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0739I tt...tt DDNAME=ddddddd
LOGSEQ=nnnnnnnn

説明: IMS 再始動時にログ・データ・セットにアクセスしている最中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

エラーが検出された時点で最後に処理されたデータ・セットの DD 名。ddddddd は、空白でかまいません。

nnnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。nnnnnnnn は、空白でかまいません。

tt..tt エラーの理由を示すストリング。この変数は、以下のいずれかのストリングです。

OPEN ERROR FOR IMS LOG

データ・セットを開けませんでした。

CLOSE ERROR FOR IMS LOG

データ・セットを適切に閉じられませんでした。

READ ERROR ON IMS LOG

読み取りエラー

WRITE ERROR ON IMS LOG

WADS のフォーマット設定中に、書き込みエラーが発生しました。

LOG SEQ ERROR ON IMS LOG

次の順次ブロックまたはログ・レコードが検出されませんでした。

MISSING BLOCK ON IMS LOG

次の順次ログ物理ブロックは検出されませんでした。それよりもシーケンスが上位のログ物理ブロックが検出されました。

TRKCALC FAILED FOR IMS LOG

TRKCALC マクロが失敗しました。

LOGIC ERROR

論理エラーが検出されました。

UNABLE TO ALLOCATE IMS LOG

動的割り振りが失敗したか、DD ステートメントが欠落しているか、または OPEN が失敗しました。

SEQUENCE ERROR - BOTH OLDS

重複ロギングで、読み取りエラーが両方の OLDS で発生しました。

READ ERROR - BOTH OLDS

重複ロギングで、読み取りエラーが両方の OLDS で発生しました。

XRF-ALT OR FDR GOT AN SLDS

XRF 複合システムで、代替 (バックアップ) システムが SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。

高速データベース・リカバリー環境で、高速データベース・リカバリー領域が SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。

WAITING FOR RESERVE - OLDS

XRF 複合システムで、テークオーバーが要求されましたが、代替システムが現行 OLDS を予約できません。

WAITING FOR RESERVE - WADS

XRF 複合システムで、テークオーバーが要求されましたが、代替システムが現行 WADS を予約できません。

DFSFDLVO RRTT TABLE ERROR

読み取り遷移テーブル再始動エラーが検出されました。

REREAD LAST GOOD BLK FAIL

通常のエラー・リカバリー中に、最後の正常な OLDS ブロックを再読み取りする試みが失敗しました。

システムの処置: IMS は処理を続ける (代替入力ログ・データ・セットが使用可能な場合) か、または DFS0739X を出し、異常終了 0175 で終了します。

XRF 複合システム内で、IMS 代替システムがエラーを検出し、そのエラーからのリカバリーが不可能でした。IMS はメッセージ DFS0739X を出し、異常終了 0176 で終了します。

高速データベース・リカバリー環境では、IMS システムはメッセージ DFS0739X を発行し、異常終了 0176 で終了します。

オペレーターの応答: このエラーが高速データベース・リカバリー領域の初期設定時に発生した場合は、アクティブ IMS システム内で単純チェックポイントを取り、

必ず OLDS 内に再始動可能なチェックポイントがあるのを確認してから、高速データベース・リカバリー領域を再始動してください。

問題判別: 1、5、8、11、35

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール: DFSFDLR0、DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLP0、DFSFDLT0

関連情報:

『DFS0739X』

➡ IMS 異常終了 0175

➡ IMS 異常終了 0176

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0739X ERROR READING IMS LOG RC=xx
ddddddd nnnnnnn

説明: エラーが検出されたため、再始動は進められません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

エラーが検出された時点で処理中であったデータ・セットの DD 名。*ddddddd* は、ブランクでかまいません。

nnnnnnn

最後に処理されたログ・シーケンス番号。*nnnnnnn* は、ブランクでかまいません。

xx 16 進エラー・コード。レジスター 14 に、エラーを検出したルーチンのアドレスが入っています。レジスター 15 にエラー・コードが入っています。

コード (16 進数)

意味

- 15 データ・セットを開けませんでした。
- 16 データ・セットを適切に閉じられませんでした。
- 17 読み取りエラー
- 18 最後の正常なブロックの再読み取りが失敗しました。
- 19 OLDS ブロック・シーケンス・エラー
- 1A 次の順次ログ・レコードが検出されませんでした。
- 1B TRKCALC マクロが失敗しました。
- 1C 最新の OLDS が終了できませんでした。
- 1D ログ・データ・セットの割り振りが失

敗しました。動的割り振りが失敗したか、DD ステートメントが欠落しているか、または OPEN が失敗しました。レジスター 15 の左半分に DFSMDA 戻りコードが入っています。

- 1E 次のログ・データ・セットのレコードが RECON データ・セットに検出されなかったか、次の OLDS に無効のマークが付けられています。
- 1F 最新のログ・データ・セットのレコードが RECON データ・セットに検出されなかったか、次の OLDS に無効のマークが付けられています。
- 20 再使用可能 OLDS が使用不可です。
- 21 DBRC からのエラー戻りコード。レジスター 15 の左半分に DBRC 戻りコードが入っています。
- 22 論理エラーが検出されました。
- 23 読み取り遷移テーブル再始動が失敗しました。
- 24 両方の OLDS (重複ロギング) でシーケンス・エラーが発生しました。
- 25 両方の OLDS (重複ロギング) で読み取りエラーが発生しました。
- 26 XRF 複合システムで、代替システムが SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。高速データベース・リカバリー環境で、高速データベース・リカバリー領域が SLDS を割り振ったか、次に割り振られるログが SLDS であると判別したか、いずれかです。

システムの処置: IMS は異常終了 0175 で終了します。XRF 複合システム内で、IMS 代替システムは異常終了 0176 で終了します。

高速データベース・リカバリー環境では、高速データベース・リカバリー領域が異常終了 0176 で終了します。

オペレーターの応答: このエラーが高速データベース・リカバリー領域初期設定時に発生した場合は、アクティブ・システム内で単純チェックポイントを取り、高速データベース・リカバリー領域を再始動する前に、再始動可能チェックポイントが OLDS にあるか確認してください。

問題判別: 1、5、8、11、35

OLDS および WADS データ・セットのコピーを保管してください。また、DBRC RECON データ・セットもリストしてください。

モジュール:

DFSFDLM0、DFSFDLN0、DFSFDLP0、DFSFDLR0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0175

➡ IMS 異常終了 0176

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0740I DBRC SAYS NO BACKOUTS NEEDED FOR DB xxxxxxxx

説明: NOBACKOUT キーワードを指定せずに /START DB コマンドを発行すると、DBRC が IMS にバックアウトが不要であると通知する可能性があります。しかし、IMS オンライン・システム側は、まだバックアウトが必要であると見なしている場合があります。この状態が生じるのは、バッチ・バックアウトがすでに正常に実行されているときです。

システムの処置: IMS は処理を続行します。バックアウト・データをトラッキングするために、オンライン IMS システムによって維持されている制御ブロックは、オペレーターが NOBACKOUT を指定した場合と同様に解放されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSDBDR0

DFS0741I DATA COMPRESSION ERROR, UNCOMPRESSED DATA WILL BE WRITTEN TO DD DFSUCUMN DATASET

説明: 変更累積処理中にデータ圧縮処理を実行している最中に、エラーが検出されました。

システムの処置: 処理は続行されます。拡張データは新しい変更累積データ・セットに書き込まれます。

モジュール: DFSURIO0

DFS0742I WHILE EXPANDING DATA ERROR FOUND

説明: 変更累積処理またはデータベース・リカバリー処理中にデータ展開処理を実行している最中に、エラーが検出されました。

システムの処置: 処理は終了し、変更累積に関しては戻りコード 8 が、データベース・リカバリーに関しては戻りコード 16 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ出力およびジョブ入力を保管してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSURIO

DFS0743I RRS HOLDS AN INDOUBT UOR FOR WHICH IMS HAS NO DATA: URID=xxxxxxxx, TOKEN=yyyyyyyyyy

説明: IMS 再始動時に、RRS が、IMS に既知でない一部の未確定リカバリー単位 (UOR) を保持していました。おそらく IMS コールド・スタートの結果として、この状態になりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxxx

RRS リカバリー単位 ID。

yyyyyyyyyy

IMS リカバリー・トークン

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: RRS URID と IMS リカバリー・トークンが提供されます。RRS ISPF パネルおよび IMS ログを使用して、可能なバッチ・リカバリーの範囲を判別してください。

モジュール: DFSRRSIO

DFS0744A IMS HOLDS AN INDOUBT UOR FOR WHICH RRS HAS NO DATA: URID=xxxxxxxx, TOKEN=yyyyyyyyyy

説明: IMS は再始動時に、IMS リカバリー・トークンおよび RRS リカバリー単位 ID によって識別されるように、未確定リカバリー単位 (UOR) を保持していることを判別しました。しかし、z/OS リソース・リカバリー・サービス は、固定されたログ・データが使用不可であることを示しました。未確定 UOR の解決には、このデータが必要でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxxx

RRS URID

yyyyyyyyyy

IMS リカバリー・トークン

システムの処置: IMS は、未確定 UOR ごとにリカバリー可能な未確定構造 (RIS) を構築し、/CHA UOR コマンドによる解決を待ちます。UOR が解決されるか、またはコールド・スタートが行われるまで、RIS は維持されます。コールド・スタートは推奨できません。

ユーザーの処置: /CHA コマンドを発行して、未確定 UOR を解決してください。

モジュール: DFSDRISO

DFS0745E RRS HOLDS AN aaaaaaaa UOR FOR IMS STATE: bbbbbbbb, URID=xxxxxxxx TOKEN=yyyyyyyyyy

説明: IMS またはリソース・リカバリー・サービス (RRS) でのエラーのため、リカバリー単位 (UOR) について、IMS で最後に記録された状態と RRS で最後に記録された状態に互換性がありません。以下の表に、このメッセージを引き起こす可能性がある、互換性のない UOR 状態を示します。

表 5. 起こり得る互換性のない UOR 状態

RRS の状態	IMS の状態
INDOUBT	INFLIGHT
INDOUBT	PHASE 2
INCOMMIT	INFLIGHT

モジュール DFSRRSIO は、IMS と RRS の間で UOR 同期を実行し、UOR の非互換状態が検出された場合にこの DFS0745E メッセージを出します。UOR 同期ロード・パスは、IMS と RRS が相互に通信を確認または再確立する必要があるときは常に駆動されます。

IMS 緊急時再始動 (/ERE) 時に IMS が UOR の非互換状態を検出した場合、IMS は緊急時再始動処理を続行します。未解決の UOR がある場合、このメッセージに示されている情報を使用して手動で解決できることがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaa

RRS の観点からのリカバリー単位 (UOR) の状態。値は、INCOMMIT または INDOUBT です。

bbbbbbb

IMS の観点からのリカバリー単位 (UOR) の状態。値は、INFLIGHT または PHASE 2 です。

xxxxxxxx

RRS リカバリー単位 ID (URID)。

yyyyyyyyyy

IMS リカバリー・トークン。

システムの処置: 処理を続行します。

出力宛先: MTO およびシステム・コンソール。

ユーザーの処置: メッセージに示されている RRS URID および IMS リカバリー・トークンを使用して RRS ISPF パネルを調べてください。また、IMS DISPLAY UOR コマンドを使用して UOR の状態および考えられる処置を判別してください。

- | 問題が続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、RRS トレース、IMS ログ、および RRS ISPF パネル出力を提示してください。
- | モジュール: DFSRRSIO

**DFS0746I UOR IS ONE OF MULTIPLE UORS
IN A SINGLE IMS COMMIT SCOPE
- ALL UORS IN THIS SCOPE WILL
BE RESOLVED**

説明: /CHA コマンドで識別されているリカバリー単位 (UOR) は、複数の IMS UOR がかわる保護会話の一部でした。UOR によって行われたデータベース変更は、前の UOR に依存している可能性があるため、変更は単一同期点で、しかも、処置がバックアウトの場合は、適正な順序で、解決される必要があります。

システムの処置: 同期点のフェーズ 2 は、かかわっているすべての UOR に関して行われます。処理は続行する

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIRSTO

**DFS0747I CHANGE ACCUM DATASET IS
MARKED INCOMPLETE**

説明: IMS データベース・リカバリー・ユーティリティーは、入力された変更累積 (CA) データ・セットが不完全であることを検出しました。データベース・データ・セットのリカバリーに必要なログ・データ・セット変更がすべて含まれているわけではありません。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティーが処理を終了します。

プログラマーの応答: 必要なログ入力を提供する変更累積ユーティリティーを実行してから、あらためてデータベース・リカバリー・ユーティリティーを実行してください。

モジュール: DFSURDBO

**DFS0748I UNEXPECTED CHANGE ACCUM
RECORD ENCOUNTERED - xxxxxxxx**

説明: 変更累積 (CA) データ・セットを読み取るユーティリティーが、入力 CA データ・セットが欠落しているか、または不完全であることを検出しました。明細レコードまたは予備レコードに関するすべてのデータが 1 つの明細レコードまたは予備レコードに収まらないときは、変更累積ユーティリティーは、その明細レコードまたは予備レコードを分割します。メッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- 分割明細レコードの 1 つが欠落している。

- 分割予備レコードの 1 つが欠落している。
- 明細レコードには予備レコードがあるというマークが付けられているが、変更累積ユーティリティーは、その明細レコードの予備レコードをまったく受信しなかった。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

レコードを持つデータベースの名前

システムの処置: CA データ・セットを読み取るユーティリティーが処理を終了します。

システム・プログラマーの応答: CA データ・セットを読み取るユーティリティーにすべての CA ボリュームを提供した上で、そのユーティリティーを再実行してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DFSUC350

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0749I COMPRESSION EXIT ROUTINE
nnnnnnnn INITIALIZATION ERROR -
Uaaaa REASON rrrrrrrr**

説明: 初期設定エラーがセグメント編集/圧縮出口ルーチンによって検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

出口ルーチンの名前

Uaaaa 出口ルーチンによって生成された IMS ユーザー異常終了コード。

rrrrrrrr エラーが検出された固有のラベル。このラベルは、エラー理由コードに対応しています。各コードの説明については、該当する異常終了コードを参照してください。

システムの処置: メッセージ DFS0730I が、理由コード I,58 を伴って出されます。メッセージ DFS0730I に示されたデータベースは、停止されます。追加情報については、メッセージ DFS0730I を参照してください。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別し、問題を訂正してください。

モジュール: DFSDOCA0

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

DFS0750I

DFS0750I ERROR WITH *rrr* PGFIX, RETURN CODE = *x*

説明: ストレージの固定化を試みているとき、オペレーティング・システムからゼロ以外の戻りコードが受信されました。ページ固定は、DDNAME=PROCLIB によって記述されているデータ・セットの DFSFIXnn メンバーで指定されたパラメーターに対する応答でした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- rrr* ストレージが固定化された領域。制御領域の場合は「CTL」、DL/I 従属アドレス・スペース領域の場合は「DLS」を示します。
- x* ページ固定エラー戻りコードであり、次のように定義されます。
- 04 1 つ以上のエントリーが固定化できなかった。
 - 08 使用可能なページ数が不十分で、要求に応じられなかった。
 - 0C リスト・フォーマットが無効である。
 - 10 パラメーター・リスト・ポインターが無効である。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

問題判別: 36

モジュール: DFSIFIX0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 19 章 DFS メッセージ DFS0751I - DFS0800I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0751I IMS NOT RUNNING IN A VIRTUAL REGION

説明: IMS 制御領域が、z/OS システム内で VIRTUAL=VIRTUAL 領域として実行されていません。

システムの処置: IMS は VIRTUAL=REAL 環境で実行を継続します。

オペレーターの応答: REAL として実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンによって IMS を終了し、必要であれば VIRTUAL=VIRTUAL 領域で IMS 制御領域を再実行します。

モジュール: DFSIFIX0

DFS0752I UNEXPECTED CHANGE ACCUM TIME ENCOUNTERED - DB xxxxxxxx DSID yyy

説明: 変更累積 (CA) は、タイム・スタンプが直前の明細レコードのタイム・スタンプよりも早い予備レコードを検出しました。xxxxxxx の値が、レコードのデータベース名です。yyy の値が、レコードのデータ・セット ID です。

システムの処置: CA ユーティリティ処理が続行されます。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS0772I で識別されているデータベースおよびデータ・セット ID すべての、イメージ・コピーを取ってください。

モジュール: DFSUC350

関連情報:

249 ページの『DFS0772I』

DFS0753A MISSING SPILL RECORD AFTER A 5220 DETAIL RECORD - DB xxxxxxxx DSID yyy

説明: 5220 明細レコードが処理された後で、変更累積 (CA) が、5240 予備レコードが欠落していることを検出しました。xxxxxxx の値が、レコードのデータベース名です。yyy の値が、レコードのデータ・セット ID です。

システムの処置: CA ユーティリティは処理を終了します。

システム・プログラマーの応答: RECON、DBDLIB、CA ジョブ、CA データ・セット、および、すべてのログを保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DFSUC350

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0754I CADS INVALID FOR COEXISTENCE - ddname dsid

説明: IMS 第 9 版の DB リカバリー・プロセスまたは変更累積 (CA) プロセスへ提供された CADS が、共存情報をファイルに保管する IMS ユーティリティによって作成されたものではありませんでした。変更累積は、入力としてこの CADS を受け取ることができません。

システムの処置: この DBDS に対する処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 指定された DBD データ・セットに関する CA データ・セットをすべて無効にしてください。変更データのソースとしてログ入力だけを使用して、処理を再実行してください。

モジュール: DFSURIO0

DFS0755I FORMAT ERROR IN PROCLIB MEMBER=DFSFIXnn|DFSDRFnn

説明: DDNAME=PROCLIB によって定義されたデータ・セットのメンバー DFSFIXnn または DFSDRFnn で指定されたパラメーターで、フォーマットのエラーが検出されました。

システムの処置: IMS は継続しますが、制御プログラムおよびモジュール・プリロードの部分の DREF ストレージにおけるページの固定化および割り振りは行われません。

オペレーターの応答: (マスター端末) DREF ストレージ内の固定化または割り振りされた部分なしで IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn または DFSDRFnn の訂正後に再実行します。

DFS0756I • DFS0759I

プログラマーの応答: DFSDRFnn の DFSFIXnn または DREF パラメーターの FIX パラメーターのフォーマットを訂正してください。

問題判別: DFSFIXnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー (システム定義) を参照してください。 DFSDRFnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFnn メンバー (システム定義) を参照してください。

モジュール: DFSIFIX0

DFS0756I INVALID WORD IN

DFSFIXnn\DFSDRFnn xxx

説明: DDNAME=PROCLIB によって定義されたデータ・セットのメンバー DFSFIXnn または DFSDRFnn で指定されたワード xxx が無効です。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答: (マスター端末) DREF ストレージ内の固定化または割り振りされた部分なしで IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn または DFSDRFnn の訂正後に再実行します。

プログラマーの応答: DFSFIXnn または DFSDRFnn メンバーにある無効のワードを訂正してください。

問題判別: DFSFIXnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー (システム定義) を参照してください。 DFSDRFnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFnn メンバー (システム定義) を参照してください。

モジュール: DFSIFIX0

DFS0757I FIX COMPLETE: NO FIXING REQUESTED

説明: IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバーは、2 回のパスで処理されます。このメッセージは、それぞれのパス中に、2 つの状態で出される可能性があります。1 つ目は、データ・セット

DDNAME=PROCLIB のメンバー DFSFIXnn が、このパスに対してストレージの固定化を要求していなかった場合です。2 つ目は、そのメンバーに含まれているのが、すべてブランクか、すべて無効なパラメーターか、いずれかである場合です。無効なパラメーターの場合は、先行する DFS0755I メッセージを探してください。ページの固定化が 1 回のパス中に成功したかどうかを判別するには、DFS0759I メッセージを探してください。

システムの処置: IMS は実行を継続します。


オペレーターの応答: (マスター端末) ページの固定化が予想どおりに処理された場合は、処置は必要ありません。問題が検出された場合は、ページの固定部分なしで IMS の実行を継続するか、あるいはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn が修正された後で IMS を再始動します。

プログラマーの応答: ページの固定化が予想どおりに処理されなかった場合は、DFSFIXnn 内のパラメーターを修正して、IMS を再始動します。

問題判別: DFSFIXnn メンバーの説明を参照してください。

モジュール: DFSIFIX0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー (システム定義)

関連情報:

243 ページの『DFS0755I』

『DFS0759I』

DFS0758I FIX FAILURE: MORE THAN 62 AREAS TO BE FIXED

説明: DDNAME=PROCLIB であるデータ・セットのメンバー DFSFIXnn のパラメーターで記述されているように、ストレージを FIX するためには、62 を超えるエリアが固定化される必要があります。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 固定部分なしに IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、DFSFIXnn の訂正後に再実行します。

プログラマーの応答: 固定化されるエリアを減らすか結合し、メンバー DFSFIXnn を訂正してください。

問題判別: DFSFIXnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー (システム定義) を参照してください。

モジュール: DFSIFIX0

DFS0759I THE FOLLOWING VIRTUAL ADDRESSES HAVE BEEN FIXED IN *rrr xxxxxxxx yyyyyyyyyy-zzzzzzzz*

説明: 仮想アドレス範囲 (yyyyyyyyy-zzzzzzzz) は、DDNAME=PROCLIB によって記述されているデータ・セットの DFSFIXnn メンバーで指定されたパラメーターに対する応答として、固定化されています。

rrr は、ストレージが固定化された領域を識別し、次のように表します。

制御領域の場合、CTL

DL/I 従属アドレス・スペース領域の場合、DLS

xxxxxxx は、固定化されたエリアの IMS 名です。

注: ページ固定化されている高速機能ブロックの場合は、In *rrr* は表示されません。高速機能ブロックは、制御領域 (CTL) でページ固定化されます。システム内のすべての DEDB ブロックの合計サイズが 1 MB を超えている場合、IMS は始動時に複数の DFS0759I メッセージを表示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール: DFSIFIX0

**DFS0760I THE FOLLOWING FIX|DREF
OPERANDS WERE NOT FIXED
IN|ALLOCATED IN DREF IN *rrr*:
xxxxxxx**

説明: 示されているオペランドは、*rrr* で示されている領域の DREF ストレージで固定化も割り振りもされていません。変数 *rrr* は、制御領域を表す CTL と DL/I 従属アドレス・スペースを表す DLS のいずれかです。プールまたはブロックの名前が誤って指定されているか、指定されたモジュールが領域 *rrr* にロードされていないか、いずれかです。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: プール名かブロック名が意図されていた場合は、IMS プロシージャ・ライブラリー (DDNAME=PROCLIB) 内のメンバー DFSFIXnn または DFSDRFnn を更新して、指定を訂正してください。モジュールをページ固定化する要求の場合は、DL/I アドレス・スペースが選択されているのであれば、モジュールは一方の領域にあり、もう一方の領域にはないため、このメッセージは正常である可能性があります。

問題判別: DFSFIXnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSFIXnn メンバー (システム定義) を参照してください。DFSDFRnn メンバーについての説明は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFRnn メンバー (システム定義) を参照してください。

モジュール: DFSIFIX0

**DFS0761I SPACE NOT AVAILABLE FOR
<PGFIX|DREF> PARAMETER LIST**

説明: DDNAME=PROCLIB によって記述されているデータ・セットのメンバー DFSFIXnn または DFSDFRnn で指定されているパラメーターに対する応

答として、PAGE FIX または DREF パラメーター・リストを作成するためのストレージが、IMS 制御領域に存在しません。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答: (マスター端末) DREF ストレージ内の固定化または割り振りされた部分なしで IMS の実行を継続するか、またはチェックポイントのシャットダウンを行い、領域サイズの変更後に再実行します。

プログラマーの応答: IMS 制御領域のサイズを 1 ページに相当するサイズだけ大きくしてください。

モジュール: DFSIFIX0

**DFS0762I OSAM (TAPE|DASD) (READ|WRITE)
ERROR - FUNC=*aa*
STATUS=*bb,cc,dddd,eeee,ffff***

または

**OSAM UNIT=*gggg* FAILING CCW=*hh,,ii,jjjj*
IOSEEK=*kkk...kk* LOG=*llll***

または

OSAM DSN=.....

説明: OSAM 入出力エラーが検出されました。それぞれに DFS0762I という番号が付けられた 2 行または 3 行メッセージが生成されます。

1 行目では、(1) 入出力操作の宛先はテープか直接アクセス装置か、(2) 入出力操作は READ か WRITE か、(3) OSAM 操作タイプ、(4) 操作の終了状況を示します。

2 行目では、(1) 4 文字の UNIT 名、(2) 障害を起こしたチャンネル・コマンド・ワード、(3) 装置が直接アクセス装置の場合は、入出力操作に関連した完全なディスク・アドレス、および (4) OSAM 入出力制御ブロックが記録された IMS ログ・レコード・タイプが示されます。

注: 入出力操作が開始されなかった場合は、2 行目は表示されません。

3 行目では、エラーが見つかったデータ・セットの名前を示します。

変数フィールドは、次のように定義されています。

FUNC=*aa*

OSAM 操作タイプ - 次のように定義されています。

01 読み取り専用 OSAM ブロック

02 予約済み

03 複数の OSAM バッファの読み取り

- * 04 ファイル・マークのスキャン
 - 05 予約済み
 - 06 予約済み
 - * 07 STAE
 - 08 特定の OSAM ブロックの書き込み
 - 09 予約済み
 - * 0A キュー・バッファの書き込み
 - * 0B 順次ブロックの書き込み
 - * 0C 論理シリンダーのフォーマット
 - * 0D ファイル・マークの書き込み
 - 0E 予約済み
 - * 0F エクステントのフォーマット
 - * 10 EOV 後 REDRIVE
 - * 11 DDR SWAP 後 REDRIVE
 - * 12 エラーのテープ RRQ のポスト
 - 13 論理シリンダーの仮想フォーマット
- (* は内部機能を示す)

STATUS=bb

操作完了のポストに使用される IOSB/IOB 完了コード

- cc DECBC 状況コード (DECBCSTAT) は、次のように定義されています。
- 01 未定義命令コード
 - 02 DCB がオープンしていない
 - 03 IDAL 変換エラー
 - 04 チャンネル・プログラム保護エラー
 - 05 長さの誤りエラー (誤り DCBBUFL)
 - 06 永続入出力 ERROR
 - 07 DCB が DD ダミーとして指定された
 - 08 RBN 変換エラー
 - 09 RBN がデータ・セットの現行データの終わりを超えている
 - 0A ファイルの終わりに達している
 - 0B 呼び出し元に呼び出しタイプの使用許可がない
 - 0C チャンネル・プログラム作業域の取得不能
 - 0D データ・セットにブロックを追加するスペースがない
 - 0E 予約済み
 - 0F 予約済み
 - 10 OSAM 入出力ストレージ・プールからの IOSB の割り振り不能
 - 11 既存のブロックに対する新規ブロック要求
 - 12 入出力が妨げられている
 - 13 キュー書き込みエラー (バッファ接頭部に状況が含まれている)
 - 14 バッファ期限無視
 - 15 IOSB/IOB アドレスが無効 - 順次書き込み
 - 16 要求期限無視
 - 17 テープの終わり - EOV が必要

- 18 現行 DECB が EOV 登録時の AMWRRQL と同じでない
 - 19 テープ入出力エラー - DDR SWAP を試行
 - 1A 読み取り専用データ・セットに対して書き込みが試みられた
 - 1B IOS または付加でのプログラム・チェックまたはマシン・チェックのため、入出力要求が異常終了
 - 1C チャンネル・プログラム・チェック
 - 1D レコードが検出されない
 - 1E DCB がすでにクローズしている
 - 1F ページ固定化ルーチンからの戻りコードがゼロ以外
 - 20 チャンネル・プログラム変換エラー
- dddd* CSW の装置状況およびチャンネル状況
- eeee* 障害のある CCW の残余バイト・カウンタ
- ffff* CSW の装置状況が装置チェックを示している場合は、最初の 2 つのセンス・バイト。装置チェックが示されていない場合は、ピリオド (.) が表示されます。

注: 入出力操作が開始されなかった場合は、文字ストリング I/O NOT STARTED が表示され、状況バイト、残余バイト・カウンタ、および最初の 2 つのセンス・バイトは表示されません。

UNIT=gggg

装置に関連した 4 文字装置名

FAILING CCW=

- hh 命令コード
- ii フラグ
- jjjj バイト・カウンタ

注: CCW アドレスが無効である、つまり、使用した場合は、プログラム・チェックの原因になると判別された場合は、選択された CCW フィールドではなく、文字ストリング「UNKNOWN」が表示されます。対をなすコマでデータ/IDAL アドレスが存在しないことを示します。

IOSEEK=kkk..k

フォーム MBBCCHHR の全ディスク・アドレス。このフィールドが表示されるのは、直接アクセス装置の場合のみです。

LOG=llll

OSAM 入出力制御ブロックが記録された IMS ログ・レコード・タイプ。

- 6201** X'6201' レコードのみがログに記録されました。
- 6202** X'6201' と X'6202' の両方のレコードがログに記録されました。
- 6203** 3 つのタイプのレコードがすべてログに記録されました。

GERR X'6201' および X'6202' レコードはログに記録されましたが、X'6203' レコードをログに記録する試みは、GETMAIN エラーのため失敗しました。

LERR X'6201' および X'6202' レコードはログに記録されましたが、X'6203' レコードをログに記録する試みは、ロギング・エラーのため失敗しました。

システムの処置: 処理を続行します。入出力エラーがユーザー・データベースにかかわる場合は、メッセージ DFS0451I が後に続きます。そのメッセージの説明を参照してください。

モジュール: DFSAOS80

関連情報:

137 ページの『DFS0451I』

**DFS0763I STOP ABDUMP REJECTED FOR
THREAD nnnn; SINGLE PHASE
SYNC POINT IN PROGRESS**

説明: アクティブのデータベース制御 (DBCTL) サブシステム・スレッドの単一フェーズ同期点処理が進行中に、/STOP REGION nnnn ABDUMP を入力しました。

システムの処置: コマンドは無視され、スレッドは同期点処理を続行します。

モジュール: DFSDSTP0

**DFS0764A PAGE FIX FOR EXCPVR-REQUIRED
AREAS FAILED. REPLY 'RETRY' OR
'EXCP'.**

説明: IMS システムが、EXCPVR オプション用のストレージ域の PAGE FIX を試みましたが、オペレーティング・システムは、要求に応じることができませんでした。オペレーターは、PAGE FIX を再試行してもよいし、EXCPVR オプションを取り消す EXCP を応答してもかまいません。

システムの処置: IMS はオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: (z/OS システム) オペレーターは、EXCP を応答して EXCPVR オプションを取り消すか、固定化可能ストレージを使用可能にして RETRY を応答することができます。固定化可能ストレージは、オペレーティング・システム内の他のジョブを停止することで使用可能にできます。オペレーティング・システム内の一般アクティビティを削減しても、固定化可能ストレージを使用可能にできます。

モジュール: DFSXI0B0

**DFS0765I STORAGE NOT AVAILABLE FOR
NODE INTERPRET TABLE**

説明: サブプール 251 からのノード解釈テーブル用のストレージの獲得を試みている最中に、エラーが検出されました。この問題が解決されて、IMS が再始動されるまで、IMS は XRF 複合システムと通信できません。

ノード解釈テーブルは、VTAM MSC リンク、および XRF 複合システムと通信する ISC セッションの総称および実際ノード名の解決に使用されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: IMS で使用可能な主記憶域を増やしてください。

モジュール: DFSCINB0

**DFS0766I PAGE FIX FOR STORAGE MGMT
CONTROL BLOCKS FAILED**

説明: ストレージ管理のための制御ブロックのページ固定化の試みが失敗しました。

システムの処置: システムは処理を続けますが、パフォーマンス低下の可能性があります。

オペレーターの応答: 固定部分なしに IMS の実行を継続するか、または、チェックポイントをシャットダウンしてより多くの実ストレージが使用可能なときに再実行するか、いずれかです。

プログラマーの応答: 必ず、IMS 制御プログラムが次の実行時に今回より多くの実ストレージを使用できるようにしてください。

**DFS0767I OTMA MESSAGE FLOOD
CONDITION HAS BEEN RELIEVED
FOR MEMBER YYYYYYYY**

説明: IMS システムは、入力キュー内のアクティブ入力メッセージ数を減らすために、OTMA 入力メッセージを処理しました。メンバーからの入力メッセージは、最大アクティブ入力メッセージ数の 50% 以下に達しました。

システムの処置: IMS は、メンバーからの OTMA メッセージの処理を続行します。

プログラマーの応答: このメッセージは、OTMA メッセージあふれ条件が改善されたことをプログラマーに通知します。

モジュール: DFSYFD00

DFS0768I AN INVALID BSAM FORMATTED RECORD WAS DETECTED IN DDNAME=xxxxxxx. IT HAS BEEN CLOSED

説明: データセット DDNAME=xxxxxxx 内のレコードが、可変長レコードに関する BSAM フォーマット設定規則に違反しました。


システムの処置: AF 状況コードがデータベース PCB に戻されます。GSAM 制御ブロック、および無効のレコードが含まれているバッファが IMSERR または SYSPRINT データ・セットに書き込まれます。GSAM を再初期設定しないで、別の呼び出しがこのデータ・セットに対して行われた場合は、異常終了コード 0272 が出されます。

プログラマーの応答: プログラムを終了し、データ・セットを訂正してください。

問題判別: 1、2、3、8、18、19、35

モジュール: DFSZD210

関連情報:

 IMS 異常終了 0272

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0769I ttt SELECTIVE DISPATCHING - rrrr

説明: リソース不足のため、最後のチェックポイント以降、選択ディスパッチングが有効でした。ttt は、選択ディスパッチングが有効であった TCB を示します。rrrr は、不足があったリソースを示します。

リソース不足は、一般に、次の TCB の下におけるアクティビティのボリュームが異常に高いことによってもたらされます。

TCB 選択ディスパッチングの考えられる原因
CTL

- 通信アクティビティのボリュームが高い。
- 端末ネットワークのサイズに合うように定義されている SAP の数が不十分である。
- 破壊的なイベントが原因で、通信処理が中断され、キュー内待機の通信作業のあふれがもたらされた。
- IMS 内部の問題。

ALM

- LU 6.2 通信アクティビティのボリュームが高い。
- 破壊的なイベントが原因で、LU 6.2 通信が中断され、キュー内待機の LU 6.2 作業のあふれがもたらされた。

- 割り振られた LU 6.2 会話を期間を延長して、維持するために、アプリケーション・プログラムがコーディングされた。
- IMS 内部の問題。

OIM

- OTMA で大量の OTMA CM1 または CM0 入力トランザクションが発生した。
- OTMA クライアントに定義されている事前割り振り SAP の数が不十分である。
- IMS が再始動されたか、OTMA が停止されて再始動されたため、OTMA 通信が中断された。
- OTMA クライアント・アプリケーションが、CM1 セッションを長期間保持するようにコーディングされている。
- IMS で、共通リソースの長時間待ち、ログへの入出力の長時間待ち、またはラッチの待機などの内部問題が発生した。

IMS TCB が選択ディスパッチング中であるときは、リソースが再度使用可能になるまでの間、優先作業単位 (例えば、MTO 端末) とすでにリソースを保留している作業単位だけを処理できます。一部の端末ユーザーの場合は、これで応答時間の質的低下を生じる可能性があります。

SAP リソースは、供給不足のときは、選択ディスパッチングの原因になる可能性があります。SAP は、IMS 作業単位、通信要求 (端末)、および LU 6.2 要求を処理する場合に必要な IMS 内部制御ブロックです。使用可能な SAP の供給が低下すると、IMS は、追加の SAP を最大量まで割り振ろうと試みます。使用可能な SAP がなくなって作業単位を処理できなくなると、IMS は SAP の選択ディスパッチングを呼び出します。これが行われると、別の作業単位が終了して、その SAP が解放されたときにのみ、IMS 作業単位を処理できます。こうなると、IMS システムのパフォーマンスの低下が生じる可能性があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: このメッセージは、リソース不足の可能性を示しています。このメッセージが表示される頻度が高くなったり、このメッセージに伴ってパフォーマンスの低下が生じたりする場合は、システム・プログラマーに知らせる必要があります。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、必ずしも IMS に問題があることを示しているとは限りません。選択ディスパッチングは、正当な理由があって生じる可能性があります (例えば、IMS チェックポイント時であったり、通信アクティビティにおけるクイック・ピークによるなど)。このメッセージが表示される頻度が高くなったり、このメッセージに伴って、端末応答

時間の質的低下などのような IMS パフォーマンス問題が生じる場合は、追加の分析を推奨します。

選択ディスパッチングの TCB が CTL である場合は、IMS 始動 JCL または DFSPBxxx メンバーの SAV= パラメーターを変更することで、使用可能な動的 SAP の数を増やせます。

選択ディスパッチングの TCB が ALM の場合は、LU 6.2 会話の割り振り解除を長期にわたって行わない、アプリケーション・プログラム問題である可能性があります。これが起こる可能性があるのは、アプリケーション・プログラムが CONFIRM に対する即時 LU 6.2 応答を受信しないときです。

TCB が OIM の場合、選択ディスパッチングは OTMA に適用され、選択ディスパッチングを使用した理由は、一時的なものだった可能性があります。OTMA の選択ディスパッチングを避けるには、DFSYDTx PROCLIB メンバー内の OTMA クライアント記述子に DSAP パラメーターおよび DSAPMAX パラメーターを指定して、IMS を再始動することによって、事前割り振り SAP の数と、IMS が動的に割り振ることができる SAP の最大数を調整することができます。

ディスパッチャー統計ログ・レコード (タイプ X'45' サブコード X'0F') が、それぞれのチェックポイントで書き込まれます。これらのログ・レコードを印刷し、選択ディスパッチング問題に関して分析する必要があります。追加の統計レコード (タイプ X'45') が、高いストレージ・プール使用率を示す上で役立つ場合があります。選択ディスパッチングに関する問題報告書には、問題が発生したチェックポイント・インターバルが含まれる IMS ログのコピー、およびそれらのチェックポイントに関する X'45' レコードの印刷コピーを含める必要があります。

問題判別: 5、6、23、34

モジュール: DFSSTAT0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0770W NO FP CONTROL BLOCKS ARE ABOVE 16 MB

説明: 高速機能制御ブロック・モジュール (DBFCONT0) が、ストレージ不足のため、ECSA で割り振られませんでした。

システムの処置: IMS は、CSA からストレージを取得して、処理を続行します。

プログラマーの応答: z/OS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DBFIFIX0

DFS0771I IMS LOGGING IS NOT IN EFFECT.

説明: 拡張、またはシンボリック、チェックポイント呼び出しが出されていて、IEFRDER DD ステートメントが欠落しているか、DD DUMMY として定義されているため、IMS LOGGING は有効ではありません。

システムの処置: IEFRDER DD が DD DUMMY として定義されている場合は、メッセージだけが出力され、処理は続行されます。IEFRDER DD ステートメントが欠落している場合は、呼び出しの処理は続行されますが、STATUSNL は IOPCB で戻されます。

プログラマーの応答: ロギングがこのジョブのために必要な場合は、JCL に IEFRDER DD ステートメントを追加してください。

モジュール: DFSPR000、DFSZSC00

DFS0772I KSDS EXTENDING AT TAKEOVER - DBD dddddddd, PROGRAM pppppppp NOT BACKED OUT

説明: テークオーバー時に、障害を起こしたアクティブ IMS システムによって VSAM KSDS が拡張されようとしていました。変数 dddddddd はデータベースを示し、pppppppp はバックアウトが行われなかったプログラムを示しています。

障害のあるアクティブ・システムのワークロードを引き継ぐ IMS 代替システムには、障害のある、または劣化したアクティブ・システムがデータの終わりを変更しようとしている方法や場所は分かりません。このため、IMS は、障害のあるアクティブ・システムが終了するまで、このデータベースを安全に使用できません。

システムの処置: このデータベースのバックアウトが据え置かれて、データベースは停止します。データベースが停止すると、メッセージ DFS2012I または DFS0773I のどちらかが出されます。

プログラマーの応答: 障害のあるアクティブ・システムが終了してしまうと、データベースを再度安全に開始できます。バックアウトされるデータベース変更が含まれているログがすでにアーカイブされている場合は、このメッセージで識別されている PSB のバッチ・バックアウトを実行する必要があります。その後、/START DB コマンドの NOBKO パラメーターを使用してデータベースを開始するか、UPDATE DB START(ACCESS) OPTION(NOBACKOUT) を発行してください。

モジュール: DFSRBOIO

関連情報:

250 ページの『DFS0773I』

503 ページの『DFS2012I』

DFS0773I DATA BASE - dddddd STOPPED.

説明: テークオーバー時に、障害を起こしたアクティブ IMS システムによって非ブロック・レベル共用データベースが拡張されようとしていました。変数 *ddddddd* は、データベースを示します。

障害のあるアクティブ IMS システムのワークロードを引き継ぐ IMS 代替システムには、障害のある、または劣化したアクティブ・システムがデータの終わりを変更しようとしている方法や場所は分かりません。このため、IMS は、障害のあるアクティブ・システムが終了するまで、このデータベースを安全に使用できません。

システムの処置: 障害のあるアクティブ・システムが終了するまで、このデータベースは停止しています。新しい IMS アクティブ・システムが入出力防止の完了を認識するまで、/START DB または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを入力することはできません。

プログラマーの応答: 障害のあるアクティブ IMS が終了すると、データベースを安全に開始できます。

モジュール: DFSHDCL0

**DFS0774I (CCCCFSS) AREA=AREANAME
DD=DDNAME, AREA CLOSED,
MUST COMPLETE TOSSED,
CI-RBA=NNNNNNNNN, SEVERE
ERROR**

説明: クローズされたエリアに書き込む試みがなされました。この状態はシステム・エラーを示します。

システムの処置: WRITE MUST COMPLETE DMHR は無視され、従属領域が終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM サービスに連絡してください。

**DFS0775I COMMAND REJECTED; TCO IS NOT
ACTIVE**

説明: /TRACE SET ON|OFF TCO コマンドを入力しましたが、時間制御操作がアクティブではありません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: コマンドを入力する前に、時間制御操作を開始してください。

モジュール: DFSICLN0

**DFS0776A AMP PARAMETER INVALID FOR
OSAM DATASET- DDNAME xxxxxxxx**

説明: OSAM データ・セットに関する DD ステートメントに、OSAM では無効なパラメーター AMP が含まれていました。

システムの処置: 戻りコード 16 が設定され、処理は停止します。

プログラマーの応答: OSAM データ・セットに関する DD ステートメントから AMP パラメーターを除去し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSURDB0

**DFS0777 LU=xxxxxxx EXCEEDS ALLOWED
QUEUE SPACE -- MESSAGE
CANCELLED**

説明: キュー・マネージャーからバッファを獲得しようとした。要求されたサイズが、その LU の許容スペースを超えていました。変数 *xxxxxxx* は入力 LU 名です。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。許容スペースは、ユーザー出口 DFSQSPC0 を使用して、ご使用のシステムによって制御されるスペースの量です。

システムの処置: メッセージは取り消されます。

プログラマーの応答: メッセージのサイズをチェックしてください。

モジュール: DFSRLM10

**DFS0778I xxxxxxxx ERROR eeeeeee MERGING
SIDTABLE FROM MSC SUBSYSTEM
yyyyyyyyy, ACTION = zzzzzzzz**

または

**xxxxxxx MSC SUBSYSTEM yyyyyyyy HAS
JOINED/LEFT THE SHARED QUEUES GROUP,
ACTION = zzzzzzzz**

または

**xxxxxxx ERROR eeeeeee SENDING/RECEIVING
SIDTABLE TO/FROM MSC SUBSYSTEM yyyyyyyy,
ACTION = zzzzzzzz**

説明: このメッセージが生成されるのは、複数システム通信 (MSC) フィーチャーが共用キュー・グループ (SQG) 環境でサポートされ、次のいずれかのイベントが生じたときです。

- IMS サブシステムが共用キュー・グループに結合、またはそこから離脱した。

- IMS サブシステムの結合または離脱の処理中に、別の IMS との間で MSC システム識別テーブル (SIDTABLE) を送信または受信している最中に、エラーが検出された。
- 共用キュー・グループに結合している別の IMS から受信した SIDTABLE のマージ中に、エラーが検出された。
- IMS サブシステムが共用キュー・グループに結合したとき、以前の SIDTABLES のマージから作成された残余 SIDTABLE ストレージ域が解放されているところであった。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

可変 意味

xxxxxxx

メッセージを発行、またはエラーを削除したシステムの IMSID

yyyyyyyy

SQG と結合または SQG から離れた、あるいは SIDTABLE の送信先または受信元であった、あるいはマージされている SIDTABLE の送信元であった、他の IMS の IMSID。

zzzzzzzz

アクション・コード:

ACCEPTED

結合/離脱イベントが受け入れられました。

IGNORED

エラーは無視されました。別の IMS から SIDTABLE を受信する場合は、受信したテーブルは現行テーブルとマージされません。別の IMS へ SIDTABLE を送信する場合、テーブルが他の IMS に到着して処理されることはありません。SIDTABLE のマージの場合は、受信されたテーブル内の 1 つ以上の SYSIDS が無視されません。

eeeeeeee エラーを検出した MSC 共用キュー初期設定ルーチンによって生成されたエラー・コード

ルーチン

説明

FREEAWSI

受信 SID テーブル・ストレージの解放でのエラー

FREEEND

終了処理でストレージの解放でのエラー

FREEOSID

マージ後古い SID テーブル・ストレージの解放でのエラー

FREEXCFS

XCF によって獲得されたストレージの解放でのエラー

FUNCHIGH

機能値が高すぎる

FUNCZERO

機能が指定されていない

GETAWSID

AWE/SID テーブル・ストレージの取得でのエラー

GETHLNB

LNB ストレージの取得でのエラー

GETNSID

新規 SID テーブル用としてのストレージまたはブロックの取得でのエラー

INITSID

SID テーブルの初期設定でのエラー

INVAWECB

AWE の ECB が無効

システムの処置: IMS は処理を続行します。イベントがエラーであった場合は、タイプ 6701-MNZE ログ・レコードが IMS オンライン・ログ・データ・セットに書き込まれました。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: エラーが示された場合は、結合、離脱、またはマージのイベントは完全には処理されない可能性があります。エラーを訂正し、影響を受けた IMS サブシステムをシャットダウンし、再びバックアップ (例えば、離脱および結合) してください。エラーが示されていない場合は、このメッセージは通知に過ぎません。

プログラマーの応答: イベントがエラーであった場合は、MSC 構成のエラー、または IMS サブシステムまたは MS XCGF 機能でのシステム・エラーである可能性が最も大です。問題判別中に書き留めておいた文書を集積し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: このメッセージを記録し、そのほかにメッセージ内で IMSIDS によって識別されている共用キュー・グループ内の両方の IMS サブシステムからの DFS0778 メッセージがあれば、それも記録してください。DFSERA10 ログ印刷ユーティリティを使用し、両方の IMS サブシステムからのオンライン・ログ・データ・セットから 6701-MNZE ログ・レコードを印刷してください。他の IMS サブシステムが共用キュー・グループに結合したり、そこから離脱したりする前に、できるだけ早く、z/OS DUMP コマンドを使用して、両方の IMS サブシステムのコンソール・メモリ

ー・ダンプを取ってください。メモリー・ダンプは、診断のために必要になる場合に備えて保管しておいてください。

モジュール: DFSMNZ00

DFS0779E KEYWORD *keyword* OMITTED

または

ERROR FOR PROCLIB MEMBER *member_name*,
JOBNAME=*job_name*

または

**STRUCTURE NAMES FOR EMHQ AND MSGQ
SHOULD BE UNIQUE - STRUCTURE
NAME=***structure_name*

説明: IMS 初期設定で、DFSSQxxx PROCLIB メンバー、または DFSDFxxx PROCLIB メンバーの SHARED_QUEUES セクションのどちらかを処理中にエラーが検出されました。複数のエラーが検出される場合、複数の DFS0779E メッセージが発行される場合があります。このメッセージの発行後、IMS は異常終了コード 0071 を出して終了します。

member_name

構文解析されていた 1 つ以上の PROCLIB メンバーの名前。DFSSQxxx と DFSDFxxx の両方で共用キュー・パラメーターがコーディングされている場合、両方のメンバーがリストされます。

job_name

該当する場合、IMS 制御領域ジョブ名。

structure_name

メッセージ・キューと EMH キュー構造の両方に対して指定された構造名。

keyword

検出されなかった必須キーワードの名前。

システムの処置: IMS 初期設定は終了し、異常終了コード 0071 が示されます。


システム・プログラマーの応答: DFSSQxxx

IMS.PROCLIB メンバー、または DFSDFxxx

IMS.PROCLIB メンバー内の SHARED_QUEUES セクションのどちらかで、共用キュー・パラメーターを訂正し、IMS を再始動します。共用キュー・パラメーターは、これらのロケーションの両方で指定できます。DFSSQxxx で指定されるパラメーターは、DFSDFxxx で指定されるパラメーターをオーバーライドします。

モジュール: DFSSQ012

関連情報:

 IMS 異常終了 0071

DFS0780I EOD WAS ENCOUNTERED WHILE
REPOSITIONING DDNAME=xxxxxxx
DURING XRST.

説明: 拡張再始動操作時に、GSAM 非 DASD データ・セットを位置変更している最中に、データの終わりが検出されました。


システムの処置: GSAM は異常終了 0102 で終了します。

プログラマーの応答: 再始動に使用されるタイプ「18」ログ・レコードを印刷して、問題判別に役立ててください。

問題判別: 1、4、5、8

モジュール: DFSZD210

関連情報:

 IMS 異常終了 0102

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0781I ABEND cccc IN mmmm...

説明: 変数 cccc は、4 桁のユーザー異常終了または疑似異常終了、もしくは 3 桁のシステム異常終了を識別し、mmm は、異常終了モジュールに関する CHANGEID 情報です。この情報は、CHANGEID マクロのコーディングに応じて変わります。基本的に、CHANGEID 情報には、モジュール名、アセンブリー日時、最新適用 APAR 番号、および適用 APAR すべてを識別する可変文字ストリングが含まれます。

このメッセージは、トランザクション再試行が試みられるかどうかに関係なく、すべての異常終了に関して出されます。それが出される時点は、次のとおりです。

1. 初期障害の発生時点で、潜在的に行われる可能性のあるトランザクション再試行の前
2. トランザクションを再試行し、結果的に失敗に終わった場合、失敗した再試行の後に障害が再発した時点

注: トランザクション再試行時点で発生する障害は、たとえ例外的な事例であるとしても、元の障害と同じものではない場合があります。

システムの処置: トランザクション再試行が試みられた場合でも、システムは引き続き異常終了し、通常のメモリー・ダンプやログ・テープへのエントリーの提供、および診断情報の収集が行われます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 診断情報を保管してく

ださい。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0782I NO INFO ABOUT ABENDING
MODULE - R12 NOT POINTING
CHANGEID**

説明: レジスター 12 が CHANGEID 情報を指さない場合は、DFS0781I、ABEND ccc IN mmmmm ではなく、このメッセージが出されます。

IBM 以外の IMS アプリケーション・プログラムが異常終了した場合、このメッセージは JES2 ログへ送られる可能性があります。CHANGEID 情報が予想されるのは、IBM、IMS モジュールの場合だけです。

システムの処置: トランザクション再試行が試みられた場合でも、システムは引き続き異常終了し、通常のメモリー・ダンプやログ・テープへのエントリーの提供、および診断情報の収集が行われます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: これが IMS ユーザー異常終了またはシステム異常終了である場合は、すべての診断情報を保管してください。その後、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題判別について支援を要求してください。

これがアプリケーション異常終了である場合は、ご使用のシステムでのアプリケーション・プログラム異常終了を処理する手順を参照してください。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0783I NO INFORMATION ABOUT
ABENDING MODULE - SDWA NOT
AVAILABLE**

説明: ESTAE プロセスでシステム診断作業域 (SDWA) を取得できない場合は、DFS0781I、ABEND cccc IN mmmmm ではなく、このメッセージが出されます。

システムの処置: トランザクション再試行が試みられた場合でも、システムは引き続き異常終了し、通常のメモリー・ダンプやログ・テープへのエントリーの提供、および診断情報の収集が行われます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 診断情報を保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0784I TRAN ttttttt TO BE RETRIED-MSG
nnnnn TERM xxxxxxxx jjjjjjj**

説明: このメッセージが出されるのは、障害のあるトランザクションに再試行 (異なる従属領域で行われる可能性がある) 適格性があるときです。変数 ttttttt はトランザクション・コードを示し、nnnnn は障害のあるトランザクションに関連した入力シーケンス番号を示し、xxxxxxx は障害のあるトランザクションに関連したメッセージの発信元端末を示します。変数 jjjjjjj は、トランザクションが失敗した従属領域のジョブ名を示します。

システムの処置: システムがトランザクションを再試行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0785I TRAN ttttttt NOW IN RETRY -MSG
nnnnn TERM xxxxxxxx jjjjjjj**

説明: このメッセージが出されるのは、トランザクション再試行が進行中であるときです。変数 ttttttt はトランザクション・コードを示し、nnnnn は障害のあるトランザクションに関連した入力シーケンス番号を示し、xxxxxxx は障害のあるトランザクションに関連したメッセージの発信元端末を示します。変数 jjjjjjj は、トランザクションが再試行される従属領域のジョブ名を示します。

システムの処置: システムが、再試行されるトランザクションの処理を開始し、再試行中に問題分析を容易にするための追加診断情報 (詳細トレース情報) を作成します。

この診断情報は、再試行されたトランザクションの完了 (正常であったか、正常ではなかったかに関係なく) の後に、使用可能になります。診断情報は、トランザクションが再試行された従属領域の JOB ステートメントの MSGCLASS パラメーターで指定された SYSOUT クラスを使用して、SYSOUT データ・セットにルーティングされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに追加診断情報の収集を要請してください。

システム・プログラマーの応答: 追加診断情報を収集してください。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0786I A SECOND ABEND OCCURRED
DURING TRANSACTION RETRY**

説明: このメッセージは、トランザクション再試行が正常に行われなかった後で、メッセージ DFS0781I, ABEND cccc IN mmmn の後に続けて出されます。

注: トランザクション再試行が、元の障害と同じ異常終了で失敗した場合は、この情報は 2 回提供されます。つまり、1 回目は障害の発生時であり、2 回目は、トランザクション再試行が障害を再生した時点です。

システムの処置: トランザクション再試行の実行過程にある間に、システムは再度異常終了しました。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 診断情報を保管してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0787I TRANSACTION RETRY WAS
ATTEMPTED AND COMPLETED
SUCCESSFULLY**

説明: このメッセージは、トランザクション再試行が正常に行われた後で、再試行トランザクションの同期プロセスへの入り口で出されます。

システムの処置: 同期処理は、再試行されたトランザクションに関して継続します。

この場合は、システムは、トランザクションを停止しないで、メッセージ DFS554A に示されている処置をオーバーライドします。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 診断情報を保管してください。エラーが再発する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DBFTCMT9

関連情報:

173 ページの『DFS554A』

**DFS0788I DYNAMIC ALLOCATION FOR
TRACE DATASET FAILED - REASON
CODE mmmn**

説明: このメッセージが出されるのは、動的割り振りがトレース・データ・セットに関して失敗した場合です。理由コード mmmn の説明は、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。

システムの処置: システムは、トレースなしでトランザクション再試行を続け、次のアプリケーション・プログラム呼び出し時点で、必要なリソースの獲得を試みます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFTCMT9

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

**DFS0789I GETMAIN FAILED TO
DYNAMICALLY ALLOCATE TRACE
DATASET**

説明: これは単なる通知メッセージです。

システムの処置: システムは、トレースなしでトランザクション再試行を続け、次のアプリケーション・プログラム呼び出し時点で、必要なリソースの獲得を試みます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0790I OPEN FAILED FOR DYNAMICALLY
ALLOCATED TRACE DATASET**

説明: これは単なる通知メッセージです。

システムの処置: システムは、トレースなしでトランザクション再試行を続け、次のアプリケーション・プログラム呼び出し時点で、必要なリソースの獲得を試みます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

マスター端末オペレーターの応答

処置は必要ありません。

モジュール: DBFTCMT9

**DFS0791A PROCESSING OF HSSP HIC/PIC BY
DB RECOVERY TERMINATED
ABNORMALLY FOR AREA=xxxxxxx
DD=yyyyyyyy REASON CODE=zz**

説明: このメッセージが出されるのは、データベース・リカバリー・ユーティリティの実行中に、HSSP イメ

ージ・コピー (HIC) または HSSP 部分イメージ・コピー (PIC) にかかわるエラーが発生したときです。データベース・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。次の理由コードが、問題の原因を示しています。

理由コード

- | | 説明 |
|----|---|
| 10 | エリア <i>xxxxxxx</i> DD <i>yyyyyyyy</i> に関する DD ステートメントが JCL に欠落していた。 |
| 20 | ユーティリティで DDNAME <i>yyyyyyyy</i> の DCB を開けなかった。 |
| 30 | VSAM SHOWCB が失敗した。 |
| 40 | VSAM MODCB が失敗した。 |
| 50 | 2 番目の CI の日付/タイム・スタンプが HIC/PIC タイム・スタンプと一致しないか、2 番目の CI が、データ・セットがイメージ・コピー・データ・セットでないことを示しているか、どちらかである。 |
| 60 | PIC タイム・スタンプが日時順になっていない。 |
| 70 | 日付/タイム・スタンプが、入力 HIC/PIC データ・セットのいずれに関しても、ログ・レコード内のスタンプと一致しない。 |

プログラマーの応答: 理由コード 10 の場合は、すべての必須 DD ステートメントが指定されているか確認してください。

理由コード 20 の場合は、オープン・エラーの原因を判別するためにメモリー・ダンプを使用してください (考えられる失敗の原因については「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください)。

理由コード 30 および 40 の場合は、IBM 担当員に連絡してください。

理由コード 50 の場合は、使用されているすべての HIC/PIC データ・セットが有効であるか確認してください。


理由コード 60 の場合は、SYSIN に含まれている PIC タイム・スタンプが日付/時刻順になっているか確認してください。

理由コード 70 の場合は、SYSIN に必要な HIC/PIC タイム・スタンプがすべて含まれているか確認してください。

問題判別: 2、3、4、8、20、36、および RECON データ・セットのすべてのリスト

モジュール: DBFUHIC0

関連資料:

 z/OS: OPEN -- プログラムとデータの接続 (BDAM、VSAM への BISAM インターフェース、BPAM、BSAM、VSAM への QISAM インターフェー

ス、および QSAM)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0792A DATABASE TARGET VSAM DATASET MUST BE EMPTY PRIOR TO RUNNING RECOVERY

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティを実行するときは、DDNAME で VSAM データ・セットを指定していて、障害が以前のユーティリティの実行中に発生したことがある場合は、VSAM データ・セットを削除して、再定義する必要がある可能性があります。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: ターゲット・データ・セットとして出力のために開かれる VSAM データ・セットを削除し、再定義してください。

DFS0793I THE TOTAL OTMA SEND-THEN-COMMIT(CM1) CONTROL BLOCKS (TIB) HAS DECREASED BELOW *mmm*

または

THE FLOOD CONDITION OF TOTAL OTMA INPUT MESSAGES (TIB) WAS RELIEVED

説明: このメッセージは、OTMA メッセージあふれ条件の間に発行され、あふれ条件での状況を示します。すべての OTMA クライアントからの未完了の OTMA コミット・モード 1 (CM1) メッセージの総数は減少しています。

システムの処置: 処理を続行します。OK 状況の OTMA プロトコル・メッセージが、すべての OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答: グローバル OTMA メッセージあふれ条件が解決されました。ただし、個々の OTMA メンバーは、あふれ条件になる可能性があります。

モジュール: DFSYFD00

DFS794I APPLICATION NOT PERMITTED TO REASSIGN LTERM IT IS USING

説明: /ASSIGN コマンドはリジェクトされました。AOI プログラムには、アプリケーションで使用している LTERM を再割り当てすることが許可されていないからです。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。コマンドが /ASSIGN LTERM PRIMARY であった場合は、1 次マスター端末割り当ては正常に行われた可能性があります。

プログラマーの応答: AOI アプリケーション・プログラムを再設計して、すでに使用している LTERM を再割り当てする /ASSIGN コマンドを出すことができないようにします。再設計された AOI プログラム内の LTERM は、次のいずれかであることはできません。

- AOI トランザクションを発信した LTERM
- アプリケーションがメッセージを挿入している宛先 LTERM
- アプリケーションがメッセージを挿入している代替宛先 LTERM

モジュール: DFSICL70

**DFS795I RESOURCE ACCESS FAILURE;
NOTIFY SYSTEM PROGRAMMER**

説明: コマンドはリジェクトされました。コマンド・プロセスが、リソースへのアクセスを試みている最中に、システム・エラーを検出したからです。リソースの使用またはロック要求によって、予期しない戻りコードが出力される結果になりました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。コマンドが /ASSIGN LTERM PRIMARY であった場合は、1 次マスター端末割り当ては正常に行われた可能性があります。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 『IMS 問題判別』というタイトルのトピックを参照してください。

問題判別: 1、6、36、41

モジュール: DFSICL70

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0796A IS NOT A VALID HALDB MASTER
OR PARTITION DATABASE,
REASON=nn**

説明: 次のいずれかのエラーが検出されました。

コード (16 進数)
意味

- 01 指定された DBD が DBDLIB 内にありませんでした。
- 02 指定された DBD は DBDLIB 内にありましたが、HALDB DBD ではありません。

- 03 指定された HALDB DBD は RECON 内に存在しません。
- 04 指定された HALDB 区画は RECON 内に存在しません。

システムの処置: 他の HALDB マスター・データベースまたは区画を処理する必要がある場合は、処理が続行され、戻りコードが 8 に設定されます。

ユーザーの処置: 理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFSUPNT1

DFS0796I Reason Code = rc message

説明: rc で示されているエラーが発生し、モジュール DFSUPNT0 によって発行された message が付随します。それぞれの理由コードごとに固有の説明と応答があります。次の理由コードとメッセージを参照して、エラーのタイプと適切な処置の識別を進めてください。

**REASON = 01 DATABASE OR PARTITION NOT
FOUND IN RECON - &DBNAME**

指定された DBD である &DBNAME が RECON 内に存在しません。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

**REASON = 02 DATABASE IS NOT A HALDB
DBD OR PARTITION - &DBNAME**

指定された DBD である &DBNAME が RECON 内で HALDB として定義されていません。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

**REASON = 03 DATABASE NOT FOUND IN
DBDLIB - &DBNAME**

指定された DBD である &DBNAME は、RECON 内で HALDB として定義されていますが、DBDLIB 内にありませんでした。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

REASON = 04 INITALL NOT ALLOWED FOR PARTITION - &DBNAME

SYSIN ステートメントで HALDB マスター名 &DBNAME の区画である区画名が指定されていますが、それは別の SYSIN ステートメントでも指定されており、競合しています。

システムの処置: 処理は一時停止します。

ユーザーの応答: HALDB のすべての区画を初期設定 (INITALL) したい場合は、競合する区画名を指定した各ステートメントを除去します。あるいは、DFS0VRDS データ・セットから INITALL ステートメントを除去し、特定の区画を無条件に初期設定します。RECON 内に存在する、PINIT=YES (区画の初期設定が必要) として記録された追加区画を初期設定する必要がない場合は、HALDB マスター名を除去します。

モジュール: DFSUPNT0

DFS0797E The database PCB control blocks were incorrectly built for HALDB master database

説明: 指定された HALDB マスター・データベース用の PCB 制御ブロックの妥当性検査が失敗しました。これは IMS 内部エラーです。

システムの処置: 処理は一時停止します。

オペレーターの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、この問題を報告してください。

モジュール: DFSUPNT0、DFSUPNT1

```
DFS0798I   eee PROCESSING COMPLETE FOR
           jjjjjjj RC=0000
           RSN=00000000 ASCB=aaaaaaaa
           ASID=dddd
           TRC=ttttttttttttt:zzzzzzzz
```

説明: IMS 従属領域のメモリーの終わり (EOM) イベントが検出され、処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

eee SSI 呼び出しタイプ: EOM (メモリーの終わり) または EOT (タスクの終了)

jjjjjjj 従属領域ジョブ名
aaaaaaaa

従属領域 ASCB (アドレス・スペース制御ブロック)

dddd 従属領域 ASID (アドレス・スペース ID)

```
ttttttttttttt
```

トレース・ストリング (IDTEOMTR または IDTEOTTR)

```
zzzzzzzz
```

IDT エントリーのアドレス

システムの処置: EOM 処理の結果がメッセージに表示されます。領域は終了し、クリーンアップ処理が正常に実行され、領域の IDT および VTD 項目が消去されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSBCK00、DFSISI00、DFSVC100

関連資料:

➡ DFS0798I からのメモリー・コードの終了 (メッセージおよびコード)

関連情報:

『DFS0798W』

```
DFS0798W   eee PROCESSING COMPLETE FOR
           jjjjjjj RC=rrrr
           RSN=ssssssss ASCB=aaaaaaaa
           ASID=dddd
           TRC=ttttttttttttt:zzzzzzzz
```

説明: IMS 従属領域のメモリーの終わり (EOM) イベントが検出され、処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

eee SSI 呼び出しタイプ: EOM (メモリーの終わり) または EOT (タスクの終了)

rrrr 戻りコード

ssssssss 理由コード

jjjjjjj 従属領域ジョブ名
aaaaaaaa

従属領域 ASCB (アドレス・スペース制御ブロック)

dddd 従属領域 ASID (アドレス・スペース ID)

```
ttttttttttttt
```

トレース・ストリング (IDTEOMTR または IDTEOTTR)

```
zzzzzzzz
```

IDT エントリーのアドレス

システムの処置: EOM 処理の結果がメッセージに表示されます。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSBCK00、DFSISI00、DFSVC100

関連情報:

DFS0799E *rgntype* REGION *jobname* BEING
TERMINATED AT CONTROL
REGION END OF MEMORY

説明: 従属アドレス・スペース (DL/I または DBRC) が適切にシャットダウンされる前に、制御領域アドレス・スペースが終了しました。IMS はこの条件を検出し、残っている領域を異常終了させて、ユーザー異常終了コード 0150 を示します。これは異常な条件であり、FORCE コマンドが制御アドレス・スペースに対して出されたり、制御アドレス・スペースがリソース・クリーンアップを完了しないで終了したりしたときに生じる可能性があります。このメッセージを受信した場合は、共通ストレージなど、一部の IMS 割り振りリソースが、前の IMS インスタンスから解放されていない可能性があることに注意してください。この条件が生じた場合は、z/OS システムの IPL を行って、それらのリソースのリカバリーまたは解放が必要になることもあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rgntype 異常終了する領域のアドレス・スペース・タイプで、DL/I と DBRC のどちらか

jobname 異常終了する DL/I または DBRC 領域のジョブ名


システムの処置: IMS は、示されているアドレス・スペースの異常終了をスケジュールします。アドレス・スペースは異常終了コード 0150 を伴って終了します。

オペレーターの応答: IMS を再始動する前に、*rgntype* で示されている DL/I または DBRC アドレス・スペースを必ず終了させてください。領域が終了しない場合は、コンソールから領域の取り消しを試みてください。このメッセージは、IMS リソース・クリーンアップがスキップされたか、または部分的にしか完了していない可能性があることを示しています。これは、FORCE コマンドが IMS 制御領域に対して出された場合に起こります。このメッセージを受信したときは、ストレージ不足やその他のリソース関連問題が検出される場合があります。そのために z/OS システムの IPL が必要になることもあります。

問題判別: 27

モジュール: DFSRSMR0

関連情報:

 IMS 異常終了 0150

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0800I AWAITING NOTIFICATION FROM
SUBSYS *xxxxxxx*

説明: IMS が、*xxxxxxx* で指定されたサブシステムへの接続を試みました。示されているサブシステムがアクティブでなかったか、接続の試みに応答できなかったか、いずれかであったため、接続は失敗しました。示されているサブシステムによって、通知メッセージがキューに入れられました。そのサブシステムは、アクティブになって接続できるときに、内部 MODIFY コマンド (通知メッセージ) を IMS に対して発行し、そこで接続プロセスが再試行されます。

システムの処置: 示されているサブシステム用としてアタッチされた IMS サブタスク TCB は、内部 MODIFY コマンドが接続プロセスを再試行するのを待ちます。内部 MODIFY コマンドが発行されるまで、*xxxxxxx* に対する /STA Subsys は機能せず、DFS058I メッセージが CCC COMMAND COMPLETED EXCEPT *xxxxxxx* テキストと一緒に発行されます。

プログラマーの応答: 指定されたサブシステムを再始動して、内部 MODIFY コマンドを発行してください。そのとき、接続処理が再試行されます。

このエラーは、MODIFY コマンドを発行しようとしているサブシステムにコマンドを発行する権限がない場合に、発生する可能性があります。z/OS システム・ログ (SYSLOG) でセキュリティー・エラーを確認して、これが問題の原因であるかどうか判別します。これが原因である場合は、問題を訂正してから、指定されたサブシステムを再始動してください。

モジュール: DFSESI30

関連情報:

40 ページの『DFS058I』

第 20 章 DFS メッセージ DFS0801I - DFS0850W

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0801I SUBSYSTEM CONNECTION FOR xxxxxxx COMPLETE

説明: IMS は、SSM メンバーでサブシステム接続に関して定義された外部サブシステム xxxxxxxx に正常に接続しました。

システムの処置: サブシステム間接続が IMS と示されているサブシステムの間には存在します。

モジュール: DFSESI30

DFS0802I CANCEL COMMAND REJECTED BY IMS, USE /STOP REGION COMMAND TO STOP IMS DEPENDENT REGION, JOBNAME=zzzzzzzz

説明: IMS は、異常終了 0113 の可能性を避けるために、その従属領域に関するすべての CANCEL コマンドをインターセプトします。zzzzzzzz は、問題を検出したジョブ名です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: IMS 従属領域を停止したい場合は、IMS に対する適正な /STOP REGION コマンドを入力してください。

モジュール: DFSISI00

DFS0803A NO STATS RECORDS FOUND AT END OF INPUT

説明: HISAM 再ロード・モジュールは、HISAM アンロードからの入力の終了時に、統計レコードを検出ませんでした。このメッセージは、統計報告書と共に出されて、診断目的で入力から累積された統計を示します。

システムの処置: 異常終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: この問題は、マルチボリューム・セットの入力の最初のボリュームの使用に原因がある可能性があり、このために、入力の終了時に再ロード・モジュールが、統計レコードではなくデータを検出する結果になっています。

異常終了したアンロードからの入力によっても、この状態が生じる可能性があります。

問題判別: 2、3、8、18、36

モジュール: DFSURRL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0804I CANCEL COMMAND REJECTED BY IMS, /MODIFY COMMIT COMMAND IN PROGRESS, JOBNAME = xxxxxxxx

説明: IMS では、/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドの進行中に、CCTL または ODBA 接続アドレス・スペースを取り消すことはできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末)

/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) の完了後に、CANCEL コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSISI00

DFS0805I CANCEL COMMAND REJECTED BY IMS. JOBNAME=nnnnnnnn HAS ACTIVE ODBA THREADS. ODBA ID=iiiiiii

説明: IMS は、IMS に接続されているアドレス・スペースをターゲットとするすべての CANCEL コマンドをインターセプトします。アクティブ ODBA スレッドがあるため、コマンドはリジェクトされます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

ジョブまたはタスク名

iiiiiii

/DIS CCTL ALL コマンドによって戻された、IMS に対する ODBA ID。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。CANCEL コマンドが出された後は、IMS への接続が終了するまで、新しいスレッドをターゲット・アドレス・スペースから開始することはできません。

オペレーターの応答: アクティブ・スレッドが完了できるようにしてから、CANCEL コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSISI00

**DFS0806I NO DBCTL MULTI-SEGMENT
COMMAND BUFFERS AVAILABLE**

説明: データベース制御 (DBCTL) 環境では、一度に最大 8 つのコンソールから複数セグメント・コマンド処理を実行できます。このメッセージが表示されるのは、8 つのコンソールが現在複数セグメント処理状態にあるときです。

システムの処置: コマンド・セグメントは無視されます。

プログラマーの応答: 後でもう一度試行してください。繰り返し試みても失敗する場合は、他のコンソールが複数セグメント・コマンド・モードにありながら、それを認識していない可能性があります。このような他のコンソールの 1 つからコマンド認識文字 (CRC) を入力してください。

モジュール: DFSISI20

**DFS0807I DBCTL MULTI-SEGMENT
COMMAND BUFFER OVERFLOW**

説明: DBCTL 環境では、複数セグメント・コマンドは、最大 241 文字の長さになります。この文字数には、最初のセグメントの先行コマンド認識文字 (CRC) は含まれますが、それ以外のセグメントの CRC は含まれません。コンソールから入力されたセグメントは内部的に連結されます。コマンドの連結セグメントが最大で 241 文字を超えると、このメッセージが表示されます。

システムの処置: コマンドが最大長を超える原因となったセグメントは廃棄されます。それよりも前のセグメントは、すべて内部的に連結されたままになります。

プログラマーの応答: 最終セグメントを短くして入力することで、進行中のコマンドを終了してください。コンソールで単一の CRC を入力すれば、有効な最終セグメントになります。

モジュール: DFSISI20

**DFS0808W IMS region region-id (in IMS back-end
aaaaaaaa) has been in
wait-syncpoint | wait-RRS status for
OTMA client yyyyyyyy and tpipe
zzzzzzzz for xx minutes.**

説明: メッセージで示された領域は、xx 分間、wait-syncpoint 状態でした。メッセージ内の情報は次のとおりです。

aaaaaaaa

IMS 名

yyyyyyyy

OTMA クライアント名

zzzzzzzz

トランザクション・パイプ名

xx 領域が待ち状態であった時間 (分数)

システムの処置: 必要な ACK または NAK 応答が受信されるまで、または待機を停止するための IMS コマンドが発行されるまで、IMS 領域は wait-syncpoint 状態のままです。

プログラマーの応答: OTMA クライアント・アプリケーションを調べて、必要な ACK または NAK が IMS OTMA に送信されない理由を見つけます。

モジュール: DFSYMEM0

**DFS0809E IMS region region-id (in IMS back-end
aaaaaaaa) has timed out for OTMA
client yyyyyyyy tpipe xxxxxxxx for nn
seconds.**

説明: OTMA は、CM1 メッセージについて従属領域で実行されているトランザクションのタイムアウトを検出しました。メッセージ内の情報は次のとおりです。

aaaaaaaa

IMS 名

yyyyyyyy

OTMA クライアント名

xxxxxxx

トランザクション・パイプ名

nn 領域が待ち状態であった時間 (秒数)

システムの処置: MPP 領域の場合、IMS はトランザクションを異常終了させ、異常終了 0119 を発行します。


IFP 領域の場合、処置は、共用キュー環境によって異なります。

- 共用キューがないか、または共用キューはあるものの、ローカル・トランザクション (IMS の処理で開始する) の処理中である場合、異常終了は発行されません。IMS は更新をバックアウトし、割り振り解除異常フローをエンド・クライアントに送信します。
- 共用キュー環境で作動し、バックエンドとして処理する (メッセージの発信元は処理中の IMS ではない) IFP 領域の場合、異常終了 0119 が発行されます。

プログラマーの応答: OTMA クライアント・アプリケーションを調べて、必要な ACK または NAK が IMS OTMA に送信されない理由を判別します。

モジュール: DFSYMEM0

関連情報:

 IMS 異常終了 0119

**DFS810A IMS (DCCTL) READY *yyyydddllhmmssst*
*jobname.stepname***

説明: IMS 初期設定が正常に完了しました。適切な /NRESTART または /ERESTART コマンドを入力して、必要な再始動処理が何かを IMS に知らせる必要があります。メッセージに (DCCTL) が表示されているときは、DCCTL 環境が初期設定されています。

システムの処置: /ERESTART または /NRESTART コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) /ERESTART または /NRESTART コマンドを入力してください。

モジュール: DFSCINB0

**DFS0811A UNABLE TO OBTAIN GGG
GIGABYTES OF 64-BIT STORAGE
FOR THE ACB POOL. REASON=xxxx**

説明: ACBIN64 パラメーターを指定して、ACB メンバーの 64 ビット・ストレージ・プールを作成しました。ストレージ要求のサイズは GGG ギガバイトです。IMS 制御領域の初期設定で、この 64 ビット・ストレージ・プールの取得を試みましたが、xxxx に示す理由によりストレージを使用できませんでした。

システムの処置: IMS 初期設定は、64 ビット・ストレージに ACB メンバーがない状態で続行されます。

オペレーターの応答: 理由コードについては、以下の z/OS の資料で説明されています。


z/OS MVS プログラミング: アセンブラー・サービス解説書第 2 巻 (IARR2V-XCTLX) (SA88-8669)

z/OS MVS Authorized Assembler Services Reference LLA-SDU (SA22-7611)

理由コードに応じて、適切な対応を判別してください。使用可能なストレージが不足していたことを理由コードが示している場合、使用可能な 64 ビット・ストレージの量を確認し、要求される量を調整してください。

問題判別: 1、3、4、5、36

関連資料:

 z/OS: IARST64 64 ビット・ストレージ・サービス

 z/OS: IARST64 の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS812I PERMANENT I/O ERROR ON
JOBLIB/LPALIB**

説明: PDS ディレクトリーで JOBLIB または SYS1.LPALIB を検索している最中に、永続入出力エラーが発生しました。

プログラマーの応答: 領域に関する JOBLIB 割り振りが正しいか確認してください。これが正しい場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSIINI0


**DFS813I BLDL FAILED FOR FOLLOWING
JOBLIB/LPALIB**

説明: PDS ディレクトリー内で JOBLIB または SYS1.LPALIB を検索しているとき、IMS をサポートするために必要なモジュールを検出できませんでした。モジュール名がメッセージの後に続いています。

オペレーターの応答: IMS 担当のシステム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSIINI0

関連資料:

 z/OS: BLDL - ディレクトリー項目リストの作成 (BPAM)

**DFS814I INITIALIZATION FAILED FOR
FOLLOWING LINEGROUPS**

説明: IMS は、IMS 通信機能用の回線グループを初期設定している最中に、1 つ以上の回線グループを初期設定できないことを検出しました。かかわりのある回線グループの DD 名、およびそれらの回線グループが初期設定できなかった理由がリストされているメッセージが、このメッセージの後に続きます。正常に初期設定できなかった理由としては、次のような場合が考えられます。

ddname 理由

ddname.ALLOC

この DD ステートメントに割り振られている装置タイプに誤りがあります。DD 名がスプール装置を表している場合は、回線グループ内の少なくとも 1 つの DD 名として、JES SPOOL DATASET (SYSOUT) が誤って指定される可能性があります。指定に誤りがある DD 名がたとえ 1 つしかない場合でも、回線グループ内のそれぞれの DD 名ごとに、このメッセージが 1 回ずつ出されます。

ddname.DUMMY

ある回線グループ内の最初のステートメントが DD DUMMY として指定されました。

ddname.NOFND

DD ステートメントが存在していませんでした。

ddname.NOTSP

IMS 発行の入出力操作が PDSW、HFS、またはその他の拡張フォーマット・データ・セットをいずれもサポートしません。

ddname.STORG

サブプール 0 に十分なストレージがないので、EXCP プロセスを初期設定できません。

ddname.UNIT

DD ステートメントが有効な CTC 装置を指しません。

オペレーターの応答: (マスター端末) 初期設定されなかった回線グループが意図的に初期設定されなかったのか確認してください。初期設定されている必要がある回線グループが初期設定されていなかった場合は、このメッセージを IMS 担当のシステム・プログラマーに通知して、その注意を喚起する必要があります。

モジュール: DFSIINB0

DFS815I UNABLE TO OPEN LINEGROUPS

説明: 制御領域の初期設定中、通信回線グループがいずれもオープンできませんでした。いずれの回線グループに関しても、割り振りが不適正であるか、割り振り不足である可能性があります。

プログラマーの応答: IMS システム定義のステージ 2 からの出力に示されている正しい DD 名を使用して、回線グループが正しく割り振られるようにしてください。

モジュール: DFSIINB0

DFS816A NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*. REQUEST DID NOT COMPLETE IN 15 SECONDS. REPLY 'POST' OR 'RETRY'.

説明: 装置アドレスが *aaa* の 7770 回線には NOP 要求が発行されていましたが、これが初期設定中に完了できませんでした。

システムの処置: 応答を待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 応答は大文字でも小文字でもかまいません。応答が POST であれば、回線が使用不能としてポストされ、応答が RETRY であれば操作が再試行されます。

モジュール: DFSIIO30、DFSXCIC0、DFSXLGI0

DFS817A NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*. CONTROL IS NOT OPERATIONAL. REPLY 'POST' OR 'RETRY'.

説明: 回線アドレスが *aaa* の 7770 制御装置がオフラインです。

システムの処置: 応答を待ちます。

オペレーターの応答: 応答は大文字でも小文字でもかまいません。応答が POST であれば、回線が使用不能としてポストされます。操作が再試行される必要がある場合は、RETRY を応答する前に、制御装置をオンラインにしてください。応答が RETRY であれば、操作は再試行されます。

モジュール: DFSIIO30

DFS818A NOP ISSUED TO 7770-3 LINE *aaa*. RESULT WAS I/O ERROR *cccc,ss,ee,ii*. REPLY 'POST' OR 'RETRY'.

説明: 入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

コード	意味
<i>aaa</i>	回線制御装置アドレス
<i>cccc</i>	CSW 状況
<i>ss</i>	センス状況
<i>ee</i>	DECBC DECERRST フィールド
<i>ii</i>	IOB IOBINCAM フィールド

システムの処置: 応答を待ちます。

オペレーターの応答: 応答は大文字でも小文字でもかまいません。応答が POST であれば、回線が使用不能としてポストされ、応答が RETRY であれば操作が再試行されます。

モジュール: DFSIIO30

DFS819I YOUR REPLY TO THE LAST MESSAGE WAS INVALID. PLEASE TRY AGAIN

説明: オペレーターがメッセージ DFS816A、DFS817A、DFS818A のいずれか 1 つに対して行った応答が無効でした。

オペレーターの応答: 上記の該当するメッセージが再発行されるのを待った上で、応答を再試行してください。

モジュール: DFSIIO30

関連情報:

『DFS816A』

『DFS817A』

**DFS0820W PARTITION INITIALIZATION
ERROR ENCOUNTERED FOR
MASTER DATABASE *mdbname*, DLI
STATUS CODE= *dlistatus***

説明: 区分データ・セットのすべての初期設定を妨げるエラーが検出されました。

システムの処置: 処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されています。

ユーザーの処置: DBDGEN にエラーがないかチェックしてください。HALDB マスター区分データ・セットのすべてが正しく定義されているか検証してください。

モジュール: DFSURPR0

**DFS821I NO DATA BASE DIRECTORIES
DEFINED**

説明: システム定義時に、データベースがシステムに対して定義されませんでした。したがって、データベース・ディレクトリーの初期設定は必要ありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSIIND0

**DFS822I NO ALLOCATION FOR DDN
'IMSACBx' IN (CTL|DLS) ADDRESS
SPACE.**

説明: ACBLIB データ・セットは、IMS の始動に使用される JCL で定義する必要があります。ACBLIB の定義に使用される DDNAME は、IMSACBA および IMSACBB です。x は、A と B のいずれかで、欠落している JCL DD ステートメントを示します。DLS がこのメッセージに含まれているのは、エラーが DL/I 従属アドレス・スペースで検出された場合です。DL/I 従属アドレス・スペース環境では、制御領域と JCL の両方で ACBLIB を定義する必要があります。

システムの処置: IMS は、異常終了 0071 または 0821 で終了します。

プログラマーの応答: JCL を確認して、IMS システム定義情報に応じた適切な割り振りを確保してください。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

➡ その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0071

➡ IMS 異常終了 0821

**DFS823I UNABLE TO OPEN DDN 'IMSACBx'
IN (CTL|DLS) ADDRESS SPACE.**

説明: 永続入出力エラーが OPEN 時に発生した可能性があります。アクティブであるのが IMSACBA か IMSACBB かに応じて、x=A または B になります。DLS がこのメッセージに含まれているのは、エラーが DL/I 従属アドレス・スペースで発生した場合です。

システムの処置: IMS は、異常終了 0071 または 0821 で終了します。

プログラマーの応答: DD 名 IMSACBx が適切に割り振られ、IMS システム定義時に指定されたデータ・セットが存在するか確認してください。x=A または B です。

問題判別: JCL を確認して、IMS システム定義情報に応じた適切な割り振りを確保してください。

モジュール: DFSBIND0、DFSIIND0

関連概念:

➡ その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0071

➡ IMS 異常終了 00821

**DFS824I DFS824I PDS DIRECTORY READ
ERROR DDN 'IMSACB ' RC=xx
RSN=yy**

説明: DD 名 IMSACBx に関して PDS ディレクトリーの読み取りを試みている間に、入出力エラーが発生していました。BLDL マクロへの呼び出しからの戻りコードは、xx として表示され、理由コードは yy です。

システムの処置: IMS は、異常終了 0071 または 0821 で終了します。

プログラマーの応答: JCL を確認して、IMS システム定義情報に応じた適切な割り振りを確保してください。

問題判別: メッセージ DFS823I を参照してください。

モジュール: DFSBIND0、DFSRDB30

関連概念:

➡ その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

➡ z/OS: BLDL の完了コード

関連情報:

263 ページの『DFS823I』

➡ IMS 異常終了 0071

➡ IMS 異常終了 0821

**DFS825I BLDL FAILED FOR ALL DEFINED
DATA BASE DIRECTORIES**

説明: IMS システム定義時に名前が指定されたデータベースの有効なディレクトリー・エントリーを、DD 名 IMSACB に割り振られているデータ・セットで検出できませんでした。

システムの処置: 動的リソース定義 (DRD) が使用可能でない場合、IMS は異常終了コード 0071 により終了します。DRD が使用可能である場合、IMS は再始動を続行しますが、プログラム (PDIR) は処理しません。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 定義されているシステムの少なくとも 1 つの DBDGEN が実行され、DD 名 IMSACB によって定義されている ACBLIB データ・セット内にあるか確認してください。DBD が IMSACB ライブラリーにある場合、IMSACB ライブラリーが IMS 実行ライブラリーと同じ IMS レベルで作成されていることを確認してください。

問題判別: メッセージ DFS826I に、ディレクトリー・エントリーが無効であった可能性のある理由のリストが含まれています。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

➡ その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

➡ z/OS: BLDL の完了コード

関連情報:

『DFS826I』

➡ IMS 異常終了 0071

**DFS826I BLDL FAILED FOR FOLLOWING
DBDs:**

または

xxx DBD ERRORS SENT TO JOB LOG

264 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

または

xxx DBD ERRORS SUPPRESSED

説明: ACBLIB で検出されなかったり、要件に適合しなかった DBD 名がリストされるのに応じて、このメッセージの最初の形式が繰り返されます。それぞれの名前の後に理由が続いています。

名前 意味

NOFND

検出されませんでした。

NOTPS

DBD が IMS システム定義時に PSB として定義されました。

NOBUF

バッファー・サイズがゼロでした。

ALIAS エイリアス名は使用できません。

NOTDM

PSB が IMS システム定義時にデータ管理ブロックとして定義されました。

NOTCP

互換性がありません。

指定されたデータベースまたは PSB を使用するプログラムもトランザクションも、IMS による実行のためにスケジュールされることはありません。

このメッセージの 2 番目の形式で、xxx は DBD エラーの数です。

DFSDFxxx PROCLIB メンバーで MSG0826=SUPPBLDL を指定した場合、IMS はこのメッセージの 3 番目の形式を発行します。DFS826I メッセージは、ジョブ・ログには送信されません。

システムの処置: CTX と CTL のいずれかのタイプの IMS 領域で実行の場合は、IMS は実行を継続します。DBB タイプの IMS 領域での実行の場合は、IMS は異常終了して、異常終了コード 0821 が示されます。

プログラマーの応答: このメッセージが最初の形式の場合は、処置は必要ありません。指定されたデータベースまたは PSB を使用するプログラムもトランザクションも、IMS による実行のためにスケジュールされることはありません。NOTCP の場合は、ACBGEN が行われる必要があります。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、すべての DFS826I メッセージに関するジョブ・ログを参照してください。

問題判別: IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール: DFSBIND0、DFSIIND0

関連情報:

IMS 異常終了 0821

**DFS827I DYNAMIC PSB *psbname* BLDL
FAILED-aaaaa**

説明: メッセージで *psbname* によって示されている PSB の BLDL が、メッセージ・テキストの *aaaaa* を置き換える、次のいずれかのコードで示される理由で失敗しました。

名前 意味

IOERR

ディレクトリーの読み取りでの入出力エラー

NOFND

メンバーが検出されませんでした。

CONCT

メンバーが最初の連結内にあります。

ALIAS メンバーが別名です。

NOTPS

メンバーが実際に PSB ではありません。

NOBUF

使用可能なバッファ・サイズがありませんでした。

NOTCP

互換性がありません。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: 指定されたデータベースまたは PSB を使用するプログラムもトランザクションも、IMS による実行のためにスケジュールされることはありません。

問題判別: IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール: DFSDBLI0

**DFS828I WARNING: xxxx POOL NOT
CREATED**

説明: *xxxx* という名前のプールは作成されませんでした。EXEC ステートメントの IMS システム定義値とオーバーライド値の両方が、指定されたプールについてはゼロであるからです。

システムの処置: IMS は初期設定を続けますが、IMS 実行中、指定されたプールが存在することはありません。

プログラマーの応答: 指定されたプールが、IMS システムの構成に必要なでないことを確認してください。

問題判別: 1、8、10

モジュール: DFSDOBIO、DFSIINS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS829I NO PROGRAM DIRECTORIES
DEFINED**

説明: システム定義時に、システムに対して定義されたプログラムはありませんでした。したがって、プログラム・ディレクトリーの初期設定は必要ありませんでした。また、データベース・ディレクトリーの初期設定も行われません。

問題判別: システム定義ステージ 2 出力をチェックしてください。

モジュール: DFSIIND0

**DFS830I BLDL FAILED FOR FOLLOWING
PSBs;**

または

xxx PSB ERRORS SENT TO JOB LOG

または

xxx PSB ERRORS SUPPRESSED

説明: ACBLIB で検出されなかったり、要件に適合しなかった PSB 名がリストされるのに応じて、このメッセージの最初の形式が繰り返されます。それぞれの名前の後に理由が続いています。メッセージ DFS826I を参照してください。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、検出された PSB エラーが 10 を超えています。 *xxx* が検出された PSB エラーの数です。

システムの処置: CTX と CTL のいずれかのタイプの IMS 領域で実行の場合は、IMS は実行を継続します。DBB タイプの IMS 領域での実行の場合は、IMS は終了し、異常終了コード 0821 が示されます。

プログラマーの応答: このメッセージの最初の形式では、指定された PSB を使用するプログラムまたはトランザクションは、IMS による実行のためにスケジュールされないことに注意してください。

このメッセージが 2 番目の形式の場合は、すべての DFS830I メッセージに関するジョブ・ログを参照してください。

DFSDF*xxx* PROCLIB メンバーで MSG0830=SUPPBLDL を指定した場合、IMS はこのメッセージの 3 番目の形式を発行します。DFS830I メッセージは、ジョブ・ログには送信されません。

モジュール: DFSBIND0、DFSIIND0

関連資料:

➡ z/OS: BLDL の完了コード

関連情報:

264 ページの『DFS826I』

**DFS831I BLDL FAILED FOR ALL DEFINED
PROGRAM DIRECTORIES**

説明: IMS システム定義時に定義されたプログラムの有効なディレクトリー・エントリーが、DD 名 IMSACB に割り振られている ACBLIB データ・セットで検出されませんでした。

初期設定中に、IMS システム定義時に定義されたか CICS プログラム・ディレクトリー (PDIR) で定義された PSB がロードされ、それらの妥当性が検査されま
す。有効な PSB が少なくとも 1 つは、ACBLIB で検出される必要があります。PSB がまったく検出されなかったり、有効な PSB がまったく検出されなかった場合は、メッセージ DFS831I が出力されます。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 実行されようとしていたメッセージ領域がなかったか確認してください。これがあった場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

プログラマーの応答: 割り振りが適正か、JCL をチェックしてください。さらに、非 DOPT PSB の PSBGEN が少なくとも 1 つは実行され、PSB が DD 名 IMSACB で定義された ACBLIB データ・セット内に置かれているか確認してください。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

➡ その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0071

**DFS0832I ABEND U^{wwww} REASON CODE ^{xxxx}
 ^{yyyy} PARTITION | DATABASE
 zzzzzzzz**

説明: IMS 異常終了の原因となった問題のデバッグを支援するために、このメッセージを使用します。このメッセージは、モジュール DFSDLA00 または DFSDMP0によって異常終了条件が検出されたときに発行されます。この条件が発生した原因としては、次のいずれかが考えられます。

- 区画の選択または妥当性検査でのゼロ以外の戻りコード。
- モジュール DFSDLR00、DFSDDL00、DFSDXMT0、DFSDDL00、DFSBOI0、DFSFXC50、または DFSRCHB0 によって設定された疑似異常終了。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

wwww 疑似異常終了コード。

xxxx 次のいずれかです。

- HALDB 異常終了の理由コード。非 HALDB 異常終了の場合は N/A。
- 以下のいずれかの IMS 異常終了が検出されました。
 - 0776
 - 0880
 - 3303
 - 3498

これらの異常終了の場合、理由コードは *yyyy* で、これは HALDB の処理中に検出された問題に関連するコードです。

yyyy *xxxx* (異常終了) が上記のいずれでもない場合、*yyyy* の値は N/A です。そうでない場合は、次のいずれかの理由コードです。

- 4001 これ以上の区画は定義されていない
- 4014 HALDB は、DFSDF^{xxx} PROCLIB メンバーでは非登録と定義されていますが、RECON データ・セットに登録されていることが判明しました。
- 4020 DB 許可エラー (データが使用不能)
- 4025 DB アンロード処置エラー
- 4026 DB 初期設定処置エラー
- 4032 マイグレーション済みデータ・セットであるために区画は利用不可。
- 4059 アクセス・レベルが意図レベルと互換性がない
- 8001 ターゲット区画に初期設定が必要
- 8010 ターゲット区画が検出されない
- 8011 区画への無効なキーが検出されました。
- 8031 オープン DMB 障害
- 8051 ユーザー区画の選択が失敗
- C001 非区画 DB アクセス
- C002 区画がアクティブでない
- C003 区画が停止した
- C004 区画構造が終了している
- C005 区画構造が初期設定されていない
- C006 区画の構造再作成が失敗
- C009 ILDS DSG が提供されていない
- C010 構造状況が異常
- C030 許可理由コードが無効

- C031 区画オープン・エラー
 C040 区画 DDIR が無効
 C041 区画セット操作が無効
 C042 PSETE ストレージの割り振り不能
 C043 区画セットの選択処置が無効
 C050 ユーザー選択出口が呼び出されなかった
 C060 機能コードが無効
 C070 バッファ・ハンドラーのバイト位置指定が失敗
 C071 バッファ・ハンドラーのキーによる位置指定が失敗
 C072 間接リスト・データ・セット (ILDS) に突き合わせて処理中にエラーが発生
 C073 バッファ・ハンドラーの変更マークが失敗
 C074 バッファ・ハンドラーのバイト位置指定および変更マークが失敗
 C075 IRLM ルート・ロック要求 (GRID) が失敗
 C076 BCB ストレージを取得する要求 (BCBGET) が失敗
 C077 OLR カーソルのリフレッシュ要求が失敗

PARTITION | DATABASE

HALDB の場合は PARTITION。HALDB 以外の場合は DATABASE。

zzzzzzzz

次のいずれかの DBD 名。

- HALDB 区画 (HALDB partition)
- HALDB マスター (HALDB master)
- 非 HALDB データベース

または NOTAPPLI (DBD が使用可能でない場合)

システムの処置: アプリケーション・プログラムは終了しました。

プログラマーの応答: アプリケーションが終了する原因になった状態を訂正してください。

モジュール: DFSDLA00、DFSFDMP0

**DFS833I INSUFFICIENT (CTL
 PRIVATE|COMMON SYSTEM)
 MEMORY FOR RESIDENT INTENT
 LISTS**

説明: ストレージが不十分で、意図リストを常駐にできませんでした。要求されたストレージは、領域内のスペースと共通システム域 (CSA) 内のスペースのいずれかでした。後者の場合は、DL/I 従属アドレス・スペースが選択されているという含意があります。

システムの処置: 意図リストは常駐にされていません。

プログラマーの応答: メッセージに「private」と指定されている場合は、IMS 領域サイズを大きくしてください。

モジュール: DFSIIND0

**DFS834I INSUFFICIENT (COMMON
 SYSTEM|DLS PRIVATE) MEMORY
 FOR RESIDENT PSBS**

説明: ストレージが不十分で、PSB を常駐にできませんでした。要求されたストレージは、共通システム域 (CSA) と DL/I 従属アドレス・スペース専用メモリー (DLS) のいずれかでした。

システムの処置: PSB は常駐にされていません。

プログラマーの応答: スペースが取得されるエリアでのスペースを広げるか、常駐にする PSB の数を減らすか、いずれかにしてください。

モジュール: DFSIIND0

**DFS835I INSUFFICIENT (COMMON
 SYSTEM|DLS PRIVATE) MEMORY
 FOR RESIDENT DMBS**

説明: ストレージが不十分で、示されているデータ管理ブロックを常駐にできませんでした。要求されたストレージは、共通システム域 (CSA) と DL/I 従属アドレス・スペース専用メモリー (DLS) のいずれかでした。

システムの処置: どのデータ管理ブロックも常駐にできませんでした。

プログラマーの応答: スペースが取得されるエリアでのスペースを広げるか、常駐にするデータ管理ブロックの数を減らすか、いずれかにしてください。

モジュール: DFSIIND0

**DFS836I THE FOLLOWING SHARED DMBS
 NOT FOUND IN THE LIBRARY**

説明: データベース・ディレクトリーの初期設定中に、1 つ以上の共用索引データ管理ブロックのエントリーが ACBLIB で見つかりませんでした。影響を受けたエントリーは、ヘッダーの後にリストされています。

システムの処置: リストされているデータベースは、すべて永続的に停止され、初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答: IMS ACB ユーティリティを使用して、ACBLIB 内にある影響を受けたエントリーを再構成してください。

モジュール: DFSIIND0

DFS837I SHARED INDEX NOT DEFINED
DMB dbdname

説明: 指定されたデータベースは、ACBLIB 内の共用索引 DMB の一部でしたが、IMSGEN プロセス中に IMS システムに対して定義されていませんでした。

システムの処置: 共用索引グループを形成するデータベースすべてが永続的に停止され、初期設定は続行されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答: ACBLIB にある影響を受けたエントリーを訂正してください。

モジュール: DFSIIND0

DFS838I I/O ERROR READING SHARED
INDEX LIST FOR DMB dbdname

説明: 指定されたデータベースは共用索引でした。ACBLIB から索引リストを読み取ろうと試みている最中に、永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置: 影響を受けたデータベースが永続的に停止され、初期設定は続行されます。


オペレーターの応答: システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答: 入出力エラーを引き起こす条件を訂正してください。

問題判別: 入出力エラーの原因に関する情報がないか、システム・コンソールかログ・レコード、またはその両方を調べてください。

モジュール: DFSBIND0、DFSIIND0

関連概念:

 その他のシステム・データ・セット障害 (オペレーションおよびオートメーション)

DFS0839I DATA BASE BUFFER POOL NOT
PURGED

説明: 次の理由により、異常終了後、データベース・バッファはページされませんでした。

- 異常終了時に DL/I がアクティブだった。
- STAE 作業域が指定されていなかった。
- PSB には更新意図があったが、ログが DD であった。
- バッファ・ハンドラーがページ呼び出しに対して示した戻りコードに誤りがあった。

- 保管域に関する GETMAIN が失敗した。
- バッファ・ハンドラーがストレージになかった。

システムの処置: IMS が異常終了します。

モジュール: DFSFLST0

DFS0840I INDEX ERROR (dbdname) (status code)
(first 45 bytes of key)

説明: エラー条件が索引保守機能によって検出されました。メッセージには、*dbdname*、*status code*、およびキーの最初の 45 バイトが示されています。状況コードは、NE、NI、NO、BLANK のいずれかです。

コード 意味

NE 索引レコードを削除する試みがなされましたが、レコードが存在しませんでした。副次索引がデータベースとして処理され、一部の副次索引入力削除された場合は、これは有効な条件である可能性があります。ソース・セグメントが削除され、その索引入力が存在していない場合は、NE 状況コードが結果になります。DFS0840I メッセージが送信されるのは情報目的ですが、これが有効な条件である可能性があります。BLANK 状況コードがアプリケーション・プログラムに戻されます。DL/I 状況コード情報の中の NE 状況コードの説明を参照してください。

DFSVMxx PROCLIB メンバーの OPTIONS ステートメントで ISSUE840=NO を指定することによって、DFS0840I メッセージを抑止できます。

NI データ・セットが開けなかったか、固有の副次索引に重複セグメントがあったか、いずれかです。データ・セットが開けなかった場合は、このメッセージの前に DFS0730I メッセージが出され、このメッセージの後で 0826 疑似異常終了または実異常終了が生じます。このメッセージの前に DFS0730I メッセージが出ていない場合は、副次索引に重複セグメントがあります。呼び出しに関する以前の変更のバックアウトが可能であれば、このメッセージは抑止されません。アプリケーション・プログラムに戻されるのは、NI 状況だけです。呼び出しに関する他の変更のバックアウトが不可能な場合、または DFSVMxx メンバーの OPTIONS ステートメントで ISSUE840=YES が指定されている場合は、このメッセージが表示され、0828 疑似異常終了または実異常終了が続きます。追加情報については、記載の DL/I 状況コード情報の中の NI 状況コードの説明を参照してください。

呼び出しに関する以前の更新のバックアウトをサポートしないのは、次の条件です。

- 実行環境がバッチで、JCL EXEC ステートメントの PARM フィールドで BK0=YES を指定した DASD ログを使用していない場合です。

NO 入出力エラーが検出されました。このメッセージには、エラーを記述する VSAM エラー・メッセージが先行しているはずですが、データベース・リカバリーが必要な場合があります。NO 状況がアプリケーション・プログラムに戻されます。呼び出しに関する以前の更新のバックアウトが可能（下記の詳細を参照）であれば、このメッセージは抑止されます。呼び出しに関する以前の更新のバックアウトが不可能な場合は、このメッセージが表示され、0826 疑似異常終了または実異常終了が続きます。DL/I 状況コード情報の中の NO 状況コードの説明を参照してください。

BLANK

予期しない戻りコードが、バッファ・ハンドラーに対する呼び出しから受信されました。この場合は、このメッセージの後に 0825 0826 または 0829 疑似異常終了または実異常終了が続くはずですが、

システムの処置: 上記のとおりです。

プログラマーの応答: 状況コード記述または異常終了の説明を参照してください。

問題判別: 4、36

モジュール: DFSDXMT0

関連資料:

➡ DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

➡ IMS 異常終了 0825

➡ IMS 異常終了 0826

➡ IMS 異常終了 0829

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0841I SAF INTERFACE ERROR. SAF RC=nn, RACROUTE=racf-function, RETURN=(yy,zzz)

説明: RACROUTE 呼び出しが、初期設定処理中に、SAF インターフェースから障害戻りコード (RC=nn) を受信しました。障害のある RACROUTE 機能が racf-function でした。セキュリティ・プロダクト戻り

コードが yy で、理由コードが zzz です。

システムの処置: エラーが制御領域で発生した場合、IMS 初期設定は異常終了 0071 で終了します。エラーが DLISAS 領域で発生した場合は、IMS 初期設定は異常終了 0029 で終了します。

プログラマーの応答: これが RACF のインストールに関する問題である場合は、「z/OS Security Server RACROUTE マクロ解説書」(SA88-8621) で、racf-function の戻りコードと理由コードを分析してください。

オンライン IMS システムに対するすべての RACF 検査をバイパスするには、「z/OS MVS 初期設定およびチューニング 解説書」(SA88-8564) で説明されているように、DFSMVRC0 の z/OS プログラム特性テーブルを変更してください。

問題判別: 1、3、4、6

モジュール: DFSXRAC0

関連資料:

➡ z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: z/OS システム調整

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0029

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0842I OSAM DATASET CANNOT BE EXTENDED, REASON=X, Z,dbdname ddname, dsname

または

OSAM DATA SET NEAR MAX EXTENTS (NN OF 60), RSN=X, Z, dbdname ddname, dsname

説明: OSAM は、指定されたデータ・セットを拡張できなかったか、データ・セットに割り振られたエクステンツの総数が 55 を超えて、最大許容数の 60 に近づいています。それぞれに DFS0842I という番号が付いた 2 行メッセージが出されます。1 行目には、データ・セットを拡張できない理由、またはこれまでに割り振られたエクステンツの総数が示されます。dbdname も含まれています。2 行目には、DD 名と dsname が含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

X エラー条件を示す理由コード

Z 16 進数のエラー・サブコード

dbdname

データベース名

ddname データ定義名

dsname データ・セット名

次の理由コード (X) のいずれかで、エラー条件を識別しています。説明の先頭のワードは、エラーが検出されたラベル名です。条件 1、2、および 3 は、データ・セットが別のサブシステムで拡張されたとき、データ共有環境で生じるだけです。エラーのあるサブシステムでは、同様の拡張は実行できませんでした。

X 理由コード

エラー条件

- 1 DSEXTEND は、このデータ・セットの DCB で、拡張不能のマークが付けられていました。
- 2 DSXT0350 新規エクステントのボリューム通し番号が、拡張サブシステムによってブロードキャストされたボリューム通し番号と一致しません。
- 3 DSXT0360 データ・セットに関して OSAM TCLOSE 機能を処理している最中に、エラーが発生しました。TCLOSE は、新しいエクステント情報を獲得するために、データ・セットをクローズおよび再オープンすることです。
- 4 LCREAT10 エラー条件が LCTSRCH ルーチンから戻されました。この問題は、データ・セットに対する入出力エラーによってもたらされた可能性があります。
- 5 LCREAT30 OSAM ボリューム終了ルーチンを使用してデータ・セットの別のエクステントを取得しようとした結果、次の 2 つの状態のいずれかになりました。
 - ボリューム終了ルーチンが失敗しました。データ・セットは拡大できず、別の拡張は割り振れませんでした。
 - ボリューム終了ルーチンは正常に実行されましたが、使用されたエクステントの総数が 55 を超えて、最大許容数の 60 に近づいています。
- 6 LCREAT40 要求されたブロック用としてバッファを取得する試みが失敗しました。この問題は、同じバッファのセットを共用する OSAM データ・セットのいずれかに対する入出力エラーによってもたらされた可能性があります。
- 7 LCREAT70 論理シリンダー・フォーマット操作中に、入出力エラーが受信されました。

モジュール DFSAOSF0 または DFSAOS10 によって Z サブコードが DCBWRK1+3 で戻されます。メッセージのこのサブフィールドが使用されるのは、メッセージに理由コード 5 が含まれる場合のみです。

Z サブコード (16 進数) - モジュール DFSAOSF0 で設定: 意味

- 01 使用不能のマークが付いたデータ制御ブロック (DCB)。
- 02 DCB は DD ダミー・データ・セットです。
- 03 DCB がオープンされていません。
- 04 データ拡張ブロック (DEB) が最大サイズに達しました。
- 05 データ・セットが拡張可能でないか、または 2 次割り振りが許可されていません。
- 06 ポリウム不足。
- 07 現行ボリューム・エクステントの探索中にエラーが発生しました。OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 になります。
- 08 OSAM データ拡張ブロック (DEB) から MVS DEB への変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 になります。
- 09 OSAM DEB の構成中に、エラーが発生しました。OSAMDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 4 になります。
- 0A DEB/DCB 検証チェックが失敗しました。
- 0B この呼び出しは EOVS 呼び出し要求に対するものではありません。
- 0C 現行ボリュームの拡張を探索中にエラーが発生しました。OSPLIT サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になります。
- 0D OSAM データ拡張ブロック (DEB) から MVS DEB への変換中にエラーが発生しました。OSDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になります。
- 0E OSAM DEB の構成中に、エラーが発生しました。OSAMDEB サブルーチンからの戻りコードは、レジスター 15 の 8 になります。
- 0F キャプチャーされた装置制御ブロック (UCB) の解放エラー。

Z サブコード (16 進数) - モジュール DFSAOS10 で設定: 意味

- 20 ボリュームの終わり (EOV) がすでに保留中。
- 21 入出力エラーが検出されました。
- 22 DCB は DD ダミー・データ・セットでした。これは、DFSAOS10 によって検出されました。

23 DCB がオープンされていませんでした。これは、DFSASO10 によって検出されました。

24 新規エクステントの獲得エラー。

システムの処置: 条件 1、2、または 3 の場合は、アプリケーション・プログラムは疑似異常終了して、異常終了コード 0842 が示されます。それ以外の条件の場合は、処理は続行され、メッセージ DFS0845I が後に続く可能性があります。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーかデータベース管理者に、この状態を通知してください。

プログラマーの応答: 以下の処置を行ってください。

- データ・セット拡張エラー 1、2、または 3 がデータ共用環境で発生した場合は、データベースのすべてのボリュームがサブシステム間で共用され、すべてのボリュームへのパスが存在するか確認してください。
- データ・セット拡張エラー 5 が発生した場合は、データベース再編成またはより大きいスペース・パラメーターを指定したデータベース・リカバリーによって、追加スペースを加えるか、または DASD エクステントの数を減らしてください。拡張エラー 5 の後で、OSAM によりサポートされるエクステントの最大数を超過して拡張するため、OSAM データ・セットを開くことができない場合には、システムに未使用エクステントの解放を許可するためにそのデータ・セットを開くときに、中間ユーティリティーが必要になることがあります。例えば、ADRDSSU ジョブを RELEASE で使用するか、またはダミーの入力データ・セットおよび出力として OSAM データ・セットと一緒に、DISP=MOD および SPACE=(xxx,(primary,secondary),RLSE) を指定して、IEBGENER などのコピー・ユーティリティーを使用します。拡張について詳しくは、アクセス方式としての OSAM の使用 (データベース管理)を参照してください。
- データ・セットのエクステントの総数が 60 に近づいた場合は、データベースを再編成して、スペースを追加するか、DASD エクステントの数を減らしてください。
- 入出力エラーが検出された場合は、メッセージ DFS0451I または DFS0451A で定義されている処置に従ってください。


問題判別: 3、4、5、17

モジュール: DFSDBH40

関連情報:

137 ページの『DFS0451I』

137 ページの『DFS0451A』

 IMS 異常終了 0842

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0843I *dbname* **MAXIMUM NUMBER OF BYTES REACHED, DDNAME=*ddname***

説明: HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースのデータ・セット・グループが、最大容量に達しました。

非 HALDB データベースの場合、データ・セットの最大サイズは次のとおりです。

- データ・セットが VSAM の場合は 4 GB。
- データ・セットが OSAM の場合、奇数長のブロック・サイズを持つデータ・セットでは 4 GB、偶数長のブロック・サイズを持つデータ・セットでは 8 GB。

フルワードの場合、最大絶対数は 4,294,967,295 バイト (4 GB) です。偶数ブロック・サイズを持つ非 HALDB OSAM データベースでは、フルワード内で可能なストレージが倍の 8,589,834,591 バイト (8 GB) になります。

HALDB データベース区画の場合、データ・セットの最大サイズは次のとおりです。

- データ・セットが VSAM の場合は 4 GB。
- データ・セットが OSAM の場合は、4 GB または 8 GB。

システムの処置: ビットマップを調べることにより、スペースを取得する試みがなされました。検索はデータ・セットの終了から始まり、開始に至るまで機能します。これが正常に行われない場合は、メッセージ DFS0844I が出され、トランザクションは疑似異常終了 0844 で終了します。

プログラマーの応答: スペースを統合して再利用するようにデータベースを再編成します。これがうまくいかない場合は、以下のアクションのいずれかを実行することを検討してください。

- HALDB データベースの場合、区画を 2 つ以上の区画に分割することを検討してください。
- VSAM データ・セットまたは 4 GB OSAM データ・セットを使用する HALDB データベースの場合は、8 GB OSAM データ・セットを使用することを検討してください。

8 GB OSAM データ・セットを使用するには、HALDB データベースを、8 GB OSAM データ・セットをサポートするものとして DBRC に登録する必要があります。8 GB OSAM データ・セットを使用する HALDB データベースは、HALDB オンライン再編成 (OLR) 機能では再編成できません。


- 非 HALDB データベースの場合、データベースを HALDB に変換します。

- VSAM データ・セットを使用する非 HALDB データベースの場合は、偶数ブロック・サイズを持つ OSAM データ・セットを使用するようにデータベースを変更します。
- 複数データ・セット・グループを使用します。

モジュール: DFSGGSP0

関連情報:

『DFS0844I』

 IMS 異常終了 0844

DFS0844I *modulename dbname DATASET FULL, DDNAME=ddname*

説明: 指定されたデータベース・データ・セットには、さらにデータを入れるスペースはなく、疑似異常終了 0844 に先行して、このメッセージが出されます。次のいずれかが発生しました。

- 使用可能なスペースがなかったため、指定されたデータ・セットに新しいレコードを挿入する試みが失敗しました。
- DD DSNAME=NULLFILE または DD DUMMY として定義されていたデータ・セットに対して、挿入呼び出しが実行されました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムは、疑似異常終了コード 0844 で終了しました。HISAM または索引データベースの場合は、データベースは停止されます。

オペレーターの応答: HISAM または索引データベースの場合は、/START コマンドを出して、データベースを再始動する必要があります。


(マスター端末) IMS システム・プログラマーかデータベース管理者に、この状態を通知してください。

プログラマーの応答: 疑似異常終了 0844 の後の非コミット変更のバックアウトによって、データベースが整合性のある使用可能な状態に復元されます。ただし、挿入で同じ条件が起きる可能性があります。オフライン時に (/DBR コマンドを使用して)、より大きいスペース割りにデータベースをコピーする必要があります。次に、/START コマンドを使用して、そのデータベースをオンライン領域で使用可能にします。

問題判別: 3、4、5、17

モジュール: DFSDVSM0、DFSDDLE0

関連情報:

 IMS 異常終了 0844

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0845I *dbname DATASET LIMIT REACHED, DDNAME=ddname*

説明: HDAM、HIDAM、PHDAM、または PHIDAM データベースに別のブロックを作成する試みが失敗しました。追加のエクステントが割り振れなかったか、追加のブロックを作成している最中に、入出力エラーが検出されたからです。

システムの処置: データベースに使用可能なスペースを検出するために、ビットマップが検索されます。スペースが検出されれば、それが使用され、処理は続行されます。スペースが検出されなかった場合は、メッセージ DFS0844I が出されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに状態を通知してください。

プログラマーの応答: 追加のエクステントが割り振れない場合は、追加のボリュームの追加またはデータベースの再編成ができます。入出力エラーが検出され、ビットマップ検索を使用して十分なスペースが検出された場合は、それ以上の入出力エラーを避けるために、データベースを別の物理ロケーションにマイグレーションしてください。

モジュール: DFSGGSP0

関連情報:

『DFS0844I』

DFS846I **CONTROL CARD ERROR, {NAME EXCEEDS 8 BYTES|EXCESSIVE PARAMETERS|MISSING PAREN|SETS OF PARAMETERS > 100|BAD TIME CARD|I/O INVALID}**

説明: 制御ステートメントがエラーでした。

システムの処置: DFSIST40 が異常終了します。

プログラマーの応答: 示されているエラーがないか、制御ステートメントをチェックしてください。エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSIST40

DFS847I **UNRECOGNIZED CONTROL CARD BYPASSED**

説明: 制御ステートメントに無効なキーワードが含まれていました。他の制御ステートメントが処理され、ジョブは続行されます。

システムの処置: DFSIST40 は実行を継続します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントをチェックしてください。エラーを訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSIST40

**DFS848I CONTROL CARD ERROR, NO
OUTPUT SELECTED**

説明: 制御ステートメントの選択基準に適合するメッセージがありませんでした。

システムの処置: DFSIST40 は正常に終了します。

プログラマーの応答: JCL および制御ステートメントをチェックし、出力があったか判別してください。エラーを訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSIST40

**DFS849I NO OUTPUT DATASETS
REQUESTED, EOJ**

説明: IMSLOG0 も IMSLOGP も指定されなかったことが、統計プログラムによって検出されました。

システムの処置: DFSIST40 は終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSIST40

**DFS0850W PARTITIONED DATABASE
STRUCTURE INITIALIZATION
ERROR ENCOUNTERED FOR
DATABASE *mdbname***

説明: データベース構造初期設定が、*mdbname* で識別されているデータベースに関して失敗しました。詳しくは、付随するメッセージ DFS0415W があれば、それを参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されています。

ユーザーの処置: RECON データ・セットおよび DFSVSAMP DD カードが正しいか、JCL をチェックしてください。エラーを訂正してから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURPR0

関連情報:

124 ページの『DFS0415W』

第 21 章 DFS メッセージ DFS0851W - DFS0900A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0851W PARTITIONED DATABASE STRUCTURE TERMINATION ERROR ENCOUNTERED FOR DATA BASE *mdbname*

説明: 区画構造マネージャーが、*mdbname* で識別されているデータベースに関するデータベース構造を終了できませんでした。詳しくは、付随するメッセージ DFS0415W があれば、それを参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されています。

モジュール: DFSURPR0

関連情報:

124 ページの『DFS0415W』

DFS852W REPLACE IGNORED DUE TO FAILURE OF VERIFY

説明: この REP 操作より前の VERIFY 操作が正しく比較されず、この REP が無視される原因になりました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: VERIFY に関する入力制御ステートメント・データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、8、11、35。また、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=852 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCF00、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS853A MISSING/INVALID KEYWORD *keyword* FOR FUNCTION *ff*

説明: 制御プログラムが、必須であった *keyword* が欠落しているのを検出しました。

システムの処置: このユーティリティーに関しては、処理が停止します。

プログラマーの応答: 必須のキーワードおよびデータを指定して、ジョブを再実行依頼してください。ユーティリティー制御機能の再始動は、実行しないでください。

問題判別: 1、2、8、11、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=853 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCF00、DFSURGP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS854A CONTROL STATEMENT ERROR-INVALID/MISSING VALUE FOR KEYWORD *keyword*

説明: 制御プログラムが、*keyword* の値が欠落しているのを検出したか、*keyword* に指定されている値が無効であると判別しました。

システムの処置: このユーティリティーに関しては、処理が停止します。

プログラマーの応答: データを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、8、11、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=854 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSUCF00、DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS855I PRECEDING CARDS WERE USED TO FORM REQUEST *nnnn*

説明: このメッセージの直前にリストされている制御メッセージは、ユーティリティー制御機能の単一要求の形成に使用されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSUCF00、DFSURGP0、DFSURG10

DFS856A UNABLE TO BUILD CONTROL BLOCKS FOR DATA BASE *dbname* FOR FUNCTION *ff*

説明: 発行プログラムが、指定されたデータベースの制御ブロックの構成を要求しました。要求は正常に完了しませんでした。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 指定されたデータベースに関して、有効な DBD が存在するか確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=856 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS857I MISSING OR INVALID CONTROL DATASET

説明: 発行プログラムが、データベース事前再編成ユーティリティー (DFSURPR0) で生成された入力制御データ・セットの読み取りを試みました。次のいずれかの状態が発生しました。

- 制御データ・セットが指定されなかった。
- 識別されている制御データ・セットが、制御データ・セットの最初のブロックに存在していなかった。
- 制御データ・セットに、制御データ・セットの最初のブロックに示されている数のブロックが含まれていなかった。

プログラマーの応答: 有効な制御データ・セットが発行プログラムに提供されているか確認してください。必要な場合は、データベース事前再編成ユーティリティーを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS858A BUFFER HANDLER RETURNED AN ERROR CODE OF *cc* FOR FUNCTION *ff*

説明: 発行プログラムが、バッファ・ハンドラーからゼロ以外の戻りコードを受信しました。この戻りコードの意味は、PSTRTCDE のラベルが付いているフィールドの PST DSECT に示されています。バッファ・ハンドラーの戻りコードについては、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。


システムの処置: 処理は終了し、ゼロ以外の戻りコードが表示されます。

プログラマーの応答: 戻りコードで指摘されているエラーがあれば、それを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=858 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0

関連資料:

 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS859A DL/I RETURNED AN ERROR CODE OF *return code* FOR FUNCTION *ff*

説明: 発行プログラムが、DL/I 呼び出し後に、予期しない戻りコードを受信しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが表示されます。

プログラマーの応答: 戻りコードで示されているエラーがあれば、それを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=859 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS860A **DUPLICATE INDEX ENTRY** *followed by one or more lines containing input record in hexadecimal and EBCDIC format*

説明: 入力レコードに指定された索引フィールドに関しては、重複エントリが定義されていなかったのに、重複索引エントリの作成を試みた入力作業ファイルからの入力レコードを、発行プログラムが検出しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 索引関係を再定義して、索引違反が除去されるようにするか、重複エントリの作成が試みられる原因になったデータベース・レコードを変更するか、いずれかを行ってください。次に、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGP0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS861I *number input-control-card*

説明: 発行プログラムが、そのために指定されている入力制御ステートメントを表示しています。生成される可能性がある後続のエラー・メッセージによる参照のために、番号が順次割り当てられています。

プログラマーの応答: 表示されている情報が入力された情報と整合しているか検証してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS862I **DBS=***dbname, segmentname*

説明: このメッセージは、データベース・スキャン・ユーティリティ (DFSURGS0) によってスキャンされるセグメントのリストを示すために、複数回出される場合があります。OPTIONS=(PUNCH) 制御ステートメントがメッセージを発行するプログラムに示されると、このメッセージの文字 DBS で始まっている部分が SYSPUNCH に書き込まれます。

プログラマーの応答: このメッセージで示されるスキャン・リストによって示されているデータベースのそれぞれに関して、データベース・スキャン・ユーティリティ (DFSURGS0) が実行される必要があります。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS863I **DUPLICATE NAME ON INPUT CONTROL CARD,** *number*

説明: 発行プログラムが、先行入力制御ステートメント (番号で示されている) に表示されていたデータベース名を検出しました。

プログラマーの応答: メッセージに先行している入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS864W **DBR AND/OR DBIL CONTROL REQUESTS MISSING FOR FUNCTION** *ff*

説明: 発行プログラムが、SYSIN (ユーティリティ制御機能の DFSYSIN) からの制御ステートメントすべてを読み取り、解釈しました。制御データ・セットの分析後、再編成も初期ロードも要求されなかったことが検出されました。これは、ユーティリティ制御機能の下では可能ですが、データベース事前再編成ユーティリティ (DFSURPR0) の実行時にはエラーです。

システムの処置: UCF の下での実行の場合は、処理は続行されますが、そうでない場合は、処理は終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: ユーティリティ制御機能の下での実行の場合は、これが正しい操作であるか確認してください。正しくない場合、またはデータベース事前再編成ユーティリティを実行している場合は、必須制御ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。再始動は試みないでください。出力が正しい場合は、それ以上の処置は必要ありません。

モジュール: DFSURGS0、DFSURPR0

DFS865I **UNABLE TO CONSTRUCT A CONTROL LIST ENTRY FOR FUNCTION** *database-name1*
segment-name1 database-name2
segment-name2

説明: 発行プログラムが、示されているデータベース名とセグメント名の間に存在すると定義された論理関係に関する制御リスト項目の構成を試みました。定義は、DL/I で使用可能な制御ブロック内で検証されませんでした。

プログラマーの応答: 示されている論理関係を定義するために、有効な DBD が使用可能であるか確認してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURPRO

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS866I **NORMAL PROGRAM TERMINATION**
number

説明: 発行プログラムは正常に終了しました。 *number* が表示されている場合は、発行プログラムによって処理された入力作業データ・セット・レコードの数です。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0、DFSURG10、DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS867I **UTILITY CHECKPOINT, *pgm-name***
chkpt-# volume-serial

説明: 発行プログラムが、ユーザーによって指定されたインターバルの 1 つでチェックポイントを完了しました。メッセージを発行するプログラムの名前、およびチェックポイント番号は既知です。チェックポイント・レコードが書き込まれたボリューム通し番号も表示されています。

オペレーターの応答: 再始動処置を要求する必要がある場合は、チェックポイント番号とボリューム通し番号を記録してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS868I **(INPUT|OUTPUT) VOLUMES: *volser1*,**
volser2, etc..

説明: このメッセージは、発行プログラムの INPUT/OUTPUT 作業データ・セットを入れるために使用するボリュームのボリューム通し番号を表示するために、1 回以上出されます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=868 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS869A **SEGMENT *segment-name* WAS NOT FOUND IN THE CONTROL BLOCKS FOR FUNCTION *ff***

説明: 発行プログラムが、指定されたセグメント用の制御ブロックを見つけられませんでした。このセグメントは、入力制御ステートメントと入力制御データ・セットのいずれかにリストされていました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 提供された入力制御ステートメントか制御データ・セット、またはその両方について、有効な DBD が使用可能であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=869 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS871E *error_type* **ERROR ENCOUNTERED**
LOADING ILDS WITH
DDNAME=*ddname* RC= *nnnnnnnn*
REASON= *yyyyyyyy*

説明: HALDB へのマイグレーション時に、*ddname* で識別されている ILDS に関する ILDS データ・セット処理中に、モジュール DFSURIT0 がエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

error_type

検出されたエラーの記述。起こりうるエラーのタイプは、次のとおりです。

ABEND
DSPSERV
FREEMAIN
GETMAIN
LOAD
SORT
VSAM

ddname エラーを検出した ILDS。

nnnnnnnnn

エラーが検出された時点で、レジスター 15 で検出された戻りコード。 *error_type* が ABEND であれば、このフィールドが異常終了コードになります。

yyyyyyyyy

理由コード。エラー・タイプが ABEND であれば、RC はブランクになります。

システムの処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。影響を受けた ILDS には RECON で Recovery Needed のマークが付けられます。

プログラマーの応答: ILDS/INDEX 再作成ユーティリティー (DFSPREC0) を実行して、*ddname* で識別されている ILDS を再作成してください。

問題判別: 2、3、8、36。UCF の場合は有効なメッセージではありません。

モジュール: DFSURGL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS872I DATA BASE NOT SCANNED,
database-name

説明: 指定されたデータベースは、スキャンされませんでした。 DFS873I がこのメッセージより前に発行されました。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGS0

関連情報:

『DFS873I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS873I SEGMENT NOT SCANNED,
database-name segment-name

説明: 指定されたセグメントに関する制御ブロックのチェック時に、発行プログラムが次のエラーのうち 1 つ以上を検出しました。

1. 指定されたセグメントが、指定されたデータベースの制御ブロックで検出されなかった。
2. 指定されたセグメントが、初期にロードまたは再編成されるとして制御データ・セットにリストされているデータベース内のセグメントのいずれとの間のいずれの論理関係にも参加していない。

プログラマーの応答: 提供された制御ステートメントが制御データ・セット、またはその両方について、有効な DBD が使用可能であることを確認してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS874I FUNCTION REQUEST
(STATISTICS|STATUS) DEFAULTS
FOLLOWED BY AN *

説明: ユーティリティー制御機能によって、この実行で使用されるデフォルトと共に、要求されたすべての機能のリストが作成されています。このメッセージの後に、メッセージ DFS875I および DFS876I が続きます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=874 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報:

『DFS875I』

280 ページの『DFS876I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS875I FUNCTION *functional utility name*
REQUESTED BY FUNCTION=*ff* ON
REQUEST *nnnn*

説明: 指定されたユーティリティーが、キーワード FUNCTION=*ff* を指定した制御要求による実行のために

要求され、*mmn* が制御ステートメント要求シーケンスでした。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=875 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS876I *keyword=value * keyword=value * etc..*

説明: このメッセージは、要求またはデフォルトのキーワード、およびユーティリティー制御機能の要求された機能それぞれの値のリストを表示するために、1 回以上出されます。

重要: このメッセージに関するデフォルトは、FUNCTION=OP ステートメントまたは UCF からのみに限られます。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティー制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=876 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURG10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS877A **DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL PARENT** *(followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)*

説明: 発行プログラムが検出したタイプ 00 入力作業データ・セット・レコードは、以前の入力作業データ・セット・レコードの場合と同じ論理親/論理子のオカレンスでした。論理子および論理親セグメントの 1 つの連結について存在できるタイプ 00 レコードは 1 つだけです。この条件は、データベース初期ロード再編成、またはスキンの複数回実行によって生成された作業データ・セットを、発行プログラムへの入力として提供することによって生じる可能性があります。

プログラマーの応答: 接頭部解決の結果は無効です。DFSURWF1 レコードに誤りがある原因を判別してください。これらのレコードは、接頭部解決 DFSURG10、または IMS DSECTS モジュール DFSADSCT のアセン

ブリーからの DFSURWF1 DSECT を使用して分析する必要があります。DBIL が PREREORG で使用される場合は、論理親連結キーはオフセット X'19' から始まります。DBR が PREREORG で使用される場合は、LPARENT の古いアドレスもオフセット X'19' から始まります。このセグメントの RBA アドレスは、DFSURWF1 レコードのオフセット X'0C' にあります。

現在初期ロード、再編成、またはスキャンされているデータベースからの作業データ・セットのみが、発行プログラムへの入力として提供されているか確認してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS878W **CAUTION-NO LOGICAL CHILD RECORD FOUND FOR THE LOGICAL PARENT RECORD** *(followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)*

説明: 発行プログラムは、表示されているタイプ 00 入力作業データ・セットに関して、1 つ以上のタイプ 10 レコードの検出を予想していました。タイプ 00 レコードは、論理親に関して生成されます。タイプ 10 レコードは、その論理子のそれぞれごとに生成されます。この条件は、現在初期ロード、再編成、またはスキャンされているデータベースによって生成された作業データ・セットが、発行プログラムへの入力としてすべて提供されないことによって生じる可能性があります。それぞれの論理親ごとに論理子が実際に生じる必要はないため、このメッセージは注意として出されます。

このメッセージが出される場合は、接頭部解決は無効である可能性があります。ユーザーが論理親に属する論理子のロードまたは再ロードを意図した場合も、接頭部解決は無効になります。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: すべての作業データ・セットが入力として提供されているか確認してください。DFSURWF1 レコードの説明については、DFS877A を参照してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

DFS877A

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS879A NO LOGICAL PARENT RECORD FOUND FOR LOGICAL CHILD RECORD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明: 発行プログラムは、表示されているタイプ 10、20、または 30 入力作業データ・セットに関して、タイプ 00 レコードの検出を予想していました。タイプ 00 レコードは、論理親に関して生成されます。タイプ 10 レコードは、その論理子のそれぞれごとに生成されます。タイプ 20 およびタイプ 30 レコードは、それぞれの論理子の論理兄弟順方向および逆方向ポインターに関して、それぞれ生成されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS877A の場合と同じ処置

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

280 ページの『DFS877A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS880A NO LOGICAL CHILD RECORD FOUND FOR LOGICAL TWIN RECORD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明: 発行プログラムは、表示されているタイプ 20 または 30 入力作業データ・セットに関して、タイプ 10 レコードの検出を予想していました。タイプ 10、20、および 30 レコードは、メッセージ DFS879A の説明に示されているように生成されます。

プログラマーの応答: DFS877A の場合と同じ処置

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

280 ページの『DFS877A』

『DFS879A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS881I DUPLICATE RECORD FOR LOGICAL CHILD (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明: 発行プログラムが検出した入力作業データ・セットは、以前の入力作業データ・セット・レコードの場合と同じ論理子のオカレンスでした。論理子のオカレンスでは、存在できるタイプ 10 レコードは 1 つだけです。

プログラマーの応答: メッセージ DFS877A の場合と同じ処置

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

280 ページの『DFS877A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS882I ABNORMAL PROGRAM TERMINATION, number

説明: 発行プログラムが、その操作中に、1 つ以上のエラー条件を検出しました。番号は、最後に検出されたエラーが発生した SORT プログラム・フェーズを示しています。このメッセージが出されるのは、戻りコードが 5 よりも大、または SORT プログラムからの戻りコードまたは異常終了コードを伴う、別のコードが表示された場合です。このメッセージでは、空の作業ファイル 1 入力を示している可能性もあります。(詳しくは、「IMS V15 データベース・ユーティリティー」で『データベース再編成/ロード処理』のトピックのデータベース・スキャン・ユーティリティーに関する説明を参照してください。) このメッセージが出される場合は、接頭部解決は無効である可能性があります。影響を受けたデータベースは、使用されることがあってはなりません。

プログラマーの応答: エラー (戻りコードとエラー・メッセージのいずれか) の原因を判別し、適切な処置を取ってください。z/OS SORT/MERGE によって出された戻りコードは、接頭部解決プログラムによって z/OS に戻されます。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS883A ISAM KEY NOT FOUND IN
DATABASE FOR FUNCTION PU
record**

説明: 接頭部更新機能が ISAM データ・セットの接頭部更新情報を読み取ろうとしましたが、一致するキーが検出されませんでした。エラーのあるレコード (*record*) がメッセージの後に続いて表示されます。

システムの処置: 接頭部更新機能の戻りコードは RC08 に設定されています。

ユーザーの処置: メッセージに表示されたレコードが ISAM データ・セット内に存在するはずかどうか判別します。レコードを訂正します。

モジュール: DFSURGP0

DFS884I DEVTYPE FAILURE

説明: 発行プログラムが入力または出力装置についての情報を取得するために、DEVTYPE マクロを発行しました。戻りコードが、この試みが正常に行われなかったことを示しています。

オペレーターの応答: この問題をシステム・サポート担当者に報告してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURGP0、DFSURGS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS885I CAUTION-LIMIT CHECK FAILURE,
database-name1, segment-name1
database-name2 segment-name2**

説明: 発行元プログラムが、名前付きデータベース名とセグメント名によって示された、連結された論理子と論理親セグメントについての限度検査で障害を検出しました。実行された限度検査については、「IMS V15 データベース・ユーティリティ」の『データベース接頭部解決ユーティリティ』のトピックに説明があります。このメッセージは注意のみを目的としています。発行プログラムでは、限度検査の計算で最悪の場合を想定するからです。

プログラマーの応答: 限度検査障害の原因を判別してください。限度検査のコンポーネントに省略できるものがない場合は、(1) 更新プログラムによる論理親または論理子、あるいはその両方のロード、または (2) 限度検査コンポーネントの 1 つ以上が省略できるようにするための、影響を受けたセグメントの再定義を検討してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURPR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS886I NO DATA IN SYSIN DATASET

説明: SYSIN DD ステートメントが指定されましたが、そのデータ・セットが空でした。このステップは終了し、戻りコード 16 がレジスター 15 で渡されます。

プログラマーの応答: このデータ・セットのデータを提供し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSURUL0

**DFS0887A THE LOAD FOR DFSMDA MEMBER
mmmmmmmmmm FAILED. REASON=xxxx**

説明: このメッセージは、オンライン変更ライブラリーの切り替え処理時または制御領域の初期設定時に生成される可能性があります。

オンライン変更ライブラリーの切り替え処理中に、PREPARE フェーズでは、非アクティブな ACBLIB の DFSMDA メンバーのロードを試行します。そのロードは失敗しました。ロード失敗の理由は、xxxx に示されています。メンバー名 IMSACBA または IMSACBB が mmmmmmmmmmm に表示されます。

制御領域の初期設定時に、IMS は、アクティブな ACBLIB の DFSMDA メンバーのロードを試行します。そのロードは失敗しました。ロード失敗の理由は、xxxx に示されています。

メッセージ・テキストで渡される可能性がある理由コードは、以下のとおりです。

- 0001 無効な MDA メンバー
- 0002 STEPLIB からのメンバーの読み取りエラー
- 0003 IMSDALIB からのメンバーの読み取りエラー
- 0004 IMODULE GETMAIN の失敗
- 0005 IMSDALIB からのロード・エラー
- 0006 STEPLIB からのロード・エラー
- 0007 この理由コードの意味は、次の 2 つのうちのいずれかです。
 - STEPLIB または IMSDALIB でメンバーが見つからない
 - IMSDALIB の OPEN 処理がタイムアウトになった

システムの処置: 制御領域の初期設定時にこのイベントが発生した場合、IMS は異常終了し、ユーザー異常終了コード 0071 が出されます。オンライン変更ライブラリーの切り替え (INIT OLC PHASE (PREPARE)) 中にこ

の問題が発生した場合は、完了コード 180 が SPOC に返されます。メッセージ・テキストは DFSMDA MEMBER LOAD FAILED です。

システム・プログラマーの応答: 対応は、理由コードによって決まります。DFSMDA メンバーが見つからないことを理由コードが示している場合は、そのメンバーを追加し、プロセスを再始動します。

モジュール: DFSDSSM0

DFS888I NO DATA BASE RECORDS FOUND FOR PSB *psbname* (AFTER CHECKPOINT *checkpoint id*) (FOR REGION *region id*)

説明: 指定されたログ・データ・セットに、示されている PSB に関するデータベース・ログ・レコードが含まれていませんでした。

入力ログがオンライン IMS サブシステムによって作成された場合、このメッセージは、バッチ・バックアウト・ユーティリティによるバックアウトの要件に適合する UOR が検出されなかったことを意味します。制御ステートメントがバッチ・バックアウトに入力されない場合は、ユーティリティがバックアウトするのは、実行ステートメントの PSB に関する据え置きバックアウトのみになります。

バックアウトされているアプリケーションがバッチ・ジョブである場合、失敗したバッチ・ジョブによってオープンされたが正常にクローズされなかったデータベース・データ・セットは、バックアウトを必要とするログ・レコードがない場合でも、バッチ・バックアウト・ユーティリティによって再オープンされてからクローズされます。

テキスト AFTER CHECKPOINT`checkpoint-id` が表示されるのはログがチェックポイントを使用するバッチ・ジョブからで、チェックポイント・レコード (タイプ 41) が正しい PSB に関して検出された場合のみです。チェックポイントがメッセージに表示されていれば、常に最後の `checkpoint-id` が検出されています。SYSIN データ・セットで CHKPT ステートメントを指定した場合、および、メッセージに示されているチェックポイントがユーザーのチェックポイントと異なる場合は、次のいずれかが発生します。

- IRLM が更新中に使用された。
- 別のタイプ 41 レコードが、ユーザーが指定したレコードの後に存在し、ユーザーの `checkpoint-id` とデータ・セットの終わりの間には、タイプ 5X レコードが存在しない。

プログラマーの応答: 入力ログ・データ・セットをチェックして、正しいログ・データ・セットがユーティリティに提供されているか確認してください。このメッセ

ージが高頻度で表示される場合は、間違ったジョブまたは間違った時間枠からのログの使用に原因があります。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS889I MULTIPLE LOGICAL CHILD RECORDS/LP NO LT PTRS SPECIFIED (followed by one or more lines containing input records in hexadecimal and EBCDIC format)

説明: 発行プログラムは、論理親レコードに関する 2 番目の論理子レコードを検出しましたが、論理子セグメント・タイプに関して、論理兄弟ポインターが指定されませんでした。戻りコード 8 がソート出口 35 から DFSURG10 に渡されます。異常終了メッセージ DFS339I も出されます。

プログラマーの応答: ユーザーは、この条件が指定どおりであるか確認し、訂正を行い、接頭部解決ユーティリティを再実行する必要があります。考えられる訂正方法には、複数の LC が同一の LP をポイントしたり、新しい DBDGEN に LT ポインターを LC セグメントに組み込ませたりする原因となった、入力データの除去があります。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

102 ページの『DFS339I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS890I BLKSIZE NOT SUPPLIED OR IS TOO SMALL FOR INPUT LOG *ddname*

説明: 示されている入力ログ DD ステートメントには、DCB BLKSIZE パラメーターが指定されていませんでした。このフィールドは DSCB から入手できませんでした。

システムの処置: データベース・バックアウト・ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: BLKSIZE 値を DD ステートメントで指定し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS891A DDNAME NOT FOUND OR
DEVTYPE ERROR**

説明: OPEN マクロまたは DEVTYPE マクロが、DD 名が FORMATA または FORMATB のアクティブ・フォーマット・データ・セットに関して発行されたか、または DEVTYPE マクロが無効の AREA アドレスを使用して発行されました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0889 または異常終了コード 0890 が示されます。

プログラマーの応答: 正しい DD ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSIINF0、DFSING0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0889

➡ IMS 異常終了 0890

**DFS892A NOT ENOUGH STORAGE
AVAILABLE IN MFBP**

説明: メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) で使用可能なストレージが不十分であったので、プールの初期設定を完了できませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0892 が示されます。

プログラマーの応答: MFBP のストレージを広げて、ジョブを再実行してください。EXEC ステートメントの FBP シンボリック・パラメーターが、プールで使用可能なストレージの量を制御します。

モジュール: DFSIINF0、DFSING0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0892

**DFS893A I/O ERROR READING \$SIMSDIR OR
THE DIRECTORY {-mmm}**

説明: メッセージ・フォーマット・ブロック・プールの初期設定時に、アクティブ FORMAT ライブラリーに関して FIND、POINT、または READ マクロを発行している最中に、入出力エラーが発生しました。原因は PDS ディレクトリーでのエラーにあると考えられます。アクティブ FORMAT ライブラリーに連結データ・セットがある場合は、mmm は、エラーが発生した連

結データ・セットを示しています。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0893 または異常終了コード 0894 が示されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSIINF0、DFSING0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0893

➡ IMS 異常終了 0894

**DFS894I INVALID RECORD ERROR nn ON
INPUT LOG DD ddname**

説明: 次のいずれかのエラー (subcode=nn) が、バッチ入力ログで発生しました。

サブコード

意味

- 01 可変長レコードが読み取られましたが、フィールド長がゼロでした。
- 02 スパン・レコードが検出されました。
- 03 ブロックの終わりがバッファの終わりに等しくありません。
- 04 次のレコードがバッファの終わりを越えた先にあります。

システムの処置: データベース・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 が正常に終了しないで、戻りコード RC36 (X'24') が示されます。ABENDMSG 制御ステートメントが指定された場合は、異常終了コード 0507 が示されます。

プログラマーの応答:

このエラーが出るのは、バッチ入力ログの場合だけです。この条件は、不適正なクローズが行われたログ・データ・セットを入力として使用したことによって生じる可能性があります。DFSULTR0 を実行してログをクローズし、ジョブを再実行してください。引き続きエラーが生じる場合は、ログ・データ・セットは、バッチ・バックアウト・ユーティリティーや順方向リカバリー・ユーティリティーでは現在使用不能です。データベース・リカバリー・オプションについて、システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0507

**DFS895I LTERM *name* STOPPED DUE TO
CODE *XXX***

説明: IMS リモート・ステーション・サポートがエラーを検出しました。メッセージに指定された論理端末が、リモート・ステーションへのメッセージの伝送の後に続いたエラー・メッセージの受信によって停止しました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DFSCR2Z0

**DFS896A UNEXPECTED RECORD
ENCOUNTERED - SEQUENCE
ERROR *nn* on DDNAME *ddname***

説明: 入力ログの順方向読み取り時に、バッチ・バックアウトがログ・レコードに対してコンテキスト・チェックを実行します。コンテキスト・チェックが失敗し、これによって、識別されている DD 名のログ・データ・セットの順番が間違っていることが暗黙に示されます。

次のサブコード *nn* はエラーを示します。

サブコード

意味


- 03** バッチ・ログの順方向読み取り時に、ある TYPE5X レコードがそれよりも前に処理されたレコードよりも日時の値が低いことが検出されました。
- 04** バッチ・ログの順方向読み取り時に、ある TYPE06 レコードが現在保管されているレコードに比べて、タイム・スタンプの値が小さいことが検出されました。

システムの処置: データベース・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 が正常に終了しないで、戻りコード RC40 (X'28') が示されました。ABENDMSG 制御ステートメントが指定された場合は、異常終了コード 0507 が出されます。

プログラマーの応答: 必要なログ・データ・セットのすべてを作成された順序で指定して、バックアウトを再実行してください。ログのすべてが正しい順序で指定されていた場合は、ログ入力と異常終了コード 0507 を保管してください。その後、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

 IMS 異常終了 0507

**DFS0897A STRUCTURE *structure_name* IS IN
TRANSITION. IT IS UNAVAILABLE
TO AREA *area_name***

説明: 構造への接続を試みているときに、IMS は構造の状況をチェックするために IXCQUERY コマンドを発行しました。IMS は、戻りコード QUASTRCFTRAN を受け取りました。これは、その構造が遷移状態であったことを示しています。構造は、カップリング・ファシリティに割り振り中であったか、カップリング・ファシリティから削除中であったかのいずれかです。

システムの処置: エリアがカップリング・ファシリティにロードされていません。

オペレーターの応答: コマンド D

XCF,STRUCTURE,STRNAME= を使用して、構造がカップリング・ファシリティに割り振り中であるか、カップリング・ファシリティから削除中であることを確認します。構造が割り振られた後で、STOP AREA コマンドに続いて START AREA コマンドを発行し、構造に接続します。

モジュール: DBFVXAS0

**DFS898A INVALID OPTION STATEMENT IN
SYSIN - RECORD NUMBER *nn***


説明: バッチ・バックアウトで、制御ステートメントが認識されていない SYSIN データ・セット・レコードが検出されました。*nn* が、SYSIN データ・セット内の無効の制御ステートメントのレコード番号を示しています。

システムの処置: バックアウトが試みられる前に、ジョブが終了し、条件コード 72 が示されます。

プログラマーの応答: 示されている制御ステートメントを訂正または除去し、バッチ・バックアウトを再実行してください。

モジュール: DFSBACK0

関連資料:

 バッチ・バックアウト・ユーティリティー (DFSBBO00) (データベース・ユーティリティー)

**DFS899A RELOAD COMPLETED, BUT DBRC
FUNC=*nnnnnnnnnn* HAS TERMINATED
WITH RC=*xx***

説明: DBRC (DFSBRLSC ID=REN) に対する再編成呼び出しの前にデータベース RELOAD が実行されました。RELOAD は完了し、メッセージ DFS339I に戻りコード 00 または 04 が示されます。DBRC 呼び出し機能 (DFSBRLSC FUNC=*nnnnnnnnnn*) が失敗して、戻りコ

DFS0900A

ードがこのメッセージに示されています。

システムの処置: 処理は続行され、ステップが終了し、条件コード 04 が示されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS339I の戻りコードが 00 であれば、RELOAD は正常に行われました。DFS339I の戻りコードが 04 であるのは、前に警告メッセージが出されていた場合です。いずれの場合も、RECON データ・セットに不整合がある可能性があります。再編成されたデータベースについて RECON を調べ、発行されている DBRC DSP メッセージに応答してください。

モジュール: DFSURGL0

関連情報:

102 ページの『DFS339I』

DFS0900A INVALID COMBINATION OF DBIL AND DBR OR DBS FOR DBDS *lpdbdname* AND *lclbdbname* FOR FUNCTION PO

説明: 事前再編成ユーティリティー (DFSURPR0) により、論理親が含まれるデータベースが初期ロード (DBIL=) 中であり、論理子データベースが再編成またはスキャン (DBR= または DBS=) 中であることが発見されました。論理子 DBDname が指定されなかった場合は、その論理子データベースに関しては、機能 (DBS=) が指定されているものと想定されます。

システムの処置: モジュール DFSURPR0 が、出力制御データ・セットが無効であることを示す条件コード 8 を戻し、残りの制御ステートメントの処理を続行します。

プログラマーの応答: 制御データ・セットは無効であり、使用された場合は、既存の論理子と初期ロードが行われている論理親の間の論理ポインターが正しく解決されません。論理親が初期ロードされる場合は、論理子も必ず初期ロードされるようにしてください。

モジュール: DFSURPR0

第 22 章 DFS メッセージ DFS0901A - DFS0950I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0901A JJJJJJJ - QCF/QSN WAIT QUEUE HAS WAITER

説明: DFSQSPC0 (IBM IMS Queue Control Facility for z/OS バージョンのキュー・スペース通知出口) によって、従属領域が待ち状態に置かれました。この待ち状態は、IMS キュー使用がユーザー限度またはデフォルト限度を超えたことに応じて生じました。待ち状態の結果として、待ちキューが空から待機要求に移り、このメッセージが出されました。

メッセージ・テキストの中で、JJJJJJJ は IMS ジョブ名を示します。

システムの処置: プロセスは待ち状態に置かれ、次のいずれかです。

- 入力装置
- MSC リンク
- 領域 (MPP、BMP、高速機能、または CPIC)
- 端末
- APPC
- OTMA

オペレーターの応答: 「IMS Queue Control Facility TSO/ISPF」パネルで、『Queue Space Notification (QSN)』オプションを選択し、QSN ウェイターをリストしてから、適切な処置を取ってください。

モジュール: DFSQMRE0

DFS0901W RETURN CODE 4 FROM HDAM RANDOMIZER, SEGMENTS DROPPED

説明: セグメントの挿入中に、HDRELOAD ユーティリティーが、HDAM ランダマイザーから戻りコード 4 を受信した結果として、FM 状況コードを受信しました。FM 状況コードについて詳しくは、DL/I 状況コード情報を参照してください。

システムの処置: セグメント名がジョブ出力に印刷され、改行して、その後にセグメント・データが続きます。このプロセスがすべての従属セグメントに関して繰り返されます。ドロップされたセグメントの数 (ドロップ・カウント) が 10,000 を超えた場合は、メッセージ DFS0902W が出され、HDRELOAD がユーザー異常終了コード 0355 を出します。ドロップ・カウントが 10,000 未満の場合、HDRELOAD はセグメントの挿入

を続け、完了した時点でユーザー異常終了 0355 を出します。

プログラマーの応答: HDAM ランダマイザーからの戻りコード 4 の原因を判別し、問題を訂正してください。HDRELOAD を再度実行するか、セグメントを手動で挿入してください。部分的にロードされたデータ・セットを保持する必要がある場合 (ドロップされたセグメントを必要としないか、それらのセグメントを手動で挿入した場合) は、DBRC の NOTIFY.REORG コマンドを使用して、再編成アクティビティーを RECON に記録してください。

重要: メッセージ DFS0902A が出されたのが、ドロップ・カウントが 10,000 というしきい値を超えた結果である場合は、部分的にロードされたデータ・セットの使用を試みないでください。その代わりに、正しいランダマイザーを使用して、HDRELOAD を再度実行してください。

モジュール: DFSURGL0

関連資料:

➡ DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

『DFS0902A』

DFS0902A RELOAD TERMINATED - TOO MANY SEGMENTS DROPPED

説明: HDAM ランダマイザー障害が原因で戻りコード 4 が出されたため、HDRELOAD ユーティリティーが FM 状況コードを受信しました。その結果、ドロップされたセグメントの数 (ドロップ・カウント) が 10,000 というしきい値を超えました。FM 状況コードについて詳しくは、DL/I 状況コード情報を参照してください。

システムの処置: HDRELOAD が異常終了 0355 で終了します。


プログラマーの応答: ランダマイザー・モジュールを修正するか、別のランダマイザー・モジュールに交換してください。

モジュール: DFSURGL0

関連資料:

➡ DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0355

**DFS0903W PARTITION SELECTION ERROR
STATUS=FM, SEGMENTS DROPPED**

説明: セグメントの挿入中に、HDRELOAD ユーティリティーが、HALDB 区画選択障害のため、HALDB 区画選択出口ルーチンから FM 状況コードを受信しました。FM 状況コードについて詳しくは、DL/I 状況コード情報を参照してください。

システムの処置: セグメント名がジョブ出力に印刷され、改行して、その後にセグメント・データが続きます。このプロセスがすべての従属セグメントに関して繰り返されます。ドロップされたセグメントの数 (ドロップ・カウント) が 10,000 を超えた場合は、メッセージ DFS0902A が出され、HDRELOAD がユーザー異常終了コード 0355 を出します。ドロップ・カウントが 10,000 より小さい場合は、HDRELOAD はセグメントの挿入を続け、RC=08 で完了します。


プログラマーの応答: 区画選択エラーの原因を判別し、エラーを訂正してください。最も一般的な原因は、次の場合です。

- 最後の区画に関して指定されたハイ・キー範囲に誤りがある。
- ユーザー作成区画選択出口がキーをリジェクトする。

HDRELOAD を再度実行するか、セグメントを手動で挿入してください。部分的にロードされたデータ・セットを保持する必要がある場合 (ドロップされたセグメントを必要としないか、それらのセグメントを手動で挿入した場合) は、データ・セットのイメージ・コピーを作成してください。不完全なデータ・セットは使用可能です。


モジュール: DFSURGL0

関連資料:

 DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

287 ページの『DFS0902A』

 IMS 異常終了 0355

**DFS0904I SINGLE ADS AREA aaaaaaaa CLOSED
DUE TO READ ERRORS. NO
MISSING UPDATES.**

説明: エリア・データ・セット (ADS) 内の単一エリアで、10 個を超える読み取りエラーが検出されました。このデータ・セットに対して更新は行われていない

め、DASD 内の現行の ADS のデータは失われていません。

システムの処置: AREA は停止されます。

プログラマーの応答: エリアが複数の IMS システム間で共用されている場合は、すべての IMS システム上でメッセージ DFS0904I を確認してください。DASD を復元せずに修復できる場合、ADS はそのまま使用可能です。

DASD を復元する必要がある場合は、ADS 上のデータが古くなる可能性があります。最新の正常なイメージ・コピーとログ・レコードを使用して、エリアをリカバーしてください。

モジュール: DBFMPCL0

**DFS0905E INSUFFICIENT STORAGE FOR PSB
psbname**


説明: アプリケーション制御ブロック (ACB) ユーティリティーが、十分なストレージ・スペースがなかったため、メッセージ・テキストで特定されたプログラム仕様ブロック (PSB) の制御ブロックを作成できませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0905 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答: 領域または区画のサイズを大きくして、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0905

**DFS0906I INVALID PROCOPT FOR SENSEG
senseg name IN PSB psbname**


説明: 指定された PSB 内の指定された SENSEG ステートメントに無効の PROCOPT が指定されています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0906 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0906

DFS0907I PSB *psbname* REFERENCES LOGICAL DBD *dbdname* FOR LOAD


説明: 指定された PSB に、PROCOPT が L で、指定された論理 DBD を参照する PCB ステートメントがあります。データベースのロードに使用できるのは、物理 DBD のみです。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0907 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB または DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0907

DFS0908I PSB *psbname* IS NOT A VALID PSB


説明: 示されている PSB は、IMS が認識できるフォーマットになっていませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0908 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: IMS PSBGEN を使用して PSB を作成し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0908

DFS0909I DBD *dbdname* IS NOT A VALID DBD

説明: *dbdname* 示されたデータベース記述 (DBD) は、IMS が認識できるフォーマットになっていませんでした。あるいは、DBDLIB バインド名と DBD のアセンブルされた名前が異なります。

DBD はそれ自体が有効な場合がありますが、別のデータベースから 1 次索引または副次索引として無効な方法で参照されています。

システムの処置: オンライン領域またはバッチが実行中であった場合は、異常終了コード 0909 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。


プログラマーの応答: IMS DBDGEN を使用して DBD を作成し、プログラムを再実行してください。DBD が主記憶データベース (MSDB)、または高速処理データベ

ース (DEDB) を定義している場合は、IMS システムに高速機能サポートが含まれる必要があります。

関連する PSB の各データベース・プログラム連絡ブロック (DB PCB) を介して、データ名を選び出します。次に、PTR=INDX が指定されていて、このエラー・メッセージで示されたデータベース名を参照している LCHILD ステートメントを、その DBD ソースで検索します。エラーを訂正してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0909

DFS0910I INTERNAL PROG LOGIC ERROR PROCESSING PSB-*psbname*


説明: 示されている PSB を処理しているとき、内部プログラミング・エラーが検出されました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0910 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB を処理リストから除去し、プログラムを再実行してください。関連する PSB および DBD を使用可能にしてから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0910

DFS0911I ENQ LIST LENGTH ERROR FOR PSB *psbname*

説明: 指定された PSB に関して、処理オプション意図リストの長さの計算に誤りがあります。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0911 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: この問題は、内部プログラム・ロジック・エラーです。PSB を除去し、プログラムを再実行してください。

問題判別: 19、35

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0911

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0912I PSB *psbname* REFERENCES SEGM
segmname IN DBD *dbdname*. SEGM
NOT FOUND.**


説明: 指定された PSB が、指定された DBD 内の指定された SEGM を参照しました。指定された SEGM は、指定された DBD 内に存在しません。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0912 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB または DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0912

**DFS0913I DBD *dbdname* CONTAINS INVALID
ACCESS METHOD**


説明: 指定された DBD に無効または不明のアクセス方式が含まれていました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0913 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0913

**DFS0914I THE PCB FOR DATABASE - *dbdname*
HAS PARTITIONED AND NON
PARTITIONED DATABASES
SPECIFIED**

説明: このメッセージが ACBGEN プロセス中に出る可能性があるのは、PCB によって参照されたデータベースが、論理関係または副次索引によって、1 つ以上のデータベースに関連付けられていて、しかも関連データベースのすべてが同じタイプではない場合です。データベースは、すべてが区画データベースか、すべてが非区画データベースである必要があります。

メッセージ・テキストの中で、*dbdname* は論理データベースを参照している場合があります。論理データベースの名前を使用して、タイプ・ミスマッチが生じている参照先物理データベースを判別してください。

システムの処置: ACBGEN は失敗し、条件コード 08 が示されます。

プログラマーの応答: エラーのデータベースを訂正して、論理関係にあるデータベースのすべてが、すべて区分とすべて非区分のいずれかになるようにしてください。プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLB70

**DFS0915I INDEX DBD-*dbdname*-HAS
INCORRECT SEQ FIELD LENGTH.
LENGTH SHOULD BE-*xxx* BYTES.**


説明: 指定された INDEX DBD に指定されているシーケンス・フィールド長が、索引フィールド長に等しくありません。正しい長さがメッセージに示されています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0915 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0915

**DFS0916I NON-UNIQUE OR NO SEQ FIELD
SPECIFIED FOR DBD-*dbdname***


説明: 指定された DBD には、ルート・セグメントに関してシーケンス・フィールドが指定されている必要があります。シーケンス・フィールドが指定されていなかったか、またはフィールドが非固有として指定されました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0916 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0916

DFS0917I DBD *dbdname* REFERENCES SEGM *segmname* IN DBD *dbdname*. SEGM DOES NOT EXIST.


説明: 最初の DBD が、2 番目の DBD で指定された SEGM を参照しています。この SEGM は 2 番目の DBD には存在しません。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0917 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: 一方または両方の DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0917

DFS0918I UNABLE TO LOCATE PHYSICAL PARENT. PSB *psbname* SENSEG *sensegname*


説明: 指定された PSB に、指定されたセグメントに関する SENSEG ステートメントが含まれていました。SENSEG ステートメントが、論理子セグメントをセグメント連結の最初の部分として参照していました。連結の 2 番目の部分、論理子の論理または物理親に有効な物理親がありませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0918 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: エラーを起こした PSB か DBD、またはその両方を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0918

DFS0919I PSB-*psbname*-PCB-*pcbname* -KEYLEN SPECIFICATION TOO SMALL. KEYLEN SHOULD BE-*xxxxx* BYTES

説明: 指定された PSB 内の指定された PCB に含まれている KEYLEN パラメーターが小さすぎて、最も長い完全連結キーが収まりませんでした。正しい長さがメッセージに示されています。

高速副次索引を使用している PSB の PROCSEQD オペランドで PCB を定義している場合、KEYLEN パラメ


ーターの値が、センシティブ・セグメントの階層パスで一番長い物理連結キーまたは副次索引データ構造の一番長い連結キーよりも、必ず大きいことを確認してください。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0919 が出されます。ACB 保守ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DBFUDLB0、DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0919

DFS0920I PSB *psbname* REFERENCES DBD *dbdname* WITH CONFLICTING PROCOPTS


説明: 名前が示されている PSB に、PROCOPT が L で、名前が示されている DBD への参照が少なくとも 1 つと、PROCOPT が L 以外の同じ DBD への追加参照が少なくとも 1 つ含まれていました。参照は、PCB ステートメントの場合のように、直接的である可能性もあり、論理関係または索引関係を通して別の DBD を参照する DBD の場合のように、間接的である可能性もあります。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0920 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB か 1 つ以上の DBD、またはその両方を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0920

DFS0921I PSB *psbname* IS NOT A PSB

説明: 指定された PSB がロードされました。調べた結果、PSB が有効な PSB ではなかったことが判明しました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0921 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。


プログラマーの応答: JCL か制御ステートメント、ま

DFS0922I • DFS0926I

たはその両方を調べてください。エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0921

DFS0922I DBD *dbdname* IS NOT A DBD


説明: 指定された DBD がロードされました。調べた結果、この DBD が有効な DBD ではなかったことが判明しました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0922 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: JCL か制御ステートメント、またはその両方を調べてください。エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0922

DFS0923I LC SEGM-*segmname*-IN DBD-*dbdname*-DATA LENGTH TOO SMALL. LENGTH SHOULD BE-*xxxxx* BYTES.


説明: 示されている DBD 内の示されている論理子セグメントでの BYTES 指定が、その論理親の完全連結キーよりも短い長さになっていました。最小許容長さがメッセージに示されています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0923 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0923

DFS0924I INDEX SEGMENT IN DBD-*dbdname*-TOO SHORT. LENGTH SHOULD BE-*xxxxx* BYTES.

説明: 指定された INDEX DBD のルート・セグメントのデータ長が、必要な索引データを保持するには小さ過ぎ


ます。最小許容長さがメッセージに示されています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0924 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0924

DFS0925I SEGM *segmname* IN DBD *dbdname* HAS A SEQ FIELD IN VIRTUAL LPCK AREA


説明: 指定された論理子セグメントに定義されているシーケンス・フィールドが、論理子内の論理親の連結キー域内にあり、そのキーが VIRTUAL として指定されていました。キーは、物理兄弟シーケンス・フィールドの一部として使用される場合は、PHYSICAL として指定されている必要があります。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0925 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0925

DFS0926I INVALID ALT PROC SEQ SPECIFIED FOR SENSEG-*segname* IN PCB-*pcbname* IN PSB-*psbname*


説明: 示されている PSB 内の示されている PCB に代替処理シーケンスが指定されていました。示されている副次索引は、指定されている SENSEG では無効です。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0926 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB か DBD、またはその両方を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0926

**DFS0927I INDEX DBD *dbdname* INDEXES
NON-EXISTENT FIELD IN DBD
*dbdname***

説明: 指定された INDEX DBD は、INDEXED DBD 内の存在しない索引フィールドを指定しました。

PSB が、高速機能副次索引データベースにアクセスするための高速機能副次索引 PCB のみを別個のデータベースとして含んでいる場合、その PSB に、関連する DEDB PCB を組み込む必要があります。最小限の DEDB PCB には、関連する DEDB データベースのルート・セグメントに関する SENSEG ステートメントが必要です。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0927 が出力されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

PSB が、高速機能副次索引データベースにアクセスするための高速機能副次索引 PCB のみを別個のデータベースとして含んでいる場合、同じ PSB に、関連する DEDB PCB を組み込んでください。最小限の DEDB PCB には、関連する DEDB データベースのルート・セグメントに関する SENSEG ステートメントが必要です。エラーの PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0927

**DFS0928I INDEX DBD *dbdname* INDEXES A
FIELD WHICH IS NOT A SEQ FIELD**


説明: 指定された INDEX DBD は有効なフィールドを索引付けしていますが、そのフィールドはシーケンス・フィールドではありませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0928 が出力されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: エラーの DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 異常終了 0928

**DFS0929I BLDL FAILED FOR MEMBER --
*member name***


説明: 指定されたメンバーに関して、BLDL が出力されました。このメンバーは DBD または PSB ライブラリーで検出されませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0929 が出力されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: 該当するライブラリーのエラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0929

**DFS0930I INVALID SEGMENT PAIRING FOR
SEGM *segmname* IN DBD *dbdname***

説明: 指定された DBD に含まれている LCHILD ステートメントが、指定された SEGM を PAIR=*operand* で参照していました。しかし、その SEGM は見付からなかったか、またはその SEGM は仮想セグメントであり、そのソース・セグメントに PTR=PAIRED オペランドが含まれています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0930 が出力されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

**DFS0931I INVALID INDEX RELATIONSHIP
BETWEEN INDEX DBD *dbdname* AND
INDEXED DBD *dbdname* IN PSB
*psbname***


説明: 指定された INDEXED DBD は、指定された INDEX DBD と索引関係がありました。INDEX DBD には INDEXED DBD に対して同様な関係がなかった (例えば、INDEX DBD がシンボル・ポインター PTR=SYMB を指定し、INDEXED DBD が直接ポインター PTR=INDX を指定する) か、指定された PSB で参照されている別の DBD にも INDEX DBD と索引関係があったか、いずれかです。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0931 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: 該当する PSB か DBD、またはその両方を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0931

DFS0932I INDEX DBD *dbdname* HAS NO SEQ FIELD


説明: 指定された INDEX DBD には、索引セグメントに関してシーケンス・フィールドが定義されていません。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0932 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: INDEX DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0932

DFS0933I INVALID INDICES=(*index name*) SPECIFIED FOR PSB-*psbname*


説明: 示されている PSB に含まれていた INDICES オペランドが無効でした。INDICES オペランドの示されている値は、関連 SENSEG ステートメントに関する有効な索引名ではありませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0933 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: エラーの PSB または DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0933

DFS0934I PSB *psbname* REFERENCED SEGM *segmname* IN DBD *dbdname*. SEGM HAS INVALID POINTERS


説明: 指定された PSB は、指定された DBD 内の指定された論理子 SEGM を参照しました。論理子には、物理的に保管される論理親の連結キーが必要であるが、VIRTUAL が指定されていたか、または指定された DBD 内で LP セグメントを見つけることができませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0934 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: 該当する DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0934

DFS0935I INVALID LOGICAL STRUCTURE FOR SEGM *segmname* IN DBD *dbdname*, PSB *psbname*


説明: 指定された PSB が、SENSEG ステートメントで、指定された DBD を参照していました。しかし、このセグメント定義内の論理構造または関係が無効でした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0935 が出されます。ACBGEN ユーティリティが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: 指定された DBD、または PSB によって参照されている論理 DBD を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0935

DFS0936I SEGM *segmname* IN PSB *psbname* SPECIFIED LOAD FOR VIRTUAL SEGMENT

説明: 指定された SEGM が、指定された PSB 内で PROCOPT に L または LS を使用して参照されました。しかし、SEGM は仮想セグメントであり、そのためロードできません。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合

は、異常終了コード 0936 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、プログラムを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0936

**DFS0937I MISSING PARENS ON SOURCE
OPERAND-segname DBDNAME-
dbdname**


説明: 指定された DBD が、指定されたセグメントを仮想セグメントとして指定しました。SEGM ステートメントの SOURCE オペランドに複数の SOURCE オペランドが含まれていました。おそらく、SOURCE オペランドの一对の括弧が欠落していることが原因です。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0937 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0937


**DFS0938I DELETE PROCESSING COMPLETE
FOR {DBD|PSB} membername**

説明: 指定された PSB または DBD が、ユーザー要求によって IMS.ACBLIB から削除されました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0938 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

モジュール: DFSUACB0、DFSUAMB0

関連情報:

 IMS 異常終了 0938

**DFS0939I INVALID PARMS SPECIFIED IN
PARM FIELD**

説明: 指定されている EXEC ステートメント・パラメーターが無効または不整合でした。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合

は、異常終了コード 0939 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントの PARM フィールドを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

 IMS 異常終了 0939

**DFS0940I {PSB | DBD} (psbname | dbdname)
HAS BEEN {ADDED | REPLACED}
IN LIBRARY. {PSB SIZE|DMB} SIZE
= xxxxxx BYTES**

説明: 指定された PSB または DBD が、ACB ライブラリー内で変更されています。存在していなかった場合は、追加されています。存在していた場合は、置き換えられています。メンバーのサイズは、示されているとおりです。

モジュール: DFSUACB0、DFSUAMB0

**DFS0941I PSB XXXXXXXXX IF USING DL/I
SUBORDINATE ADDRESS SPACE,
CSA SIZE = xxxxxx, SAS SIZE =
yyyyyy**

説明: PSB XXXXXXXXX が ACBLIB に挿入されたか、置き換えられています。DL/I 従属アドレス・スペースを使用する場合は、PSB は、CSA に xxxxxx バイトのスペース、DL/I 従属アドレス・スペース専用 to yyyyyy バイトのスペースを必要とします。PSB が常駐として定義されている場合は、常駐 CSA PSB および DL/I PSB スペースが初期設定時に計算および取得されます。常駐でない場合は、スペースはそれぞれの PSB プールから、その PSB の最初の使用時に取得されません。

このメッセージの CSA サイズと SAS サイズの合計が、メッセージ DFS0940I で示されている PSB サイズと必ずしも同じになるわけではありません。メッセージ DFS0940I の PSB サイズには、意図リストのサイズも含まれています。CSA PSB および SAS PSB のサイズには、意図リストのサイズは含まれません。

モジュール: DFSUAMB0

関連情報:

『DFS0940I』

DFS0942I IF USING DL/I SUBORDINATE ADDRESS SPACE, MAX CSA = *wwwwww* MAX SAS = *xxxxxx* AVERAGE CSA = *yyyyyy* AVERAGE SAS = *zzzzzz*

説明: DL/I 従属アドレス・スペースを使用する場合は、*wwwwww* が最大の CSA スペース所要量であり、*xxxxxx* は、この ACBGEN による処理の対象となる単一の PSB の場合に、最大の DL/I 専用スペース所要量です。ACBGEN で処理されるすべての PSB に関して、*yyyyyy* が平均 CSA スペース所要量で、*zzzzzz* が平均 DL/I 専用スペース所要量です。平均 CSA と平均 SAS の比率によって、2 つの PSB プールの相対サイズを判別する場合の何らかの基礎が得られます。ただし、この ACBGEN では処理されない PSB が他にあり、プール内に PSB の度数分布があるため、理想的な比率は異なります。

モジュール: DFSUACB0

DFS0943I PSB *PsbName* REQUIRES A MINIMUM OF *xxxxxxx* AND A MAXIMUM OF *xxxxxxx* BYTES OF STORAGE IN THE EPCB POOL

または

PSB *PsbName* REQUIRES A MIN OF *xxxxxxx* AND A MAX OF *xxxxxxx* BYTES OF STORAGE IN EPCB POOL IF USING FAST PATH

説明: このメッセージは、PSB が EPCB プール内で必要とするストレージの量を説明します。

このメッセージの最初の形式は、IMS バージョン 10 および IMS バージョン 11 でのみ、使用されます。

EPCB プールのサイズを変更しようとしています。PROCOPT=H を指定した各 PCB には、高速順次処理 (HSSP) で使用するために EPCB プール内に追加ストレージが必要です。HSSP で必要な追加ストレージの正確なサイズを計算するのに必要な情報が、このメッセージの作成時に使用不可でした。HSSP センシティブ PCB ごとに取得される追加の HSSP 作業域ストレージの最小量と最大量があります。この追加 HSSP 作業域ストレージは、EPCB プールで PSB が必要とするストレージの最小量と最大量を提示するために使用されます。

PSB が EPCB プールで必要とするストレージの MAXIMUM 量には、PSB 内の各 IOPCB および ALTPCB が含まれています。

システム・プログラマーの応答: 必要な最大 EPCB サイズを使用します。これは、HSSP 作業域が、PSB に必要なスペースに対応する十分な大きさでないためです。

モジュール: DBFUAMA0

DFS0944W BUILD FOR *dbdname* FAILED. A REQUIRED DBD WAS NOT IN DBDLIB

説明: BUILD DBD=*dbdname* 制御ステートメントを使用して DMB を作成するために、明示的 ACB 生成要求がなされましたが、必要な DBD が DBDLIB にありませんでした。欠落している DBD は、指定された DBD と論理的に関連した DBD のいずれかである可能性があります。このメッセージの前に、DFS0929I メッセージが欠落している DBD に関して出されています。

システムの処置: DBD が置換または追加されることはなく、戻りコード 8 が設定されます。

プログラマーの応答: 欠落している DBD を DBDLIB に追加し、ACB 生成を実行してください。

モジュール: DFSUACB0

関連情報:

293 ページの『DFS0929I』

DFS0945I PSB-*psbname*-PCB-*pcbname* HAS NO SENSITIVE SEGMENTS.


説明: 指定された PSB 内の指定されたデータベース PCB には、PSBGEN 時に SENSEG ステートメントが定義されていません。PSBGEN は無効でした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0938 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB ソース・ステートメントを訂正し、PSBGEN を再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0938

DFS0946I INDEX DBD-*dbdname* INDEXES A SYSTEM RELATED FIELD


説明: 示されている INDEX DBD に、/CK を先頭の 3 文字とするフィールド名を指定する INDEX= オペランドが含まれていました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0939 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0939

DFS0947I DBD *dbdname* BUILD DID NOT FORCE PSB REBUILDS.

説明: データベース *dbdname* が BUILD DBD= ステートメントで指定されましたが、参照 PSB の再作成を必要とするエリアで未変更でした。これらの PSB が自動的に再作成されることはありません。(BUILD DBD= ステートメントに明示的にリストされている PSB すべてが再作成されます。) PSB 選択再作成は、高速機能 MSDB には適用されません。

システムの処置: DBD は ACBLIB 内で置き換えられますが、参照 PSB は変更されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSUAMB0

DFS0948I SEGM-*segmname*-IN DBD-*dbdname*-IS VARIABLE LENGTH. PHYSICAL PAIR OF SEGMENT IS FIXED LENGTH.


説明: 示されている DBD 内の示されているセグメントは、可変長の物理対論理子でした。対の相手は固定長でした。物理対のセグメントは、同じ長さ属性を持っていないければなりません。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0941 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: エラーの DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0941

DFS0949I INDEX DBD-*dbdname*-INDEXES ITSELF

説明: 示されている INDEX DBD に含まれている LCHILD ステートメントに、この索引データベースの名前と同じデータベース名が、索引付きデータベースの名前として含まれていました。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0942 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0942

DFS0950I LOGICAL CHILD OR LOGICAL PARENT IN DBD *dbdname* REFERENCES SEGM *segment name*. REFERENCED SEGM HAS NO CORRESPONDING REFERENCE.

説明: 次のような無効な論理関係が存在します。


- 論理子が、示されているデータベース内の指定されたセグメントを参照し、指定された論理親には、LCHILD ステートメントがありません。
- 論理親が、指定されたデータベース内の論理子セグメントを参照し、論理子には、論理親に関する参照がありません。
- 論理 DBD には、指定されたセグメントへの参照が SOURCE= オペランドがなく、このオペランドではその対応する論理子または論理親を参照しています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0943 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0943

第 23 章 DFS メッセージ DFS0951I - DFS1000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS0951I SEGM *segment name* IS PHYSICALLY PAIRED. ITS PAIR DOES NOT HAVE EQUAL INTERSECTION DATA LENGTH.

説明: 参照されたセグメントが、物理対です。2つの交差データ長が等しくないか (固定長セグメントの場合)、または2つの対セグメントについて最大交差データ長が等しくありません。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0957 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



IMS 異常終了 0957

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0952I INVALID PROCOPT SPECIFIED FOR PRIMARY INDEX DBD *nnnnnnnn*

説明: 1 次索引 DBD と副次索引 DBD のいずれかを参照する PCB に関して無効な処理オプションが指定されました。1 次索引 DBD を参照する PCB の場合は、有効な処理オプションは G または GOx のみです。副次索引 DBD を参照する PCB の場合は、このメッセージが戻されるのは、PCB 処理オプションが L または LS の場合です。副次索引 DBD の場合は、処理オプション I も無効ですが、I が指定されると、処理オプションが変更されて I を除外し、警告メッセージ DFS2438W が送信されます。

システムの処置: バッチ 'DLI' 領域でブロックの作成中にこの条件が発生すると、異常終了コード 0958 が出されます。ACBGEN が行われている最中にこの条件が発生した場合は、ACBGEN は継続し、PSB に関して取られたアクションがエラーであることを示す、追加のメッセージが示されます。

プログラマーの応答: PSB が 1 次索引または副次索引 DBD を参照しないように変更するか、PCB の処理オプションを索引 DBD に関する有効な処理オプションに変更してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0953I LOGICAL CHILD IN DATA BASE *xxxxxxx* HAS A L/P PTR SPECIFIED.LOGICAL PARENT IS IN HISAM ORG.

説明: データベース *xxxxxxx* の論理子 SEGM ステートメントにエラーが存在します。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインターを指定することはできません。PTR=LP は間違った指定です。指定するのは、PTR= のみにしてください。

システムの処置: DL/I の下で実行中の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0959 が示されます。

プログラマーの応答: 論理子の SEGM ステートメントを訂正して、LP 指定を除去します。その代わりに PTR= を指定し、DBD を再アセンブルしてください。ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:



IMS 異常終了 0959

DFS0954I LOGICAL PARENT IN DATA BASE *xxxxxxx* HAS AN L/C POINTER.THE REFERENCE L/C IS IN HISAM ORG.

説明: データベース *xxxxxxx* の LCHILD ステートメントにエラーが存在します。PTR=SNGL と PTR=DBLE のいずれかを指定しています。これはどちらを指定しても誤りです。HISAM 編成のデータベースに対して、直接ポインターを指定することはできません。

システムの処置: DL/I の下で実行中の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0960 が示されます。

DFS0955I • DFS0960I

プログラマーの応答: LCHILD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

モジュール: DFSDLBL0

DFS0955I DBD *xxxxxxxx* IS A SHARED INDEX WITH MORE THAN ONE XDFLD CONSTANT OF THE SAME VALUE SPECIFIED


説明: 共用索引を指す DBD の XDFLD ステートメントにエラーが存在します。同じ値の XDFLD 定数を複数指定しています。共用索引に関する各 XDFLD ステートメントは、それぞれに固有の CONST= 指定が必要です。

システムの処置: DL/I の下で実行中の場合、IMS は異常終了し、異常終了コード 0961 が示されます。

プログラマーの応答: エラーのある XDFLD ステートメントを訂正し、DBD を再アセンブルしてから、ジョブを再実行します。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0961

DFS0956I PSB *psbname* CONTAINS AN HIERARCHIC SEQUENCE ERROR AT SENSEG *segname*


説明: 指定された PSB 内の SENSEG ステートメントが階層シーケンス (上から下、左から右) で指定されませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0962 が出されます。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントの順序を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0962

DFS0957W PSB *psbname* IS TOO LARGE FOR ACBGEN.SIZE=*xxxxxxxx* MAXIMUM=04194240

説明: PSB *psbname* が IMS での許容サイズを超えたと、ACBGEN が判別しました。生成 PSB サイズが *xxxxxxxx* です。最大許容 PSB サイズは 4,194,240 バイトです。

システムの処置: PSB は ACBLIB から削除され、戻りコード 8 が設定されます。ACBGEN は次の PSB から続行されます。

プログラマーの応答: SENSEG ステートメントおよび PCB ステートメントの数を減らして、PSB を再設計してください。

モジュール: DFSUAMB0

DFS958I CHKPT NOT FOUND ON LOG

説明: チェックポイント ID が CHKPT ステートメントにより、データベース・バックアウト・プロセスの停止点として指定されましたが、対応するバッチ・チェックポイント・レコードがログで検出されませんでした。バックアウトは実行されません。

プログラマーの応答: 正しい ID が指定され、正しいログ・データ・セットがマウントされているか確認してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS959I CHKPT NOT WITHIN LAST SCHEDULE OF PGM

説明: CHKPT ステートメントで指定されたバッチ・チェックポイント・レコードは、ログで見つかりましたが、プログラムの後続のスケジューリングが同じログ・ボリュームで検出されました。バックアウトは実行されません。

プログラマーの応答: プログラムの最新スケジューリング時に行われたデータベース変更のみをバックアウトする必要があります。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSBACK0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0960I WARNING DBD-*dbdname*-NOT REPLACED IN LIBRARY

説明: 指定された DBD が BUILD PSB= 要求の結果として処理されましたが、この DBD は ACBLIB に存在していました。BUILD DBD= が指定された場合は、PSB は、要求された DBD および指定された DBD

を参照しました。指定された DBD は再作成されませんでした。

システムの処置: IMS は処理を続けますが、戻りコード 4 を生成します。

プログラマーの応答: 指定された DBD が ACBLIB での置換を必要とする場合は、この DBD は、BUILD DBD= 制御ステートメントを使用して処理する必要があります。

問題判別: 2、4、17d、18、19

モジュール: DFSUAMB0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS961W MULTIPLE OCCURRENCES OF LOGICAL TWIN SEQ FIELD DETECTED. FIELD DEFINED AS UNIQUE.

説明: 論理子のあるデータベースが、固有の論理兄弟シーケンス・フィールドにすでに非固有の論理兄弟シーケンス・フィールドがロードされていることを示しました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。接頭部更新ユーティリティー (DFSURGP0) が、非固有の論理兄弟レコードに論理パス上で削除されたというマークを付けます。削除規則は無視されます。

プログラマーの応答: 影響を受けたセグメントを削除し、後続の更新実行時に、訂正されたシーケンス・フィールドをそれに再挿入してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、36

モジュール: DFSURG10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS0962I DBD *dbdname* NOT PROCESSED.

説明: BUILD DBD= 制御ステートメントが指定された DBD の処理を要求しましたが、その DBD を参照する PSB が PSBLIB 内に見つかりません。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 正しい DBD 名が指定されていること、および DBD を参照する PSB が PSBLIB にあることを確認してください。

モジュール: DFSUACB0

DFS0963W PURGE DATE CONFLICTS WITH INPUT ACCUM DATA FROM DD *ddname* DATA BASE *database name* FOR FUNCTION CA.

説明: 古い変更累積データ・セット・ヘッダー・レコードに、作成日時が含まれています。指定されたページ日付が作成日時より前です。入力ログ・データ・セットに古い変更累積データベースより前に作成されたレコードが含まれている場合は、リカバリーでは使用できないエクストラ・レコードが累積されています。

システムの処置: IMS は処理を続けますが、戻りコード 4 を生成します。

プログラマーの応答: 指定されたデータベースの、古い変更累積データベースより前に作成されたレコードが、入力ログ・データ・セットに含まれていないか確認してください。

問題判別: 2、3、8、36

モジュール: DFSUC350

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS964I INVALID PROCOPT SPECIFIED FOR PCB=*pcbname*, IN PSB=*psbname*


説明: 指定された PCB に PROCOPT H が含まれていましたが、DBD が DEDB ではありません。PROCOPT H が有効なのは、DEDB の場合のみです。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 0996 が出されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、再度プログラムを実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

関連情報:

 IMS 異常終了 0996

DFS965A DBD LRECL OR BLKSIZE DIFFERS FROM IMAGE HEADER

説明: リカバリー・ユーティリティーが、データ・セット論理レコードとリカバリーの対象であるデータ・セットに関するブロック・サイズを比較し、DBD 値と入力イメージ・コピー・ヘッダー・レコードの中の値の間の差、または CINV および LRECL (VSAM に対して定義されている) と入力イメージ・コピー・ヘッダー・レコードの中の値の間の違いを検出しました。


システムの処置: ABEND 制御ステートメントが指定されている場合は、異常終了コード 0302 が出力されます。そうでない場合は、処理は続行され、戻りコード 8 が生成されます。

プログラマーの応答: DBD には、データ・セット論理レコード、および同じデータ・セットのヘッダー値とは異なるブロック・サイズが含まれています。DBD 名および DD 名が正しく、DBD が変更されなかったか検証してください。出力が事前割り振り VSAM データ・セットである場合は、VSAM に対して定義された CINV および LRECL の値が DBD 値に合致するか確認してください。

問題判別: 2、3、8、35。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=965 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

モジュール: DFSURDB0

関連情報:

 IMS 異常終了 0302

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS966W RECOVERY OF ROOT ONLY VSAM
ESDS HISAM DATA BASE *ddname*
NOT REQUIRED**

説明: 以下のいずれかの条件が存在しています。

- ルート専用 VSAM HISAM データベースの ESDS へのアクセスを試みました。このデータ・セットは、IMS によって使用されず、処理に必要ありません。イメージ・コピーやリカバリーはできません。
- 示されている DD 名は、このデータベースには属していません。

システムの処置: ユーティリティは正常に完了し、ESDS のイメージ・コピーや ESDS データ・セットのリカバリーを伴いません。

オペレーターの応答: また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP,MSGNUM=966 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

プログラマーの応答: 上記の条件 1 が関与しない場合は、DD 名がこの DBD に属し、そのスペルが正しいか確認してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、3、8、36

モジュール: DFSRCP00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS967I WARNING-EMPTY
DATASET-DDNAME-*ddname***

説明: イメージ・コピー・ユーティリティが、示されているデータ・セットが空であることを検出しました。

システムの処置: ユーティリティは処理を完了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: 空のデータ・セット条件が無効の場合は、すべての入力が入力か確認して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUDMP0

**DFS968I DBD=*dbdname* WITHIN PSB=*psbname*
SUCCESSFULLY BACKED OUT**

説明: このメッセージは、指定されたデータベースに関して正常に行われたバックアウトを識別しています。

モジュール: DFSRBOIO

**DFS969I ERROR LOADING PSB *xxxxxxx* FOR
BACKOUT**

説明: バックアウトを必要とする PSB に関して、DL/I ブロックがロードできませんでした。理由としては、プール・スペースが十分ではなかったか、入出力エラー (メッセージ DFS561 が発行された)、あるいは、IMS 初期設定中にエラーが発生した (該当するメッセージが発行された) が考えられます。

システムの処置: バックアウトは行われません。バックアウトが必要なプログラムおよびデータベースは停止されます。処理は続行されます。

オペレーターの応答: PSB およびデータベースを開始する前に、バッチ・バックアウト・ユーティリティを指定された PSB に関して実行してください。

問題判別: 1、5、8、11。および、/CHECKPOINT FREEZE ABDUMP でメモリー・ダンプが取られます。

モジュール: DFSRBOIO

関連情報:

178 ページの『DFS561E』

177 ページの『DFS561A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS970I (UNEXPECTED STATUS|
OPNDST/OPNSESS FAILED|
CLSDST/TRMSESS FAILED|
GENCB/MODCB ERROR| FORCED
CLEANUP DONE| SESSION
FAILURE), NODE *node name*,
USER/*user name*| N/A, (UNDEFN |
SETLOG | SIMLOG | OPNDST |
OPNSESS | CLSDST | SEND|RECEIV
| TRMSESS | RQR | RESETSR |
INQUIR|SESSNC | *****),
RC=*FDB2* , LOSTERM=*NSEXIT* =|
UNBIND=*SENSE* , REASON=

説明: 以下でこのメッセージの機能およびコマンドについて説明します。

機能: 障害の発生時に実行されていた機能を示します。

UNEXPECTED STATUS

RPL の RC,FDB2、および RPLREQ フィールドに無効の組み合わせがあった (つまり、SEND 操作が完了し、SEND に関して戻される戻りコードが無効であった) か、または LOSTERM EXIT がスケジュールされました。

OPNDST/OPNSESS

OPNDST/OPNSESS 処理中に障害が起きました。

CLSDST/TRMSESS

CLSDST/TRMSESS 処理中に障害が起きました。

GENCB/MODCB ERROR

OPNDST または CLSDST に関して RPL または NIB のセットアップを試みている最中に、障害が起きました。

FORCED CLEANUP DONE

解決の入出力のあるハング・ノードを解放するクリーンアップ RU で NSEXIT をシミュレートするために、/CLS FORCE コマンドが発行されました。RC、FDB2、および RPLREQ は、入出力が未解決の RPL からです。

SESSION FAILED

ノード接続が終了しました。

コマンド: 障害の発生時に実行されていたコマンドのタイプを示します。

UNDEFN

RPL は RPLREQ フィールドに未定義の値があります。

SETLOG

SETLOGON コマンドの間に障害が起きました。

SIMLOG

SIMLOGON コマンドの間に障害が起きました。

OPNDST|OPNSESS

OPNDST または OPNSESS コマンドの間に障害が起きました。

CLSDST|TRMSESS

CLSDST または TRMSESS コマンドの間に障害が起きました。

SEND

SEND コマンドの間に障害が起きました。

RECEIV

RECEIVE コマンドの間に障害が起きました。

RESETSR

RESETSR コマンドの間に障害が起きました。

INQUIR

BIND パラメーターの照会を試みていて、障害が起きました。

SESSNC

SESSIONC コマンドの間に障害が起きました。

RQR

無効な VTAM RQR コマンドが、このノードの IMS によって受信されました。

***** 進行中の操作がなく、LOSTERM に 16 進値が入っている場合は、正常です。

エラー・データ:

- RPLRTNCD フィールドに RC= 値
- RPLFDB2 フィールドに FDB2= 値
- VTAM によって IMS LOSTERM または NSEXIT 出口に渡された LOSTERM=*NSEXIT* 値。
 - X'0C' - LOSTERM
 - X'29' - NSPE クリーンアップ RU
 - X'20' - NSPE 通知 RU
 - X'B0' - アンバインド受信
 - X'00' - LOSTERM も SPE もない
- VTAM によって IMS SCIP 出口に渡された UNBIND= アンバインド・コード。
- VTAM、DEVICE、または NSEXIT から渡された SENSE= センス・コード。
- NSEXIT または UNBIND によって生成された REASON= 理由コード

VTAM 標識とセンス値の詳細については、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829)を参照してください。

DFS971I • DFS973I

システムの処置: ACF/VTAM はセッションを終了しましたが、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 問題の診断後、セッションの開始を試行してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

モジュール: DFSCM7A0、DFSCVCS0、DFSCVHA0、DFSDN280

関連資料:

➡ z/OS: 例外条件およびセンス情報

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

オペレーターの応答: ノードの OPNDST を試み、可能な場合は操作を続行してください。操作が不可能な場合は、『問題判別』を参照してください。要介入処理の場合は、ノードを作動可能にすれば、処理は正常に続くはずで、IMS Transaction Manager の障害のトレースを入手してください。

問題判別: 14、23、36

モジュール: DFSCVEO0

関連資料:

➡ z/OS: 例外条件およびセンス情報

➡ z/OS: 制御要求および標識の要約

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS971I (I/O ERR|INT REQ) NODE *node name,*
ssbytes, error description

説明: IBM 3270 装置に対する入出力操作が異常終了しました。 *ssbytes* は、VTAM によって IMS へ渡された、RPL からの 3270 センス/状況バイトです。エラー記述フィールド VTAM 標識は、次のとおりです。

PATH リカバリー可能パス・エラーが発生しました。

CPM リカバリー不能エラーが発生しました。

STATE

ノードによるブラケット標識の使用でエラーが発生しました。

FI 機能インタープリター・エラーが発生しました。

RR 要求リジェクト・エラーが発生しました。

エラー記述フィールド・センス/状況標識は、次のとおりです。

DB 装置使用中

US 装置指定

DE 装置終了

TC 伝送チェック

CR コマンド・リジェクト

IR 要介入

EC 装置チェック

DC データ・チェック

CC 制御チェック

OC 操作チェック

ヒント: VTAM 標識および、3270 センスまたは状況標識の詳細については、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829) を参照してください。

システムの処置: 要介入条件の場合を除いて、ノードを CLSDST してください。要介入処理では、ノード(端末)が作動可能になった後、操作は正常に続行されます。

DFS972A *IMS (DCCTL) AWAITING MORE INPUT*

説明: 複数セグメント・メッセージがシステム・コンソールから開始されました。メッセージを完了するには、さらにデータが必要です。(DCCTL) がメッセージに表示されているのは、DCCTL 環境にある場合です。

システムの処置: 処理は続行されますが、ITASK は入力を待ちます。

オペレーターの応答: 必須セグメントを入力し、最後のセグメントはピリオドで終わるようにしてください。

モジュール: DFSDNSC0

DFS973I LINE xxx, PTERM yyy, aaa, {G|S}, tttt,
ssss, conditions

説明: IMS 回線 *xxx*、物理端末 (PTERM) *yyy* である、オンライン回線 *aaa* 上のリモート 3271/3275 が、装置終了 (X'C240') 以外の情報が入っている、センス状況メッセージを IMS に送信しました。このメッセージは、S または G で表される IMS からの特定または一括ポーリングに対する応答として送信されました。3270 によって送信された端末アドレスは、*tttt* で表示されているフィールドに表示され、センス/状況バイトはフィールド *ssss* に表示されます。センス/状況バイトは条件域で解釈および印刷されます。解釈には次の意味があります。

バイト 意味

DB 装置使用中

US 装置指定

DE 装置終了

TC 伝送チェック

CR コマンド・リジェクト

IR 要介入

EC 装置チェック
 DC データ・チェック
 CC 制御チェック
 OC 操作チェック

オペレーターの応答: 3270 端末に関して、メッセージ DFS072I、DFS251I、または DFS0253 も受信される場合は、このメッセージの情報を IBM 担当員に提示する必要があります。

問題判別: 1、6、14、23

モジュール: DFSC3270

関連情報:

45 ページの『DFS072I』

81 ページの『DFS251I』

82 ページの『DFS253』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS0974I SEGMENT xxxxxxxx IN DATABASE
 yyyyyyyy HAS AN INVALID DELETE
 RULE FOR SEGMENT DATA USER
 EXITS**

説明: データベース yyyyyyyy のセグメント xxxxxxxx に、DBD/SEGM ステートメントで EXIT= として定義されている出口ではサポートされない削除規則があります。

システムの処置: 処理は終了し、RC=8 が示されます。

プログラマーの応答: EXIT= 定義を訂正してください。

問題判別: 2、3、8、および 19

モジュール: DFSDLB00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS975W NON-RECOVERABLE DBD=xxxxxxx
 WITHIN PSB=yyyyyyy STOPPED
 DUE TO UNKNOWN BACKOUT
 STATUS**

説明: IMS が、アプリケーション yyyyyyyy で変更されたデータベースのバックアウトを必要とする状態を検出しました。バックアウトは完了できませんでした。データベース xxxxxxxx は停止されます。これはリカバリ不能データベースであるため、IMS がさらにそのバックアウトを試みることはありません。許容条件に復元されるまでは、開始してはなりません。

システムの処置: データベース xxxxxxxx は停止されま

システム・プログラマーの応答: データベースを復元してください。

モジュール: DFSRBOIO、DFSRBLB0

**DFS976I nnn MESSAGES(S) PURGED, x
 PURGED MSG(S) REROUTED, DEQ
 CMD SUPPRESSED BY MESSAGE
 CONTROL ERROR EXIT**

または

**nnn MESSAGE(S) PURGED, x PURGED MSG(S)
 REROUTED**

または

**nnn MESSAGES(S) PURGED, DEQ CMD
 SUPPRESSED BY MESSAGE CONTROL ERROR
 EXIT**

説明: NODE、LTERM、および MSNAME に関する /DEQUEUE コマンドによって、それぞれのメッセージの処理より前に、メッセージ制御/エラー出口の起動が行われます。PURGE キーワードを指定した /DEQUEUE コマンドが原因で、(nnn) 数のメッセージがメッセージ・キューからパージされました。高速機能メッセージがパージされている場合は、表示されているパージされたメッセージのカウントに含まれています。

ユーザー出口は、キューからのメッセージのパージと、別の宛先へのその転送を要求します。変数 x が、パージされ、転送されたメッセージの数です。

システムの処置: コマンドは正常に完了しました。

オペレーターの応答: (マスター端末) メッセージ制御/エラー出口が、受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定しているか、あるいは出口フラグは正しいが、IMS が要求された処置を実行していて、関連デフォルトの実行中にエラーが検出された場合に、このメッセージが出ます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ制御/エラー出口 DFSCMUX0 からデフォルトのアクションを検索してください。送信エラー、受信エラー、および DEQ コマンドに関する X'6701' CMEI レコードの強制ログ・エントリーである、メッセージ制御/エラー出口 インターフェース・ブロック MSNB の MSNBMSG 領域で、エラー記述を探してください。出口フラグ、または転送のための宛先 (該当する場合) を訂正してください。

問題判別: 14

モジュール: DFSICLJ0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS976I *nnn* MESSAGES(S) PURGED, *x*
PURGED MSG(S) REROUTED, DEQ
CMD SUPPRESSED BY MESSAGE
CONTROL ERROR EXIT

または

nnn MESSAGE(S) PURGED, *x* PURGED MSG(S)
REROUTED

または

nnn MESSAGES(S) PURGED, DEQ CMD
SUPPRESSED BY MESSAGE CONTROL ERROR
EXIT

説明: NODE、LTERM、および MSNAME に関する /DEQUEUE コマンドによって、それぞれのメッセージの処理より前に、メッセージ制御/エラー出口の起動が行われます。PURGE キーワードを指定した /DEQUEUE コマンドが原因で、(*nnn*) 数のメッセージがメッセージ・キューからパージされました。高速機能メッセージがパージされている場合は、表示されているパージされたメッセージのカウントに含まれています。

ユーザー出口は、キューからのメッセージのパージと、別の宛先へのその転送を要求します。変数 *x* が、パージされ、転送されたメッセージの数です。

システムの処置: コマンドは正常に完了しました。

オペレーターの応答: (マスター端末) メッセージ制御/エラー出口が、受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定しているか、あるいは出口フラグは正しいが、IMS が要求された処置を実行していて、関連デフォルトの実行中にエラーが検出された場合に、このメッセージが出ます。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: メッセージ制御/エラー出口 DFSCMUX0 からデフォルトのアクションを検索してください。送信エラー、受信エラー、および DEQ コマンドに関する X'6701' CMEI レコードの強制ログ・エントリーである、メッセージ制御/エラー出口インターフェース・ブロック MSNB の MSNBMSG 領域で、エラー記述を探してください。出口フラグ、または転送のための宛先 (該当する場合) を訂正してください。

問題判別: 14

モジュール: DFSICLJ0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS977I INOP/NA: *n n n n*

説明: 2770 端末がコンポーネント・エラーを認識し、コンポーネントに作動不能のマークを付けました。エラーが処理された後で、メッセージを受信できる使用可能なプリンターまたは 2265 コンポーネントがある場合は、このメッセージは 2770 端末で印刷されます。このメッセージには、現行端末状態が記述されています。作動不能または接続されていないコンポーネント・スロットは、すべてスロット番号 (N) がメッセージに表示されています。

オペレーターの応答: 端末でエラー条件を訂正し、システムによって処理されたデータを検査してください。その上で、適切なコンポーネントの再始動コマンドを発行してください。

モジュール: DFSDN090

DFS978I PLEASE RESEND LAST LINE

説明: 最後のセグメントを読み取っていて、入出力エラーが発生しました。

説明: 最後のセグメントを再入力するか、必要に応じて、/CANCEL コマンドを使用して、以前のすべてのセグメントを取り消してください。

問題判別: 1、6、23

モジュール: DFSCLM00、DFS050

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS979I BATCH MESSAGE PROGRAM
psbname WAS ACTIVE AT TIME OF
FAILURE

説明: *psbname* で示されているバッチ・メッセージ・プログラムが、緊急時再始動を必要とする障害の発生時にアクティブであったと、緊急時再始動によって判別されました。

このメッセージは、他の処理中のバックアウト・プロセス中の障害から発生する可能性もあります。

システムの処置: 再始動による - プログラムおよび関連データベースが停止されます。メッセージ DFS981I がこのメッセージに付随して出され、停止されたデータベースを識別します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 緊急時再始動用に入力されたものと同じテープを使用して、説明されているようにバッチ・バックアウト・ユーティリティ DFSSBO00 を実行してください。その上で、プログラ

ムおよびデータベースを開始し、バッチ・メッセージ・プログラムを再実行してください。

問題判別: 4、5

モジュール: DFSRBLB0、DFSRBOIO

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS980I *hh:mm:ss* **BACKOUT PROCESSING HAS ENDED FOR PSB *psbname***

説明: 指定された PSB に関して、データベース・バックアウト機能が終了しています。この状態が生じる可能性があるのは、プログラム分離によるオンライン実行中の動的バックアウト、または緊急時再始動時です。

バックアウトにかかっている PSB 内の各データベースごとに、それぞれメッセージ DFS968I または DFS981I がこのメッセージより前に出ます。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

モジュール: DFSRBOIO

関連情報:

302 ページの『DFS968I』

『DFS981I』

DFS981I **DBD=*dbdname* WITHIN PSB=*psbname* STOPPED DUE TO (BACKOUT FAILURE|ERE NOBMP START|COLDBASE START|REMOTE TAKEOVER)**

説明: このメッセージは、示されている理由で停止したデータベースを示します。

プログラマーの応答: すべての場合に、このデータベースのバックアウトを行う必要があります。BACKOUT FAILURE および ERE NOBMP START が理由である場合は、/START DB コマンドまたは UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを入力してバックアウトを行うことができます。理由が COLDBASE START の場合は、バッチ・バックアウトをご検討ください。REMOTE TAKEOVER の場合は、順方向リカバリーとそれに続くバッチ・バックアウトが必要です。

モジュール: DFSRBOIO、DFSRBLB0

DFS982I **I/O ERROR READING BACKOUT QUEUE COVERING SYSTEM**
CHKPT=*yyddd/hhmmss*

または

I/O ERROR READING BACKOUT QUEUE

説明:

最初のメッセージは、バッチでしか出されません。2 番目のメッセージは、このメッセージのオンライン (TM および DBCTL) 形式です。*yyddd/hhmmss* は、バックアウトされるリカバリー単位の開始前に生じた最後のシステム・チェックポイント ID です。ログの読み取りでエラーが発生しました。入出力エラーが発生した場合は、メッセージ DFS0414I が出されるはずですが、

DBRC がアクティブの場合は、データベースがリカバリーしたら、通知する必要があります。DBRC が非アクティブの場合は、リカバリーが必要でなくなってからも、このメッセージが再度出される可能性があります。バッチ・バックアウトが実行されると、DBRC に自動的に通知されます。

このメッセージは、問題が発生して、バックアウトするのに過剰な数のレコードがあり、バックアウトに必要な一部のレコードがすでにアーカイブされていた場合にも出される可能性があります。

システムの処置: IMS 処理は続行されますが、バックアウトは失敗します。

モジュール: DFSRBOIO

DFS983I **I/O ERROR IN DATA BASE *xxxxxxx*, PROGRAM *xxxxxxx* DURING BACKOUT.**

説明: 示されているデータベースおよびプログラムに関して不完全なトランザクションをバックアウトするために、緊急時再始動または動的バックアウトが試みられている最中に、入出力エラーが発生しました。このデータベースは停止され、残りのデータベースに対しては、処理の続行が許されます。

このメッセージは、データベース名の代わりに PURGE が表示されて、出される可能性があります。この場合は、このバックアウトのために使用されたバッファをパーズするための呼び出しが失敗していることを示しています。そこで、データベース保全性を保護し、データベースおよび PSB に対するトランザクションすべてのバックアウトを確保するために、バッチ・バックアウトを実行する必要があります。

システムの処置: データベースは停止され、通常の処理が続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) リカバリーおよびバックアウトが完了したら、ユーザーは、該当するマスター端末コマンドを使用して、データベースおよびプログラムを開始する必要があります。

プログラマーの応答: データベースに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。リカバリーが完了したら、エラー・メッセージに示

されているプログラム、および緊急時再始動への入力として使用されたものと同じテープを指定して、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行する必要があります。このエラー・メッセージのあとでバッチ・バックアウト・ユーティリティを実行すると、PSB xxxxxxxx に関してはバックアウトが存在しないことを示す、メッセージ DFS888I がバッチ・バックアウトから戻される結果になる可能性があります。正しい入力テープが使用されていれば、直前の緊急時再始動または動的バックアウトが、データベース/プログラム名に関する不完全なトランザクションについて、入出力エラーが起きる前に正常にバックアウトしたことを DFS888I によって示します。

問題判別: 1、5、8、11

モジュール: DFSRBOIO

関連資料:

➡ リカバリー・ユーティリティ (データベース・ユーティリティ)

関連情報:

283 ページの『DFS888I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS984I UNABLE TO OPEN DATA BASE
xxxxxxx, PROGRAM xxxxxxx FOR
BACKOUT.**

説明: 緊急時再始動では、バックアウト処理のためにデータ・セットを開けませんでした。

システムの処置: データベースおよびプログラムは停止され、通常の処理が続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) データベース・リカバリーまたはバックアウト、あるいはその両方が完了した後、ユーザーは、該当するマスター端末コマンドを使用して、データベースおよびプログラムを開始する必要があります。

プログラマーの応答: かかわっているデータベースについて DD ステートメントをチェックし、オンラインであるか確認してください。JCL が正しい場合は、緊急時再始動を促した障害によって、データベースが損傷している可能性があります。該当する場合は、メッセージ DFS983I に関するプログラマーの応答のとおりに行ってください。該当しない場合は、エラー・メッセージに示されているプログラム、および緊急時再始動への入力として使用されたものと同じテープを指定して、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行してください。

問題判別: 1、5、8

モジュール: DFSRBOIO

関連資料:

➡ データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) (データベース・ユーティリティ)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS985I SYSTEM ERROR DURING BACKOUT
FOR DB=ddddddd, PGM=pppppppp,
LOG SEQ=yyyyyyyy, RC=zzzzzzzz**

説明: データベース dddddddd およびプログラム pppppppp に関して不完全なトランザクションをバックアウトするために、緊急時再始動または動的バックアウトが試みられている最中に、エラーが発生しました。フィールド yyyyyyyy は、処理されるデータベース変更ログ・レコードの 16 進シーケンス番号です。フィールド zzzzzzzz は、バックアウト中に生じた可能性のある疑似異常終了コードと値 4 と値 10 のいずれかです。値が 4 または 10 の場合は、疑似異常終了以外のエラーが発生したことを示します。

システムの処置: データベースおよびプログラムは停止され、処理は続行されます。タイプ X'67FF' 疑似異常終了がログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 最初の事例の場合であれば、IMS を最初期設定してから、緊急時再始動を再試行してください。2 番目の事例の場合であれば、データベース・リカバリーまたはバックアウト、あるいはその両方が完了した後で、該当するマスター端末オペレーターによって、データベースおよびプログラムを開始してください。

プログラマーの応答: 次の 2 つの事例が問題の判別および解決に役立つはずです。

- RC=00000004 が /ERE 処理中に受信される場合は、バックアウトされるデータベースに関して、データ管理ブロック (DMB) ディレクトリー・エントリーが検出されていなかった可能性があります。システムの再始動に使用される IMS 中核が、元のシステム障害の発生時に使用中であったものと同じであることを確認してください。これが問題の場合は、正しい中核を指定して IMS ジョブを再始動し、その後、緊急時再始動を再実行してください。
- RC=00000010 が受信される場合は、最も可能性の高い理由として、CSRCSRVRV マクロの発行時に、レジスター 3 に負の値が入っていたという場合が考えられます。
- RC=Uxxxx (xxxx は、/ERE または動的バックアウト中に生じた疑似異常終了コード)、または RC=00000004 で、最初の事例が問題ではない場合は、ログ・データ・セット上のタイプ X'67FF' 異常終了レコードが、問題の原因を判別するために必要で

す。プログラム pppppppp、および緊急時再始動への入力として使用されたログと動的バックアウト時に使用中であったログのどちらかを指定して、データベース・バックアウト・ユーティリティを実行してください。

問題判別: 1、5、8、17b

モジュール: DFSRBOIO

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS986A CANNOT OPEN SYSTEM
DATASET-DD NAME-nnnnnnnn,
RC=xx**

説明: DD ステートメントが欠落していたか、データ・セットのフォーマットが必要です。フォーマット設定を伴う再始動時に、nnnnnnnn で示されているデータ・セットで入出力エラーが発生した可能性もあります。戻りコード xx は、次のように定義されています。

コード (16 進数)

意味

- 00 これは正常な状態です。
- 04 DCB はすでに開かれているか、クローズされています。
- 08 DCB はすでに開いています。
- 0C DECBTYPE は無効です。
- 10 IMS SVC で障害が発生しました。DCBWRK1 が理由を示します。エラー・サブコードについては、メッセージ DFS0730I を参照してください。
- 14 OSAM OPEN ルーチンがファイル・マークのスキャン、フォーマット設定、またはファイル・マークの書き込みを行っている最中に、入出力エラーが発生しました。追加情報については、DECBSTAT を参照してください。
- 18 無効の RBN が計算されました。RBN は、ゼロであるか、データ・セットの最大 RBN より大であるか、いずれかです。複数データ・セットが短または長メッセージ・キューに関して定義されているときは、複数データ・セットのスペース指定に誤りがあるためにエラーが生じた可能性があります。インストール情報で、IMS.QBLKS、IMS.SHMSG/1-9、および IMS.LGMSG/1-9 についてのトピックと、「IMS V15 システム管理」で、メッセージ・キュー・データ・セットの割り振りについてのトピックを参照してください。
- 24 データ・セットに関する EOVS 処理中に、エラーが発生しました。

- 28 キュー・マネージャーのシステム・データ・セットを開いている最中に、無効の DD 名が検出されました。

システムの処置: IMS は、別の再始動コマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) BLDQ および FORMAT キーワードを使用し、必要に応じて再始動コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 参照先データ・セットに関して DD ステートメントが存在するか確認し、DISP=OLD であれば、そのデータ・セットはシステムで使用可能です。

問題判別: 1、8、11

モジュール: DFSQDOC0

関連情報:

DFS0730I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS987I ERROR READING SLDS DURING
BACKOUT WITHIN PSB=XXXXXXXX
DUE TO NON-RECOVERABLE DB**

説明: IMS は、動的バックアウトでの SLDS 読み取り中に、リカバリー不能データベースのアーカイブ・ログ・レコードを検出しました。これはバックアウトに使用できないレコードであるため、IMS はそれ以上バックアウトを試行しません。バックアウトは完了できませんでした。データベースが許容条件に復元されるまでは、バックアウトを再開しないでください。

バックアウトに関与する PSB 内の各データベースごとに、このメッセージの後にメッセージ DFS981I または DFS975W が出されます。

システムの処置: データベースは停止します。IMS 処理は続行されますが、バックアウトは失敗します。

プログラマーの応答: リカバリー不能データベースの場合、データベースを復元してください。リカバリー可能データベースの場合は、バッチ・バックアウト・ユーティリティを実行してください。

モジュール: DFSRBOIO

関連情報:

DFS975W

DFS981I

**DFS0988I GLOBAL rsrcstat STATUS UPDATE
REQUEST FOR rsrcstype COMPLETE**

説明: タイプ 1 グローバル・コマンドが発行され、データベースまたは DEDB 状況がリソース・マネージャー (RM) で更新されました。一部のリソース、すべてのリソース、またはリソースなしに対する要求が正常に完了することができます。一部のリソースまたはすべてのリソースに対する要求が失敗する場合、このメッセージの前にメッセージ DFS3308I が先行します。DFS3308E メッセージには、RM 戻りコードと理由コードが含まれ、状況が更新されなかったデータベースまたは DEDB エリアを識別します。QRY DB STATUS(GLOBAL) コマンドを発行すると、RM 内のリソースの状況を検証できます。

rsrcstat

次の表に示されているように、リソースの状況を示します。

表 6. リソースの状況

rsrcstat	意味
STA	リソースはグローバルに開始されます。
STOACC	リソースはグローバルにアクセスが停止され、オフラインです。
STOPPED	リソースはグローバルに停止されます。
STOSCHD	リソースはグローバルに停止されます。
STOUPDS	リソースはグローバルに更新が停止されます。

rsrcstype

リソース・タイプをデータベースまたは DEDB エリアのいずれかとして特定します。

システムの処置: IMS はコマンドの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIUS10

関連情報:

802 ページの『DFS3308E』

DFS989I IMS (DBCTL) READY (CRC=x)

説明: データベース制御 (DBCTL) サブシステムは、コマンド入力の準備ができています。そのコマンド認識文字 (CRC) が *x* です。

オペレーターの応答: 該当する再始動コマンドを入力してください。

モジュール: DFSXCIC0

**DFS990I LAST number CARDS NOT
PROCESSED**

説明: 2770 端末がエラーを認識し、データ・ストリームを廃棄しました。*number* は、処理されなかったカードの数です。

オペレーターの応答: (端末オペレーターの入力) エラーのカードを訂正し、その点からジョブを再実行してください。

モジュール: DFSDN050、DFSDN090

DFS991I IMS SHUTDOWN

説明: システムがシャットダウンされると、このメッセージがすべてのアクティブ・ターミナルに送信されます。

モジュール: DFSICIO0

**DFS992I DMB POOL TOO SMALL, UNABLE
TO SCHEDULE PSB psbname**

説明: データ管理ブロック・プールが小さすぎて、必要なデータ管理ブロックがすべては収まらないため、指定された PSB はスケジュールできません。

プログラマーの応答: 該当するパラメーターを変更して、プールのサイズを大きくし、システムを再始動してください。

モジュール: DFSDPDM0

**DFS993I (CSA PSB|DLS PSB|PSBW) POOL
TOO SMALL, UNABLE TO
SCHEDULE PSB PSBNAME.**

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- 指定された PSB は大きすぎて、示されている (CSA|DLS) PSB プールに収まらないため、スケジュールできません。DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されていない場合は、PSB 全体が CSA PSB プールにあります。DL/I 従属アドレス・スペースが選択されている場合は、PSB は一部が CSA PSB プールに、一部が DLS PSB プールにあります。
- この PSB で必要とされる作業域が大きすぎて、PSBW プールに収まりません。

システムの処置: PSB は停止します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- 最初の問題の場合は、次の情報を使用してください。非 DL/I 従属アドレス・スペース環境用の PSB プールのサイズは、制御領域 JCL で PSB= パラメーターを使用して指定されます。DL/I 従属アドレス・スペース環境では、CSAPSB= および DLIPSB= が、DL/I 従属アドレス・スペース・ローカル・ストレージ内の CSA PSB プールおよび 2 番目の PSB プールのサイズです。PSB *psbname* に関する ACBGEN ユーティリティーの出力によって、これらのプールで必要なスペースの量が示されます。
- 2 番目の問題の場合は、次の情報を使用してください。PSBW プールのサイズは、制御領域 JCL で PSBW= パラメーターを介して指定されます。PSB *psbname* (WORKAREA=) に関する ACB 保守ユーティリティーの出力によって、PSBW プールで必要とされるスペースの量が示されます。

モジュール: DFSDPDM0

DFS994I *CHKPT *yyddd/hhmmss*ctype*

または

rtype START COMPLETED

または

IMS SHUTDOWN COMPLETED

または

IMS SHUTDOWN (DBCTL) COMPLETED

または

IMS SHUTDOWN (DCCTL) COMPLETED

または

STATISTICS CHECKPOINT COMMAND COMPLETED

または

XRF TAKEOVER COMPLETED

説明: 次のいずれかの結果として、チェックポイントが IMS システム・ログに書き込まれました。

- 再始動コマンド
- /CHECKPOINT コマンド
- /DBRECOVERY コマンド
- /DBDUMP コマンド
- IMS システム・ロガーによる自動開始

- 代替 IMS システムによって完了した XRF のテークオーバー

再始動が完了すると、再始動タイプが示されます。IMS の終了時に、シャットダウン完了メッセージが出されず。*yyddd/hhmmss*、*ctype*、および *rtype* の値は、次のとおりです。

- *yyddd/hhmmss* は、チェックポイントを識別するタイム・スタンプです。
- *ctype* は、チェックポイント・タイプです。可能な値としては、*SIMPLE*、*FREEZE*、*DUMPQ**、*SNAPQ**、および *PURGE** があります。
- *rtype* は、再始動タイプです。指定できる値は、次のとおりです。

COLD

WARM

EMERGENCY

BUILDQ WARM

BUILDQ EMERGENCY

COLDBASE EMERGENCY

COLDBASE *BUILDQ* EMERGENCY

COLDCOMM EMERGENCY

COLDSYS EMERGENCY

システムの処置: チェックポイント・タイプに応じて、正常な処理が続くか、IMS が終了します。

IMS SHUTDOWN (DBCTL) COMPLETED 形式のメッセージの場合は、DBCTL が終了します。IMS SHUTDOWN (DCCTL) COMPLETED 形式のメッセージの場合は、DCCTL が終了します。

STATISTICS CHECKPOINT COMMAND COMPLETED 形式のメッセージの場合は、IMS パフォーマンス統計レコードがシステム・ログに書き込まれます。このチェックポイントは再始動チェックポイントではありません。

XRF TAKEOVER COMPLETED 形式のメッセージの場合は、リカバリー機能の一部はまだアクティブである可能性があります。この場合は、リカバリー処理と競合しない新規トランザクションは、リカバリー処理と並行して実行できます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRCP00、DFSRST00、DFSTERM0

DFS0995A RECALL FAILED - DFHSM NOT ACTIVE - REPLY: RETRY, OR CANCEL (CANCEL DISABLES RECALL FUNCTION)

説明: RECALL 要求が、DFHSM がアクティブでなかったことを示す戻りコードを受信しました。

システムの処置: IMS は、メッセージに対する応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかの応答を入力します。

RETRY

IMS からの別の再呼び出し要求を起動します。

CANCEL

IMS 制御領域実行の残りに関して、再呼び出し機能を使用不可にします。

モジュール: DFSDYA00

DFS996I IMS (DCCTL) READY

説明: 環境が DCCTL である場合は、(DCCTL) がメッセージに表示されます。環境が TM/DB である場合は、(DCCTL) はメッセージに表示されません。このメッセージは、システム・コンソールに WTOR として表示されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) ユーザーがシステム・コンソールを通してデータを入力したいときに、このメッセージに回答してください。

モジュール: DFSDNSC0

DFS997I MORE SEGMENTS REQUIRED

説明: IBM 2740-2 型端末から、部分複数セグメント・メッセージが入力されました。

システムの処置: 処置は、ローカル/リモート端末オペレーターが決定します。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) メッセージを完了するか、または取り消してください。

モジュール: DFSDN040

DFS998I LINE xxx PTERM yyy IS INOPERABLE

または

VTAM NODE xxxxxxxx IS INOPERABLE

または

LINE xxx PTERM yyy BTAM ERROR zz

または

LINK xxx BTAM ERROR zz

または

VTAM RC xx FEEDBACK yy REASON zz

説明: このメッセージには 5 つの形式があります。

このメッセージの最初の形式の場合:

LINE xxx PTERM yyy で入出力エラーが発生しました。

2 番目の形式の場合:

NODE xxxxxxxx で入出力エラーが発生しました。

3 番目と 4 番目の形式の場合:

BTAM が戻りコード zz を出しました。このメッセージの LINK xxx 部分は、複数システム結合システムに関係しています。zz 戻りコードは、次のとおりです。

4 IMS が入出力操作を開始し、回線、リンク、または PTERM が使用中であることを検出しました。この状態は、IMS の正常な操作中には発生しません。

システム処置: PTERM に作動不能のマークが付けられ、PSTOP コマンドでリンクが停止されます。IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを提供するために、IMS トレース機能を使用して、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が書き込まれます。

オペレーター応答 (マスター端末): IMS システム・プログラマーに通知してください。(戻りコードの意味については、「OS/VS BTAM」を参照してください。)

8 READ または WRITE 要求に対する BTAM 応答が戻りコード X'8' です。

システム処置: PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線が停止されるか、PSTOP コマンドでリンクが停止されます。IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを提供するために、IMS トレース機能を使用して、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が書き込まれます。

オペレーター応答 (マスター端末): 1 つ以上の端末 (3270 ローカル) または回線 (その他の BTAM 回線) に DD ステートメントが欠落しています。端末に関して 1 つ以上の DD ステートメントが欠落している 3270 ローカル回線に対して操作を再開する必要がある場合は、/RSTART LINE x コマンドが発行できます。IMS システム・プログラマーに通知してください。

- 12 BTAM が BTAM READ/WRITE マクロに対して戻りコード X'C' を出しました。

システム処置: PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線が停止されるか、PSTOP コマンドでリンクが停止されます。IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを提供するために、IMS トレース機能を使用して、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が書き込まれます。

オペレーター応答 (マスター端末):
IMS システム・プログラマーに通知してください。(戻りコードの意味については、BTAM SRL を参照してください。)

- 16 BTAM が BTAM READ/WRITE マクロに対して戻りコード X'10' を出しました。

システム処置: PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線が停止されます。IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップを提供するために、IMS トレース機能を使用して、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が書き込まれます。

オペレーター応答 (マスター端末):
IMS システム・プログラマーに通知してください。(戻りコードの意味については、BTAM SRL を参照してください。)

- 20 BTAM が BTAM READ/WRITE マクロに対して戻りコード X'14' を出しました。BTAM には、特定の回線または PTERM (3270 ローカル) に対して入出力操作を開始できませんでした。通常、データ・セットが接続されていないなかったり、270X がオフラインであったり、あるいは 3270 ローカル端末がオフにされていたりすることが原因です。

システム処置: PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線が停止されるか、PSTOP コマンドでリンクが停止されます。

オペレーター応答 (マスター端末):
IMS システム・プログラマーに通知してください。3270 ローカル回線の場合

合は、/RSTART LINE x コマンドを出して、回線上の残りの作動可能端末を開始してください。その他のすべての通信回線の場合は、エラーの原因を訂正し、/RSTART LINE x PTERM ALL コマンドまたは /RSTART LINK x コマンドを入力してください。

- 24 BTAM 読み取り/書き込み機能が使用不可です。SDFSRESL を作成したシステム定義は、BTAM なしで定義されました。

システム処置: PTERM に作動不能のマークが付けられ、回線が停止されるか、PSTOP コマンドでリンクが停止されます。

オペレーター応答 (マスター端末):
IMS システム・プログラマーに通知してください。(戻りコードの意味については、「OS/VS BTAM」を参照してください。)

5 番目の形式の場合:

VTAM がエラーを検出しました。VTAM RPL 制御ブロック内で提供される RC、FEEDBACK、および REASON コードの説明については、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829) および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」(SC31-8791) を参照してください。

システムの処置: 最初の形式と 2 番目の形式の場合: PTERM に PSTOPPED および作動不能のマークが付けられ、処理は続行されます。

5 番目の形式の場合: この問題は、リカバリー不能な VTAM エラーです。IMS は、VTAM とのすべての通信を停止し、したがって、IMS に関連したすべてのノードを停止します。IMS がシャットダウンされて再始動されるまで、通信を続行できません。

オペレーターの応答: 最初の形式の場合: /RSTART LINE x PTERM y コマンドを入力してください。

2 番目の形式の場合: /RSTART NODE xx コマンドを入力してください。

モジュール: DFSICIO0、DFSCIOB0、DFSCMBP0

関連資料:

➡ z/OS: RPL - 要求パラメーター・リストの作成

➡ z/OS: VTAM マクロ命令の戻りコード

DFS999I HELD CONVERSATION ID IS *xxxx*

説明: このメッセージは、 /HOLD コマンドに対する応答です。

オペレーターの応答: 示されている識別番号 (ID) を使用して、会話を終了 (/EXIT) または再開 (/RELEASE) する必要があります。

モジュール: DFSICLH0

**DFS1000I IMS_{rrr} ABEND *Uaaaa*
 MODULE=*xxxxxxxx* LABEL=*xxxxxxxx*
 R14=*xxxxxxxx* (DLA=*xxxxxxxx*)**

説明: 処理エラーが拡張チェックポイント・モジュール (DFSZSC00)、拡張再始動ポジションナー

(DFSZSR00、DFSZDC00) または GSAM BSAM I/O MODULE (DFSZDC00) によって検出されました。

OLDS または IMSLOGR データ・セットとの間でのシンボリック・チェックポイントの読み取りまたは書き込みの試みが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

IMS *rrr*

IMS リリース・レベル。

Uaaaa IMS ユーザー異常終了コード。

MODULE=

異常終了を出したモジュール。

LABEL=

異常終了が出された固有ラベル。このラベルは、エラー理由コードに対応しています。各コードの説明については、該当する異常終了コードを参照してください。各コードの説明については、該当する異常終了コードを参照してください。

R14= (エラーを発見したモジュールへの) BAL 戻りレジスター


DLA= (異常終了を出したモジュールへの) BAL 戻りレジスター。

システムの処置: プログラムは異常終了し、*Uaaaa* として識別されている異常終了コードが示されます。


オペレーターの応答: エラーの原因を判別し、問題を訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSZSR00、DFSZDC00

関連概念:

 IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0102

第 24 章 DFS メッセージ DFS1001I - DFS1050I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1001I INVALID ALLOCATION FOR SYSTEM DATA SET- DD NAME - NNNNNNNN, RC=xx

説明: キュー・マネージャー・データ・セットの DD ステートメントを処理している最中に、システム・データ・セットに関する無効の割り振りが検出されました。

理由コードとその意味は、次のとおりです。

理由コード (16 進数)

説明

- 04 DEVTYPE マクロから戻された DD 名情報に、DD ステートメントが欠落していることが示されています。
- 08 DEVTYPE マクロから戻された DD 名情報に、DUMMY のパラメーターが示されています。
- 0C DEVTYPE マクロから戻された DD 名情報に、SYSIN/SYSOUT 割り振りが示されています。

システムの処置: メッセージに示されている、システム・データ・セットの DD 名 NNNNNNNN が、IMS の現在の実行中に使用されることはありません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 参照されているシステム・データ・セットが必要な場合は、JCL またはシステム・データ・セット割り振り、あるいはその両方を訂正してください。

モジュール: DFSIINO0、DFSQDOC0

DFS1002A IXLFORCE REQUEST TIMEOUT FOR STRUCTURE=xxx, CONNAME=yyy

説明: 古い IMS で持続している障害のある接続は、まだアクティブであるため、新しいアクティブ IMS でそれを削除できません。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 障害のある IMS と同じ IMS ID を使用して、新規の代替 IMS が再始動されると、持続している障害のある接続はアクティブに変更されます。代替 XRF が再始動できないか、新しい IMS ID が古い IMS ID と同じでない場合は、古い IMS の

終了後、次の XCF コマンドを使用して、接続を削除してください。

SETXCF FORCE,CONNECTION,STRNAME=xxx,CONNAME=yyy

DFS1003I LERUNOPT OVERRIDES INITIALIZED FROM *imsid* RC=rrrrrrrr, RSN=ssssssss

説明: LERUNOPTS が初期設定されたことを示します。メッセージに句 FROM *imsid* が示されている場合は、ランタイム・オプションが別の IMS から初期設定されたことを表します。*imsid* は、どの IMS から情報を受け取ったかを示します。RC は処理の戻りコードです。RSN は処理の理由コードです。

次の表は、DFS1003I の戻りコードと理由コードを示しています。

表 7. DFS1003I の戻りコードと理由コード

戻りコード	理由コード	意味
0	0	LERUNOPTS は正常に初期設定されており、処理は通常どおり続行されます。
X'02000014'	X'5000'	IMS が LERUNOPTS の過程でストレージ障害を検出しました。LE ランタイム・パラメーターは初期設定されません。LE パラメーター・オーバーライド処理は使用不可となり、処理が通常どおり続行されます。

システムの処置: 戻りコードおよび理由コードにより異なります。

プログラマーの応答: ストレージ障害がある場合は、ECSA ストレージをもっと多く割り振ってください。

モジュール: DFSLEP10

**DFS1004I LE PARAMETER OVERRIDE
PROCESSING state**

説明: システムに対する LE パラメーター・オーバーライド処理の変更を示します。state は、ENABLED (オーバーライドが許されることを示す) か、または DISABLED (オーバーライドが許されないことを示す) です。

注: LERUNOPTS を使用可能または使用不可にしたい場合は、PROCLIB の DFSCGxxx メンバーにキーワード LEOPT=Y または N を使用してください。

次の表は、DFS1004I の戻りコードと理由コードを示しています。

表 8. DFS1004I の戻りコードと理由コード

戻りコード	理由コード	意味
0	0	LERUNOPTS は正常に初期設定されており、処理は通常どおり続行されます。
X'02000014'	X'5000'	IMS が LERUNOPTS の過程でストレージ障害を検出しました。LE ランタイム・パラメーターは初期設定されません。LE パラメーター・オーバーライド処理は使用不可となり、処理が通常どおり続行されません。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSLEP00、DFSLEP10

**DFS1005E DFSFEBJ0 ERROR. INCORRECT
ROUTING TABLE. LTERM=nnnnnnnn
MESSAGE TEXT=xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx**

説明: 出口ルーチン DFSFEBJ0 が、フロントエンド切り替えメッセージに対する応答を処理しました。メッセージ・テキストに示されているシステム識別が、ユーザー・ルーティング・テーブルのエントリーと一致しません。LTERM nnnnnnnn が、FES 応答メッセージの送信元でした。このエラー・メッセージには、入力メッセージの最初の 20 バイトが表示されています。

システムの処置: 応答メッセージは廃棄されます。

システム・プログラマーの応答: ルーティング・テーブルをチェックし、無効または欠落エントリーを訂正してください。テーブルが正しい場合は、表示されているメッセージ・テキストを確認し、誤ったルーティング情報の送信元を特定してください。

モジュール: DFSCIOB0

**DFS1006E DFSFEBJ0 ERROR. INVALID FEIB
FIELD. LTERM=nnnnnnnn RC=x
DATA=yyyyyyyy MESSAGE
TEXT=zzzzzzzzzzzzzzzzzzzz**

説明: 出口ルーチン DFSFEBJ0 が、フロントエンド切り替えメッセージを処理しました。出口ルーチンによってフロントエンド・インターフェース・ブロックで指定されるフィールドが無効か、または欠落しています。LTERM nnnnnnnn が、メッセージの送信元でした。フィールド yyyyyyyy に無効な情報が入っています。または、データが欠落している場合は、'--NONE--'が入っています。フィールド zz...zz には、メッセージの最初の 20 バイトが表示されています (ただし、該当する場合)。理由コード x には、次のいずれかの意味があります。

- | コード | 意味 |
|-----|--|
| 0 | 新規宛先が欠落しているか、または無効です。出口ルーチンが終了して、RC=4 または RC=8 が出された可能性があります。 |
| 1 | 終了して、RC=4 が示されるのは、タイムアウトが ERP 名なしで指定されている場合です。 |
| 2 | 終了して、RC=4 が示されるのは、タイムアウトがメッセージ番号なしで指定されている場合です。 |
| 3 | 終了して、RC=8 が示されるのは、元の入力端末の LTERM 名が欠落しているか、または無効の場合です。 |
| 4 | 終了して、RC=8 が示されるのは、遅延応答の宛先が欠落しているか、または無効の場合です。このメッセージに関する元の入力端末については、すでにタイムアウトになっています。 |
| 5 | 終了して、RC=4 が示されるのは、ERP に関して指定されたトランザクション・コードが無効であった場合です。タイムアウト処理は行えません。メッセージ・テキストがこの理由コードを伴って表示されることはありません。 |
| 6 | 終了して、RC=4 が示されるのは、タイムアウト処理に関して指定されたユーザー・メッセージ番号が無効であった場合です。タイムアウト |

処理は行えません。メッセージ・テキストがこの理由コードを伴って表示されることはありません。

システムの処置: システムの処置は、理由コードに応じて異なります。

コード 意味

- 0 メッセージは廃棄されます。メッセージが ISC セッションからの入力で、出口ルーチンが FEIBERP フィールドに有効なエラー・トランザクションを指定した場合は、このエラー・トランザクションがスケジュールされます。タイマー機能が指定された場合は、元の入力端末は解放されますが、それ以外の場合は、元の入力端末はハングします。
- 1、2 入力メッセージは廃棄されます。
- 3 応答メッセージは廃棄されます。出口ルーチンが FEIBERP フィールドに有効なエラー・トランザクションを指定した場合は、このエラー・トランザクションがスケジュールされます。タイムアウト機能が入力時に指定された場合は、端末は応答モードから解放され、それ以外の場合は、端末はハングします。
- 4 応答メッセージは廃棄されます。出口ルーチンが FEIBERP フィールドに有効なエラー・トランザクションを指定した場合は、このエラー・トランザクションがスケジュールされます。
- 5,6 元の入力端末は、このメッセージによって、応答モードから解放されます。

システム・プログラマーの応答: 表示されている情報をチェックし、誤っているデータのソースを判別してください。

モジュール: DFSCIOB0

DFS1007E DFSFEBJ0 ERROR. INVALID RC IN REG.15. LTERM=nnnnnnnn

説明: フロントエンド切り替え出口ルーチン DFSFEBJ0 が指定した戻りコードが無効でした。LTERM nnnnnnnn は、FES メッセージの送信元でした。

システム・プログラマーの応答: 出口ルーチンを訂正してください。

モジュール: DFSCIOB0

DFS1008I PSB psbname REFERENCES PHIDAM DBD dbdname FOR LOAD MULTIPLE TIMES

説明: 指定された PSB に、PROCOPT が L または

LS の、指定された PHIDAM DBD への明示的参照が複数含まれています。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中であった場合は、異常終了コード 09067 が出力されます。ACBGEN ユーティリティーが実行中であった場合は、ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、再度プログラムを実行してください。

モジュール: DFSDLBL0

DFS1009I name HAS BEEN REPLACED

説明: name で識別されているブロックは、MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 で、フォーマット・ライブラリー内で置き換えられています。

注: name は、置き換えの対象になるブロックの解釈済み記述です。name の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- ブロックのサイズ (16 進数)
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構、3270-An の場合は装置画面サイズ、DPM-An または DPM-Bn の場合はバージョン ID
- 示されているブロックが作成された日時

システムの処置: 処理は正常に継続されます。

モジュール: DFSUTLN0

DFS1010I name HAS BEEN DELETED - ddname

説明: name で識別されているブロックは、MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 で、DD ステートメントのシンボル名 (ddname) によってフォーマット・ライブラリーから削除されました。

注: name は、削除の対象になるブロックの解釈済み記述です。name の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構、3270-An の場合は装置画面サイズ、DPM-An または DPM-Bn の場合はバージョン ID

システムの処置:

- 重大度 4 の場合は、処理は正常に継続されます。
- 重大度 20 の場合は、MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 が終了します。

DFS1011I • DFS1014I

プログラマーの応答: 重大度 20 の場合は、次いで \$SIMSDIR が削除されています。\$SIMSDIR を再作成する場合は、MFS サービス・ユーティリティー索引機能を使用してください。

モジュール: DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度:

- 4 - 「name」は削除されました。
- 20 - 入出力エラーまたはディレクトリーの読み取り中の予期しない EOF の結果として、特殊索引ディレクトリー \$SIMSDIR が削除されています。

DFS1011I *name* {ADDED|HAS BEEN ADDED - *ddname*}

説明: *name* で識別されているブロックは、MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 で、フォーマット・ライブラリーに追加されています。*ddname* が表示されるのは、追加されたブロックが \$SIMSDIR 索引で、更新されたデータ・セットを示すときです。

注: *name* は、追加の対象になるブロックの解釈済み記述です。*name* の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- ブロックのサイズ (16 進数)
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構、3270-An の場合は装置画面サイズ、DPM-An または DPM-Bn の場合はバージョン ID
- 示されているブロックが作成された日時

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

モジュール: DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度: 0

DFS1012I *name* STOW ERROR OCCURRED FOR BLOCK - *ddname*

説明: (*name*) で示されているブロックに関する STOW 操作が、結果的にエラーになりました。この STOW エラーは、MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 の DD ステートメントのシンボル名 (*ddname*) で識別されているデータ・セットで発生しました。*ddname* がメッセージに表示されていなければ、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

注: *name* は、エラーが発生したブロックの解釈済み記述です。*name* の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル

- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3007 が示されます。

問題判別: 2、8、16

モジュール: DFSUTLN0、DFSUTL40

重大度: 20

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1013I EXECUTION TERMINATED BEFORE COMPLETION - *ddname*

説明: このメッセージは、フォーマット・ライブラリーでの入出力エラーの後で、MFS 言語ユーティリティー・フェーズ 2 プロセッサによって出されます。入出力エラーが発生したのは、DD ステートメントでシンボル名 (*ddname*) によって識別されているデータ・セットです。*ddname* がメッセージに表示されていなければ、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 が終了し、最も番号が大きい戻りコード 20 が z/OS に渡されます。

プログラマーの応答: 入出力エラー問題を訂正し、ジョブを再実行してください。SEQBLKS データ・セットが磁気テープ・ドライブに割り振られ、テープが保管されていた場合は、そのテープを入力として、フェーズ 2 のみを再実行すれば済みます。ただし、2 回の実行の間に他の MFS 言語ユーティリティーが実行されていない場合で、その場合のみに限られます。バッチ・ユーティリティーの実行のみを使用して、SEQBLKS データ・セットが作成された場合は、MFSBTCH2 ルーチンを再実行する必要があります。

問題判別: 2、8、16

モジュール: DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度: 20

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1014I INDEX MAINTENANCE BYPASSED - *ddname*

説明: 常駐ディレクトリー (\$SIMSDIR) が、識別されている *ddname* に関連したデータ・セットに存在しない

か、または、NOUPDATE オプションを使用することで \$IMSDIR が更新されることがないように、ユーザーが要求しました。ddname がメッセージに表示されていなければ、そのディレクトリーが検出されなかったか、DD 名 FORMAT で識別されているデータ・セット内で更新されませんでした。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

モジュール: DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度: 4

DFS1015I INDEX MAINTENANCE COMPLETE - ddname

説明: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 の間に、DD ステートメントでシンボル名 ("ddname") によって識別され、常駐ディレクトリー (\$IMSDIR) に索引エントリーがあったデータ・セットから、メンバーが削除されました。\$IMSDIR のエントリーは削除され、\$IMSDIR は更新されました。フォーマット・データ・セットに追加されたメンバーに関しては、エントリーが \$IMSDIR ディレクトリーに追加されませんでした。ddname がメッセージに表示されていなければ、エラー・ディレクトリー更新が行われたのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: MFS サービス・ユーティリティー INDEX 機能を使用して、アクティブ・フォーマット・ライブラリーに追加されたメンバーに関して、\$IMSDIR ディレクトリーにエントリーを追加してください。

モジュール: DFSUTL40、DFSUTLN0

重大度: 0

DFS1016I label FMT

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた FMT ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1017I label DEV (PDB=pdbname)

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた DEV ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサがラベルを生成します。こうして生成されたラベルはエラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。PDB キーワードが DEV ステートメントで指定されている場合は、pdbname は、区画記述子ブロック (PDB) の外部定義名です。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1018I label DIV

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた DIV ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1019I label DPAGE (PD=pd)

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた DPAGE ステートメントの位置を示します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。PD キーワードが DPAGE ステートメントで指定されている場合は、pd は、区画記述子 (PD) の外部定義名です。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1020I label PPAGE

または

label DFLD

説明: label を使用して、MFS 言語ユーティリティーに外部的にサブミットされた、または MFS 言語ユーテ

DFS1021I • DFS1027I

イリティーによって内部的に生成された DFLD または PPAGE ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1021I label MSG

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた MSG ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1022I label LPAGE

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた LPAGE ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1023I label PASSWORD

または

label SEG

説明: label を使用して、MFS 言語ユーティリティーに外部的にサブミットされた、または MFS 言語ユーティリティー (SEG ステートメント) によって内部的に生成された SEG または PASSWORD ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1024I label MFLD

説明: このメッセージを使用して、フォーマット・ユーティリティー・プログラムに外部的にサブミットされた MFLD ステートメントの位置を反映します。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによって生成された内部名です。エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを固有に定義する場合に使用されます。

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 0

DFS1025I label ** UNKNOWN STATEMENT TYPE **

説明: フォーマット言語ユーティリティー・プログラムによって検出された不明のステートメント・タイプの位置を反映するために使用されます。label は 6 桁の 16 進数で、エラー・メッセージ参照の可能性に備えて、ステートメントを内部で固有に定義する場合に使用されます。この問題は、内部論理エラーと考えられます。

システムの処置: 処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

問題判別: 2、8、12、16、36

モジュール: DFSUTLW0

重大度: 16

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1026I name MESSAGE DESCRIPTOR STRUCTURE:

説明: このメッセージは、入力または出力メッセージ記述子を定義する、外部的にサブミットされたステートメントのリストの開始を定義するのに使用されます。name は、MSG ステートメントで指定された 1 から 8 文字の英数字からなる名前です。

重大度: 0

DFS1027I name FORMAT DESCRIPTOR STRUCTURE:

説明: このメッセージは、装置形式記述子を定義する、外部的にサブミットされたステートメントのリストの開始を定義するのに使用されます。name は、FMT ステ

トメントで指定された 1 から 6 文字の英数字からなる名前です。

重大度: 0

DFS1028I END OF DESCRIPTOR STRUCTURE

説明: このメッセージは、メッセージ・フォーマット記述子、または区画記述子ブロック (PDB) 記述子を定義する、外部的にサブミットされたステートメントのリストを区切るのに使用されます。

重大度: 0

DFS1029I PARTITION DESCRIPTOR BLOCK STRUCTURE:

説明: このメッセージでは、フォーマット・セット内で使用される区画記述子ブロック (PDB)、およびそれらの関連区画記述子 (PD) のリストの開始を識別します。

重大度: 0

DFS1030I *name* REPLACES A DUPLICATEDLY NAMED BLOCK.

説明: 「*name*」の解釈済み記述には、次のものが含まれます。

- FMT/MSG ラベル
- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構

name で識別されているブロックがフォーマット・ライブラリー内で、MOD/MID の場合は名前が同じブロックにより、フェーズ 2 の処理で DOF/DIF の場合は名前、装置タイプ、および機構が同じブロックにより、置き換えられました。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

重大度: 4

DFS1031I *name* UNABLE TO STOW, DIRECTORY BLOCK IS FULL.

説明: 区分データ・セット・ディレクトリーが、フォーマット・ライブラリーに関してはいっぱいになっています。この条件が検出されたのは、*name* で識別されているブロックに関して STOW を試みているときでした。

注: *name* は、ブロック名の解釈済み記述です。

「*name*」の解釈済み記述には、次のものが含まれません。

- FMT/MSG ラベル

- ブロック・タイプ: DOF、DIF、または MSG
- FMT の場合: 装置タイプ、3270 または 3270P の場合は装置モデル、16 進装置機構、EBCDIC 解釈済み装置機構

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3007 が示されます。

プログラマーの応答: フォーマット・ライブラリーは、保管 (IEHMOVE/IEBCOPY)、スクラッチ、もっと大きいディレクトリー・スペースの使用による再割り振り、および格納が必要です。これが完了したら、ジョブを再実行してください。

重大度: 20

DFS1032I *name* PERMANENT I/O ERROR OCCURRED ON STOW - *ddname*

説明: *name* で識別されているブロックに関する STOW 操作によりディレクトリーの更新を試みている最中に、永続入出力エラーが DD ステートメントでシンボル名 (*ddname*) によって識別されているデータ・セットの PDS ディレクトリーで発生しました。*ddname* がメッセージに表示されていなければ、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3007 が示されます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

重大度: 20

DFS1033I INVALID DIRECTORY BLOCK READ, EXECUTION TERMINATE -*ddname*

説明: DD ステートメントでシンボル名 (*ddname*) によって識別されているデータ・セット用のディレクトリー・ブロックは、長さが 256 バイトより大です。

「*ddname*」がメッセージに表示されていなければ、エラーが発生したのは、シンボル名 "FORMAT" で識別されているデータ・セットです。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティーのフェーズ 2 が異常終了し、IMS 異常終了コード 3006 が示されます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

重大度: 20

DFS1034I *label* PDB (SYSMSG=*pd*)

説明: このメッセージでは、区画記述子ブロック (PDB) の開始を識別します。*label* は、PDB の外部的に定義された名前です。SYSMSG キーワードが存在している場合は、*pd* は、システム・メッセージを受信するように定義された区画記述子 (PD) の外部的に定義された名前です。

重大度: 0

DFS1035I **UTILITY TERMINATED FOR
REFERAL LIBRARY ERROR. RETURN
CODE=*return-code*.**

説明: MFS フェーズ 1 プロセッサが、IMS REFERAL ライブラリーに永続入出力エラーがあることを検出しています。メッセージに表示されている戻りコード *return-code* が、発生した障害のタイプを示しています。

コード 意味

- 1 OPEN が正常に行われなかった。
- 2 ディレクトリ検索での永続入出力エラー
- 3 リカバリー不能入出力エラーで、SYNAD 出口が取られた。
- 4 入力の手続きしない終了で、EODAD 出口が取られた。

システムの処置: MFS 言語ユーティリティのフェーズ 1 が終了し、最も番号が大きい戻りコード 20 が z/OS に渡されます。

プログラマーの応答: ステップ 1 プリプロセッサによって検出されたエラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度: 20

DFS1036I *label* PD PID=*nn*

説明: このメッセージでは、区画記述子ブロック (PDB) 内で定義された区画記述子 (PD) を識別しています。*label* は、PD の外部的に定義された名前です。*nn* は、この PD によって使用される区画の識別子 (ID) です。

重大度: 0

DFS1037I **LPAGE/DPAGE SYMBOL TABLE LIST
FOR *name* SET.**

説明: これは、'*name*' のラベルが付いた FMT 記述に関する LPAGE/DPAGE シンボル・テーブル・リストとして、後続出力を識別するために生成された、通知ヘ

ッダー行です。メッセージ DFS1039I も参照してください。

重大度: 0

関連情報:

DFS1039I

DFS1038I **FIELD NAME SYMBOL TABLE LIST
FOR *name* FMT SET.**

説明: これは、*name* のラベルが付いた FMT 記述で定義されたすべてのフィールド名に関するシンボル・テーブル・リストとして、後続出力を識別するために生成された、通知ヘッダー行です。メッセージ DFS1039I も参照してください。

重大度: 0

関連情報:

DFS1039I

DFS1039I *fieldname use assign* [ATTR]
[PASSWORD] [CURSOR] [EXTEND]
[DPN] [RDPN] [PRN] [RPRN] [FMT]
[MSG] [****]

説明: このメッセージは、シンボル・テーブル・エントリーに関連した属性を表示するのに使用します。指定された DPAGE または LPAGE SOR=*name* に関するシンボル・テーブル・エントリーである可能性があります。指定された DFLD または MFLD *dflname* に関するエントリーでもありえます。処理される特定のシンボル・テーブルは、出力にある以前のメッセージで識別されます。次のリストは、メッセージの定義を示しています。

名前 意味

fieldname

ユーザーの定義によるシンボル名

用途

特定の名称の出現回数 (10 進数)

assign

ブロック間識別のためにシンボルに割り振られた 10 進値

[ATTR]

フィールドに、フォーマット・セットの少なくとも 1 つの出力メッセージによって提供された動的属性情報が入っています。

[PASSWORD]

FMT に関する PASSWORD 定義の内部エントリー

[CURSOR]

このフィールドは、動的カーソル位置を設定し

たり、入力時にカーソル位置情報を受信したりする場合に使用します。

[EXTEND]

フィールドに、フォーマット・セットの少なくとも 1 つの出力メッセージによって提供された動的拡張属性情報が入っています。

[DPN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの宛先プロセス名パラメーターで参照されています。

[RDPN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの戻り宛先プロセス名パラメーターで参照されています。

[PRN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの 1 次リソース名パラメーターで参照されています。

[RPRN]*

このフィールド名は、DIV ステートメントの戻り 1 次リソース名パラメーターで参照されています。

*注: 同じフィールド名が、上記の最後の 4 つのパラメーターのうちの複数のパラメーターで参照できますが、それらのパラメーターは、FORMAT 定義の異なる DIV セクションに現れる必要があります。そうでない場合は、エラー・メッセージ DFS1160I が出されることになります。

[FMT] このフィールドが FMT 記述子内で定義されています。

[MSG] このフィールドが MSG 記述子内で参照されています。

[**]** 潜在的なエラーの可能性を示します。フィールドが FMT 記述内で定義されず、しかも MSG 記述子内で参照されていないか、フィールドが FMT 記述内で定義され、しかも MSG 記述内で参照されなかったか、いずれかです。

プログラマーの応答: [****] で識別されているように、フィールドがエラーであることが検出された場合は、定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: メッセージ内にアスタリスクがなければ、0 であり、メッセージ内にアスタリスクが 4 つあれば、4 です。

DFS1040I DEVICE MAPPING FOR FMT=*name*
DEVICE=*identification* DPAGE=*dp*
PHYSICAL PAGE=*pp* PDB=*pdname*
PD= *pdname* PID=*nn*

説明: このヘッダーは、ユーザーがフォーマット、装置、装置ページ、および物理ページに関して定義した装置イメージ・マップを識別します。このメッセージの後に続くイメージは、次の規則に準拠します。

- 無保護の、指定されたフィールドは、下線文字でマークが付けられているイメージ内にロケーションがあります。
- 保護されている、指定されたフィールドは、コロン文字でマークが付けられているイメージ内にロケーションがあります。
- イメージ内のリテラルは、定義されているロケーションに移されて表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 FMT ステートメント上のラベル

identification

DEVICE=*type* (*type* は、DEV TYPE= オペランドでコーディングされたパラメーター) および TYPE=*name* (*name* は、DIV TYPE= オペランドでコーディングされた OUTPUT、INPUT、INOUT のいずれか) から成っています。

dp DIV 内の DPAGE 番号

pp DPAGE 内の物理ページ番号

pdname

この装置で使用される区画記述子ブロック (PDB) の名前、またはこの DPAGE で使用される区画記述子 (PD) の名前

nn この DPAGE によって使用される区画の ID

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

重大度: 0

DFS1041 ABNORMAL TERMINATION -
STATUS CODE DH*xx*

説明: コマンド・レベル・インターフェースが、プログラミング・エラーが原因で生じた条件を検出したか、DL/I がコマンド・レベル・インターフェースにプログラミング・エラー以外のエラーを示す状況コードを戻しました。DH は、DL/I バッチでの HLPI の使用を示します。xx 値は DL/I、またはコマンド・レベル・インターフェース状況コードです。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1041 が示されます。

プログラマーの応答: 状況コードの説明については、

DFS1042I • DFS1047I

「IMS V15 アプリケーション・プログラミング」および DL/I 状況コード情報を参照してください。

問題判別: 4、11、19、およびマクロ DFSHLPDS のリストを入手します。

関連資料:

DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

1041 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1042I label DPAGE PD NAME CANNOT BE FOUND

説明: DPAGE ステートメントの PD キーワードで指定された区画記述子 (PD) が、REFERAL ライブラリーで検出されませんでした。label は、PD ステートメントを参照する DPAGE ステートメントの名前です。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントの PD キーワードで名前が指定されている PD が、REFERAL ライブラリーで定義されているか確認してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1043I THE DEV STATEMENT SPECIFIES PDB= , BUT THIS DPAGE STATEMENT DOES NOT SPECIFY PD=. THIS COMBINATION IS INCOMPATIBLE.

説明: PDB キーワードは DEV ステートメントに存在していましたが、PD キーワードがこの DPAGE ステートメントで検出されませんでした。DEV ステートメントが PDB キーワードを指定するときは、いつでも区分化およびスクロールが選択されています。そこで、各 DPAGE ステートメントでは、DEV ステートメントで参照されている区画記述子ブロック (PDB) 定義内の区画記述子 (PD) ステートメントの 1 つを参照する必要があります。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: それぞれの DPAGE ステートメントで PD キーワードをコーディングするか、DEV

ステートメントの PDB キーワードを除去してください。

重大度: 12

DFS1044I label DEV PDB NAME CANNOT BE FOUND

説明: DEV ステートメントの PDB キーワードで指定された区画記述子ブロック (PDB) が、REFERAL ライブラリーで検出されませんでした。label は、PDB を参照する DEV ステートメントの名前です。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの PDB パラメーターで名前が指定されている PDB が、REFERAL ライブラリーで定義されているか確認してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1045W label BACKOUT NOT PERFORMED FOR NON-RECOVERABLE DBD=

説明: バックアウト処理中に、リカバリー不能データベースが検出されました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS1046E I/O BUFFER GETMAIN FAILED

説明: BSAM ブロックを読み取るために 32K 入出力バッファーを要求するための GETMAIN への呼び出しが失敗しました。

システムの処置: ユーティリティは、戻りコード RC=36 で終了します。

ユーザーの処置: SPOOL 0 内に十分なストレージがあること、およびその他のジョブが割り振るストレージが多すぎないことを確認してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1047I label SYSMMSG=DFLD LABEL NOT DEFINED IN EVERY PHYSICAL PAGE [name IN DPAGE].

説明: SYSMMSG (システム・メッセージ) の DFLD ラベルは、すべての物理ページのそれぞれごとに定義する必要があります。DPAGE が定義されている場合は、メ

メッセージの *name* IN DPAGE 部分が印刷されます。
label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、内部名がプリプロセッサによって生成されます。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1048I *name* DATE=*mm* | *dd* | *yy* TIME=*hh*.*mm*.*ss*
CREATED.

説明: *name* には、FMT または MSG ラベル、ブロックのタイプ - DOF、DIF、または MSG、ブロックのサイズおよび 16 進数機構、装置タイプ、モデル (3270 または 3270P の場合)、および EBCDIC 解釈済み機構が含まれます。このメッセージでは、ブロックを識別し、ブロックが SEQBLKS データ・セットで作成されると、ユーザーに通知します。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

重大度: 0

DFS1049I *name* DATE=*mm* | *dd* | *yy* TIME=*hh*.*mm*.*ss*
NOT CREATED.

説明: *name* には、FMT または MSG ラベル、記述のタイプ FMT または MSG が含まれます。指定されたブロックは、1 つ以上の先行メッセージによって示された作成時間中に 1 つ以上のエラーが検出されたため、オンライン処理用としては作成されませんでした。DATE および TIME が、ブロックが処理されていた時を示します。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置: 処理は、次の DEV,FMT セット、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: エラーの FMT または MSG を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1050I *name* DATE=*mm* | *dd* | *yy* TIME=*hh*.*mm*.*ss*
NOT ADDED.

説明: *name* には、FMT または MSG ラベル、ブロックのタイプ - DOF、DIF、または MSG、ブロックのサイズおよび機能 (16 進数)、装置タイプ、モデル (3270 または 3270P の場合)、および EBCDIC 解釈済み機構が含まれます。ブロックがバッチ・ユーティリティー実行によって作成され、重複ブロックが SEQBLKS データ・セットで検出された時点で、このメッセージが書き込まれます。このメッセージは、以前に作成された重複ブロックが、オンライン・ライブラリーに追加されることはないことをユーザーに知らせるものです。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

重大度: 4

第 25 章 DFS メッセージ DFS1051I - DFS1100I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1051I *name* DATE=*mm*|*dd*|*yy* TIME=*hh*.*mm*.*ss*
 IGNORED.

説明: *name* には、FMT または MSG ラベル、ブロックのタイプ FMT または MSG が含まれます。指定されたブロックで、MFSBTCH1 バッチ・ユーティリティ実行中に作成時エラーがあり、オンライン処理用として作成できませんでした。このメッセージは、ブロックがオンライン・ライブラリーに追加されることはなく、オンライン・ライブラリーに重複ブロックが存在した場合は、削除されることを示します。DATE には、月 (*mm*)、日 (*dd*)、および年 (*yy*) が含まれます。TIME には、時 (*hh*)、分 (*mm*)、および秒 (*ss*) が含まれます。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: 後で MFSBTCH1 ユーティリティの実行を通して訂正するのであれば、MSG または FMT 定義を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度: 8

DFS1052I *label* TABLE NOT FOUND.

説明: DFLD OPCTL= オペランドで参照されているオペレーター制御テーブル名が、REFERAL ライブラリーで検出されませんでした。 *label* は、TABLE マクロで外部的に定義された名前です。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から正常に続行されます。

プログラマーの応答: エラーの TABLE を定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1053I *label* TABLE HAS NO ENTRIES.

説明: DFLD マクロで参照されているオペレーター制御テーブル名に IF エントリーがありません。 *label* は、TABLE ステートメントで外部的に定義された名前です。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または

MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: エラーの TABLE を再定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1054I *label* DEVICE LINES TOO SMALL
 FOR PDB REQUIREMENTS

説明: 装置に関して定義された縦線 (行) の数が不十分で、区画記述子ブロック (PDB) の画面の縦の長さ要件を満たせません。 *label* は、PDB を必要とする DEV ステートメントの名前です。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの TYPE キーワードで使用されている 3270 シンボル名 (3270-An) で指定されている画面サイズに誤りがある可能性があります。あるいは、DEV ステートメントの PDB キーワードで使用されている PDB にエラーがある可能性があります。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1055I *label* DEVICE COLUMNS TOO
 SMALL FOR PDB REQUIREMENTS

説明: 装置の水平線 (列) の数が不十分で、区画記述子ブロック (PDB) の画面の幅要件を満たせません。 *label* は、PDB を必要とする DEV ステートメントの名前です。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの TYPE キーワードで使用されている 3270 シンボル名 (3270-An) で指定されている画面サイズに誤りがある可

DFS1056I • DFS1061I

能性があります。あるいは、DEV ステートメントの PDB キーワードで使用されている PDB にエラーがある可能性があります。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1056I *label* ** WARNING ** DEVICE
SCREEN SIZE AND PDB SCREEN
REQUIREMENTS CANNOT BE
VERIFIED.

説明: *label* は、区画記述子ブロック (PDB) を指定する DEV ステートメントの名前です。PDB によって使用される区画の CELLSIZE 仕様は、00 x 00 です。PDB 仕様が 3270 シンボル名 (3270-An) で定義されている画面サイズに収まるか、言語ユーティリティでは検証できません。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: 3270 シンボル名 (3270-An) によって画面サイズが、指定されている PDB に見合う十分な大きさに指定されているか検証してください。

重大度: 4

DFS1058E REASON = *xxx* - *reason_text*

説明: モジュール

DFSTOCL0、DFSDBVBH0、DFSNOTB0、DFSDBVSM0、または DFSFXC50 で、予期しない条件が検出されました。この問題は、IMS システム・エラーです。

次の表は、メッセージ内の理由コード *xxx* と、理由テキスト *reason_text* を示しています。

表 9. DFS1058E の理由コード

理由コード	理由テキスト
010	NON-VSAM BQEL - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
015	WRITE ERROR - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
020	NON-VSAM BQEL - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
025	WRITE ERROR - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
030	RPLI ACTIVE ON ENTRY TO DFSDBVSM0
031	VSI UPDATE FAILED

表 9. DFS1058E の理由コード (続き)

理由コード	理由テキスト
032	BAD RETURN CODE ON SVC 109
033	NOT AN IMS RPLI
034	WRITE ERRORS ON EVERY BUFFER IN THE SUBPOOL
035	CI RDF/CIDF ARE BAD
036	CI CONTROL INFORMATION IS BAD
037	RPL NOT AN IMS RPL
040	NON-VSAM BQEL - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL
045	WRITE ERROR - BUFFER NOT WRITTEN, CANNOT FREE BQEL

システムの処置: メッセージが発行された後、IMS が異常終了して IMS 異常終了コード 0845 が出され、メモリー・ダンプが取られます。


システム・プログラマーの応答: 理由コードおよびテキストを使用して、問題の原因を判別します。

レジスター 1 の値を確認し、IMS 異常終了コード 0845 の分析情報を参照することもできます。

モジュール:

DFSDBVSM0、DFSDBVBH0、DFSTOCL0、DFSFXC50

関連情報:

 IMS 異常終了 0845

DFS1060I *name* BUFFER SIZE=*size*

説明: このメッセージでは、ユーザーにこの出力または入力メッセージに関する最大バッファ・スペース所要量を知らせます。出力メッセージとして、*name* には、FMT ラベルが含まれ、*size* には、3270 モニターに関するライン・バッファ・サイズ (10 進数)、または他のすべての装置タイプに関する作業バッファ・サイズ (10 進数) が含まれます。入力メッセージとしては、「*name*」には、MSG ラベルが含まれ、*size* には、作業バッファ・サイズ (10 進数) が含まれます。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

システム・プログラマーの応答: MFS 定様式メッセージに関する入出力プール・サイズ要件の計算に、この値を使用してください。

DFS1061I NO STORAGE AVAILABLE FOR
CDE=*xxxxxxx* PGM=*yyyyyyyy*
JOB=*zzzzzzzz*

説明: 順次バッファリング (SB) では、CDE ID が

xxxxxxx の制御ブロック用として仮想記憶域を獲得できませんでした。

システムの処置: SB の使用が限定されているか、不可能です。

ユーザーの処置: LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO が N と等しくない IMS DB/DC、または IMS バッチの場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。DFSSBSCD、DFSSBPSS、および DFSBSCAR の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

**DFS1062I - CODE=x, NOT SUFFICIENT SBH
BUFFER STORAGE FOR PSB=aaaaaaaa;
PCB=bbbbbbb; DDN=cccccccc**

説明: IMS では、PSB aaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbb/ccccccc に関して、SB バッファ用仮想記憶域を割り振れませんでした。

- CODE=1 の場合は、IMS が IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx で指定された MAXSB ストレージ限度を超えたため、障害が発生しました (IMS オンラインの場合)。IMS が割り振りを試みていたストレージの量については、メッセージ DFS1063I を参照してください。
- CODE=2 の場合は、IMS が z/OS に要求したストレージを獲得できなかったため、障害が発生しました。

システムの処置: システムの処置は、以下の CODE の値によって決まります。

- CODE=1 の場合は、IMS は、リストされている PCB/データ・セットの対に関して順次バッファリング (SB) を活動化する前に、別のオンライン・アプリケーションが SB ハンドラー・バッファ・ストレージを解放するまで待ちます。
- CODE=2 の場合は、IMS がリストされている PCB/データ・セットの対に関して順次バッファリングを活動化することはありません。

ユーザーの処置: 応答は、以下の CODE の値によって決まります。

- CODE=1 の場合は、MAXSB ストレージ限度を上げてください (該当する場合)。
- CODE=2 の場合は、CSA ストレージ (LSO=N の IMS DB/DC の場合)、または専用ストレージ (LSO≠N の IMS DB/DC、IMS バッチ、および DBCTL の場合) の量を増やして割り振ってください。

**DFS1063I - REQUESTED STORAGE= xx,xxx,xxx;
AVAILABLE STORAGE= xx,xxx,xxx**

説明: このメッセージは、IMS が割り振りを試みていたストレージの量を示し、メッセージ DFS1062I に付随して出されます。割り振り失敗の説明については、そのメッセージを参照してください。

関連情報:

『DFS1062I』

**DFS1064I - GETIOSB NOT SUCCESSFUL FOR
PSB=xxxxxxx**

説明: IMS が PSB xxxxxxxx に関して IOSB 制御ブロックを割り振れませんでした。

システムの処置: 順次バッファリング (SB) では、一部の PCB または一部のデータベース・データ・セット、あるいはその両方については、オーバーラップ順次読み取りを使用しません。

ユーザーの処置: LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO≠N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

**DFS1065A - UNABLE TO WRITE SBH
IMAGE-CAPTURE TO IMS LOG**

説明: IMS は、要求された SB ハンドラー・イメージ・キャプチャー・レコードを IMS ログ・データ・セットに書き込めませんでした。データ・セットが開いていなかったからです。

システムの処置: IMS は、順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・レコードを IMS ログ・データ・セットに書き込みません。

ユーザーの処置: IMS ログ・データ・セットを定義している DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。

**DFS1066I -xx //DFSCTL CONTROL-STATEMENT
ERROR: aaaaaaa**

説明: 順次バッファリング (SB) 制御ステートメントにエラーが含まれています。サブコード xx は、エラーのタイプごとに固有であり、aaaaaaa はサブコードごとの記述です。

次にサブコードおよび記述のリストを挙げてあります。

コード (xx)

記述 (aaaaaaa)

01 PARAMETER VALUE IS NOT NUMERIC

DFS1067I • DFS1071I

02 "=" IS MISSING IN KEYWORD
 PARAMETER
03 INVALID STATEMENT-TYPE IN //DFSCTL
04 INVALID PARAMETER VALUE
05 PARAMETER VALUE IS TOO LONG
06 INVALID KEYWORD
07 STOP= KEYWORD NOT HIGHER THAN
 START=
08 SBPARM STATEMENT HAS NO KEYWORD
 PARAMETERS
10 EXTRANEIOUS COMMA (,)

システムの処置: IMS は、エラーが含まれている SB 制御ステートメントを廃棄します。エラーについて詳しくは、付随して出される可能性のあるエラー・メッセージ (DFS1067I、DFS1068I、DFS1069I) を参照してください。

ユーザーの処置: 発行されているエラー・メッセージを基にして、SB 制御ステートメントのエラーを訂正してください。

DFS1067I ERROR IS IN THIS KEYWORD PARAMETER: *parameter*

説明: 順次バッファリング (SB) 制御ステートメントにエラーが含まれています。IMS は、このエラーを記述したメッセージ DFS1066I を以前に出しています。

システムの処置: IMS は、エラーが含まれている SB 制御ステートメントを廃棄します。

ユーザーの処置: メッセージ DFS1066I に示されている情報に基づいて、エラーを訂正してください。

関連情報:

329 ページの『DFS1066I』

DFS1068I ERROR IS IN CARD(S) LISTED BELOW

説明: 順次バッファリング (SB) 制御ステートメントにエラーが含まれています。IMS は、エラーのタイプを記述したメッセージ DFS1066I を最初に出します。次にこのメッセージを出し、誤りのある制御ステートメントの内容をリストしたメッセージ DFS1069I を最後に出します。

システムの処置: IMS は、エラーが含まれている制御ステートメントを廃棄します。

ユーザーの処置: メッセージ DFS1066I に示されている情報に基づいて、エラーを訂正してください。

関連情報:

329 ページの『DFS1066I』

DFS1069I *records/lines in error*

説明: このメッセージには、順次バッファリング (SB) 制御ステートメントの、エラーが含まれているレコードまたは行がリストされています。IMS は、このエラーを記述したメッセージ DFS1066I を以前に出しています。

システムの処置: IMS は、エラーが含まれている SB 制御ステートメントを廃棄します。

ユーザーの処置: メッセージ DFS1066I に示されている情報に基づいて、エラーを訂正してください。

関連情報:

DFS1066I

DFS1070I SB-COMPARE-OPTION DETECTED A MISMATCH FOR PSB=xxxxxxx

説明: 説明と処置については、メッセージ DFS1070W を参照してください。

関連情報:

DFS1070W

DFS1070W SB-COMPARE-OPTION DETECTED A MISMATCH FOR PSB=xxxxxxx

説明: 順次バッファリング (SB) COMPARE オプションが、SB バッファ・ハンドラーが OSAM バッファ・ハンドラーに戻したかったバッファ内容が、DASD に保管されているブロックの内容と一致しないことを検出しました。

この不一致が IMS エラーであることを示すメッセージ DFS1070I が非データ共用環境で出されます。

この不一致は正当である可能性があることを示すメッセージ DFS1070W がデータ共用環境で出されます。

システムの処置: IMS が問題判別のためにスナップ・ダンプを作成します。

非データ共用環境では、IMS は疑似異常終了コード 0152 を発行します。

ユーザーの処置: 問題判別に備えて、すべての SNAP 出力を保管してください。

DFS1071I INVALID DATA SET ATTRIBUTES FOR //DFSCTL

説明: //DFSCTL データ・セットに無効のデータ・セット属性があります。

システムの処置: IMS は、開始バッチ、またはオンライン従属領域を異常終了させます。

ユーザーの処置: 次のことを確認して、エラーを訂正してください。

- データ・セットは順次ファイルと、区分データ・セット (PDS) の既存のメンバーのいずれかである。
- レコード・フォーマットは F、FB、または FBS である。
- レコード・サイズは 80 である。

DFS1072I PAGE-FIXING FAILED FOR
PSB=aaaaaaaa; PCB=bbbbbbbb;
DDN=cccccccc

説明: IMS は、順次バッファリング (SB) バッファ用、または制御ブロック用のストレージの、ページ固定化ができませんでした。原因はおそらく、実ストレージが使用不可であったからです。

IMS は、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc の順次バッファリングの開始を試みている最中に、このページの固定化を試みました。

システムの処置: IMS では、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc に関して、SB を使用しません。

ユーザーの処置: 順次バッファリングに対して割り振られるバッファ・スペースが多すぎないか判断してください。

DFS1073I LCE ALLOCATION FAILED FOR
PSB=aaaaaaaa ;PCB=bbbbbbbb
;DDN=cccccccc

説明: IMS は、このサブシステムに追加のローカル・キャッシュ・エントリ (LCE) を割り振れませんでした。1200 という順次バッファリング・バッファ・セット (12000 バッファ) の限度を超えました。IMS は、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc の順次バッファリングの開始を試みている最中に、LCE の割り振りを試みました。

システムの処置: IMS では、PSB aaaaaaaaa の PCB/データ・セットの対 bbbbbbbb/cccccccc に関して順次バッファリングは使用しません。

ユーザーの処置: 順次バッファリングに対して割り振られるバッファが多すぎないか判断してください。

モジュール: DFSSBEVO

DFS1075A NO STORAGE AVAILABLE FOR
DFSSBSCD

説明: IMS は、システム目録ディレクトリー (SCD) への順次バッファリング (SB) 拡張用の仮想記憶域の獲得ができませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

ユーザーの処置: IMS バッチの場合は、専用ストレージの量を増やして割り振り、IMS DB/DC または DBCTL の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS1076A xxxxxxxx CAN NOT BE LOADED,
RC=nn

説明: IMODULE マクロが、モジュール xxxxxxxx をロードできませんでした。IMODULE 戻りコード *nn* の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了コード 0153 を発行します。

ユーザーの処置: IMODULE マクロから戻されたコードに基づいて、エラーを訂正してください。

関連資料:

➡ IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0153

DFS1077A ERROR ON SBONLINE CONTROL
CARD: bbbbbbbbbbbbb

説明: IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSM_{xx} の SBONLINE 制御ステートメントにエラーがあります (IMS オンラインの場合)。変数 bbbbbbbbbbbbb は、エラーのタイプを記述しています。エラーは、次のいずれかである可能性があります。

- SBONLINE の後にブランクまたはコンマが続いていない。
- MAXSB 以外のパラメーターが指定されている。
- MAXSB パラメーター値が数値でないか、その後にブランクが少なくとも 1 つ続いていない。

システムの処置: IMS は、順次バッファリング (SB) を使用しますが、誤りのある SBONLINE 制御ステートメントで指定されたパラメーターについては、すべて無視します。

ユーザーの処置: SBONLINE 制御ステートメントのエラーを訂正してください。

DFS1078I (text of I/O error message)

説明: //DFSSTAT DD ステートメントを処理している最中に、IMS が入出力エラーを検出しました。このメッセージには、z/OS SYNADAF マクロで用意されてい

る標準入出力エラー・メッセージのテキストが含まれません。

システムの処置: IMS は、//DFSSTAT データ・セットへの情報の書き込みを停止します。

ユーザーの処置: このメッセージの内容に基づいて、エラーを訂正してください。

関連資料:

 z/OS: SYNADAF エラーの説明

DFS1079A INSUFFICIENT STORAGE TO PROCESS //DFSCTL CONTROL STATEMENTS

説明: IMS が十分な仮想記憶域を獲得できなかったため、//DFSCTL DD ステートメントで定義されたデータ・セットに保管されている制御ステートメントを処理できませんでした。

システムの処置: IMS は、制御ステートメントの一部または全部を無視します。

ユーザーの処置: IMS バッチまたは DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振り、IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS1080A INVALID *region type*

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が無効な領域タイプで実行されました。//EXEC PARM フィールドの最初のサブパラメーターで指定されるバッチ領域タイプは、DLI、DBB、または ULU である必要があります。

システムの処置: IMS は、テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: 領域タイプを訂正してください。

DFS1081A SB ENVIRONMENT NOT SET-UP: DFSSBHD0 CAN NOT EXECUTE

説明: IMS は、順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) を実行するために該当する環境のセットアップができませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した他のメッセージの後に続けて表示されます。

ユーザーの処置: IMS によって送信された他のエラー・メッセージを基にして、エラーを訂正してください。

DFS1082A SYSPRINT COULD NOT BE OPENED

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、//SYSPRINT データ・セットを開けませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した z/OS メッセージの後に続けて表示されます。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: テスト・プログラムのデータ・セットを定義している //SYSPRINT DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。z/OS によって発行されたメッセージも参照してください。

DFS1083A SYSIN COULD NOT BE OPENED

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、//SYSIN データ・セットを開けませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した z/OS メッセージの後に続けて表示されます。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: テスト・プログラムのデータ・セットを定義している //SYSIN DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。z/OS によって発行されたメッセージも参照してください。

DFS1084A SYSUT1 COULD NOT BE OPENED

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、SB イメージ・キャプチャー・ログ・レコードが含まれている //SYSUT1 データ・セットを開けませんでした。このメッセージは、エラーが発生した理由を記述した z/OS メッセージの後に続けて表示されます。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: テスト・プログラムのデータ・セットを定義している //SYSUT1 DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。z/OS によって発行されたメッセージも参照してください。

DFS1085A RECORD FORMAT OF SYSUT1 IS NOT VARIABLE

説明: 順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコードが含まれているデータ・セットのレコード・フォーマットが、可変長ではありません。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: データ・セットのレコード・フォーマットを可変長に変更してください。

**DFS1086A PSB HAS NO DB-PCB: DFSSBHD0
CAN NOT EXECUTE**

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) に関して JCL で指定された PSB に、データベース PCB がありません。

SB テスト・プログラムは、SB イメージ・キャプチャー・レコードを生成したアプリケーション用として使用されたものと同じ PSB および DBD を使用して、実行する必要があります。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: SB イメージ・キャプチャー・レコードを生成したアプリケーション用として使用されたものと同じ PSB および DBD を使用して、SB テスト・プログラムを実行してください。

**DFS1087A INVALID PCB-NUMBER IN IMAGE
CAPTURE RECORD**

説明: 順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の相対データベース PCB 番号が、SB テスト・プログラム (DFSSBHD0) の実行に使用された PSB のデータベース PCB のいずれにも一致しません。

システムの処置: IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB が、SB テスト・プログラムの実行に使用された PSB と同じであるか確認してください。

関連情報:

334 ページの『DFS1096I』

**DFS1088A DBD-NAMES OF PSB AND IN
IMAGE-CAPTURE RECORDS ARE
NOT IDENTICAL**

説明: SB イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の DBD 名が、SB テスト・プログラム (DFSSBHD0) の実行に使用された PSB のデータベース PCB の DBD 名と一致しません。

システムの処置: IMS は、メッセージ DFS1096I および DFS1097I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB が、SB テスト・プログラムの実行に使用された PSB と同じであるか確認してください。

関連情報:

334 ページの『DFS1096I』

335 ページの『DFS1097I』

**DFS1089A INVALID DSG-NUMBER IN IMAGE
CAPTURE RECORD**

説明: 順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の相対データベース DSG 番号が、SB テスト・プログラム (DFSSBHD0) の実行に使用された DSG 制御ブロックのいずれにも一致しません。

システムの処置: IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB および DBD が、SB テスト・プログラムの実行に使用されたものと同じであるか確認してください。

関連情報:

334 ページの『DFS1096I』

**DFS1090A DATA SET HAS BEEN CONVERTED
TO VSAM.**

説明: 順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャーの後で、OSAM データベース・データ・セットが VSAM データベース・データ・セットに変更されました。SB は、VSAM データベース・データ・セットをサポートしません。

システムの処置: IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

関連情報:

334 ページの『DFS1096I』

**DFS1091W LOAD-PROCOPT FOR DBD=xxxxxxx,
DB DATA SETS CANNOT BE
OPENED.**

説明: DBD xxxxxxxx を参照する PCB にロード処理オプションがありますが、これは順次バッファリング (SB) テスト・プログラムでサポートされていません。

システムの処置: ほとんどの場合に、テスト・プログラムは、PCB で参照されているデータベース・データ・セットを開くこともなく、ロード処理オプションのある

PCB で参照されているデータベース・データ・セットに関して、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードを処理することはありません。プログラム終了時に、テスト・プログラムがメッセージ DFS2346W を発行する可能性があります。

ユーザーの処置: DFS2346W メッセージがプログラム終了時に //SYSPRINT データ・セットに書き込まれるかどうか、チェックして確認してください。書き込まれる場合は、SB テスト・プログラムによるイメージ・キャプチャー・ログ・レコードの再処理は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードを生成したアプリケーションの処理と一致しないことに留意してください。メッセージ DFS2346W が出されなかった場合は、このメッセージ (DFS1091W) は無視してください。

関連情報:

576 ページの『DFS2346W』

DFS1092A DD-NAMES IN PSB/DBD AND IN IMAGE CAPTURE RECORDS ARE NOT IDENTICAL

説明: 順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコード内の DD 名は、SB テスト・プログラムの実行に使用された PSB によって参照されている DBD 内の DD 名には一致しません。

システムの処置: IMS は、メッセージ DFS1096I および DFS1098I を発行し、テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: イメージ・キャプチャー・レコードの作成に使用された PSB、DBD、および DBD DD 名が、SB テスト・プログラムの実行に使用されたものと同じであるか確認してください。

関連情報:

『DFS1096I』

335 ページの『DFS1098I』

DFS1093A INVALID SUBRECORD-TYPE IN IMAGE CAPTURE RECORD

説明: 順次バッファリング (SB) イメージ・キャプチャー・ログ・レコードには、サブレコード・タイプ・フィールドに無効のコードが含まれています。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: SB テスト・プログラムに関する //SYSUT1 データ・セットに、SB イメージ・キャプチャー・ログ・レコードが含まれているか確認してください。

DFS1094W PREMATURE END-OF-FILE ON SYSUT1

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、アプリケーションのイメージ・キャプチャー・レコードをすべて処理しないうちに、//SYSUT1 データ・セットの終わりに達しました。

システムの処置: SB テスト・プログラムは、//SYSUT1 のファイルの終わりで正常に終了します。

ユーザーの処置: //SYSUT1 データ・セットに、必要なイメージ・キャプチャー・レコードすべてが入っていることを確認してください。SB テスト・プログラムにイメージ・キャプチャー・レコードの一部だけを処理させた場合は、正しいイメージ・キャプチャー・レコードが処理されたことを確認してください。

DFS1095A APPLICATION-START RECORD NOT FOUND

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) は、//SYSUT1 データ・セットでアプリケーションの開始を記述したイメージ・キャプチャー・レコードを検出できませんでした。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: 次の点を確認してください。

- //SYSUT1 データ・セットに、必要なイメージ・キャプチャー・レコードすべてが含まれているか。
- SB テスト・プログラムは、イメージ・キャプチャー・レコードを作成したアプリケーション用として使用されたものと同じ PSB を使用して実行されているか。
- イメージ・キャプチャー・オプションは、イメージ・キャプチャー・レコードを作成すると想定されていたアプリケーション用として正常に活動化されたか。
- SB テスト・プログラムに関する SELECT 制御ステートメントでの指定が正しいか (このステートメントを使用して、アプリケーションの特定の実行のイメージ・キャプチャー・レコードを選択した場合)。

DFS1096I IC RECORD FOR: PCB-NBR=nnnn, DBD=aaaaaaaa, DSG-NBR=mmmm, DDN=bbbbbbbb

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラムが、イメージ・キャプチャー・レコードに関連したエラーを検出しました。

このメッセージには、相対 PCB 番号、DBD 名 (PCB マクロでコーディングされている)、DSG 番号、およびこのレコードの DD 名が示されています。最初のデー

データベース PCB および DSG は、相対番号が 1 です。場合によっては、PCB 番号、DSG 番号、および DBD 名のフィールドは、初期設定されないことがあります。例えば、アプリケーション・プログラムに対して定義されていない内部 PCB に関して、DL/I が入出力操作を実行する場合です。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: SB テスト・プログラムが検出したエラーのタイプの説明について、前に出されている IMS メッセージを参照し、それに従ってエラーを訂正してください。

DFS1097I DBD NAME ACCORDING TO PSB:

aaaaaaaa

説明: イメージ・キャプチャー・レコードに保管された DBD 名が、データベース PCB に保管されている DBD 名と一致しません。このメッセージには、SB テスト・プログラムを実行するのに使用されたデータベース PCB に保管されている DBD 名 (PCB マクロでコーディングされた) が示されています。IMS は、前にメッセージ DFS1088A および DFS1096I を出して、追加の情報を提供しました。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: メッセージ DFS1088A および DFS1096I を基にして、エラーを訂正してください。

関連情報:

333 ページの『DFS1088A』

334 ページの『DFS1096I』

DFS1098I DDNAME ACCORDING TO DBD:

aaaaaaaa

説明: イメージ・キャプチャー・レコードに保管された DD 名が、DMB/DBD の IMS AMP 制御ブロックに保管されている DD 名と一致しません。このメッセージには、SB テスト・プログラムを実行するのに使用された DBD の IMS AMP 制御ブロックに保管されている DD 名 (DATASET マクロでコーディングされた) が示されています。

IMS は、前にメッセージ DFS1092A および DFS1096I を出して、追加の情報を提供しました。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: メッセージ DFS1092A および DFS1096I を基にして、エラーを訂正してください。

関連情報:

334 ページの『DFS1092A』

334 ページの『DFS1096I』

DFS1099A DDNAME NOT FOUND IN ANY DBD

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) が、PSB によって参照されているいずれの DBD のイメージ・キャプチャー・レコードに保管されている DD 名も検出できませんでした。

システムの処置: IMS は、メッセージ DFS1096I を発行し、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: イメージ・キャプチャー用として使用された PSB/DBD が、SB テスト・プログラムの実行に使用されたものと同じであるか確認して、エラーを訂正してください。

関連情報:

334 ページの『DFS1096I』

DFS1100I nnnnnn IS AN INVALID MESSAGE KEY.

説明: 内部論理エラーが発生しています。フォーマット・ユーティリティーは、そのメッセージ・テーブルに存在しないメッセージの発行を試みています。nnnnnn は、そのメッセージのメッセージ・キーです。原因は、ユーザーによる変更にあると推定されます。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: 障害が起こった理由は、MFS 言語ユーティリティーへのユーザーによる変更以外にあるかどうか判別してください

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 26 章 DFS メッセージ DFS1101I - DFS1150I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1101I *label* FORMAT BLOCK HAS NO DEVICES.

説明: フォーマット・ブロックが定義されましたが、これに関しては、DEV ステートメントが定義されませんでした。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1027I を参照してください。

システムの処置: 処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、MFS 言語ユーティリティを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1027I』

DFS1102I GENERATION TERMINATED FOR FORMAT SET.

説明: ユーザー・フォーマット定義に、以前にエラー・メッセージで説明されていたエラーがありました。フォーマット定義、および関連メッセージ定義が以後の処理から削除されます。

システムの処置: 処理は次の FMT セットから続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、MFS 言語ユーティリティを再実行してください。

重大度: 12

DFS1103I *label* OUTPUT MESSAGE HAS NO SEGMENTS.

説明: セグメントがまったく定義されていない出力メッセージ記述が検出されました。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1026I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ記述を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1026I』

DFS1104I *label* INPUT MESSAGE HAS NO SEGMENTS.

説明: 入力メッセージにセグメントがないため、ブロックは削除されます。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1026I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1026I』

DFS1105I *label* LPAGE HAS NO SEGMENTS.

説明: 出力メッセージ記述が、SEG または MFLD ステートメントが後に続かない LPAGE を定義しています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1022I』

DFS1106I *label* LPAGE DOES NOT HAVE DPAGE name.

説明: 必須 SOR= *dpagename* パラメーターが LPAGE ステートメントに欠落しています。 *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。 *label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1022I』

DFS1107I *label* LPAGE REQUIRED LITERAL MISSING IN COND=.

説明: *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。 *label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。このメッセージが発行されるのは、COND= パラメーターが指定されていないか、LPAGE ステートメントで必須のリテラルが欠落しているか、またはその両方である場合です。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1022I』

DFS1108I *label* SEGMENT HAS NO FIELDS.

説明: 入力セグメントにそれに関するフィールドが定義されていません。 *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。 *label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1023I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1023I』

DFS1109I MESSAGE HAS EXCEEDED ALLOWABLE LENGTH.

説明: 入力メッセージが、最大許容長さ 32,767 バイトを超えています。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

DFS1110I *label* WARNING SEGMENT HAS NO FIELDS. SEGMENT WILL BE SKIPPED BY ONLINE PROCESSING.

説明: 出力セグメントにそれに関するフィールドが定義されていません。 *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。 *label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1023I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 4

DFS1111I *label* MSG/LPAGE HAS NO SEGMENTS WITH FIELDS.

説明: *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。 *label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。MSG または LPAGE セグメントにフィールドが定義されていません。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

DFS1112I *label* LPAGE COND= PARAMETER SPECIFIED AN MFLD LABEL THAT CANNOT BE FOUND OR MFLD CONTAINS A LITERAL

説明: CON *label* フィールドで参照される MFLD ラベルは、ステートメントで外部的に定義された名前です。

label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1022I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

DFS1022I

DFS1113I *label* **DUPLICATE MFLD HAS BEEN DELETED.**

説明: この MSG 記述ですでに参照されている定義フィールド名 (dfldname) を使用するメッセージ・フィールド(MFLD) 定義が検出されています。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1024I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

320 ページの『DFS1024I』

DFS1114I *label* **DEVICE HAS NO DIVISIONS**

説明: それぞれの DEV ステートメントごとに、DIV ステートメントを 1 つずつ定義する必要があります。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1017I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

DFS1115I *label* **DIV STATEMENTS ARE INVALID.**

説明: このメッセージは、次のいずれが発生した場合にも出されます。

- DEV TYPE=3270、3270P、3600、36DS、36FP、36JP、または 36PB が指定され、上記の DEV ステートメントの後に複数の DIV ステートメントが続いている。
- DEV TYPE=274X で、上記の DEV ステートメントの後に 3 つ以上の DIV ステートメントが続いている。
- DEV TYPE=274X で、上記の DEV ステートメントの後に 2 つの DIV TYPE=INPUT と 2 つの DIV TYPE=OUTPUT のいずれかが続いている。

label は、エラーの DEV ステートメントの ID です。メッセージ DFS1017I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1017I』

DFS1116I *label* **FORMAT HAD TERMINATING DEVICE ERROR.**

説明: フォーマット設定装置エラーが発生し、そのためにブロックの作成が妨げられると、このメッセージが印刷されます。このメッセージの前に、終了装置エラーを記述した 1 つ以上のエラー・メッセージが表示されます。label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。label が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1016I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1016I』

DFS1117I *label* **DEVICE DOES NOT DEFINE ALL DPAGE DESCRIPTIONS.**

説明: このメッセージは、次の場合に印刷されます。

- MSG 記述の LPAGE が、SOR= パラメーターで関連 FMT 記述で定義されていない「dpage name」を参照する。
- FMT 記述に、幾つかの DEV ステートメントが含まれ、それぞれの DEV ステートメントごとに、DPAGE ステートメントに個別のラベルが含まれていない。

label は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1017I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1017I』

**DFS1118I *label* DPAGE ALREADY DEFINED
 THIS DEVICE.**

説明: 重複 DPAGE ラベルが、この DEV ステートメントに関して検出されています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1019I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1019I』

**DFS1119I *label* DUPLICATE FIELD WITHIN
 DEVICE PAGE.**

説明: 重複 DFLD ラベルが、装置に関する同じ物理ページで検出されています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1019I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1019I』

**DFS1120I *label* DFLD OVERLAPS WITH
 FOLLOWING FIELD:**

説明: DFLD に関して指定された POS= パラメーターが、列指定か行指定、またはその両方で別の DFLD とオーバーラップしています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1020I』

**DFS1121I *label* DFLD OVERLAPS WITH
 PREVIOUS FIELD.**

説明: DFLD に関して指定された POS= パラメーターが、列指定か行指定、またはその両方で別のフィールドとオーバーラップしています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1020I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1020I』

**DFS1122I *label* DFLD HAS INVALID START
 ORIGIN WITHIN PAGE.**

説明: 開始位置起点は、3270 の場合の (1,2) より小とそれ以外の装置の場合の (1,1) より小のいずれかです。SCS1 の場合は、開始行位置が DEV ステートメントの VTAB= キーワードで指定されている上部マージン値より小の可能性があります。ステートメント *label* の名前は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

340 ページの『DFS1120I』

DFS1123I *label* DFLD EXCEEDS DEVICE
BOTTOM MARGIN/PAGE
CAPABILITIES

説明: DFLD ステートメント POS= 指定が VTAB= キーワード、または装置ページ (PAGE=) での下部マージン指定内に収まりません。ステートメント *label* の名前は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。メッセージ DFS1020I も参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

319 ページの『DFS1020I』

DFS1124I *label* DFLD EXCEEDS DEVICE LINE
SIZE.

説明: 真の DFLD に関して定義されたりテラルが、装置行サイズを超えています。*label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。詳しくは、メッセージ DFS1020I を参照してください。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

関連情報:

DFS1020I

DFS1125I *label* *** WARNING *** DFLD WILL
CAUSE COPY BUFFER LOCK ON
REMOTE 3270s.

説明: *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部

名です。示されている DFLD ステートメントが原因で、表示イメージがリモート 3270 での COPY に関してロックされます。つまり、表示はコピーできません。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: コピー・ロックが望ましくない場合は、フィールド定義を再定義して、フィールドがバッファの最初の位置 (POS=(1,2)) から始まらないようにするか、ALPHA および PROT (保護) 属性を備えないようにしてください。

重大度: 4

DFS1126I *label* DPAGE HAS NO DFLD
STATEMENTS.

説明: ID、ラベルで表されている DPAGE ステートメントに、DFLD ステートメントが定義されていません。FMT 記述子内のそれぞれの DPAGE ごとに、DFLD が少なくとも 1 つずつ定義されている必要があります。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 定義エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度: 12

DFS1127I *label* NXT= MESSAGE DOES NOT
USE SAME FORMAT OR IS NOT
DEFINED.

説明: *label* は、ステートメントで外部的に定義された名前です。*label* が省略されている場合は、プリプロセッサによってステートメントに関して生成された内部名です。特定の特定が以前に、DFS1021I または DFS1022I メッセージで同じ番号で識別されていました。MSG または LPAGE ステートメントに、NXT=msgname パラメーターが含まれています。3270 の場合は、参照されている入力メッセージ記述で。処理される出力メッセージと同じソース FMT 記述を使用していません。SOR= パラメーターで指定されているフォーマット名が同じではありません。

次の条件が原因で、このメッセージが生成される可能性があります。

- 参照されている名前が、入力メッセージメッセージ記述の名前ではなく、出力メッセージ記述の名前である。
- 入力メッセージ記述が IMS.REFERAL ライブラリーに存在しない。

DFS1128I • DFS1132I

- 入力メッセージ記述が、MSG ステートメントの
SOR= オペランドで、出力メッセージ記述とは異なる
FMT 名を指定している。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義
から続行されます。

プログラマーの応答: 参照されている入力メッセージ記
述に関する定義がこの実行で示されている場合は、定義
を訂正し、ジョブを再実行してください。参照されてい
る入力メッセージが IMS.REFERAL ライブラリーにす
でに存在する場合は、RELATE 機能を使用して MFS
サービス・ユーティリティ・プログラムを実行して、
エラーの入力メッセージ記述の状況を判別してくださ
い。参照されている入力メッセージ記述に関する定義を
訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

DFS1128I *label* LPAGE PROMPT=DFLDNAME IS DUPLICATE.

説明: LPAGE ステートメントで参照されている DFLD
ラベルは、LPAGE 内で固有である必要があります。
label は、LPAGE ステートメントで外部的に定義された
名前です。*label* が省略されている場合は、内部名がプ
リプロセッサによって生成されます。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義
から続行されます。

プログラマーの応答: エラーのメッセージのソース・ス
テートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してくださ
い。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1129I *label* MSG DOES NOT DEFINE ALL DPAGE DESCRIPTIONS.

説明: INPUT MSG LPAGE ステートメントは、対応
する FMT の DPAGE 記述をすべては参照していません。
label は、ステートメントで外部的に定義された名前
です。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義
から続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行
依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1130I *label* LPAGE ALREADY DEFINED DPAGE.

説明: 入力メッセージ LPAGE ステートメントが同じ
DPAGE を複数回参照しています。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義
から続行されます。

プログラマーの応答: 重複参照を訂正し、ジョブを再実
行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1131I *label* PASSWORD HAS NO FIELDS.

説明: 入力メッセージ PASSWORD セグメントに、そ
れに関するフィールドが定義されていません。*label*
は、ステートメントに関して内部的に定義された名前
です。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義
から続行されます。

プログラマーの応答: PASSWORD セグメントを訂正
し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1132I *label* PASSWORD HAS EXCEEDED ALLOWABLE LENGTH.

説明: パスワード長さが最大許容長さ 8 バイトを超え
ました。*label* は、ステートメントを一意的に識別す
る、内部的に生成された名前です。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義
から続行されます。

プログラマーの応答: PASSWORD セグメントを訂正
し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1133I *label* **MFLD LENGTH INCORRECT
WHEN ATTR= YES AND/OR *nn*
SPECIFIED**

説明: 指定されている MFLD 長さが、示されている数の属性に少なくとも 1 バイトのデータを加えたものを包含するのに必要な長さより小です。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: データの最大長に、ATTR=YES が指定されている場合は、2 バイトを加え、ATTR=*nn* が指定されている場合は、*nn* バイトの 2 倍を加えた長さに等しい MFLD 長さを指定してください。次に、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1134I *label* **LPAGE PROMPT=DFLDNAME
NOT DEFINED THIS FMT**

説明: PROMPT= パラメーターで指定されている dfllname が、対応するフォーマットで定義されていません。

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1135I *label* **WARNING: INPUT FROM
DUPLICATE DFLD WILL BE
IGNORED.**

説明: MULT=YES が DPAGE に関して定義され、重複 DFLD が DPAGE で検出されます。これは警告診断です - 重複 DFLD は、オンライン処理で無視されます。*label* は、DFLD ステートメントで外部的に定義された名前です。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1136I *label* **DPAGE COND= SPECIFICATION
MISSING**

説明: 最後に定義された、または入力専用の DPAGE ステートメントを除くすべての入力 DPAGE ステートメントで、COND= 指定が必要です。*label* は、DPAGE ステートメントで外部的に定義されたラベルですが、外部ラベルが省略されている場合は、内部ラベルです。

システムの処置: 処理は次の DIV、DEV、または FMT ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE 定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

DFS1137I *label* **FILL=NULL INVALID WHEN
GRAPHIC=NO SPECIFIED.**

説明: FILL=NULL のメッセージ・フィールド (MFLD) が、GRAPHIC=NO を指定した SEG ステートメントで定義されました。入力メッセージ制御ブロックは作成されません。メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

label MFLD ステートメントで生成された外部または内部ラベル

システムの処置: 処理は次の MSG または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: GRAPHIC=NO が指定されている SEG ステートメントで FILL=NULL の MFLD を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1138I *label* **DFLD MUST NOT BE USED AS
LABEL WITHIN THIS DEV/DIV**

説明: DEV ステートメントの PFK=、PEN=、または CARD= パラメーター、または DIV ステートメントの DPN=、PRN=、RPRN=、または RDPN パラメーターで指定されている dfllname が、この DEV/DIV 内の DFLD ステートメントでラベルとしても使用されます。

システムの処置: 処理は次の DIV、DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1139I *label keyword=* **PARAMETER INVALID FOR THIS DIV TYPE AND WILL BE IGNORED.**

説明: この警告診断が出されるのは、DEV タイプが 274X、SCS1、SCS2、または DPM の場合です。DIV TYPE=INPUT であれば、無効のキーワード DSCA、PAGE、または FORMS が指定された場合です。DIV TYPE=INPUT で、DEV タイプが SCS1 であれば、無効のキーワード HTAB、VTAB、または VT が指定された場合です。DIV TYPE=OUTPUT であれば、無効のキーワード FTAB、LDEL、CARD (SCS1 の場合)、または MODE (DPM-Bn を除く) が指定された場合です。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

重大度: 8

DFS1140I *name* **FMT DOES NOT DEFINE DEVICE OUTPUT DESCRIPTION FOR OUTPUT MESSAGE DESCRIPTION. FMT NOT PROCESSED.**

説明: *name* は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。FMT セットは互換性がありませんでした - 装置入力記述、(つまり、DIV TYPE=INPUT) は、MSG SOR= パラメーターによって TYPE=OUTPUT の MSG 記述に関連付けられます。このメッセージの後に、1 つ以上の DFS1144I エラー・メッセージが続き、さらに 1 つ以上の DFS1145I エラー・メッセージが続く可能性もあります。少なくとも戻りコード 12 が、MFS 言語ユーティリティのステップ 1 を実行することによって z/OS に渡されます。

システムの処置: 処理は次の FMT または MSG 定義から正常に続行されます。

プログラマーの応答: MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 12

関連情報:

『DFS1141I』

345 ページの『DFS1145I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1141I *name* **FMT DOES NOT DEFINE DEVICE INPUT DESCRIPTION FOR INPUT MESSAGE DESCRIPTION. FMT NOT PROCESSED.**

説明: *name* FMT は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。FMT セットは互換性ありませんでした - 装置出力記述、(つまり、DIV TYPE=OUTPUT) は、SOR= パラメーターによって TYPE=INPUT の MSG 記述に関連付けられます。このメッセージの後に、1 つ以上の DFS1145I エラー・メッセージが続き、さらに 1 つ以上の DFS1144I エラー・メッセージが続く可能性もあります。少なくとも戻りコード 12 が、MFS 言語ユーティリティのステップ 1 を実行することによって z/OS に渡されます。

システムの処置: 処理は次の FMT または MSG 定義から正常に続行されます。

プログラマーの応答: MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 12

関連情報:

345 ページの『DFS1144I』

345 ページの『DFS1145I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1142I **WARNING: NO OUTPUT MESSAGE DESCRIPTION FOR DEVICE OUTPUT DESCRIPTION IN *name* FMT.**

説明: *name* は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。装置出力記述 (つまり、DIV TYPE=OUTPUT または DIV TYPE=INOUT) に、TYPE=OUTPUT の MSG 記述が SOR= パラメーターによって関連付けられていません。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: このエラーでは、オンライン・フォーマット・ライブラリーに望ましくないブロックが生成される可能性があります。MSG 出力記述が必要な場合は、それを定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1143I WARNING: NO INPUT MESSAGE
DESCRIPTION FOR DEVICE INPUT
DESCRIPTION IN *name* FMT.**

説明: *name* は、FMT ステートメントで定義された外部ラベルです。装置入力記述 (つまり、DIV TYPE=INPUT または DIV TYPE=INOUT) に、TYPE=INPUT の MSG 記述が SOR= パラメーターによって関連付けられていません。このエラーでは、オンライン・フォーマット・ライブラリーに望ましくないブロックが生成される可能性があります。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1144I *name* OUTPUT MESSAGE NOT
PROCESSED.**

説明: *name* は、MSG ステートメントで定義された外部ラベルです。このエラー・メッセージは、DFS1140I エラー・メッセージの結果として印刷されます。また、FMT セットが処理されないとき、DFS1141I エラー・メッセージの結果としても印刷されます。

システムの処置: 処理は次の FMT セットから正常に続行されます。

プログラマーの応答: MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1145I *name* INPUT MESSAGE NOT
PROCESSED.**

説明: *name* は、MSG ステートメントで定義された外部ラベルです。このエラー・メッセージは、DFS1141I エラー・メッセージの結果として印刷されます。また、FMT セットが処理されないとき、DFS1140I エラー・メッセージの結果としても印刷されます。

システムの処置: 処理は次の FMT セットから正常に続行されます。

プログラマーの応答: MSG 定義または FMT 定義、あるいはその両方を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1146I BAD COMPLETION CODE
RECEIVED FROM IEBCOPY
SUBTASK ON COMPRESS OF
DDNAME=FORMAT. EXECUTION
TERMINATED.**

説明: z/OS イメージ・コピー・ユーティリティー・プログラム (IEBCOPY) が、リカバリーが可能な場合がある条件を示すことも、リカバリー不能エラーを示すこともある戻りコードを発行します。


システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 以前に受信されている IEBCOPY メッセージ、および関連 IEBCOPY プログラム・メッセージ文書を使用して、問題を判別してください。

問題判別: 2、8、16、36

重大度: 20

関連資料:

 z/OS: IEBCOPY (ライブラリー・コピー) プログラム

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1147I *label* WARNING: DEV VT=/VTAB= IS
INVALID WITH PAGE 'FLOAT'
OPTION. VT=/VTAB= PARAMETER
WILL BE IGNORED.**

説明: VT= または VTAB= パラメーター、および PAGE FLOAT オプションが同じ DEV ステートメントで指定されました。VT= または VTAB= 指定は無視されます。フィールド *label* は、DEV ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: VT= または VTAB= オプションが望ましい場合は、PAGE オプションを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1148I *label* **WARNING: DPAGE FILL=NONE
OR NULL IS INVALID WITH HTAB
'ONLINE' OR 'OFFLINE'. HTAB
OPTION RESET TO SET.**

説明: FILL=NULL または FILL=NONE の DPAGE が、HTAB OFFLINE または ONLINE オプションを指定した DEV ステートメントで指定されました。OFFLINE または ONLINE オプションは、SET にリセットされます。フィールド *label* は、DPAGE ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: HTAB OFFLINE または ONLINE オプションが望ましい場合は、DPAGE 充てん文字指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1149I *label* **DPAGE HAS EXCEEDED
ALLOWABLE LENGTH.**

説明: 現在処理中の DPAGE 定義 MFS バッファ設計限度の 32767 バイトを超えています。作業バッファには、DPAGE 全体に関するリテラル、データ・フィールド、および制御文字が入っています。フィールド *label* は、DPAGE ステートメントで指定された名前です。DPAGE が外部的に定義されなかった場合は、*label* が DIV ステートメントの名前です。

システムの処置: 処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE 定義は、現行形式では処理できません。DPAGE 定義を複数 DPAGE として再定義し、再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1150I *label* **WARNING: POTENTIAL ERROR
IF THE CURSOR POSITION ON
INPUT IS 63 (HEX'3F'). THE
SEGMENT IN WHICH THIS MFLD
EXISTS WILL HAVE ALL THE NULL
CHARACTERS (HEX '3F') REMOVED,
INCLUDING THE CURSOR
POSITION.**

説明: 詳しくは、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」の『メッセージ・フォーマット設定機能』というタイトルのトピックを参照してください。

重大度: 4

第 27 章 DFS メッセージ DFS1151I - DFS1200I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1151I *label* WARNING: HEADER MAY NOT FIT WITHIN A RECORD.

説明: ユーティリティーで計算されたメッセージ出力ヘッダー最大サイズが、DIV ステートメントで HDRCTL=VARIABLE の場合に指定された RCDCTL=値を超えています。フィールド *label* は、DIV ステートメントでの OPTIONS= 指定で決定された FMT/DPAGE/PPAGE ステートメントで外部的に定義された名前であるか、または *label* が内部的に生成されたステートメント・ラベルです。

システムの処置: 処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: リモート・プログラムに送信されるメッセージ出力ヘッダーが、レコードに収まるか検証してください。収まらない場合は、もっと大きいレコード・サイズを定義するか、もっと小さいヘッダーを作成し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1152I *label* HEADER WILL NOT FIT WITHIN A RECORD.

説明: ユーティリティーで計算されたメッセージ出力ヘッダー・サイズが、DIV ステートメントで HDRCTL=FIXED の場合に指定された RCDCTL= 値を超えています。フィールド *label* は、DIV ステートメントでの OPTIONS= 指定で決定された FMT/DPAGE/PPAGE ステートメントで外部的に定義された名前であるか、または *label* が内部的に生成されたステートメント・ラベルです。

システムの処置: 処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: もっと大きいレコード・サイズを定義するか、DIV ステートメントの HDRCTL= パラメーターで VARIABLE パラメーターを指定してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS1153I *label* WARNING: PPAGE CONTAINS NO DATA.

説明: DFLD ステートメントが含まれていない PPAGE ステートメントが、DIV ステートメントで指定されている OPTIONS=PPAGE に関して検出されました。これによって、MFS はメッセージ出力ヘッダーのみ (デ

ータ・フィールドがない) を生成して、それを唯一の伝送としてリモート・プログラムに送信し、コンポーネントは保護されることとなります。その上で、データを受信するために、ページング要求が IMS に送信される必要があります。フィールド *label* は、ユーザー提供の、または PPAGE ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: リモート・プログラムでは、望ましいのはメッセージ出力ヘッダー機能のみなのか検証してください。

DFS1154I *label* PPAGE CONTAINS NO DATA. PPAGE IGNORED.

説明: DFLD ステートメントが含まれていない PPAGE ステートメントが検出されました。DEV TYPE=DPM-An または DPM-Bn、および DIV OPTIONS=MSG または DPAGE の場合は、この PPAGE は新しいレコードを開始し、それ以外の効果をリモート・プログラムにもたらしことはありません。DEV TYPE=DPM-Bn および DIV OPTIONS=(PPAGE,NODNM) の場合は、この PPAGE ステートメントによって、リモート・プログラムで意味のある情報が得られる結果になることはありません。フィールド *label* は、ユーザー提供の、または PPAGE ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: PPAGE ステートメントは無視されず。処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: PPAGE ステートメントは、除去することが望ましければ、入力ストリームから除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1155I *label* THE RESULTING DIF/DOF BLOCK HAS EXCEEDED THE DESIGN LIMITS.

説明: 現在作成中の DIF/DOF ブロックが、ブロックに関する設計限度 32767 バイトを超えています。

システムの処置: 処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE または DFLD ステート

DFS1156I • DFS1161I

メント、あるいはその両方のステートメントの数を少なく定義して、DIF/DOF を小さくする必要があります。ジョブを再実行依頼してください。

重大度: 16

DFS1156I *label* WARNING: DUPLICATE SCA FIELD IN DPAGE.

説明: SCA フィールドは、DPAGE ステートメントで 1 つだけ定義する必要があります。フィールド *label* は、ユーザー提供の、またはこの SCA オプションを指定した DFLD ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE 内の重複 SCA 情報が望ましくない場合は、この DPAGE ステートメントの重複 SCA フィールドを除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1157I *label* NO. OF PPAGES EXCEEDS MAXIMUM.

説明: OPTIONS=PPAGE を DIV ステートメントで指定して、この DPAGE で定義した PPAGE ステートメントの数が設計限度の 256 ページを超えています。フィールド *label* は、ユーザー提供の、または PPAGE ステートメントで内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: この DPAGE の PPAGE ステートメントの数を最大値より小に減らすか、現行 DPAGE を複数の DPAGE ステートメントで定義し、ジョブを再実行依頼してください。

重大度: 16

DFS1158I *label* IMSSYSTEM MESSAGE DEFINED INCORRECTLY

説明: IMS システム・メッセージ DFS057I が含まれる MFLD リテラルの定義に誤りがあります。リテラルの長さが 62 より大であり、したがって、MFS によるシステム情報のシステム・メッセージへの挿入が妨げられるか、システム・メッセージが含まれる MFLD がデフォルトの MOD DFSM03 にありません。フィールド *label* は、MFLD ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: MFLD 長さが 62 以下になるよ

うに変更するか、ユーザー提供の MOD からシステム・メッセージ・リテラルを除去してください。

DFS1159I *label* A MESSAGE CONTAINING AN IMS SYSTEM MESSAGE MAY NOT DEFINE OTHER LITERALS.

説明: このメッセージは、DFSM03 メッセージ、IMS MFS エラー・デフォルト・ブロックに関して発行されます。このメッセージでは、1 つのリテラル、つまり、IMS システム・メッセージのみを定義する必要があります。それ以外のリテラル定義は許可されません。フィールド *label* は、MFLD ステートメントで外部的または内部的に生成されたラベルです。

システムの処置: 処理は、次の FMT または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: IMS システム・メッセージ以外のすべての MFLD リテラルを MSG ブロックから除去してください。ジョブを再実行してください。

DFS1160I *name* DFLDNAME SPECIFIED FOR MORE THAN ONE OF THE DPN, PRN, RDPN, AND RPRN PARAMETERS

説明: DIV ステートメントのパラメーター DPN=、PRN=、RDPN、および RPRN= のうちの複数で、*dflldname* (名前) が指定されました。これらのパラメーターのそれぞれごとに、*dflldname* が指定される場合は、固有である必要があります。

システムの処置: 重複パラメーターすべてに関して、指定が無視され、処理は次の DEV、FMT、または MSG 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 矛盾するパラメーターに関して *dflldname* を再定義し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1161I *label* DPAGE LABEL IS REQUIRED

説明: OPTIONS=DNM が DIV ステートメントで指定されている場合は、それぞれの入力 DPAGE ステートメントごとに、ラベルを定義する必要があります。*label* は、MFS プリプロセッサで生成された内部ラベルです。

システムの処置: 処理は次の DIV、DEV、FMT、または MSG ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE 定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

重大度: 12

DFS1162I *label* **WARNING: ATTR=*nm* SPECIFIED FOR DFLDNAME WHICH HAD NO EATTR= SPECIFICATION**

説明: 拡張属性 (EATTR= を使用) が指定されていない *dfllname* (*label*) に関して、拡張属性バイトを動的に変更する要求が行われました。他のフォーマットまたは将来のフォーマットには、拡張属性を備えたこの *dfllname* が含まれることを予想して、この要求に応じます。IMS では、(2xnn) 追加バイトが IMS アプリケーション・プログラムによって指定可能な属性変更バイトとして使用される、この MFLD に関する LTH= 指定に組み込まれていると、まだ想定しています。

システムの処置: 処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: ATTR=*nm* 指定が実際に望ましいか、EATTR= パラメーターが DFLD ステートメントから不注意で省略されなかったか検証してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1163I *label* **WARNING: ATTR=YES AND/OR *nm* SPECIFIED ON MFLD STATEMENT, BUT NOT ON CORRESPONDING DFLD STATEMENT**

説明: DPM-An または DPM-Bn について、MFLD ステートメントで ATTR=YES か *nn*、またはその両方を指定することにより、IMS アプリケーション・プログラムからリモート・プログラムまたはサブシステムに属性データを渡すよう要求が出されました。しかし、対応する DFLD ステートメントでは、ATTR=YES か *nn*、またはその両方が指定されませんでした。他のフォーマットまたは将来のフォーマットには、属性を備えたこの *dfllname* が含まれることを予想して、この要求に応じます。IMS では、ATTR=YES の場合は 2 つの追加バイト、ATTR=*nn* の場合は、(2xnn) 追加バイトが IMS アプリケーション・プログラムによって指定可能な属性変更バイトとして使用される、この MFLD に関する LTH= 指定に組み込まれていると、まだ想定しています。

システムの処置: 処理は現行ステートメントから続行されます。

システム・プログラマーの応答: MFLD ステートメントでの ATTR=YES か *nn*、またはその両方の指定が本当に必要なのか、あるいは、ATTR=YES か ATTR=*nn*、またはその両方の指定が DFLD ステートメントから不注意に省略されなかったかを検証してください。

問題判別: 2、10、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1164 *label* **WARNING: SPANNED EGCS FIELD MAY BE INCORRECTLY SPLIT**

説明: EGCS フィールド (*label*) が複数行にまたがっています。このフィールドには、各行に偶数の文字が含まれている必要があります。行幅 (WIDTH=) およびフィールドの開始位置 (POS=) が、各行に収まるデータの量を決定する要因になります。

システムの処置: 処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 各行に偶数文字が入るように、フィールドが定義されている場合は、この警告メッセージは無視してください。1 つ以上の行に奇数の文字が入るように、フィールドが定義されている場合は、定義を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1165W **DUPLICATE RDDS ENTRIES WERE FOUND FOR** *resource_type*
resource_name

説明: リソース定義データ・セット (RDDS) データ・セットに、示されたリソースの複数の項目が入っていました。この状態は、EXPORT DEFN OPTION(APPEND) コマンドの対象であった非システム RDDS で発生する場合があります。複数のリソース項目がある場合、最新の項目は、RDDS 内の定義がインポートされるときに使用される項目です。*resource_type* に可能な値は次のとおりです。

DB
DBDESC
PGM
PGMDESC
RTC
RTCDESC
TRAN

TRANDESC

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティー (DFSURDD0) は処理を続行します。このユーティリティーは、戻りコード 4 で正常に終了します。

プログラマーの応答: 同一リソースに対して複数の定義が予測されなかった場合、EXPORT DEFN OPTION(OVERWRITE) コマンドを使用して、新しい定義セットを RDDS にエクスポートすることを検討してください。

モジュール: DFSURDD0

**DFS1166I RC=08 MFLD LITERAL
INCONSISTENT WITH DFLD
SPECIFICATION**

説明: DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルは、MFLD ステートメントで指定されましたが、対応する DFLD ステートメントでは指定されませんでした。

システムの処置: MFS が MOD/MID および DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答: DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルを両方のステートメントで定義するか、DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラル指定を MFLD ステートメントから除去するか、いずれかを行ってから、ジョブを再実行してください。

**DFS1167I RC=04 label DFLD HAS NO SPACE
AT RIGHT SIDE FOR FIELD
OUTLINING**

説明: DFLD ステートメントで右フィールド枠取りが指定されていますが、右枠を印刷するスペースがありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: このフィールドに関してフィールド枠取りが必要な場合は、フィールド枠取り指定を変更してから、ジョブを再実行してください。

**DFS1168I RC=04 label DFLD HAS NO SPACE
AT LEFT SIDE FOR FIELD
OUTLINING**

説明: DFLD ステートメントで左フィールド枠取りが指定されていますが、左枠を印刷するスペースがありません。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: このフィールドに関してフィールド枠取りが必要な場合は、フィールド枠取り指定を変更してから、ジョブを再実行してください。

**DFS1169I ABEND U0780 RC=yy CAUSED BY
ABEND IN ASID=xxxx,
JOBNAME=jjjjjjj/UNKNOWN WHILE
HOLDING LATCH AT
ADDRESS=aaaaaaaa**

説明: 従属領域がラッチを保留している最中に異常終了し、それが原因で IMS 制御領域が異常終了 0780 で終了しました。

yy 異常終了 0780 の戻りコードです。

xxxx 障害が起こっているアドレス・スペース ID (ASID) を示します。

jjjjjjj/UNKNOWN

障害が起こっているアドレス・スペースのジョブ名、またはジョブ名が判別できないときは文字ストリング UNKNOW のいずれかになります。


aaaaaaaa

ラッチ・ヘッダーのアドレスです。このアドレスは、異常終了 0780 メモリー・ダンプで見つかります。ヘッダーの前の EBCDIC 文字ストリングがラッチを識別しています。

システムの処置: 異常終了コード 0780 が IMS 制御領域で出され、IMS 従属領域のすべてが完了コード 002 で異常終了します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1169I で識別されている従属領域に関する異常終了 002 ダンプを見つけて、元の異常終了を分離および訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0780

**DFS1170I ccccccc HDC DICTIONARY CREATED
IN DD HDCDOUT FILE**

説明: このメッセージは、ハードウェア・データ圧縮ディクショナリー (HDCD) ユーティリティー・プログラムが正常に完了して、戻りコード 0 が示されたことを示します。値 ccccccc は、HDCD ユーティリティーにパラメーターとして渡されたディクショナリー名です。

システムの処置: HDCD ユーティリティーは正常に終了しています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DFS1171W *ccccccc* **HDC DICTIONARY NOT
CREATED, BECAUSE POTENTIAL
STORAGE SAVINGS WILL NOT BE
REALIZED.**

説明: このメッセージでは、HDCD ユーティリティー・プログラムは正常に完了しましたが、ディクショナリー・オブジェクト・ファイルは作成せず、戻りコード 4 で終了したことを示します。値 *ccccccc* は、HDCD ユーティリティーにパラメーターとして渡されたディクショナリー名です。

システムの処置: HDCD ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されました。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DFS1172E *ccccccc* **HDC DICTIONARY NOT
CREATED, BECAUSE SOURCE DATA
DOES NOT MATCH EXPANDED
DATA. THE FIRST 10 MISMATCHED
RECORDS WILL BE PRINTED
BEFORE COMPRESSION STATISTICS**

説明: このメッセージは、HDCD ユーティリティー・プログラムが不一致のソースと拡張データを検出していることを示します。ユーティリティー・プログラムは、ディクショナリー・オブジェクト・ファイルを作成せず、戻りコード 8 で終了しました。HDCD ユーティリティーにパラメーターとして渡されたディクショナリー名は、*ccccccc* で示されています。

システムの処置: HDCD ユーティリティーは終了し、戻りコード 8 が示されました。

オペレーターの応答: 処置は必要ありません。

システム・プログラマーの応答: DBA に連絡してください。

問題判別: ありません。

DFS1173W **HDC DICTIONARY NOT CREATED,
BECAUSE MVS CSRCMPSC SERVICE
IS NOT INSTALLED.**

説明: このメッセージは、z/OS 圧縮/展開サービス CSRCMPSC がインストールされていないことが、HDCD ユーティリティー・プログラムで検出されていることを示します。HDC ディクショナリーは作成できません。

システムの処置: HDCD ユーティリティーは終了しています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要に応じて、z/OS CSRCMPSC をインストールし、HDCD ユーティリティーを再実行してください。

問題判別: ありません。

DFS1174E **HDC DICTIONARY NOT CREATED,
BECAUSE MVS CSRCMPSC SERVICE
HAD A LOGIC ERROR.**

説明: このメッセージは、z/OS 圧縮/展開サービス (CSRCMPSC) マクロを使用している最中に、HDCD ユーティリティー・プログラムが論理エラーを検出したことを示しています。HDC ディクショナリーは作成されませんでした。

システムの処置: HDCD ユーティリティーは終了しています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS1175I **MADS I/O TIMING PROCESSING
ERROR FOR AREA *areaname*
DDN=*ddname* RC=*xx***

説明: IMS が MADS 入出力タイミング中にエラーを検出しました。理由コードで障害の原因が示されます。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

xx 理由コード:

X'10' MADS 入出力タイミングは、緊急時再始動の先までは続行されません。

システムの処置: ロング・ビジー ADS は、緊急時再始動時に停止されます。識別されているエリアは、エリアがブロック・レベルで共用されている場合は停止されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS1176E **THE *program* FAILED TO START BPE
LIMITED FUNCTION SERVICES,
RC=*xxxxxxx***

説明: BPE 限定機能サービス (LFS) を開始しようとして、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

プログラム

次のいずれかの値です。

RDDS EXTRACTION UTILITY
GLOBAL ONLINE CHANGE UTILITY
DFS3UCD0

xxxxxxx


BPESTART FUNC=STARTLFS 機能からの戻りコード

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RC=56 で異常終了します。

プログラマーの応答: BPE LFS を開始できなかった理由について詳しくは、BPE0042E メッセージを参照してください。

モジュール: DFSURDD0、DFSUOLC0

関連情報:

 BPE0042E (メッセージおよびコード)

DFS1177E THE RDDS EXTRACTION UTILITY FAILED TO OPEN THE *ddname* DATA SET, OPEN RC=*rc*

説明: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、必要なデータ・セットの 1 つをオープンできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname オープン・エラーを検出したデータ・セット。
ddname に可能な値は、SYSPRINT、SYSOUT
および RDDSdsn です。

rc オープン要求からの戻りコード。

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、次のいずれかの戻りコードで異常終了します。

- RC=8 - SYSPRINT データ・セットをオープンしようとしてエラーが発生しました
- RC=12 - SYSOUT データ・セットをオープンしようとしてエラーが発生しました
- RC=40 - RDDS データ・セットをオープンしようとしてエラーが発生しました

プログラマーの応答: データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1178I THE RDDS EXTRACTION UTILITY IS PROCESSING RDDS *dsname*

説明: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RDDSdsn DD ステートメントで定義されたリソース定義データ・セット (RDDS) の読み取り中です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname 読み取り中のリソース定義データ・セットの名前

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSURDD0

DFS1179E THE RDDS EXTRACTION UTILITY FAILED TO OBTAIN A 64-BIT BUFFER, SIZE=*strgsize*, IARV64 RC=*rc*

説明: 内部バッファ用に 64 ビット・ストレージを取得しようとして、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

strgsize 要求されたストレージの量

rc 64 ビット仮想記憶域割り振り (IARV64) 要求から戻された戻りコード

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RC=28 で異常終了します。

プログラマーの応答: EXEC または JOB ステートメントのいずれかの MEMLIMIT パラメーターが 12 GB 以上に設定されていることを確認してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1180E THE RDDS EXTRACTION UTILITY FAILED TO OBTAIN STORAGE, SIZE=*strgsize*, GETMAIN RC=*rc*

説明: ストレージの取得を試みている最中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

strgsize 要求されたストレージの量

rc MVS GETMAIN 要求から戻された戻りコード

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RC=24 で異常終了します。

プログラマーの応答: MVS GETMAIN 要求からの戻りコードを調べて、障害の原因を判別してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1181E AN ERROR OCCURRED TRYING TO READ THE SYSIN DATA SET, BPERDPDS RC=*rc*

説明: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、SYSIN データ・セット内の入力パラメーターの読み取りを試行中にエラーを検出しました。BPERDPDS マクロは SYSIN データ・セットを開き、読み取ります。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


rc BPERDPDS 要求から戻された戻りコード

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RC=16 で異常終了します。

プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントが正しく定義されていることを確認してください。

モジュール: DFSURDD0

関連資料:

 BPERDPDS コード (メッセージおよびコード)

DFS1182E AN ERROR OCCURRED TRYING TO PARSE THE SYSIN DATA, BPEPARSE RC=*rc*

説明: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、SYSIN データ・セット内のデータの構文解析を試行中にエラーを検出しました。BPEPARSE マクロは SYSIN データを構文解析します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc BPEPARSE 要求から戻された戻りコード

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RC=20 で異常終了します。

プログラマーの応答: SYSIN データ・セット内で OUTPUT パラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1183E AN ERROR OCCURRED TRYING TO PROCESS THE RDDSDSN DD STATEMENT, RSNTTEXT=*rsntext*

説明: RDDSDSN DD ステートメントの処理を試みているときに、エラーが発生しました。*rsntext* は、エラーの理由を示しています。*rsntext* に可能な値は次のとおりです。

**RDJFCB REQUEST FAILED TO RETURN DSNAME
MULTIPLE RDDS DATA SETS DEFINED**

システムの処置: DFSURDD0 は、次のいずれかの戻りコードで異常終了します。

- RC=32 - RDJFCB 要求は、RDDS データ・セットの DS 名を戻すことができませんでした
- RC=36 - RDDSDSN DD ステートメントに対して、複数のデータ・セットが指定されました

プログラマーの応答: RDDSDSN DD ステートメントが正しくコーディングされること、および連結データ・セットを含んでいないことを確認してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1184E AN ERROR OCCURRED TRYING TO READ THE RDDS, GET RC=*rc*

説明: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RDDSDSN DD ステートメントで指定された RDDS の読み取りを試行中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc GET マクロからの戻りコード

システムの処置: RDDS 抽出ユーティリティ (DFSURDD0) は、RC=44 で異常終了します。

プログラマーの応答: RDDS が置かれている装置を調べます。永続装置エラーが検出されない場合、ユーティリティを再度実行してください。

モジュール: DFSURDD0

DFS1185E THE RDDS DOES NOT CONTAIN VALID DATA, RSNTTEXT=*rsntext*

説明: RDDSDSN DD ステートメントで指定される RDDS が、RDDS でないか、正常なエクスポートからのデータを含んでいません。メッセージ・テキストの *rsntext* は、エラーの理由を示しています。*rsntext* に可能な値は次のとおりです。

**DATA SET IS NOT AN RDDS
DATA IS NOT FROM A SUCCESSFUL EXPORT**

システムの処置: DFSURDD0 は、次のいずれかの戻りコードで異常終了します。

- RC=48 - RDDSDSN DD ステートメントで指定されたデータ・セットが RDDS ではありません
- RC=52 - RDDSDSN DD ステートメントで指定された RDDS に、正常なエクスポートからのデータが入っていません

プログラマーの応答: 有効なデータを含む RDDS を指すように、RDDSDSN DD ステートメントを更新してください。

モジュール: DFSURDD0

**DFS1186W THERE ARE NO TRANSACTIONS
DEFINED FOR APPLICATION
applname**

説明: アプリケーションに対して定義されているトランザクションがありません。アプリケーションが BMP タイプの領域で実行されず、そのアプリケーションが IFP でない場合、アプリケーションをスケジュールするには、アプリケーションに対してトランザクションが定義されていなければなりません。メッセージ・テキスト内の *applname* は、トランザクションが定義されていないアプリケーションの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。完了後、DFSURDD0 は戻りコード 4 で戻ります。

プログラマーの応答: RDDS 内のデータが壊れている可能性があります。アプリケーションにトランザクションを定義する必要がある場合、正常なエクスポートからのデータを含む RDDS に対して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSURDD0

**DFS1187W THERE ARE NO ROUTE CODES
DEFINED FOR FAST PATH
EXCLUSIVE APPLICATION applname**

説明: 高速機能専用アプリケーションに対して RDDS で定義されている宛先コードがありません。*applname* は、宛先コードが定義されていないアプリケーションの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。完了後、DFSURDD0 は戻りコード 4 で戻ります。

プログラマーの応答: RDDS 内のデータが壊れている可能性があります。正常なエクスポートからのデータを含む RDDS に対して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSURDD0

**DFS1188E HALDB yyyy CALL FAILED RC=cccc
RS=ssss**

説明: HALDB の処理中に、HALDB の 1 つ以上の区画を初期設定するための呼び出しが失敗しました。異常終了 0881 が発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

yyyy HALDB 呼び出し。次のいずれかの場合があります。

- PINT - HALDB の 1 つ以上の区画を初期設定するための呼び出しが失敗しました

- UNLD - HALDB のすべての X'FF' キーを挿入する呼び出しが失敗しました

cccc 戻りコード。次のいずれかです。

- 0004 - 使用不可のデータが検出されました
- 0008 - 環境エラーが検出されました
- 0012 - 論理エラーが発生しました
- 0016 - 疑似異常終了がすでに設定されました

ssss 理由コード。これらのコードについては、メッセージ DFS0832I を参照してください。

システムの処置: 現行のアプリケーションが異常終了 0881 で終了します。

ユーザーの処置: エラーの原因については、この HALDB の区画に関連した直前のエラー・メッセージを探してください。このメッセージ内の戻りコードと理由コードを使用して、問題を訂正してください。

DBRC=Y を指定して IMS カタログをロードしているときにメッセージ DFS1188E HALDB PINT CALL FAILED RC=0004 RS=4026 を受け取った場合、IMS カタログ・データベースが RECON データ・セット内に登録されているにもかかわらず、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに UNREGCATLG= パラメーターが指定されているかどうかを確認してください。この問題を修正するには、UNREGCATLG= パラメーターを削除するか、DBRC=N を指定してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、17a-f、35、40

関連情報:

DFS0832I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1189I INCONSISTENT LOCAL CONTROL
BLOCKS USED FOR RM UPDATE**

説明: Resource Manager (RM) 更新で、呼び出しで渡された所有者名と異なる所有者制御ブロック名を持つ LTERM が検出されました。この状態は、RM にあるものと一致しないローカル・ブロックのセットが原因で生じることがあります。通常、この環境でのローカル・ブロックは状況を持たず、次の単純チェックポイントで削除されます。失敗したコマンドは、ローカル・ブロックが削除された後に機能するはずです。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 2、3 分待ってから、コマンドを再試行してください。

モジュール: DFSIC450

**DFS1190I REGION *nnnn* NOT WAITING ON
*yyyyyyyyy xxxxxxxx***

説明: /PSTOP AOITOKEN コマンドまたは /PSTOP REGION SYNC コマンドが入力されましたが、領域が、指定された AOI トークンまたは ICAL 応答を待機していませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn コマンドで入力された領域番号。

yyyyyyyyy

AOITOKEN または SYNC のいずれかです。AOITOKEN は、後に続く名前が AOI トークン名であることを意味します。SYNC は、後に続く名前が TPIPE 名 (同期コールアウト要求の場合) またはトランザクション名 (同期プログラム間通信要求の場合) であることを意味します。

xxxxxxx

コマンドで入力された AOI トークン名、TPIPE 名、またはトランザクション名。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: /PSTOP REGION コマンドで、領域番号、AOI トークン名、または TPIPE 名が誤って指定されました。正しい値でコマンドを再入力してください。

yyyyyyyyy が AOITOKEN である場合、/DISPLAY ACTIVE コマンドを使用して、領域が待ちオプションを指定した GMSG 呼び出しを発行し、メッセージを待っているか検証できます。/DISPLAY AOITOKEN コマンドを使用して、待ち領域に関連している AOI トークンを判別できます。

yyyyyyyyy が SYNTPIPE である場合、/DISPLAY ACTIVE コマンドを使用して、領域が ICAL 呼び出しを発行し、同期コールアウト応答を待っているか検証できます。領域が同期コールアウト応答を待っている (WAIT-CALLOUT) 場合、表示領域継続行に TPIPE 名が表示されます。

モジュール: DFSSTOPO

**DFS1191I AOITOKEN KEYWORD PARAMETER
NOT FOUND**

説明: /DEQUEUE AOITOKEN コマンドが入力されましたが、AOITOKEN キーワードで指定されたパラメーターが検出されなかったか、または誤りでした。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: AOI トークン名の指定に誤りがあった場合は、正しい名前を使用してコマンドを再入力

してください。/DISPLAY AOITOKEN を使用して、デキューできるメッセージがある AOI トークンを検出できます。

**DFS1192I NO MESSAGES TO DEQUEUE ON
AOITOKEN PARAMETER SPECIFIED**

説明: /DEQUEUE AOITOKEN コマンドが入力されましたが、示されている AOI トークンにデキューされるメッセージがありませんでした。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: AOITOKEN 名の指定に誤りがあった場合は、正しいコマンド名を使用してコマンドを再入力してください。/DISPLAY AOITOKEN を使用して、デキューできるメッセージがある AOI トークンを検出できます。

**DFS1193I *cccc* CMD FAILED FOR REGION
*nnnnn tttt xxxxxxxx ssssssss RC=rrrrrrrr***

説明: /PSTOP または /STOP コマンドが処理されたとき、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc PSTOP または STOP のいずれか。

nnnnn コマンドで入力された領域番号。

tttt AOIT、TRAN、または SYNC。AOIT は、後に続く名前が AOI トークン名であることを意味します。TRAN は、後に続く名前がトランザクション名であることを意味します。SYNC は、後に続く名前が TPIPE 名であることを意味します。

xxxxxxx

コマンドに入力された AOI トークン名、トランザクション名、または TPIPE 名。

ssssssss コマンドの処理中に失敗したサービス。

rrrrrrrr 失敗したサービス要求からの戻りコード。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: サービス障害は、一時的な問題である可能性があります。コマンドの再入力を試みてください。条件が引き続き生じる場合は、内部 IMS システム・エラーが存在する可能性があります。

問題判別: 1、6、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1194I LOGGING TO SECONDARY
MASTER ERROR - CODE = x**

説明: IMS は、メッセージまたはコマンド・セグメントを 2 次マスター端末に対してログギングしているとき、次のいずれかのエラーを検出しました。

コード 意味

- 1 要求を処理しているキュー・マネージャーがゼロ以外のコードを戻しました。
- 2 CIOP プールに対するストレージの要求に応じられませんでした。
- 3 2 次マスター端末のログギングしている最中に、内部エラーが検出されました。
- 4 CBTS ラッチが、コマンド処理中、予期しないブロック・タイプに関して保留されました。
- 5 HIOP に対する LSMB 制御ブロックに関するストレージの要求に応じられませんでした。

システムの処置: LSMO のラベルが付けられている 6701 トレース・レコードが、コード 5 が戻されるときを除いて、IMS ログに書き込まれます。すべての場合に、このメッセージまたはコマンド・セグメントに関して、2 次マスター端末へのログギングがさらに行われることはありません。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS1195I /ASSIGN FAILED. OWNERS IN
DIFFERENT IMSs**

説明: 割り当てられる送信元リソースは、宛先リソースと異なる IMS にあって、両方のリソースがそれぞれの IMS システムに所有されていました。このエラーは、IMS がシスプレックス環境で IMS Resource Manager を使用しているときにだけ発生する可能性があります。送信元リソースと宛先リソースは、次の条件の 1 つに合致しなければなりません。

- 送信元リソースと宛先リソースが同じ IMS システムにある。
- リソースの少なくとも 1 つは Resource Manager に認知されていて、IMS に所有されていない。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 両方のリソースが同じ IMS にあるか、またはリソースの少なくとも 1 つが Resource Manager に認知されていて、IMS に所有されていないことを確認してください。リソースの問題が解決されたら、/ASSIGN コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICL70

**DFS1196I /ASSIGN FAILED. SAVE KEYWORD
REQUIRED IF USER DOES NOT
EXIST WITH RM**

説明: この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部であり、宛先ユーザーが存在しない場合は、/ASSIGN コマンドがリジェクトされます。また、ユーザーが即時に削除され、割り当てが未完成なものになる可能性があります。/ASSIGN コマンドを SAVE キーワードとともに発行すれば、NOSAVE キーワードをもつ別の /ASSIGN コマンドが発行されるまで、割り当てはそのユーザーに対して持続します。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: SAVE キーワードをもつ /ASSIGN コマンドを再入してください。

モジュール: DFSICL70

**DFS1198I CONVERSATION UNUSABLE.
COMMAND/TRANSACTION INPUT
REJECTED**

説明: このエラーは次のいずれかの理由で起きました。

- IMS 会話を継続するために、会話型入力データが入力されました。そのコマンドが発行されたときの端末の状態によって、会話が継続できません。その状態は、最初の IMS が失敗したあと異なる IMS で会話が継続される場合は、一時的なものかもしれません。
- 実施されていた IMS 会話に対して /RELEASE コマンドが入力されました。そのコマンドが発行されたときの端末の状態によって、会話が継続できません。その状態は、最初の IMS が失敗したあと異なる IMS システムで会話が解放される場合は、一時的なものかもしれません。
- IMS 会話を継続するために、会話型入力データが入力されました。しかし、会話型トランザクションは存在しません。この状態は、IMS リソース・マネージャーを使用するシスプレックス環境で発生する可能性があります。引き続き IMS 会話中に端末がログオフするか、ユーザーがサインオフし、その後、トランザクションが適切に定義されていない別の IMS システムにログオンまたはサインオンする場合、会話は継続できません。また、会話型トランザクションがオンライン変更によって削除される場合も、会話は継続できません。

端末に関するこの種の問題は、IMS がシスプレックス環境で IMS Resource Manager を使用しているときにだけ発生します。

システムの処置: トランザクション入力または

/RELEASE コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 少し待ってから、入力を再入してください。この状態が継続する場合は、/EXIT コマンドを出して、端末をクリアし、会話を削除する必要があります。

モジュール: DFSCON00、DFSICLH0

**DFS1199I /CHANGE FAILED. SAVE KEYWORD
REQUIRED IF USER DOES NOT
EXIST WITH RM**

説明: この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部であり、/CHANGE USER AUTOLOGON コマンドに指定されたユーザーが存在しない場合は、SAVE キーワードが指定されていない限り、/CHANGE コマンドはリジェクトされます。SAVE キーワードは、NOSAVE キーワードが指定された別の /CHANGE コマンドがこのユーザーに使用されるまで、自動ログオン情報を持続することを指定します。SAVE キーワードがなく、その他の重要な状況もない場合は、ユーザーが即時に削除され、/CHANGE コマンドが無効になる可能性があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: SAVE キーワードを指定した /CHANGE コマンドを再入してください。

モジュール: DFSICL60

**DFS1200I MESSAGE/FORMAT SERVICE
UTILITY DATE=*mm/dd/yy*
TIME=*hh.mm.ss* PAGE *nnnn***

説明: これは、MFS ユーティリティ・プログラムからの SYSPRINT 出力に関するタイトルまたはヘッダ行を示します。

第 28 章 DFS メッセージ DFS1201I - DFS1250I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1201I UNABLE TO OPEN {SYSIN| SYSPUNCH|DCTIN|DEFLT5}

説明: SYSIN、SYSPUNCH、DCTIN、または DEFLT5 DD ステートメントの DCB が開けません。DD ステートメントの欠落が原因である可能性が最も大です。

システムの処置: MFS サービス・ユーティリティ処理は、欠落している SYSIN DD ステートメントから続行されます。データ・セットのいずれも開けないとき、MFS DCT ユーティリティが終了し、戻りコード 12 が示されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1202I UNABLE TO OPEN SYSPRINT

説明: SYSPRINT DD ステートメントの DCB が開けません。DD ステートメントの欠落が原因である可能性が最も大です。

システムの処置: MFS サービス・ユーティリティ処理が続行されます。MFS DCT ユーティリティは、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1203I STATEMENT LABEL IS TOO LONG.

説明: 制御ステートメント・ラベルの長さが 8 文字を超えました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1204I STATEMENT HAS NO OPERATOR.

説明: 演算子が含まれていないステートメントが検出されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入力ストリームにブランク・ステートメントがあることが、最大の原因と推定されます。

DFS1205I OPERATOR LENGTH OR POSITION ERROR.

説明: 演算子が 8 文字を超えているか、演算子終了文字が 71 列目にある制御ステートメントが検出されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1206I COLUMNS 1 THROUGH -15 ARE NOT BLANK ON CONTINUATION.

説明: 継続ステートメントの 1 から 15 桁目は、ブランクである必要があります。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1207I COL 16 BLANK WHERE CONTINUED OPERAND EXPECTED.

説明: 後続のステートメントに継続されるオペランドは、16 列目から再開する必要があります。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1208I STATEMENT HAS UNIDENTIFIABLE OPERATOR.

説明: 制御ステートメント演算子が無効です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1209I PROCESSING TERMINATED BY EOD ON SYSIN.

DFS1210I • DFS1218I

説明: 正常なユーティリティー終了が行われています。
システムの処置: ジョブまたはステップは正常に終了します。

DFS1210I ACTION RTN FOR STATEMENT HAS UNRESOLVED ADDRESS

説明: 有効なステートメント・タイプが検出されています。ただし、ステートメント・タイプに関する処理モジュールに、未解決のアドレス定数があります。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: すべての必須アクション・モジュールの正しいバインダー入力を確認してください。

問題判別: 13

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1211I 1ST POSITIONAL PARAMETER IS UNIDENTIFIABLE.

説明: 最初の定位置パラメーターにつづりの誤りがあると推定されます。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1212I STATEMENT HAS UNIDENTIFIABLE KEYWORD.

説明: この制御ステートメントに関して、無効のキーワードが検出されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1213I INTERNAL SCAN LOGIC ERROR, SNAP ID=127 TAKEN.

説明: 内部スキャン論理エラーが発生しました。スナップ・メモリー・ダンプが SYSSNAP DD ステートメントに取られています。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、13、24、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1214I POSITIONAL PARAMETER IS INVALID.

説明: 定位置パラメーターにつづりの誤りがあると推定されます。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1215I EXPECTED KEYWORD NOT RECEIVED.

説明: キーワードが予測されましたが、検出されませんでした。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1216I DELIMITER LENGTH ERROR.

説明: 区切り文字が予測された場所で、長さが 1 以外の項目が検出されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 必要な区切り文字を挿入し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1217I MISSING = AFTER KEYWORD.

説明: 等号がキーワードの後に必要です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: = を挿入し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1218I UNEXPECTED STATEMENT END ENCOUNTERED.

説明: 続きの情報が必要であったか、予測されていた場所で、制御ステートメント・オペランドが終了しました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: オペランドを完了し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1220I EXPECTED KEY PARAMETER NOT RECEIVED.

説明: パラメーターが受信されなかったキーワードが検出されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 望ましいパラメーターを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1221I MSG=,TBL= OR PDB= PARAMETER TOO LONG.

説明: MSG、TBL、または PDB パラメーターが 8 文字を超えています。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1222I MSG=, TBL= OR PDB= PARAMETER IS INVALID.

説明: MSG、TBL、PDB パラメーターのいずれかに無効文字があるか、TBL=ALL または PDB=ALL が SCRATCH 要求に対して指定されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: パラメーターに無効文字が含まれている場合は、パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。TBL=ALL または PDB=ALL が指定された場合は、スクラッチされる TBL または PDB 名にパラメーターを変更し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1223I FMT= PARAMETER IS INVALID.

説明: FMT= パラメーターが無効文字を含んでいるか、最大長 6 文字を超えています。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1224I KEYWORD PARAMETER DELIMITER IS INVALID.

説明: ブランクまたはコンマ以外の文字が、制御ステートメントのパラメーターの後に続いていました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 適切に区切り、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1225I DEV= PARAMETER IS INVALID.

説明: DEV= 指定が不明です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 適正な DEV= キーワードを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1226I DIV= PARAMETER IS INVALID.

説明: DIV= 指定が不明です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 適正な DIV= キーワードを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1227I MDL= PARAMETER IS INVALID.

説明: MDL= 指定が不明です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから再開します。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1228I MISSING RIGHT PAREN ')' ' IN SUBLIST.

説明: 右括弧の欠落がサブリストで発生しました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1229I MUTUALLY EXCLUSIVE FEAT=PARAMETERS AND/OR DEV=PARAMETERS.

説明: 矛盾するパラメーター仕様が指定されています。

DFS1230I • DFS1238

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 矛盾を除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1230I FEAT= PARAMETER IS INVALID.

説明: FEAT= 指定が不明です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1231I MUTUALLY EXCLUSIVE KEYWORD FOUND.

説明: 制御ステートメントの複数のキーワードが、一緒には使用できないものです。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 競合を除去し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1232I FORMAT LIBRARY CONTAINS NO MEMBERS.

説明: アクティブ・フォーマット・ライブラリーにメンバーが含まれていません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1233I FORMAT LIBRARY FETCH ERROR ON \$\$IMSDIR.

説明: アクティブ・フォーマット・ライブラリーから特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR への読み取りを試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入出力エラー条件の原因を判別した後で、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1234I REQUESTED BLOCK DOES NOT EXIST IN \$\$IMSDIR.

説明: FMT/MSG 記述子に関する削除要求が正常に行われませんでした。要求された記述子が \$\$IMSDIR にありません。

システムの処置: 削除した場合は、処理は次のステートメントから続行されます。スクラッチの場合は、スクラッチ処理から続行してください。

プログラマーの応答: 削除した場合は、正しい記述子を指定してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS1235I REQUEST IGNORED, \$\$IMSDIR IS FULL.

説明: 特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR には最大許容数のエントリーが入っているため、INDEX 要求は無視されました。

システムの処置: 処理は次のアクションから続行されません。

プログラマーの応答: 該当する場合は、\$\$IMSDIR エントリーを削除してから、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1236I REQUEST IGNORED, \$\$IMSDIR IS EMPTY.

説明: 特殊 INDEX ディレクトリー \$\$IMSDIR にエントリーが入っていません。要求されたアクションは実行できませんでした。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

DFS1237I REQUESTED MSG DOES NOT EXIST IN FORMAT LIBRARY.

説明: MSG 記述子に関して要求されたアクションには、記述子の存在が必要です。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ名を再度指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1238 UNABLE TO COMPLETE INDEX ALL REQUEST

説明: フォーマット・ライブラリー上のメンバー数と既存の特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR にあるエントリー数の間に不一致があるため、全索引付け要求は完了しませんでした。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: /DELETE ALL を入力して、既存の特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR を削除してから、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1239I ERROR OCCURRED ON WRITE FOR
\$\$IMSDIR**

説明: MFS 言語ユーティリティーの終了処理中に、INDEX ディレクトリーの最終バージョンをアクティブ・フォーマット・ライブラリーに WRITE および STOW しようと試みているとき、エラーが発生しました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別した後で、入出力エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1240I INVALID COMMENT
DELIMITER-POSSIBLE MISPUNCHED
STATEMENT.**

説明: 制御ステートメント上のコメントは、2 文字のシーケンス /* から始める必要があります。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1241I END OF LIST FUNCTION.

説明: LIST 機能が正常終了しました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

**DFS1242I INSUFFICIENT STORAGE
AVAILABLE FOR INDEX.**

説明: 実ストレージ・リソースが不十分なため、特殊索引ディレクトリー \$\$IMSDIR が処理のためにストレージにフェッチできません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 操作に合わせて領域サイズを大きくするか、または定位置パラメーター INDEX を指定するか、あるいはその両方を行ってください。

**DFS1243I INTERNAL FETCH ERROR, SNAP
ID=126 TAKEN.**

説明: 内部論理エラーがブロック・サービス・モジュール DFSUTSQ0 で発生しています。スナップ・メモリー・ダンプが SYSSNAP データ・セットに対して取られています。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、13、24、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1244I NO OTHER KEYWORDS MAY BE
SPECIFIED WITH FMT= WHEN
ACTION IS AGAINST THE REFERAL
LIBRARY.**

説明: REFERAL ライブラリーに対するアクションを実行中であるときは、FMT= と一緒に他のキーワードは指定できません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 余分な DEV、DIV、MDL、または FEAT の各キーワードを削除し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1245I REQUIRED KEYWORD NOT
PRESENT.**

説明: FMT キーワードを指定しないで、SCRATCH FORMAT は要求できません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: フォーマット名または ALL を指定してください。訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1246I INTERNAL INDEX/DELETE LOGIC
ERROR. SNAP ID=125 TAKEN.**

説明: 内部論理エラーが、INDEX/DELETE アクション・モジュール DFSUTSG0 の DIRMAINT サブルーチンで発生しています。スナップ・メモリー・ダンプが SYSSNAP DD ステートメント・データ・セットに対して取られています。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、13、24、36

関連情報:

**DFS1247I MEMBER= name RECEIVED RETURN
CODE= nnnn FROM STOW WITH
DELETE OPERATION.**

説明: 名前が *name* のメンバーに関して要求されたスクラッチ・アクションが、ホスト・システム STOW 機能から戻りコード *nnnn* を受信しました。*nnnn* は、受信された 16 進戻りコードです。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 戻された *nnnn* 値の解釈については、ホスト・システムの STOW 機能の戻りコードを参照してください。

関連資料:

 z/OS: STOW の完了コード

**DFS1248I REQUESTED FMT DOES NOT EXIST
IN FORMAT LIBRARY.**

説明: フォーマット (FMT) 制御ブロック記述子に関して要求されたアクションは、正常に行われていません。要求された記述子が FORMAT ライブラリーにありません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 正しいフォーマット名を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1249I REQUESTED MSG DOES NOT EXIST
IN REFERAL LIBRARY.**

説明: REFERAL ライブラリー・メンバーに関する SCRATCH 要求が、次のいずれかの理由で実行されませんでした。

- メンバーが MFS ユーティリティー・プログラム DFSUTSO0 にとって不明である。
- スクラッチされるメンバーが、実際は FMT または TBL 記述である。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 正しいメッセージ名を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1250I REQUESTED FMT DOES NOT EXIST
IN REFERAL LIBRARY.**

説明: REFERAL ライブラリー・メンバーに関する SCRATCH 要求が、次のいずれかの理由で正常に行われませんでした。

- メンバーが MFS ユーティリティー・プログラム DFSUTSO0 にとって不明である。
- スクラッチされるメンバーが、実際は MSG または TBL 記述である。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 正しいフォーマット名を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

第 29 章 DFS メッセージ DFS1251I - DFS1300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1251I REQUESTED TBL DOES NOT EXIST IN REFERAL LIB.

説明: REFERAL ライブラリー・メンバーに関するスクラッチ要求が、次のいずれかの理由で正常に行われませんでした。

- メンバーが MFS ユーティリティーにとって不明である。
- スクラッチされるメンバーが、実際は FMT または MSG 記述である。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: REFERAL リストをチェックしてエラーを訂正し、TBL を再度指定してから、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1252I I/O ERROR ON REFERAL, SNAP ID=124 TAKEN.

説明: 入出力エラーが REFERAL ライブラリーで発生しています。スナップ・ダンプが SYSSNAP DD データ・セットに対して取られています。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別し、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1253I LIBRARY CONTENTS ARE INVALID, SNAP ID=124 TAKEN.

説明: REFERAL ライブラリー PDS の内容に誤りがあります。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

問題判別: ソース、障害が起こっている実行からのリスト、REFERAL のリスト PDS

DFS1254I REQUESTED PDB DOES NOT EXIST IN REFERAL LIBRARY

説明: REFERAL ライブラリーの区画記述子ブロック (PDB) メンバーに関する SCRATCH 要求は、そのメンバーが検出されなかったため、実行されませんでした。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: PDB 名を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1255I THE PARAMETER {DCTSUF=|DSCTSUF=|DSCMSUF=|DEVCHAR=}x SPECIFIED IN THE EXEC STATEMENT IS {WRONG LENGTH|INVALID|DUPLICATE}

説明: 装置特性テーブルまたは記述子メンバー名 (DFSUDT0x、DFSDSCTx、または DFSDSCMx) を完成するための付加として、EXEC ステートメントで指定されている接尾部 'x' に、有効なメンバー名の生成を許さない文字が含まれています。

システムの処置: 実行を継続します。装置特性テーブル・メンバー名は、後続の MFS サービス・ユーティリティー制御ステートメントで特に指定されない限り、デフォルトで DFSUDT00 になります。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーが終了し、戻りコード 4 が示されます。記述子メンバー名は、デフォルトで DFSDSCT0 または DFSDSCM0 になります。

プログラマーの応答: 生成された出力に不満がある場合は、EXEC ステートメント・パラメーター・フィールドで有効な接尾部を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1256I THE PARAMETER DEVCHAR=x SPECIFIED IN THE CONTROL STATEMENT IS {WRONG LENGTH|INVALID}

説明: 装置特性テーブル・メンバー名 (DFSUDT0x) を完成するための付加として、制御ステートメントで指定されている接尾部「x」に、有効なメンバー名の生成を許可しない文字が含まれていました。

システムの処置: この制御ステートメントは無視され、実行は後に続いている制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントに正しい接尾部を入力し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1257I BLDL ERROR, RETURN CODE=xx

説明: ゼロ以外の戻りコードが装置特性テーブル・メンバーに関する BLDL から戻されました。メンバー名が DFSUDT0x で、x は、MFS 装置特性テーブル・ユーティリティに関する DCTSUF= キーワード、および MFS サービス・ユーティリティに関する DEVCHAR= キーワードと共に指定されます。デフォルトの名前は DFSUDT00 です。

システムの処置: MFS サービス・ユーティリティの場合、この制御ステートメントは無視され、実行は後に続いている制御ステートメントから続行されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティは、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントまたは EXEC ステートメントのキーワードに正しい接尾部を入力し、ジョブを再実行依頼してください。

関連資料:

 z/OS: BLDL の完了コード

DFS1258I SYMBOLIC NAME 3270-Ann IS INVALID

説明: DEV= パラメーターで指定されているシンボル名 3270-Ann が無効です。3270-A に付加されている番号 *nm* が「1 から 15」の範囲内になかったか、*nm* の長さが 1 より小、または 2 より大でした。

システムの処置: この制御ステートメントは無視され、実行は後に続いている制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントでの指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1259I nnnn IS AN INVALID KEY NUMBER

説明: メッセージ生成プログラム・モジュール DFSUTSC0 が、キーが *nnnn* のメッセージを生成する要求を受信しています。要求されたメッセージは、既知のメッセージ・テーブルには存在しません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 問題判別後、障害の原因になっているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、13、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1260I UNABLE TO OPEN FORMAT LIBRARY

説明: FORMAT DD ステートメントの DCB の 1 つが開けませんでした。

システムの処置: 処理は次のユーティリティ制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: FORMAT に関する DD ステートメントが組み込まれ、正しく指定されているか確認してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS1261I UNABLE TO OPEN REFERAL LIBRARY

説明: REFIN DD ステートメントの DCB の 1 つが開けませんでした。

システムの処置: 処理は次のユーティリティ制御ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: REFIN に関する DD ステートメントが組み込まれ、正しく指定されているか確認してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS1262I MESSAGE FORMAT SERVICE DCT UTILITY DATE=mm/dd/yyTIME=hh.mm.ss PAGE nnnn

説明: このメッセージは、MFS 装置特性テーブル (DCT) ユーティリティ・プログラムからの SYSPRINT 出力データ・セットのタイトルまたはヘッダ行です。このメッセージが書き込まれるのは、エラーがユーティリティの最初のステップで検出されたときのみです。このメッセージの後に、エラー・メッセージが続きます。

DFS1263X FIND FAILED FOR DESCRIPTOR MEMBER xxxxxxxx RETURN CODE=X'yyyyyyyy'

説明: PROCLIB データ・セットからの記述子メンバー xxxxxxxx に関して、FIND が失敗しました。メンバー名は、DFSDSCMa (DSCMSUF= パラメーターで a が指定されている場合) と、DFSDSCTb (DSCTSUF= パラメーター b が指定されている場合) のいずれかです。

システムの処置: MFS 装置特性テーブル・ユーティリティは、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答: MFS 装置特性テーブル・ユーティリティが指定された記述子メンバーを、DD 名が PROCLIB のデータ・セットで見つけられなかった理由を判別してください。

DFS1264W DEVCHAR SUFFIX *xx* TRUNCATED TO FIRST CHARACTER

説明: EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターで複数の文字が指定されました。メッセージに表示されるのは、指定された最初の 2 文字のみです。

システムの処置: 先頭文字のみが、装置特性テーブル名の 1 文字接尾部として使用されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティが終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに関して、有効な単一英数字接尾部を指定してください。それから、ジョブを再実行してください。


DFS1265I IMS CONNECT CALL TO THE MVS WORKLOAD MANAGER FAILED, RETURN CODE= *nn*, REASON CODE=*nnnn*.

説明: IMS が接続を試みたとき、z/OS ワークロード管理サービスがゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置: IMS は初期設定を続けますが、z/OS ワークロード管理サービスには参加しません。

プログラマーの応答: 戻りコードおよび理由コードの説明については、z/OS の資料を参照してください。

関連資料:

 z/OS: ワークロード管理サービスの概要

 z/OS: IWMCONN の戻りコードおよび理由コード

DFS1266 INCORRECT SPECIFICATION OF LU NAME

説明: コマンドでのネットワーク修飾 LU 名の指定に誤りがあります。ネットワーク修飾 LU 名は、最大長が 17 バイトで、8 バイトを最大とするネットワーク ID と、8 バイトを最大とする LU 名をピリオドで区切り、それを単一引用符で囲んだ構成で、例えば、'networkid.luname' のようになります。ネットワーク修飾 LU 名は、コマンドに入力するときは、単一引用符で囲む必要があり、空白を含むことはできません。

コマンドが、次のいずれかの理由でリジェクトされました。

- ネットワーク ID と LU 名の間にピリオドが欠落している。
- ネットワーク ID または LU 名のフィールドの長さが 8 バイトより大きい。
- 右単一引用符が欠落している。

- 単一引用符間のどこかに空白がある。
- ネットワーク ID と LU 名のどちらかのフィールドにパラメーター ALL が指定されていた。
- ネットワーク修飾 LU 名に無効文字が検出された。
-

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: ネットワーク修飾 LU 名を正しいフォーマットで使用して、コマンドを再入力してください。

DFS1267 PARAMETER CONTAINS INVALID CHARACTERS

説明: コマンドで指定されたパラメーターに無効文字が含まれています。パラメーターに使用できる有効な文字としては、英数字、つまり 'A' から 'Z'、'a' から 'z'、'0' から '9'、3 つの国別文字、つまり '#', '\$', '@'、および 2 つの総称文字、つまり '%' と '*' があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効な文字を使用して、コマンドを再入力してください。

DFS1268 NO TPIPES ASSOCIATED WITH TMEMBER

説明: コマンドでは TMEMBER、TPIPE、および ALL キーワードを指定しましたが、指定されているトランザクションに関連した OTMA T パイプがありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

モジュール: DFSYC490、DFSYPDPO、DFSICLN3

DFS1269E SEVERE IMS INTERNAL FAILURE, REASON CODE=*xyyy*

説明: IMS に内部エラーが検出されました。理由コード *xyyy* のリストについては、以下の表を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx エラーが検出されたモジュールを識別する 10 進数

yy 内部理由コード

yy が 98 または 99 である場合、エラーはそのモジュールでも発生する可能性があります。例えば、REASON CODE=4698 は、モジュール DFSYRST0 で発生し、REASON CODE=2898 は、モジュール DFSYGRX0 で発生します。

DFS1269E

表 10. DFS1269E 理由コード

xx	yy	Module	説明
xx	98	DFSPPOOL	DFSYMAGT マクロによる変数に関するストレージの取得の失敗
xx	99	DFSPPOOL	DFSYMARL マクロによる変数に関するストレージの解放の失敗
16	01	DFSYSCP0	Release_Prefix_and_Syn_Blocks - 接頭部バッファの解放エラー
16	02	DFSYSCP0	Release_Prefix_and_Syn_Blocks - LUMP ストレージの解放エラー
16	03	DFSYSCP0	Rel_Sync_AWE_Stg - Sync AWE ストレージの解放エラー
16	04	DFSYSCP0	Delete_Sync_AWE_from_YQAB - Sync AWE がチェーン内にな
16	05	DFSYSCP0	Delete_Sync_AWE_from_YQAB - コールアウト・チェーンからの AWE 削除エラー
16	06	DFSYSCP0	Process_Request_Data - LUMP ストレージの解放エラー
19		DFSYLUS0	OTMA FAST SERVICES
20		DFSYSTO0	OTMA STORAGE MGR
21		DFSYRR00	OTMA DEST RE-ROUTE SETUP ROUTINE
22		DFSYIO00	OTMA INPUT/OUTPUT SETUP ROUTINE
23		DFSYCM20	OTMA COMMAND PROCESSOR
24		DFSYDP40	OTMA /DIS TRAN または QUERY TRAN
25		DFSYCLH0	OTMA /TRA SERVICES
26		DFSYRAC0	OTMA SECURITY
27		DFSYMGX0	OTMA XCF MESSAGE EXIT
28		DFSYGRX0	OTMA XCF GROUP EXIT
29		DFSYXMO0	OTMA ATTACH MEMBER OIM TCB
30		DFSYC480	OTMA STA/STO(JOIN/LEAVE) XFACE
31	01	DFSYFND0	FIND_LEGACY - DFSFNDST からの不明の戻りコード
31	02	DFSYFND0	GET_PRPRIX - DFSPPOOL 指定された IMS/VS ストレージ・プールからのバッファの取得不能
31	03	DFSYFND0	PROCESS_YPRX - DFSYPRX0、ユーザー出口ルーチンがまだ定義されていないか、BCB からのインターフェース・ブロックの取得不能。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
31	04	DFSYFND0	PROCESS_YDRU - DFSYDRUX、ユーザー出口ルーチンがまだ定義されていないか、BCB からのインターフェース・ブロックの取得不能
31	05	DFSYFND0	BUILD_OUPUT - ユーザー接頭部長さがエラー
32	01	DFSYFD00	入力 PARM が誤り - YDSTTY
32	02	DFSYFD00	TPIPE の入力 PARM が誤り - YDSTFUNC
32	03	DFSYFD00	YQAB の入力 PARM が誤り - YDSTFUNC
32	04	DFSYFD00	TTIB の BAD INPUT PARM - YDSTFUNC
32	05	DFSYFD00	BUILD_TPIPE - DFSBCB GET が失敗した
32	06	DFSYFD00	BUILD_TPIPE - TPIPE DFSCIR ITASK が失敗した
32	07	DFSYFD00	DELETE_TPIPE - TPIPE DFSCIR DTASK が失敗した
32	08	DFSYFD00	DELETE_TPIPE - DFSBCB RELEASE が失敗した
32	09	DFSYFD00	RELEASE_YTIB - YTIB が検出されなかった
32	10	DFSYFD00	RTIB の入力パラメーターが誤り - YDSTFUNC
32	11	DFSYFD00	FIND_YTIB - YRTIB 作成が失敗した
32	12	DFSYFD00	FIND_YTIB - YTIB ストレージ・プール取得が失敗した
32	13	DFSYFD00	DELETE_TPIPE - DFSBCB REL TPIPE の照会アンカー・ブロック (QAB) が失敗した
32	14	DFSYFD00	Release_Msceb - ユーザー接頭部の解放が失敗した
32	15	DFSYFD00	Release_Msceb - ユーザー接頭部の解放が失敗した
32	16	DFSYFD00	Release_Msceb - MSCEB の解放が失敗した
32	17	DFSYFD00	Delete_Tpipe - QAB 保留キュー ITASK の解放が失敗した
32	18	DFSYFD00	Delete_Tpipe - 保留キュー QAB ストレージの解放が失敗した
32	19	DFSYFD00	Delete_Tpipe - QAB ITASK の解放が失敗した
32	20	DFSYFD00	Find_Tpipe - 保留キューの解放が失敗した
32	21	DFSYFD00	Find_Tpipe - ITASK の解放が失敗した

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
32	22	DFSYFD00	Move_Ytib_Chain - YTIB ストレージの解放が失敗した
32	23	DFSYFD00	Move_Ytib_Chain - YTIB ITASK の削除が失敗した
32	25	DFSYFD00	BUILD_YQAB - YQAB 作成が失敗した
32	26	DFSYFD00	DFSYPSI0 用の DYNP ストレージの取得に失敗した。
32	27	DFSYFD00	DFSYPSI0 用の DYNP ストレージの解放に失敗した。
33		DFSYFD10	OTMA CONTROL BLOCK PROCESSOR
34	23	DFSYMOM0	NOTIFY_ONE_MEMBER - DFSBCB 取得が失敗した
34	24	DFSYMOM0	PROCESS_AWES - 無効の AWOFUNC 機能が要求された
34	25	DFSYMOM0	CHECK_SECURITY - 無効のセキュリティ
34	26	DFSYMOM0	CHECK_SECURITY - RACHECK システムが失敗した
34	27	DFSYMOM0	CHECK_SECURITY - RACINIT が失敗した
34	30	DFSYMOM0	Do_oic_notify - Get Unique 通知でエラー
34	31	DFSYMOM0	Do_oic_notify - FINDDEST 通知でエラー
34	32	DFSYMOM0	DRU 出口のロードが失敗した
35	03	DFSYMEM0	Check_Security - Resume Tpipe RACINIT が失敗した
35	04	DFSYMEM0	Check_Security - Resume Tpipe は許可されていない
35	24	DFSYMEM0	DO_MEM_PHASE3 - OTMA はフェーズ 3 でのシャットダウンの準備ができていない
35	25	DFSYMEM0	ARE_QAB_READY - All QAB はシャットダウンの準備ができていない
35	26	DFSYMEM0	ARE_TIBS_READY - すべての TIB がシャットダウンの準備ができていない
35	27	DFSYMEM0	PERFORM_ON_TIB - TIB のポスト不能
35	28	DFSYMEM0	PERFORM_ON_QAB - 照会アンカー・ブロック (QAB) のポスト不能
35	29	DFSYMEM0	PROCESS_AWES - 無効の AWOFUNC 機能が要求された
35	30	DFSYMEM0	FREE_AWE - サポートされない AWE タイプ

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
35	31	DFSYMEM0	Activate_Resume_Tpipe - システムは照会アンカー・ブロック (QAB) をポストできなかった
35	32	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - システムは QAB をスーパーメンバーに対してポストできなかった
35	33	DFSYMEM0	OTMA は、RESUME TPIPE 呼び出しの T パイプを作成または検出できなかった。この問題は、次のいずれかが原因である。 <ul style="list-style-type: none"> 入力された T パイプ名が正しくないため、OTMA はそれを使用して T パイプを作成できない。 OTMA は、RESUME TPIPE 呼び出しの T パイプを作成するためのストレージを使い尽くした。
35	34	DFSYMEM0	RelStgBuf - OTMA は、DL/ICAL 呼び出しに対する応答メッセージのストレージを解放することに失敗した
35	35	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - 無効な通信回線ブロック (CLB) ポインター
35	36	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_MHQUE - 無効な通信回線ブロック (CLB) ポインター
35	41	DFSYMEM0	Are_TIBs_Ready - トランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) のポスト不能
35	42	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - 照会アンカー・ブロック (QAB) のポスト不能
35	43	DFSYMEM0	Are_TIBs_Ready - QAB のポスト不能
35	44	DFSYMEM0	Do_mem_rep_resync - QAB のポスト不能
35	45	DFSYMEM0	Do_mem_rep_resync - QAB のポスト不能
35	46	DFSYMEM0	DO_MEM_RSM_TPIPE - QAB のポスト不能
35	47	DFSYMEM0	Queue_Resume_Tpipe - QAB のポスト不能
35	48	DFSYMEM0	Do_Mem_Del_Resume_Tp - QAB のポスト不能
36		DFSYIMI0	OTMA GETTING STORAGE FOR NEW MBR
37	28	DFSYPSI0	PROCESS_AWE - サポートされない AWE 機能タイプ

DFS1269E

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
37	29	DFSYPIS0	FREE_AWE - サポートされない AWE タイプ
37	30	DFSYPIS0	状態データなし
38		DFSYPIS0	TPIPE OUTPUT AWE SERV DFSYPIS0
39		DFSYSND0	OTMA XCF INTERFACE
40	01	DFSYTIB0	Normal_Cleanup - TIB 解放が失敗した
40	02	DFSYTIB0	Find_Dest: TranCode 宛先の検索不能
40	03	DFSYTIB0	Check_Security - RACINIT が失敗した
40	04	DFSYTIB0	Check_Security - RACHECK が TranCode/コマンド Verb の失敗を検証した
40	05	DFSYTIB0	予約済み。
40	06	DFSYTIB0	エンキュー - メッセージ・ルーター DFSICLR0 がメッセージを宛先にエンキューしたが、失敗した
40	07	DFSYTIB0	Process_Input - バッファ・プール取得が失敗した
40	08	DFSYTIB0	Normal_Cleanup - 割り振られていた受信バッファまたはコマンド・バッファの解放不能
40	09	DFSYTIB0	Process_Input - DFSQMGR がメッセージ接頭語を更新して、メッセージがリカバリ不能で再始動不能であることを示そうとしたが、失敗した
40	10	DFSYTIB0	予約済み。
40	11	DFSYTIB0	Inser_One_Seqgment - QMGR がセグメントを挿入したが、失敗した
40	12	DFSYTIB0	Process_cmd: DFSYCMD0 コマンドがエラー
40	13	DFSYTIB0	予約済み。
40	14	DFSYTIB0	Handle_Error - 保留 QMGR を取り消したが、失敗した
40	15	DFSYTIB0	予約済み。
40	16	DFSYTIB0	予約済み。
40	17	DFSYTIB0	Process_FastPath - 高速機能トランザクションがエラー
40	18	DFSYTIB0	予約済み。
40	19	DFSYTIB0	Conv_Tran - 会話型トランザクションに不該当
40	20	DFSYTIB0	Update_Msg_Prefix - Non_Fastpath トランザクションの DFSQMGR での内部エラー

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
40	21	DFSYTIB0	Update_Msg_Prefix - Non_Fastpath トランザクションの DFSQMGR での応答 Mod エラー
40	22	DFSYTIB0	Free_Awe - サポートされない AWE タイプ
40	23	DFSYTIB0	Find_Dest - OTMA クライアントからのコマンドが無効。DFS1285E を参照
40	24	DFSYTIB0	Find_Dest - 現在利用不能で使用できない Tran。DFS3470 を参照
40	25	DFSYTIB0	Find_Dest - SMB Tran/Lterm が停止。DFS065 を参照
40	26	DFSYTIB0	Find_Dest - CPIC である無効のトランザクション。DFS1286E を参照
40	27	DFSYTIB0	Find_Dest - リモート宛先 (RCNT) が無効。DFS1287E を参照
40	28	DFSYTIB0	Find_Dest - 無効の CNT 名が指定されている。DFS1288E を参照
40	29	DFSYTIB0	Find_Dest - SMB が検出されない。DFS064 を参照してください。
40	30	DFSYTIB0	Check_Security - 無効のセキュリティ。DFS1292E を参照
40	31	DFSYTIB0	Conv_TRAN - システム・エラーが要求された
40	32	DFSYTIB0	Process_FastPath - システム・エラー・メッセージ
40	33	DFSYTIB0	Process_FastPath - ユーザー・エラー・メッセージ
40	34	DFSYTIB0	Insert_One_Segment - 単一セグメント・メッセージ。DFS1290E を参照してください。
40	35	DFSYTIB0	エンキュー - すべてのメッセージが廃棄された。DFS249 を参照してください。
40	36	DFSYTIB0	Insert_One_Segment - NULL セグメントが送信された。DFS249 を参照してください。
40	37	DFSYTIB0	Insert_One_Segment - キュー・オーバーフロー。正常に行われなかった挿入
40	38	DFSYTIB0	Find_Dest - IMS 会話型または高速機能トランザクションの CM0 を許可しない。DFS1291E を参照してください。
40	39	DFSYTIB0	Process_commit - エラー・メッセージを伴わずに会話を終了

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
40	40	DFSYTIB0	Find_Dest - DFMSMCE0 端末ルーティング・エントリー・ポイントがリモート・システムへのメッセージの転送を要求したが、失敗した。DFS064 を参照してください。
40	41	DFSYTIB0	Find_Dest - DFMSMCE0 端末ルーティング・エントリー・ポイントがリモート・システムへのメッセージの転送を要求したが、失敗した。DFS070 を参照してください。
40	42	DFSYTIB0	Check_Seq_Num - Resynch に関してリカバリー可能シーケンス番号を妥当性検査するが、セグメント番号で失敗した
40	43	DFSYTIB0	Check_Seq_Num - Resynch に関してリカバリー可能シーケンス番号を妥当性検査するが、Nack で失敗した
40	48	DFSYTIB0	無効なメッセージが DFSYPSI0 から受信された
40	51	DFSYTIB0	AWE 制御ブロックなしの入力メッセージの処理時に、無効な AWE 機能コードが指定された
40	54	DFSYTIB0	キュー・マネージャーに対して接頭部を挿入しようとする試みが失敗した
40	58	DFSYTIB0	フロントエンド IMS で検出されたバックエンド IMS から送信された、無効な APPC/OTMA 共用キューの接頭部データ。
40	60	DFSYTIB0	Go_DFSYIO00 - IMS は、OTMAIOED ユーザー出口を呼び出すための LUMP ストレージの取得に失敗した。
40	61	DFSYTIB0	エンキュー - IMS は LUMP ストレージの解放に失敗した。
40	63	DFSYTIB0	Process_Input - バッファ・プール取得が失敗した
40	64	DFSYTIB0	Process_Output - 共用キューの非同期作業エレメント (AWE) の解放が失敗した
40	65	DFSYTIB0	Msg_Back_Queue - 非同期作業エレメント (AWE) の解放が失敗した
40	66	DFSYTIB0	Msg_Back_Queue - 会話型トランザクションがエラー
40	67	DFSYTIB0	Msg_Back_Queue - 会話型トランザクションがエラー

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
40	68	DFSYTIB0	Msg_Back_Queue - 非同期作業エレメント (AWE) の解放が失敗した
40	69	DFSYTIB0	Conv_Tran - 会話型トランザクションがエラー
40	71	DFSYTIB0	Conv_Tran - 会話型トランザクションがエラー
40	72	DFSYTIB0	Go_DFSYIO00 - IMS は、OTMAIOED ユーザー出口を呼び出すための LUMP ストレージの取得に失敗した。
40	74	DFSYTIB0	Go_DFSYIO00 - IMS が、LUMP ストレージの解放に失敗した
40	75	DFSYTIB0	Normal_Cleanup - IMS が、LUMP ストレージの解放に失敗した
40	76	DFSYTIB0	Setup_Security - IMS が RACF TOKENMAP 用の LUMP ストレージの取得に失敗した。
40	77	DFSYTIB0	Setup_Security - IMS が、LUMP ストレージの解放に失敗した
41	08	DFSYQAB0	Get_First_Segment - DFSQMGR でセグメント障害が検出される
41	28	DFSYQAB0	Check_System_Status - メンバーが明確でないため送信できない
41	29	DFSYQAB0	Edit_N_Send - セグメントが取り消された。
41	30	DFSYQAB0	Move_Segment_Into_Buf - セグメント長さ LLZZ が最大サイズを超えている
41	50	DFSYQAB0	Check_System_Status - システム・シャットダウンが進行中
41	51	DFSYQAB0	Check_System_Status - XCF グループが使用可能にされていない
41	52	DFSYQAB0	Check_System_Status - Qab/パイプ制御ブロックが停止されていない
41	53	DFSYQAB0	Check_Init_Before_Send - YQAB がクリア不能で作業できない
41	54	DFSYQAB0	Get_First_Segment - DFSQMGR が最初のセグメントを取得できない。
41	55	DFSYQAB0	予約済み。
41	56	DFSYQAB0	Get_First_Segment - APPC トランザクションに接頭部がない
41	57	DFSYQAB0	Get_Storage - DFSPool 割り振られたストレージの障害
41	58	DFSYQAB0	Dispose_Msg - メッセージを送信後に処理 (wash back) する

DFS1269E

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
41	59	DFSYQAB0	Free_Storage - DFSPPOOL が DFSPPOOL 障害を使用してストレージを解放した
41	60	DFSYQAB0	Check_System_Status - RESYNC フラグがオンになっている
41	61	DFSYQAB0	Proc_Sync_Callout_Msg - Sync AWE 処理エラー
41	62	DFSYQAB0	Proc_Sync_Callout_Msg - Sync AWE が状態不明
41	80	DFSYQAB0	Reroute_Msg - メッセージ保留キューの YQAB を検出できない
41	81	DFSYQAB0	Reroute_Msg - メッセージを再ルーティングできない
41	82	DFSYQAB0	Reroute_Msg - メッセージ・ルーター CLR1 からの誤った戻りコード
42	04	DFSYLUS0	Send_Service - 同期出力を送出するが、YQAB 標識がオンになっている
42	08	DFSYLUS0	Send_Service - DFSYSLM0 が XCF 送信を発行するが、失敗した
42	29	DFSYLUS0	Send_Deallocate - DFSYFMTE が対応する入力メンバーを検出できない。
42	30	DFSYLUS0	Do_Invalid_Service - アドレス可能度またはパラメーター域が誤り
42	31	DFSYLUS0	Chng_Service - DFSYFND0 は DFSDLA30 に戻る必要があるが、そうになっていない
42	32	DFSYLUS0	Find_QAB - この OTMA メッセージ接頭部で QAB を検出できない。
42	33	DFSYLUS0	Find_RTIB - この OTMA メッセージ接頭部で RTIB を検出できない。
42	34	DFSYLUS0	Find_TIB - この OTMA メッセージ接頭部で TIB を検出できない。
42	35	DFSYLUS0	GetQabTib_Service - OTMA が CLB に戻るときは、YTIB/YQAB アドレスである必要があるが、DLAMSGIN は OTMA メッセージ接頭部を指していない。
42	36	DFSYLUS0	Copypf_Service - OTMA がこの OTMA メッセージ接頭部をコピーするときは、DLAMSGIN は OTMA メッセージ接頭部を指しているが、LUMBLK で TIB を検出できない。

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
42	37	DFSYLUS0	Copypf_Service - OTMA がこの OTMA メッセージ接頭部をコピーするときは、DLAMSGIN は OTMA メッセージ接頭部を指しているが、LUMBLK_Ptr がゼロである。
42	38	DFSYLUS0	Get_OTMA_Prefix - DFSPPOOL は OTM 接頭部のストレージを取得できない
42	39	DFSYLUS0	TibInfo_Service - OTMA がこの YTIB で情報を戻すときは、LUMBLK_Ptr は YTIB を指しているが、LTERM (DLALTRMA) のアドレスがゼロである
42	40	DFSYLUS0	Inqy_Service - OTMA に OTMA 接頭部または YQAB/YTIB から情報が戻されない
42	43	DFSYLUS0	Sync_Output - Sync AWE ストレージの取得の失敗
42	45	DFSYLUS0	Sync_Output - Sync AWE ストレージの解放の失敗
42	48	DFSYLUS0	Send_Deal_to_FE - Sync AWE ストレージの取得の失敗
42	49	DFSYLUS0	Send_DFS_Msg_To_FE - Sync AWE ストレージの取得の失敗
42	50	DFSYLUS0	Send_DFS_Msg_To_FE - Sync AWE ストレージの取得の失敗
42	51	DFSYLUS0	Send_DFS_Msg_To_FE - Sync AWE ストレージの解放の失敗
43	06	DFSYCMD0	INIT_PRE - QMGR 挿入移動メッセージ接頭部の呼び出しに失敗する
43	23	DFSYCMD0	INIT_PRE - DFSPPOOL が LUMP プールを取得するが、失敗した
43	24	DFSYCMD0	INIT_PRE - DFSPPOOL が LUMP プールを解放するが、失敗した
44		DFSYCKP0	OTMA CHECK POINT
45	29	DFSYSLM0	予約済み。
45	30	DFSYSLM0	Move_Segment_Into_Buf - セグメント長さ LLZZ が最大サイズ 32k を超えている
45	57	DFSYSLM0	Get_Storage - DFSPPOOL が LUMP を取得するが、失敗した
45	59	DFSYSLM0	Free_Storage - DFSPPOOL が LUMP を解放するが、失敗した
46		DFSYRST0	OTMA RESTART

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
46	01	DFSYRST0	Restart_4032 - 4032 ログ・レコードの T パイプの作成に失敗した。これらのブロックなしで再始動が継続されますが、メッセージは失われる可能性があります。
46	02	DFSYRST0	Restart_4032 - 4032 ログ・レコードの HOLDQ の作成に失敗した。これらのブロックなしで再始動が継続されますが、メッセージは失われる可能性があります。
46	03	DFSYRST0	Restart_4032 - 4032 ログ・レコードで YQAB トークンの不一致が検出された。これらのブロックなしで再始動が継続されますが、メッセージは失われる可能性があります。
46	04	DFSYRST0	Restart_4032 - 4032 ログ・レコードで HOLDQ トークンの不一致が検出された。これらのブロックなしで再始動が継続されますが、メッセージは失われる可能性があります。
47	01	DFSYIDC0	BPAM バッファおよび入力ブロック用として境界線の下ストレージを取得するが、インターフェース STORAGE ルーチンが失敗した
47	02	DFSYIDC0	受信バッファ (3K) を取得するが、DFSPPOOL GET が失敗した
47	03	DFSYIDC0	割り振られたバッファを解放するが、DFSPPOOL REL が失敗した
47	04	DFSYIDC0	割り振られているストレージを解放するが、DFSPPOOL REL が失敗した
48	01	DFSYQFX0	Ixctl_To_Yrtib - 作成された RTIB を使用して TIB ITASK を作成するが、失敗した
48	02	DFSYQFX0	Ixctl_To_Yrtib - DFSDST を呼び出して YRTIB を作成するが、失敗した
48	03	DFSYQFX0	Ixctl_To_Yrtib - RTIB ITASK の作成後、IXCTL が YRTIB ITASK の下で実行されるが、失敗した
48	07	DFSYQFX0	Ixctl_From_Yrtib - IXCTL が PST に戻り、YRTIB ITASK を削除するが、YRTIB ITASK の削除で失敗した
48	82	DFSYQFX0	OTMA が開始された場合は、MTO 応答で /STOP OTMA を発行し、次に /START OTMA を発行する

表 10. DFS1269E 理由コード (続き)

xx	yy	Module	説明
49		OTMAYPRX	OTMA 宛先解決ユーザー出口
50		DFSYDRU0	OTMA DEFAULT DRU EXIT DFSYDRU0
51		DFSYJL00	OTMA JOIN/LEAVE-DFSYJL00

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、理由コード *xxyy*、および OTMA トレースで検出された出力を報告してください。詳しくは、IBM 診断資料を参照してください。

モジュール: DFSYIDC0、DFSYMEM0、DFSYTIB0、DFSYRAC0、DFSYFD00、DFSYTIB0、DFSYSND0、DFSYSLM0、DFSYRST0、DFSYRR00、DFSYRAC0、DFSYQFX0、DFSYQAB0、DFSYPSO0、DFSYPSI0、DFSYMOM0、DFSYMEM0、DFSYLUS0、DFSYIO00、DFSYIDC0、DFSYFND0、DFSYCMD0、DFSYCKP0

関連情報:

41 ページの『DFS064I』

43 ページの『DFS070』

80 ページの『DFS249』

376 ページの『DFS1285E』

376 ページの『DFS1286E』

376 ページの『DFS1287E』

376 ページの『DFS1288E』

377 ページの『DFS1291E』

847 ページの『DFS3470』

DFS1270I MADS I/O TIMING STRUCTURE CONNECT SUCCESSFUL

説明: IMS が MADS 入出力タイミングに関して構造を正常に割り振りました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS1271E IMPROPER MADS I/O PARAMETER SPECIFIED RSN=*rc*

説明: 無効の MADS I/O タイミング・パラメーターが検出されました。メッセージ・テキストで、*rc* は次のいずれかです。

コード (10 進数)
意味

DFS1271I • DFS1280E

- 1 MADS 入出力構造の長さが 16 バイトより大きい。
- 2 3 バイトを超える文字が入出力時間に指定されている。
- 3 無効文字が構造名で検出された。
- 4 無効文字が入出力時間で検出された。
- 5 256 秒を超える秒数が入出力時間に書き込まれた。

システムの処置: IMS は異常終了し、ユーザー異常終了コード 0076 が示されました。

モジュール: DFSTRA00

DFS1271I MADS I/O TIMING STRUCTURE WAS DISCONNECTED. RSN=XX

説明: IMS は、次の理由でリスト構造を切断しました。

コード (10 進数)
意味

- | | |
|----|----------------|
| 01 | 構造障害 |
| 02 | リンク・エラーが検出された。 |

DFS1272I NO ENTRY UNDER IMSID=cccccccc FOUND, LONG BUSY TKO ENDED

説明: XCF EVENT 出口が、cccccccc で識別されている IMSID が終了したという通知を受信しました。モジュール DBFMLBIO がリスト構造をチェックしましたが、ロング・ビジー ADS が検出されませんでした。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFMLBIO

DFS1273I USER SPECIFIED DBFMLBX0 IS USED FOR HASHING MODULE

説明: このメッセージは、長時間使用中 (long busy) のロジックでユーザー・ハッシュ・モジュール DBFMLBX0 を使用することを示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS1277W LUMx POOL STORAGE SHORTAGE.

説明: LUMP または LUMC ストレージ・プールに残っているフリー・ストレージは 5 MB を下回っています。メッセージ・テキスト内の *x* は、P または C のいずれかです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 次回の IMS の再始動時に、LUMP または LUMC プール制限の値を大きくして指定してください。

DFS1278E LUMx POOL LIMIT REACHED, ALL APPC INPUT WILL BE REJECTED.

説明: LUMP または LUMC ストレージ・プールのフリー・ストレージは 1 MB を下回っています。メッセージ・テキスト内の *x* は、P または C のいずれかです。

システムの処置: IMS は、APPC/MVS に対して、プールのストレージが 5 MB を超えるまですべての拡張プログラム間通信機能 (APPC) 入力をリジェクトするように指示します。既に処理中の APPC 入力は続行できます。

プログラマーの応答: トランザクションの実行を妨げる、停止したリソースがあるかどうかを確認してください。どのクライアントでも、IMS がトランザクションであふれることがないようにしてください。LUMP または LUMC プール制限の値を大きくして指定することを検討してください。

DFS1279I APPC INPUT PROCESSING RESUMED.

説明: LUMP または LUMC ストレージの不足が解消され、拡張プログラム間通信機能 (APPC) からの新規の入力が許可されます。

システムの処置: IMS は、すべての APPC 入力を受け入れるように APPC/MVS に指示します。処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

LUMP または LUMC ストレージ不足が再び発生した場合は、DFS1278E の情報に含まれる応答ステップに従ってください。

関連情報:

『DFS1278E』

DFS1280E INVALID RESPONSE MESSAGE FROM MEMBER=*client*

説明: OTMA クライアントが無効の応答メッセージを IMS に送信しました。*client* は 16 バイトのクライアント名です。

システムの処置: OTMA 応答メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: OTMA 応答メッセージが ACK

と NACK のいずれかのメッセージであるか確認してください。

モジュール: DFSYMEMO

**DFS1281E (N)ACK ON NON-EXISTING
TPIPE=*tpipe* FROM MEMBER=*member***

説明: OTMA クライアントが、存在しないトランザクション・パイプに関して、応答メッセージを IMS に送信しました。*tpipe* は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。*member* は、16 バイトのクライアント名です。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: OTMA 応答メッセージは無視されません。

プログラマーの応答: クライアントに関連した OTMA トランザクション・パイプが OTMA 応答メッセージを待っているか確認してください。

モジュール: DFSYMEMO

**DFS1282E UNABLE TO CREATE OR USE
TPIPE=*tpipe* FOR MEMBER=*member***

説明: OTMA クライアントが IMS に既存の Tpipe の使用、または新しい Tpipe の作成を要求しました。次の 2 つのエラーのいずれかが発生しました。

- IMS が新しい Tpipe を作成するためのストレージを割り振れなかった。
- OTMA メッセージ制御情報接頭部の処理フラグの同期化 Tpipe フラグが、既存の Tpipe に関して、誤ってオンまたはオフに設定された。

入力または出力 OTMA メッセージに関して、Tpipe が作成された後では、後続の入力または出力 OTMA メッセージに関して、Tpipe の同期化 Tpipe 設定は変更できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipe 8 バイトのトランザクション・パイプ名を識別します。

member

16 バイトのクライアント名を識別します。

システムの処置: IMS は、NACK メッセージで元の OTMA メッセージに応答します。

プログラマーの応答: IMS システムに使用可能なストレージが十分にあるか確認してください。また、OTMA メッセージ制御情報接頭部の処理フラグの同期化 Tpipe

フラグもチェックしてください。

モジュール: DFSYMEMO

**DFS1283E (N)ACK ON NON-EXISTING BLOCK
IN TPIPE=*tpipe* MEMBER=*member*
TOKEN=*token***

説明: OTMA が、既存のトランザクション・パイプに関して、応答メッセージを IMS に送信しましたが、制御ブロックが存在しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipe 8 バイトのトランザクション・パイプ名

member

16 バイトのクライアント名

token 32 バイトのサーバー・トークン

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: OTMA クライアントからのメッセージは無視されます。ID=YPSI または ID=YNAK が指定された X'6701' エラー・レコードが IMS OLDS に記録されます。

プログラマーの応答: クライアントに関連した OTMA トランザクション・パイプが OTMA 応答メッセージを待っており、その OTMA メッセージ内の IMS トークンが有効であることを確認してください。

モジュール: DFSYPSIO

**DFS1284E (N)ACK ON NON-WAITING BLOCK
IN TPIPE=*tpipe* MEMBER=*member*
TOKEN=*token***

説明: OTMA クライアントは、メッセージを待機しないトランザクション・パイプ (T パイプ) について、確認応答 (ACK または NAK) を IMS に送信しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tpipe 8 バイトのトランザクション・パイプ名

member

16 バイトのクライアント名

token 32 バイトのサーバー・トークン

クライアントが誤った T パイプ名を指定したか、IMS OTMA の待機がすでにタイムアウトになった可能性があります。T パイプは保留状態になった可能性があります。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

DFS1285E • DFS1290E

システムの処置: OTMA クライアントからのメッセージは無視されます。ID=YNAK を持つ X'6701' エラー・レコードが IMS OLDS に記録されます。

プログラマーの応答: クライアントに関連した OTMA トランザクション・パイプが OTMA 応答メッセージを待っており、その OTMA メッセージ内の IMS トークンが有効であることを確認してください。

モジュール: DFSYPSIO

DFS1285E COMMAND INVALID FROM AN OTMA CLIENT

説明: コマンドは、OTMA クライアントから入力できませんでした。コマンドが入力できるのは、IMS 端末からのみです。

システムの処置: IMS コマンドは無視されます。

プログラマーの応答: 正しいコマンドが入力されたか判別してください。そうであれば、別の IMS、XCF、または VTAM コマンドでは望ましい結果が得られる可能性があります。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1286E DESTINATION NAME=*destination* IS CPIC AND NOT ALLOWED FROM AN OTMA MEMBER

説明: 示されている宛先は、CPI Communications ドリブン・トランザクションであり、OTMA クライアントから処理のために受け入れできません。

システムの処置: IMS は、OTMA クライアントに NACK メッセージを送信します。元のメッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: OTMA クライアントが CPI Communications ドリブン・トランザクションに関してメッセージを出していないことを確認してください。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1287E DESTINATION NAME=*destination* IS RCNT AND NOT ALLOWED FROM AN OTMA MEMBER

説明: 示されている宛先は、RCNT であり、OTMA クライアントから処理のために受け入れできません。

システムの処置: IMS は、OTMA クライアントに NACK メッセージを送信します。元のメッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: OTMA が RCNT 名に関してメッセージを出すことはないか確認してください。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1288E DESTINATION NAME=*destination* IS CNT AND NOT ALLOWED FROM AN OTMA MEMBER

説明: 示されている宛先は、CNT であり、OTMA クライアントから処理のために受け入れできません。

システムの処置: IMS は、OTMA クライアントに NACK メッセージを送信します。元のメッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: OTMA クライアントが CNT 名に関してメッセージを出すことはないか確認してください。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1289E TPIPE=*tpipe* EXCEEDS ALLOWED QUEUE SPACE -MESSAGE CANCELLED

説明: 示されている OTMA トランザクション・パイプ用の許容キュー・スペースを超えるバッファ要求がなされました。*tpipe* は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。

許容されるスペースの量は、ユーザー出口ルーチン DFSQSPC0 で制御できます。

システムの処置: OTMA メッセージは取り消されます。

プログラマーの応答: メッセージのサイズをチェックし、必要な場合は、調整してください。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1290E DESTINATION NAME=*destination* IS SINGLE SEGMENT, TPIPE=*tpipe*

説明: 示されている宛先で受け入れできるのは、単一セグメント・メッセージのみです。複数セグメントが検出されたため、メッセージは廃棄されます。*tpipe* は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。

システムの処置: OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答: OTMA メッセージにセグメントが 1 つしかないか確認してください。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1291E DESTINATION NAME=*destination* HAS AN INVALID COMMIT MODE

説明: 示されている宛先名に無効のコミット・モードがありました。通常、トランザクションは IMS 高速機能トランザクションか、IMS 会話型トランザクションであり、Commit-then-Send コミット・モードを使用する、OTMA クライアントに関するメッセージをキューに入れることはできません。

システムの処置: OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答: OTMA メッセージが適正なコミット・モード、通常は、Send-then-Commit コミット・モードを使用するか確認してください。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1292E SECURITY VIOLATION

説明: IMS は、OTMA トランザクションまたはコマンドがセキュリティ検査に失敗したため、それをリジェクトしました。

システムの処置: OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答: OTMA メッセージ接頭部のセキュリティ・データ・セクションを調べて、ユーザー・トークン、ユーザー ID、またはグループ名が指定されていて、有効であったか確認してください。例えば、ユーザー・トークンにゼロなどのような無効の値が含まれている場合は、メッセージが出されます。

モジュール: DFSYTIB0

DFS1293E DESTINATION NAME=*destination* IS IN DOWN LEVEL IMS

説明: 示されている宛先名は、IMS リモート・トランザクション名で、これが無効です。原因としては、宛先の IMS サブシステムが OTMA トランザクションを受け入れることができないことが考えられます。

システムの処置: OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答: 宛先の IMS サブシステムがバージョン 5 以上であることを確認してください。

モジュール: DFSYLUS0

DFS1294E OTMA OUTPUT SEGMENT SIZE EXCEEDED, MESSAGE DISCARDED, MEMBER=*member*, TPIPE=*tpipe*

説明: メッセージ・セグメント長さが限度の 32,764 バ

イトを超えました。*tpipe* は、8 バイトのトランザクション・パイプ名です。*member* は、16 バイトのクライアント名です。

システムの処置: OTMA メッセージは取り消されません。

プログラマーの応答: OTMA メッセージのセグメント・サイズをチェックしてください。

モジュール: DFSYSLM0

DFS1295E DESTINATION NAME=*destination* IS A REMOTE TRANSACTION WHICH IS AN INVALID DESTINATION FOR A PROTECTED CONVERSATION

説明: OTMA クライアントまたは LU 6.2 装置が、リモート IMS トランザクションとの保護会話の確立を試みました。

システムの処置: OTMA の場合は、OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。LU 6.2 の場合は、IMS が ATBCMTP_TP_NOT_AVAIL_NO_RETRY との会話を割り振り解除し、このメッセージを LU 6.2 装置に送り返します。

プログラマーの応答: ローカル IMS トランザクションとの保護会話を確立してください。

モジュール: DFSYTIB0、DFSRLM10

DFS1296E DESTINATION NAME=*destination* IS NOT A TRANSACTION AND IS AN INVALID DESTINATION FOR A PROTECTED CONVERSATION

説明: OTMA クライアントまたは LU 6.2 装置が、IMS トランザクションではない宛先との保護会話の確立を試みました。

システムの処置: OTMA の場合は、OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。LU 6.2 の場合は、IMS が ATBCMTP_TP_NOT_AVAIL_NO_RETRY との会話を割り振り解除し、このメッセージを LU 6.2 装置に送り返します。

プログラマーの応答: ローカル IMS トランザクションとの保護会話を確立してください。

モジュール: DFSYTIB0、DFSRLM10

**DFS1297E OTMA TRANSACTION COMPLETED.
OUTPUT SEGMENT SIZE EXCEEDED
FOR TRANS=*trancode*,
MEMBER=*member*, TPIPE=*tpipe***

説明:

OTMA Commit-then-Send 出力メッセージ・セグメント長さが限度の 32K (32,767) バイトを超えました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

member

16 バイトのクライアント名

tpipe

8 バイトのトランザクション・パイプ名

trancode

8 バイトの元の入力トランザクション名

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: OTMA Commit-then-Send 出力メッセージは取り消されます。ただし、データベース更新があれば、いずれもコミットされます。

プログラマーの応答:

OTMA Commit-then-Send 出力メッセージのセグメント・サイズが限度の 32,767 バイトを超えないか確認してください。必要な場合は、セグメント・サイズを縮小してください。

モジュール: DFSYQAB0

**DFS1298E DESTINATION NAME=*destination* IS
A DYNAMIC TRAN AND NOT
ALLOWED FROM AN OTMA
MEMBER**

説明: OTMA クライアントが、共用キュー環境で動的トランザクションの実行を試みました。これは OTMA では許容されていません。

システムの処置: OTMA クライアントが NACK メッセージを受信します。

プログラマーの応答: そのトランザクションが定義されている IMS システムで、トランザクションを入力してください。

モジュール: DFSYTIB0

**DFS1299W FPBP64=Y IN DFDFDxxx IS NOT
ACCEPTED BY DCCTL**

説明: データ通信制御 (DCCTL) の DFSDFxxx メンバーで FPBP64=Y が指定されました。ただし、DCCTL は FPBP64=Y を受け入れません。

メッセージ・テキスト内の xxx が、DFSDF 接尾部です。

システムの処置: DCCTL は正常に再始動し、古い FP バッファ・セットアップを使用します。

プログラマーの応答: DFSDFxxx メンバーの仕様を訂正します。

モジュール: DBFFATC1

**DFS1300I SC=08 INVALID STATEMENT OR
STATEMENT SEQUENCE**

説明: このステートメント・タイプは、正しくないシーケンスで出現しています。システムは、演算子が FMT/FMTEND、MSG/MSGEND、TABLE/TABLEEND、または END であると予期していました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 適正なステートメントを挿入し、ジョブを再実行してください。

第 30 章 DFS メッセージ DFS1301I - DFS1350I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1301I SC=04 MISSING END STATEMENT. EOD RECEIVED

説明: SYSIN のデータの終わり (EOD) が想定されましたが、END ステートメントが検出されませんでした。

システムの処置: END ステートメントが指定されているものと見なされて、ジョブの終了 (EOJ) 処理が行われます。

プログラマーの応答: 入力すべてが処理されているか確認してください。

DFS1302I SC=04 IMPLEMENTATION RESTRICTION, (*parm-name*) PARAMETER IGNORED

説明: 計画目的で組み込まれたパラメーター NO/REDEF または NO/TEST が指定されたため、無視されます。

システムの処置: 処理は次の PARM フィールド、または入手された SYSIN レコードから続行されます。

プログラマーの応答: パラメーター REDEFINE/TEST は指定しないでください。

DFS1303I SC=08 INVALID STATEMENT LABEL/OPERATOR START SEQUENCE

説明: 受信したソース項目が LABEL/OPERATOR 構文要件に適合していません。いずれか一方が必須です。

システムの処置: 処理は入力ステートメントの次の項目から続行されます。

プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1304I SC=08 OPERATOR TOO LONG. STATEMENT SKIPPED

説明: 出現順序では LABEL/OPERATOR である必要があります。ただし、ソース項目は 8 文字より大であり、いずれにしても適格ではありません。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1305I SC=08 INVALID CHARACTER DELETED

説明: 検出された文字が、英数字、国別文字、算術演算子、句読点のいずれでもありませんでした。

システムの処置: 処理は、入力バッファ内の次の文字から再開されます。

プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、再度入力を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1306I SC=08 END OF STATEMENT DURING STRING COLLECTION PROCESSING

説明: 文字の集合を項目取得プロセッサでの処理に備えて準備している最中に、ステートメントの終わり条件が検出されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上で、エラーを訂正し、再度入力を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1307I SC=08 END OF FILE DURING STRING COLLECTION PROCESSING

説明: 文字の集合を項目取得プロセッサでの処理に備えて準備している最中に、ファイルの終わり条件が検出されました。

システムの処置: 処理は適切なデータの終わり (EOD) ルーチンから続行されます。

プログラマーの応答: エラーのあるソースを訂正するか、問題のある SYSLIB ソースを再作成し、ジョブを再実行してください。

**DFS1308I SC=08 ALPHANUMERIC ITEM
OVERFLOW ON SCAN**

説明: 英数字項目の長さが 255 バイトを超えました。
システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されま
す。
プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上
で、再度項目を指定し、ジョブを再実行依頼してくださ
い。

**DFS1309I SC=08 NUMERIC ITEM OVERFLOW
ON SCAN**

説明: 数値項目の長さが 255 バイトを超えました。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上
で、再度項目を指定し、ジョブを再実行依頼してくださ
い。

**DFS1310I SC=08 alphanumeric ITEM OVERFLOW
ON SCAN**

説明: 英数字項目の長さが 255 バイトを超えました。
システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されま
す。
プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上
で、再度項目を指定し、ジョブを再実行依頼してくださ
い。

**DFS1311I SC=08 STRING ITEM OVERFLOW
ON SCAN**

説明: 文字ストリングの長さが 255 バイトを超えまし
た。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: エラーのあるソースを調べた上
で、ストリングを再度指定し、ジョブを再実行依頼して
ください。

**DFS1312I SC=08 INVALID LABEL START
CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明: LABEL が英字または国別文字以外の文字で始ま
っていました。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: 英字/国別文字を先頭文字として

使用するラベルを再度指定し、ジョブを再実行依頼して
ください。

**DFS1313I SC=08 INVALID CHARACTER IN
LABEL. \$ SUBSTITUTED**

説明: LABEL に、英数字でも国別文字でもない文字が
含まれていました。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: 問題のある文字を除去または訂正
した上で、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1314I SC=08 INVALID OPERATOR START
CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明: 出現の順序では OPERATOR である必要があり
ましたが、現在の項目は先頭文字が英字以外の文字で
す。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: プリプロセッサ OPERATORS
は、すべてが英字ストリングです。演算子を再度指定
し、ジョブを再実行してください。

**DFS1315I SC=08 INVALID OPERATOR
CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明: 出現の順序では OPERATOR である必要があり
ますが、現在の項目には英字以外の文字が含まれていま
す。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: プリプロセッサ OPERATORS
は、すべてが英字ストリングです。演算子を再度指定
し、ジョブを再実行してください。

**DFS1316I SC=08 INVALID OPERAND START
CHARACTER. \$ SUBSTITUTED**

説明: OPERAND が、引用符または英字以外の文字で
始まっています。
システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されま
す。
プログラマーの応答: エラーのある OPERAND を再度
指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1317I SC=08 INVALID CHARACTER IN OPERAND. \$ SUBSTITUTED

説明: OPERAND に無効文字が含まれていました。

システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されず。

プログラマーの応答: エラーのある OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1318I SC=08 COLS 1-15 NOT BLANK ON CONTINUATION

説明: 継続ステートメントの 1 から 15 列目がブランクではありません。

システムの処置: 処理は次の非継続ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: エラーのある継続ステートメントの 1 から 15 列目をブランクのままにして訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1319I SC=08 EXPECTED CONTINUATION NOT RECEIVED

説明: 直前のソース・ステートメントに後続のステートメントへの継続が指示されていましたが、後に継続ステートメントが続いていませんでした。

システムの処置: 処理は、継続が指定されていない場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 継続ステートメントを指定するか、継続標識を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1320I SC=08 COLUMN 16 BLANK ON CONTINUATION

説明: 継続ステートメントは、16 列目から始まる必要があります。

システムの処置: 処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 16 列目の継続データの先頭文字を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1321I SC=04 INVALID CHARACTER X'hh' IN STRING

説明: 無効文字がリテラル・ストリングで検出されました。X'hh' は、無効文字の 16 進表記です。

システムの処置: 処理は次のソース文字から続行されず。この文字は生成リテラルに組み込まれています - 装置および文字によっては、フォーマット設定に悪影響を及ぼす可能性があります。

プログラマーの応答: リテラルに正しい内容が含まれているか検証してください。文字によっては、ALPHA ステートメントを使用して、このメッセージを除去できる場合があります。無効文字を省略または変更し、ジョブを再実行してください。

DFS1322I SC=08 EXCESSIVE LABEL LENGTH

説明: LABEL は長さが 8 文字を超えることはできません。

システムの処置: 切り捨てが行われ、処理は次のソース文字から続行されます。

プログラマーの応答: 示されているラベルを 8 文字以下に短縮し、ジョブを再実行してください。

DFS1323I SC=08 NO OPERATOR FOUND

説明: オペランドの出現の順序では、OPERATOR が次に現れる必要がありますが、検出されませんでした。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入力を再度指定して有効な OPERATOR を組み込み、ジョブを再実行してください。

DFS1324I SC=08 CONTINUED OPERATOR INVALID SYNTAX

説明: OPERATOR は連続し、単一のステートメントにある必要があります。

システムの処置: 処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 継続要件に従って入力を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1325I SC=08 MISSING OPERAND. CONTINUED COMMENTS ASSUMED

説明: OPERAND が欠落しています。

システムの処置: 処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 欠落しているオペランドを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1326I SC=04 EXCESSIVE LABEL LENGTH. FIRST 8 CHARACTERS USED

説明: LABEL は長さが 8 文字を超えることはできません。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 示されているラベルを 8 文字以下に短縮し、ジョブを再実行してください。

DFS1327I SC=08 NO OPERATOR FOUND

説明: OPERATOR がこのステートメントで検出されませんでした。OPERATOR は必須です。

システムの処置: 処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 必要な OPERATOR を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1328I SC=08 EXPECTED STRING CONTINUATION NOT RECEIVED

説明: リテラル・ストリングの継続が指示されていましたが、検出されませんでした。

システムの処置: 処理は、このステートメントがコメントである場合と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 継続要件に従って入力を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1329I SC=04 END OF FILE DETECTED WHERE CONTINUATION CARD WAS EXPECTED

説明: 継続ステートメントが予期されていたときに、ファイルの終わり条件がセンスされました。

システムの処置: 処理は該当する EOD ルーチンから続行されます。

プログラマーの応答: エラーのあるソースを訂正するか、問題のある SYSLIB ソースを再作成し、ジョブを再実行してください。

DFS1330I SC=20 I/O ERROR. INPUT PROCESSING TERMINATED

説明: SYSIN または SYSLIB で入出力エラーが発生しました。このメッセージの前に、特定タイプのエラーを示す z/OS メッセージが出されています。

システムの処置: プリプロセッサは、強制ジョブ終了 (EOJ) で終了します。

プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別し、エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1331I SC=08 TEXT SUBSTITUTION BUFFER FULL, TEXT LOST

説明: テキスト置換バッファ・サイズ (4096 バイト) を超えています。さらにエントリーを作成することはできません。

システムの処置: 現行テキストはスタックされません。処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 不必要または冗長な EQU (equate) を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1332I SC=04 POSITION MARKER

説明: 位置マーカが、エラーの時点で現行ソース・ポインターを示しています。

システムの処置: さらにエラー分析の処理が続行されません。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1334I を参照してください。

関連情報:

『DFS1334I』

DFS1333I SC=04 REC'D: 'any operand'

説明: 「any operand」が問題のある OPERAND です。

システムの処置: さらにエラー分析の処理が続行されません。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1334I を参照してください。

関連情報:

『DFS1334I』

DFS1334I SC=04 EXPECTED: any operand(s)

説明: このキーワードで使用できる有効なオペランドがリストされています。

システムの処置: さらにエラー分析の処理が続行されません。

プログラマーの応答: リストされている有効なオプションから 1 つ以上を選択し、選択したオプションを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1335I SC=08 REC'D ITEM DELETED

説明: メッセージ DFS1333I によって示されていた項目が削除され、想定は行われません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適正な OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1336I SC=08 ITEM PREVIOUS TO REC'D
ITEM DELETED**

説明: プリプロセッサが直前の項目を削除して、矛盾を解消することを必要とするエラー条件が存在します。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適正な OPERAND を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1337I SC=04 FOLLOWING ASSUMED: *any operand*

説明: プリプロセッサは、有効であれば、*any operand* で指定されたオペランドを想定します。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: 望ましくない想定が行われた場合は、DFS1334I を参照してください。

関連情報:

DFS1334I

**DFS1338I SC=08 NULL OPERAND RECEIVED
FOR ALPHA STATEMENT**

説明: ALPHA ステートメントで OPERAND がまったく指定されていません。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 望ましいオペランドを追加し、ジョブを再実行してください。

**DFS1339I SC=08 INVALID CHARACTER IN
ALPHA STRING IGNORED**

説明: 番号または区切り文字として予約されている文字を、英字として使用しようと試みました。

システムの処置: その文字は無視され、処理は次の英字ストリング文字から続行されます。

プログラマーの応答: 対象となっている照合シーケンスが正しければ、何も必要ありませんが、そうでない場合は、照合シーケンスを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1340I SC=04 EQUATE LENGTH
TRUNCATED TO 256 MAX**

説明: 単一の EQU 文字ストリングが 256 バイトを超え、切り捨てられました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: EQUate ストリングを小さい論理コンポーネントに分割し、ジョブを再実行してください。

**DFS1341I SC=08 NO LABEL PROVIDED FOR
EQUATE PROCESSOR**

説明: EQU がラベルなしで検出され、したがって、参照できません。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: ラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1342I SC=08 LABEL IS TOO LONG FOR
EQUATE**

説明: LABEL の長さは 8 バイトを超えないようにします。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: LABEL および参照を 8 文字以下に変更し、ジョブを再実行してください。

**DFS1343I SC=08 NO RIGHT PART VALUE
PROVIDED FOR EQUATE**

説明: equate ストリングが入力されませんでした。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: LABEL と等価にされる値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1344I SC=04 TITLE LENGTH EXCEEDS *nnn*
CHARACTERS. FIRST *kkk* USED**

説明: TITLE リテラルが最大文字数 *kkk* を超え、最初の *nnn* 文字まで切り捨てられました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: リテラルを再度指定し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1345I SC=04 NULL TITLE OPERAND.
PREVIOUS TITLE REMAINS IN
EFFECT**

説明: TITLE リテラルが指定されていませんでした。
ステートメントは無視されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから
続行されます。

プログラマーの応答: TITLE にリテラルを指定し、ジ
ョブを再実行依頼してください。

**DFS1346I SC=08 LPAGE SEQUENCE ERROR.
NO 1ST LPAGE**

説明: 複数の LPAGE が含まれる MSG の最初の
LPAGE が指定される必要があります。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: LPAGE ステートメントをソース
に追加し、ジョブを再実行してください。

**DFS1347I SC=04 MSGEND STATEMENT
ASSUMED**

説明: ステートメント出現順序では、MSGEND ステ
ートメントである必要があります。まったく検出されな
かったので、1 つが想定されます。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントか
ら続行されます。

プログラマーの応答: MSGEND ステートメントを挿入
し、ジョブを再実行してください。

DFS1348I SC=04 SEG STATEMENT ASSUMED

説明: ステートメント出現順序では、SEG ステート
メントである必要があります。まったく検出されなかつ
たので、1 つが想定されます。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントか
ら続行されます。

プログラマーの応答: SEG ステートメントを指定し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1349I SC=08 MFLD STATEMENT
ASSUMED**

説明: ステートメント出現順序では、MFLD ステ
ートメントである必要があります。まったく検出されな
かったので、1 つが想定されます。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントか
ら続行されます。

プログラマーの応答: MFLD ステートメントを指定
し、ジョブを再実行してください。

**DFS1350I SC=08 'nnnn' IS AN INVALID
MESSAGE NUMBER**

説明: メッセージ番号がメッセージ・プロセッサー
(DFSUPAK0) に示されましたが、そのメッセージ番号
がメッセージ・テーブル (DFSUPAL0) で検出できませ
んでした。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行さ
れます。

プログラマーの応答: 問題判別後、障害の原因になっ
ているステートメントを目視スキャンし、エラーを訂正
し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12、13、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 31 章 DFS メッセージ DFS1351I - DFS1400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS1351I SC=08 MAXIMUM RESCAN
SUBSTITUTION COUNT EXCEEDED.
SUBSTITUTION NOT PERFORMED**

説明: ステートメントが最大 RESCAN 置換カウントを超えました。RESCAN は、ループを避けるために、デフォルトでは 5 です。

システムの処置: 置換は終了します。処理は次のステートメントから再開します。

プログラマーの応答: 必要な結果を得るために、RESCAN ステートメントでもっと大きい数値を指定してください。

**DFS1352I SC=08 SCAN ABORTED DUE TO
SEVERE SYNTAX ERROR,
CONTINUING WITH NEXT
STATEMENT**

説明: 現行ステートメント・エラーが解決されませんでした。ステートメントは廃棄されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ番号 DFS1332I から DFS1337I のサポート・メッセージを使用して、エラーのあるオペランドを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1353I SC=04 RESCAN COUNT EXCEEDS 5
SIGNIFICANT DIGITS. DEFAULT
COUNT OF 5 USED**

説明: 有効数字 5 桁以下が RESCAN カウントとして受け入れ可能であるため、5 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: RESCAN 指定を訂正し、有効数字 5 桁を超えないようにしてください。ジョブを再実行してください。

**DFS1354I SC=04 RESCAN COUNT EXCEEDS
32767. COUNT SET TO 32767**

説明: RESCAN カウントが 32767 を超えていたた

め、デフォルトの 32767 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: RESCAN 指定数を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1355I SC=04 NUMBER FOR SPACE
EXCEEDS 15 SIGNIFICANT DIGITS.
THE PAGE WILL BE EJECTED**

説明: SPACE カウントが有効数字 15 桁を超えました。ページ替えが発生しました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: SPACE カウントを再度指定し、有効数字 15 桁を超えないようにしてください。ジョブを再実行してください。

**DFS1356I SC=12 FMTNAME AS LABEL
REQUIRED. FMT USED**

説明: それぞれの FMT ステートメントごとに LABEL が必要であり、このフォーマットには FMT のラベルが付けられています。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 該当するラベルを付けて FMT を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1357I SC=08 FMTNAME EXCEEDS 6
CHARACTERS. FIRST 6 USED**

説明: フォーマット名の長さは 6 文字以下でなければなりません。名前は最初の 6 文字で切り捨てられました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 適切なフォーマット名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1358I SC=08 DEV STATEMENT ASSUMED

説明: FMT ステートメントの後に DEV ステートメン

トが続いていませんでした。したがって、続いているものと想定されています。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 適切な DEV を挿入し、ジョブを再実行してください。

DFS1359I SC=04 FMTEND STATEMENT ASSUMED

説明: フォーマット・ブロックは FMTEND ステートメントで終わる必要があります。まったく検出されなかったため、1 つが想定されています。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: FMTEND ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1360I SC=04 DIV STATEMENT ASSUMED

説明: DEV ステートメントの直後に DIV ステートメントが続いていませんでした。「3270=INOUT, 3600=INPUT, ALL OTHERS=OUTPUT」のように続いているものと想定されています。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 必要な結果を得るため、あるいは文書化目的のために、DIV ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1361I SC=08 DPAGE SEQUENCE ERROR. NO 1ST DPAGE

説明: 複数の DPAGE が含まれる FMT の最初の DPAGE を指定する必要があります。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントをソース入力に追加し、ジョブを再実行してください。

DFS1362I SC=08 DFLD STATEMENT ASSUMED

説明: ステートメント出現順序では、DFLD ステートメントが入力として必要です。何も検出されなかったため、DFLD ステートメントがあるものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 必要な DFLD ステートメントを

指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1363I SC=08 POS=(lll,ccc,ppp) REQUIRED FOR RECORD MODE

説明: DFLD POS= キーワードのストリーム・モード形式が指定されたのは、MODE=RECORD のときでした。形式 POS=(lll,ccc,ppp) が必要です。デフォルトのレコード・モード POS= キーワードが使用されます (行 =1、列 = 左マージン +1、ページ =1)。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの MODE= キーワード、または DFLD ステートメントの POS= キーワードを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1364I SC=04 ENDDO STATEMENT ASSUMED

説明: ステートメント出現順序では、ENDDO ステートメントである必要があります。何も検出されなかったため、ENDDO ステートメントがあるものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: ENDDO ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1365I SC=08 DFLD POS= KEYWORD DOES NOT ALLOW SPACE FOR SIMULATED ATTRIBUTE

説明: POS= キーワードで 1 行目および列位置を左マージンとして指定しています。フィールドに先行し、属性バイトとして使用可能なバイトがありませんでした。したがって、ATTR=YES は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントの POS= キーワードまたは ATTR= キーワードを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1366I SC=08 PS VALUE INVALID, X'00' USED

説明: PS として示された値は、単一文字または 16 進文字 2 文字ではなく、X'40' から X'FE' の範囲にもありませんでした。

システムの処置: デフォルト値 X'00' が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: PS 値を単一文字または X'40' から X'FE' の範囲の 16 進文字 2 文字と、PX'00' のいずれかとして指定してください。ジョブを再実行してください。

**DFS1367I SC=08 TABLENAME AS LABEL
REQUIRED. 'TEMPTABL USED'**

説明: それぞれの TABLE ステートメントにラベルが必要です。ラベルが検出されなかったため、TABLE ステートメントにラベルが割り当てられました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 必要なラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1368I SC=04 TABLENAME TRUNCATED
TO 8 CHARACTERS**

説明: TABLE ステートメント・ラベルが 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当するラベルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1369I SC=08 IF STATEMENT ASSUMED
AS: 'NOFUNC'**

説明: IF ステートメントが少なくとも 1 つ TABLE に必要であり、指定されているとして想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当するステートメントを指定するか、TABLE を除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1370I SC=04 TABLEEND STATEMENT
ASSUMED**

説明: ステートメント出現順序では、TABLEEND である必要があります。何も検出されなかったため、TABLEEND ステートメントがあるものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 必要に応じて TABLEEND ステートメントを挿入し、ジョブを再実行してください。

**DFS1371I SC=08 MSG NAME AS LABEL
REQUIRED**

説明: それぞれの MSG ステートメントにラベル付けが必要です。ラベルは、検出されなかったため、生成されました。形式は、MSG がソース・ステートメント番号に連結されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適切なラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1372I SC=04 MSG NAME TOO LONG.
TRUNCATED TO 8 BYTES**

説明: MSG ステートメント・ラベルが 8 バイトを超えていたため、最初の 8 バイトが使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: ラベルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1373I SC=08 SOR=FMTNAME, FMTNAME
MISSING**

説明: SOR= 指定が NULL だったため、フォーマット名は使用されませんでした。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当するフォーマット名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1374I SC=04 SOR=FMTNAME, FMTNAME
EXCEEDS 6 CHARACTERS. FIRST 6
USED**

説明: SOR= フォーマット名が 6 文字を超えているため、最初の 6 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: フォーマット名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1375I SC=08 NXT=MSGNAME, MSGNAME
LTH=0. NONE USED**

説明: NXT= 指定が NULL だったため、メッセージ名は使用されませんでした。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

DFS1376I • DFS1384I

プログラマーの応答: 該当するメッセージ名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1376I SC=04 NXT=MSGNAME, MSGNAME
EXCEEDS 8 BYTES. TRUNCATED TO
8 BYTES**

説明: NXT= メッセージ名が 8 バイトを超えているため、最初の 8 バイトが使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当するメッセージ名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1377I SC=04 FILL=C'.' , TRUNCATED TO 1
CHARACTER**

説明: FILL= リテラルが長さ 1 文字を超えているため、最初の文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: リテラルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1378I SC=04 FILL=C'.' CHARACTER NOT
SUPPLIED**

説明: FILL= 指定が NULL だったため、ブランクに設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当する充てん文字を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1379I SC=04 DUPLICATE TYPE=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の MSG ステートメントでは TYPE= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 多重 TYPE= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1380I SC=04 DUPLICATE SOR=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の MSG ステートメントでは SOR= 指定は

1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: 複数の SOR= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1381I SC=04 DUPLICATE OPT=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の MSG ステートメントでは OPT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 複数の OPT= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1382I SC=04 DUPLICATE NXT=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の MSG ステートメントでは NXT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 複数の NXT= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1383I SC=04 DUPLICATE PAGE=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の MSG ステートメントでは PAGE= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 複数の PAGE= 指定を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1384I SC=04 DUPLICATE FILL=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の MSG ステートメントでは FILL= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 複数の FILL= 指定を解決し、ジ

ジョブを再実行してください。

DFS1385I SC=04 SOR=FORMATNAME NOT SPECIFIED. '\$\$FMT' USED

説明: SOR= 指定は、この MSG では指定されませんでした。\$\$FMT がフォーマット名として使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 必要なフォーマット名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1386I SC=08 FILL= SPECIFICATION INVALID FOR TYPE=INPUT

説明: FILL= 指定は、TYPE=INPUT の MSG ステートメントで指定されました。ただし、これが有効なのは、TYPE=OUTPUT の MSG ステートメントおよび DPAGE ステートメントの場合のみです。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1387I SC=08 PAGE= SPECIFICATION INVALID FOR TYPE=INPUT

説明: PAGE= 指定は、TYPE=INPUT の MSG ステートメントで指定されました。ただし、これが有効なのは、TYPE=OUTPUT の MSG ステートメントの場合のみです。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1388I SC=04 DUPLICATE SOR= SPECIFICATION INVALID

説明: 単一の LPAGE ステートメントでは SOR= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: SOR= 指定を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1389I SC=08 SOR=DPAGENAME, DPAGENAME OMITTED

説明: SOR= 指定は NULL であるため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: SOR= に値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1390I SC=04 SOR=DPAGENAME, DPAGENAME EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: SOR= dpagename が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい dpagename を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1391I SC=04 COMPARE OFFSET EXCEEDS 5 SIGNIFICANT DIGITS, LAST 5 DIGITS USED

説明: COND= オフセット・パラメーターが 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましいオフセットを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1392I SC=04 COMPARE OFFSET EXCEEDS 32767. VALUE ALTERED TO 32767

説明: COND= オフセット・パラメーター値が 32767 を超えているため、32767 に設定されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1393I SC=08 COMPARE OFFSET DIGIT COUNT IS ZERO. VALUE OF ZERO USED

説明: COND= オフセット・パラメーターが NULL であるため、ゼロに設定されています。

DFS1394I • DFS1400I

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 望ましいオフセット値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1394I SC=04 MULTIPLE COND= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の LPAGE または DPAGE ステートメントでは COND= 指定は、1 つしか許容されないの、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま

す。
プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1395I SC=04 COND= COMPARE LOCATION NAME LENGTH EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: COND= フィールド名が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま

す。
プログラマーの応答: 望ましいフィールド名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1396I SC=08 COND= COMPARE LOCATION NAME LENGTH IS ZERO. NAME SPECIFICATION IGNORED

説明: COND= フィールド名パラメーターは NULL であり、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま

す。
プログラマーの応答: 望ましいフィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1397I SC=08 EXIT= SPECIFICATION INVALID WITH 'LITERAL' PARAMETER. SPECIFICATION IGNORED.

説明: LITERAL パラメーターが指定されているときは、EXIT= は使用できません。EXIT= は無視されま

す。
システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し

DFS1398 INPUT SELECTION ERROR

説明: このメッセージが表示されるのは、次のいずれかの分析入力選択が正しく入力されなかったときです。

- MAX=
- KR=
- NBR=

システムの処置: システムはユーティリティーを終了し

ます。
ユーザーの処置: 正しい分析オプションを入力してくだ

さい。
モジュール: DFSMAID0

DFS1399I SC=08 COND= COMPARE. LITERAL LENGTH IS ZERO. ' ' USED FOR LITERAL

説明: LPAGE ステートメントの COND= 指定のリテラルが省略されました。単一のブランクがリテラルとして使用されます。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されま

す。
プログラマーの応答: 望ましいリテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1400I SC=04 PROMPT= FIELDNAME EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: PROMPT= *fieldname* が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま

す。
プログラマーの応答: 有効な *fieldname* を再度指定し

第 32 章 DFS メッセージ DFS1401I - DFS1450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS1401I SC=08 PROMPT= FIELDNAME
LENGTH IS ZERO. SPECIFICATION
IGNORED**

説明: PROMPT= 指定は NULL だったので、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な PROMPT= *fieldname* ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1402I SC=04 DUPLICATE PROMPT=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の LPAGE ステートメントでは PROMPT= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1403I SC=04 PROMPT= LITERAL
SPECIFICATION CONTAINS NO
TEXT. MSG.NXT=MSGNAME USED**

説明: PROMPT= リテラルが NULL だったため、MSG/NXT= 指定が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効なリテラルを指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1404I SC=04 NXT= MSGNAME EXCEEDS 8
CHARACTERS. TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明: NXT メッセージ名が 8 文字を超えたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効なメッセージ名を指定して、

ジョブを再実行してください。

**DFS1405I SC=04 NXT= MSGNAME TEXT
LENGTH IS ZERO.
MSG.NEXT=MSGNAME USED**

説明: NXT= 指定が NULL だったため、MSG/NXT= メッセージ名が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効なメッセージ名を指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1406I SC=04 DUPLICATE NXT=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の LPAGE ステートメントでは NXT= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1407 TEMPORARY IRLM FAILURE;
UNABLE TO PROCESS GLOBAL
COMMAND**

説明: コマンド・プロセッサが、グローバル・コマンドの処理を試みていて、IRLM に問題を検出しました。この条件は一時的である可能性があります。

システムの処置: コマンドはローカルで処理されます。

プログラマーの応答: IRLM がアクティブであるか確認した上で、グローバル・コマンドを再入力してください。コマンドがローカルで処理されない場合は、問題判別に進んでください。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1408I SC=08 EXIT= SPECIFICATION
INCOMPATIBLE WITH**

MSG.TYPE=OUTPUT

説明: EXIT= 指定は、メッセージ・タイプ出力と矛盾するため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: SEG/MSG ステートメントの矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1409I SC=08 EXIT= EXITNUM EXCEEDS 3 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 3 DIGITS USED

説明: EXIT= 値パラメーターが 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1410I SC=08 EXIT= EXITNUM VALUE EXCEEDS 127. 127 USED

説明: EXIT= *value* パラメーターが 127 を超えています。値は 127 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を EXIT= に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1411I SC=08 EXIT= EXITVECT EXCEEDS 3 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 3 DIGITS USED

説明: EXIT= *vector* 指定が 3 桁を超えているため、末尾の 3 桁が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を EXIT= *vector* に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1412I SC=08 EXIT= EXITVECT VALUE EXCEEDS 255. 255 USED

説明: EXIT= *vector* 指定が 255 を超えたため、値が 255 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を EXIT= パラメーターに指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1413I SC=08 EXIT= EXITNUM HAS NO DIGITS. VALUE OF ZERO USED

説明: EXIT= *value* 指定が NULL です。値がゼロに設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適切な値を EXIT= に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1414I SC=08 EXIT= EXITVECT HAS NO DIGITS. VALUE OF ZERO USED

説明: EXIT= *vector* 指定が NULL です。ゼロに設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適切なベクトルを EXIT= に指定して、ジョブを再実行してください。

DFS1415I SC=04 DUPLICATE EXIT= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の SEG ステートメントでは EXIT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1416I SC=04 DUPLICATE GRAPHIC= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の SEG ステートメントでは GRAPHIC= 指定は、1 つしか許容されません。2 番目の指定は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1417I SC=04 MFLD LABEL LENGTH EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: メッセージ・フィールド (MFLD) ステートメント・ラベルが 8 文字を超えています。先頭の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 有効なラベルを再度指定して、ジ
ョブを再実行してください。

**DFS1418I SC=08 DO COUNT EXCEEDS 2
SIGNIFICANT DIGITS. LAST 2
DIGITS USED**

説明: DO カウントが 2 桁を超えているため、末尾の
2 桁が使用されません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 適切なカウントを使用して DO
を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1419I SC=08 DO COUNT HAS NO DIGITS.
VALUE OF 1 ASSUMED**

説明: DO ステートメントでカウントを指定しませんでした。
1 が想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 適切なカウントを使用して DO
を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1420I SC=04 DFLDNAME EXCEEDS 8
CHARACTERS. TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明: この MFLD ステートメントで指定された装置フ
ィールド名 (dfldname) が 8 文字を超えていたため、
最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 有効な dfldname を再度指定し
て、ジョブを再実行してください。

**DFS1421I SC=08 DFLDNAME HAS NO
CHARACTERS. NO NAME USED**

説明: 装置フィールド名 (dfldname) パラメーターは
NULL だったため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 有効な MFLD パラメーターを指
定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1422I SC=04 LITERAL CONTAINS NO
CHARACTERS. ' ' USED**

説明: この MFLD または DFLD ステートメントで
は、定位置リテラル・パラメーターは NULL であるた
め、ブランクが指定されているものと想定されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 有効なリテラルまたは
MFLD/DFLD パラメーターを指定して、ジョブを再実
行してください。

**DFS1423I SC=04 MULTIPLE LTH= KEYWORDS
INVALID**

説明: システムは複数の LTH= 指定を検出しました。
単一の MFLD ステートメントでは、許容される LTH=
指定は 1 つのみです。2 番目の指定は無視されまし
た。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 指定を 1 つ選択し、ジョブを再
実行してください。

**DFS1424I SC=04 MULTIPLE JUST= KEYWORDS
INVALID**

説明: システムは複数の JUST= 指定を検出しました。
単一の MFLD ステートメントでは JUST= 指定は、1
つしか許容されません。2 番目の指定は無視されまし
た。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 指定を 1 つ選択し、ジョブを再
実行してください。

**DFS1425I SC=04 MULTIPLE FILL= KEYWORDS
INVALID**

説明: システムは複数の FILL= 指定を検出しました。
単一の MFLD ステートメントまたは DPAGE ステ
ートメントでは、FILL= 指定は 1 つしか許容されませ
ん。2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 指定を 1 つ選択し、ジョブを再
実行してください。

**DFS1426I SC=04 MULTIPLE ATTR=
KEYWORDS INVALID**

説明: システムは複数の ATTR= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントでは ATTR= 指定は、1 つしか許容されません。2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 指定を 1 つ選択し、ジョブを再実行してください。

**DFS1427I SC=04 MULTIPLE EXIT= KEYWORDS
INVALID**

説明: システムは複数の EXIT= 指定を検出しました。単一の MFLD ステートメントでは EXIT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 指定を 1 つ選択し、ジョブを再実行してください。

**DFS1428I SC=08 LTH=*nn*, *nn* EXCEEDS 4
SIGNIFICANT DIGITS. LAST 4
DIGITS USED**

説明: LTH= 長さパラメーターが 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を再度指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1429I SC=08 LTH=*nn*, *nn*'S VALUE
EXCEEDS 8000. 8000 USED**

説明: LTH= 長さ値が 8000 を超えていたため、8000 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1430I SC=08 LTH=*nn*, *nn* HAS NO DIGITS.
VALUE OF 1 USED**

説明: LTH= 長さ指定が NULL だったため、1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 長さを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1431I SC=08 LTH=(*pp,nn*), *pp* EXCEEDS 4
SIGNIFICANT DIGITS. LAST 4
DIGITS USED**

説明: LTH= 位置指定が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当する位置パラメーターを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1432I SC=08 LTH=(*pp,nn*), *pp*'S VALUE
EXCEEDS 8000. 8000 USED**

説明: LTH= 位置値が 8000 を超えていたため、8000 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 有効な値を再度指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1433I SC=08 LTH=(*pp,nn*), *pp* HAS NO
DIGITS. VALUE OF 2 USED**

説明: LTH= 位置パラメーターが NULL だったため、2 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当する位置値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1434I SC=08 LTH=(*pp,nn*), *nn* EXCEEDS 4
SIGNIFICANT DIGITS. LAST 4
DIGITS USED**

説明: LTH= 長さ指定が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 長さを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1435I SC=08 LTH=(pp,nn), nn'S VALUE EXCEEDS 8000. 8000 USED

説明: LTH= 長さ値が 8000 を超えていたため、8000 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1436I SC=08 LTH=(pp,nn), nn HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明: LTH= 長さパラメーターが NULL だったため、1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当する値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1437I SC=08 FILL=C'', LITERAL LENGTH IS ZERO. BLANK USED

説明: FILL= リテラル指定が NULL だったため、空白が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 該当するリテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1438I SC=04 FILL=C'', LITERAL LENGTH EXCEEDS 1 CHARACTER. FIRST CHARACTER USED

説明: FILL= リテラル指定が 1 文字を超えていたため、最初の文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: リテラルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1439I SC=04 FILL=X'hh', hh EXCEEDS 2 CHARACTERS. FIRST 2 CHARACTERS USED

説明: FILL= 16 進数ストリングが 16 進文字で長さ 2 文字を超えていたため、最初の 2 文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 16 進数ストリングを再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1440I SC=04 FILL=X'hh', hh HAS NO CHARACTERS. FILL=X'40' USED

説明: FILL= 16 進数ストリング指定が NULL であるため、空白が使用されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい 16 進数ストリングを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1441I SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC), EXNUM EXCEEDS 3 SIGNIFICANT DIGITS. LAST 3 DIGITS USED

説明: EXIT= 数値が 3 桁を超えているため、末尾の 3 桁が使用されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1442I SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC), EXNUM'S VALUE EXCEEDS 127. VALUE OF 127 USED

説明: EXIT= 数値パラメーターが 127 を超えているため、127 に設定されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1443I SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC), EXNUM HAS NO DIGITS. VALUE OF ZERO USED

説明: EXIT= 数値パラメーターが NULL であるため、ゼロに設定されています。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: 望ましいパラメーターを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1444I SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC), EXVEC
EXCEEDS 3 SIGNIFICANT DIGITS.
LAST 3 DIGITS USED**

説明: EXIT= ベクトル指定が 3 桁を超えているため、
末尾の 3 桁が使用されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 望ましい値を再度指定し、ジョブ
を再実行してください。

**DFS1445I SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC),
EXVEC'S VALUE EXCEEDS 255.
VALUE OF 255 USED**

説明: EXIT= ベクトル・パラメーターが 255 を超えて
いるため、255 に設定されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 望ましい値を再度指定し、ジョブ
を再実行してください。

**DFS1446I SC=08 EXIT=(EXNUM,EXVEC), EXVEC
HAS NO DIGITS. VALUE OF ZERO
USED**

説明: EXIT= ベクトル・パラメーター指定が NULL
であるため、ゼロに設定されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 望ましい値を指定し、ジョブを再
実行してください。

**DFS1447I SC=08 COND= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=INPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明: COND= 指定が MSG.TYPE=INPUT と矛盾して
いるため、COND= は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: MSG/LPAGE の矛盾を解決し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1448I SC=08 PROMPT= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=INPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明: PROMPT= 指定が MSG.TYPE=INPUT と矛盾し
ているため、PROMPT= は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: MSG/LPAGE の矛盾を解決し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1449I SC=08 PASSWORD INVALID FOR
MSG.TYPE=OUTPUT. STATEMENT
TREATED AS SEG STATEMENT**

説明: PASSWORD ステートメントが
MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾しているため、
PASSWORD は無視されます。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントか
ら続行されます。

プログラマーの応答: PASSWORD/MSG の矛盾を解決
し、ジョブを再実行してください。

**DFS1450I SC=08 ONLY 1ST MFLD UNDER
LAST PASSWORD STATEMENT
USED WHEN MSG.OPT=3 SPECIFIED**

説明: MSG/OPT=3 指定の場合は、パスワードとして
使用できるのは、PASSWORD ステートメントの後に続
く最初の MFLD のみです。追加の MFLD ステートメ
ントは無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: MSG/PASSWORD の矛盾を解決
し、ジョブを再実行してください。

第 33 章 DFS メッセージ DFS1451I - DFS1500I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS1451I SC=08 POSITIONAL PARAMETER 1
REQUIRES DFLDNAME FOR
LITERAL WHEN MSG.TYPE=OUTPUT
SPECIFIED**

説明: MSG.TYPE=OUTPUT のときは、最初の MFLD パラメーターは、リテラルの装置フィールド名 (dfldname) である必要があります。パラメーターは無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 該当するリテラルの dfldname
を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1452I SC=08 LTH=(pp,nn) INVALID FOR
MSG.TYPE=OUTPUT. pp VALUE
IGNORED**

説明: MFLD LTH=pp 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT
と矛盾しているため、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: MSG/MFLD の矛盾を解決し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1453I SC=08 FILL= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=OUTPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明: FILL= 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾し
ていたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: MSG/MFLD の矛盾を解決し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1454I SC=08 EXIT= SPECIFICATION
INVALID FOR MSG.TYPE=OUTPUT.
SPECIFICATION IGNORED**

説明: EXIT= 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾し
ていたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: MSG/MFLD の矛盾を解決し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1455I SC=08 keyword= SPECIFICATION
INVALID FOR SCA FIELD.
SPECIFICATION IGNORED**

説明: SCA 指定は、MFLD ステートメントでの
ATTR= または JUST= 指定を妨げました。それらは無
視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 必要でない指定を省略して、
MFLD ステートメントを再度指定し、ジョブを再実行
してください。

**DFS1456I SC=08 keyword= SPECIFICATION
INVALID FOR SYSTEM LITERAL
FIELD. SPECIFICATION IGNORED**

説明: システム・リテラル指定は、MFLD ステートメ
ントでの ATTR= または JUST= 指定を妨げました。
keyword= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 必要でない指定を省略して、
MFLD ステートメントを再度指定し、ジョブを再実行
してください。

**DFS1457I SC=08 LTH= SPECIFICATION
INVALID FOR SYSTEM LITERAL
FIELD. SPECIFICATION IGNORED**

説明: システム・リテラル指定が MFLD ステートメン
トでの LTH= 指定を排除したため、LTH= は無視され
ました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1458I SC=08 SYSTEM LITERAL FIELD
INVALID FOR MSG.TYPE=INPUT.
NULL FIELD CREATED**

説明: システム・リテラル指定は、MSG.TYPE と矛盾していたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: MFLD/MSG の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1459I SC=08 SCA FIELD INVALID FOR
MSG.TYPE=INPUT. NULL FIELD
CREATED**

説明: SCA 指定は、MSG.TYPE=INPUT と矛盾していたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: MFLD/MSG の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1460I SC=08 LTH= SPECIFICATION
REQUIRED. VALUE OF 1 ASSUMED**

説明: この MFLD の場合は、LTH= 指定は必須です。何も指定されていなかったため、LTH= は 1 に設定されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい LTH= を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1461I SC=04 MULTIPLE TYPE= KEYWORDS
INVALID**

説明: 単一の DIV または DEV ステートメントで複数の TYPE= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

**DFS1462I SC=04 MULTIPLE FEAT= KEYWORDS
INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の FEAT= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: FEAT= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1463I SC=04 MULTIPLE PEN= KEYWORDS
INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の PEN= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: PEN= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1464I SC=04 MULTIPLE PFK= KEYWORDS
INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の PFK= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: PFK= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1465I SC=04 MULTIPLE CARD=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の CARD= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: CARD= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1466I SC=04 MULTIPLE DSCA=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の DSCA= 指定がなされているため、2 番目の指定は無視されません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DSCA= 指定を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1467I SC=04 MULTIPLE MODE=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の MODE=

指定がなされているため、2 番目の指定は無視されま
す。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: MODE= 指定を訂正し、ジョブ
を再実行依頼してください。

**DFS1468I SC=04 MULTIPLE FTAB=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の FTAB=
指定がなされているため、2 番目の指定は無視されま
す。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: FTAB= 指定を訂正し、ジョブを
再実行依頼してください。

**DFS1469I SC=04 MULTIPLE LDEL=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の LDEL=
指定がなされているため、2 番目の指定は無視されま
す。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: LDEL= 指定を訂正し、ジョブを
再実行依頼してください。

**DFS1470I SC=04 MULTIPLE PAGE=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の PAGE=
指定がなされたため、2 番目の指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: PAGE= 指定を訂正し、ジョブを
再実行依頼してください。

**DFS1471I SC=04 MULTIPLE FORMS=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の FORMS=
指定がなされているため、2 番目の指定は無視されま
す。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: FORMS= 指定を訂正し、ジョブ
を再実行依頼してください。

**DFS1472I SC=04 MULTIPLE SYMSG=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントで複数の
SYMSG= 指定がなされたため、2 番目の指定は無視さ
れました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: SYMSG= 指定を訂正し、ジョブ
を再実行依頼してください。

**DFS1473I SC=08 TYPE=OUTPUT INVALID FOR
DEV TYPE=3600**

説明: 3600 装置タイプは入力専用です。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されま
す。

プログラマーの応答: DIV または DEV が適切な結果
を反映するように訂正し、ジョブを再実行してくださ
い。

**DFS1474I SC=08 TYPE=INOUT INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明: INOUT 装置タイプは 3270 のみです。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: DIV または DEV を訂正し、ジ
ョブを再実行してください。

**DFS1475I SC=08 TYPE=INPUT INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明: 36XX は出力専用装置タイプです。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: DIV または DEV を訂正し、ジ
ョブを再実行してください。

**DFS1476I SC=04 MBRNAME EXCEEDS 8
CHARACTERS. TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明: COPY メンバー名が 8 文字を超えていました
が、これは許容されないため、切り捨てられました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントか
ら続行されます。

プログラマーの応答: 必要な場合は、メンバー名を訂正
し、ジョブを再実行してください。

DFS1477I SC=08 MBRNAME CONTAINS NO CHARACTERS. STATEMENT IGNORED

説明: COPY ステートメントにメンバー名が指定されませんでした。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: COPY ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1478I SC=08 RECURSIVE NESTED COPY OPERATIONS INVALID

説明: メンバーの COPY は、現在はネストされたコピーの一部であり、無効でした。

システムの処置: 処理は続行され、COPY ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: コピーされるメンバーが、以前にコピーされたライブラリーを参照していないことを確認してください。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1479I SC=08 MBRNAME REQUESTED NOT PRESENT IN SYSLIB

説明: この名前のメンバーは、現在指し示されている SYSLIB では検出できませんでした。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: SYSLIB DD ステートメントのメンバー名または PDS を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1480I SC=12 PERMANENT I/O ERROR IN SYSLIB DIRECTORY

説明: 永続エラー条件が SYSLIB PDS ディレクトリーで検出されました。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: SYSLIB PDS ディレクトリーを再作成し、ジョブを再実行してください。

DFS1481I SC=12 SYSLIB DCB NOT OPENED. COPY IGNORED

説明: SYSLIB が指定されていないため、COPY は無視されます。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: SYSLIB を指定するか、COPY を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1482I SC=08 SOR=DPAGENAME REQUIRED

説明: SOR= 指定がこの LPAGE に関しては指定されなかったため、SOR= は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: SOR= DPAGE を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1483I SC=08 DO LINE INCREMENT EXCEEDS 2 DIGITS. LAST 2 DIGITS USED

説明: DO 行増分パラメーターが 2 桁を超えていたため、末尾の 2 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適切な行増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1484I SC=08 DO LINE INCREMENT CONTAINS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明: DO 行増分パラメーターが NULL だったため、1 が指定されているものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適切な行増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1485I SC=08 DO COLUMN INCREMENT EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3 DIGITS USED

説明: DO 列増分パラメーターが 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 必要な列増分を使用して DO を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1486I SC=08 DO COLUMN INCREMENT
CONTAINS NO DIGITS. 'MAX'
USED**

説明: DO 列増分パラメーターが NULL だったため、MAX が指定されているものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 必要な列増分を使用して DO を
再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1487I SC=04 NUMBER OF USER DEFINED
FTAB CHARACTERS EXCEEDS
MAXIMUM FOR SPECIFIED DEVICE
TYPE**

説明: ユーザー定義と事前定義の指定 FTAB 文字の合
計が許容最大値を超えていました。これは 8 である必
要があります。装置タイプを表す事前定義 FTAB 文字
には、274X=HT,NL,LF; SCS1=HT,NL,LF,VT;
SCS2=HT,NL,LF,VT,CR があります。

システムの処置: ユーザー定義の FTAB 文字ストリン
グが切り捨てられます。処理は次のオペランドから続行
されます。

プログラマーの応答: 制限内で適切な FTAB リテラル
を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1488I SC=04 FTAB='LITERAL', LITERAL
HAS NO CHARACTERS. DEFAULT
FTABS USED FOR APPLICABLE
DEVICES**

説明: FTAB リテラル指定が NULL でした。事前定義
FTAB 文字が装置に関して定義されている場合は、それ
らが使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 適切な FTAB= リテラルを指定
し、ジョブを再実行してください。

**DFS1489I SC=04 MEMBER=mmmmmmmmmm NOT
WRITTEN DUE TO SEVERITY
CODE=ss**

説明: メンバー mmmmmmmmm は、その重大度コード
が EXEC パラメーター STOPRC で指定されている値
以上であったため、REFERAL ライブラリーに書き込ま
れませんでした。先行メッセージにエラー、およびこの
メンバーに関するエラーそれぞれの重大度コードが示さ
れています。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントか
ら続行されます。

プログラマーの応答: 示されているエラーを訂正し、ジ
ョブを再実行してください。

**DFS1490I SC=08 SOR=, DPAGE NAME LIST
INVALID FOR MSG.TYPE=OUTPUT.
FIRST NAME USED**

説明: SOR= 指定は、MSG.TYPE=OUTPUT と矛盾し
ていたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: MSG/LPAGE の矛盾を解決し、
ジョブを再実行してください。

**DFS1491I SC=04 LINECNT=nnn, nnn EXCEEDS 3
DIGITS. LAST 3 DIGITS USED**

説明: LINECNT= パラメーターが 999 を超えていま
した。末尾の 3 桁が、LINECNT として使用されまし
た。

システムの処置: 処理は次の PARM フィールドから続
行されます。

プログラマーの応答: PARM ステートメントの
LINECNT= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1492I SC=04 LINECNT=nnn, nnn HAS NO
DIGITS. VALUE OF 55 USED**

説明: LINECNT= パラメーターが数字ではなかったた
め、ページ当たり行数は 55 に設定されました。

システムの処置: 処理は次の PARM フィールドから続
行されます。

プログラマーの応答: PARM ステートメントの
LINECNT= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1493I SC=04 LINECNT=nnn, nnn IS LESS
THAN 25. VALUE OF 55 USED**

説明: LINECNT= パラメーターが 25 より小さかった
ため、ページ当たり行数が 55 に設定されました。

システムの処置: 処理は次の PARM フィールドから続
行されます。

プログラマーの応答: PARM ステートメントの
LINECNT= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行し
てください。

DFS1494I SC=04 STOPRC=nnn, nnn EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3 DIGITS USED

説明: STOPRC パラメーターが 999 を超えていたため、末尾の 3 桁が STOPRC として使用されました。

システムの処置: 処理は次の PARM フィールドから続行されます。

プログラマーの応答: PARM ステートメントの STOPRC= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1495I SC=04 STOPRC=nnn, nnn HAS NO DIGITS. VALUE OF 8 USED

説明: STOPRC= パラメーターが数字ではなかったため、8 に設定されました。

システムの処置: 処理は次の PARM フィールドから続行されます。

プログラマーの応答: STOPRC= パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1496I SC=04 MULTIPLE CURSOR= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の DPAGE ステートメントでは CURSOR= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1497I SC=04 MULTIPLE SELECT= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の DPAGE ステートメントでは SELECT= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1498I SC=04 MULTIPLE ORIGIN= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の DPAGE ステートメントでは ORIGIN= 指定は、1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1499I SC=04 MULTIPLE MULT= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の DPAGE ステートメントでは MULT= 指定は 1 つしか許容されないため、2 番目の指定は無視されました。

プログラマーの応答: 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1500I SC=08 PDB STATEMENT NAME REQUIRES A LABEL

説明: それぞれの区画記述子ブロック (PDB) ステートメントごとに、ラベルが必要です。DEV ステートメントは、このラベルによって PDB を参照します。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB ステートメントのラベルを指定してください。

重大度: 8

第 34 章 DFS メッセージ DFS1501I - DFS1550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1501I SC=08 PDB STATEMENT NAME EXCEEDS 8 CHARACTERS

説明: 区画記述子ブロック (PDB) ステートメントのラベルが 8 文字を超えていました。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB ステートメントの有効なラベルを指定してください。

重大度: 8

DFS1502I SC=12 NO PD STATEMENTS SPECIFIED

説明: それぞれの区画記述子ブロック (PDB) ステートメントには、その後に少なくとも 1 つの区画記述子 (PD) ステートメントが続く必要があります。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、PDB 定義が続行されます。

プログラマーの応答: PDBEND ステートメントより前に、PD ステートメントを少なくとも 1 つ定義してください。

重大度: 12

DFS1503I SC=08 PDBEND STATEMENT HAS BEEN ASSUMED

説明: 区画記述子ブロック (PDB) ステートメントを終了させる必要がある、PDBEND ステートメントが検出されませんでした。指定されているものと想定されています。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: PDB を終了させるための PDBEND ステートメントを指定してください。

重大度: 8

DFS1504 SC=12 KEYWORD 'LUSIZE=' IS REQUIRED ON THE PDB STATEMENT BUT WAS NOT SPECIFIED

説明: 区画記述子ブロック (PDB) ステートメントに、必須の LUSIZE キーワードが存在していませんでした。LUSIZE キーワードでは、表示窓の妥当性検査に使用される画面サイズを示します。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB ステートメントで LUSIZE キーワードを指定してください。

重大度: 12

DFS1505I SC=04 PD NAME SPECIFIED ON SYMSMSG= TOO LONG, IS TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: 区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの SYMSMSG キーワードに関して指定された区画記述子 (PD) 名が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB ステートメントの SYMSMSG キーワードに関して有効な PD 名を指定してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1506I SC=08 SYMSMSG= KEYWORD DOES NOT SPECIFY A NAME

説明: 区画記述子ブロック (PDB) ステートメントに、SYMSMSG キーワードは存在していましたが、その後に必須の区画記述子 (PD) 名が続いていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: SYMSMSG キーワードに関して有効な PD 名を指定してください。

重大度: 8

**DFS1507I SC=04 PDB NAME SPECIFIED ON
PDB= IS TOO LONG, 1ST 8
CHARACTERS USED**

説明: DEV ステートメントの PDB キーワードにある区画記述子ブロック (PDB) 名が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、処理はこの定義に対して続行されます。

プログラマーの応答: PDB オペランドで指定されている名前を訂正してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1508I SC=08 PDB= NAME HAS NO
CHARACTERS**

説明: DEV ステートメントの PDB キーワードでは、区画記述子ブロック (PDB) の名前が必須ですが、名前が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの PDB キーワードで名前を指定してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1509W PSB/DBD *name* DELETE NOT
ALLOWED**

説明: カタログ PSB または DBD リソース (DFSCP000、DFSCD000、および DFSCX000) のいずれかが、ステージング ACBLIB 内に存在しません。カタログが使用可能である間は、IMS オンライン・システムからカタログ・リソースを削除することはできません。

システムの処置: オンライン変更準備フェーズは取り消されます。

システム・プログラマーの応答: ステージング ACBLIB に対して、PSB=DFSCP000 BUILD を使用して ACBGEN を実行します。その後で、/MODIFY PREPARE ACBLIB コマンドまたは INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドを再発行します。

**DFS1510I SC=08 VALUE IN LUSIZE= TOO
LONG, IS TRUNCATED TO 4
DIGITS**

説明: 区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの LUSIZE 値が 4 桁を超えています。値は切り捨てられて 4 桁になります。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、PDB ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB ステートメントで LUSIZE 値を指定してください。

重大度: 4

**DFS1511I SC=08 NO VALUE WAS SPECIFIED
IN LUSIZE= ON PDB STATEMENT
FOR WIDTH AND/OR DEPTH OF
DISPLAY**

説明: 表示画面のサイズを記述するために区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの LUSIZE キーワードに指定される値のセットが、無効だったか欠落していました。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、(PDB) ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: LUSIZE キーワードで有効な値のセットを指定してください。

重大度: 8

**DFS1512E AN ALIAS CATALOG DATABASE
NAME *dbname* IS CODED IN THE
PSB INSTEAD OF ITS STANDARD
NAME**

説明: ACB 生成処理は、PSB 内のカタログ・データベースまたは副次索引で別名が使用されていたために、エラーを検出しました。IMS は自動的に PCB の別名変換を行うため、別名は使用できません。

システムの処置: この PSB の BUILD PSB ジョブは失敗します。

システム・プログラマーの応答: ご使用の PCB 内のカタログ・データベース名および副次索引名で、接頭部 DFSC を使用してください。

**DFS1513I SC=12 PD STATEMENT NAME
REQUIRES A LABEL**

説明: 各区画記述子 (PD) ステートメントにはそれぞれラベルが必要ですが、ラベルがまったく検出されませんでした。DPAGE ステートメントの PD キーワードで

は、このラベルによって PD ステートメントを参照します。

システムの処置: この PD のラベルが生成され、PD ステートメントの処理が継続されます。さらにエラーが検出された場合は、この生成されたラベルが PS ステートメントを参照するのに使用されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントのラベルを指定してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1514I SC=04 PD STATEMENT NAME IS TOO LONG, AND HAS BEEN TRUNCATED TO 8 DIGITS

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントのラベルが 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントの有効なラベルを指定してください。

重大度: 4

DFS1515I SC=12 KEYWORD 'PID=' IS REQUIRED ON THE PD STATEMENT BUT WAS NOT SPECIFIED.

説明: 区画を識別する、必須の PID キーワードが、区画記述子 (PD) ステートメントで指定されませんでした。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで PID キーワードを指定してください。

重大度: 12

DFS1516I SC=12 KEYWORD 'VIEWPORT=' IS REQUIRED ON THE PD STATEMENT BUT WAS NOT SPECIFIED

説明: VIEWPORT キーワードは、各区画記述子 (PD) ステートメントでそれぞれ必須ですが、指定されませんでした。VIEWPORT キーワードでは、ビューポート・サイズを示します。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWPORT キーワードを指定してください。

重大度: 12

DFS1517I SC=12 KEYWORD 'VIEWLOC=' IS REQUIRED ON THE PD STATEMENT BUT WAS NOT SPECIFIED.

説明: VIEWLOC キーワードは、各区画記述子 (PD) ステートメントでそれぞれ必須ですが、指定されませんでした。VIEWLOC キーワードでは、画面上のビューポートのロケーションを示します。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWLOC キーワードを指定してください。

重大度: 12

DFS1518I SC=04 PDNAME SPECIFIED ON PD= IS TOO LONG, 1ST 8 CHARACTERS USED

説明: DPAGE ステートメントの PD キーワードで指定されている区画記述子 (PD) 名が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントの PD キーワードで有効な PD 名を指定してください。

重大度: 4

DFS1519I SC=08 PD= NAME HAS NO CHARACTERS

説明: PD キーワードが DPAGE ステートメントで検出されましたが、区画記述子 (PD) 名が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が継続されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントの PD キーワードで有効な PD 名を指定してください。

重大度: 8

**DFS1520I SC=04 PDNAME SPECIFIED ON
ACTVPID= TOO LONG, 1ST 8
CHARACTERS USED**

説明: DPAGE ステートメントの ACTVPID キーワードで指定されている区画記述子 (PD) 名が 8 文字を超えています。最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントの PD キーワードで有効な PD 名を指定してください。

重大度: 4

**DFS1521I SC=08 ACTVPID= NAME HAS NO
CHARACTERS**

説明: ACTVPID キーワードが DPAGE ステートメントで検出されましたが、名前が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、DPAGE ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントの ACTVPID キーワードで有効な名前を指定してください。

重大度: 8

**DFS1522I SC=08 DUPLICATE PID NUMBERS
SPECIFIED ON TWO OR MORE PD
STATEMENTS WITHIN A PDB
DEFINITION**

説明: この区画記述子ブロック (PDB) 定義内で以前の PD ステートメントで指定された PID 番号が、区画記述子 (PD) ステートメントにあります。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB 定義内でそれぞれの PD ステートメントごとに固有の PID 番号を指定してください。

重大度: 8

**DFS1523I SC=08 PRESENTATION SPACE
VALUE EXCEEDED, TRUNCATED TO
5 DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの PRESPACE キーワードで指定されている値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステ

ートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで有効な PRESPACE 値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1524I SC=08 NULL PRESENTATION SPACE
VALUE IGNORED**

説明: PRESPACE キーワードは区画記述子 (PD) ステートメントで検出されましたが、表示値が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PRESPACE キーワードに有効な値を指定するか、PRESPACE キーワードの指定を省略し、VIEWPORT 値のデフォルトを使用してください。

重大度: 8

**DFS1525I SC=08 VIEWPORT ROWS VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントでの VIEWPORT 行数値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1526I SC=08 VIEWPORT ROWS NULL
VALUE IGNORED**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードで行数値が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な行数値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1527I SC=08 PID VALUE EXCEEDED,
TRUNCATED TO 2 DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの PID キーワードで指定された値が 2 桁を超えています。最初の 2 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PID キーワードの有効な値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1528I SC=08 VIEWPORT ROWS VALUE IS
ZERO**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードでの行数値は、ゼロより大である必要があります。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: VIEWPORT キーワードの有効な行数値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1529I SC=08 VIEWPORT COLS VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードで指定された COLS 値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1530I SC=08 VIEWPORT COLS NULL
VALUE IS INVALID.**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードで COLS に値が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1531I SC=08 PID NULL VALUE IS
INVALID**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの PID キーワードで値が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントの PID キーワードで 0 から 15 までの範囲の値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1532I SC=08 VIEWPORT COLS VALUE IS
ZERO**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT キーワードでの COLS の値は、ゼロより大である必要があります。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWPORT キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1533I SC=08 VIEWLOC ROWS= VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードで指定された行数が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWLOC キーワードの有効な行数値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1534I SC=08 VIEWLOC ROWS NULL
VALUE IS INVALID**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードで行数値が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: この PD ステートメントが受け入れられる前に、ビューポートのロケーションに関して、有効な行数値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1535I SC=08 SCROLLI= ROWS VALUE IS
GREATER THAN THE NUMBER OF
ROWS IN THE PRESENTATION
SPACE**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメント SCROLLI 値が、表示スペースの行数より大でした。スクロールは、表示スペースを超えて拡張を試みました。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで有効な SCROLLI 値を指定してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1536I SC=08 VIEWLOC COLS= VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC キーワードで指定された COLS 値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで VIEWLOC キーワードの有効な COLS 値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1537I SC=08 VIEWLOC COLS NULL
VALUE IGNORED**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWLOC

キーワードで COLS に値が指定されていませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: ビューポートのロケーションに関して、VIEWPORT キーワードで有効な COLS 値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1538I SC=04 PRESENTATION SPACE WAS
SPECIFIED WITH FEWER ROWS
THAN THE VIEWPORT - HAS BEEN
RESET TO THE VIEWPORT SIZE.**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントで指定する PRESPACE 行数値は、VIEWPORT 行数値より小であってはなりません。

システムの処置: PRESPACE 行数値は、デフォルトで VIEWPORT 行数値になります。戻りコード 4 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで有効な PRESPACE 行数値を指定するか、デフォルトを受け入れてください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1539I SC=08 INVALID PID NUMBER
SPECIFIED, MUST BE FROM 0 TO
15**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの PID キーワードで指定された数値が無効でした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントの PID キーワードで 0 から 15 までの範囲の値を指定してください。

重大度: 8

**DFS1540I SC=08 WINDOWOF ROWS VALUE
EXCEEDED, TRUNCATED TO 5
DIGITS**

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの WINDOWOF キーワードで指定された値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで WINDOWOF キーワードの有効な値を指定してください。

重大度: 8

DFS1541I SC=04 WINDOWOF= KEYWORD HAS NO VALUE SPECIFIED

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの WINDOWOF キーワードで値が指定されていませんでした。ゼロという値が想定されました。

システムの処置: ハードウェアがデフォルトを提供します。戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: WINDOWOF キーワードに値を指定してください。

重大度: 4

DFS1542I SC=12 THE CELLSIZE WIDTH OR HEIGHT WAS SPECIFIED AS ZERO, BUT NOT BOTH. THIS COMBINATION IS INVALID. BOTH SET TO ZERO.

説明: CELLSIZE の幅と CELLSIZE の高さのいずれかがゼロとして指定された場合は、両方ともゼロとして指定する必要があります。そうでない場合は、CELLSIZE の幅も高さも両方とも、デフォルトでゼロになります。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: 値またはゼロを CELLSIZE の幅および高さに指定してください。

重大度: 12

DFS1543I SC=08 CELLSIZE HORIZONTAL VALUE EXCEEDED

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで指定されている水平 (文字幅) 値が、最大許容値 12 を超えています。2 桁を超える値が指定されていた場合は、最初の 2 桁のみが使用されました。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントの CELLSIZE キーワードで有効な水平 (文字幅) 値を指定してください。

重大度: 8

DFS1544I SC=04 CELLSIZE WIDTH NULL VALUE, A DEFAULT IS SET

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで水平 (文字幅) 値が指定されていませんでした。この値はデフォルトで 6 ピクセルになります。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントの CELLSIZE キーワードで水平 (文字幅) 値を指定してください。

重大度: 4

DFS1545I SC=08 CELLSIZE VERTICAL SIZE EXCEEDED, TRUNCATED TO 2 DIGITS

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで指定された垂直 (高さ) 値が 2 桁を超えています。最初の 2 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで CELLSIZE キーワードの有効な垂直 (高さ) 値を指定してください。

重大度: 8

DFS1546I SC=04 CELLSIZE VERTICAL SIZE NULL VALUE, A DEFAULT IS SET

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの CELLSIZE キーワードで垂直 (高さ) 値が指定されていませんでした。この値はデフォルトで 12 ピクセルになりました。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントの CELLSIZE キーワードで垂直 (高さ) 値を指定してください。

重大度: 4

DFS1547I SC=08 SCROLLI ROWS VALUE EXCEEDED, TRUNCATED TO 5 DIGITS

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの SCROLLI キーワードで指定されている値が 5 桁を超えています。最初の 5 桁が使用されます。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

DFS1548I • DFS1550I

プログラマーの応答: PD ステートメントで SCROLLI キーワードの有効な値を指定してください。

重大度: 8

DFS1548I SC=04 SCROLLI ROWS NULL VALUE IS IGNORED

説明: 区画記述子 (PD) ステートメントの SCROLLI キーワードで行数値が指定されていませんでした。

システムの処置: ゼロという値が設定され、これによって、ハードウェアではデフォルトになります。戻りコード 4 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで SCROLLI キーワードで行数値を指定してください。

重大度: 4

DFS1549I SC=04 THE OFFSET + THE DEPTH OF THE WINDOW FOR PD STATEMENT (*pdname*) DOES NOT FIT WITHIN THE PARTITION. OFFSET SET TO 00.

説明: WINDOWOF 値が区画記述子 (PD) ステートメントの VIEWPORT 行数値に加算され、表示スペースの行数より大きくなりました。これでは、ビューポート・ウィンドウが表示スペースを超えて拡張することになります。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PD ステートメントで WINDOWOF キーワードの有効な値を指定してください。この値は、0 から表示スペースの行総数の範囲である必要があります。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1550I SC=04 PRESENTATION SPACE WIDTH IS NOT EQUAL TO THE VIEWPORT WIDTH.PRESENTATION SPACE WIDTH IS RESET TO THE VIEWPORT WIDTH.

説明: 表示スペースの幅に対して無効な値が検出されました。値を指定する場合は、ビューポートの幅に等しくする必要があります。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答: 区画記述子 (PD) ステートメントで表示スペースの幅に関して有効な指定を行うか、デフォルトを受け入れてください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 35 章 DFS メッセージ DFS1551I - DFS1600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1551I SC=08 MORE THAN 16 PARTITIONS HAVE BEEN SPECIFIED FOR PDB (*pdname*). ONLY 16 PD STATEMENTS ARE ALLOWED WITHIN A PDB.

説明: 区画記述子ブロック (PDB) 内の区画記述子 (PD) ステートメントの数は、16 を超えてはなりません。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、処理は次の定義から続行されます。

プログラマーの応答: それぞれの PDB ステートメントで定義される PD ステートメントの数が 16 以下であるか確認してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


DFS1552A MADS I/O TIMING STRUCTURE ALLOCATION FAILURE, RC=*rrrr*, RSN=*ssss*

説明: 始動時に、IMS がカップリング・ファシリティ内で長時間使用中許容の構造を割り振ることができませんでした。戻りコード *rrrr* および *ssss* の説明については、IXLCONN 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、IMS を再始動してください。MADS 入出力タイミング機能が必須でない場合は、MADSIOT 指定を DFSVSM xx PROCLIB メンバーから削除し、IMS を再始動してください。

関連資料:

 z/OS: IXLCONN の戻りコードおよび理由コード

DFS1553I MADS I/O TIMING INITIATED FOR AREA *areaname* DDN=*ddname*

説明: ADS が MADS 入出力タイミング条件として処理されました。物理読み取りまたは書き込みは、IMS に

よって使用禁止されていました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前
ddname RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

システムの処置: IMS がこの ADS を内部的に停止します。

プログラマーの応答: MADS 入出力タイミング条件が終了したら、作成ユーティリティーを実行して、新しい ADS を作成してください。

DFS1554E MADS I/O TIMING INITIATION FAILED FOR AREA *areaname* DDN=*ddname* RC=*xx*

説明: IMS は、この ADS で MADS 入出力タイミング条件を検出しましたが、MADS 入出力タイミングの開始に失敗しました。*xx* で示されている理由コードで、障害の原因が示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前
ddname RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

xx 障害の原因を示す理由コード。理由コードは、次のいずれかの値を取ります。

コード 意味

01 AREA にはすでに MADS 入出力タイミング ADS があります。

02 エラーが 2 回目の CI 更新時に発生しました。

03 この IMS は別のリスト構造に接続されています。

システムの処置: IMS がこの ADS を内部的に停止します。

システム・プログラマーの応答: MADS 入出力タイミング条件が終了したら、作成ユーティリティーを実行して、新しい ADS を作成してください。

モジュール: DBFMLBIO

**DFS1555E MADS I/O TIMING PROCESSING
ERROR FOR AREA areaname
DDN=ddname RC=xx**

説明: IMS が MADS 入出力タイミング中にエラーを検出しました。理由コードで障害の原因が示されます。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

xx 次のいずれかの理由を示します。

理由コード (16 進数)

意味

- 01 この AREA にある更新済み CI の数が 1000 を超えているか、MADSIOT 構造エントリーが限度の 1000 に達しました。
- 02 AREA の許容数が 63 を超えました。
- 03 MADS 入出力タイミングが 60 秒以内に終了しませんでした。
- 04 MADS 入出力タイミング条件がリカバリー時に検出されました。
- 05 読み取りエラーがリカバリー時に発生しました。
- 06 書き込みエラーがリカバリー時に発生しました。
- 07 ロック障害がリカバリー時に発生しました。
- 08 論理エラーがリカバリー時に発生しました。
- 09 シャットダウンが MADS 入出力タイミング中に開始されました。
- 0A 読み取りエラーが MADS 入出力タイミング ADS で検出されました。
- 0B MADS 入出力タイミング所有者が構造内で検出されませんでした。
- 0C DMHR バッファーがリカバリー用として取得されませんでした。
- 0D ADS がリカバリーの開始時に、データ共用機能によって停止されました。
- 0E DBRC がゼロ以外の戻りコードを戻しました。DBRC は ADS に停止済みのマークを付けなかった可能性があります。
- 0F IRLM がゼロ以外の戻りコードを戻しました。ADS 停止要求がデータ共用機能に送信されませんでした。

- 11 据え置かれていた 2 番目の CI リフレッシュが、2 番目の CI エラーのため失敗しました。
- 13 ダミー読み取りでロング・ビジー・エラーを受信しました。ADS はクローズします。
- 14 ロング・ビジー・リカバリーでロング・ビジー・エラーを受信したか、2 番目の CI 入出力でロング・ビジー・エラーを受信しました。ADS はクローズします。

システムの処置: IMS がこの ADS を内部的に停止します。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、作成ユーティリティーを実行して、新しい ADS を作成してください。

**DFS1556E MADS I/O TIMING ISLLIST
REQUEST FAILED FOR AREA
areaname RC=rrrr RSN=ssss**

説明: IMS がロング・ビジー構造の処理を試みたとき、エラーが発生しました。

areaname は、ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前です。イベント・コードおよび *rrrr* の説明については、IXLLIST 戻りコードおよび理由コードの情報を参照してください。理由コードの最初の 2 バイト *rrrr* は、以下のいずれかのコードになります。

- X'1001' 戻りコードが 8 より大きい場合は、ロング・ビジー所有者を要求 (WRITE) します。
- X'1002' 戻りコードが X'C' (DBFMLBIO CF_UPDT) に等しい場合は、ロング・ビジー・エントリーを要求 (WRITE) します。
- X'1003' 戻りコードが X'C' (DBFMLBIO CF_UPDT) より大きい場合は、ロング・ビジー・エントリーを要求 (WRITE) します。
- X'1004' 理由コードが 0 または
IXLRNSCODESTATUSUNKNOWN
(DBFMLBIO LONG_BUSY_TKO) に等しくない場合は、新規所有者 ID を要求 (WRITE) します。
- X'1005' 複数エントリー事例で、理由コードが 0 または
IXLRNSCODESTATUSUNKNOWN
(DBFMLBIO LONG_BUSY_TKO) に等しくない場合は、新規所有者 ID を要求 (WRITE) します。
- X'3001' 最初のリスト・ヘッダーのロックング、ゼロ以外の戻りコード (DBFMLBRO RECOVERY_PHASE1)

X'3002' 最初のリスト・ヘッダーに対するロックのリセット、ゼロ以外の戻りコード (DBFMLBRO RECOVERY_PHASE1)

X'3003' DELETE_LIST 要求でゼロ以外の戻りコードを受信しました。DELETE または DELETE_ENTRYLIST は、RSN=IXLRSNTIMEOUT

(DBFMLBRO RECOVERY_PHASE3) のときに再試行されます。

X'3004' 所有者エントリーの削除要求でゼロ以外の戻りコード (DBFMLBRO RECOVERY_PHASE3) を受信しました。

X'3005' READ_LIST 要求でゼロ以外の戻りコードを受信しました。この要求は、RSN=IXLRSNTIMEOUT

(DBFMLBRO RECOVERY_PHASE3) のときに再試行されます。

X'1nnn' 理由コードの場合、このメッセージは DBFMLBIO によって発行されます。X'3nnn' 理由コードの場合、DBFMLBRO によって発行されます。

システムの処置: IMS MADS 入出力タイミング中に、IMS がこの ADS を内部的に停止します。

プログラマーの応答: ADS が停止した場合は、作成ユーティリティを実行して、新しい ADS を作成してください。

モジュール: DBFMLBIO、DBFMLBRO

関連資料:



z/OS: IXLLIST の戻りコードおよび理由コード

DFS1558I MADS I/O TIMING ENDED FOR AREA *areaname* DDN=*ddname*

説明: MADS I/O タイミングが正常に終了しました。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

ロング・ビジー ADS が属するエリアの名前

ddname RECON データ・セットに登録されている長時間使用中 ADS のデータ記述名

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS1559I MADS I/O TIMING STRUCTURE REBUILD INITIATED, RSN=*rr*

説明: ロング・ビジー構造再作成が開始されました。*rr* は、再作成が開始された原因を示し、以下のコードのいずれかになります。

理由コード

説明

01 カップリング・ファシリティでエラーが発生しました。

02 リンク・エラーが検出されました。

03 オペレーターが再作成コマンドを入力しました。

システムの処置: MADS 入出力タイミング機能は、再作成の進行中は中断されます。再作成が正常に完了すると、MADS 入出力タイミング機能は正常に続行されず、再作成が失敗した場合は、MADS 入出力タイミング機能は使用不可になります。

オペレーターの応答: 再作成が正常に完了するか確認してください。再作成中に問題が生じた場合は、システム・プログラマーに通知してください。再作成が失敗した場合は、システム・プログラマーに連絡して理由を判別してください。

DFS1560I SC=08 THE PDNAME SPECIFIED ON THE SYSMMSG= KEYWORD ON THE PDB STATEMENT DOES NOT EXIST IN THE PD STATEMENTS WITHIN THIS PDB.

説明: SYSMMSG キーワードで指定されている区画記述子 (PD) ステートメント名が、この区画記述子ブロック (PDB) 定義内のいずれの区画記述子 (PD) ステートメントでも、ラベル (名前) として検出されませんでした。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: SYSMMSG キーワードの PD ステートメント名が、PD ステートメントでの名前に対応するか確認してください。

重大度: 8

DFS1561I SC=08 THE VIEWPORT POSITION AND WIDTH FOR PD STATEMENT (*pdname*) DOES NOT FIT ON THE SCREEN SPECIFIED BY THE PDB

説明: このビューポートに必要な画面の幅が、区画記述子ブロック (PDB) ステートメントでの LUSIZE 幅指定を超えています。このエラーが発生するのは、画面の左からのビューポートのオフセットにビューポートの列の

数 (幅) を加えて計算した PELS または COLS の数が、LUSIZE キーワードで指定された PELS または COLS の数より大きいときです。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答: ビューポートの寸法およびオフセット (画面上のロケーション) が LUSIZE 値を超えていないか確認してください。

重大度: 8

DFS1562I SC=08 THE VIEWPORT POSITION AND DEPTH FOR PD STATEMENT (*pdname*) DOES NOT FIT ON THE SCREEN SPECIFIED BY THE PDB

説明: このビューポートに必要な画面の縦の長さの合計が、区画記述子ブロック (PDB) ステートメントの LUSIZE キーワードで指定されている縦の長さを超えています。このエラーが発生するのは、画面の上部からのビューポートのオフセットにビューポートの行数 (縦の長さ) を加えて計算した PELS または COLS の数が、LUSIZE キーワードで指定された PELS または COLS の数より大きいときです。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答: ビューポートの寸法およびオフセット (画面上のロケーション) が LUSIZE 値を超えていないか確認してください。

重大度: 8

DFS1563I SC=08 THE AREA ON THE DISPLAY SPECIFIED FOR THE VIEWPORTS ON PD STATEMENTS (*pdname* and *pdname*) OVERLAP.

説明: 指定された区画記述子 (PD) ステートメントでのビューポートのサイズおよびロケーションの指定が原因で、VIEWPORTS がオーバーラップしました。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答: 指定された PD ステートメントでのビューポートのサイズおよびロケーションの指定を訂正して、オーバーラップしないようにしてください。

重大度: 8

DFS1564I SC=08 DUPLICATE PD NAME (*pdname*) DETECTED ON THE PD STATEMENTS WITHIN THIS PDB

説明: 区画記述子ブロック (PDB) 定義内で、重複区画記述子 (PD) ステートメント名が使用されてはなりません。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: PDB 定義内の各 PD ステートメントごとに、それぞれ固有の名前があるか確認してください。

重大度: 8

DFS1565I SC=04 WARNING - PD STATEMENT (*pdname*) CANNOT BE CHECKED FOR OVERLAP WITH OTHER VIEWPORTS DUE TO CELLSIZE = ZERO

説明: 示されたビューポートは、他の VIEWPORTS とオーバーラップする可能性があります。VIEWPORTS は、画面上の他の VIEWPORTS とオーバーラップする可能性があるかチェックされます。ただし、CELLSIZE がゼロとして指定されているときは、ビューポート・サイズは不明であり、他の VIEWPORTS のサイズと比較できません。

システムの処置: 戻りコード 4 が設定され、区画記述子 (PD) ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 4

DFS1566I SC=12 PDB DOES NOT SPECIFY LUDEFN=PELS, BUT VARIABLE CELL SIZES EXIST IN PD STATEMENTS. THIS IS INVALID.

説明: LUDEFN=PELS が指定されている場合を除いて、区画記述子ブロック (PDB) 内のすべての区画記述子 (PD) ステートメントは、セル・サイズが同じである必要があります。異なるセル・サイズが少なくとも 2 つ検出されました。

システムの処置: 戻りコード 12 が設定され、PD ステートメントの処理が続行されます。

プログラマーの応答: ビューポート・オフセットをピクセル単位で指定するか、セル・サイズがすべての PD ステートメントで同じになるようにするか、いずれかを行ってください。

重大度: 12

**DFS1567I MADS I/O TIMING STRUCTURE
REBUILD COMPLETED**

説明: 多重エリア・データ・セット (MADS) 入出力タイミ
ング用構造再作成が正常に完了しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS1568E MADS I/O TIMING STRUCTURE
REBUILD FAILED, RSN=rr**

説明: IMS システムの 1 つが多重エリア・データ・セ
ット (MADS) 入出力タイミング用構造再作成への参加
に失敗しました。理由コードで障害の原因が示されま
す。

コード
説明

01 この IMS は構造に接続しましたが、別の IMS が
構造への接続に失敗しました。

02 この IMS が構造に接続できません。

システムの処置: MADS 入出力タイミング機能が使用
不可になります。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、IMS (ただし、メ
ッセージを出した IMS ではない) から /START
MADSIOT コマンドを出して、MADS 入出力タイミ
ングを再始動してください。問題が訂正できない場合は、
エラーを生じた IMS を停止し、/START MADSIOT
コマンドを出してください。

**DFS1569I SC=08 PDB= WAS SPECIFIED ON
THE DEV STATEMENT, BUT PD= IS
NOT SPECIFIED ON THE DPAGE
STATEMENT.**

説明: 区分化が使用されるときは、DEV ステートメン
トで PDB キーワードを指定し、DPAGE ステートメン
トで PD キーワードを指定する必要があります。

システムの処置: 処理は次の DEV、MSG、または
FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 区分化が使用される場合は、PDB
キーワードを DEV ステートメントで指定し、PD キ
ーワードを DPAGE ステートメントで指定してくださ
い。それ以外の場合は、これらのステートメントから両
方のキーワードを除去し、ジョブを再実行してくださ
い。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1570I SC=08 PD= WAS SPECIFIED ON THE
DPAGE STATEMENT, BUT PDB= IS
NOT SPECIFIED ON THE DEV
STATEMENT**

説明: 区分化が使用されるときは、DEV ステートメン
トで PDB キーワードを指定し、DPAGE ステートメン
トで PD キーワードを指定する必要があります。

システムの処置: 処理は次の DEV、MSG、または
FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 区分化が使用される場合は、PDB
キーワードを DEV ステートメントで指定し、PD キ
ーワードを DPAGE ステートメントで指定してくださ
い。それ以外の場合は、これらのステートメントから両
方のキーワードを除去し、ジョブを再実行してくださ
い。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1571I SC=08 ACTVPID= WAS SPECIFIED
ON THE DPAGE STATEMENT, BUT
PDB= IS NOT SPECIFIED ON THE
DEV STATEMENT.**

説明: ACTVPID キーワードが DPAGE ステートメン
トで指定できるのは、PDB キーワードが DEV ステ
ートメントで指定される時のみです。

システムの処置: 処理は次の DEV、MSG、または
FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 区分化が使用される場合は、PDB
キーワードを DEV ステートメントで指定してくださ
い。それ以外の場合は、ACTVPID キーワードを
DPAGE ステートメントから除去し、ジョブを再実行し
てください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1572I SC=08 PDB= WAS SPECIFIED ON
THE DEV STATEMENT, BUT THERE
ARE NO DPAGE STATEMENTS.
THERE MUST BE AT LEAST ONE
DPAGE.**

説明: PDB キーワードが DEV ステートメントで指定できるのは、DPAGE ステートメントが少なくとも 1 つ定義されている場合のみです。

システムの処置: 戻りコード 8 が設定され、処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 区分化が使用される場合は、PDB キーワードが DEV ステートメントで指定されているか検証し、DPAGE ステートメントを少なくとも 1 つ定義し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1573I SC=04 THE PRESENTATION SPACE VALUE EXCEEDS 32767. VALUE ALTERED TO 32767.

説明: 行数または列数の指定が 32767 を超えています。値は 32767 に設定されています。

システムの処置: 処理は次の DEV、MSG、または FMT 定義から続行されます。

プログラマーの応答: 行数および列数の指定が 32767 を超えていないか確認し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、8、16

重大度: 4

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1586I SC=04 MIXED DATA FIELD SPANNING LINES MIGHT RESULT IN DATA TRUNCATION

説明: DBCS/EBCDIC 混合フィールドの DBCS データが偶数境界から始まり、次の行に継続するときは、MFS は最後の文字を空白で置き換え、最後の文字を次の行の始めに印刷します。その結果、それぞれの行で印刷位置が 1 つ失われ、それぞれの行から文字が 1 字切り捨てられます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要な場合は、DBCS/EBCDIC 混合フィールドを 2 つのフィールドに分割し、ジョブを再実行してください。

DFS1587I SC=04 EGCS FIELD SPECIFIED ON AN EVEN COLUMN

説明: これは警告メッセージです。EGCS フィールドが偶数列に指定されていました。装置によっては、拡張図形文字セット・データは、奇数列に指定する必要があります。なお、行の最初の列が 1 列目です。

システムの処置: POS 指定が未変更のまま受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 指定にエラーがある場合は、POS キーワードの列指定を訂正し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。フォーマットが、IBM 5550 ファミリー用に設計されている場合は、このメッセージを無視できます。

DFS1588I SC=04 SO/SI CREATION SUPERCEDED EGCS FIELD

説明: MIX または MIXS が EGCS 'hh' と一緒に指定されました。MIX または MIXS の値の方が EGCS 'hh' 値に優先します。

システムの処置: IMS は EGCS 値を無視し、装置デフォルトを使用します。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントで EGCS または DBCS/EBCDIC 混合フィールドを定義する場合は、キーワードを訂正し、ジョブを再実行するか、装置デフォルト値を受け入れるか、いずれかを行ってください。

DFS1589I SC=04 OUTL 'hh', BOX, RIGHT, LEFT, OVER, UNDER EXCLUSIVE

説明: DFLD ステートメントで指定されているフィールド枠取りキーワードは、相互排他的で同時に使用できませんでした。

システムの処置: MFS は、最初に指定されているフィールド枠取り機能を使用します。

プログラマーの応答: デフォルトを使用したくない場合は、フィールド枠取り指定を訂正してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1590I SC=04 OUTL VALUE SHOULD BE X'00' to X'0F', X'00' ASSUMED.

説明: OUTL 'hh' キーワードで指定されているフィールド枠取り値が、X'00' と X'0F' の間の数値ではありませんでした。

システムの処置: MFS は、デフォルト値 X'00' を使用します。

プログラマーの応答: デフォルト値を使用したくない場合は、フィールド枠取り指定を訂正し、必要であればジョブを再実行してください。

DFS1591I SC=08 SO CONTROL CHARACTER IS OPEN

説明: DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルに、対でない SO 制御文字が含まれていました。

システムの処置: MFS が MOD/MID または DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答: DBCS/EBCDIC 混合フィールドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1592I SC=08 THERE IS A REDUNDANT TRAILING SI CHARACTER

説明: DBCS/EBCDIC 混合フィールド・リテラルで右 SI 制御文字が重複していました。

システムの処置: MFS が MOD/MID または DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答: DBCS/EBCDIC 混合フィールドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1593I SC=08 FIELD OUTLINING INVALID FOR 3270P DEVICE TYPE

説明: DFLD ステートメントでフィールド枠取りが 3270P に関して指定されましたが、装置タイプ 3270P では無効でした。

システムの処置: MFS はフィールド枠取り指定を無視します。

プログラマーの応答: 装置タイプを訂正するか、フィールド枠取り指定を DFLD ステートメントから除去し、その上でジョブを再実行してください。

DFS1594I SC=08 MIX, MIXD, MIXS, MIX'nn', MIXS'nn' ARE EXCLUSIVE

説明: MIX、MIXD、MIXS、MIX'nn'、および MIXS'nn' は、相互排他的で同時には使用できないキーワードですが、そのうちの複数のキーワードが DFLD ステートメントで指定されました。

システムの処置: MFS が DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答: これらのキーワードのいずれか 1 つのみを DFLD ステートメントで指定してから、ジョブを再実行してください。

DFS1595I SC=04 MAXIMUM VALUE FOR MIX/MIXS'nn' is 31, DEFAULT SET AS xx

説明: MIX/MIXS'nn' キーワードで指定された値が、許容最大値 31 を超えていました。xx がデフォルトとして使用されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: デフォルトの MIX/MIXS'nn' 値では不十分な場合は、値を訂正してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1596I SC=04 DEFAULT CALCULATED IS xx FOR MIX/MIXS

説明: MFS が MIX/MIXS のデフォルトを xx として計算しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: デフォルトの MIX/MIXS'nn' 値では不十分な場合は、値を訂正してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1597I SC=04 MIXD INVALID FOR MIXED MODE LITERAL FOR SCS1

説明: DFLD ステートメントで DBCS/EBCDIC 混合リテラル・フィールドに関して指定された MIXD キーワードは、SCS1 プリンターの場合は無効でした。

システムの処置: MFS はキーワード MIXD を無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答: 装置タイプまたはキーワードを訂正してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1598I SC=04 MIXS and MIX/MIXS WITH 'nn' VALID ONLY FOR TYPE=SCS1

説明: MIXS または MIX/MIXS'nn' が、SCS1 プリンター以外の装置に関して指定されましたが、これが有効なのは、SCS1 プリンターの場合のみです。

システムの処置: MFS は無効のキーワードを無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答: MIXS または MIX/MIXS'nn' 指定を DFLD ステートメントから除去してから、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1599I • DFS1600I

DFS1599I SC=08 MIXED MODE LITERAL CONTAINS DBCS STRING WITH ODD LENGTH

説明: 奇数長の DBCS データが DBCS/EBCDIC 混合フィールド/リテラルで指定されましたが、DBCS データは偶数長である必要があります。

プログラマーの応答: MFS が MOD/MID ブロックおよび DOF/DIF ブロックを作成することはありません。

プログラマーの応答: DBCS/EBCDIC 混合フィールドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1600I SC=08 PFK= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: この装置タイプに関するプログラム・ファンクション・キー指定は無効であるため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV または PFK= を訂正し、ジョブを再実行してください。

第 36 章 DFS メッセージ DFS1601I - DFS1650I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1601I SC=08 PEN= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: PEN= 指定が装置タイプと矛盾していたため、この PEN= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、PEN= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1602I SC=08 CARD= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: CARD= 指定が装置タイプと矛盾していたため、CARD= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、CARD= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1603I SC=08 FTAB= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: FTAB= 指定が装置タイプと矛盾していたため、FTAB= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、FTAB= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1604I SC=08 LDEL= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: LDEL= 指定が装置タイプと矛盾していたため、LDEL= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、LDEL= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1605I SC=08 DSCA= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: DSCA= 指定が装置タイプと矛盾していたため、DSCA= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、DSCA= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1606I SC=08 MODE= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: MODE= 指定が装置タイプと矛盾していたため、MODE= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、MODE= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1607I SC=08 PAGE= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: PAGE= 指定が装置タイプと矛盾していたため、PAGE= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、PAGE= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1608I SC=08 FORMS= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: FORMS= 指定が装置タイプと矛盾していたため、この FORMS= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、FORMS= を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1609I SC=08 SYSMMSG= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: SYSMMSG= 指定が装置タイプと矛盾していたため、SYSMMSG= 指定は無視されました。

DFS1610I • DFS1618I

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、SYSMSG=
を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1610I SC=08 FEAT=IGNORE IS THE ONLY ALLOWABLE SPECIFICATION FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: この装置タイプでは、FEAT= 指定が可能なのは
IGNORE のみであるため、IGNORE が指定されている
ものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 矛盾するステートメントを調べ、
エラーを訂正し、ジョブを実行してください。

DFS1611I SC=08 FEAT=VALUE(S) SPECIFIED INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: FEAT= 指定が装置タイプと矛盾していたため、
FEAT= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、FEAT= を
除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1612I SC=08 PAGE=EJECT PARAMETER(S) INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: PAGE= 指定が装置タイプと矛盾していたため、
PAGE= 指定は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: DEV を訂正するか、PAGE= を
除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1613I SC=08 FEAT=PFK FORCED FOR PFK= SPECIFICATION

説明: PFK= が指定されましたが FEAT=PFK が指定さ
れなかったため、FEAT=PFK が想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

DFS1614I SC=08 FEAT=PEN FORCED FOR PEN= SPECIFICATION

説明: PEN= が指定されましたが FEAT=PEN が指定
されなかったため、FEAT=PEN が想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

DFS1615I SC=08 FEAT=CARD FORCED FOR CARD= SPECIFICATION

説明: CARD= が指定されましたが FEAT=CARD が
指定されなかったため、FEAT=CARD が想定されまし
た。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

DFS1616I SC=08 FEAT=PARAMETERS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明: 示されているフィーチャーは共存できないため、
出現順に受け入れられました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 必要なフィーチャーを選択し、ジ
ョブを再実行してください。

DFS1617I SC=04 PEN=FIELDNAME, FIELDNAME TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: PEN= フィールド名が 8 文字を超えているた
め、最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: フィールド名を訂正し、ジョブを
再実行してください。

DFS1618I SC=08 PEN=FIELDNAME, FIELDNAME HAS NO CHARACTERS

説明: フィールド名は PEN= 指定に入力されなかった
ため、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1619I SC=04 PFK=(FIELDNAME,
FIELDNAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明: PFK= フィールド名が 8 文字を超えているため、最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1620I SC=08 PFK=(FIELDNAME,
FIELDNAME HAS NO CHARACTERS**

説明: フィールド名は PFK= 指定に入力されていなかったため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1621I SC=04 CARD=FIELDNAME,
FIELDNAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明: CARD= フィールド名が 8 文字を超えているため、最初の 8 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1622I SC=08 CARD=FIELDNAME,
FIELDNAME HAS NO CHARACTERS**

説明: フィールド名は CARD 指定に入力されていなかったため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1623I SC=04 DSCA=X 'HEXSTRING',
HEXSTRING TRUNCATED TO 4 HEX
DIGITS**

説明: DSCA= ストリングが 16 進数 4 桁より大きか

ったため、最初の 16 進数 4 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DSCA= ストリングを 16 進数 4 桁に制限し、ジョブを再実行してください。

**DFS1624I SC=08 DSCA=X 'HEXSTRING',
HEXSTRING HAS NO CHARACTERS.
X'0000' USED**

説明: DSCA=X 指定にストリングが指定されなかったため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DSCA= を訂正して、ジョブを再実行してください。

**DFS1625I SC=04 DSCA=nnnn, nnnn
TRUNCATED TO LAST 15 DIGITS**

説明: DSCA= *integer* が 15 桁を超えていたため、末尾の 15 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DSCA= *integer* を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1626I SC=04 DSCA=nnnn, nnnn HAS NO
DIGITS. DSCA=0 USED**

説明: DSCA= 指定に桁数がなかったため、ゼロに設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DSCA= *integer* を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1627I SC=04 FORMS='LITERAL' EXCEEDS
16 CHARACTERS. FIRST 16
CHARACTERS USED**

説明: 示されている FORMS= リテラルは、長さが 16 文字を超えているため、最初の 16 文字が使用されません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: FORMS= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1628I SC=04 PAGE=nnnn EXCEEDS 255. 255 USED.

説明: PAGE= *value* が許容限度 255 行を超えています。255 行という値が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの PAGE= *value* を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1629I SC=04 PAGE=nnnn, nnnn TRUNCATED TO 4 DIGITS

説明: PAGE= *value* が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: PAGE= *value* を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1630I SC=04 PAGE=(nnnn, nnnn HAS NO DIGITS. PAGE=55 USED

説明: DEV ステートメントの PAGE= 指定での行数が NULL だったため、55 が使用されました。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: 55 以外の行数にしたい場合は、指定を訂正してから、ジョブを再実行してください。

DFS1631I SC=04 FORMS='LITERAL', LITERAL HAS NO CHARACTERS. 4 BLANKS USED

説明: FORMS= *literal* リテラルが NULL だったので、4 つのブランクが使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: FORMS= *literal* を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1632I SC=04 SYSMMSG=FIELDNAME, FIELDNAME TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: SYSMMSG= フィールド名が 8 文字を超えたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: SYSMMSG= フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1633I SC=08 SYSMMSG=FIELDNAME, FIELDNAME HAS NO CHARACTERS

説明: SYSMMSG= はフィールド名を指定していなかったため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: SYSMMSG= フィールド名を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1634I SC=08 CURSOR=((LINENO, LINENO HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明: CURSOR= 指定の行数パラメーターがブランク (NULL) だったため、1 という値が指定されているものと想定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1635I SC=08 CURSOR=((LINENO, LINENO EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3 USED

説明: CURSOR= 指定の行数パラメーターが 3 桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1636I SC=08 CURSOR=((LINENO, LINENO VALUE EXCEEDS PHYSICAL PAGE LIMITS FOR SPECIFIED DEVICE. LIMIT VALUE USED

説明: CURSOR= 指定の行数パラメーターが装置制限を超えていました。装置タイプの行数最大値が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: CURSOR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1637I SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
COLNO HAS NO DIGITS. VALUE
OF 2 USED**

説明: CURSOR= の列数パラメーターに桁数がなかったため、値 2 が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1638I SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
COLNO EXCEEDS 3 DIGITS. LAST 3
DIGITS USED**

説明: CURSOR= 指定の列数パラメーターが 3 桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1639I SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
COLNO EXCEEDS DEVICE
CAPACITY. DEVICE CAPACITY
LIMIT USED**

説明: CURSOR= 指定の列数パラメーターが装置制限を超えています。装置タイプの列数最大値が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: CURSOR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1640I SC=08 CURSOR=((LINENO,COLNO,
FIELDNAME, FIELDNAME HAS NO
CHARACTERS. FIELDNAME
IGNORED**

説明: CURSOR= 指定のフィールド名パラメーターは NULL であり、無視されます。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: 望ましい場合は、フィールド名を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1641I SC=08 CURSOR=((LINENO,
COLNO,FIELDNAME,FIELDNAME,
TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明: CURSOR= 指定のフィールド名パラメーターが 8 桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: フィールド名を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1642I SC=08 COND=(OFFSET, OFFSET HAS
NO DIGITS. VALUE OF 0 USED**

説明: COND= 指定のオフセット値に桁数がないので、ゼロに設定されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1643I SC=08 COND=(OFFSET, OFFSET
TRUNCATED TO LAST 5 DIGITS**

説明: COND= 指定のオフセット値が 5 桁を超えているため、切り捨てられます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 値を再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1644I SC=08 COND=
(OFFSET,OPER,'LITERAL', LITERAL
HAS NO CHARACTERS. SINGLE
BLANK USED**

説明: COND= 指定のリテラル・パラメーターが NULL であるため、ブランクが使用されています。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 望ましいリテラルを再度指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1645I SC=08 CURSOR= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE TYPE
SPECIFIED**

説明: CURSOR= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するので、無視されます。

DFS1646I • DFS1650I

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行
してください。

**DFS1646I SC=08 COND= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE TYPE
SPECIFIED**

説明: COND= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するの
で、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1647I SC=08 SELECT= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE TYPE
SPECIFIED**

説明: SELECT= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するの
で、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1648I SC=08 ORIGIN= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE TYPE
SPECIFIED**

説明: ORIGIN= 指定は、装置タイプ指定と矛盾するの
で、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1649I SC=08 MULT= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE TYPE
SPECIFIED**

説明: MULT= 指定は、指定された装置タイプと矛盾し
ていたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1650I SC=08 FILL= SPECIFICATION
INVALID FOR DEVICE OR DIVTYPE
SPECIFIED**

説明: FILL= 指定は、指定された装置タイプまたは
DIVTYPE と矛盾していました。 FILL= は、
DIV=INPUT または DEVTYPE=3600 の場合は許可され
ないため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: 矛盾を解決し、ジョブを再実行し
てください。

第 37 章 DFS メッセージ DFS1651I - DFS1700I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1651I SC=04 MULTIPLE POS= KEYWORDS INVALID

説明: DFLD ステートメントでは POS= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: POS= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1652I SC=04 MULTIPLE LTH= KEYWORDS INVALID

説明: DFLD ステートメントでは LTH= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: LTH= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1653I SC=04 MULTIPLE ATTR= KEYWORDS INVALID

説明: DFLD ステートメントでは ATTR= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: ATTR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1654I SC=04 MULTIPLE PEN= KEYWORDS INVALID

説明: DFLD ステートメントでは PEN= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: PEN= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1655I SC=04 MULTIPLE OPCTL= KEYWORDS INVALID

説明: DFLD ステートメントでは OPCTL= パラメーターは 1 つしか許容されないため、2 番目のパラメーターは無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: OPCTL= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1656I SC=08 POS=(*lll*, *lll*) TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: POS=*lll* 指定が 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: POS= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1657I SC=08 EATTR=(*parm1*,*parm2*), PARMS CONTAIN MUTUALLY EXCLUSIVE SPECIFICATIONS

説明: EATTR = 指定内に、矛盾するパラメーターがありました。

システムの処置: 属性は受け入れられ、その出現順に設定されます。2 番目のパラメーター (*parm2*) は受け入れられません。処理は次のパラメーターから続行されます。

プログラマーの応答: 必要な属性を選択して、ジョブを再実行してください。

DFS1658I SC=08 POS=(*lll*, *lll*) HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明: POS=*lll* パラメーターに桁数がないので、1 に設定されました。

DFS1659I • DFS1667I

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1659I SC=08 POS=(lll,ccc,ccc TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: POS= 列番号が 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 必要な列を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1660I SC=08 POS=(lll,ccc ccc OUTSIDE DEFINED LINE BOUNDARIES FOR DEVICE. ccc ADJUSTED TO LINE

説明: POS= 列番号は、装置に関する定義済み行境界の外側にあります。行境界の左にくる値は、装置左マージン値 +1 にリセットされます。行境界の右にくる値は、装置右マージン値 (DEV TYPE=3270P または 274X の場合は、-1) にリセットされます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: POS= キーワードを再指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1661I SC=08 POS=(lll,ccc ccc HAS NO DIGITS. DEVICE LEFT MARGIN VALUE +1 IS USED

説明: POS= 列番号に桁数がなかったため、指定されている装置の左マージン値 +1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: POS= キーワードを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1662I SC=08 POS=(lll,ccc,ppp,ppp TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: POS= ページ番号が 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 必要なページ番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1663I SC=08 POS=(lll,ccc,ppp,ppp HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明: POS= ページ番号に桁数がないので、1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 必要なページ番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1664I SC=08 POS=nnn, nnn TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: POS= 番号が 3 桁を超えていたため、末尾の 3 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1665I SC=08 POS=nnn, nnn HAS NO DIGITS. LEFT MARGIN VALUE USED

説明: POS= 番号に桁数がありませんでした。装置の左マージン値に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1666I SC=08 LTH=nnnn, nnnn TRUNCATED TO LAST 4 DIGITS

説明: LTH= 指定が 4 桁を超えていたため、末尾の 4 桁が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1667I SC=08 LTH=nnn, nnn HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 USED

説明: LTH= 指定に桁数がないので、1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 長さを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1668I SC=08 ATTR=(parms), PARMS
CONTAINS MUTUALLY EXCLUSIVE
SPECIFICATIONS**

説明: ATTR= 指定内に、矛盾するパラメーターがありました。属性は受け入れられ、その出現順に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 属性を訂正して、ジョブを再実行してください。

**DFS1669I SC=08 PEN='LITERAL', LITERAL HAS
NO CHARACTERS. ' ' USED**

説明: PEN= *literal* が NULL だったため、ブランクに設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: リテラルを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1670I SC=04 OPCTL=TABLENAME,
TABLENAME TRUNCATED TO 8
CHARACTERS**

説明: OPCTL= *tablename* が 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: *tablename* 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1671I SC=08 OPCTL=TABLENAME,
TABLENAME HAS NO
CHARACTERS. OPCTL FUNCTION
NEGATED**

説明: OPCTL= *tablename* が NULL だったため、OPCTL= は無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 必要なテーブル名を入力し、ジョブを再実行してください。

**DFS1672I SC=08 POS=(lll,ccc, ccc DEFAULTED
TO DEVICE LEFT MARGIN VALUE
+1**

説明: MODE=RECORD が指定されて POS= 列番号が指定されなかった場合、POS= 列は左マージン値 +1 に設定されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1673I SC=08 POS=nnn REQUIRED FOR
STREAM MODE**

説明: DFLD POS= キーワードのレコード・モード形式が示されたのは、MODE=STREAM のときです。形式 POS=nnn が必須です。次に使用可能なストリーム位置、または左マージン値が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの MODE= キーワード、または DFLD ステートメントの POS= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1674I SC=08 LTH=nnn OMITTED.
DEFAULTED TO LTH=1**

説明: この DFLD に LTH= パラメーターが指定されていないため、1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: LTH= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1675I SC=08 DFLD MUST HAVE
DFLDNAME/LITERAL/SCA OR
PASSWORD**

説明: 次の DFLDNAME/LITERAL/SCA または PASSWORD の一方が、DFLD ステートメントに関して指定される必要があります。

システムの処置: DFLD ITB の固定名は、TEMPNAME に設定されます。

プログラマーの応答: DFLDNAME/LITERAL/SCA または PASSWORD 指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS1676I SC=08 LITERAL SPECIFICATION
INCOMPATIBLE WITH DFLDNAME**

説明: リテラル・タイプ DFLD ステートメントにラベルが付けられていない可能性があります。

システムの処置: リテラルは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: ラベルまたはリテラルを DFLD ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1677I SC=08 PASSWORD SPECIFICATION
INCOMPATIBLE WITH DFLDNAME**

説明: DFLD ステートメントは、パスワード入力用に予約されていますが、ラベルが付けられていない可能性があります。

システムの処置: ラベルは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: パスワード指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1678I SC=08 keyword=*operand* INVALID
FOR SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明: 指定されたキーワードのオペランドは、DEV ステートメントの TYPE= オペランドで指定されている装置タイプに関しては使用できません。

システムの処置: キーワード・オペランドは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: オペランドを除去するか、DEV TYPE= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1679I SC=08 ATTR=(*parms*) INVALID FOR
THIS DEVICE**

説明: ATTR=(*parms*) が有効なのは、3270 ディスプレイ装置タイプの場合のみであり、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV/DFLD 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1680I SC=08 PEN= SPECIFICATION
INVALID FOR THIS DEVICE**

説明: PEN= 指定は、この装置タイプに関しては無効であり、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV/DFLD 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1681I SC=08 PASSWORD INVALID FOR
THIS DEV DIV TYPE**

説明: PASSWORD パラメーターは、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: PASSWORD の矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1682I SC=08 OPCTL= INVALID FOR THIS
DEV DIV TYPE**

説明: OPCTL= パラメーターは、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: OPCTL= の矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1683I SC=08 ATTR= INVALID FOR DEV
DIV TYPE**

説明: ATTR= パラメーターは、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していたため、無視されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: ATTR= の矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1684I SC=08 LITERAL INVALID FOR THIS
DEV DIV TYPE**

説明: DFLD リテラル指定は、指定された DEV/DIV の組み合わせと矛盾していました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: リテラルの矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1685I SC=04 DSCA=NUMBER, NUMBER
EXCEEDS 65535. 0 USED**

説明: DSCA=*integer* が 65535 を超えていたため、ゼロに設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行され
ます。

プログラマーの応答: DSCA= 指定を訂正し、ジョブを
再実行してください。

**DFS1686I SC=04 BRANCH TO LABEL,
TRUNCATED TO 8 CHARACTERS**

説明: IF ステートメント・ラベルは、8 文字を超える
ことはできないため、切り捨てられました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: ブランチ先ラベル (branch to
label) を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1687I SC=08 BRANCH TO LABEL HAS NO
CHARACTERS. 'NOFUNC' USED**

説明: IF ステートメントのブランチ先ラベル (branch
to label) が NULL だったため、NOFUNC に設定され
ました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: ブランチ先ラベル (branch to
label) を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1688I SC=04 COMPARAND LITERAL
TRUNCATED TO 255 CHARACTERS**

説明: 被比較数リテラルが 255 文字を超えているた
め、最初の 255 文字が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: リテラルを訂正し、ジョブを再実
行してください。

**DFS1689I SC=08 COMPARAND LITERAL HAS
NO TEXT ' ' USED.**

説明: 指定された被比較数リテラルが NULL だったた
め、ブランク 1 文字に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: リテラルを訂正し、ジョブを再実
行してください。

**DFS1690I SC=08 LENGTH COMPARAND
TRUNCATED TO 3 DIGITS**

説明: 長さ被比較数が 3 桁を超えているため、末尾の
3 桁が使用されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 長さを指定し、ジョブを再実行し
てください。

**DFS1691I SC=08 LENGTH COMPARAND HAS
NO DIGITS. VALUE OF 1 USED**

説明: 長さ被比較数パラメーターが NULL だったた
め、1 に設定されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: 長さを指定し、ジョブを再実行し
てください。

DFS1692I SC=08 POS=(III, III DEFAULTED TO 1

説明: MODE=RECORD の場合は POS=III が 1 に設
定され、POS= パラメーターが指定されていません。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されま
す。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを
再実行してください。

**DFS1693I SC=16 PERMANENT I/O ERROR
UPDATING REFERAL LIBRARY.
CONTINUING WITH SYNTAX
CHECK ONLY**

説明: IMS が REFERAL データ・セットを開けなかつ
たか、IMS REFERAL ライブラリーにブロックを書き
込んでいる最中に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: IMS REFERAL ライブラリーへのす
べての書き込みが抑止されます。処理は構文検査のみに
限って続行されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在し、そ
の指定が正しいか確認してください。ハードウェア障害
が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

**DFS1694I SC=16 INSUFFICIENT DIRECTORY
SPACE FOR UPDATE OF REFERAL
LIBRARY.CONTINUING WITH
SYNTAX CHECK ONLY**

説明: エラーが発生したとき、REFERAL ディレクトリ

DFS1695I • DFS1700I

ーにはスペースが残されていませんでした。ブロックは追加したり、置き換えたりできませんでした。

システムの処置: 処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答: スペースの量を増やして指定してください。IMS REFERAL ライブラリーを再作成し、ジョブを再実行してください。

DFS1695I SC=20 PERMANENT I/O ERROR WRITING SYSTEXT DATA SET

説明: フォーマット制御ステートメントかメッセージ制御ステートメント、またはその両方を発行した結果、SYSTEXT データ・セットで永続入出力エラーが生じました。

システムの処置: 処理は強制 EOF から続行されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在し、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

DFS1696I SC=04 MESSAGE 'mmmmmmmmmm' REASSIGNED TO FORMAT 'fffff'

説明: メッセージが以前のフォーマット・セットから取り外され、新規フォーマット・セットにチェーニングされました。

システムの処置: 処理は前と同様に続行されます。

プログラマーの応答: 新規 SOR=name が有効であるか確認してください。

DFS1697I SC=12 REDEFINITION OF BLOCK 'bbbbbbbb' ATTEMPTED, REFERAL UPDATE ABORTED

説明: bbbbbbbb という名前のブロックが IMS REFERAL ライブラリーに存在しますが、その名前とタイプが対応しません。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 誤りである可能性のあるブロック名を訂正するか、有効な場合は、古いブロックをスクラッチしてから、ソース・ステートメントを再実行してください。

DFS1698I SC=16 I/O ERROR WHILE PROCESSING DIRECTORY OF REFERAL LIBRARY. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY

説明: IMS が REFERAL データ・セットを開いて、デ

ィレクトリー・エントリーを処理できなかったか、ディレクトリー・ブロックを読みとっている最中に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: IMS REFERAL ライブラリーにかかわる処理すべてが抑止され、処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答: 入出力エラーの種別を判別し、それを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1699I SC=16 REFERAL LIBRARY DIRECTORY CONTENTS INVALID. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY

説明: IMS が、IMS REFERAL ライブラリーのディレクトリーを処理している最中に、無効のディレクトリー・エントリーを検出しました。

システムの処置: IMS REFERAL ライブラリーにかかわる処理すべてが抑止され、処理は構文検査のみに限って続行されます。

プログラマーの応答: 問題判別を実行する前に、適正な DD ステートメントが有効なライブラリーに存在しているか確認してください。

問題判別: MFS サービス・ユーティリティー RELATE 機能を実行し、11、16 を組み込んでください。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1700I SC=08 NO SEARCH TARGET LABEL EXISTS FOR IF STATEMENT WITH THE FOLLOWING LABEL: label

説明: このテーブル内の条件付き処理に指定されているラベルが無効でした。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適正な条件チェーニングに必要なラベルに訂正し、ジョブを再実行してください。

第 38 章 DFS メッセージ DFS1701I - DFS1750I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1701I SC=04 FORMAT *ffffff* HAS NO MESSAGES AND REQUIRES FURTHER COMPILATION

説明: FORMAT SET が不完全で、有効なメッセージ・ブロックが検出されませんでした。

システムの処置: FMT ブロックは、referral (委託) ライブラリーに保管されます。処理は次の FMT セット (ただし、ある場合) から続行されます。プリプロセッサ・フェーズの終了時に有効な FMT セットが少なくとも 1 つあれば、制御権はフェーズ 1 に付与され、それがない場合は、制御権は z/OS に戻されます。

プログラマーの応答: 有効な入力および出力メッセージ・ブロックを指定し、FORMAT SET を再実行してください。

DFS1702I SC=04 MESSAGE *xxxxxxxxxxxx* HAS NO FORMAT AND REQUIRES FURTHER COMPILATION

説明: FORMAT SET が不完全で、有効なフォーマット・ブロックが検出されませんでした。

システムの処置: メッセージ・ブロックは、referral (委託) ライブラリーに保管されます。処理は次の FMT セット (ただし、ある場合) から続行されます。プリプロセッサ・フェーズの終了時に有効な FMT セットが少なくとも 1 つあれば、制御権はフェーズ 1 に付与され、それがない場合は、制御権は z/OS に戻されます。

プログラマーの応答: フォーマット・ブロックを指定し、FORMAT SET を再実行してください。

DFS1703I SC=08 FILL=PT INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE C' ' USED

説明: DPAGE FILL=PT が有効なのは、3270 ビデオ装置の場合のみであり、それ以外の場合は、すべて無効であり、ブランクが指定されているものと想定されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV/DPAGE を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1704I SC=04 IF LABEL TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: IF ステートメントが検出されましたが、そのラベルが 8 文字を超えていたため、最初の 8 文字が使用されました。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: ラベルおよび参照を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1705I SC=08 DO COUNT OF 0. VALUE OF 1 ASSUMED

説明: カウントが MFLD または DFLD DO ステートメントから省略されていたので、カウント 1 が使用されました。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: カウントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1706I SC=08 ATTR=*operand* INVALID IF LITERAL SPECIFIED ON MFLD STATEMENT

説明: フィールド内の属性バイトの使用が、そのフィールドに関するリテラルの指定と矛盾していました。ATTR=*operand* 指定が無視されました。

システムの処置: 処理は次のソース項目から続行されません。

プログラマーの応答: MFLD ステートメントを訂正し、必要でない指定は省略します。その後でジョブを再実行します。

DFS1707I SC=08 LTH=*nnnn*, *nnnn* EXCEEDS 8000. 8000 USED

説明: DFLD フィールド長が最大値 8000 を超えました。8000 が使用されました。

プログラマーの応答: 長さを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1708I SC=04 STATEMENT LABEL TOO LONG

説明: ステートメント・ラベルが 8 文字を超えています。この時点では、処置は取られませんでした。特定の使用のラベルがさらに診断できます。

プログラマーの応答: 必要な場合は、ラベルを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1709I SC=04 NO FTAB CHARACTERS DEFINED FOR 3600 DEVICE

説明: 3600 装置に事前定義 FTAB 文字がなく、ユーザー FTAB 文字は指定されませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: フィールド・タブ文字を指定したい場合は指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1710A AREA areaname TRIED TO CONNECT TO STR: structure_name WRITE ERROR EEQE RBA 0 FOUND-RECOVERY NEEDED.

説明: 新しい構造がこのエリアに接続されようとしていました。RBA 0 での書き込みエラー EEQE によって示されているとおり、接続された最後の構造上に入出力許容データがありました。これらのデータは失われ、エリアをリカバリーする必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

接続されようとしているエリアの名前

structure_name

新しい構造の名前。

システムの処置: 新しい構造から切断した後、エリアは停止されて「要リカバリー」のマークが付けられます。

プログラマーの応答: エリア・データ・セット (ADS) が使用不可とマークされていることを確認します。

データベース・リカバリー・ユーティリティを実行して、失われたデータをリカバリーし、EEQE を削除します。

DFS1711I SC=16 DISP=SHR INVALID FOR DDNAME=REFOUT. CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY

説明: IMS REFERAL が変更されるはずでしたが、DISP=SHR または DD DUMMY が指定されたか、REFOUT に関する DD ステートメントが欠落していたか、いずれかです。

システムの処置: MFS ユーティリティ・プリプロセッサ・フェーズが、構文エラーの入力スキャンを続行します。IMS REFERAL ライブラリーに記述が保管されていません。入力スキャンが終了すると、プリプロセッサは z/OS に戻ります。

プログラマーの応答: エラーの DD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1712I SC=04 MEMBER=mmmmmmmmmm NOT WRITTEN DUE TO INVALID REFERAL DATA SET

説明: 以前の IMS REFERAL ライブラリー・エラーのせいで、IMS REFERAL ライブラリーにかかわるすべての処理が抑止される結果になりました。示されているメンバーに有効な構文がないかについてのみ、チェックがなされました。

システムの処置: 処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: IMS REFERAL ライブラリー・エラーの原因を判別し、ソースに構文エラーがないかチェックし、ジョブを再実行してください。

DFS1713I SC=16 BAD COMPLETION CODE FROM IEBCOPY SUBTASK COMPRESSION OF DDNAME=REFOUT.CONTINUING WITH SYNTAX CHECK ONLY

説明: IMS REFERAL ライブラリーの圧縮が要求されたとき、予期しない完了コードが IEBCOPY から受信されました。

システムの処置: MFS ユーティリティ・プリプロセッサ・フェーズが、構文エラーがないか入力をスキャンし続行します。IMS REFERAL ライブラリーに記述が保管されていません。入力スキャンが終了すると、プリプロセッサは z/OS に戻り、このフェーズに関する最も番号の大きい戻りコードが示されます。

プログラマーの応答: 3、8、12、16、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1714I SC=04 MULTIPLE SET/ONLINE/OFFLINE SPECIFICATIONS IN HTAB= KEYWORD INVALID

説明: SET、ONLINE、または OFFLINE が単一の HTAB= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置: 最初の SET、ONLINE、または OFFLINE 指定が使用され、複数の指定は無視され、処

理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1715I SC=04 MULTIPLE LEFT MARGIN SPECIFICATIONS IN HTAB= KEYWORD INVALID

説明: 左マージン値が単一の HTAB= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置: 最初の左マージン値が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1716I SC=04 MULTIPLE HT= SPECIFICATIONS IN HTAB= KEYWORDS INVALID

説明: HT= 指定 (タブ・ストップ値) が単一の HTAB= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置: 最初の HT= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1717I SC=04 DSCA= KEYWORD HAS NO MEANING AND IS IGNORED

説明: 現在は、DSCA 指定の装置機能で、指定されている装置タイプに関して定義されているものではありません。

システムの処置: DSCA= キーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DSCA= キーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1718I SC=16 NO MEMBERS WRITTEN TO REFERAL LIBRARY. COMPILATION TERMINATES WITH CURRENT PHASE

説明: IMS REFERAL ライブラリーがコンパイル・プロセスの次のフェーズでの入力になるので、現行フェーズ (プリプロセッサ) が IMS REFERAL ライブラリーを変更しない場合は、次のフェーズは実行されません。

システムの処置: ユーティリティーのプリプロセッサ

ー・フェーズの終了の後に続いて、制御権が z/OS に戻されます。

プログラマーの応答: プリプロセッサ・エラー・メッセージ、および EXEC パラメーター STOPRC の値を調べて、メンバーが IMS REFERAL ライブラリーに書き込まれなかった理由を判別し、その上で、ジョブを再実行してください。

DFS1719I SC=08 NO VALID HORIZONTAL TAB STOPS SPECIFIED. HT= SPECIFICATION IGNORED

説明: HTAB= キーワードの HT= 指定が指定されましたが、タブ・ストップ値が省略されたか、またはすべて無効でした。

システムの処置: HT= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な水平タブ・ストップ値を使用して HT= 指定を再指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1720I SC=04 MULTIPLE BOUND= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の DO ステートメントでは、複数の BOUND= キーワードは無効です。

システムの処置: 最初の BOUND= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1721I SC=04 MULTIPLE SUF= KEYWORDS INVALID

説明: 単一の DO ステートメントでは、複数の SUF= キーワードは無効です。

システムの処置: 最初の SUF= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1722I SC=04 SUF=*nn*, NN EXCEEDS 2 DIGITS. LAST 2 DIGITS USED

説明: DO ステートメントで指定された接尾部値が 2 桁を超えています。

システムの処置: 指定された接尾部値の末尾の 2 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 2 桁以下の接尾部値を訂正してください。

**DFS1723I SC=04 SUF=*nn*, *nn* HAS NO DIGITS.
VALUE OF 01 USED**

説明: 接尾部値は NULL でした。

システムの処置: 接尾部値 01 が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な接尾部値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1724I SC=04 DO STATEMENT SUFFIX
WILL EXCEED MAXIMUM NUMBER
OF DIGITS. COUNT IS ADJUSTED**

説明: 指定された接尾部値は、カウントで指定される回数が増えると、2 桁を超える接尾部値が生成される結果になります。

システムの処置: カウントが減らされて、生成される最大の接尾部が 2 桁になり、処理が続行されます。

プログラマーの応答: 初期接尾部値またはカウントを調整し、ジョブを再実行してください。

**DFS1725I SC=04 BLANKS SPECIFIED AS LINE
DELETE CHARACTERS**

説明: LDEL パラメーターで空白文字 2 文字が指定されました。この状態で行を有効にするために、行末の 2 文字が強制的に非空白文字とされます。

システムの処置: パラメーターは指定されているとおりに処理されます。

プログラマーの応答: LDEL 指定が有効であるか確認してください。

**DFS1726I SC=04 VERTICAL TABBING MAY
NOT BE VALID IF EJECT (BGNPP)
OR EJECT (BGNMSG) NOT
SPECIFIED**

説明: 垂直タブには、改ページによる新しいページの開始に関連する意味があるのみです。PAGE= パラメーターによって、新しいメッセージと物理ページのいずれかで改ページが強制されるのでなければ、垂直タブは無効である可能性があります。その代わりに、すべてのプログラムで EJECT (ENDMSG) を指定してもかまいません。

システムの処置: ステートメントは指定されているとおりに処理されます。

プログラマーの応答: 垂直タブ・ストップによってペー

ジが正しく位置指定されるか検証してください。

**DFS1727I MADS I/O TIMING FUNCTION
RESUMED SUCCESSFULLY**

説明: /START MADSLOT コマンドは正常に完了しました。すべての IMS システムがロング・ビジー許容サポートを再開しました。

システムの処置: ロング・ビジー許容サポートが活性化されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS1728E START MADSLOT COMMAND
FAILED. RSN=*rr***

説明: /START MADSLOT コマンドが失敗しました。IMS の 1 つが MADS I/O タイミング構造に参加できなかったからです。理由コード *rr* に、失敗の理由が次のように示されています。

理由コード

意味

- 01 この IMS は構造に接続しましたが、別の IMS が構造への接続に失敗しました。
- 02 この IMS が構造に接続できません。

システムの処置: MADS 入出力タイミングはまだ使用不可になっています。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、IMS (ただし、メッセージを出した IMS ではない) から /START MADSLOT コマンドを再発行して、MADS 入出力タイミングを再始動してください。問題が訂正できない場合は、エラーを生じた IMS を停止し、/START MADSLOT コマンドを再発行してください。

**DFS1729I AREA CLOSE FOR AREA *areaname*
REJECTED DUE TO MADS I/O
TIMING**

説明: IMS は MADS 入出力タイミング・モード、または MADS 入出力タイミング・リカバリー・モードであり、次のいずれかのコマンドが入力されました。

```
/STOP AREA
/STOP ADS
/DBRECOVERY DB
/DBRECOVERY AREA
/VUNLOAD
```

areaname は、コマンド発行の対象となったエリアの名前です。

システムの処置: IMS は、エリアに対して発行されたコマンドをリジェクトしました。

オペレーターの応答: リカバリーが完了するまで待つてから、コマンドを再発行してください。

DFS1730I SC=04 STACK IDENTIFIER EXCEEDS 8 CHARACTERS. TRUNCATED TO 8 CHARACTERS

説明: STACK または UNSTACK ステートメントで指定された ID は、長さが 8 文字以下である必要があります。

システムの処置: スタック ID は切り捨てられて 8 文字になり、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: スタック ID を訂正し、対応する STACK または UNSTACK ステートメントをチェックし、ジョブを再実行してください。

DFS1731I SC=04 STACK IDENTIFIER HAS NO CHARACTERS. BLANKS USED

説明: プリプロセッサ・エラー・リカバリー・プログラムは、スタック ID として NULL ID が指定されているものと想定しています。

システムの処置: 無名スタックであることを示す、8 つのブランクから成るスタック ID が使用されます。

プログラマーの応答: STACK/UNSTACK ステートメントの構文を妥当性検査し、ジョブを再実行してください。

DFS1732I SC=08 UNEXPECTED 'STACK OFF' STATEMENT IGNORED

説明: スタッキングが進行中でないとき、STACK OFF ステートメントが検出されました。

システムの処置: STACK OFF ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: STACK ON と STACK OFF ステートメントは平衡で、STACK ステートメントはネストされていないか確認してください。

DFS1733I SC=08 NESTED 'STACK ON' STATEMENT IGNORED

説明: STACK ON ステートメントが検出されましたが、スタッキングが別の STACK ON ステートメントに関して進行中でした。ネストされたスタッキングは許容されていません。

システムの処置: ネストされた STACK ON ステートメントは無視され、スタッキングは直前の STACK ON ステートメントに関して続行されます。

プログラマーの応答: ネストされたスタッキングが必要でなくなるように、プログラムのソース・ステートメントを再配列し、ジョブを再実行してください。

DFS1734I SC=08 DUPLICATE STACK IDENTIFIER. PREVIOUS STACK DELETED; CURRENT STACK IN EFFECT

説明: 現在実ストレージに存在するスタックの ID を指定している STACK ON ステートメントが検出されました。

システムの処置: 現在実ストレージに存在するスタックは削除され、検出された STACK ON ステートメントに関して、スタッキングが開始されます。

プログラマーの応答: 現在実ストレージに存在するすべてのスタックに固有 ID を指定してください。

DFS1735I SC=08 'UNSTACK' STATEMENT CANNOT BE STACKED. 'UNSTACK' STATEMENT IGNORED

説明: UNSTACK ステートメントが検出されましたが、スタッキングが進行中でした。ネストされたスタッキングは許容されていません。

システムの処置: UNSTACK ステートメントは無視され、スタッキングは現行 STACK ON ステートメントに関して続行されます。

プログラマーの応答: ネストされたスタッキングが必要でなくなるように、プログラムのソース・ステートメントを再配列し、ジョブを再実行してください。

DFS1736I SC=08 STACK NOT FOUND FOR IDENTIFIER SPECIFIED IN 'UNSTACK' STATEMENT. 'UNSTACK' STATEMENT IGNORED

説明: UNSTACK ステートメントが、現在は実ストレージになくなっていたスタックを識別しました。

システムの処置: UNSTACK ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されません。

プログラマーの応答: スタック ID のつづりを妥当性検査するか、スタック ID が同じ以前の UNSTACK ステートメントで KEEP オプションを指定してください。

**DFS1737I SC=08 STACK REQUESTED IN
'UNSTACK' STATEMENT IS EMPTY.
'UNSTACK' STATEMENT IGNORED**

説明: スタックの作成を試みているが、そのスタックに関するレコードが示されていません。

システムの処置: UNSTACK ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されません。

プログラマーの応答: UNSTACK ステートメントで参照されるスタックには、ステートメントが少なくとも 1 つ組み込まれているか確認してください。

**DFS1738I SC=08 MISSING 'STACK OFF'
STATEMENT. EOD RECEIVED**

説明: 入力ストリーム・ソースの終了が検出される前に、STACK ON ステートメントに関して、対応する STACK OFF ステートメントが検出されませんでした。

システムの処置: STACK OFF ステートメントが指定されているものと想定され、終了処理が続行されます。

プログラマーの応答: 最後のスタックが必要かどうか判別し、望ましい場合は、ジョブを再実行してください。

**DFS1739I SC=04 STACK 'cccccc' WAS NOT
DELETED**

説明: プリプロセッサの終了時にまだ実ストレージにあったスタックは、すべて削除されました。

システムの処置: 終了処理が続行されます。

プログラマーの応答: 終了処理の前に、スタックがすべて削除されるようにするには、最後の UNSTACK ステートメントで、それぞれのスタックごとに、KEEP オプションを指定することがないようにしてください。

**DFS1740I SC=08 DEV SPECIFICATION
EXCEEDS DESIGN LIMITS**

説明: このパラメーターの処理が原因で、DEV 制御ブロック (DEVITB) が最大設計サイズを超える可能性があります。この状態は、通常、PF キーに関して多くの長いリテラルを指定した場合にのみ発生します。ただし、FORMS リテラル、FTABS、水平タブ (HT)、垂直タブ (VT)、および PF キー指定すべてに関してチェックが行われます。DEV ステートメントでこれらのパラメーターを組み合わせる指定した結果が、4064 から DEVITB の基本サイズ (概略 100 バイト) を引いた数を超えることはできません。

システムの処置: 処理は、このメッセージが出される原

因となったキーワードに関しては停止し、次のキーワードから続行されます。

プログラマーの応答: リテラルの数と長さを減らすか、水平タブと垂直タブの最大許容数だけを指定するか、またはその両方を行います。ジョブを再実行してください。

**DFS1741I SC=04 MULTIPLE WIDTH=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントでは、複数の WIDTH= キーワードは無効です。

システムの処置: 最初の WIDTH= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1742I SC=04 MULTIPLE HTAB=
KEYWORDS INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントでは、複数の HTAB= キーワードは無効です。

システムの処置: 最初の HTAB= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1743I SC=04 MULTIPLE VT= KEYWORDS
INVALID**

説明: 単一の DEV ステートメントでは、複数の VT= キーワードは無効です。

システムの処置: 最初の VT= 指定が使用され、複数の指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 複数指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1744I SC=04 WIDTH=nnn; nnn TRUNCATED
TO LAST 3 DIGITS**

説明: WIDTH= キーワードで指定された幅が 3 桁を超えています。

システムの処置: 幅の末尾の 3 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 3 桁以下の幅を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1745I SC=04 WIDTH=nnn; nnn HAS NO DIGITS. DEFAULT VALUE USED

説明: WIDTH= キーワードで指定された幅が NULL でした。

システムの処置: 指定された装置タイプのデフォルトの幅が使用され、処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 適切な幅を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1746I SC=04 LEFT MARGIN VALUE OF HTAB= KEYWORD TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: HTAB= キーワードで指定されている左マージン値が 3 桁を超えています。

システムの処置: 左マージン値の末尾の 3 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 3 桁以下の左マージン値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1747I SC=04 LEFT MARGIN VALUE OF HTAB= KEYWORD HAS NO DIGITS. VALUE OF 1 IS USED

説明: HTAB= キーワードで指定されている左マージン値が NULL でした。

システムの処置: 左マージン値 1 が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 適切な左マージンを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1748I SC=04 HORIZONTAL TAB STOP VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: HTAB= キーワードの HT= 指定のタブ値が 3 桁を超えています。

システムの処置: タブ・ストップの末尾の 3 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 3 桁以下のタブ・ストップ値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1749I SC=08 NULL HORIZONTAL TAB STOP VALUE IGNORED

説明: NULL の水平タブ・ストップ値が、HTAB= キーワードの HT= 指定で検出されました。エラー・リカ

バリー手順では、桁数がない (\$I\$) タブ・ストップ値が想定されました。

システムの処置: NULL の水平タブ・ストップは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: HTAB= キーワードの構文が有効であるか確認し、ジョブを再実行してください。

DFS1750I SC=04 VERTICAL TAB STOP VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: VT= キーワードのタブ・ストップ値が 3 桁を超えています。

システムの処置: タブ・ストップの末尾の 3 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 3 桁以下のタブ・ストップ値を指定し、ジョブを再実行してください。

第 39 章 DFS メッセージ DFS1751I - DFS1800I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1751I SC=08 NULL VERTICAL TAB STOP VALUE IGNORED

説明: NULL の垂直タブ・ストップ値が、VT= キーワードで検出されました。エラー・リカバリー手順では、桁数がない (\$I\$) タブ・ストップを想定できます。

システムの処置: NULL の垂直タブ・ストップは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VT= キーワードの構文が有効であるか確認し、ジョブを再実行してください。

DFS1752I SC=08 SUB= VALUE INVALID, X'3F' USED

説明: SUB= に指定された値が、単一文字または 16 進文字 2 文字ではありませんでした。

システムの処置: X'3F' のデフォルト値が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SUB= 値を単一文字と有効な 16 進文字 2 文字のいずれかとして指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1753I SC=08 WIDTH= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: WIDTH= 指定が、指定されている装置タイプと矛盾していました。

システムの処置: WIDTH= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントを訂正するか、WIDTH= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1754I SC=08 HTAB= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: HTAB= 指定が、指定されている装置タイプと矛盾していました。

システムの処置: HTAB= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントを訂正する

か、HTAB= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1755I SC=08 VT= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: VT= 指定が、指定されている装置タイプと矛盾していました。

システムの処置: VT= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DEV ステートメントを訂正するか、VT= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1756I SC=04 WIDTH=nnn; nnn EXCEEDS MAXIMUM VALUE. DEFAULT VALUE USED

説明: WIDTH= キーワードで指定された幅が、許容最大値 255 (DEV.TYPE=SCS2 の場合は 249) を超えていました。

システムの処置: 指定された装置タイプのデフォルトの幅が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 最大値以下の幅を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1757I SC=08 NO LEFT MARGIN OR TAB STOP VALUES. HTAB= SPECIFICATION IGNORED

説明: HTAB= キーワードに左マージンまたはタブ・ストップの指定がありませんでした。

システムの処置: HTAB= キーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: HTAB= キーワードで左マージンまたはタブ・ストップ、あるいはその両方を指定するか、HTAB= キーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1758I SC=08 LEFT MARGIN VALUE GREATER THAN PAGE WIDTH. VALUE OF 1 USED

DFS1759I • DFS1766I

説明: HTAB= キーワードで指定された左マージン値が、指定された装置タイプの定義済みページ幅より大でした。

システムの処置: 左マージン値は 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 左マージンまたはページ幅の値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1759I SC=08 INVALID HORIZONTAL TAB STOP(S) IGNORED

説明: 1 つ以上の無効の水平タブ・ストップ値が、HTAB= キーワードの HT= 指定で検出されました。タブ・ストップ値は、ページの左マージンより大か等しく、ページの右マージンより小か等しくする必要があります。

システムの処置: 無効のタブ・ストップは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 無効なタブ・ストップ値を除去するか、左右のマージン値の一方または両方を変更するか、あるいはその両方を行い、ジョブを再実行してください。

DFS1760I SC=04 DUPLICATE HORIZONTAL TAB STOP(S) IGNORED

説明: HTAB= キーワードの HT= 指定のタブ・ストップ値は、異なっている必要があります。

システムの処置: 繰り返し出現するタブ・ストップ値は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 異なっているタブ・ストップ値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1761I SC=08 NUMBER OF HORIZONTAL TAB STOPS EXCEEDS MAXIMUM

説明: 無効および重複値が無視された後のタブ・ストップ値の数が、許容最大値 10 を超えています。

システムの処置: 昇順にソートして、最初の 10 の有効タブ・ストップが使用されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: HT= 指定でタブ・ストップ値の数を 10 以下にして、HTAB= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1762I SC=08 NO VALID VERTICAL TAB STOPS SPECIFIED. VT= SPECIFICATION IGNORED

説明: VT= キーワードが指定されましたが、タブ・ス

トップ値が省略されたか、またはすべて無効でした。

システムの処置: VT= キーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な垂直タブ・ストップ値を使用して VT= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1763I SC=08 INVALID VERTICAL TAB STOP(S) IGNORED

説明: 1 つ以上の無効の垂直タブ・ストップ値が、VT= キーワードで検出されました。タブ・ストップ値は、1 より大か等しく、ページ当たり印刷行数より小か等しくする必要があり、255 という値を超えることはできません。

システムの処置: 無効のタブ・ストップは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 無効のタブ・ストップ値を除去するか、ページ当たり印刷行数を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1764I SC=04 DUPLICATE VERTICAL TAB STOP(S) IGNORED

説明: VT= キーワードのタブ・ストップ値は、異なっている必要があります。

システムの処置: 繰り返し出現するタブ・ストップ値は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 異なっているタブ・ストップ値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1765I SC=04 NUMBER OF VERTICAL TAB STOPS EXCEEDS MAXIMUM

説明: 無効および重複値が無視された後のタブ・ストップ値の数が、許容最大値 11 を超えています。

システムの処置: 昇順にソートして、最初の 11 の有効タブ・ストップが使用されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: タブ・ストップ値の数を 11 以下にして VT= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1766I SC=04 POS=(lll,ccc,ppp), ppp NOT VALID FOR DIV TYPE=INPUT

説明: 入力 DFLD の POS= キーワードでページ値を指定しましたが、無効でした。

システムの処置: ページ値は 0 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントの POS= キーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1767I SC=04 VALIDATION ATTRIBUTES IGNORED

説明: 妥当性検査属性 (VDFLD、VMFILL、または VMFLD) は無視されます。PROT 属性が指定されたか、指定されたものと想定された (リテラルが指定されたため) からです。妥当性検査属性は、保護属性と互換性がありません。

システムの処置: 妥当性検査属性は無視され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 保護属性と妥当性検査属性のいずれかを除去して、矛盾を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1768I SC=08 VALUE OF 0 INVALID, DEFAULT VALUE ASSUMED

説明: 値 0 が行 (lll)、列 (ccc)、ページ (pp)、PAGE、WIDTH、LTH、または MFLD オフセット (pp) に指定されました。

システムの処置: ほとんどの場合に、値 1 が指定されているものと想定されますが、例外は次の場合です。つまり、lm が DEV ステートメントで指定された場合は、左マージン値が ccc に指定されているものと想定される場合、PAGE=55 が指定されているものと想定される場合、WIDTH 132 および 80 が、SCS1 および SCS2 にそれぞれ指定されていると想定される場合です。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 0 が指定されているオペランドを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1769W THE CATALOG PSB DFSCP000 FAILS TO ATTACH PSB *psbname* ERROR *xx*

説明: PSB *psbname* を使用するアプリケーション・プログラムは、カタログ・データベースに対する最初の DL/I 呼び出しを行いました。PSB にカタログ・データベースを参照する DBPCB がなかったため、IMS は動的にカタログ PSB DFSCP000 に接続しようとした。この試みは、次のいずれかの理由で失敗しました。

- 01 IRLM は定義されているがアクティブではない。
- 02 IRLM は定義されているが到達可能ではない。
- 03 PSB または PSBW プール・スペースが不足している。

04 カタログ PSB または DBD リソースは、オンライン変更操作によってコミットされている最中である。

05 カタログ PSB が不良とマークされているか、使用可能でないか、またはカタログ・データベースが停止しているために、カタログ PSB はスケジュール解除されている。

システムの処置: 状況コード NA がアプリケーション・プログラムに戻されます。

システム・プログラマーの応答: エラー・コード 01 および 02 の場合、IMS 環境で IRLM の可用性を確認してください。エラー・コード 03 の場合、PSB または PSBW ストレージ・プール・スペースを増やしてください。エラー・コード 04 の場合、オンライン変更操作が完了するまで待ってから、DL/I 呼び出しを再度発行してください。エラー・コード 05 の場合、カタログ PSB が ACBGEN を正常に完了したか、およびカタログ・データベースが開始しているか、確認してください。

モジュール: DFSDBLM0

DFS1770I SC=16 NO FORMAT SET WRITTEN TO REFERAL LIBRARY. COMPILATION TERMINATES WITH CURRENT PHASE

説明: このプリプロセッサ・コンパイルでは、フォーマット・セットが作成も更新もされませんでした。

システムの処置: 有効なブロックが作成されることはないはずなので、フェーズ 1 がプリプロセッサ・コンパイルで呼び出されることはありません。コンパイルは終了します。

プログラマーの応答: FMT ステートメントと 1 つ以上の MSG ステートメントから成る、有効なフォーマット・セットを作成してください。ジョブを再実行してください。

DFS1771I SC=08 NUMBER OF LITERALS OR CONTROL FUNCTIONS EXCEEDS DEVICE FEATURES.MAXIMUM NO. ASSUMED

説明: 最大許容数を超えるリテラルまたは制御機能が、DEV ステートメントに関して指定されました。

システムの処置: PFK= オペランドで指定されたりリテラルまたは制御機能の数が 36 を超えている場合は、最初の 36 が使用されます。IMS は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 構文を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1772I SC=08 ONLY ONE PPAGE STATEMENT ALLOWED FOR DIV TYPE=INPUT

説明: 複数の PPAGE ステートメントが DIV TYPE=INPUT に関して指定されました。

システムの処置: この PPAGE ステートメントは無視され、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: PPAGE ステートメントを入力ストリームから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1773I SC=04 PPAGE STATEMENT ASSUMED

説明: DIV OPTIONS=MSG/DPAGE および TYPE=INPUT の場合は、指定されている DEV.TYPE に関して、PPAGE が指定されているものと想定されました。

システムの処置: PPAGE ステートメントが指定されているものと想定され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入力ストリームのこの点で PPAGE ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1774I SC=08 PPAGE STATEMENT HAS NO LABEL FOR OPTIONS=PPAGE. DIAGNOSTIC LABEL USED

説明: DIV OPTIONS=PPAGE の場合は、分かりやすい名前がリモート・プログラムに送信されるように、PPAGE ステートメントにユーザー提供ラベルが必要です。

システムの処置: リモート・プログラムに名前が示されていない場合は、診断ラベルがフォーマット名として送信されます。PPAGE ステートメント処理が続行されません。

プログラマーの応答: PPAGE ステートメントでラベルを指定し、ジョブを再実行します。

DFS1775I SC=08 PPAGE STATEMENT INVALID FOR DEVICE TYPE. PPAGE STATEMENT IGNORED

説明: PPAGE ステートメントは、指定されている DEV.TYPE の場合は無効でした。

システムの処置: PPAGE ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: PPAGE ステートメントを入力ス

トリームから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1776I SC=04 FEAT= TRUNCATED TO LAST 2 DIGITS

説明: 2桁を超える桁数が DEV ステートメント FEAT=*number* で指定されました。

システムの処置: FEAT=*number* 指定は切り捨てられて、左端の 2 桁になります。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: FEAT=*number* の桁数が 2 桁を超えないように指定してください。ジョブを再実行してください。

DFS1777I SC=08 NULL FEAT =*number* ; 1 IS ASSUMED

説明: NULL FEAT=*number* 指定が、DEV ステートメントで指定されました。1 と 10 の間のフィーチャー番号を指定する必要があります。

システムの処置: FEAT=1 が指定されているものと想定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な FEAT=*number* を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1778I SC=08 FEAT= INVALID. 1 ASSUMED

説明: DEV ステートメントでの FEAT=*number* 指定は、1 より大か等しく、10 より小か等しくする必要があります。指定されている数値がこの範囲にありません。

システムの処置: FEAT=1 が指定されているものと想定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な FEAT=*number* を再指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1779I SC=12 MESSAGE LABEL AND SOR= NAME CANNOT BE IDENTICAL. REFERAL UPDATE ABORTED

説明: MSG ステートメントのラベルと SOR= キーワードのフォーマット名が同じだったため、有効なディレクトリー・エントリーは作成できません。

システムの処置: MSG ブロックが IMS REFERAL に書き込まれることはなく、処理は次のソース・ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: MSG ラベルと SOR= フォーマット名パラメーターのいずれかを名前変更して、名前が必ず異なるようにしてください。ジョブを再実行してください。

DFS1780I SC=08 POS=*nnn*. *nnn* IS LESS THAN 1 OR LEFT MARGIN

説明: DFLD ステートメントの POS= オペランドが 0 として指定されているか、または左マージンより小です。いずれの場合も、DFLD の位置は左マージン列の左方になります。

システムの処置: ユーザー定義の左マージンが、DFLD の位置として想定されます。ユーザー定義の左マージンが指定されていなかった場合は、位置 1 が指定されているものと想定されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 望ましい位置番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1781I SC=04 RCD STATEMENT CANNOT OCCUR IN THIS SEQUENCE IN THE INPUT STREAM.RCD STATEMENT IGNORED

説明: RCD ステートメントが現れるのは、PPAGE、DO、または DFLD ステートメントの後で、DPAGE ステートメントの有効範囲内に限られます。

システムの処置: RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: RCD ステートメントを入力ストリームのこの点から除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1782I SC=08 OPTIONS='option' INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: DEV ステートメントの TYPE= オペランドで指定されている装置タイプ、または装置タイプと DIV TYPE= オペランドの組み合わせの場合は、*option* は使用できません。

システムの処置: メッセージに示されているオプションは無視され、処理はこのステートメントから続行されません。

プログラマーの応答: DEV TYPE= (または DIV TYPE=) 指定を訂正するか、このオプションを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1783 SC=08 'ccccccc' INVALID FOR DIV TYPE=OUTPUT

説明: Options=/RDPN 指定が有効なのは、この装置タイプの DIV TYPE=INPUT の場合だけです。

システムの処置: Options=/RDPN 指定がリセットされ、コンパイルが続行されます。

プログラマーの応答: options=/RDPN パラメーターを DIV ステートメントから除去するか、DIV TYPE= 入力に変更してください。変更を行った後で、ジョブを再実行依頼してください。

DFS1784I SC=08 PPAGE STATEMENT ASSUMED. DIAGNOSTIC LABEL OF ASSUMED PPAGE USED

説明: DIV OPTIONS=PPAGE および TYPE=OUTPUT の場合は、指定されている DEV.TYPE に関して、PPAGE ステートメントが指定されているものと想定されました。想定されている PPAGE の診断ラベルが、フォーマット名としてリモート・プログラムに送信されます。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入力ストリームのこの点でラベルが有効な PPAGE ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1785I SC=04 RCD STATEMENT INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE. RCD STATEMENT IGNORED

説明: RCD ステートメントは、指定されている DEV.TYPE の場合は無効です。

システムの処置: RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: RCD ステートメントを入力ストリームのこの点から除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1786I SC=08 LINE INCREMENT OR POSITION INCREMENT IS INVALID FOR DEVICE TYPE. SPECIFICATION IGNORED

説明: DO ステートメントで、行または位置の増分が、指定されている DEV.TYPE では無効でした。

システムの処置: DEV.TYPE 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 行または列の増分を DO ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1787I SC=08 MAX OR COLUMN INCREMENT INVALID FOR DEVICE TYPE. SPECIFICATION IGNORED

説明: DO ステートメントで、列の増分または MAX が、指定されている DEV.TYPE では無効でした。

システムの処置: DEV.TYPE 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 列の増分または MAX を DO ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1788I SC=08 BOUND= KEYWORD
INVALID FOR DEVICE TYPE.
SPECIFICATION IGNORED**

説明: DO ステートメントで、BOUND= キーワードが、指定されている DEV.TYPE では無効でした。

システムの処置: DEV.TYPE 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: BOUND= キーワードを DO ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1789I SC=04 MULTIPLE RCD
STATEMENTS WITH NO
INTERVENING DFLD
STATEMENTS.LAST RCD
STATEMENT IGNORED**

説明: 複数の RCD ステートメントが入力ストリームで連続して現れました。

システムの処置: 最後の RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: RCD ステートメントを入力ストリームから除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1790I SC=08 ATTR= SPECIFICATION
INVALID FOR SPECIFIED DEVICE
TYPE**

説明: DFLD ステートメントでは、ATTR=YES または NO のみが有効であり、指定された装置タイプの場合、ATTR=Yes および ATTR=No のみが有効です。

システムの処置: ATTR= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントの ATTR= 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1791I SC=08 DPAGE STATEMENT HAS NO
LABEL FOR OPTIONS=DPAGE.
DIAGNOSTIC LABEL USED**

説明: DIV OPTIONS=DPAGE の場合は、リモート・プログラムに分かりやすいフォーマット名が送信されるように、DPAGE ステートメントにはユーザー提供のラ

ベルが必要です。何も提供されていない場合は、診断ラベルがフォーマット名として送信されます。

システムの処置: DPAGE ステートメント処理が続行されます。

プログラマーの応答: DPAGE ステートメントでラベルを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1792I SC=08 DPAGE STATEMENT
REQUIRED FOR DIV
OPTIONS=DPAGE AND
TYPE=OUTPUT**

説明: 指定されている DEV.TYPE および DIV ステートメントに、OPTIONS=DPAGE および TYPE=OUTPUT が指定されている場合は、DPAGE ステートメントが指定される必要があります。FMT ステートメントのラベルが、フォーマット名としてリモート・プログラムに送信されます。

システムの処置: 処理は現行ステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: 入力ストリームのこの点でラベルが有効な DPAGE ステートメントを指定してください。

**DFS1793I SC=08 SCA OPTION INVALID FOR
DEVICE TYPE. SCA OPTION
IGNORED**

説明: DFLD ステートメントで、SCA オプションは、指定されている DEV.TYPE では無効です。

システムの処置: SCA オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SCA オプションを DFLD から除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1794I SC=08 LTH=VALUE IS NOT 2 FOR
SCA OPTION. LTH= SPECIFICATION
DEFAULTED TO 2**

説明: SCA オプションには、DFLD ステートメントで 2 以外の LTH= 値が指定されていました。

システムの処置: LTH=2 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントで LTH= 指定を 2 に訂正し、ジョブを再実行するか、LTH= 指定を省略し、ジョブを再実行してください。

**DFS1795I SC=08 LABEL AND SCA OPTION
NOT COMPATIBLE. SCA OPTION
IGNORED**

説明: ラベル付き DFLD ステートメントは、SCA 出力用として予約できません。

システムの処置: SCA オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントのラベルまたは SCA オプションを除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1796I SC=08 LTH=VALUE GREATER THAN
8 INVALID FOR PASSWORD. LTH=8
ASSUMED**

説明: LTH= オペランドに指定された値が、DFLD ステートメントの PASSWORD オプションの 8 より大きでした。

システムの処置: LTH=8 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: LTH=8 を指定するか、DFLD ステートメントの LTH= オペランドを省略し、ジョブを再実行してください。

**DFS1797I SC=08 SCA OPTION INVALID FOR
DIV TYPE=INPUT. SCA OPTION
IGNORED**

説明: SCA オプションは、DIV TYPE=INPUT の DFLD では無効です。

システムの処置: SCA オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SCA オプションを DFLD から除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1798I SC=04 MULTIPLE SEGEXIT/
NOSEGEXIT SPECIFICATIONS IN
OPTIONS= KEYWORD INVALID**

説明: 複数の SEGEXIT または NOSEGEXIT オプションが DIV ステートメントの OPTIONS= で指定されました。

システムの処置: 最初に指定された SEGEXIT または NOSEGEXIT オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の SEGEXIT または NOSEGEXIT オプションを OPTIONS= 指定から除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1799I SC=08 FLDEXIT/NOFLDEXIT/
SEGEXIT/ NOSEGEXIT PARAMETERS
INVALID ON OPTIONS= KEYWORD
FOR DIV TYPE=OUTPUT**

説明: オプション

FLDEXIT、NOFLDEXIT、SEGEXIT、NOSEGEXIT は、DIV ステートメントの DIV TYPE=OUTPUT に関する OPTIONS キーワードでは無効です。

システムの処置: これらのオプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: FLDEXIT、NOFLDEXIT、SEGEXIT、または NOSEGEXIT を OPTIONS キーワードから除去するか、DIV TYPE を INPUT に変更してください。ジョブを再実行してください。

**DFS1800I SC=08 ATTR=*operand* INCOMPATIBLE
WITH SCA OPTION. OPERAND
IGNORED**

説明: ATTR=YES または ATTR=*nm* は、SCA オプションも指定されるときは、DFLD ステートメントで指定してはなりません。

システムの処置: ATTR=YES または ATTR=*nm* 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: ATTR=YES または ATTR=*nm* を DFLD ステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

第 40 章 DFS メッセージ DFS1801I - DFS1850I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1801I SC=16 NO DFLDS DEFINED IN THIS DPAGE. FMT MEMBER NOT WRITTEN TO REFERAL

説明: 指定されている DEV.TYPE および DIV TYPE=OUTPUT の場合は、この DPAGE で DFLD を少なくとも 1 つ定義する必要があります。重大度コード 16 で、この FMT メンバーは REFERAL に強制的に書き込まれなくなります。

システムの処置: 処理は次のステートメントから続行され、この FMT の残りの構文専用チェックが行われません。

プログラマーの応答: この DPAGE で DFLD を少なくとも 1 つ定義し、ジョブを再実行してください。

DFS1802I SC=08 FIELD LENGTH CANNOT EXCEED DIV RCDCTL VALUE. LENGTH SPECIFICATION DEFAULTED TO RCDCTL VALUE

説明: このメッセージが出されるのは、RCDCTL=NOSPAN が指定され、指定された DFLD での LTH= 指定が DIV RCDCTL= 値を超えている場合です。このメッセージは、リテラル DFLD 長さが DIV RCDCTL= 値を超えている場合にも出されます。

システムの処置: RCDCTL 値が DFLD 長さとして想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DFLD LTH= 指定と DIV RCDCTL= 指定のいずれかを変更して、フィールド長が RCDCTL 値より小か等しくなるようにしてください。ジョブを再実行してください。

DFS1803I SC=04 POS= SPECIFICATION IGNORED FOR DEVICE TYPE

説明: POS= 指定は、指定されている DEV.TYPE の DFLD で指定できません。

システムの処置: POS= 指定は無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DFLD ステートメントから POS= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1804I SC=08 LDEL=X'HEXSTRING', HEXSTRING TRUNCATED TO FIRST 4 HEX CHARACTERS

説明: 4 文字を超える 16 進文字が LDEL= で指定されました。16 進数ストリングは切り捨てられて、左端の 16 進文字 4 文字になります。

システムの処置: 処理はこのオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DEV ステートメントの LDEL= 指定で 16 進文字 4 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1805I SC=04 LDEL=X'HEXSTRING', HEX DIGITS OF X'0000' SPECIFIED

説明: 行削除文字 X'0000' は、セグメントの最後のフィールドに EBCDIC NULL (X'00') が含まれていると、気付かずにセグメントが削除されてしまう原因になる可能性があります。

システムの処置: 処理はこのオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 行削除文字 '0000' が EBCDIC NULL と競合しないか検証してください。


DFS1806I SC=08 LDEL=X'HEXSTRING', NULL HEX STRING SPECIFIED. DEVICE TYPE DEFAULT USED

説明: DEV ステートメントで、LDEL= に NULL 16 進数ストリングがあります。

システムの処置: DEV.TYPE 行削除デフォルトが指定されているものと想定されます。装置タイプのデフォルトについては、DEV ステートメント情報を参照してください。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な LDEL= 指定を指定し、ジョブを再実行してください。

関連資料:

 DEV ステートメント (システム・ユーティリティ)

DFS1807I SC=08 type-c INTEGER TRUNCATED

TO FIRST 2 DIGITS

説明: DEV ステートメント *n* の DPM-An、DPM-Bn、または 3270-An が 2 桁を超えていました。

システムの処置: *n* の最初の 2 桁が使用され、処理はこのオペランド値から続行されます。

プログラマーの応答: TYPE= オペランドで有効な番号を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1808I SC=08 NULL NUMBER FOLLOWED
type. type-identifier ASSUMED**

説明: TYPE= オペランドのシンボリック装置 *type* の後に、番号が指定されていませんでした。

システムの処置: 装置タイプ ID が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。想定できる装置タイプは、DPM-A1、DPM-B1、または 3270-A1 です。

プログラマーの応答: TYPE= オペランドで有効な番号を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1809I SC=08 INVALID INTEGER
SPECIFIED IN type DEVICE TYPE.
type-identifier ASSUMED**

説明: 装置タイプ ID は、DEV ステートメントの TYPE= オペランドの一部として、1 から 15 の範囲の 1 桁または 2 桁の番号として指定する必要があります。

システムの処置: 装置タイプ ID が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。想定できる装置タイプは、DPM-A1、DPM-B1、または 3270-A1 です。

プログラマーの応答: DEV TYPE= オペランドで有効な整数を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1810I SC=08 FTAB=X'HEXSTRING' TOO
LONG. HEX STRING TRUNCATED
TO FIRST 16 DIGITS**

説明: FTAB=X'HEXSTRING' 指定で 16 桁を超える 16 進数が検出されました。

システムの処置: 16 進数ストリングは切り捨てられて、最初の 16 進数字 16 桁になります。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 16 進数ストリング FTAB 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1811I SC=08 'HEXSTRING' CONTAINS
ODD NO. OF DIGITS. LAST BYTE
PADDED ON RIGHT WITH 0**

説明: 指定内で奇数桁の 16 進数が検出されました。16 進数の最後の桁に 16 進数字ゼロが埋め込まれることで、文字が完成します。

システムの処置: 処理はこのオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 16 進数ストリング指定に偶数桁の 16 進数を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1812I SC=04 FTAB=X'HEXSTRING', HEX
DIGIT OF X'00' MAY BE
INCOMPATIBLE WITH DIV
NULL=DELETE**

説明: DIV NULL=DELETE を指定すると、FTAB 文字に達するまで、フィールド内の末尾 EBCDIC NULL (X'00') の除去が生じます。FTAB 文字 X'00' は、FTAB として処理されたわけではありませんが、EBCDIC NULL として削除されます。

システムの処置: 処理はこのオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: DIV NULL=DELETE が指定されている場合は、DIV NULL=DELETE 指定を変更するか、X'00' を FTAB 文字の 16 進数字として定義しないでください。ジョブを再実行してください。

**DFS1813I SC=04 MULTIPLE FLDEXIT/
NOFLDEXIT SPECIFICATIONS IN
OPTIONS= KEYWORD INVALID**

説明: 複数の FLDEXIT または NOFLDEXIT オプションが DIV ステートメントの OPTIONS= で指定されました。

システムの処置: 最初に指定された FLDEXIT または NOFLDEXIT オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の FLDEXIT または NOFLDEXIT オプションを OPTIONS= 指定から除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1814I SC=08 USER FTAB CHARACTERS
REQUIRED FOR MIX OR ALL.
NONE DEFINED.FORCE ASSUMED**

説明: MIX または ALL オプションの入力データ編集では、ユーザー定義の FTAB 文字が必要です。FTAB 文字が定義されていませんでした。

システムの処置: FORCE が想定されます。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: FTAB 文字を指定するか、MIX または ALL オプションを FORCE に変更してください。ジョブを再実行してください。

**DFS1815I SC=08 LDEL='LITERAL' LENGTH
NOT EQUAL 2. DEVICE TYPE
DEFAULT USED**

説明: 行削除文字が 3 文字以上 LDEL= で指定されました。

システムの処置: LDEL= オペランドは無視され、装置タイプのデフォルトが使用されます。処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 行削除文字 2 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1816I SC=04 MULTIPLE NULL=
KEYWORDS INVALID**

説明: 複数の NULL= キーワードが DIV ステートメントでコーディングされました。

システムの処置: 最初の指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の NULL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1817I SC=04 MULTIPLE OPTIONS=
KEYWORDS INVALID**

説明: 複数の OPTIONS= キーワードが DIV ステートメントでコーディングされました。

システムの処置: 最初の指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の OPTIONS= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1818I SC=04 MULTIPLE HDRCTL=
KEYWORDS INVALID**

説明: 複数の HDRCTL= キーワードが DIV ステートメントでコーディングされました。

システムの処置: 最初の指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の HDRCTL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1819I SC=04 MULTIPLE keyword=
KEYWORDS INVALID**

説明: 同じキーワードが複数回同じステートメントで指定されました。

システムの処置: 最初の指定が使用され、処理はこのステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: キーワードおよびそのオペランドを 1 回だけ指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1820I SC=04 MULTIPLE SPAN/NOSPAN
SPECIFICATIONS IN RCDCTL
KEYWORDS INVALID**

説明: 複数の SPAN または NOSPAN オプションが同じ RCDCTL= 指定で検出されました。

システムの処置: 最初に指定された SPAN または NOSPAN オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の SPAN または NOSPAN オプションを除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1821I SC=04 MULTIPLE NUMBERS IN
RCDCTL SPECIFICATION INVALID**

説明: 複数のレコード・サイズ数値が RCDCTL= で指定されました。

システムの処置: 最初のレコード限度が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数のレコード・サイズ数値を除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1822I SC=08 RCDCTL NUMBER
TRUNCATED. LAST 5 DIGITS USED**

説明: 数値レコード・サイズが DIV ステートメント RCDCTL= 指定の 5 桁を超えています。

システムの処置: 末尾の 5 桁が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 5 桁以下のレコード・サイズを指定してください。ジョブを再実行してください。

**DFS1823I SC=08 NULL RCDCTL NUMBER. 256
USED**

説明: レコード・サイズ数値 NULL が DIV ステートメント RCDCTL= で指定されました。

システムの処置: レコード・サイズ 256 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効なレコード・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1824I SC=08 RCDCTL NUMBER OF 0
INVALID. 256 USED**

説明: レコード・サイズ数値ゼロが DIV ステートメント RCDCTL= で指定されました。レコード・サイズは、1 と 32000 の間である必要があります。

システムの処置: デフォルトのレコード・サイズ 256 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: RCDCTL= 指定で有効なレコード・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1825I SC=08 RCDCTL NUMBER EXCEEDS
32000. 256 USED**

説明: 32000 より大きいレコード・サイズが DIV ステートメント RCDCTL= で指定されました。レコード・サイズは、1 と 32000 の間である必要があります。

システムの処置: デフォルトのレコード・サイズ 256 が指定されているものと想定され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: RCDCTL= 指定で有効なレコード・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1826I SC=04 MULTIPLE FIXED/VARIABLE
SPECIFICATIONS IN HDRCTL=
KEYWORD INVALID**

説明: 複数の FIXED または VARIABLE オプションが DIV ステートメントの HDRCTL= で指定されました。

システムの処置: 最初に指定された FIXED または VARIABLE オプションが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の FIXED または VARIABLE オプションを HDRCTL= 指定から除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1827I SC=04 MULTIPLE HDRCTL NUMBER
SPECIFICATIONS INVALID**

説明: HDRCTL= キーワードの場合は、数値長さの指定 1 つのみが有効です。

システムの処置: 最初の数値長さの指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: HDRCTL= 指定で数値長さを 1 つ指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1828I SC=08 HDRCTL NUMBER
TRUNCATED. LAST 2 DIGITS USED**

説明: HDRCTL= 指定の長さパラメーターが 2 桁を超えていました。

システムの処置: 末尾の 2 桁のみが使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 長さ指定を省略するか、必要な HDRCTL= *length* を指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1829I SC=08 NULL HDRCTL NUMBER.
DEFAULT ASSUMED**

説明: HDRCTL= に NULL が指定されました。

システムの処置: デフォルトの 7 が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 長さ指定を省略するか、適切な HDRCTL= *numeric length* を指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1830I SC=04 MULTIPLE SIM/NOSIM2
SPECIFICATIONS IN OPTIONS=
KEYWORD INVALID**

説明: SIM または NOSIM2 が単一の OPTIONS= キーワードで複数回指定されました。

システムの処置: 最初の SIM または NOSIM2 指定が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 複数の SIM または NOSIM2 指定の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1831A SC=04 MULTIPLE operand/operand
SPECIFICATIONS IN OPTIONS=
KEYWORD INVALID**

説明: 矛盾するオペランドが OPTIONS= キーワードで指定されました。

システムの処置: ユーザーが指定した第 1 オペランドが使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: DNM か NODNM、または MSG、あるいはその両方、DPAGE または PPAGE を選択することにより、競合しているオペランドを解決してください。

**DFS1832I SC=08 RCDCTL= INVALID FOR
SPECIFIED DEVICE TYPE**

説明: RCDCTL= が有効なのは、DEV ステートメントで TYPE= DPM-A1 から DPM-A10 の場合のみです。

システムの処置: RCDCTL= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DEV.TYPE= ステートメントを訂正するか、RCDCTL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1833I SC=08 HDRCTL= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: HDRCTL= が有効なのは、DEV ステートメントで TYPE= DPM-A1 から DPM-A10 の場合のみです。

システムの処置: HDRCTL= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DEV.TYPE= ステートメントを訂正するか、HDRCTL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1834I SC=08 keyword= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: このキーワードは、DEV ステートメントの TYPE= オペランドで指定されている装置タイプに関しては使用できません。

システムの処置: キーワード指定は無視され、処理は残りのキーワードから続行されます。

プログラマーの応答: DEV TYPE= 指定を訂正するか、このキーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1835I SC=08 NULL= INVALID FOR SPECIFIED DEVICE TYPE

説明: DIV ステートメントの NULL= 指定が有効なのは、DEV TYPE=DPM-A1 から DPM-A10 の場合のみです。

システムの処置: NULL= 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DEV.TYPE= 指定を訂正するか、NULL= 指定を除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1836I SC=08 MSG/DPAGE/PPAGE PARAMETERS INVALID ON OPTIONS= KEYWORD FOR DIV TYPE=INPUT

説明: DIV TYPE=INPUT の場合は、オプション MSG/DPAGE/PPAGE は、OPTIONS= キーワードでは無効です。

システムの処置: これらのオプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: MSG/DPAGE/PPAGE パラメーターを OPTIONS= キーワードから除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。ジョブを再実行してください。

DFS1837I SC=08 RCDCTL= INVALID FOR DEV MODE=STREAM. RCDCTL= IGNORED

説明: DIV ステートメントの RCDCTL= 指定が DEV.MODE=STREAM と矛盾していました。

システムの処置: RCDCTL 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: RCDCTL= または DEV.MODE=STREAM の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1838I SC=08 SPAN PARAMETER INVALID ON RCDCTL= KEYWORD FOR DIV TYPE=INPUT

説明: RCDCTL= キーワードに関する SPAN 指定が有効なのは、DIV TYPE=OUTPUT の場合のみです。

システムの処置: SPAN パラメーターは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SPAN または DIV TYPE=INPUT の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

DFS1839I SC=08 keyword= INVALID FOR DIV TYPE=INPUT

説明: このキーワードは、TYPE=INPUT の場合は DIV ステートメントで無効です。

システムの処置: キーワード指定は無視され、処理は残りのキーワードから続行されます。

プログラマーの応答: 無効のキーワードをステートメントから除去し、ジョブを再実行してください。

DFS1840I SC=08 HDRCTL NUMBER INVALID. DEFAULT ASSUMED

説明: HDRCTL= 指定の長さパラメーターが 7 から (RCDCTL 長さ - 1) の範囲にありませんでした。

システムの処置: 値 7 が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な HDRCTL 長さパラメーターを指定して、ジョブを再実行してください。

**DFS1841I SC=08 NULL= INVALID FOR DIV
TYPE=OUTPUT. NULL= IGNORED**

説明: NULL= 指定が有効なのは、DIV TYPE=INPUT の場合のみです。

システムの処置: DIV TYPE=OUTPUT に関して使用されたときは、NULL= 指定は無視されます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: NULL= または DIV TYPE=OUTPUT の矛盾を解決し、ジョブを再実行してください。

**DFS1842I SC=08 device-type IDENTIFIER DOES
NOT BEGIN WITH A VALID
CHARACTER. type-A1 ASSUMED**

説明: DEV ステートメントの TYPE=キーワードで指定された装置タイプ ID の先頭文字に誤りがありました。

システムの処置: DPM-A1 または 3270-A1 が装置タイプとして使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 必要な ID を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1843I SC=08 LDEL=X'HEXSTRING',
HEXSTRING LENGTH IS NOT 4.
HEXSTRING PADDED ON RIGHT
WITH 0'S**

説明: LDEL= スtringが、16 進 4 桁より小でした。

システムの処置: Stringは、16 進 4 桁になるまで右にゼロが埋め込まれます。処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: LDEL= Stringを 16 進 4 桁まで拡張し、ジョブを再実行してください。

**DFS1844I SC=08 FTAB=X'HEXSTRING',
HEXSTRING IS NULL. DEFAULT
FTABS USED FOR APPLICABLE
DEVICES**


説明: NULL の 16 進数Stringが DEV ステートメントの FTAB= で指定されました。デフォルトの FTAB を備えた装置タイプのリストについては、『MFS 言語ユーティリティ (DFSUPAA0)』のトピックを参照してください。

システムの処置: 適用される装置に関しては、FTAB が

指定されているものと想定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 有効な FTAB 指定を指定し、ジョブを再実行してください。

関連資料:

 MFS 言語ユーティリティ (DFSUPAA0) (システム・ユーティリティ)

**DFS1845I SC=04 RCD STATEMENT IS
INVALID FOR DEV MODE=STREAM.
RCD STATEMENT IGNORED**

説明: RCD ステートメントは、STREAM モードでは指定できません。

システムの処置: RCD ステートメントは無視され、処理は次のステートメントから続行されます。

プログラマーの応答: RCD ステートメントを入力ストリームから除去するか、RECORD モードを指定してください。ジョブを再実行してください。

**DFS1846I SC=08 HEXSTRING CONTAINS
INVALID HEX DIGIT. HEX DIGIT
X'0' ASSUMED**

説明: 16 進数字であると定義されているStringに、A から F または 0 から 9 以外の文字が含まれていました。

システムの処置: 無効文字はゼロに置換され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 無効の 16 進文字をString上で検索し、有効な値を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1847I SC=08 SIM/NOSIM2 PARAMETERS
INVALID ON OPTIONS= KEYWORD
FOR DIV TYPE=INPUT**

説明: オプション SIM/NOSIM2 は、DIV TYPE=INPUT の場合は、DIV ステートメントの OPTIONS= キーワードでは無効です。

システムの処置: SIM/NOSIM2 オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SIM または NOSIM2 パラメーターを OPTIONS= キーワードから除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。ジョブを再実行してください。

DFS1848I SC=08 DSCA=X'HEXSTRING',
HEXSTRING IS NOT 4 HEX DIGITS.
STRING PADDED ON RIGHT WITH
0'S

説明: DSCA= キーワードには 4 桁未満の 16 進数が指定されていました。指定は、長さが 16 進 4 桁になるまで、右に 16 進ゼロが埋め込まれます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: DSCA= オペランドで 16 進 4 桁を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1849E CHANGE NOT SUPPORTED BY
ALTER OPTION RS=*rsnc* PST=*pstno*
SEGMENT *segmname*

または

CHANGE NOT SUPPORTED BY ALTER OPTION
RS=*rsnc* PST=*pstno* SEGMENT *segmname* FIELD
fld_name

説明: データベース定義 (DBD) に含まれているデータベース構造の変更は、INITIATE OLREORG コマンドの ALTER オプションを使用してオンライン・データベースに適用することはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pstno ゼロを基準とする、プログラム仕様テーブル (PST) の番号。

rsnc ALTER オプションでサポートされない DBD の変更を識別する理由コード。各コードの説明については、以下の理由コードのリストを参照してください。

segmname

サポートされない変更を含むセグメントの名前。

fld_name

サポートされない変更を含むフィールドの名前。

理由コード

サポートされない変更

- 1 データベースのアクセス方式が変更されました。例えば、オンライン・データベースで使用中のアクセス方式は PHDAM ですが、新しい DBD では PHIDAM が指定されています。
- 2 ランダマイザーが変更されました。
- 3 出口ルーチンが変更されました。
- 4 セグメント数が変更されました。

- 5 データベース・データ・セット・グループ数が変更されました。
- 6 論理子または論理親セグメントの長さが変更されました。
- 7 セグメント・レベルが変更されました。
- 8 セグメント接頭部が変更されました。
- 9 セグメントが固定長から可変長に、またはその逆に変更されました。
- 10 挿入規則が変更されました。
- 11 削除規則が変更されました。
- 12 セグメント・コードが変更されました。
- 13 連結キーの長さが変更されました。
- 14 論理関係が追加または変更されました。例えば、副次索引のソース・セグメントの変更は、HALDB 変更機能でサポートされません。
- 15 セグメント長が減らされたため、既存フィールドが削除されました。
- 16 このフィールドは削除されたか、別のセグメントに移動されたか、名前が変更されました。
- 17 フィールドのキー長が変更されました。
- 18 フィールド長が変更されました。
- 19 FIELD ステートメントの TYPE キーワードの値が変更されました。
- 20 セグメント内の既存フィールド間に新規フィールドが追加されました。ALTER オプションは、既存フィールドの後のみに新規フィールドをセグメントに追加できます。
- 21 セグメントの親が変更されました。
- 22 セグメント長が減らされました。

システムの処置: ALTER 操作が終了します。

システム・プログラマーの応答: ALTER オプションを使用して、理由コードで示された変更を適用することはできません。


サポートされない変更が必要な場合は、データベースをオフラインにして、アンロードと再ロードを行うことによって、その変更をデータベースに適用することができます。

サポートされない変更が必要ないときに、引き続きその他の変更をデータベースに適用するために ALTER オプションを使用する必要がある場合は、サポートされない変更をデータベース定義から除去し、DBD および ACB ライブラリー・メンバーを再生成し、INITIATE OLREORG OPTION(ALTER) コマンドを再発行してください。

DFS1850I

モジュール: DFS5DBB0

関連タスク:

 オンライン HALDB データベースの定義の変更
(データベース管理)

関連資料:

 INITIATE OLREORG コマンド (コマンド)

**DFS1850I SC=04 NULL DEVCHAR SUFFIX.
DEVCHAR TABLE DFSUDT00 USED**

説明: EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターで接尾部が指定されていませんでした。

システムの処置: ロードされる装置特性テーブルの名前は DFSUDT00 です。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに有効な単一の英数字接尾部を指定し、ジョブを再実行してください。

第 41 章 DFS メッセージ DFS1851I - DFS1900I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1851I SC=04 DEVCHAR SUFFIX '*suffix*' TRUNCATED TO FIRST CHARACTER

説明: EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターで複数の文字が指定されました。メッセージには、存在していた文字のうち最大 8 文字まで表示されません。

システムの処置: 先頭文字のみが、装置特性テーブル名の 1 文字接尾部として使用されます。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントの DEVCHAR= パラメーターに有効な単一の英数字接尾部を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1852W THE CATALOG PSB DFSCP000 IS UNSCHEDULABLE ERROR CODE=*xx*

説明: IMS はカタログ PSB DFSCP000 のアプリケーション制御ブロックを作成するのに失敗しました。このため、PSB はもうスケジュールできません。

エラー・コード
説明

- 1 PSB DFSCP000 の BLDL マクロ呼び出しが失敗したか、または DFSCP000 メンバーがアクティブ ACB ライブラリー内に存在しません。
- 2 DFSCP000 メンバーはアクティブ ACB ライブラリー内に存在しますが、そのアクティブ・メンバーが PSB ではありません。
- 3 PSB DFSCP000 メンバーのアクティブ・バージョンは、IMS のこのバージョンと互換性がありません。
- 4 IMS 初期設定時に、PSB DFSCP000 の意図リストを ACB ライブラリーから読み取ることができませんでした。
- 5 IMS 初期設定時にプログラムまたはデータベース・ディレクトリー・ブロックが作成できなかったために、カタログ制御ブロックを作成することができません。
- 8 ストレージを取得できなかったため、カタログ・アプリケーション制御ブロックを作成できません。

- 9 オンライン変更がコミットされた後に、DFSCP000 PSB の意図リストを ACB ライブラリーから読み取ることができませんでした。
- 10 オンライン変更のコミット・フェーズ中にストレージを取得できなかったため、カタログ・アプリケーション制御ブロックを作成できません。
- 11 オンライン変更のコミット・フェーズ中にプログラムまたはデータベース・ディレクトリー・ブロックが作成できなかったため、カタログ・アプリケーション制御ブロックを作成できません。
- 12 IMS は、オンライン変更のコミット・フェーズ中に、DFSXRBB0 モジュールのロードに失敗しました。
- 13 オンライン変更プロセスは、DMB DFSCD000 または DFSCX000 を常駐させることに失敗しました。
- 14 オンライン変更プロセスは、PSB DFSCP000 の意図リストを常駐させることに失敗しました。
- 15 オンライン変更プロセスは、PSB DFSCP000 を常駐させることに失敗しました。

システムの処置: カatalog PSB DFSCP000 はスケジュールできません。アプリケーション・プログラムが、カタログ PCB である DFSCAT00 に対して DLI 呼び出しを発行した場合は、必要とされる DFSCP000 の動的接続が U0253 異常終了で失敗します。アプリケーションが直接に DFSCP000 をスケジュールしようとした場合は、U0456 異常終了が発生します。

システム・プログラマーの応答: エラー・コードが 1、2、3、4、5、9、13、14、および 15 の場合、BUILD PSB=DFSCP000 を指定して ACBGEN を実行します。他のエラー・コードの場合、下位にあるエラーを解決してください。

DFS1853I ACBSHR = Y, SET USING CSL ACBSHR VALUE

または

ACBSHR = N, SET USING CSL ACBSHR VALUE

または

ACBSHR = Y, SET USING CSL DEFAULT VALUE

または

ACBSHR = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE

説明: IMS 初期化中に Common Service Layer (CSL) が使用された場合、このメッセージはソースおよび ACBSHR 値を表示します。

IMS の初期化中に CSL が使用されなかった場合、<SECTION=FASTPATH>: ACBSHR = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE に対して、デフォルト ACBSHR 値として ACBSHR=Y が設定されると以下のメッセージが発行されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFFATC1

DFS1854I SC=08 VERSID LENGTH INVALID, X'hhhh' USED

説明: バージョン ID の 16 進指定が、16 進文字 4 文字より小と大のいずれかでした。

システムの処置: メッセージの X'hhhh' 部分に表示されている 16 進文字 4 文字がバージョン ID として使用されます。指定されているのが 16 進文字 4 文字を超えている場合は、指定されている最初の 4 文字が使用されます。指定されているのが 4 文字未満の場合は、値は長さが 4 文字になるまで右にゼロが埋め込まれます。

プログラマーの応答: 16 進文字を正確に 4 文字使用して、バージョン ID 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1855I SC=08 VERSID LENGTH INVALID, 'cc' USED

説明: バージョン ID の指定が、2 文字より小と大のいずれかでした。

システムの処置: メッセージに表示されている 2 文字 (cc) が、バージョン ID として使用されます。指定されているのが 2 文字未満の場合は、空白が追加されます。2 文字を超えて指定されている場合は、最初の 2 文字が使用されます。

プログラマーの応答: 正確に 2 文字を使用して、バージョン ID 指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1856I SC=04 PF KEY NUMBER 'nnnnnnnn' IS NOT A VALID INTEGER. SUBPARAMETER IGNORED

説明: 指定されている PF キー番号が、1 から 36 の範囲の番号ではありませんでした。

システムの処置: この無効の PF キー番号とそのオペランドは無視されます。処理は、このサブパラメーターなしで続行されます。

プログラマーの応答: 1 から 36 の範囲の PF キー番号を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1857I SC=04 PF KEY NUMBER 'nn' IS A DUPLICATE NUMBER AND IS IGNORED

説明: このサブパラメーターの PF キー番号は、以前に指定されています。

システムの処置: 最初の指定が使用され、処理はこのサブパラメーターから続行されます。

プログラマーの応答: 重複指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS1858I SC=08 DEVCHAR TABLE DFSUDT0x NOT FOUND. DFSUDT00 USED

説明: メッセージに指定されたメンバーが、IMS.SDFSRESL 検出されませんでした。

システムの処置: DFSUDT00 を検索する試みがなされ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: IMS.SDFSRESL 内のメンバーに合致する装置特性テーブル接尾部を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1859I SC=08 DEVCHAR TABLE DFSUDT00 NOT FOUND. NO TABLE LOADED

説明: 装置特性テーブル DFSUDT00 が IMS.SDFSRESL で検出されませんでした。

システムの処置: システムはメッセージ DFS1861I を出し、IBM 3270 モデル 2 装置タイプを想定し、処理を続行します。

プログラマーの応答: DEV ステートメントのシンボリック装置タイプ 3270-An を使用する前に、IMS.SDFSRESL 内の望ましいメンバーを識別する装置特性テーブル接尾部を指定してください。

関連情報:

457 ページの『DFS1861I』

**DFS1860I SC=08 PERMANENT I/O ERROR
READING SDFSRESL DIRECTORY
FOR DEVCHAR TABLE. NO TABLE
USED**

説明: BLDL マクロが戻りコード 08 を戻し、これによって、システムがディレクトリーの検索を試みている最中に、永続入出力エラーが検出したことが示されています。

システムの処置: システムはメッセージ DFS1861I を出し、3270 モデル 2 装置タイプを想定し、処理を続行します。

問題判別: 1、2、3、16、23

関連資料:



z/OS: BLDL の完了コード

関連情報:

『DFS1861I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1861I SC=08 DEVCHAR TABLE NOT
LOADED. 3270 ASSUMED**

説明: 装置特性テーブルがロードされませんでした。このメッセージの前に、エラー・メッセージ DFS1859I または DFS1860I が出されているはずですが。

システムの処置: 3270 モデル 2 装置タイプが想定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS1859I または DFS1860I の原因を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報:

456 ページの『DFS1859I』

『DFS1860I』

**DFS1862I SC=08 3270-An DEVICE TYPE NOT
FOUND IN THE DEVCHAR TABLE.
3270 ASSUMED**

説明: メッセージに示されている装置タイプのシンボル名が、ロードされた装置特性テーブルで検出されませんでした。

システムの処置: 3270 モデル 2 装置タイプが想定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 正しい接尾部付き装置特性テーブルが使用されたか、およびシステム定義で使用されているシンボル名が、DEV ステートメントで使用された名前と同じであるか確認してください。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1863I SC=04 DEVICE FEATURES
SPECIFIED NOT FOUND IN
DEVCHAR TABLE**

説明: ロードされた装置特性テーブルに、DEV ステートメントの FEAT= オペランドで指定された機構と同じ、DEV ステートメントの TYPE= キーワードで指定されたシンボル名に関するエントリーがありませんでした。

システムの処置: システムでは、装置特性テーブル・エントリーで検出された機構ではなく、DEV ステートメントで指定されているか、指定されていると想定されている機構を使用します。

プログラマーの応答: このシンボリック装置タイプおよび機構のフォーマットは、一致する定義済み装置および機構がないため、オンライン・システムで参照されることはありません。エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS1864I SC=04 RCDCTL=SPAN IS INVALID
FOR DPM-Bn**

説明: TYPE=DPM-B_n が DEV ステートメントで指定されているときは、RCDCTL=SPAN は使用できません。

システムの処置: SPAN 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SPAN 指定を NOSPAN に変更し、RCDCTL= オペランドから除去するか、装置タイプ指定を変更し、ジョブを再実行してください。

**DFS1865I SC=08 PPAGE OPTION INVALID ON
OPTIONS= KEYWORD FOR DIV
TYPE=INPUT**

説明: DIV TYPE=INPUT の場合は、オプション PPAGE は、OPTIONS= キーワードでは無効です。

システムの処置: PPAGE オプションは無視され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: PPAGE を OPTIONS= キーワードから除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。ジョブを再実行してください。

**DFS1866I SC=04 RDPN=DFLDNAME
TRUNCATED TO 'cccccccc'**

説明: 戻り宛先プロセス名 (dfldname) が 8 文字より大でした。

システムの処置: dfldname の最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

DFS1867I • DFS1875I

プログラマーの応答: dflldname を 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1867I SC=08 name= 'LITERAL' INVALID
FOR DIV TYPE=INPUT**

説明: DIV TYPE=INPUT が指定されているとき、宛先プロセス名 (DPN) か 1 次リソース名 (PRN) のいずれかのリテラルが無効でした。

システムの処置: リテラル指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: リテラル指定を除去するか、DIV TYPE を OUTPUT に変更してください。

**DFS1868I SC=04 DPN='LITERAL' TRUNCATED
TO 'cccccccc'**

説明: 宛先プロセス名リテラルが 8 文字より大でした。

システムの処置: リテラルの最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: リテラルを 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1869I SC=04 DPN=DFLDNAME
TRUNCATED TO 'cccccccc'**

説明: 宛先プロセス名 (dflldname) が 8 文字より大でした。

システムの処置: dflldname の最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: dflldname を 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1870I SC=04 PRN='LITERAL' TRUNCATED
TO 'cccccccc'**

説明: 1 次リソース名 (PRN) リテラルが 8 文字より大でした。

システムの処置: リテラルの最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: リテラルを 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1871I SC=04 PRN=DFLDNAME
TRUNCATED TO 'cccccccc'**

説明: 1 次リソース名 (dflldname) が 8 文字より大でした。

システムの処置: dflldname の最初の 8 文字のみが使

用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: dflldname を 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1872I SC=04 RPRN='LITERAL' TRUNCATED
TO 'cccccccc'**

説明: 戻り 1 次リソース名 (RPRN) リテラルが 8 文字より大でした。

システムの処置: リテラルの最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: リテラルを 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1873I SC=04 RPRN=DFLDNAME
TRUNCATED TO 'cccccccc'**

説明: 戻り 1 次リソース名 (dflldname) リテラルが 8 文字より大でした。

システムの処置: dflldname の最初の 8 文字のみが使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: dflldname を 8 文字以下で指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1874I SC=08 name='LITERAL', NOT
SPECIFIED OR ZERO LENGTH ' ' ' ' ' '
USED**

説明: 宛先プロセス名 (DPN)、1 次リソース名 (PRN)、または戻り 1 次リソース名 (RPRN) リテラルが NULL でした。

システムの処置: 単一ブランクがリテラルとして使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 該当するリテラルを指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1875I SC=08 name=DFLDNAME,
DFLDNAME HAS NO CHARACTERS
AND IS IGNORED**

説明: 宛先プロセス名 (DPN)、1 次リソース名 (PRN)、または戻り 1 次リソース名 (RPRN) dflldname 指定が NULL 値でした。

システムの処置: dflldname 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 該当する dflldname を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1876I SC=08 OFTAB LENGTH INVALID,
X'hh' USED**

説明: 出力フィールド・タブ分離文字が、16 進文字 2 文字の長さではありませんでした。

システムの処置: 指定されている 16 進文字が 2 文字を超えている場合は、最初の 16 進文字 2 文字が使用され、処理はオペランドから続行されます。16 進文字が指定されていない場合は、X'00' が使用されます。

プログラマーの応答: 出力フィールド・タブ分離文字として、正確に 16 進文字 2 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1877I SC=08 OFTAB LENGTH INVALID,
C'c' USED**

説明: 出力フィールド・タブ分離文字が 1 文字ではありませんでした。

システムの処置: 文字が指定されていない場合は、コンマが使用されます。複数の文字が指定されている場合は、最初に指定されている文字が使用されます。

プログラマーの応答: 出力フィールド・タブ分離文字として、正確に 1 文字を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1878I SC=08 OFTAB CHARACTER X'hh'
INVALID, SPECIFICATION
IGNORED**

説明: X'hh' と C'c' のいずれかとして指定された出力フィールド・タブ分離文字は、X'3F' にもブランク文字にもなり得ません。

システムの処置: 指定は無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 出力フィールド・タブ分離文字として、有効な文字を指定し、ジョブを再実行してください。

**DFS1879I SC=04 keyword= SPECIFICATION
IGNORED**

説明: 指定されたキーワードは、他の指定と矛盾していたため、無視されます。

システムの処置: 処理は次のオペランドから続行されません。

プログラマーの応答: 他のパラメーターが正しい場合は、このキーワードを除去し、ジョブを再実行してください。

**DFS1880I SC=08 EGCS LITERAL STRING
INVALID**

説明: 拡張図形文字セット (EGCS) リテラルとして表現されたリテラルが、通常のリテラルとして指定されました。MFS 設計では、この機能に EGCS リテラルは使用できません。

システムの処置: EGCS リテラルは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: リテラルを非 EGCS リテラルとして指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 該当しません

**DFS1881I SC=04 EGCS LITERAL CONTAINS
AN ODD NUMBER OF BYTES**

説明: この警告メッセージは、装置によっては、拡張図形文字セット (EGCS) データが偶数バイトであることが必要なことを示しています。

システムの処置: EGCS リテラルは未変更のまま受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: EGCS リテラルに正しいバイト数が含まれているか確認し、必要な場合は、ジョブを再実行してください。

**DFS1882I SC=08 ATTR=nn VALUE INVALID, 1
USED**

説明: 動的に変更可能な拡張属性の数として指定された値が、1 から 4 の範囲にありませんでした。

システムの処置: 値 1 が使用され、処理はこのオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 1 から 4 の範囲の数として拡張属性値を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1883I SC=04 PS VALUE IGNORED

説明: 装置タイプ SCS1 の場合は、拡張図形文字セット (EGCS) 属性にプログラム式シンボル値が使用されることはありません。

システムの処置: MFS は EGCS が指定されているものと想定し、プログラム式シンボル値を無視し、処理を続行します。

プログラマーの応答: プログラム式シンボル値のない EGCS として EGCS 属性を指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 該当しません

DFS1884I SC=08 PS SPECIFICATION INVALID WITH EGCS LITERAL, EGCS'F8' USED

説明: プログラム式シンボル属性 PX'hh' または PC'c' が、拡張図形文字セット (EGCS) リテラルと共に指定されました。予想されていたのは、EGCS 属性でした。SCS1 装置タイプの場合は、'F8' が制御ブロックに存在していることはありません。

システムの処置: 3270 装置の場合は、拡張属性は EGCS'F8' に変更されます。SCS1 装置タイプの場合は、拡張属性は EGCS に変更されます。処理は続行されます。

プログラマーの応答: 拡張属性を EGCS'hh' に変更する (EGCS の場合、SCS1 の場合) か、リテラルを非 EGCS リテラルとして指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 該当しません

DFS1885I SC=08 EGCS EXTENDED ATTRIBUTE IGNORED

説明: 拡張属性 EGCS'hh' または EGCS が、非 EGCS リテラルと共に指定されました。

システムの処置: EGCS 拡張属性は無視されます。プログラム式シンボル値があればすべてリセットされ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: プログラム式シンボル属性を PX'hh' または PC'c' として指定するか、リテラル指定を EGCS リテラルに変更し、ジョブを再実行してください。

DFS1886I SVC メッセージ

説明: 次の通知 SVC メッセージ が 1 つ以上出される可能性があります。

DYNAMIC UPDATE OF IMS TYPE 2 SVC = STARTED

ユーティリティーは IMS タイプ 2 SVC の更新を開始しました。応答も処置も必要ありません。

IMS TYPE 2 SVC NUMBER = xxx

ユーティリティーは、DFSRESLB DD カードによって指し示されたデータ・セット内で、IMS タイプ 2 SVC の番号を識別しました。この番号をメモし、システム管理者が予想していた番号に対応しているか確認してください。応答も処置も必要ありません。

IMS TYPE 2 SVC DYNAMIC UPDATE = SUCCESSFUL

ユーティリティーは、新しい IMS タイプ 2

SVC モジュールを指し示すために、MVS SVC テーブル内の項目を正常に変更しました。応答も処置も必要ありません。

DYNAMIC UPDATE OF DBRC TYPE 4 SVC = STARTED

ユーティリティーは、DBRC タイプ 4 SVC の更新を開始しました。応答も処置も必要ありません。

DBRC TYPE 4 SVC NUMBER =xxx

ユーティリティーは、DFSRESLB DD カードによって指し示されたデータ・セット内で、DBRC タイプ 4 SVC の番号を識別しました。この番号をメモし、システム管理者が予想していた番号に対応しているか確認してください。応答も処置も必要ありません。

DBRC TYPE 4 SVC DYNAMIC UPDATE = SUCCESSFUL

ユーティリティーは、新しい DBRC タイプ 4 SVC モジュールを指し示すために、MVS SVC テーブル内の項目を正常に変更しました。応答も処置も必要ありません。

DFS1886E SVC メッセージ

説明: 次の 1 つ以上のエラー SVC メッセージが発行される場合があります。

IMS TYPE 2 SVC DYNAMIC UPDATE = FAILED - RC xx

ユーティリティーは IMS タイプ 2 SVC の更新中に障害を起こしました。エラーによって、このメッセージに別の DFS1886E エラー・メッセージまたは DFS1886A オペレーター処置メッセージが付随する場合があります。理由コード xx は、次のいずれかです。

理由コード

- | | 説明 |
|----|--|
| 4 | DFSRESLB ライブラリーのオープンに失敗しました。 |
| 8 | DFSRESLB ライブラリーが APF 許可されていません。 |
| 12 | DFSRESLB ライブラリーにモジュール DFSVC000 が含まれていません。 |
| 16 | DFSRESLB ライブラリーにモジュール IGCxxx が含まれていません。ここで xxx は IMS タイプ 2 SVC 番号です。 |
| 20 | 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = EMPTY」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。 |
| 24 | 「DFS1886A MVS SVC TABLE |

- ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT AN IMS SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。
- 28 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = IMS SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。
- 32 現在、IMS RESLIB で指定された SVC 番号を使用しているアクティブな IMS が存在します。
- 36 MVS SVC テーブル更新サービスからのゼロ以外の戻りコード (z/OS 戻りコードについては WTO を参照してください)。
- 56 SVCTYPE = 入力パラメーターに無効な値が指定されました。

DBRC TYPE 4 SVC DYNAMIC UPDATE = FAILED - RC = xx

ユーティリティは、DBRC タイプ 4 SVC の更新中に障害を起こしました。エラーによっては、このメッセージに別の DFS1886E エラー・メッセージまたは DFS1886A オペレーター処置メッセージが付随する場合があります。理由コード xx は、次のいずれかです。

理由コード

- 説明
- 4 DFSRESLB ライブラリーのオープンに失敗しました。
- 8 DSRESLB ライブラリーが APF 許可されていません。
- 20 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = EMPTY」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。
- 36 MVS SVC テーブル更新サービスからのゼロ以外の戻りコード (z/OS 戻りコードについては WTO を参照してください)。
- 40 DFSRESLB ライブラリーにモジュール DSPSVC00 が含まれていません。
- 44 DFSRESLB ライブラリーにモジュール IGC00xxx が含まれていません。ここで、xxx は DBRC タイプ 4 SVC の符号付き 10 進 SVC 番号です。
- 48 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT A DBRC SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。

- 52 「DFS1886A MVS SVC TABLE ENTRY = DBRC SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC」メッセージの場合、WTOR への応答が「NO」でした。
- 56 SVCTYPE = 入力パラメーターに無効な値が指定されました。

DATA SET OPEN FAILED - SEE DFSRESLB DD

CARD DFSRESLB DD カードによって指し示されているデータ・セットを開いていて、問題が発生しました。ユーティリティは RC=0004 で終了します。そのデータ・セットの問題を解決し、ユーティリティ・ジョブを再実行依頼してください。

DATA SET APF AUTHORIZATION FAILED - SEE DFSRESLB DD CARD

DFSRESLB DD カードで指定された RESLIB は APF 許可されていません。ユーティリティは RC=0008 で終了します。ユーティリティを正しく実行するためには、RESLIB が APF 許可されている必要があります。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示しており、それらのデータ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

MODULE DFSVC000 NOT FOUND - SEE DFSRESLB DD CARD

2 次 SCD (DFSVC000) を見つけることができません。ユーティリティは RC=0012 で終了します。IMS RESLIB には SSCD が入っています。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示していることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

MODULE xxxxxxxx NOT FOUND - SEE DFSRESLB DD CARD

xxxxxxx は、更新される SVC モジュールの名前です。IMS タイプ 2 SVC を更新する場合、モジュール名は IGCxxx で、xxx は IMS タイプ 2 SVC 番号です。DBRC タイプ 4 SVC を更新する場合、モジュール名は IGC00xxx で、xxx は DBRC タイプ 4 SVC の符号付き 10 進 SVC 番号です。ユーティリティは RC=0016 または RC=0044 で終了します。IMS RESLIB データ・セットには、SVC モジュールが入っている必要があります。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示していることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

MVS SVC TABLE ENTRY WAS EMPTY - WTO REPLY WAS NO

SVC の MVS SVC テーブル・エントリーが空

です。このメッセージの前に DFS1886A メッセージが発行されており、オペレーターは、それに「NO」を応答しました。エントリーが空であることをオペレーターが予測していなかった場合、この応答は正しいと推定されます。ユーティリティは RC=0020 で終了します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認し、ジョブを再実行依頼してください。これは異常な状態です。ただし、この SVC エントリーが空であることを予期している場合は除きます。この状態が発生した場合は、システム管理者に相談することもできます。

MVS SVC TABLE CONTAINS AN ACTIVE SVC THAT IS NOT AN IMS SVC

MVS SVC テーブル・エントリーに、IMS SVC ではないアクティブ SVC が入っています。ユーティリティは、何をすべきかを判断できるよう、WTOR メッセージを発行します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定してあることと、前回の「DFS1886I IMS TYPE 2 SVC NUMBER = xxx」メッセージまたは「DFS1886I DBRC TYPE 4 SVC NUMBER = xxx」メッセージで戻された SVC 番号が正しいことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに「NO」を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに「YES」を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判別してください。

IMS RELEASE LEVELS INCONSISTENT - RESLIB SVC IS AT A LOWER LEVEL THAN CURRENT SVC

MVS SVC テーブル・エントリーは、IMS RESLIB データ・セット内にあるバージョンより新しいバージョンの SVC を指し示しています。ユーティリティは、何をすべきかを判断できるよう、WTOR メッセージを発行します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに「NO」を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに「YES」を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判別してください。

THERE IS CURRENTLY AN ACTIVE IMS USING THE SAME SVC NUMBER

1 つ以上の IMS 制御領域が現在タイプ 2 SVC を実行および参照中です。ユーティリティは RC=0032 で終了します。現在アクティブ IMS 制御領域を停止するようにスケジュールできる

まで待つ必要があります。その時点で、ジョブを再実行依頼してください。

MVS SVC TABLE UPDATE SERVICES FAILED - RC=xx MVS SVC 更新サービス (SVCUPDTE) からゼロ以外の戻りコードが戻されました。xx は戻りコードです。戻りコードの説明については、SVCUPDTE マクロを参照してください。

MODULE DSPSVC00 NOT FOUND - SEE DFSRESLB DD CARD

DBRC タイプ 4 SVC 番号が入っているモジュール DSPSVC00 を見つけることができませんでした。ユーティリティは RC=0040 で終了します。IMS RESLIB にモジュール DSPSVC00 が入っています。DFSRESLB DD カードが正しいデータ・セットを指し示していることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

MVS SVC TABLE CONTAINS AN ACTIVE SVC THAT IS NOT A DBRC SVC

MVS SVC テーブル・エントリーに、DBRC SVC ではないアクティブ SVC が入っています。ユーティリティは、何をすべきかを判断できるよう、WTOR メッセージを発行します。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定してあることと、前回の「DFS1886I DBRC TYPE 4 SVC NUMBER = xxx」メッセージで戻された SVC 番号が正しいことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに「NO」を応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに「YES」を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判別してください。

INVALID VALUE SPECIFIED FOR SVCTYPE= INPUT PARAMETER

SVCTYPE = 入力パラメーターに無効な値が指定されました。ユーティリティは RC=0056 で終了します。入力パラメーターの問題を解決し、ユーティリティ・ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

460 ページの『DFS1886I』
『DFS1886A』

DFS1886A SVC メッセージ

説明: 次の 1 つ以上の SVC メッセージが発行される場合があります。オペレーターは、以下に記載の処置を取る必要があります。

MVS SVC TABLE ENTRY = EMPTY - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES or NO)

これは異常な状態です。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。この状態が発生した場合は、システム管理者に相談することもできます。WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY xx,yyy と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx WTOR 番号。
 yyy 文字ストリングの YES または NO。
NO ユーティリティは RC=0020 で異常終了します。
YES ユーティリティは続行され、空のエントリーを使用します。

MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT AN IMS SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エントリーに、IMS SVC ではないアクティブ SVC が入っています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY xx,yyy と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx WTOR 番号。
 yyy 文字ストリングの YES または NO。
NO ユーティリティは RC=0024 で異常終了します。
YES ユーティリティは続行され、MVS SVC テーブル・エントリーを再利用します。

これは異常な状態です。必要なくなった SVC エントリーを再利用することを予期している場合以外、「NO」を応答してください。正しい処置の方法について、システム管理者に連絡してください。

MVS SVC TABLE ENTRY = IMS SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エントリーは、IMS RESLIB データ・セット内にあるバージョンより新しいバージョンの SVC を指し示しています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに NO を

応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに YES を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判断してください。

WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY xx,yyy と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx WTOR 番号。
 yyy 文字ストリングの YES または NO。
NO ユーティリティは RC=0028 で異常終了します。
YES ユーティリティは続行され、古いバージョンの SVC を使用します。

MVS SVC TABLE ENTRY = ACTIVE SVC THAT IS NOT A DBRC SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エントリーに、DBRC SVC ではないアクティブ SVC が入っています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY xx,yyy と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx WTOR 番号。
 yyy 文字ストリングの YES または NO。
NO ユーティリティは RC=0048 で異常終了します。
YES ユーティリティは続行され、MVS SVC テーブル・エントリーを再利用します。

これは異常な状態です。必要なくなった SVC エントリーを再利用することを予期している場合以外、「NO」を応答してください。正しい処置の方法について、システム管理者に連絡してください。

MVS SVC TABLE ENTRY = DBRC SVC AT HIGHER RELEASE THAN RESLIB SVC - DO YOU WISH TO CONTINUE? (YES OR NO)

MVS SVC テーブル・エントリーは、IMS RESLIB データ・セット内にあるバージョンより新しいバージョンの DBRC SVC を指し示しています。正しい IMS RESLIB データ・セットを指定したことを確認してください。続行を望まない場合は、WTOR メッセージに NO を

応答してください。続行する場合は、WTOR メッセージに YES を応答してください。システム管理者に問い合わせ、正しい処置の取り方を判別してください。

WTOR メッセージに応答するには、z/OS オペレーター・コンソールから REPLY xx,yyy と入力してください。ただし、パラメーターは以下のとおりです。

xx WTOR 番号。
 yyy 文字ストリングの YES または NO。
 NO ユーティリティーは RC=0052 で異常終了します。
 YES ユーティリティーは続行され、古いバージョンの SVC を使用します。

DFS1887I SC=04 DPAGE FILL= IN CONFLICT WITH EGCS ATTRIBUTE

説明: DPAGE ステートメントで FILL= を指定されたことが原因で、データが入っていない EGCS フィールドに関して、端末からエラー表示が出されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: この DFLD には何らかのデータが常にマップされているようにするか、DPAGE ステートメントで FILL= PT または NULL を指定し、ジョブを再実行してください。

DFS1888I SC=04 EGCS FIELD LENGTH NOT EVEN

説明: 装置によっては、拡張図形文字セット (EGCS) データは、偶数バイトである必要がある場合があります。

システムの処置: フィールド長は現状のまま受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: フィールド長が正しく指定されているか、または EGCS リテラルに正しいバイト数が含まれているか確認し、ジョブを再実行してください。

DFS1889I SC=08 EGCS VALUE INVALID, EGCS 'F8' USED

説明: 拡張図形文字セット (EGCS) 属性に関して指定されているプログラム式シンボル値が X'hh' として指定されておらず、値が X'00' でもなく、X'40' から X'FE' の範囲にもありません。

システムの処置: EGCS'F8' のデフォルト値が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: EGCS 属性を EGCS、EGCS'00' EGCS'hh' として指定してください。なお、'hh' は有効な値 (通常は 'F8') です。ジョブを再実行してください。

DFS1890I SC=08 LINE DENSITY SPECIFICATION IS GREATER THAN 72

説明: SLDI/SLDP に指定されている値が 72 より大きでした。

システムの処置: SLDI/SLDP がリセットされ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 1 から 72 の範囲で SLDI/SLDP の値を指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1891I SC=08 LINE DENSITY SPECIFICATION EQUAL TO ZERO

説明: SLDI/SLDP に指定されている値がゼロに等しい値でした。

システムの処置: SLDI/SLDP がリセットされ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 1 から 72 の範囲で SLDI/SLDP の値を指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1892I SC=04 LINE DENSITY SPECIFICATION IS INVALID BETWEEN DO AND ENDDO

説明: SLDI/SLDP 指定は、DO ステートメントと ENDDO ステートメントの間の DFLD ステートメントでは無効でした。

システムの処置: SLDI/SLDP がリセットされ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: SLDI/SLDP 指定を DD と ENDDO の間の DFLD ステートメントから除去してください。行密度が必要な場合は、DEV ステートメント、または DD ステートメントの前の DFLD ステートメントを使用する必要があります。

重大度: 4

DFS1893I SC=08 TOP MARGIN SPECIFIED IS LESS THAN 1

説明: VTAB= キーワードで上部マージンに指定された値が 1 より小でした。

システムの処置: 上部マージンが 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードの上部マージンの値を 1 以上で、下部マージン値よりも 2 だけ小さい値に変更してください。ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1894I SC=08 TOP MARGIN IS GREATER THAN 253

説明: VTAB= キーワードで上部マージンに指定された値が 253 より大でした。

システムの処置: 上部マージンが 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードの上部マージンの値を 1 から 253 の範囲の値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1895I SC=08 BOTTOM MARGIN IS LESS THAN 3.

説明: VTAB= キーワードで下部マージンに指定された値が 3 より小でした。

システムの処置: 下部マージンが PAGE= キーワードのページ当たり行数に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードの下部マージンの値を 3 から 255 の範囲の値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1896I SC=08 BOTTOM MARGIN IS GREATER THAN PAGE=

説明: VTAB= キーワードで下部マージンに指定された値が、PAGE= キーワードで指定されているページ当たり行数より大でした。下部マージンは、上部マージンより 2 だけ大で、PAGE= 以下である必要があります。

システムの処置: 下部マージンが PAGE= 値に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 下部マージン値または PAGE= 値を変更して、下部マージンが PAGE= 値以下になるようにしてください。ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1897I SC=08 VTAB= SPECIFIED AND LINES PER PAGE LESS THAN 3.

説明: VTAB= は、PAGE= キーワードのページ当たり行数が 3 より小のときに指定されました。

システムの処置: 下部マージンが PAGE= 指定のページ当たり最大行数に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードの下部マージンの値を 3 から 255 の範囲の値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1898I SC=08 BOTTOM MARGIN IS LESS THAN LARGEST VERTICAL TAB STOP

説明: 下部マージンが、指定されている最大垂直タブ (VT) より小でした。

システムの処置: (VT) がゼロに設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードの下部マージン値、または VT= (,,,) の値を変更して、下部マージンが最大 VT= 指定以上になるようにしてください。下部マージンが指定されていなかった場合は、PAGE= ページ当たり行数値を変更する必要がある可能性があります。

重大度: 8

DFS1899I SC=08 TOP MARGIN IS EQUAL TO OR GREATER THAN LOWEST NONZERO VERTICAL TAB STOP

説明: 上部マージンが、ゼロ以外の最低 (VT) での指定と等しいか、それよりも大でした。

システムの処置: (VT) がゼロに設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードの上部マージン値、または VT= 指定を変更して、上部マージンがゼロ以外のすべての VT= 指定より小さくなるようにしてください。

重大度: 8

DFS1900I SC=08 DUPLICATE VERTICAL TAB STOP(S) SET TO ZERO

説明: VT= キーワードのタブ・ストップ値は異なっているか、VTAB= が指定されている場合は、ゼロである必要があります。

システムの処置: 繰り返し出現するタブ・ストップ値はゼロに設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: ゼロ以外の垂直タブは固有である必要があります。重複するゼロ以外の垂直タブを、上部マージンと下部マージンの間の固有値に変更し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

第 42 章 DFS メッセージ DFS1901I - DFS1950

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1901I SC=08 TOP MARGIN IS NOT TWO LESS THAN BOTTOM MARGIN

説明: VTAB= キーワードで指定されている上部マージンが、下部マージンより 2 だけ小ではありませんでした。

システムの処置: 上部マージンが 1 に設定され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: VTAB= キーワードで上部マージンまたは下部マージンを変更して、上部マージン + 1 が下部マージンより小になるようにしてください。

重大度: 8

DFS1902I SC=08 WIDTH SPECIFIED IN FEAT= AND WIDTH= INVALID

説明: DEV ステートメントの FEAT= キーワードと WIDTH= キーワードの両方で、幅の値の指定が無効です。

システムの処置: WIDTH= キーワードは無視されません。

プログラマーの応答: DEV ステートメントは、以下のいずれかの値による有効な指定に訂正する必要があります。

- FEAT=120、126、または 132 で、WIDTH= は指定しない
- FEAT=1 から 10、WIDTH=*nnn*

その後でジョブを再実行します。

重大度: 8

DFS1903I SC=08 (keyword=,keyword=) KEYWORDS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明: DEV ステートメントで指定された 2 つの識別されているキーワードは、相互排他的で両方を同時に使用できません。

システムの処置: 最初のキーワードが受け入れられ、2 番目のキーワードが無視されます。処理は次のキーワードから続行されます。

プログラマーの応答: 2 つの識別されているキーワード

のいずれか一方を再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1904I SC=04 (keyword=) SPECIFIED WITH NULL VALUE

説明: 表示されているキーワードは、値なしで指定されました。

システムの処置: 示されたキーワードは無視され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 識別されているキーワードを指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 4

DFS1905I SC=08 (SLDI/SLDP=) *nn* TRUNCATED TO LAST 2 DIGITS

説明: SLDI= または SLDP= キーワードで指定された値は、長さが 2 桁より大です。

システムの処置: 行密度設定 (SLD) 指定の末尾の 2 桁が使用され、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 1 桁または 2 桁の SLD 値を再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1906I SC=08 VTAB= TOP MARGIN VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: DEV ステートメントの VTAB= 上部マージン値が 3 桁を超えていました。

システムの処置: 上部マージン値の末尾の 3 桁が使用されます。左端の何桁かが切り捨てられ、処理は次のオペランドから続行されます。

プログラマーの応答: 識別されているキーワードを再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1907I SC=04 NULL TOP MARGIN VALUE WILL BE SET TO 1, THE DEFAULT VALUE

DFS1908I • DFS1913I

説明: VTAB= が上部マージンの指定なしで指定され、デフォルト値の 1 が使用されます。

システムの処置: 上部マージン値は 1 に設定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 上部マージン値を再指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 4

DFS1908I SC=08 VTAB= BOTTOM MARGIN VALUE TRUNCATED TO LAST 3 DIGITS

説明: 下部マージン値が 3 桁を超えていました。

システムの処置: 下部マージン値が末尾の 3 桁に設定され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 下部マージン値が 3 桁を超えないように指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1909I SC=04 NULL BOTTOM MARGIN VALUE WILL BE SET TO MAXIMUM PAGE VALUE

説明: VTAB= が下部マージン値なしで指定されました。

システムの処置: 下部マージンが PAGE= 指定のページ当たり最大行数に設定されています。

プログラマーの応答: VTAB= 上部マージン値を再指定し、ジョブを再実行してください。

問題判別: ありません。

重大度: 4

DFS1910I SC=08 WIDTH= SPECIFICATION INVALID WITH FEAT= IGNORE OR IF FEAT= IS UNSPECIFIED

説明: WIDTH= が指定されたのは、FEAT= IGNORE が指定されているか、FEAT= が指定解除されている最中でした。

システムの処置: WIDTH= 値は無視されます。デフォルトの幅 120 が使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: WIDTH= と FEAT= の値の有効な組み合わせを使用して DEV ステートメントを指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1911I SC=08 VERTICAL TAB STOP EXCEEDS PAGE LENGTH. TAB STOP SET TO ZERO

説明: DEV ステートメント VT= 指定がページ長さを超えていました。この指定は PAGE= 指定以下である必要があります。

システムの処置: 指定されている値がゼロにリセットされ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: エラーの垂直タブ・ストップを指定し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1912I SC=08 VTAB= BOTTOM MARGIN VALUE EXCEEDS 255, THE MAXIMUM PAGE= VALUE

説明: DEV ステートメント VTAB= 指定は、下部マージン値が 255 より大です。

システムの処置: 下部マージンが PAGE= 指定のページ当たり最大行数にリセットされ、処理は続行されません。

プログラマーの応答: 下部マージン値を変更し、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS1913I * FPBP64 aa = b , SET AS THE DEFAULT VALUE *

説明: IMS は、DFSDFXXX メンバーが <SECTION=FASTPATH> に高速機能パラメーター FPBP64=Y (IMS 高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャを使用可能にする) を含んでいる場合に、このメッセージを出す可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

- aa 特定の機能。有効な値は、FPBP64、FPBP64M、FPBP64C、FPBP64D、FPBP64E、FPBP64SR、FPBP64MIN、SDEPAUTO、SDEPEXP、SDEPFREQ、または SDEPTIME です。
- b 次のいずれかの値です。
 - Y
 - N
 - FPBP64M のストレージ・サイズ
 - SDEPEXP の最大存続期間 (分単位)
 - SDEPFREQ の確認間隔の分数
 - SDEPTIME の時刻

このメッセージは、DFSDFxxx メンバーで指定されていない場合には、デフォルト・パラメーターをエコーします。

このメッセージは、複数行にわたることがあります。指定されたすべての高速機能パラメーターは、次に続く DFS1913I メッセージに表示されます。このメッセージの出力は、以下の例のようになります。


```
DFS1913I * FPBP64C = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE * SYS3
DFS1913I * FPBP64D = N, SET AS THE DEFAULT VALUE * SYS3
DFS1913I * FPBP64E = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE * SYS3
DFS1913I * FPBP64F = Y, SET AS THE DEFAULT VALUE * SYS3
DFS1913I * SDEPAUTO = N, SET AS THE DEFAULT VALUE * IMS1
DFS1913I * SDEPEXP = 00120 MINUTES, SET AS THE DEFAULT * IMS1
DFS1913I * SDEPFREQ = 01440 MINUTES, SET AS THE DEFAULT * IMS1
DFS1913I * SDEPTIME = 2300 SET AS THE DEFAULT VALUE * IMS1
```

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFFATC1

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション (システム定義)

DFS1914I INQUIRE ERROR NODE *x* RTNFD BK *y* SENSE *z*

説明: NODE *x* に関するログオン時のセッション・パラメーターに関する INQUIRE が失敗しました。試行されたセッション開始が終了しました。VTAM が、センス情報 (*z*) を失敗の理由として、戻りコードおよびフィードバック (*y*) を出しました。

システムの処置: システムは続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに問い合わせてください。

プログラマーの応答: NODE *x* のモード・テーブルの BIND パラメーターで正しいかを調べ、VTAM 戻りコードおよびセンス情報でリカバリー処置が行われるかを調べてください。NODE *x* に関するセッションの開始を再度試みてください。

問題判別: 1、5、6、12、14、2

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1915I UNSUPPORTED SCIP EXIT/VTAM ERROR

説明: VTAM が、無効のコマンドまたは無効なパラメーター・リストを使用して、IMS SCIP 出口を駆動します。

システムの処置: IMS は、SCIP 出口に VTAM が入ることをリジェクトし、エラー・コードを伴って VTAM に戻りました。IMS は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: VTAM 定義にある可能性のある不整合を調べて、訂正してください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1916I hh:mm:ss ATTEMPT TO START SECONDARY SESSION BUT WAS PRIMARY NODE *xxx* *ims-id*

説明: NODE *xxx* とのセッションを 2 次側ハーフセッションとして開始する試みの結果、エラーが発生し、試行が終了しました。1 次ハーフセッションとして開始された、NODE *xxx* との直前のセッションは、異常終了しました。

システムの処置: IMS が、2 次側としてセッションを開始する試みをリジェクトしました。IMS は続行されません。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: セッション開始プロセスを調べ、直前のセッションの失敗の原因を判別してください。プログラマーを訂正し、セッション開始を再度試みてください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1917I INVALID CID

説明: VTAM が無効の制御インターバル定義 (CID) を使用したか、または IMS 制御ブロック内の CID がオーバーレイしていました。セッションの開始のための NODE 名が検出されませんでした。

システムの処置: IMS は、IMS 出口の 1 つに VTAM が入ることをリジェクトし、エラー・コードを伴って VTAM に戻りました。IMS は続行されます。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: VTAM に操作問題があるかどうか判別してください。可能な場合は、IMS CLB 制御ブロックのスナップ・メモリー・ダンプを作成して、そのいずれかにオーバーレイしているものがあるかどうか判別してください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1918A DFSURDB0 CANNOT PROCESS
CONCATENATED INPUT DATA
SETS FOR DD DFSUCUM**

説明: リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 のアーキテクチャーでは、DFSUCUM DD ステートメントを使用して連結ファイルを入力として使用することはできません。

システムの処置: このメッセージが出された後で、処理は、戻りコード 8 を出して終了します。

プログラマーの応答: ユーティリティーに関する個々のジョブを、それぞれデータ・セット 1 つだけを DFSUCUM DD 入力としてサブミットしてください。

**DFS1919I * IMSFP DFSDFxxx PARAMETERS
FROM <SECTION=FASTPATH>***

* aa = b *

説明: IMS は、DFSDFxxx メンバーが <SECTION=FASTPATH> に高速機能パラメーターを含んでいるときに、このメッセージを出します。

このメッセージは複数行です。指定されたすべての高速機能パラメーターは、後続する DFS1919I メッセージ (複数) に表示されます。

Common Service Layer (CSL) が使用されない場合、メッセージには <SECTION=FASTPATH> の ACBSHR 値 (Y または N) も示されます。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

- aa 特定の機能。有効な値は、FPBP64、FPBP64M、FPBP64C、FPBP64E、FPBP64D、FPBP64SR、FPBP64MIN、ACBSHR、SDEPAUTO、SDEPEXP、SDEPFREQ、または SDEPTIME です。
- b 次のいずれかの値です。
- Y
 - N
 - FPBP64M のストレージ・サイズ
 - SDEPAUTO についての N、T、または F
 - SDEPEXP の最大存続期間
 - SDEPFREQ の確認間隔の分数
 - SDEPTIME の時刻

このメッセージの出力は、以下の例のようになります。

```
DFS1919I * IMSFP DFSDFSLs PARAMETERS FROM <SECTION=FASTPATH>* SYS3
DFS1919I * FPBP64 = Y * SYS3
DFS1919I * FPBP64M = 06400000 * SYS3
DFS1919I * ACBSHR = Y * SYS3
DFS1919I * SDEPAUTO = T * SYS3
DFS1919I * SDEPEXP = 25530 MINUTES * SYS3
DFS1919I * SDEPTIME = 1030 * SYS3
```


システムの処置: 処理は続行されます。

470 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFFATC1

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション (システム定義)

**DFS1920I PARAMETER VALUE INVALID,
xxxxxxxx=yyyyyyzzzzz**

説明: 無効なパラメーターが見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

```
xxxxxxx
      パラメーター・キーワード (最初の 8 文字)
yyyyyyyy
      パラメーター値 (最初の 8 文字)
zzzzz
      このパラメーター値が無効のため、初期設定中に異常終了 0083 が生じる場合は、ABEND
```

IMS 実行パラメーターは、JCL で指定するか、あるいは DFSPBxxx メンバーまたは DFSDCxxx メンバーで指定できます。JCL 指定のパラメーターが、DFSPBxxx または DFSDCxxx で指定されたパラメーターをいずれもオーバーライドして、結果的に最終実行パラメーターになります。メッセージ DFS1920I が出る結果になるのは、最終パラメーターの値がシステム定義要件に適合しないときです。


一部のパラメーターでは、このエラーのため、すべての最終パラメーターの評価後に、異常終了 0083 が生じる結果になる場合があります。値 zzzzz=ABEND で、リカバリー不能エラーのパラメーターを識別します。

システムの処置: ABEND が少なくとも 1 つの DFS1920I メッセージで表示されると、結果的にユーザー異常終了 0083 が生じます。異常終了が生じない場合は、DFS1920I で識別されているすべてのパラメーターは、そのデフォルト値を受信します。

プログラマーの応答: システムでデフォルト値を使用して操作を続ける必要があるか判断してください。その必要がなければ、IMS をシャットダウンし、訂正された値を使用して、システムを再実行してください。

モジュール: DFSIIDC0

関連情報:

 IMS 異常終了 0083

DFS1921I PARAMETER KEYWORD INVALID,
 xxxxxxxx=yyyyyyyy

説明: 無効なキーワードが見つかりました。メッセージ・テキストで、変数とそのそれぞれの意味は、次のとおりです。

xxxxxxx

パラメーター・キーワード (最初の 8 文字)

yyyyyyyy

パラメーター値 (最初の 8 文字)

IMS 実行パラメーターが、JCL によって、または DFSPBxxx および DFSDCxxx メンバーを使用して指定できます。DFSPBxxx、DFSDCxxx、または JCL で指定されたパラメーターに無効のキーワードがあると、その結果として、メッセージ DFS1921I が出ます。例えば、キーワードが無効になるのは、つづりの誤りである場合もあれば、開始される IMS 制御領域のタイプには無効である場合もあります。

DFSPBxxx メンバーが、レコードの 80 列すべてを使用している可能性があります。パラメーター名が 1 列目から開始している場合は、73 から 80 列目にはシーケンス番号が入らないようにしてください。

システムの処置: システムは続行します。

プログラマーの応答: 正しく指定されていなかった、そして無視されたパラメーターの使用後、システムが操作を続ける必要があるか判断してください。必要な場合は、IMS をシャットダウンし、エラーのパラメーターを訂正してください。

DFS1922I GSAM OPEN OF DD xxxxxx FAILED,
 REASON CODE=reason

説明: GSAM データ・セット xxxxxx を開く試みが、次のいずれかの理由で失敗しました。

X'20' MVS OPEN 呼び出しが失敗した。

X'24' 特定の連結データ・セットに対する OPEN 呼び出しが失敗した。連結内で欠落データ・セットがある可能性が大了。

X'28' データ・セットの DSCB の OBTAIN が失敗した。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'2C' 連結データ・セットの DSCB の OBTAIN が失敗した。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'30' 固定データ・セットのブロック・サイズがゼロ。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'34' 固定データ・セットの論理レコード長がゼロ。データ・セットが適切に割り振られているか確認してください。

X'38' 固定データ・セットのブロック・サイズが、論理レコード長の倍数ではない。ブロック・サイズが論理レコード長の倍数になるように、ブロック・サイズまたは論理レコード長を変更してください。

X'3C' ダミー・データ・セットに対する以前の呼び出しがエラーを検出した。データ・セットは開けません。

X'40' ストライプ・データ・セットを開く試みがなされたが、DFSMS リリース・レベルが DFSMS 1.2.0 以降ではない。

X'44' ボリューム番号が JFCBNVOL に存在しない。

X'48' UCB の現行ボリューム通し番号が JFCBVOLS と一致しない。

問題判別: 1、3、17a、18

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1924 KEYWORD RESOURCE NOT
DEFINED

説明: キーワード・リソースが IMS システムに関して定義されていないとき、特定のリソースを要求するコマンドが入力されました。

オペレーターの応答: コマンドを訂正してください。

プログラマーの応答: IMS 生成のシステムに対してキーワード・リソースをチェックして、リソースがインストールされているか判断してください。

DFS1925 CONVERSATION RESOURCE NOT
DEFINED

説明: IMS システムで定義されていない会話リソースからの情報を要求するコマンドが入力されました。

オペレーターの応答: コマンドを訂正してください。

プログラマーの応答: TRANSACT および SPAREA マクロ定義に会話リソースがあるかチェックしてください。

DFS1927 UNABLE TO PROCESS SHARED
EMH DUE TO LTERM
REGISTRATION FAILURE

説明: 共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が CQS への LTERM インタレストの登録を試みしました。しかし、その LTERM 登録は失敗しました。

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: これは一時的な問題です。問題が持続して発生する場合は、X'67D0'、サブタイプ

DFS1928 • DFS1931I

X'D00D' ログ・レコードを印刷して、登録の失敗に関する戻りコードおよび理由コードを識別してください。

モジュール: DBFHIEL0

DFS1928 DBRC RETURNED A ZERO LENGTH MESSAGE, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: /RMxxxxxx コマンド・プロセッサによってサブミットされた DBRC 要求が、長さゼロのメッセージを戻しました。

システムの処置: /RMxxxxxx コマンドはリジェクトされます。IMS はこのメッセージを出し、実行を継続します。

プログラマーの応答: DBRC 障害の理由を判別してください。この条件の原因を説明する DSP メッセージについては、z/OS マスター・コンソール (SYSLOG) を参照してください。

問題判別: 1、6、36、40、41

モジュール: DFSICLW0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1929I IMS SYSTEM PARAMETERS *init_activ* FOR THIS V *nn.n crt* EXECUTION: * *parameter* *

説明: IMS がこれらのメッセージを出すのは、IMS 制御領域の初期設定が完了したとき、および IMS 制御領域の再始動が完了したときです。IMS 初期設定が完了すると、DFSPBxxx からのアクティブな初期 IMS システム・パラメーター、および EXEC パラメーターが、このメッセージに表示されます。初期設定後に表示される IMS システム・パラメーターは、オンライン実行時に使用される実際の値を反映しない可能性があります。しかし、IMS 再始動の完了後に DFS1929I が発行される場合、オンライン実行時に使用される実際の値を表示します。

IMS 制御領域の初期設定の完了時に発行されるメッセージ・ヘッダーには、キーワード INITIAL が入っています。IMS 再始動の完了時に発行されるメッセージ・ヘッダーには、キーワード ACTIVE が入っています。

高速機能がアクティブでない (FP=N) 場合、高速機能パラメーターは抑止されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

init_activ

次のいずれかです。

INITIAL (初期設定中にメッセージが発行される場合)

ACTIVE (再始動中にメッセージが発行される場合)

nn.n IMS バージョン番号 (10.1 など)

crt 制御領域のタイプ
(DBDC、DBCTL、DCCTL、FDBR など)

メッセージ・テキストでは、parameters は IMS システム・パラメーターです。メッセージ DFS1929I の例は次のとおりです。

```
DFS1929I * IMS SYSTEM PARAMETERS ACTIVE FOR THIS V10.1 DBDC EXECUTION:
DFS1929I * ALOT      = 1440
DFS1929I * A0IP      = 2147483647
DFS1929I * A0IS      = N
DFS1929I * A0I1      = N
DFS1929I * APPC      = N
DFS1929I * APPCE     = F
DFS1929I * APPLD1    =
DFS1929I * APPLD2    =
DFS1929I * APPLD3    = APPL7
DFS1929I *          =
DFS1929I *          =
DFS1929I * TCORACF   = N
DFS1929I * SVS00R    = NONE
DFS1929I * TRACK     = NO
DFS1929I * TRN       =
DFS1929I * TSR        = L
DFS1929I * UHTS      = 256
DFS1929I * USERWAR   = IMS1
DFS1929I * VAUT       = 1
DFS1929I * VSPEC     = 91
DFS1929I * WADS       = S
DFS1929I * WKAP      = 40960
DFS1929I * YEAR4     = N
```

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSDSP0

DFS1930I INVALID COMMAND DETECTED IN PROCLIB MEMBER xxxxxxxx. RESTART PROCEEDS.

説明: IMS 制御領域初期設定中に、メンバー xxxxxxxx の 1 から 5 桁目に START 以外の文字が含まれていました。メンバー xxxxxxxx は、制御領域始動パラメーターの &DLINM または &DBRCNM のいずれかです。このメッセージは、メッセージ DFS0578I の後に続きます。

システムの処置: メンバーは廃棄されます。制御領域は、必要に応じてプロシージャー &DLINM または &DBRCNM の MVS START コマンドで、DBRC と DLISAS のいずれかの開始を試みます。

オペレーターの応答: 制御領域の PROCLIB 連結にあるライブラリーが正しくセットアップされているか、システム・プログラマーに検証を依頼してください。

関連情報:

181 ページの『DFS0578I』

DFS1931I SESSION RECOVERY IN PROGRESS NODE x USER z, UNBIND CODE WAS yy

説明: VTAM がセッションを終了し、UNBIND コー

ド *yy* が示されました。NODE *x*、USER *z* に関して、自動セッション再始動が試みられています。

システムの処置: システムは続行します。

オペレーターの応答: このメッセージが NODE *x* に関して頻繁に表示されるのでない限り、処置は必要ありませんが、頻繁に表示される場合は、UNBIND コードを調べて、可能性のあるネットワーク・エラーを訂正する必要があるかどうか、または異なるモード・テーブル・エントリーおよび COS リストを使用してセッション開始を行う必要があるかどうか判別してください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1932 CONVERSATION IN PROGRESS -CANNOT PROCESS COMMAND.

説明: 会話型トランザクションの進行中に、/DISPLAY、/RDISPLAY、または /FORMAT コマンドが入力されました。これらのコマンドで生成される待機出力は、端末またはノードが会話モードにある間は、送信できません。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 会話は、コマンドが受け入れられる前に、アプリケーションまたは端末オペレーター (/EXIT) によって終了する必要があります。

DFS1933I REGION INITIALIZATION TERMINATED - THIS ADDRESS SPACE CURRENTLY HAS AN ACTIVE IMS IMAGE

説明: IMS 領域初期設定が、アドレス・スペースでの 2 番目の IMS イメージの開始に関する要求をリジェクトしました。IMS イメージは、BMP、MPP、IFP、DBB、または DLI 領域として定義されます。

システムの処置: 2 番目の IMS イメージに関する z/OS ジョブは終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。最初の IMS イメージは、影響を受けることなく、実行を継続します。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: このメッセージの目的は、IMS の体系的制約 (アドレス・スペースに IMS イメージが 1 つのみ) をシステム・プログラマーに通知することにあります。2 番目のイメージをサブミットした担当者に連絡し、これが現在はサポートされていないフィーチャーであることを知らせてください。

問題判別: ありません。これは IMS の体系的制約の 1 つです。

DFS1934E module FAILED TO LOAD modulename ERROR CODE=xxxxxxx.

説明: IMS は、モジュールをロードするために IMODULE LOAD マクロを発行しましたが、ロードが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module ロードを発行したモジュール
modulename
ロードできなかったモジュールの名前
xxxxxxx
戻されたエラー・コード


システムの処置: IMS の処理は続行します。

出力宛先: システム・コンソール

システム・プログラマーの応答: IMODULE 戻りコード情報を参照してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSLOAD0、DFSDFN00、DFSAINB0

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS1935E UNABLE TO TERMINATE FUNCTIONS FOR CQS COMMUNICATION - FUNCTION=*failing_function*, RETURN CODE=xxxxxxx, REASON CODE=*yyyyyyyyyy*

または

UNABLE TO TERMINATE FUNCTIONS FOR CQS
COMMUNICATION - FUNCTION=CQSDISC
STRUCTURE=*cccc*, COMPCODE=*zzzzzzzz*

または

UNABLE TO TERMINATE FUNCTIONS FOR CQS
COMMUNICATION - FUNCTION=CQSDISC
STRUCTURE=*cccc*, COMPCODE=*zzzzzzzz*
STRUCTURE=*cccc*, COMPCODE=*zzzzzzzz*

説明: IMS が、CQS 通信に必要な機能の終了を試みている最中に、エラーを検出しました。

DFS1936E

最初の形式のメッセージが出されるのは、完了コードが戻されない場合です。

2 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSDISC であるか、1 つの構造のみ (MSGQ または EMHQ) がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが戻された場合です。

3 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSDISC であるか、MSGQ と EMHQ の両構造がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが出された場合です。

failing_function

失敗した機能要求:

CQSDISC

1 つ以上のカップリング・ファシリティ構造への IMS 接続を終了する要求が失敗しました。

CQSDEREG

CQS からの IMS 登録抹消要求が失敗しました。

xxxxxxx

障害が起こっている機能からの戻りコード。

yyyyyyyyy

障害が起こっている機能からの理由コード。

cccc

MSGQ または EMHQ

zzzzzzzzz


CQSCONN 要求からの完了コード。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードおよび理由コードは、IBM サポート担当員のみ提供されます。問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。

モジュール: DFSSQ040

関連概念:

 CQS クライアント要求 (システム・プログラミング API)

DFS1936E UNABLE TO IDENTIFY THE IMS CONTROL REGION TO CQS AS A CLIENT - FUNCTION=*failing_function*, RETURN CODE=xxxxxxx, REASON CODE=yyyyyyyyy

または

UNABLE TO IDENTIFY THE IMS CONTROL REGION TO CQS AS A CLIENT - FUNCTION=CQSCONN, STRUCTURE=cccc, COMPCODE=zzzzzzzz

または

UNABLE TO IDENTIFY THE IMS CONTROL REGION TO CQS AS A CLIENT - FUNCTION=CQSCONN, STRUCTURE=cccc, COMPCODE=zzzzzzzz STRUCTURE=cccc, COMPCODE=zzzzzzzz

説明: カップリング・ファシリティ上の共用キューを使用するクライアントとして、IMS 制御領域を CQS に対して識別しようと試みている最中に、エラーが発生しました。

最初の形式のメッセージが出されるのは、完了コードが戻されない場合です。

2 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSCONN であるか、1 つの構造のみ (MSGQ または EMHQ) がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが戻された場合です。

3 番目の形式のメッセージが出されるのは、機能が CQSCONN であるか、MSGQ と EMHQ の両構造がエラーであるか、ゼロ以外の完了コードが出された場合です。

failing_function

失敗した機能要求:

IMODULE GETMAIN

作業域を取得する要求が失敗しました。

IMODULE LOAD

モジュールをロードする要求が失敗しました。

CQSREG

IMS を CQS に対して登録する要求が失敗しました。

CQSCONN

1 つ以上のカップリング・ファシリティ構造に IMS を接続する要求が失敗しました。

CQS MSGQ STR ATR

MSGQ 構造の WAITRBLD 値が正しくありません。

CQS EMHQ STR ATR

EMHQ 構造の WAITRBLD 値が正しくありません。

JOIN XCF GROUP

XCF 結合データ・セットに関して指定された MAXGROUP 値が小さすぎます。

xxxxxxx

障害が起こっている機能からの戻りコード。

• IMODULE GETMAIN または IMODULE LOAD の戻りコードについての説明は、

IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

- CQSREG および CQSCONN 戻りコードの説明については、CQSREG 要求 (システム・プログラミング API) および CQSCONN 要求 (システム・プログラミング API) を参照してください。
- CQS MSGQ STR ATR または CQS EMHQ STR ATR 戻りコードの説明については、理由コード *yyyyyyyy* を参照してください。これらの機能に関する理由コードと戻りコードは同じです。

yyyyyyyy

障害が起こっている機能からの理由コード:

- 障害が起こっている機能が IMODULE GETMAIN の場合、理由コードは次のいずれかです。
X'00001002'
 DFSSQM 割り振りが失敗しました。
X'00001004'
 SQ1 AWE 割り振りが失敗しました。
X'00001005'
 SQ2 AWE 割り振りが失敗しました。
- 障害が起こっている機能が IMODULE LOAD の場合、理由コードは次のとおりです。
X'00001006'
 DFSSQ010 ロードが失敗しました。
- 障害が起こっている機能が CQSREG のときは、CQSREG マクロからの理由コードです。
- 障害が起こっている機能が CQSCONN のときは、CQSCONN マクロからの理由コードです。
- 障害が起こっている機能が CQS MSGQ STR ATR の場合、理由コードは次のとおりです。
X'00000106'
 MSGQ 構造の WAITRBLD 値に誤りがあります。このエラーが発生したときは、構造を強制クローズし、再作成してからでないと、IMS が立ち上がらない可能性があります。
- 障害が起こっている機能が CQS EMHQ STR ATR の場合、理由コードは次のとおりです。
X'00000107'
 EMHQ 構造の WAITRBLD 値に

誤りがあります。このエラーが発生したときは、構造を強制クローズし、再作成してからでないと、IMS が立ち上がらない可能性があります。

- 障害が起こっている機能が JOIN XCF GROUP の場合、理由コードは次のとおりです。
X'00000000'

XCF 結合データ・セットに関して指定された MAXGROUP 値が小さすぎます。このエラーが発生したときは、MAXGROUP キーワードで指定されている値を大きくする必要があり可能性があります。

cccc MSGQ または EMHQ
 zzzzzzzz

CQSCONN 要求からの完了コード。

システムの処置: IMS 初期設定は終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

システム・プログラマーの応答: MSGQ または EMHQ 構造の WAITRBLD 値に誤りがある場合は、CQS を通して構造に接続されるアドレス・スペースを判別してください。IBM 以外の制御領域クライアントすべてを切断してください。IMS 制御領域がシスプレックス内の構造への初期接続を行うように、IMS を再始動してください。それから、IMS 以外のクライアントを再接続してください。

他のすべての機能に関する戻りコードおよび理由コードは、IBM サポート担当員のみを提供されます。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSSQ020

関連資料:

➡ CQSREG 要求 (システム・プログラミング API)

➡ CQSCONN 要求 (システム・プログラミング API)

➡ IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0071

DFS1937I USER EXIT DFSxxxx0 LOADED

説明: メッセージ内で指定されたセキュリティエクスポートルーチンがロードされています。RACF もアクティブな場合、RACF はエクスポートルーチンの前に呼び出されます。

xxxx0 は、DFSCSGN0、DFSCTRN0、または DFSCTSE0 のいずれかです。

システムの処置: どの出口ルーチンがロードされるかによって、サインオンまたはトランザクション・セキュリティのための出口ルーチンが呼び出されます。

プログラマーの応答: ありません。出口ルーチンをロードしたり呼び出したくない場合は、STEPLIB 連結から削除してください。

モジュール: DFSAINB0

DFS1938 INVALID MODE TABLE NAME LINK x

説明: VTAM セッション開始の試みが失敗しました。VTAM が LINK x に関して使用されたモード・テーブル名を認識しなかったからです。

システムの処置: MSC VTAM セッション確率の試みが、LINK x に関して失敗しました。

オペレーターの応答: システム・プログラマーによって提供された正しいモード・テーブル名を指定し、LINK x に関するセッションの開始を試みてください。

プログラマーの応答: LINK x に関して正しいモード・テーブル名を指定してください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1939W hh:mm:ssxxxxxxx INTEREST ERROR, yyyyyyyzzzzzzzzwwwwww

説明: IMS が、1 つ以上のリソースに関して、1 つ以上の共用キューに対するインタレストの登録または登録抹消を試みました。IMS で内部エラーが検出されたか、CQS が要求をリジェクトしたか、いずれかです。

メッセージ変数には、それぞれ次の意味があります。

hh:mm:ss

タイム・スタンプ

xxxxxxx

REGISTER または DEREGISTER

yyyyyyy

次のいずれかの値です。

ALLOTMA

CQS 障害の後に続き、アクティブなスーパーメンバー TPIPE すべてに関して、インタレストが登録されているところでした。

ALLLTERM

CQS 障害の後に続き、アクティブ

LTERM すべてに関して、インタレストが登録されているところでした。

ALLTRAN

IMS 初期設定中、または CQS 障害の後に続き、すべてのトランザクションに関して、インタレストが登録されているところでした。

LTERM =

1 つ以上の LTERM に関して、インタレストが登録または登録取り消されているところでした。

NODE =

示されている端末に割り振られているすべての LTERM に関して、インタレストが登録または登録取り消されているところでした。

PROGRAM=

1 つ以上のプログラム名に関して、インタレストが登録または登録取り消されているところでした。

REMOTE =

1 つ以上の LNB 名または RSMB 名プログラム名に関して、インタレストが登録または登録取り消されているところでした。

TRAN =

1 つ以上のトランザクション名に関して、インタレストが登録または登録取り消されているところでした。

zzzzzzzz

リソース名 (表示されているのは LTERM、NODE、PROGRAM、REMOTE、または TRAN の場合のみ)

wwwwwww

'...ETC' が入るのは、複数のリソースに障害が起こった場合であり、それ以外の場合は、このフィールドはブランクです。

システムの処置: IMS は正常な処理を続けますが、影響を生じたリソースには、共用メッセージ・キュー上で使用可能な出力について通知がなされなくなる可能性があります。

プログラマーの応答: エラー・メッセージがコマンドまたはその他のプロセスの結果である場合は、コマンドの再発行またはプロセスの再始動を試みてください。エラーが続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、6、37、およびログ・レコード・タイプ X'67D0' のコピー

モジュール: DFSSQI00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1940I RECORDS SKIPPED FOR DBD =
 xxxxxxxx **DDN= xxxxxxxx FROM TIME**
 = yydddhhmmsst **TO TIME =**
 yydddhhmmsst **COUNT = cccccccccc**

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティの入力ログには、データベース変更レコードが、そのデータベース・セットに対する更新がタイム・スタンプ・リカバリーによって無効にされた期間、組み込まれています。ユーティリティは、その変更レコードを無視しません。FROM TIME は、こうしてスキップされたレコードの最も早期のものからのタイム・スタンプです。TO TIME は、スキップされたレコードの最新のものからのタイム・スタンプです。COUNT は、この範囲でスキップされたレコードの総数です。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSURDB0

DFS1941I STOPPED PROCESSING LOG WHEN
TIME = yydddhhmmsst ENCOUNTERED

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティは、リカバリーが行われる時点の先でデータベース変更レコードを検出すると、入力ログの読み取りを停止しました。メッセージに示されている TIME は、ユーティリティが使用しなかった最初のデータベース変更レコードからのタイム・スタンプです。これは、部分リカバリーでは正常です。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSURDB0

DFS1942 DATA COMMUNICATIONS
QMGR/CQS READ ERROR LINK xx

説明: データ通信 QMGR または CQS 読み取り (GU/GN) プロセス中に、エラーが検出されました。

システムの処置: MSC リンクに関するメッセージの処理中にエラーが発生した場合は、宛先 (例えば、MSNAME または REMOTE TRANSACTION) は停止され、6701-MER1 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

MSC /MSVERIFY コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、コマンドは強制終了され、6701-CMT1 /CMT2 /CMT3 /CMT4 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

システム定義端末の場合は、通信 (例えば、VTAM セッション) が終了します。

ETO 端末の場合は、ユーザーはサインオフします。エラーに関係のある情報が含まれる、X'67D0' ログ・レコードが作成されます。

/DEQUEUE コマンドの場合は、コマンドがリジェクトされます。メッセージはデキューされませんでした。

システム・コンソールの場合は、端末が停止されます。

オペレーターの応答: セッションを再確立するか、プログラマーの応答で説明されているようにサインオンしてください。エラーが訂正されたら、/DISPLAY STATUS MSNAME および /DISPLAY TRANSACTION または QUERY TRAN コマンドを発行して、停止された宛先を判別してください。宛先に STOPPED、QERROR が表示されます。/START コマンドを使用して、宛先を開始してください。

/MSVERIFY コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、MSVERIFY コマンドを再発行してください。

このメッセージが /DEQUEUE コマンドの結果である場合は、CQS または構造が再度使用可能になった時点で、/DEQUEUE コマンドを再入力してください。

停止された端末がシステム・コンソールである場合は、後続の IMS コマンドを発行することで、停止状況がリセットされます。

プログラマーの応答: DFSERA10 プログラムを使用して 6701 レコードを印刷することで、エラーを分離できます。問題が訂正されたら、セッションを再確立するか、または、必要に応じて Node x、IMS /OPNDST コマンド、または DFS3649A サインオン・メッセージに対する応答によって、サインオンしてください。

問題判別: 1、5、6、12、14、15、36

モジュール: DFSICIO0、DFSICLJ0

関連情報:

903 ページの『DFS3649A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1943 CQS OUTPUT QUEUE
REGISTRATION ERROR

説明: 端末ログオンまたはユーザー・サインオンに関連した、1 つ以上の出力メッセージ・キュー (LTERM) にインタレストを登録するためのログオンまたはサインオン CQS INFORM 中に、エラーが発生しました。

システムの処置: システム定義端末の場合は、通信 (例えば、VTAM セッション) が終了します。ETO 端末の場合は、ユーザーはサインオフします。エラーに関係のある情報が含まれる、X'67D0' ログ・レコードが作成されます。

オペレーターの応答: セッションを再確立するか、プロ

DFS1944E • DFS1947I

プログラマーの応答で説明されているようにサインオンしてください。

プログラマーの応答: 問題が訂正されたら、セッションを再確立するか、または、必要に応じて Node x、IMS /OPNDST コマンド、または DFS3649A サインオン・メッセージに対する応答によって、サインオンしてください。

問題判別: 1、5、6、12、14、15、36

モジュール: DFSCMS00

関連情報:

903 ページの『DFS3649A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1944E APPC OUTPUT SEGMENT SIZE
EXCEEDED, MESSAGE DISCARDED
FOR LU=nnnnnnnnn, TPN=name,
SIDE=name, TRANCODE=xxxxxxx**

説明: 指定されたトランザクションが、32767 より大きい出力メッセージ・セグメントを LU6.2 宛先に挿入しました。LU6.2 装置への最大出力メッセージ・セグメントは 32767 です。

システムの処置: 出力メッセージは廃棄されます。

プログラマーの応答: 指定されたトランザクションが、長さ 32767 以下のメッセージ・セグメントを挿入するように変更してください。TRANSACT マクロ SEGSIZE パラメーターを 32767 に変更してください。

**DFS1945 DATA COMMUNICATIONS
QMGR/CQS WRITE ERROR LINK xx**

説明: データ通信 QMGR または CQS WRITE (PUT/ISRT) プロセス中に、エラーが検出されました。

システムの処置: メッセージが MSC リンクで受信される場合、メッセージは取り消され、6701 ID = MSSx (x = 1、2、3) レコードがログに書き込まれ、パートナー IMS システムに通知されます。パートナー・システムは、メッセージ DFS2140 DESTINATION name STOPPED, REASON CODE 1945 を発行します。ここで、name は、MSC 送信パスの MSNAME です。このメッセージは、送信側 IMS システムのメッセージ・キューに戻されます。

/MSVERIFY コマンドが処理中であった場合は、キューに送信される情報は廃棄され、6701-AER1 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

メッセージがメッセージ制御エラー出口 DFSCMUX0 によって経路指定されていた場合は、転送されたメッセージは取り消され、6701 ID = AER1 レコードがログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: 問題を訂正したら、/START コマンドを使用して、宛先 (例えば、MSNAME または REMOTE TRANSACTION) を開始してください。/MSVERIFY コマンドの処理中にエラーが発生した場合は、そのコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: DFSERA10 プログラムを使用して 6701 レコードを印刷することで、エラーを分離できます。

問題判別: 引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

エラーが MSC リンクで検出された場合、以下の CLBTEMP フィールドが 6701 MSS1 レコードの LLB ブロックで設定されます。

- CLBTEMP2 = QMGR Put-move 呼び出しからの R15 戻りコード +8
- CLBTEMP3 = メッセージ・キー = x'00000799' = 10 進数 1945
- CLBTEMP4 = モジュール ID、つまり C'CMS0' = DFSCMS00

モジュール: DFSCMS00、DFSCMLA0、DFSCMLB0、DFSCM4L0、DFSCMSY0、DFSCMEI0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1946W IMS CRC OF 'x' ALREADY EXISTS
WITHIN SYSTEM OR SYSPLEX**

説明: 「x」の IMS コマンド認識文字は、システムまたはシスプレックスの登録有効範囲内で固有のものではありません。この文字は、別のシステムによって登録済みです。

システムの処置: IMS システムは処理を続けます。

プログラマーの応答: CRC= 実行パラメーターを使用して、次の IMS の実行で異なる CRC を指定できます。

モジュール: DFSXSTM0

**DFS1947I LOCKED MESSAGES EXISTED
DURING CQS DISCONNECT**

説明: IMS はこのメッセージを IMS のシャットダウン中に出示します。次の場合は、これは正常な条件です。

- IMS 会話型メッセージ (会話がまだ終了していない場合) が終了する。
- 応答モード・メッセージが終了する。こうなるのは、応答モード・メッセージは送信されているが、肯定応答がまだ受信されなかったときです。
- ISC、SLU P および FINANCE 装置に関するメッセージが存在する。

IMS では、再始動するまで、これらのメッセージをこの IMS に保存する必要があります。これらのメッセージにアクセスできるのは、この IMS システムからのみです。

IMS がコールド・スタートの場合は、IMS は、ロックされたメッセージをコールド・キューに移します。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS1948 CQS READ FOUND ANOTHER
SYSTEMS MESSAGE NODE *x* USER
*y***

説明: 共用キュー機能へのスケジュールによる読み込み時に、シスプレックス内の別の IMS システムに属していた高速機能応答メッセージを、IMS が識別しました。

同じ LTERM 名を共用キュー・シスプレックス内の複数のシステムで使用するとき、すべての高速機能応答メッセージは、発信元端末があるシステムで処理する必要があります。つまり、高速機能応答モード操作が、1 つの IMS システムで進行中であるときは、同時であれ順次であれ、同じ LTERM 名を別の IMS システムにある端末で使用することはできないことを意味します。

これは、共用キュー環境での高速機能に関する IMS Transaction Manager 制限の 1 つです。

システムの処置: IMS は、6701-AER1 診断レコードをログに書き込み、共用メッセージ・キュー・サポートによって、シスプレックスでメッセージが再度全般的に使用可能になるようにします。ETO セッションの場合は、USER *y* に関するサインオンが失敗しました。非 ETO の場合は、NODE *x* との間で確立されたセッションが終了します。

オペレーターの応答: USER *y* のサインオン、または NODE *x* のログオンをさらに試みると、高速機能応答モードがリセットされるか、メッセージが共用キュー機能からデキューされるまでは、このエラー条件が繰り返されます。発信元端末でメッセージを受信し、高速機能応答モードを終了させる可能性があります。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1949 KEYWORD INVALID - SHARED
EMH QUEUES NOT ENABLED**

説明: 共用 EMH キューのない IMS システムでは

EMHQ キーワードは無効であるため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 共用 EMH キューが使用可能になっている IMS システムでコマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIDP00

**DFS1950 DESTINATION HAS NO OUTPUT
QUEUED**

説明: /ALLOCATE コマンドが入力されましたが、LU 6.2 宛先には送信する出力がありません。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

第 43 章 DFS メッセージ DFS1951 - DFS2000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS1951 DESCRIPTOR KEYWORD PARAMETER IS INVALID

説明: 指定された記述子パラメーターは LU 6.2 記述子ではなく、無効でした。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

プログラマーの応答: 意図されたパラメーターを使用して、コマンドを再入力してください。

DFS1952 DESTINATION NOT FOUND

説明: 指定された宛先が無効でした。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

プログラマーの応答: 有効宛先を使用して、コマンドを再入力してください。

DFS1953 COMMAND NOT APPLICABLE

説明: 入力されたコマンドは、システムの現在の状態には適用外でした。このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- LUNAME/TPNAME で作動するコマンドが入力され、現行 IMS システムは APPC をサポートする z/OS で稼働していません。
- 入力されたのは、すでに IMS が置かれている状態に IMS を置くためのコマンドでした。したがって、このコマンドには効果はありません。
- DFSAPPC メッセージ通信サービスが、APPC をサポートする z/OS で稼働していない IMS システムで入力されました。
- APPC タイムアウト値を変更するためのコマンドが入力されましたが、現行の z/OS リリースは APPC タイムアウトをサポートしていません。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSICLN2

DFS1954 NO TPNAMES ASSOCIATED WITH LUNAME

説明: 入力されたコマンドが、ALL パラメーターを使用する LUNAME および TPNAME キーワードを指定しましたが、指定された LUNAME に関連付けられた

非同期出力メッセージはありませんでした。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

DFS1955I APPC CONVERSATION ALLOCATION FAILURE. RC=*nn*, LU=*name*, TPN=*name* [, SIDE=*name*] or LU=*xxxxxxx* STOPPED

説明: このメッセージが出されるのは、非同期応答を送信している最中に、TP_NOT_AVAILABLE 以外の障害が発生した場合です。LU STOPPED 形式のメッセージでは、LU の入力が STOPPED 状態で行われていることを示しています。このメッセージ内の戻りコードは 16 進値として表示されます。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さで使用できます。


システムの処置: システム操作は正常に続行されます。このエラー・メッセージは、マスター端末オペレーターに送信されます。LU STOPPED 形式のメッセージの場合は、メッセージは着信装置に送信され、会話はリジェクトされて、理由コード

TP_NOT_AVAILABLE_RETRY が示されます。

プログラマーの応答: LU STOPPED メッセージが表示されている場合は、オペレーターは、メッセージに示されている LU NAME に関して、/START LU xxxxxxxx INPUT を発行できます。

モジュール: DFSALM00

関連資料:

 z/OS: APPC/MVS - 戻りコードおよび理由コードの説明

DFS1956E REQTEXT

説明: この複数フォーマット・メッセージでは、IMS TP_PROFILE 構文エラー (例えば、TRANCODE、CLASS AND MAXRGN IS OMITTED など) を識別します。また、INVALID LTERM NAME など、LU 6.2 記述子も識別します。

次のリストには、さまざまなフォーマットの TP_PROFILE が示してあります。

- DFS1956E TRANCODE, CLASS AND MAXRGN IS OMITTED

DFS1957E • DFS1958I

- DFS1956E KEYWORD IS MISSING, TOO LONG OR INVALID KEYWORD:
- DFS1956E MISSING "=" AFTER KEYWORD
- DFS1956E VALUE MISSING OR TOO LONG
- DFS1956E DUPLICATE OR INVALID TRANCODE:
- DFS1956E INVALID CLASS, IT MUST BE BETWEEN 1 AND 255:
- DFS1956E INVALID MAXRGN, IT MUST BE BETWEEN 0 AND 255:
- DFS1956E DUPLICATE OR INVALID CLASS
- DFS1956E DUPLICATE OR INVALID MAXRGN
- DFS1956E DUPLICATE CPUTIME
- DFS1956E INVALID CPUTIME, IT MUST BE BETWEEN 0 AND 1440

次のリストには、さまざまなフォーマットの LU 6.2 記述子が示してあります。

- DFS1956E SYNTAX ERR ON PREVIOUS CARD IN CHAIN, SKIP THIS
- DFS1956E SYNTAX ERROR ON CARD *card number*
- DFS1956E SYNTAX ERROR FOR DESCRIPTOR = *lterm name* DUPLICATE OUTBND KEYWORD

接頭部の後に次のように続きます。

- CAN NOT CONTINUE IF COL(71) IS BLANK
- FIRST COLUMN MUST BE EITHER "U" OR "*"
- SECOND COLUMN MUST BE BLANK
- LTERM NAME NOT GIVEN
- LTERM NAME LONGER THAN 8 CHAR
- INVALID LTERM NAME
- DIFFERENT LTERM NAME ON CONTINUED CARD
- THE CONTINUED DATA MUST BEGIN IN COLUMN 12
- ILLEGAL KEYWORD
- SIDE MUST BE 1 TO 8 CHARACTER LONG
- INVALID CHARACTER IN SIDENAME
- DUPLICATE SIDE KEYWORD
- LUNAME MUST BE 1 TO 17 CHARACTERS LONG
- LUNAME MUST BEGIN WITH A-Z OR @,\$,#
- DUPLICATE LUNAME KEYWORD
- INVALID CHARACTER IN LUNAME
- TPNAME MUST BE 1 TO 64 CHARACTER LONG
- DUPLICATE TPNAME KEYWORD
- INVALID CHARACTER IN TPNAME
- MODE MUST BE 1 TO 8 CHARACTER LONG
- MODE MUST BEGIN WITH A-Z OR @,\$,#
- INVALID CHARACTER IN MODE

- DUPLICATE MODE KEYWORD
- SYNCLEVEL MUST BE 1 CHARACTER LONG
- INVALID SYNCLEVEL VALUE
- DUPLICATE SYNCLEVEL KEYWORD
- CONVTYPE MUST BE 1 CHARACTER LONG
- INVALID CONVTYPE VALUE
- DUPLICATE CONVTYPE KEYWORD
- DESCRIPTOR ENTRY ALREADY EXISTS

システムの処置: このエラー・メッセージは、システム・コンソールに送信されます。

プログラマーの応答: このメッセージで識別されているエラーを訂正してください。

DFS1957E DFSAPPC ERROR: description

説明: DFSAPPC メッセージ要求を処理している最中に、入力パラメーター・エラーが検出されました。記述フィールドは、該当するエラー・タイプで置き換えられています。発生する可能性のあるエラー・タイプには、次のものがあります。

MISSING '('
MISSING '=' AFTER KEYWORD
INVALID OR DUPLICATE KEYWORD
INVALID LTERM NAME
INVALID LU NAME
INVALID MODE NAME
INVALID TP NAME
INVALID SIDE NAME
INVALID CONVERSATION TYPE
INVALID SYNC LEVEL
MISSING OR INVALID VALUE AFTER
KEYWORD
LTERM AND OTHER KEYWORDS ARE
MUTUALLY EXCLUSIVE
THE PARAMETER LENGTH IS TOO LONG
NO MESSAGE TEXT AFTER ')'
NO USERID OR USER IS NOT SIGNED ON
DESTINATION NOT FOUND

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、DFSAPPC を再試行してください。

DFS1958I IMS CONNECTION TO APPC/MVS COMPLETE, LUNAME= nnnnnnnnn.

説明: APPC/MVS と IMS の間の接続が確立されました。APPC/MVS が IMS のローカル ACB を開きました。APPC/MVS LU 6.2 サービスが IMS で使用可能です。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さを使用できます。

システムの処置: IMS は、メッセージを LU 6.2 装置から受信し、APPC/MVS サービスを使用して、メッセージを LU 6.2 装置に送信します。


**DFS1959E SEVERE IMS INTERNAL FAILURE,
REASON CODE=xyyy**

説明: このメッセージは、IMS 内部エラーを識別します。

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、メッセージに示されている理由コード *xyyy*、および LUMI トレース出力を報告してください。また、このメッセージや他の APPC/IMS 診断援助機能について詳しくは、IMS 診断情報も参照してください。

関連資料:

 DFS1959E メッセージ情報 (診断)

**DFS1960I IMS HAS REQUESTED A
CONNECTION WITH APPC/MVS**

説明: IMS が APPC/MVS に接続するための APPC/MVS verb ATBIDEN を発行しました。

システムの処置: IMS APPC/MVS LU 6.2 サービスなしで、処理を続行します。APPC/MVS が IMS LOCAL LU 6.2 ACB が開かれたことを示す、IMS XCF 出口を駆動するまでは、サービスは利用不能です。

**DFS1961W IMS CONNECTION WITH
APPC/MVS HAS FAILED**

説明: APPC/MVS 接続の開始または維持を試みている最中に、障害が起きました。

システムの処置: IMS は、APPC を使用可能にしないで、処理を続行します。

プログラマーの応答: このメッセージよりも前に出されている可能性のある、DFS1965E メッセージ、およびシステム・コンソール上の VTAM または APPC/MVS メッセージをすべて分析することによって、障害の理由を判別してください。/START APPC コマンドを使用して、APPC を再始動してください。

関連概念:

 APPC/IMS 診断援助機能 (診断)

関連情報:

484 ページの『DFS1965E』

**DFS1962 COMMAND INVALID FROM AN LU
6.2 DEVICE**

説明: コマンドは、LU 6.2 装置からは入力できません。このコマンドが有効なのは、それ以外の IMS 端末タイプから出される場合のみです。

システムの処置: IMS コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 入力された IMS コマンドは、LU 6.2 装置にとっては意味がありません。このコマンドを使用する理由を判別してください。別の IMS コマンドが適用できる可能性があります。また、必要とするアクション用に APPC/MVS または VTAM コマンドが存在する場合があります。

**DFS1963W XRF PARAMETERS MISSING OR
INVALID IN MVS APPCPM
MEMBER**

説明: このメッセージが出されるのは、USERVAR または ALTLU パラメーターが、APPCPM メンバーで欠落しているか、無効であるからです。APPCPM メンバーは、APPC サブシステムの始動時に、オプションを指定するために z/OS によって使用されます。z/OS も、要求されたときは、USERVAR および ALTLU 名を IMS に渡します。

プログラマーの応答: USERVAR および ALTLU パラメーターが有効であるか、APPCPM メンバーをチェックしてください。

**DFS1964E DESTINATION TMEMBER
NAME=nnnnnnnn NOT ACCESSIBLE,
REASON CODE=xx, TPIPE
NAME=yyyyyyyyy**

または

**DESTINATION NAME=nnnnnnnn NOT
ACCESSIBLE, REASON CODE=xx,
LUNAME=yyyyyyyyy**

説明: 示されている宛先は、LU 6.2 装置からの処理のために受け入れられないので、廃棄されます。LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。理由コードとその意味は、次のとおりです。

コード (10 進数)

説明

01 LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、IMS MSC 宛先に関するものです。このタイプの宛先は、APPC に対する MSC サポートがある IMS システムにはない、LU 6.2 アプリケ

ーション・プログラムからのメッセージをキューイングする場合は無効です。

- 02** LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、ローカル LTERM に関するものです。このタイプのメッセージ通信機能は、LU 6.2 アプリケーション・プログラムからはサポートされません。
- 03** LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、IMS 高速機能トランザクション、または IMS 応答モード・トランザクションに関するものです。このタイプのトランザクションは、非同期要求 (ALLOCATE、SEND_DATA、DEALLOCATE) による LU 6.2 装置からのメッセージをキューイングする場合は無効です。
- 04** LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名が受け入れられるのは、単一セグメントだけです。複数のセグメントがリクエスターから検出されたため、入力は廃棄されます (ALLOCATE、SEND_DATA、SEND_DATA)。
- 05** LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、受け入れられない IMS リモート・トランザクション名です。宛先 IMS が APPC トランザクションを受け入れられないことが、原因である可能性があります。
- 06** 最初の形式のメッセージが出された場合、メッセージがこのシステムから発信され、このシステムには出力メッセージを受信するためのベース LU 名がないため、LUNAME= および DESTINATION NAME= から指定された、または DESTINATION NAME= から指定された、メッセージ制御/エラー出口の転送宛先名にはアクセスできません。
- 2 番目の形式メッセージが出されるのは、TMEMBER NAME= および TPIPE NAME= で指定された、メッセージ制御/エラー出口に関する転送宛先名が受け入れられない場合です。
- 07** 共用キュー環境では、LUNAME= からリクエスターによって指定された宛先名は、動的 (非 CPIC および非 MSC リモート) トランザクションに関するものです。APPC 入力トランザクションは、トランザクションに入ったのと同じローカル IMS で実行される必要があるため、これは許容されません。動的トランザクションは、共用キュー・グループ内の他の IMS システムでしか実行されないトランザクションを表します。
- 09** ロールバック (ROLB) 再試行数を超えました。システムはトランザクションを処理できません。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: 転送要求は無視され、関連したデフォルトのアクションが実行されます。デフォルトのアクションについては、DFSCMUX0 を参照してください。

プログラマーの応答: それぞれの理由コードごとに、該当する処置を取ってください。

コード (10 進数)

- 処置
- 01** MSC 定義のトランザクションの使用を試みないでください。
- 02** メッセージ通信サポートに関する DFSAPPC 機能を使用してください。
- 03** 同期プロセス (ALLOCATE、SEND_DATA、RECEIVE_AND_WAIT) を使用してください。
- 04** 複数のセグメントがリクエスターから検出されたため、入力は廃棄されます (ALLOCATE、SEND_DATA)。
- 05** 宛先 IMS がバージョン 5.1 のシステム・プロダクト・レベルにあるか検証してください。
- 07** トランザクションがローカルで定義されている、共用キュー・グループの IMS システムを判別し、これらのシステムのいずれかでトランザクションに入ってください。

DFS1965E APPC/MVS CALL FAILURE,
FUNCTION=aaaaaaaa, REASON
CODE=xyyy, RETURN
CODE=xxxxxxx, LUNAME=nnnnnnnnn

説明: APPC/MVS に対する呼び出しに予期しない戻りコードがありました。呼び出し aaaaaaaaa が出され、その結果が APPC/MVS からの戻りコード xxxxxxxx でした。

戻りコードが負 (例えば、-1) の場合は、APPC/MVS が制御権を受け取る前に、呼び出しの処理でエラーが発生したことを示します。これらの負の戻りコード値は、IMS によって設定されます。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

- 1** 呼び出しが使用不可 (z/OS エントリー・ポイントが定義されていません。APPC/MVS をサポートしないレベル (例えば、SP 4.1 以前) の z/OS でのバインド・エラーが原因と推定されます)
- 2** 呼び出しが不明 (IMS のインストールに誤りがあった結果、2 つの別の IMS リリースからモジュールを実行することになったのが原因と推定されます)

この戻りコードの正の値の意味については、z/OS: APPC/MVS 割り振りキュー・サービスを参照してください。予測された条件を表すエラー戻りコードは、IMS で処理され、このメッセージが出される結果になること

はありません。このメッセージが生成されるのは、何らかのシステム・コンポーネントでの異常条件を表す可能性があり、予期しない結果が検出されたときです。

理由コード変数 *xx* は、コードに関連したモジュールを識別する 10 進数です。「IMS Version 15 Diagnosis」の APPC/IMS 診断援助機能を参照してください。変数 *yy* は内部理由コードです。

IBM サポートに連絡する場合は、メッセージに示されているモジュール番号と理由コード、および LU マネージャー・トレースからの出力 (ただし、要求された場合) を提供できるように準備してください。

LU 名がネットワーク修飾名である場合は、この名前に最大 17 バイトの長さが使用できます。

プログラマーの応答: エラーを判別し、障害のあるコンポーネントが IMS、APPC/MVS、VTAM のいずれであるか判別してください。IMS が正しいレベルの APPC/MVS を使用して稼働しているかチェックしてください。


問題判別: 付随している APPC/MVS および VTAM エラー・メッセージがあるかチェックしてください。このメッセージに付随する可能性があるソフトウェア障害レコードがあるか、SYS1.LOGREC データ・セットをチェックしてください。

関連概念:

 APPC/IMS 診断援助機能 (診断)

関連資料:

 DFS1965E APPC/MVS 呼び出し障害 (診断)

 z/OS: APPC/MVS - 戻りコードおよび理由コードの説明

DFS1966 IMS CONVERSATIONAL TRAN ENDED. INPUT DISCARDED

説明: リモート LU 6.2 アプリケーション・プログラムが、入力 (SEND_DATA, DEALLOCATE) を保留して、IMS 定義の会話型トランザクションとの LU 6.2 の会話を終了しました。

システムの処置: システムは処理を続行します。保留入力は廃棄され、IMS 会話型トランザクションは終了し、LU 6.2 会話は割り振り解除されます。

プログラマーの応答: リモート・アプリケーション・プログラムが、LU 6.2 会話の割り振り解除前に応答を受信するように訂正してください。

DFS1967 MESSAGE SEGMENT BUFFER OVERLAY

説明: EDIT EXIT ルーチンは、メッセージ内容を変更でき、メッセージ長を最大で 256 バイトだけ長くできます。最大メッセージ長が 32,764 バイトを超えることはできません。メッセージ長がこの限度を超えた場合、またはメッセージが 256 バイトを超えるバイト数だけ長くされた場合は、メッセージは切り捨てられます。

システムの処置: メッセージは切り捨てられます。

プログラマーの応答: 編集出口ルーチンを訂正して、メッセージが 256 バイトを超えるバイト数だけ長くなることのないようにしてください。

DFS1968 APPC IS NOT SUPPORTED FOR THE SPECIFIED MVSLEVEL

説明: IMSCTRL IMS システム定義マクロの中で指定された z/OS レベルは、APPC を使用するための正しい z/OS レベルを提供しません。

システムの処置: 要求は無視され、IMS は機能を続行します。

プログラマーの応答: IMS JCL が APPC=Y を指定しないか、IMS コマンドが LU 6.2 の機能を指定しないか確認してください。

DFS1969W LU 6.2 DESCRIPTOR=xxxxxxx NOT FOUND DURING MVS XRF RESTART

説明: 指定された記述子名は、チェックポイント・レコードで検出されましたが、記述子を表す記述子ブロックが検出されませんでした。

システムの処置: 要求は無視され、IMS は機能を続行します。

プログラマーの応答: IMS システムで使用されている DFS62DTx メンバーをチェックし、指定された記述子に関する情報が定義されていないか検証してください。

DFS1970 IMS SHUTTING DOWN- TRANSACTION DISCARDED

説明: このメッセージは、IMS との間で同期 LU 6.2 または OTMA 会話を確立しているパートナー LU に送信されます。IMS /CHE シャットダウン・コマンドが入力されました。このメッセージは、IMS のシャットダウンをパートナー・アプリケーションに知らせます。

システムの処置: LU 6.2 または OTMA 会話は終了します。IMS はシャットダウン処理から継続します。

モジュール: DFS6ECT0、DFSYTIB0

**DFS1971I CQCHKPT SYSTEM COMMAND REJECTED FOR STRUCTURE=
structurename; THE STRUCTURE NAME IS INVALID**

または

CQCHKPT SHAREDQ COMMAND REJECTED FOR STRUCTURE= structurename; THE STRUCTURE NAME IS INVALID

説明: メッセージに指定された構造が有効な構造名ではないため、コマンドは処理されませんでした。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 有効な構造名を使用して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSSQCP0

DFS1972I CQCHKPT SYSTEM COMPLETE FOR STRUCTURE= structurename

または

CQCHKPT SHAREDQ COMPLETE FOR STRUCTURE= structurename

説明: /CQCHKPT SHAREDQ または /CQCHKPT SYSTEM コマンドが、メッセージに指定された構造に関して完了しました。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

モジュール: DFSSQCP0

DFS1973I CQCHKPT SYSTEM REQUEST REJECTED FOR REASON CODE=reasoncode

または

CQCHKPT SHAREDQ REQUEST REJECTED FOR REASON CODE=reasoncode

説明: /CQCHKPT SHAREDQ または /CQCHKPT SYSTEM コマンドがリジェクトされました。理由コード (reasoncode) は、次のとおりです。

理由コード
説明

- 1 CQS シャットダウン保留
- 2 CQS アドレス・スペースがない
- 3 CQS 登録トークンが無効
- 4 機能が無効

5 カウントが無効

6 リスト・アドレスが無効

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSSQCP0

DFS1974I CQCHKPT SYSTEM REQUEST REJECTED FOR STRUCTURE= structurename, REASON CODE=reasoncode

または

CQCHKPT SHAREDQ REQUEST REJECTED FOR STRUCTURE= structurename, REASON CODE=reasoncode

説明: /CQCHKPT SHAREDQ または /CQCHKPT SYSTEM コマンドが、メッセージに指定された構造に関して失敗しました。この失敗の理由コード (reasoncode) は、次のとおりです。

理由コード
説明

- 1 チェックポイントが構造に関してすでに進行中
- 2 CQS 再始動が進行中
- 3 接続トークンが無効
- 4 CQSRSYNC がこの構造では必須
- 5 CQS 内部エラーが発生
- 6 再試行が失敗

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 理由コード 1 および 2 の場合は、イベントが完了したら、コマンドを再発行してください。

それ以外の理由コードはすべて、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSSQCP0

DFS1975 COMMAND REJECTED AS CQS IS NOT AVAILABLE

説明: CQS アドレス・スペースが使用不可のため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: CQS が使用可能になったら、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICM30、DFSICQ20、DFSIDP40

**DFS1976 KEYWORD INVALID - SHARED
 QUEUES NOT ENABLED**

説明: 共有キューがない IMS システムでは、このキーワードは無効のため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 共有キューが使用可能になっている IMS システムで、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIDPR0、DFSIDP00

**DFS1977 COMMAND REJECTED DUE TO
 CQS ERROR**

説明: IMS が CQS からエラー戻りコードを受信したため、コマンドは処理されませんでした。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行してください。同じメッセージを再び受信した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSICQ20、DFSIDP40

**DFS1978I REQUEST FOR STORAGE FAILED
 DURING CQCHKPT COMMAND
 PROCESSING, REASON
 CODE=*reasoncode***

説明: /CQCHKPT SHAREDQ または /CQCHKPT SYSTEM コマンド処理が終了しました。IMS が HIOP ストレージを獲得できなかったため、コマンドを処理したり、コマンドの結果についてメッセージを発行したりできなかったからです。理由は次のとおりです。

- 1 メッセージ DFS1971I を出せなくて、無効の構造を報告できない。
- 2 /CQSCHKPT コマンドの処理に必要なストレージの取得ができない。
- 3 メッセージ DFS1972I が出せないの
 で、/CQSCHKPT コマンドがすべての構造に
 関して正常に実行されなかったことを報告できない。
- 4 メッセージ DFS1973I を出せなくて、パラメーター・エラーを報告できない。
- 5 メッセージ DFS1972I が出せないの
 で、/CQSCHKPT コマンドが一部の構造に
 関して正常に実行されなかったことを報告できない。
- 6 メッセージ DFS1974I が出せないの

で、/CQSCHKPT コマンドがある構造に関して正常に実行されなかったことを報告できない。

- 7 メッセージ DFS1973I を出せなくて、環境エラーを報告できない。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSSQCP0

関連情報:

486 ページの『DFS1972I』

486 ページの『DFS1973I』

486 ページの『DFS1974I』

**DFS1979I CHECKPOINT REQUEST REJECTED,
 CQS IS NOT AVAILABLE**

説明: CQS アドレス・スペースが使用不可のため、要求が処理されませんでした。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: CQS が使用可能になったら、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSRCP00

**DFS1980 TRANSACTION NOT STOPPED,
 CANNOT PROCESS COMMAND**

説明: /DEQ コマンドは、トランザクションが停止されていないため、リジェクトされました。

システムの処置: コマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答: /STOP TRAN または UPDATE TRAN STOP(Q,SCHD) コマンドを発行してから、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLJ0

**DFS1981 COMMAND REJECTED DUE TO
 CQS ERROR OR CQS
 UNAVAILABLE**

説明: コマンドが処理されなかったのは、共通キュー・サーバー (CQS) アドレス・スペースが使用不可だったためか、IMS が CQS からエラー戻りコードを受信したためです。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: CQS が使用可能になったら、コマンドを再発行してください。CQS が使用可能で、同じメッセージを再度受信した場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS1982I

モジュール: DFSICLZO

DFS1982I Reason Code = *rcmessage*

説明: 索引/ILDS 再作成ユーティリティー処理中に、*rc* で示されているエラーが発生し、モジュール DFSPREC0 によって発行された メッセージ が付随します。それぞれの理由コードごとに固有の説明と応答があります。

次の理由コード (*rc*) を参照して、エラーのタイプと適切な処置の識別を進めてください。

Reason Code = 05 Error processing SYSIN data set

説明: DFSPREC0 入力カードを処理している最中に、エラーが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 入力キーワードおよびパラメーターが正しいか検証してください。キーワードおよびパラメーターは、位置に依存します。

Reason Code = 10 Recovery type specified in DFSPREC0 control card is invalid

説明: 制御カードで指定されたリカバリー・タイプが、3 つの許容タイプ、つまり INDEX、ILE、BOTH のいずれでもありませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: リカバリー・タイプが正しいか検証し、ジョブを再実行してください。入力制御カードのキーワードおよびパラメーターは、位置に依存します。

Reason Code = 20 DDIR for partition specified in DFSPREC0 control card could not be found

説明: ブロック・ビルダーから戻された DDIR のリストに、制御カードで指定された区画に関する DDIR が組み込まれていませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 実行カードの DBDNAME、および制御カードの区画名が正しいか検証してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = 30 DB org. for partition specified in DFSPREC0 control card not supported in partitioning.

説明: 指定されている区画は、PHDAM または PHIDAM データベース用ではありませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 制御カードで指定された区画名が正しいか検証してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = 40 Partition Select call failed

説明: リカバリー対象区画をスケジュールするための呼び出しが失敗しました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 制御カードで指定された区画が HALDB 用であることを検証してください。

Reason Code = 50 The partition processed but no root segments were found.

説明: 指定された区画は、INDEX リカバリーのために処理されましたが、ルート・セグメントが検出されませんでした。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: これは異常条件です。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

Reason Code = 60 DFSPREC0 control card specified ILE recovery and no ILEs were required for this partition

説明: ILE 再作成要求で、エントリーは ILE データ・セットに挿入されない結果になりました。

システムの処置: ジョブは完了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: この状態が生じるのは、この区画に関して、論理関係が存在しない場合です。この区画に論理関係がないか検証してください。

Reason Code = 70 During ILE processing, the GETMAIN for a segment I/O area failed

説明: ILE 再作成を完了するためには、セグメント入出力域が内部 GN 処理のために必要です。GETMAIN に対応できるスペースが利用不能のとき、結果的にこのエラーが生じます。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: バッチ・ジョブに備えて領域サイズを広げた上で、バッチ・ジョブを実行してください。

Reason Code = 80 ILE processing terminated prior to reaching the end of the database

説明: ILE 再作成中に、GN 呼び出しが予期しない戻りコードを伴って戻されました。予想戻りコードは、GA、GB、GK、またはブランクです。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: 予期しない戻りコードであった理由を判別し、ジョブを再実行してください。DL/I 状況コードについては、DL/I 状況コード情報を参照してください。支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

Reason Code = 90 Unable to perform INDEX/ILE rebuild processing - DBRC not available

説明: DBRC が使用不可です。INDEX/ILE 再作成には、DBRC が再作成処理中アクティブである必要があります。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: DBRC=Y が EXEC カードで指定されているか確認してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = A0 Index/ILD rebuild request not honored - database specified NOT a HIDAM database

説明: INDEX 再作成要求中に、PHIDAM データベースに関する区画ではないことが、DDIR によって判別されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ・パラメーターの DBD を PHIDAM である HALDB に変更してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = B0 Index rebuild was requested for a DBD that is not a HALDB DBD.

説明: INDEX 再作成要求中に、HALDB データベースに関する区画ではないことが、DDIR によって判別されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ・パラメーターの DBD を HALDB DBD に変更してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = C0 Index rebuild was requested using a PSB with a DBPCB that does not map to the Master DBD specified on the JOB PARM card.

説明: INDEX 再作成要求中に、HALDB データベースに関する区画ではないことが、DDIR によって判別されました。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: ジョブ・パラメーターの DBD を、SYSIN カード上の区画入力が含まれるマスター・データベースである HALDB DBD に変更してから、ジョブを再実行してください。

Reason Code = D0 OPEN/CLOSE failure - refer to preceding DFS0730I message

説明: OPEN または CLOSE 障害が発生しました。データ・セットの名前については、先行する DFS0730I メッセージを参照してください。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: DFS0730I で特定された問題を訂正し、ジョブを再度実行してください。

Reason Code = D4 OPEN/CLOSE failure refer to preceding DFS0730I message

説明: OPEN または CLOSE 障害が発生しました。データ・セットの名前については、先行する DFS0730I メッセージを参照してください。

システムの処置: ジョブは終了し、戻りコード 8 が示されます。

プログラマーの応答: DFS0730I で特定された問題を訂正し、ジョブを再度実行してください。

Reason Code = E0 PSTBYTNM POINTS TO FREE SPACE - TWIN BACKWARD POINTER IS BROKEN

説明: 索引再作成要求中に、フリー・スペースを指している兄弟逆方向ポインターが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

REASON CODE = E1 PSTBYTNM POINTS TO FREE SPACE - TWIN FORWARD POINTER IS BROKEN

説明: 索引再作成要求中に、フリー・スペースを指している兄弟順方向ポインターが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

REASON CODE = E2 TWIN BACKWARD POINTER DOES NOT POINT TO THE PREVIOUS ROOT SEGMENT

説明: 索引再作成要求中に、以前にスキャンされたルート・セグメントを指していない兄弟逆方向チェーンをスキャンしている時に兄弟順方向ポインターが検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

REASON CODE = E3 TWIN FORWARD POINTER DOES NOT POINT TO THE PREVIOUS ROOT SEGMENT

説明: 索引再作成要求中に、以前にスキャンされたルート・セグメントを指していない兄弟順方向ポインターが、兄弟順方向チェーンをスキャンしている時に検出されました。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- バッチ・バックアウトを実行して、不完全なセグメントを訂正してください。
- Pointer Checker を実行して、失敗したポインターを訂正してから、索引作成を再度実行してください。

Reason Code = E4 DL/I GN processing returned an unexpected status code &statcode

説明: DL/I が、エラーを示す状況コードを戻しました。通常、他のシステム・メッセージはジョブ出力の中に現れます。状況コードは、DL/I 状況コード情報で確認できます。

システムの処置: ジョブ・ステップは終了します。

プログラマーの応答: 状況コードおよびその他の関連するメッセージによって示された状態を訂正してください。

REASON CODE = F0 GETMAIN ERROR ENCOUNTERED 1LOADING ILDS WITH DDNAME=ddname. GETMAIN RC=nnnnnnnnn REASON= yyyyyyyyyy

説明: モジュール DFSURIT0 は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中にストレージの割り振りでエラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティ 1(DFSPREC0) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

エラーを検出した ILDS。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによ

てフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPREC0 ユーティリティーを再度実行してください。

モジュール: DFSPREC0

**REASON CODE = F1 FREEMAIN ERROR
ENCOUNTERED LOADING ILDS WITH
DDNAME=ddname. FREEMAIN RC= nnnnnnnn
REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURIT0 は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中に、以前に割り振られたストレージの解放でエラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティー (DFSPREC0) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

エラーを検出した ILDS。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPREC0 ユーティリティーを再度実行してください。

モジュール: DFSPREC0

**REASON CODE = F2 VSAM ERROR
ENCOUNTERED LOADING ILDS WITH
DDNAME=ddname. VSAM RC= nnnnnnnn
REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURIT0 は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中に VSAM エラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリテ

ィー (DFSPREC0) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname

エラーが発生したときにロードされていた ILDS。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。ILDS が使用可能でない場合、DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPREC0 ユーティリティーを再度実行してください。

モジュール: DFSPREC0

**REASON CODE = F3 LOAD ERROR
ENCOUNTERED LOADING MODULE *module name*.
LOAD RC= nnnnnnnn REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURIT0 は、メッセージ・テキストで識別される ILDS を再作成中に、メッセージ・テキストで識別されるモジュールのロードでエラーを検出しました。このエラーは、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティー (DFSPREC0) が、フリー・スペース・オプションの使用によって ILDS をロード中に発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPREC0 ユーティリティを再度実行してください。

モジュール: DFSPREC0

**REASON CODE = F4 INTERNAL SORT ERROR
ENCOUNTERED SORTING ILES, INTERNAL
SORT RC= nnnnnnnn REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURIT0 は、フリー・スペース・オプションを使用して HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティ (DFSPREC0) によって ILDS にロードされる前に間接リスト項目 (ILE) のソート中に、内部ソート・エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy

理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマー応答: エラーを文書化して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPREC0 ユーティリティを再度実行してください。

モジュール: DFSPREC0

**REASON CODE = F5 DSPSERV ERROR
ENCOUNTERED, DSPSERV RC= nnnnnnnn
REASON= yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSURIT0 は、HALDB 索引/ILDS 再作成ユーティリティ (DFSPREC0) がフリー・スペース・オプションを使用して ILDS を再作成中に、DSPSERV データ・スペース・エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnn

エラーの発生時にレジスター 15 の戻りコード。異常終了が発生した場合、これは異常終了コードになります。

yyyyyyyy


理由コード。異常終了が発生した場合、理由コードはブランクになります。

システム処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。DBRC は、RECON データ・セットで Recovery Needed のフラグを ILDS に立てます。

プログラマーの応答: 指摘されたエラーを訂正するか、SYSIN ステートメントを変更して、接尾部文字 F を BOTHF パラメーターか ILEF パラメーターのどちらかから除去することによってフリー・スペース・オプションを省略し、DFSPREC0 ユーティリティを再度実行してください。DFSPREC0 ユーティリティには、フリー・スペース・オプションの使用時に実行するために、それぞれ 2 ギガバイトの 4 つのデータ・スペースが必要です。システム管理者に連絡して、DFSPREC0 ユーティリティが十分なストレージを割り振ることができるようにしてください。さらに、フリー・スペース・オプションの使用時に、DFSPREC0 ユーティリティが必要とするページングをページング・サブシステムが十分に処理できることも確認してください。

モジュール: DFSPREC0

関連資料:

 DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

**DFS1983W APPC/IMS OUTBOUND LU
XXXXXXXX NOT DEFINED**

説明: アウトバウンド LU が IMS に対して定義されていましたが、それは APPC/IMS スケジュール LU の 1 つでないので活動化できませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS6ECT0

**DFS1985I APPC/IMS OUTBOUND LU xxxxxxxx
ACTIVE**

説明: アウトバウンド論理装置 (LU) が IMS に識別されました。メッセージ・テキスト内の xxxxxxxx が、識別された LU です。

システムの処置: xxxxxxxx で指定された LU がアウトバウンド会話に使用されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS6ECT0

**DFS1986 KEYRANGE TOO LONG,
TRUNCATING**

説明: このメッセージが表示されるのは、データベースのキー値よりも長い KEYRANGE 値を 1 つ以上入力したときです。

システムの処置: DFSMAID0 ユーティリティが KEYRANGE を切り捨てて、適切なサイズにします。処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSMAID0

DFS1987I REASON CODE = rc message_text

説明: 以下のいずれかのユーティリティの実行中に、エラーが起きました。

- ACB 生成および Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB)
- HALDB 区画データ・セット初期設定ユーティリティ (DFSUPNT0)

エラーの解説および考えられる解決策については、以下のリストでエラー・メッセージの戻りコードを見つけてください。

**REASON = 01 SYSPRINT DD STATEMENT
REQUIRED FOR STAND ALONE EXECUTION**

説明: IMS プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRC00 は、ユーティリティ JCL に SYSPRINT DD ステートメントが含まれていないため、ユーティリティを開始しませんでした。SYSPRINT データ・セットは必須です。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

**REASON = 02 SYSPRINT DD DUMMY NOT
ALLOWED FOR STAND ALONE EXECUTION**

説明: IMS プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRC00 は、ユーティリティ JCL に SYSPRINT データ・セットではなく SYSPRINT DD DUMMY が指定されているため、ユーティリティを開始しませんでした。SYSPRINT データ・セットは必須です。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

**REASON = 03 AN ERROR OCCURRED OPENING
THE SYSPRINT DATASET**

説明: ユーティリティが SYSPRINT データ・セットを開こうとしてエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログの中のシステム・メッセージを調べてエラーの原因を判別し、それを訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

REASON = 04 A GETMAIN ERROR OCCURRED

説明: ユーティリティがストレージの取得中にエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブの領域サイズを大きくするか、SYSIN ステートメントの数を減らしてください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

REASON = 05 ERROR LOADING MODULE

&modulename

説明: ユーティリティが、モジュール *&modulename* のロード中にエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 12 に設定されます。

ユーザーの応答: 指定されたモジュールを、このジョブ・ステップ用の LOADLIB 連結の中に配置してください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

REASON = 06 DBRC INITIALIZATION FAILED FOR PHASE 1

説明: ユーティリティーが DBRC のフェーズ 1 初期設定中にエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログにエラーの原因を判別して訂正するための追加メッセージが入っていないかどうかを調べてください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

REASON = 07 DBRC INITIALIZATION FAILED FOR PHASE 2

説明: DFSUPNT0 が DBRC のフェーズ 2 初期設定中にエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードには内部 DBRC エラー・コードが設定されます。

ユーザーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 08 AN ERROR OCCURRED OPENING THE DFSOVRDS DATASET

説明: DFSUPNT0 が、DFS0VRDS DD ステートメントで指定されたデータ・セットを開こうとしてエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログにエラーに関する追加情報が入っていないかどうかを調べ、エラーを訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 09 AN ERROR OCCURRED OPENING THE DFSRESLB DATASET

説明: DFSUPNT0 が、DFSRESLB DD ステートメントで指定されたデータ・セットを開こうとしてエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログにエラーに関する追加情報が入っていないかどうかを調べ、エラーを訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 10 IMS INTERNAL ERROR - DYNAMIC PSB IS CORRUPTED

説明: DFSUPNT1 または DFSUPNT2 が、IMS から渡されたパラメーター・リストの中で無効な PCB 制御ブロックを検出しました。このエラーは DFSUPNT0 へ戻されます。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSUPNT1、 DFSUPNT2。

REASON = 11 DL/I PINT CALL RETURNED UNEXPECTED STATUS CODE = &statuscode

説明: DFSUPNT0、 DFSUPNT1、または DFSUPNT2 が、内部 DL/I PINT 呼び出しについて IMS から戻された無効な状況コード (&statuscode) を検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログにエラーに関する追加情報が入っていないかどうかを調べ、エラーを訂正してください。問題を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSUPNT0、 DFSUPNT1、 DFSUPNT2。

REASON = 12 ESTAE HAS DETECTED AN ABEND RESULTING FROM ATTACH OF DFSRRRC00

説明: ESTAE ルーチンが、接続した IMS システムの異常終了により、ユーティリティーに対して駆動されました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 32 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログにエラーに関する追加情報が入っていないかどうかを調べ、エラーを訂正してください。問題を判別できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

REASON = 13 A SYSIN DD CARD IS REQUIRED TO EXECUTE DFSUPNT0 STAND ALONE

説明: DFSUPNT0 が、IMS プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRRC00 によって開始されませんでした。SYSIN データ・セッ

トが必要ですが、JCL の中に SYSIN DD ステートメントがありませんでした。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 14 SYSIN DD DUMMY NOT ALLOWED FOR STAND ALONE EXECUTION

説明: DFSUPNT0 が、IMS プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRRC00 によって開始されませんでした。SYSIN データ・セットが必要ですが、JCL の中に SYSIN DD DUMMY ステートメントがありました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 15 NO SYSIN STATEMENTS FOUND

説明: DFSUPNT0 が、IMS プログラム・コントローラー・モジュール DFSRRRC00 によって開始されませんでした。SYSIN データ・セットが空です。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザーの応答: メッセージと理由コードで示されたエラー条件を確認し、訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 16 AN ERROR OCCURRED OPENING THE SYSIN DATASET

説明: DFSUPNT0 が SYSIN データ・セットを開こうとしてエラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログに追加メッセージが入っていないかどうかを調べ、エラー状態を訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 19 THE DFSOVRDS DD CARD HAS AN INVALID INPUT

説明: DFSOVRDS DD カードでは、DD

DUMMY または INITALL を含む文字ストリングのみを使用できます。その他の入力は無効です。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 8 に設定されます。

ユーザー応答: DFSOVRDS DD カードに有効な入力ストリングを入力してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = 20 PARTITION SELECTION FAILED

説明: 区画を初期化する前に、空の区画としてマークするために DFSPSEL が呼び出されました。この呼び出しが失敗しました。区画の初期化は完了できませんでした。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 16 に設定されます。

ユーザーの応答: ジョブ・ログにエラーに関する追加情報が入っていないかどうかを調べ、エラーを訂正してください。

モジュール: DFSUPNT0。

REASON = nn UNEXPECTED ERROR - INITIALIZATION INTERNAL LOGIC ERROR

説明: ユーティリティが、予期しない論理エラーを検出しました。

システムの処置: 処理は一時停止し、戻りコードは 99 に設定されます。この理由コードは、IMS サポート担当者に対してのみ、意味があります。

ユーザーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSUPNT0、 DFS3UACB。

モジュール:

DFS3UACB、 DFSUPNT0、 DFSUPNT1、 DFSUPNT2

**DFS1988W OTMA input messages from member
yyyyyyyyy have reached xx% of the
maximum active input message limit
zzzz**

説明: OTMA は、メンバーからの各アクティブ入力メッセージを追跡するために、内部でトランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) を作成します。OTMA 記述子、クライアント・ビッド・プロトコル・メッセージ、または /START TMEMBER INPUT コマンドによって、最大数の TIB を指定できます。メンバー yyyyyyyy からのアクティブまたはキューに入れられた入力メッセージが、zzzz で示された限界の xx % に達しています。このメッセージは、TIB 限界の 80%、お

よびそれ以降 5% ごとに発行されます。OTMA メッセージあふれ条件が存在する可能性があります。

現在の限界を表示するには、/DISPLAY TMEMBER コマンドを発行してください。

システムの処置: IMS OTMA は、少ないストレージで新規入力メッセージの処理を続行します。

プログラマーの応答: 従属領域が入力メッセージを処理するためにアクティブであるかどうか、リモート・トランザクションは入出力 PCB に挿入しているかどうか、および OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうかを判別してください。メッセージあふれ条件の発生を防止するために、OTMA クライアントを制御または停止することが必要な場合があります。OTMA トランザクションを実行するために、IMS 領域が開始済みであることを確認してください。/DISPLAY TMEMBER TPIPE コマンドを使用して、入力メッセージ数を表示できます。必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSYFD00

**DFS1989E OTMA input messages from member
yyyyyyyy have reached the maximum
active input message limit zzzz**

説明: OTMA メッセージあふれ条件がメンバー yyyyyyyy について存在します。入力メッセージは、zzzz で示される、デフォルトまたはクライアント指定のトランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) 限界に達しました。

システムの処置: IMS OTMA は、フリーの TIB が使用可能になるまで、メンバーからの新規入力メッセージをリジェクトします。

プログラマーの応答: 以下を判別してください。

- 入力トランザクションが従属領域によって処理されるかどうか
- リモート・トランザクションは入出力 PCB に挿入しているかどうか
- OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうか

メッセージあふれ条件の発生を防止するために、OTMA クライアントを制御または停止することが必要な場合があります。OTMA トランザクションを実行するために、IMS 領域が開始済みであることを確認してください。必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。また、/DISPLAY TMEMBER TPIPE コマンドを使用して、入力メッセージ数を表示できます。

モジュール: DFSYFD00

**DFS1990I {LQB|RCNT} CONTROL BLOCKS
INITIALIZATION FAILED**

説明: モジュール DFSCLCms、DFSCLSmS、DFSCLRms、または DFSCLIDs 内で、CNT/SPQB/RCNT 制御ブロックの初期設定を試みている最中に、メジャー・エラーが発生しました。LQB 制御ブロックに CNT および SPQB 制御ブロックが組み込まれます。次のモジュールが、対応する制御ブロックおよびシステム ID テーブル (SID) を伴って表示されます。

Module 制御ブロックまたはテーブル

DFSCLCms
CNT
DFSCLSmS
SPQB
DFSCLRms
RCNT
DFSCLIDs
SID

変数 *m* は、モジュール名を完結する値で、0 から 9 または A から F の値になります。変数 *s* は、中核接尾部を表します。実行 JCL とシステム定義の間に、正しい中核接尾部と IMS.SDFSRESL 名を確保するための整合性があるかチェックしてください。


システムの処置: IMS は異常終了 0016 で終了します。

プログラマーの応答: システム定義と実行 JCL の間に不整合があれば訂正してください。

問題判別: 6、10、35

モジュール: DFSIINU0

関連情報:

 IMS 異常終了 0016
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1991I {LOAD|LOCATE} ERROR FOR
LQB/RCNT CONTROL BLOCKS
(modulename), RC=xx.**

説明: 可変 *modulename* に置き換わる、モジュール DFSCLCms、DFSCLSmS、DFSCLRms、または DFSCLIDs に関して、IMSIMODULE LOAD または LOCATE が失敗しました。それぞれのモジュールには、次のリストに示すように、制御ブロックまたはシステム ID テーブル (SID) が含まれます。LQB 制御ブロックに CNT および SPQB 制御ブロックが組み込まれます。

Module 制御ブロックまたはテーブル

DFSCLC_{ms}
CNT
DFSCLS_{ms}
SPQB
DFSCLR_{ms}
RCNT
DFSCLID_s
SID

変数 *m* は、モジュール名を完結する値で、0 から 9 または A から F の値になります。変数 *s* は、中核接尾部を表します。

戻りコード (xx) でエラーの種別を示します。
IMODULE 戻りコードの説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了 0016 で終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードで示されているエラー条件を訂正してください。

問題判別: 6、10、35

モジュール: DFSIINU0

関連資料:

➡ IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0016
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1992I GETMAIN ERROR FOR UNIQUE
VTAM HASH TABLE RC=rc**

または

**GETMAIN ERROR FOR {CNT/LNB/RCNT|SPQB}
BLOCKS {HASH TABLE|BIT MAP} RC=rc**

説明: 最初の形式のメッセージが表示されるのは、システムが固有の VTAM ハッシュ・テーブル用としてストレージのブロックの獲得を試み、GETMAIN ルーチンから失敗戻りコードを受信したときです。VTAM ハッシュ・テーブルは、静的サインオン・ユーザー ID に関するものです。

2 番目の形式のメッセージが表示されるのは、IMS が初期設定時に、示されているハッシュ・テーブル用のストレージの取得に失敗したときです。失敗した GETMAIN によって戻りコードが渡されます。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 最初の形式のメッセージの場合は、ストレージ条件を訂正してください。2 番目の形式のメッセージの場合は、動的リソースが必要であれば、使用可能なストレージを IMS 制御領域に広げてください。

問題判別: 1、6

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0016
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1993X GETMAIN ERROR FOR
{LGND|USRD} BLOCKS HASH
TABLE, RC=nn**

または

**GETMAIN ERROR LOADING DYNAMIC
TERMINAL DESCRIPTORS, RC=nn**

説明: 3 つあるハッシュ・テーブルの 1 つ用、作業域用、または一時制御ブロックに関するデフォルトのログオンおよびユーザー記述子用として、ストレージの取得を試みていて、IMS 初期設定が正常に行われませんでした。

最初の形式のメッセージが表示されるのは、ストレージがハッシュ・テーブル用として使用不可のときであり、2 番目の形式が表示されるのは、ストレージが作業域用または記述子用として使用不可のときです。ログオン記述子ハッシュ・テーブルに関する障害であった場合は、LGND が表示されます。ユーザー記述子ハッシュ・テーブル、または LTERM 記述子ハッシュ・テーブルに関する障害であった場合は、USRD が表示されます。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 動的リソースが必要な場合は、IMS 制御領域に使用可能なストレージを増加してください。

問題判別: 1、6

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0016
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS1994I UNRESOLVED CQSPUT FROM
UOWE(S) DURING xxx.
QNAME=nnnnnnnnnnnnnnnnnnnn
UOWSTCK=ssssssssssssssss
TIME=jjj.hh.mm.ss**

説明: この通知メッセージは、IMS のチェックポイント中、または IMS のシャットダウン中に出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxx このメッセージが発行された時刻を示します。

CHECKPOINT

このメッセージが単純チェックポイント時に出されるのは、CQSPUT が UOWE クリーンアップ中に失敗した場合です。

SHUTDOWN

このメッセージが通常の IMS シャットダウン中に出されるのは、UOWE が CQSPUT 要求によって生じた場合です。

nnnnnnnnnnnnnnnnnnnn

最も古い未解決の CQSPUT UOW の宛先キュー。宛先キュー名にすべて印刷可能な EBCDIC 文字が含まれている場合、QNAME は、この印刷可能キュー名を含む 8 バイト値です。宛先キュー名に印刷不能文字が含まれている場合、QNAME は、16 進数のキュー名を含む 16 バイト値です。

ssssssssssssssss

タイプ 01/03 ログ・レコードの UOW ストア・クロック・トークン MSGPROTK。この値は、メッセージがキュー・マネージャーに挿入された時刻に対応しています。

jjj.hh.mm.ss

jjj.hh.mm.ss 形式に変換された、UOWSTCK からのストア・クロック値。ここで、jjj はユリウス日付、hh.mm.ss は時刻です。

システムの処置: IMS は、チェックポイントまたはシャットダウン処理から続行されます。

オペレーターの応答: このメッセージが通常シャットダウン中に出された場合は、ウォーム・スタートで IMS を再始動してください。ウォーム・リスタートが使用されない場合は、メッセージが失われる可能性があります。IMS のコールド・リスタートが必要な場合は、シャットダウンの前に、単純チェックポイントを取ってください。

IMS のコールド・リスタートが必要で、このメッセージが単純チェックポイント中に出されている場合は、UOWE を処理する問題が解決されるまで、IMS をシャ

ットダウンしないようにしてください。例えば、CF オーバーフロー全条件がまだ存在している場合は、チェックポイント処理で問題が解決しない可能性があります。

IMS は、システム・ログ・データ・セット (SLDS) からメッセージを検索して、失敗した CQSPUT を試行する必要がある場合があります。SLDS が使用不可である場合、IMS は単純チェックポイント後に DFS1994I を発行する可能性があります。SLDS を使用してこの状態を解決して、メッセージを検索し、メッセージ・キュー構造に PUT できるようにする必要があります。

DFS1995E explanation

説明: このメッセージは、メッセージ DFS1965E の後に続いて出され、直前の DFS1965E メッセージの戻りコードと理由コードについて説明します。DFS1995E には、APPC/MVS エラー抽出サービスによって提供されたように、接頭部 ATB で始まる APPC/MVS エラー・メッセージが入っています。

関連資料:

➡ z/OS: Error_Extract が返すエラー情報のタイプ

関連情報:

DFS1965E

**DFS1996I GETMAIN ERROR FOR VTAM
TERMINAL CONTROL BLOCKS
<HASH TABLE|DREF STORAGE>,
RC=xx**

説明: IMS は、次のいずれかで IMS 制御領域拡張専用域内に十分なストレージが獲得できませんでした。

- VTCB ハッシュ・テーブルを作成するためのサブプール 0
- VTAM 制御ブロック (VTCB) をロードするためのサブプール 214

IMODULE GETMAIN 戻りコード xx の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS は 0016 で終了します。

プログラマーの応答: 使用可能なストレージが増えたら、IMS を再始動してください。

関連資料:

➡ IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0016

DFS1997I INCOMPATIBLE COMPONENT OF ACF/VTAM INSTALLED

説明: VTAM OPEN ACB 処理からのコンポーネント ID 情報により、ACF/VTAM コンポーネントに IMS のレベルとの互換性がないことが示されました。IMS が MVS/370 用に生成されている場合は、ACF/VTAM の MVS/370 コンポーネントが必要であり、IMS が MVS 用に生成されている場合は、ACF/VTAM の MVS コンポーネントが必要です。

システムの処置: IMS が VTAM CLOSE ACB を発行して、VTAM 通信を不可能にします。

オペレーターの応答: ACF/VTAM の間違っただコンポーネントがアクティブである場合は、まず最初に ACF/VTAM を終了し、次に正しいコンポーネントを初期設定してください。ACF/VTAM の正しいコンポーネントがアクティブになったら、/START DC コマンドを出してください。

プログラマーの応答: 使用している ACF/VTAM コンポーネントで実行するように、IMS を再定義するか、IMS レベルと一致する ACF/VTAM コンポーネントをインストールするか、いずれかを行ってください。

問題判別: 6、10、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1998I VTAM TERMINAL CONTROL BLOCK INITIALIZATION FAILED

説明: モジュール DFSCLVyx に含まれている VTAM 端末制御ブロックの初期設定を試みている最中に、エラーが発生しました。ただし、次のとおりです。

y is a value from 0 to 9.

x は、IMS 中核の接尾部です。


実行 JCL が中核接尾部および SDFSRESL に関して、システム定義との間で整合性がない可能性があります。

システムの処置: IMS は異常終了 0016 で終了します。

プログラマーの応答: 実行 JCL とシステム定義の間の不整合を訂正してください。

問題判別: 6、10、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0016

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS1999I {LOAD|LOCATE|BLDL} ERROR FOR VTAM TERMINAL CONTROL BLOCKS (modulename), RC=xx

説明: BLDL、または IMS IMODULE LOAD または LOCATE が、サブプール 251 のモジュール DFSCLVyx に関して失敗しました。

y is a value from 0 to 9 or A to F.

x is the IMS nucleus suffix.


DFSCLVyx に、VTAM セッション用の IMS 端末制御ブロックの一部または全部が、MSC/VTAM リンク用のものを除いて含まれています。IMODULE 戻りコード *xx* の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0016 が示されます。


プログラマーの応答: IMODULE 戻りコードを基にして、エラーを訂正してください。

問題判別: 6、10、35

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0016

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2000I OPNDST ACQUIRE FAILED NODE x. SUBPOOL zzzzzzzz SENSE=yyyy

説明: OPNDST が ACQUIRE オプションを指定して、VTAM ノード *x* に関して出されました。OPNDST は正常に行われませんでした。変数 *zzzzzzzz* はサブプール名であり、サブプールがない場合は、N/A になります。

システムの処置: IMS 操作は、端末なしで続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) /OPNDST コマンド、または VTAM の 'VARY NET, ID=, LOGON=' コマンドを使用して、ノードを IMS にログオンしてください。

問題判別: VTAM D NET コマンドを使用して、ノードが IMS への割り振りで利用不能な理由を判別してください。

第 44 章 DFS メッセージ DFS2001I - DFS2050

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2001I OPNDST ACCEPT FAILED NODE x.
USER zzzzzzzz SENSE=yyyy I
RCFBK=xxxx

説明: IMS が ACCEPT オプションを指定して、VTAM OPNDST の発行を試みましたが、正常に行われませんでした。端末が OPNDST で使用可能なことを、VTAM が前に IMS に知らせました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

zzzzzzzz

ユーザー名、またはユーザーがない場合は N/A
yyyy 値は VTAM センス・コードです
xxxx 値は VTAM 戻りコードとフィードバック (RCFBK=) (指定される場合) です。

システムの処置: IMS 操作は、ノードなしで続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) VTAM が OPNDST をリジェクトした理由を、VTAM D NET コマンドを使用して判別してから、再試行してください。

DFS2002I OPNDST RESTORE FAILED NODE x.
SUBPOOL zzzzzzzz SENSE=yyyy

説明: IMS が RESTORE オプションを指定して、VTAM OPNDST の発行を試みましたが、正常に行われませんでした。端末が OPNDST で使用可能なことを、VTAM が前に IMS に知らせました。yyyy 値は VTAM SENSE CODE、zzzzzzzz はサブプール名ですが、サブプールがない場合は、N になります。

システムの処置: IMS 操作は、ノードなしで続行されます。

マスター端末オペレーターの応答: VTAM が OPNDST をリジェクトした理由を、VTAM D NET コマンドを使用して判別してから、再試行してください。

DFS2003 CLSDST FAILED NODE x.

説明: IMS が NODE x に関して VTAM CLSDST の発行を試みましたが、正常に行われませんでした。そのノードが非活動化されていて、使用可能でなくなっています。

システムの処置: ノード x が非活動化されていて、使

用可能でなくなっています。

問題判別: CLSDST が失敗した理由を判別してください。必要な場合は、VTAM 問題判別を実行してください。

DFS2004 PERMANENT ERROR-CLSDST
REQUIRED NODE x.

説明: 指定された端末を、IMS が CLSDST する必要があることを、VTAM が RPL 通知と IMS LOSTERM 出口のスケジューリングのいずれかによって、IMS に通知しました。

システムの処置: IMS がそのノードに関して CLSDST を発行します。

DFS2005 PERMANENT ERROR-CLSDST
ISSUED NODE x.

説明: 入力を受信した後で、VTAM または端末が、ノード x に関する入力バッファ内で IMS に送信した AID バイトが間違っているか、欠落していると、装置依存モジュール (DDM) が判別しています。

システムの処置: IMS が VTAM CLSDST を発行し、それ以上の操作を実行しません。

オペレーターの応答: (マスター端末) 該当する場合は、エラーの原因を訂正し、/OPNDST コマンドを使用して、端末を IMS に再接続してください。

DFS2006 PERMANENT ERROR-NO CLSDST
ALLOWED NODE x.

説明: 永続エラーが発生しています。VTAM の戻りコードまたは LOSTERM 値で、CLSDST が使用できないことが示されています。

システムの処置: IMS 処理は、端末なしで続行されません。ノードが非活動化されて、IMS による操作はこれ以上不可能になります。

オペレーターの応答: (マスター端末) 該当する場合は、エラーを訂正し、IMS を再始動してください。

DFS2007 OPNDST PROCESSOR FAILURE
NODE x.

説明: モジュール DFSCVCLO が予期しない戻りコードを検出しました - OPNDST 命令の FDB2 値。

OPNDST が正常に行われませんでした。

システムの処置: IMS が端末を活動停止中の状態にします。

オペレーターの応答: (マスター端末) 別の /OPNDST、VTAM VARY NET、または LOGON コマンドが試行できます。

問題判別: IMS トレースをオンにし、問題を再現してください。

DFS2008 INPUT IGNORED-ERROR MESSAGE CANCELED

説明: これはオペレーター・エラーにより生じます。IMS が直前の入力操作に関するエラー・メッセージの送信を試みていたとき、端末入力が試みられました。

BISYNC 3270 VTAM 装置の場合は、長さその端末に関して定義されている長さよりも長い入力を、オペレーターが入力した可能性があります。

システムの処置: 入力は無視されます。端末は将来の使用では使用可能です。

オペレーターの応答: 直前の入力に対する応答を待たずにデータを入力することがないようにしてください。

問題判別: ノードに関して IMS トレースをオンにし、問題を再現してください。

入力されたデータが長すぎた場合は、COMM マクロで指定された RECEIVE ANY バッファ・サイズが、入力されているデータの長さを処理できる十分な大きさであるか検証してください。

DFS2009 INPUT IGNORED

説明: オペレーター・エラー、または 3270 モニターからの、IMS でサポートされていない入力が原因で生じます。

入力が無効の場合は、MFS バイパスが使用されていないとき、IMS が端末からトリガー・フィールド入力を受信しています。トリガー・フィールドは、MFS ではサポートされていないので、トリガー・フィールド入力が IMS で受け入れられるのは、MFS バイパス機能が端末から受信された入力に対して使用されている場合のみです。

BISYNC 3270 VTAM 装置の場合は、長さその端末に関して定義されている長さよりも長い入力を、オペレーターが入力した可能性があります。

システムの処置: 無効のトリガー・フィールドの場合は、入力は廃棄され、端末との通信は正常に続行されま

す。エラー・レコードが、障害の発生時に、IMS ログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: トリガー・フィールドが定義されていないフォーマットで、画面が再フォーマットされる必要があるか、入ったトランザクションが IMS の MFS バイパス機能を使用するトランザクションである必要があります。

問題判別: 画面を再フォーマット設定することも、別のトランザクションを入力することも可能でない場合は、システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

入力されたデータが長すぎる場合は、COMM マクロで指定された RECEIVE ANY バッファ・サイズが、入力されているデータの長さを処理できる十分な大きさであるか検証してください。

DFS2010 VTAM NOT SUPPORTED

説明: NODE キーワードがコマンドで入力されましたが、VTAM が現行システムに組み込まれていません。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: (端末) コマンドを正しく入力してください。

問題判別: 36; また、VTAM ノードが IMS システム定義中に組み込まれる場合は、/DIS NODE ALL を実行し、出力を保管してください。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2011I IRLM FAILURE - IMS QUIESCING

説明: ロック・マネージャー状況出口が制御権が付与され、IRLM が終了中であることを検出します。このイベントが原因で、すべてのデータベースの使用が中止されます。

システムの処置: IMS が現在スケジュールされているトランザクションすべてを疑似異常終了させ、異常終了コード 3303 が示されます。データ共用に参加している全機能データベース (共用レベル 1、2、または 3)、およびブロック・レベルでのデータ共用に参加している高速機能データベース (共用レベル 1、2、または 3) はクローズされます。それらの許可が中止されます。さらにトランザクションをスケジュールリングすることは、高速機能を除いて、すべて禁止されます。高速機能トランザクションを入力する端末はすべて、IRLM が再始動し、IMS がそれに再接続するまで待ちます。

データベースを使用する意図がある従属領域は、いずれもスレッド終了処理を完了する必要があります。つまり、そのような従属領域で終了しないものがあると、

IMS が IRLM 障害からのクリーンアップに必要な処置を完了できません。そのような領域切断手順がすべて行われるまでは、IMS は IRLM に再接続したり、終了したりできません。入力 (WFI) トランザクションが QC 状況コードを付与され、疑似異常終了し、次のデータベース呼び出しで U3303 が示されるのを待ってください。IRLM 障害の時点で、現在実行中のアプリケーション・プログラムが BA、BB、または FH 状況コードを受信できる、タイミング関連条件があります。

プログラマーの応答: IRLM を再始動し、システム・コンソール・オペレーターに、RECONNECT を指定して IMS を変更させてください。/CHECKPOINT FREEZE を発行して IMS を終了させる以外には、他に許容される応答はありません。

IRLM が再始動され、IMS がそれに再接続したら、この障害のため停止されていたすべてのデータベースを開始してください。また、BMP 領域も再始動の必要がある場合もあります。

問題判別: 1, 17

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2012I GLOBALLY SHARED DATA
BASE|AREA - dbdname|areaname
STOPPED.**

または

**SHARING DATA BASE(S) STOPPED BECAUSE
DATA SHARING DISCONTINUED**

説明: 上記の 2 つのメッセージのうちいずれかが生成されます。最初のメッセージでは、データ共有が中止されたため停止した共有データベースをリストします。

2 番目のメッセージは、複数の IRLM でグローバルに共有され、IRLM が IRLM FAILED または COMM FAILED 状態に入っている、それぞれのデータベースまたはエリアごとに生成されます。データベース保全性を保証できないときは、IMS システムによって他の IRLM 上でグローバルに共有および許可されているデータベースまたはエリアが、内部 /DBR または /STOP コマンドを使用して停止され、現在これらのデータベースまたはエリアを使用しているすべてのアプリケーションが異常終了 3303 で疑似異常終了します。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: メッセージ DFS2011I に示されているように処置が取られたら、このメッセージにリストされているデータベースを、/START コマンドを使用して開始して、これらのデータベースに関するトランザクションのスケジュール、またはエリアのオープンが

できるようにする必要があります。

関連情報:

502 ページの『DFS2011I』

**DFS2013 NUMBER OF RECORDS IN QBLKS
DATA SET HAS EXCEEDED UPPER
THRESHOLD**

説明: IMS が、警告メッセージ DFS2013 が出される前に、QBLKS データ・セットに割り当てできるレコードの数に上限しきい値を確立しています。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: キュー使用を減らして、シャットダウンの起こる可能性を避けることをお勧めします。この処置の効果を判別するには、/DIS POOL コマンドによって表示される使用パーセンテージを調べてください。QBLKS データ・セットに割り当てられているレコードの数が、IMS によって確立されている下限しきい値より下に落ちると、メッセージ DFS2016 が出されず。

**DFS2014 NUMBER OF RECORDS IN SMSGQ
DATA SET HAS EXCEEDED UPPER
THRESHOLD**

説明: IMS が、この警告メッセージを出す前に、SMSGQ データ・セットに割り当てできるレコード数に上限しきい値を設定しています。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: キュー使用を減らして、シャットダウンの起こる可能性を避けることをお勧めします。この処置の効果を判別するには、/DIS POOL コマンドによって表示される使用パーセンテージを調べてください。SMSGQ データ・セットに割り当てられているレコードの数が、IMS によって確立されている下限しきい値より下に落ちると、メッセージ DFS2017 が出されず。

関連情報:

504 ページの『DFS2017』

**DFS2015 NUMBER OF RECORDS IN LMSGQ
DATA SET HAS EXCEEDED UPPER
THRESHOLD**

説明: IMS が、警告メッセージ DFS2015 が出される前に、LMSGQ データ・セットに割り当てできるレコ

ードの数に上限しきい値を確立しています。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: キュー使用を減らして、シャットダウンの起こる可能性を避けることをお勧めします。この処置の効果を判別するには、 /DIS POOL コマンドによって表示される使用パーセンテージを調べてください。LMSGQ データ・セットに割り当てられているレコードの数が、IMS によって確立されている下限しきい値より下に落ちると、メッセージ DFS2018 が出力されます。

**DFS2016 NUMBER OF RECORDS IN QBLKS
DATA SET IS NOW BELOW LOWER
THRESHOLD**

説明: IMS が、QBLKS データ・セットに割り当てられたレコードの数が、上限しきい値を超した後で通過する必要がある、下限しきい値を確立しています。この下限しきい値を通過すると、このメッセージが出る結果になります。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: キュー使用を減らす処置は中止できます。

**DFS2017 NUMBER OF RECORDS IN SMSGQ
DATA SET IS NOW BELOW LOWER
THRESHOLD**

説明: IMS が、SMSGQ データ・セットに割り当てられたレコードの数が、上限しきい値を超した後で通過する必要がある、下限しきい値を確立しています。この下限しきい値を通過すると、このメッセージが出る結果になります。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: キュー使用を減らす処置は中止できます。

**DFS2018 NUMBER OF RECORDS IN LMSGQ
DATA SET IS NOW BELOW LOWER
THRESHOLD**

説明: IMS が、LMSGQ データ・セットに割り当てられたレコードの数が、上限しきい値を超した後で通過す

る必要がある、下限しきい値を確立しています。この下限しきい値を通過すると、このメッセージが出る結果になります。このしきい値は、自動シャットダウンが開始される前に割り当て可能なレコードの最大数に占めるあるパーセンテージです。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: キュー使用を減らす処置は中止できます。

**DFS2020 VTAM STORAGE ALLOCATION
FAILURE RTNCD=8.**

説明: SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードにストレージ割り振りの失敗が示されていました。

システムの処置: IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答: SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

**DFS2021 VTAM INACTIVE TO THIS
APPLICATION RTNCD=10 FDB2=D.**

説明: SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、VTAM がこのアプリケーションに対しては非アクティブであることが示されていました。

システムの処置: IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答: SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

**DFS2022 VTAM ABEND CONDITION
OCCURRED ON THE USER TCB
RTNCD=10 FDB2=E.**

説明: SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、ユーザー異常終了条件の発生が示されていました。

システムの処置: IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答: SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

**DFS2023 NON-VTAM REQUEST RTNCD=14
FDB2=0.**

説明: SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、非 VTAM 要求が出されたことが示されていました。

システムの処置: IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答: SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

**DFS2024 VTAM CONTROL BLOCK INVALID
RTNCD=14 FDB2=10.**

説明: SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードに、VTAM 制御ブロックが無効であることが示されました。

システムの処置: IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答: SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

**DFS2025 VTAM CID INVALID RTNCD=14
FDB2=13.**

説明: SETLOGON マクロからの VTAM 戻りコードは、VTAM CID が無効であることを示していました。

システムの処置: IMS システムは継続し、START DC は失敗しました。

プログラマーの応答: SETLOGON マクロの VTAM エラーをチェックしてください。

**DFS2026 INSUFFICIENT STORAGE
AVAILABLE IN MAIN POOL (WKAP)
TO PROCESS COMMAND**

説明: メイン・プールのストレージが不十分なため、コマンドが処理されませんでした。

重要: WKAP はシステム定義時には指定できません。システム定義では値 5000 を設定します。この値は、IMS プロシージャの WKAP= オペランド、または IMS.PROCLIB の DFSPBxxx メンバーによって、実行時にオーバーライドできます。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を実行してください。

- IMS を起動する場合に使用する JCL の WKAP パラメーターを使用して、メイン・プールのサイズを大きくする。
- この問題は一時的条件である可能性があるため、後でコマンドを再入力する。
- コマンドを複数コマンドとして再入力することで、ストレージ要件を削減する。

**DFS2027I UNABLE TO OPEN VTAM ACB
REG15=xx ACBERFLG=yyy.**

説明: OPEN ACB が試みられたとき、エラー・コードが戻されました。xx は、レジスター 15 の OPEN 戻りコードであり、yyy は、VTAM によって戻された ACB です。ACBERFLG 値 yyy は、10 進数として表示されます。

重要: マルチノード持続セッション (MNPS) を使用している場合、このメッセージは APPLID ACB のみを指しています。

システムの処置: IMS は、ACB が開かれない状態で継続します。

プログラマーの応答: エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server SNA Programming」および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

関連資料:

➤ z/OS: OPEN - 1 つ以上の ACB のオープン

➤ z/OS: オープン・マクロ命令エラー・フィールド

**DFS2028 MONITOR KEYWORD PARAMETER
MISSING.**

説明: /TRACE SET ON または /TRACE SET OFF コマンドが入力されましたが、モニター・パラメーターが指定されていません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 正しいパラメーターを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2029 MONITOR UNAVAILABLE.

説明: モニターが使用できません。モニター・ログ作業域が正常に初期設定されませんでした。

IMSMON DD ステートメントが欠落しているか、LOAD モジュール DFSIMNT0 または DFSMNTR0 が適正なライブラリー内で使用不可であるか、いずれかです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: モニターが正常に初期設定されたら、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: モニターが正常に初期設定されているか確認してください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2030 MONITOR ALREADY ACTIVE.

説明: /TRACE SET ON モニター・コマンドが入力されたとき、モニターはすでにアクティブでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /TRACE SET ON MONITOR コマンドを繰り返す前に、/TRACE SET OFF MONITOR コマンドを使用してください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2031 INVALID MONITOR KEYWORD PARAMETER.

説明: /TRACE SET ON MONITOR コマンドが入力されましたが、モニター・キーワードのパラメーターが無効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効なパラメーターを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2032 MONITOR NOT ACTIVE.

説明: /TRACE SET OFF MONITOR コマンドが入力されたとき、モニターがアクティブではありませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: モニターがオンになっていないときは、/TRACE SET OFF MONITOR コマンドは使用しないでください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2033 PARLIM NOT DEFINED FOR THIS TRANSACTION.

説明: PARLIM キーワードがコマンドで使用されましたが、その時点では、PARLIM オプションは、指定されたトランザクションに関して定義されていませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

リモート端末オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

DFS2034 INVALID PARLIM NUMBER.

説明: PARLIM キーワードに対して入力されたパラメーターが、0 から 65535 の範囲ではありませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

リモート端末オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

DFS2035 UNABLE TO ASSIGN SPECIFIED LTERM TO A PTERM DEFINED MSGDEL=SYSINFO

説明: LTERM はメッセージがシステム・キューで待機中です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

端末オペレーターの応答: LTERM は、指定されている PTERM に割り振り可能か確認してください。

DFS2036 UNABLE TO ASSIGN SPECIFIED LTERM TO A PTERM DEFINED MSGDEL=NONIOPCB

説明: LTERM はメッセージがシステムまたはアプリケーション出力キューで待機中です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: LTERM は、指定されている PTERM に割り振り可能か確認してください。

DFS2037 START DC HAS NOT BEEN COMPLETED

説明: /START DC コマンドが完了してからでないと、/OPNDST または /CLSDST は実行できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /START DC コマンドを入力した上で、再試行してください。

DFS2038 BUFFER POOL TOO SMALL FOR COMMAND

または

INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE TO PROCESS COMMAND

説明: 最初の形式のメッセージが出されるのは、ストレージが不十分のため、コマンドが処理されなかったときです。

/TRACE SET ON MONITOR コマンドに関連した内部テーブルを収容するために使用可能な CSA/ECSA が不十分な場合も、このメッセージの最初の形式が生成される可能性があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: これは一時的条件で、後でコマンドを再入力することで解決できる可能性があります。こ

れが失敗した場合は、コマンドを複数のコマンドとして再入力することで、ストレージ要件の削減を試みるか、それが不可能な場合は、システム・プログラマーに通知してください。

このメッセージが生成されたのが、 /TRACE SET ON MONITOR コマンドを実行した結果である場合は、使用可能な CSA/ECSA を大きくしてください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2039I INSUFFICIENT STORAGE TO PROCESS GLOBAL STATUS UPDATE

説明: Operations Manager (OM) API から発行されなかった DB または AREA GLOBAL コマンド後、グローバル状況更新の処理にストレージを使用できません。

システムの処置: このコマンドは、メッセージが送信された先の各 IMS によって処理されます。グローバル状況は更新されません。

プログラマーの応答: この状態は一時的なものである可能性があり、コマンドの再実行によって解決される場合があります。コマンドの再実行が失敗する場合、このコマンドを複数のコマンドとして再入力することで、ストレージ要件を減らしてください。これが可能でない場合は、システム・プログラマーに通知してください。

モジュール: DBFARD10、DBFARD40、DFSDBDR0

DFS2040 DEVICE DEPENDENT LOGIC ERROR NODE x (USER y)

説明: VTAM 入出力要求の装置依存処理中に、論理エラーが検出されました。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE x のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置のみ)。
- IMS システム定義に対する指定が無効。
- 装置からの予期しない VTAM システム・センス。
- RQR 処理中に CLEAR 要求で時間切れになった。

システムの処置: NODE x または USER y との間で確立されていたセッションが終了しました。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2041 A PERMANENT ERROR ENCOUNTERED NODE x

説明: VTAM SEND/RECEIVE で戻された SENSE 情報で、NODE x が作動不能であることが示されました。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM 論理装置状況が受信されたか、SEND コマンドに対する例外応答が SENSE コマンドで受信され、永続エラー (NODE x で設定) であることを示している。
- メジャーまたはマイナー SENSE フィールドがサポートされていないか、ユーザー SENSE で 4 より大きいコンポーネント ID が示されていた。
- ハードウェアの誤動作。

システムの処置: NODE x に関して確立されていたセッションが終了しました。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、11、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2042 BAD VTAM RESPONSE, INDICATOR OR DATA [FMH | QEC | RELQ | QC | RSHUT | SHUTD | SHUTC | LUS (SENSE=xxxxxxx)|RTR| SIG (SENSE=xxxxxxx)|BID | SBI | BIS|UNDEF] NODE x (USER y)

説明: 次のように、無効またはサポートされていない要求が受信されました。

FMH FM ヘッダー・パラメーター・エラー

QEC SNA QEC (quiesce-end-of-chain) コマンド

QC 静止完了

RELQ SNA 解放静止コマンド

RSHUT

SNA 要求シャットダウン・コマンド

SHUTD

SNA シャットダウン・コマンド

SHUTC

シャットダウン・コンプリート・コマンド

LUS SNA LUSTATUS コマンドか、それに関連したセンス・コード (xxxxxxx)、またはその両方

RTR SNA 受信準備済みコマンド

SIG SNA シグナル・コマンドか、それに関連したセンス・コード (xxxxxxx)、またはその両方

BID SNA BID コマンド

SBI SNA 停止ブラケット開始コマンド

BIS SNA ブラケット開始停止コマンド

UNDEF

未定義の SNA コマンド・コードが受信された。

この問題の原因として可能なのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE *x* のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置およびリモート・サブシステムのみ)。
- IMS システム定義に対する指定が無効。

システムの処置: セッションは終了します。関係のある追加情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2043 DATA CHAINING ERROR ENCOUNTERED NODE *x*

説明: IMS 出力編集集中、または NODE *x* の VTAM Receive Any で、適正でないデータ・チェーニング・シーケンスが検出されました。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。NODE *x* のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置のみ)。
- IMS 出力メッセージが複数セグメントであるか、チェーン出力サポートのない装置の出力バッファ・サイズより大であるか、いずれか。

システムの処置: NODE *x* セッションは終了しました。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2044 UNSUPPORTED RESPONSE WAS REQUESTED NODE *x* (USER *y*)

説明: サポートされていない応答が VTAM 受信で要求されました。このエラーの原因として推定されるのは、次の場合です。

- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE *x* のプログラムでプログラム・ロジック・エラーが発生した (プログラマブル装置のみ)。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコード (X'67') が生成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2045 AN INBOUND SEQUENCE ERROR DETECTED NODE *x* (USER *y*)

説明: VTAM 同期要求で受信されたシーケンス番号が連続していませんでした。つまり、直前に受信した VTAM 同期入力要求より 1 以上大きい番号でした。このエラーの原因として推定されるのは、次の場合です。

- VTAM VTAM エラーが発生した。
- ハードウェア誤動作が生じた。
- エラーがリモート・ノードの制御プログラム内で発生した。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* との間で確立されていたセッションが終了しました。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコードが、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2046 ERROR FOUND WHILE WRITING
TO LOG NODE *x* (USER *y*)**

説明: IMS ログ・レコードの作成または書き込みを試みている最中に、装置依存エラーが発生しました。書き込まれるデータに、VTAM シーケンス番号、NODE *x* または USER *y*、あるいはその両方の緊急時再始動に必要なデータが含まれていました。3614 ノードの場合は、保持域が小さすぎて、リカバリーに必要な 3614 トランザクション要求のコピーが取まらない可能性があります。この問題の原因として推定されるのは、次の場合です。

- IMS ログへの書き込み中に、入出力エラーが発生した。
- IMS システム定義中に、Receive Any、保持域、または出力バッファのサイズに関する無効な指定が行われました。

3614 ノードの場合は、保持域が小さすぎて、リカバリーに必要な 3614 トランザクション要求のコピーが取まらない可能性があります。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2047 A VTAM BRACKET ERROR WAS
ENCOUNTERED NODE *x* (USER *y*)**

説明: VTAM ブラケット・エラーが、NODE *x* または USER *y* に関して VTAM 受信で検出されました。チェーン・データ要求内の唯一または最初のエレメントに、少なくとも VTAM 開始ブラケット標識が含まれていなかったことが、このエラーの原因と推定されます。

通常の場合では、このメッセージが、IMS と正常に通信していた端末に関して出ることはありません。このエラーが、最近 IMS ネットワークに追加されたノードに関して発生する場合は、端末が適切に定義されているか、確認してください。また、その端末が、正しい VTAM ログ・モードを指定されているか、あるいは IMS または VTAM によるデフォルトで設定されているか、確認してください。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が

CVCT の IMS ログ・レコード (X'67') が生成されました。

オペレーターの応答: (端末オペレーターの入力) プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2048 UNABLE TO OUTPUT NODE *x*.

説明: IMS が NODE *x* のいずれのコンポーネントにも書き込めませんでした。使用可能なコンポーネントすべてが、以前の VTAM 例外 RRRN 応答、または VTAM LU 状況標識でのユーザー提供のセンス・データの結果、作動不能条件に設定されていることが、このエラーの原因と推定されます。この条件は、ノードからの後続の VTAM LU 状況標識、または IMS /STOP NODE *x* および /START NODE *x* コマンドによってリセットされます。

システムの処置: NODE *x* に関して確立されていたセッションが終了しました。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が生成されます。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2049I PARALLEL SESSION NAME ERROR
name1 name2 NODE *x* USER *y* ID *z***

説明: リモート・サブシステムから受信された折衝バインド応答の並列セッション名を変更する試みを、IMS が検出しました。バインドで送信された名前、メッセージ・テキスト内のユーザー名および ID で識別されています。戻された値は、メッセージ内の *name1* および *name2* の値で識別されています。ユーザー名および ID が *name1* および *name2* に対応します。

システムの処置: セッションを開始する試みはリジェクトされます。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、CVCT という ID で提供されました。

DFS2050

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: エラーは、端末オペレーターによって入力された初期セッション情報、IMS またはリモート・サブシステム、あるいはその両方の中のシステム定義情報にある可能性があります。問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2050 RESYNCHRONIZATION REJECTED NODE *x* (USER *y*)

説明: NODE *x* または USER *y* が、セッション再同期中に、IMS シーケンス番号、あるいは NODE *x* または USER *y* のシーケンス番号の IMS コピーの、いずれかをリジェクトしました。VTAM 設定/テスト・シーケンス番号コマンドで、IMS 番号と NODE *x* または USER *y* の番号の IMS コピーのいずれかに、無効の指示が戻されたことが、このエラーの原因と推定されません。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が生成されました。

オペレーターの応答: (端末オペレーターの入力) プログラムが訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

プログラマーの応答:

CVCT ログ・レコードを検討して、この再同期障害の原因を判別してください。競合のソースが訂正されたら、セッションを再確立してください。両側からセッション・コールドを再獲得し、FORCSESS オプションを使用して、IMS 端末またはリンクを定義する必要がある可能性があります。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 45 章 DFS メッセージ DFS2051I - DFS2100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2051 RESYNCH FAILED DUE TO VTAM RC NODE *x* (USER *y*).

説明: VTAM 戻りコードがゼロ以外であったため、または VTAM 設定/テストまたはデータ・トラフィック開始標識の送信中のフィードバックのため、再同期が失敗しました。このエラーの原因として推定されるのは、次の場合です。

- ハードウェア誤動作が生じた。
- NODE *x* のプログラム (プログラマブル装置のみ)、または NODE *x* の制御プログラムが、VTAM 設定/テスト・シーケンス番号または開始データ・トラフィック標識に例外応答を送信した。

システムの処置: 確立されているセッションが強制終了され、関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、CVCT という ID で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、USER *y*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2052 UNSUPPORTED RESPONSE TO RESYNCHRONIZATION NODE *x*

説明: セッション再同期中に、NODE *x* は IMS シーケンス番号、または NODE *x* のシーケンス番号の IMS コピーのいずれかに対して、サポートされない応答を戻しました。VTAM 設定/テスト・シーケンス番号コマンドに対するサポートされていない要求が受信されたか、テスト否定応答が IMS シーケンス番号での設定オプションに対する応答として受信されたことが、このエラーの原因と推定されます。

システムの処置: NODE *x* セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が生成されました。

オペレーターの応答: (端末オペレーターの入力) 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、または IMS

/OPNDST コマンドで再確立できます。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE *x*、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。NODE *x* で問題を訂正できない場合、セッションが NODE *x* を使用できるようになる前に IMS /NRE が必要です。

問題判別: 1、5、6、12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2053 UNRESOLVED REFERENCE TO REQUIRED USER EDIT NODE *x*.

説明: 必須ユーザー編集ルーチンへの未解決の参照が検出されました。

システムの処置: NODE *x* に関して確立を試みているセッションが終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS トレース・ログ・レコード (X'677') が生成されます。

プログラマーの応答: IMS 中核を正しいユーザー編集ルーチンで再バインドする必要があります。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2054 SESSION TERMINATION FORCED NODE *x*.

説明: 終了に対する再帰的要求のため、セッションの強制的な終了が行われました。IMS /STOP NODE *x* コマンドか /CLSDST コマンドの結果として、または 3614 ユーザー編集ルーチンから受信した VTAM の要求リカバリーかシャットダウン要求の標識の結果として、元の要求が 3614 ユーザー編集ルーチンを使用して出されました。

次のいずれかの状態がこのエラーの原因と推定されます。

- ハードウェア誤動作が生じた。
- 終了がエントリー・ベクトル 20 によって、3614 ユーザー編集ルーチンに対して要求された後での戻りコ

ード 8 (入出力取り消し) の適正でない使用のため、ループが 3614 ユーザー出口ルーチンと IMS の間で生じました。

- 3614 ユーザー編集ルーチンからエントリー・ベクトル 20 によって終了が要求された後は、入力は戻りコード 0、4、または 8 によってキューに入れられました。出力メッセージがユーザー・メッセージ処理プログラムによって生成されることはありませんでした。

システムの処置: NODE x との間で確立されていたセッションが終了します。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2055 SESSION TERMINATED BY USER EDIT ROUTINE NODE x.

説明: ユーザー編集ルーチンからの戻りベクトルで、セッション終了が NODE x に関して要求されたことが示されました。

システムの処置: NODE x セッションは終了します。関係のある情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 問題があれば、それがいずれも訂正されると、セッションは NODE x、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2056 INPUT SEGMENT EXCEEDS MAXIMUM LENGTH.

説明: 入力非ブロック化ルーチンが、3 つ以上の要求単位にまたがる入力メッセージ・セグメントを検出しています (3770/3767 の場合に、改行文字も用紙送り文字も検出されないか、SLUTYPE1 の場合に、非ブロック化文字が検出されません)。

システムの処置: 入力メッセージは取り消され、エラーのメッセージ・セグメントが含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: 正しいフォーマットが使用されて

いるか確認して、メッセージを再入力してください。

問題判別: 7、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2057 DEBLOCKING CHARACTER NOT FOUND IN INPUT SEGMENT.

説明: 入力が 3770 カード・リーダー・コンポーネントから受信され、非ブロック化ルーチンが入力データの終わりまでスキャンしましたが、非ブロック文字は検出されませんでした。入力データのカードはすべて、それぞれの後に IRS 文字が続いている必要があります。

システムの処置: エラーの入力メッセージは取り消され、エラーの入力メッセージが含まれているレコードは IMS ログ・データ・セットに書き込まれ、セッションは終了します。

オペレーターの応答: ノードに /OPNDST コマンドを発行し、障害が起きている入力メッセージを再試行してください。引き続き障害が発生する場合は、問題判別を実行してください。

問題判別: 5、6、23

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2058 COMPONENT ID IN ERROR.

説明: 入力は受信されました。しかし、機能管理ヘッダー (FMH) のコンポーネント ID が無効であったか、入力コンポーネントがシステム定義で端末マクロに定義されていなかったか、または、IMS が例外応答要求機能をサポートしない装置によって例外応答が要求されました。

システムの処置: エラーの入力メッセージが含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれ、セッションは終了します。

オペレーターの応答: 失敗した入力メッセージを再試行してください。引き続きエラーが発生する場合は、問題判別を実行してください。

プログラマーの応答: 入力装置が IMS に対して適正に定義されているか確認してください。

問題判別: 5、7、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2059 FMH DID NOT INDICATE BODS OR EODS.

説明: 3770 からの入力データ・ストリームの機能管理ヘッダーに、データ・セットの先頭も末尾も示されていませんでした。

システムの処置: エラーの要求単位が含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれ、セッションは終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 引き続きエラーが発生する場合は、問題判別を実行してください。

問題判別: 5、6、7、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2060 IPL REQUEST INVALID ON S/7 BSC CONTENTION LINE xxx PTERM yyy.

説明: 2 進同期 (BSC) コンテンション回線に接続されているシステム/7 が IMS に IPL 要求を送信しました。

システムの処置: IMS は、送信用システム/7 を非活動化します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: システム/7 プログラムを訂正するか、システム/7 接続を変更してください。

DFS2061I NODE NOT AVAILABLE FOR OPNDST NODE x (USER y).

説明: NODE x または USER y に対する IMS /OPNDST コマンドのために発行された VTAM SIMLOGON で、使用不可条件が戻されました。この条件の説明については、「VTAM For MVS/ESA, VM/ESA, VSE/ESA Programming」(SC31-6496) および「VTAM Messages and Codes」(SC31-6418) を参照してください。

システムの処置: NODE x または USER y とのセッションを確立する試みは終了しています。(1) 関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。(2) IDC0 がアクティブの場合は、IDC0 トレース・テーブル・エントリが作成されます (既存以外の動的端末の場合)。


オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッション開始は、IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらかじめ試行できます。セッションは、NODE x または

USER y によっても要求または開始できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連資料:

 データ通信保守援助プログラム (診断)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2062I MODENAME UNKNOWN TO VTAM NODE x (USER y).

説明: NODE x または USER y に関する IMS /OPNDST コマンドが原因で発行された VTAM SIMLOGON に対して、不明モード名条件が戻されました。間違ったモード名が IMS /OPNDST コマンドで指定されたか、モード・テーブル・エントリが指定された名前を使用して VTAM に対して定義されなかったか、いずれかです。

システムの処置: NODE x または USER y とのセッションを確立する試みは終了しています。(1) 関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。(2) IDC0 がアクティブの場合は、IDC0 トレース・テーブル・エントリが作成されます (既存以外の動的端末の場合)。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッション開始は、IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらかじめ試行できます。セッションは、NODE x または USER y によっても要求または開始できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2063I SESSION TERMINATION COMPLETE NODE x (USER y).

説明: セッション終了が NODE x または USER y に関して発生しました。終了は、IMS 端末またはノードにより、セキュリティに応じて、NODE x または USER y により、VTAM/SNA コマンドを使用して、あるいは、VTAM ネットワーク・オペレーター・コマンドにより、要求された可能性があります。異常条件が原因の終了であった場合は、このメッセージの前に、特定の条件に関するエラー・メッセージが、IMS マスター端末オペレーター向けにエンキューされています。

システムの処置: NODE x または USER y とのセッションは終了しています。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されているのは、異常条件が原因で終了した場合です。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: NODE *x* または USER *y* に関するセッションが終了したのは、NODE *x* または USER *y* の要求で IMS コマンドによるか、または異常条件によります。セッションは、未解決の問題が訂正された後で、IMS /OPNDST コマンドを使用して、NODE *x* または USER *y* によって再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2064I SESSION INITIATION COMPLETE NODE *x* (USER *y*).

説明: セッション開始が NODE *x* または USER *y* に関して完了しています。セッション開始は、IMS /OPNDST、VTAM ネットワーク・オペレーター、あるいは NODE *x* または USER *y* VTAM/SNA コマンドの結果でした。

システムの処置: セッション開始が NODE *x* または USER *y* に関して完了しています。使用可能な出力があれば、すべて送信され、そうでない場合は、IMS は入力を待ちます。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 通常のセッション開始後の NODE *x* または USER *y* にとって適切な処置をすべて継続してください。

DFS2065I RESYNCHRONIZATION NOT POSSIBLE NODE *x* (USER *y*).

説明: NODE *x* または USER *y* との直前のセッション終了に基づくメッセージ再同期が必要でした。しかし、共用キューからの初回取り出し呼び出しが失敗しました。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* とのセッションを確立する試みは終了しています。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: NODE *x* または USER *y* を適切な再始動点に再初期設定するか、IMS /CHANGE コマンドによって、IMS 再同期システム定義オプションをオーバーライドしてください。

問題が訂正またはオーバーライドされると、セッション

開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、再試行できます。セッションも、NODE *x* または USER *y* によって要求もしくは開始できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2066I BAD BIND PARM (DISP A, VALUE B) NODE *x* (USER *y*).

説明: VTAM/SNA BIND コマンドの受信時、または LOGMODE テーブルまたは USERDATA からのバインド・パラメーターの検出時 (INQUIRE 後) に、IMS が無効であるか、サポートされていないか、または矛盾するパラメーターを 1 つ以上検出しました。これらのパラメーターは、NODE *x* に関して指定されている IMS システム定義オプション、または USER *y* に関して指定されている ETO 記述子オプションとも、矛盾している可能性があります。

DISP A は、BIND RU の先頭からの変位です。VALUE B は、エラーのあるデータです。DISP A も VALUE B も 16 進数です。

システムの処置: VTAM/SNA BIND コマンドを使用して、NODE *x* または USER *y* とのセッションを確立する試みは、リジェクトされました。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらためて試行できます。セッションは、NODE *x* または USER *y* によって要求または開始することもできます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2067I BEGIN-END BRACKET ERROR NODE *x* (USER *y*).

説明: IMS が出力メッセージの処理中にエラーを検出しました。送信されるメッセージには開始ブラケットは示されていますが、ノードは「NOBB」(出力ブラケットを開始できない) シャットダウン状態です。要求されたメッセージは送信できませんでした。

「NOBB」シャットダウン状態は、対称シャットダウン

を要求する OHS、または /QUIESCE NODE x (USER y) コマンドの結果です。

システムの処置: セッション終了が NODE x または USER y に関して強制されました。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 追加の入力または出力が必要な場合は、セッションを再始動して、シャットダウン状態をリセットできます。セッション開始は、NODE x または USER y に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、あらかじめ試行できます。セッションも、NODE x または USER y によって要求または開始できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2068 INPUT DATA FM HDR PARAMETER INVALID, UNSUPPORTED, OR NOT AVAILABLE

説明: 入力データ機能管理 (FM) ヘッダーに、無効であるか、サポートされていないか、使用不能であるパラメーターが含まれていました。このメッセージと一緒に送信される出力 ERP FM ヘッダーに、特定のパラメーターを分離するための追加のセンス情報が含まれている場合があります。

システムの処置: NODE x とのセッションで、入力エラーが検出されていますが、セッションは終了しませんでした。このメッセージが送信されるのは、入力メッセージをリジェクトするためです。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、入出力操作から続けてください。FM ヘッダーの問題が訂正されると、入力メッセージは再送できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2069 END-BRACKET NOT SUPPORTED ON IMS INPUT SYNCHRONOUS MESSAGES.

説明: ブラケット終了が入力 IMS 応答モードまたは会

話型トランザクション、IMS コマンド、または入力メッセージで、IMS 「テスト・モード」中に受信されました。

システムの処置: NODE x とのセッションで、入力エラーが検出されています。セッションは終了され、メッセージ DFS2069 がキューに残されます。このメッセージが送信されるのは、入力メッセージをリジェクトするためです。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: エラーを訂正せずにセッションを続行するには、メッセージ DFS2069 をデキューしてから、セッションを再始動します。

セッションを再始動する前にエラーを訂正するには、以下の 1 つ以上の処置を行います。

- ISC TERMINAL マクロの定義を変更して、非同期処理を許可するための COMPT1=MULT を指定し、入力メッセージからブラケット終了を除去します。
- エラー発生時に IMS がテスト・モードだった場合は、/EXIT コマンドを使用してテスト・モードを終了します。
- TRANSACT マクロの MSGTYPE= パラメーターの値を RESPONSE から NONRESPONSE に変更します。MSGTYPE= パラメーターに NONRESPONSE の値を指定すると、セッションが非同期に変更され、ブラケット終了が許可されます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2070 MESSAGE TERMINATION FORCED FOLLOWING INPUT SNA CANCEL OF MFS PAGE.

説明: A VTAM/SNA CANCEL コマンドが受信されましたが、MFS 複数ページ入力メッセージ中の送信側検出エラーの後に続いて、SUBSEQUENT VTAM/SNA LUSTATUS (メッセージ終了) が受信されることはありませんでした。IMS では、単一ページが取り消された場合は、入力メッセージが終了する必要があります。

システムの処置: NODE x とのセッションで、入力エラーが検出されていますが、セッションは終了していません。このメッセージが送信されるのは、MFS 複数ページ入力メッセージを強制的に終了させるためです。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

DFS2071I • DFS2074I

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、入出力操作から続けてください。VTAM/SNA CANCEL コマンドが出される原因となった問題が訂正された後で、メッセージはIMS に再送できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2071I EXPECTED ERP MESSAGE NOT RECEIVED NODE *x* (USER *y*).

説明: VTAM/SNA 例外応答が受信されましたが、この例外応答の理由を説明する後続の ERP メッセージがありません。

システムの処置: NODE *x* または USER *y* とのセッションで、入力エラーが検出され、セッションが終了します。関係のある情報が入っている IMS トレース・ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 他のセッションでのシステム論理が訂正されると、セッション開始は、NODE *x* または USER *y* に関して IMS /OPNDST コマンドを使用して、再試行できます。セッションは、NODE *x* または USER *y* によって要求または開始することもできます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2072I LUname *username* (LTERM) FMH617 --- *text* ---.

説明: SNA FMH6 または FMH7 フォーマットで定義されている、システム通知メッセージまたはシステム・エラー・メッセージが、ユーザー名によって識別される LU6 セッションを通して IMS によって受信された、「OTHER」システム (LUname) による非同期条件を検出しました。FM ヘッダーの後に続くテキストに、「OTHER」システムによって検出された非同期条件が記述されています。

システムの処置: 正常な入出力が LU6 セッション中続きます。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストで必要とされている適切な処置を取ってください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2073I NODE *nodename* SUBPOOL *username* (*ltermname*) SOURCE (*srclterm*) *fnh7* *message_text*.

説明: 「OTHER」システム (LUname) からのエラー・メッセージが、ユーザー名によって識別される LU6 セッションで送信された出力に対する応答として、IMS によって受信されました。エラーのあるメッセージが入っている出力キューは、ユーザー名 LTERM 名によって識別されています。入力メッセージ発信元は、ソース LTERM 名によって識別されています。TYPE 7 FM ヘッダーの後に続くテキストに、エラー条件が記述されています。

システムの処置: このメッセージが使用されるのは、IMS マスター端末オペレーター、またはメッセージ送信元端末オペレーターに対して、エラー条件を報告するためです。

IMS マスター端末オペレーターへのエラー報告後、LU6 セッションは終了します。エラーのある出力メッセージは、後で再送信するためにキューに送られます。

ソース端末オペレーター (LU6 メッセージ通信の場合、あるいは ERPKPSES=Y で ERP センス・コードが X'0846xxxx' の場合) へのエラー条件の報告時には、エラーのある出力メッセージはデキューされ、セッションは終了しません。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストで必要とされている適切な処置を取ってください。「OTHER」システム、または IMS /OPNDST コマンドによって、セッションはエラー条件の訂正後に再始動できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2074I SESSION ENDED; PURGE DURING QUIESCE NODE *x* (USER *y*).

説明: デッドロック条件が、/CHE PURGE QUIESCE の結果として生じています。指定されたノードまたはユーザーのパージのため、静止論理が完了できません。

システムの処置: エラー状態の場合と同様、ノードまたはユーザーはクローズされます (セッションは終了)。

オペレーターの応答: シャットダウン状況を表示して、セッションが終了したことを確認してください。

**DFS2075 INVALID QNAME IN QMODEL
FMH.**

説明: IMS によって受信された QMODEL FMH (TYPE 6) の QNAME フィールドに、プロセスに関して ATTACH FMH の DQN と一致しない、または使用可能な出力に関して有効な QNAME と一致しない名前が含まれています。

システムの処置: セッションで、入力 QMODEL FMH エラーが検出されていますが、セッションは終了しませんでした。このメッセージが送信されるのは、送信ハーフセッションを通知するためです。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 必要に応じて、入出力操作から継続を試みてください。FMH が再送できるのは、QNAME の問題が訂正されてからですが、FMH は、QNAME を指定しないで再送できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2076 INVALID QORG PARAMETER IN
QMODEL FMH.**

説明: IMS が受信した QMODEL FMH (TYPE 6) の QORG フィールドに入っている QORG 値が、X'02' より大きいか、IMS によって送信された QXFR FMH の QORG と一致しないか、または受信したタイプの QMODEL FMH に対しては無効です。

システムの処置: セッションで、入力 QMODEL FMH エラーが検出されていますが、セッションは終了しませんでした。このメッセージが送信されるのは、送信ハーフセッションを通知するためです。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 必要に応じて、入出力操作から継続を試みてください。QORG の問題が訂正されてから、FMH をリセットするか、QORG を X'00' に設定できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2077I DATA IS LONGER THAN BUFFER
NODE x (USER y).**

説明: バッファへのデータの移動を試みている最中に、エラーが検出されました。受信されたセグメント

が、IMS システム定義で指定されている SEGSIZE より大きかったか、VLVB ブロック・カウントが残っているバッファ・サイズより大きかったか、いずれかです。

システムの処置: ノードまたはユーザーに関するセッションは終了します。ブロック化されるはずであったデータは失われました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: バッファ・サイズを再定義して、IMS システムを再生成するか、出力用として生成されたデータが定義済みバッファよりも長くないことを確認してください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2078I OUTPUT REJECTED SENSE xxxxxxxx
LTERM yyyyyyyyy. OUTPUT REJECTED
SENSE xxxxxxxx LTERM yyyyyyyyy
Node zzzzzzzz**

説明: PTERM に送信されようとしているメッセージ内の無効の文字を示す応答が受信されました。または、端末がメッセージを正しく受信するように構成されていません。例えば、装置バッファの範囲外のアドレスが、データ・ストリームに含まれていました。装置から受信したセンス情報がメッセージのセンス・フィールドに含まれています。プログラム式シンボルが含まれている装置の場合は、プログラム式シンボル・バッファが適切にロードされていないと、出力はリジェクトされます。

システムの処置: メッセージが含まれているレコードが IMS ログ・データ・セットに書き込まれます。メッセージは、IMS メッセージ・キューに戻されます。メッセージが応答モードで送信されていない限り、PTERM との通信が続行されます。次に、端末が切断されて、このメッセージが MTO に送信されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) このメッセージの後に、DFS998I メッセージが続きます。端末を応答モードから外し (/STOP)、次いで /START)、そして再始動 (/OPN) させます。

(端末) メッセージが、IMS メッセージ・キューからデキューされる必要があるか、LTERM が、出力を受け入れ可能な端末に再割り当てされる必要があります。プログラム式シンボルが含まれている装置の場合、可能な訂正処置としては、プログラム・シンボル・バッファを装置で正しくロードした上でメッセージを再送することです。

関連情報:

312 ページの『DFS998I』

**DFS2079I INVALID APPLICATION OUTPUT
LTERM xxxxxxxx LINE yy PTERM
zzz. INVALID APPLICATION
OUTPUT LTERM xxxxxxxx NODE
yyyyyyyy**

説明: サポートされていないコマンド・コードが、MFS バイパスを使用するアプリケーション出力で検出されました。

システムの処置: ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01' が、IMS トレース機能 (これによって IMS 制御ブロックおよび保管域のスナップが提供される) を使用して書き込まれました。かかわりのある端末は作動不能になります。DFS998I メッセージが MTO に送信されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) LTERM を再割り当てするか、メッセージをデキューする必要があります。システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムが有効なコマンド・コードを使用するように訂正してください。

関連情報:

312 ページの『DFS998I』

**DFS2080I CONVER TRANSACTION INPUT
NOT RECEIVED NODE x (USER y).**

説明: 会話型モード中に、間違ったセッション・プロトコルが受信されました。この問題は、会話型出力応答メッセージがデキューされる結果になりました。メッセージには、IMS 会話を継続するための有効な理由が示されていませんでした。エラーが原因の無効のセッション・プロトコルで、次のいずれかの条件が示されていました。

1. 会話型出力メッセージに対する応答として、方向が変更された LUSTATUS または CHASE
2. 会話型出力メッセージに対する例外応答センス・コード X'0864'
3. 会話型出力メッセージに対する FMH 7 センス・コード X'0864'

システムの処置: NODE x (USER y) セッションは終了しました。関係のある情報が入っている IMS ログ・レコード (X'67') が、ID が CVCT で作成されました。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 問題が訂正されると、セッションは NODE x、USER y、または IMS /OPNDST コマンドで再確立できます。

518 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2081I UNABLE TO RESYNC SESSION FP
TRANCODE=nnnnnnnn
NODE=xxxxxxx.**

または

**TEMPORARILY UNABLE TO RESYNCH SESSION
NODE x (USER y).**

または

**UNABLE TO RESYNC SESSION
TRANCODE=nnnnnnnn NODE=xxxxxxx**

説明: IMS は、次の間、一時的に再同期不能です。

- セッション開始試行この条件が生じるのは、セッションの初期設定または再同期を試行している間、応答モード・トランザクションがまだ処理中であるときです。
- RQR 処理 CLEAR 要求が失敗しました。

システムの処置: セッションを開始または再同期する試みは失敗します。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: 応答モード・トランザクションが完了して、出力応答メッセージを作成できるようにしてください。その上で、NODE x (USER y) から、または IMS /OPNDST コマンドで、セッションを再確立してください。/DISPLAY コマンドを使用すると、応答モードの応答が出力で使用可能になる時点を判別できます。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2082 RESPONSE MODE TRANSACTION
TERMINATED WITHOUT REPLY.**

説明: 応答モードのアプリケーションが正常に終了し、出力応答メッセージが端末に戻されることはありませんでした。

OTMA 送信後コミット (CM1) または APPC 同期入力メッセージは、IMS アプリケーションが IOPCB に対する応答を受け取らなかった場合、または別のトランザクションへメッセージ通信を行う場合に、DFS2082 メッセージを受信します。

OTMA コミット後送信 (CM0) 入力メッセージが状態データ接頭部に TMAMHRSP フラグが指定されているときに、アプリケーションが IOPCB に応答しないか、または別のトランザクションへのメッセージ通信を完了した場合、IMS は DFS2082 メッセージを出します。このメッセージは、送信元の入力トランザクションに対して出されます。DFS2082 は、交換先のトランザクションに対して出されることはありません。

システムの処置: この IMS メッセージがアプリケーション出力の代わりに送信されて、端末が応答モードでハングしないよう防止します。

プログラマーの応答: IMS との通信を継続し、トランザクション論理が適切な応答を挿入するように訂正してください。

端末オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2083I **NODE** *nodename* **SUBPOOL** *username*
 (*ltermname*) **SOURCE** (*srclterm*) *fmh7*
 message_text.

説明: 「OTHER」システム (LUname) からのエラー・メッセージが、ユーザー名によって識別される LU6 セッションを通して、IMS によって受信されました。エラーのあるメッセージが入っている出力キューは、ユーザー名 LTERM 名によって識別されています。入力メッセージ発信元は、ソース LTERM 名によって識別されています。FM ヘッダー TYPE 7 の後に続くテキストに、エラー条件が記述されています。

システムの処置: このメッセージが使用されるのは、IMS マスター端末オペレーターに、リカバリー可能エラー条件を報告するためです。FMH7 センス・コード、エラーを招く IMS のタイプ、および使用されている FMH7 LU6 プロトコルに応じて、現行出力メッセージが廃棄されるか、再送されます。LU6 セッションは終了しません。詳しくは、DFS2072I および DFS2073I を参照してください。

オペレーターの応答: プログラマーの応答を参照してください。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストで必要とされている適切な処置を取ってください。

問題判別: 1、5、6、12、14、25

DFS2084 **INVALID RETURN FROM SIMEXIT,**
EXIT DISABLED.

説明: DFSSIML0 出口ルーチンが、戻りコード 8 で、制御権を IMS に戻した時点で、レジスター 1 によって指し示されているエリアでトランザクション名を示さなかったか、示されているトランザクション名が無効です。

システムの処置: DFSSIML0 処理が IMS によって迂回され、戻りコード 0 が想定されます。

オペレーターの応答: 通常の入出力アクティビティーを続けてください。

DFS2085I **HH:MM:SS SESSION TERMINATED,**
NODE=xxxxxxx, USER=yyyyyyyyy,
SIGN ON FAILURE RC=zzz.

説明: 示されている理由コードのため、サインオンがリジェクトされました。この理由コードは、メッセージ DFS3649A で記述されています。

システムの処置: サインオンは無視されます。セッションは終了し、メッセージ DFS2085I が現行 MTO に送信されます。

オペレーターの応答: 問題の診断後、サインオンを試みてください。

問題判別: 1、5、6、12、14

関連情報:

903 ページの『DFS3649A』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2086 **/TRACE SET OFF FOR MONITOR IN**
PROGRESS, CANNOT PROCESS
COMMAND

説明: /TRACE SET ON MONITOR コマンドが入力されましたが、前の /TRACE SET OFF MONITOR コマンドが完了していませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: コマンドが自動化プログラムで入力される場合は、プログラムを変更して、/TRACE SET OFF MONITOR コマンドと /TRACE SET ON MONITOR コマンドの間の時間を延ばしてください。

モジュール: DFSICLN4

DFS2087 CANNOT TURN OFF TIMEOUT TRACE DURING SHUTDOWN, COMMAND IGNORED

説明: /TRACE SET OFF TIMEOUTコマンドが入力されましたが、IMS がシャットダウン中でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: このコマンドは、シャットダウン中に入力しないでください。

モジュール: DFSICLN0

DFS2088I APPC/OTMA SMQ ENABLEMENT INACTIVE. REASON = xxx.

説明: APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement が非アクティブです。

理由コードは xxx です。理由コードを以下の表に示します。

表 11. DFS2088I に考えられる理由コード

コード	意味
004	これは、非共有キュー環境です。
016	RRS がアクティブではありません。
020	メンバーがグループに参加しましたが、APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement をサポートできません。
024	別のメンバーが、APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement のサポートを除去しました。
028	IMS RRS から切断されました。
032	DFSDCxxx メンバーで AOS=N が指定されました。
036	RRS=N が始動パラメーターとして指定されました。
040	DFSDCxxx PROCLIB メンバーで AOS = が指定されているシステムが、12.1 より低い MINVERS レベルの IMSplex に参加しました。標準トランザクションに XCF 通信を使用する APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement は、非アクティブです。標準トランザクションとは、同期レベルが NONE または CONFIRM であるトランザクションです。

システムの処置: IMS は、すべての APPC/OTMA メッセージをフロントエンド・システムに強制的に送信します。

オペレーターの応答: APPC/OTMA Shared Message Queue Enablement のすべての要件が満たされていることを確認してください。

DFS2089I APPC/OTMA SMQ ENABLEMENT ACTIVE.

または

[RRS IS USED | XCF IS USED. | XCF AND RRS ARE USED].

説明: 同期 APPC/OTMA に対する共有メッセージ・キュー・サポートがアクティブです。

メッセージの 2 行目の値は、次のようになります。

RRS IS USED

RRS はアクティブであり、NONE、CONFIRM、および SYNCPT の同期レベルを持つトランザクションに対する同期点 (sync point) マネージャーです。

XCF IS USED

XCF 通信が使用されており、NONE および CONFIRM の同期レベルを持つトランザクションに対する同期点 (sync point) マネージャーは IMS です。

RRS AND XCF ARE USED

RRS はアクティブであり、SYNCPT の同期レベルを持つトランザクションのみに対する同期点 (sync point) マネージャーです。XCF 通信が使用されており、NONE および CONFIRM の同期レベルを持つトランザクションに対する同期点 (sync point) マネージャーは IMS です。

システムの処置: IMS は、IMSplex 内のすべてのメンバーが APPC/OTMA メッセージを処理できるようにします。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2090I IMS TIMER SERVICE STIMERM SET|CANCEL FAILED, RC=xxx.

説明: IMS タイマー・サービスが z/OS に、STIMERM の設定または取り消し要求を出しました。z/OS がレジスター 15 でゼロ以外の戻りコードを戻しました。

システムの処置: タイマー・サービスはシャットダウンされます。タイマー・サービスに関する要求が、ゼロ以外の戻りコードを受信します。IMS が異常終了することはありません。

オペレーターの応答: (マスター端末) メッセージから

の戻りコードをメモし、システム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 1、4 (タイマー障害が原因で、IMS の別の部分が異常終了する場合)、6

関連資料:

➡ z/OS: STIMERM マクロの戻りコード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2091I IMS TIMER SERVICE SHUTDOWN COMPLETED.

説明: IMS タイマー・サービスがシャットダウンし、タイマー要求を処理しなくなっています。このメッセージは、通常、IMS シャットダウン中に出されます。また、STIMERM SET または CANCEL が失敗した場合は、メッセージ DFS2090I の後でも出されます。

システムの処置: タイマー・サービスは、IMS ではもう使用不能になりました。

オペレーターの応答: IMS シャットダウン中にこのメッセージを受信した場合、応答は必要ありません。STIMERM SET または CANCEL が失敗した場合は、メッセージ DFS2090I を参照してください。

関連情報:

520 ページの『DFS2090I』

DFS2092I INITIALIZATION FAILED FOR TIMEOUT PROCESSOR RC=*n*.

説明: IMS VTAM I/O タイムアウト・プロセッサ (DFSASLT0) が、ASLTI ITASK、または IMS VTAM 入出力タイムアウト検出機能によって必要とされるタイマー・テーブル用の、ストレージを取得できませんでした。

戻りコードとその意味は、次のとおりです。

コード (16 進数)

	意味
01	フロントおよび交換初期設定のための時間 AWE の取得不能
02	フロントおよび交換初期設定のための 2 番目の時間 AWE の取得不能
03	タイマー・テーブル初期設定のためのクイック保管域の取得不能
04	AS1T ITASK 用ストレージの取得不能
05	AS1T ITASK の作成不能
06	AS1T ITASK 初期設定のための AWE の取得不能
07	タイマー・テーブル用ストレージの取得不能
08	メイン・タイマー用時間 AWE の取得不能

システムの処置: IMS 初期設定は続行されますが、VTAM 入出力タイムアウト検出機能は使用不能です。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: タイムアウト機能が必要な場合は、IMS 制御領域のサイズを大きくした上で、IMS を再始動してください。

DFS2093 TIMEOUT TRACE FACILITY NOT AVAILABLE, COMMAND IGNORED.

説明: /TRA SET TIMEOUT コマンドを入力しましたが、ASLTI ITASK が IMS 初期設定中に失敗したため、IMS VTAM 入出力タイムアウト検出機能が使用不能でした。/DIS TIMEOVER コマンドを入力し、この機能が活動化されなかった場合も、このメッセージが出されます。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /DIS TIMEOVER コマンドを入力した後で、このメッセージを受信した場合は、必要に応じて /TRA SET TIMEOUT コマンドを出してください。/TRA SET TIMEOUT コマンドを入力した後で、このメッセージを受信した場合は、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: この機能が使用不可の場合は、メッセージ DFS2092I を参照してください。

モジュール: DFSICLN0

関連情報:

『DFS2092I』

DFS2094I NODE *nodename* USER *username* TIMED OUT AT *hh:mm* SENSE=*xxxx*.

または

NODE *nodename* TIMED OUT AT *hh:mm* SENSE=*xxxx*.

説明: VTAM 入出力検出機能を活動化する場合に使用された /TRA SET TIMEOUT コマンドで指定された時間よりも長い時間にわたって、このノードは出力応答が未解決です。2 番目の形式のメッセージが出されるのは、ISC ノードの場合です。VTAM センス情報が使用可能であれば、このメッセージに組み込まれます。

システムの処置: /TRA SET TIMEOUT コマンドで指定された内容に応じて、処置が決まります。

- MSG が指定された場合は、ノードは、タイムアウト・ノード・チェーン上に置かれ、応答を待ち続けます。

- AUTO が指定された場合、IMS は VTAM VARY NET,INACT コマンドに続いて VTAM VARY NET,ACT コマンドをノードに発行します。ノードが非共用として定義され、まだ作動可能な場合は、ノードに関して OPNDST が出されます。メッセージ DFS2095I および DFS2096I がこのメッセージの後に続きます。
- AUTO が指定され、これが ISC ノードの場合は、ノードはタイムアウト・ノード・チェーン上に置かれ、応答を待ち続けます。自動再始動は実行されません。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答:

- MSG が指定された場合は、IMS /IDLE コマンドと /ACT コマンドを発行して、ノードが VTAM V NET,INACT および V NET,ACT を行うようにしてください。そうすれば、ノードを再始動できます。
- AUTO が指定され、このメッセージが ISC ノードに関して出された場合は、MSG について、前の応答を参照してください。
- AUTO が指定され、このメッセージが非 ISC ノードに関して出された場合は、ノードの IMS /DISPLAY を行って、再指導されたか確認してください。

要確認: VTAM TIMEOUT 入出力機能が、IMS シャットダウン中に自動的に開始されます。1 分および 'AUTO' に設定されます。トレース・コマンドが /TRACE TIMEOUT 1 AUTO ならば、効果的です。VTAM TIME 入出力機能は、IMS 初期設定中にも自動的に開始されます。

関連情報:

『DFS2095I』

『DFS2096I』

**DFS2095I V NET,INACT PERFORMED FOR
NODE *nodename*.**

説明: IMS が、次のいずれかの理由で、VTAM 'VARY NET,INACT' コマンドを出しています。

- IMS VTAM 入出力 I/O 検出機能が、タイムアウトになっている VTAM ノードを検出し、それを自動的に非活動化している。このメッセージの前にメッセージ DFS2094I が、後にメッセージ DFS2096I が、それぞれ出されます。
- IMS TM シャットダウン処理が、完了していない動的端末に関する未解決の SIMLOGON を検出し、そのノードを自動的に非活動化しています。このメッセージの後に、メッセージ DFS2096I が続きます。

関連情報:

521 ページの『DFS2094I』

『DFS2096I』

**DFS2096I V NET,ACT PERFORMED FOR
NODE *nodename*.**

説明: IMS が、次のいずれかの理由で、VTAM 'VARY NET,ACT' コマンドを出しています。

- IMS VTAM 入出力 I/O 検出機能が、タイムアウトになっている VTAM ノードを検出し、それを自動的に再活動化している。IMS がこのメッセージを出すときは、その前にメッセージ DFS2094I および DFS2095I が出されています。
- IMS TM シャットダウン処理が、完了していない動的端末に関する未解決の SIMLOGON を検出し、そのノードを自動的に再活動化しています。このメッセージの前に、メッセージ DFS2095I が出されています。

関連情報:

521 ページの『DFS2094I』

『DFS2095I』

**DFS2097I DBDGEN REQUIRED FOR
DATABASE *nnnnnnnn* TO SET
DATXEXIT INDICATOR**

説明:

DATXEXIT=YES フラグをオフにして、データベースに関する最初の DL/I 呼び出しを処理している最中に、DL/I 呼び出しアナライザーがユーザー・データ変換出口を呼び出しました。しかし、SRCHFLAG が X'FF' (ユーザー出口がこのデータベースで必要であったことを示す) に設定されずに、戻されました。DL/I 呼び出しアナライザーが DATXEXIT=YES フラグを動的にオンにし、このデータベースに関するトランザクションの処理を続けますが、DATXEXIT=YES を指定した DBDGEN が、このデータベースに関して実行される必要があるという警告メッセージをユーザーに出します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: DBDGEN がこのデータベースに必要であることを、データベース管理者に通知する必要があります。

**DFS2098 ERROR TRANSMITTING INPUT
-RESEND INPUT DATA.**

説明: ネットワーク端末オプション (NTO) が、入力データの伝送中に、ネットワーク制御プログラム (NCP) から一時ハードウェア・エラーを検出しました。NTO がセンス・コード X'0827' を IMS に送信して、受信さ

れたデータが誤りで、再送が必要であることを示しました。

システムの処置: NTO はセンス・コード X'0827' を処理し、メッセージ DFS2098 を入力端末に送信しました。メッセージがマルチチェーニングされていた場合は、NTO が直前のチェーンを取り消しました。

オペレーターの応答: 最後に入力されたメッセージを再度送信してください。

**DFS2099 DATA EXCEEDS RECANY RU SIZE
NODE x.**

説明: VTAM から受信されたデータ長が、RECEIVE ANY バッファのサイズよりも大です。

システムの処置: セッションは終了します。関係のある情報が入っている、IMS トレース・ログ・レコード (X'6701' ID=CVCT) が生成されました。

プログラマーの応答: X'6701' ID=CVCT ログ・レコードに RPL が含まれています。RPLRLEN は RPLBUFL より大です。RPLBUFL は、COMM マクロの RECANY=(number,size) パラメーターで定義されている RECEIVE ANY バッファ・サイズです。

問題判別: 5、6、14、25

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2100 END OF MESSAGE BEFORE END OF
DATA-INPUT IGNORED.**

説明: データの末尾に達する前に、MFS がメッセージの終わりに達しました。

システムの処置: 入力を取り消されます。

オペレーターの応答: メッセージ入力記述および装置入力形式に従って、メッセージを再入力してください。

第 46 章 DFS メッセージ DFS2101I - DFS2150I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2101I DEACTIVATING NODE xxxxxxxx.

説明: IMS がセッションを物理的に整然と終了できませんでした (CLSDST)。論理的に終了させることが必要です。この問題の原因として考えられるのは、次の場合です。

1. コンソール・オペレーターが VTAM を取り消した。
2. VTAM が異常終了した。
3. VTAM ストレージ不足条件のため、CLSDST が 25 回失敗した。

システムの処置: 非活動化標識が、ノードを表す IMS 制御ブロックでオンになっています。

プログラマーの応答: 上記の理由のうちのどれが原因で問題が生じたか判別し、訂正処置を取ってください。ノードの復帰には、IMS を停止し (/STOP DC-/CHExxxx)、あらためて立ち上げてください。

DFS2102 POSITIVE RESPONSE NOT REQUESTED FOR RECOVERABLE MESSAGE.

説明: リカバリー可能メッセージが 3600 または 3790 端末から受信されましたが、肯定応答に対する要求を伴っていません。

システムの処置: メッセージは取り消されます。

プログラマーの応答: 3600 または 3790 プログラムを訂正するか、必要な場合は、IMS システム定義でのトランザクションの定義を訂正してください。

DFS2103 NODE KEYWORD PARAMETER MISSING.

説明: NODE キーワードが入力されましたが、どのノードか、あるいは全部か、指定されていませんでした。

システムの処置: IMS システムは継続し、コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 操作の対象となるノードを指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0

DFS2104 INVALID NODE NAME -NODE nodename

または

INVALID NODE NAME.

説明: 示されているノード名がシステムで検出されなかったか、非 ISC ノードを IMS 2 次 LU にする試みがなされました。

最初の形式のメッセージがコマンド・プロセッサによって出されるのは、コマンドが未定義ノードを参照している場合です。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、次のどちらかの状態が生じた場合です。

- セッション開始要求が未定義ノードを参照している。
- ISC セッション要求が非 ISC ノードを参照している。

システムの処置: コマンドは無視され、LOGON/REQSESS はリジェクトされます。

オペレーターの応答: (端末オペレーター) コマンドが原因でメッセージが出された場合は、有効なノード名を使用してコマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0

DFS2105 NO NODE DEFINED IN SYSTEM.

説明: NODE キーワードを指定しコマンドが入力されましたが、ノードが定義されていません。

システムの処置: コマンドは無視され、処理は続行されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再発行してください。

DFS2106 UNKNOWN TERMINAL TRIED TO CONNECT ON LINE x PTERM y.

説明: ID 検査が必要な回線で、ID リストでは許可されていない 3275 ダイアル端末が、IMS への接続を試みました。

システムの処置: 接続は切断されます。回線は再始動

し、接続の試行を待ちます。

プログラマーの応答: 状況によって保証されているときは、ログ印刷ユーティリティ (DFSERA10) を、レコード・タイプ =X'69' で使用して、問題を生じている端末 ID、およびそれらがアクセスした回線をリストしてください。

**DFS2107 NODE NOT PHYSICALLY
DISCONNECTED, CANNOT
PROCESS COMMAND.**

説明: /EXIT コマンドがリモート端末ノードに関して発行されましたが、このノードは現在物理的に切断されていません。

システムの処置: コマンドは処理されません。

オペレーターの応答: リモート・ノードが切断されたら、コマンドを再試行してください。

**DFS2108 INVALID COMMAND FROM
NON-VTAM TERMINAL.**

説明: A /RCLSDST コマンドが入力されましたが、VTAM ノードではない端末からでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再試行してください。

DFS2109 VTAM ACB NOT OPEN.

説明: 入力されたコマンドには、VTAM ACB が開かれている必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /START DC を発行し、再試行してください。

**DFS2110A NON-QUICK VTAM SHUTDOWN
REQUESTED.**

説明: VTAM オペレーターが VTAM にシャットダウンを指示しています。VTAM は TPEND 出口を介して、このことを IMS に通知しています。

説明: VTAM ACB を CLOSE する試みがなされ、戻りコード X'xx' が受信されました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

マスター端末オペレーターの応答: 次のいずれかの処置が取れます。

- 処理を続ける必要がない場合は、/CLSDST コマンドを入力して、アクティブ・ノードをすべて切断する。

- /CHECKPOINT コマンドを入力して、IMS をクローズする。

- 処理を続ける必要がある場合は、メッセージを無視する。

- /STOP DC して、ACB をクローズする。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

DFS2111I VTAM ACB CLOSED.

説明: VTAM ACB がクローズされました。IMS は VTAM から切断されています。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

**DFS2112I UNABLE TO CLOSE VTAM ACB,
REG 15=rc, ACBERFLG=xx.**

説明: /STOP DC コマンドを使用して、または IMSIMS TPEND 出口ルーチンを駆動する VTAM によって、VTAM ACB を CLOSE する試みが行われました。試みが失敗し、戻りコード rc がレジスター 15 に入り、ACB エラー・フラグが xx で示されているように設定されました。

システムの処置: IMS は、内部的に VTAM ACB にクローズのマークを付け、その VTAM インターフェースなしで、処理を続行します。

プログラマーの応答: 示されている情報 (戻りコードとエラー・フラグ) を使用して、CLOSE が失敗した理由を究明してください。CLOSE マクロの説明、および戻りコードとエラー・フラグの説明については、「VTAM V4R3 for MVS/ESA Programming」(SC31-6496) を参照してください。「VTAM Messages and Codes」(SC31-6493) に追加情報が記載されています。

**DFS2113 NO DPAGE CONDITION WAS
MET-INPUT IGNORED.**

説明: 条件付き DPAGE は、条件が満たせず、無条件 DPAGE は指定されていませんでした。

OPTIONS=DNM の場合は、すべての DPAGES が条件付きです。

システムの処置: 入力取り消されます。

オペレーターの応答: 正しい入力内容を再入力してください。問題が引き続き発生する場合は、プログラマーに要請して、そのメッセージに関して装置入力形式を分析してください。

**DFS2114 OUTPUT ERROR LINE xxx PTERM
 xxx {, DO NOT REDIAL PTERM}.**

説明: 出力メッセージを端末に書き込んでいる最中に、永続出力エラーが発生しました。

システムの処置: 現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答: (マスター端末) エラー・メッセージで特に指示されていない限り、セッションを繰り返してください。そうでなければ、次の必須端末をダイヤル呼び出ししてください。

問題判別: 23、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2115 PTERM DISC LINE xxx PTERM xxx
 {SEQ NO xxxxx [SEGM ID xxxxxxxx]}
 , DO NOT REDIAL PTERM}.**

説明: 端末が入力または出力中に、切断シーケンスをしました。

システムの処置: 現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答: (マスター端末) リモート端末で問題を訂正してからでないと、現行セッションは再確立できません。

問題判別: 入力中に、エラーの時点でのメッセージ・セグメントは、シーケンス番号によって、またオプションでは、8 文字 ID によって、識別されます。入力と出力の両方について、終了状況がリモート端末の画面に表示されています。

**DFS2116 OUTPUT COMPLETE LINE xxx
 PTERM xxx.**

説明: 準備できた出力メッセージすべてが端末に正常に書き込まれています。出力メッセージがセッション中に書き込まれない場合は、このメッセージが出されることはありません。

システムの処置: 現行セッションは完了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

**DFS2117 INPUT COMPLETE LINE xxx PTERM
 xxx.**

説明: 入力メッセージが端末から正常に読み取られます。読み取る入力メッセージがない場合は、このメッセージが出されることはありません。

システムの処置: 現行セッションは、出力フェーズから続行されます。出力メッセージがない場合は、セッションは完了で、次のセッションがオペレーター接続に備えて開始されます。

**DFS2118 DIAL REMOTE TERMINAL LINE xxx
 PTERM xxx.**

説明: セッションが回線開始コマンドの後で、または前のセッションに続いて、開始されています。

システムの処置: 端末が物理的に接続され、使用可能制御装置がポストされるまで、セッションは待ちます。

マスター端末オペレーターの応答: 必須端末をダイヤル呼び出しして、トーンが聞こえたら、モデムの DATA を押してください。すべてのセッションが完了したら、STOP コマンドを発行した上で、モデムの DATA を押すと、セッションが終了し、回線は活動停止中の状態になります。

**DFS2120 SET COMMAND ERROR LINE xxx
 PTERM xxx.**

説明: 内部的に作成された /SET コマンドが、IMS により無効としてリジェクトされました。

システムの処置: 現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答: (マスター端末) 問題が引き続き発生する場合は、出口ルーチンが訂正されるまで、さらにセッションを開始することがないようにしてください。

プログラマーの応答: ユーザー・サインオン出口が有効な IMS 名を作成するように訂正してください。

問題判別: /TRACE (レベル 3) を使用してセッションを繰り返し、エラーの設定コマンドを示すログ・データ・セットを印刷してください。

**DFS2121 USER EXIT REQUESTED DISC LINE
 xxx PTERM xxx.**

説明: ユーザー・サインオン出口が、端末の切断を要求して戻りコードを渡しました。

システムの処置: 現行セッションは終了します。次のセ

セッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

プログラマーの応答: ユーザー・サインオン出口要求が有効であるかチェックして判別してください。これが無効の場合は、訂正処置をとってください。

マスター端末オペレーターの応答: 必須端末をダイヤル呼び出ししてください。

問題判別: 6、24

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2122 INPUT ERROR LINE xxx PTERM xxx
[SEQ NO xxxxx [SEGM ID xxxxxxxx]].

説明: 端末から入力メッセージを読み取っている最中に、永続入力エラーが発生しました。

システムの処置: 現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

マスター端末オペレーターの応答: セッションを繰り返してください。エラーが引き続き発生する場合は、リモート端末で手操作による介入が必要になる可能性があります。

問題判別: エラーの時点での入力メッセージ・セグメントは、シーケンス番号によって、またオプションでは、8 文字 ID によって、識別されます。終了状況がリモート端末の画面に表示されています。

DFS2123 STATUS MSG x LINE xxx PTERM
xxx {[SEQ NO xxx [SEGM ID]
xxxxxxxx], DO NOT REDIAL PTERM}.

説明: エラーがリモート端末で検出されました。1 文字状況メッセージが端末から読み取られ、エラー・メッセージに挿入されました。

システムの処置: 現行セッションは終了します。次のセッションが開始され、オペレーターの接続を待つ準備ができています。

オペレーターの応答: (マスター端末) エラー・メッセージで特に指示されたり、手操作による介入なしでは問題がリカバリー不能である旨が、状況メッセージに示されていない限り、セッションを繰り返してください。それ以外の場合は、必須端末をダイヤル呼び出ししてください。

問題判別: 入力中に、エラーの時点でのメッセージ・セグメントは、シーケンス番号によって、またオプションでは、8 文字 ID によって、識別されます。入力と出力の両方について、終了状況がリモート端末の画面に表示

されています。エラー・メッセージの 3741 状況メッセージ文字をチェックしてください。

DFS2124 OUTPUT NOT COMPLETE.

説明: キュー内のメッセージがすべては送信されないうちに、ユーザーが回線停止を発行し、端末を切断しました。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: 通常の端末操作を進めてください。

DFS2125 LOGICAL TERMINAL BECAME
TRANS I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2126 TRANS BECAME LOGICAL
TERMINAL I: sss1/name1, D: sss2/name3

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先
LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ
"64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、
メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信さ
れたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージ
のタイプが示されています。このメッセージに関して、
2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正し
てください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2127 SPA IN MSG FOR NON-CONV
TRANS I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元
LTERM 名。name1 は、非会話型として定義さ
れています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先
LTERM または TRAN コード。name2 は、会
話型として定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ
"64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、
メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信さ
れたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージ
のタイプが示されています。このメッセージに関して、
2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正し
てください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正して
ください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2128 NO SPA IN MSG FOR CONV
TRANS I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元
LTERM 名。name1 は、非会話型として定義さ
れています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先
LTERM または TRAN コード。name2 は、会
話型として定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ
"64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、
メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信さ
れたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージ
のタイプが示されています。このメッセージに関して、
2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正し
てください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正して
ください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2129 MSG IS RECOV BUT DEST IS NOT
I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元
LTERM 名。name1 は、リカバリー可能として
定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先
LTERM または TRAN コード。name2 は、リ
カバリー不能として定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ
"64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、
メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信さ
れたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージ
のタイプが示されています。このメッセージに関して、
2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正し
てください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2130 MSG IS NOT RECOV BUT DEST IS
I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。*name1* は、リカバリー可能として定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。*name2* は、リカバリー不能として定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2131 DEST OF A RESPONSE IS A TRANS
I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2132 INPUT LOGICAL TERMINAL NOT
FOUND I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明: このシステムが受信したメッセージは、入力に対する応答です。入力の発信元はこのシステムの LTERM であるが、その LTERM を検出できないか、システム・エラーであるか、または *sss1* の定義が変更されています。 *name1* が *sss1* に定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 発信元 LTERM 名 (X'64' レコードにある) をシステム定義に照らしてチェックして、応答の受信前に、システムが再定義されたかどうか判別してください。発信元 LTERM 名が存在していた場合は、CNT が破棄されている可能性があります。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2133 RESPONSE PTERM NOT INPUT
PTERM I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明: アプリケーション・プログラムが、SAMETRM=YES を指定して、代替応答 PCB にメッセージを挿入しました。ただし、論理端末 *name2* が、

name1 と同じ物理端末を指していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力およびマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、かかわりのある論理端末が示されています。論理/物理端末間割り当てをチェックしてください。正しければ、応答を生成したアプリケーション・プログラムをチェックしてください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 必要なら、エラーのあるシステム定義アプリケーション・プログラムを訂正してください。必要なら、論理/物理端末間割り当てを訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2134 INVALID SYSID DETECTED LINK *x*

または

INVALID SYSID DETECTED I: *sss1/name1*,
D: *sss2/name2*

説明: このメッセージの最初の形式が出される結果になるのは、*sss2* が無効であることが、受信側 IMS によって検出されたときです。*sss2* は、エラーが発生しているシステムでは定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

このメッセージの 2 番目の形式が出される結果になるのは、送信元 SYSID または宛先 SYSID、あるいは両方の SYSID が無効であることが、送信側 IMS によって検出されたときです。この状態が生じるのは、バージョン

6 の IMS システムと、255 より大きい SYSID を認識しない、6 より前のバージョンの IMS システムとの間の通信時です。エラーとして、次のものが考えられます。

- 発信元 SYSID が 256 より小さいメッセージ宛先の SYSID が 255 より大きい。
- 発信元 SYSID が 255 より大きいメッセージ宛先の SYSID が 256 より小さい。
- メッセージの発信元と宛先 SYSID が両方とも 255 より大きい。

発信元および宛先 SYSID は、MSNB の MSNBOSID および MSNBDSID フィールドに入っています。リンク番号が *x* です。

上記のエラーのいずれが発生した場合でも、メッセージ制御/エラー出口ルーチンが制御権を受け取ります。出口ルーチンがデフォルトのアクションを要求する場合は、エラーに関連した DFS2134 メッセージが出されません。

メッセージ制御/エラー出口ルーチンが、送信側または受信側システムでカスタマイズされて、誤った出口フラグを指定したり、出口フラグは正しいが、IMS が要求された処置を実行しているとき、および関連するデフォルトのアクションが実行されているとき、エラーが検出された場合も、このメッセージが出される可能性があります。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ X'64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

システム・プログラマーの応答: エラーの検索および訂正は、次の処置を必要に応じて実行して行ってください。

- システム定義の TRANSACT、LTERM、MSNAME 定義での SYSID エラーを訂正する。
- メッセージ制御/エラー出口ルーチン DFSCMUX0 からデフォルトのアクションを決定する。
- 該当する場合は、メッセージ制御/エラー出口ルーチンの出口フラグ、または転送の宛先を訂正する。

問題判別: 14

モジュール: DFSCMS00、DFSCMEI0、DFSCMUX0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2135 INVALID PARTNER ID LINK *xxx*.

説明: マスター端末オペレーターが複数システム・サポート・リンクの開始を試みましたが、2 つのシステムのパートナー ID が一致しませんでした。

システムの処置: IMS はリンクを停止します。

オペレーターの応答: /DISPLAY ASSIGNMENT コマンドを使用して、論理リンクおよび物理リンク割り当てを表示させてください。論理/物理リンク間割り当てにエラーがあれば、訂正してください。エラーがない場合は、無効のパートナー ID が検出されたことを、システム・プログラマーに連絡してください。また、物理リンクに関して使用されている DD ステートメントも検証してください。

プログラマーの応答: エラーであれば、システム定義を訂正してください。

DFS2136 REQUIRED RESTART RESPONSE NOT RECEIVED LINK *xx*.

説明: この問題は、システム・エラーです。IMS が複数システム・サポート接続の他方のパートナーに再始動要求を送信しましたが、再始動応答が受信されませんでした。

システムの処置: IMS はリンクを停止します。

オペレーターの応答: 接続の両側で IMS トレースを開始し、再試行してください。必要な再始動応答が受信されなかったことを、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IMS トレースによって、該当するリンクが接続されていたか検証してください。

問題判別: 14 (両方のシステムの場合)、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2137 MSG IS INQ BUT DEST MAY UPDATE I: *sss1/name1*, D: *sss2/name2*

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。*name1* は、照会トランザクションとして定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。*name2* は、更新トランザクションとして定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信さ

れたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2138 INVALID BUFFER SIZE LINK *xxx*.

説明: マスター端末オペレーターが複数システム・サポート・リンクの開始を試みました。ただし、システム定義のバッファ・サイズが等しくなかったため、リンクは開始しませんでした。メッセージに示されているリンクに割り当てられているパートナーは、伝送バッファ・サイズが、示されているリンクと異なっています。

システムの処置: IMS はリンクを停止します。

プログラマーの応答: リンクの定義を訂正してください。

DFS2139 TRANSMISSION ERROR LINK *xxx*.

説明: エラーのタイプは、BTAM から z/OS コンソールに送られたメッセージに示されています。

システムの処置: システムは、リンクの緊急時再始動を試みることで、パートナーとの連絡の再確立を試行します。

DFS2140 DESTINATION *name* STOPPED, REASON CODE *xxx*.

説明: IMS が、パートナーの要求時にメッセージで識別された宛先を停止しました。理由コード *xxx* は、ブロックから読み取られたのに、処理されなかった IMS メッセージの番号です。

システムの処置: IMS は、示されているブロックを停止します。番号が REASON CODE として示されているエラー・メッセージが、パートナー・システムのマスター端末に送信されます。

オペレーターの応答: MSNAME を再開し、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 理由コード *xxx* が 2146 である場合、パートナー IMS システムが INVALID DATA BLOCK エラーを検出しました。リンクの両側でメッセージが破棄され、送信側パス MSNAME が停止されました。

理由コード 1945 の場合、受信側 IMS システムが、メ

ッセージをメッセージ・キューに書き込み中に、QMGR/CQS 書き込みエラーを検出しました。メッセージはメッセージ・キューに戻され、再び送信される (MSNAME パスが再開される場合) か、オペレーターによってキューから除去されます。

すべての DFS2140 エラーの場合、両側にタイプ 6701 ID=MSSx (x=1、2、または 3) ログ・レコードが記録されます。詳しくは、メッセージ DFS1945、DFS2146、または理由コードに相当するすべてのメッセージ・キーを参照してください。

問題判別: 引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。エラーが MSC リンクで検出された場合、以下の CLBTEMP フィールドが 6701 MSS1 レコードの LLB ブロックで設定されます。

- CLBTEMP1 = DFS2140 メッセージの理由コード
- CLBTEMP3 = メッセージ・キー = x'0000085C' = 10 進数 2140
- CLBTEMP4 = モジュール ID。すなわち、C'CMSI' = DFSCMSI0 または C'CMSP' = DFSCMSP0
- CLBTEMP5 = 該当する場合、エラーを検出したモジュールにオフセットされる R5 または R14 BALR

関連情報:

478 ページの『DFS1945』

534 ページの『DFS2146』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2141 INPUT SYSID NOT DEFINED I:

sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。この情報がメッセージに表示されるのは、*sss1* および *name1* がシステム定義に定義されていない場合です。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: SYSID *sss1* が定義されておらず、無効です。SYSGEN を訂正してください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2142 MSNAME xxxxxxxx STOPPED LINK

yyy.

説明: メッセージが論理リンク *yyy* で受信されましたが、MSNAME *xxxxxxx* が停止されていました。

システムの処置: システムはメッセージをリジェクトし、メッセージ DFS2140 REASON CODE 2142 で送信側システムに通知します。

オペレーターの応答: 論理リンク (/START MSNAME *xxxxxxx*) を再始動してください。引き続きエラーが発生する場合は、両方のシステムでリンクを PSTOP し (/PSTOP LINK *yyy*)、両方のシステムで MSNAMES を開始した (/START MSNAME *xxxxxxx*) 上で、再度両方のリンクで再始動する (/RSTART LINK *yyy*) 必要がある可能性があります。

DFS2143 INCONSISTENT SPA LENGTH I:

sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

sss2 は、*sss1* とは異なるサイズの SPA で定義されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ "64" を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにこのエラーを通知し、SPA サイズを訂正してください。

システム・プログラマーの応答: 2 つのシステム定義を比較して、SPA サイズに誤りがある方を判別してください。エラーのあるシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2144 CTC TRANSMISSION LENGTH ERROR; LINK STOPPED. LINK *nnn*.

説明: データ伝送エラーがリンク *nnn* で検出されました。リンク *nnn* は、チャンネル間アダプターに割り当てられています。X'FF' データの終わりマーカーが受信されませんでした。

入出力エラーであれば、z/OS エラー・メッセージ IEA000I がシステム・コンソールに表示されます。それ以外であれば、論理エラーと推定されます。

システムの処置: リンク *nnn* は停止されます。レコード ID が MSS1 および MSS2 の 2 つの X'67' トレース・レコードがログに記録されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) リンクを再始動してください。問題が引き続き発生する場合は、バックアップ・リンクが使用可能なら、それを使用してください。

問題判別: タイプ X'67' ログ・レコードが作成され、関係のあるブロックがすべて含まれています。

関連資料:

 z/OS: IEA000I

DFS2145 MESSAGE LOST DURING LINK RESTART LINK *xxx*.

説明: リンクの同期中に、他のシステムがまだ受信していないメッセージを 1 つ以上、このシステムが逸失したことを、IMS が検出しました。このシステムでの DEQ カウントと他のシステムでの受信カウントとの差が、失われたメッセージのカウントになります。

システムの処置: IMS は、タイプ X'6701' ログ・レコードを使用して、エラー情報をログに記録します。リンクは、PSTOP により停止されます。再始動ブロックが更新されるので、後続の再始動リンクは作動しますが、メッセージは失われたままです。

オペレーターの応答: 両方の IMS システムが正しく再始動されたか検査してください。(間違ったチェックポイントからのコールド・スタートまたはコールド・リスタートが原因になる可能性があります。) リンクをあらためて再始動してください。リンクは再始動するはずですが、メッセージは失われたままです。

プログラマーの応答: 両方のシステムからのログ・データ・セットを分析して、メッセージが失われた理由を判別する必要があります。IMS ウォーム・スタートに続いてエラーが発生した場合は、再始動ログ・データ・セットも分析する必要があります。(タイプ 40、66、および X'6701' のレコードを印刷することが必要になります。)

問題判別: 36。両方のシステムからのマスター端末出力

および IMS ログ・データ・セットを、文書として組み込んでください。IMS がウォーム・スタートであった場合は、再始動ログも組み込んでください。

DFS2146 INVALID DATA BLOCK RECEIVED LINK *xx*.

説明: リンク *xx* で受信されたデータ・ブロックが、検査時に、無効なデータまたは失われたデータが含まれていることが検出されたか、会話型ルーチンが会話型メッセージの処理を試みている最中に、エラーを検出しました。

システムの処置: データ・ブロックはリジェクトされません。データ・ブロックが再同期、再始動、またはシャットダウン・メッセージの場合は、リンクは停止していません。データ・ブロックがユーザー・メッセージまたはシステム・メッセージの場合は、送信側 IMS でメッセージは破棄(デキュー)されました。また、関連した送信側 MSNAME パスが送信側 IMS で停止され、メッセージ DFS2140 が理由コード 2146 と一緒に、送信側 IMS で発行されました。両側でタイプ 6701 ID = MSSx (x = 1、2、または 3) ログ・レコードが書き込まれます。

オペレーターの応答: (マスター端末): パートナー・システムの論理リンクを表示 (/DIS MSNAME) して、リンクが停止されたか確認してください。パートナーが停止されなかったのは、エラーがリカバリーされた場合です。停止された場合は、リンクを再始動 (/START MSNAME) してください。

システム・プログラマーの応答: タイプ 6701 のログ・レコードを印刷し、エラーを分析します。

問題判別: 引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

以下の CLBTEMP フィールドが、6701 MSS1 レコードの LLB ブロックで設定されます。

- CLBTEMP1 = これが会話型エラーである場合、疑似異常終了コード。CLBTEMP4 は、会話型エラーの場合は CONM または CON2 です。
- CLBTEMP2 = 戻りコード (該当する場合)
- CLBTEMP3 = メッセージ・キー = x'00000862' = 10 進数 2146
- CLBTEMP4 = モジュール ID。すなわち、C'CONM' = DFSCONM0、C'CON2' = DFSCON20、C'CMSV' = DFSCMSV0、または C'CMSZ' = DFSCMSZ0。
- 該当する場合、エラーを検出したモジュールにオフセットされる R5 または R14 BALR

DFS2147I ACB CLOSE PENDING ON MASTER TERMINALS.

説明: /STOP DC コマンドが入力されましたが、VTAM ACB がクローズされるまでは完了できません。ACB は、すべての VTAM ノード・セッションが終了するまでは閉じることができません。このメッセージが出されるのは、マスター端末または 2 次マスター端末、あるいはその両方のみが、残っているアクティブ・ノードであることを、オペレーターに知らせるためです。

オペレーターの応答: /CLSDST NODE または /IDLE NODE コマンドを出して、ノードをクローズしてください。これで、VTAM ACB をクローズし、/STOP DC 処理を完了することができます。メッセージ DFS2111I に正常な VTAM ACB クローズが示されます。

DFS2148I HH:MM:SS QERR=aabb REMOTE MSG xxx FROM SYSID=yy.

説明: 機能 aa を要求している最中に、キュー・エラーが発生しました。キュー・マネージャーが戻りコード bb を出し、SYSID yy がコマンド xxxx を発行しました。

システムの処置: メッセージはデキューされ、制御権はディスパッチャーに戻されます。関係のある制御ブロックの SNAP を提供する X'6701' レコードがログに書き込まれます。

オペレーターの応答: 有効なコマンドを入力してください。

システム・プログラマーの応答: 正しい応答については、問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2149 PARTNER IMS IN SAME SHARED QUEUES GROUP - RESTART ABORTED LINK xxx

説明: マスター端末オペレーターが複数システム結合機能 (MSC) リンクの開始を試み、パートナー IMS が同じ共用キュー・グループ (SQG) にあります。同じ SQG 内の IMS システム間 MSC リンク・トラフィックは、サポートされません。

システムの処置: IMS はリンクを停止します。

オペレーターの応答: リンクは再始動されません。IMS またはパートナー IMS が非共用キュー・モード、または別の共用キュー・グループで立ち上げられるとき

などのように、リンクがバックアップ目的を意図していない場合は、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: IMS システムの 1 つから共用キュー指定 (例えば、SHAREDQ= 始動パラメーター) を除去するか、IMS システムの 1 つを別の SQG に入れてください。

DFS2150A hh:mm:ss CTC IO ERR PC=xx REASON=xx OP=xx LINK nmmn STOPPED.

説明: 説明と処置については、DFS2150I を参照してください。

関連情報:

DFS2150I

DFS2150I MTM I/O ERR PC=xxxxxxxx LINK=xxxx.

または

CTC ERR RC=xx LINK=xxxx.

または

hh:mm:ss CTC IO ERR PC=xx REASON=xx OP=xx LINK nmmn RSTARTED.

または

MTM ERR RC=xx LINK=xxxx.

説明: 入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

RC 戻りコード

PC 通知コード

REASON

関連するチャンネル間理由コード

LINK リンク番号

OP 試行された CTC 操作

hh:mm:ss

時刻

メッセージ DFS2150I...LINK nmmn RSTARTED が出されるのは、リンクが停止されてから、IMS によって再始動された場合です。メッセージ DFS2150A...LINK nmmn STOPPED が出されるのは、IMS がリンクの再始動を試みたが、それが不能であった場合です。

次のチャンネル間操作が該当します。

DFS2150I

操作

コード (16 進数)

	意味
04	WRITE: バッファ書き込み
08	ACK: 入力確認
0C	WRACK: バッファ書き込みおよび入力確認
10	STARTUP: 接続確立
14	SHACK: 入力確認および接続シャットダウン
18	SHUTDOWN: 接続シャットダウン
1C	READ: 入力読み取り

表示される可能性のあるチャンネル間戻りコードと、その意味は次のとおりです。

戻り

コード (16 進数)

	意味
04	論理エラー: IOSB は ACK または WRACK でビジーではない。
08	論理エラー: ACK または WRACK が出力され、確認するためのメッセージは受信されない。
10	論理エラー: STARTUP 時に、DECWAREA、DECWLNG、DECAREA、または DECLNGTH に無効の値がある。
14	推定入出力エラー: アテンション割り込み時。
18	ページング・エラー: STARTUP 時。
1C	論理エラー: STARTUP 時のモジュール DFSCMC50 内。
20	論理エラー: STARTUP が発行されたが、リンクはすでに接続されている。
24	論理エラー: SHUTDOWN が発行されたが、リンクはすでにシャットダウンされている。
28	SHUTDOWN 中に、入出力エラーまたは異常条件が検出され、SHUTDOWN は正常に実行された。

以下の表は出される可能性がある通知コードと関連理由コード、およびその意味です。

表 12. 考えられる DFS2150I の通知コードと関連理由コード、および意味

通知理由 コード	コード (16 進数)	意味
7F	any	入出力がエラーなしで完了
7F	04	始動: リンクが書き込みで使用可能
7F	08	始動: メッセージが受信された
7F	0C	メッセージが受信された
7F	10	シャットダウンが受信された

表 12. 考えられる DFS2150I の通知コードと関連理由コード、および意味 (続き)

通知理由 コード	コード (16 進数)	意味
7F	1C	確認通知が受信された
7F	20	データ付き確認通知が受信された
41	any	入出力エラーが検出された
41	01	アダプターでのコマンドの判別試行中のエラー
41	02	アダプターで無効のコマンド
41	03	メッセージ読み取りでのエラー

次の実ストレージ間接続戻りコードが該当します。

戻り

コード (16 進数)

	意味
12	ウィンドウが開いていないか、検出されない。
16	ウィンドウが 2 つの他のシステムに割り振られている。
20	無効の入力
24	IEAMSCHD が失敗した。パートナーは終了しました。
28	バッファ・ロック障害
32	バッファ長が等しくない。
36	呼び出し元が許可されていない。
40	主記憶域間アクセス・ルーチンが別の OS に関して定義されている。
44	ウィンドウ・キュー・ヘッダー・ブロックが誤り、または初期設定されていない。
48	GET または GETMAIN 障害
52	PGFIX または PGFREE エラー

次の実ストレージ間接続通知コードおよび意味が該当します。

通知コード

	意味
41RD	読み取りエラー: パートナーがすでに読み取り中
41CLS	読み取りまたは書き込みエラー: パートナーが操作途中でクローズ。パートナーの異常終了が原因の可能性が最大と推定されます。
41BUF	読み取りまたは書き込みエラー: 入出力バッファ・ロック障害

オペレーターの応答: CTC メッセージ DFS2150A の場合は、バックアップ・リンクが使用可能であれば、それを割り当ててください。MTM または CTC DFS2150I の場合は、リンクが再始動されていないときは、リンク

の再始動を試みてください。

問題判別: CTC は入出力エラーでなければ、論理エラーと推定されます。入出力エラーであれば、z/OS エラー・メッセージ IEA000I がシステム・コンソールに表示されます。

MTM は、実ストレージ間アクセス方式論理エラーと推定されます。

タイプ X'67' ログ・レコードが生成され、関係のあるブロックがすべて含まれています。

関連資料:



z/OS: IEA000I

関連情報:

DFS2150A

第 47 章 DFS メッセージ DFS2151 - DFS2200I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2151 CURRENT MSPLINK NOT STOPPED AND IDLE.

説明: 現在 MSPLINK に割り当てられているリンクが、停止して活動停止中ではありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (端末オペレーター) /PSTOP コマンドを出して、指定されている MSPLINK に現在割り当てられているリンクを停止してください。

DFS2152 MSPLINK KEYWORD PARAMETER INVALID.

説明: 入力された MSPLINK パラメーターは、システムで定義されていません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効な MSPLINK 名を使用して、コマンドを再入力してください。

DFS2153 MSNAME KEYWORD PARAMETER INVALID [RSN=xyyy].

説明: 入力された MSNAME は、システムで定義されていません。

xx IMS MODULE THAT DETECTED THE ERROR

01 MSVERIFY COMMAND (DFSCMLA0)

yy REASON FOR THE ERROR

01 指定された MSNAME がシステムで定義されていません。

02 指定された MSNAME のリモート SYSID として定義された SYSID が、共用キュー (SQ) グループ内のローカル SYSID にオーバーライドされました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

- yy=01 の場合は、MSNAME を訂正し、コマンドを再入力してください。
- yy=02 の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 指定された

MSNAME のリモート SYSID が、SQ グループ内の別の IMS システムでローカル SYSID としても定義されているかどうかを確認してください。

モジュール: DFSCMLA0、DFCML70、DFSICLJ0

DFS2154 SYSID KEYWORD PARAMETER INVALID [RSN=xyyy].

説明: 入力された SYSID は、リモート SYSID で定義されていません。

xx IMS MODULE THAT DETECTED THE ERROR

01 MSVERIFY COMMAND (DFSCMLA0)

yy REASON FOR THE ERROR

01 指定された SYSID が無効です。

02 リモート SYSID として定義された指定の SYSID が、共用キュー (SQ) グループ内のローカル SYSID にオーバーライドされました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答:

- yy=01 の場合は、有効な SYSID を指定してコマンドを再入力してください。
- yy=02 の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 指定された SYSID が、SQ グループ内の別の IMS システムでローカル SYSID としても定義されているかどうかを確認してください。

モジュール: DFSCMLA0、DFCML70

DFS2155 INVALID LINK NUMBER.

説明: 指定されたリンク番号は、定義されている複数システム IMS システムでは無効でした。

システムの処置: コマンドは完了しません。

オペレーターの応答: 正しいリンク番号を使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0

DFS2156 MSNAME/SYSID IN USE, UNABLE TO ASSIGN.

説明: このリンク間メッセージがあてられた先のシステムが、メッセージの受信を確認しませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: パートナー・マスター端末オペレーターと同期を取った後で、MSPLINK への /MSASSIGN リンクを使用してください。

DFS2157 ORIGINATING LOGICAL LINK NOT STOPPED AND IDLE.

説明: MSNAME または SYSID が割り当てられているリンクが、停止して活動停止中ではありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: MSNAME/SYSID が現在割り当てられているリンクに対して、/PSTOP コマンドを発行してください。

DFS2158 COMMAND INVALID FOR TERMINAL TYPE.

説明: 入力されたコマンドが、コマンドによって指定または暗黙指定された端末では無効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。IMS は処理を続行します。

DFS2159I hh:mm:ss UNDEF REMOTE MSG xxxx FROM SYSID=yy.

説明: SYSID yy からのリモート・コマンド xxxx が無効です。

システムの処置: メッセージはデキューされ、制御権はディスパッチャーに戻されます。関係のある制御ブロックの SNAP を提供する X'6701' レコードがログに書き込まれます。

オペレーターの応答: 有効なコマンドを入力してください。

システム・プログラマーの応答: 正しい応答については、問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2160I LINK nnn STARTED BY PARTNER XX NODE nodename.

説明: リンク nnn がリモート・パートナー・システムの要求で開始されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 該当しません。

DFS2161I LINK xxx STOPPED BY PARTNER.

説明: リンク xxx が、これに接続されている他のシステムの要求で停止されました。この他のシステムがシャットダウン中である可能性があります。そうでなければ、マスター端末オペレーターが /PSTOP LINK コマンドを入力した可能性があります。

システムの処置: 出力メッセージがこのリンク上でキューに入れられていますが、送信されるものではありません。

オペレーターの応答: (マスター端末) /RSTART LINK コマンドを発行して、リンクを作動状態に戻してください。メッセージ転送が始まる前に、他方のシステムのマスター端末オペレーターが同じことを実行する必要があります。

DFS2162 TERMINAL IN RESPONSE MODE-ENTER PA1 or PA2 THEN AWAIT REPLY.

説明: この端末は応答モードですが、その理由は、強制端末応答モードで作動するように定義されているからか、トランザクションの端末応答タイプが入力されたからか、いずれかです。

システムの処置: IMS が入力されたデータを廃棄しません。端末がページ保護されていない場合は、アプリケーション・プログラムが最後に受け入れられた入力に応答します。

オペレーターの応答: PA1 または PA2 を押せば、ページ保護はオーバーライドできます。応答を受信しない場合は、マスター端末オペレーターに連絡して、オペレーターに、ノードに対する /STOP、/START コマンドを発行させるか、動的端末の場合は、ユーザーに対する /STOP、/START コマンドを発行させてください。

プログラマーの応答: 画面保護が、端末オプションと MFS オプションのいずれかとして指定されています。これがこのトランザクションで必要かどうか判別してください。

**DFS2163 MSG IS UPDATE, DEST IS INQ
ONLY I: sss1/name1, D: sss2/name2**

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。name1 は、照会専用として定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。name2 は、更新として定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

**DFS2164 MSG IS SNGL SEG, DEST IS MULTI
D: sss1/name1, I: sss2/name2**

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。name1 は、単一セグメントとして定義されています。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。name2 は、複数セグメントとして定義されています。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2165 ROUTING LOOP DETECTED I:
sss1/name1, D: sss2/name2**

説明: IMS 複数システム結合構成にルーティング・ループがあります。ルーティング・ループは、誤ったシステム定義 (オフライン検査ユーティリティーが指摘する) によるか、/MSASSIGN コマンドの適正でない使用によるか、いずれかで作成される可能性があります。ルーティング・ループが存在するのは、SYSID が論理リンク・パス上のどこにもローカルとして定義されないときです。例えば、IMS システム A では、SYSID 3 がリモートとして定義され、システム A をシステム B に接続している論理リンクに割り当てられます。IMS システム B では、SYSID 3 が再度リモートとして定義されますが、システム B をシステム A に接続している論理リンクに割り当てられます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: (端末オペレーター) マスター端末オペレーターに通知してください。

(マスター端末オペレーター) これは、おそらくユーザー・エラーです。/DISPLAY ASSIGNMENT コマンドを使用して、かかわりのある現行 SYSID 割り当てを表示させてください。ループ・メッセージが、応答モード、会話モード、または排他モードにある入力端末にあってられた応答である場合は、このエラーの結果は、/START コマンドで再始動されるまで、または/EXIT コマンドで会話が終了するまで、端末がロックされたままになる可能性があります。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2166 EXTENDED SECURITY VIOLATION FOR MSC LINK [I: sss/name, D: sss/name,U:name]

説明: MSC リンクがトランザクション宛の入力メッセージを受信中に、その入力メッセージがトランザクションの宛先に許可されるかどうかを判断するためのセキュリティ検査が失敗しました。この障害が発生した原因は、RACF によって、またはユーザー出口 DFSCTRN0 によって行われた許可検査です。

メッセージのオプションの部分が出力された場合は、次のようになります。

- **D:** の直後にある *name* は、メッセージ宛先のトランザクションです。**I:** の直後にある *name* は、入力システムの LTERM 名です。
- **I:** の直後にある *sss* は、入力システムの SYSID です。**D:** の直後にある *sss* は、処理システムの SYSID です。
- **U:** の直後にある *name* は、許可検査に失敗した USERID です。CTL 領域 ID は、許可検査に使用されている場合は表示されません。

/DISPLAY ASSIGNMENT SYSID コマンドを使用して、関与する MSNAME を判別できます。

システムの処置: IMS は、レコード・タイプ 64 を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

システム・プログラマーの応答: エラーを起こしたセキュリティ・エラーを訂正してください。リモート・システムの DFSDCxxx PROCLIB メンバー内の MSCSEC= パラメーターを調べてください。また、リモート・システムのユーザー出口 DFSMSCE0 のリンク受信ロジックにより、実行されたセキュリティ検査のタイプが判別されることを確認してください。X'64F1' および X'64F2' のログ・レコードと DFS2166 エラー・メッセージに含まれている情報を使用して、セキュリティ許可検査が失敗した理由を判別してください。

ID=CMEA を持つ X'6701' ログ・レコードが記録されます。CLBTEMP5 には、DFSCAUT0 からの戻りコード (RC) が含まれ、CLBTEMP3 には、失敗した要求からの RC またはゼロが含まれます。これらの戻りコードは次の表に示されています。

表 13. CLBTEMP3 戻りコード

RC	ラベル	説明
4	CAUTRMSC	RACF 障害が発生しました。MSNAME の ACEE を取得できませんでした。CLBTEMP3 = RACF RC
8	RACFERR	RACROUTE の障害。CLBTEMP3 = RACF RC。

表 13. CLBTEMP3 戻りコード (続き)

RC	ラベル	説明
C	CAUT044	TRANAUTH が指定されましたが、RACF が定義されませんでした。
10	TESTE010	DFSCRTN0 からエラーが戻されました。CLBTEMP3 = DFSCRTN0 RC。
14	GETRACWE	GETRACW ルーチンが、ストレージを取得できませんでした。CLBTEMP3 = BCB RC。
18	CAUTRINT	CAUTRINT ルーチンが、ストレージを取得できませんでした。CLBTEMP3 = BCB RC。

問題判別: 14

モジュール: DFSCMS00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2167 FAST PATH MSG REJECTED BY MSC I: sss1/name1, D: sss2/name2

説明:

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。*name2* は、排他的高速機能トランザクションに関して定義されています。複数システム結合機能では、排他的高速機能トランザクションをサポートしません。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力またはマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、エラーであったメッセージのタイプが示されています。このメッセージに関して、2 つのシステム定義指定を比較し、エラーの方を訂正してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーのシステム定義を訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2168I CONNECTION ESTABLISHED ON LINK xxx [CONT].

説明: /RSTART LINK または自動リンク再始動コマンドにより、リンク xxx 上に複数システム結合機能を備えた 2 つの IMS システム間の接続が確立され、リンク xxx 経由で伝送するためにキューに入れられていたメッセージが送信されます。CONT で、リンク (BSC のみ) が連続モードで稼働していることを示しています。(/RST リンク・コマンドを参照してください。) メッセージはマスター端末で受信されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK xxx.

説明: 複数システム結合機能を提供した 2 つの IMS システムが、/PSTOP LINK コマンドによって切断されています。このメッセージが生成されるのは、この 2 つのシステム間のリンクが切断されているときです。メッセージはマスター端末で受信されます。

システムの処置: 出力メッセージがこのリンク上でキューに入れられていますが、送信されるものではありません。

マスター端末オペレーターの応答: /RSTART LINK コマンドを発行して、リンクを作動状態に戻してください。メッセージ転送が始まる前に、他方のシステムのマスター端末オペレーターが同じことを実行する必要があります。

DFS2170I MESSAGE QUEUED FOR xxxxxxxx

説明: メッセージがトランザクション xxxxxxxx に関してキューに入れられ、このトランザクションは現在スケジュールを停止されています。メッセージはキューに入れられて、処理の目的で使用可能です。トランザクションがすでにスケジュールされ、入力を待っている (TRANSACTION マクロでパラメーター = WFI) 場合は、このメッセージは処理されます。

システムの処置: このメッセージが送信されるのは 1 回だけで、最初のメッセージが停止されたトランザクションでキューに入れられる場合だけです。

マスター端末オペレーターの応答: /START コマンドを使用して、トランザクションを開始してください。

DFS2171I NO RESPONSE. CONVERSATION ENDED.

説明: 同期点プロセッサが、会話型プログラムは、メッセージを IOPCB、ALT CONVERSATION PGM PCB、または ALTRESP PCB に挿入しなかったことを検出しました。

システムの処置: 会話を終了した後で、システムは入力端末にエラー・メッセージ DFS2171I を発行します。

オペレーターの応答: 会話中の端末は、異なる入力データを使用して、会話に再入できます。

プログラマーの応答: 入力メッセージをアプリケーション・プログラム・ロジックに照らしてチェックしてください。SPA が挿入された後、または GU 呼び出しが正常に行われた後で、メッセージが挿入されなかった理由を判別してください。

問題判別: 26

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2172 VERSION-ID IN FMH DOESN'T MATCH VERSION-ID IN DIF -- INPUT IGNORED.

説明: FMH で示されているバージョン識別が、DIF 制御ブロックで生成されたバージョン識別と一致しません。

システムの処置: 入力データは無視されます。

プログラマーの応答: リモート・プログラムが正しいバージョン識別を示すように訂正し、ゼロばかりから成るバージョン識別を示すか、バージョン識別を送信しないでください。

DFS2173 UNEXPECTED EOD RECEIVED-TEST MODE RESET.

説明: MFS テスト・モードにあるときに、予期しないデータ終了 (EOD) 標識を受信しました。

システムの処置: この端末に関して、MFS テスト・モードがリセットされています。

オペレーターの応答: 問題が解決しない場合には、IMS システム・プログラマーに通知してください。

問題判別: ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード X'01'、ID 'FERR' には、診断情報が含まれますが、これが作成されるのは、障害時に /TRACE が物理端末に関してオンに設定されている場合です。

**DFS2174 TRAN CODE FROM LINK EXIT IS
NON-LOCAL I: sss1/name1, D:
sss2/name2**

説明:

リンク出口によって更新されているトランザクション・コードは、sss2 でローカル・トランザクションとして定義されていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: MSC リンク出口ルーチンとシステム定義のいずれかのエラーを訂正してください。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2175 MESSAGE CANCELED BY ROUTING
EXIT RSN=xxyy ROUTINE I:sss1/name1,
D:sss2/name2.**

説明: DFSMSCE0 出口の端末経路指定エントリー・ポイントまたはリンク受信経路指定エントリー・ポイントのいずれかが、このメッセージを取り消し (リジェクト) しました。

sss/name がメッセージに表示されている場合、メッセージは、リモート・システムでリンク受信経路指定エントリー・ポイントによって取り消されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx エラーを検出した IMS モジュール:

01 DC 通信マネージャー (DFSICIO0 - 端末経路指定)

02 MSC アナライザー (DFSCMS00 - リンク受信経路指定)

yy エラーの理由が 01 です。xx=01 の場合、メッセージは DFSMSCE0 端末経路指定エントリー・ポイントによって取り消されました。

xx=02 の場合、メッセージは DFSMSCE0 リンク受信経路指定エントリー・ポイントによって取り消されました。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: xx=02 の場合は、IMS が取り消されたメッセージをログに記録し (ログ・レコード・タイプ '64' を使用)、メッセージをシステムから除去します。xx=01 の場合は、IMS がメッセージをシステムから除去します。

システム・プログラマーの応答: DFSMSCE0 出口のどのエントリー・ポイントがメッセージを取り消したかを判別してください。ユーザー出口を参照して、出口がメッセージを取り消した理由を判別してください。メッセージを取り消したのがリンク受信経路指定エントリー・ポイントであった場合は、MSC リンク・トレースを使用して、さらに多くの情報を収集してください (/TRACE SET ON LINK x MODULE ALL LEVEL 3)。メッセージを取り消したのが端末経路指定エントリー・ポイントであった場合は、出口トレースを使用して、さらに多くの情報を収集してください (/TRACE SET ON EXIT DFSMSCE0 ALL または TRBT|TRVT|TR62| TROT|LRTR|LRLL|LRDI|LRIN)。UPDATE MSLINK NAME(linkname) START(TRACE) を使用することもできます。これらのトレースおよびルーティング・エラーの診断について詳しくは、IMS 診断情報を参照してください。

注: タイプ 2 コマンド UPDATE MSLINK NAME(linkname) START(TRACE) は、前回 /TRACE SET (ON) LINK コマンドが発行されたときに使用されたのと同じレベルとモジュール設定を使用します。/TRACE SET (ON) LINK コマンドが前回のコールド・スタート以降に発行されていない場合、このコマンドはデフォルトで MODULE=ALL および LEVEL=4 になります。

モジュール: DFSCMS00、DFSICIO0、DFSMSCE0

**DFS2176 RESPONSE LTERM NOT LOCAL
LTERM I: sss1/name1, D: sss2/name2**

説明: 応答モードのアプリケーション・プログラムが、応答の宛先を変更し、変更可能な代替応答 PCB にメッセージを挿入しました。しかし、name2 は入力システムのローカル CNT ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード。

システムの処置: IMS は、ログ・レコード・タイプ '64' を使用して、エラーのメッセージをログに記録し、メッセージをシステムから除去します。

オペレーターの応答: 入力およびマスター端末に送信されたエラー・メッセージに、かかわりのある論理端末が示されています。応答モードの入力端末に関する要件を検証してください。システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: エラーのアプリケーション・プログラムを訂正してください。入力端末が応答モードのときは、メッセージ応答は入力システムに向かう必要があります。

問題判別: 14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2177I LOAD ERROR FOR USER EXIT DFSDBUX1

説明:

ユーザーは、DBDGEN 時に DATXEXIT=YES を指定しましたが、APF 許可ライブラリーへの DFSDBUX1 のリンク・エディットに失敗しました。実行時に、出口を必要とする DBD を処理していて、DFSDLA00 が、出口はロードできないと判別し、ロード・エラー・メッセージを出しました。ユーザーが DATXEXIT=YES を指定し、ユーザー出口が、DBD には出口が必要ないと判別したため、SRCHFLAG を X'FF' に設定した場合も、このメッセージが出される結果になります。

システムの処置: このメッセージが出ると、出口を必要とするデータベースは停止され、トランザクションが U0885 疑似異常終了コードを受信します。

プログラマーの応答: ユーザー出口 (DFSDBUX1) がアプリケーションで必要な場合は、DFSDBUX1 が APF 許可ライブラリーにバインドされるようにして、アプリケーションを再始動する前に、IMS を再始動してください。

上記の 2 番目のオプションが該当する場合は、DATXEXIT=YES を DBDGEN から除去するか、ユーザー出口が SRCHFLAG を X'FF' に設定しないように変更するか、いずれかを行ってください。

問題判別: 41

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2178I VTAM HAS BEEN CANCELED.

説明: システム・コンソール・オペレーターが VTAM を取り消し、VTAM は異常終了しました。

システムの処置: IMS はすべてのアクティブ・ノードを非活動化し、必要に応じて、クリーンアップを実行します。

マスター端末オペレーターの応答: VTAM が再始動したら、/START DC を入力して、VTAM への接続を確立し、ノードを開始してください。

DFS2179I QUICK VTAM SHUTDOWN REQUESTED.

説明: この通知メッセージは、システム・コンソール・オペレーターが VTAM を終了しようとしているという事実について、マスター端末オペレーターに対して警報を出すものです。このメッセージは、HALT NET, QUICK コマンドまたは VARY NET, INACT コマンドに対して発行されます。

システムの処置: IMS がすべてのアクティブ・セッションを終了し、ノードを活動停止中の状態にします。この時点で、IMS VTAM ACB はクローズされます。

DFS2180I AUTOMATED OPERATOR USER EXIT ERROR-CODE=x.

説明: IMS が自動化操作プログラム (AO) 出口ルーチンで、x で示されるエラー条件を検出しました。

次のコードが AO 出口ルーチン DFSAOUE0 に関して発行されます。

コード (10 進数)

意味

- 1 ユーザー出口宛先名が無効でした。その名前の TRAN/LTERM はありません。このメッセージ/コマンドでは、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 2 出口ルーチンに代わって要求を処理するキュー・マネージャーが、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 3 レジスター 15 の戻りコードが無効です。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 4 ストレージに対する複数の要求があります。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。

- 5 ストレージに対する出口ルーチン要求に応じられませんでしたが。要求が不当に大きいか、CIOP バッファ・プールを大きくする必要があるか、いずれかです。
- 6 AO がエラーを検出しました。標準 AO ログ・レコードが作成され、進行中のメッセージに関する出口ルーチン処理は終了します。
- 7 出口ルーチンは、AO が代替宛先にセグメントを挿入することを要求しましたが、レジスター 1 がゼロであるか、UEHB を指しているか、いずれかです。このメッセージ/コマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。

以下のコードが AOIE タイプの出口ルーチン (DFS AOIE00 を含む) に関して発行されます。

- 8 CBTS ラッチが、コマンド処理中、予期しないブロック・タイプに関して保留されました。AOI 出口によって代替宛先に挿入またはエンキューされたセグメントがあれば、いずれも取り消されます。このコマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 9 HIOP ストレージに対する要求が失敗しました。AOI 出口によって代替宛先に挿入またはエンキューされたセグメントがあれば、いずれも取り消されます。このコマンドに関して、さらに出口ルーチン処理が行われることはありません。
- 10 出口ルーチンは、コマンドまたはコマンド応答セグメントに関する無効の応答コードを伴って戻りました。
コマンド処理は正常に続行されますが、このコマンドに関する後続のコマンド応答セグメントについては、出口ルーチン呼び出されることはありません。
- 11 出口ルーチンは、IMS がメッセージを AOIE タイプの出口ルーチンに渡すことを要求しましたが、そのようなルーチンが存在しません。
メッセージ処理は正常に続行されますが、このメッセージに関する後続のメッセージ・セグメントについては、出口ルーチン呼び出されることはありません。
- 12 出口ルーチンは、メッセージ・セグメントに関する無効の応答コードを伴って戻りました。
- 13 出口ルーチンは、有効な戻りコードの範囲から外れた戻りコードを伴って戻りました。戻りコードは 0 (出口がメッセージまたはコマンドを処理する) に変更され、メッセージまたはコマンドに関する処理は続行されます。
- 14 出口ルーチンは、IMS によって内部的に入力されたか、DL/I ICMD 呼び出しによって入力されたか、いずれかで入力されたコマンドに関して、0 以外の応答コードで戻りました。
コマンドに関する処理は正常に進行します。IMS によって内部的に入力されたか、DL/I ICMD 呼び出しによって入力されたか、いずれかで入力されたコマンドに関するコマンド応答メッセージについて、出口ルーチンが呼び出されることはありません。
- 20 AO ユーザー出口インターフェースがエラーを検出しました。AO トレース・ログ・レコード X'6701' が生成され、進行中のコマンドに関する出口ルーチン処理は進行します。
- 21 AO ユーザー出口インターフェースがエラーを検出しました。AO トレース・ログ・レコード X'6701' が生成され、進行中のメッセージに関する出口ルーチン処理は進行します。
- 22 AO ユーザー出口インターフェースがエラーを検出しました。AO トレース・ログ・レコード X'6701' が生成され、進行中のメッセージまたはコマンドに関する出口ルーチン処理は終了します。

システムの処置: DFS AOIE00 のエラーの場合は、IMS がラベル AOI の付いたトレース・レコードをシステム・ログに書き込みます。AOIE タイプの出口ルーチンでのエラーの場合、IMS は、ラベル AOIT の付いたトレース・レコードを、X'6701' ログ・レコードが生成されることを指定するコードに関するシステム・ログに書き込みます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

モジュール: DFS AOIE00、AOIE タイプの出口ルーチン (DFS AOIE00 を含む)

**DFS2182 USER NOT AUTHORIZED TO
RELEASE CONVERSATION.**

説明: 前に /SIGN コマンドで入力されたユーザー ID には許可されていない会話型トランザクションを解放する (/REL) 試みがなされました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: ご使用のユーザー ID に対して許可されている会話型 ID を指定して、/REL コマンドを再入力してください。

**DFS2183 INVALID EXIT FLAG SPECIFIED
FOR GIVEN ENTRY FLAG BY
MESSAGE CONTROL/ERROR EXIT.**

説明: メッセージ制御/エラー出口ルーチンによって設定された出口フラグが無効です。IMS には、要求されたアクションが実行できません。


システムの処置: IMS は以下の処理を実行します。

- 出口フラグは無視し、要求されたアクションは実行しない。
- 出口ルーチンの呼び出し時に部分的に処理されていたメッセージは廃棄する。
- 受信エラーが原因で、出口ルーチンを呼び出すことになった場合は、メッセージを X'64' トレース・レコードのログに記録する。
- 出口ルーチンを呼び出す前と呼び出した後で、インターフェース・ブロックの内容を、X'6701' トレース・レコードのログに記録する。

システム・プログラマーの応答: X'64' および X'6701' レコードにある情報を使用して、エラーを訂正してください。要求された場合は、メッセージを再送してください。

問題判別: 1、5、6、14

関連資料:

 有効なフラグとデフォルトのアクション (出口ルーチン)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2184 MESSAGE DISCARDED BY
MESSAGE CONTROL/ERROR EXIT.**

説明: メッセージ制御/エラー出口ルーチンによって設定された出口フラグに、IMS に対するメッセージの廃棄要求が示されています。

システムの処置: IMS は以下の処理を実行します。

- 出口ルーチンが呼び出される前に部分的に処理されていたメッセージは廃棄する。

- 受信エラーが原因で、出口ルーチンを呼び出すことになった場合は、メッセージを X'64' トレース・レコードのログに記録する。
- 出口ルーチンを呼び出す前と呼び出した後で、インターフェース・ブロックの内容を、X'6701' トレース・レコードのログに記録する。

オペレーターの応答: メッセージ DFS2184 が出されたことを、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 廃棄されたメッセージによってデータベースに影響が生じないか確認してください。

問題判別: 1、5、6、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2185I DEQUEUE COMMAND SUPPRESSED
BY MESSAGE CONTROL/ERROR
EXIT.**

説明: メッセージ制御/エラー出口ルーチンによって設定された出口フラグに、IMS に対する DEQUEUE コマンドの抑止要求が示されています。

システムの処置: DEQUEUE コマンドは無視されます。

**DFS2186 INSUFFICIENT STORAGE TO
RESTART LINK *link x*.**

説明: HIOP のストレージが不十分で、リンクに関連したメッセージ制御/エラー出口インターフェース・ブロックを割り振れないため、リンクが再始動されませんでした。

システムの処置: リンクは再始動されません。

プログラマーの応答: 次のいずれかを実行してください。

- 後でもう一度試行してください。この問題は一時的条件である可能性があります。
- IMS を起動する場合に使用する JCL の HIOP パラメーターを使用して、HIOP の上限を上げる。

**DFS2187 REROUTE FAILED,
DESTINATION=xxxxxx, REASON
CODE=*n***

説明: IMS がメッセージ転送中に、次のいずれかのエラー条件を検出しました。

コード (10 進数)

意味

0 転送には無効の宛先

1 転送宛先が検出されなかった。

- 2 会話型メッセージは非会話型宛先に転送できない。
- 3 非会話型メッセージは会話型宛先に転送できない。
- 4 転送されたメッセージの構築中のエラー
- 5 メッセージ通信は会話型宛先に転送できない。
- 6 転送されたメッセージの構築中の LU 6.2 接頭部のコピー時のエラー

システムの処置: メッセージは転送されません。関連したデフォルトのアクションが実行されます。

/DEQ コマンドが入力され、IMS がメッセージをデキューする前に、転送が失敗した場合は、メッセージはキューに残ります。

IMS がメッセージをデキューした後で、転送が失敗した場合は、デフォルトのアクションが実行され、メッセージはデキューされています。

STOPPED 宛先がメッセージを転送する先としてメッセージ制御/エラー出口ルーチンによって指定される場合は、宛先名は、LTERM の後に LTERM 名が続くか、TRAN の後にトランザクション名が続くか、いずれかになります。

システム・プログラマーの応答: メッセージ制御/エラー出口 (DFSCMUX0) のデフォルトのアクションをチェックしてください。該当する場合は、適切な宛先をユーザー出口で指定してください。

ローカル/リモート端末オペレーターの応答: 宛先が停止された場合は、/START コマンドを入力して、宛先を開始してください。そうすれば、次のメッセージは正常に転送できます。

DFS2191 UNABLE TO PROCESS SHARED EMH DUE TO GLOBAL STORAGE SHORTAGE

説明: 共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が次の内部制御ブロック用として、ECSA からグローバル・ストレージを取得できませんでした。

UOW テーブル

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: 次の IMS 再始動時に ECSA ストレージを大きくしてください。

モジュール: DBFHIEL0

DFS2192 UNABLE TO PROCESS SHARED EMH DUE TO PRIVATE STORAGE SHORTAGE

説明: 共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使

用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が次の内部制御ブロック用の拡張専用ストレージを取得できませんでした。

FPWP

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: 次の IMS 再始動時に領域サイズを大きくしてください。

モジュール: DBFHIEL0

DFS2193I SHARED EMH PROCESSING FAILED: RC=nm PROCESSING IMSID=xxxxxxx

説明: IFP 領域が、共用急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) から検索された入力メッセージを処理できませんでした。メッセージが入力端末に送信され、入力メッセージは共用 EMHQ から削除されます。IMSID は、処理 IMS サブシステムの IMS ID です。XRF システムでは、IMSID は処理 IMS サブシステムの RSENAME です。トランザクションが処理 IMS サブシステムで定義されていないことが、理由である可能性があります。戻りコードは、次のいずれかです。

- 01 トランザクション・コードが定義されていない。
- 02 トランザクション・コードが無効。
- 03 入力メッセージが大きすぎる。
- 04 トランザクションが処理 IMS で停止される。
- 05 入力端末名が無効で、処理 IMS サブシステムが入力 LTERM を見つけられない。

システムの処置: 入力メッセージは廃棄されます。

モジュール: DBFHGU10

DFS2194 SHARED EMHQ NOT AVAILABLE

説明: 共用急送メッセージ・ハンドラー (EMH) キューが一時的に使用不能で、共用 EMH 処理が実行できませんでした。

システムの処置: 入力メッセージはリジェクトされません。

モジュール: DBFHIEL0

DFS2195I INPUT MESSAGE DISCARDED DUE TO REBUILD

説明: 入力メッセージが、処理のために急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) に置かれました。IMS がメッセージを処理する前に、EMHQ を再作成するために、リカバリー再作成が行われました。リカバリー再作成プロセスの結果として、入力メッセージが失われました。

システムの処置: 入力メッセージは廃棄されます。

モジュール: DBFSEQSO

DFS2195W INPUT MESSAGE DISCARDED DUE TO REBUILD WHILE IMS IS DOWN. TERMINAL xxxxxxxx MIGHT REMAIN LOCKED

説明: クライアント・キューにある入力メッセージは、カップリング・ファシリティが再作成され、IMSの緊急時再始動が実行されたため、廃棄されました。フロントエンド IMS の次回再始動まで、入力端末 xxxxxxxx はロックされたままになります。

システムの処置: 入力メッセージは廃棄されます。

モジュール: DBFHCASO

DFS2196 UNABLE TO PROCESS SHARED EMH DUE TO RRS ERROR

説明: 共用 EMH (急送メッセージ・ハンドラー) を使用して入力メッセージを処理している最中に、高速機能が RRS エラーを検出しました。

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFHIEL0

DFS2198E THE PROCSEQD OPERAND IS INVALID FOR A DEDB DATABASE WITH NO SECONDARY INDEX DEFINED FOR PCB *pcbname* IN PSB *psbname*

説明: DEDB データベースの PCB ステートメントは PROCSEQD オペランドを指定していますが、DEDB データベースの DBD には副次索引が定義されていません。

システムの処置: アプリケーション制御ブロック (ACB) 保守ユーティリティは、PSB の処理を終了します。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答:

1. PCB ステートメントの PROCSEQD オペランドを除去する。
2. PSB 生成ユーティリティ (PSBGEN) を再度実行する。
3. PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DFSDLB00

DFS2199E THE PROCSEQD OPERAND IS INVALID FOR A FULL FUNCTION DATABASE FOR PCB *pcbname* IN PSB *psbname*

説明: 全機能データベースの PCB ステートメントは、PROCSEQD オペランドを指定しています。しかし、PROCSEQD オペランドは、定義済みの副次索引を持つ DEDB データベースに対してのみ有効です。

システムの処置: アプリケーション制御ブロック (ACB) 保守ユーティリティは、PSB の処理を終了します。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答:

1. 全機能副次索引を使用できるように、PROCSEQD オペランドを PROCSEQD オペランドに変更する。
2. PSBGEN ユティリティを再び実行する。
3. PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DFSDLB00

DFS2200I LOAD FAILED FOR DFSMNTB0.

説明: システムは、モニター・モジュール DFSMNTB0 をロードできませんでした。

システムの処置: IMS バッチ・ジョブは、モニター・ロギングなしで続行されます。

プログラマーの応答: DFSMNTB0 がシステムへのロードで使用可能か確認してください。

問題判別: DFSMNTB0 の JOBLIB および STEPLIB を確認してください。

第 48 章 DFS メッセージ DFS2201I - DFS2250I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2201I PGFIX ERROR FOR IMSMON.

または

OPEN ERROR FOR IMSMON.

説明: IMS は、OPEN または PGFIX におけるエラーのため、モニター・ログをオープンできませんでした。

システムの処置: IMS は、モニター・ロギングなしで続行されます。

DFS2202I PERMANENT I/O ERROR ON IMSMON.

説明: ロガーがモニター・ログ (DD 名 IMSMON) への書き込みを試みました。しかし、永続入出力エラーが発生したか、または、モニター・データ・セットに割り振られたすべてのスペースが使用されていたか、いずれかでした。

システムの処置: IMS モニター・ロギングは停止されます。

プログラマーの応答: IMS モニターは、いずれかの条件下で再始動する必要があります。IMS を再始動する必要がある場合があります。

永続入出力エラーが発生した場合は、IMSMON データ・セットをスクラッチおよび再割り振りしてください。IMS 始動ジョブで IMSMON DD ステートメントを使用して、モニター・データ・セットが割り振られた場合は、IMS を再始動してください。データ・セットが動的に割り振られている場合は、IMS を再始動する必要はありません。

データ・セットがスペース不足になった場合は、DFSUTR20 を使用して現行内容を報告し、モニターを再始動できます。データ・セットの割り振り方式に関係なく、IMS は再始動の必要はありません。

DFS2203I LOG INITIALIZATION FAILED-TRANSLATE ERROR.

説明: 仮想制御領域を使用していて、ログ作業域に関する仮想アドレスから実アドレスへの変換で、エラーが発生しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2204I LOG INITIALIZATION FAILED-PAGE FIX ERROR.

説明: 仮想制御領域を使用していて、ログ作業域のページ固定でエラーが発生しました。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2205I LOG INITIALIZATION FAILED - zzzz.

説明: ログと DC モニターのいずれかが初期設定に失敗しました。zzzz は問題の原因を識別するために役立ち、以下のストリングのいずれかになります。

INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE

ログまたは DC WebSphere® Business Monitor ストレージに関する GETMAIN が失敗しました。

MODULE xxxxxxxx, NOT LOADED

オンライン IMS で、DC WebSphere Business Monitor モジュールをロードする試みが失敗しました。パッチ環境で、ログ・モジュールをロードする試みが失敗しました。いずれの場合も、xxxxxxx がロードできなかったモジュールの名前です。

DEVTYPE/RDJFCB/TRKCALC ERROR

z/OS サービス DEVTYPE、RDJFCB、または TRKCALC がゼロ以外の戻りコードを戻しました。異常終了メモリー・ダンプを調べて、失敗したサービス、およびエラーの理由を判別する必要があります。

INVALID DEVICE

オンライン IMS の場合は、OLDS または WADS が非 DASD 装置に割り振られるか、同じ DASD 装置タイプに WADS がすべては

割り振られません。バッチ環境の場合は、ログが磁気テープ装置に割り振られ、標準ラベルは指定されません。

NOT ENOUGH WADS OR OLDS

オンライン IMS に関して、WADS は指定されないか、2 つ以下の OLDS が指定されません。

LOG DATA SET REQUIRED

データベースの更新が必要であると宣言したバッチ・ジョブです。ログ DD ステートメントが存在していないか、ログ DD ステートメントで DD DUMMY データ・セットを指定し、DBRC がアクティブであるか、いずれかです。

LOG BLKSIZE INVALID (MIN *yyyyyy*)

オンライン IMS の場合は、ログ・データ・セット・ブロック・サイズが 2048 の倍数でないか、ブロック・サイズの大きさが不十分で、IMS によって作成された最大ログ・レコードを処理できないか、いずれかです。*yyyyyy* が必要な最小ログ・ブロック・サイズです。

BLKSIZE PARAMETER IS INVALID

DFSDFxxx PROCLIB メンバーの OLDSDEF ステートメントの **BLKSIZE=** パラメーターが無効でした。BLKSIZE は、6144 から 30,720 の間の 2048 の倍数の値を指定する必要があります。

LOGGER SECTION NOT FOUND IN DFSDFxxx

指定された DFSDFxxx PROCLIB メンバー内に、必要な LOGGER セクションがありませんでした。xxx は、指定された接尾部です。

REQUIRED DFSDFxxx MEMBER WAS NOT SPECIFIED

IMS の始動には DFSDFxxx メンバーが必要です。少なくとも、このメンバーに LOGGER セクションが含まれていなければなりません。

システムの処置: INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE の場合は、ログの初期設定中にこの状態が生じると、IMS は異常終了し、異常終了コード 0070 が示されます。この状態が DC モニターの初期設定中に生じた場合は、IMS はメッセージ DFS2206I を送信し、処理を続行します。

MODULE xxxxxxxx, NOT LOADED の場合は、この状態が DC WebSphere Business Monitor の初期設定中に生じると、IMS はメッセージ DFS2206I を送信し、処理を続行します。この状態がバッチ環境でログ初期設定中に生じた場合は、IMS は異常終了し、異常終了コード 0071 が示されます。

DEVTYPE/RDJFCB/TRKACL ERROR の場合は、

DEVTYPE または TRKCALC エラーが発生すると、IMS は異常終了し、異常終了コード 0072 が示されません。RDJFCB エラーが発生した場合は、IMS は異常終了コード 0074 で終了します。

INVALID DEVICE の場合は、IMS は異常終了し、異常終了コード 0075 が示されます。

NOT ENOUGH WADS OR OLDS, LOG DATA SET REQUIRED, LOG BLKSIZE INVALID (MIN *yyyyyy*) および BLKSIZE PARAMETER INVALID の場合は、IMS は異常終了し、異常終了コード 0073 が示されません。

プログラマーの応答: *zzzz* 値 DEVTYPE/RDJFCB/TRKCALC ERROR の場合は、メモリー・ダンプを分析して、障害の原因を判別する必要があります。*zzzz* 値がそれ以外のすべての場合は、次のことを確認してください。

- すべての必須ログ DD ステートメントが存在している。
- ログ DD ステートメントが、IMS 要件に適合する装置およびデータ・セット属性を指定している。
- 十分な仮想記憶域とすべての必須ロード・モジュールが使用可能である。

問題判別: 1、3、8、11、35

関連情報:

『DFS2206I』

➡ IMS 異常終了 0070

➡ IMS 異常終了 0073

➡ IMS 異常終了 0075

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2206I DC MONITOR LOGGING NOT AVAILABLE.

説明: モニター・ログの初期設定中に、エラーが発生しました。

システムの処置: IMS は、モニター・プログラム・ロギングなしで処理を続行します。

プログラマーの応答: DC モニター・ロギングを行いたい場合は、IMSMON データ・セットが正しく割り振られていることを確認してください。

DFS2207I IMS LOG(S) BLOCKSIZE=xxxxx, BUFNO=yyyy

説明: ログ・データ・セットの DCB パラメーターは、BLKSIZE=xxxxx、xxxxx-4、および BUFNO=yyyy です。すべての OLDS が、表示されている DCB 属性

を備えて、事前割り振りされるものと想定されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

DFS2208I *xxxx* LOGGING IN EFFECT ON IMS
 zzzz.

説明: *xxxx* の値は、SINGLE と DUAL のいずれかです。*zzzz* の値は、LOG と WRITE AHEAD DATA SET のいずれかです。用意されている実行パラメーターおよび DD ステートメントから、IMS は、ログ・データ・セット (OLDS またはバッチ SLDS)、または先行書き込みデータ・セット (WADS) に関する単一または重複ロギングを確立します。

システムの処置: IMS は、単一または重複ロギングから処理を続行します。

オペレーターの応答: ロギング・モードが求めるものと異なっている場合は、ログ・データ・セットに関する実行パラメーターまたは DD ステートメント、あるいはその両方を訂正し、IMS を再始動してください。DD=ステートメントの指定に誤りがあった場合は、メッセージ DFS0413I が表示される可能性があります。

関連情報:

122 ページの『DFS0413I』

DFS2209I MONITOR INITIALIZATION
 ERROR-REASON *x*.

説明: モニターの初期設定中に問題が発生しました。*x* は次のいずれかの理由コードになります。

コード (10 進数)

意味

- 00 無効の初期設定要求コード
- 01 モニターはすでにアクティブ
- 04 論理ログのオープン障害
- 05 物理ログのオープン障害

システムの処置: すべての理由コードの場合に、IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 理由コードが 02 または 04 の場合は、現行 IMS セッションの期間中、モニターを再始動できません。理由コードが 05 の場合は、発生したオープン障害によっては、モニターを再始動できる可能性もあります。

理由コードが 02 の場合は、IMS 制御領域のサイズを大きくしてください。

DFS2210I MONITOR TERMINATION
 ERROR-REASON *x* {RC=*yyyy*}

説明: モニターがエラーを検出しました。次の理由コードと意味が該当します。

コード 意味

- 02 論理ロガー FEOV 障害。RC=*yyyy* が表示されるのは、理由コード 02 の場合だけで、IMS 論理ロガー戻りコードが含まれています。

システムの処置: すべての理由コードの場合に、IMS は処理を続け、モニターは停止されます。

プログラマーの応答: モニターの再始動を試みてかまいません。

DFS2212I DC MONITOR STARTED.

説明: DC モニターが活動化されます。

システムの処置: システムは以前どおりに処理を続行します。

DFS2213I DC MONITOR STOPPED - (TIME
 INTERVAL ELAPSED)

説明: DC モニターが終了します。モニターの開始に使用されたコマンドに、INTERVAL パラメーターが組み込まれていた場合は、メッセージに Time Interval Elapsed が組み込まれ、時間が経過すると、システムが内部的にモニターを終了したことを示します。

システムの処置: システムは処理を続行します。

DFS2214I ERROR-NO VALID RECORDS ON
 INPUT DATA SET.

説明: 入力データ・セットに互換性がないか、データ・セットにレコードがありません。

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: 適正なデータ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2215A MONITOR INACTIVE, MODIFY TO
 START MONITOR.

説明: DB モニターが非アクティブで、プロンプトでコマンドがモニターを開始することを促しています。

システムの処置: IMS は、モニターが非アクティブのまま続行します。

オペレーターの応答: モニターを開始するときは、「MODIFY jobname, START」を入力してください。

DFS2216A MONITOR ACTIVE, MODIFY TO STOP MONITOR.

説明: DB モニターがアクティブで、プロンプトでコマンドがモニターを停止することを促しています。

システムの処置: IMS は、モニターがアクティブのまままで続行します。

オペレーターの応答: モニターを停止したいときは、MODIFY jobname,STOP、または MODIFY jobname,STOPEOV を入力してください。

DFS2217I UNABLE TO OPEN MONLOG, MONITOR UNAVAILABLE.

説明: IMS DB モニター・データ・セットに関して、オープンが失敗しました。

システムの処置: バッチ実行の期間中、モニターは使用不能にされています。IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: IMSMON DD ステートメントを訂正してください。

DFS2218I MONITOR MODIFY SPECIFICATION INCORRECT.

説明: 前に入力された MODIFY コマンドが、STOP、START、または STOPEOV ではありませんでした。

システムの処置: オペレーターは、プロンプトで MODIFY コマンドの再入力を促されます。

オペレーターの応答: キーワード STOP、START、または STOPEOV を必要に応じて指定した MODIFY コマンドを使用して、入力してください。

DFS2219I I/O ERROR ON MONITOR LOG, MONITOR TERMINATED.

説明: モニター・ログ・データ・セットの書き込み中に、永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置: モニターは異常終了の無視を試みます。これが正常に行われれば、モニターはバッチ実行の残りの間、非アクティブであり、IMS は処理を続行します。モニターが異常終了を無視できない場合は、IMS は異常終了します。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2220I INVALID FILE PARAMETER. NO REPORTS PRINTED.

説明: DFSUTR30、DB モニター報告書印刷プログラムに関する制御ステートメントの FILE パラメーターが、1 桁または 2 桁の 10 進数ではありませんでした。

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2221I MONITOR UNABLE TO WRITE OUTPUT.

説明: DB モニターが出力レコードを書き込めません。//IMSMON DD ステートメントが欠落しているか、または DUMMY ステートメントです。また、処理オプションが GET 機能であるため、IMS ログは非アクティブです。

システムの処置: バッチ実行は継続され、モニターは使用不能です。

プログラマーの応答: //IMSMON DD ステートメントを IMS プロシージャに組み込み、ジョブを再実行してください。

問題判別: 更新が行われないバッチ実行で、モニター出力が望ましい場合は、非 DUMMY //IMSMON DD ステートメントが IMS プロシージャに組み込まれる必要があります。

DFS2225E IMS ABEND SEARCH AND NOTIFICATION FAILED

説明: IMS 異常終了検索および通知機能が、正常に完了できませんでした。このメッセージは、障害の内容を記述する追加メッセージに関連付けられています。

システムの処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正してください。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能を呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール: DFSIASNP

DFS2226E FAILED xxxxxxxx ALLOCATION

説明: IMS 異常終了検索および通知処理時に、示された内部コンポーネントのストレージに対する GETMAIN が失敗しました。xxxxxxx は、次のいずれかの内部コンポーネントを示します。

URLS_ARRAY
PARM_ARRAY
RCPTTO_ARRAY

PROCPARM_ARRAY
DFS2226E

システムの処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。この問題が続く場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

モジュール: DFSIASNP

DFS2227E OPEN FAILURE ON xxxxxxxx DATA SET

説明: xxxxxxxx で示された DD ステートメントに関連したデータ・セットを、IMS 異常終了検索および通知処理時にオープンできませんでした。xxxxxxx は、次のいずれかの DD ステートメントです。

SYSPRINT
SYSUT1
SYSUT2
CONTROL
INPARMS
URLS

システムの処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: DD ステートメントまたは関連したデータ・セットで問題の内容を判別し、問題を訂正してください。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール: DFSIASNP

DFS2228E INVALID NUMERIC ENCOUNTERED

説明: IMS 異常終了検索および通知機能によって、制御ステートメントで非数値の文字が検出されました。数字が期待されました。

システムの処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: エラーになった制御ステートメントを訂正します。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール: DFSIASNP

DFS2229E MAXIMUM NUMBER OF STATEMENTS FOR URL ADDRESS EXCEEDED

説明: URLS データ・セットにおいて、URLS DD ステートメントで識別されたデータ・セット内の URL ア

ドレスに、5 行以上が関連付けられていました。

システムの処置: 処理は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 4 行以内に収まるように、URL アドレスを再フォーマットしてください。ISPF を使用して IMS 異常終了検索および通知機能呼び出した場合は、ジョブを再生成し、再実行依頼してください。

モジュール: DFSIASNP

DFS2231 HEXADECIMAL PARAMETER LONGER THAN 16 CHARACTERS.

説明: XKEY パラメーターが入力されましたが、16 文字を超える文字数が含まれていました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効なパラメーターを使用し、データを再入力してください。

DFS2232 INVALID HEXADECIMAL PARAMETER.

説明: XKEY パラメーターで使用できる有効な文字は、A から F と 0 から 9 のみです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 有効なパラメーターを使用し、データを再入力してください。

DFS2233 ASSIGNMENT REDUNDANT.

説明: ユーザーが指定したリソースは、すでにユーザーに割り当てられています。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

DFS2234I MSVERIFY COMMAND IN PROGRESS FOR LOCAL SYSID(S) P1, P2, P3...Pn. yyddd/hhmmss.

説明: P1, P2, P3...Pn は、入力システムで定義されているローカル SYSID 番号です。yyddd/hhmmss は、タイム・スタンプです。このタイム・スタンプは、このコマンドに関係するすべてのメッセージで同じです。

システムの処置: 処理中のコマンドを検証してください。

**DFS2235I SYSID *nnnnnn* IS DEFINED AS
LOCAL IN BOTH SYSTEMS.
*yyddd/hhmmss***

説明: リソースが、両方のシステムでローカルとして定義されました。*yyddd/hhmmss* は、タイム・スタンプです。

システムの処置: システムは、コマンドの処理を続行します。最後のリソースが検証されると、コマンドは終了します。

**DFS2236I MSVERIFY COMMAND IN
PROGRESS FOR REMOTE SYSID(S)
P1, P2, P3...Pn. *yyddd/hhmmss***

説明: P1, P2, P3...Pn は、リモート・システムでローカルとして定義されている SYSID 番号です。*yyddd/hhmmss* は、タイム・スタンプです。このタイム・スタンプは、このコマンドに関係するメッセージで同じです。

システムの処置: システムは、コマンドの処理を続行します。

**DFS2237I MSVERIFY COMPLETED FOR SYSID
Pn. *yyddd/hhmmss***

説明: このメッセージの前に、指定されている SYSID Pn に競合があればそれに関する警告メッセージが出力されています。このメッセージは、DFS2234I に示されている SYSID ごとに、受信されるはずですが、DFS2234I に示されている少なくとも 1 つの SYSID に関して、このメッセージが受信されない場合は、メッセージのルーティングに問題がある可能性があります。*yyddd/hhmmss* は、タイム・スタンプです。

システムの処置: システムは、コマンドの処理を続行します。

**DFS2238I DFSUTR30 INPUT FILE NOT FROM
IMS *n.n* BATCH SYSTEM**

または

**DFSUTR20 INPUT FILE NOT FROM IM *n.n*
ONLINE SYSTEM.**

説明: IMS モニター報告書ユーティリティーへの入力として使用されるファイルである、オンライン、報告書用の DFSUTR20 と、バッチ・モニター報告書用の DFSUTR30 のいずれかが、受け入れ不能でした。メッセージは、次のいずれかの理由で出されました。

- 入力を生成する IMS システムのリリース・レベルが、使用されている報告書ユーティリティーのリリース・レベルと一致しない。
- バッチ入力ファイルが DFSUTR20 に提供されたか、オンライン入力ファイルが DFSUTR30 に提供されたか。

システムの処置: 報告書ユーティリティーが終了しません。報告書は作成されません。

プログラマーの応答: 入力ファイルと報告書ユーティリティーのリリース・レベルが一致するか、該当する報告書ユーティリティーが入力ファイル用として使用されているか確認してください。

DFS2239 TOO MANY ADS PARAMETERS

説明: このコマンドに関して入力された ADS パラメーターが多すぎました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: ADS パラメーターを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

**DFS2240 TOO MANY MSNAME
PARAMETERS.**

説明: このコマンドに関して入力された MSNAME パラメーターが多すぎました。入力できるのは 1 つのみです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: MSNAME パラメーターを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

**DFS2241I *nnnnnn* IS DEFINED AS REMOTE
TRANSACTION IN BOTH SYSTEMS.**

説明: リソースが両方のシステムでリモート・トランザクションとして定義されています。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行しません。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2224I TRANSACTION ON A BACK-END
SYSTEM ABENDED**

説明: APPC または OTMA が発生させた、共用キュー環境内のバックエンド IMS システムで実行中のトランザクションが異常終了しました。トランザクションはバックアウトされています。

プログラマーの応答: バックエンド・システム上での異常終了の理由を分析します。このメッセージは、次の理由で生成されます。

- アプリケーション・プログラムがプログラム・エラーのために異常終了した。
- バックエンド IMS システムが異常終了した。
- フロントエンドまたはバックエンド IMS システムの RRS が非アクティブになった。
- バックエンドのオペレーティング・システムが異常終了した。

モジュール: DFSAOSW0、DFSYLUS0

**DFS2242I *nnnnnn* IS NOT DEFINED AS LTERM
IN BOTH SYSTEMS.**

説明: リソースが一方のシステムでは、リモート LTERM として定義され、パートナー・システムでは、LTERM として定義されていません。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2243I *nnnnnn* IS NOT DEFINED AS
TRANSACTION IN BOTH SYSTEMS.**

説明: リソースが一方のシステムでは、リモート・トランザクションとして定義され、パートナー・システムでは、トランザクションとして定義されていません。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

DFS2244 TOO MANY SYSID PARAMETERS.

説明: このコマンド用に指定された SYSID パラメータの数が多すぎました。指定できるのは 1 つだけです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: SYSID パラメータを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

**DFS2245I MULTISEGMENT TRANSACTION
FLAG FOR *nnnnnn* NOT
CONSISTENT.**

説明: リソース *nnnnnn* に関して、複数セグメント・トランザクション・フラグが、ローカルまたはリモートのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2246I NONINQUIRY ONLY FLAG FOR
nnnnnn NOT CONSISTENT.**

説明: リソース *nnnnnn* に関して、非照会専用フラグが、リモートまたはローカルのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2247I CONVERSATIONAL FLAG FOR
nnnnnn NOT CONSISTENT.**

説明: リソース *nnnnnn* に関して、会話型 SMB フラグが、ローカルまたはリモートのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2248I NONRECOVERABLE FLAG FOR
nnnnnn NOT CONSISTENT.**

説明: リソース *nnnnnn* に関して、リカバリー不能トランザクション・フラグが、ローカルまたはリモートのいずれか一方のシステムではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2249I FIXED LENGTH SPA FLAG FOR
nnnnnn IS NOT CONSISTENT.**

説明: リソース *nnnnnn* に関して、固定長 SPA フラグが、一方のシステム (ローカルまたはリモート) ではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。このリソースが、検証される最後のリソースである場合は、コマンドは終了します。

**DFS2250I THE SPA LENGTH FOR *nnnnnn* IS
NOT THE SAME.**

説明: リソース *nnnnnn* の場合に、ローカル・システムとリモート・システムでの SPA の長さが同じではありません。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。これが最後に検証されるリソースである場合は、コマンドは終了します。

第 49 章 DFS メッセージ DFS2251W - DFS2300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2251W INPUT FILE INCOMPLETE, REPORT MAY BE INVALID.

説明: DFSUTR20 への入力として使用された IMSMON ファイルが不完全です。理由として可能な場合は、次のとおりです。

- オンライン・モニター・レコードのキャプチャーに使用された IMS モニター・データ・セット (IMSMON DD ステートメント) の大きさが十分でなかった可能性がある。データ・セット・サイズを大きくしてください。
- IMS モニターが正常な方法で終了しなかった (例えば、IMS 異常終了) し、IMSMON へのロギングが一時停止した。
- IMSMON ファイルがマルチボリュームに常駐し、すべての VOLSERS が入力ジョブ・ストリームで連結しているわけではない。
- DB モニターで生成された IMSMON ファイル (バッチ IMS) が、DFSUTR20 への入力として使用されている。正しいユーティリティは DFSUTR30 です。

システムの処置: DFSUTR20 は要求された報告書すべての生成を試みますが、値が無効である可能性があります。バッファー・プール統計報告書を欠いていることが、IMSMON ファイルが不完全であることを明白に示しています。

DFS2252 LINK NOT STOPPED AND IDLE.

説明: /MSASSIGN コマンドを実行できません。関与するリンクの 1 つが、停止されてアイドル状態になっていません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: /PSTOP コマンドをビジー・リンクに発行してください。

DFS2253 MSVERIFY COMMAND ABORTED.

説明: 指定されている SYSID の MSNAME が、パートナー・システムに戻りリンクがないため、/MSVERIFY コマンドが実行できません。メッセージは、パートナー・システムで印刷されます。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 異なる MSNAME またはリモート SYSID を指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2254 COMPONENT COMMAND NOT VALID FOR THIS TERMINAL.

説明: /COMPT または /RCOMPT コマンドが入力されましたが、端末がコンポーネントをサポートしていません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

DFS2255 INVALID COMPONENT NUMBER.

説明: 1、2、3、または 4 以外のコンポーネント・パラメーターが入力されました。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: コマンドを再入力してください。

DFS2256 COMPONENT NOT ATTACHED.

説明: /COMPT または /RCOMPT コマンドで指定されているコンポーネント番号が、このシステムに関して定義されていません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを再入力してください。

DFS2257 COMPONENT SPECIFIED NOT DEFINED.

説明: /COMPT または /RCOMPT コマンドで指定されているコンポーネントが、このシステムで定義されていません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

DFS2258 NO LINKS DEFINED IN SYSTEM.

説明: LINK キーワードが、コマンドの一部として入力されましたが、システムに関して定義されているリンクがありませんでした。

DFS2259 • DFS2265I

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを再入力してください。

DFS2259 TOO MANY LINK PARAMETERS.

説明: 複数のリンク・パラメーターが /MSASSIGN コマンドで指定されました

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: リンク・パラメーターを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2260 TOO MANY MSPLINK PARAMETERS.

説明: 複数の MSPLINK パラメーターが /MSASSIGN コマンドで指定されました

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: MSPLINK パラメーターを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

DFS2261 NODE IS NOT IN SESSION

説明: VTAM ノードが現在セッション中でないため、コマンドは実行されません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS ホスト・コマンドまたはホスト・システム・コマンドを使用してセッションを開始し、必要に応じてコマンドを再発行してください。

DFS2262 TOO MANY DATABASE PARAMETERS

説明: このコマンド用に入力されたデータベース・パラメーターの数が多すぎます。入力できるのは 1 つだけです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: データベース・パラメーターを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSORC10

DFS2263I UNABLE TO OPEN MNPS ACB REG15=xx ACBERFLG=yyy

説明: MNPS 環境で MNPS ACB についての OPEN を試み、エラー・コードが戻されました。xx は、レジスター 15 の OPEN 戻りコードであり、yyy は、VTAM によって戻された ACB です。xx 値と yyy 値


は、どちらも 10 進数で表示されます。

システムの処置: IMS は、MNPS ACB が開かれない状態で継続します。このメッセージが XRF テークオーバー時に発行された場合は、セッションの永続性が失われ、VTAM クラス 1 セッションを復元できません。

システム・プログラマーの応答: エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール: DFSHCI00、DFSIC460

関連資料:

 z/OS: OPEN - 1 つ以上の ACB のオープン

DFS2264I IMS NOT ACCEPTING LOGONS - NODE xxxxxxxx

説明: 示されているノードに関して LOGON が要求されたとき、IMS が次のいずれかの状態でした。

- /STOP DC が進行中であった。
- /START DC がコンプリートでなかった。
- IMS が receive-any バッファーになかった。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: 要求が無視される原因になった状態を上記の中から検索した上で、適切な処置を取ってください。

DFS2265I SETLOGON FAILED RTNCD=xx FDB2=yy

説明: MNPS 環境で XRF システム・テークオーバー時に、SETLOGON マクロについての VTAM 戻りコードが受信されました。xx 値と yy 値は、どちらも 16 進数で表示されます。

システムの処置: IMS は処理を続行し、START DC は失敗します。セッションの永続性は失われ、VTAM クラス 1 セッションを復元できません。

オペレーターの応答: SETLOGON が失敗した理由を判別してください。/START DC を発行して、START DC プロセスを完了してください。

プログラマーの応答: エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール: DFSHCI00

関連資料:

➡ z/OS: SETLOGON - セッションを確立するためのアプリケーション・プログラムの機能の変更

➡ z/OS: RPL 戻りコード (RTNCD、FDB2) の組み合わせ

DFS2266I MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVER STARTED

説明: XRF テークオーバー処理時に、IMS がマルチノード持続セッション・テークオーバー・プロセスを開始しました。

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSVTPO0

DFS2267I ALL MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVERS HAVE BEEN INITIATED

説明: XRF テークオーバー処理でマルチノード持続セッションを使用中に、すべての持続セッション・テークオーバーがスケジュールされました。セッション・テークオーバー機能は、通常の IMS 処理とは非同期に実行されます。

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSVTPO0

DFS2268I MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVER FAILED, INQUIRE|RESTORE RTNCD=xx FDB2=yy

説明: XRF テークオーバー処理でマルチノード持続セッション (MNPS) を使用中に、VTAM INQUIRE または OPNDST RESTORE コマンドが VTAM からエラー戻りコードを受け取りました。xx 値と yy 値は、どちらも 16 進数で表示されます。

システムの処置: IMS は通常の処理を続行しますが、MNPS セッション・リカバリーを終了します。セッションの永続性は失われ、VTAM クラス 1 セッションを復元できません。

オペレーターの応答: 通常のセッション開始手順を使用して、VTAM セッションを必要に応じて再始動できま

す。エラーのタイプによっては、/STOP DC および /START DC を使用して MNPS ACB のクローズと再オープンを行わざるをえない場合もあります。

システム・プログラマーの応答: エラー・コードの詳しい説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール: DFSVTPO0

関連資料:

➡ z/OS: SETLOGON - セッションを確立するためのアプリケーション・プログラムの機能の変更

➡ z/OS: OPNDST - セッションの確立 (PLU として稼働するアプリケーション) またはセッションのリカバリー

➡ z/OS: RPL 戻りコード (RTNCD、FDB2) の組み合わせ

DFS2269I IMS CANNOT LOCATE NODE nodename DURING MULTINODE PERSISTENT SESSION TAKEOVER

説明: 持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM が、すべてのセッションがリカバリーを保留していることを IMS に通知しました。個々のセッションをそれぞれ復元するために、IMS はそれに対応する制御ブロックを見つける必要があります。制御ブロックが見つけられない場合は、MTO に対して DFS2269I が出されます。

システムの処置: IMS は通常の実行を継続しますが、端末の永続性は復元されません。

オペレーターの応答: 通常のセッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSVTPO0

DFS2270 FORCE KEYWORD IS INVALID, LINK NOT VTAM

または

FORCE KEYWORD IS INVALID, LINK NOT VTAM OR TCP/IP

説明: /PSTOP LINK FORCE コマンドが入力されましたが、リンク・タイプが VTAM または TCP/IP ではありません。

DFS2271I • DFS2277I

システムの処置: コマンドは実行されません。

マスター端末オペレーターの応答: リンクが CTC リンクである場合は、/PSTOP LINK OPTION(FORCE) コマンドの代わりにユーザーが /PSTOP LINK PURGE コマンドを発行できます。それ以外の場合は、正しいリンク番号を指定しているか確認してから、リンクを 1 つだけ指定してコマンドを再発行してください。

DFS2271I FAST PATH EXCLUSIVE TRANSACTION FLAG FOR *nnnnnn* NOT CONSISTENT.

説明: リソース *nnnnnn* の場合に、高速機能専用トランザクション・フラグが、一方のシステム (リモートまたはローカル) ではオンで、他方のシステムではオフです。

システムの処置: システムはコマンドの処理を続行します。これが最後に検証されるリソースである場合は、コマンドは終了します。

DFS2272 PURGE OR FORCE KEYWORD INVALID, ONLY ONE LINK ALLOWED.

説明: /PSTOP LINK コマンドの PURGE キーワードが指定できるのは、一時点では 1 つの物理チャンネル間 (CTC) リンクの場合だけです。

複数のリンク (LINK ALL または LINK P1...Pn) が /PSTOP LINK コマンドで指定されました。FORCE キーワードが指定できるのは、一時点では 1 つの、以下の物理リンクに対してのみです。

VTAM

TCP/IP

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 次のいずれかを実行してください。

- CTC、TCP/IP、または VTAM リンクを 1 つだけ指定して、コマンドを再入力する。
- PURGE または FORCE キーワードを省略する。

DFS2273 PURGE KEYWORD REJECTED, CURRENT STATUS OF LINK IS NORMAL.

説明: /PSTOP LINK P1 PURGE コマンドがリジェクトされましたが、PURGE が必要ないからです。リンクが停止されていないか、停止されて活動停止中になる過程にあります。

システムの処置: コマンドは実行されません。

マスター端末オペレーターの応答: PURGE キーワードを指定しないで、/PSTOP コマンドを再入力してください。

DFS2274 MSC FEATURE NOT DEFINED

説明: MSNAME、MSPLINK、または SYSID キーワードがコマンドで入力されましたが、MSC フィーチャーは現行システムに組み込まれていません。

システムの処置: コマンドは処理されません。

端末オペレーターの応答: コマンドを正しく再入力してください。

DFS2275I SORT FAILED-INCREASE REGION SIZE

説明: SORT プログラムで使用可能なストレージが不十分です。

システムの処置: DFSISTS0 が終了し、GETMAIN マクロから戻りコードが出されます。

オペレーターの応答: (システム・コンソール) 領域サイズを大きくしてください。

問題判別: SORT プログラム・エラー・メッセージを参照してください。


DFS2276I INVALID PARM FIELD-DEFAULTS USED.

説明: ユーティリティ・プログラム (DFSISTS0) が無効なパラメーターを検出しました。

システムの処置: DFSISTS0 は続行されます。

オペレーターの応答: (システム・コンソール) JCL をチェックしてください。デフォルトが望ましくない場合は、ジョブを取り消し、パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連資料:

 統計分析ユーティリティ (DFSISTS0) (システム・ユーティリティ)

DFS2277I LOGIN IS NULL DATA SET. PROGRAM TERMINATES

説明: DFSISTS0 ユーティリティが、LOGIN DD データ・セットは NULL データ・セットであるか、タイプが X'01' または X'03' のメッセージ・レコードが含まれていないか、どちらかであると判別しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 0 が示され、レコードは生成されません。

**DFS2278I UTILITY ENDS WITH: SYSTEM LOG
AT hh.mm.ss.th, yyddd**

または

**START RECOVERY WITH: SYSTEM LOG AT
hh.mm.ss.th, yyddd**

説明: このメッセージは両形式とも、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティによって出されます。

このメッセージの最初の形式では、このデータベース・データ・セット・イメージ・コピーに先立って取られた最後の IMS チェックポイントのタイム・スタンプが表示されます。このタイム・スタンプ値は、変更累積ユーティリティに対する「ページ日時」指定として使用できます。

このメッセージの 2 番目の形式では、このデータベース・データ・セット・イメージ・コピーの完了目に取りられた最後の IMS チェックポイントのタイム・スタンプが表示されます。

この 2 つのタイム・スタンプ値は、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティのこの実行中に作成されたログ・レコードが含まれる、システム・ログ・データ・セット (SLDS) を選択するのに使用できます。

システムの処置: 処理は続行されます。

**DFS2279I MONITOR TERMINATING-BAD
TIME VALUE**

説明: DC モニターが、STORE CLOCK 命令 (STCK) を使用して時間値の取得を試み、戻りコードによって判別されている次の 2 つの受諾不能状態のいずれかを検出しました。戻りコード 2: エラー状態のクロック、または 3: クロックが停止、または作動不能。

システムの処置: IMS は処理を続けますが、DC モニターは、トレースに関して終了します。

プログラマーの応答: 時刻機構が DC モニターで受け入れ可能な 2 つの有効な状態のいずれかであるか確認してください。モニターで受け入れ可能な 2 つの状態の結果は、条件コード 0 または 1 になり、これはそれぞれクロック設定および稼働と、クロック非設定および稼働になります。

**DFS2280I MONITOR TERMINATING-
MONITOR LOG ERROR**

説明: ロガーが DC モニター・ログへの書き込みを試みていたとき、エラーが検出されました。

システムの処置: IMS は処理を続けますが、DC モニター・トレースは終了します。

プログラマーの応答: 入力エラーが DC モニター・データ・セットで発生したか、ログ・データ・セットに関して割り振られたすべてのスペースが使用されているか、いずれかです。すべての割り振りスペースが使用されている場合は、モニター報告書印刷ユーティリティ (DFSUTR20) が実行でき、DC モニターを再始動できます。

問題判別: 1、3、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2281I UPPER THRESHOLD REACHED FOR
xxxxx.**

説明: LGMSG と SHMSG のいずれかに関する装置相対レコード番号 (DRRN) 使用中カウント (xxxxx によって示される) が、高しきい値カウントより大でした。

システムの処置: 共有キューから検索されたすべてのメッセージは、低しきい値が得られるまで待ちます。

プログラマーの応答: DRRN カウントが非常に高かった理由を判別してください。問題域には、高トランザクション・カウントで、SMT0 または BMP キューに入れられたメッセージの数が組み込まれる可能性があります。

モジュール: DFSQC020

**DFS2282I LOWER THRESHOLD REACHED
FOR xxxxx.**

説明: LGMSG と SHMSG のいずれかに関する装置相対レコード番号 (DRRN) 使用中カウント (xxxxx によって示される) が、高しきい値カウントに達した後、低しきい値カウントより小でした。

システムの処置: 上限しきい値に達してから待っていたすべてのメッセージは、処理を続行します。

モジュール: DFSQC020

**DFS2283I RESYNC UNIT OF RECOVERY IS IN
DOUBT STATUS=COLD/UN
RTKN=ccccccccxxxxxxxxxxxxxxxx
PTKN=yyyyyyyy**

説明: 表示されているリカバリー・トークンの場合、IMS が要求タイプ UNKNOWN または COLDstart を、再同期プロセス中に受信しました。再同期プロセスは、再始動後、接続サブシステム間の未確定リカバリー単位を解決します。未確定リカバリー単位とは、同期点の準備フェーズは完了していますが、最終アクション (ABORT または COMMIT) を受信していない作業単位 (UOW) のことです。このメッセージが出されるのは、

トランザクション管理サブシステムに未確定リカバリー単位の知識がないか、コーディネーター・コントローラーがコールド・スタートしたか、いずれかのときです。リカバリー・トークンの最初の部分 (ccccccc) は、CCTL ID です。フィールド yyyyyyyy は疑似トークンです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答:

DISPLAY コマンドを使用して、再同期化処理中に解決されなかったリカバリー単位を表示してください。未解決のリカバリー単位ごとに必要とされる最終アクション (ABORT または COMMIT) を判別してください。IMS コマンド /CHANGE CCTL nnnn PRTKN xxxx ABORT を使用して、ほとんどの場合の UOR を解決してください。あるいは、COMMIT コマンドも出せます。

DFS2285I DURING MULTINODE PERSISTENT PROCESS, nodename WAS REVERTED TO CLASS 2

説明: 持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM がクラス 1 端末のセッション永続性 CV29 を失い、IMS はセッション永続性をクラス 2 に戻しました。

システムの処置: IMS は正常な実行を継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSVTPO0

DFS2286I CLASS 1 TERMINALS BEING REVERTED TO CLASS 2 DURING MULTINODE PERSISTENT PROCESS

説明: 持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM がクラス 1 端末のセッション永続性を失い、IMS はセッション永続性をクラス 2 に戻します。クラス 2 に戻されるクラス 1 端末のノード名を記録するために、診断ログ・レコード X'6710' が書き込まれます。

システムの処置: IMS は通常の実行を継続しますが、クラス 1 端末の永続性は復元されません。

オペレーターの応答: 通常セッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答: X'6710' ログ・レコードを見つけて、再始動を必要とする端末を識別してください。

モジュール: DFSVTPO0

DFS2287I CLASS 2 AND 3 TERMINALS NOT BEING FOUND DURING MULTINODE PERSISTENT PROCESS

説明: 持続セッション・テークオーバー・プロセスで、VTAM が IMS に、クラス 2 および 3 端末の復元を保留しているセッションを通知しましたが、IMS は、対応する制御ブロックを見つけてセッションを復元することができません。

制御ブロックが見つからなかったクラス 2 および 3 端末のノード名を記録するために、診断ログ・レコード X'6710' が書き込まれます。

システムの処置: IMS は通常のインプリメンテーションを続行しますが、クラス 2 端末の永続性は復元されません。

オペレーターの応答: 通常セッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答: X'6710' ログ・レコードを見つけて、再始動を必要とする端末を識別してください。

モジュール: DFSVTPO0

DFS2288W IMS CHECKPOINT PROCESSING IS BEING DELAYED.

説明: IMS チェックポイントが処理を完了しないうちに、チェックポイント・タイマー値の有効期限が切れました。

システムの処置: システムは稼働し続けます。

オペレーターの応答: 通常セッション開始手順を使用して、端末を必要に応じて再始動できます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、チェックポイントを遅らせる何らかの処理を求めるオペレーターに対する警告です。このメッセージが検出される場合、オペレーターは何らかの処置を取って、チェックポイントが迅速に完了するようにする必要があります。

モジュール: DFSRCP00

DFS2290 INPUT MESSAGE CANNOT BE CREATED SINCE NO OUTPUT MESSAGE IN PROGRESS.

説明: 複数物理ページ入力指定された DPAGE の最初の物理ページから入力データが入力されたとき、出力メッセージが進行中ではありませんでした。出力メッセージは、以前のオペレーター処置 NXTMSG または NXTMSGP によってデキューされていました。

システムの処置: 入力データは無視されます。

オペレーターの応答: 複数物理ページ入力メッセージを作成するための現行フォーマットに関する /FOR コマンド、単一物理ページ入力メッセージを作成するための異なるフォーマットに関する /FOR コマンドを発行するか、画面をクリアし、データを入力してください。

問題判別: 16

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2291I *Multi-line message with variable values*

説明: ロック要求が IRLM によってタイムアウトにされて、IMS 異常終了 3310 が出されました。このメッセージは、終了に関する追加の情報を提供します。

変数値を示す DFS2291I が、複数行にわたって以下のフォーマットで発行されます。

- DFS2291I LOCKNAME=*resource_name*
- DFS2291I DBNAME=*db_name*
LOCKFUNC=*lock_function*
- DFS2291I BLOCKER PST=*PST_id* TRAN=*tran_name*
PSB=*PSB_name* TYPE=*region_type*
- DFS2291I BLOCKER TRANELAPSEDTIME=*hr:mn:sc*
IMSID=*imsid*
- DFS2291I BLOCKER RECOVERY
TOKEN=*recovery_token*
- DFS2291I WAITERxx PST=*PST_number*
TRAN=*tran_name* PSB=*PSB_name* TYPE=*region_type*
- DFS2291I WAITERxx
TRANELAPSEDTIME=*hr:mn:sc*
- DFS2291I WAITERxx RECOVERY
TOKEN=*recovery_token*
- DFS2291I WAITERxx PST=*PST_number*
TRAN=*tran_name* PSB=*PSB_name* TYPE=*region_type*
- DFS2291I VICTIM TRANELAPSEDTIME=*hr:mn:sc*
IMSID=*imsid*
- DFS2291I VICTIM RECOVERY
TOKEN=*recovery_token*
- DFS2291I TRANSACTION RETRY. DIAGNOSTIC
MESSAGE HAS REACHED MAXIMUM COUNT

メッセージの最終行「DFS2291I TRANSACTION RETRY. DIAGNOSTIC MESSAGE HAS REACHED MAXIMUM COUNT」は、同一のトランザクションが 5 回再試行された後のみ、出されます。このメッセージを受け取った後はもう、同一のトランザクションの再試行に関してメッセージ DFS2291I のインスタンスがさらに出されることはありません。

BLOCKER

ロックのための長時間待ちがタイムアウトした

時点で、*resource_name* によって示されるロック・リソースを保持していたトランザクションを示します。

WAITER

長時間ロック出口が駆動された時点で、*resource_name* によって示される同じロック・リソースに対して待機していたトランザクションを示します。

VICTIM

IRLM がタイムアウトにしたトランザクションを示します。このトランザクションは、異常終了コード 3310 で異常終了するか、あるいは IRLM ロック要求の LOCKTIME 値を超えたために状況コード BD を受け取ります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_name

IMS がリソースのロックを獲得するために使用する、11 文字から 13 文字の ID。*resource_name* には、トランザクションがロックを要求しているリソースの、データ管理ブロック (DMB) 番号、データ制御ブロック (DCB) 番号、または相対バイト・アドレス (RBA) が含まれます。

db_name

IRLM がロックの認可を要求されているデータベースの名前。

lock_function

ロック要求機能。

| *PST_id* トランザクションを示す固有のタスク ID。ID
| は、以下のいずれかのオプションを参照しま
| す。

| *number* トランザクションを識別する固有のタ
| スク番号。

| **SYS** システムの ITASK ロック所有者。

| **IDT** 残留リカバリー・エレメント (RRE)
| または未確定ロック所有者。

PST_number

トランザクションを識別する固有のタスク番号。

tran_name

トランザクション名。

PSB_name

トランザクションが使用する PSB 名。

region_type

トランザクションを処理する IMS 領域のタイプ。

hr:mn:sc

時、分、秒での経過時間。この値は、トランザクションの開始時刻 (PSTSPTIM から取られ

る)と、このトランザクションの IRLM 長時間ロック・データを収集するために出口が呼び出された時刻の間の値です。

imsid IMS ID。

recovery_token

IMS ID、スケジューリング時に割り当てられた 4 バイトの起点アプリケーション・シーケンス番号、および各コミット・プロセスで増分される 4 バイトのカウントが入っている、16 バイトのストリング。バッチ・アプリケーションの場合、16 バイトのストリングには、8 バイトのジョブ名と 8 バイトのストア・クロック値が入っています。

バッチ・ジョブの場合、短形式メッセージ DFS2291I が出されます。IEFRDER DD ステートメントが指定された場合、このメッセージの複数行形式がログ・タイプ X'67D0' サブタイプ 1B レコードに使用されます。

異常終了 3310 後に再試行中のトランザクションについては、メッセージ DFS2291I は最大数である 5 回、出されます。最大メッセージ・カウントに達すると、メッセージ・テキストは「TRANSACTION RETRY. DIAGNOSTIC MESSAGE HAS REACHED MAXIMUM COUNT」が使用されます。

システムの処置: 従属領域は異常終了します。トランザクションは廃棄され、トランザクションおよび PGM は停止されず、メモリー・ダンプは作成されません。

システム・プログラマーの応答: 保護メッセージの場合を除き、廃棄不能メッセージ・ユーザー出口 (NDMX) を使用して、トランザクションを再実行するかどうかを判断します。

ブロkker (ロックを保持しているアプリケーション) またはビクティム (ロックを待機しているアプリケーション) のいずれかを強制終了してください。ロックを保持しているアプリケーションまたはロックを待機しているアプリケーションを強制終了するには、このメッセージ内にあるブロkker情報を使用します。ビクティム以外にも複数のアプリケーションがロックを待機している場合、ブロkkerを強制終了すると、IRLM は、待機していた次のアプリケーションに対してロックを認可することになるため、必ずしもビクティムがロックを認可されるとは限らない可能性があります。

問題判別: このメッセージは、ロックを保持しているトランザクションだけでなく、ロックを待機中のトランザクションについても、情報を提供します。

モジュール: DFSLMGR0

関連情報:



IMS 異常終了 3310

DFS2292E PTR=SYMB IS NOT SPECIFIED ON THE LCHILD STATEMENT FOR DBD *dbdname*

説明: 基本 DEDB データベースの HISAM 副次索引データベースまたは SHISAM 副次索引データベースを定義するための LCHILD ステートメントが、メッセージ内の DBD *dbdname* で示された PTR=SYMB を指定していません。PTR=SYMB は、高速機能副次索引データベースに対する唯一有効なポインター・オプションです。

システムの処置: ACB 保守ユーティリティは、DBD の処理を停止します。基本 DEDB データベースおよびその副次索引データベースは、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

システム・プログラマーの応答:

1. DBD に関する LCHILD ステートメントの PTR=SYMB を変更する。
2. DBDGEN ユーティリティを再び実行する。
3. DBD に関する BUILD ステートメントを使用し、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DBFUDLB0

DFS2293E HISAM AND SHISAM INDEXES ARE IN SAME PARTITON GROUP FOR DBD *dbdname*

説明: LCHILD ステートメントは、メッセージ内の DBD *dbdname* で示されている、同一のユーザー・データ区画グループ内の HISAM 副次索引データベースおよび SHISAM 副次索引データベースを指定します。ユーザー・データ区画グループは、すべて HISAM 副次索引区画データベースで、またはすべて SHISAM 副次索引区画データベースで、構成する必要があります。

システムの処置: ACB 保守ユーティリティは、DBD の処理を停止します。基本 DEDB データベースおよびその副次索引データベースは、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答:

1. DBD の LCHILD ステートメントの NAME オペランドで、ユーザー・データ区画グループに入っているのがすべて HISAM 副次索引データベースになるように、またはすべて SHISAM 副次索引データベースになるように、変更する。
2. DBDGEN ユーティリティを再び実行する。
3. DBD に関する BUILD ステートメントを使用し、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DBFUDLBO

**DFS2294E UNIQUE AND NON-UNIQUE KEY
HISAM INDEXES ARE IN SAME
PARTITION GROUP FOR DBD
*dbdname***

説明: LCHILD ステートメントは、メッセージ内の DBD *dbdname* で示されている、同一のユーザー・データ区画グループ内の固有キー HISAM 副次索引データベースおよび非固有キー HISAM 副次索引データベースを指定します。ユーザー・データ区画グループは、すべて固有キー HISAM 副次索引区画データベースで、またはすべて非固有キー HISAM 副次索引区画データベースで、構成する必要があります。

システムの処置: ACB 保守ユーティリティは、DBD の処理を停止します。基本 DEDB データベースおよびその副次索引データベースは、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答:

1. DBD の LCHILD ステートメントの NAME オペランドで、ユーザー・データ区画グループに入っているのがすべて固有キー HISAM 副次索引データベースになるように、またはすべて非固有キー HISAM 副次索引データベースになるように、変更する。
2. DBDGEN ユティリティを再び実行する。
3. DBD に関する BUILD ステートメントを使用して、ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DBFUDLBO

**DFS2295E SOME SENSEG STATEMENT IS
INVALID FOR FAST PATH
SECONDARY INDEX *dbdname* FOR
PCB *pcbname* IN PSB *psbname***

説明: PSB *psbname* の PCB *pcbname* に関する高速機能副次索引 *dbdname* に対して、1 つ以上の SENSEG ステートメントは無効です。ターゲット・セグメントがルート・セグメントでない場合、セグメントのサブセットにのみアクセス可能です。

システムの処置: ACB 保守ユーティリティは、PSB の処理を停止します。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答: ターゲット・セグメントがルート・セグメントでない場合は、SENSEG ステートメントの規則を使用して適切な訂正を行って、PSBGEN ユティリティを再度実行し、PSB に関する BUILD

ステートメントを使用して ACBGEN ユティリティを実行してください。

以下の規則を使用して、無効な SENSEG ステートメントを訂正してください。

- ターゲット・セグメントがルート・セグメントでない場合、以下のとおりです。
 - ルート・セグメントからターゲット・セグメントまで、すべての直接の親セグメントは、データベース構造の物理的な順序で指定しなければならない。
 - ターゲット・セグメントの直接の親セグメントはアクセス可能。ターゲット・セグメントの直接の親セグメントを戻したくない場合は、直接の親セグメントの SENSEG ステートメントで PROCOPT=K オペランドを指定します。
 - ターゲット・セグメントの子セグメントはアクセス可能。ターゲット・セグメントの子セグメントにアクセスしたい場合は、その子セグメントに関して SENSEG ステートメントを指定します。
 - ターゲット・セグメントの直接の親セグメントでないセグメント、またはターゲット・セグメントの子セグメントでないセグメントには、アクセスできません。
- ターゲット・セグメントがルート・セグメントである場合、ターゲット・セグメントの下のすべてのセグメントにアクセス可能。

モジュール: DBFUDLBO

**DFS2296A INCORRECT INPUT LOG DD
SPECIFICATION**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- 入力ログに関して、DD DUMMY が指定された。
- 複数の DD ステートメントが指定されたが、正しい DD 名または順序、あるいはその両方が指定されなかった。

システムの処置: データベース・バックアウト・ユーティリティ DFSBBO00 が終了し、戻りコード X'3C' が示されます。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2297 PURGE KEYWORD IS INVALID,
LINK NOT CTC**

説明: /PSTOP LINK PURGE コマンドが入力されましたが、リンクがチャンネル間リンクではありません。

DFS2298A • DFS2300I

システムの処置: コマンドは実行されません。

マスター端末オペレーターの応答: 1 つのチャンネル間リンクのみを使用して、コマンドを再入力してください。

DFS2298A NEED MORE LOG DATA SETS FOR BACKOUT OF PSB *psbname*

説明: バックアウトする必要があるジョブは、バッチ・バックアウトへの入力として提供されたログ・データ・セット・シリーズ内に同期点がありません。バッチ・バックアウトは、以前のログ・データ・セットを、このメッセージが出されることになった実行で使用されたログ・データ・セットと共に組み込んで、再実行する必要があります。

システムの処置: バックアウトが試みられる前に、ジョブが終了し、条件コード 64 が示されます。

プログラマーの応答: バッチ・バックアウトを再実行し、以前のログ・データ・セットを、この実行で使用したログ・データ・セットと共に組み込んでください。

DFS2299A OPEN MNPS ACB WAS NOT SUCCESSFUL REG15=*xx* ACBERFLG=*yyy*, REPLY RETRY OR CANCEL

説明: MNPS XRF テークオーバー時に MNPS ACB のオープンを実行して 3 回試みて失敗した後、代替 IMS システムは WTOR を発行し、オペレーターからの応答を待ちます。*xx* は、レジスター 15 内の OPEN 戻りコードで、*yyy* は VTAM が戻した ACB エラー・フィールドです。これらの値は 10 進数として表示されます。

RETRY を応答すると、代替 IMS は、必要であればさらに 3 回、ACB をオープンしようとします。CANCEL を応答すると、代替システムは ACB のオープンの試みを停止し、テークオーバー・プロセスを再開します。

RETRY または CANCEL 以外の応答は無効であり、WTOR が再発行されます。

システムの処置: IMS は、オペレーターからの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 問題を訂正し、WTOR に応答してください。

システム・プログラマーの応答: エラー・コードの詳細な説明については、「z/OS Communications Server: SNA メッセージ」、「z/OS Communications Server: SNA Programming」、および「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」を参照してください。

モジュール: DFSHC100

DFS2300I IMS-MS VERIFICATION UTILITY-RUN *aaaaaaaa mm/dd/yy hh:mm:ss*

説明: *aaaaaaaa* が曜日、*mm/dd/yy* が日付、*hh:mm:ss* が時刻です。

システムの処置: 入力妥当性検査が続行されます。

第 50 章 DFS メッセージ DFS2301I - DFS2350I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2301I INPUT xxx...

説明: xxx... は、SYSIN データ・セットから読み込まれた入力ステートメントです。

システムの処置: 入力妥当性検査が続行されます。

DFS2302I SYSTEM MODULES

説明: このメッセージはヘッダーです。モジュール名のリストについては、DFS2303I を参照してください。

システムの処置: 入力妥当性検査が続行されます。

関連情報:

DFS2303I

DFS2303I aaaaaaaaa

説明: aaaaaaaaa は、有効な入力から作成されたモジュール名です。

システムの処置: 入力妥当性検査が続行されます。

プログラマーの応答: これらの名前が検査されるモジュールであるか、確認してください。

DFS2304X xxx-CONTAINS A NON-NUMERIC CHARACTER

説明: xxx に数字以外の文字が含まれていました。有効な接尾部は 1 から 255 です。

システムの処置: 入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答: 入力データは 1 から 255 の範囲の数値である必要があります。無効の入力データを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2305X aaaa-MORE THAN THREE DIGITS

説明: 入力データ aaaa に 3 桁を超える数字が含まれていました。

システムの処置: 入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答: 入力データは 1 から 255 の範囲

の数値で、1 から 3 桁の数で表される必要があります。

DFS2306X aaa-IS NOT IN THE RANGE FROM 1 TO 255

説明: 入力データ aaa が 1 より小か、255 より大でした。これは 1 から 255 の数値である必要があります。

システムの処置: 入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答: 無効の入力データを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2307X aaa-IS A DUPLICATE SUFFIX

説明: 入力データ aaa は、入力データとしてすでに指定されました。入力接尾部が表示できるのは、それぞれのプログラム実行ごとに 1 回のみです。

システムの処置: 入力データの妥当性検査は完了します。入力データが無効のため、さらに処理が行われることはありません。

プログラマーの応答: 無効の入力データを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2308X AT LEAST TWO SYSTEMS MUST BE SPECIFIED

説明: 入力データが提供されていなかったか、入力に含まれている有効な接尾部エントリーが 2 つのみであったか、ブランクが検出されました。最初のブランクが検出された時点で、ステートメントでの入力処理は終了します。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 複数の有効な接尾部が指定されたか、入力データに埋め込まれたブランクがないか、1 桁目がブランクではないか確認してください。プログラムを再実行してください。

DFS2309X PERMANENT I/O ERROR READING DIRECTORY

説明: BLDL マクロ呼び出しの結果、戻りコード 8 が表示されました。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: BLDL マクロ完了コードについての情報を参照してください。

関連資料:

 z/OS: BLDL の完了コード

DFS2310X MODULE-DFSMSaaa-NOT FOUND

説明: BLDL がディレクトリーを検索しましたが、モジュール DFSMSaaa は検出されませんでした。aaa は、モジュール名の変数部分を表します。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 正しいライブラリーにアクセスしているか、入力データが処理される正しい接尾部を指定しているか、モジュール DFSMSaaa がライブラリーにあるか判別してください。

DFS2311X PARTNER ID aa DEFINED MORE THAN TWICE AND IGNORED

説明: ID aa が 3 つ以上のシステムで、論理リンクで定義されています。

システムの処置: 論理リンクは、エラーであるとして示され、検査処理で参照されるときは、定義されていない場合と同様に処理されます。検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: DFS2312I を参照してください。論理リンクが後続の検査処理に組み込まれる前に、この条件を訂正してください。

関連情報:

『DFS2312I』

DFS2312I aa IN LOGICAL LINK bbb DEFINED IN DFSMSccc

説明: パートナー ID が参照できるのは、2 つのシステムのみですが、3 つ以上のシステムで表示されるものが検出されました。aa は 2 文字パートナー ID です。bbb は、パートナー ID が定義されている論理リンク番号です。ccc は、パートナー ID - 論理リンク番号 - が定義されているモジュール接尾部です。DFS2311X を参照してください。これらのメッセージのうち少なくとも 3 つが、このパートナー ID を定義しているそれぞれのシステムごとに 1 つずつ印刷されます。

システムの処置: 検査は続行されますが、この論理リンク番号は後続の検査処理には組み込まれないままです。

プログラマーの応答: 正しい 2 つの参照を判別し、残りは変更してください。

関連情報:

『DFS2311X』

DFS2313X INCONSISTENT ATTRIBUTES IN MSPLINKS ASSOCIATED WITH PARTNER ID aa

説明: 物理リンクは、パートナー ID aa に関して 2 つのシステムの論理リンク定義で定義されましたが、物理リンクの属性に互換性がありません。DFS2314I に非互換性がリストされています。

システムの処置: 検査が続行されます。

プログラマーの応答: 詳しくは、DFS2314I を参照してください。

関連情報:

『DFS2314I』

DFS2314I DFSMSaaa LOGICAL LINK bbb MSPLINK ccccccc DEFINED TYPE=ddd, BUFSIZE=eeeeefffffffffffffff

説明: DFSMSaaa はシステム・モジュール名であり、その bbb が論理リンク番号です。論理リンクに割り当てられた物理リンクの属性の 1 つは、互換性がありません。

aaa システム・モジュール接尾部
 bbb 論理リンク番号
 cc...cc 物理リンク名
 ddd 物理リンク・タイプで、次のいずれか

BSC BISYNC を意味する
MTM 主記憶域間を意味する
CTC チャネル間を意味する
VTAM

同期データ・リンク制御 (SDLC) 通信を意味する

eeeee バッファー・サイズ
 ff..ff 物理リンク・タイプが BSC または VVTAM の場合のみ表示

TYPE=BSC
 CONTROL=YES または CONTROL=NO (BSC システムの 1 つでは CONTROL=YES を、1 つでは CONTROL=NO を指定する必要があります)

TYPE=VTAM
 SESSION=nnn (nnn は、この MSC/VTAM リンクで許容される並列セッションの最大数)

システムの処置: 検査が続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS2313X を参照し、システムの無効の属性を訂正してください。

関連情報:

DFS2313X

DFS2315I DFSMS^{aaa} LOGICAL LINK *bbb* ID *cc* NOT ASSIGNED MSPLINK CORRESPONDING TO *ddddddd* IN DFSMS^{eee}

説明: DFSMS^{aaa} はシステム・モジュール名であり、その *bbb* が論理リンク番号です。このリンクは、物理リンクが割り当てられていません。DFSMS^{eee} のパートナー ID *cc* との対応する論理リンクは、物理リンク *ddddddd* が割り当てられています。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: 物理リンクがシステム定義または実行時に割り当てられるのか判別してください。定義時に割り当てられるのであれば、プログラムを訂正して再実行してください。実行時に割り当てられるのであれば、この物理リンク・エラー・メッセージは無視してください。

DFS2316W DFSMS^{aaa} MSPLINK *bbbbbbbb* NODENAME *ccccccc* DOES NOT MATCH APPLID *ddddddd* IN DFSMS^{eee}

説明: MSVERIFY 制御ブロック・モジュール DFSMS^{aaa} において、MSPLINK マクロで VTAM ノード名 (NAME=*ccccccc*) を使用して定義された物理リンク *bbbbbbbb* が、パートナー MSVERIFY 制御ブロック・モジュール DFSMS^{eee} の COMM マクロで定義されている APPLID=*ddddddd* と一致しません。

IMS システムとそのパートナーの VTAM APPLID が一致しないか、システム定義中に静的に指定された (例えば、APPLID=NONE は COMM マクロで指定) か、いずれかです。IMS 実行時に解決される VTAM アプリケーション・プログラム名が一致する (例えば、IMSA の VTAM APPLID が、パートナー・ノード名に一致する) 場合は、これはエラーではありません。VTAM アプリケーション・プログラムの命名規則の詳細については、VTAM の資料を参照してください。

システムの処置: 検査が続行されます。

プログラマーの応答: APPLID 名が VTAM 命名規則に準拠しているか検証してください。準拠していない場合は、必要な変更を行い、検査プログラムを再実行してください。

問題判別: ありません。

DFS2317X PARTNER ID *aa* IN LOGICAL LINK *bbb* WITHIN DFSMS^{ccc} IS NOT DEFINED IN A SECOND SYSTEM

説明: パートナー ID は、2 つのシステムで参照される必要があります。*aa* は 2 文字パートナー ID です。*bbb* は、パートナー ID が定義されている論理リンク番号です。*ccc* は、パートナー ID - 論理リンク番号 - が定義されているモジュール接尾部です。

システムの処置: このパスに未コンプリートとしてフラグが立てられ、検査が続行されます。

プログラマーの応答: 未完成のシステム定義を判別してください。プログラムを訂正して再実行してください。

DFS2318X SYSID *sysid* HAS AN INVALID LOOP

説明:

sysid は、無効のパスが検出されている SYSID テーブルにある、3 文字 SYSID です。DFS2319I にエラーの追加説明があります。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: SYSID *aaa* については、DFS2319I を参照してください。

関連情報:

『DFS2319I』

DFS2319I DFSMS^{aaa} MSNAME *bbbbbbbb* PARTNER ID *cc* LOGICAL LINK *ddd* INVOLVED IN LOOP

説明: *aaa* はモジュール接尾部です。*bbbbbbbb* は MSNAME で、*cc* は PARTNER ID です。*ddd* は、このシステムの SYSID の論理リンク番号です。ループでは、論理リンク・パスがローカル SYSID に向けないで、それ自体に対してループを逆に定義したことを意味します。

システムの処置: このパスに無効としてフラグが立てられ、検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: これらのメッセージは複数発行され、それぞれが別のシステムの SYSID パスを記述しています。MSNAME が間違っただけの SYSID を参照していないか、MSNAME が間違っただけの論理リンク番号に接続されていないか、論理リンク定義が間違っただけのパートナー ID を使用していないか判別してください。

プログラムを訂正し再実行してください。

DFS2320X DFSMSaaa SYSID *sysid* IS NOT DEFINED

説明:

aaa はモジュール接尾部名で、*sysid* は 4 桁の SYSID です。システム DFSMSaaa で参照されている SYSID は、MSNAME 定義では指定されていません。この DFSMSaaa システムへのパスの確立によって、参照しているシステムにエラーがあるか、MSNAME 定義が SYSID *sysid* を正しく参照していないため、この DFSMSaaa システム定義が正しくないか、いずれかです。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: エラーのあるシステムを判別し、エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2322I TRANSACTION DEQUEUED BY OPERATOR

説明: トランザクションの実行前にトランザクションをデキューするために、/DEQ または QUE TRAN OPTION(DEQxxx) コマンドを使用しました。

システムの処置: APPC または OTMA 会話は割り振り解除されました。

ユーザーの処置: トランザクションを再実行依頼してください。

DFS2323X NO LOCAL DEFINED FOR SYSID *sysid*

説明:

検査対象の複数システム合計構成内で、4 桁の SYSID *sysid* は、ローカル SYSID が定義されておらず、別のシステムによって参照されています。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: ローカル SYSID はどこで定義されるべきか判別し、それに応じて MSNAME を定義するか、この SYSID はいずれのシステムでも参照しないようにしてください。プログラムを再実行してください。

DFS2324X MORE THAN ONE LOCAL DEFINED FOR SYSID *sysid*

説明:

sysid は、スキャン対象の 4 桁の SYSID です。複数システム合計構成に関するこの SYSID のスキャンで、この SYSID がローカルとして定義されている複数のシステムを、ユーティリティーが検出しました。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: 複数システム合計構成を検討してください。その SYSID の場合にどこがローカルであるべきかを判別し、このメッセージの後に続く DFS2325I で参照されているシステムを再定義してください。

エラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

関連情報:

『DFS2325I』

DFS2325I LOCAL DEFINED FOR DFSMSaaa

説明: *aaa* は、ローカル・システムが定義されている接尾部です。このメッセージは DFS2324X とともに表示されます。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: DFS2324X を参照してください。

関連情報:

DFS2324X

DFS2326X DFSMSaaa SYSID *sysid*-MSNAME ccccccc HAS NO PATH TO LOCAL SYSID THROUGH DFSMSddd

説明:

aaa はシステム・モジュールの接尾部です。*sysid* は、4 桁の SYSID です。*ccccccc* は、MSNAME です。システム DFSMSaaa が SYSID *sysid* で、DFSMSddd を通してローカル・システムへのパスを提供するのを妨げた以前のエラーを、IMS が検出しました。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: 以前のメッセージが、SYSID *sysid* を参照し、エラーの原因になったと推定されます。または、SYSID *sysid* に割り当てられた論理リンクのパートナー ID にエラーがありました。SYSID *sysid* に関して以前のエラーを訂正し、プログラムを再実行してください。

DFS2327I DFSMSaaa SYSID *sysid* OR MSNAME ccccccc SHOULD NOT BE ASSIGNED TO LOGICAL LINK *ddd*

説明:

aaa はシステム・モジュール接尾部です。*sysid* は、4 桁の SYSID です。*ccccccc* は、MSNAME です。*ddd* は、論理リンク番号です。SYSID *sysid* または MSNAME *ccccccc* を論理リンク *ddd* に割り当てると、ローカル SYSID への無効のパスが生じる原因になります。このメッセージが出されるのは、PARM=ALL が実行ステートメントで指定されている場合のみです。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: 示されている割り当ては行わないでください。

**DFS2330I DFSMSaaa SYSID sysid ccccc dddddddd
NOT VERIFIED**

説明:

aaa はシステム・モジュール接尾部です。sysid は、4 桁の SYSID です。cccc は、TRANS または LTERM のいずれかです。ddddddd は、TRANS/LTERM 名です。前に判別されたエラー状態が原因で、この TRANS/LTERM は検証されませんでした。DFS2323X メッセージまたは DFS2324X メッセージが、SYSID に関して表示されました。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: DFS2323X または DFS2324X で参照されている元の問題を訂正してください。プログラムを再実行してください。

関連情報:

572 ページの『DFS2323X』

572 ページの『DFS2324X』

**DFS2331X DFSMSaaa SYSID sysid ccccc dddddddd
IS NOT DEFINED WITHIN DFSMSeee
LTERM dddddddd MAY BE A
DYNAMIC RESOURCE**

説明:

リモート TRANS または LTERM は、SYSID sysid がローカルとして定義されている DFSMSeee では検出できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sysid 4 桁の SYSID
cccc TRANS または LTERM
ddddddd
TRANS または LTERM 名

定義されていないリソースが LTERM の場合、リソースはリモート・システムで動的に作成できます。これは手動で検査する必要があります。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージが出るのは、次の場合です。

- TRANS または LTERM が間違ったりリモート SYSID を参照している。
- TRANS または LTERM が、示されているシステムで定義されていない。

- LTERM が、示されているシステムでリモートとして定義されている。
- LTERM がリモート・システムで動的に作成されたりソースである。

LTERM が意図して動的に作成されたりソースである場合は、このメッセージは無視できます。そうでない場合は、LTERM が動的に作成された理由を判別し、エラーの条件を訂正し、プログラムを再実行してください。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2332X SYSID sysid TRANS bbbbbbbb HAS
INCOMPATIBLE ATTRIBUTES
BETWEEN SYSTEMS**

説明:

変数 sysid は、トランザクション bbbbbbbb によって参照される、4 桁のリモート SYSID です。このメッセージの後に DFS2333I メッセージが続き、2 つのシステムのトランザクションの属性が表示されます。

システムの処置: トランザクション記述メッセージが両方のシステムに関して表示され、検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: DFS2333I については、その説明を参照してください。

関連情報:

『DFS2333I』

**DFS2333I DFSMSaaa bbbbb,MSGTYPE=cccccc,
INQUIRY=ddd,eeeeee, ffffffff,ggggg**

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaa システム・モジュール接尾部。
bbbbbb REMOTE または LOCAL のいずれか。
cccccc SNGLSEG または MULTSEG。
ddd YES または NO。
eeeeee RECOVER または NORECOV。
fffffff FPATH=YES または SPA=nnn。ここで nnn は SPA サイズ。
ggggg SPA—FIXED のタイプ、またはブランク。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: 属性に誤りのあるシステムを判別し、それを訂正してください。プログラムを再実行してください。

**DFS2334X DFSMSaaa SYSID sysid ccccc dddddddd
HAS NO RETURN PATH TO
DFSMSeee**

説明: *eee* は、システム・モジュール接尾部で、その *cccc* (*ddddddd* という名前の TRANS または LTERM) は 4 桁の SYSID *sysid* をリターン・パスとして定義しています。SYSID *sysid* は未定義、またはローカルとして定義されます。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: SYSID *sysid* は、システム DFSMSaaa でリモートとして定義する必要があるのか、または DFSMSeee (TRANS または LTERM *ddddddd*) がリターン・パスに関して間違った SYSID を定義したのか判別してください。システムを訂正し、プログラムを再実行してください。

**DFS2335I DFSMSaaa SYSID sysid ccccc dddddddd
RETURN PATH TO DFSMSeee NOT
VERIFIED**

説明:

aaa は処理システム・モジュール接尾部です。*sysid* は 4 桁の戻り SYSID です。*cccc* は、TRANS または LTERM のいずれかです。*ddddddd* は、TRANS/LTERM 名です。*eee* は発信元システム・モジュール接尾部です。前に判別されたエラー状態が原因で、この TRANS/LTERM リターン・パスは検証されませんでした。DFS2324X メッセージが SYSID *sysid* に関して表示されます。

システムの処置: 検査処理が続行されます。

プログラマーの応答: DFS2324X で参照されている元の問題を訂正してください。プログラムを再実行してください。

関連情報:

572 ページの『DFS2324X』

**DFS2336A INSUFFICIENT STORAGE TO
ACQUIRE SBPSS CONTROL BLOCK**

説明: IMS が CSA (共通ストレージ域) から十分なストレージを獲得できなかったため、IMS オンライン環境で順次バッファリング (SB) で使用される制御ブロック SBPSS を作成できませんでした。

システムの処置: IMS オンライン・システムでは、順次バッファリングはもう使用できなくなりました。

ユーザーの処置: IMS 用の仮想記憶域を増やしてください。

**DFS2337A INSUFFICIENT STORAGE TO
ACQUIRE PST EXTENSION FOR
SEQUENTIAL BUFFERING**

説明: IMS が、順次バッファリング用として使用される拡張 PST を獲得できませんでした。

システムの処置: IMS オンライン・システムでは、順次バッファリングはもう使用できなくなりました。

ユーザーの処置: LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO=N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

**DFS2338I xxxxxxxx CAN NOT BE LOADED,
RC=nn**

説明: IMODULE マクロが、モジュール xxxxxxxx をロードできませんでした。IMODULE 戻りコード *nn* の説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS では、順次バッファリングは使用できません。

ユーザーの処置: IMODULE マクロから戻されたコードに基づいて、エラーを訂正してください。

関連資料:

➡ IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

**DFS2339I SEQUENTIAL BUFFERING UNABLE
TO ISSUE ERROR MESSAGE**

説明: 順次バッファリングが、エラー・メッセージの発行に使用される作業域を獲得できませんでした。

システムの処置: IMS では、送信するはずであったメッセージではなく、このメッセージを送信します。

ユーザーの処置: IMS 用の仮想記憶域を増やして割り振ってください。

**DFS2340I CONTROL CARDS IN //DFSCTL
CONTAIN ERRORS,
JOBNAME=xxxxxxx**

説明: JOB xxxxxxxx に関する //DFSCTL データ・セットの順次バッファリング (SB) 制御ステートメントに、エラーが 1 つ以上含まれていました。エラーについて記述している DFS メッセージが、z/OS コンソールだけでなく、ジョブの JES ログにも以前に書き込まれました。

システムの処置: DFS メッセージは、ジョブの JES ログおよび z/OS コンソールに対して書き込まれました。

ユーザーの処置: ジョブの JES ログおよび z/OS コンソールに対して書き込まれた DFS メッセージを参照してください。

**DFS2341I SPARSE|PARTITION EXIT *exitname*
FOR DEDB *dedbname* IS
LOADED|DELETED**

説明: スパース・ルーチンまたは区画選択ルーチンは、削除されたかまたは再ロードされたか、いずれかです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

exitname

削除または再ロードされた出口ルーチンの名前

dedbname

DEDB の名前

システムの処置: 処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFMSIU0

DFS2342E IMS *ver.rel* REQUIRES *facility*

説明: IMS が、使用不可であったシステム機能を必要としていたため、IMS アドレス・スペースを開始できませんでした。IMS の始動を妨げる機能には、ハードウェア (特定のハードウェア・レベルまたは機能がないものを含む)、およびソフトウェア (必要なソフトウェア・コンポーネントがインストールされていないか、正しいレベルでないものを含む) が含まれる場合があります。

メッセージ内の情報は次のとおりです。

ver.rel IMS バージョンとリリース・レベル。

facility IMS が必要とした機能で、使用不可であったものの、*facility* の値は、次のいずれかです。

Z/ARCHITECTURE MODE

IMS は、z/Architecture モードで稼働しているプロセッサ上でのみ実行できます。ESA およびそれ以下はサポートされなくなりました。

z/Architecture モードで z/OS システムを再 IPL するか、z/Architecture モードで稼働している別のマシンに、IMS アドレス・スペースを移動する必要があります。

64-BIT VIRTUAL SUPPORT

64 ビット仮想ストレージをサポートする z/OS リリースのみで IMS 以上を実行できます。このメッセージを受

け取る場合、64 ビット仮想ストレージを許可しない、サポートされていない z/OS レベルで IMS を実行しています。ご使用の z/OS を、現行リリースの IMS に対する最小レベルにアップグレードする必要があります。

SYSTEM Z10 OR HIGHER


IMS 15 以降は、System z10 プロセッサ (マシン・タイプ 2097) 以上でのみ実行できます。サポートされるプロセッサの詳しいリストについては、「IMS V15 リリース計画」を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了 0684 で終了し、アドレス・スペースは開始しません。


システム・プログラマーの応答: 示された機能を、IMS を実行するマシンで使用可能にするか、示された機能を持つ別のマシンで IMS を実行します。

モジュール: DFSVCI00

関連資料:

 プロセッサ要件 (リリース計画)

関連情報:

 IMS 異常終了 0684

**DFS2343A - //SYSIN CONTROL CARDS
CONTAINS ERROR(S)**

説明: //SYSIN データ・セットの SB テスト・プログラム制御ステートメントに、エラーが 1 つ以上含まれていました。

誤りのある制御ステートメントのリストの直後に、//SYSPRINT データ・セットの詳細なエラー記述が表示されます。

システムの処置: IMS は、SB テスト・プログラムを異常終了させます。

ユーザーの処置: //SYSPRINT データ・セットで誤りのある制御ステートメントそれぞれがリストされた後に表示されているエラー記述を基にして、エラーを訂正してください。

**DFS2344I NBR OF SELECTED
IMAGE-CAPTURE RECORDS FROM
SYSUT1= *nnnnnnnn***

説明: *nnnnnnnn* には、順次バッファリング (SB) テスト・プログラムが処理するために選択したイメージ・キャプチャー・レコードの数が示されています。このレコ

ード数には、処理できないイメージ・キャプチャー・レコードの数を含まず。

**DFS2345W NBR OF SELECTED RECORDS
SKIPPED WITH BLOCK-NBR
OUTSIDE OF DB DATA SET:**

nnnnnnnnnn

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) では、//SYSUT1 データ・セットのイメージ・キャプチャー・レコードによっては処理されなかったものもありますが、これはイメージ・キャプチャー・レコードの相対ブロック番号がデータベース・データ・セットの実限度の範囲外であったためです。

このエラーが発生する可能性があるのは、次の条件がすべて生じている場合のみです。

- データベースが元のイメージ・キャプチャーとテスト・プログラムの実行の間に再編成された。
- データベース再編成によって、データベース・データ・セット内のブロックの数が減少した。
- DBIO YES 制御ステートメントが //SYSIN データ・セットで指定された。

システムの処置: これらのイメージ・キャプチャー・レコードは、相対ブロック番号が実際のデータベース・データ・セット限度から外れているので、SB テスト・プログラムで処理されません。

ユーザーの処置: SB テスト・プログラムによるイメージ・キャプチャー・レコードの再処理は、イメージ・キャプチャー・ログ・レコードを生成したアプリケーションの処理と一致しないこととなります。DBIO YES 制御ステートメントなしの SB テスト・プログラムの実行を調べてください。

**DFS2346W NBR OF SELECTED RECORDS
SKIPPED BECAUSE DB DATA SETS
ARE NOT OPEN: *nnnnnnnnnn***

説明: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) では、//SYSUT1 データ・セットのイメージ・キャプチャー・レコードによっては処理されなかったものもありますが、これは IMS が、示されているデータベース・データ・セットの一部を開けなかったためです。

通常このメッセージの前に出される z/OS または IMS、あるいはその両方のメッセージに、データベース・データ・セットが開けなかった理由の詳細が記述されています。

システムの処置: これらのイメージ・キャプチャー・レコードは、開かれていないデータ・セットに属している

ため、SB テスト・プログラムで処理されることはありません。

ユーザーの処置: SB テスト・プログラムによるイメージ・キャプチャー・レコードの再処理は、イメージ・キャプチャー・レコードを生成したアプリケーションの処理と一致しません。

前に発行された IMS または z/OS メッセージ、あるいはその両方のメッセージに基づいてエラーを訂正してください。データベース・データ・セットおよび //DFSVSAMP 指定に必要なすべての DD ステートメントが存在し、それらが正しいことを確認してください。

DFS2347A INITIALIZATION ERROR

説明: IMS が、IMS 初期設定時に一部の小さい作業域用として十分な仮想記憶域を獲得できませんでした。

システムの処置: IMS が異常終了します。

ユーザーの処置: IMS 用の専用ストレージを広げて割り振ってください。

**DFS2348W INTERFACE ERROR BETWEEN
DFSSBIO0 AND OSAM FOR
PSB=xxxxxxx, DDN=yyyyyyyy**

説明: IMS が、DFSSBIO0 モジュールと OSAM アクセス方式の間でインターフェース・エラーを検出しました。この問題は IMS エラーです。

システムの処置: IMS がスナップ・ダンプを作成し、現行アプリケーションに関して順次バッファリング (SB) の使用を非活動化します。バッチ領域で実行中のアプリケーションの場合は、異常終了します。

ユーザーの処置: IMS 用の仮想記憶域を増やして割り振ってください。

**DFS2349W LENGTH OF NEXT AREA MIGHT BE
INCORRECT**

説明: IMS ダンプ・フォーマット設定モジュールが、不当に長いエリアをフォーマット設定するために要求されました。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマット設定モジュールでフォーマット設定するのは、可能な場合でも、要求されたエリアの先頭のみです。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

**DFS2350I SNAP-WORKAREA CAN NOT BE
GETMAINED**

説明: IMS モジュール DFSSBSN0 は、順次バッファリング (SB) 制御ブロックまたはエリアを SNAP するための作業域を獲得できませんでした。

システムの処置: IMS は、アプリケーションを異常終了させます。

ユーザーの処置: LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO=N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

第 51 章 DFS メッセージ DFS2351A - DFS2400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2351A SB NOT OPERATIONAL: SOFTWARE PROBLEMS PREVENT USAGE OF SB

説明: IMS ソフトウェア問題のため、IMS 実行時の順次バッファリング (SB) の使用ができません。z/OS か MTO、またはその両方のコンソールへの以前のメッセージに、ソフトウェア問題のタイプが記述されています。

システムの処置: IMS が現行 IMS 実行の残りの間に、SB を使用することはありません。

ユーザーの処置: IMS から以前に出されているエラー・メッセージを基にして、問題を訂正してください。

DFS2352W SOME SB CONTROL BLOCKS COULD NOT BE GETMAINED

説明: IMS ソフトウェア問題のため、一部の順次バッファリング (SB) 制御ブロックの正常な GETMAIN が妨げられました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムには、順次バッファリングによる利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置: 該当する場合は、IMS 用仮想記憶域を広げて割り振ってください。以前に出されているメッセージに、GETMAIN によって獲得されなかったストレージが示されています。

DFS2353W SOME SB BUFFERS COULD NOT BE GETMAINED

説明: IMS ソフトウェア問題のため、一部の順次バッファリング (SB) バッファの正常な GETMAIN が妨げられました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムには、順次バッファリングによる利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置: LSO=N の IMS DB/DC の場合は、CSA ストレージの量を増やして割り振り、LSO=N の IMS DB/DC、IMS バッチ、または DBCTL の場合は、専用ストレージの量を増やして割り振ってください。

DFS2354W MAXSB= LIMIT EXCEEDED

説明: IMS が IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx (IMS オンラインの場合)、または //DFSVSAMP データ・セット (バッチの場合) で指定された MAXSB ストレージ限度を超えました。MAXSB 限度では、IMS が順次バッファリング (SB) バッファ用として割り振れるストレージの最大量を指定します。

システムの処置: アプリケーション・プログラムでは、SB による利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置: MAXSB 限度を上げてください (該当する場合)。

DFS2355W SOME SB BUFFERS OR BLOCKS COULD NOT BE PAGE-FIXED

説明: IMS は、順次バッファリング (SB) バッファまたは制御ブロックのページ固定化ができませんでした。実ストレージが利用不能であったからです。

システムの処置: アプリケーション・プログラムでは、SB による利点は部分的にしか、またはまったく得られません。

ユーザーの処置: SB に割り振られているバッファ・スペースが大きすぎる場合は、この量を減らしてください (該当する場合)。

DFS2356W IOSB OR ITASK BLOCKS COULD NOT BE ACQUIRED

説明: 順次バッファリング (SB) では、OSAM IOSB または ITASK 関連制御ブロックが十分に獲得できなかったため、オーバーラップ入出力の最大量に対応し切れませんでした。

システムの処置: アプリケーション・プログラムまたはユーティリティーに関するオーバーラップ SB 入出力の量は限定されます。

ユーザーの処置: メッセージ DFS2342I が以前に出された場合は、IMS バッチ JCL プロシージャを開始するとき、IOB パラメーターにもっと大きい値を使用することを検討してください。

DFS2357W OPEN FOR DBD=xxxxxxx NOT SUCCESSFUL

DFS2358I • DFS2364E

説明: IMS は、DBD xxxxxxxx に関してデータベース PCB を開けませんでした。

システムの処置: 順次バッファリング (SB) テスト・プログラム (DFSSBHD0) は、実行し続けます。開かれなかったデータベース PCB が、//SYSUT1 データ・セットのイメージ・キャプチャー・レコードに関連している場合は、SB テスト・プログラムはレコードを処理せず、ジョブ・ステップの終了時に未処理レコードの数をメッセージ DFS2346W で出力します。

ユーザーの処置: メッセージ DFS2346W がジョブ・ステップの終了時に印刷される場合は、OPEN 問題に関連するメッセージを基にして、エラーを訂正してください。それ以外の場合は、このメッセージを無視してください。

関連情報:

576 ページの『DFS2346W』

DFS2358I NO STORAGE AVAILABLE FOR DFSERA20 - WORKAREA

説明: DFSERA20 動的作業域に関する GETMAIN が、必要スペースの獲得に失敗しました。

システムの処置: DFSERA20 の呼び出し元に戻され、IMS でスナップ・メモリー・ダンプを取ることはありません。

ユーザーの処置: アドレス・スペースを大きくして、必要な作業域を取得してください。

DFS2359I - DFSCIR NOT SUCCESSFUL FOR PSB=xxxxxxx, ERROR CODE=yy

説明: IMS は、PSB xxxxxxxx に関するオーバーラップ順次入出力の ITASK を初期設定できませんでした。DFSCIR マクロがレジスター 15 で、エラー・コード yy を戻しました。

システムの処置: 順次バッファリング (SB) では、一部の PCB またはデータベース・データ・セット、あるいはその両方については、オーバーラップ順次読み取りを使用しません。

ユーザーの処置: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

DFS2360I XCF GROUP JOINED SUCCESSFULLY.

説明: IMS は OTMA XCF グループに正常に結合しています。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSYJL00

DFS2361I XCF GROUP CLOSED SUCCESSFULLY.

説明: IMS は正常に OTMA XCF グループから離れました。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSYJL00

DFS2362I XCF GROUP JOIN FAILURE. ALREADY JOINED.

説明: IMS がすでに OTMA XCF グループのメンバーである場合は、そのグループには結合できません。

システムの処置: 元の XCF グループを使用して、処理は続行されます。

プログラマーの応答: /START OTMA コマンドをチェックし、必要な場合は、再発行してください。

モジュール: DFSYJL00

DFS2363I XCF GROUP CANNOT BE JOINED. NOT APF AUTHORIZED.

説明: IMS は APF 許可されていなかったため、OTMA XCF グループに結合できませんでした。

システムの処置: 処理は、OTMA を使用不可にして続行されます。

システム・プログラマーの応答: IMS は APF 許可されます。

モジュール: DFSYJL00

DFS2364E RC=rc REASON=reason XCF JOIN FAILURE.

説明: IMS が OTMA XCF グループに結合できないのは、示されている 4 バイトの XCF 戻りコードおよび理由コード (IXCJOIN からの) のためです。

システムの処置: 処理は、OTMA を使用不可にして続行されます。

プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの意味を確認して、エラーを修正してください。

モジュール: DFSYJL00

関連資料:

 z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コード

DFS2365I CANNOT LEAVE XCF GROUP. NOT JOINED.

説明: IMS が OTMA XCF グループのメンバーでない場合は、そのグループからは離脱できません。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: /STOP OTMA コマンドをチェックし、必要な場合は、再発行してください。

モジュール: DFSYJL00

DFS2366E PARTITION SPECIFIED IN PROCSEQD OPERAND IS NOT THE FIRST PARTITION FOR PCB *pcbname* IN PSB *psbname*

説明: 高速機能 HISAM または SHISAM 副次索引データベースのためにユーザー区画化が要求されています。しかし、PCB ステートメントの PROCSEQD で指定されたユーザー区画データベースは、基本 DEDB データベース DBD 上で LCHILD ステートメントの NAME オペランドに定義されているとおりの、ユーザー区画グループ内で最初のユーザー区画ではありません。

システムの処置: ACB 保守ユーティリティは、PSB の処理を停止します。メッセージで示されている基本 PSB は、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答:

1. PCB ステートメントの PROCSEQD オペランドを変更して、ユーザー区画グループ内の最初のユーザー区画データベースを指定するように変更する。
2. PSBGEN ユーティリティを再び実行する。
3. PSB に関して ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DBFUDLB0

DFS2367E DFS2367E PSELOPT OPERAND IS SPECIFIED BUT USER PARTITIONING IS NOT REQUESTED FOR PCB *pcbname* IN PSB *psbname*

説明: 高速機能 HISAM 副次索引データベースまたは高速機能 SHISAM 副次索引データベース用に、ユーザー区画化が要求されていません。1 つの副次索引データベースのみが、基本 DEDB データベース DBD の LCHILD ステートメント上で NAME オペランドに指定されています。しかし、区画選択オプション (PSELOPT) オペランドが、基本 DEDB データベースの

PCB ステートメントで指定されています。

システムの処置: ACB 保守ユーティリティは、PSB の処理を停止します。メッセージで示されている基本 PSB は、ACB ライブラリーから削除されます。ACB 保守ユーティリティの実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答:

1. PCB ステートメントの PSELOPT オペランドを除去する。
2. PSB 生成ユーティリティを再度実行する。
3. PSB に関して ACB 保守ユーティリティを実行する。

モジュール: DBFUDLB0

DFS2368I OIC TCB INITIALIZATION COMPLETE

説明: OTMA サーバー・タスク制御ブロック (TCB) が初期設定され、OTMA サーバーは処理の準備ができています。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSYCTL0

DFS2369I OIM TCB INITIALIZATION COMPLETE

説明: OTMA クライアント・タスク制御ブロック (TCB) が初期設定され、OTMA クライアントは処理の準備ができています。

TMEMBER ごとに 1 つの OIM TCB があります。OTMA ワークロードで必要になると、IMS セッション中に新しい TCB が初期設定されます。このプロセスが起きるたびに、このメッセージが出されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSYIM00

DFS2370I INVALID RETURN CODE *rc* FROM USER EXIT *exitname*

説明: ユーザー出口ルーチンが無効の戻りコードを戻しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc 2 バイトの戻りコード。

exitname

8 バイトのユーザー出口ルーチン名。ルーチンは、通常 DFSYPRX0 または DFSYDRU0 です。

DFS2371I • DFS2377A

プログラマーの応答: 出口ルーチンを訂正してください。

モジュール: DFSYFN00

DFS2371I OTMA DRU OVERRIDE LIMIT REACHED

説明: DFSYDRU0 出口ルーチンでオーバーライド限度に達し、ルーチンはメッセージの転送先となる新規クライアントの指定を試みました。新規クライアントを指定できるのは、DFSYDRU0 出口 1 つのみです。

プログラマーの応答: DFSYDRU0 出口ルーチン、特に、クライアント・オーバーライド論理を訂正してください。

モジュール: DFSYFN00

DFS2372I INVALID MEMBER NAME SET BY DFSYPRX0

説明: OTMAYPRX ユーザー出口ルーチンが OTMA トランザクションを指定しましたが、OTMA クライアント名を指定しませんでした。このメッセージが出されるのは、トランザクションが非 OTMA 送信元から入力されているときのみです。

プログラマーの応答: OTMAYPRX ユーザー出口、特に、クライアント・オーバーライド論理を訂正してください。

モジュール: DFSYFN00

DFS2373I OTMA DRU OVERRIDE TO INVALID TMEMBER

説明: DFSYDRU0 ユーザー出口ルーチンが新規クライアントの使用を要求しました。しかし、指定されたクライアント名が規定されていなかったか、出口が呼び出されることになった現行クライアントと同じ名前であったか、いずれかです。

プログラマーの応答: DFSYDRU0 出口ルーチン、特に、クライアント・オーバーライド論理を訂正してください。

モジュール: DFSYFN00

DFS2374W OTMA GROUP NAME HAS CHANGED FROM *oldname* TO *newname*.

説明: ウォーム再始動または緊急時再始動中に、IMS が XCF グループ *newname* に、OTMA 処理のために参加しようとしていました。しかし、このグループは、再始

動ログ・レコードに含まれているグループ名 *oldname* とは異なっていました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答: 始動プロシージャに指定されているグループ名 *newname* が正しいか確認してください。

モジュール: DFSYRST0

DFS2375W IMS HAS CHANGED ITS OTMA MEMBER NAME FROM *oldname* TO *newname*.

説明: ウォーム再始動または緊急時再始動中に、IMS が OTMA クライアント *newname* に接続しますが、これが再始動ログ・レコードに含まれているクライアント名 *oldname* とは異なっていました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答: クライアント名 *newname* が、IMS に接続するすべての OTMA クライアントで既知であるか確認してください。

モジュール: DFSYRST0

DFS2376W IMS OTMA MEMBER NAME *name* IS THE SAME AS A PREVIOUSLY ACTIVE CLIENT.

説明: ウォーム再始動または緊急時再始動中、IMS OTMA クライアント名 *name* は、既存の OTMA クライアントの名前と同じでした。そのクライアントは、IMS にもう接続できなくなっています。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

プログラマーの応答: IMS OTMA クライアント名 *name* が正しいか確認してください。

モジュール: DFSYRST0

DFS2377A SYSIN: end-of-file.

説明: HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティー (DFSMAID0) の SYSIN 制御ステートメントが見つかりませんでした。

システムの処置: ユーティリティーの処理は終了しません。

システム・プログラマーの応答: SYSIN 制御ステートメントを JCL に追加して、ユーティリティーを再実行します。

モジュール: DFSMAID1

DFS2378A Error parsing SYSIN.

説明: HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) の SYSIN 制御ステートメントが正しくありませんでした。パラメーター間でブランクが欠落していないか、または KR= フィールドの直後に C' または X' が欠落していないかどうかを確認してください。

システムの処置: ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: SYSIN 制御ステートメントのエラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSMAID1

DFS2379A A single ' found in a character string.

説明: HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) の SYSIN 制御ステートメントで、KR= フィールドの文字ストリング内に単一引用符が入っていました。例えば KR=C'ZZZZZZ' ではなく KR=C'ZZZ'ZZ' でした。

システムの処置: ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 文字ストリング内の単一引用符を除去し、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFSMAID1

DFS2380A Unsorted keys in SYSIN.

説明: HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) の SYSIN 制御ステートメントに、昇順でないキー範囲が含まれていました。

例えば、ユーザーは、KR=C'J00400' の後に、KR=C'J00200' をコーディングしました。

システムの処置: ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: キー範囲のフィールドを昇順にリストし、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFSMAID1

DFS2381A CTDLI ('GSCD') returned status xx.


説明: GSCD システム・サービス呼び出しを使用した DLI マクロへの C 言語プログラムが、xx という状況コードを戻しました。

システムの処置: ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 受け取った xx 状況コードの説明を参照してください。問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSMAID1

関連資料:

 EXEC DLI コマンド (アプリケーション・プログラミング API)

DFS2382I THE NUMBER OF OTMA TYPE D DESCRIPTORS IS NOW BELOW THE MAXIMUM OF *mmm*

説明: OTMA 宛先 (タイプ D) 記述子の数が最大値になりましたが、現在は最大よりも小さくなっています。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

mmm OTMA 宛先記述子の最大許容数は 510 です。

プログラマーの応答: OTMA 宛先 (タイプ D) 記述子は、CREATE OTMADESC コマンドによってもう一度追加できます。

モジュール: DFSYCMR0

DFS2383E ENCOUNTERED DATABASE RECORDS LARGER THAN 16M. PLEASE USE SAMPLING AND RERUN THE UTILITY.

説明: HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) が、16MB を超えるデータベース・レコードを検出しました。サンプリングを使用する必要があります。

システムの処置: ユーティリティは終了し、RC = 103 が示されます。

システム・プログラマーの応答: SYSIN 制御ステートメントに SAMPLE=xxx を追加し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSMAID0

DFS2384W THE NUMBER OF OTMA TYPE *t* DESCRIPTORS IN MEMBER *member* HAS REACHED THE MAXIMUM OF *mmm*

または

DFS2385E

THE NUMBER OF OTMA TYPE *t* DESCRIPTORS HAS REACHED THE MAXIMUM OF *nnn*

説明: OTMA DFSYDTx PROCLIB メンバーに定義されている OTMA type-*t* 記述子の数が、type-*t* 記述子の最大許容数に達しました。

t 記述子タイプ (D または M)。

タイプ D 記述子は、OTMA 宛先記述子です。タイプ M 記述子は、OTMA クライアント記述子、および DFSOTMA 記述子 (定義されている場合) です。

member

その記述子が入っている、IMS.PROCLIB データ・セット内の OTMA DFSYDTx メンバーの名前。

nnn *t* で示される記述子タイプの記述子の最大許容数。

このメッセージの 2 番目の形式は、CREATE OTMADESC コマンドを使用して記述子を追加した結果、最大値に達した場合に、表示されます。

プログラマーの応答: 記述子の最大許容数を増やすか、1 つ以上の既存の記述子を削除しない限り、リストされているタイプの記述子をこれ以上追加することはできません。代わりに、既存の記述子定義を変更して、新しいクライアントまたは宛先を参照するようにすることは可能です。

クライアント (タイプ M) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の MDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、255 です。

宛先 (タイプ D) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の DDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、510 です。

ALTPCB 宛先の宛先記述子の場合、新しい記述子を入れるために最大許容数を増やすことができず、かつ既存の宛先記述子の削除や変更もできない場合は、OTMA 宛先解決出口ルーチン (OTMAYPRX) および OTMA ユーザー・データ・フォーマット設定出口ルーチン (DFSYDRU0) で定義をコーディングすることができます。

モジュール: DFSYIDC0、DFSYCMR0

DFS2385E SYNTAX ERROR FOR DESCRIPTOR = *descriptor errortext*

説明: OTMA 記述子構文解析エラーが発生しました。詳しくは、LU 6.2 記述子構文解析エラーに関する DFS1956E メッセージを参照してください。*descriptor* は、16 バイトの記述子名です。*errortext* は、次の値のいずれかです。

- DDESCMAX MUST BE 1 TO 4 CHARACTERS LONG
- DDESCMAX ONLY VALID ON DFSOTMA
- DRU COULD NOT BE LOADED
- DRU MUST BE 1 TO 8 CHARACTERS LONG
- DSAP MUST BE 1 TO 3 CHARACTERS LONG
- DSAPMAX MUST BE 1 TO 3 CHARACTERS LONG
- DUPLICATE DDESCMAX KEYWORD
- DUPLICATE DESCRIPTOR NAME FOUND
- DUPLICATE DRU KEYWORD
- DUPLICATE DSAP KEYWORD
- DUPLICATE DSAPMAX KEYWORD
- DUPLICATE EXIT KEYWORD
- DUPLICATE LIMITRTP KEYWORD
- DUPLICATE LOGSTR KEYWORD
- DUPLICATE MDESCMAX KEYWORD
- DUPLICATE MULTIRTP KEYWORD
- DUPLICATE SYNTIMER KEYWORD
- EXIT MUST BE YES OR NO
- ILLEGAL KEYWORD
- INVALID MEMBER NAME
- LIMITRTP MUST BE 1 TO 4 CHARACTERS LONG
- LOGSTR MUST BE YES OR NO
- MDESCMAX MUST BE 1 TO 4 CHARACTERS LONG
- MDESCMAX ONLY VALID ON DFSOTMA
- MEMBER NAME LONGER THAN 16 CHAR
- MEMBER NAME NOT GIVEN OR BEGINS AFTER COLUMN 3
- MULTIRTP MUST BE YES OR NO
- NO PARAMETER GIVEN FOR THIS KEYWORD
- NON-NUMERIC CHARACTERS WERE FOUND IN THE LIMITRTP PARAMETER
- NON-NUMERIC CHARACTERS WERE FOUND IN THE SYNTIMER PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN DDESCMAX PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN DSAP PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN DSAPMAX PARAMETER
- NON-NUMERIC FOUND IN MDESCMAX PARAMETER
- SECOND COLUMN MUST BE BLANK
- SYNTIMER MUST BE 1 TO 6 CHARACTERS LONG
- UNRECOGNIZED CHARACTERS FOUND DURING KEYWORD SEARCH

プログラマーの応答: 問題を訂正してください。

モジュール: DFSYIDC0

関連情報:

484 ページの『DFS1965E』

DFS2386I OTMA IS CONNECTING TO THE MEMBER xxxxxxxxxxxx

説明: IMS OTMA が、XCF メンバー名 xxxxxxxxxxxx のメンバーから接続要求を受信しました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: OTMA は、OTMA メンバー・ブロックを接続要求で初期設定することにより接続を行い、確認メッセージ (ACK) をその OTMA メンバーに送信します。

プログラマーの応答: IMS 自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) 出口は、特定のメンバーが IMS OTMA に接続しているかどうかを識別するために、このメッセージを検出できます。

モジュール: DFSYMOM0

DFS2387X UNABLE TO OPEN SYSOUT DATA SETS

説明: SYSOUT データ・セットを開こうと試みていて、OPEN エラーが発生しました。

システムの処置: 複数システム検査ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: OPEN 障害を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2388X UNABLE TO OPEN SYSIN DATA SET

説明: SYSIN データ・セットを開こうと試みている最中に、OPEN エラーが発生しました。

システムの処置: 複数システム検査ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントをチェックしてください。OPEN 障害を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2389I XCF SEND RC=xxxxxxxx REASON=yyyyyyyy,

説明: OTMA が MVS/XCF IXCMSGO を呼び出して、送信を出しましたが、送信は失敗しました。

プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの意味を確認してください。

問題判別: 5

モジュール: DFSYSND0

関連資料:

 z/OS: IXCMSGO の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2390I FP TRAN ttttttt SEND FAIL. TPIPE=ppppppppp Member=xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx MSG:xxxxxxxx

説明: アプリケーション・プログラム送信が失敗したか、トランザクション ttttttt の処理中に、OTMA クライアントから NACK メッセージを受信しました。MSG xxxxxxxx には、処理対象の出力メッセージのうち最大 40 文字が含まれます。

システムの処置: このメッセージで識別されている出力トランザクションは、IMS システムから除去されます。

プログラマーの応答: 送信が失敗した、またはクライアントから NACK メッセージを受信した、原因を訂正してください。

問題判別: 5

モジュール: DFSYSLM0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2391I MESSAGE DEQUEUE FAILED DURING RESYNCH FOR TMEMBER = xxxxxxxxxxxxxxxx TPIPE = xxxxxxxx

説明: 再同期中に送られた IMS キュー・マネージャー・デキュー呼び出しが失敗しました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: NACK X'0026' メッセージが生成され、Tpipe に関する再同期が停止されます。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

モジュール: DFSYQAB0

DFS2392I COMMAND NOT ALLOWED DURING RESYNCH

説明: OTMA 再同期の進行中に /DEQUEUE コマンドが発行されると、このメッセージが出されます。

システムの処置: コマンドは実行されません。

モジュール: DFSYCLJ0

DFS2393I SRVRESYNCH REJECTED BY TMEMBER=xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: OTMA クライアントが、OTMA 再同期に関して IMS が発行した SRVresynch コマンドをリジェクトしました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: OTMA 再同期は停止します。

プログラマーの応答: 必要があれば、クライアントの再同期論理をチェックしてください。

モジュール: DFSYMEM0

DFS2394I CLBID RECEIVED FOR TMEMBER=xxxxxxxxxxxxxxxx WITH SYNCHRONIZED TPIPES

説明: IMS がクライアント・ビッド要求を受信しましたが、IMS には、クライアントとの再同期が必要な同期 Tpipe があります。

システムの処置: クライアント・ビッド要求処理が続行されます。

プログラマーの応答: クライアントが OTMA 再同期をサポートしている場合は、CBresynch コマンドの発行をお勧めします。

モジュール: DFSYMEM0

DFS2395I XCF MESSAGE EXIT HAS UNEXPECTED RESPONSE

説明: このメッセージが出されるのは、予想外にも、IMS がクライアントから応答メッセージを受信したときです。

システムの処置: メッセージはリジェクトされます。

プログラマーの応答: メッセージ接頭部の応答ビット (TMAMCRSP) をオフにし、メッセージを再実行依頼してください。

モジュール: DFSYMGX0

DFS2396I RESET SEQUENCE NUMBER FAILED DURING RESYNCH FOR TMEMBER = xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx TPIPE = xxxxxxxx

説明: 再同期中にリカバリー可能シーケンス番号のリセットのために発行された、IMS キュー・マネージャー呼び出しが失敗しました。

このメッセージは、IMS マスター端末およびオペレーター宛メッセージ (WTO) 端末に表示されます。

システムの処置: NACK X'0027' メッセージが生成され、Tpipe に関する再同期が停止されます。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を判別するための支援を受けてください。

モジュール: DFSYQAB0

DFS2397E Error in writing record statistics to dataspace.

説明: 統計をデータ・スペース・ストレージに書き込み中に、HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) がエラーを検出しました。ユーティリティからの戻りコードは、障害が発生したかどうかを示します。

戻りコード (16 進数)

	意味
00	正常
08	エラーが検出されました。

システムの処置: エラーが発生した場合、ユーティリティの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: エラーが発生した場合、ユーティリティの内部戻りコードをチェックしてください。ユーティリティとその戻りコードについては、HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) についての情報を参照してください。

モジュール: DFSMAID1

関連資料:

➡ HALDB マイグレーション・エイド・ユーティリティ (DFSMAID0) (データベース・ユーティリティ)

DFS2398W OSAM SERVICES ARE UNAVAILABLE

説明: パラメーター IOSCB=NO が、バッチ環境で OSAMOP ステートメントで指定されています。これに

よって、初期設定で OSAM アクセス方式の使用が迂回されます。

システムの処置: 処理は、OSAM サービスなしで続行されます。OSAM サービスが必要な場合は、後続の OPEN データ・セット・エラーの結果が異常終了になります。

プログラマーの応答: OSAM サービスを必要としないバッチまたは CICS アプリケーションの場合にしか、IOSCB=NO パラメーターが指定されていないか確認してください。

DFS2399I JOB TERMINATED-RETURN CODE

aa

説明: ユーティリティが終了しています。aa は戻りコードです。00 は情報 (I) メッセージのみを示し、12 は、1 つ以上のエラーが検出され、エラーが訂正された後で、プログラムをあらためて実行する必要があることを示します。

システムの処置: ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2400I ERROR WHILE ATTEMPTING TO FORMAT THE ccc...ccc

説明: メモリー・ダンプ・フォーマット設定中、制御ブロックまたはデータ域のフォーマット設定を試みている最中に、エラーが検出されました。フィールド ccc...ccc は、最大 16 バイトで、フォーマットされている制御ブロックまたはデータ域を示します。

オンライン環境において、メモリー・ダンプ・ストレージは、IMS メモリー・ダンプ・フォーマッター内にあります。

メモリー・ダンプ・フォーマッターのユーザーは、IMS の異常終了の元の原因によって、メモリー・ダンプ・フォーマッターがプログラム・チェックを行うことになる可能性があることに留意する必要があります。

メモリー・ダンプ・フォーマッターでよく発生する障害の一部として、次のような場合があります。

- 保管域およびそのリンケージの使用が無効。メモリー・ダンプ・フォーマッターでは、レジスター 13 は常に保管域を指すものと想定しています。保管域の順方向および逆方向ポインターは有効です。BALR 14,15 は、標準的な呼び出し規約として使用されません。
- IMS 制御ブロック・アドレスが無効。メモリー・ダンプ・フォーマッターでは、制御ブロックを指すすべてのアドレスが有効であると想定しています。メモリー・ダンプ・フォーマッターがアドレスを妥当性検査することはありません。

- IMS 制御ブロックの内容が無効。メモリー・ダンプ・フォーマッターでは、IMS 制御ブロックの内容はすべてが有効であると想定しています。

システムの処置: ほとんどのエラーで、このメッセージの直後に診断メモリー・ダンプが続きます。この診断メモリー・ダンプは、次のもので構成されています。

- SDWA の内容。これには PSW、完了コード、モジュール ID、レジスター、および SDWA エリアのメモリー・ダンプが含まれます。
- 命令域。これには、障害のある命令の前と後の 128 バイトのデータ (合計 256 バイト) が含まれます。
- 通信域。これは、IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターがフォーマット設定モジュール間の相互通信のために使用する制御ブロックです。
- 保管域。これは、メモリー・ダンプ・フォーマッターが使用する保管域セットのメモリー・ダンプです。
- メモリー・ダンプ・フォーマッター・モジュールのベクトル・テーブル。
- ダンプ・フォーマッターのストレージ・バッファー・ヘッダーおよび接頭部 (オフライン・フォーマット設定のみ)。
- ダンプ・オプション要求ブロック・ストレージ (オフライン・フォーマット設定のみ)。

エラーの診断メモリー・ダンプの後、メモリー・ダンプ・フォーマッターは、要求された次の IMS 制御ブロックのフォーマット設定を続行します。

次のいずれかの形式の ccc...ccc を受け取ると、診断メモリー・ダンプは抑止されます。

```
'PSB' (および、メモリー・ダンプに DL/I ストレージがない)
'AUTO OPTION PROC' (および、デバッグが要求されなかった)
'ABND DIAG. AREA'
'SA - EP ADDRESS'
'SAP'
'ECB PREFIX'
'SAVE AREA'
'REGISTER AREA'
'SA - INV FWD PTR'
'QUEUE BUFFERS'
'UEHB'
'LATCH LIST'
'ECB STORAGE'
'XMCI BLOCK'
'USE LIST (CULE)'
```

ユーザーの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターで失敗しても、元の問題の診断に役立つ情報が出力で提供されることもあります。メモリー・ダンプ・フォーマッター出力によって十分な情報が得られない場合

は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 診断メモリー・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。診断メモリー・ダンプが抑止されている場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

第 52 章 DFS メッセージ DFS2401I - DFS2450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2401I UNABLE TO OPEN IMSUDUMP DATA SET

説明: STAE 出口ルーチンが、定様式ダンプ機能処理のためにデータ・セットを開こうと試みましたが、正常に行われませんでした。

システムの処置: STAE 出口ルーチンはその処理から続行されます。ただし、定様式メモリー・ダンプは得られません。

プログラマーの応答: IMSUDUMP DD ステートメントが正しく指定されたか確認してください。

DFS2402I *jobname, stepname, unit addr, device type, ddname, op code, error description*

説明: 定様式ダンプ機能が IMSUDUMP データ・セットへの書き込みを試み、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: 定様式メモリー・ダンプ処理が中止されます。

問題判別: メッセージ・テキストからエラー条件を判別してください。

DFS2403I DYNAMIC UNALLOCATE RC=*rc* ERROR

または

DYNAMIC ALLOCATE INFORMATION CODE=*xxxx*

説明: IMS が SYSABEND または SYSUDUMP データ・セットに関して、ALLOCATE または UNALLOCATE コマンドを発行しました。ゼロ以外の戻りコードとゼロ以外の情報コードのいずれかが、SVC 99 によって戻されました。

RC=04、エラー・コード =0254 が SVC 99 によって戻されるのは、現在使用不能のリソースに対して条件付き ENQUEUE を要求した場合です。ログに関するマウントが保留中に、IMS MODIFY コマンドを出したりすると、この戻りコードおよびエラー・コードが出る理由の 1 つになります。

システムの処置: IMS は実行を継続します (異常終了処理中である場合もあります)。

プログラマーの応答: z/OS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: 1、4、36

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2404A AN ERROR WAS ENCOUNTERED WHEN ACCESSING THE COUPLING FACILITY STRUCTURE *xxxxxxxxxxxxxxxx RSN yyy*

説明: バッチ・ジョブで、構造名 *xxxxxxxxxxxxxxxx* のカップリング・ファシリティ構造に対して、読み取りおよび登録操作または書き込み操作のためにアクセスしようとしているときに、エラーが検出されました。

以下のリストで理由コードと推奨処置について説明します。

コード (16 進数)

意味

238 データ転送を伴わない読み取りおよび登録操作中に、カップリング・ファシリティに対する接続が失われました。追加の接続エラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

239 データ転送を伴わない読み取りおよび登録操作中に、カップリング・ファシリティ構造の障害が発生しました。追加の構成障害メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

241 読み取りおよび登録操作は、データ転送をせずにページされました。コネクターが失敗した理由を判別してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

242 接続の消失、構造障害、データ転送なしの操作

ページ以外の理由で、読み取りおよび登録操作が失敗しました。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

- 243** データ転送を伴う読み取りおよび登録操作中に、構造がいっぱいになりました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。
- 244** 構造がいっぱいになったこと以外の理由で、データ転送を伴う読み取りおよび登録操作が失敗しました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。
- 245** 書き込み操作中に、構造がいっぱいになりました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。
- 246** 構造がいっぱいになったこと以外の理由による環境エラーのために、書き込み操作が失敗しました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。
- 247** 相互無効化の操作は、環境エラーのために失敗しました。追加のエラー・メッセージについては、システム・コンソールを参照してください。バッチを続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

システムの処置: バッチ・アプリケーション・プログラムは、カップリング・ファシリティが処理を継続できるようになるまで待機します。システム・ログには、カップリング・ファシリティ操作障害について考えられる説明が含まれています。

システム・プログラマーの応答: バッチ・アプリケーションが処理を続行するために、カップリング・ファシリティの障害を解決してください。

問題判別: 1、2、3、6

モジュール: DFSDMAW0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2406I THE HALDB PARTITION
SELECTION EXIT ROUTINE *rname*
FOR THE HALDB *master name* IS
*status***

説明: HALDB 区画選択出口ルーチンがストレージ内になく、HALDB 区画 DMB が正常に割り振られている場合は、状況 LOADED が表示されます。既存のコピーがストレージ内にあり、HALDB 区画 DMB が正常に割り振られている場合は、状況 SHARED が表示されます。

IMS が正常に出口ルーチンを削除した後、ストレージ内にこれ以上コピーがない場合は、状況 GONE が表示されます。出口ルーチンは再入可能であり、他のデータベースによってまだ参照されるため、削除された後も出口ルーチンのコピーがストレージに残る場合があります。この場合、状況 SHARED が表示されます。

以下のコマンドは、区画選択出口ルーチンをロードできません。

- /START DB HALDB*partition* OPEN
- UPDATE DB NAME(HALDB*partition*)
START(ACCESS) OPTION(OPEN)

以下のコマンドは、区画選択出口ルーチンを削除できません。

- UPDATE DB NAME(HALDB*master*)
STOP(ACCESS)
- UPDATE DB NAME(HALDB*master*)
STOP(UPDATES)
- /DBR DB HALDB*master*
- /DBD DB HALDB*master*

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSPSM10

**DFS2407W INVALID IMS OTMA OUTPUT
PURGE AND REROUTE OPTIONS
SPECIFIED**

説明: IMS OTMA は、OTMA メッセージ接頭部に CM0 出力オプションの TMAMPCM0 と CM0 出力転送オプションの TMAMHRRQ の両方が指定されていることを検出しました。

システムの処置: OTMA 出力メッセージに対しては、CM0 出力ページも CM0 出力転送も実行されません。IMS OTMA はデフォルトのアクションを取って、出力を入力 TPIPE の非同期メッセージ保留キューに保管します。

プログラマーの応答: IMS OTMA のクライアントに、IMS へ送信した OTMA メッセージ接頭部を調べるよう依頼してください。OTMA 状態データ接頭部には、TMAMPCM0 オプションまたは TMAMHRRQ オプションのどちらか 1 つだけを設定できます。

モジュール: DFSYPSI0、DFSYQAB0

**DFS2408I UNABLE TO LOAD/LCT/FIX OSAM
DRIVER/APPENDAGE OSAM INIT
FAILED FUNC REQ=xx R/C=yyyy**

説明: OSAM 入出力ドライバー・モジュール (DFSAOS70) をロードあるいは見つけることができなかつたか、入り口点が間違っていました。FUNC REQ=xx および R/C=yyyy 値の説明については、メッセージ DFS2411I を参照してください。


システムの処置: 初期設定が異常終了 0071 で終了し、レジスター 15 に戻りコード 8 が入ります。

プログラマーの応答: DFSAOS70 モジュールが、エントリー・ポイント DFSAOS70 で、SDFSRESL にあるか確認して上で、IMS を再始動してください。

問題判別: 1、2、8、10

関連情報:

『DFS2411I』

 IMS 異常終了 0071

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2409I CANNOT OBTAIN FIX LISTS -
OSAM INIT FAILED FUNC REQ=xx
R/C=yyyy**


説明: OSAM 入出力初期設定用のストレージを割り振る試みが失敗しました。FUNC REQ=xx 値および R/C=yyyy 値の説明については、メッセージ DFS2411I を参照してください。

システムの処置: 初期設定は異常終了 0071 で終了します。レジスター 15 に戻りコード 12 が入ります。

プログラマーの応答: IMS 制御領域 REGION のサイズを大きくし、IMS を再始動してください。

関連情報:

DFS2411I

 IMS 異常終了 0071

**DFS2410I DATA TRANSLATION EXCEPTION
OCCURRED-OSAM INIT FAILED
FUNC REQ=xx R/C=yyyy**


説明: 固定仮想記憶域アドレスを変換する試みの結果が、エラーになりました。FUNC REQ=xx 値および R/C=yyyy 値の説明については、メッセージ DFS2411I を参照してください。

システムの処置: 初期設定は異常終了 0071 で終了します。レジスター 15 に戻りコード 16 が入ります。

問題判別: 1、4、8、35

関連情報:

DFS2411I

 IMS 異常終了 0071

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2411I CANNOT OBTAIN IOB/IOSB-IOMA
POOL-OSAM INIT FAILED FUNC
REQ=xx R/C=yyyy**

説明: OSAM 入出力プール用のストレージを割り振る試みが正常に行われませんでした。オンライン環境では、ストレージは CSA から要求されます。バッチ環境では、ストレージは CSA と専用ストレージのいずれかから要求されます。FUNC REQ=xx および R/C=yyyy コードについては、次に説明してあります。R/C=yyyy が IMODULE 戻りコードまたは IMSAUTH 戻りコードである場合、これらのコードの説明については、IMODULE 戻りコード情報を参照してください。


xx	説明
01	ダブルワード境界にない入出力プール・ブロック。R/C=yyyy は該当しません。異常終了コード 0723 が出されます。
02	OSAM 入出力モジュール (DFSAOS70) を見つけることが不能。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。
03	OSAM 入出力モジュールのエントリー・ポイントが無効。R/C=4
04	ストレージを取得できない。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。
05	OSAM I/O モジュール (DFSAOS70) のページ固定不能。R/C=yyyy は IMSAUTH 戻りコードです。
06	入出力プール用ストレージの取得不能。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。
07	ストレージの解放不能。R/C=yyyy は IMODULE 戻りコードです。
08	実アドレス変換障害。R/C=4
09	無効の入出力プールをフォーマット設定する試みがなされた。R/C=yyyy は該当しません。異常終了コード 0723 が出されます。
10	入出力プールのページ固定不能。R/C=yyyy は IMSAUTH 戻りコードです。

システムの処置: 初期設定処理が異常終了 0071 で終了し、IMODULE サービスが戻りコードをレジスター 15 に入れます。


オペレーターの応答: 該当する場合は、CSA サイズを大きくしてください。

プログラマーの応答: 制御領域サイズを大きくし、その上で IMS を再始動してください。

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0071

**DFS2412I INSUFFICIENT STORAGE TO
OBTAIN OSAM BUFFER
INITIALIZATION WORK
AREA-OSAM INITIALIZATION
FAILED**

説明: 作業域スペースに関して、IMODULE GETMAIN が失敗しました。OSAM バッファ・プールの初期設定は続行できません。

システムの処置: IMS が異常終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: GETMAIN が正常に行われるように、十分な仮想記憶域の存在を確保してください。

問題判別: 1、2、4、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2413I WARNING - OSAM SUBPOOL
DEFINITION LIMIT HAS BEEN
EXCEEDED**

説明:

OSAM サブプールの最大数を超過しました。250 の一意的に定義されたサブプールが使用できます。限度に達した後で IOBF ステートメントが検出されても、それはすべて無視されます。

システムの処置: IMS の初期設定が続行されます。

プログラマーの応答: 限度を超える OSAM サブプール定義ステートメントは、結合または除去してください。

問題判別: 1、2、27

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2414I WARNING-UNABLE TO FIX OSAM
BUFFERS AS REQUESTED**

説明: 使用可能な読み取りページの数不十分であったため、IMS は要求されたバッファをページ固定できませんでした。

システムの処置: IMS は、サブプールのヘッダーおよび

び接頭部のみの固定化を試みます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: プールの割り振りをチェックしてください。

問題判別: 1、2、4、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2415I WARNING-UNABLE TO FIX OSAM
SUBPOOLS AS REQUESTED**

説明: 使用可能な実ページの数不十分であったため、IMS はサブプールのヘッダーおよび接頭部を固定化できませんでした。

システムの処置: サブプールのヘッダーにも接頭部にもページ固定されるものはありません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: プール割り振りをチェックしてください。

問題判別: 1、2、4、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2416I ENTRY POINT TO DFSDOB10
INVALID**

説明: モジュール DFSDVB10 がモジュール DFSDOB10 を呼び出しましたが、エントリー機能コードが無効でした。

システムの処置: OSAM 初期設定が継続できませんので、システムは異常終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: この問題は、IMS システムの問題です。

問題判別: 4、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2418 OUTPUT FROM NON-RECOVERABLE
TRANSACTION(S) HAS BEEN
DISCARDED**

説明: モジュール DFSQFIX0 が、リカバリー不能として定義されたトランザクションからの出力として生成さ

れたメッセージを 1 つ以上、メッセージ・キューから除去しました。

システムの処置: メッセージの除去に由来する制御ブロックの変更が、IMS ログに書き込まれています。処理は正常に続行されます。

**DFS2419A UNABLE TO ROUTE DL/I CALL
TRACE OUTPUT TO IMS LOG**

説明: DL/I CALL TRACE 用のログ出力は指定されましたが、トレースの開始時に、IMS ログ・データ・セットが開かれていませんでした。

プログラマーの応答: IMS ログ・データ・セットを定義している DD ステートメントが存在し、しかも正しいか確認してください。

**DFS2420I UNABLE TO OPEN FOR DDaaaaaa
INSUFFICIENT STORAGE**

説明: DL/I CALL TRACE ルーチンが順次データ・セットを開くことを許可する GETMAIN が、失敗しました。

プログラマーの応答: 領域サイズを大きくして、ジョブを再実行してください。

**DFS2421I UNABLE TO OPEN FOR
DDCARD=aaaaaa**

説明: DLITRACE 制御ステートメントで指定されている DD ステートメントに関するオープンが失敗しました。

プログラマーの応答: 指定されている DD ステートメントが存在し、正しいか確認してください。

**DFS2422I DL/I TRACE TERMINATED-NO
OUTPUT DATA SET PROVIDED**

説明: DLITRACE は要求されましたが、出力装置が用意されていなかったか、開けませんでした。

システムの処置: DL/I CALL TRACE は終了しますが、アプリケーション・プログラムは取り消されません。

プログラマーの応答: ジョブを再実行し、要求された出力装置が適切に定義されているか確認してください。

**DFS2423I INVALID HEX CHARACTER AT
OFFSET aa-DEFAULT VALUE USED**

説明: 示されているオフセットで、数値として無効な 16 進数字が検出されました。

システムの処置: キーワードのデフォルト値が使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正してください。

DFS2424I INVALID KEYWORD AT OFFSET aa

説明: 示されているオフセットで、無効のキーワードが DLITRACE 制御ステートメントで検出されました。

システムの処置: 示されているキーワードは迂回され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: DLITRACE 制御ステートメント・キーワードを訂正してください。


**DFS2425I INVALID SOURCE FOR
SEGM-nnnnnnnnn-IN
DBD-nnnnnnnnn-SOURCE
DBD-nnnnnnnnn**

説明: 論理データベース内のセグメントが、そのソースとして別の論理データベース内のセグメントを指定していました。メッセージに、誤りのあるステートメント、セグメント名、および間違ったソース論理データベース名が含まれている論理データベースが示されています。

システムの処置: バッチ DL/I を実行していた場合、システムは異常終了 0986 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、18、19、35
関連情報:

 IMS 異常終了 0986

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


**DFS2426I INDEX DBD-nnnnnnnnn LCHILD FOR
SEGM-nnnnnnnnn IN DBD-nnnnnnnnn
SHOULD REFERENCE-nnnnnnnnn**

説明: 指定された索引データベースにある、示されているセグメントに関する論理子ステートメントが指定している、索引付きデータベース・セグメントのセグメント名に誤りがあります。指定されている索引付きデータベースで参照される必要がある、セグメント名が示されています。

システムの処置: バッチ DL/I を実行している場合、システムは異常終了 0987 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、18、19、35
関連情報:

 IMS 異常終了 0987

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


**DFS2427I INDEX DBD-*nnnnnnnn* DOES NOT
CONTAIN SEGM-*nnnnnnnn*
REFERENCED BY LCHILD FOR
SEGM-*nnnnnnnn* IN DBD-*nnnnnnnn***

説明: 示されている索引 DBD に、指定されているセグメントが含まれていません。索引付き DBD の、指定されているセグメントに関する索引 LCHILD ステートメントが、存在しないセグメントを参照しています。

システムの処置: バッチ DL/I を実行している場合、システムは異常終了 0988 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、5、8、11、17a、17d、18、19、35
関連情報:

 IMS 異常終了 0988

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


**DFS2428I THE INDEX DBD *dbdname1* IS
REFERENCED BY TWO INDEXED
SEGMENTS IN DBD *dbdname2* AND
*dbdname3***

説明: 索引関係の解決で、1 つの索引が複数の索引先セグメント LCHILD ステートメントで参照されていました。この状態は無効です。

システムの処置: バッチ DL/I を実行している場合、システムは異常終了 0989 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: 索引先セグメント LCHILD ステートメントごとに、それぞれ UNIQUE 索引を指定してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0989


**DFS2429I SEGMENTS *segname1* AND *segname2*
IN DBD *dbdname* ARE ACCESSED
OUT OF HIERARCHIC ORDER IN
THIS PSB**

説明: 兄弟セグメントが論理 DBD または PSB で参照された順序にエラーがあります。PTR=HIER をもつ親に従属する、または HISAM DBD にある兄弟セグメントは、物理 DBD で確立されている順序と同じ順序で参照される必要があります。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0990 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: 論理 DBD または PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0990

**DFS2430I INVALID SOURCE= SPECIFICATION
FOR SEGMENT-*segname* IN
DBD-*dbdname***


説明: 論理子/目標親連結が無効であることが検出されました。SOURCE= 指定では、存在しない 2 つのセグメント間の論理関係を暗黙指定します。理由として、次のものが考えられます。

1. 最初に参照されたセグメントが論理子セグメントではない。
2. 2 番目のセグメントが最初のセグメントの論理親として定義されていない。
3. 最初のセグメントが、2 番目のセグメントの論理子として定義されていない。
4. 指定されたセグメントのソース・セグメントが論理親を定義していない。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0991 を出します。ACBGEN 処理が続行されます。

プログラマーの応答: SOURCE= 指定、またはかかわりのある物理 DBD を訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0991


**DFS2431I DBD1 *dbdname1* REFERENCES DBD2
dbdname2 AS AN INDEX INVALIDLY**

説明: DBD が、別の DBD の LCHILD ステートメントで索引 DBD として参照されました。参照された DBD が ACCESS=INDEX としてコーディングされていなかったため、参照は無効です。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0992 を出します。ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0992

**DFS2432I PSB-psbname-REFERENCES
FIELD-fldname-IN SEGM-segname-IN
DBD-dbdname. FIELD NOT FOUND**


説明: SENFLD ステートメントで無効なフィールド名が参照されました。指定されたフィールド名は、DBDGEN 処理中に、セグメントに関して定義される必要意があります。意図されたフィールドが含まれているセグメントは、論理 DBDGEN 中にキー・センシティブとして定義できません。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合、システムは異常終了コード 0993 を出します。ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 18、19

関連情報:

 IMS 異常終了 0993
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2433I PSB-psbname-CONTAINS
DESTRUCTIVE OVERLAP IN
SEGM-segname-IN DBD-dbdname**


説明: PSBGEN で指定されたフィールド・マッピングにより、破壊的なオーバーラップが発生しました。複数のフィールドが同じロケーションに移されようとした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0994 が出されます。ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 18、19

関連情報:

 IMS 異常終了 0994
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2434I SEGM-segname-IN DBD-dbdname-IN
PSB-psbname-NOT SENSITIVE TO KEY
FIELD**


説明: ロードまたは挿入センシティブティーは、PSB のセグメントに関して指定されましたが、シーケンス・フィールドに対するセンシティブティーが指定されませんでした。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0995 が出されます。ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 18、19

関連情報:

 IMS 異常終了 0995
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


**DFS2435I FIELD SENSITIVITY INVALID FOR
LOGICAL CHILD WITH PROCOPT=I
or L; PSB-psbname-,PCB-
dbdname-,SEGM-segname**

説明: フィールド・レベル・センシティブティーが、PROCOPT=I または L で、指定された論理子セグメントに関して指定されました。

システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0996 が出されます。ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0096

**DFS2436I INTERNAL PROCESSING LIMIT
EXCEEDED FOR PSB=psbname,and
PCB=pcbname**

説明: 指定された PCB に含まれている論理関係が原因で、内部処理限度を超えることになるため、必要な PSB 制御ブロックが作成できません。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0997 が出されます。ACBGEN 処理が継続されます。

プログラマーの応答: PSB または DBD、あるいはその両方を変更して、LOGICAL CHILD/LOGICAL PARENT 連結を参照する、PCB 内の SENSEG ステートメントの数を減らしてください。PSBGEN を再実行

してから、ジョブを RE-EXECUTE してください。

問題判別: 18、19

関連情報:

 IMS 異常終了 0997

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2437I INVALID LOGICAL TWIN SEQUENCE FIELD *fieldname* IN DBD *dbdname* FOR LOGICAL CHILD SEGMENT *segment name* IN DBD *dbdname*

説明: 参照先セグメントは仮想対になっています。指定された論理兄弟シーケンス・フィールドは、指定された実論理子セグメント内には含めません。


システムの処置: バッチ DL/I が実行中だった場合は、異常終了コード 0998 が出されます。ACBGEN 処理が実行されます。

プログラマーの応答: DBD を訂正してください。

問題判別:

1、2、3、5、8、11、17a、17d、17g、20、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0998

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2438W INVALID PROCOPT IN PCB FOR DBD *dbdname* CHANGED TO EXCLUDE INSERT SENSITIVITY

説明: このメッセージは、別のデータベースとして処理されることになっていた索引データベースがあれば、それに関して指定されて処理オプションが無効であったことを示しています。BLOCK BUILDER モジュールによって PROCOPT が変更されて、挿入センシティブティが除去され、処理が続きます。

システムの処置: IMS は、PCB の処理オプションを変更して処理を続行します。

プログラマーの応答: 処理オプションを変更して、A または I を除去すれば、警告メッセージは避けられます。PCB をチェックしてください。

DFS2439W PROCOPT FOR SEGMENT *segname1* OF HSAM DBD *dbdname* CHANGED TO ALLOW ONLY G, P, K, OR L PROCOPT

説明: このメッセージは、DL/I が、PCB で指定されている PROCOPTS を、HSAM に関する許容オプション

に適合するように改訂していることを示します。

システムの処置: このメッセージが出された後、処理は正常に続行されます。

プログラマーの応答: 該当する PCB または SENSEG ステートメントの PROCOPT オプションを、将来の実行に備えて改訂してください。

DFS2440W INVALID PROCOPT FOR SEGMENT *segname* IN DBD *dbdname* CHANGED TO EXCLUDE DELETE AND INSERT SENSITIVITY

説明: 代替処理シーケンスが指定されると、ユーザーは、索引ターゲット・セグメント (代替ルート・セグメント) やその逆親のいずれも挿入または削除できません。これらのセグメントの 1 つに関する PCB または SENSEG ステートメントの処理オプションがこの規則に違反し、オプションが SDB 内で変更されて、処理制限が反映されています。

システムの処置: PSB が高速機能副次索引を参照しているためにこのメッセージが発行された場合、ACB 保守ユーティリティは戻りコード 8 で終了します。エラーのある PSB は、このメッセージの後に発行される DFS0587I メッセージによって識別されます。PSB は ACB ライブラリーから削除されます。

PSB が全機能副次索引を参照しているためにこのメッセージが発行された場合、ACB 保守ユーティリティは戻りコード 4 を設定し、残りの入力処理を続行します。

プログラマーの応答: PCB を改訂して、処理オプション・フィールドに対するオプションの挿入または削除を行ってください。

DFS2441W SYMB POINTER FROM L/C SEGM-*segname* IN DBD-*dbdname* TO L/P SEGM-*segname* IN DBD-*dbdname* IS NON-UNIQUE

説明: 論理子セグメントでは、論理親に対して記号ポインティングを使用しますが、論理親へのパス上のセグメントによっては、キーが欠落しているか、固有キーでない場合があります。

システムの処置: 処理は続行されますが、論理子セグメントから論理親へのアクセスで問題が生じる可能性があります。

プログラマーの応答: 論理親セグメントへの (論理セグメントを含める) パス上の各セグメントごとに、それぞれ固有のキーを指定するか、論理子/論理親パスが使用される場合は、論理子セグメントに関する論理親ポインターを指定してください。

**DFS2442E DBFUCDB0 MSDB-TO-DEDB
CONVERSION UTILITY ERROR,
REASON CODE=nn**

説明: MSDB/DEDB 間変換ユーティリティを実行している最中に、エラーが発生しました。理由コードは、発生した障害のタイプを示しています。

コード (10 進数)

メッセージ・サブテキスト

- 01** SYSIN ストリーム内の TYPE= ステートメントが欠落しているか無効です。
- 02** SYSIN ストリーム内のデータベース・ステートメントが欠落しているか無効です。
- 03** MACBLIB は、入力制御ステートメントで指定された MSDB が MSDB でないことを示しています。
- 04** 入力制御ステートメントで指定された MSDB は端末関連でなく、端末関連キーがありません。
- 05** DACBLIB は、入力制御ステートメントで指定された DEDB が DEDB でないことを示しています。
- 06** 指定された MSDB= メンバーが MACBLIB で検出されませんでした。
- 07** 指定された DEDB= メンバーが DACBLIB で検出されませんでした。
- 08** ランダマイザー・モジュールのロードでのエラー

システムの処置: ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答: 以下の処置を取って、エラーを訂正してください。

コード (10 進数)

意味または処置

- 01** TYPE= パラメーターに指定された値が CONVERT または FALLBACK ではないか、TYPE= パラメーターが、SYSIN から読み取られた最初の入力ステートメントで検出されなかった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 02** MSDB= と DEDB= のいずれかのパラメーターに指定された値のコーディングに誤りがあった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 03** DMCB は、MSDB= パラメーターのデータベース・タイプが MSDB でないことを示している。間違った ACBLIB が指定されたか、

MSDB 名に誤りがあったか、いずれか。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

- 04** 変換されるのは端末関連 MSDB のみに限られる。それ以外のタイプはすべてリジェクトされる。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 05** DMCB は、DEDB= パラメーターのデータベース・タイプが DEDB でないことを示している。間違った ACBLIB が指定されたか、DEDB 名に誤りがあったか、検出されなかったかいずれか。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 06** 指定された MSDB メンバーが検出されなかった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 07** 指定された DEDB メンバーが検出されなかった。入力制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。
- 08** ランダマイザーが IMS.SDFSRESL で検出されなかったか、ランダム化モジュールをロードしている最中に、入出力エラーが発生した。ランダマイザー名を検証し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DBFUCDB0

**DFS2443I UNABLE TO OBTAIN VSO
CONTROL BLOCK**

説明: エリア・オープンまたはシステム初期設定中に、VSO 制御ブロックに関する要求が失敗しました。

システムの処置: データ・スペースは取得できません。IMS システムの初期設定は、VSO なしで続行されます。エリア・オープンは失敗します。

システム・プログラマーの応答: ECSCA 使用が低下したら、ジョブを再実行依頼してください。メッセージ DFS3702I を参照してください。

モジュール: DBFVIDS0

関連情報:

921 ページの『DFS3702I』

DFS2444I DSPSERV FAILED. RC=rc RSN =rrr

説明: 新しいデータ・スペースに関する要求が出されましたが、この要求は失敗しました。この状態は、IMS 初期設定中でもエリア・オープン中でも、起こる可能性があります。

DFS2445I • DFS2448I

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


rc DSPSERV マクロからの戻りコード
rrr z/OS マクロ DSPSERV に関する *rrrrrr* 理由コード。

システムの処置: データ・スペースは獲得されません。IMS システムの初期設定は、VSO なしで続行されます。エリア・オープンは失敗します。このメッセージの後に DFS2446I と DFS3702I (理由コード 37) のいずれかが続きます。

システム・プログラマーの応答: DSPSERV マクロの戻りコードおよび理由コードを確認してください。このメッセージがエリア・オープン中に出された場合は、メッセージ DFS3702I を参照してください。

モジュール: DBFVIDS0

関連資料:

 z/OS: DSPSERV の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

『DFS2446I』

921 ページの『DFS3702I』

DFS2445I ALESERV FAILED. RC=*nn*.

説明: データ・スペースへのアクセス許可が要求されましたが、この要求は失敗しました。IMS 初期設定中でもエリア・オープン中でも、起こりえます。戻りコード *nn* は、ALESERV マクロからの戻りコードです。

システムの処置: データ・スペースは獲得されませんでした。IMS システムの初期設定は、VSO なしで続行されます。エリア・オープンは失敗します。この後に DFS2446I と DFS3702I (理由コード 38) のいずれかが続きます。

システム・プログラマーの応答: 「MVS/ESA System Programming Library: Application Development Macro Reference」(GC28-1822) を参照してください。

モジュール: DBFVIDS0

DFS2446I DATA SPACE NOT ACQUIRED. VIRTUAL STORAGE OPTION NOT ACTIVATED. *rr*

説明: 制御領域初期設定時にデータ・スペースの取得を試みている最中に、エラーが発生しました。*rr* は理由コードです。

理由コード

説明

35 VSO 制御ブロック障害。メッセージ DFS2443I を参照してください。

598 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

37 データ・スペースに関する DSPSERV 要求が失敗。メッセージ DFS2444I を参照してください。

38 データ・スペースに関する ALESERV 要求が失敗。メッセージ DFS2445I を参照してください。

39 VSO 制御ブロック障害。メッセージ DFS2443I を参照してください。

システムの処置: 制御領域の初期設定は、データ・スペースが獲得されないまま完了します。

モジュール: DBFINI20

DFS2447I AREA=aaaaaaaa UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK RC=*rc*

説明: VSO 制御ブロックに関する内部要求が失敗しました。このエラーが発生する可能性があるのは、VSO エリアのオープン中、または VSO エリアの緊急時再始動ログ・レコード処理中です。

システムの処置: エリア・オープン中に障害が発生すれば、オープンは失敗し、このメッセージの後に、メッセージ DFS3702I が出されます。緊急時再始動中に障害が発生し、エリアが制御ブロックなしでは再始動できない場合は、エリアは停止し、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答: 障害がエリア・オープン時に発生した場合は、CSA 使用が低下したら、ジョブを再実行してください。

障害が緊急時再始動時に発生し、エリアに「要リカバリー」のマークが付けられた場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール: DBFVSOP0

DFS2448I VSO AREA aaaaaaaaa- ERE STORAGE REQUEST FAILED

説明: このメッセージが出されるのは、ローカル緊急時再始動時で、トラッキングまたはテークオーバー中に、XRF 代替システムによって出されるか、または VSO として定義されている、エリア aaaaaaaaa に関するログ・レコードを処理するために必要なストレージを、システムが取得できない場合は、高速データベース・リカバリー領域によって出されます。緊急時再始動、XRF 代替システム、または高速データベース・リカバリー領域では、障害が発生した後、ストレージなしではエリアをリカバリーできない場合があります。このような場合は、エリアは停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システムの処置: エリア aaaaaaaa の場合を除いて、再始動は正常に続行されます。再始動ログ処理の終了時に、エリアに REDO 処理を必要とする CI (つまり、障害発生の前に DASD に書き込まれた可能性がない更新済み CI) がある場合は、エリアは停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

オペレーターの応答: エリアが「要リカバリー」になっている場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティーを使用してください。

モジュール: DBFVSOP0

DFS2449I UNABLE TO SET UP ERE DATA SPACE. REQ=cccccc RC=rc RSN=xxxx

説明: このメッセージが出されるのは、ローカル緊急時再始動時で、トラッキングまたはテークオーバー中に、XRF 代替システムによって出されるか、または VSO エリアに関するログ・レコードを処理するために必要なデータ・スペースを、システムが取得またはセットアップできない場合は、高速データベース・リカバリー領域によって出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccc 次のいずれかの値

AUTH

新規データ・スペースの許可に関する要求が失敗した。

CBLK 制御ブロック用ストレージに関する要求が失敗した。

CREATE

新しいデータ・スペースの作成に関する要求が失敗した。

PAGEFIX

VSO ERE DATASPACE 内の PAGEFIX ストレージへの要求が、DSPSERV の失敗を受け取りました。

rc 要求からの戻りコード

xxxx CREATE または PAGEFIX コマンドが DSPSERV マクロ・エラーを受け取った場合は、16 進の理由コードが表示されます。これらのコードは、DSPSERV マクロによって定義されています。

システムの処置: 再始動が続行されます。再始動ログ処理の終了時に、エリアに REDO 処理を必要とする制御インターバル (CI) (つまり、障害発生の前に DASD に書き込まれた可能性がない更新済み CI) がある場合は、エリアは停止され、recovery needed のマークが付けられます。

オペレーターの応答: エリアに recovery needed のマークが付いている場合は、データベース・リカバリー・

ユーティリティーを使用してください。

モジュール: DBFNRS00

関連資料:

➡ z/OS: DSPSERV - データ・スペースの作成、削除、および制御

➡ z/OS: DSPSERV の戻りコードおよび理由コード

DFS2450I UNABLE TO ACQUIRE STORAGE FOR ENQ/DEQ BLOCKS, REASON=n

説明: モジュール DFSFXC10 が、制御ブロックをキューに入れるためのストレージ・ブロックを獲得できませんでした。理由コード *n* が、次のとおり詳細を示します。

コード (10 進数)

意味

- 0** ブロックが要求されたが、最初のブロックではない。PIMAX パラメーターで指定されたストレージの量が使い尽くされたわけではありませんが、別のストレージ・ブロックに関する GETMAIN は正常に行われませんでした。障害が発生したのが、最後のブロックを取得する試みであった場合は、このメッセージの後にメッセージ DFS2451W が付随します。
- 8** 最初の ENQ/DEQ ブロック用として使用可能なストレージがない。標準的な異常終了が生じます。

システムの処置: 要求が最初のブロックに関するものであった場合は、システムは異常終了し、異常終了コード 0775 が示されます。それ以外のブロックの場合は、タスクは疑似異常終了し、異常終了コード 0775 が示されます。

システム・プログラマーの応答:

コード 応答

0 & 8

IMS LSO=N

CSA サイズを大きくしてください。

IMS LSO=Y または X

制御領域ローカル・ストレージ・サイズを大きくしてください。

IMS LSO=S


システムが高速機能を使用している場合は、ECSA サイズを増やしてください。システムが高速機能を使用していない場合は、DLI/SAS 領域のローカル・ストレージ・サイズを増やしてください。

DFS2450I

障害の発生時に更新を実行していた BMP が 1 つ以上ある場合は、それらの BMP にチェックポイントを発行させます。すでに発行している場合は、さらに高頻度でチェックポイントを発行させます。

関連情報:

601 ページの『DFS2451W』

 IMS 異常終了 0775

第 53 章 DFS メッセージ DFS2451W - DFS2500I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2451W THE LAST BLOCK OF ENQ/DEQ STORAGE IS BEING ACQUIRED

説明: DB/DC 環境ではメンバー DFSPBIMS の、DBCTL 環境ではメンバー DFSPBDBC の、PIMAX パラメーターで指定されている、最後の許容ストレージ・ブロックが取得されようとしています。ENQ/DEQ ストレージ要件によって、結果的に別のブロックが要求されることになる場合は、タスクは疑似異常終了で終了します。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: ENQ/DEQ ストレージを必要とするアクティビティの再評価を行って、ENQ/DEQ ストレージ不足のために、重要なアプリケーションが終了することがないようにしてください。

DFS2452I AREA aaaaaaaaa IS TOO LARGE FOR VSO

説明: 仮想記憶オプション (VSO) がエリア aaaaaaaaa に関して要求されましたが、エリアが VSO に許容されている最大サイズを超えています。最大許容サイズは、2 ギガバイト (2 147 483 648 バイト) から、z/OS および IMS で使用される分のストレージを引いたものです。

データ・スペース内のエリアとして必要なスペースの量は、次のとおりです (次の 4 KB 単位に丸めた値にします)。

(CI サイズ) × (UOW ごとの CI の数)
× ((ルート・アドレス可能部分の UOW の数)

+ (独立オーバーフロー部分の UOW の数))

DBDGEN AREA ステートメントのパラメーターで表すと、次のようになります (次の 4 KB に丸めた値にします)。

(SIZE= パラメーターの値)
× (UOW=number1 パラメーターの値)
× (ROOT=number2 パラメーターの値)

データ・スペース内でエリア (複数の場合もある) 用として使用可能なスペースの実際量は、2 ギガバイト (それぞれが 4 KB のブロックが 524,288 ブロック) から

z/OS によって予約されている量 (0 から 4 KB) を引き、さらに IMS 高速機能によって予約されている量 (約 100 KB) を引いた量です。/DISPLAY FPV コマンドを使用して、特定のエリアの実際のストレージ使用量を計算できます。

システムの処置: エリアは DASD モードとしてオープンされます。

モジュール: DBFVSOP0

DFS2453A DATASPACE UOW CANNOT BE PINNED FOR I/O

説明: 高速機能が、VSO および PRELOAD オプションを使用して定義されているエリアをデータ・スペースにロードするプロセスを開始しています。データ・スペース内でストレージのページ固定を試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置: プリロード・プロセスは、プリロード・プロセスを完了しないで終了します。

オペレーターの応答: この問題は、実ストレージ不足の問題である可能性があります。実ストレージ問題が解決された後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行して、プリロード・プロセスを開始してください。

モジュール: DBFVSPL0

DFS2453I PRELOAD PROCESSING xxxxxxxx
FOR aaaaaaa STR1=strname1;
STR2=strname2

または

PRELOAD PROCESSING STARTED FOR: aaaaaaaa

または

PRELOAD PROCESSING COMPLETED FOR:
aaaaaaaa

または

PRELOAD PROCESSING ABORTED, UTILITY
ACTIVE: aaaaaaaa

DFS2454I • DFS2455A

または

IMAGE COPY ITASK

STARTED|COMPLETED|ABORTED FOR: aaaaaaaa

または

IMAGE COPY ITASK ABORTED FOR:

aaaaaaa[IMS SHUTDOWN | IMAGE COPY ERR |
ABORT AT INIT]

説明: 高速機能は、VSO および PRELOAD オプションを使用して定義されているエリア aaaaaaaa を、データ・スペースにロードするプロセスを開始または完了しました。

このメッセージの 3 番目の形式 PRELOAD PROCESSING ABORTED, UTILITY ACTIVE: aaaaaaaa が出されるのは、VSO および PRELOAD として定義されているエリア aaaaaaaa に関する /START AREA コマンドが出された後では、HSSP またはユーティリティーがエリアで現在アクティブであるため、高速機能がデータ・スペースへのそのエリアのロードを開始できなかった場合です。

このメッセージの 4 番目の形式 IMAGE COPY ITASK STARTED|COMPLETED|ABORTED FOR: aaaaaaaa が出されるのは、HSSP と別のプロセスのいずれかがエリア aaaaaaaa に関するイメージ・コピー ITASK を動的に作成した場合です。イメージ・コピー ITASK がこのメッセージを出すのは、開始、完了、または打ち切りのときです。

このメッセージの IMAGE COPY ITASK ABORTED 形式の場合は、次のいずれかのストリングが付加されます。

- IMS SHUTDOWN は、IMS がシャットダウンされようとしていることを意味します。
- IMAGE COPY ERR は、エラーがイメージ・コピー中に発生し、そのためにイメージ・コピーおよび ITASK の終了が生じたことを意味します。
- ABORT AT INIT は、エラーがイメージ・コピー・データ・セットの初期設定中に発生し、イメージ・コピーが不可能であることを意味します。メッセージ DFS0531I または関係のある DBRC メッセージを参照してください。

このメッセージの 6 番目の形式では、エリア aaaaaaaa に関するプリロード処理の状況を報告しています。状況 xxxxxxxx は、STARTED、ABORTED、または COMPLETED のいずれかになります。STR1 および STR2 は、z/OS システム間拡張サービス (XES) 構造名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

このメッセージの 3 番目の形式の場合は、プリロード・プロセスは打ち切られます。

このメッセージの 4 番目と 6 番目の形式の場合は、示

されている処置が取られました。

オペレーターの応答: このメッセージの 3 番目の形式の場合は、HSSP またはユーティリティーが完了したら、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(Access) コマンドを再発行してください。

このメッセージの 4 番目の形式の場合は、処置は必要ありません。

このメッセージの 6 番目の形式の場合は、エリアに関するプリロード・プロセスが打ち切られたら、傷害の理由を訂正してください。その後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(Access) コマンドを発行して、プリロード・プロセスを開始してください。

モジュール: DBFVSPL0、DBFPTIC0、DBFVXPL0

関連情報:

160 ページの『DFS0531I』

DFS2454I PRELOAD SEVERE ERROR FOR:

aaaaaaa RC=rc

説明: 高速機能が、VSO および PRELOAD オプションを使用して定義されるエリアをデータ・スペースにロードするプロセスを開始しています。戻りコード rc に、エラー・メッセージが出る理由が示されています。

PIN データ・スペース内でストレージのページ固定を試みている最中のエラー

LOCK UOW ロックの取得を試みている発生したエラー

SHTD IMS シャットダウン

システムの処置: プリロードは終了しますが、完了はしていません。

オペレーターの応答: 実ストレージ不足と考えられる問題が発生しています。実ストレージ問題が解決された後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(Access) コマンドを発行して、プリロード・プロセスを開始してください。

モジュール: DBFVSPL0

DFS2455A CANNOT RUN COMPARE UTILITY FOR AREA IN VIRTUAL STORAGE, AREA=aaaaaaa

説明: 現在仮想記憶域にあるエリアに関して、DEDB ADS 比較ユーティリティーが要求されました。

システムの処置: ユーティリティー要求は失敗して、戻りコード 12 が示され、メッセージ DFS2662A が出されます。

オペレーターの応答: /VUNLOAD コマンドを発行し

て、エリアを仮想記憶域から除去し、ユーティリティ・ジョブを再実行依頼してください。ユーティリティが完了した後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行することにより、エリアを仮想ストレージへ戻すことができます。

モジュール: DBFUMRT0

**DFS2456I AREA aaaaaaaaa UNEXPECTED
POINTER VALUE DURING VSO
CLOSE**

説明: 非壊滅的内部論理エラーが発生しています。VSO エリア aaaaaaaaa のクローズ中に、制御ブロックに間違ったポインター値が含まれていることが検出され、エリアに関して割り振られたデータ・スペースの該当部分を割り振り解除したはずのコードを迂回する必要がありました。割り振り解除の迂回は、データ保全性に関する問題にはなりません。ただし、データ・スペースの該当部分は、次の再始動まで使用不能になる可能性があります。データ・スペースの割り振り解除がスキップされた場合は、/DIS FPV コマンドを実行すると、そのエリアがクローズされた後でも、データ・スペース内にあるとして表示される可能性があります。

システムの処置: エリア・クローズ処理が続行されません。

オペレーターの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFVSCL0

**DFS2457I DUE TO A STORAGE SHORTAGE,
NOT ALL AREAS WILL BE
PREOPENED OR PRELOADED,
RETRY LATER**

説明: オープン前またはプリロード処理中に、ストレージ不足が生じ、オープン前またはプリロード処理が試行されませんでした。

システムの処置: IMS は、プリロード処理もオープン前処理も行わず、処理を続行します。

オペレーターの応答: /DIS FPV コマンドを使用して、オープン前もプリロードもされなかったエリアを識別してください。システム・ストレージが使用可能になった時点で、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行してください。メッセージ DFS2446I が、IMS システム初期設定に関して、このメッセージの後に続けて表示されます。

モジュール: DBFVTSK0

**DFS2458A VSO AREA aaaaaaaaa- ERE SEVERE
ERROR**

説明: 仮想記憶オプション (VSO) エリアとして定義される、エリア aaaaaaaaa に関する緊急時再始動、XRF テークオーバー、または高速データベース・リカバリーのリカバリー・フェーズ中に内部エラーが発生しました。

このメッセージに加えて、診断情報も出力されます。このエラーでは IMS が異常終了することはありませんが、情報のフォーマットは、異常終了 1026 からの出力と同じです。


このメッセージ、および付随する診断情報は、最大 3 回まで出されます。メッセージ DFS2485I は、緊急時再始動の終了時に出され、エラー条件が検出された回数の総数を示します。

システムの処置: エリア aaaaaaaaa は停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

オペレーターの応答: データベース・リカバリー・ユーティリティを使用し、エリアをリカバリーしてください。

モジュール: DBFERS21

関連情報:

 IMS 異常終了 1026

**DFS2459I DUE TO A STORAGE SHORTAGE,
PARDLI WILL NOT BE IN EFFECT
FOR THIS REGION.**

説明: PARDLI セットアップ処理中に、ストレージ不足が生じ、PARDLI オプションがこの領域に関しては活性化されませんでした。

システムの処置: IMS システムは、PARDLI なしで処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: ジョブで領域サイズを大きくして、再実行してください。

DFS2460 ONLY ONE PSB NAME ALLOWED

説明: PSB キーワードの後に続けて、複数の名前が入力されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末) 1 つの PSB 名だけを使用して、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICLN0

DFS2461 INVALID ENTRY FLAG-CALL NOT TRACED

説明: 入力時に、DL/I CALL TRACE には、これがトレース・パスか比較パスか判別できませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

DFS2462 START VALUE EXCEEDS STOP VALUE-STOP DEFAULT USED

説明: DLITRACE 制御ステートメントの開始値が停止値より大です。デフォルトの停止値が使用されます。

プログラマーの応答: 示されている値を訂正してください。

DFS2463 NEGATIVE VALUE ON INPUT AT OFFSET aa

説明: 示されているオフセットでの値が負の値です。

システムの処置: パラメーターのデフォルト値が使用され、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 示されているパラメーターを訂正してください。

DFS2464 OUTPUT ERROR, DL/I CALL TRACE IS TERMINATED

説明: レコードを書き込んでいる最中に、入出力エラーが検出されました。

システムの処置: 出力が順次データ・セットにルーティングされた場合は、データ・セットはクローズされ、トレースは終了されます。アプリケーション・プログラムは、正常に完了するまで実行できます。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。

DFS2466I AUTHORIZATION RACLIST FAILED, RACROUTE = aa, bb, cc, dd RACLIST = ee, ff, gg, hh REASON = ii, jj, kk, ll. RACROUTE REQUEST=LIST FAILED, CLASS=xxxx, RC=xx. RACF OR ROUTER EXIT RC=xx, REASON CODE=xx.

説明: このメッセージの最初の形式が出されるのは、許可機能に関連した 4 つのクラスのうち少なくとも 1 つに関して、初期設定処理中に、ゼロ以外の戻りコードが検出された場合です。変数には、それぞれ次の意味があります。

aa DATABASE クラスに関する RACROUTE 戻りコード

bb SEGMENT クラスに関する RACROUTE 戻りコード

cc FIELD クラスに関する RACROUTE 戻りコード

dd OTHER クラスに関する RACROUTE 戻りコード

ee DATABASE クラスに関する RACLIST 戻りコード

ff SEGMENT クラスに関する RACLIST 戻りコード

gg FIELD クラスに関する RACLIST 戻りコード

hh OTHER クラスに関する RACLIST 戻りコード

ii DATABASE クラスに関する RACLIST 理由コード

jj SEGMENT クラスに関する RACLIST 理由コード

kk FIELD クラスに関する RACLIST 理由コード

ll OTHER クラスに関する RACLIST 理由コード

このメッセージの 2 番目の形式が生成されるのは、IMS が RACF 定義リソースに関してストレージ内プロファイルの作成を試みていて、障害が RACROUTE、RACLIST、または ROUTER EXIT 処理で発生したときです。障害が起きているリソースのクラスが明示され、RACROUTE ルーチンからの戻りコードも示されません。RACF または ROUTER EXIT からの戻りコードおよび理由コード (該当する場合) も示されます。

システムの処置: このメッセージの最初の形式では、IMS 再始動が続行されます。

このメッセージの 2 番目の形式では、IMS の再始動が続行され、トランザクション、コマンド、PSB、または LTERM についての RACF 許可機能は使用不可になります。

オペレーターの応答: このメッセージの 2 番目の形式では、RACROUTE、RACLIST、および ROUTER EXIT ルーチンからの戻りコードと理由コードの詳しい説明について、「MVS/XA SPL Macros and Facilities Manual Volume 2」を参照してください。

DFS2466W RACROUTE REQUEST=LIST FAILED, CLASS=xxxxxxxx, RC=xx. RACF OR ROUTER EXIT RC=xx, REASON CODE=xx.

説明: IMS が RACF 定義のリソースに関して IMS ストレージ内プロファイルの作成を試みている最中に、障害が RACROUTE、RACLIST、または ROUTER 出口

処理で起こりました。メッセージに次の内容が表示されます。

- 障害のあるリソースのクラス
- RACROUTE マクロからの戻りコード
- RACF または ROUTER 出口からの戻りコードおよび理由コード (該当する場合)

システムの処置: IMS 再始動が続行されます。RACF トランザクション許可機能は使用不可になります。

このメッセージの 2 番目の形式では、IMS の再始動が続行され、トランザクション、コマンド、PSB、または LTERM についての RACF 許可機能は使用不可になります。

オペレーターの応答: (マスター端末)

RACROUTE、RACLIST、および ROUTER 出口処理の戻りコードと理由コードの詳しい説明については、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」を参照してください。

DFS2467I /SIGN COMMAND REJECTED [reason]

説明: /SIGN コマンドが、示されている理由のためリジェクトされました。考えられる理由コードとその意味については、メッセージ DFS3649A の説明を参照してください。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 示されている理由を基にして、コマンドを正しく入力してください。

関連情報:

903 ページの『DFS3649A』

DFS2469W TRANSACTION REJECTED reason

説明: このメッセージが、トランザクションを入力する端末に送信されるのは、トランザクションがセキュリティ検査に失敗したと、RACF が判別したときです。トランザクションがリジェクトされる理由は、次のとおりです。

TRANS NOT AUTH; RC=08

ユーザーが、RACF によってこのトランザクション・コードに対する許可を付与されていない。

SIGNON REQUIRED

トランザクションは RACF 保護されていて、ユーザーはサインオンしていない。

RACF NOT ACTIVE; RC=12

BY RACF EXIT; RC=16

RACF 出口が示した戻りコードが無効であった。

INSTALL ERROR; RC=20

RACF がインストールされていないか、間違ったレベルの RACF がインストールされている。

RACF POE ERROR; RC=24

RACF プロファイルに条件付きアクセス・リストがあり、セキュリティ・トークンの POE (port-of-entry) フィールドはブランクで埋められ、POE (port-of-entry) クラスはアクティブである。

RACF DS DELETED; RC=28

リソース・クラスが RACROUTE REQUEST=LIST GLOBAL=YES によって選択されたが、RACF データ・スペースは削除された。

NO PASSWORD; RC=36

ユーザー検査が必要であるが、パスワードが提示されていない。

WRONG PASSWORD; RC=40

ユーザー検査がパスワードで失敗した。

USERID REVOKED; RC=44

ユーザー ID が取り消されたため、ユーザー検査が失敗しました。

注: RC = は、10 進数値を表します。

ユーザー作成 IMS 出口ルーチンによって、追加のコードを提供できます。

システムの処置: 入力されたトランザクションは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいパスワードを使用してトランザクションを再入力するか、セキュリティに違反しない別のトランザクションを入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

モジュール: DFSCIOB0、DFSICIO0、DFSICLE0

DFS2470 /SIGN COMMAND REQUIRED

説明: このメッセージがトランザクションまたは /RELEASE コマンドを入力する端末に送信されるのは、以前の有効なサインオンがなされていないときです。

システムの処置: トランザクションまたは /RELEASE コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末オペレーター) 有効なサインオンを行ってから、トランザクションまたは /RELEASE コマンドを入力してください。

問題判別: ありません。

DFS2471 DUPLICATE CONTROL CARD OR KEYWORD FOR DLITRACE

説明: DLITRACE 制御ステートメントを処理している最中に、次のいずれかの条件が生じました。

- この入力ストリーム内に複数の DLITRACE 制御ステートメントがある。
- 1 つのキーワードが制御ステートメント内で複数回使用された。

システムの処置:

- 使用された DL/I CALL TRACE オプションが、入力ストリーム内の最初の DLITRACE 制御ステートメントで設定されたものでした。
- 検出された最初のキーワードで指定された値が、DL/I CALL TRACE に関して設定された値です。以降のキーワードの使用は監視されます。

プログラマーの応答: 使用された DL/I CALL TRACE オプションが正しいオプションであったか確認し、重複パラメーターは必ず除去してください。

DFS2472 INVALID AWE DETECTED AND LOGGED

説明: 無効の非同期作業エレメント (AWE) が、処理 IMS モジュールによって検出されました。無効のエレメントという場合は、矛盾するパラメーター、欠落しているアドレス、またはその他の多くのものが意味される可能性があります。つまり、プロセッサの要件に応じてまったく異なります。このメッセージには、IMS ログ・データ・セットの X'67' FB ログ・レコードが付随しています。このログ・レコードには、無効の AWE を検出したプロセッサが示されています。このメッセージで示されるエラーは、IMS または出口ルーチンの論理エラーである可能性があります。

システムの処置: このメッセージが出され、無効の AWE およびオプションのプロセッサ作業域が含まれる X'67' FB ログ・レコードがログに記録されます。ログ・レコードは、デバッグを目的とするものです。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: デバッグに備えて、ログ・レコード情報を保管してください。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2473I ERROR; RPLREQ=xx, R0=xx, R15=xx,NODE nodename,CLSDST SCHED

説明: 次のいずれかの条件が存在します。

1. IMS が VTAM EXECRPL マクロを発行し、VTAM から未認識戻りコードを受信した。
2. VTAM のストレージ不足により、VTAM 要求 (EXECRPL を使用) が 25 回失敗した。IMS がノードの CLSDST を試みます。R0 は X'08' で、R15 は X'04' です。
3. セッションはすでに終了しているため、VTAM は SEND 要求 (RPLREQ= 22) をリジェクトする。R0 は X'14' で、R15 は X'04' です。IMS が出力メッセージ処理を開始した後で、VTAM が NSEXIT または LOSTERM を駆動した場合、DFS970I の代わりにこのメッセージが出されます。

RPLREQ コード、およびその他のコードは 16 進数です。

システムの処置: ノードはクローズされているか、非活性化されているか、いずれかです。ノードが非活性化されている場合は、DFS2101I がマスター端末に表示されます。関係のある情報を含む、ID が AER2 の IMS ログ・レコード (X'67') が生成されました。

プログラマーの応答: 問題条件のうちいずれが生じているのか判別する上で、メッセージの内容が役立ちます。

問題判別: 36

関連情報:

303 ページの『DFS970I』

525 ページの『DFS2101I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2474I RECEIVE ANYS EXHAUSTED, REG 0=xx, CLOSING VTAM ACB

説明: VTAM がストレージ不足のため、IMS がネットワークからデータを受信できません。VTAM RECEIVE マクロが発行されると、そのつどストレージ不足戻りコードが示される結果になっています。

システムの処置: IMS はその VTAM ネットワークとの通信ができなくなっているため、VTAM ネットワークの正常シャットダウンが生じる原因になります。

オペレーターの応答: (マスター端末) /START DC コマンドを使用して VTAM ネットワークを再始動してください。

プログラマーの応答: 該当する VTAM バッファーク

ールのサイズを大きくしてください。

問題判別: ストレージ不足になっている VTAM バッファ・プールを判別し、それを拡大してください。

DFS2475 /STOP DC COMMAND IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 前の /STOP DC コマンドがまだ完了していないため、 /START DC コマンドが使用できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) /DISPLAY ACTIVE コマンドを使用して、VTAM ネットワークの状態を判別してください。VTAM ACB がクローズされたら、コマンドを再入力してください。

DFS2476 EXTENDED SECURITY FUNCTION NOT ALREADY DEFINED

説明: USER、TRANAUTH、CMDAUTH、または CMDAUTHE キーワードが /NRE または /ERE COLDSYS コマンドで無効なのは、システム定義および EXEC パラメーターで拡張セキュリティーが要求されなかったときです。

拡張セキュリティーは、初期設定 EXEC パラメーター RCF=A | Y | T | C | S で指定できます。

システムの処置: コマンドは、無視されます。IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドを正確に再入力してください。IMS プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

DFS2477 /RCL COMMAND REJECTED- TERMINAL IN CONVERSATION

説明: /RCL コマンドがリジェクトされました。/RCL コマンドが入力された端末は、現在アクティブな会話中です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: /EXIT を入力して会話を終了させるか、HOLD を入力して、サインオフ越しに会話を保留した上で、 /RCL コマンドを再入力してください。

DFS2478I MIGRATED RESOURCE xxxxxxxx HAS BEEN RECALLED

説明: xxxxxxxx によって指定されている、データベース名とエリア名のいずれかに関する再呼び出しが完了しています。

システムの処置: システムが内部 /START DB または /START AREA コマンドを発行して、リソースを割り振ります。

DFS2479W ISAM ACCESS METHOD IS NO LONGER SUPPORTED. DBD-dbdname MUST BE CORRECTED FOR IT TO BE USABLE

説明: このメッセージにリストされているデータベースでは、処理のために ISAM アクセス方式を必要としています。ISAM は、IMS バージョン 10 以降では使用不可です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: データベースを有効なアクセス方式に変換してください。

DFS2480I BATCH DYNAMIC ALLOCATION DISABLED

説明: IMS が DFSVSAMP データ・セットで、文字ストリング NODYNALLOC のカード・イメージを検出しました。このカード・イメージにより、バッチ IMS での動的割り振りが使用不可になります。

このジョブでは、いずれのデータベースも動的割り振りに参加できません。DD カード・イメージがジョブ・ステップに組み込まれていない限り、これらのデータベースへの参照は失敗します。

プログラマーの応答: 動的割り振りが必要でない場合は、処置は必要ありません。動的割り振りが必要な場合は、 DFSVSAMP データ・セットの NODYNALLOC 制御カード・イメージを削除し、ジョブを再実行してください。

DFS2481I DATA BASE RECOVERY CONTROL FEATURE NOT OPERABLE


説明: データベース・リカバリー管理機能にアクセスするために必要なモジュールの位置指定中に、BLDL マクロがエラーを検出しました。

システムの処置: 異常終了コード 2481 が出されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。データベース・リカバリー管理機能がインストールされている場合は、位置指定エラーの原因を判別してください。データベース・ログ・データ・セットまたはユーティリティー情報にアクセスできなかったため、それらを RECON データ・セットに入力する必要がある場合があります。

問題判別: 1、2、3、8

関連情報:

 IMS 異常終了 2481

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2482I DBRC LOG xxxx EXIT FAILED (yy)

説明: IMS ロガーがサブミットした DBRC 要求が正常に行われませんでした。呼び出された特定のタイプの DBRC 出口が xxxx で示されています。xxxx は次のいずれかの値です。

OPEN
CLOSE
SWITCH
STATUS
ARCHIVE
EOV
SYNAD
LOGREC

xxxx が EOV または SYNAD を示しているときは、戻りコード X'00' または X'04' によって、正常に行われたことが示されるか、戻りコード X'12' によって、正常に行われなかったことが示されるか、いずれかです。

DBRC 戻りコードは、メッセージには yy (16 進数) として表示されます。DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

xxxx が OPEN を示し、yy が RC(4) を示していて、前に障害が発生した IMS システムをコールド・スタートしようとしている場合、適切な手順は IMS の緊急時再始動を行うことです。緊急時再始動に失敗したために IMS をコールド・スタートする場合は、NOTIFY.PRILOG コマンドおよび CHANGE.SUBSYS コマンドを使用して、それ以前の IMS インスタンスのログ・ストリームをクローズし、サブシステム・レコードをクリーンアップする必要があります。また、IMS をコールド・スタートする前に、全機能データベースのバッチ・バックアウトや、何らかの方法での高速機能 DEDB の順方向リカバリーなど、必要なステップを完了しておく必要があります。(ただし、IMS が異常終了したときに FDBR がアクティブであり、それによってリカバリー処理が正常に完了した場合は、バッチ・バックアウトと DEDB 順方向リカバリーは不要です。)

メッセージ DFS4168I は、FDBR がリカバリー処理を正常に完了したことを示します。FDBR リカバリー処理中に DFS0693I メッセージを受け取り、未確定作業単位に対して未確定構造解決が作成されたことが示された場合、コールド・スタートは可能ですが、コミット・コーディネーター側 (例えば、CICS や RRS) からのコマンドを使用して未確定作業単位を手動で解決する必要があります。

DB2® や IBM MQ などの ESS 処理では、IMS がコミット・コーディネーターです。そのため、通常は未確定状態を示すメッセージを FDBR から受け取ることはありません。IMS はサンプル出口 DFSFIDN0 を提供し、この出口により、各未確定 ESS 作業単位の推奨リカバリー処置を含む DFS3722I メッセージが発行されません。未確定 UOW (作業単位) は、ESS 参加サブシステムでも表示されます。IMS コールド・スタート時に、適切な参加サブシステム・コマンドを使用してこれらの未確定 UOW を解決する必要があります。

IMS は、未確定作業単位の FDBR リカバリー処理中に、拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) を作成し、DBRC に登録する場合があります。これらの EEQE は、未確定の IMS データベース・リソースが他のデータ共用 IMS サブシステムによってアクセスされないよう保護します。IMS をコールド・スタートする場合は、未確定 EEQE を手動で処理する必要があります。DEDB の場合は、DBRC コマンドを使用してこうした EEQE を削除しても問題ありません。DEDB はコミット処理前に更新されないためです。全機能データベースでは、未確定 EEQE を含むデータベースでのデータベース・リカバリーの実行が必要になる場合があります。


システムの処置: ARCHIVE 出口が失敗すると、IMS はこのメッセージを出し、実行を継続します。その他の DBRC 出口のいずれかからのエラー戻りコードの場合は、IMS が異常終了コード 0071 を出す結果になります。

プログラマーの応答: DBRC 出口障害の理由を判別するには、分析が必要です。この条件の原因を説明する DSP メッセージについては、z/OS マスター・コンソール (SYSLOG) を参照してください。


この問題がアーカイブ出口障害である場合は、通常の IMS シャットダウンの後で、緊急時再始動 (/ERE) が発行されたかどうか判別してください。そうであった場合は、緊急時再始動処理によってサブミットされた自動アーカイブ・ジョブが失敗し、このメッセージは無視できます。

問題判別: 1、3、8、11、35

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 0071

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2483A DBRC INITIALIZATION ERROR

説明: INIT 呼び出しが、データベース・リカバリー管理 (DBRC) モジュール DSPFLT00 に対してなされました。戻りコードは、出口での重大なエラー条件を示す 12 でした。

システムの処置: IMS 制御領域は異常終了します。

DFS2484I JOBNAME=nnnnnnnnn GENERATED BY LOG AUTOMATIC ARCHIVING

説明: 自動ログ保存がアクティブです。DBRC が、ログ保存ユーティリティの実行に備えて JCL を生成しています。nnnnnnnnn が、DBRC が生成しているジョブの名前です。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: ログ保存ジョブがオンライン IMS システムと並行して実行される場合は、z/OS イニシエーターがログ保存ジョブの処理で使用可能であるか確認してください。

DFS2485I FP ERE TOTAL ALTERATION COUNT ERRORS = n

説明: このメッセージは、その前に 1 から 3 インスタンスのメッセージ DFS2458A が出されているため、DFS2458A で記述されているエラー条件が生じた回数の総数 n を示します。

システムの処置: ありません。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFERST0

関連情報:

603 ページの『DFS2458A』

DFS2486I FP ERE TOTAL VSO LOG ERRORS = n

説明: このメッセージは、その前に 1 から 3 インスタンスのメッセージ DFS2489I が出されているため、DFS2458A で記述されているエラー条件が生じた回数の総数 n を示します。

システムの処置: ありません。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFERST0

関連情報:

603 ページの『DFS2458A』

610 ページの『DFS2489I』

DFS2487I UNABLE TO COMPLETE REDO DURING XRF TKO - AREA aaaaaaaa-RSN cccc

説明: XRF テークオーバー時に、DEDB REDO 処理に次のものが組み込まれます。

- 再始動サブシステムには送信されなかった可能性がある共用サブシステムからの変更をピックアップするために、すべてのブロック・レベル共用域に関する 2 番目の CI のリフレッシュ。
- ユーティリティまたは HSSP のクリーンアップがテークオーバー時に行われた場合の、共用サブシステムへの通知。

このメッセージには、REDO 処理がエリア aaaaaaaa に関してこれらのタスクを実行できなかったことが示されています。cccc が理由を示し、次のいずれかの値になります。

- ER2L** REDO が必要なロックを取得できなかった。
- ER2R** REDO が 2 番目の CI を正常にリフレッシュできなかった。
- ER2U** REDO が、ユーティリティまたは HSSP のクリーンアップがテークオーバー時に行われたことを、共用サブシステムに正常に通知できなかった。この条件が生じる可能性がある原因は、入出力エラーと通知プロセスでの問題のいずれかにあります。

このメッセージが出される時点では、エリア aaaaaaaa は他のすべての REDO 処理を正常に完了しています。メッセージで示されている問題は、エリアをクローズし、次のアクセス時に通常のエリア・オープン処理を通して行えるようにすれば、解決する可能性があります。したがって、エリアに「要リカバリー」のマークを付ける必要はなく、通知エラーの場合を除いて、共用サブシステムによるエリアへのアクセスを禁止する必要はありません。

システムの処置: 共用サブシステムへの通知中にエラーが発生した場合は、共用サブシステムにエリアの停止を指示する通知が行われます。エリアが再始動サブシステムに対してクローズされ、メッセージ DFS3705I が出されます。エリアが次に開かれたとき、エラーが再発する場合は、エリアは停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答: REDO 処理がユーティリティまたは HSSP のクリーンアップを完了できなかった場合は、エリアが再始動サブシステムに対して再オープン (または、共用サブシステムに対して開始および再オープン) されてからでないと、ユーティリティまたは HSSP は、エリアに関して開始できません。

モジュール: DBFERS20

関連情報:

925 ページの『DFS3705I』

**DFS2488A VSO AREA aaaaaaaa- ERE SEVERE
ERROR**

説明: 再始動ログ処理で、仮想記憶オプション (VSO) エリアとして定義される、エリア aaaaaaaa に対してなされる更新のトラッキングのために必要なストレージが取得できませんでした。

システムの処置: エリア aaaaaaaa は停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答: データベース・リカバリー・ユーティリティを使用し、エリアをリカバリーしてください。

モジュール: DBFERSY1

DFS2489I ERE VSO LOG RECORD ERROR

説明: 再始動ログ処理で、再始動システムに既知のいずれのエリアにも一致しない VSO DEDB エリア・ログ・レコードが検出されました。この問題が生じるのは、緊急時再始動、XRF トラッキング、XRF テークオーバー、または高速データベース・リカバリー処理のときです。

ログ・レコードには、VSO DEDB エリア名およびタイム・スタンプが含まれている必要があります。ログ・レコードの存在は、ログ時点以前にコミットされたエリア更新が、障害の前に DASD に書き込まれたことを意味します。このログ・レコードを基にして、再始動ログ処理では、DASD に書き込まれた更新を無視できますが、有効なエリア名がない場合は、どの更新を無視し、どの更新を処理するかの判断ができません。

ほとんどの場合に、パフォーマンスが低下する可能性はあっても、再始動ではこのエラーは許容できます。後続のログ・レコードで問題を訂正できる (つまり、エリアに関して、DASD に書き込まれた更新を示せる) が、それができない場合は、再始動で追加の REDO 処理を行います。

この問題が再発するのは、IMS 再始動がリソースを使い尽くして、VSO エリア更新のトラッキングができない場合である可能性があります。この場合は、影響を受けているエリアはいずれも停止され、「要リカバリー」のマークが付けられます。

このメッセージに加えて、診断情報も出力されます。このエラーでは IMS が終了することはありませんが、情報のフォーマットは、異常終了 1026 からの出力と同じです。

このメッセージおよび付随する診断情報は、最大 3 回

まで出されます。メッセージ DFS2686I は、緊急時再始動の終了時に出力され、エラー条件が検出された回数の総数を示します。


システムの処置: 再始動が継続されます。

システム・プログラマーの応答: XRF テークオーバーのローカル緊急時再始動中は、処置は必要ありません。問題が XRF トラッキング中に発生する場合は、XRF 代替を再始動して、リソース不足および性能低下を緩和してください。

問題判別: 1、5、11、および再始動後に再開されたシステムのメモリー・ダンプが、完了します。

モジュール: DBFERSY0

関連情報:

 1026 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2490A UNLOCK SYSTEM COMMAND
REQUIRED BEFORE SHUTDOWN.**

説明: XRF テークオーバー後は、IMS /UNLOCK SYSTEM コマンドと z/OS Availability Manager (AVM) UNLOCK コマンドのいずれかを入力して、入出力許容データをページしてからでないと、IMS はシャットダウンできません。

システムの処置: シャットダウン・コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: IMS /UNLOCK SYSTEM コマンドと AVM UNLOCK コマンドのいずれかを入力してください。

モジュール: DFSICM30

**DFS2491I A DIVIDE EXCEPTION HAS
OCCURRED-NEXT LINE OF DATA
MAY BE IN ERROR**

説明: 2 つのフィールドを分割している最中に除算例外 (ABEND0C9 または ABEND0CB) が起こりました。このメッセージの理由は、通常、以下のとおりです。

1. 除算に使用されているフィールドの一方が、入力テープの処理が不完全であったか、入力テープが不完全であったか、いずれかのため不完全である場合。
2. DC モニターがアクティブであった時間が長すぎたため、それが原因で被除数フィールドが大きくなりすぎて、商および剰余が割り当てられた作業域に収まらなかった場合。

システムの処置: 処理は正常に継続されます。

**DFS2492I AREA aaaaaaaaa HAS IOT EEQE -
CANNOT ACTIVATE VSO**

説明: /START AREA がエリア aaaaaaaaa に関して入力されました。コマンドの入力時点では、仮想記憶オプション (VSO) は、このエリアに関してはアクティブではありませんでしたが、エリアは DBRC に対して VSO として定義されました。通常は、/START AREA コマンドによって、エリアはデータ・スペースに置かれる (VSO を活動化する) のですが、エリア aaaaaaaaa には XRF テークオーバーによる入出力許容 EEQE が 1 つ以上あります。したがって、EEQE がページされてからでないと、このエリアに関して VSO を活動化することは不可能です。

システムの処置: VSO はこのエリアに関して活動化されません。

オペレーターの応答: IMS /UNLOCK SYSTEM コマンドと AVM UNLOCK コマンドのいずれかを入力して、入出力許容 EEQE をページしてください。その後、/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを再入力してください。

モジュール: DBFVPR00

**DFS2493W A CENTRAL/EXPANDED STORAGE
SHORTAGE EXISTS. VSO WILL BE
ACTIVATED FOR areaname. BLOCKS
REQ/AVAIL rrrrrr/aaaaaa**

説明: 高速処理データベース (DEDB) エリアは、仮想記憶オプション (VSO) エリアとして定義されました。エリアを開いている最中に、使用可能な中央ストレージおよび拡張ストレージの量が不十分で、エリアのサイズに対応できないと、IMS が判別しました。通常の VSO 処理は、このエリアで可能です。

システムの処置: 仮想記憶オプションを使用して、エリアが開かれます。

オペレーターの応答: この警告メッセージは、VSO ストレージ不足の潜在的な可能性があることを示します。メッセージに示されているエリアの場合は、VSO ストレージが不十分で、エリア全体は収まりません。アクセスされた CI が VSO にロードされますが、ページングなどのストレージ制約の問題が存在する可能性があります。制約のあるストレージがご使用の環境で問題となる場合は、/VUN コマンドを発行して、VSO からエリアを除去できます。/START AREA コマンドを再発行するか、UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行することにより、いつでも、エリアに関する VSO 処理を再活動化できます。

モジュール: DBFVSOP0

**DFS2494I DFHSM RECALL DSN=data setname-
RC=xxx**

説明: マイグレーション済み data setname に関する RECALL 要求が、ゼロ以外の戻りコード xxx を受信しました。戻りコードについては、「DFHSM User's Guide」および「DFHSM Messages」を参照してください。DFHSM からの適切なメッセージも発行できます。このメッセージが出されるのは、再呼び出しが 3 回試みられた後に限られます。

システムの処置: IMS は、マイグレーション済みリソースを検索する試みがそれ以上行われるのを停止します。

オペレーターの応答: 受け取った戻りコードに基づいて、適切な処置については、「DFHSM User's Guide」および「DFHSM Messages」を参照してください。これらの資料で推奨されている処置を実行した後、/START DB、UPDATE DB START(ACCESS)/START AREA、UPDATE AREA START(ACCESS) のいずれかのコマンドを発行し、IMS が再呼び出しを再試行できるようにします。

**DFS2495I RESOURCE name NOT ALLOCATED -
MIGRATED AND BEING RECALLED**

説明: システムは、name によって識別されている、高速機能エリアまたは DL/I データベースの動的割り振りを試み、エリア・データ・セットとデータベース内データ・セットの 1 つのいずれかが、補助ストレージにマイグレーションされるのを検出しました。

システムの処置: 割り振りプロセスは強制終了し、割り振りの内部呼び出し元にゼロ以外の戻りコードが示されます。補助ストレージからデータ・セットを非動的に再呼び出しする試みがなされました。

**DFS2497W ICH408I MESSAGES ARE
SUPPRESSED FOR REGION
YYYYYYYY FOR TRAN ZZZZZZZZ
BY RAS SECURITY**

説明: IMS RAS セキュリティーにより、追加の ICH408I メッセージは抑制されています。これは、指定された従属領域の指定されたトランザクションに RACF 定義エラーがあるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

YYYYYYYY

従属領域名

ZZZZZZZZ

トランザクション名

システムの処置: IMS RAS セキュリティーにより、ト

ランザクションおよび従属領域に関する追加の ICH408I メッセージは抑制されます。 トランザクションは、まだメッセージ・キューにあり、他の適格な従属領域または IMSplex 内の他の IMS システムによって処理される可能性があります。 処理は続行されます。

プログラマーの応答: トランザクションを処理するための領域アクセス権限を付与することが適切かどうか判断します。 適切である場合、トランザクションを処理するための領域アクセス権限を付与し、適切な RACF 定義を更新します。 それ以外の場合は、トランザクションを領域から移動させてください。

問題判別: 1、5、6、27、35、36

モジュール: DFSSCHR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2498W IMS SYSTEM ERROR DURING
function_type FOR
DATABASE|DATASET REASON x**

説明: *function_type* 処理中にシステム・エラーが発生しました。

function_type は、次のいずれかです。

- ALLOCATE
- DEALLOCATE

次のいずれかの理由で、エラーが発生しました。

コード (16 進数)

説明

- 01 無効の AWE が動的割り振りルーチンに渡された。
- 02 データベースの索引を停止しないで、データベースを割り振り解除する試みがなされた。
- 03 データベースに関する DDIR が NOTINIT 状況にあることが検出された。
- 04 スケジュール・ビットがオンになっているとき、データベースを割り振り解除する試みがなされた。
- 05 データベースの DCB の 1 つがまだ開いているとき、データベースを割り振り解除する試みがなされた。
- 06 データベースに関するデータ管理ブロック (DMB) がロードできなかった。
- 07 データベースを割り振り解除する試みがなされたが、そのデータ・セットの 1 つの DDNAME が TIOT で検出されなかった。

08 データベースのデータ・セットが IMS でサポートされない装置に常駐している。

システムの処置: 要求は終了します。

プログラマーの応答: 支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 3、8、9、20

モジュール: DFSMDA00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2499W INVALID function_type REQUEST FOR
DATABASE | DATASET FOR
REASON x**

説明: *function_type* は、次のいずれかです。

- ALLOCATE
- DEALLOCATE

識別されている機能が、次のいずれかの理由で無効でした。

コード (16 進数)

意味

- 01 DFSMDA 動的割り振りメンバーが SDFSRESL に存在していなかったか、無効であった。
- 02 データベースのデータ・セットの全部ではないが、一部が JCL によって割り振られた。データベース全体は、JCL によるか、または DFSMDA メンバーによって割り振る必要があるが、その両方によって割り振ることはできません。混合割り振りは無効です。
- 03 データ・セットに関する SIOT で、IMS で割り振り解除できない SYSOUT データ・セットを示す。
- 04 データ・セットに関する SIOT で、IMS で割り振り解除できない VIO データ・セットを示す。
- 05 データベースを割り振り解除する試みがなされたが、データ・セットの 1 つに関するジョブ・ファイル制御ブロック (JFCB) で、ボリュームのないことが示された。
- 06 ステージング IMSACB DD ステートメントの連結は許されません。

システムの処置: 要求は終了します。

プログラマーの応答: 条件を訂正して、将来の要求を正常に処理できるようにしてください。

モジュール: DFSMDA00

DFS2500I DATABASE|DATASET xxxxxxxx
 {DSN=yyyyyyyy} SUCCESSFULLY
 action_type

説明: 識別されている機能に関する処理が、データベース名またはデータ・セット名に関して完了しました。なお、xxxxxxx がデータベース名またはデータ・セット名です。ここで、xxxxxxx は名前です。モニター・データ・セットまたはアーカイブ・ログ (SLDS) の割り振りの場合、データ・セット名 (yyyyyyyy) も提供されます。

action_type は次のいずれかです。

- ALLOCATED
- DEALLOCATED

モジュール: DFSMDA00

第 54 章 DFS メッセージ DFS2501W - DFS2550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2501W INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE AVAILABLE FOR ALLOCATION/DEALLOCATION FOR RESOURCE
xxxxxxx IN PROCESS y

説明: 使用可能な仮想記憶域が不十分で、y で示されるプロセス中にリソースの割り振りまたは割り振り解除が完了できませんでした。

この問題が生じる可能性があるのは、IMS 制御領域または DLISAS 領域です。このエラーの追加情報については、z/OS システム異常終了 878 および 80A の説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

要求されたアクション用の仮想記憶域が不十分であったリソース。

y プロセス。

コード y

割り振りプロセス

1 作業域の GETMAIN が失敗しました (バッチのみ)

2 一時パラメーター・リストの GETMAIN が失敗しました (JCL で割り振られたデータベースの割り振り解除)

3 BLDB が IMSDALIB で失敗しました

4 BLDB が STEPLIB で失敗しました

5 DFSMDA メンバーのストレージの GETMAIN が失敗しました。

使用可能な仮想記憶域が不十分で、データベースの割り振りまたは割り振り解除が完了できませんでした。この問題が生じる可能性があるのは、IMS 制御領域または DLISAS 領域です。このエラーの追加情報については、z/OS システム異常終了 878 および 80A の説明を参照してください。

システムの処置: システム処理は続行されます。

プログラマーの応答: IMS 制御領域または DLISAS 領域の専用ストレージ使用量の評価を行って、未使用ストレージが割り振られようとしていないか、プロセスがストレージの獲得でループしていないか確認してください。このメッセージが引き続き発生する場合は、

SDATA=(CSA,PSA,RGN,SQA,SUM,TRT) を指定した MVS DUMP コマンドを使用して、IMS CTL 領域および DLISAS 領域のコンソール・メモリー・ダンプを作成してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSMDA00

関連資料:

➡ z/OS: システム・コード 878

➡ z/OS: システム・コード 80A

DFS2502W INSTALLATION EXIT PREVENTS DYNAMIC ALLOCATION|DEALLOCATION

説明: IMS ユーザーに動的割り振り要求に関するインストール・システム出口ルーチンがあり、これが IMS によるデータベースの動的割り振りまたは割り振り解除を妨げています。

システムの処置: 要求は無視されます。

プログラマーの応答: インストール・システム出口ルーチンが、IMS 制御領域からのすべての要求を許容するように変更してください。

DFS2503W DYNAMIC action_type FAILED FOR DATA SET NAME
xxxxxxx.xxxxxxx.xxxxxxx
DATABASE NAME dbdname REASON
CODE yyyyyy

説明: 識別されている機能に関する処理が、dbdname および xxxxxxxx で表されているデータベース名およびデータ・セット名に関して失敗しました。WITHIN PSB psbname という句が追加されるのは、PSB が割り振りの試行時点で既知の場合のみです。

action_type は次のいずれかです。

- ALLOCATION
- DEALLOCATION

システムの処置: 処理が要求に関しては終了します。


高速機能 DEDB の多重エリア・データ・セット (MADS) の 1 つのエリア・データ・セット (ADS) が割り振りに失敗した場合は、そのエリアは停止され、

ADS の状況が RECON データ・セット内で変更されることはありません。この失敗が緊急時再始動時に発生した場合は、その ADS は使用不能状況に設定され、他の ADS はリカバリーされます。

プログラマーの応答: ほとんどの場合、理由コードの記述で、要求を再試行する前に取る必要のある処置が識別されています。エラーを訂正し、要求を再試行してください。

モジュール: DFSMDA00

関連資料:

 z/OS: DYNALOC からのエラー理由コードの解釈

DFS2504I ERROR PROCESSING *variable text*: SPECIFIED AREA NAMES DO NOT MATCH

説明:

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

パラメーター・リストのエリア名が ACBLIB に存在しないか、パラメーター・リストでの名前の順序が、DBD データ・セット・ステートメントの場合と同じではありませんでした。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

パラメーター・リストのエリア名が IMS カタログに存在しないか、パラメーター・リストでのエリア名の順序が、データベース定義ステートメントの場合と同じではありませんでした。


IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 08 が示されます。

プログラマーの応答: パラメーター・リストにある名前、または名前の順序を訂正してください。

問題判別: パラメーター・リストで提供されているエリア名を、データベース定義ステートメントでの名前および順序と比較してください。

関連資料:

 IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

DFS2505I ERROR PROCESSING *variable text*: OPEN ERROR

説明:

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

プログラム DBFUMIN0 が、指定された ACBLIB データ・セットをオープンできませんでした。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

プログラム DBFUMIN0 が、指定された IMS カタログ・ディレクトリー・データ・セットをオープンできませんでした。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。


システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 08 が示されます。


プログラマーの応答: この問題は、通常、JCL エラーの結果です。そうであれば、JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

IMS カタログに対してこのメッセージが発行された場合は、カタログ・ディレクトリーを作成し、データを追加するために行ったステップを再確認してください。

問題判別: 3、9、20

関連資料:

 IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

 IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) (システム・ユーティリティー)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2506I ERROR OPENING CONTROL FILE

説明: プログラム DBFUMIN0 が、指定された制御ファイルをオープンできませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 04 が示されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在していて、その指定が正しいことを確認してください。ハード

ウェア障害が示されている場合は、問題を訂正して、ジョブを再実行してください。

DFS2507I ERROR PROCESSING DATA SET
INFO: {MACRO=MODCB | SHOWCB
| RDJFCB}, R15=xxx [R0=]

説明: データ・セット情報を処理している最中に、プログラム DBFUMIN0 がエラーを検出しました。MODCB、SHOWCB、または RDJFCB マクロが正常に完了しませんでした。R15 でのマクロからの戻りコードが示され、MODCB または SHOWCB の戻りコードが 4 の場合は、R0 で理由コードが出されます。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 12 が示されます。

プログラマーの応答: VSAM 戻りコードおよび理由コードの説明を参照してください。ユーザー・エラーがあればすべて訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 3、8、20

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2508I ERROR PROCESSING *variable text*:
INCORRECT MEMBER TYPE
SPECIFIED

説明:

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

プログラム DBFUMIN0 が、ACBLIB で指定されているメンバーについて、DEDB DBD ではないと判別しました。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

プログラム DBFUMIN0 が、IMS カタログで指定されているメンバーについて、DEDB DBD ではないと判別しました。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 08 が示されます。

プログラマーの応答: ACBLIB または IMS カタログにある正しいメンバーを指定してください。

関連資料:

➡ IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS2509I DEFINED (CI SIZE | RECSIZE) IN
CATALOG NOT CONSISTENT WITH
DBD SIZE PARM

説明: カタログにある定義済みコントロール・インターバル (CI) サイズまたは LRECL サイズに、DBD サイズ・パラメーターとの整合性がありませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 12 が示されます。

プログラマーの応答: DBD またはカタログの CI サイズまたは LRECL サイズを変更して、等しくなるようにしてください。

DFS2510I INSUFFICIENT SPACE DEFINED FOR
AREA=*areaname* DD=*ddname*

説明: *ddname* で示されているデータ・セット用として割り振られているスペースが不十分で、DBD に定義されているデータベース・エリアが収まりません。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DBD を変更することで、*ddname* で示されたデータ・セットの ADS に必要なスペースを小さくしてください。代替の方法として、VSAM 定義を変更することで、*ddname* で示されたデータ・セットの ADS 用として割り振られるスペースを大きくしてください。*areaname* に複数のデータ・セットがある場合は、他のデータ・セットについても、十分なスペースが定義されているか確認してください。

DFS2511I CONTROL BLOCK MANIPULATION
ERROR DURING FORMAT
PROCESSING

説明: 制御ブロック操作マクロの実行時に、エラーが発生しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 12 が示されます。

DFS2512I • DFS2518I

プログラマーの応答: DEDB エリアに関する DD ステートメントがすべて正しいか、確認してください。

問題判別: 3、8、20、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2512I AREA=*areaname* DD=*ddname* (OPEN|CLOSE) ERROR

説明: データ・セットの OPEN または CLOSE 処理中に、エラーが発生しました。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: エリアに関する DD ステートメントが正しいか確認してください。

問題判別: 3、8、20

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2513I AREA=*areaname* DD=*ddname* WRITE ERROR

説明: フォーマット制御インターバル (CI) 書き込み中に、入出力書き込みエラーが発生しました。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: ハードウェア・エラーの可能性のあるエラーが発生したので、別の DASD 装置上に DEDB データ・セットのためのスペースを割り振る必要がある可能性があります。

また、このエラーは、DEDB エリアの最大サイズである 4 GB を超える ADS を割り振ろうとした結果である可能性もあります。

DBDGEN からの UOW、ROOT、および SIZE の各パラメータを確認してください。4 GB を超えるサイズの DEDB エリアを割り振らないでください。

VSAM CLUSTER の初期サイズが 4 GB を超えていないことを確認してください。

問題判別: 3、8、20、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2514I SYSPRINT OPEN ERROR

説明: プログラム DBFUMIN0 が SYSPRINT データを正常に開けませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 20 が示されます。

プログラマーの応答: この問題は、おそらく、JCL エラーが原因と考えられます。JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2515I SYSPRINT WRITE ERROR

説明: プログラム DBFUMIN0 が SYSPRINT データ・セットへの書き込みを試み、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 20 が示されます。

問題判別: 3、8、20、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2516I INVALID PARM SPECIFIED IN PARM FIELD-MORE THAN 2048 PARMS SPECIFIED

説明: 2048 を超える AREA= ユーティリティ制御ステートメントが、DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) の CONTROL DD ステートメントで示されました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: パラメータを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2517I I/O ERROR READING CONTROL FILE

説明: ユーティリティ・プログラム DBFUMIN0 が入出力エラーを検出しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: ハードウェア・エラーが修正されたら、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2518I INVALID PARM SPECIFIED IN PARM FIELD-INVALID CHARACTER IN PARM

説明: DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) が、ユーティリティ制御ステートメントで無効文字を検出しました。AREA= 制御ステートメントの後に続く名前は、長さが 1 から 8 文字で、英数字 (A から Z、0 から 9) または特殊文字「\$」、「#」、および「@」で構成する必要があります。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: 無効文字を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2519I ERROR PROCESSING *variable text:*
READ ERROR

説明:

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ACBLIB

入出力エラーが発生したか、ACBLIB から読み取られたブロックに DMCB が、そして DMAC がすべては、含まれていませんでした。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

CATALOG

入出力エラーが発生したか、IMS カタログから読み取られたブロックに DMCB が、そして DMAC がすべては、含まれていませんでした。


IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 20 が示されます。

プログラマーの応答: ACBLIB または IMS カタログに関する JCL が正しいか、ACBGEN が正しいか確認してください。

問題判別: 3、8、9、20

関連資料:

 IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2520I MULTI-POSITIONING CANNOT BE SPECIFIED FOR A MSDB. - PCB
dbname IN PSB psbname.

説明: MSDB DBD に関する PCB が多重位置指定 (POS=M) を指定していました。このオプションは MSDB では無効です。

システムの処置: IMS は PCB の処理を続けますが、

PSB 内の残りの PCB を処理することはありません。PSB は ACBLIB から除去されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答: PCB ステートメントの PCB= パラメーターを訂正し、PSBGEN を再実行し、この PSB に関して BUILD ステートメントを使用して、ACBGEN を再実行してください。

DFS2521I INVALID SENSEG-*sensegname*
SPECIFIED IN PCB-*dbname* IN
PSB-*psbname*

説明: 示されている PSB の指定されたセンシティブ・セグメントが、示されている DBDGEN で定義されていません。

システムの処置: IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から削除されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答: 示されている PCB および PSB の SENSEG ステートメントの SENSEG 名を訂正または除去してください。次に PSBGEN を再実行し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

問題判別: 18、19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2522I INVALID PROCOPT SPECIFIED FOR SENSEG-*senseg name* IN PCB-*dbname*
IN PSB-*psbname*

説明: 指定されたセンシティブ・セグメントは、示されている PCB および PSB で無効のオプションが指定されています。

システムの処置: IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から削除されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答: 示されている PCB および PSB の SENSEG ステートメントのエラー処理オプションを訂正してください。次に PSBGEN を再実行し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

問題判別: 18、19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2523I INVALID SENSEG HIERARCHICAL
STRUCTURE SPECIFIED IN
PCB=*dbdname* IN PSB=*psbname***

説明: 指定された PCB 内の 1 つ以上のセンシティブ・セグメントで、示されている PSB に無効のセンシティブ・セグメント・レベル指定があります。有効なセンシティブ・セグメント・レベルは以下のとおりです。

- MSDB アクセスは 1 です。
- DEDB アクセスは 2 です。

システムの処置: IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から削除されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答: 示されている PCB および PSB の SENSEG ステートメントの PARENT パラメーターを訂正してください。次に PSBGEN を再実行し、この PSB に関する BUILD ステートメントを使用して、プログラムを再実行してください。

問題判別: 19

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


**DFS2524I AREA=*areaname*, DD=*ddname*, READ
ERROR.EEQE ALREADY EXISTS,
CI-RBA=*nnnnnnnn***

説明: 入出力許容拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) が制御インターバル (CI) *nnnnnnnn* に関して存在し、入出力防止が有効であるため、READ ANY 要求がリジェクトされました。

システムの処置: 状況コード AO がアプリケーション・プログラムに戻されます。データがこの呼び出しですでに変更されている場合、アプリケーション・プログラムは、IRLM 異常終了 3303 で終了します。INIT 呼び出しが出された場合は、状況コード BA が戻される可能性があります。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムが異常終了 3303 で終了する場合は、該当する応答について、異常終了コード 3303 に関するオペレーターの応答の最後の段落を参照してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3303

**DFS2525I FAST PATH DATA BASE DEFINED
IN A NON-FP SYSTEM: *dbname***

説明: このメッセージについては、DFS2525W を参照してください。

関連情報:

『DFS2525W』

**DFS2525W FAST PATH TRANSACTION *traname*
IS NOT CREATED IN A NON-FP
SYSTEM *system***

説明: トランザクション *traname* が、高速機能専用または高速機能利用可能として定義されますが、この IMS は高速機能対応ではありませんでした (FP=N)。トランザクション *traname* は作成されません。高速機能データベース *dbname* が、高速機能対応でない (FP=N) IMS システムに定義されています。データベース *dbname* は作成されません。

システムの処置: 正常な実行が継続されます。トランザクション *traname* は作成されませんでした。

プログラマーの応答: データベースの場合、高速機能データベースへのアクセスが要求されない限り、処置は必要ありません。高速機能を使用可能にし、FP=Y を実行パラメーターとして定義して、IMS システムをコールド・スタートする必要があります。

トランザクションの場合、高速機能トランザクションを使用する必要がなければ、処置は必要ありません。トランザクションを使用するには、高速機能を使用可能にして (実行パラメーターとして FP=Y を定義して) IMS システムをコールド・スタートする必要があります。自動エクスポートが使用可能であり、システム・リソース定義のエクスポートが行われた場合、高速機能リソース定義は RDDS にはありません。高速機能リソースを復元するには、次のいずれかを行うことができます。

1. FP=Y を実行パラメーターとして指定し、
AUTOIMPORT=MODBLKS を DFSDFxxx
PROCLIB メンバーの DYNAMIC_RESOURCES セクションで指定して、IMS をコールド・スタートします。MODBLKS データ・セットで定義された高速機能リソースは、コールド・スタート時に作成されます。動的に作成されたリソースで、MODBLKS データ・セット内にないリソースは失われます。
2. FP=Y を実行パラメーターとして指定し、
AUTOIMPORT=RDDS を DFSDFxxx PROCLIB メンバーの DYNAMIC_RESOURCES セクションで指定して、IMS をコールド・スタートします。
CREATE コマンドを発行して、必要な高速機能リソースを作成します。

問題判別: 10、18

関連情報:

『DFS2525I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2526I DATA SET NOT EMPTY FOR
AREA=areaname DD=ddname**

説明: 空ではない DEDB データ・セットをフォーマット設定する試みがなされました。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: 該当する VSAM オプションを使用して、データ・セットを SCRATCH、DELETE、ALLOCATE、および DEFINE し、初期設定ユーティリティーを再実行してください。

問題判別: 1、3、8、18、20

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2527I NUMBER OF FAST PATH DATA
BASE BUFFERS TO BE PAGE-FIXED
EXCEEDS LIMIT.**

説明: 領域初期設定中に、ページ固定を行う高速機能データベース・バッファの数が、現在使用可能なバッファの合計数を超過しました。


システムの処置: PSB は初期設定されず、領域は異常終了し、異常終了コード 1006 が示されます。DBCTL 環境では、障害のある PSB がスレッドである場合は、戻りコードは CCTL に渡されて戻ります。異常終了コードが DBCTL 領域から出されることはありません。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: BMP、MPP、および IFP の場合は、次の IMS 実行時に、IMS 制御領域ジョブ・ステップ EXEC PARM で DBBF パラメーターの値を大きくし、ジョブ・ステップ EXEC PARM で NBA または OBA パラメーターの値を小さくするか、高速機能バッファを使用している領域が終了するのを待ち、ジョブを再実行してください。DBCTL 環境でのスレッドの場合は、DFSPRP の CNBA パラメーターの値を大きくするか、FPBUF または FPBOF パラメーターの値を小さくするか、高速機能バッファを使用している、スケジュールされたバッファが終了するのを待って、ジョブを再実行してください。

問題判別: 8、10、11

関連情報:

 IMS 異常終了 1006

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2528A DUPLICATE AREA NAME-area name
FOUND IN DEDB-database
name1-AND-database name2**

説明: IMS システムで定義された、指定された DEDB DBD で、重複エリア名が検出されました。DBDGEN の AREA ステートメントの 1 つの DD1 オペランドで定義されたエリア名が、別の DEDB DBDGEN で定義されているか、DEDB DBDGEN 内で定義されています。

システムの処置:

このメッセージが、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの後に受信された場合は、そのコマンドが強制終了されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) このエラーが /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの後に発生した場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: エラーが初期設定中に発生した場合は、エラーの DBD を訂正し、あらためてアプリケーション制御ブロック保守ユーティリティーを実行し、ジョブを再実行してください。

エラーが /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドの後に発生した場合は、エラーの DBD を訂正し、再度アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティーを実行し、オンライン変更ユーティリティーを実行してください。

問題判別: 1、4、18

モジュール: DBFINI20、DBFOLC02

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2529I NO FAST PATH REGION IS
ACTIVE.**

説明: 高速機能入力メッセージがロードおよび平衡化グループのキューに入れられました。しかし、メッセージを処理するようにスケジュールされていた最後の領域が終了していました。この時点で入力メッセージを処理するために使用できる高速機能領域はないことが、端末ユーザーに通知されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 指定された高速機能領域を再始動してください。

(端末) 高速機能領域が再始動されていることを確認した上で、入力メッセージを再入力してください。

問題判別: 1、6、7、11

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2530 FAST PATH EXCLUSIVE
TRANSACTION FROM NON-FP
TERMINAL**

説明: 高速機能専用トランザクション向けのメッセージが、高速機能メッセージ・バッファがシステム定義時に定義されていなかった端末、またはマスター端末から受信されました。

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: 高速機能サポートが必要なすべての端末に関して、高速機能メッセージ・バッファを指定して、システムを再生成してください。

問題判別: 7、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2531 MESSAGE ROUTED TO UNDEFINED
TRANSACTION CODE**

説明: 高速機能ユーザー入力出口が、トランザクション識別を引数として使用して、宛先コード・テーブルを検索するために、高速機能を送信しました。プログラム DBFHIEL0 がテーブルを検索しましたが、等しい比較は検出されませんでした。

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: トランザクション・コードを宛先コード・テーブルに追加するか、正しいルーティング情報が得られるように、ユーザー入力出口を訂正してください。

問題判別: 7、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2532 MESSAGE ROUTED TO UNDEFINED
ROUTING CODE**

説明: 高速機能ユーザー入力出口が、その出口が提供した宛先コードを使用して、宛先コード・テーブルを検索するために、高速機能を送信しました。プログラム DBFHIEL0 がテーブルを検索しましたが、等しい比較は検出されませんでした。

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: 正しい宛先コードが生成されている場合は、その宛先コードを宛先コード・テーブルに追加してください。そうでない場合は、ユーザー入力出口

を使用して、正しい宛先コードを生成してください。

問題判別: 7、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2533 ROUTING CODE NOT ACTIVE

説明: この宛先コードに関しては、メッセージ処理プログラムがスケジュールされませんでした。マスター端末オペレーターが、メッセージ処理プログラムをスケジュールしてからでないと、高速機能はその宛先に関するメッセージを受け入れることはできません。

システムの処置: メッセージは無視されます。

オペレーターの応答: 宛先コードがアクティブでないことを、マスター端末オペレーターに通知してください。

問題判別: 7、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2534 TRANSACTION CODE NOT ACTIVE

説明: このトランザクションを表す宛先コード・テーブル・エントリに関しては、メッセージ処理プログラムがスケジュールされませんでした。メッセージ処理プログラムが少なくとも 1 つ、マスター端末オペレーターによって開始されてからでないと、高速機能を使用してメッセージをこの宛先にスケジュールできません。

システムの処置: メッセージは無視されます。

オペレーターの応答: トランザクション・コードがアクティブでないことを、マスター端末オペレーターに通知してください。

問題判別: 7、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2535 FUNCTION NOT AVAILABLE TO
INQUIRY ONLY TERMINAL**

説明: 宛先コード・テーブル・エントリは、IMS システム定義で更新として定義され、入力端末は、照会専用として定義されました。

システムの処置: メッセージは無視されます。

オペレーターの応答: 更新端末からトランザクションを再入力してください。

**DFS2536 FAST PATH EXCLUSIVE TRAN
ROUTED TO IMS**

説明: 高速機能ユーザー入力出口が、高速機能専用トランザクションにあてられたメッセージをスケジュールのために IMS に戻すよう、高速機能に指図しました。

システムの処置: メッセージは無視されます。

プログラマーの応答: ユーザー入力出口が高速機能専用トランザクションを高速機能にルーティングするように、訂正してください。

問題判別: 7、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2537 INVALID KEYWORD-FAST PATH
NOT INSTALLED**

説明: 高速機能キーワード MSDBLOAD が /NRESTART コマンドで入力されましたが、高速機能がインストールされていませんでした。

システムの処置: /NRESTART コマンドは無視されません。

オペレーターの応答: (マスター端末) 高速機能キーワードを指定しないでコマンドを再入力してください。

**DFS2538 MSDBLOAD KEYWORD INVALID IN
ERESTART COMMAND**

説明: 無効のキーワード MSDBLOAD が /ERESTART コマンドで入力されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 高速機能キーワード MSDBLOAD を指定せずに、コマンドを再入力します。

**DFS2539I OPEN ERROR ON INPUT DATA
SET, NO MSDBS LOADED**

説明: 主記憶データベース (MSDB) 入力データ・セットを正常に開くことができませんでした。この問題については以下の原因が考えられます。

- DD ステートメントが欠落している。z/OS がこの問題を示すメッセージを印刷します。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。そのような問題がある場合、システムは異常終了します。

システムの処置: DD ステートメントが欠落している場合は、IMS は続行されますが、MSDB はロードされません。JCL に誤りがある場合は、結果は予測不能です。

プログラマーの応答: DD ステートメントが正しく、指

定が正しいか確認してください。IMS をシャットダウンし、MSDBLOAD を使用して、システムを再始動してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

**DFS2540I DBDNAME *dbdname* SEQUENCE
ERROR, NO MSDBS LOADED**

説明: MSDB 入力データ・セットのデータベース名が昇順になっていませんでした。

システムの処置: IMS は処理を続けますが、MSDB はロードされません。

プログラマーの応答: 入力データ・セットをソートし、すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2541I SEGMENT LENGTH ERROR IN
MSDB *dbdname***

説明: この MSDB の入力セグメント長さが、指定されている長さに等しくありませんでした。

システムの処置: セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: MSDB 保守ユーティリティを実行して、入力を訂正してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

重要: 操作の便宜上、MSDB は開始できますが、フィールドが無効のセグメントは使用不能で、状況 GE または GB が出されます。これらのセグメントは、MSDB データ・セットが訂正され、MSDB が再ロードされたからでないと、変更したり置き換えたり、削除したりすることはできません。

**DFS2542I KEY SEQUENCE ERROR IN MSDB
*dbdname***

説明: MSDB 内のセグメントが昇順キーの順序になっていませんでした。

システムの処置: セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: 入力データ・セットをソートし、すべての MSDB を再ロードしてください。

**DFS2543I INSUFFICIENT SPACE FOR MSDB
*dbdname***

説明: MSDB PROCLIB メンバーで定義されているセグメントの数より多い入力セグメントがありました。

システムの処置: 超過セグメントは無視され、この MSDB は停止されます。

DFS2544I • DFS2550I

プログラマーの応答: MSDB 保守ユーティリティ出力でこの MSDB 内のセグメントの数をチェックし、それに応じて PROCLIB メンバーを更新してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2544I MSDB *dbdname* CONTAINS INVALID DATA

説明: ロード・プロセス中に、モジュール DBFDBILO がこの MSDB で無効のパック・データを検出しました。

システムの処置: データが無効のセグメントにフラグが立てられ、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: MSDB 保守ユーティリティを実行して、この MSDB に関する入力を訂正してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2545I INVALID MSDB TYPE IN INPUT, MSDB *dbdname*

説明: MSDB タイプが無効でした。MSDB は端末関連ではありませんでした。すなわち、端末キー付きであってもなくても非端末関連でした。

システムの処置: この MSDB のすべてのセグメントが無視されます。MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: この MSDB のすべてのセグメントを訂正し、すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2546I INVALID KEY LENGTH IN MSDB *dbdname*

説明: MSDB タイプが端末関連または端末キーに関連した非端末の場合は、このセグメントのキー長さは、LTERM 名の長さ (8 文字) に等しくする必要があります。

システムの処置: セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2547I KEY (LTERM) *xxxxxxx* NOT FOUND IN SYSTEM

説明: LTERM 名がキーとして使用されましたが、この IMS システム内では見つかりませんでした。

システムの処置: セグメントは無視され、MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: MSDB 保守ユーティリティを実行して入力を訂正するか、この LTERM 名を使用し

て IMS を再定義してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2548I ERRORS IN MSDB *dbdname*, MSDB STOPPED

説明: モジュール DBFDBILO が MSDB のロードを試み、エラーを検出しました。さらに情報が必要な場合は、メッセージ DFS2541I、DFS2542I、DFS2543I、DFS2544I、DFS2545I、DFS2546I、DFS2547I、および DFS2550I を参照してください。

システムの処置: MSDB は停止されます。

プログラマーの応答: 参照されているメッセージに記述されているエラーすべてを訂正してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

関連情報:

623 ページの『DFS2541I』

623 ページの『DFS2542I』

623 ページの『DFS2543I』

『DFS2544I』

『DFS2545I』

『DFS2546I』

『DFS2547I』

『DFS2550I』

DFS2549I I/O ERROR ON INPUT DATA SET, NO MSDBS LOADED

説明: 入出力の問題が検出されました。このメッセージの前に、メッセージ DFS2552I が出力されています。

システムの処置: MSDB ロード・プロセスは停止されます。

プログラマーの応答: メッセージ DFS2552I の情報を確認してください。別の装置からロードを試行するか、入力データ・セットを再作成してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

関連情報:

627 ページの『DFS2552I』

DFS2550I TYPES DO NOT MATCH IN MSDB *dbdname*

説明: 入力データ・セットの MSDB タイプと、DBD で指定されているタイプの間に矛盾が検出されました。

システムの処置: セグメントは無視され、データベースは停止されます。

プログラマーの応答: 入力データ・セットを訂正し、

DBDGEN を再実行してください。すべての MSDB を再ロードしてください。

第 55 章 DFS メッセージ DFS2551I - DFS2600A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2551I MSDB *dbdname* IS EMPTY

説明: *dbdname* で識別される主記憶データベース (MSDB) は、MSDB PROCLIB メンバーで指定されましたが、モジュール DBFDBILO はデータ・セットで入力を検出しませんでした。

プログラマーの応答: MSDB が動的の場合は、挿入コマンド (ISRT) を使用して、データベースをロードできます。

DFS2552I SYNAD error message buffer

説明: このメッセージには、MVS SYNAD エラー・メッセージ・バッファが含まれています。詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

このメッセージの後に、メッセージ DFS2549I が続きます。

システムの処置: MSDB ロード・プロセスは停止されます。

プログラマーの応答: 別の装置からロードを試行するか、入力データ・セットを再作成してください。

関連情報:

624 ページの『DFS2549I』

DFS2553I DBDNAME *dbdname* NOT FOUND IN SYSTEM

説明: プログラム DBFDBILO が、入力データ・セット内でデータベース名 *dbdname* を検出しました。ただし、その名前は MSDB PROCLIB メンバーに定義されていないか、プログラム DBFINTEO が検出した PCB はシステム内で検出できなかった DBD を参照するものであるかのいずれかです。

システムの処置: セグメントは無視されます。2 番目の事例の場合は、PSB か DBD、またはその両方を置き換えてください。

プログラマーの応答: PROCLIB メンバーを訂正します。すべての MSDB を再ロードしてください。

DFS2554I MSDB *dbdname* LOADED

説明: このメッセージでは、このデータベースがエラー

を起こさずにロードされたことを検証しています。

DFS2555I NO SUFFIX FOR MSDB MEMBER DEFINED.

説明: MSDB メンバーに関して、IMS 始動プロシージャに接尾部が定義されていませんでした。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: 現行 IMS システムでは MSDB が必要ないか確認してください。システムで MSDB を必要とする場合は、IMS を停止し、始動プロシージャを更新またはオーバーライドしてください。

DFS2558I THE INTENT LIST LENGTH EXCEEDS LIMIT IN PSB *psbname*.

説明: *psbname* によって特定される PSB に大量の DBPCB があり、それが原因で、意図リストの長さが 64K の限度を超えています。

システムの処置: ACBGEN ユーティリティはこのエラーのため終了しました。

プログラマーの応答: PSB の DBPCB 数を減らし、PSBGEN および ACBGEN を再実行してください。

モジュール: DFSUAMBO


DFS2559A GETMAIN FAILED.

説明: IMS 制御領域にストレージが不十分で、作業域を構築できませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されます。

プログラマーの応答: IMS 制御領域のサイズを 4096 バイトだけ大きくしてください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1012

DFS2560I WAITING FOR THE OLCSTAT DATA SET

説明: グローバル・オンライン変更が OLCSTAT データ・セットを割り振りました。このバッチ・ジョブは、グローバル・オンライン変更が OLCSTAT を割り振り

解除するまで待機しています。

システムの処置: グローバル・オンライン変更が OLCSTAT データ・セットを割り振り解除したときに処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSBIND0


DFS2561A FORMAT ERROR IN COMMAND FROM DBFMSDBn ENCOUNTERED IN POSITIONxx

説明: モジュール DBFINI10 が、ddname=PROCLIB データ・セットのメンバー DBFMSDBn でフォーマット・エラーを検出しました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されます。

プログラマーの応答: DBFMSDBn の MSDB パラメーターのフォーマットを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1012


DFS2562A DUPLICATE DBD NAME SPECIFIED

説明: 重複 DBD 名が DBFMSDBn の MSDB ロード決定メンバーで指定されました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されます。

プログラマーの応答: PROCLIB メンバー DBFMSDBn で定義されている DBD 名をチェックおよび訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1012

DFS2563I NO MSDBS FOUND-MSDBLOAD IGNORED

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- 高速機能キーワード MSDBLOAD が /NRESTART コマンドで入力されたが、PROCLIB メンバーが IMS プロシージャで定義されなかった。
- DBD が MSDB に関する ACBLIB に存在しない。

メッセージ DFS2706A または DFS0579W が、このメッセージの前に出されています。

システムの処置: MSDBLOAD キーワードは無視されます。

プログラマーの応答: MSDB を使用したい場合は、次のようにしてください。

- MSDB メンバーを PROCLIB に追加する。
- MSDB 用の DBD が ACBLIB 内に存在することを確認する。
- IMS プロシージャを変更する。

関連情報:

181 ページの『DFS0579W』

656 ページの『DFS2706A』

DFS2564I ERROR IN OBTAINING DEVICE TABLE, DDNAME ddname, RC=return code

説明: MVS DEVTYPE マクロが発行されたとき、プログラム DBFDBTC0 がエラーを検出しました。

コード 意味

- 04 間違った DD 名が存在する。
- 08 無効のエリア・アドレスがある。

システムの処置: このエラーがコールド・スタート時に発生した場合は、MSDB CHKPT/DUMP データはフォーマットされません。このエラーが緊急時再始動または正常再始動で発生した場合は、MSDB イメージ・コピーがロードされません。

プログラマーの応答: 戻りコードが 04 であった場合は、DD 名をチェックおよび訂正してください。

問題判別: 4、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2565I BLOCK LENGTH EXCEEDS TRACK CAPACITY, DDNAME=ddname

説明: DCB で指定されたブロック長が、この装置タイプのトラック容量を超えています。このエラーは、DCB のブロック・サイズが変更された場合に起こることがあります。

システムの処置: メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答: メッセージ DFS2564I を参照してください。

関連情報:

DFS2564I

DFS2566I **BUFFER LENGTH IS ZERO,**
DDNAME=ddname

説明: この DCB のバッファ長がゼロに変更されました。

システムの処置: メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答: メッセージ DFS2564I を参照してください。

関連情報:

DFS2564I

DFS2567I **DUMMY/INCORRECT ALLOCATION**
FOR DDNAME ddname-DATA SET
CANNOT BE USED

説明: DD ステートメントがダミー割り振り、または SYSIN/SYSOUT データ・セットを参照しています。

システムの処置: メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答: DD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

DFS2564I

DFS2568I **ddname IS NOT ON DIRECT ACCESS**
STORAGE DEVICE

説明: この DD ステートメントによって指し示されている UCBTYP が、直接アクセス・ストレージ・デバイスを示していませんでした。

システムの処置: メッセージ DFS2564I を参照してください。

プログラマーの応答: DD ステートメントおよび割り振りを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

DFS2564I

DFS2569I **AREA=areaname DD=ddname**
CONNECT|EXTEND ERROR

または


AREA=areaname DD=ddname SAF ACCESS DENIED

説明: モジュール DBFMMIT0 が、ddname に関連するデータ・セットを接続することや開くことができませんでした。VSAM エラー・メッセージ IEC161I が、このメッセージの前に出されました。

システムの処置: DEDB 作成ユーティリティーのために、ADS を開く要求がなされると、このユーティリティーは次の ADS を開こうとします。次の ADS が使用可能でない場合は、DEDB 作成ユーティリティーは終了し、指定されたエリアが処理を続行します。DEDB 作成ユーティリティー以外のために、ADS を開く要求がなされた場合は、メッセージ DFS3702I および DFS2574I が、このメッセージの後で出されます。指定されたエリアは終了し、停止のマークが付けられます。

プログラマーの応答: VSAM エラー・メッセージ IEC161I をチェックし、エラーを訂正し、該当する再始動プロシージャどおりにしてください。該当する再始動手順を選択する場合は、このメッセージの後に続いて出されるメッセージ DFS3702I および DFS2574I のプログラマーの応答をチェックしてください。

関連資料:

 IEC161I に関する情報:

関連情報:

630 ページの『DFS2574I』

921 ページの『DFS3702I』

DFS2570I **AREA=areaname DD=ddname**
DISCONNECT ERROR

説明: モジュール DBFMMIT0 が、示されている DD 名に関連したデータ・セットを切断 (クローズ) できませんでした。VSAM エラー・メッセージ IEC251I が、このメッセージの前に出されました。

システムの処置: データ・セットに関しては、クローズ処理は停止されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: VSAM エラー・メッセージ IEC251I をチェックしてから、VSAM アクセス方式サービスクラス・プログラムを実行して、指定された ADS が使用可能か判別してください。指定された ADS が使用不能の場合は、DEDB 作成ユーティリティーまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティーを実行してください。

関連資料:

 z/OS: IEC251I

DFS2571I (ccccffss) **AREA=areaname DD=ddname,**
READ ERROR, CI-RBA=nnnnnnnn,
REMAINING EQE=nn, EEQE=nnnn

説明: 制御インターバル (CI) RBA nnnnnnnn で、読み取りエラーがデータ・セットで生じました。エラー・キュー・エレメント (EQE=nn) が、データ・セット内

DFS2572I • DFS2574I

の連続する読み取りエラーの数を表します。読み取りエラーの EQE の最大数は EQE=03 です。単一のエリア・データ・セット (SADS) で、そのエリアの書き込みエラーに EEQE が存在する場合、メッセージに EEQE=nnnn も表示されます。拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE=nnnn) は、そのエリアの既存の書き込みエラーの数を表します。変数 cccffss は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置: 指定されたエリアで他のデータ・セットを読み取らなかった場合は、システムが他のデータ・セットからの読み取りを試行します。そうでない場合は、状況コード AO がアプリケーション・プログラムに戻されます。永続入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' で示される) が発生していない場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、MVS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに取ることができます。

オペレーターの応答: 読み取りエラーが引き続き発生する場合は、このエリアに対して DEDB 作成ユーティリティまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

問題判別: 1、6、11、20。問題判別が有効なのは、メディア・マネージャー・エラー戻りコードが X'0020FF10' でないときです。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2572I (ccffss) AREA=areaname DD=ddname,
WRITE ERROR, CI-RBA=nnnnnnnn,
REMAINING EQE=nn, EEQE=nnnn

説明: 制御インターバル (CI) RBA=nnnnnnnn で、書き込みエラーがデータ・セットで生じました。エラー・キュー・エレメント (EQE=nn) が、データ・セット内の書き込みエラーの数を表します。書き込みエラーの EQE の最大数は EQE=10 です。単一エリア・データ・セット (SADS) の場合、メッセージに EEQE=nnnn も表示されます。拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE=nnnn) は、そのエリアの既存の書き込みエラーの数を表します。変数 cccffss は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

エラー戻りコード X'40CF4040' は、カップリング・ファシリティ構造での書き込みエラーを示します。メッセージ DFS2830I がこの戻りコードより前に出されます。

システムの処置: システムが、多重エリア・データ・セット (MADS) のエラー・キュー・エレメント (EQE)

を生成すると、エラー・データ・セット上の CI は非活性化されます。システムは単一エリア・データ・セット (SADS) の拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) を作成し、エラーを起こした CI は、書き込みエラーを検出したシステム用の入出力許容 (IOT) バッファ内にあります。永続入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' で示される) が発生していない場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、z/OS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに取ることができます。

オペレーターの応答: この制御インターバルが重大な CI である場合は、このエリアに関して、DEDB 作成ユーティリティまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行して、/START コマンドでエリアを再始動してください。

問題判別: 1、6、11、20。問題判別は、メディア・マネージャー・エラー戻りコードが X'0020FF10' でない場合に有効です。

関連情報:

676 ページの『DFS2830I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2573I AREA=areaname, DD=ddname, READ
ERROR.CI-RBA=nnnnnnnn

説明: 制御インターバル (CI) RBA=nnnnnnnn で、読み取りエラーがデータ・セットで生じました。このデータ・セットの場合は、EQE が存在します。

システムの処置: 状況コード AO がアプリケーション・プログラムに戻されます。

オペレーターの応答: 読み取りエラーが引き続き発生する場合は、このエリアに対して DEDB 作成ユーティリティまたはデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行してください。

DFS2574I AREA=aaaaaaaa CLOSED|STOPPED,
(RECOVERY NEEDED, RSN=nn)

説明: 指定されたエリアがエリア・オープン障害、重大な入出力エラー、/STOP コマンド、または /DBRECOVERY コマンドによって終了する場合は、指定されたエリアに停止のマークが付けられます。DBRC からの戻りコードに要リカバリー状況が示された場合は、その状況がメッセージに追加されます。このメッセージが緊急時再始動中に出される場合は、たとえ指定されたエリアが DBRC に登録されていなくても、要リカバリー状況は常にメッセージに追加されます。次に問題が生じる理由 (RSN=) を示します。

- 00 メッセージで使用できない理由コード。このコードはデフォルトです。
- 01 緊急時再始動時に、VSO エリア *aaaaaaaa* に重大エラーが生じた。
- 02 緊急時再始動時に、VSO エリア *aaaaaaaa* に重大エラーが生じた。
- 03 緊急時再始動ではエリア *aaaaaaaa* を処理できなかった。障害に先立って、重大エラーがこのエリアで発生していたからです。
- 04 /ERE COLDBASE コマンドの後で、エリア *aaaaaaaa* をリカバリーする必要がある。
- 05 エリア・オープンが緊急時再始動中に失敗した。
- 06 緊急時再始動時に、VSO エリア *aaaaaaaa* に重大エラーが生じた。
- 07 緊急時再始動時に、エリア *aaaaaaaa* に読み取りエラーが生じた。
- 08 緊急時再始動時に、エリア *aaaaaaaa* に書き込みエラーが生じた。
- 09 ストレージ要求が失敗したため、VSO エリア *aaaaaaaa* が XRF テークオーバー越しにリカバリーできなかった。
- 10 緊急時再始動または XRF テークオーバーのどちらかで、リカバリー不能 DEDB エリアに対する DASD 書き込みが完了できなかったと判別されました。そのエリアは、イメージ・コピーから復元する必要があります。
- 12 エリア専用バッファ・プールとして必要なストレージが不十分であったため、緊急時再始動ではエリア *aaaaaaaa* を処理できなかった。
- 13 /ERE または XRF TAKEOVER プロセスのなかで、AREA に関する VSO オプションに不整合が検出された。AREA は停止されます。メッセージ DFS2574I が、理由コード 13 を伴って出されます。/START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行して、不整合を訂正してください。
- 14 エリアは、SVSODR オプションの 1 つにより、停止され、必要なりカバリーとしてマーク付けられます。これらのオプションは、SVSO エリアの緊急時再始動処理の際に有効になります。
- 15 緊急時再始動で、SVSO 専用バッファ・プール内の不整合のために、エリア *aaaaaaaa* を処理できませんでした。先行するメッセージ DFS2835I によって不整合が識別されています。

システムの処置: 指定されたエリアに関しては、処理が終了します。メッセージが、NOPFA オプションを含む /DBR コマンドに対するものでない限り、データベース

またはエリアに対して Prohibit Authorization フラグがセットされます。

オペレーターの応答: メッセージ DFS3712A またはメッセージ DFS3713A がこのメッセージより前に出されている場合は、VSAM エラーがあれば、エリアを再始動する前にすべて訂正してから、必要な場合は、リカバリーを実行してください。

エリアが要りカバリーとして示されている場合は、エリアを再始動する前に、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) がまだ存在するためにはエリアが要りカバリー状況である場合は、LIST.DBDS コマンドを発行して EQERBA を検出してください。EQERBA が NULL の書き込みエラー EEQE が存在するのは、カップリング・ファシリティーとの IMS 接続が失われたため、CASTOUT が失敗したため作成された場合です。エリアには一時的要りカバリーのマークが付けられます。接続が再確立され、CAST が正常に行われれば、状況はリセットされます。NULL の EQERBA 以外が検出された場合は、/UNLOCK SYSTEM コマンドを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール:

DBFERST0、DBFE2CI0、DBFMOPC0、DBFMLCL0

関連情報:

676 ページの『DFS2835I』

930 ページの『DFS3712A』

931 ページの『DFS3713A』

**DFS2575I PROCSEQ IS INVALID FOR DEDB
PCB *dbdname* IN PSB *psbname***

説明: メッセージ内の *dbdname* で識別される DEDB DBD の PCB で、PROCSEQ が指定されました。このオプションは、DEDB に対しては無効です。

システムの処置: IMS は PCB の処理を続行し、その PSB 内の残りの PCB は処理しません。PSB は ACBLIB から除去されます。通常の実行が継続され、戻りコードは 8 に設定されます。

プログラマーの応答: PCB ステートメントの PROCSEQ パラメーターを訂正して PSBGEN ユーティリティを再実行し、この PSB の BUILD ステートメントを使用して ACBGEN を実行してください。


DFS2576A MEMBER=xxxxxxx IS EMPTY

説明: ddname=PROCLIB によって指定されているプロシージャー・ライブラリーで、メンバー DBFMSDBn を検出しましたが、そのメンバーは空 (すべてブランクばかり) でした。IMS 制御領域 EXEC ステートメントの MSDB パラメーターを使用して、DBFMSDBn で接尾部を指定します。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1012 が示されます。

プログラマーの応答: プロシージャー・ライブラリーでメンバー DBFMSDBn の MSDB を正しく定義するか、IMS 制御領域 EXEC ステートメントの接尾部を訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1012

DFS2577 INELIGIBLE MESSAGE TO FP EXCLUSIVE TRAN ID

説明: メッセージが複数セグメントです。高速機能でサポートするのは、単一セグメント・メッセージのみです。

システムの処置: メッセージは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいフォーマットでメッセージを再入力してください。

DFS2578I ddname OPEN ERROR

説明: プログラム DBFDBFM0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置: MSDB チェックポイント・データ・セットが開けない場合は、1 つの MSDB チェックポイントのみが使用されています。両方のデータ・セットが開けない場合は、MSDB チェックポイントが取られていません。メモリー・ダンプ・データ・セットが開けない場合は、MSDB の DUMP 機能が取り消されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在していて、その指定が正しいことを確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、ジョブを再実行してください。

DFS2579I xxxxx TRACKS ALLOCATED FOR ddname, BUT yyyy REQUIRED

説明: 割り振られた直接アクセス・ストレージ・デバイスのスペースが不十分であったため、示されているデータ・セットに MSDB チェックポイントまたはメモリー・ダンプが収まりませんでした。

システムの処置: MSDB チェックポイントはまったく使用しないか、1 つ使用するだけにしないと、メモリー・ダンプ機能が抑制されます。

プログラマーの応答: 示されているデータ・セットに関する割り振りを訂正し IMS をコールド・スタートしてください。

DFS2580I SYNAD error message buffer

説明: このメッセージには、MVS SYNAD エラー・メッセージ・バッファが含まれています。

システムの処置: メッセージ DFS2579I を参照してください。

プログラマーの応答: 別の装置から試行するか、別の直接アクセス・ストレージ・デバイス上でデータ・セットを再割り振りしてください。

関連情報:

DFS2579I

DFS2581I ddname FORMATTED

説明: このメッセージでは、示されているデータ・セットがエラーを起こさずにフォーマットされたことを検証しています。

DFS2582I ERROR IN MSDB DUMP DATA SET, DUMP FACILITY CANCELED

説明: プログラム DBFDBFM0 が、MSDB メモリー・ダンプ・データ・セットでエラーを検出しました。メモリー・ダンプ機能が取り消されます。

システムの処置: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

プログラマーの応答: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

DFS2584I ERRORS IN MSDB CHKPT DATA SETS, NO MSDB CHKPT WILL BE TAKEN

説明: プログラム DBFDBFM0 が、MSDB チェックポイント・データ・セットでエラーを検出したので、MSDB チェックポイントは取られませんでした。

システムの処置: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

プログラマーの応答: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

DFS2585I NO MSDBS FOUND-FORMATting IGNORED

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- プログラム DBFDBFM0 が /NRESTART コマンドの高速機能キーワード MSDBLOAD を要求したが、PROCLIB メンバーが IMS で定義されなかった。
- DBD が MSDB に関する ACBLIB に存在しない。

メッセージ DFS2706A または DFS0579W が、このメッセージの前に出されています。

システムの処置: データ・セットはフォーマットされません。

プログラマーの応答: MSDB を使用したい場合は、MSDB 用の DBD が ACBLIB 内に存在することを確認するか、IMS 始動プロシージャを変更するか、またはその両方を行ってください。

関連情報:

181 ページの『DFS0579W』

656 ページの『DFS2706A』

DFS2586I ALLOCATION FOR *ddname* DOES NOT START ON CYLINDER BOUNDARY

説明: *ddname*=bb に関する割り振りがシリンダー境界から開始されません。

システムの処置: データ・セットは使用されません。

プログラマーの応答: SPACE=(CYL,(xx),,CONTIG) を使用して、このデータ・セット用のスペースを再割り振りしてください。

DFS2588W FP WAS DEFINED AS KEYWORD, BUT FP IS NOT INSTALLED

説明: 高速機能 (FP) が IMS 修正リストでキーワードとして定義されましたが、高速機能はインストールされていません。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: IMS PROCLIB の DFSFIXnn メンバーをチェックおよび訂正してください。

DFS2589I *ddname* OPEN ERROR

説明: プログラム DBFDBDL0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置: MSDB イメージ・コピーはロードされません。

プログラマーの応答: DD ステートメントがあり、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、別の装置を使用して、ジョブを再実行してください。

DFS2590I INVALID CHECKPOINT ID FOUND IN *ddname*

説明: MSDB イメージ・コピー制御レコードのチェックポイント識別が、システムが再始動された元の識別と同じではありませんでした。原因として考えられるのは、間違ったチェックポイントが入力されたことや、DD ステートメントが間違ったデータ・セットを指していることです。

システムの処置: MSDB イメージ・コピーはロードされません。

プログラマーの応答: 適正なチェックポイント識別を使用して IMS を再始動するか、JCL を訂正してください。

DFS2591I NO MSDB HEADERS FOUND, IMAGE COPY LOAD IGNORED

説明: 主記憶データベース (MSDB) のあるシステムのチェックポイントからの MSDB がないまま、IMS が再始動されました。

システムの処置: MSDB イメージ・コピーはロードされません。

プログラマーの応答: MSDB が使用される場合は、IMS 始動プロシージャを変更してください。

DFS2592I NO MSDBS LOADED DUE TO PREVIOUS ERROR(S)

説明: プログラム DBFDBDL0 が以前のエラーを検出し、MSDB はロードされませんでした。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。

DFS2593I INVALID MSDB HEADER *dbdname*

説明: シャットダウンと再始動の間にシステムに加えられた変更が原因で、エラーが発生しました。DBD *dbdname* は、ACBLIB に一致しない MSDB チェックポイントの最初の DBD を示します。

システムの処置: MSDB イメージ・コピーはロードされず、MSDB は使用できません。

プログラマーの応答: データベース名、セグメント長さ、またはデータ域の長さをチェックおよび訂正してください。メッセージに示されている DBD に他の変更が加えられなかったか確認してください。また、ACBLIB が変更されていないかについても、確認してください。変更されている場合は、コールド・スタートでシステムを再始動してください。

DFS2594I NO CONTROL RECORD FOUND IN *ddname* RC=XX

説明: プログラム DBFDBDL0 が、データ・セットから MSDB イメージ・コピーのロードを試みました。しかし、それは失敗しました。戻りコード XX により、以下の問題が特定されます。

コード 意味

- 01 データ・セットに MSDB チェックポイントが含まれていないか、チェックポイントが不完全であった。
- 02 アクティブ・システムがチェックポイントを取っている場合は、代替システムで同じ MSDB チェックポイント・データ・セットは使用できない。この状態は一時的なものです。

システムの処置: システムは、次のように戻りコードに基づく処置を行います。

- 01 MSDB イメージ・コピーはロードされず、MSDB は使用できない。
- 02 システムは、MSDB データ・セットが正常に読み取れるまで、3 秒ごとにその再読み取りを行う。

プログラマーの応答: 戻りコードに応じて、次のように処置を取ってください。

- 01 JCL が正しいか確認してください。正しくない場合は、可能であれば、別のチェックポイント・データ・セットから IMS を再始動し、そうでなければ、MSDB リカバリー・ユーティリティーを実行して、新しい初期ロード・データ・セットを作成し、MSDBLOAD を使用してシステムを再始動してください。
- 02 システムがチェックポイント・データ・セットを再読み取りします。メッセージ RC=02 が 1 回しか出ない場合は、応答の必要はありません。

ん。メッセージ RC=02 が複数回出される場合は、アクティブ IMS の状況をチェックしてください。アクティブ IMS がダウンしている場合、またはアクティブ IMS 内の MSDB チェックポイント・データ・セットで入出力エラーが発生した場合は、/STOP BACKUP コマンドを入力して、代替 IMS を停止してください。

DFS2595I MSDB IMAGE COPY LOADED FROM CHKPT DATA SET *ddname*

説明: このメッセージでは、MSDB イメージ・コピーがチェックポイント・データ・セット *ddnamebb* からロードされたことを検証しています。

DFS2596I I/O ERROR IN *ddname,cc,co,stat,sens,cchhr*

説明: プログラム DBFDBDL0 が MSDB チェックポイント・データ・セットの読み取りを試み、入出力エラーが発生しました。メッセージ・テキストでは、次の情報が提供されます。

cc ECB 完了コード
co エラーの原因となった CCW のコマンド・コード
stat 状況情報
sens センス・バイト
cchhr エラーが発生したディスク・アドレス

システムの処置: IMS はロード・プロセスを停止し、MSDB は使用できません。

プログラマーの応答: 以下のステップを試してください。

1. 別の装置からロードを試みてください。
2. MSDB リカバリー・ユーティリティーを使用して、初期ロード・データ・セットを作成し、MSDBLOAD を使用してシステムを再始動してください。

DFS2597I INVALID MSDB POOL LENGTH IN *ddname*, IMAGE COPY IGNORED


説明: プログラム DBFDBDL0 が、MSDB チェックポイント・データ・セット制御レコードと ESCD で指定されている、固定またはページング可能主記憶データベース (MSDB) プールの長さの違いを検出しました。MSDB は、MSDB チェックポイント・データ・セットからロードされません。

システムの処置: 処理は続行されますが、緊急時再始動時は例外で、IMS は異常終了 0168 で終了します。

プログラマーの応答: MSDB 定義が IMS シャットダ

ウンと再始動の間で変更されなかったか、確認してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0168

**DFS2598I (ccccffss) AREA=areaname DD=ddname
UNEXPECTED MEDIA MANAGER
MMCALL ERROR**

説明: メディア・マネージャーで無効の制御ブロックが使用されたため、予期しないメディア・マネージャー MMCALL エラーが発生しました。変数 cccccffss は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置: 入出力読み取り要求からのエラーは、物理読み取り入出力からのエラーと同様に処理されます。IMS ブロックは、障害のある CI にさらにアクセスし、CI-RBA をエリアの 2 番目の CI に記録します。データ・セットはオープン状態のままですが、エラー・ログ (タイプ X'24') は生成されません。エラーが更新に関する入出力要求の結果であった場合は、このエリアで使用可能な唯一のデータ・セットである場合は、IMS はデータ・セットをクローズし、エリアを停止します。MVS SDUMP が問題判別のために、SYS1.DUMP データ・セットに取られます。


オペレーターの応答: データ・セットはクローズされるが、エリアが停止されない場合は、DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティを実行して、データ・セットをリカバリーしてください。エリアが停止される場合は、データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

システム・プログラマーの応答: 引き続きエラーが発生する場合やデータ・セットが必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、追加の分析を依頼してください。

プログラマーの応答: 障害のある CI へのアクセスが試みられると、アプリケーション・プログラムが状況コード AO を受信します。CI にアクセスできるのは、データベース・リカバリー・ユーティリティ、または DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティが実行された後です。

問題判別: 1、6、11、20

関連資料:

 z/OS: メディア・マネージャーの戻りコード

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2599I BLDL FAILED FOR RAND. MODULE
xxxxxxx DEFINED IN DMCB
xxxxxxx**

説明: プログラム DBFINI24 は、データベース生成時に DEDB マスター制御ブロック (DMCB) に関して定義されたランダム化モジュール (xxxxxxx で特定される) を検出できませんでした。

システムの処置: IMS は実行を継続します。ただし、定義済み DMCB は、現在の IMS システムでは使用不能です。この DEDB へのアクセスの結果は、状況コード FH になります。

プログラマーの応答: この問題を訂正するために、以下のステップを実行してください。

1. 欠落しているランダム化モジュールを、RMODE の正しい BIND 時刻指定をして検索対象ライブラリーの 1 つにインストールする。
2. /STO DB または UPDATE DB STOP(ACCESS) コマンドを DEDB に対して発行する。
3. ランダマイザーを再ロードするために、/START DB または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを DEDB に対して発行する。

**DFS2600A OPEN ERROR FOR DEDB UTILITY,
DB xxxxxxxx**

説明: SYSIN または SYSPRINT のオープン・エラーが発生しました。

システムの処置: ユーティリティは停止されます。

オペレーターの応答: 問題の訂正方法については、このメッセージの前に発行されている OS/VS データ管理エラー・メッセージを参照してください。

第 56 章 DFS メッセージ DFS2601I - DFS2650A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2601I DEDB UTILITY xxxxxxxx STARTED,
DB xxxx AREA xxxx**

説明: DEDB ユーティリティーが、指定されたデータベースおよびエリアで正常に開始されました。

**DFS2602I DEDB UTILITY xxxxxxxx ENDED, DB
xxxx AREA xxxx**

説明: DEDB ユーティリティーが、指定されたデータベースおよびエリアで処理を完了しました。

**DFS2603A SYSPRINT ERROR FOR DEDB
UTILITY**

説明: 入出力エラーが、メッセージ DFS2604A に示されているように、ユーティリティーのシステム出力で発生しました。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: このメッセージよりも前に出されている z/OS データ管理エラー・メッセージに従って、エラーを訂正してください。

関連情報:

『DFS2604A』

DFS2604A DB xxxx AREA xxxx

説明: このメッセージで、メッセージ DFS2603A で参照されている入出力エラーが発生したデータベースおよびエリアが特定されます。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

関連情報:

『DFS2603A』

**DFS2605I AREA=areaname DD=adname, ERROR
IN RBA OF CI READ,
CI-RBA=xxxxxxx**

説明: VSAM 読み取りから戻された、バッファ内の相対バイト・アドレス (RBA) が、要求された RBA に等しくありません。

システムの処置: バッファは戻され、高速処理データベース (DEDB) は使用可能のままになります。

プログラマーの応答: エリアで制御インターバル (CI) の RBA フィールドに有効なデータがないか、チェックしてください。アンロードまたは再ロード操作中に、エラーが発生した可能性があります。

DFS2606I ERROR IN CIDF OF CI READ

説明: VSAM 読み取りから戻された、バッファ内の制御インターバル定義フィールド (CIDF) に、このエリアのレコード・サイズの制御インターバル (CI) が示されていませんでした。

システムの処置: バッファは戻され、高速処理データベース (DEDB) は使用可能のままになります。

プログラマーの応答: エリアで CI の CIDF フィールドに有効なデータがないか、チェックしてください。アンロードまたは再ロード操作中に、エラーが発生した可能性があります。

**DFS2607I SYSIN I/O ERROR FOR DEDB
UTILITY**

説明: DEDB ユーティリティーを実行している最中に、入出力エラーが SYSIN データ・セットで発生しました。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: 適切な処置を取ってエラーを訂正した上で、ユーティリティーを再実行してください。

**DFS2608W MSDBS NOT AVAILABLE - NO
MSDBCPX DATA SET NAMES
FOUND IN CHECKPOINT**

説明: 主記憶データベース (MSDB) が使用できませんでした。IMS ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動処理時に、1 つ以上の MSDB データベース定義がチェックポイント・ログ・レコードで検出されました。しかし、このチェックポイント・ログ・レコードには、再始動時に IMS が MSDB をロードする元の MSDB チェックポイント・データ・セット (MSDBCPx) の名前が含まれていませんでした。

IMS の直前の実行の再始動で、MSDB がロードされませんでした。MSDB データベース・ランタイム・リソース定義は、CREATE DB または IMPORT DEFN DEFN コマンドからのオンライン変更または動的リソー

ス定義によって後で追加されました。MSDB ランタイム・リソース定義は、システム・チェックポイント時にチェックポイント・ログ・レコードに含まれましたが、直前の IMS 実行時にロードされた MSDB データベースがなかったため、IMS システム・チェックポイント時に MSDB チェックポイント・データ・セット (MSDBCPx) に MSDB が書き込まれませんでした。

システムの処置: IMS は処理を続けますが、MSDB データベースは使用不可です。

プログラマーの応答: MSDB データベースを使用可能にするには、MSDBLOAD キーワードを指定して IMS をコールド・スタートまたはウォーム・リスタートしてください。これにより、MSDBINIT データ・セットから MSDB データベースがロードされます。MSDBINIT データ・セットには、新たに作成されたすべての MSDB リソースの MSDB データベースが含まれている必要があります。

モジュール: DBFINI21

DFS2609 CONTROL BLOCK ERRORS. CONVERSATION TERMINATED.

説明: ウォームまたは緊急時再始動時に、IMS 会話に関連した IMS 制御ブロックが妥当性検査されます。そこでエラーが検出されたので、IMS が、影響を受けた会話を終了させました。

無効の制御ブロックのため、1 つ以上の IMS 会話が終了しました。IMS は、診断情報が含まれている X'3C' ログ・レコードを書き込みます。

システムの処置: 再始動処理が続行されます。

問題判別: 1、5、25、26、36

モジュール: DFSCFIX0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2610 MSG-Q ERRORS FOUND/ CORRECTED. MSG MAY BE LOST.

説明: モジュール DFSQFIX0 が、無効データを検出したか、メッセージ・キューに入っているメッセージと制御ブロックの間の不整合を検出したか、あるいはその両方を検出し、キューを有効にしました。このプロセスが原因で、一部のメッセージまたは会話、あるいはその両方が失われた可能性があります。

システムの処置: 無効のデータ、訂正後の制御ブロック、およびパージされたメッセージがあればそれも、IMS ログに書き込まれました。処理は訂正後のキューから続行されます。

問題判別: 1、5、25、26、36 (会話がかわっている場合)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2611I COMMAND NAME NOT FOUND

説明: プログラムが DEDB ユーティリティ・コマンド名を探索しました。入力行にコマンド名がなかったか、プログラムがその有効コマンド名テーブルで名前を検出できませんでした。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力に訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2612I OPERAND DATA LEFT OVER

説明: プログラムは、このコマンドに関して予測したすべてのオペランドを処理しましたが、入力行にはまださらにオペランド・データがありました。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力に訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2613I UNABLE TO INTERPRET OPERAND

説明: オペランド・フィールドが省略されたか、示されていたが、このコマンドでの有効な選択項目のいずれとしても認識されませんでした。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力に訂正してください。その上で、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2614I UNUSABLE NAME

説明: プログラムが、オペレーティング・システムで使用される名前をスキャンしました。プログラムが検出した名前は、次のいずれかの理由で使用が不可能でした。

- 名前が 8 文字を超えていた。
- 先頭文字が英字ではなかった。
- 先頭以外の文字に、英数字でないものがあった。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2615I UNABLE TO CONVERT SEQUENTIAL DEPENDENT ADDRESS

説明: プログラムは、X"16 進数字" の形式による 16 進順次従属アドレスを想定していました。X または左引用符が欠落していました。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2616I UNABLE TO RECOGNIZE KEYWORD

説明: プログラムは、後に等号が続くキーワードを探索しました。次のいずれかの問題が発生しました。

- キーワードが欠落していた。
- キーワードが、このコマンドのキーワード・テーブルになかった。
- 等号が欠落していた。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2617I UNABLE TO FIND STARTING QUOTE

説明: プログラムは、引用符で囲まれたストリングを検出できませんでした。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指

定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2618I UNABLE TO SCAN FIELD VALUE

説明: プログラムは、形式が C"文字"、X"16 進数"、または P"10 進数" の値指定を検索しました。先頭文字が C でも X でも P でもなかったか、2 番目の文字が引用符ではありませんでした。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2619I UNABLE TO SCAN FULLWORD VALUE

説明: プログラムが 32 ビット値のスキャンを試みました。フィールドが省略されていたか、フィールドの先頭文字 X に続く引用符がありませんでした。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2620I UNABLE TO FIND ENDING QUOTE

説明: プログラムは、引用符で開始された値をスキャンし、それが引用符で終わると予想しました。しかし、オペランド・フィールドの終わりが最初に検出されました。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2621I VALUE IS TOO LARGE

説明: プログラムが検出した入力の文字数が多すぎたか、この値を保管するために確保されていたスペースに収まると評価されていたビット数が多すぎました。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ・入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2622I CHARACTER NOT RECOGNIZED AS HEXADECIMAL DIGIT

説明: プログラムが認識するのは、16 進数字としての 10 進数字 0 から 9 と英大文字 A から F です。それ以外の文字が 16 進数フィールドの一部として検出されました。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ・入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2623I CHARACTER NOT RECOGNIZED AS DECIMAL DIGIT

説明: プログラムは 10 進数値をスキャンしましたが、文字の 1 つが 10 進数字ではありませんでした。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ・入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2624I UNABLE TO HANDLE FIELD OF LENGTH ZERO

説明: 入力に、X' ' または C' ' などのように、引用符の間に何も入っていない指定が含まれています。プログラムでは、X'3' などのように、少なくとも 1 文字のデータが必要です。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさ

らに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ・入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2625I COMMA OR BLANK IS EXPECTED.

説明: プログラムがオペランド・フィールドの終わりに達し、ここでは、空白またはコンマの検出が想定されています。コンマがあれば、別のオペランドの存在を示します。エラーは直前のオペランド、または区切り文字にある可能性があります。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ・入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2626I THIS SPECIFICATION CANNOT BE CHANGED

説明: ユーティリティ・タイプがすでに指定された後で、プログラムは TYPE コマンドを検出しました。プログラムではユーティリティを変更できません。DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。処理はさらに ERRORACTION コマンドでユーザーによって指定されているように行われます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティ・入力を訂正し、DEDB ユーティリティを再実行してください。

DFS2627I ERROR IN INITIALIZING XCI RANDOMIZER, rrrrrrrr, FOR DEDB=ddddddd, RETURN CODE=xxxx, REASON CODE=yyyyyyyy

説明: 拡張呼び出しインターフェース (XCI) ランダマイザー・ルーチンに対する初期設定呼び出し中に、エラーが検出されました。戻りコードと理由コードは両方とも、ユーザーの初期設定ルーチンについての限定的なものです。

システムの処置: ランダマイザーは、ストレージから削除されます。

プログラマーの応答: 初期設定ルーチンを訂正し、DEDB について、/START DB または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを再発行してください。

モジュール: BFDBAC0、DBFINI24、DBFMSIU0

**DFS2628I ERROR IN TERMINATING XCI
RANDOMIZER, rrrrrrrr, FOR
DEDB=ddddddd, RETURN CODE=xxxx,
REASON CODE=yyyyyyyy**

説明: 拡張呼び出しインターフェース (XCI) ランダマイザー・ルーチンに対する終了呼び出し中に、エラーが検出されました。戻りコードと理由コードは両方とも、ユーザーの終了ルーチンについての限定的なものです。

システムの処置: ランダマイザーは、ストレージから削除されます。

プログラマーの応答: DEDB に対する後続の /DBR DB または UPDATE DB STOP(ACCESS) コマンドの終了ルーチンを訂正してください。

モジュール: DBFARD30、DBFMSIU0

**DFS2629A DELETE: INVALID SDEP CI PACI
COUNT**

説明: V5COMP キーワードを指定して実行中のデータベース削除ユーティリティーが事前割り振り SDEP CI (PACI) カウントに達していますが、これは、現行 CI の論理的削除の試行時には予想外のことで、この場合、DFS2630I が発行されない可能性があります。

- QUITCI がデータベース・スキャン・ユーティリティーで使用された場合は、最高水準点 (HWM) 所有パートナーに対して現行 CI をできるだけ拡張し、新規 PACI セットを作成するための SDEP 挿入がそのパートナーに対してそれ以上行われないようにする、STOP 値を指定して、DELETE ユーティリティーが以前に実行されたことを、このメッセージは示しています。
- QUITCI がデータベース・スキャン・ユーティリティーで使用されなかった場合、このメッセージが示すのは、以前に DELETE ユーティリティーが STOP 値を指定して実行されており、その STOP 値は、HWM 非所有パートナー上で、新規 PACI セットを作成するための SDEP 挿入が起こらないまま可能な限り現行 CI を拡張するものだった、ということです。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。STATUS UL がメッセージ DFS2662A とともに発行されます。

プログラマーの応答: ユーティリティー操作を完了するには、次のいずれか一方の処置を取ってください。

- データベース・スキャン・ユーティリティーを使用して、IMS パートナーにその現行および事前割り振り CI を、DELETE ユーティリティーの実行に先立って解放させる。
- DELETE ユーティリティーを再度実行する前に、SDEP が挿入されるまで待つ。

モジュール: DBFCSTS0

関連情報:

648 ページの『DFS2662A』

**DFS2630I DELETE: V5COMP MOVED OFF
CURRENT CI**

説明: V5COMP キーワードを指定し、現行 CI より大きい STOP 値を使用して実行中のデータベース削除ユーティリティーが、既存の現行 CI を論理的に削除し、新規 CI を確立しています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFCSTS0

**DFS2631A PARTNER CURRENT CI NOT LESS
THAN HWM FOR AREA = areaname**

説明: 発生不可 (must-not-occur) 条件がデータ共用パートナーによって検出されました。QUITCI に対する SDEP ユーティリティー機能が、このメッセージを発行する IMS によって実行されることはなく、STATUS UL が SDEP ユーティリティーによって発行されません。

システムの処置: ユーティリティーはこのエリアに関して終了します。

オペレーターの応答: この問題がユーザー・エラーでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

プログラマーの応答: SDEP ユーティリティー制御ステートメントを確認し、コマンドを再試行してください。

問題判別: 3、8、25、36

モジュール: DBFCSTS0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2632A STOPRBA VALUE LESS THAN SDEP
LOGICAL BEGIN FOR AREA =
areaname**

説明: V5COMP を使用する順次従属 (SDEP) ユーティリティーの STOPRBA パラメーターの指定 RBA 値

が、SDEP 論理開始 CI RBA より小さくなりました。
問題を検出した IMS がこのメッセージを発行し、
STATUS UL は SDEP ユーティリティーによって発行
されます。

システムの処置: ユーティリティーはこのエリアに関し
て終了します。このメッセージには、STATUS UL お
よびメッセージ DFS2662A が付随します。

プログラマーの応答: STOPRBA がないか、SDEP ユ
ーティリティー制御ステートメントをチェックしてくだ
さい。

モジュール: DBFCSTS0

関連情報:

648 ページの『DFS2662A』

**DFS2632I REDO SKIPPED FOR DB *dbname*
AREA *areaname* AREA NOT FOUND
IN ACBLIB**

説明: 再始動でこのエリアに対するデータベース更新を
検出しましたが、それらの更新は再実行を必要とするの
で、妥当性を検証できませんでした。エリアが OLC に
よって削除されたことを示す後続のログ TYPE5926 レ
コードまたは TYPE5927 レコードは存在しません。こ
の状態が発生するのは、指定されたチェックポイントが
取られた後に、ユーザーが IMS ブロック構造を変更し
た場合です。

このメッセージで指定されたエリアには、DBRC でリカ
バリーが必要というマークが付けられます。

システムの処置: 入出力が再実行され、再始動が続行さ
れます。

プログラマーの応答: 指定されたチェックポイントが取
られた後に IMS ブロック構造を変更したユーザーによ
って引き起こされたデータ保全性問題が存在しないこと
を確認してください。

モジュール: DBFERS10

**DFS2633I DMAC SYNCHRONIZATION
REJECTED FOR AREA=*areaname***

説明: DMAC オフセットが無効であったため、DMAC
同期がリジェクトされました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFCSTS0、DBFDMAC、DBFNCBS0

**DFS2634I AREA=*areaname* HWM CI OWNED,
SDEP HARDENED LOCALLY**

説明: SDEP SCAN/DELETE が実行された場合、共用
者は更新バッファーを固定する必要があります。SDEP
SCAN/DELETE が SYSIN 内に QUITCI を持ち、共用
者が HWM CI を所有しておらず、HWM CI の RBA
が現行 CI のそれよりも大きい場合、このメッセージは
共用者上に書き込まれます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS2635I AREA=*areaname* HWM CI Hardened
Remotely**

説明: SCAN または DELETE ユーティリティーが、
HWM 非所有パートナー上で実行されたときに発行され
ます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS2636I AREA=*areaname* PARTNER QCI FREE
LOCKS**

説明: このメッセージが書き込まれるのは、FP ユー
ティリティーの入出力要求が、事前割り振り CI に対する
CI ロックを検出した場合です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS2637I DEFAULT DELETE WITH V5COMP
FREES PARTNER QCI LOCKS
DELETE + V5COMP + SHARED
AREA: FORCED QCI**

説明: V5COMP が指定された SDEP 削除ユーティリ
ティーに STOP 値が示されませんでした。したがっ
て、デフォルトの停止が停止点になっており、すべての
パートナーで、その事前割り振りおよび現行 SDEP CI
が論理的に削除されています。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFUMDL0、DBFUMRT0

DFS2638I THERE ARE NO CIS TO DELETE

説明: プログラム DBFUMDL0 (SDEP 削除ユーティ
リティー) が、削除するエリアで順次従属 (SDEP) セグ
メントを検出ませんでした。セグメントがバッファー
に存在する可能性があります、DASD に書き込まれ

ていない場合は、セグメントは削除処理の対象になりません。

システムの処置: 削除ユーティリティーは正常に処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2639I SDEP CI LOCKED, CI xxxxxxxx SKIPPED

説明: プログラム DBFUMRIO、エリア・データ・セット作成ユーティリティーが、現在ロックされ、使用不能な CI へのアクセスを試みました。データがコミットされると、CI は両方のエリア・データ・セットに書き込まれます。

システムの処置: エリア・データ・セット作成ユーティリティーは正常に処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2640A I/O ERROR IN ddname OUTPUT DATA SET

説明: プログラム DBFUMCLO がこのスキャン・ユーティリティー・データ・セット用の DCB のクローズを試み、エラーが発生しました。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

オペレーターの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、このメッセージよりも前に出された z/OS アクセス方式エラー・メッセージをチェックしてください。

モジュール: DBFUMCLO、DBFUMMS0

DFS2641A UTILITY ERROR

説明: DEDB ユーティリティーがスペースの解放を試みました。要求はリジェクトされました。

システムの処置: ユーティリティーはこのエリアに関して終了します。

オペレーターの応答: この問題がユーザー・エラーでない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

プログラマーの応答: 削除ユーティリティーの出口ルーチンがユーティリティーを活動化したかチェックしてください。

DFS2642I NUMBER OF CI'S FOR SEQUENTIAL DEPENDENT SEGMENTS xxxxxxx

説明: このメッセージには、使用中のエリアに関する順次従属セグメント用として割り振られたスペースが示されています。

DFS2643I NUMBER OF CI'S USED BY SEQUENTIAL DEPENDENT SEGMENTS xxxxxxx

または

DELETE STOPPED PREMATURELY ON CI OWNED BY PARTNER id

説明: このメッセージには 2 つの形式があります。

最初の形式のメッセージでは、メッセージ・テキストにリストされている、順次従属セグメントによって使用される制御インターバル (CI) の数が示されます。

2 番目の形式のメッセージが出されるのは、DEDB 順次従属削除ユーティリティーが、最大でユーザー指定 CI RBA、またはデフォルトの CI RBA を削除しない場合のみです。

識別されている IMS 共用パートナーが SDEP CI を保留しているため、DEDB 順次従属削除ユーティリティーは停止しました。この状態は、以下の場合に発生します。

- パートナー IMS 障害によって、その緊急時再始動用として CI が保存される。
- パートナー IMS が、削除ユーティリティーによって検出された事前割り振り CI を埋める速度で、SDEP セグメントをエリアに挿入していない。
- 異常終了後、プログラムまたはトランザクションが停止される。

システムの処置: ユーティリティーの処理は停止します。

システム・プログラマーの応答: パートナーが CI を保留している理由を判別してください。/DISPLAY AREA または QUERY AREA コマンドを発行して、1 パートナーに関する SDEP CI 使用状況を表示してください。IMS パートナーがリソース (例えば、ログ・データ・セット、プログラムをスケジュールするのに使用するリソース、DBRC 要求、またはロック) を待っている可能性があります。IMS パートナーが実行中のハードウェアおよびオペレーティング・システムに制約があるか、容量が不十分であるため、共用グループの残り歩調を合わせられない可能性があります。

保留されている CI の後に続く CI が削除ユーティリテ

ィーで使用できるようにするには、次のいずれかの処置を取ってください。

- データベース・スキャンまたは削除ユーティリティーの QUITCI オプションを使用して、CI を所有している IMS パートナーに CI を解放させる。

この CI に SDEP セグメントが含まれている場合は、QUITCI オプションの使用後、DELETE ユーティリティーを実行する前に、それらの SDEP セグメントをすべて SCAN ユーティリティーで検索し、出力ファイルに入れる。

重要: CI が削除された後は、そこに含まれていたデータへのアクセスは不能です。

- パートナーが CI を解放し、再度削除ユーティリティーを実行するのを待つ

DFS2644I NUMBER OF CI'S NOT USED BY SEQUENTIAL DEPENDENT SEGMENTS xxxxxxxx

説明: このメッセージでは、メッセージ・テキストにリストされている順次従属セグメントで使用されない制御インターバル (CI) の数を印刷します。

**DFS2645I UTILITY STOP CI RBA xxxxxxxx
yyyyyyyy**

または

UTILITY STOP SEG TS *clock value*

または

UTILITY STOP USED CI xxxxxxxx yyyyyyyy

または

UTILITY STOP *io/ci#* xxxxxxxx yyyyyyyy

または

UTILITY STOP SEGEND xxxxxxxx yyyyyyyy

説明: 順次従属ユーティリティーが、タイム・スタンプ xxxxxxxx yyyyyyyy で処理を停止しました。ユーティリティーが処理を停止した理由は、次のいずれかによりです。

SCAN

- UTILITY STOP CI RBA がサイクル・カウント、および SCAN が停止した制御インターバル (CI) 境界である。
- UTILITY STOP SEG TS が、SCAN 停止に関連したタイム・スタンプである。

- UTILITY STOP SEGEND が、サイクル・カウント、および SCAN によって読み取られた最後の SDEP (非ダミー) データ・セグメントの RBA である。
- UTILITY STOP USED CI が、サイクル・カウント、および SCAN がフルとマークされていないとして検出した CI 境界である。QUITCI が指定されていない場合は、SCAN がこの CI を越えて進むことはありません。
- UTILITY STOP *io/ci#* が、実行された入出力操作の数および処理された CI の数である。

DELETE

- UTILITY STOP CE RBA がサイクル・カウント、および DELETE が停止した CI 境界である。
- UTILITY STOP SEG TS が、DELETE 停止時刻に 3 マイクロ秒を加えた時刻に関連したタイム・スタンプである。
- UTILITY STOP *io/ci#* が、実行された入出力操作の数および処理された CI の数である。

システムの処置: ユーティリティーは正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFUMPRO

DFS2646A OPEN ERROR FOR *ddname* OUTPUT DATA SET

説明: プログラム DBFUMOP0 がこのスキャン・ユーティリティー・データ・セット用の DCB のオープンを試み、エラーが発生しました。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。
- SCANCOPY について SYSOUT が指定された。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

オペレーターの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、このメッセージよりも前に出された z/OS アクセス方式エラー・メッセージをチェックしてください。

モジュール: DBFUMOP0、DBFUMMS0

DFS2647I SEGMENTS EXPANDED WITH
exitname EXIT: nnnnnnnnn

システムの処置: 出口による通常、展開、圧縮セグメントの実行

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFUMSC0

DFS2648A PAGE FIX NOT POSSIBLE

説明: CSA で十分なスペースが使用可能でなかったため、プログラム DBFUMOP0 がページ固定できませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは現行エリアに関して終了します。

システム・プログラマーの応答: システムでの CSA 要件が低くなった時点で、ジョブを再実行してください。

DFS2649I NUMBER OF SEGMENTS SCANNED
IN *areaname = nnnnnnnnn*

説明: 順次従属スキャン・ユーティリティーが、メッセージに示されている SDEP セグメントの数 (*nnnnnnnn*) を検索しました。

システムの処置: ユーティリティーは正常に完了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFUMSC0

DFS2650A AREA xxxxxxxx DOES NOT EXIST

説明: 指定したエリア名は、データベース内に存在しません。

システムの処置: ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答: パラメーター・ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

第 57 章 DFS メッセージ DFS2651A - DFS2700A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2651A OTHER UTILITY ACTIVE IN AREA

aaaaaaaa

説明: 別のユーティリティー HSSP、または VSO プリロードが同じエリアに関してアクティブであったため、プログラム DBFUMRT0 は開始できませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されませんでした。

オペレーターの応答: 他のユーティリティー HSSP、または VSO プリロードがエリアの処理を終了したら、このユーティリティーを実行してください。以前のユーティリティーが正常に完了しなかった場合も、このメッセージが出される可能性があります。この状態が発生した場合は、/STOP AREA または UPDATE AREA STOP(SCHD) コマンド、および /START AREA または UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを、そのエリアについて発行し、要求されたユーティリティーが実行されるようにします。

モジュール: DBFUMRT0

DFS2652A REORGANIZATION HAS TO BE RESTARTED IN AREA xxxxxxxx

説明: 再編成ユーティリティーがこのエリアで異常終了しました。

システムの処置: ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答: 再編成ユーティリティーを実行してください。

DFS2653I UTILITY IN AREA=*areaname* PREVIOUSLY ABNORMALLY TERMINATED

または

UTILITY IN AREA=*areaname* STILL ACTIVE DURING SHUTDOWN

説明: このメッセージの最初の形式では、以前に実行された Scan、Delete、Compare、または Create ユーティリティーが、指定されたエリアで異常終了したことを示します。この形式のメッセージは、通知のみが目的です。

このメッセージの 2 番目の形式では、HSREORG または HSSP がシャットダウン中、エリアに関してアクティブであることを示します。シャットダウンは、ユーティリティーが終了するのを待ちます。シャットダウンが完了すれば、メッセージには通知の目的しかありません。シャットダウンが完了しない場合は、ユーティリティーはエリアに関して異常終了しましたが、クリーンアップを完了するために、ユーティリティーが実行されることはありませんでした。

システムの処置: 最初の形式のメッセージの場合は、使用されている高速機能ユーティリティーは、次のエリアでの実行を継続します。

プログラマーの応答: 2 番目の形式のメッセージを受信し、シャットダウンが完了しなかった場合は、IMS を取り消し、緊急時再始動を実行してください。

DFS2654A CHANGE OF UTILITY FOR THIS AREA

説明: 異なるエリアでの実行が 1 つのユーティリティー・タイプのみを使用して行われる必要があります。

システムの処置: ユーティリティーは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2655A OPEN FAILED FOR AREA=*areaname*

説明: 高速機能基本モジュール・ユーティリティー DBFUMRT0 が実行されている最中に、指定されたエリアでオープン・エラーが発生しました。

システムの処置: 高速機能基本モジュール・ユーティリティーは、指定されたエリアに関して停止されます。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFS3702I をチェックして、エラーの理由を見つけてください。エラーを訂正したら、ジョブを再実行してください。

関連情報:

921 ページの『DFS3702I』

DFS2656A INVALID DISCONNECT CALL

説明: プログラム DBFUMRT0 がエリアの切断を試みましたが、接続されていなかったエリアです。

プログラマーの応答: エラーが以前に発生しました。そのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2657I UTILITY EXECUTED AS REQUESTED

または

**UTILITY EXECUTED AS REQUESTED VSPEC
SDEPQCI STATEMENT FORCED QUITCI**

説明: このメッセージでは、ユーティリティの実行中に、エラーが検出されなかったか検証します。

DFS2658A WRONG PROGRAM NAME

説明: 無効なパラメーターが TYPE マクロで使用されました。

システムの処置: ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS2659A xx UNEXPECTED RETURN CODE, yy


説明: 高速機能基本モジュール・ユーティリティ (DBFUMRT0) が位置付け ('POS') 呼び出しを行い、非ブランクの状況コード (xx) を受け取りました。メッセージ・テキストで、yy は高速機能状況コードです。

このメッセージを受け取る可能性があるのは、SDEP スキャンまたは削除ユーティリティを実行したものの、両立しない組み合わせのパラメーターがあるか、SDEP SCAN/DELETE カードが欠落している場合です。例えば、STARTROOT が定義されているにもかかわらず、STOPROOT が指定されなかったか、または STOPSEQ が指定され、V5COMP が指定されなかった場合です。

システムの処置: このユーティリティは、要求されたエリアに対して呼び出されません。

プログラマーの応答: 位置付け状況コードの説明をチェックしてください。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連資料:

 高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

**DFS2660A ROOT SEGMENT HAS NO
SEQUENTIAL DEPENDENT
SEGMENTS**

説明: IMS は、処理限界を判別できませんでした。

システムの処置: ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答: 順次セグメントがあるルート・セグメントのみを使用して、パラメーター入力を訂正してください。

**DFS2661A INVALID VALIDATION CALL, CODE
xx**

説明: IMS 高速機能が、使用する高速機能ユーティリティ・プログラムに対する入力パラメーターの妥当性検査を試みて、エラーを検出しました。以前のエラー (コードは印刷されなかった) か、既存の処理限界に関するパラメーター・エラーがありました。

システムの処置: 使用する高速機能ユーティリティが、このエリアで呼び出されていません。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2662A UTILITY NOT EXECUTED AS
REQUESTED**

説明: エラーにより、ユーティリティは実行できませんでした。

プログラマーの応答: 環境エラーを修正して、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2663A SYSIN RECORD SIZE EXCEEDS
MAXIMUM LIMIT OR RECORD
FORMAT NOT ALLOWED**

説明: 指定したレコード・サイズが最大限度 120 を超えていたか、指定したレコード・フォーマットが無効でした。

システムの処置: ユーティリティは、このエリアに関しては開始されません。

プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2664A UNIT OF WORK NUMBER NOT
WITHIN LIMITS OR LOGICAL
ORDER**

説明: 再編成ユーティリティに関する作業単位限度を指定するパラメーターに、次のいずれかのエラーがありました。

- 上限が下限より低かった。
- DBD における限度にエリア記述との整合性がなかった。
- 複数の STARTUOW または STOPUOW が 1 つの要求内で指定された。

システムの処置: ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS2665I UTILITY SKIPPED IN AREA xxxxxxxx
DUE TO RESTART REQUEST**

説明: 再始動要求を理由に、このエリアのスキップを要求しました。

システムの処置: ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

**DFS2666A WRITE ERROR ON SCANIDT DATA
SET**

または

WRITE ERROR ON SCANCOPY DATA SET

説明: プログラム DBFUMSC0 がスキャン・データ・セットに書き込めませんでした。

システムの処置: スキャン・ユーティリティは停止されます。

オペレーターの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、このメッセージよりも前に出された z/OS データ管理エラー・メッセージを確認してください。


**DFS2667A xx STATUS FROM I/O PROCESS IN
AREA**

説明: 高速機能ユーティリティがデータベースの処理中に、状況コード *xx* で定義されている状態を検出しました。

システムの処置: ユーティリティはこのエリアに関して停止されます。

オペレーターの応答: このメッセージよりも前に出されている z/OS データ管理エラー・メッセージに従って、適切な処置をとってください。詳しくは、高速機能ユーティリティの状況コード、および z/OS データ管理エラー・メッセージ (このメッセージの前に出された場合) を参照してください。

関連資料:

 高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

**DFS2668A OUTPUT TOO LONG FOR SCAN
BUFFER**

説明: ユーザーに戻されたメッセージが長すぎました。

システムの処置: ユーティリティはこのエリアに関して停止されます。

プログラマーの応答: 出口ルーチンを訂正してください。

**DFS2669A GET AREA LOCK FAILED,
AREA=areaname**

説明: DBFUMRT0 からのエリア接続呼び出しを処理している最中に、エリア・ロック要求が失敗しました。STATUSUL が設定されます。

システムの処置: ユーティリティは終了し、メッセージ DFS2662A が出されます。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別し、ユーティリティを再実行してください。

関連情報:

648 ページの『DFS2662A』

**DFS2670I DATA BASE NAME dbname
SPECIFIED FOR FAST PATH DEDB
UTILITY IS INVALID**


説明: 高速機能 (IFP) 領域が初期設定されませんでした。第 3 定位置オペランドの PSB 名が DBFFPU0 として指定され、EXEC 制御ステートメントの PARM フィールドの第 2 定位置オペランドのデータベース名が、IMS システム定義で DEDB として定義されていなかったからです。

システムの処置: 従属領域が異常終了し、異常終了コード 0458 が示されます。

プログラマーの応答: データベース名を訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 8、9、10、17d

関連情報:

 IMS 異常終了 0458

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2671I UNABLE TO UPDATE UTILITY
CONTROL DATA: AREA xxxxxxxx,
UOW nnnnnnnn**

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、リソースの所有権の解放も独立オーバーフロー制御インターバルのカウントの更新もしません

でした。作業単位番号およびそのエリア名が示されています。

システムの処置: DEDB 直接再編成ユーティリティが終了し、戻りコード 8 が示されます。データベースは使用可能です。

プログラマーの応答: ユーティリティを再始動してください。

**DFS2672A (LOG|CHNG) REQUEST FAILED:
AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnnn**

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、示されている内部要求に応じられませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

エリア名

nnnnnnnn

影響を受けた作業単位の番号

LOG 要求が作成フェーズの終了時に、"copy phase reached" 標識をログに記録するためになされます。CHNG 要求がコピー・フェーズの終了時に、"copy phase" 標識をリセットするためになされます。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 24 が示されます。データベースは使用不能です。

プログラマーの応答: 障害のある作業単位からユーティリティを再始動してください。

**DFS2673I UTILITY STOPPED AFTER AREA
xxxxxxx, UOW nnnnnnnn**

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、オペレーターの要求で停止されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

エリア名

nnnnnnnn

最後に再編成された作業単位

システムの処置: DEDB 直接再編成ユーティリティが終了し、戻りコード 4 が示されます。データベースは使用可能です。

プログラマーの応答: 必要な場合、次の作業単位からユーティリティを再始動してください。

**DFS2674A I/O ERROR OCCURRED WHEN
ATTEMPTING TO WRITE TO
AREA=areaname UOW=nnnnnnnnn IN
(BUILD|COPY) PHASE**

説明: エリアおよび作業単位 (UOW) nnnnnnnnn に対する書き込みを試みていて、DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が入出力エラーを検出しました。

メッセージ・テキストにある BUILD が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティの作成フェーズ中に発行されたことです。再編成された UOW への書き込み中にエラーが発生しました。エリアはまだ使用可能ですが、すべてのデータ・セットには、各データ・セットの再編成された作業単位 (UOW) 内の相対バイト・アドレス (RBA) が同じである、未書き込みの制御インターバル (CI) があります。

メッセージ・テキストにある COPY が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティのコピー・フェーズ中に発行されたことです。元の UOW への書き込み中にエラーが発生しました。DEDB 直接再編成ユーティリティは、元の UOW に関して、その操作を続行します。

システムの処置: BUILD フェーズに関しては、ユーティリティは終了します。ユーザーはエリアを停止し、後でリカバリーできます。COPY フェーズに関しては、ユーティリティはその操作を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。ユーザーは、エリアを停止した後に、エリアをリカバリーできます。

**DFS2675A I/O ERROR OCCURRED WHEN
ATTEMPTING TO READ FROM
AREA=areaname UOW=nnnnnnnnn IN
(BUILD|COPY) PHASE**

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、エリアおよび作業単位 nnnnnnnnn からの読み取りを試みていて、入出力エラーを検出しました。

メッセージ・テキストにある BUILD が示すのは、このメッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティの BUILD フェーズ中に発行されたことです。元の UOW からの読み取り中にエラーが発生しました。エリアはまだ使用可能ですが、すべてのデータ・セットには、各データ・セットの元の UOW 内の相対バイト・アドレス (RBA) が同じである、読み取り不能の制御インターバルがあります。

メッセージ・テキストにある COPY が示すのは、このメ

ッセージが DEDB 直接再編成ユーティリティの COPY フェーズ中に発行されたことです。再編成された UOW からの読み取り中にエラーが発生しました。システムはエリアを停止し、エリアを要リカバリー状況に設定します。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答: BUILD フェーズでは、エリアを停止してから、後でリカバリーできます。正常にリカバリーが終わったら、ジョブを再実行依頼してください。COPY フェーズでは、即時にエリアをリカバリーする必要があります。

DFS2676A UNABLE TO GET CONTROL OF A RESOURCE FOR AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、独立オーバーフロー制御 CI の排他制御を取得できませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 24 が示されます。

プログラマーの応答: 障害のある作業単位からユーティリティを再始動してください。

/STOP AREA または UPDATE AREA STOP(SCHD) に続けて /START AREA または UPDATE AREA START(ACCESS) を発行してから、ユーティリティを再始動してください。/STOP AREA、UPDATE AREA STOP(SCHD)、/START AREA、または UPDATE AREA START(ACCESS) を発行しなかった場合は、ユーティリティが再始動されると、メッセージ DFS2651A が表示される可能性があります。

関連情報:

647 ページの『DFS2651A』

DFS2677A UNABLE TO FREE CONTROL OF A RESOURCE FOR AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 が、独立オーバーフロー・スペースの割り振りまたは割り振り解除を試みたものの、独立オーバーフロー制御 CI の排他制御を解放できませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 24 が示されます。データベースは使用不能です。

プログラマーの応答: 障害のある作業単位からユーティリティを再始動してください。

DFS2678I UNABLE TO ALLOCATE SUFFICIENT OVERFLOW SPACE FOR AREA xxxxxxxx, UOW nnnnnnn

説明: DEDB 直接再編成ユーティリティ DBFUMDR0 は、使用可能なスペースがなかったため、独立オーバーフロー・スペースを参照されている作業単位用として割り振れませんでした。作業単位は再編成されません。

システムの処置: 参照されている作業単位に対してユーティリティが割り振った独立オーバーフロー・スペースがあれば、すべて解放されます。ユーティリティは、次の作業単位から処理を続行します。

プログラマーの応答: 他の作業単位の再編成により十分な独立オーバーフロー・スペースが解放された場合は、ユーティリティを再実行することにより、参照されている作業単位を再編成してください。

DFS2679A TYPE AND/OR AREA NOT SPECIFIED

説明:

または

| **TYPE AND/OR AREA, ADDAREA,
| ALTERAREA, REPLRAND, ALTERDB NOT
| SPECIFIED**

| 説明: 以下の必須値が 1 つ以上指定されなかったか無効でした。


- | • パラメーター・タイプ (AREA または ALTER)。ALTER タイプが指定された場合、DEDB 変更ユーティリティ・パラメーター (ALTERDB、ADDAREA、ALTERAREA、REPLRAND) も指定する必要があります。
- | • DEDB 名。

システムの処置: ユーティリティは、このエリアに関しては活動化されません。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 **DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)**

DFS2680I SYNAD error message buffer

説明: このメッセージには、MVS SYNAD エラー・メッセージ・バッファが含まれています。

システムの処置: MSDB チェックポイントの制御レコードが読み取れない場合は、高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答: 別の装置から試行するか、別の直接アクセス・ストレージ・デバイスにデータ・セットをコピーしてください。

関連資料:

 z/OS: SYNADAF エラーの説明

DFS2681I ddname OPEN ERROR

説明: プログラム DBFNRS0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置: システムは、2 番目の MSDB データ・セットを開こうと試みます。2 番目のデータ・セットが開けなかった場合は、高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答: DD ステートメントがあり、その指定が正しいことを確認してください。ハードウェア障害が示されている場合は、別の装置を使用して、ジョブを再実行してください。

DFS2682W MSDBS NOT LOADED DUE TO PREVIOUS ERROR(S)

説明: プログラム DBFNRS0 が有効な MSDB チェックポイント制御レコードを検出できなかったか、メッセージ DFS2780A および DFS2781A に示されているような他のエラーが以前に発生していたか、いずれかです。

システムの処置: 高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答: IMS が MSDB の指定なしでロード・スタートしたのか解明してください。そうであれば、次のウォーム・スタート時に /NRE MSDBLOAD コマンドを発行して、MSDBINIT データ・セットから MSDB をロードしてください。

関連情報:

667 ページの『DFS2780A』

667 ページの『DFS2781A』

DFS2683I PRELOAD AREA *area_name* STR: *structure_name* ALTER SUCCESSFUL

説明: 高速機能共用仮想記憶オプション (VSO) 領域のプリロード中に、現在の構造体割り振りの大きさがルート・アドレス可能域 (RAA) 部分を保持するのに十分ではありませんでした。IMS は IXLALTER を発行して、構造のサイズを増やします。IXLALTER 呼び出しは正常に終了しました。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

オペレーターの応答: この領域に対する IXLALTER 呼び出しを避けるには、CFRM ポリシー内の構造体の INITSIZE を増やします。

モジュール: DBFVXAS0

DFS2684A PRELOAD AREA *area_name*STR: *structure_name* ALTER FAILED. RETURN CODE=*xxxx* REASON CODE=*yyyy*

説明: 高速機能共用仮想記憶オプション (VSO) 領域のプリロード中に、現在の構造体割り振りの大きさがルート・アドレス可能域 (RAA) 部分を保持するのに十分ではありませんでした。IMS は IXLALTER を発行して、構造のサイズを増やします。ただし、この IXLALTER 呼び出しは失敗しました。メッセージ・テキストで、*xxxx* は IXLALTER 戻りコードで、*yyyy* は理由コードです。

システムの処置: エリアは停止しました。IMS は構造体から切断されました。

オペレーターの応答: CFRM ポリシー内の構造体の INITSIZE を増やすか、または領域の PRELOAD 指定を削除します。

モジュール: DBFVXAS0

関連資料:

 z/OS: IXLALTER の戻りコードおよび理由コード

DFS2685I SDEP DISCREPANCY DURING RESTART AREA *xxxxxxx* - AREA STOPPED

説明: 緊急時再始動中に、再始動ログ処理によって、エリア *xxxxxxx* の順次従属に関連するログ・レコードに問題が検出されました。特に、ログ・レコードの欠落が原因で、再始動ログ処理が、1 つ以上のコミット済み SDEP 更新に関して、正しいバッファを判別できませんでした。

システムの処置: エリア *xxxxxxx* は停止されます。エ

リアが DBRC に登録されている場合は、要リカバリーのマークが付けられます。

プログラマーの応答: データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

DFS2686I DDNAME EOF ON OPEN ERROR

説明: プログラム DBFNRS20 が、ファイル DDNAME が空であることを検出しました。データ・セットが再定義された可能性があります。

システムの処置: システムはこのデータ・セットをクローズし、次の MSDB データ・セットを開こうと試みます。MSDB データ・セットがすべて開けなかったり、空である場合は、高速機能は使用不能になります。

プログラマーの応答: 空の MSDB データ・セットをフォーマット設定するか、有効な MSDB データ・セットからコピーしてください。

DFS2687A GETMAIN FAILED, AREA = AREANAME

説明: DBFUMRT0 からのエリア接続呼び出しを処理している最中に、IMODULE GETMAIN 要求が失敗しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、このメッセージが出されます。

プログラマーの応答: エラーの原因を判別し、ユーティリティを再実行してください。

DFS2688I SDEP SCAN UTILITY FOUND RBA xxxxxxx INDOUBT

説明: DEDB 順次従属スキャン・ユーティリティが、処理するよう要求されたセグメントの範囲で未確定セグメントを検出しました。

システムの処置: ユーティリティは続行されます。

モジュール: DBFUMSC0、DBFUMMS0

DFS2689I UTILITY START TIME xxxxxxxx yyyyyyyy

説明: 順次従属ユーティリティが、タイム・スタンブ xxxxxxxx yyyyyyyy で処理を開始しました。

システムの処置: ユーティリティは正常に開始します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFUMSC0

DFS2690I OPEN FAILED DDNAME=xxxxxxx

説明: DBFDBDZ0 ユーティリティが、示されているデータベースを開けませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 必要な変更を行って、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2691A LOG DATA SET IS INVALID, TERMINATE. CURRENT CHKPT ID=xxxxxxx, PROCESSING CHKPT ID=xxxxxxx

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- ログ・データ・セット・チェックポイント ID が昇順になっていなかった。
- 主記憶域データベース (MSDB) または拡張通信ノード・テーブル (ECNT) 定義が、MSDBCP1/CP2/DMP データ・セットでの定義と一致しなかった。

チェックポイント ID が印刷されます。ID が同じでないのは、MSDB または ECNT 定義での不一致か、チェックポイント ID の順序が狂っているか、いずれかの場合です。2 番目のチェックポイント ID がエラーのあるものです。

注: ECNT 定義は、IMS システム定義での TERMINAL マクロの結果です。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 4 で終了します。データベースは使用可能ではありません。

プログラマーの応答: ログ・データ・セットが正しい順序で指定されているか、すべて MSDB および TERMINAL 定義が同一の IMS セッションからのログ・データ・セットであるか、確認してください。

DFS2692I CKPT/DUMP DATA SET NOT VALID DDNAME=xxxxxxx

説明: チェックポイント・データがユーティリティに関して指定されましたが、2 つのチェックポイント・データ・セットのいずれも有効ではありませんでした。IMS 始動障害が原因と推定されます。

システムの処置: ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: IMS を再始動して、有効なチェックポイント・データ・セットを入手する必要があります。

**DFS2693I INVALID DBDNAME SUPPLIED.
 DBDNAME=xxxxxxx.**

説明: DBD 名 xxxxxxx が制御入力としてユーティリティーにサブミットされましたが、1 次入力ファイル (チェックポイントまたはダンプ) にこの名前の MSDB はありません。

システムの処置: ユーティリティーは、出力ファイルを作成しないで終了します。

プログラマーの応答: 制御入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2694I O/P LRECL INSUFFICIENT TO HOLD
 RECORD**

説明: JCL で指定した論理レコード長が小さすぎて、ユーティリティー出力データ・セットが収まりませんでした。DD 名は MSDBINIT です。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2696I MSDB NAME EXCEEDS 8 BYTES

説明: 制御ステートメントの MSDB 名が長すぎました。ステートメントは、このメッセージの直前に印刷されます。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2698I INVALID CONTINUATION SYNTAX

説明: 制御ステートメントの 72 桁目に文字が入る必要がありますが、ブランクが入っていました。あるいは、継続ステートメントの最初の 15 桁に文字が入っていますが、ブランクである必要があります。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2699I LOG END OF FILE BEFORE IMS
 START CKPT RCD**

説明: ユーティリティーが、ログ・データ・セットで IMS チェックポイントの開始をスキャンしました。チェ

ックポイントが検出されないうちに、ファイルの終わり条件が生じました。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 代替ログを使用して、ジョブを再実行依頼してください。


DFS2700A MORE THAN 255 MSDBS DEFINED

説明: IMS 内で可能な主記憶データベース (MSDB) の数を超過しました。指定できる MSDB の最大数は 255 です。

システムの処置: IMS は異常終了 1012 で終了します。

プログラマーの応答: IMS PROCLIB にある MSDB メンバー DBFMSDBn の MSDB の数を減らしてください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1012

第 58 章 DFS メッセージ DFS2701W - DFS2750A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2701W ERROR ENCOUNTERED DURING SHARED VSO AREA PRELOAD

説明: 高速機能共用仮想記憶オプション (VSO) のプリロード処理時に、1 つ以上の共用 VSO エリアがロードできませんでした。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

オペレーターの応答: エラー・メッセージを使用して、障害が起きた共用 VSO エリアを特定し、修正処置を取ってください。メッセージ DFS2453I または DFS3702I がこのメッセージとともに出力され、障害が起きた共用 VSO と問題の特定に役立ちます。

モジュール: DBFVXPL0

関連情報:

601 ページの『DFS2453I』

921 ページの『DFS3702I』


DFS2702A GETMAIN FAILED. INSUFFICIENT STORAGE FOR DMCB/DMAC AND/OR BHDR BLOCKS.

説明: IMS 制御領域に、一時 DMCB/DMAC または BHDR ブロック、あるいはその両方を構築できる十分な大きさのストレージが収まりませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1011 が示されます。

プログラマーの応答: IMS 制御領域サイズを大きくしてください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1011

DFS2703A GETMAIN FAILED. INSUFFICIENT STORAGE FOR FP CONTROL BLOCKS.

説明: CSA または ECSA に高速機能制御ブロックのすべてをロードおよび構築するのに十分な大きさのストレージがありませんでした。高速データベース・リカバリ (FDBR) 領域の場合、ECSA にストレージの不足があるのは、FPBUFF=ECSA が DFSFDRxx メンバーで指定される場合のみです。それ以外の場合、ストレージの不足は、FDBR 領域の専用ストレージにあります。

FPBUFF=LOCAL または FPBUFF は DFSFDRxx メンバーで指定されませんでした。


システムの処置: IMS は異常終了コード 1011 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) CSA または ECSA を増やした後、IMS を再始動してください。FDBR 領域の場合、拡張専用域を使用して FP 制御ブロックを割り振った場合は領域サイズを増やしてください。その後、FDBR を再始動します。

プログラマーの応答: MVS システム・プログラマーに相談してください。必要に応じて、CSA または ECSA のサイズを増やします。FDBR 領域で異常終了が発生した場合、ストレージの不足は ECSA または FDBR 拡張専用域にある可能性があります。IMS.PROCLIB の DFSFDRxx メンバー内のオプションの FPBUFF パラメーターを検査します。FDBR 領域の専用ストレージが問題である場合、FDBR REGION サイズを増やす必要があります。

モジュール: DBFOLC02、DBFINI21、DBFINI23、DBFINI24、DBFINI25、DBFINI26、DBFINI27

関連情報:

 IMS 異常終了 1011


DFS2704A BSIZ NOT SPECIFIED

説明: 使用中の DEDB または MSDB はありますが、データ・バッファ・サイズが指定されていません。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1011 が示されます。

プログラマーの応答: IMS プロシージャの BSIZ パラメーターを更新するか、IMS 起動時にパラメーターをオーバーライドしてください。MSDB も DEDB も使用中でない場合は、MSDB の接尾部は定義できず、いかなる DEDB の場合も、DBD が IMS ACBLIB にはありえません。

関連情報:

 IMS 異常終了 1011

DFS2705A DBBF NOT SPECIFIED


説明: 使用中の DEDB または MSDB はありますが、

データ・バッファに番号が指定されていません。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 1011 が示されます。

プログラマーの応答: IMS プロシージャの DBBF パラメーターを更新するか、IMIMS 起動時にそれをオーバーライドしてください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1011

DFS2705W DBBF NOT SPECIFIED

または

DBBF SPECIFICATION INVALID, DBBF=10 IS ASSUMED

説明: 10 未満の DBBF 値を指定しました。その値は高速機能を使用するには適切ではありません。IMS は DBBF 値を 10 に変更しました。

システムの処置: 通常の処理が続けられます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFINI20

DFS2706A MSDB xxxxxxxx {NOT SPECIFIED AT SYSGEN|HAS NO DBD GENERATED IN ACBLIB|NOT DEFINED AS A MSDB AT DBDGEN}.

説明: 次のいずれかが発生しました。

- MSDB 名は DBFMSDBn メンバーに指定されているが、システム定義で DATABASE パラメーターでは定義されなかった。
- ACBGEN が MSDB に関して行われていない。
- DBFMSDB で指定されている名前エントリーが、DBDGEN で MSDB として定義されていない。

システムの処置: IMS は実行を継続しますが、指定された MSDB には、上記の最初の 2 つの場合は、アクセス不能のマークが付けられます。

指定されたエントリーが DBDGEN で MSDB として定義されていない場合は、そのエントリーは無視されます。

プログラマーの応答: IMS システム定義、または MSDB ロード決定メンバー DBFMSDBn をチェックおよび訂正してください。

DFS2707W INVALID OTHR VALUE SPECIFIED. SYSDEF VALUE USED.

説明: OTHR パラメーターは指定されましたが、1 から制御領域プロシージャの MAXPST パラメーターの値の 10 進数値としてではありませんでした。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: IMS プロシージャの OTHR 値を訂正してください。

DFS2708W NUMBER OF DATA BUFFERS EXCEEDED THE MAXIMUM ALLOWED FOR THE SPECIFIED BSIZ. DBBF HAS BEEN ADJUSTED.

説明: IMS 始動プロシージャの DBBF パラメーターが、BSIZ に基づく最大値を超えました。DBBF は、以下の表で指定されているとおりに、指定された BSIZ の最大許容値に合わせて調整されます。

BSIZ (バッファ・サイズ)	最大バッファ数
512	1,800,000
1,024	1,200,000
2,048	780,000
4,096	440,000
8,192	230,000
12,288	160,000
16,384	130,000
20,480	100,000
24,576	80,000
28,672	70,000

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: IMS プロシージャの DBBF 値を訂正してください。

DFS2709W UNABLE TO INITIALIZE ANY DEDB AS SPECIFIED.

説明: 以前のエラーのため、DEDB (または MSDB) が初期設定されませんでした。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: DEDB (または MSDB) が必要な場合は、IMS をシャットダウンし、以前のエラー・メッセージで示されているエラーを訂正して、IMS を再始動してください。

DFS2710W DBFX GREATER THAN DBBF, OR DBFX LESS THAN 10. DBFX=10 IS ASSUMED.

説明: 領域始動時にページ固定されたデータ・バッファの数が、使用可能なデータ・バッファの数を超えました。あるいは、ページ固定されたデータ・バッファが 10 未満に指定され、データ・バッファの数が 0 を超えていました。DBFX 値は 10 に設定されます。さらに、使用可能なデータ・バッファの数が 10 未満の場合、DBBF=10 とみなされます。

システムの処置: IMS は実行を継続します。

プログラマーの応答: IMS プロシージャの DBFX パラメーターを訂正してください。

DFS2711A BSIZ VALUE WRONG


説明: IMS 始動プロシージャで指定された BSIZ 値が無効です。データ・バッファ・サイズ (BSIZ) は、BSIZ 値が 512、1024、または 2048 でない限り、4 KB の倍数である必要があります。最大 BSIZ 値は 28,672 です。

システムの処置: IMS は異常終了コード 1011 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS を再始動してください。

プログラマーの応答: IMS プロシージャの BSIZ パラメーター値を訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1011

DFS2712I MODULE NAME: *module_name*
commentary_from_the_module **ABEND**
SUBCODE: *hex_subcode* *register_dump*
dump_of_storage_area **AREA NAME:**
area_name

説明: このメッセージは、異常終了コード 1026 に付随するもので、いくつかの状況についてデバッグ・データを提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

module_name

このフィールドには、問題を検出して DBFDEBUB 要求を出したモジュールの名前が入ります。

commentary_from_the_module

この注釈には、通常、問題の種別が記述されます。

hex_subcode

表示されている場合、このサブコードにより、プログラムが異常終了する原因となったエラーのタイプが特定されます。サブコードの説明については、異常終了情報を参照してください。

register_dump

このメモリー・ダンプには、デバッグ要求を出したモジュールのレジスターが入ります。

dump_of_storage_area

このメモリー・ダンプは、論理不整合に関連した制御ブロックについて記述します。

area_name

異常条件検出時に処理されていたエリアの名前。


システムの処置: 処理が続くか、異常終了 1026 が生じます。

問題判別: 高速機能領域メモリー・ダンプの制御ブロックの直前に、該当する EBCDIC 目印があります。セキュリティ上の理由で、バッファ・データは通常、メモリー・ダンプには表示されません。メモリー・ダンプで印刷されたバッファ・データの診断コピーが必要な場合は、SUPERZAP を使用して、MAYBE と呼ばれるフラグをその通常値 X'FF' からモジュール DBFACDIO の X'00' にリセットしてください。

さらに、レジスター内容および DBFDEBUB 要求を出したモジュールのリストを使用して、問題診断ができます。

異常終了 1026 の情報には、詳細な診断情報が含まれています。

関連情報:

 異常終了 1026

DFS2713I ddname OPEN ERROR

説明: プログラム DBFDBDP0 が、このデータ・セットに関して、DCB を開けませんでした。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- DD ステートメントが欠落している。
- JCL に誤りがある。
- ハードウェア・エラーが存在する。

システムの処置: MSDB チェックポイントやメモリー・ダンプは作成されません。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在し、その指定が正しいか確認してください。ハードウェア・エラーが示されている場合は、別の装置を使用して、ジョブを再実行してください。

DFS2714I *xxxxx* TRACKS ALLOCATED FOR
ddname, BUT *yyyyy* REQUIRED

説明: 割り振られた直接アクセス・ストレージ・デバイスのスペースが不十分であったため、この MSDB チェックポイントまたはメモリー・ダンプ・データ・セットが収まりませんでした。

システムの処置: チェックポイントやメモリー・ダンプは作成されません。

プログラマーの応答: データ・セットを再割り振りし、IMS をコールド・スタートしてください。

DFS2715I NO MSDBS FOUND-MSDB DUMP
IGNORED

説明: メモリー・ダンプ要求が /DBDUMP コマンドで入力されましたが、システムは、MSDB なしで開始されていました。

システムの処置: MSDB メモリー・ダンプは無視されます。

DFS2717 MSDB CHKPT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS COMMAND

説明: 以前に入力されたコマンドからの MSDB チェックポイント、または自動システム・チェックポイントが現在プロセス中です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) メッセージ DFS2719I が表示されるのを待ち、コマンドを再入力してください。

関連情報:

『DFS2719I』

DFS2718I ERRORS IN MSDB CHKPT DATA
SET, NO SYSTEM/MSDB CHKPT
TAKEN

説明: プログラム DBFDBDP0 が、主記憶データベース (MSDB) チェックポイント・データ・セットでエラーを検出したので、MSDB チェックポイントは取られません。

システムの処置: 要求された場合のシャットダウン・チェックポイントを除けば、さらにチェックポイント (システムおよび MSDB) が取られることはありません。MSDB チェックポイントがシャットダウン・チェックポイントの一部として取られることはありません。

オペレーターの応答: IMS 再始動後に、初期チェックポイントの MSDB チェックポイント・データ・セットの 1 つで、書き込みエラーが発生し、再始動チェック

ポイントが OLDS に書き込まれる場合、MSDB は緊急時再始動でリカバリーできません。再始動時にこの問題が生じた場合は、アクション A を実行し、それ以外の場合は、次のアクションのいずれを実行してもかまいません。

A. 緊急時再始動アクションによるリカバリー:

1. MODIFY IMS,STOP コマンドを発行して、IMS を強制的に終了してください。
2. 障害のある MSDB チェックポイント・データ・セットをスクラッチし、新しいデータ・セットを再割り振りしてください。
3. 有効な MSDB チェックポイント・データ・セットを新規に割り振られたデータ・セットにコピーしてください。
4. 最後の有効なシステム・チェックポイントから、システムを緊急時再始動してください。

B. ウォーム・スタート・アクションによるリカバリー:

1. IMS をシャットダウンしてください。メッセージ DFS2762A の表示が予測されません。
2. メッセージ DFS2762A に記載されている処置のとおりに行ってください。

関連情報:

664 ページの『DFS2762A』

DFS2719I MSDB CHECKPOINT WRITTEN TO
ddname

説明: MSDB チェックポイントが *ddname* に書き込まれました。

DFS2720I I/O ERROR IN

ddname,cc,co,stat,sens,cchhr

説明: プログラム DBFDBDP0 が MSDB チェックポイントへの書き込みを試み、入出力エラーが発生しました。メッセージ・テキストでは、次の情報が提供されません。

フィールド

	内容
<i>cc</i>	ECB 完了コード
<i>co</i>	エラーが発生した CCW のコマンド・コード
<i>stat</i>	状況情報
<i>sens</i>	センス・バイト
<i>cchhr</i>	エラーが発生したディスク・アドレス

メッセージ DFS2718I も出されます。

システムの処置: MSDB チェックポイントは停止されます。

プログラマーの応答: IMS をシャットダウンし、最後

の有効なシステム・チェックポイントから、システムを緊急時再始動してください。

関連情報:

DFS2718I

DFS2721I MSDBS SUCCESSFULLY DUMPED

説明: このメッセージは、MSDB が正常にダンプされたことを検証しています。

DFS2722I ERROR IN MSDB DUMP-NO DUMP TAKEN

説明: プログラム DBFDBDP0 が、MSDB メモリー・ダンプでエラーを検出しました。

システムの処置: メモリー・ダンプは終了し、さらにメモリー・ダンプが作成されることはありません。

プログラマーの応答: 別の装置を試行するか、別の直接アクセス・ストレージ・デバイスにデータ・セットをコピーしてください。

新規アクティブ IMS システムが、このメッセージを XRF 環境で受信した場合は、IMS 代替システムに関して、/ERE コマンドの FORMAT キーワードに「MD」オプションを入力しなかった可能性があります。

DFS2723I UNABLE TO OPEN DD=LOGTAPE. ANALYSIS TERMINATED.

説明: テープまたは DASD に常駐する入力ログ・データ・セットを開いている最中に、永続出力エラーが発生した可能性があります。

システムの処置: IMS 高速機能ログ分析ユーティリティー DBFULTA0 は終了します。

プログラマーの応答: LOGTAPE ddname が適切に割り振られているか確認してください。

DFS2724I MORE THAN 100 TRANSACTION CODES SPECIFIED FOR EXCEPTIONAL TRANSIT TIME. EXCESS IGNORED.

説明: トランザクション・コードに関する例外通過時間を指定するステートメントが、100 を超えて SYSIN データ・セットから読み取られました。許容されている指定ステートメントの最大数は 100 です。

システムの処置: 実行は継続され、過剰な通過時間指定は無視されます。

プログラマーの応答: 過剰な通過時間指定ステートメントを SYSIN データ・セットから除去して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2725I UNABLE TO OBTAIN ADDITIONAL VIRTUAL STORAGE. ANALYSIS TERMINATED.

説明: 使用可能であった仮想記憶域を超える仮想記憶域が、ジョブで必要とされました。

システムの処置: モジュール DBFULTA0 は早期に終了し、障害の発生時までには作成された要約報告書があれば表示されます。

プログラマーの応答: 仮想記憶域スペースをもっと多く割り振り、ジョブを再実行依頼してください。


DFS2726I PARAMETER CARD FORMAT INCORRECT, VALUE NOT USED.

説明: SYSIN データのパラメーター・ステートメントのフォーマットに誤りがあります。

システムの処置: ステートメントはスキップされ、データは使用されず、処理は続行されます。

プログラマーの応答: パラメーター・ステートメントのフォーマットを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。モジュール DBFULTA0 に使用する必要があるフォーマットの説明を参照してください。

関連資料:

 高速機能ログ分析ユーティリティー (DBFULTA0) (システム・ユーティリティー)

DFS2727I LOG BUFFER CONTROL RECORD NOT FOUND ON INPUT LOG. ANALYSIS TERMINATED.

説明: IMS 高速機能ログ分析ユーティリティー DBFULTA0 が、LOGTAPE ddname で指定されているデータ・セットで IMS ログ・バッファ制御レコードを検出できませんでした。

システムの処置: 実行は終了します。

プログラマーの応答: LOGTAPE ddname が正しく割り振られているか確認してください。

DFS2728I UNABLE TO OPEN DD=SYSUT1(2). ANALYSIS TERMINATED.

説明: DD 名 SYSUT1 または SYSUT2 を指定した定義ステートメントが JCL に組み込まれましたが、いずれかまたは両方のデータ・セットが正常に開けませんでした。

システムの処置: 実行は終了します。

プログラマーの応答: ddname SYSUT1(2) が適切に割り振られているか確認してください。

**DFS2729I PERMANENT I/O ERROR READING
LOG DATA SET. ANALYSIS
TERMINATED.**

説明: モジュール DBFULTA0 がログ・レコードの読み取りを試み、アクセス方式がログ・データ・セット DCB に指定されている SYNAD アドレスに制御を戻し、ログ・データ・セットに訂正不能入出力エラーがあることを示しています。

システムの処置: 分析が早期に終了し、エラーの発生時点までに累積された結果の表示が伴います。

問題判別: 詳細について、付随している IEA または IEC メッセージをチェックしてください。

**DFS2730A UNABLE TO LOAD FP INPUT
ROUTING EXIT: DBFHAGU0**


説明: IMS システム初期設定中に、高速機能初期設定で必須高速機能入力ルーティング出口 DBFHAGU0 をロードできませんでした。

システムの処置: このメッセージを出した後に、IMS 高速機能初期設定は異常終了し、ユーザー異常終了 1011 が示されます。

システム・プログラマーの応答:

1. デフォルトまたはユーザー作成バージョンの DBFHAGU0 が IMS.SDFSRESL STEPLIB 連結にあるか確認してください。
2. IMS を再始動してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 1011

**DFS2732E SVSO CASTOUT PROCESS FAILED
DUE TO TIMEOUT. AREA=xxxxxxx**

説明: このメッセージが生成されるのは、SVSO エリアの CASTOUT がタイムアウトになったときです。再試行の最大数を使い切りました。

システムの処置: エリア xxxxxxx は停止され、要リカバリーのマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答: データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、エリアをリカバリーしてください。

モジュール: DBFVXOC0

DFS2731I MSDB xxxxxxxxxx STARTED

説明: この通知メッセージは、MSDB xxxxxxxxxx (ここで、xxxxxxx は CHECKPOINT か DUMP のいずれか) が開始したことを警告するものです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDBDP0

DFS2733I OPEN FAILED. DDNAME=xxxxxxx

説明: 不完全な DD ステートメントがあったか、DD ステートメントが欠落していました。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、データ・セットの読み取りまたは書き込みの試みがなされた場合は、異常終了の可能性が高くなります。

プログラマーの応答: DD ステートメントをチェックし、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2735A MORE THAN ONE RUN CARD

説明: 複数の実行カードが示されましたが、有効なカードは 1 つだけです。

システムの処置: メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されません。

プログラマーの応答: 余分の実行カードを除去し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

661 ページの『DFS2740A』

DFS2736A INVALID ACTION CARD

説明: リストされているステートメントに構文エラーがありました。

システムの処置: メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されません。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

661 ページの『DFS2740A』

DFS2737A NO RUN CARD

説明: 実行カードが示されませんでした。

システムの処置: メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されません。

プログラマーの応答: 実行カードを挿入し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

661 ページの『DFS2740A』

DFS2738A NO ACTION CARDS

説明: プログラム DBFDBMA0 では、アクション・カードを少なくとも 1 つ必要としますが、まったく提供されませんでした。

システムの処置: メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラムは処理を続行します。

プログラマーの応答: それぞれの MSDB ごとに、アクション・ステートメント 1 つを提供し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

『DFS2740A』

DFS2739A DUPLICATE ACTION CARDS

説明: 重複するアクション・カードが提供されましたが、許容されるのは、1 つの MSDB につき 1 つだけです。

システムの処置: メッセージ DFS2740A が表示されるまでは、プログラム DBFDBMA0 の処理は続行されません。

プログラマーの応答: ファイルを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

『DFS2740A』

**DFS2740A ERRORS IN CONTROL FILE.
TERMINATE**

説明: このメッセージの前に、必ず 1 つ以上の詳細メッセージが出されます。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 制御ファイルのエラーを訂正してください。ジョブを再実行依頼してください。

DFS2741A CHANGE RECORD SYNTAX ERROR

説明: ステートメント・イメージ変更ファイルの最後にリストされているレコードに構文エラーがありました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 変更ファイルを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2742A CHANGE RECORD DATA INVALID
OR TOO LONG**

説明: 示されている変更レコードに、無効のデータが含まれていました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2743I READING THE OLCSTAT MDA
MEMBER**

説明: OLCSTAT DD ステートメントはバッチ JCL でコーディングされましたが、システムがデータ・セットにアクセスできません。MDA メンバーが存在する場合、それを読み取ろうという試行が行われていました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSBIND0

**DFS2744E MESSAGE(S) MAY HAVE BEEN
LOST DURING IMS/CQS RESYNC**

説明: チェックポイント処理時または IMS/CQS 再同期処理時に、1 つ以上の CQSPUT が実行されませんでした。IMS が CQSPUT の状況を判別できなかったか(前の CQSPUT が正常に実行されていなかった可能性があります)、CQSPUT のメッセージの再作成中にエラーが発生したかのいずれかです。未解決の CQSPUT ごとに 1 つのタイプ 67D00F 診断レコードがログに記録されます。これは IMS 内部エラーです。プログラマーの応答で説明されているように、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

システムの処置: CQSPUT は実行されず、メッセージはローカル側でクリーンアップされました。

プログラマーの応答: オプション EXITR=DFSERA30 を指定したユーティリティ DFSERA10 を使用して、IMS メッセージを受信したシステムの IMS ログから、タイプ 67D0 および 3F ログ・レコードをすべてプルしてください。すべての IMS ログを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題を報告してください。

問題判別: タイプ 67D00F 診断レコードをチェックして、CQSPUT の状況を調べてください。67D00F レコードのヘッダーに、エラーを起こした機能とその説明が含まれているはずです。

モジュール: DFSQRS0

DFS2745A MSDB TO BE INSERTED ALREADY EXISTS. DBD=*name*

説明: アクション・ステートメントでは、MSDB の挿入が要求されましたが、直前のロード・イメージ・ファイルに同じ名前の MSDB が含まれています。MSDB の置き換えが意図されたアクションであった可能性があります。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2746A MSDB TO BE DELETED REPLACED OR MODIFIED DOES NOT EXIST. DBD=*name*

説明: アクション・ステートメントでは DELETE、REPLACE、または MODIFY が指定されましたが、MSDB の直前のロード・イメージ・ファイルには、そのような MSDB はありません。MSDB の挿入が意図されたアクションであった可能性があります。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2747A ERRORS DETECTED IN CHANGE FILE. TERMINATE

説明: このメッセージの前に、必ず 1 つ以上の詳細メッセージが出されます。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 変更ファイルのエラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2748A NO CHANGE RECORDS DBD=*name*

説明: アクション・ステートメントでは INSERT または REPLACE が示されましたが、メッセージに指定されたデータベースに関するセグメント・データを提供する変更レコードがありませんでした。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 変更レコードは、主記憶データベース (MSDB) によって順次提供される必要があります。それぞれの MSDB 内では、変更レコードはキーによって提供される必要があります。入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

DFS2749A NO CHANGE RECORDS FOR MODIFY. DBD=*name*

説明: アクション・ステートメントでは MODIFY が指定されましたが、この MSDB に関して変更レコードは提供されませんでした。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2750A ATTEMPT TO MODIFY NONEXISTENT MSDB. DBD=*name*.

説明: MODIFY 変更レコードでキーが指定されていますが、そのキーは MSDB の直前のロード・イメージ・コピーに存在しません。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

第 59 章 DFS メッセージ DFS2751A - DFS2800I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2751A NO ACTION CARD. DBD=*name*

説明: 名前が指定されている MSDB に関して、変更レコードが提供されましたが、関連 ACTION ステートメントが欠落していました。

システムの処置: メッセージ DFS2747A が出されるまでは処理が続行され、それから、MSDB 保守ユーティリティーが終了します。

プログラマーの応答: MSDB に関して、ACTION ステートメントを指定し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

662 ページの『DFS2747A』

DFS2752A UNKNOWN FIELD NAME.

説明: 最後にリストされているカード・イメージ変更ファイル・ステートメントに、不明のフィールド名が含まれていました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2753I *nmmn* MSDBS COPIED

説明: このサマリー・メッセージは、MSDB のカウントが、手を加えられることなく、そのままロード・イメージ・データ・セット MSDBINIT(0) から MSDBINIT(+1) にコピーされたことを示します。

DFS2754I *nmmn* MSDBS REPLACED

説明: このサマリー・メッセージでは、置き換えられた MSDB の数を示します。

DFS2755I *nmmn* MSDBS DELETED

説明: このサマリー・メッセージでは、削除された MSDB の数を示します。

DFS2756I *nmmn* MSDBS MODIFIED

説明: このサマリー・メッセージでは、変更された MSDB の数を示します。

DFS2757E QUEUE MANAGER DETECTED AN ERROR - UOWID: SSSSSSSTTTTTTTTTTTTTTTTT

説明: IMS 内部エラーがキュー・マネージャーによって検出されました。1 つ以上のタイプ 67D0 診断レコードがログに記録されました。このエラー・メッセージは、可能な場合、キュー・マネージャー異常終了 0757 の代わりに使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

SSSSSSSS

発信 IMS の SMQ NAME

TTTTTTTTTTTTTTTTTTTT

発信 UOW トークンの 16 進バイト 8 バイトを表す。

システムの処置: キュー・マネージャーは該当するクリーンアップを実行し、処理を続行します。

プログラマーの応答: IMS メッセージが受信されたシステムに関して、オプション EXITR=DFSERA30 を指定した、IMS ユーティリティー DFSERA10 を使用して、IMS ログからすべてのタイプ 67D0 ログ・レコードをプルしてください。すべての IMS ログを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、問題を報告してください。

問題判別: メッセージからの UOW トークンが一致する、タイプ 67D00A 診断レコードに、エラー条件が記述され、診断情報が含まれています。

DFS2758I STARTING QFIX PROCESSING QFIX - PROCESSING *cccc*

または

QFIX - PROCESSING *cccc*.QFIX *ddd.d%* COMPLETED.

説明: このメッセージは、QFIX の現在の処理状況に関する情報を提供します。

DFS2759I • DFS2762A

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc 現行ブロック・タイプ。ブロック・タイプは、次の順序で処理されます。

SMB
CNT
APPC
OTMA
RRE
MSC
CCB
BITMAP

ddd.d QFIX の開始以降に処理されたメッセージ・キュー・レコードのパーセンテージ。「QFIX ddd.d% COMPLETED.」のバージョンは、BITMAP を除くすべての cccc のタイプで生成されます。

システムの処置: QFIX の開始時に、メッセージが生成されます。追加のメッセージは、約 10 分ごとに生成されます。これらのメッセージには、QFIX が処理中の現行ブロック・タイプ、および処理済みのメッセージ・キュー・レコードのパーセンテージが記録されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2759I INVALID SYNTAX. DBN= EXPECTED

説明: MSDB DUMP/RECOVERY ユーティリティーが処理した制御ステートメントに DBN= 以外の値が含まれていました。

システムの処置: プログラム DBFDBDR0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2760I INVALID SYNTAX. BLANK FOLLOWING DBN=(

説明: 制御ファイルで指定されている MSDB 名のリストの先頭文字がブランクでした。これは英字である必要があります。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2761W ERROR IN MSDB CHKPT - NO IMS CHKPT TAKEN - SHUT DOWN SYSTEM

説明: プログラム DBFDBDP0 が、主記憶データベー

ス (MSDB) チェックポイント・データ・セットでエラーを検出し、MSDB チェックポイントは取られませんでした。システムがリカバリーするためには、シャットダウンする必要があります。

システムの処置: 要求したシャットダウン・チェックポイントがあればそれを除いて、システム・チェックポイントも MSDB チェックポイントも取られません。MSDB チェックポイントがシャットダウン・チェックポイントの一部として取られることはありません。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS 再始動後の初期チェックポイント中に、MSDB チェックポイント・データ・セットで、書き込みエラーが発生し、再始動チェックポイントが OLDS に書き込まれる場合は、ウォーム・スタート・リカバリーを実行してください。そうでない場合は、ウォーム・スタート・リカバリーと緊急時再始動リカバリーのいずれかを実行してください。

ウォーム・スタート・リカバリー:

1. IMS をシャットダウンしてください。
2. メッセージ DFS2762A が出されます。メッセージ DFS2762A に記載されている処置のとおりにしてください。

緊急時再始動リカバリー:

1. MODIFY IMS,STOP コマンドを発行して、IMS を強制的に終了してください。
2. 障害のある MSDB チェックポイント・データ・セットをスクラッチし、新しいデータ・セットを再割り振りしてください。
3. 有効な MSDB チェックポイント・データ・セットを新規に割り振られたデータ・セットにコピーしてください。
4. 最後の有効なシステム・チェックポイントから、システムを緊急時再始動してください。

関連情報:

『DFS2762A』

DFS2762A SYSTEM SHUTDOWN-MSDB RECOVERY REQUIRED

説明: メッセージ DFS2718I または DFS2761W が出された後で、マスター端末オペレーターが IMS のシャットダウンを要求しました。

システムの処置: MSDB チェックポイントは取らないで、シャットダウン・チェックポイントが取られます。

オペレーターの応答: (マスター端末)

1. ログ保存ユーティリティー (DFSUARC0) を実行してください。
2. MSDB DUMP RECOVERY ユーティリティー (DBFDBDR0) を実行して、有効な MSDB チェック

ポイント・データ・セット、および最後の有効なシステム・チェックポイント以降の MSDB 変更が含まれている SLDS から、MSDB をリカバリーしてください。

3. 障害のある MSDB チェックポイント・データ・セットを廃棄し、新しいデータ・セットを再割り振りしてください。
4. MSDBLOAD キーワードを使用して、IMS をウォーム・スタートしてください。

関連情報:

658 ページの『DFS2718I』

664 ページの『DFS2761W』

DFS2763I REQUIRED CHECKPOINT RECORD NOT FOUND ON LOG

説明: 高速機能再始動モジュールが、どのチェックポイントから MSDB を再始動するか判別するために、MSDB チェックポイント・データ・セットから制御レコードを読み取りましたが、選択したチェックポイントが IMS ログで検出されませんでした。

システムの処置: IMS は、高速機能をなしで続行されま

す。
プログラマーの応答: MSDB データ・セット上のチェックポイントに一致する、または、それより前のチェックポイントであって、再始動を行うチェックポイントを選択し、最新のチェックポイントまでのすべてのログ・データ・セットを指定してください。

DFS2764W MSDB ARITHMETIC OVERFLOW MSDB=xxxxxxx FIELD=xxxxxxx KEY=xxxxxxx

説明: メッセージ・テキストに示されているデータベースで、算術オーバーフローが生じました。

システムの処置: オーバーフローが呼び出し時に検出されるように、入力メッセージが再処理されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: データベース生成を訂正して、セグメント・タイプに合う適切なフィールド・サイズを用意してください。

DFS2765W OUT OF SPACE IN DATA SET DATABASE=xxxxxxx AREA=yyyyyyyy ss RM: tttt

説明:

メッセージに示されている DEDB エリアが、エリアの順次従属部分のスペースを使い尽くしました。エリアへ

の順次従属をさらに追加することは不可能です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

スペースを使い尽くしたエリアが含まれる
DEDB

yyyyyyyy

スペースを使い尽くしたエリア

ss

DL/I 呼び出し状況コード。これらのコードについては、DL/I 状況コード情報を参照してください。

ttt

発行された DL/I 状況コードのタイプ。このメッセージでの有効なタイプは、次のとおりです。

ISRT SDEP 挿入アクティビティーのために SDEP CI の事前割り振りを試みているとき、メッセージがモジュール DBFMSRT0 によって出されました。
SDEP 同期点時に SDEP を処理しているとき、メッセージがモジュール DBFSYN10 によって出されました。

順次従属スペース管理について詳しくは、「IMS V15 データベース管理」を参照してください。


システムの処置: 条件が呼び出し時に検出されるように、入力メッセージが再処理されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: データベース内で必要がなくなったデータを判別し、削除ユーティリティを実行して、使用可能なスペースをオンライン・システム用として再利用してください。

モジュール: DBFMSRT0、DBFSYN10

関連資料:

 DL/I 状況コード (メッセージおよびコード)

DFS2766I PROCESS FAILED

説明: アプリケーション・プログラムが異常終了しています。この一般メッセージには、マスター端末に向けて障害の理由を詳述する多数のメッセージの 1 つが伴います。

システムの処置: 入力メッセージは廃棄されます。

オペレーターの応答: IMS データベース管理者またはシステム・プログラマー、あるいはその両方に連絡してください。

DFS2767I AREA=xxxxxxx DEDB AREA FULL

説明: スペース管理モジュールが、エリアのルート部分に ISRT 要求に見合う十分なスペースを検出できませんでした。

注: このメッセージは、マスター端末オペレーターに送信されます。

システムの処置: IFP または MPP の場合は、ISRT を要求するトランザクションが取り消され、要求が発信された従属領域はダウンするが、しきい値に達しなかった場合は、従属領域は元どおりに立ち上がります。領域が BMP の場合は、正常に完了しますが、ISRT 呼び出しに関して STATUSFS を受信します。

DFS2768W FAST PATH RESTART ERROR-FP UNAVAILABLE

説明: モジュール DBFNRS0 が、高速機能再始動時にエラーを検出しました。

システムの処置: IMS は、高速機能なしで続行されません。

プログラマーの応答: IMS キューのすべてが処理され、メッセージのすべてが宛先に送信されたら、システムをコールド・スタートしてください。

DFS2769I INVALID SYNTAX. DELIMITER EXPECTED BEFORE 72

説明: ユーティリティが、制御ファイルに MSDB 名の終わりを示すブランクまたはコンマがないか、スキャンしているところでした。区切り文字が検出されないうちに、72 桁目に達しました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2770I FAST PATH DBD *dbname* IGNORED

説明: データベース・バックアウトのための初期設定で、高速機能 DBD を検出しました。すべての高速機能 DBD が無視されます。

システムの処置: 処理は続行され、高速機能 DBD を迂回します。

DFS2771 APDB KEYWORD HAS INVALID PARAMETER

説明: このキーワードでは無効なパラメーターを入力しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 有効なパラメーターを使用して、コマンドおよびキーワードを再入力してください。

モジュール: DFSICL30、DFSICLN4

DFS2772 REGION KEYWORD HAS INVALID PARAMETER

説明: このキーワードでは無効なパラメーターを入力しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効なパラメーターを使用して、コマンドおよびキーワードを再入力してください。

モジュール: DFSICL30、DFSICLN4

DFS2773 INTERVAL KEYWORD HAS INVALID PARAMETER

説明: このキーワードでは無効なパラメーターを入力しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 有効なパラメーターを使用して、コマンドおよびキーワードを再入力してください。

モジュール: DFSICL30、DFSICLN4

DFS2779I INVALID MSDB (or DEDB) APPLICATION CONTROL BLOCKS-xxxxxxx WERE FOUND IN ACBLIB

説明: ACBLIB にある、指定された高速機能 MSDB または DEDB アプリケーション制御ブロックに、システムの現行レベルと互換性がありません。ブロックは、現行レベルに引き上げられるまでは使用不能です。

システムの処置: IMS は実行を継続し、指定された MSDB または DEDB にアクセス不能のマークが付けられます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: BUILD DBD=xxxxxxx 制御ステートメントを使用して、ACBGEN を再実行してください。

**DFS2780A CONFLICT WITH PRIOR DATA=
KEYWORD.**

説明: カード・イメージ変更ファイルに、先行する関連 FIELD= がなく、同じキーに関する別の DATA= に続いている DATA= が含まれています。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2781A DATA= KEYWORD EXPECTED.

説明: FIELD= キーワードの後に DATA= キーワードが続いていなかったか、KEY= の後に DATA= が続いていませんでした。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2782A INCORRECT DATA LENGTH

説明: DATA= キーワードの後に、DBD 指定のフィールドまたはセグメントの長さとは整合しない文字ストリングが続いていました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2783A UNABLE TO DELETE
FAILED-PERSISTENT CONNECTION
TO STR: *Structure_Name*
REASON=*xxxx***

説明: IMS が /VUNLOAD コマンドを処理した後で、DBFXVUN0 が IXLFORCE マクロ呼び出しを発行して、共用 VSO 構造への障害永続接続を削除します。このメッセージが出されるのは、IXLFORCE 呼び出しが失敗して、戻りコードが 4 より大きい番号のときです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 障害永続接続が存在するか判別し、それを手動で削除してください。

モジュール: DBFXVUN0

DFS2785A INVALID CONTINUATION CARD

説明: 継続ステートメントの最初の 15 桁までに非ブランク文字が含まれていました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2786A DBDNAME=*xxxxxxxx* NOT IN
ACBLIB**

説明: アクション・ステートメントで指定された DBD 名が、システムには不明でした。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2787A I/O ERROR IN BLDL. ACBLIB

説明: プログラム DBFDBMA0 が ACBLIB に対して BLDL マクロの処理を試み、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: ACBLIB を復元または再作成し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2788I *nnnn* MSDBS INSERTED

説明: このサマリー・メッセージには、挿入された MSDB のカウントが含まれています。

システムの処置: 実行が継続されます。

DFS2789A CHANGE FILE SEQUENCE ERROR

説明: 変更ファイルの 1 つにある DBD 名、または DBD 内のキーの順序が違います。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2790A SAME RECORD APPEARS IN BOTH
CHANGE DATA SETS.**

説明: 両方の変更データ・セットに、同じ MSDB の同じキーが含まれていました。

DFS2791A • DFS2799I

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2791A INVALID HEX DATA

説明: DATA= キーワードに、無効の 16 進データが含まれていました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2792A KEY= KEYWORD EXPECTED AFTER DBN=

説明: カード変更データ・セットに、直後に KEY= キーワードが続いていない DBN= キーワードが含まれていました。

システムの処置: プログラム DBFDBMA0 は終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2793I NEW STARTUP PROC MEMBER. NAME=xxxxxxx

説明: このメッセージは、新規 STARTUP PROCEDURE MEMBER エントリーのリストのヘッダーです。これは情報目的に過ぎません。

DFS2794I MSDB DUMP/RECOV UTIL NORMAL TERMINATION

説明: このメッセージでは、ユーティリティが正常に実行されていることを確認しています。

システムの処置: ユーティリティは正常に終了します。

DFS2795I WRONG LOG VOLUME WAS MOUNTED. TERMINATE. CKPT REQUIRED=xxxxxxx, FIRST ID FOUND=xxxxxxx

説明: マウントされているログ・データ・セットでの最初のチェックポイント識別が、必須チェックポイントより後になっていました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 直前のログ・データ・セット、およびそれ以降のすべてのデータ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2796I REQUIRED CKPT ID=xxxxxxx, NOT IN LOG

説明: 必須チェックポイントが検出されないうちに、ファイルの終わり条件が生じました。

システムの処置: ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 代替ログ・データ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2797I NO APPLICABLE UPDATES IN LOG

説明: ユーティリティが復元された元のチェックポイント以降、MSDB 更新は実行されませんでした。

システムの処置: 通常のユーティリティ処理が続行されます。

DFS2798I MSDBINIT DATA SET IS EMPTY

説明: MSDB メモリー・ダンプ・リカバリー・ユーティリティからの 1 次出力が、新しい MSDBINIT データ・セットです。このデータ・セットは、コールド・スタートまたはウォーム・スタート時に、MSDBLOAD オプションを使用して、MSDB をロードする場合に使用します。新規 MSDBINIT データ・セットには、MSDB レコードは含まれていません。

システムの処置: ユーティリティは正常に終了します。

プログラマーの応答: MSDBINIT データ・セットが空であるか検証してください。

DFS2799I INVAL OPER. MUST BE UNLOAD, UNLOADCP, RECOVERY, OR RECOVCP

説明: 制御データ・セットの最初のワードが UNLOAD、UNLOADCP、RECOVERY、または RECOVCP ではありませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2800I **CHANGE ACCUMULATION FOR
DATA BASE *dbname* DCB
NAME/NUMBER [*ddname*] *n*

説明: データベース変更レコードが、データベース・データ・セットに関して累積されています。DCB 名が表示されるのは、累積がデータベース・データ・セットによって行われた場合のみです。*n* は、次のようにデータ・セット番号を示します。

- 1 基本データ・セット
- 2 オーバーフロー・データ・セット
- 0 KSDS の VSAM シーケンス・セット。

値 *n* は、*ddname* に対応するデータ・セット・グループの相対番号です。 *n*=0 の場合は、データ・セットは VSAM KSDS の索引です。*n*=0 レコードが使用されるのは、データベース・リカバリーのトラック・リカバリー・オプションの場合のみです。

第 60 章 DFS メッセージ DFS2801A - DFS2850E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS2801A ERROR RETURN CODE *nm* IN
RESPONSE TO A DL/I REQUEST *dd*
ON DDNAME *ddname* FOR
FUNCTION *ff***

説明: 発行プログラムがデータベース・データ・セットに対して読み取りまたは書き込みを試みました。PST DSECT 戻りコードは、ラベル PSTFNCTN および PSTRTCDE で検出されます。PST DSECT 戻りコードの意味については、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、8、36

関連資料:

➡ 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2802A ERROR FEEDBACK = *nnnnnn* IN
RESPONSE TO A VSAM
(PUT|GET|VERIFY|POINT)
REQUEST ON DDNAME *ddname* FOR
FUNCTION (IM|RV), R15=*xx***

説明: 発行プログラムがデータベース・データ・セットに対して読み取りまたは書き込みを試みたとき、エラーが発生しました。IMS 機能 (イメージ・コピー用の IM、およびリカバリー用の RV) をサポートする VSAM 要求は、メッセージ・テキストに示されています。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

関連資料:

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

**DFS2803I RECORD COUNT=*nnnn* FOR *ddname*
[NET DECREASE|NET
INCREASE|ERLG RECORDS]**

説明: レコード・カウントで、示されているデータ・セット/エリアに関して処理された論理レコードの数を示します。すべての入力ログおよび変更累積データ・セットの処理後、データベース・リカバリー・ユーティリティー (DFSURDBO) が、最後のイメージ・コピー以降の KSDS データ・セットのサイズの純増減を示します。

変更累積ユーティリティー (DFSUCMNO) は、指定されたデータ・セットに関して検出された IMS 入出力エラー・ログ・レコード (ERLG レコード) の総数を示します。

データベース・イメージ・コピー・ユーティリティー (DFSUDMP0) では、DEDB を処理するときの DDNAME ではなく、AREA を示します。

**DFS2804A HEADER RECORD ON DDNAME
ddname IS NOT CONSISTENT WITH
cccc FOR FUNCTION *ff***

説明: 入力データ・セットのヘッダー・レコードには、データベース編成、作成日時、およびページ日時情報が含まれています。

この情報は、変更データ (変更累積またはログ) およびダンプ・データ・セットと整合しない場合があります。あるいは、変更データ・ヘッダーが DBPCB と合致しないか、またはメモリー・ダンプ・データ・セット・ヘッダーが DBPCB と合致しません。

プログラマーの応答: ヘッダー・レコードを調べれば、必要な訂正処置が示される可能性があります。メモリー・ダンプは最新でなかったり、無効のページ日時を指定して作成されたりで、再作成が必要です。

問題判別: 2、3、8、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2805A RECORD RBN *nnnnnnnn* IS INVALID

説明: EOF に 1 ブロックを加えたものよりも大きい RBN が検出されました。実行中は、リカバリーによって現行 EOF がトラッキングされます。この現行 EOF が、最後に書き込まれたブロックです。それぞれのイメージ・コピー、変更累積、またはログ・レコードが EOF に突き合わせられます。入力レコードが EOF に 1 ブロックを加えた大きさを超えることはできません。

ただし、ブロックがスキップされている場合は別ですが、これは許容されていません。

このメッセージが表示される原因になる 2 番目の状態としては、HISAM アンロードを実行して、再ロードは実行せず、アンロード・ファイルおよび後続のログ・データ・セットをリカバリーのための入力として使用する場合があります。

このメッセージが表示されるについては、3 番目となる原因があります。データ・セットに埋め込み EOF がある場合は、最初の EOF が検出されると、イメージ・コピーは停止します。2 つの EOF 間にあるデータベース・レコードに関しては、レコードがログ・データ・セットに存在する可能性があります。こうなる可能性が最も高いのは、同じデータベースに対して、2 つの IMS 制御領域を同時に実行した場合です。リカバリーまたは再編成中に、データ・セットをスクラッチして再割り振りすることに失敗すると、埋め込み EOF を生じさせる可能性があります。

プログラマーの応答: 提供された入力がすべて正しいか確認してください。

脱落ログ・データ・セットがないかチェックしてください。これがこのメッセージが出る最も一般的な原因です。脱落ログ・データ・セットがあれば、すべて変更累積またはリカバリーのためのログ入力に提供してください。

2 番目の状態が生じた場合は、以前のアンロードまたはイメージ・コピー、およびその時点以降に作成されたログ・データ・セットを提供してください。

3 番目の状態が生じた場合は、システム・プログラマーに通知して、解決を要請してください。この問題には推奨解決策がありません。

すべての入力がチェックされたら、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、4、8、17g、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2806A SYSIN CONTROL CARD NOT SUPPLIED

説明: 制御ステートメントが必要ですが、SYSIN データ・セットから入手できませんでした。このメッセージがデータベース・イメージ・コピー 2 コーティリティーから出された場合は、おそらく、グループ・ステートメントの後に少なくとも 1 つの DBDS Select ステートメントが続いていなかったことを示します。

プログラマーの応答: 少なくとも 1 つの制御ステートメントを組み込み、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUDMP0、DFSUDMT0

DFS2807I PURGE DATE-TIME SPECIFIED=timestamp

説明: SYSIN 制御ステートメントで指定された日時がここで繰り返されています。

DFS2808I RECOVER TRACK CCHH=ccccchhh, VOLSER=volser

説明: データベース・データ・セット・リカバリー・ユーティリティー (DFSURDB0) のトラック・リカバリー・オプションが、指定されたトラックに関して開始されました。

DFS2809I ATLAS CALL RC=rc FOR TRACK CCHH=ccccchhh, VOLSER=volser

説明: ATLAS の戻りコードの意味については、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」(SC26-4506) を参照してください。

DFS2810I TRACK UPDATE WAS UNSUCCESSFUL FOR CI RBA=aaaaaaaa, CCHH=ccccchhh, VOLSER=volser-REASON r(f)

説明: データベース・データ・セット・リカバリー・ユーティリティーのトラック・リカバリー・オプションが、次にリストされている理由で正常に実行されませんでした。

コード (16 進数)

意味

- 44 ERLG の CCHHR がデータ・スペース・エクステントにない。
- 48 ERLG の RBA がターゲット・データ・セット・エクステントにない。
- 4C エラー戻りコードが ATLAS から受信された。
- 50 エラー戻りコードが、GET/GETIY 要求後、VSAM から受信された (f は VSAM フィードバックを示す)。
- 54 エラー戻りコードが、PUT/PUTIY 要求後、VSAM から受信された (f は VSAM フィードバックを示す)。
- 58 HISAM アンロードが ISDS をリカバリーするための入力として使用されて依頼、CI RBA=00 が更新されなかった。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 可能な場合は、問題を訂正し、トラック・リカバリーを再実行してください。問題が訂正

できない場合は、データ・セット全体をリカバリーする必要があります。

**DFS2811A TRACK RECOVERY TERMINATED
ABNORMALLY, REASON *r(f)***

説明: メッセージの中で、*r* は理由コードを示し、(*f*) が表示されている場合は、VSAM フィードバック・コードです。理由コードの値とその意味は、次のとおりです。

コード (16 進数)

意味

- 04** ターゲット・データ・セット用として ACB を開けない。メッセージ IEC161I を参照して、エラーの原因を判別してください。
- 08** VSAM 索引の読み取り中にエラーが検出された。(f) は VSAM フィードバック・コードです。
- 0C** タイプ X'24' エラー・ログ・レコードの制御インターバル (CI) RBA が、VSAM 索引で検出できない。
- 14** 無効の要求。トラック・リカバリー呼び出し中に渡されたパラメーター・リストで、要求値が識別されていませんでした。
- 18** 呼び出し元によって渡されたレコードが、制御インターバルに収まらなかった。
- 1C** ターゲット・データ・セット用として、ボリュームがマウントされていない。
- 20** データ・スペース用として DCB が開けない。

システムの処置: プログラムは異常終了します。

プログラマーの応答: エラーが訂正可能であれば、そのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。エラーが訂正できない場合は、データベースをリカバリーしてください。理由コード X'14' または X'18' が示された場合は、ABEND 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、3、4、8、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS2812I IMAGE COPY INPUT CREATED BY
ONLINE IMAGE COPY FOR
FUNCTION RV**

説明: リカバリー・ユーティリティへの入力として使用されたイメージ・コピー・データ・セットは、オンライン・イメージ・コピー・ユーティリティで作成されました。

**DFS2813I nnnnnnnn RECORDS WITH
DATE-TIME,SEQUENCE NUMBER
yydddhmmssst; seqno WERE IGNORED
ON DDNAME dddddd**

説明: DDNAME=DFSUCUM の場合は、日時がイメージ・コピー日時より小の変更累積レコードは無視され、DDNAME=DFSULOG の場合は、日時がイメージ・コピー日時より小のログ・レコード、または日時、シーケンス番号が最も大きい変更累積レコードは無視されました。

システムの処置: リカバリー・ユーティリティは終了し、警告エラー・コードが戻されます。

プログラマーの応答: リカバリーのための入力を調べて、メッセージが出された理由を判別してください。イメージ・コピーがオンライン・システム操作中 (途中) で取られた場合は、レコードはリカバリー中にドロップされることが予想されます。そうでない場合は、このメッセージはユーザー・エラーを示していると推定されます。入力を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**DFS2814A TRACK RECOVERY REQUESTED
BUT NOT POSSIBLE**

説明: 入力変更累積データ・セットにトラック・リカバリーに必要なエラー・ログ・レコードが含まれていないので、トラック・リカバリーは不可能です。

システムの処置: ジョブ・ステップが異常終了します。

プログラマーの応答: 変更累積入力、リカバリー対象のデータベース・データ・セットに関するエラー・ログ・レコードが含まれている、ログ・データ・セット用の正しい累積であるか、確認してください。変更累積が実行されていない場合は、それを実行する必要があります。必要な訂正を行い、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: ジョブを再実行し、最初の制御ステートメントを ABEND 制御ステートメントにしてください。

SYSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

また、変更累積データ・セットのコピー、および変更累積データ・セットを作成するために使用したログのコピーも提供してください。

DFS2815A VSAM KSDS NOT SUPPORTED

説明: VSAM KSDS の並行イメージ・コピーが作成できません。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティがこのイメージ・コピーを終了し、次の制御ステートメントを読み取ります。

プログラマーの応答: EXEC ステートメント PARM=フィールドで CIC を指定しないで、イメージ・コピー・ユーティリティを再実行してください。このイメージ・コピーは、オフラインで、他のアドレス・スペースまたはジョブ、あるいはその両方から割り振り解除されているデータベースに対してのみ実行する必要があります。

DFS2816A ISAM ACCESS METHOD NOT SUPPORTED

説明: ISAM データ・セットのイメージ・コピーが作成できません。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティがこのイメージ・コピーを終了し、次の制御ステートメントを読み取ります。

プログラマーの応答: 「IMS V15 システム定義」を参照してください。

DFS2817A CIC ATTEMPTED WITHOUT DBRC

説明: 並行イメージ・コピーは、DBRC を使用しないで作成することはできません。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティは、アクションを実行せずに終了します。DBRC が必要です。

プログラマーの応答: DBRC を使用するか、EXEC ステートメントの PARM= フィールドで CIC を指定しないで、イメージ・コピー・ユーティリティを再実行してください。

**DFS2818I UPDATES MADE USING PSB *psbname* TO UPDATE DATABASE *dbname* ARE IN DOUBT THE UNIT OF RECOVERY FOR RECOVERY TOKEN
aaaaaaaaxxxxxxxxxxxxxxxx IS IN DOUBT**

説明: このメッセージの最初の形式では、ログにある一部のリカバリー・トークンには、データベース・リカバリー・ユーティリティの実行中未確定であったものがありました。印刷可能フォーマットの 16 バイト・リカバリー・トークンを次のリストに示してあります。

```
aaaaaaaa
      リカバリー・トークンの 8 バイト文字部分
xxxxxxxxxxxxxxxx
      リカバリー・トークンの 8 バイト 16 進数部分
```

高速機能リカバリー単位は、データベース・リカバリー・ユーティリティのこの実行中に解決されませんでした。

このメッセージの 2 番目の形式では、*psbname* は、特定のリカバリー・トークンに関連した PSB の名前です。*dbname* は、リカバリー・トークンのために PSB によって更新されたすべてのデータベースの DBD 名です。

複数回発生したメッセージの 2 番目の形式が含まれているリストが出される場合があります。このリストには幾つかの UOR トークンが含まれていますが、これらのトークンは、データベース・リカバリー・プロセスにはかわりありませんが、これらのトークンに関する限り入力ログが不完全であるため、生成されるものです。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティは完了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: このメッセージが無視できるのは、リカバリーの対象ではないデータベースに関して出されている場合です。それ以外の場合は、未確定データをできるだけ早く解決する必要があります。

DFS2819A AREA *areaname* CONNECT TO STR: *strname* FAILED. DUPLICATE STRUCTURE NAME FOUND.

説明: VSO エリアの同一構造名が、カップリング・ファシリティーですでに定義されました。

システムの処置: エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: エリアに固有の構造名を指定してください。

モジュール: DBFVSOP0

DFS2821I PRELOAD COMPLETED FOR ALL SHARED VSO AREAS

説明: すべての共用 VSO エリアに関するプリロード・プロセスが完了しています。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFVXPL0

DFS2822I AREA *areaname* CONNECT TO STR: *strname* SUCCESSFUL

説明: エリア *areaname* は、キャッシュ構造 *strname* に正常に接続されました。

モジュール: DBFVXCS0

DFS2823I AREA areaname DISCONNECT FROM STR: strname SUCCESSFUL

説明: エリア *areaname* は、キャッシュ構造 *strname* から正常に切断されました。

モジュール: DBFVXCS0

DFS2824A AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. 4K BLKS REQUIRED=xxxxx, ALLOCATED=yyyyyy.

説明: 実キャッシュ構造サイズが、必要な実構造サイズより小さく作成されました。必要なサイズは、*xxxx* で示され、割り振られたサイズは、*yyyy* で示され、いずれも 16 進数で表示されています。

システムの処置: エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: 新しいカップリング・ファシリティーを指定するか、構造サイズを正しく指定してください。構造サイズを決定する公式は、「PR/SM™ *Planning Guide*」(GA22-7236 または GA22-7123) に記載されています。

DFS2825A AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. VECTOR LENGTH REQUESTED=xxxxx, ALLOCATED=yyyyyy.

説明: 実ベクトル長さが、必要な長さより小さく作成されました。

システムの処置: エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS2826A AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. INTERNAL PARAMETER ERROR. XES RC=xxxx.

説明: z/OS システム間拡張サービス (XES) 内部エラーが発生しました。XES 戻りコードは *xxxx* です。

システムの処置: エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS2827A AREA areaname CONNECT TO STR: strname FAILED. INTERNAL XES ERROR. CONDIAG0=xxxxxxxxx, CONDIAG1=yyyyyyyyyy, CONDIAG2=zzzzzzzz.

説明: 内部 z/OS システム間拡張サービス (XES) エラーが発生しました。メッセージに XES 診断情報が示されています。

システムの処置: エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFVXCS0

DFS2828A AREA areaname DISCONNECT FROM STR: strname FAILED. INTERNAL XES ERROR. XES RC=xxxx.

説明: 内部 z/OS システム間拡張サービス (XES) エラーが発生しました。XES 戻りコードは *xxxx* です。XES 戻りコードと理由コードは、IXLDISC マクロ内に記録されています。

システムの処置: AREA は停止されます。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFVXCS0

関連資料:

 z/OS: IXLDISC の戻りコードおよび理由コード

DFS2829I AREA areaname CONNECT TO CF FAILED; INCONSISTENT STRUCTURE SIZES

説明: エリアは、VSO、NOPRELOAD オプションを使用して定義されます。二重構造が定義されます。構造サイズは、2 つの構造間の不整合を防ぐために、同じである必要があります。

システムの処置: エリアに関するオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: 2 つの構造に同じサイズを割り振ってください。

モジュール: DBFVXCS0

DFS2830I CF READERROR, RBA rrrrrrrr, AREA
areaname,STR strname RC=xxxxxxx
RSN=yyyyyyyy

または

CF WRITEERROR, RBA rrrrrrrr, AREA
areaname,STR strname RC=xxxxxxx RSN=yyyyyyyy

説明: カップリング・ファシリティに対する制御インターバル (CI) の読み取りまたは書き込みが失敗しました。内部 z/OS システム間拡張サービス (XES) エラーが発生しました。戻りコードおよび理由コードに XES 診断情報が示されています。これらの戻りコードと理由コードは、IXLCACHE マクロ内に記録されています。

システムの処置: 単一キャッシュ構造が定義されている場合は、DASD から、複数構造が定義されている場合は、その他の構造から、高速機能がエリアの処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFVSOW0、DBFMSRB0

関連資料:

☞ z/OS: IXLCACHE マクロ (読み取り用) の戻りコードおよび理由コード

☞ z/OS: IXLCACHE マクロ (書き込み用) の戻りコードおよび理由コード

DFS2831I POOLNAME XXXXXXXX; BUFFER
SHORTAGE.POOL EXPANDED
BEYOND MAX

説明: XXXXXXXX で示されているバッファー・プールで、バッファー不足が起こっています。バッファー・プールは、指定されている限度を超えて、2 次量だけ拡張されます。

オペレーターの応答: /DIS POOL FPDB コマンドを使用して、専用プール使用量を表示させてください。

DFS2832I CANNOT ADD/CHANGE dedbname- CI
SIZE OF areaname EXCEEDS BSIZ

説明: エリア areaname を DEDB dedbname に追加する試みが失敗しました。エリアの制御インターバル (CI) サイズが、IMS オンライン制御領域の高速機能バッファー・サイズ (BSIZ=) を超えています。

システムの処置: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが失敗します。

プログラマーの応答: 追加されるエリアの CI サイズを縮小してください。

モジュール: DBFOLC01

DFS2833I CANNOT ADD DEDB dedbname-
FAST PATH NOT INSTALLED

説明: 高速機能がインストールされていない IMS システムに高速処理データベース (DEDB) を追加する試みがなされました。

システムの処置: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが失敗します。

プログラマーの応答: システム定義から DEDB を除去するか、高速機能をインストールしてください。

モジュール: DFSRMDM0

DFS2834I PSB psbname HAS BEEN
RESCHEDULED BECAUSE OF
ONLINE CHANGE

説明: IMS 高速機能プログラム (IFP) またはメッセージ処理プログラム (MPP) が、オンライン変更を使用して変更された高速処理データベース (DEDB) の更新を試みました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムが疑似異常終了で終了し、PSB がスケジュール変更されます。

モジュール: DBFIRCI0

DFS2835I ERROR IN VSPEC DEDB STMT:
statement_text REASON= reason_text

または

**ERROR IN VSPEC DEDB STMT: POOLNAME text;
text; SPECIFICATION ERROR**

または

**ERROR IN VSPEC SDEPQCI STMT: statement_text
REASON= reason_text**

説明: DEDB または SDEPQCI VSPEC ステートメント text に誤りがあります。メッセージには、エラーのプール数が最大 2 つというテキストが表示されていますが、エラーのプールは、このメッセージに含まれているよりも多い可能性があります。

statement_text が含まれているタイプのメッセージの場合、statement_text は、部分的なエラー・ステートメントを示します。reason_text は、エラーの説明を提供します。

システムの処置: IMS は、エラーのあるバッファ・プールを使用せずに、あるいはエラーのある DEDB または SDEPQCI ステートメントを考慮せずに、処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: IMS を停止し、VSPEC メンバーを訂正して、再始動してください。

モジュール: DBFVSOP0、DBFPVTS0、DBFDVBI0

**DFS2837I CANNOT ADD DEDB *dedbname*-
OTHEADS NOT INITIALIZED**

説明: DEDB を使用して初期設定されなかった IMS システムに高速処理データベース (DEDB) を追加する試みがなされました。出力スレッド (OTHEADS) は初期設定されず、追加された DEDB に対する入出力は不可能です。

システムの処置: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) 処理が停止します。

プログラマーの応答: IMS システムに対して DEDB を定義し、IMS を再始動してください。

モジュール: DFSRMDM0

**DFS2838I RANDOMIZER *name* FOR *dedbname* IS
DELETED AND *status***

または

**RANDOMIZER *name* FOR *dedbname*/FF*database*/
HALDB*partition* IS DELETED AND *status***

説明: IMS がデータベース・ランダムマイザーを正常に削除して、ストレージ内にコピーがなくなっている場合は、状況 GONE が表示されます。ランダムマイザーが再入可能で、削除後にストレージにコピーが検出された場合は、状況 SHARED が表示されます。

次のコマンドにより、ランダムマイザーを削除できます。

- /DBR DB *dbname*
- /DBR DB *FFdatabase*
- /STO DB *FFdatabase*
- /STA DB *FFdatabase*
- UPDATE DB NAME(*dedbname*) STOP(ACCESS)
- UPDATE DB NAME(*FFdatabase*) STOP(ACCESS)
- UPDATE DB NAME(*FFdatabase*) STOP(UPDATES)
- UPDATE DB NAME(*FFdatabase*) START(ACCESS)

システムの処置: 状況が GONE であるとき、ランダムマイザーは、ストレージから物理的に削除されています。状況が SHARED であるとき、ランダムマイザーは、ストレージから削除されていません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDBAC0、DBFOLC02、DBFARD30、DBFERDB0、DBFMSIU0、DFSDOCA0

**DFS2839I ERROR TRYING TO GETMAIN
STORAGE FOR DMCBS**

説明: /MODIFY PREPARE および INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが、高速処理データベース (DEDB) を追加または変更するのに十分な共通サービス域 (CSA) または拡張共通サービス域 (ECSA) ストレージを取得できませんでした。

システムの処置: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが失敗します。

プログラマーの応答: IMS を停止し、CSA または ECSA のサイズを大きくしてください。

モジュール: DBFOLC01

**DFS2840W ERROR IN LOADING RANDOMIZER
name FOR DEDB *dedbname*, RC=*zz***

説明: ランダムマイザー *name* がロードできません。

システムの処置: コマンド (/MODIFY PREPARE、INITIATE OLC PHASE(PREPARE)、/START DB、または UPDATE DB START(ACCESS)) は、ランダムマイザーをロードしないで続行します。この高速処理データベース (DEDB) に対する後続の DL/I 呼び出しが FH 状況コードを受信します。IMS の IMODULE 機能からの 16 進戻りコード *zz* については、IMODULE 戻りコード情報で説明しています。

プログラマーの応答:

戻りコードが 0 の場合は、ランダムマイザー・モジュールは再入可能ではありませんでした。バインド済み JCL を再実行して、ランダムマイザー・モジュールを再入可能にしてください。

また、次の検証も行ってください。

- ランダムマイザーが IMS システムに正しくリンクされたか。
- DEDB が、ランダムマイザー名を使用して正しく定義されたか。

エラーがあればすべて訂正し、UPDATE DB START(ACCESS) または /START DB コマンドを出して、ランダムマイザーを再ロードしてください。

モジュール: DBFDBAC0、DBFINI24、DBFERDB0、DBFMSIU0

関連資料:

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS2841A ERROR TRYING TO GETMAIN STORAGE FOR LTERM KEYWORD

説明: /MODIFY コマンドの LTERM キーワードに関して、ストレージの割り振りを試みている最中に、GETMAIN が失敗しました。

システムの処置:

The /MODIFY PREPARE コマンドは終了されます。

オペレーターの応答: CSA サイズを大きくしたら、IMS を再始動してください。または、ある程度の共通ストレージ域 (CSA) を解放したら、/MODIFY PREPARE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: z/OS システム・プログラマーに相談してください。CSA を使用しているリソースを判別し、ある程度の CSA を使用できるように開放することを試みてください。IPL を実行して、CSA を増やす必要があります。

モジュール: DBFOLC01

DFS2842I RANDOMIZER name FOR dedbname IS LOADED/SHARED

または

RANDOMIZER name FOR dedbname/FFdatabase/ HALDBpartition IS LOADED/SHARED

説明: ランダマイザーがストレージ内になく、IMS によって正常にロードされた場合は、状況 LOADED が表示されます。既存のコピーがストレージ内で検出され、同じコマンドが入力された場合、状況 SHARED が表示されます。

次のコマンドにより、ランダマイザーをロードできません。

- /START DB dedbname
- /START DB FFdatabase OPEN
- /START DB HALDBpartition OPEN
- UPDATE DB NAME(dedbname) START(ACCESS)
- UPDATE DB NAME(FFdatabase) START(ACCESS)
OPTION(OPEN)
- UPDATE DB NAME(HALDBpartition)
START(ACCESS) OPTION(OPEN)
- INIT OLREORG NAME(partname)
- /INIT OLREORG NAME(partname)

システムの処置: 状況 LOADED では、ランダマイザーは、ストレージに物理的にロードされています。状況

SHARED では、ランダマイザーは、ストレージに論理的にロードされています。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFDBAC0、DBFERDB0、DBFMSIU0、DFSDOCA0

DFS2843 DATASET service FAILED FOR ds_type

DSN=dsn

SYNAD BUFFER FOLLOWS: dev#,devtype,DD
name,operation,error description,block number,access
method

オペレーターの応答: このメッセージについては、DFS2843E を参照してください。

関連情報:

『DFS2843E』

DFS2843E DATASET service FAILED FOR ds_type,
RC=rrrrrrr/sssssss
DSN=dsn
SYNAD BUFFER FOL-
LOWS: dev#,devtype,DD
name,operation,,block number,access method

説明: データ・セットの障害が発生しました。

SYNAD BUFFER FOLLOWS で始まる、このメッセージの 3 行目は、BSAM データ・セット・アクセス方式により渡される場合にのみ表示されます。この行が表示されるとき、それは SYNAD バッファの内容を含み、装置番号、装置タイプ、DD 名、試行された操作、エラーの説明、ブロック番号、およびアクセス方式 (BSAM) を示します。SYNAD バッファのマッピングおよび意味については、SYNADAF マクロの説明を参照してください。BSAM は、エラーに応じて、SYNAD バッファを戻す場合もあり、戻さない場合もあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service 失敗したサービス。次のいずれかです。

OPEN
CLOSE
READ
WRITE

ds_type

DFSCGxxx PROCLIB メンバーに指定されているオンライン変更データ・セットを識別します。

rrrrrrr MVS/DFP サービスからの戻りコード。この戻

りコードは、SYNAD バッファが表示されている場合には表示されません。

ssssssss MVS/DFP サービスからの理由コード。この理由コードは、SYNAD バッファが表示されている場合には表示されません。

dsn データ・セットの名前。

OM コマンドがこのエラーを検出した場合は、このメッセージが非送信請求メッセージとして OM 出力出口に送信されます。

IMS の初期設定または IMS の再始動でこのエラーが検出された場合は、このメッセージがシステム・コンソールに送信されます。

ユーティリティーがこのエラーを検出した場合は、このメッセージがユーティリティーのジョブ・ログに送信されます。

システムの処置: システムの処置は、エラーを検出した IMS 機能に応じて次のように異なります。

- IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0002' または X'0003' を示して失敗します。
- IMS の再始動は、異常終了コード 2801、サブコード X'0002' または X'0003' を示して失敗します。
- IMS オンライン変更コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: データ・セットの問題を訂正して、IMS の初期設定、IMS の再始動、またはオンライン変更コマンドを再試行してください。

DFS2843 メッセージの *error description* に、テキスト WRNG.LEN.RECORD が含まれている場合、OLCSTAT データ・セットが正しく割り振られていない可能性があります。ファイルの終わり (EOF) マークを付けて OLCSTAT データ・セットを割り振ったことを確認してください。IEFBR14 を使用して OLCSTAT データ・セットを割り振った場合、このデータ・セットには EOF マークがなく、読み取りできません。この問題を訂正するには、EOF マークを付けて OLCSTAT データ・セットを割り振る必要があります。ISPF ユーティリティーの IEBGENER または ALLOCATE 機能を使用すると、OLCSTAT データ・セットを割り振ることができません。

モジュール:

DFSIIOC0、DFSIOQ040、DFSOLC00、DFSROLC0

関連資料:

 z/OS: SYNADAF エラーの説明

関連情報:

678 ページの『DFS2843』

DFS2844E DATASET *ds_type* CONTENTS INVALID ERROR=*errortext*

説明: データ・セットの内容が正しくありません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ds_type

DFSCGxxx PROCLIB メンバーに指定されているオンライン変更データ・セットを識別しません。

errortext

エラーの説明。下記の値のいずれかです。

用語 意味

NOT INIT

OLCSTAT データ・セットが初期設定されません。

INVALID ENVIRONMENT

この環境の場合、OLCSTAT データ・セットは無効です。IMS は RMENV=N で定義されており、これは、OLCSTAT データ・セットを共用できないことを意味しています。1 つ以上の IMS メンバー名が、そのデータ・セット内で定義されています。

OLC ユーティリティーの DFSUOLC0 を使用して、OLCSTAT データ・セットを訂正してください。

INVALID HDR LEN

OLCSTAT データ・セット・ヘッダーの長さが無効です。ヘッダーの長さはゼロ以外でなければならず、OLCSTAT データ・セットの最大サイズを超えてはなりません。

INVALID OLCINP

OLCSTAT データ・セットのロック・ワードが無効です。

ACBLIB SUFFIX

ACBLIB 接尾部が無効です。接尾部は、A または B でなければなりません。

FMTLIB SUFFIX

FMTLIB 接尾部が無効です。接尾部は、A または B でなければなりません。

MODBLKS SUFFIX

MODBLKS 接尾部が無効です。接尾部は、A または B でなければなりません。

OM コマンドがこのエラーを検出した場合は、このメッセージが非送信請求メッセージとして OM 出力出口に送信されます。

IMS の初期設定または IMS の再始動でこのエラーが検出された場合は、このメッセージがシステム・コンソールに送信されます。

ユーティリティーがこのエラーを検出した場合は、このメッセージがユーティリティーのジョブ・ログに送信されます。

システムの処置: システムの処置は、エラーを検出した IMS 機能に応じて次のように異なります。

- IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0007' を示して異常終了します。
- IMS の再始動は、異常終了コード 2901、サブコード X'0007' を示して異常終了します。
- オンライン変更コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答: グローバル・オンライン変更ユーティリティー (DFSUOLC0) を実行して、OLCSTAT データ・セットを初期設定してください。それから、IMS の初期設定、IMS の再始動、またはオンライン変更コマンドを再試行してください。

モジュール:

DFSIIOC0, DFSIQ040, DFSOLC00, DFSROLCO

DFS2845A *rsrctdesc rsrctype* **DEFINITION INCONSISTENT, ENTER CONTINUE OR CANCEL**

説明: IMS の初期設定で、この IMS システムで定義されたリソースが、IMSplex 内の IMS システムによって定義されたリソースと不整合であることが判別されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsrctdesc

記述タイプ。これは DATASET です。

rsrctype

リソース・タイプ。これは次のいずれかです。

ACBLIB

FMTLIB

MODBLKS

システムの処置: IMS は、メッセージに対する返信を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかの応答を入力します。

CONTINUE

この IMS で整合性を検査された 1 つ以上のリソースが、IMSplex の他の IMS システムで定義されたリソースと一致しない場合でも、IMS の初期設定を続行します。


CANCEL IMS の初期設定を取り消します。IMS 初期設定は異常終了 2800、サブコード X'0008' を示して終了します。

このメッセージは、システム・コンソールに送信されません。

システム・プログラマーの応答: すべての IMS システムが同じリソース定義を使用するようにするか、DFSCGxxx NORSCCC= パラメーターを使用してリソースの整合性検査を使用不可にします。

モジュール: DFSCSL40

関連情報:

 IMS 異常終了 2800

DFS2846E *rsrctdesc rsrctype* **DEFINITION INCONSISTENT**

説明: IMS の初期設定で、他の IMS システムによって定義されたリソースが、IMSplex 内の IMS によって定義されたリソースと整合しないことが判別されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsrctdesc

リソースの記述。それは DATASET です。

rsrctype

リソース・タイプ。それは OLCSTAT です。


このメッセージは、システム・コンソールに送信されません。

システムの処置: IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0009' を示して失敗します。

プログラマーの応答: 応答の詳細については、異常終了 2800 を参照してください。

モジュール: DFSCSL40

関連情報:

 IMS 異常終了 2800

DFS2847I **MODIFY COMMAND REJECTED - GLOBAL ONLINE CHANGE ENABLED**

説明: ローカル・オンライン変更のために使用した /MODIFY コマンドが、グローバル・オンライン変更が使用可能になっているためにリジェクトされました。グローバル・オンライン変更は、DFSCGxxx PROCLIB メンバーのキーワード OLC=GLOBAL を使用して使用可能にされています。

このメッセージは、/MODIFY コマンドを入力した端末へ送信されます。

システムの処置: /MODIFY オンライン変更コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: INITIATE OLC コマンドを出して、グローバル・オンライン変更を開始してください。

モジュール: DFSICV10

DFS2848E DYN service FAILED for ds_type,
RC=rrrrrrrr/sssrrrrr
DSN=dsn

説明: 動的割り振り障害が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

service 失敗したサービス。それは ALLOC または UNALLOC です。

ds_type

DFSCGxxx PROCLIB メンバーに指定されているオンライン変更データ・セット。それは OLCSTAT です。

rrrrrrrr 動的割り振りサービスからの戻りコード

sssrrrrr 動的割り振りサービスからの理由コード

dsn 最大 44 文字までのデータ・セット名

OM コマンドがこのエラーを検出した場合は、このメッセージが非送信請求メッセージとして OM 出力出口に送信されます。IMS の初期設定または IMS の再始動でこのエラーが検出された場合は、このメッセージがシステム・コンソールに送信されます。ユーティリティーがこのエラーを検出した場合は、このメッセージがユーティリティーのジョブ・ログに送信されます。


システムの処置: システムの処置は、エラーを検出した IMS 機能に応じて次のように異なります。


- IMS の初期設定は、異常終了コード 2800、サブコード X'0001' または X'0003' を示して失敗します。
- IMS の再始動は、異常終了コード 2801、サブコード X'0001' を示して失敗します。
- IMS オンライン変更コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答: 動的割り振りの問題を訂正して、IMS の初期設定、IMS の再始動、またはオンライン変更コマンドを再試行してください。

モジュール: DFSHOC0、DFSIOQ040、DFSROLC0

関連情報:

 IMS 異常終了 2800

 IMS 異常終了 2801

DFS2849A AREA areaname CONNECT TO STR:
strname FAILED. CASTOUT CLASS
REQUESTED=xxxxx,
ALLOCATED=yyyyyy

説明: 最大キャストアウト・クラス番号が、構造とコネクタの間で整合していません。割り振られた値は、最初のコネクターからの構造の値です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

失敗したエリア

strname

エリアが接続を試みた先の構造

xxxxx 要求されたキャストアウト・クラス値

yyyyyy 最初のコネクターから構造に割り振られたキャストアウト・クラス値

システムの処置: エリアは開きません。

システム・プログラマーの応答: 構造を表示させ、再始動前にすべての接続を削除してください。

モジュール: DBFVXCS0

DFS2850E COLDSTART REQUIRED DUE TO
GLOBAL ONLINE CHANGE

説明: この IMS システムのウォーム・スタートまたは緊急時再始動の試みが失敗しました。この IMS がダウンしていた間にグローバル・オンライン変更が行われたためです。この IMS は、以下の場合にはコールド・スタートが必要です。

- この IMS が、複数のグローバル・オンライン変更の間ダウンしていた。
- この IMS が、最後のグローバル・オンライン変更の間ダウンしていて、この IMS の再始動タイプが、実行された最後のグローバル・オンライン変更と矛盾している。

このメッセージは、/NRE または /ERE などの再始動コマンドに対する応答で、システム・コンソールに送信されます。

システムの処置:

IMS は、異常終了コード 2801、サブコード 12 を示して異常終了します。

オペレーターの応答:

IMS を再び開始させ、コールド・スタート・コマンド (/NRE CHECKPOINT 0) を入力するか、または最後のオンライン変更タイプと矛盾しない再始動コマンドを入力してください。

次の表には、オンライン変更の間ダウンしていた IMS

DFS2850E


に許可される IMS 再始動のタイプと、IMS がダウンしていた間に実行されたオンライン変更タイプが示されています。

表 14. DFS2850E の場合のオンライン変更のタイプと再始動のタイプ

オンライン変更のタイプ	許可される再始動コマンド
ACBLIB	/NRE CHECKPOINT 0 /ERE COLDBASE
ALL	/NRE CHECKPOINT 0
FORMAT	/NRE CHECKPOINT 0 /NRE /ERE /ERE COLDCOMM /ERE COLDBASE
MODBLKS	/NRE CHECKPOINT 0

モジュール: DFSOLCS0

関連情報:

 IMS 異常終了 2801

第 61 章 DFS メッセージ DFS2851I - DFS2900I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2851I AREA *areaname* (ASSOCIATE TO|DISASSOCIATE FROM) STR *structure name* SUCCESSFUL

説明: エリアへの処置は正常に実行されました。

ASSOCIATE TO

エリア *areaname* が、多重エリア構造 *structure name* を使用して開始されました。この構造用に XES 接続が存在するので、エリアに必要なのはアソシエーションだけです。

DISASSOCIATE FROM

エリア *areaname* が、多重エリア構造 *structure name* を使用して停止されました。

システムの処置: VSO 処理は、そのエリアについて開始されるか停止されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: (ASSOCIATE TO の場合) DBFVXAS0

(DISASSOCIATE FROM の場合) DBFVXCS0

DFS2852I AREA *areaname* ASSOCIATE TO STR *structure name* FAILED. STR *CISIZE=xx*, AREA *CISIZE=yy*

説明: エリアの CI サイズ (*yy*) が、構造内にあるその他のエリアの CI サイズ (*xx*) と異なっているため、エリアへのアソシエーションが失敗しました。

システムの処置: エリアのオープン・プロセスは失敗します。

システム・プログラマーの応答: エリアの DBRC 登録で、構造名をそのエリアと同じ CI サイズを持つ構造に変更してください。

モジュール: DBFVXAS0

DFS2853A A NEW STRUCTURE WAS CREATED FOR AREA AAAAAAAA. REPLY 'C' TO CONTINUE OR 'R' TO RECOVER.

| 説明:

| このメッセージは、ユーザーが WTOR という SVSODR 開始オプションを指定したために生成されま

| す。このオプションはリモート・サイトで使用され、これによりユーザーには、SVSO エリアに「リカバリーが必要」とマーク付けすることを必要とするか否かについてのオプションが用意されます。ユーザーにオプションが提供されるのは、緊急時再始動時または緊急時再始動後の最初のエリア・オープン時に SVSO エリア用の新規構造体を作成する場合、および SVSODR=WTOR が指定されている場合です。

システムの処置: オプション C を選択した場合、IMS は指定されたエリアをオープンし、新しい構造体に接続します。すると、そのエリアに対して、通常の処理が再開します。オプション R を選択した場合、指定されたエリアは停止され、「リカバリーが必要」とマーク付けされます。

プログラマーの応答: C を応答して、エリアについて通常の処理を継続します。エリアにリカバリーが必要というマークを付ける場合は、R を応答します。

モジュール: DBFVXCS0

DFS2854A *jobname, stepname, region, reason*-FAILED SECURITY CHECK

説明: このメッセージは、セキュリティ違反が生じたことを IMS マスター端末オペレーターに通知します。セキュリティ違反を試みたユーザーの *jobname* および *stepname* が示されます。 *reason* は、次のリストに示されている理由コードを示します。

コード (16 進数)

意味

040 GETMAIN 呼び出しが失敗した。

080 RAS 処理用のストレージ (RACW) の取得不能。

084 IMS リソースが、SAF (RACF) 検査について、この従属領域用に許可されていない。

088 IMS リソースが、リソース・アクセス・セキュリティ・ユーザー出口 (RASE) 検査について、この従属領域用に許可されていない。

08C RAS セキュリティ許可処理中に、入力トランザクション名を検出できなかったか、または従属領域の ACEE を作成するための IMS RACROUTE

REQUEST=VERIFY,ENVIR=CREATE が RACF によってリジェクトされました。

APPL=IMSID にアクセスする従属領域のユーザー ID のセキュリティー問題が、この問題の原因である可能性があります。


- 114 宛先検索ルーチン (DFSICLF0) が、SYMBOLIC 出力トランザクション・コードまたは論理端末名を検出できなかった。

システムの処置: 従属領域は、異常終了 0437 で異常終了します。

プログラマーの応答: 従属領域ユーザー ID には、使用しようとしている IMS リソース (トランザクション、PSB、および LTERM) へのアクセスが許可されていることを確認してください。

モジュール: DFSASK00、DFSDASP0

関連情報:

 IMS 異常終了 0437

**DFS2855A APSB SECURITY CHECK FAILED
FOR odbaidid USERID=uuuuuuuu
PSB=pppppppp SAF RC=xx
RACROUTE=AUTH RC(yyyy,zzzz)**

説明: USERID は、ODBA アプリケーションからの、指定された PSB に関する SAF セキュリティー検査に失敗しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

odbaidid

IMS に接続されている ODBA アドレス・スペースの ID

uuuuuuuu

APSB 要求に関連したユーザー ID

pppppppp

APSB 要求で名前が指定された PSB

xx SAF 戻りコード

yyyy RACF または同等の戻りコード


zzzz RACF または同等の理由コード

システムの処置: APSB 要求は失敗します。呼び出しは、疑似異常終了 0438 で終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSDASP0

関連情報:

 IMS 異常終了 0438


**DFS2855I OLCSTAT DATASET LOCKED FOR
GLOBAL ONLINE CHANGE**

説明: OLCSTAT データ・セットがグローバル・オンライン変更のためにロック状態であるため、DBBBATCH 領域は失敗しました。

システムの処置: DBBBATCH 領域は、0821 異常終了で終了しました。

ユーザーの処置: グローバル・オンライン変更が完了してから、DBBBATCH 領域を再度実行します。

関連情報:

 IMS 異常終了 0821

**DFS2856W DFSCGXXX OLC=olctype ONLINE
CHANGE TYPE MISMATCH**

説明: IMS 再始動、XRF 代替トラッキング、DBCTL ウォーム・スタンバイ緊急時再始動、または FDR 領域トラッキング中に、オンライン変更タイプの不一致が検出されました。この IMS が再始動の元になっているチェックポイント・ログ・レコードはオンライン変更タイプ (ローカルまたはグローバル) を使用して定義されていますが、そのオンライン変更タイプが、IMS の初期設定に使用された DFSCGxxx PROCLIB メンバーの OLC=パラメーターによって定義されているオンライン変更タイプと一致しません。

オンライン変更タイプを変更して、IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動の全体にわたってグローバル・オンライン変更を使用可能または使用不可にする予定であった場合を除き、この状態は重大なエラーである可能性があります。

重要: グローバル・オンライン変更を使用可能にするとき、またはローカル・オンライン変更へフォールバックするときは、IMS のコールド・スタートを実行します。緊急時再始動またはウォーム・スタート全体でオンライン変更タイプを変更しないでください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

olctype この IMS の DFSCGxxx PROCLIB メンバーに定義されているオンライン変更タイプ。

LOCAL

ローカル・オンライン変更は、この IMS で使用可能にされます。グローバル・オンライン変更は、アクティブな IMS で使用可能にされます。

GLOBAL

グローバル・オンライン変更は、この IMS で使用可能にされます。ローカ

ル・オンライン変更は、アクティブな IMS で使用可能にされます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。IMS は、この不一致によるエラーを検出すると異常終了する場合があります。

システム・プログラマーの応答: この不一致があっても IMS が異常終了せず、しかも、IMS 緊急時再始動、IMS ウォーム・スタート、XRF 代替システム、DBCTL ウォーム・スタンバイ、または FDBR 領域全体でオンライン変更タイプを変更する予定がなかった場合は、IMS、XRF 代替、DBCTL ウォーム・スタンバイ、または FDBR 領域をシャットダウンし、DFSCGxxx PROCLIB メンバーの OLC= パラメーターを変更してアクティブな IMS と一致させてから、IMS、XRF 代替、DBCTL ウォーム・スタンバイ、または FDBR 領域バックアップを再度立ち上げます。

DFS2857E DIAGNOSE COMMAND INTERNAL ERROR - MOD=name, RSN=nnnn

説明: /DIAGNOSE コマンドの処理中に、リカバリー不能な内部エラーが検出されました。このメッセージは、内部に根本原因がある重大なエラー状態が検出されれば、コード内のどの時点にあっても発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 メッセージを発行したモジュールの名前。
nnnn 理由コード。各内部エラーには固有の理由コードがあります。一般に、理由コードは *xyyy* という形式をとります。ここで、*xx* は発行したモジュールの名前の最後の 2 文字で、*yy* は 2 文字の順序番号です。順序番号は、モジュールごとに 01 から始まり、そのモジュール内で検出されたエラーを識別します。例外は SNAP リソース・モジュールによって発行される特定の共通メッセージで、それらのメッセージには、*ZZyy* という形式が使用されます。

システムの処置: 指定された /DIAGNOSE コマンドが完了しません。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSDGSA0、DFSDGSP0、DFSDGSZ5、DFSDGS82、DFSDGSA1、DFSDGSR0、DFSDGSZ6、DFSDGS84、DFSDGSB0、DFSDGSS0、DFSDGSZ7、DFSDGS9A、DFSDGSD0、DFSDGST0、DFSDGSZ8、DFSDGS9C、DFSDGSL0、DFSDGSU0、DFSDGSZ9、DFSDGS92、DFSDGSL1、DFSDGSZ0、DFSDGS00、DFSDGS94、DFSDGSL2、DFSDGSZ1、DFSDGS10、DFSDGS96、DFSDGSM0、DFSDGSZ2、DFSDGS20、DFSDGS98、

DFSDGSM1、DFSDGSZ3、DFSDGS40、DFSDGSN0、DFSDGSZ4、DFSDGS80

DFS2858E DIAGNOSE COMMAND SEVERE ERROR-reason text

説明: このメッセージは、/DIAGNOSE コマンドの処理中に、リカバリー不能な外部エラーが検出されたことを示します。このメッセージは、外部に根本原因がある重大なエラー状態が検出されれば、コード内のどの時点にあっても発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason text

検出された特定のエラーを識別します。reason text は、次のいずれかになります。

BCB AWE GET FAILED RC=rc

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(SYSOUT) を指定して発行されました。このコマンドは、SNAP 結果を DGS AWE プロセッサにエンキューするための AWE を獲得できませんでした。BCB AWE GET 呼び出しからの失敗戻りコードが、メッセージ・テキスト内の *rc* に取り込まれます。コマンドは失敗し、SYSOUT データ・セットに出力が書き込まれません。これは一時的なストレージ制約の問題であるか、IMS がもっと重大なストレージの問題を検出している可能性があります。この他にストレージの問題が明らかになっていない場合は、コマンドを再発行してください。コマンドが再度失敗し、他にストレージの問題が明らかになっていない場合は、IBM ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

BLOCK STORAGE NOT AVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP BLOCK() コマンドが発行されましたが、要求された 1 次ブロックが使用不可能でした。

COPY BUFFER FREESTOR FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、コピー・バッファに診断情報が取り込まれましたが、そのコピー・バッファの FREESTOR 呼び出しが失敗しました。

COPY FAILED: DESTRUCTIVE OVERLAP

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行わ

れ、ストレージとコピー・バッファーとの間に有害なオーバーラップがあるためにコピーが失敗しました。

COPY FAILED: INVALID STORAGE KEY
/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、無効なストレージ・キーのためコピーが失敗しました。

COPY FAILED: STORAGE UNAVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、無効なアドレスのためコピーが失敗しました。

DGSS BUFFER FREESTOR FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、DGSS ストレージ・テーブルが割り振られましたが、その DGSS ストレージ・テーブルの FREESTOR 呼び出しが失敗しました。

ENQUEUE AWE FAILED RC=rc

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(SYSOUT) を指定して発行されました。このコマンドは、SNAP 結果を DGS AWE プロセッサにエンキューできませんでした。エンキュー・プロセスからの失敗戻りコードが、メッセージ・テキスト内の *rc* に取り込まれます。コマンドは失敗し、SYSOUT データ・セットに出力が書き込まれません。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

NUCLEUS ADDR TABLE NOT AVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP MODULE() コマンドが発行されましたが、DIAGNOSE コマンドの中核モジュール・アドレス・テーブル (Nucleus Module Address Table) が使用不可能でした。

STORAGE COPY FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行され、診断情報が検出され、ストレージ・コピー・ルーチンに対する呼び出しが事実上許容コピー障害なしに行われ、コピーが失敗しました。

TRACE FACILITY START FAILED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、OPTION(TRACE) を選択して実行されましたが、DIAG トレース・テーブルに対してトレース機能を開始するための内部呼び出しが失敗しました。

システムの処置: 指定された /DIAGNOSE コマンドが完了しません。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール:

DFSDGSA0、DFSDGSP0、DFSDGSZ5、DFSDGS82、DFSDGSA1、DFSDGSR0、DFSDGSZ6、DFSDGS84、DFSDGSB0、DFSDGSS0、DFSDGSZ7、DFSDGS9A、DFSDGSD0、DFSDGST0、DFSDGSZ8、DFSDGS9C、DFSDGSL0、DFSDGSU0、DFSDGSZ9、DFSDGS92、DFSDGSL1、DFSDGSZ0、DFSDGS00、DFSDGS94、DFSDGSL2、DFSDGSZ1、DFSDGS10、DFSDGS96、DFSDGSM0、DFSDGSZ2、DFSDGS20、DFSDGS98、DFSDGSM1、DFSDGSZ3、DFSDGS40、DFSDGSN0、DFSDGSZ4、DFSDGS80

DFS2859I DIAGNOSE COMMAND UNSUCCESSFUL - reason text

説明: 致命的でないエラーが発生したため、/DIAGNOSE コマンドが正常に完了しませんでした。このメッセージは、致命的でなく、重大でないエラー状態が検出されれば、コード内のどの時点にあっても発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason text

検出された特定のエラーを識別します。

AOS=N WAS SPECIFIED

/DIAGNOSE SET AOSLOG() コマンドが発行されましたが、このコマンドでの AOS ロギングは、IMS 始動パラメーターによって禁止されました。

block **UNAVAILABLE**

block 制御ブロックが使用不可または未定義であったのに、/DIAGNOSE SNAP BLOCK(*block*) コマンドが発行されました。

CLASS INVALID WITH OUTPUT OPTION

/DIAGNOSE SNAP コマンドが CLASS() パラメーターを指定して発行されましたが、出力 OPTION() パラメーターが SYSOUT ではありませんでした。CLASS() オプションは

OPTION(SYSOUT) のみ有効です。
OPTION(SYSOUT) を使用するか、
CLASS() を削除するようにコマンドを
変更してから、コマンドを再発行して
ください。

CLASS(class) INVALID

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
CLASS() パラメーターを指定して発行
されましたが、無効なクラスが指定さ
れました。クラスの有効値は A から
Z と 0 から 9 です。クラスを有効な
値のいずれかに変更して、コマンドを
再発行してください。

FORMAT INVALID WITH OPT(OLDS)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、
OPTION(OLDS) および FORMAT キ
ーワードを指定して発行されました。
FORMAT キーワードは、
OPTION(OLDS) を指定すると無効で
す。

FORMAT INVALID WITH OPT(TRACE)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、
OPTION(TRACE) および FORMAT
キーワードを指定して発行されまし
た。FORMAT キーワードは、
OPTION(TRACE) を指定すると無効
です。

INVALID ADDRESS VALUE SPECIFIED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
ADDRESS(address) を指定して発行さ
れましたが、ここで指定された
address が、許可されるアドレスの最
大値 X'7FFFFFFF' を超えていまし
た。

INVALID LENGTH VALUE SPECIFIED

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
ADDRESS(address) LENGTH(length)
を指定して発行されましたが、ここ
で指定された length が、許可される長
さの最大値 (address + length <=
X'7FFFFFFF' で与えられる) を超えて
いました。

INVALID LIMIT(limit) MAX=maximum

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
LIMIT() パラメーターを指定して発行
されましたが、限界値が、指定された
OPTION() の範囲外でした。出力オプ
ションを OPTION(DISPLAY) から
OPTION(SYSOUT) に変更するか、限
界をメッセージ・テキスト内の最大値
以下に変更してから、コマンドを再発
行してください。OPTION(DISPLAY)

および OPTION(SYSOUT) を指定し
た LIMIT() の有効範囲について詳し
くは、LIMIT() パラメーターの説明を
参照してください。

INVALID OLR resource SHOW OPTION

/DIAGNOSE SNAP コマンドが、無
効なブロック名が指定されている
OLR 領域に対して発行されました。
OLR 領域には、
VTD、ASCB、ASSB、DPDIR、
IWALE、LESEP、DRAT、および
IDT というブロックが使用不可である
ため、無効です。

INVALID resource SHOW OPTION

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行
されましたが、コマンドに含まれる
SHOW オプションのキーワードまた
はブロック名が、指定されたリソ
ース・タイプについて無効でした。

LIMIT INVALID WITH OPT(OLDS)

LIMIT INVALID WITH OPTION(OLDS)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
OPTION(OLDS) を選択して発行され
ましたが、LIMIT(linecount) が指定さ
れていました。LIMIT パラメーター
は、OPTION(OLDS) を選択すると無
効です。

LIMIT INVALID WITH OPT(TRACE)

LIMIT INVALID WITH OPTION(TRACE)

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
OPTION(TRACE) を選択して発行さ
れましたが、LIMIT(linecount) が指定
されてきました。LIMIT パラメータ
ーは、OPTION(TRACE) を選択する
と無効です。

NO VALID BLOCKS FOR resource

指定されたリソースおよび SHOW()
オプションに対して、有効なブロック
が検出されませんでした。正しいリソ
ースが指定されていること、およびそ
のリソースに有効な SHOW() オプシ
ョンが指定されていることを確認して
ください。

resource(parameter) NOT FOUND

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行
されましたが、コマンドには、指定リ
ソース・タイプのパラメーターが見つ
かりませんでした。

RM(ONLY) INVALID, RM UNAVAILABLE

/DIAGNOSE SNAP コマンドが
RM(ONLY) パラメーターを指定して
発行されましたが、Resource

Manager が使用不可です。RM() パラメーターを変更するか除去して、コマンドを再発行してください。

SNAP RESOURCE NOT FOUND

/DIAGNOSE SNAP コマンドが発行されましたが、コマンドには、指定リソース・タイプのパラメーターが見つかりませんでした。

SNAP RESOURCE NOT SPECIFIED

/DIAGNOSE SNAP コマンドは、SNAP リソース・タイプが指定されないうまま発行されました。

UNABLE TO GET DIAG TRACE TABLE

DIAG トレース・テーブルが使用不可能であったのに、/DIAGNOSE SNAP コマンドが OPTION(TRACE) を選択して発行されました。

システムの処置: 指定された /DIAGNOSE コマンドが完了しません。

オペレーターの応答: コマンド・テキストを確認し、すべてのエラーを訂正して、コマンドを再実行してください。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSDGSA0、DFSDGSP0、DFSDGSZ5、DFSDGS82、DFSDGSA1、DFSDGSR0、DFSDGSZ6、DFSDGS84、DFSDGSB0、DFSDGSS0、DFSDGSZ7、DFSDGS9A、DFSDGSD0、DFSDGST0、DFSDGSZ8、DFSDGS9C、DFSDGSL0、DFSDGSU0、DFSDGSZ9、DFSDGS92、DFSDGSL1、DFSDGSZ0、DFSDGS00、DFSDGS94、DFSDGSL2、DFSDGSZ1、DFSDGS10、DFSDGS96、DFSDGSM0、DFSDGSZ2、DFSDGS20、DFSDGS98、DFSDGSM1、DFSDGSZ3、DFSDGS40、DFSDGSN0、DFSDGSZ4、DFSDGS80、DFSDGS90

DFS2860W EXTERNAL TRACE DATA SET LOGGING NOT AVAILABLE - REASON - N.

説明: IMS が外部トレース・データ・セットを使用できません。N で次のいずれかの理由を示します。

- 制御領域 24 ビット専用ストレージで、出力バッファ一用のストレージが使用不能である。
- 出力データ・セットのブロック・サイズが 4008 バイトより小である。
- 外部トレース・データ・セットが残されていない。このメッセージより前に、通常は、エラー条件を報告する別のメッセージが出されます。

システムの処置: IMS 外部トレースが開始されます

が、エラー・クリーンアップが正常に完了すれば、永続的に使用不可なわけではありません。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS2861W TAPE/DISK DYNAMIC ALLOCATION FAILED FOR EXTERNAL TRACE DATA SET xxxxxxxx.

説明: xxxxxxxx としてリストされている DD 名に関して、動的割り振りが失敗しました。DFSMDA メンバーがデータ・セットおよびその存在場所を正確に記述しているか検証してください。

システムの処置: ディスク・データ・セットが使用されている場合は、IMS は、トレース・テーブルを残りのデータ・セットにログとして記録することを試みます。外部トレース用として、ディスクやテープが残されていない場合、IMS はオペレーターに対して、トレース・テーブルを OLDS にログとして記録する許可を要求します。詳しくは DFS2867A を参照してください。

関連情報:

689 ページの『DFS2867A』

DFS2862W OPEN/CLOSE ERROR ON EXTERNAL TRACE DATA SET xxxxxxxx.

説明: リストされているデータ・セットに関して、オープンまたはクローズが失敗しました。このメッセージの前に、システム・エラー・メッセージが出されているはずですが。

システムの処置: ディスク・データ・セットが使用されている場合は、IMS は、残りのディスクを使用し続けようとします。それ以上ディスクを使用できないか、テープが使用されている場合、IMS はオペレーターに対して、IMS トレース・テーブルを OLDS にログとして記録する許可を要求します。障害のあるデータ・セットがクローズおよび割り振り解除できない場合は、IMS が再始動されるまでは、障害のあるデータ・セットは使用不能です。IMS トレース・テーブルを OLDS にログインする方法については、DFS2867A を参照してください。

関連情報:

689 ページの『DFS2867A』

DFS2863I LOGGING IMS TRACE TABLES TO EXTERNAL TRACE DISK/TAPE DATA SET.

説明: このメッセージは、IMS が IMS トレース・テーブルをログインするのは、外部トレース・データ・セ

ットであり、オンライン・ログ (OLDS) ではないことを通知するものです。

DFS2864I EXTERNAL TRACE DATA SET
 xxxxxxxx FULL - SWITCHING TO
 yyyyyyyyyy.

説明: ディスク・データ・セット xxxxxxxx がいっぱいなので、IMS はデータ・セット yyyyyyyyyy に切り替えます。

プログラマーの応答: いっぱいになったデータ・セットのデータが必要な場合は、別のデータ・セットにコピーするか、印刷する必要があります。データ・セット yyyyyyyyyy がいっぱいになり次第、IMS は、元のデータ・セット xxxxxxxx に切り替えます。

DFS2865I OVERWRITING EXTERNAL TRACE
DATA SET xxxxxxxx

説明: 使用可能なディスク・データ・セットは 1 つだけで、それがいっぱいです。IMS はそれをクローズし、再オープンします。現在データ・セットにデータがある場合は、データはすべて失われます。

DFS2866W PERMANENT WRITE ERROR ON
EXTERNAL TRACE DATA SET
 xxxxxxxx.

説明: リストされているデータ・セットで、永続書き込みエラーが生じています。このメッセージを受信する前に、オペレーティング・システム・エラーが示されているはずで

す。システムの処置: ディスク・データ・セットが使用されている場合は、IMS は、残りのディスクに切り替えて、続行します。使用可能なディスクがない場合、またはテープが使用されている場合は、IMS は外部トレース機能の使用を停止します。IMS トレース・テーブルを OLDS に書き込むかどうか、オペレーターに尋ねてきます。データ・セットがクローズおよび割り振り解除できない場合は、IMS が再始動されるまでは、障害のあるデータ・セットは使用不能です。

DFS2867A EXTERNAL TRACE NOT USABLE,
REPLY "Y" TO USE OLDS, "N" TO
TRACE INCORE

説明: 次のいずれかの理由で、IMS は外部トレース・データ・セットを使用できません。

- 外部トレース動的割り振りメンバーが検出されなかったか、検出されたメンバーの動的割り振りが失敗した。

- 出力データ・セットのブロック・サイズが 4008 バイトより小である。
- オープン、クローズ、または書き込みエラーによって、外部トレース・サービスの終了が強制された。

このメッセージの前に、通常、外部トレースが使用不能な理由を説明する、他の IMS 外部トレース・エラー・メッセージが出されます。

オペレーターの応答: IMS トレース・テーブルが OLDS のログに記録されるようにする場合は、「Y」で応答してください。OLDS ロギングが外部の場合は、すべてのトレース・ロギングが停止するまで、OLDS へのトレースが続行されます。IMS トレースをメモリー内のみに留めるには、「N」で応答してください。トレースがその後 LOG オプションで開始される場合は、外部トレース初期設定が再度試みられます。

DFS2868W INVALID BLOCKSIZE SPECIFIED
FOR EXTERNAL TRACE DATA SET
 nnnnnnnnn

説明: 以下のいずれかの状態が発生しました。

- 外部トレース・ディスク・データ・セットの一方のブロック・サイズが、もう一方のデータ・セットより小さいブロック・サイズです。
- 2 つの外部トレース・ディスク・データ・セットのブロック・サイズが、最小サイズより小さいブロック・サイズです。

両方の外部トレース・データ・セットには、4020 以上の同じブロック・サイズが必要です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnnn

ブロック・サイズにエラーがある外部トレース・データ・セットの DD 名。

システムの処置: IMS は、エラーのある外部トレース・データ・セットを使用しません。両方のデータ・セットにエラーがある場合、メッセージ DFS2867A が出されます。IMS ログにトレース表を送信するか、それらをストレージ内に保持できます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS2869W EXTERNAL TRACE TCB NOT
AVAILABLE - TRACING TO OLDS

説明: /TRACE SET ON TABLE cc OPTION LOG コマンドが入力されましたが、外部トレース・タスク制御ブロック (TCB) は使用不可能です。

DFS2870W • DFS2900I

オペレーターの応答: OLDS トレースを行いたくない場合は、LOG オプションを選択せずに TRACE コマンドを再発行してください。

DFS2870W ABEND WHILE WRITING TO EXTERNAL TRACE DATASET *ddname*

説明: いずれかの外部トレース・データ・セットへ書き込み中に異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname 異常終了の発生の対象となったデータ・セットの DD。

システムの処置: DFSTRA40 は DCB をリフレッシュし、他の外部トレース・データ・セットへ切り替え、まだ CHECK が済んでいなかったバッファを再書き込みします。同じデータ・セットに再び異常終了が発生し、正常に書き込めなかった場合、そのデータ・セットには使用不能のマークが付けられ、システムは、メッセージ DFS2866W の説明にある処置を実行します。

システム・プログラマーの応答: DFSTRA40 が異常終了からリカバリーした後でデータ・セットが使用可能になった場合には、何もする必要はありません。再び異常終了が発生した場合は、データ・セットに使用不能のマークが付けられます。データ・セットの割り振り解除が正常に実行された場合は、外部トレースをいったん停止して再始動することにより、データ・セットを再利用できます。

モジュール: DFSTRA40

関連情報:

689 ページの『DFS2866W』

DFS2900I LOG EOF BEFORE REQUIRED CKPT=xxxxxxx FOUND

説明: ユーティリティーが、チェックポイント・データ・セットで示されているチェックポイント識別について、ログ・データ・セットをスキャンしました。ファイルの終わり条件が介在しました。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 代替ログ・データ・セットを使用して、ジョブを再実行依頼してください。

第 62 章 DFS メッセージ DFS2901I - DFS2950A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2901I I-O ERROR. SYNADAF MSG FOLLOWS:

説明: 表示されている DD 名に関連するデータ・セットに関して、SYNAD 出口が取られました。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、出力は生成されません。

プログラマーの応答: 特定のデータ・セットに関する通常のリカバリー手順が実行されたら、ジョブを再実行依頼してください。

DFS2902I AUTOMATIC SYSTEM CHECKPOINT INITIATED

説明: XRF テークオーバーの 2 分後までに、チェックポイントが取られなければ、その時点で、このメッセージが送信されます。メッセージは、IMS MTO コンソールと z/OS コンソールの両方に送信されます。チェックポイントが通常開始されるのは、最後の端末が新しいアクティブ IMS に切り替えられたときです。新しいアクティブ IMS は、チェックポイントの完了までは再始動不能です。このメッセージは、端末切り替えエラーを示し、1 つ以上の端末が切り替えられなかったか、切り替えられたとしてカウントされていないことを示します。

システムの処置: IMS がチェックポイントを取ります。

プログラマーの応答: 1 つ以上の端末が切り替えられたとしてカウントされなかったため、IMS 論理エラー、VTAM 論理エラー、またはタイミング条件がテークオーバー時に発生しました。すべてのログを収集し、可能な場合は、新しいアクティブ IMS のコンソール・メモリー・ダンプを取り、問題の診断に必要なその他のすべてのデータを保管してください。

DFS2904A ATTEMPT TO CHANGE SEQUENCE FIELD

説明: MSDB 保守カード変更ファイルに、シーケンス・フィールドを指定する FIELD= キーワードがあります。

システムの処置: このメッセージを発行後、ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、ユーティリティー実行を再実行依頼してください。シーケンス・フィールドは変更できません。

DFS2905I RECOVERY FROM CHECKPOINT=yyddd/hhmmss

説明: MSDB ダンプ/リカバリー・ユーティリティーが、示されているチェックポイントから、IMS ログ・データ・セットの処理を開始しました。

システムの処置: ユーティリティーは、示されているチェックポイントの後に続くログ・データ・セットで検出された MSDB ログ・レコードを処理することによって続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2906I UPDATES APPLIED TO SYNC POINT=yyddd/hhmmss

説明: MSDB ダンプ/リカバリー・ユーティリティーが、IMS ログ・データ・セットの処理を完了しました。ユーティリティーによって読み取られた最後の高速機能同期点ログ・レコードは、示されている日時に作成されました。

システムの処置: ユーティリティーは処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS2907A LOG DATA SET MISSING OR INVALID, TERMINATE. LAST SYNC POINT PROCESSED=xxxxx/xxxxx

説明: 主記憶データベース (MSDB) リカバリー中に、ログ・シーケンスに切れ目が検出されました。ログ・データ・セットが欠落しているか、無効です。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: すべてのログ・データ・セットが指定され、正しい順序であるか確認してください。

DFS2930I INITIALIZATION FAILURE - mmmmmmmmmm,xxxx,yyyyyyyyy,zzzzzzzzz- cccc

DFS2930I

説明: IMS 初期設定が、モジュール *mmmmmmmm* に関して失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx 障害理由コード (異常終了時にレジスター 15 でも検出される)。

yyyyyyyy 要求されたサービスからの障害戻りコード。

zzzzzzzz 要求されたサービスからの障害サブコード (該当する場合)。

cccc エラーの追加説明が記載されているオプションのテキスト。

次のリストでは、メッセージ DFS2930I の理由コードおよびそれに関連して要求されるサービスについて説明します。

理由コード (要求されるサービス)

説明

0001 (DFSXDBI0)

IMS システム制御ブロック (IMS SCD) をメンバー DFSBLK0x および DFSFXC0x にロードできない。

0002 (IMSAUTH)

この IMS イメージが SSCT にその SCD アドレスをアンカーするのを許可できない。

0003 (DFSVCIO)

この IMS イメージの SCD アドレスで SVC ベクトル・テーブル初期設定を実行できない。

0004 (MVS ESTAE)

IMS ジョブ・ステップ TCB に関して、ESTAE ルーチンを確立できない。

0005 (DFSIIIN10)

IMS ロード・リストで指定されているモジュールをプリロードできない。

0006 (DFSXCB00)

IMS DFSBCB ストレージ管理サービスに関して、初期設定が失敗した。

0007 (DFSMINI0)

IMS ディスパッチャー・サービスに関して、初期設定が失敗した。

0008 (DFSCDSP)

IMS ジョブ・ステップ TCB のための IMS ディスパッチャー・サービス制御ブロックを構築できない。

0009 (DFSCIR)

共通システム・サービス ITASK、DFSCSS00 を作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失敗)。

000A (DFSCIR)

共通制御サービス ITASK、DFSCNS00 を作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失敗)。

000B (DFSCIR)

マスター・サービス (z/OS ルーチン) ITASK を作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失敗)。

000C (DFSCIR)

ストレージ管理圧縮サービス ITASK、DFSSTC00 を作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失敗)。

000D (DFSCIR)

ラッチ管理リカバリー ITASK、DFSCLM20 を作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失敗)。

000E (DFSCIR)

使用管理リカバリー ITASK、DFSUSE20 を作成できない (IMODULE GETMAIN と LOAD のいずれかが失敗)。

000F (IMSAUTH)

SSVT アドレスを SSCT を保管できない。

0010 (DFSSCPI0)

システム制御プログラム (SCP) および関連 IMS 制御ブロックを初期設定できない。次の理由コードが示される可能性があります。

00000001

IMODULE GETMAIN が IMS システム制御プログラム・ブロック (SCP) に関して失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

00000002

LOAD が TSO 環境モジュール IKJTSEV に関して失敗しました。zzzzzzzz に MVS LOAD からの戻りコードが含まれています。

TSO 環境サービスをサポートするレベルの z/OS で実行しているか確認してください。

00000003

TSO 環境サービス初期設定が失敗しました。zzzzzzzz に TSO 環境サービスからの戻りコードが含まれていません。

00000004

BPESTART は、BPE 限定機能サービスを開始できませんでした。zzzzzzzz に BPESTART からの戻りコードが含まれています。

- 00000005**
z/OS TCBTOKEN サービスが失敗しました。zzzzzzzzz に TCBTOKEN からの戻りコードが含まれています。
- 0011 (DFSDREF0)**
IMS PROCLIB データ・セットの DFSDRFxx メンバーを処理できません。
- 0012 (DFSXRLM0)**
IRLM を初期設定できません。
- 0013 (DFSSTKI0)**
IMS スタック・ストレージ・マネージャーを初期設定できません。次の理由コードが示される可能性があります。
- 00000001**
IMODULE GETMAIN が、メイン・スタック・ストレージ制御ブロック (SCDSTK) に関して失敗しました。zzzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。
- 00000002**
IMODULE LOAD が、メッセージ・サービス・モジュール (DFSMSGC0 および DFSMSGF0) に関して失敗しました。zzzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。
- 0014 (DFSMSGI0)**
IMS メッセージ・サービスを初期設定できません。次の理由コードが示される可能性があります。
- 00000001**
IMODULE GETMAIN が、メッセージ・サービス制御ブロック (MSCB) に関して失敗しました。zzzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。
- 00000002**
IMODULE LOAD が、メッセージ・サービス・モジュール (DFSMSGC0 および DFSMSGF0) に関して失敗しました。zzzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。
- 00000003**
IMODULE LOAD が、メッセージ・サービス・テキスト・モジュール (DFSMSGTX) に関して失敗しました。zzzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。
- 0016 (DFSSQ000)**
共用キューを初期設定できません。障害のある機能を識別するエラー・コードとして表示される可能性のあるものは、次のとおりです。
X'1001' 作業域割り振りが失敗しました。
X'1004' SQ1 AWE 割り振りが失敗しました。
X'1005' SQ2 AWE 割り振りが失敗しました。
X'1008' DFSXRPS 読み取りが失敗しました。
X'100A'
CQSREG 要求が失敗しました。
X'100B'
共用キュー・モジュールのロードが失敗しました。
X'100C'
XCF グループの結合が失敗しました。
- 0017 (DFSRSMDO)**
Resource Manager の初期設定を実行できません。次の理由コードが示される可能性があります。
00000004
LOAD が IMS Resource Manager モジュール DFSRSMR0 に関して失敗しました。zzzzzzzzz に MVS LOAD からの戻りコードが含まれています。
00000008
STORAGE OBTAIN が IMS Resource Manager パラメーター・リスト・ブロック (IRMP) に関して失敗しました。zzzzzzzzz に STORAGE OBTAIN からの戻りコードが含まれています。
0000000C
RESMGR ADD が IMS Resource Manager DFSRSMR0 に関して失敗しました。zzzzzzzzz に RESMGR ADD からの戻りコードが含まれています。
00000010
DFSRSMDO に領域 ID コードが渡されましたが、これが無効でした。
- 0018 (DFSCSL00)**
Common Service Layer および関連 IMS 制御ブロックを初期設定できない。異常終了ルーチンに入る時点でのレジスターでは、レジスター 3 に DFSCSL00 戻りコードが含まれており、レジスター 4 には障害の発生した機能戻りコードが含まれています。障害のある機能を識別するエラー・コードとして表示される可能性のあるものは、次のとおりです。
X'1004' DFSCSLA についての IMODULE GETMAIN が失敗しました。
X'1008' DFSCSL10 についての IMODULE LOAD が失敗しました。

- X'100C'**
CSL モジュールのプリロードについての DFSLOADL が失敗しました。
- X'1010'** AWE についての DFSBCB GET が SL0 TCB DFSFMOD0 の接続に失敗しました。
- X'1014'** DFSSQPP ENQ が、SL0 TCB 用の接続に失敗しました。
- X'1018'** AWE についての DFSBCB GET が SL1 TCB DFSFMOD0 の接続に失敗しました。
- X'101C'**
DFSSQPP ENQ が、SL1 TCB 用の接続に失敗しました。
- X'2nnnn'**
DFSCSL10 からの戻りコード。
- X'2004'** 構文解析エラー。DFS3305E メッセージが発行されます。
- X'2008'** PROCLIB メンバーの読み取りエラー。
- X'200C'**
パラメーター妥当性検査エラー。
- 0020 (IMODULE GETMAIN)**
ストレージを取得できない。
- 0021 (IMODULE LOAD)**
モジュールをロードできません。
- 0022 (IMODULE DELETE)**
モジュールを削除できません。
- 0023 (DFSBCB GET)**
制御ブロックを取得できません。
- 0024 (DFSBCB REL)**
制御ブロックを解放できません。
- 0025 (DFSXSTM0)**
理由コードには次のものがあります。
- 00000001**
DB フィーチャーに関する LM 証明書なし
- 00000002**
TM フィーチャーに関する LM 証明書なし
- 00000003**
フィーチャーに関する LM 証明書なし
- 0026 (DFSIMPL0)**
IMS モジュールをプリロードできませんでした。理由コードには次のものがあります。
- 00000004**
作業域割り振りが失敗しました。
- 00000008**
EPB ブロックの割り振りが失敗しました。
- 0000000C**
モジュールのロードが失敗しました。
- 0027 (DFSDFN00)**
動的リソース定義の環境、または診断と統計を初期化できません。yyyyyyyy および zzzzzzzz として戻された追加の理由コードには、次のものがあります。
- X'1008'** リソース処理モジュールについて、IMODULE LOAD が失敗しました。理由コードは、IMODULE LOAD からの戻りコードです。
- X'100C'**
システムは、DFSDBG 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETSTOR からの戻りコードです。
- X'1010'** システムは、DFSRRDA 制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETSTOR からの戻りコードです。
- X'2008'** IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DYNAMIC_RESOURCES セクションを構文解析中にエラーが発生しました。理由コードは、BPEPARSE からの戻りコードです。
- X'200C'**
システムは、BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'2010'** システムは、BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'2014'** システムは、RDDSDSN= パラメーターで定義されたデータ・セット名用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'2018'** IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクションを構文解析中にエラーが検出されました。理由コードは、BPEPARSE からの戻りコードです。
- X'201C'**
システムは IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクションを構文解析するために、BPEPARSE 文法のコピー用のストレ

- ージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'2020'** システムは IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクションを構文解析するために、BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できませんでした。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'2024'** DFSDFxxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクションの構文解析エラー。理由コードは、BPEPARSE からの戻りコードです。
- X'2028'** DFSDFxxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクションを構文解析するための BPEPARSE 文法のコピー用のストレージを取得できません。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'202C'** DFSDFxxx PROCLIB メンバーの REPOSITORY セクションを構文解析するための BPEPARSE 出力域用のストレージを取得できません。理由コードは、IMODULE GETMAIN からの戻りコードです。
- X'2030'** IMS は、トレース・サービス・モジュールをロードできません。メッセージ DFS4561E に、該当のモジュールの名前と、IMODULE サービスから戻された理由コードが含まれています。
- X'2034'** トレース・サービスの初期化から不明な戻りコードを受け取りました。
- X'2104'** AUTOIMPORT=(RDDS) または AUTOEXPORT=(RDDS) が設定されたときに、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの RDDSDSN= パラメーターで 2 つ未満の RDDSDSN を指定しました。
- X'2108'** IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーで AUTOIMPORT=REPO を指定しましたが、REPOSITORY セクションが指定されていないか、または IMSRSC リポジトリに REPOSITORY= ステートメントが指定されていませんでした。
- X'210C'** IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーで
- AUTOIMPORT=REPO および RMENV=N を指定しました。RMENV=N が指定されているため、IMS は RM サービスを使用して IMSRSC リポジトリにアクセスできません。
- 0028 (DFSDFS40)**
DFSDFxxx PROCLIB メンバーを読み取れません。次の理由コードが示される可能性があります。
00000104
DFSDFxxx PROCLIB メンバーの IMODULE GETSTOR が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETSTOR からの戻りコードが含まれています。
00000114
DFSDFxxx PROCLIB メンバーを読み取れませんでした。zzzzzzzz に BPERDPDS からの戻りコードが含まれています。
- 0029 (DFSUSRXI)**
IMS ユーザー出口サービスを初期設定できません。次の理由コードが示される可能性があります。
00000004
AWE 制御ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。zzzzzzzz に DFSBCB GET からの戻りコードが含まれています。
00000008
UXDT 制御ブロックの IMODULE GETMAIN が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。
0000000C
DFSUSRX0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。
00000104
CSVT 制御ブロックの IMODULE GETMAIN が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。
00000108
DFSCSIE0 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。
0000010C
呼び出し可能サービス・モジュール (DFSCSF10、DFSCSF20、または

DFSCSF30) の IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000180

DFSDFN20 の IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

0000018C

DFSUSX00 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000190

DFSUSX10 の IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

00000194

USXC ブロックの DFSBCB GET が失敗しました。zzzzzzzz に DFSBCB GET からの戻りコードが含まれています。

00000198

USXC ブロックの DFSBCB REL が失敗しました。zzzzzzzz に DFSBCB REL からの戻りコードが含まれています。

0000019C

パラメーター・リスト・ストレージの IMODULE GETMAIN が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE GETMAIN からの戻りコードが含まれています。

000001A0

DFSUSX90 に関する IMODULE LOAD が失敗しました。zzzzzzzz に IMODULE LOAD からの戻りコードが含まれています。

このメッセージが表示されたときの対応について詳しくは、異常終了コード 0070、0071、0077、0081、0315、および 0718 を参照してください。

システムの処置: IMS はメモリー・ダンプ付きで終了します。

オペレーターの応答: モジュール名および戻りコードを基にして、初期設定障害の原因を判別してください。問題が訂正されたら、IMS ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSXSTM0

関連資料:

➡ z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: ADD 機能からの戻りコード (RESMGR)

関連情報:

➡ 異常終了 0070

➡ 異常終了 0071

➡ 異常終了 0077

➡ 異常終了 0081

➡ 異常終了 0315

➡ 異常終了 0718

DFS2950A A CHECKPOINT REQUIRED TO SATISFY RESTART IS NOT AVAILABLE ON SYSTEM LOG

説明: アクティブまたはトラッカーのサブシステムを開始する試みがなされましたが、要求に応じるために必要なチェックポイント (通常は、コールド・スタート・チェックポイント) がシステム・ログにありません。このような状態は、PRILOG レコードが RECON から、またはリモート・テークオーバー・シナリオから削除されたことが理由で起こり得ます。

システムの処置: 再始動は終了し、システムは別の再始動コマンドを待ちます。

プログラマーの応答: 必要に応じて、別の再始動コマンドを発行してください。

モジュール: DFSRBCP0

第 63 章 DFS メッセージ DFS2951I - DFS3000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS2957W OLCSTAT DATA SET DYNAMIC ALLOCATION ENCOUNTERED AN ERROR; RETRYING THE ALLOCATION

説明: この IMS システムのウォーム・スタートまたは緊急時再始動の試みが、OLCSTAT データ・セットの動的割り振り時に待ち状態です。この待ち状態が発生するのは、OLCSTAT データ・セットが別のユーザーによって保持されているためです。IMS システムは、データ・セットの動的割り振りを再試行し、次のいずれかが発生するまで試行し続けます。

- OLCSTAT データ・セットが他のユーザーによって使用中でなくなる
- 最大再試行回数に達した

システムの処置: OLCSTAT データ・セットが、それを保持していたユーザーによって解放されると、処理が続行します。


最大試行回数に達すると、IMS は異常終了コード 2801、サブコード 1 で異常終了し、メッセージ DFS2848E が出されます。

オペレーターの応答: IMS が異常終了コード 2801、サブコード 1 で終了する場合、OLCSTAT データ・セットを保持しているユーザーを判別してください。そのデータ・セットを解放し、IMS を再び始動してください。

モジュール: DFSOLCS0

関連情報:

681 ページの『DFS2848E』

 異常終了 2801

DFS2958A AN ONLINE CHANGE IN PROGRESS WAS DETECTED DURING TAKEOVER, ACTION IS REQUIRED TO COMPLETE THE OLC

説明: このメッセージが発行されるのは、XRF テークオーバー時に OLCSTAT がロックされるか、またはアクセス不能の場合です。XRF テークオーバーは完了しますが、ユーザー処置セクションにリストされている処置をテークオーバーの終わりに取る必要があります。OLCSTAT データ・セットがテークオーバー中にアクセス可能ではなく、進行中のオンライン変更のコミットが

なかった場合、XRF テークオーバーは続行することを許可されます。しかし、新規 XRF アクティブは古い XRF アクティブの IMSID を自身の IMSID に置換できませんでした。

MODBLKS、FMMLIB または ACBLIB オンライン変更がテークオーバー時に進行中である場合、新しいアクティブ・サブシステムが OLCSTAT と同期しないことを判別すると、テークオーバーの終わりに内部オンライン変更が実行されます。システムは、この内部オンライン変更の X'70' ログ・レコードを書き込みます。

ACBMBR オンライン変更がテークオーバー時に進行中である場合、新しいアクティブ・サブシステムが OLCSTAT と同期しないことを判別すると、テークオーバーの終わりに作業単位 (UOW) がコミットされます。DFS3497I メッセージが UOW の状況と一緒に発行されます。X'7004' および X'7005' ログ・レコードが書き込まれます。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: テークオーバーの完了後、以下の処置を実行してください。

1. QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(ALL) または QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行し、IMSplex 内の IMS システムの状況をメモします。
2. QUERY MEMBER TYPE(IMS) が、IMSplex 内の 1 つ以上の IMS システムが次の状況であることを示す場合は、以下のようになります。
 - オンライン変更状態でない
 - OLCPREPC 状況
 - OLCCMT1C 状態であり、OLCSTAT が更新されない

TERMINATE OLC コマンドを発行して、IMSplex 内のオンライン変更をクリーンアップします。別の INIT OLC PHASE(COMMIT) コマンドを使用してオンライン変更を完了しようとする時、失敗します。これは、新しいアクティブ・サブシステムがオンライン変更状態でないからです。

3. QUERY MEMBER TYPE(IMS) が、IMSplex 内の 1 つ以上の IMS システムが次の状況であることを示す場合は、以下のようになります。
 - OLCCMT1C および OLCSTAT の OLC COMMIT 状態が更新される

- OLCCMT2C 状態

別の INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドを発行して、IMSplex 内のオンライン変更を完了します。このコマンドを、OLCCMT1C または OLCCMT2C 状況のある IMS に経路指定します。

INITIATE OLC PHASE(COMMIT) を新しいアクティブ・サブシステムに経路指定すると、失敗します。これは、新しいアクティブ・サブシステムがオンライン変更状態でないからです。

TERMINATE OLC コマンドを発行して OLC を終了する場合、失敗します。これは、オンライン変更がコミットされ、OLCSTAT が更新されるからです。

4. QUERY OLC LIBRARY(OLCSTAT)

SHOW(MBRLIST) コマンドで、メンバー・リストに古い XRF アクティブの IMSID が表示されるが、新しい XRF アクティブの IMSID は表示されない場合、古い XRF アクティブ IMSID を OLCSTAT データ・セットから削除し、新しい XRF アクティブ IMS ID を OLCSTAT データ・セットに追加しなければなりません。この変更は、次の INIT OLC PHASE(PREPARE) コマンドを実行する前に行う必要があります。グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) を実行して、新規 XRF アクティブの IMSID を追加してください。ACBMBR オンライン変更を使用している場合は、DFSUOLC0 を実行して古い IMSID を削除します。グローバル・オンライン変更を使用している場合は、DFSUOLC0 を実行して古い IMS ID を削除するか、または INIT OLC PHASE(PREPARE) コマンドで OPTION(FRCABND) を指定します。

モジュール: DFSOLCS0

DFS2970I OLR STARTED | RESUMED FOR
NAME=partname MASTER=mastername
PST=pstnumber

説明: 指定された区画について、HALDB オンライン再編成が開始されるか再開されました。メッセージ・テキストは、マスター (mastername) の名前およびプログ

ラム仕様ブロック番号 (pstnumber) を示します。

重要: RECON で OLREORG 所有権が確立されたエクステントまで、タイプ 1 またはタイプ 2 の INIT OLREORG コマンドが処理された後に、このメッセージが発行されました。オンライン再編成カーソルがアクティブの場合は RESUMED が示されます。そうでない場合は、STARTED が示されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール: DFSORP00

DFS2971W OLR INITIALIZATION | RESUMPTION
FAILED FOR NAME=partname
MASTER=mastername PST=pstnumber
RC=xx RS=yy

または

OLR TERMINATED FOR NAME=partname
MASTER=mastername PST=pstnumber RC=xx RS=yy

または

DFS2971W OLR WILL NOT BE RESUMED FOR
NAME=partname MASTER=mastername
PST=pstnumber RC=xx RS=yy

説明: このメッセージの最初の形式: 戻りコードと理由コードによって示されている理由から、HALDB オンライン再編成は、OLR を開始または再開するための OLR 初期設定プロセスを完了しませんでした。

このメッセージの 2 番目の形式: 戻りコードと理由コードによって示されている理由から、OLR は、すべてのレコードが入力からデータ・セットの出力セットへコピーされる前に終了しました。

メッセージ・テキストは、マスター (mastername) の名前、プログラム仕様ブロック番号 (pstnumber)、および理由コードを示します。終了の正確な原因については、以下の表の戻りコードと理由コードを参照してください。

表 15. DFS2971W の戻りコードと理由コード

戻りコード (16 進数)	理由コード (10 進数)	説明
04 (モジュール: DFSORP00)	04	ISWITCH からの予期しない戻りコード。
	08	QSAV についての DFSBCB GET が失敗しました。
	12	DFSCWU の作業単位作成が失敗しました。
	16	IMS が COLDSYS、COLDBASE、または COLD START を使用して再始動されました。
	20	再始動許可が失敗しました。
	24	XRF テークオーバー中のエラーによる据え置き停止またはクローズ。
	28	LCRE エンキューが失敗しました。
	32	所有権設定呼び出しが失敗しました。考えられる原因は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 区画データベースに対して OLR を実行できない。 • 区画データベースに REORG INTENT フラグがオンに設定されている。区画が再編成中です。
	36	FFROLR=D が指定されたため、OLR が終了しました。
	40	LSO=Y 環境は無効です。
08 (モジュール: DFSORP00 または DFSORP10)	01	OLR 作業域に対する GETMAIN が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	02	OLR PSB のスケジューリングが失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	03	出力データ・セットの作成または妥当性検査が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	04	QSAV に対する DFSBCB GET が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	05	タイマー ITASK の作成が失敗しました。モジュール DFSORP10 により出力される。
	06	バックアウトが失敗したためにデータベースがエラーを起こしています。モジュール DFSORP10 により出力される。
	17	別のコマンドが進行中です。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	C6	OLR スケジューリングが失敗しました。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	1ED	必要な内部 HALDB 制御ブロックが初期設定されなかったか、アクセス不能です。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
	1EE	残っている変更対象のすべての区画が 1 つ以上の IMS システムによって所有されているため、この IMS システムで変更処理を再開できません。モジュール DFSORP00 によって発行されます。
8031	区画のオープン・エラー。モジュール DFSORP10 により出力される。	
0C (モジュール: DFSORP10)		区画の選択が失敗しました。
	8031	区画のオープン・エラー。
	C030 Cxxx	許可の失敗。 他の区画の選択の失敗。
10 (モジュール: DFSORP10)	nnnn	区画選択中の疑似異常終了 (10 進値)。nnnn の値は、発行元のモジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因について詳しくは、IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)を参照してください。

表 15. DFS2971W の戻りコードと理由コード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (10 進数)	説明
14 (モジュール: DFSORP10。 DFSORP20 で検出 されたエラーに関す る)	01	オプションなしで /TERMINATE OLREORG コマンドが開始されました。
	02	PHDAM についてのバッファ・ハンドラー呼び出しが失敗しました。
	03	PHIDAM についてのバッファ・ハンドラー呼び出しが失敗しました。
	04	カーソル更新中の GBIDP ロックの失敗。
	05	カーソル更新中の GZIDP ロックの失敗。
	06	カーソル更新中のバッファ・ハンドラーの失敗。
	07	カーソル更新中の通知の失敗。
	0A	1 次索引データベースでキー順データ・セット (KSDS) の挿入時に重複キーが検出されました。
18 (モジュール: DFSORP10。 DFSORP20 で検出 されたエラーに関す る)	<i>nnnn</i>	DFSORP20 の処理中の疑似異常終了 (10 進値)。nnnn の値は、発行元のもジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因について詳しくは、IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)を参照してください。
1C (モジュール: DFSORP10。 DFSORP30 で検出 されたエラーに関す る)	<i>nnnn</i>	バックアウトの失敗。nnnn の値は、発行元のもジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因について詳しくは、IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)を参照してください。
	02	FORCE オプションを指定した /TERMINATE OLREORG コマンドで OLR が終了しました。
	03	すべてが X'FF' のキーが検出されたか、チェーン保守中のエラー。
	04	ABORT 付きで OLR 終了が開始されました。
20 (モジュール: DFSORP10。 DFSORP30 で検出 されたエラーに関す る)	<i>nnnn</i>	DFSORP30 の処理中の疑似異常終了 (10 進値)。nnnn の値は、発行元のもジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因について詳しくは、IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)を参照してください。
24 (モジュール: DFSORP10。 DFSORP30 で検出 されたエラーに関す る)	状況コード (status code)	内部 DL/I 呼び出しからの予期しない状況コード。
	28	LCRE エンキューが失敗しました。
28	<i>nnnn</i>	HALDB オンライン再編成エラーが発生しました。終了処理が開始されました。疑似異常終了が設定されました。 <i>nnnn</i> の値は、発行元のもジュールによって返された異常終了コードです。異常終了の原因について詳しくは、IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)を参照してください。
28 (モジュール: DFSORP10、 DFSDOCA0)	04	指定された区画の OLR は、高速データベース・リカバリー処理のため、障害を起こしたサブシステムの再始動中に自動的に再開されません。

重要: PST=00000 は、従属領域 PST の下で実行中でない場合、例えば、高速データベース・リカバリー処理中、または ITASK 作成前の OLR 初期設定中に、DFS2971W メッセージが出されたことを示します。

システムの処置: このメッセージの最初の形式: 新しいオンライン再編成を開始しようとした INITIATE OLREORG コマンドの場合、カーソル・アクティブ状況は RECON に記録されません。その場合、区画内のデータベース・レコードは、コマンドが入力される前に使用されていたデータ・セットのオリジナル・セット内に引き続き格納されています。

RECON 内にすでにカーソル・アクティブ状況が記録されていたオンライン再編成が、自動的に、またはコマンドによって再開された場合:

- カーソル・アクティブ状況は、引き続き有効です。
- 区画内のデータベース・レコードは、引き続き 2 セットのデータ・セット内に格納されており、区画を継続して使用するためには、それらの両方のデータ・セットが必要です。
- 追加のデータベース・レコードは入力からデータ・セットの出力セットへコピーされませんでした。


このメッセージの 2 番目の形式: 区画のカーソル・アクティブ状況は、すでに RECON 内に記録されており、区画内のデータベース・レコードは、引き続き 2 セットのデータ・セット内に格納されており、区画を継続して使用するためには、それらの両方のデータ・セットが必要です。

システム・プログラマーの応答: 問題が訂正された後、INITIATE OLREORG コマンドで HALDB オンライン再編成を開始または再開するか、さもなければ、オフライン再編成を実行してください。

問題判別: 1、6、27

モジュール: DFSORP00、DFSORP10
(DFSORP20、DFSORP30 で検出されたエラーの場合)

関連概念:

 IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS2972E OLR PSB BUILD FAILED. reason

説明: IMS は、オンライン再編成用に内部 PSB を構築中でした。そのプロセスで、reason によって示されるエラーが検出され、それは次のいずれかです。

- DATA BASE IS NOT A PARTITION
- MASTER IS NOT PARTITIONED
- GETMAIN FAILED FOR PSB
- DMB LOAD FAILED

• HALDB STRUCTURE NOT ACTIVE

システムの処置: オンライン再編成は放棄され、完了必須 状況は RECON 内に記録されません。

プログラマーの応答: DMB LOAD FAILED の場合は、ACBLIB に、HALDB マスターの名前が付いた DMB が含まれていることを確認してください。

GETMAIN FAILED FOR PSB の場合は、ストレージに制約がある可能性があるため、後でオンライン再編成を実行してください。

HALDB STRUCTURE NOT ACTIVE の場合、オンライン再編成 (OLR) が IMS /ERE の実行中に再開されるのであれば、再始動時に使用される ACBLIB が、終了前に IMS によって使用されていたものと同じ ACBLIB であることを確認してください。

その他のエラーは、IMS エラーである可能性が高いため、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSOPSB0

DFS2973W NO RESPONSE FROM SHARING IMS AFTER ONLINE REORG. PART=partname

説明: HALDB オンライン再編成は、指定された HALDB 区画のコピー・フェーズを完了し、非アクティブ・データ・セットは削除される必要があります。OPTION(DEL) が INITIATE OLREORG コマンドで指定されたか、後続の UPDATE OLREORG コマンドで指定されたので、データ・セットの削除が試みられました。ただし、データ・セットの削除が試みられる前に、すべての共用 IMS システムに通知が出されました。すべての共用 IMS システムは、もはやそれらのデータ・セットを使用していないことを示す必要があります。それらのシステムの 1 つ以上が、3 回の要求の後も応答しませんでした。

システムの処置: IMS は、すでに RECON 内の区画のカーソル・アクティブ状況をリセットしており、その区画内のデータベース・レコードは、現時点では、それらのデータ・セットのコピー先となった単一セットのデータ・セット内に格納されています。処理を完了するために、IMS は非アクティブ・データ・セットを削除しようと試み、それは、共用 IMS システムの一部が応答しなかった場合でも同様です。データ・セットの削除中に結果としてエラーが起きる可能性があるのは、一部のジョブ、例えば IMS バッチ・ジョブなどがデータ・セットの割り振りを行い、応答の許容時間内に応答できなかった場合です。この状態が発生した場合は、1 つ以上の非アクティブ・データ・セットは削除されませんが、オンライン再編成は完了します。

DFS2974I • DFS2991E

システム・プログラマーの応答: MVS システム・コンソール・ログを調べて、エラー・メッセージに、HALDB オンライン再編成からのいずれかの非アクティブ・データ・セットが削除されなかったことが示されていないかどうかを判別してください。それらのデータ・セットは、もはや使用されなくなったら削除してください。

モジュール: DFSORP40

DFS2974I OLR COMPLETED FOR
NAME=partname MASTER=mastername
PST=pstnumber

説明: 指定された HALDB 区画について、HALDB オンライン再編成が完了しました。メッセージ・テキストは、マスター (*mastername*) の名前およびプログラム仕様ブロック番号 (*pstnumber*) を示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

モジュール: DFSORP10

DFS2990E macro MACRO, RETURN=X'returncode',
[REASON=X'reasoncode',],
PART=partname DSN=dsname

説明: IMS は、まず、次のいずれかの一部として、HALDB 区画 *partname* 用のデータ・セット *dsname* に関する情報を収集するマクロ命令を開始しました。

- HALDB 区画 *partname* について HALDB OLR を開始する。

このマクロ命令は、レジスター 15 の戻りコード値が *returncode*、レジスター 0 の値が *reasoncode* で完了しました。これらの値は、IMS によって予期されていませんでした。

システムの処置: このエラーが HALDB OLR の開始中に発生した場合、HALDB OLR は開始されず、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能なままになります。

最初の 2 つの場合、1 つ以上の出力データ・セットがすでに自動的に作成されている可能性があります。

プログラマーの応答: メッセージ内に示されたマクロに基づいて、以下の表の該当する資料を参照してエラーの原因を判別し、推奨される処置を実行してください。

表 16. マクロ情報が記載されている資料

マクロ	資料
DEVTYPE	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: DEVTYPE マクロの仕様』
GETDSAB	「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」(SA22-7610) の『z/OS: GETDSAB - DSAB チェーンへのアクセス』
LOCATE	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: LOCATE からの戻りコード』
OBTAIN	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: OBTAIN を使用した VTOC からの DSCB の読み取り』
SWAREQ	「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) の『z/OS: SWAREQ マクロ』
TRKCALC	「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」(SD88-6462) の『z/OS: TRKCALC マクロの仕様』

INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出された場合は、区画 *partname* コマンドを発行してください。

モジュール: DFSORA00, DFSORA10

DFS2991E UNACCEPTABLE DATA SET,
REASON CODE reasoncode.
PART=partname DSN=dsname

説明: HALDB 区画 *partname* 用にデータ・セット *dsname* を作成するかどうかを判別中に、IMS は、次のいずれかを検出しました。

- 同じ名前のデータ・セット。しかし、その既存のデータ・セットの特定の特性が原因で、意図する目的にそのデータ・セットを使用できませんでした。
- その名前で既存のデータ・セットが存在すべきときに存在しませんでした。

ケース 1:

HALDB 区画 *partname* の HALDB オンライン再編成を開始中に、IMS は、再編成の出力として使用する必要があるデータ・セットが、次のいずれかであることを検出しました。

- 該当するデータ・セットとして使用できるタイプではなかった。
- 対応する入力データ・セットの特性と一致しない特定の特性を備えていた
- 存在しなかった

ケース 2:

IMS Catalog Populate ユーティリティーは、IMSカタログのロード中に、HALDB 区画 *partname* 用を使用される必要があるデータ・セットが次のいずれかであることを検出しました。

- 該当するデータ・セットとして使用できるタイプではなかった。
- IMS カタログの DBD の要件と一致しない特定の特性を備えていた。

上記のいずれの場合でも、*reasoncode* は特定の問題の理由コードです。

次の表は、可能な理由コードの定義を示しています。

この表の「環境」列は、そのエラーが検出されたのが、以下の 1 つ以上のアクティビティーの開始時であるかどうかを示しています。

- HALDB オンライン再編成
- ALTER オプションを指定した HALDB オンライン再編成
- IMS カタログのロード

表 17. メッセージ DFS2991I の理由コード、環境、および検出されたエラー

理由コード	環境	前から存在するデータ・セットについて検出されたエラー
1	すべて	データ・セットが DASD データ・セットではありません。
2	すべて	データ・セットは VSAM データ・セットですが、データベースは OSAM を使用するように定義されています。
3	すべて	データ・セットは、PDS であるか、PDSE であるか、または PDS か PDSE のメンバーです。
4	トラッキング、再編成	データ・セットは VSAM ESDS ではありませんが、データベースは VSAM を使用するように定義されています。
5	すべて	VSAM データ・セットが REUSE 属性を備えていません。
6	再編成	VSAM データ・セットのレコード長が、対応する入力データ・セットのそれと異なります。
7	再編成	VSAM データ・セットの制御インターバル・サイズが、対応する入力データ・セットのそれと異なります。
8	再編成	VSAM ESDS データ・セットの制御インターバル・サイズが、対応する入力データ・セットのそれと異なります。
9	再編成	データ・セットが VSAM KSDS ではありません。PHIDAM の 1 次索引データベースは、VSAM KSDS であることが必要です。

表 17. メッセージ DFS2991I の理由コード、環境、および検出されたエラー (続き)

理由コード	環境	前から存在するデータ・セットについて検出されたエラー
10	再編成	PHIDAM データベースの 1 次索引データ・セット (KSDS) が、対応する入力データ・セットと異なるキー・オフセットまたはキー長で定義されています。
11	トラッキング	VSAM データ・セットのレコード長が、アクティブ・サイトでトラッキングされた出力データ・セットのそれと異なります。
12	トラッキング	VSAM データ・セットの制御インターバル・サイズが、アクティブ・サイトでトラッキングされた出力データ・セットのそれと異なります。
13	トラッキング	PHIDAM データベースの 1 次索引データ・セット (KSDS) が、アクティブ・サイトでトラッキングされた出力データ・セットと異なるキー・オフセットまたはキー長で定義されています。
15	IMS カタログのロード	VSAM KSDS のレコード長は、IMS カタログを定義する DBD が要求するものとは異なります。
17	IMS カタログのロード	VSAM KSDS は、カタログを定義する DBD が要求するものとは異なるキー・オフセットまたはキー長で定義されています。
18	すべて	次のいずれかを行います。 <ul style="list-style-type: none"> • そのデータ・セットはカタログされていますが、カタログ・エントリが参照しているボリューム上に存在しません。 または <ul style="list-style-type: none"> • そのデータ・セットは、VOLUME パラメーターを持つ DD ステートメントで割り振られましたが、参照されたボリューム上に存在しませんでした。
19	すべて	そのデータ・セットは DD ステートメントで割り振られましたが、DSNAME パラメーター内のデータ・セット名は、この区画のデータ・セットについて定義された命名規則に従っていません。
20	トラッキング、再編成	出力データ・セットは存在しませんが、対応する入力データ・セットは複数のボリューム上にあり、SMS 管理データ・セットではありません。
22	すべて	HSM マイグレーション済みデータ・セットの再呼び出し後に、このデータ・セットに関連した予期しない条件が発生しました。この条件の原因はおそらく内部エラーです。
23	ALTER オプションを指定した再編成	VSAM データ・セットの制御インターバル・サイズが、RECON データ・セットの区画レコードの ALTER BLOCK SIZE フィールドでデータ・セットに指定されたサイズと異なります。
24	ALTER オプションを指定した再編成	データ・セットのブロックまたは制御インターバル・サイズが、このデータ・セットに保管できる最大のデータベース・セグメントを十分に保持できる大きさではありません。

システムの処置: このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

このエラーが IMS カタログをロードしているときに起こった場合は、カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、IMS Catalog Populate ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、出力データ・セットのうち 1 つ以上が、すでに自動的に作成されている可能性があります。

プログラマーの応答:

ケース 1:

HALDB オンライン再編成を再始動する前に、次のいずれかを実行します。

- 既存の出力データ・セットを削除することにより、IMS が出力データ・セットを自動的に作成できるようにします。IMS がデータ・セットを作成する場合、データ・セットのサイズと配置は、IMS、MVS、および DFSMS/MVS によって、さらに、ストレージ管理者が定義したパラメーターによっても、自動的に決定されます。したがって、データ・セットのサイズと配置を精密に制御する必要がある場合は、IMS にデータ・セットを作成させないでください。
- 再編成の出力として受け入れ可能なデータ・セットを作成します。OSAM 定義データベースの場合、データベース・セグメント用の出力データ・セット (A から J まで、または M から V までのデータ・セットのいずれか 1 つ) が、必ず次のものであるようにしてください。
 - DASD データ・セットである
 - VSAM データ・セットでない
 - PDS でなく、PDSE でもなく、PDS や PDSE のメンバーでもない

VSAM 定義データベースの場合、データベース・セグメント用の出力データ・セット (A から J まで、または M から V までのデータ・セットのいずれか 1 つ) が、必ず次の特性を備えるようにしてください。

- VSAM 入力順データ・セット (ESDS)
- REUSE 属性
- 入力データ・セットと同じ固定長のレコード長
- 入力データ・セットと同じ制御インターバル・サイズ。

PHIDAM データベースの場合は、1 次索引用の出力データ・セット (X または Y データ・セット) が、必ず次の特性を備えるようにしてください。

- VSAM キー順データ・セット (KSDS)
- 対応する入力データ・セットと同じキー・オフセット、キー長およびレコード長。
- REUSE 属性

その後、INITIATE OLREORG コマンドを再発行し、区画 *partname* について、HALDB オンライン再編成を開始します。

ケース 2:

IMS Catalog Populate ユーティリティを再実行して IMS カタログをロードする前に、次のいずれかを実行します。

- 既存の出力データ・セットを削除することにより、IMS が出力データ・セットを自動的に作成できるようにします。IMS がデータ・セットを作成する場合、データ・セットのサイズと配置は、IMS、MVS、および DFSMS/MVS によって、さらに、カタログをアクティブにする DFSDFxxx メンバーのパラメーターによって、またさらに、ストレージ管理者が定義したパラメーターによっても、自動的に決定されます。したがって、データ・セットのサイズと配置を精密に制御する必要がある場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティにデータ・セットを作成させないでください。
- カタログ用のデータ・セットとしての条件に合ったデータ・セットを作成します。データベース・セグメント用のデータ・セット (A から J までのデータ・セットのいずれか 1 つ) が、必ず次のものであるようにしてください。
 - DASD データ・セットである
 - VSAM データ・セットでない
 - PDS でなく、PDSE でもなく、PDS や PDSE のメンバーでもない

1 次索引、ILE データ・セット、または副次索引用であるデータ・セットが、必ず次の特性を備えるようにしてください。

- VSAM キー順データ・セット (KSDS)。
- IMS カタログの DBD が要求するキー・オフセット、キー長およびレコード長。
- これらの要件は、上記のとおりです。REUSE 属性。

その後、IMS Catalog Populate ユーティリティを再実行して、カタログをロードしてください。

モジュール: DFSORA00

DFS2992E CSI RETURN CODE=4, [{ CATALOG ERROR, | DATA SET ERROR, }]
 CATALOG MANAGEMENT RETURN CODE=*cmreturncode* REASON CODE=*cmreasoncode*
 MODULE=*cmmoduleid* PART=*partname* DSN=*dsname*

または

CSI RETURN CODE=*csireturncode* [**REASON CODE**=*csireasoncode*] **PART**=*partname* **DSN**=*dsname*

説明: IMS は、次のいずれかの一部として、HALDB 区画 *partname* 用のデータ・セット *dsname* に関する情報を収集するために、内部でカタログ検索インターフェース (CSI) を呼び出しました。

- その区画について、HALDB オンライン再編成を開始する。
- IMS カタログのロード

CSI は、メッセージ・テキストの中に示されている CSI 戻りコード値で完了しました。これらの CSI 戻りコードに関する情報は、「z/OS DFSMS カタログ管理」(SC88-8978) に記載されています。

このメッセージの最初の形式の場合 (CSI 戻りコードが 4 のとき) は、カタログ管理エラーが検出されました。その場合、*cmreasoncode*、*cmreturncode*、および *cmmoduleid* は、それぞれ、カタログ管理の理由コード、戻りコード、および 2 文字のモジュール ID です。このカタログ管理エラー情報については、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻」(SA88-8602) のメッセージ IDC3009I の項に説明があります。

このメッセージの 2 番目の形式の場合 (CSI 戻りコード *csireturncode* が 4 以外のとき) は、CSI エラーが検出されました。CSI 戻りコード 8 の場合、*csireasoncode* は CSI 理由コードです。この CSI エラー情報については、「z/OS DFSMS カタログ管理」に説明がありません。

これらの値は、IMS によって予期されていませんでした。

システムの処置: このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデー

タ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、自動的に作成されていたはずのデータ・セットのうち 1 つ以上が、すでに作成されていた可能性があります。




プログラマーの応答: CSI 戻りコードの値に基づいて、「z/OS DFSMS カタログ管理」を参照し、エラーの原因を判別して、推奨される処置を実行してください。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSORA80

関連資料:

-  z/OS: 汎用レジスター 15 の CSI 戻りコード
-  z/OS: CSI 戻りコード 4 および 8
-  z/OS: IDC3009I

DFS2993E NON-DASD DATA SET. DEVICE CLASS=X'*devclass*' PART=*partname* DSN=*dsname*

説明: HALDB 区画 *partname* のデータ・セットの 1 つであるデータ・セット *dsname* は、DASD データ・セットではありません。このデータ・セットは、HALDB オンライン再編成によって使用されていたか、または IMS カタログをロードするために IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) によって使用されていました。(内部で実行された DEVTYPE マクロ命令が報告した装置クラスは *devclass* (16 進数) であり、X'20' ではありません。) これは、データベースの一部としての使用に整合しません。

システムの処置: このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されません。

Catalog Populate ユーティリティを実行しているときにエラーが起こった場合、カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、このユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、必要なデータ・セットのうち 1 つ以上が、すでに作成されている可能性があります。

DFS2994E • DFS2996E

プログラマーの応答: データ・セット *dsname* を、HALDB に使用できる DASD データ・セットを参照するように変更してください。

修正が完了したら、エラー時に実行されていた HALDB オンライン再編成または DFS3PU00 ユーティリティを、再始動または再実行してください。

モジュール: DFSORA00

DFS2994E IDCAMs RETURN CODE *returncode*
CREATING AN ONLINE REORG
OUTPUT DATA SET. PART=*partname*
DSN=*dsname*

説明: IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の VSAM データ・セット *dsname* を作成しようとした。

- その区画について、HALDB オンライン再編成を開始する。
- IMS カタログをロードする。

アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMs) は、戻りコード *returncode* を戻しました。

システムの処置: IDCAMS によって生成されたメッセージがあれば、それがこのメッセージに先立って表示されています。

戻りコード 4 の場合、データ・セットの作成は完了したと想定されます。その場合、以下に述べる処置はどれも適用されず、処理が続行されます。

このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、このユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、データ・セットが自動的に作成されるようになっていた場合、そのようなデータ・セットのうち 1 つ以上が作成されている可能性があります。

プログラマーの応答: 「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻 (GOS - IEA)」(SA88-8602) を参照してエラーの原因を判別し、推奨されている処置を実行してください。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、エラーが修正された後に、このユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSORA20

DFS2995E IDCAMS RETURN CODE *returncode*
DELETING AN ONLINE REORG
INPUT DATA SET. PART=*partname*
DSN=*dsname*

説明: IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の VSAM 入力データ・セット *dsname* を削除しようとした。

- その区画について、HALDB オンライン再編成を完了する。

アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMs) は、戻りコード *returncode* を戻しました。

システムの処置: IDCAMS によって生成されたメッセージがあれば、それがこのメッセージに先立って表示されています。

再編成は、依然として正常に完了したと考えられ、この時点で、区画 *partname* 用に単一の新しいアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) が存在します。

プログラマーの応答: 「z/OS MVS システム・メッセージ 第 6 巻 (GOS-IEA)」を参照してエラーの原因を判別し、推奨されている処置があれば実行してください。その後、データ・セットがまだ削除されていなければ、削除してください。

モジュール: DFSORA20

DFS2996E NOT ENOUGH DASD SPACE.
ERROR REASON=X's99errorcode' [
SMS REASON=s99ersn]
BLOCKS=*blocks* BLKSIZE=*blksize*
VOLUMES=*volcount* {
UNIT=SYSALLDA | STORAGE
CLASS=*storageclassname* }
PART=*partname* DSN=*dsname*

説明: IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の OSAM データ・セット *dsname* を作成しようとした。

- その区画について、HALDB OLR を開始する。
- IMS カタログをロードする。

この目的に使用され、内部で実行された DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) は、DASD スペースまたは

DASD ボリュームの制約のためにデータ・セットを作成できなかったことを報告しました。要求されたスペースは *blocks* 個のブロックで、それぞれのブロック・サイズは *blksize* です。*volcount* 個のボリュームが要求されました。

メッセージ・テキストの中にグループ名 (SYSALLDA) を示すテキストが表示された場合は、対応する入力データ・セットが SMS 管理データ・セットではなかったために、非 SMS 管理データ・セットを作成しようとしていました。ストレージ・クラスを示すテキストが表示された場合は、対応する入力データ・セットが SMS 管理データ・セットで、ストレージ・クラス *storageclassname* を使用して作成されていたために、そのストレージ・クラスを使用して SMS 管理データ・セットを作成しようとしていました。

再編成が開始されようとしていた場合、これらのスペース割り振り値は対応する入力データ・セットから得られたものです。

このエラーの詳細については、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」(SA22-7608) を参照してください。値 *s99errorcode* は、DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) が戻りコード 4 で失敗したときに提供されるエラー理由コード (SVC 99 要求ブロック内のフィールド S99ERROR) の 16 進値です。SMS の場合、*s99ersn* は SMS 理由コード (SVC 99 要求ブロック拡張内のフィールド S99ERSN) です。SMS 理由コードは、エラーを記述する IGD メッセージのメッセージ番号に対応します。IGD メッセージの詳細については、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 8 巻 (IEF - IGD)」(SA88-8604) を参照してください。

システムの処置: このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、このユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、データ・セットが自動的に作成されることになっていた場合、エラーが起こる前に 1 つ以上のデータ・セットが作成されている可能性があります。

プログラマーの応答: 要求したスペース (サイズが *blksize* である *blocks* 個のブロック) が、出力データ・セットに必要であるかどうかを判別してください。場合

によっては、このスペース割り振り要求には、入力データ・セット用の 2 次割り振りによって獲得されるスペースが含まれていた可能性があり、再編成するデータベースには不要な場合もあります。その場合は、次のいずれかを実行してください。

- グループ名 SYSALLDA (非 SMS 管理の場合) によって参照されるか、ストレージ・クラス *storageclassname* (SMS 管理の場合) によって参照されるボリューム上に、十分な DASD スペースが存在することを、場合によっては不要なデータ・セットを消去することによって確認します。1 次割り振り量 (サイズが *blksize* である *blocks* 個のブロック) が、単一ボリューム上にある合計 5 つ以下のエクステンで利用可能である必要があります。SMS 管理の場合、ストレージ・クラス定義に GUARANTEED SPACE 属性が含まれていると、1 次割り振り量は、それぞれのボリューム上で使用可能でなければならず、また、それぞれのボリューム上に割り振られません。
- この出力データ・セットをユーザー自身が作成し、カタログします。その場合は、必要なスペース量を自由に選択して予約することができ、ボリューム数も制御できます。OSAM データ・セットの割り振り方法とマルチボリューム・データ・セットを事前に割り振る技法については、「OSAM データ・セットの割り振り (データベース管理)」を参照してください。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

IMS カタログをロードするために DFS3PU00 ユーティリティを実行しているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSORA20

関連資料:

➡ z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

➡ z/OS: IGD メッセージ

DFS2997E DATA SET ALLOCATED TO ANOTHER JOB AND CANNOT BE CREATED. PART=*partname* DSN=*dsname*

説明: IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の OSAM データ・セット *dsname* を作成しようとしていました。

- その区画について、HALDB OLR を開始する。
- IMS カタログをロードする。

データ・セットを作成するには、JCL を通じて DD ステートメントで DISP=NEW が指定された場合とまったく同じように、そのデータ・セットが割り振られている必要があります。しかし、同じ名前のデータ・セットがすでに別のジョブで使用されていたために、割り振りが失敗しました。

システムの処置: このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X のデータ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、エラーが起こる前に、そのほかのデータ・セットが作成されている可能性があります。

プログラマーの応答: 他のジョブが *dsname* という名前のデータ・セットを使用中でないことを確認してください。これは、そのデータ・セットがカタログされていない場合でも同様です。また、そのデータ・セットが、再編成の出力や IMS カタログ・データ・セットと同じデータ・セットになるように意図されていない場合でも同様です。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSORA20

```
DFS2998E  [ DATA SET CREATION ERROR. |
UNALLOCATION FAILURE. ]
RETURN=returncode [ { INFO.
REASON=X's99infocode' | ERROR
REASON=X's99errorcode' } ] [ SMS
REASON=s99ersn ] BLOCKS=blocks
BLKSIZE=blksize VOLUMES=volcount {
UNIT=SYSALLDA | STORAGE
CLASS=storageclassname }
PART=partname DSN=dsname
```

説明: IMS が、以下のいずれかの操作の一部として、HALDB 区画 *partname* 用の OSAM データ・セット *dsname* を作成しようとしていました。

- その区画について、HALDB OLR を開始する。
- IMS カタログのロード

メッセージ・テキストに示されているように、内部で実行された DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) が、次の 2 つの問題のどちらかを報告しました。

1. データ・セットを作成できなかった。
2. 正常に作成されたばかりのデータ・セットを、IMS ジョブから割り振り解除できなかった。

要求されたスペースは *blocks* 個のブロックで、それぞれのブロック・サイズは *blksize* です。 *volcount* 個のボリュームが要求されました。

メッセージ・テキストの中にグループ名 (SYSALLDA) を示すテキストが表示された場合は、非 SMS 管理データ・セットの作成が試みられました。ストレージ・クラスを示すテキストが表示された場合は、ストレージ・クラス *storageclassname* を使用して SMS 管理データ・セットの作成が試みられました。

HALDB オンライン再編成中にこのエラーが起こった場合、SMS 管理データ・セットと非 SMS 管理データ・セットのいずれを作成するかを選択は、対応する入力データ・セットに基づきます。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにこのエラーが発生した場合は、SMS 管理データ・セットと非 SMS 管理データ・セットのいずれを作成するかを選択は、IMS カタログを活動化する DFSDFxxx メンバーにおける STORCLAS パラメーターの有無に基づきます。

再編成が開始されようとしていた場合、これらのスペース割り振り値は対応する入力データ・セットの値から得られたものです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

returncode

DYNALLOC マクロ命令 (SVC 99) によって提供されたレジスター 15 戻りコードの 10 進値です。

s99infocode

情報理由コード (SVC 99 要求ブロック内のフィールド S99INFO) の 16 進値です。

s99errorcode

エラー理由コード (SVC 99 要求ブロック内のフィールド S99ERROR) の 16 進値です。

s99ersn

SMS の場合は、SMS 理由コード (SVC 要求ブロック拡張内のフィールド S99ERSN) です。SMS 理由コードは、エラーを記述する IGD メッセージのメッセージ番号に対応します。

システムの処置: このエラーが再編成の開始中に発生した場合、再編成は開始されませんが、区画は元のアクティブ・セットのデータ・セット (A から J までと X の

データ・セット、または M から V までと Y のデータ・セット) とともに、アクセス可能で残ります。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) で IMS カタログをロードしているときにエラーが起こった場合、IMS カタログはロードされず、メッセージ DFS4483E が書き込まれ、DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。

上記いずれの場合も、エラーが起こる前に、そのほかのデータ・セットが作成されている可能性があります。


プログラマーの応答: *returncode*、*s99info*、*s99errorcode*、および *s99ersn* の意味を適宜判別してください。推奨処置があれば実行し、エラーを訂正してください。

その後、INITIATE OLREORG コマンドの処理中にエラーが検出されていた場合は、区画 *partname* について、コマンドを再発行してください。

DFS3PU00 ユーティリティで IMS カタログをロードしているときにエラーが発生した場合は、このユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSORA20

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

 z/OS: IGD メッセージ

DFS3000I SUCCESSFUL COMPLETION OF DB REORG

説明: データベース部分再編成が正常に完了しています。

システムの処置: 処理は正常に終了しました。

第 64 章 DFS メッセージ DFS3001W - DFS3050A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3001W INVALID FORMAT. STATEMENT DID NOT BEGIN BEFORE COLUMN 17

説明: ステートメントが 1 から 16 桁目から開始されていませんでした。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その後で、ステップが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3002W INVALID KEYWORD IN PRECEDING STATEMENT COLUMN = *nn*

説明: *nn* 桁目から開始されているキーワードは、無効です。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その後で、ステップが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3003W ILLEGAL CONTINUATION

説明: 入力ストリングの終了文字がコンマで、72 桁目にブランクが検出されたか、終了文字がコンマではなく、72 桁目に非ブランクが検出されたか、いずれかです。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3004A FROMAREA INVALID FOR HIDAM OR KEYRANGE INVALID FOR HDAM

説明: FROMAREA が指定できるのは、HDAM の場合のみで、KEYRANGE が指定できるのは、HIDAM の場合のみです。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析さ

れるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3005A REQUIRED KEYWORD MISSING, KEYWORD = *keyword*

説明: 示されている必須キーワードが欠落しています。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3006A INVALID KEYWORD FOR THIS STEP ON PRECEDING STATEMENT, KEYWORD = *keyword*

説明: 示されているキーワードは、このステップでは無効です。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3007I SORT CORE SIZE NOT SPECIFIED ON THE EXEC PARMS, SORT MAIN STORAGE SIZE IS DEFAULTED TO CORE=MAX

説明: DFSUCUM0 ユーティリティまたは DFSURG10 ユーティリティの EXEC ステートメントでソート・コア・サイズのパラメーターを指定できませんでした。デフォルトの CORE=MAX が使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。デフォルトのソート・コア値サイズが使用されます。

モジュール: DFSUCMN0、DFSURG10

DFS3008W KEYWORD PREVIOUSLY SPECIFIED, KEYWORD = *keyword*

説明: 示されているキーワードは、以前に別の入力ステートメントで指定されており、このタイプのキーワードは 1 つしか使用が許されません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3009W FROMAREA AND KEYRANGE ARE MUTUALLY EXCLUSIVE KEYWORDS

説明: FROMAREA と KEYRANGE が両方とも指定されています。FROMAREA が使用できるのは、HDAM データベースの場合のみであり、KEYRANGE を使用してもかまわないのは、HIDAM データベースの場合のみです。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3010W INVALID OPERAND IN PRECEDING STATEMENT FOR KEYWORD = keyword, COLUMN = nn

説明: 直前の検出に示されていたキーワードに関して、無効のオペランドが検出されました。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3011W MORE THAN 10 RANGES SPECIFIED

説明: 10 を超える KEYRANGE または FROMAREA は、使用できません。それぞれの FROMAREA または KEYRANGE の後で、10 を超える TOAREA は使用できません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3012W DBDLIB DOES NOT CONTAIN dbdname

説明: 指定された DBD は、DBDLIB に含まれていません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3013W DBD dbdname DOES NOT HAVE HD ACCESS METHOD

説明: 指定された DBD は、HDAM または HIDAM データベースではありません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3014W DATA SET GROUP(S) SPECIFIED ON INPUT STATEMENTS DO NOT MATCH DBD dbdname DSGs

説明: TOAREA 入力ステートメントで使用されているデータ・セット・グループは、DBD で検出されているものと同じではありません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3015A INTERNAL ERROR IN DFSPRDBD

説明: モジュール DFSPRDBD が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3016A LCHILD ENTRY DOES NOT EXIST
IN DBD *dbdname* FOR *segment-name***

説明: 1 次データベースの論理子の関連データベースで、LCHTAB エントリーが検出されませんでした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3017A MORE THAN 49 RELATED DATA
BASES**

説明: 49 という関連データベース数の限度を超えています。データベース部分再編成がこの再編成では使用できません。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3018A MORE THAN 500 SEGMENTS
PARTICIPATING IN
REORGANIZATION**

説明: 再編成に参加するセグメント数が 500 という限度を超えています。データベース部分再編成がこの再編成では使用できません。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3019 INSUFFICIENT STORAGE
AVAILABLE IN HIOP**

説明: 通信入出力プールで 16 メガバイト境界線 (HIOP) より上にあるストレージが不十分のため、コマンドが処理できませんでした。


システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: この状態は、後でコマンドを再入力することで解決できるような、一時的な状態である可能性があります。これが失敗した場合は、システム・プ

ログラマーに通知してください。

モジュール: DFSICLN2

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

**DFS3020 UNABLE TO OBTAIN AN AWE
FROM DFSBCB**

説明: 非同期作業エレメント (AWE) が IMS BCB サービスから取得できなかったため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: この問題は一時的条件で、後でコマンドを再入力することで解決できる可能性があります。この試みが失敗した場合は、システム・プログラマーに通知してください。

**DFS3021W DIRECT ADDRESS POINTERS IN
RELATED HISAM DATABASE
dbdname NOT ALLOWED**

説明: 関連 HISAM データベースに、1 次データベースを指す直接アドレス・ポインターがあります。データベース部分再編成は、この再編成を行うのには使用できません。

システムの処置: ステップは終了します。

**DFS3022W SYNCPOINT PHASE 1 FAILED DUE
TO FAILURE IN OBTAINING SPACE
FOR 5612 LOG RECORD.**

説明: プログラム DBFSYN10 が高速機能処理モジュール (DBFSLOG0) から戻りコード 16 (RC=16) を受け取りました。ストレージ・マネージャー・サービス・マクロ DFSBCB を使用して 5612 ログ・レコードの制御ブロックを取得できませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 共通サービス域 (CSA) ストレージ割り振りを増やしてください。

**DFS3023A MORE THAN 500 SCAN AND
RELOAD ACTIONS REQUIRED FOR
POINTER RESOLUTION**

説明: 論理的に関連したセグメント・ポインター解決のためのスキャンおよび再ロード・アクションの回数が 500 という限度を超えています。データベース部分再編成がこの再編成では使用できません。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3024W RAS SECURITY HAS SUPPRESSED
NNNNNNNN ICH408I MESSAGES
FOR REGION YYYYYYYY**

説明: RAS セキュリティーにより、複数の ICH408I メッセージが抑制されました。これは、指定された従属領域に RACF 定義エラーがあるためです。このメッセージは、RAS セキュリティーが従属領域に関する ICH408I メッセージの抑制をまだ行っていること、および抑制された ICH408I メッセージの数をユーザーに知らせるために発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

NNNNNNNN

抑制された ICH408I の数

YYYYYYYY

従属領域名

システムの処置: 無許可のトランザクションはメッセージ・キューに残り、他の適格な従属領域または IMSplex 内の他の IMS システムによって処理される可能性があります。処理は続行されます。

プログラマーの応答: 先行する DFS2497W メッセージを見つけてください。このメッセージで、指定された領域に対する無許可のトランザクションが指定されています。

問題を解決するには、DFS2497W に関する情報に示される対応に従ってください。

問題判別: 1、5、6、27、35、36

モジュール: DFSSCHR0

関連情報:

611 ページの『DFS2497W』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


DFS3025A INTERNAL ERROR IN DFSPRABC

説明: モジュール DFSPRABC が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しています。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、8、17a、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3026A DFSPRCOM DATA SET CANNOT BE
OPENED**


説明: 通信データ・セット DDNAME DFSPRCOM に関して、オープンが失敗しました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: 通信データ・セットが存在し、このステップに関する DD ステートメントに組み込まれているか確認してください。

問題判別: 2、3、8、17a、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3027I NO PSB GENERATED FOR THIS
EXECUTION OF PARTIAL
REORGANIZATION**

説明: PSB パラメーターは入力に組み込まれていませんでした。このパラメーターのデフォルトでは、PSB 生成はありません。

システムの処置: PSB がこの実行に関して生成されることはありません。

プログラマーの応答: PSB が必要な場合は、PSB=psbname を指定して、ステップ 1 を再実行してください。


**DFS3028A UNSUCCESSFUL OPEN OF *ddname*
DATA SET**

説明: システムは、メッセージ・テキストで *ddname* によって示されているデータ・セットを開くことができませんでした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。このデータ・セットに関する DD ステートメントが組み込まれ、指定が正しいか確認してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0310


DFS3029A UNSUCCESSFUL WRITE TO *ddname* DATA SET

説明: 指定されたデータ・セットに書き込みエラーがありました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3030A UNSUCCESSFUL READ FROM *ddname* DATA SET

説明: 指定されたデータ・セットに読み取りエラーがありました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17c、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3031A UNSUCCESSFUL CLOSE OF *ddname* DATA SET

説明: 指定されたデータ・セットがクローズできませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

問題判別: 2、3、8、17c、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3032A INTERNAL ERROR IN DFSPRWFM


説明: モジュール DFSPRWFM が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: 変更を元に戻すために IMS バックアウト機能を実行します。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3033A DBDS DO NOT MATCH, STEP 1 DBD=*dbdname*, STEP 2 DBD=*dbdname*

説明: ステップ 2 の入力で指定した DBD が、ステップ 1 で指定した DBD と同じではありません。

システムの処置: 指定エラーのため、PSBGEN は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3034A PREMATURE END OF FILE ON COMMUNICATIONS DATA SET

説明: 通信データ・セット (DFSPRCOM) でステップ 1 からステップ 2 に渡されるレコードが、ステップ 2 ですべては読み取られないうちに、ファイルの終わりに達しました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: ステップ 1 を再実行して、通信データ・セットを再作成してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3035A STEP 1 HAS TERMINATED AFTER PHASE *phase-name*

説明: メッセージ・テキストに示されているフェーズで、さらに処理を続けることができないエラーが検出されました。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3036W UNSUCCESSFUL COMPLETION OF PARTIAL DATA BASE REORGANIZATION

説明: データベース部分再編成の正常な完了を妨げるエラーが発生しました。

システムの処置: 処理は終了します。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3037A STATUS CODE *cc* RETURNED FROM
DL/I CALL ON RESTART ATTEMPT**


説明: エラー状況コード '*cc*' が、再始動呼び出しで DL/I によって戻されました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

**DFS3038A CHECKPOINT *nmn* NOT
SUCCESSFULLY TAKEN; RESTART
NOT POSSIBLE**


説明: メッセージ・テキストで *nmn* によって示されているチェックポイントが正常終了しませんでした。したがって、再始動は不可能です。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: データベースを復旧して、データベース部分再編成を最初からやり直す必要があります。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3039A INSUFFICIENT REGION SIZE


説明: 使用可能なストレージが不十分であったため、ステップ 2 でその制御ブロックを作成できませんでした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード U0310 が示されます。

プログラマーの応答: 領域サイズを大きくして、ステップ 2 を再実行してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3040A INVALID PCB LIST-TOO
[SHORT|LONG]**


説明: PSB は、含まれている PCB が少なすぎたか、または多すぎたため、データベース部分再編成のこの実行で使用できませんでした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: PSB のエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: PSB がデータベース部分再編成 (PDBR) のステップ 1 から生成された場合は、2、3、8、17a、18、19、35 を行ってください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3041W TOAREA *rbn-number* TO *rbn-number*
FOR DSG *data set-group-name*
EXTENDS BEYOND CURRENT END
OF DATA BASE**

説明: 示されている TOAREA が、データベースの現在の終わりを超えています。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3042A RELOAD COUNT NOT EQUAL TO
UNLOAD COUNT FOR ALL
SEGMENTS**


説明: ロードされたセグメントの数が、アンロードされたセグメントの数に等しくありません。詳しい情報については、範囲再ロード統計を参照してください。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3043A NO PRIME INDEX ENTRY IN DBD
FOR *ddname***

説明: *ddname* で識別される HIDAM データベースについて、1 次索引データ・セットがありません。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:



IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3044A RBA IN PRIME INDEX NOT EQUAL
TO RBA OF UNLOADED SEGMENT**

説明: 1 次索引の相対バイト・アドレス (RBA) が、アンロードされたセグメントの相対バイト・アドレス (RBA) と一致しませんでした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報:



IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3045W FROM AREA *rba-number* TO
rba-number NOT IN ROOT
ADDRESSABLE AREA**

説明: 示されている FROMAREA が、ルート・アドレス可能域にすべては含まれていませんでした。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3046W NO DATABASE RECORDS IN
FROMAREA/KEYRANGE STARTING
AT *rba-number/key-value***

説明: 示されている範囲では、レコードは検出されませんでした。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。次いでジョブが終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3047A SORT *xx* FAILEDIMS メッセージ

説明: 誤った戻りコードが、データベース部分再編成ソートから戻されました。*xx* は、問題が発生した SORT STEP を示します。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:



IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3048A END OF DBT WITHOUT IMR
MATCH**

説明: 索引保守レコードに基づくと、特定のデータベースがデータベース・テーブルで検出されませんでした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19

関連情報:



IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3049A UNEXPECTED EOF ON WF4

説明: 作業ファイル 4 に関して、ファイルの終わり条件が生じましたが、現在処理中の IMS 索引保守レコー

DFS3050A


ドと一致する B 索引作業レコードを見つけようとしている最中でした。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS データベース・バックアウト・ユーティリティーを使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3050A INVALID RECORD TYPE xx IN DWR


説明: メッセージ・テキストで xx によって示されている無効なレコード・タイプが含まれた、データ作業レコードが検出されました。このレコード・タイプは、システムに対して定義されていません。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 65 章 DFS メッセージ DFS3051A - DFS3100I

ここでは、次のメッセージについて説明します。


DFS3051A NO DMB FOR DATABASE *ddname*

説明: データ管理ブロックがディレクトリー (DDIR) で検出されませんでした。この問題は IMS 内部エラーです。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

問題判別: 2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3052A PERMANENT READ ERROR FOR SEGMENT AT RBA *rba-number*


説明: 示されている相対バイト・アドレス (RBA) について、永続読み取りエラーが発生しました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を使用して、PDBR のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3053A INVALID RETURN FROM DL/I CALL *function, dbdname, procopt, segment-name, level*


説明: bb、GA、または GK 以外の戻りコードが DL/I GU 呼び出しから戻されました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を使用して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 での変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3054A INTERNAL ERROR IN MODULE DFSPRIMS


説明: モジュール DFSPRIMS が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しています。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3055A INVALID PHYSICAL TWIN CHAIN


説明: 無効の物理兄弟チェーンが、HIDAM ルートのアンロードで検出されました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト機能を実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、5、8、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3056I STATUS CODE *cc* RETURNED FROM DL/I CALL ON CHECKPOINT ATTEMPT

説明: 状況コード *cc* が DL/I チェックポイント呼び出しで戻されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

**DFS3057I ATTEMPT TO WRITE TO DPRWF6
FAILED; CHECKPOINT 'nmn' NOT
TAKEN**

説明: 書き込みエラーが、チェックポイント *nmn* を書き込んでいて発生しました。再始動は、必要な場合でも不可能です。

システムの処置: 処理は続行されます。

**DFS3058A STATUS CODE *cc* RETURNED FROM
DL/I ON OPEN ATTEMPT**

説明: 索引保守ファイルでのオープン・エラーが発生しました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト・ユーティリティを実行して、データベース部分再編成 (PDBR) のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:



IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3059A INVALID RECORD TYPE *xx* IN XWR

説明: システムに対して定義されていないレコード・タイプ・コードが含まれた、索引作業レコードが検出されました。

システムの処置: ステップは異常終了し、異常終了コード 0310 が示されます。

プログラマーの応答: IMS バックアウト・ユーティリティを実行して、PDBR のステップ 2 で行われた変更を取り消してください。

問題判別: 2、3、8、17a、18、19、35

関連情報:



IMS 異常終了 0310

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3060I UNRESOLVED IN DOUBT IN
AREA=*xxxxxxxx*, COMMAND
REJECTED**

説明: DEDB エリアをオフラインで送信するコマンド (例えば、/STOP AREA、UPDATE AREA STOP(SCHD)、/DBR AREA または UPDATE AREA

STOP(Access) など) が、エリア *xxxxxxxx* に関して入力されました。このエリアには、未解決の未確定データがあります。データ保全性を保護するために、コマンドはリジェクトされます。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: 未確定データを解決し、コマンドを再発行してください。

**DFS3061I VSO AREA *aaaaaaaa* HAS I/O
TOLERATED CI, COMMAND
REJECTED**

説明: エリア *aaaaaaaa* は VSO エリアであり、XRF テークオーバーからの入出力許容データがあります。エリアをオフラインで取るコマンド (例えば、/STOP AREA、/DBR AREA、UPDATE AREA STOP(Access)、または /VUNLOAD AREA) が、エリアに関して入力され、コマンドは、データ保全性を保護するためにリジェクトされました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: IMS /UNLOCK SYSTEM コマンドと AVN UNLOCK コマンドのいずれかを入力して、入出力許容 EEQE をパージしてください。その後、コマンドを再入力してください。

モジュール: DBFARDC0

**DFS3062I PRELOAD ACTIVE IN
AREA=*areaname*, COMMAND
REJECTED**

説明: PRELOAD がアクティブなのは、エリア *areaname* の場合であり、コマンドは、異常終了を避けるためにリジェクトされました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: コマンドを再発行してください。

**DFS3063A DYNAMIC UNALLOCATION FAILED
FOR DD *ddname***

説明: データベース・リカバリー中に、データベース・リカバリー・ユーティリティは、*ddname* で特定されるターゲット・データ・セットを割り振り解除できませんでした。


システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティは異常終了し、ユーザー・コード 0302 が示されます。レジスター 15 に、割り振り解除障害に関する DYNALLOC エラー理由コードが入っています。

プログラマーの応答: イメージ・コピー・データ・セットが正しかったか確認してください。正しくなかった場


合は、JCL を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURT00

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

関連情報:

 IMS 異常終了 0302

DFS3064A DYNAMIC ALLOCATION FAILED FOR DD *ddname*

説明: 参照されている DD 名に関して、動的割り振りが失敗しました。

システムの処置: このデータ・セットを必要とする処理は一時停止します。

プログラマーの応答: データ・セットが存在し、現在のカタログ構造に収容されていることを確認します。

モジュール: DFSURT00、DFSUDMP0、DFSUDMT0

DFS3065I UTILITY ACTIVE IN AREA=*areaname*, COMMAND PENDING UTILITY TERMINATION

説明: 高速機能ユーティリティはこのエリアに関してアクティブです。ユーティリティの入出力時に、状況 FH、または AO が発行され、コマンドが処理されます。ユーティリティは、完了前に終了します。

システムの処置: /DBR または /STOP コマンドは処理されますが、コマンドの実行前に、ユーティリティのクリーンアップおよび切断が発生します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFARDA0

DFS3067A IMS *xxxxxxx* WAITING FOR SYNCHRONIZATION WITH OTHER FAILED IMS SYSTEMS. REPLY "OK" TO CONTINUE

説明: このメッセージは、OPTION SYNCPLX キーワードとパラメーターが入力された場合、IMS 緊急時再始動時に生成されます。

システムの処置: IMS システムは、通常の処理を開始する前に、応答を待ちます。

プログラマーの応答: 障害が起きた IMS システムがすべて再始動済みで WTOR を待っている場合は、WTOR に対して OK を応答してください。

モジュール: DFSRST00

DFS3069I MINIMUM VALUE SUBSTITUTED FOR LOW/HIGH BLOCK NUMBER

説明: SURVEYOR TOAREA 処理に関する低位または高位ブロック番号が、最小値 2 より小でした。

システムの処置: 低位/高位ブロック番号は、最小値 2 を取ります。


DFS3070A UNSUCCESSFUL OPEN OF *ddname* DATA SET

説明: システムが、メッセージに示されたデータ・セットを開くことができませんでした。

システムの処置: 処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントが存在し、指定が正しいか確認してください。訂正を行い、ジョブを再実行してください。

関連情報:

 0311 (メッセージおよびコード)

DFS3071A DBDNAME IN DBPCB DOES NOT MATCH DBDNAME ENTERED

説明: 入力ステートメントからの DBNAME と PCB のいずれかが誤りです。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 入力ステートメントを訂正してください。

DFS3072I NO KEY IS DEFINED IN THE DBD FOR THE ROOT SEGMENT OF THIS DATABASE


説明: DBD は無効です。

システムの処置: 処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3073I INTERNAL ERROR IN DFSPRSUR

説明: モジュール DFSPRSUR が、さらに処理を続けることができないエラーを検出しています。


システムの処置: 処理は異常終了 0311 で終了します。

DFS3074A • DFS3080I

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3074A INVALID RETURN FROM OLIC WHILE PROCESSING AN INITIALIZE DSG CALL


説明: データベースのオープンおよび初期設定でエラーがあったか、PCB の OLIC パラメーターが設定されなかったか、いずれかです。

システムの処置: 処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答: PSB および DD ステートメントで指定された OLIC=YES が、調査対象データベースに関して存在しているか確認してください。訂正を行い、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3075I INVALID STATUS CODE FROM DL/I function CALL-STATUS = *status code*


説明: DL/I 呼び出しから戻された戻りコードが無効でした。

システムの処置: 処理は異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答: IMS システムおよびすべての制御ステートメントが有効であることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3076W FROMAREA INVALID FOR HIDAM OR KEYRANGE INVALID FOR HDAM

説明: FROMAREA が指定できるのは、HDAM の場合のみで、KEYRANGE が指定できるのは、HIDAM の場合のみです。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂

正し、ジョブを再実行してください。

DFS3077A LOW BLOCK NUMBER FOR DSG *ddname* IS NOT WITHIN THE DATA SET GROUP

説明: TOAREA 処理に関して指定された低位ブロック番号が、DSG の現在の終わりよりも先でした。

システムの処置: エラー・パラメーターを迂回した後、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 低位ブロック番号が DSG 内に入るようによげ、ジョブを再実行してください。


DFS3078I INVALID RETURN CODE FROM OLIC WHILE PROCESSING A BLOCK LOCATE CALL

説明: ゼロ以外の戻りコードが、オンライン・イメージ・コピー・ブロック探索呼び出しから戻されました。

システムの処置: SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


DFS3079I INVALID RETURN CODE FROM OLIC WHILE PROCESSING A GET RBA CALL

説明: ゼロ以外の戻りコードが、オンライン・イメージ・コピー GET RBA 呼び出しから戻されました。

システムの処置: SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3080I INVALID RETURN CODE FROM BUFFER HANDLER WHILE PROCESSING A LOCATE BLOCK CALL

説明: ゼロ以外の戻りコードが、バッファ・ハンドラー・ブロック探索呼び出しから戻されました。

システムの処置: SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3081W STATEMENT DOES NOT BEGIN BEFORE COL 17

説明: ステートメントが 1 から 16 桁目から開始されていませんでした。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3082W UNKNOWN KEYWORD *keyword*

説明: 示されている制御ステートメントに関して、キーワードが認識されませんでした。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3083W INVALID SYNTAX *error description*

説明: 構文エラーがユーザー制御ステートメントで検出されています。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3084W INCOMPLETE STATEMENT

説明: 直前の制御ステートメントが不完全でした。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3085W ILLEGAL CONTINUATION

説明: 入力ストリングの終了文字がコンマで、72 桁目にブランクが検出されたか、終了文字がコンマではなく、72 桁目に非ブランクが検出されたか、いずれかです。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3086W KEYWORD PREVIOUSLY SPECIFIED
KEYWORD: *keyword***

説明: 示されているキーワードは、以前に別の入力ステートメントで指定されており、このタイプのキーワードは 1 つしか使用が許されません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3087W INVALID OPERAND

説明: 直前の検出に示されていたキーワードに関して、無効のオペランドが検出されました。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3088W MISSING KEYWORD: *keyword*

説明: 示されているキーワードが欠落しています。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3089W FROMAREA, KEYRANGE, AND TOAREA ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明: メッセージに表示されている 2 つのキーワード・タイプが指定されました。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3090W MORE THAN THE MAXIMUM OF 10 TOAREAS SPECIFIED

説明: 10 個以内の TOAREA を指定できます。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3091W DBDLIB DOES NOT CONTAIN *dbdname*

説明: DBDLIB 内で、*dbdname* で特定されるデータベースの DBD が検出されませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントまたは DBDLIB のエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3092W DBD *dbdname* DOES NOT HAVE HD ACCESS METHOD

説明: *dbdname* で特定される DBD が、HDAM または HIDAM データベースではありません。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3093W DATA SET GROUPS(S) SPECIFIED ON INPUT STATEMENTS DO NOT MATCH DBD *dbdname*

説明: TOAREA 入力ステートメントで使用されているデータ・セット・グループは、DBD で検出されているものと同じではありません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3094W FROMAREA *low block number* TO *high block number* NOT IN ROOT ADDRESSABLE AREA

説明: 指定された FROMAREA 範囲がこのデータベースのルート・アドレス可能域内にありません。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3095W NO RECORDS IN RANGE

説明: ユーザー制御ステートメントで指定された範囲では、レコードは検出されませんでした。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。


DFS3096A INVALID RETURN CODE FROM SVC

説明: エラー条件が SVC 処理によって検出されました。

システムの処置: SURVEYOR は異常終了し、異常終了コード 0311 が示されます。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3097W INPUT KEY LENGTH DOES NOT MATCH DATA BASE KEY LENGTH

説明: KEYRANGE に関して指定されているキーの長さが、DBD キー長さと同じではありません。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3098A SURVEYOR IS UNABLE TO LOCATE RECORD AT BEGINNING OF RANGE AND/OR PARTITION BOUNDARY

説明: FROMAREA 範囲または区画の最初のキーが見つかりません。調査ユーティリティの実行中に、範囲/区画境界で有意の削除または挿入アクティビティが生じていたか、データベース・エラーがあるか、いずれかです。


システムの処置: 処理は、ユーザー異常終了 0311 で終了します。

プログラマーの応答: 範囲/区画境界に対する有意の挿入/削除アクティビティとデータベース・ポインター・エラーの、いずれの可能性があるのかチェックして

ください。問題が解決されたら、ジョブを再実行してください。

問題判別: 2、3、4、8、9、11、17a、18、19、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0311

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3099W LOW KEY/RBN IS GREATER THAN HIGH KEY/RBN

説明: 入力された低位キー番号または低位ブロック番号が、FROMAREA、KEYRANGE、または TOAREA ステートメントで入力されたハイ・キー番号または高位ブロック番号より大です。

システムの処置: すべての制御ステートメントが分析されるまでは、処理は続行されます。その上で、処理は終了します。

プログラマーの応答: 制御ステートメントのエラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3100I UNABLE TO START SESSION, NODE *nodename* IN FP INPUT MODE

または

UNABLE TO START SESSION, USER OR NODE IN FP INPUT MODE

説明: セッション開始要求がリジェクトされました。最初の形式のメッセージは、参照されるユーザーまたはノードが高速機能入力モードになっている場合に、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。このユーザーまたはノードは、セッションを開始するには使用できません。

2 番目の形式のメッセージは、セッション開始要求で高速機能入力モードのノードを参照する場合に、LOGON または SCIP 出口によって出されます。参照されるユーザーまたはノードには、RCVYFP = NO が指定されており、高速機能入力がローカル・モードになっていません。メッセージ・テキストの *nodename* は、高速機能入力モードになっているノードの名前を識別します。

システムの処置: コマンドが無視されるか、LOGON または SCIP 要求がリジェクトされます。

オペレーターの応答: /DISPLAY USER または /DISPLAY NODE コマンドを使用して、ユーザーまたはノードの状況を判別してください。

モジュール: DFSICLQ0、DFSCNXA0

第 66 章 DFS メッセージ DFS3101I - DFS3150

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3101I MAXIMUM SESSIONS REACHED - NODE *nodename*

または

MAXIMUM SESSIONS REACHED

説明: 最初の形式のメッセージは、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。2 番目の形式のメッセージは、LOGON または SCIP 出口によって出されます。使用可能な並列セッションすべてが使用中であるか、単一セッション装置がまだアクティブであるか、いずれかです。この条件が生じる可能性があるのは、ハーフセッションが割り振られるか、停止されるか、活動停止中ではない場合です。/OPN コマンドが入力された場合は、OPTION=NOPNDST が TERMINAL マクロで指定された場合も、この条件が生じる可能性があります。

システムの処置: コマンドが実行されないか、LOGON/REQSESS が否認されます。

オペレーターの応答: セッションが使用可能になるまで待って、コマンドを再入力してください。

単一セッション装置での問題が解決しない場合には、端末が、内部セッション・クリーンアップの問題の結果として IMS 内でハングしている可能性があります。

VTAM VARY INACT および /CLSDST NODE FORCE の実行後も端末がハングしている場合は、コンソールのメモリー・ダンプを作成して IBM ソフトウェア・サポートに問題を報告してください。このメッセージの多くの端末について受信される場合、重大なシステムの待機、ハング、またはループ問題を示します。その場合、システムを停止する前に、コンソールのメモリー・ダンプを取ってください。

DFS3102I UNABLE TO ASSIGN, MSGDEL OPTIONS DO NOT MATCH

説明: このメッセージは、/ASSIGN コマンド・プロセッサによって出されます。/ASSIGN コマンドで参照されているユーザー名に関する MSGDEL オプションが一致しません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 有効な値を使用して、コマンドを再入力してください。

DFS3103 USER IS NOT ALLOCATED

説明: 指定されたユーザーが割り振られていないか、指定された動的端末にユーザーが割り振られていません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

ユーザーの処置: ユーザーのサインオン後に、コマンドを試みてください。

DFS3104 USER ALLOCATED TO SESSION

説明: 指定されたユーザーは、現在「ノード・セッション」に割り振られているか、/OPNDST コマンドによる割り振りの処理中です。したがって、/ASSIGN または /STOP コマンドは、割り振られたユーザーについては無効です。/DEQUEUE LTERM P1 PURGE は、デキューが生じかねないので、この時点では使用を許されません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: /ASSIGN または /STOP の場合は、セッションが終了するのを待ってから、コマンドを再入力してください。/DEQUEUE LTERM P1 PURGE の場合は、ユーザーは割り振りプロセスにありました。ユーザーが割り振られると、ノード・ハーフセッションが停止されるか、活動停止中 (例えば、/STOP NODE USER の使用) であれば、/DEQUEUE LTERM P1 PURGE コマンドが受け入れられます。

DFS3105I USER HAS NO LTERMS

説明: 詳細情報および処置については、メッセージ DFS3105 を参照してください。

関連情報:

DFS3105

DFS3105 SUBPOOL HAS NO LTERMS - NODE *nodename* SUBPOOL *sbplname*

説明: セッション開始要求がリジェクトされました。

最初の形式のメッセージは、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。コマンドで指定された最

初のユーザーに現在割り当てられている論理端末がない場合に、これが発行されます。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、ISC セッション開始要求でノードおよびサブプールが参照され、参照されたサブプールに LTERM がまったく関連付けられていない場合です。

システムの処置: コマンドが無視されるか、LOGON/REQSESS 要求が否認されます。

DFS3106I USER KEYWORD IS INVALID

説明: USER キーワードが、入力されているコマンドに対して無効または不適切です。

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部である場合は、ユーザーがオンになって (活動して) いるか、別の IMS システムに所有されている可能性があります。その場合は、たとえそのユーザーがこのシステムに静的に定義されていても、この IMS ではユーザーを見つけられなくなります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: USER キーワードの使用制限に留意して、コマンドの有効な構文および制限を確認してください。

モジュール: DFSICLN0

DFS3107I USER NOT AVAILABLE, IN USE BY /ASSIGN OR /DEQUEUE

説明: セッション開始要求がリジェクトされました。

詳しい説明および処置については、DFS3107 を参照してください。

関連情報:

DFS3107

DFS3107 USER NOT AVAILABLE, IN USE BY /ASSIGN OR /DEQUEUE

または

USER NOT AVAILABLE - NODE *nodename* USER *username*

説明: セッション開始要求がリジェクトされました。

最初の形式のメッセージは、/ASSIGN コマンドによる割り当て、または /DEQUEUE LTERM P1 PURGE によるデキューにかかわったユーザー名を参照する、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、ISC セッション開始要求で使用不能ユーザーが参照されている場合です。

ユーザーが使用不能なのは、STOPPED になっていたり、/ASSIGN、/DEQUEUE、または /SIGN コマンドによって現在参照されていたり、現在使用中である場合です。

システムの処置: コマンドが無視されるか、LOGON/REQSESS 要求が否認されます。

オペレーターの応答: /DIS USER コマンドを入力して、ユーザーの状況を判別してください。ユーザーが is STOPPED になっている場合は、/START USER コマンドを発行してください (該当する場合)。ユーザーが /ASSIGN、/DEQUEUE、または /SIGN コマンドの対象になっている場合は、このコマンドが完了するのを待ってから、/OPN コマンドを再入力してください。

DFS3108I USER KEYWORD PARAMETER IS INVALID OR MISSING

説明: USER キーワード・パラメーターが、欠落していたか、有効な名前ではなかったか、無効のコンテキストで使用されていました。名前は有効な可能性があります。入力された別のユーザー名、またはユーザーが割り振られていないノード名と共に使用されている名前と重複している可能性があります。

この IMS システムが、IMS Resource Manager を使用するシスプレックスの一部である場合は、ユーザーがオンになって (活動して) いるか、別の IMS システムに所有されている可能性があります。その場合は、たとえその名前がこのシステムに静的に定義されていても、この IMS では名前を見つけられなくなります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドの構文および制限を確認してください。/DISPLAY ASMT コマンドを使用して、ユーザーの現行割り当てを書き留めてください。

モジュール: DFSICLN0

DFS3109 INVALID NODE TYPE

説明: 入力されたコマンドの形式が、コマンドで指定されているノード・タイプの場合は適用できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドの許容フォーマットおよび制限を確認して、コマンドを再実行してください。

DFS3110I INVALID KEYWORD SEQUENCE

説明: コマンド・エディター (DFSICL30) が、NODE キーワードが USER キーワードおよびそのパラメーターの後に続いて入力されたコマンドを検出しました。これらのキーワードが両方とも使用される場合は、ユーザーがノードの後で指定される必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: キーワードを正しい順序で使用して、コマンドを再実行依頼してください。

モジュール: DFSICLN2、DFSICLN3、DFSICLN4

**DFS3111I UNABLE TO START SESSION -
NODE *nodename* STOPPED**

または

**UNABLE TO START SESSION -USER OR NODE
STOPPED**

説明: セッション開始要求がリジェクトされました。

最初の形式のメッセージを出すのは、参照されているユーザーまたはノードが STOPPED になっている場合は、/OPNDST コマンド・プロセッサです。ユーザーまたはノードを参照して、セッションを開始することはできません。

2 番目の形式のメッセージが LOGON または SCIP 出口によって出されるのは、セッション開始要求で STOPPED ノードを参照する場合です。

システムの処置: コマンドが無視されるか、LOGON/REQSESS 要求が否認されます。

オペレーターの応答: /DISPLAY USER および /DISPLAY NODE コマンドを使用して、ユーザーおよびノードの状況を判別してください。

**DFS3112I USER NOT AVAILABLE, CANNOT
PROCESS COMMAND**

説明: 指定されたユーザー名はすでに割り振られ、別のノードとのセッション中であるか、指定されたノードに割り振られています。ユーザー名が /OPNDST コマンドの ID= キーワードで指定されているものとは異なっています。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /DISPLAY ASMT USER コマンドを使用して、ユーザー名が割り振られているかどうかと、そのユーザー名が割り振られているノード名を判別してください。ユーザー名が /OPNDST コマンドで指定されているノード名と同じ名前に割り振られている場

合は、正しいハーフセッション修飾子 (ID=) を使用して、コマンドを再入力してください。ユーザー名が、/OPNDST コマンドで指定されているノード名とは異なる名前に割り振られている場合は、ユーザー名が使用可能になるまで待つか、/STOP USER コマンドを入力して、現在の割り振り済みセッションの終了時に、割り振りがさらに行われないようにしてください。

DFS3113I SESSION ALREADY ACTIVE

説明: コマンドの NODE および USER パラメーターが、すでに確立されているか、または確立の過程にある LUTYPE6 セッションを指定します。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /DISPLAY NODE USER コマンドを使用して、セッションの状態を判別してください。

**DFS3114I MULTIPLE NODE PARAMETERS
ARE INVALID**

説明: 総称ノード名 ALL、またはノード名の範囲が、コマンドの NODE キーワードに指定された場合は、USER キーワードも FORCE キーワードも指定できません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: コマンドの構文を訂正し、再実行します。

**DFS3115I NODE IN USE, CANNOT PROCESS
COMMAND**

説明: /ASSIGN が、次の理由で失敗しました。

1. USER を逆に VTAMPOOL に /ASSIGN しようと試みているとき、指定されたユーザー名が割り振られているハーフセッション・ノードが、会話型モード、事前設定モード、または応答モードでセッション中であるか、あるいはハーフセッション・ノードが停止しておらず、活動停止中ではない。
2. LTERM またはユーザー名を別の (ターゲット) USER に /ASSIGN しようと試みているとき、指定されたターゲット USER が割り振られているハーフセッション・ノードがセッション中であり、活動停止中ではない。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 障害に対して、次のように応答してください。

1. 上述した最初の障害の場合は、/STOP NODE P1 USER P2 コマンドを発行して、ハーフセッションを停止してください。/DISPLAY NODE USER コマンドを使用して、ハーフセッション・ノードが停

止され、使用されていない状態かを検証し、元の /ASSIGN コマンドを再入力してください。ハーフセッション・ノードが会話型モード、事前設定モード、または応答モードの場合は、 /START NODE P1 USER P2 コマンドを (/STOP の後で) 発行して、こうした特殊モードをクリアした上で、別の /STOP を発行してください。

- 上記の 2 番目の障害の場合は、ターゲット USER が割り振られているハーフセッションに関して、 /STOP NODE P1 USER P2 コマンドを発行してください。 /DISPLAY NODE USER コマンドを使用して、ハーフセッション・ノードが活動停止中であり、セッション中ではないか検証し、元の /ASSIGN コマンドを再入力してください。

DFS3116I USER AND TERMINAL MSGDEL OPTIONS DO NOT MATCH

説明: /OPNDST NODE USER を試みているとき、ユーザー名および端末メッセージ削除オプションが一致しません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 適切なメッセージ削除オプションを使用してユーザー名を選択し、 /OPNDST コマンドを再入力してください。

DFS3117 SESSION NOT ACTIVE, CANNOT DEQUEUE

説明: /DEQUEUE コマンドが、PURGE キーワードを指定しないで入力されましたが、指定されたノード名およびユーザー名 (さらに、使用されている場合は、LTERM)、または指定された LTERM にかかわりのあったセッションは、アクティブではありませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: PURGE キーワードを使用する必要があるかどうか判別してください。 /DISPLAY NODE P1 または /DISPLAY ASSIGNMENT LTERM P1 コマンドを使用して、アクティブであるセッションを判別できます。

DFS3118 MESSAGE CANNOT BE PROCESSED SYNCHRONOUSLY

説明: メッセージは同期処理できません。次のいずれかのモードに従う必要があります。

- テスト・モード
- コマンド
- 会話型トランザクション
- 応答モード

システムの処置: セッションは終了します。関係のある

情報が入っている、ID が CVCT の IMS ログ・レコードが生成されました。

システム・プログラマーの応答: 宛先タイプを上記のいずれかに変更するか、ATTACH を非同期形式に変更するか、いずれかを行ってください。

問題判別: 1、5、6、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3119I NO USERS ARE ALLOCATED TO NODE

説明: コマンドで NODE キーワード、および ALL パラメーターを指定した USER キーワードを指定しましたが、指定されたノードに現在割り振られているユーザー名がないか、または指定されたノードがシステム内にありません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。


DFS3120I MSC IN SYSTEM BUT DFSCMR00 NOT AVAILABLE

説明: IMS 再始動中は、MSC 制御ブロックを復元するために、モジュール DFSCRM00 が必要ですが、それが利用不能です。

システムの処置: このメッセージの後に IMS 3120 異常終了が続きます。

プログラマーの応答: DFSCMR00 が DFSRST00 ロード・モジュールにリンクされているかどうかを確認します。

関連情報:

 IMS 異常終了 3120

DFS3121A LOGICAL COPY COMPLETE FOR GROUP|DB/AREA groupname | dbname - n OF m DATA SETS FAILED

説明: DFS3121I の説明を参照してください。

関連情報:

DFS3121I

DFS3121I COPIED DB/AREA dbname DDN ddname DSN dsname

説明: このメッセージは、識別されているグループ、データベース、またはエリアに含まれるデータベース・データ・セットに対するイメージ・コピー処理が論理的に完了したときに、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) によって出されます。

ユーティリティへの入力としてグループ名が指定されていた場合は、メッセージでそのグループが識別されず、それ以外の場合は、データ・セットがコピーされている各データベースまたはエリアごとに、DFS3121A メッセージが 1 つずつ出されます。

- n* イメージ・コピー処理が失敗したデータ・セットの数
- m* ユーティリティの今回の実行でコピーされるデータ・セットの総数

DFS3121I メッセージは、イメージ・コピーが現在論理的に完了している個々のデータベース・データ・セットを識別します。

システムの処置: ユーティリティは処理を続行します。イメージ・コピーが物理的に完了したときに、それらのイメージ・コピーが RECON データ・セットに記録されます。

プログラマーの応答: 排他的 (X) オプションを指定してユーティリティを実行するために、/DBD または /DBR コマンドで、データ・グループ、データベース、またはエリアについて更新処理を停止した場合は、この時点で /START DATAGROUP、UPDATE DATAGRP START(ACCESS)、/START DB、UPDATE DB START(ACCESS)、/START AREA、UPDATE AREA START(ACCESS) のいずれかのコマンドを発行することにより、更新処理を再開できます。

モジュール: DFSUDUI1

関連情報:

730 ページの『DFS3121A』

DFS3122A LOGICAL COPY FAILED FOR DB/AREA *dbname* DDN *ddname* DSN *dsname*

説明: 指定されたデータ・セットの並行コピー・セッションを初期設定する試みが正常に行われなかったことを、DFSMSdss がデータベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) に通知しました。この障害の詳細については、DFSMSdss によって発行された ADR734I メッセージおよびその他の ADR*nnn* メッセージを参照してください。

システムの処置: メッセージに指定されたデータベース・データ・セットに対するイメージ・コピー処理は、失敗します。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

オペレーターの応答: DFSMSdss によって発行された ADR*nnn* メッセージを参照して、問題の訂正方法を判別してください。ADR メッセージの説明については、

「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」(SA88-8597) を参照してください。

データ・セットが並行コピー機能をサポートするハードウェア上にない場合、または並行コピーを使用するつもりがない場合は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティ (DFSUDMP0) を使用して、イメージ・コピーを作成してください。

モジュール: DFSUDUI1

関連資料:

 z/OS: ADR734I

DFS3124A DBRC IS REQUIRED TO EXECUTE THIS UTILITY

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) を実行するには、DBRC が存在している必要がありますが、この実行では、DBRC=Y が指定されていませんでした。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: 実行パラメーターで DBRC=Y を指定し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFSUDMT0

DFS3125A PRIMER SAMPLE TEST, REPLY CONT, LOOP, ABEND OR CANCEL JOB

説明: このメッセージは、サンプル・プログラム DFS0AER によって出されます。バッチまたはオンライン・トランザクションを使用して、ユーザーがリカバリー・テストの同期に関して、オペレーターの介入を要求しました。要応答 z/OS オペレーター宛メッセージ (WTOR) が使用されます。このアクションにより、リカバリー手順をテストするために、アプリケーション・プログラムまたはシステム、あるいはその両方を強制的に終了するための環境が得られます。

システムの処置: ありません。

オペレーターの応答: ユーザーによる要求に従ってください。続ける場合は CONT、異常終了させる場合は ABEND、プログラム・ループを生じさせる場合は LOOP でそれぞれ応答するか、または z/OS CANCEL コマンドを使用してジョブを取り消してください。

DFS3126W RDS DATA SET REFORMAT REQUIRED DURING NEXT RESTART

説明: 書き込みエラーが、チェックポイント中に再始動データ・セット (RDS) で発生しました。RDS データ・セットは、次の再始動で必要な情報を保管する場合を除

けば、オンライン実行時には必要ないため、操作は続行されます。ただし、次の再始動では、ディスク・ログにアクセスして、システムを再始動するための情報を取得します。この時点で、RDS データ・セットの再フォーマットを行う必要があります。

システムの処置: 操作は続行されますが、システムは RDS データ・セットへのデータのロギングを停止します。システムは、命令が出されれば、シャットダウン正常にします。

プログラマーの応答: 再始動データ・セットの割り振りを確認してください。RDS の割り振り量は、RDS1 コンポーネント BCPT、RRE、SIDX、および LCRE 用に予約された少なくとも 90 のブロックを入れるのに十分な大きさでなければなりません。

システムの次の再始動時に、再始動コマンドで FORMAT RS を指定して、RDS データ・セットを再フォーマットしてください。この問題が引き続き生じる場合は、RDS のスクラッチ、再割り振り、および再フォーマットをご検討ください。

DFS3127I READ|WRITE ERROR OCCURRED ON THE RESTART DATA SET xxxxxx

説明: 再始動データ・セット (RDS) の読み取りまたは書き込みを試みているとき、または IMS チェックポイント中またはチェックポイント後にエラーが発生しました。

変数 xxxxxx の値は、次のいずれかです。

IMSRDS

エラーは、IMSRDS DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2

エラーは、IMSRDS2 DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

システムの処置: 読み取りエラーが発生した場合は、IMS は再始動を終了します。書き込みエラーが発生した場合は、IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 再始動データ・セットの割り振りを確認してください。RDS の割り振り量は、RDS1 コンポーネント BCPT、RRE、SIDX、および LCRE 用に予約された少なくとも 90 のブロックを入れるのに十分な大きさでなければなりません。

読み取りエラーの場合は RDS を削除および再割り振りしてから、FORMAT RS を指定して、再始動を再試行してください。

高速データベース・リカバリー領域での読み取りエラーの場合は、アクティブ IMS を終了し、RDS をスクラッチおよび再割り振りし、FORMAT RS を指定して、IMS を再始動してください。その上で、高速データベース・リ

カバリー領域を開始してください。

書き込みエラーが引き続き発生する場合は、IMS を終了し、RDS をスクラッチおよび再割り振りし、FORMAT RS を指定して、IMS を再始動してください。XRF 環境での該当するリカバリー・アクションについては、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

DFS3128A OPEN FAILED ON RESTART DATA SET, xxxxxxxx.

説明: OSAM は、再始動データ・セットを開けませんでした。変数 xxxxxxxx の値は、次のいずれかです。

IMSRDS

エラーは、IMSRDS DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2

エラーは、IMSRDS2 DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2 NOT DEFINED

IMSRDS2 DD ステートメントが無効であるか、欠落しています。

システムの処置: XRF 代替システムが開始されている場合は、RC=1 を伴う異常終了 U0970 が生じます。このメッセージが高速データベース・リカバリー領域によって出される場合は、異常終了 0574 が生じます。それ以外の IMS 開始はいずれも終了し、IMS は別の /START コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 該当する処置については、プログラマー応答を参照してください。

プログラマーの応答: 問題がシステム・ハードウェアまたはソフトウェアにはない (例えば、JCL がエラー、またはデータ・セットがフォーマットされていない) 場合は、再始動データ・セットを再割り振りする必要があります。後続の IMS で再始動データ・セットをフォーマット設定する必要があります。XRF および高速データベース・リカバリー環境では、アクティブ・システムでしか再始動データ・セットはフォーマットできません。

問題判別: 1、2、3、4、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3129I RUNNING IN SHARED QUEUES ENVIRONMENT - BUILDQ PARAMETER IGNORED

説明: オンライン・システムが、BUILDQ パラメーターを組み込んだコマンドを使用して開始されようとしていますが、システムは共用キュー環境で稼働中です。

BUILDQ パラメーターは、共用キュー環境では意味がありません。

システムの処置: BUILDQ パラメーターは無視され、再始動処理が実行されます。

モジュール: DFSRBCP0

DFS3130I ABEND 970 SCHEDULED RC=01 *yyy*


または

ABEND 970 SCHEDULED RC=*xx*

説明: 最初の形式のメッセージが出されるのは、IMS 異常終了 0970 がスケジュールされたときです。レジスター 10 の内容がフィールド *xx* に表示されます。2 番目の形式が出されるのは、異常終了 0970 がスケジュールされたときで、レジスター 10 に 01 が入ります。フィールド *yyy* には、AWE 戻りコードが入りますが、これについては、0970 に関する項に記載されています。

システムの処置: システムは異常終了し、異常終了コード 0970 が示されます。

関連情報:

 IMS 異常終了 0970

DFS3131A A COLD START OR EMERGENCY RESTART REQUIRED

説明: 正常再始動コマンドが実行依頼されましたが、シャットダウン・チェックポイント・コマンド後に、システムが終了しなかったか、またはシステムがコールド・スタートしたことはありませんでした。発信モジュールは DFSRBCP0 です。

システムの処置: IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 適切なパラメーターを指定して、コールド・スタート・コマンドと緊急時再始動コマンドのいずれかを入力してください。

モジュール: DFSRBCP0

DFS3132A CANNOT BUILDQ. SHUTDOWN WAS FREEZE.

説明: BUILDQ に関する正常再始動コマンド・パラメーターが指定されましたが、システムは、メッセージ・キューのメモリー・ダンプによって終了しませんでした。発信モジュールは DFSRBCP0 です。

システムの処置: IMS は別の再始動コマンドを待ちます。

マスター端末オペレーターの応答: 適切なパラメーターを指定して、再始動コマンドを入力してください。

DFS3133 FATAL DFSMS ERROR DURING RESTORE PROCESSING

説明: データ・セットの DFSMS 復元が失敗しました。

システムの処置: システムは異常終了し、異常終了コード 0225 が示されます。


プログラマーの応答: 障害の原因を判別するには、DFSMS ADR n メッセージの項を参照してください。

モジュール: DFSURDB0

関連資料:

 z/OS: ADR メッセージ

関連情報:

 IMS 異常終了 0225

DFS3134W GSAM PCB (NUM= n) IS NOT DECODED IN PSB *psb_name*

説明: Library ユーティリティ (DFS3LU00) または Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が GSAM PCB を ACB 形式からデコードできませんでした。

psb_name

PSB タイプの ACB メンバー名。

nnn GSAM PCB 番号。

システムの処置: ユーティリティは処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3135A KSDS DEFINITION DOES NOT ALLOW IMAGE COPY CONCURRENT WITH UPDATE ACCESS

または

KSDS DEFINITION DOES NOT ALLOW IMAGE COPY ONLINE FAST REPLICATION WITH UPDATE ACCESS

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) に提供された制御ステートメントが、並行コピーまたは高速複製を使用して KSDS デー

DFS3136I • DFS3140A

タ・セットのイメージ・コピーを取ろうとしました。データ・セットへの更新アクセスは許可されています (58 桁目に S が指定されたか、デフォルトになっていました)。ただし、DEFINE CLUSTER 属性 BWO(TYPEIMS) が KSDS に関して指定されませんでした。

システムの処置: イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0C のメッセージ DFS3144A も出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

システム・プログラマーの応答: KSDS に関する制御ステートメントで指定されたオプションを検討してください。更新または高速複製との並行イメージ・コピー処理ができるようにする必要がある場合は、アクセス方式サービス・プログラム (IDCAMS) の ALTER コマンドを使用して、データ・セットに対して BWO(TYPEIMS) を指定する必要があることを、データベース管理者に通知してください。「DFSMS/MVS Access Method Services for ICF」(SC26-4906) を参照してください。

モジュール: DFSUDUI1

関連情報:

736 ページの『DFS3144A』

DFS3136I NORMAL RESTART IN PROCESS

説明: IMS では、正常再始動が自動再始動オプションの下で必要であると判別しています。

システムの処置: IMS は正常再始動を進めます。発信モジュールは DFSRBCP0 です。

マスター端末オペレーターの応答: 必要ありません。

DFS3137I EMERGENCY RESTART IN PROCESS

説明: IMS では、緊急時再始動が自動再始動オプションの下で必要であると判別しています。

システムの処置: IMS は緊急時再始動を進めます。

DFS3138I INSUFFICIENT PSB|PSBW POOL SPACE


説明: XRF 代替システムまたは高速データベース・リカバリー領域が、アクティブ・システムのトラッキング中に、PSB のスケジュールを試みました。プール・スペースが不十分であったため、スケジュールは失敗しました。

システムの処置: システムは、異常終了 0593 で終了します。

プログラマーの応答: PSB プール・スペースを広げて、少なくともアクティブ・システムのプール・スペースに等しくなるようにしてください。

問題判別: 1、4、5、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0593

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3139 IMS (DCCTL) INITIALIZED, AUTOMATIC RESTART PROCEEDING

説明: 自動再始動オプションが選択されました。(DCCTL) がメッセージに表示されているのは、DCCTL 環境が初期設定されている場合です。

システムの処置: システムは応答を待ち、必要に応じて IMS 正常再始動または緊急時再始動を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) インストール先定義の適切な応答で応答してください。応答は処理されません。

DFS3140A SDEP SCAN UTILITY FAILED DUE TO INDOUBT SEGMENT IN THE SCAN RANGE

または

SDEP UTILITY FAILED DUE TO IN-DOUBT SEGMENT IN UTILITY RANGE

または

SDEP DELETE UTILITY FAILED DUE TO IN-DOUBT SEGMENT IN DELETE RANGE

説明: DEDB 順次従属スキャン・ユーティリティが、スキャンを要求されているセグメントの範囲で未確定セグメントを検出しました。

このメッセージの「SDEP UTILITY FAILED DUE TO IN-DOUBT SEGMENT IN UTILITY RANGE」バージョンの場合、DEDB 順次従属ユーティリティが、スキャンまたは削除するよう要求されたセグメントの範囲で未確定セグメントを検出し、コマンド INDOUBT がユーティリティ制御ステートメントとして指定されませんでした。スキャンまたは削除できるのは、打ち切られてコミットされた SDEP セグメントのみです。それらは、INDOUBT が指定されていないとスキップされます。

このメッセージの「SDEP DELETE UTILITY FAILED DUE TO IN-DOUBT SEGMENT IN DELETE RANGE」バージョンの場合、DEDB 順次従属削除ユーティリティが、削除を

要求されているセグメントの範囲で未確定セグメントを検出しました。削除できるのは、打ち切られてコミットされた SDEP セグメントのみです。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

ユーザーの処置: セグメントをスキャンできない場合は、オプションのパラメーター INDOUBT を、SYSIN レコードに組み込み、かつ未確定セグメント出力用に指定した SCANIDT データ・セットに組み込む必要があります。未確定セグメントを削除することはできないので、SCANIDT 内の RBA をスキャンの後に削除する意図がある場合は、それらの RBA を解決する必要があります。

古い未解決のセグメントがあるためにセグメントのスキャンまたは削除ができない場合は、そのセグメントを解決する必要があります。セグメントを解決し、それをデータベースに書き込んだ後、セグメントのスキャンまたは削除を行うことができます。

モジュール:

DBFUMDL0、DBFUMRT0、DBFUMSC0、DBFUMMS0

**DFS3141A PHYSICAL COPY COMPLETE FOR
GROUP|DB/AREA *groupname*|*dbname* -
n OF m DATA SETS FAILED**

説明: DFS3141I の説明を参照してください。

関連情報:

『DFS3141I』

**DFS3141I COPIED DB/AREA *dbname* DDN
ddname DSN *dsname***

説明: DFS3141A メッセージは、識別されているグループ、データベース、またはエリアに入っているデータベース・データ・セットに対するイメージ・コピー処理が物理的に完了したときに、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) によって出されます。ユーティリティへの入力としてグループ名が指定されていた場合は、*groupname* がそのグループを識別します。それ以外の場合は、データ・セットがコピーされた各データベースまたはエリアごとに、DFS3141A メッセージが 1 つずつ出されます。

DFS3141I メッセージは、正常にコピーされた個々のデータベース・データ・セットを識別します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

groupname

グループ名制御ステートメントに指定された名

前。コピーされるすべてのデータベース・データ・セットのイメージ・コピーは、物理的に完了しています。

dbname イメージ・コピーが物理的に完了しているデータベースまたはエリアの名前

n イメージ・コピー処理が失敗したデータ・セットの数

m ユーティリティの今回の実行でコピーされるデータ・セットの総数

ddname コピーされたデータ・セットの DD 名またはエリア名

dsname コピーされたデータ・セット

システムの処置: グループ、データベース、またはエリアのイメージ・コピーがすべて RECON に記録されました。他に処理中のデータ・セットがある場合は、ユーティリティは処理を続行します。

プログラマーの応答: 排他的 (X) オプションを指定してユーティリティを実行するために、/DBD または /DBR コマンドで、データ・グループ、データベース、またはエリアについて更新処理を停止した場合は、/START DATAGROUP、UPDATE DATAGRP START(ACCESS)、/START DATABASE、UPDATE DB START(ACCESS)、/START AREA、または UPDATE AREA START(ACCESS) のいずれかのコマンドを発行することにより、更新処理を再開できます。

モジュール: DFSUDUI1

関連情報:

『DFS3141A』

**DFS3142I DFSMSDSS MESSAGE ADR974I WAS
ISSUED FOR DB *dbname* DDN *ddname*
DSN *dsname***

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、DFSMSDSS が ADR974I メッセージを作成していることを通知されると、システム・コンソールに対してこのメッセージを発行します。

システムの処置: ユーティリティは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: ADR974I メッセージの説明については、「z/OS MVS システム・メッセージ 第 1 巻」(SA88-8597) を参照してください。識別されたデータ・セットが問題ないことを検証する必要があります。

モジュール: DFSUDUI1

関連資料:

z/OS: ADR974I

DFS3143A SAME DATASET ("S") SPECIFICATION ERROR.

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティーに対して提供されたユーティリティー制御ステートメントに、次のどちらかの構文エラーがあります。

- 255 を超えるデータベース・データ・セットを、同じ出力データ・セットにコピーするように指定していません。最大は 255 です。
- **Same Data Set (S)** オプションが指定されていますが、出力データ・セットを指定する制御ステートメントが前にありません。

システムの処置: ユーティリティーは終了し、戻りコード 16 が示されます。

システム・プログラマーの応答: ユーティリティーを再実行する前に、ユーティリティー制御ステートメントを訂正してください。Same Data Set オプションを指定する最初の制御ステートメントの前には、出力 DD 名を指定する制御ステートメントがなければなりません。同じ出力データ・セットにコピーするデータベース・データ・セットの数が 255 を超えないように指定してください。

問題判別: 2、3

モジュール: DFSUDMT0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3144A IMAGE COPY PROCESSING FAILED FOR DB/AREA *dbname* DDN *ddname*, REASON = *nn*

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティーが、指定されたデータベース・データ・セットまたはエリアのイメージ・コピーを作成できませんでした。

(*nn*) は、以下の理由コードのいずれかです。

理由コード

意味

- 01 DBRC AUTH 要求が失敗しました。
データベース許可を求める DBRC への要求が失敗しました。
- 02 DBRC INIT 要求が失敗しました。
イメージ・コピー処理を求める DBRC への INIT 要求が失敗しました。同時に出力されていた DSP メッセージを参照してください。
- 03 入力 DD ステートメントが欠落しています。

04 データベース・データ・セットに対する DD ステートメントが提供されませんでした。
出力 DD ステートメントが欠落しています。

05 イメージ・コピー出力データ・セットに対する DD ステートメントが提供されませんでした。
エリア・データ・セットがエラー・キュー・エレメント (EQE) を持っています。

06 EQE は、識別されたエリアのすべてのエリア・データ・セットに関してあります。同時に出力されていた DFS3726A メッセージを参照してください。
DFSMSDss DUMP 初期設定が失敗しました。

07 DFSMSDss は、このデータベース・データ・セットに対するダンプ・コマンドのメモリー・ダンプ・タスクをスケジュールしませんでした。
ダンプ・コマンドに関して出力された DFSMSDss ADR メッセージを参照してください。

08 イメージ・コピー・データ・セットに対する VOLSER がありません。

09 DFSMSDss は、ユーティリティーに対して、データベース・データ・セットが正常に完了したことを通知しましたが、その出力データ・セットのボリューム通し番号を、ダンプ処理のときに DFSMSDss から受け取りませんでした。
イメージ・コピー・データ・セットに対する VOLSER が無効です。

0A DFSMSDss から受け取った出力ボリューム通し番号が無効です。サブコード 4 が付いた異常終了 U0225 が出されました。異常終了の説明を参照してください。
高速機能エラーが検出されました。


0B 高速機能イメージ・コピー・モジュールが、イメージ・コピー処理で予期しない戻りコードを設定しました。高速機能エリアに関して出力されたエラー・メッセージを参照してください。
更新アクセスと並行して KSDS をコピーする試みが失敗しました。

0C ファジー KSDS イメージ・コピーのための並行コピー・セッションが、正常に初期設定されませんでした。同時に出力されていた DFS3145A メッセージを参照してください。

0D データベース/エリアが DBRC に登録されていません。

0E 識別されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されていません。

0F BWO(TYPEIMS) が KSDS に対して指定されていませんでした。

- KSDS データ・セットのファジー・イメージ・コピーが要求されましたが、KSDS に対して BWO(TYPEIMS) が定義されていません。同時に出力されていた DFS3135A メッセージを参照してください。
- 0D** DBRC EOD 要求が失敗しました。
- イメージ・コピー処理を求める DBRC への EOD 要求が失敗しました。同時に出力されていた DSP メッセージを参照してください。
- 0E** イメージ・コピー・データ・セットに入出力エラーがありました。
- 最後の、または唯一のイメージ・コピー出力データ・セットに入出力エラーが起きました。
- 0F** DFSMSDss DUMP 処理が失敗しました。
- DFSMSDss からのデータ・セット完了通知は、データ・セットが正常にダンプされなかったことを示しています。DFSMSDss ADR メッセージを参照して、失敗の原因を判別してください。
- 10** 動的割り振りエラー。
- データベース・データ・セットの動的割り振りが失敗しました。
- 11** 許可取り消しが失敗しました。
- データベースまたはエリアの許可を取り消す DBRC への要求が、失敗しました。
- 12** UIM 異常終了か、または予期しない DFSMSDss 処理
- DFSMSDss ダンプ・コマンド処理のときのユーザー対話モジュール (UIM)(DFSUDUI1) で異常終了が起こったか、データ・セット完了通知に UIM を作動させずにダンプ・コマンド処理が終了しました。異常終了がなかった場合は、このダンプ・コマンドに関する DFSMSDss ADR メッセージをチェックしてください。
- このコードは、DFSMS サーバーが QUIESCE モードになるときに出力される可能性があります。シャットダウンしない DFSMS サーバーを構成することによって、このような状況でこのコードを抑止することができます。
- 13** 出力データ・セットが正常にクローズされませんでした。
- クローズが正常に行われなかったか、または 1 次または 2 次イメージ・コピー・データ・セットに対して試行されませんでした。データ・セットについて、DFS0300I メッセージが発行されました。データ・セットが正常にクローズされなかったため、このデータ・セットを使用できない可能性があります。RECON に記録
- する有効なイメージ・コピーがないため DBDS についてのイメージ・コピー処理は失敗します。
- 14** システムは、コピーの候補であるポリュームのリストを作成しました。ただし、DFSMSDss 高速複製の要件を満たすポリュームはリストで見つかりませんでした。
- システムの処置: コピーされるデータベース・データ・セットで完了していないものが他にある場合は、ユーティリティは処理を続行します。ユーティリティの今回の実行の戻りコードは、8 以上です。
- 理由コード 14 の場合、ユーティリティ処理は戻りコード 16 で終了します。
- システム・プログラマーの応答: 指摘された問題を訂正して、データベース・データ・セットをコピーするために別のデータベース・イメージ・コピー 2 ジョブを実行依頼してください。理由コードが 07、08、および 12 (異常終了を伴う) の場合、問題を解決できなければ、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。
- モジュール: DFSUDMT0、DFSUDUI1、DFSUDMT1
- 関連情報:
- 91 ページの『DFS0300I』
 - 『DFS3145A』
 - 934 ページの『DFS3726A』
-  IMS 異常終了 0225
-
- DFS3145A ATTEMPT TO COPY KSDS
CONCURRENT WITH UPDATE
ACCESS FAILED**
- 説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) に提供された制御ステートメントは、KSDS データ・セットを更新アクセスと並行してコピーすることを指定していました (58 桁目に S が指定されたか、デフォルトになっていました)。しかし、データ・セットに対する現行更新アクティビティーのため、データ・セットのコピーに必要な並行コピー・セッションは、正常に初期設定されませんでした。KSDS が、コピーされる唯一のデータ・セットであった場合は、このユーティリティは、DFSMSDss ダンプ操作を数回試みてからこのメッセージを出します。
- システムの処置: イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0A のメッセージ DFS3144A も出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

DFS3146A • DFS3150

オペレーターの応答: 検出された条件は一時的である可能性があります。適当な時間が経過してから、KSDS のイメージ・コピー処理を再試行してください。

モジュール: DFSUDUI1

関連情報:

736 ページの『DFS3144A』

DFS3146A READJFCB FAILED FOR DD *ddname*

説明: 識別されている DD 名に関して、一致する DD ステートメントが JCL にないため、データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) は、高速機能エリア・データ・セットのリカバリー処理を続けられません。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答: LIST.ADS コマンドを使用して、ADDN/ADSN ペアの現行リストを取得し、それに応じて JCL を変更してください。

モジュール: DFSURT00

DFS3147A ATTEMPT TO READ THE CATALOG FAILED FOR DBDS *dbdsname*

説明: このデータ・セットに関連付けられているボリューム通し番号を判別するために、示されている *dbdsname* のカタログ項目を読み取ろうとしましたが、カタログを読み取る試行は失敗しました。

システムの処置: 処理は終了します。ユーティリティの戻りコードは 16 です。

システム・プログラマーの応答: データ・セットがカタログされていることを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURFR0

DFS3148A DATABASE *dbname* IS NOT REGISTERED WITH DBRC

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、DBRC に登録されていないため、指定されたデータベースまたはエリアを処理できません。JCL で指定された *dbname* が無効である場合にも、DBRC は「未登録」標識を戻します。それが RECON と一致しないためです。

システムの処置: イメージ・コピー処理が失敗したデータベース・データ・セットを識別するために、理由コードが 0B の DFS3144A メッセージも出されます。イメージ・コピー処理が完了していないデータベース・データ・セットが他にない場合は、ユーティリティが終了します。

オペレーターの応答: 適切なコマンド (例えば、INIT.DB) を使用して、イメージ・コピー処理を再試行する前にデータベースまたはエリアを登録するか、あるいはデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティ (DFSUDMP0) を使用して、イメージ・コピーを作成してください。

モジュール: DFSUDMT0

関連情報:

736 ページの『DFS3144A』

DFS3149A DFSUDMT0 CANNOT BE RUN IN STAND-ALONE MODE

説明: 領域コントローラー (DFSRR00) を使用して、データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) を実行する必要があります。

システムの処置: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) は、異常終了します。

オペレーターの応答: ユーティリティ・ジョブに関して適切なパラメーターを使用して、PGM=DFSRR00 を実行するように、EXEC ステートメントを変更し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSUDMT0

DFS3150 UNABLE TO LOCATE/FREE RESTART COMMAND BUFFER

説明: IMS 再始動が、コマンドを再処理する前に、タイプ X'02' ログ・レコード・セグメントを再始動コマンド・バッファ内に累積して、圧縮コマンドを再作成します。IMS がタイプ X'02' ログ・レコードの累積中に、必要な再始動コマンド・バッファを見つけれなかったか、または再始動処理の完了時に、バッファを解放できませんでした。

システムの処置: 再始動によって、ログに記録されたコマンドが再処理されないか、再始動コマンド・バッファが解放されないか、いずれかです。

オペレーターの応答: このエラーが発生したことを、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』のトピックを参照してください。

問題判別: 6、36、37

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 67 章 DFS メッセージ DFS3151 - DFS3200

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3151 UNABLE TO OBTAIN STORAGE FOR RESTART COMMAND BUFFER

説明: IMS 再始動が、タイプ X'02' ログ・レコード・セグメントを再始動コマンド・バッファ内に累積して、圧縮コマンドを再作成します。再始動では、このバッファ用として WKAP (MAIN) プールからストレージを取得できませんでした。

システムの処置: 再始動時に再処理されるはずのコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コマンド /DIS POOL MAIN を入力し、コンソール・リストを応答と共に保管し、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』のトピックを参照してください。

問題判別: 6、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3152 CONDENSED COMMAND BUFFER TOO SMALL FOR COMMAND

説明: 圧縮コマンドを作成している最中に、IMS は、バッファが小さすぎて、コマンド入力が取まらないことを発見しました。これは、圧縮コマンド・バッファ用として必要なストレージの量の計算を IMS が間違えたことによって生じた、内部 IMS エラーです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: このエラー・メッセージが出る原因となったコマンドを書き留めて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』を参照してください。

問題判別: 6、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3153 CONDENSED COMMAND BUFFER EXCEEDS LIMIT

説明: ALL パラメーターまたは包括的パラメーターの拡張が、圧縮コマンド・バッファが許容最大値を超える原因となりました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを複数のコマンドとして再入力してください。例えば、/DISPLAY LINE ALL を 2 つのコマンド /DISPLAY LINE 1-1000 および /DISPLAY LINE 1001-2000 として再入力してください。

DFS3154E CONDENSED BUFFER FOR COMMAND xxx REMAINS AT THE END OF RESTART

説明: IMS 再始動が、タイプ X'02' ログ・レコードを再始動コマンド・バッファ内に累積して、圧縮コマンドを再作成します。コマンドが再処理された後で、再始動バッファは解放されます。再始動が終了すると、コマンド xxx 用の再始動コマンド・バッファが残って、ログにコマンドで必要なタイプ X'02' ログ・レコード・セグメントがすべては入らなかったことを示しました。

システムの処置: コマンド xxx は再始動中には再処理されません。

オペレーターの応答: このエラーが発生したことを、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 取るべき処置を判断するには、次にリストした番号について、『IMS 問題判別』を参照してください。

問題判別: 6、35、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3155A AREA DATA SET NOT FOUND ADSN= dsname AREA NAME= areaname DDNAME= ddname REASON= rc

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) では、メッセージで識別されているエリア・データ・セット (ADS) をリカバリーできませんでした。16 進数の理由コードは次のとおりです。

- 8 入力データ・セットからのデータ・セット名は、RECON の ADS リストに見つかりましたが、エリア・データ・セットが事前割り振りされていませんでした。

システムの処置: 実行は終了し、エラー・コードが示されます。

オペレーターの応答: 理由コード 4 の場合は、DBRC コマンド INIT.ADS を使用して、データ・セット名を ADS リストに追加してください。その上で、あらかじめ GENJCL.RECOV コマンドを実行してください。

理由コード 8 の場合は、IDCAMS を使用してデータ・セットを割り振り、あらかじめ GENJCL.RECOV コマンドを実行してください。

モジュール: DFSURUI0

DFS3156I RESTORING ADDN= *ddname* ADSN= *dsname* FROM INPUT COPY DATA SET

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティは、メッセージに示されている ADDN および ADSN をターゲット・データ・セットとして使用しました。入力コピー・データ・セットからのこの ADDN および ADSN は、リカバリー対象の DEDB ADS に関して、RECON データ・セットの ADS リストと一致します。これらは JCL の ADDN および ADSN とは異なっている可能性があります。その理由は、メッセージに指定されたデータ・セットは、ADSN が事前割り振りされていたかどうかを判断するために、ICF カタログを検索することによって、検出されたからです。指定された ADDN および ADSN は、データ・セット・リカバリー・ユーティリティが正常に完了すると、使用可能として RECON データ・セットに記録されます。

システムの処置: データベース・リカバリー・ユーティリティが続行されます。

モジュール: DFSURUI0

DFS3157A IMAGE COPY FOR AREA *areaname* NOT FOUND ON INPUT DATA SET

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) では、示されているエリアをリカバリーできませんでした。そのエリアのイメージ・コピーが入力データ・セットで検出されなかったからです。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答: エリアで多重エリア・データ・セット (MADS) が使用されていて、しかもイメージ・コピー・データ・セットにコピーされたエリア・データ・セット (ADS) がもう RECON では定義されなくなっ

ている場合は、ユーティリティを再実行する前に、その ADS を再定義し、それを RECON の ADS リストに追加してください。それ以外の場合は、正しいイメージ・コピー・データ・セットを指定して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSURUI0

DFS3158A INVALID IMAGE COPY CONTROL STATEMENT SYNTAX, REASON=*nm*

説明: データベース・イメージ・コピー 2 ユーティリティ (DFSUDMT0) の制御ステートメントが無効です。このメッセージは、メッセージ DFS310A および DFS391E の後に続きます。制御ステートメントは、次のいずれかの理由で無効です。

コード

説明

- 01 全機能の非 HALDB データベースに対する無効な組み合わせの複製オプションが検出されたか、HALDB 区画は同じイメージ・コピー・オプション (DFSMS 高速複製または DFSMS 並行コピー) を使用する必要があります。
- 02 DFSMS 高速複製は同じデータ・セット・オプションをサポートしません。
- 03 SET PATCH 制御ステートメントに構文エラーが含まれていました。
- 04 無効な数のコピーが指定されました。
- 05 HLQ 仕様ステートメントで位置 3 (低位修飾子のタイム・スタンプ指定) に対して無効な値が指定されました。
- 07 HLQ 仕様ステートメントの高位修飾子も DBDS SELECT ステートメントの OUTPUT *ddname* も指定されませんでした。
- 08 GROUP ステートメントを最初のステートメントとして指定する必要がありますが、2 番目以降のステートメントとして指定されました。
- 09 生成された出力データ・セット名が 44 文字を超えたか、無効な修飾子を含んでいました。
- 10 HLQ 仕様ステートメントの 4 から 29 桁目で指定された出力データ・セット名の高位修飾子 (HLQ) にエラーがあります。このエラーは次のいずれかの原因の結果である可能性があります。
 - 出力データ・セット名の高位修飾子が、データ・セットの高位修飾子として構文的に正しくありませんでした。
 - HLQ 仕様ステートメントの 3 桁目で Y を指定して出力データ・セット名にタイム・スタンプを

付加することを指示しました。ただし、出力データ・セット名の全長が 44 文字を超えています。

- 11 DBDS select ステートメントの 63 桁目で H を指定して、イメージ・コピー・データ・セットの高位修飾子が後続の HLQ 仕様ステートメントで指定されることを示しました。しかし、このステートメントは、DBDS select ステートメントの直後に続きませんでした。

システムの処置: 制御ステートメント処理は、ユーティリティ戻りコード 16 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正して、データベース・データ・セットをコピーするために別のデータベース・イメージ・コピー 2 ユティリティ・ジョブを実行依頼してください。

モジュール: DFSUDMT1

DFS3160I IMS CMD=xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: 通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。実行される環境コマンドを表示します。最大 65 のコマンド文字が示されます。

システムの処置: ありません。

DFS3161I eeeeeee Call=xxxx RC=yyyy Reason=zzzz[Status="xx"]

説明: 通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。eeeeeee 環境 (ただし、eeeeeee は REXXTDLI と REXXIMS のいずれか) から最後の状況を示します。eeeeeee 値は、REXXTDLI または REXXIMS になります。

システムの処置: ありません。

DFS3162E Parm=xx Invalid on eeeeeee Command "yyyyyyyyy"

説明: IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。無効なパラメーターが eeeeeee 環境コマンドで指定されました。xx 値はエラーのパラメーターを表し、1 はコマンドの後の最初のパラメーターです。例えば、PCB パラメーターが無効である場合は、xx 値は、DL/I 呼び出しの場合に 1 となります。

eeeeeee 値は、REXXTDLI と REXXIMS のいずれかです。メッセージ・テキストで、yyyyyyyyy は発行された IMS コマンドを示します。

システムの処置: 環境コマンドは実行されませんが、

EXEC 実行は継続され、コマンドから戻りコード -5 が示されます。

プログラマーの応答: パラメーターを検証し、アプリケーションを訂正してください。

DFS3163E Excess Parameters on eeeeeee Command "xxxxxxxx"

説明: IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中の構文エラーです。eeeeeee 環境コマンドで指定されたパラメーターの数が無効です。eeeeeee 値は、REXXTDLI と REXXIMS のいずれかになります。

システムの処置: 処理は行われません。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -8 が示されます。

プログラマーの応答: IMS アダプター (REXX 版) 参照資料を使用してパラメーターを検証し、アプリケーションを訂正してください。

DFS3164E Unknown eeeeeee Command: xxxxxxxx

説明: IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが検出されました。コマンド xxxxxxxx が、言語処理環境 eeeeeee で認識されませんでした。認識されない場合の原因として考えられるのは、次のようなことです。

- このコマンドは、REXXTDLI ではなく REXXIMS に対して発行される必要がある。
- このコマンドは、z/OS 環境に対して発行される必要がある。
- このコマンドのつづりに誤りがあった。

メッセージ・テキストで、eeeeeee は次のいずれかの値になります。

REXXTDLI
REXXIMS

システムの処置: 処理は行われません。EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -3 が示されます。

プログラマーの応答: 認識されないコマンドを発行したアプリケーション EXEC を訂正してください。

DFS3165E Invalid Parameter to Function REXXIMS

説明: IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中に構文エラーが発生しました。REXXIMS 機能呼び出しで、無効な機能パラメーターが渡されました。

システムの処置: 無効の機能呼び出しが REXX インタープリターに送信され、そこでそれに応じて条件が処理されます。

**DFS3172I Invalid MAPGET Var: xxxx Map:
yyyyyyyyy**

説明: IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中のデータ・マッピング・エラーです。マップ yyyyyyyy の変数 xxxx をデコード/抽出している最中に、MAPGET ステートメントの EXEC、または DL/I "GET" 呼び出しでエラーが発生しました。一般的な原因としては、定義されたマップがマップへの入力セグメントより大である場合や、バック 10 進数またはゾーン 10 進数のデータ変換エラーなどがあります。

システムの処置: プログラムは続行されます。障害のある変数の値はドロップされます (詳しくは、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」を参照してください)。

プログラマーの応答: アプリケーションを訂正し、マッピング定義 (MAPDEF) を検証してください。

**DFS3173E Invalid MAPPUT Var: xxxxxxxx Map:
yyyyyyyyy**

説明: IMS アダプター (REXX 版) で EXEC を実行中のデータ・マッピング・エラーです。MAPPUT ステートメントの EXEC、またはマップ xxxxxxxx の DL/I "PUT" 呼び出しパッキング/連結変数 yyyy のエラーが発生しました。一般的な原因としては、マップ・データが、圧縮時に、出力セグメント/バッファより大きい場合があります。

システムの処置: 変数操作は打ち切られ、EXEC 実行は継続され、呼び出し/コマンドから戻りコード -10 が示されます。

プログラマーの応答: アプリケーションを訂正し、変数のつづりが正しいか検証してください。

**DFS3174A INVALID DATABASE RECOVERY
UTILITY CONTROL STATEMENT
SYNTAX, REASON=nn**

説明: データベース・リカバリー・ユーティリティ (DFSURDB0) の制御ステートメントが次の理由で無効です。

- 01 データベース・リカバリー・ユーティリティはデータベース・データ・セット名を DBRC から検索する必要がありますが、DBRC がアクティブではありません。

システムの処置: 制御ステートメント処理は終了し、ユーティリティ戻りコード 8 が示されます。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール:

**DFS3175E AN MSC CSLSCMSG REQUEST
FAILED, active_process, RETCODE = rc,
RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause,
MODULE =m, LINK = nnn, linkname**

説明: TCP/IP 物理リンクに割り当てられている MSC 論理リンク用のサービスを求める CSLSCMSG 要求に回答して、SCI が MSC にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを返しました。論理リンクはシャットダウンされています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

RESTART

SCI がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

SCI がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

SCI がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、論理リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、シャットダウンされた。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nmn 影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc SCI が発行した CSLSCMSG 戻りコード。

rsn SCI が発行した CSLSCMSG 理由コード。

考えられる原因: このメッセージの原因は、SCI 戻りコードおよび理由コードによって特定され、さらに、場合によっては、メッセージ・テキスト内の LOSTSESS フィールドに表示される値によっても特定されます。

システムの処置: MSC リンク・セッションは終了します。IMS は 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 レコードをログに記録します。

リモート IMS システムとの接続状況によっては、IMS は、リモート IMS システムへの通知を試行することもあります。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK xxx を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、/PSTOP LINK xxx または UPDATE MSLINK NAME(*linkname*) STOP(COMM) OPTION(FORCE) を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

リモート・システムへの通知が成功しなくても、ローカル IMS Connect への通知は成功する場合があります。この場合、ローカル IMS Connect は、関連したソケットをクリーンアップします。

システム・プログラマーの応答: リモート IMS システムが論理リンクの終了を通知されなかった場合、リモート・サイト側で /PSTOP LINK x FORCE または UPDATE MSLINK NAME(*linkname*) STOP(COMM)

OPTION(FORCE) を発行しなければならない場合があります。


RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。ローカルまたはリモートいずれかの IMSplex ネットワークに問題がある可能性があります。CSLSCMSG 要求についての戻りコードおよび理由コードを調べてください。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール:

Module	説明
DFSTCER0	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファ・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファ・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

関連資料:

 CSLSCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

DFS3176E IMS CONNECT ERROR MESSAGE RECEIVED, *active_process*, **RETCODE =** *rc*, **RSNCODE =** *rsn*, **LOSTSESS =** *cause*, **MODULE =***m*, **LINK =** *nmn*, *linkname*

説明: IMS Connect が、MSC からの要求またはメッセージの処理中にエラーを検出し、IMS にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを戻しました。エラーは、ローカル IMS Connect インスタンス、またはリモート IMS Connect インスタンスによっても検出された可能性があります。エラー・メッセージは、要求またはメッセージを発行したローカル IMS システムに戻されません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

RESTART

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、論理リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

STOPCLNT

ローカル IMS Connect インスタンスとリモート IMS Connect インスタンスの間の受信ソケットが終了した。

以下に、考えられる原因をいくつかリストします。

- IMS Connect の STOPCLNT コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 UPDATE コマンドが発行された。
- リモート IMS Connect の IMSplex エンティティ、MSC エンティティ、または RMTIMSCON エンティティが停止した。
- リモート IMS Connect が終了した。
- リモート IMS が終了した。

STOPIP

ローカル IMS Connect インスタンスと IMSplex の間の通信が停止した。これは、IMS Connect の STOPIP コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 UPDATE コマンドによって発生します。

STOPLINK

ローカル IMS Connect インスタンス内の MSC 論理リンクが停止した。こ

これは、IMS Connect の STOPLINK コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 UPDATE コマンドによって発生します。

STOPMSC

ローカル IMS Connect インスタンス内の MSC 物理リンクが停止した。これは、IMS Connect の STOPMSC コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 UPDATE コマンドによって発生します。

STOPRMT

ローカル IMS Connect インスタンスとリモート IMS Connect インスタンスの間の通信が停止した。これは、IMS Connect の STOPRMT コマンドまたはそれと同等のタイプ 2 UPDATE コマンドによって発生します。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn

影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc

IMS Connect が発行した戻りコード。このメッセージに関連する IMS Connect 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。これらに加え、そのほかの IMS Connect 戻りコードおよび理由コードが、HWSHRR マクロで説明されています。

rsn

IMS Connect が発行した理由コード。このメッセージに関連する IMS Connect 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

考えられる原因: このメッセージの原因は、戻りコード、理由コード、および LOSTSESS の値を検討することで判別できます。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード

戻りコード	理由コード	意味
X'0C000018'	X'00006000'	IMS からの受信が失敗しました。
	X'00006004'	リンクが見つかりません。
	X'00006008'	再始動するリンクがもう再始動されています。
	X'0000600C'	送信ソケットの取得に失敗しました。
	X'00006010'	CSLSCMSG 要求で無効なディレクティブが受信されました。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'00006014'	IMS Connect が、リンク・ブロックの取得に失敗しました。
	X'00006018'	ローカル IMS Connect が、無効なリンク再始動要求を検出しました。
	X'0000601C'	ローカル IMS Connect が MSC から切断されているため、IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006020'	MSC がアクティブでないため、ローカル IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006024'	再始動要求に含まれているローカル IMS システムの IMS ID が無効なので、ローカル IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006028'	ローカル IMS Connect が、無効なリンク・シャットダウン要求を検出しました。
	X'0000602C'	ローカル IMS Connect が MSC から切断されているため、IMS Connect は、リンクをシャットダウンできませんでした。
	X'00006030'	MSC がアクティブでないため、ローカル IMS Connect は、リンクをシャットダウンできませんでした。
	X'00006034'	シャットダウン要求に含まれているローカル IMS システムの IMS ID が無効なので、ローカル IMS Connect は、リンクを再始動できませんでした。
	X'00006038'	ローカル IMS Connect インスタンスは、MSC から無効なメッセージを受け取りました。
	X'0000603C'	ローカル MSC が切断されているため、IMS Connect は、リモート MSC からのメッセージを処理できません。
	X'00006040'	ローカル MSC がアクティブでないため、IMS Connect は、リモート MSC からのメッセージを処理できません。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'00006044'	メッセージに含まれている IMS ID が無効なので、IMS Connect は、リモート MSC からのメッセージを処理できません。
	X'00006048'	論理リンクを開始しようとしたが、IMS システムの DFSDCxxx PROCLIB メンバー内の GENIMSID パラメーターの値は、IMS Connect 構成 PROCLIB メンバー内の MSC 構成ステートメントにある GENIMSID パラメーターの値と一致しません。始動要求はリジェクトされます。この問題を解決するには、それら 2 つの GENIMSID 値を一致させてください。
	X'0000604C'	<p>TCP/IP 総称リソースを使用可能にする GENIMSID パラメーターが指定されていない IMS システムから論理リンクを開始しようとしたが、IMS Connect の論理リンクに関する MSC 定義では、TCP/IP 総称リソースのための GENIMSID パラメーターが指定されています。IMS Connect は、リンク再始動要求をリジェクトしました。</p> <p>この問題は、次のいずれかの方法で解決できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> IMS では、その IMS システムの DFSDCxxx メンバーで GENIMSID パラメーターを指定して、IMS を再始動してから、リンクを再始動してください。 IMS Connect では、IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメントから GENIMSID パラメーターの指定を削除して、IMS Connect を再始動してから、リンクを再始動してください。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'00006050'	<p>TCP/IP 総称リソース・グループ内で、IMS システムから、ある論理リンクを開始しようとしたが、その TCP/IP 総称リソース・グループ内では、同じ物理リンクを使用する 1 つ以上の論理リンクが、すでに別の IMS システムとのアフィニティーがあります。IMS Connect は、始動要求をリジェクトしました。</p> <p>問題を解決するには、TCP/IP 総称リソース・グループ内でその IMS システムから、アフィニティーがある論理リンクを再始動するか、別の IMS システム上の論理リンクを終了し、IMS Connect が既存のアフィニティーを解消した後、その IMS システムからリンクを再始動してください。</p>
	X'00006054'	IMS システムから IMS Connect に対し、リモート IMS システムからのリンク再始動要求を受け付けるところであると通知されましたが、TCP/IP 総称リソース・グループ内の別の IMS システムが、すでにそのリンク要求を受け付けています。IMS Connect は、この IMS システムからの受け付け通知をリジェクトしました。これはエラーではありません。
	X'00006058'	指定されたリンクが見つからないため、ローカル IMS Connect は、そのリンクをシャットダウンできませんでした。IMS Connect HWSF3355E メッセージがないか確認してください。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000605C'	TCP/IP 総称リソースを使用可能にする GENIMSID パラメーターが指定されている IMS システムから論理リンクを開始しようとしたが、IMS Connect の論理リンクに関する MSC 定義では、TCP/IP 総称リソースのための GENIMSID パラメーターが指定されていません。IMS Connect は、リンク再始動要求をリジェクトしました。 この問題は、次のいずれかの方法で解決できます。 <ul style="list-style-type: none"> IMS では、その IMS システムの DFSDCxxx メンバーで GENIMSID パラメーターの指定を削除して、IMS を再始動してから、リンクを再始動してください。 IMS Connect では、IMS Connect 構成メンバーの MSC ステートメント内に GENIMSID パラメーターを指定して、IMS Connect を再始動してから、リンクを再始動してください。
	X'00006100'	リモート IMS Connect への送信が失敗しました。
	X'00006200'	受信が、リモート IMS Connect インスタンスからの TCP/IP 読み取りで失敗しました。
	X'00006204'	データ・ストアへの送信が失敗しました。これは、おそらく内部エラーです。
	X'00006300'	IMS への送信が失敗しました。リモート IMS システムが使用不可であると考えられます。
	X'00006400'	MSC リンクが、ローカル IMS Connect インスタンスにおいて STOPLINK コマンドにより停止されました。
	X'00006404'	MSC 通信が、ローカル IMS Connect インスタンスにおいて STOPMSC コマンドにより停止されました。

表 18. メッセージ DFS3176E についての IMS Connect 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
	X'00006408'	リモート IMS Connect インスタンスへの接続に関する通信が、ローカル IMS Connect において STOPRMT コマンドにより停止されました。
	X'0000640C'	ローカル IMSplex との通信が、ローカル IMS Connect において STOPIP コマンドにより停止されました。
	X'00006410'	IMS Connect のシャットダウン。

システムの処置: MSC リンク接続は終了し、PSTOPPED IDLE ERE 状態に置かれています。IMS 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 タイプのレコードを書き込みます。

リモート IMS システムとの接続状況によっては、IMS は、リモート IMS システムへの通知を試行することもあります。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK xxx を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、/PSTOP LINK xxx または UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE) を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

リモート・システムへの通知が成功しなくても、ローカル IMS Connect への通知は成功する場合があります。この場合、ローカル IMS Connect は、関連したソケットをクリーンアップします。

出力宛先: z/OS システム・コンソールおよびマスター端末。

システム・プログラマーの応答: リモート IMS システムが論理リンクの終了について通知を受けられなかった場合、リモート・サイト側で /PSTOP LINK xxx FORCE または UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE) を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。ローカルまたはリモートいずれかの IMSplex ネットワークに問題がある可能性があります。そのほかに、SCI、IMS Connect インスタンス、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。


IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール:


Module	説明
DFSTCER0	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファ・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファ・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

関連資料:

 HWS メッセージ (IMS Connect) (メッセージおよびコード)

関連情報:

543 ページの『DFS2169I』

 HWSF3355E (メッセージおよびコード)

DFS3177E MSC DETECTED AN ERROR,
active_process, RETCODE = rc,
RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause,
MODULE =m, LINK = nnn, linkname

説明: MSC の TCP/IP 装置依存モジュール (DDM) が、メッセージ・テキストに示されている MSC 論理リンクに関連付けられたメッセージまたは要求の処理中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。可能な値は、以下のとおりです。

RESTART

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の

通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、シャットダウンされた。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn

影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc

MSC DDM が発行した戻りコード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

MSC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードおよび戻りコードによって示されます。

メッセージ **DFS3177E** での **IMS MSC DDM** 戻りコードおよび理由コード

次の戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セット内の DFSMSCWA マクロの SCIWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'00000008'	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000C'	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'00000010'	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'00000014'	無効な通知コードまたは通知条件の検出
	X'00000018'	無効な AWE の検出
	X'0000001C'	無効な MSC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出
	X'00000020'	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'00000024'	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000028'	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'0000002C'	無効または予期しない MSC リンク (MSLINK) 状況の検出
	X'00000030'	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信
	X'00000034'	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000038'	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003C'	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000040'	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'00000044'	SCIWORK エリアのエラー
	X'00000048'	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)
	X'0000004C'	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'00000050'	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'00000054'	出力編集エラー
	X'00000058'	入力編集エラー
QMGR RC	X'0000005C'	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'00000060'	DFSMSGPL マクロ・エラー、メッセージ接頭語不良
	X'00000064'	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信
	X'00000068'	無効な内部条件の検出
	X'0000006C'	内部制御ブロック・エラー

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000070'	SCI/ICON 異常終了、/PSTOP LINK FORCE コマンド、または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドに対して、SCI 通知出口ルーチンが通知するセッション欠落エラー
	X'00000074'	CSL が初期設定でないため CSLSCMSG 要求が発行不可能。IMS の始動プロセス上での CSLG = パラメーターを調べてください。CSLG=000 が最低限必要です。
	X'00000078'	CSLSCMSG 要求の失敗。要求に対して、SCI から非ゼロ戻りコードが戻されます。
	X'000000FC'	未判別エラー
	X'0000007C'	(RSNOLLB) LXB が SCI MSG 出口 DFSSXIN0 によって通知されたが、LXBTCLBP フィールドがゼロ。

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000080'	(RSN_BUFFER) CSLSCBFR RELEASE 要求で SCI バッファを解放できませんでした。RETCODE コードおよび RSNCODE コードについて詳しくは、CSLSRR マクロを参照してください。MSPLINK 関連エラーの場合は、RETCODE コードと RSNCODE コードが LXB ブロックの LXBRET フィールドと LXBRSN フィールドに保管されます。MSLINK 関連エラーの場合は、RETCODE コードと RSNCODE コードが LLB ブロックの CLBTEMP4 フィールドと CLBTEMP5 フィールドに保管されます。これらの制御ブロックは、6701-MSS1 ログ・レコードに記録されます。
	X'00000084'	(RSN_NOMSC) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、MSC が定義されていませんでした。
	X'00000088'	(RSN_NOLLBS) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、MSC LLB が定義されていませんでした。
	X'0000008C'	(RSN_NOLXBS) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、ターゲット・リンクに、セッションを開始するために使用できる LXB がありませんでした。

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000090'	(RSN_NOTCPIP) メッセージ入力ルーチン DFSSXIN0 が MSC TCPIP メッセージを受け取りましたが、ターゲット・リンクが TCPIP タイプではありませんでした。例えば、このエラーはターゲット・リンクが MSPLINK タイプに割り当てられている場合に発生します。
	X'00000094'	(RSN_NOLCB) LLB が MSPLINK LCB 制御ブロックに割り当てられませんでした。

システムの処置: MSC リンク接続は終了し、PSTOPPED IDLE ERE 状態に置かれています。IMS は、タイプ 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 のレコードをログに記録します。

IMS が、リモート IMS システムへの通知を試みます。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK xxx を発行します。

通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、/PSTOP LINK xxx または UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE) を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

出力宛先: z/OS システム・コンソールおよび IMS マスター端末。

システム・プログラマーの応答: リモート IMS システムが論理リンクの終了について通知を受けられなかった場合、リモート・サイト側で /PSTOP LINK x FORCE または UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE) を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール:

Module	説明
DFSTCER0	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファ・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファ・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

DFS3178E MSC DETECTED AN INTERNAL LOGIC ERROR, active_process,
RETCODE = rc, RSNCODE = rsn,
LOSTSESS = cause, MODULE =m,
LINK = mnn, linkname

説明: MSC の装置依存モジュール (DDM) が、内部論理エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった MSC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

RESTART

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンクの再始動についての通知を試行していた。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、リモート IMS システムに向けて、メッセージ・テキストで特定される論理リンク経由での MSC メッセージの送信を試行していた。

SHUTDOWN

IMS Connect がエラーを検出したとき、MSC は、IMS Connect およびリモート IMS システムに向けて、論理リンクがシャットダウンされる場所であるという通知を試行していた。

TCPPOST

装置依存のルーチン・ポスト・ハンドラー (DFSTCP20) が、CSL SCI 入力メッセージ出口ルーチン (DFSSXIN0) から受け取ったメッセージのポストを処理していたが、メッセージの対象である論理リンクの判別ができなかった、または CSLSCBFR バッファ解放要求でエラーが発生した。

UNKNOWN

識別不能な MSC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

FORCESTO

/PSTOP LINK FORCE または UPDATE MSLINK STOP(COMM) OPTION(FORCE) コマンドが、オペレーターによって発行された。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていないかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

linkname

影響を受けた MSC 論理リンクの名前。

nnn 影響を受けた MSC 論理リンクの番号。

rc MSC DDM が発行した戻りコード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn MSC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する MSC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードおよび戻りコードによって示されます。

メッセージ **DFS3178E** での、**IMS MSC** 機器依存モジュールの戻りコードおよび理由コード

次の戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セット内の DFSMSCWA マクロの SCIWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'00000008'	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000C'	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'00000010'	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'00000014'	無効な通知コードまたは通知条件の検出
	X'00000018'	無効な AWE の検出
	X'0000001C'	無効な MSC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000020'	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'00000024'	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出
	X'00000028'	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'0000002C'	無効または予期しない MSC リンク (MSLINK) 状況の検出
	X'00000030'	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信
	X'00000034'	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000038'	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003C'	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000040'	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'00000044'	SCIWORK エリアのエラー
	X'00000048'	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)
	X'0000004C'	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'00000050'	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'00000054'	出力編集エラー
	X'00000058'	入力編集エラー
QMGR RC	X'0000005C'	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'00000060'	DFSMGPL マクロ・エラー、メッセージ接続語不良
	X'00000064'	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000068'	無効な内部条件の検出
	X'0000006C'	内部制御ブロック・エラー
	X'0000007C'	LXB (リンク拡張ブロック) が SCI MSG 出口 DFSSXIN0 によって通知されたが、LXBTCCLBP がゼロ。この問題が発生してはなりません。
	X'000000FC'	未判別エラー
	X'00000098'	先に IMS が SCI との登録を解除した後に AWE が検出されました。

システムの処置: MSC リンク接続は終了されます。IMS は、タイプ 6701-MSS1、MSS2、および MSS3 のレコードをログに記録します。

IMS が、リモート IMS システムへの通知を試みます。通知が成功した場合、リモート IMS システムは、論理リンクを終了させて PSTOPPED IDLE ERE 状態に置き、リモート・サイト側でメッセージ DFS2169I DISCONNECTION COMPLETED ON LINK xxx を発行します。通知が失敗して、リンクがリモート・サイトで IDLE ACTIVE 状態のままである場合は、/PSTOP LINK xxx または UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE) を発行してリンクを終了させなければならない場合があります。

システム・プログラマーの応答: リモート IMS システムが論理リンクの終了について通知を受けられなかった場合、リモート・サイト側で /PSTOP LINK x FORCE または UPDATE MSLINK NAME(linkname) STOP(COMM) OPTION(FORCE)を発行しなければならない場合があります。

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

DFS3178E は、内部論理エラーの場合に発行されます。問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

モジュール:

Module	説明
DFSTCER0	DFSxxxx メッセージ・インターフェース
DFSTCPE0	CSLSCMSG 要求の実行
DFSTCP20	通知受信ハンドラー
DFSTCRC0	通知コードの検証
DFSTC1A0	出力送信コントローラー
DFSTC1B0	出力送信バッファ・セットアップ
DFSTC2A0	送信完了の処理
DFSTC3A0	入力受信コントローラー
DFSTC4A0	受信完了の処理
DFSTC7A0	ルーターの再起動およびシャットダウン
DFSTC7B0	再始動プロセッサ
DFSTC7C0	シャットダウン・プロセッサ
DFSTC7D0	シャットダウン終結処理
DFSCMSG0	帯域幅に基づく出力編集
DFSCMSP0	帯域幅に基づく入力エラー・メッセージ・プロセッサ
DFSCMSR0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSU0	帯域幅に基づく出力バッファ・ヘッダー・ビルダー
DFSCMSX0	帯域幅に基づく応答メッセージ・ビルダー
DFSCMSZ0	帯域幅に基づく入力メッセージ・プロセッサ
DFSCMS00	MSC アナライザー

DFS3179I TTTTTTPP=(AAAAAAAA:SSSS-LLLL)=XXXXXXXX=CCCCCCCC

説明: 通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 7 より大のときです。標準 IMS 言語インターフェースとの間で、AIBTDLI または ASMTDLI 呼び出しで受け渡されるパラメーター・リストを示します。

- TTTTT はトレースのタイプであり、"Entry" は、DL/I 呼び出しの前にトレースされたときで、"Exit" は、DL/I 呼び出しの後でトレースされたときです。
- PP はパラメーター番号であり、番号 1 は実 DL/I 呼び出しです。
- AAAAAAAAA は、パラメーターのアドレスです。

- SSSS は、パラメーター・バッファのサイズです。
- LLLL は、パラメーターの想定長さです。
- XXXXXXXX は、16 進数パラメーターの最初の 8 バイトです。
- CCCCCCCC は、EBCDIC パラメーターの最初の 64 バイトです。

システムの処置: ありません。

DFS3180I INQY ENVIRON Region=rrrrrrrr
Number=nnnn PGM=pppppppp

説明: 通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。このメッセージは、EXEC が実行される環境を記述します。

システムの処置: 処理は続行されます。

DFS3181I DFSREXX Starting and Building Environment

説明: IMS REXX 環境を示す通知メッセージが、IMS 従属またはバッチ領域に関して作成されているのは、REXX トランザクションが開始しているためです。

システムの処置: 処理は続行されます。

DFS3182I REXX EXEC: xxxxxxxx COMPLETED,
RC=yyyyyyyy

説明: 通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。スケジュールされた EXEC が終了した戻りコードを示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

DFS3183E EXEC: xxxxxxxx NOT FOUND

説明: IMS アダプター (REXX 版) によって実行される EXEC が、使用可能なデータ・セットで検出されませんでした。xxxxxxx で示される EXEC 名は、IMS スケジュールのプログラム名か、あるいはユーザー出口ルーチン (DFSREXXU) によってオーバーライドされているかのいずれかです。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

プログラマーの応答: 従属領域の SYSEXEC DD に、EXEC に関する正しい連結が組み込まれているか検証してください。

DFS3184I NO EXEC NAME SELECTED TO EXECUTE

説明: 通知メッセージが IMS アダプター (REXX 版) によって出されるのは、IMSRXTRC レベルが 0 より大のときです。実行する EXEC 名はまったく指定されていません。EXEC 名は、デフォルトではプログラム名ですが、IMS アダプター (REXX 版) ユーザー出口ルーチン (DFSREXXU) によってオーバーライドされました。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答: 予想外である場合は、ユーザー出口ルーチン DFSREXXU を検査してください。詳細については、「IMS V15 アプリケーション・プログラミング API」を参照してください。

DFS3185I LARGE BLOCK INTERFACE DETECTED, IT WILL BE USED FOR DDNAME

説明: イメージ・コピー・ユーティリティーは、イメージ・コピー出力データ・セットが、大規模ブロック・インターフェースをサポートする装置上にあることを判別しました。ただし、明示的なブロック・サイズが指定されませんでした。

システムの処置: イメージ・コピー・ユーティリティーは、システムが判別したブロック・サイズで大規模ブロック・インターフェースを使用し、イメージ・コピーを書き込みます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSUDMP0

DFS3187I RACF NOT ACTIVE FOR RESUME TPIPE CLASS=RIMS RC=XX. RACF EXIT RC=YY REASON CODE=ZZ.

説明: IMS が RACF 定義リソースについてストレージ内プロファイルの作成を試みている最中に、RACROUTE 出口処理で障害が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

XX RACROUTE マクロからの戻りコード
YY RACF 出口からの戻りコード
ZZ RACF 出口からの理由コード

システムの処置: IMS の再始動は継続します。RACF OTMA RESUME TPIPE 許可は無効になっています。

オペレーターの応答: (マスター端末) この問題に関する情報については、RACROUTE 戻りコードおよび理由コードを参照してください。

関連資料:

➡ z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: RACROUTE STAT の戻りコードおよび理由コード

DFS3189W RDS BLOCK ALLOCATION INSUFFICIENT FOR: type

説明: 再始動データ・セットにおいて、追加のリカバリー可能な情報をログに記録するために内部で割り振られて確保されているブロックの数が、不足していました。

1 つ以上の定義を動的に変更するために、UPDATE POOL TYPE(DBAS) コマンドが発行されました。コマンドは正常に発行されましたが、システムは、緊急時再始動の間ずっと保持されることになっている再始動データ・セット内で、この情報をログに記録できませんでした。このメッセージには、*type* としてログに記録されなかった次のタイプの情報のうち、1 つ以上がリストされます。

ODBP OSAM サブプールの定義

ODBD OSAM データベースの定義

VDBP VSAM サブプールの定義

VDBD VSAM データベースの定義

システムの処置: IMS は、正常に処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージにリストされたタイプの情報は、緊急時再始動をしている間は保持されません。以前に加えた変更を残したい場合は、UPDATE POOL TYPE(DBAS) コマンドを発行することができます。

問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3190E CALL xxxx RC=yyyy REASON=zzzz STATUS="SS"

説明: 予期しない状況が、IMS アダプター (REXX 版) 内部 DL/I 呼び出し (INQY ENVIRON または INQY FIND など) から戻されました。

システムの処置: EXEC または DL/I 呼び出しの実行が終了されます。

プログラマーの応答: 最後に実行された REXXTDLI 呼び出しで渡されたパラメーターを検証してください。原因としては、無効な PCBNAME が考えられます。

DFS3191E INVALID CALL TO DFSREXX1, ENV=xxxxxxx

説明: IMS アダプター (REXX 版) の実行中に、問題が発生しました。DFSREXX1 に対する直接呼び出しが

無効です。ENV=NotInit の場合は、DFSREXX1 が正しくバインドされなかったことが原因と推定されます (REUS が必要)。あるいは、DFSREXX1 はアプリケーションに別名割り当てまたはコピーされていて、DFSREXX0 はアプリケーションに取って代わったスタブでした。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答: REXX インストール済み環境を検証してください。問題が再発する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3192E IRXINOUT ERROR DD=xxxxxxx, RC=yyyyyy

説明: 問題があり、IMS アダプター (REXX 版) から DD xxxxxxxx への WRITE ができませんでした。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

プログラマーの応答: IMS 領域の DD 定義を検証してください。

DFS3193E ERROR LOADING MODULE xxxxxxxx RC=yyyyyyyy

説明: モジュール xxxxxxxx が、IBM アダプター (REXX 版) についてロードすることができませんでした。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答: REXX インストール済み環境を検証してください。問題が続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3194E ERROR EXECUTING IRXINIT, RC=xxxxxxx

説明: システムは、IBM アダプター (REXX 版) について REXX 環境を構築できませんでした。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答: REXX インストール済み環境を検証してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、メッセージ・テキストおよび戻りコードを伝えてください。

DFS3195E ERROR EXECUTING IRXSUBCM ADD: xxxxxxxx RC=yyyyyyyy

説明: システムは、IBM アダプター (REXX 版) について、指定された REXX サブコマンド環境を追加できませんでした。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答: REXX インストール済み環境を検証してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS3196E ERROR LOADING INTERFACE MODULE DFSREXX1

説明: システムは、IMS アダプター (REXX 版) モジュール (DFSREXX1) のロードができませんでした。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

プログラマーの応答: IMS モジュール DFSREXX1 が、REXX が稼働している従属領域へアクセス可能なライブラリーにあるか、検証してください。STEPLIB を検証してください。

DFS3197I HALDB ALTER STARTED FOR NAME=mastername PARTITION NUMBER=nnnn

または

HALDB ALTER RESUMED FOR NAME=mastername PARTITION NUMBER=nnnn

または

HALDB ALTER ACTIVE FOR NAME=mastername PARTITION NUMBER=nnnn

説明: ALTER オプションが指定された INITIATE OLREORG コマンドに反応して、この IMS システムは、メッセージ・テキストの *nnnn* の位置に示されている数のパーティションの ALTER 処理を開始または再開しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mastername

変更されている HALDB マスター・データベースの名前。

nnnn

メッセージに HALDB ALTER STARTED と示されている場合、*nnnn* は、HALDB データベース内のパーティションの総数を示しています。

メッセージに HALDB ALTER ACTIVE と示されている場合、*nnnn* は、HALDB データベース内のパーティションの総数を示しています。

メッセージに HALDB ALTER RESUMED と示されている場合、nnnn は、変更処理が完了していないパーティションの総数を示しています。

このメッセージのいずれのバージョンの場合も、nnnn には、使用不可のパーティションは含まれていません。使用不可のパーティションは変更されません。

システムの処置: IMS は、メッセージ・テキストに示されている数のパーティションの変更を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSORP00

関連タスク:

 オンライン HALDB データベースの定義の変更 (データベース管理)

**DFS3198I HALDB ALTER COMPLETED FOR
NAME=mastername PARTITION
NUMBER=nnnn STARTED=ssss
COMPLETED=cccc**

または

**HALDB ALTER ENDED FOR NAME=mastername
PARTITION NUMBER=nnnn STARTED=ssss
COMPLETED=cccc**

説明: IMS システムは、変更処理を終了しました。

メッセージ・テキストに **HALDB ALTER ENDED** が示されている場合、IMS システムは、開始した 1 つ以上のパーティションの変更を終了しなかったか、HALDB データベース内の 1 つ以上のパーティションが別の IMS システムによって変更されました。メッセージ・テキストで、COMPLETED= の値は、PARTITION NUMBER= の値より小さくなっています。

HALDB ALTER ENDED メッセージの考えられる原因には以下のものがあります。

- 1 つ以上のパーティションに対する変更処理が完了する前に、TERMINATE OLREORG コマンドが発行されました。
- 1 つ以上のパーティションの変更処理中にエラーが発生しました。
- データ共用環境で、HALDB データベース内の 1 つ以上のパーティションが別の IMS システムによって変更されました。

メッセージ・テキストに **HALDB ALTER COMPLETED** が示されている場合、HALDB データベース内のすべてのパーティションに対する変更処理が正常に完了しました。メッセージ・テキストで、COMPLETED= と PARTITION NUMBER= の値は等しくなっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mastername

変更されている HALDB マスター・データベースの名前。

nnnn

示されている HALDB データベースに含まれているパーティションの総数を示します。

ssss

この IMS システムが変更しようとしたパーティションの数を示します。ssss と cccc の両方が 0 である場合、この IMS システムは、データ共用環境のどのパーティションも変更しませんでした。

cccc

この IMS システムが正常に変更したパーティションの数を示します。ssss と cccc の両方が 0 である場合、この IMS システムは、データ共用環境のどのパーティションも変更しませんでした。

システムの処置: HALDB ALTER ENDED の場合、IMS システムは変更処理を終了します。1 つ以上のパーティションの変更処理が中断されたために HALDB ALTER ENDED メッセージが発行された場合、変更処理は未完了です。

データ共用環境で HALDB ALTER ENDED メッセージが発行され、STARTED と COMPLETED の値が等しい場合、この IMS システムは、開始したすべてのパーティションを完了しました。STARTED および COMPLETED の値が PARTITION NUMBER の値より小さい場合、他の IMS システムが HALDB データベース内の他のパーティションを変更しています。

HALDB ALTER COMPLETE の場合、HALDB データベース内のすべてのパーティションが正常に変更されました。

システム・プログラマーの応答: HALDB ALTER ENDED の場合、この IMS がデータベース内のすべてのパーティションを変更したわけではない理由を判別してください。いずれかのパーティションの変更処理が中断された場合、このメッセージより前に出されたメッセージを調べて、中断の理由を判別してください。問題を解決した後、OPTION(ALTER) を指定して INITIATE OLREORG コマンドを発行し、変更プロセスを再開します。


1 つ以上のパーティションが別の IMS システムによって変更されたために HALDB ALTER ENDED メッセ

ージが発行された場合、他の IMS システムが変更処理を完了しているかどうかを確認します。完了している場合は、オンライン変更を実行できます。

HALDB ALTER COMPLETE の場合、オンライン変更を実行できます。

モジュール: DFSORP00

関連タスク:

 オンライン HALDB データベースの定義の変更 (データベース管理)

DFS3199E INTERNAL ERROR xxxxx

説明: 内部エラーが、IBM アダプター (REXX 版) で発生しました。結果は判別できません。

システムの処置: EXEC 実行は行われません。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、メッセージ・テキストを提出してください。

DFS3200 MSPLINK NOT STOPPED

説明: /MSASSIGN LINK コマンドを処理するために、指定されている MSPLINK を停止する必要があります。

システムの処置: コマンドは実行されません。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答: /PSTOP MSPLINK または UPDATE MSPLINK NAME(msplinkname) STOP コマンドを使用して、物理リンクを一時的に停止してください。その上で、/MSASSIGN コマンドを再入力してください。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

第 68 章 DFS メッセージ DFS3201 - DFS3250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3201 MAXIMUM SESSIONS REACHED LINK *nnn*

説明: ローカル・システム用として指定されている MSPLINK に関して、並列セッションの最大数に達しました。

メッセージ DFS3213I、理由コード =32 も参照してください。

システムの処置: コマンドは実行されません。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: さらに多くのセッションが保証される場合は、IMS システム定義または一時的 JCL 変更が適切な可能性があります。

問題判別: ありません。

関連情報:

DFS3213I

DFS3202 BIND REJECTED DUE TO INCOMPATIBLE BUFFER/RU SIZE LINK *nnn*

説明: パートナー・システムがバインドをリジェクトしています。その出力バッファ・サイズが現行システムの入力バッファ・サイズを超えているか、その入力バッファ・サイズが現行システムの出力バッファ・サイズより小さいからです。

メッセージ DFS3213I、理由コード =20 も参照してください。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: IMS システム定義が適切です。

問題判別: 10

関連情報:

DFS3213I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3203 BIND REJECTED DUE TO INVALID SESSION PARAMETERS LINK *nnn*

説明: パートナー・システムがバインドをリジェクトしています。それが折衝可能 BIND であり、MSC/VTAM では折衝不能タイプのバインドが必要であるからです。

メッセージ DFS3213I、理由コード =24 も参照してください。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: この問題は、一時的エラーと考えられます。現行システムまたはパートナー・システムからリンクを再始動することにより再試行してください。

システム・プログラマーの応答: バインドの VTAM トレース

問題判別: 36

関連情報:

DFS3213I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3204 LINK TYPE NOT VTAM OR TCP/IP

説明: /CHANGE コマンドで指定したリンクが、TCP/IP タイプでも VTAM タイプでもありませんでした。

システムの処置: /CHANGE コマンドは実行されません。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答: 正しいリンクを入力してください。

DFS3206 REMOTE LOGICAL LINK NOT ASSIGNED LINK *nnn*

説明: バインドで指定されているパートナー ID で識別している論理リンクが、リモート IMS で異なる物理リンクに属しています。

メッセージ DFS3213I、理由コード 04 および 08 も参照してください。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: リモート IMS で /DISPLAY ASMT コマンドを使用して、論理物理間リンク割り当

てを表示させ、エラーであれば、/MSASSIGN MSLINK または UPDATE MSLINK コマンドを使用して訂正してください。システム・プログラマーにこの問題を通知します。

システム・プログラマーの応答: IMS システム定義が適切であるのは、sysdef が誤りである場合です。

問題判別: 10

関連情報:

DFS3213I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3207 REMOTE LINK HAS REACHED THE
MAX NO. OF ALLOWABLE
SESSIONS LINK *nnn***

説明: この物理リンクに関して、リモート IMS で許容されているアクティブ・セッションの最大数に達しました。

メッセージ DFS3213I、理由コード 12 も参照してください。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: さらに多くのセッションが保証される場合は、リモート・サイトのシステム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: さらに多くのセッションが保証される場合は、IMS システム定義または一時的 JCL 変更が適切です。

問題判別: 8、10

関連情報:

DFS3213I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3208 REMOTE PHYSICAL LINK IS
PSTOPPED LINK *nnn***

説明: リモート IMS でリモート端末オペレーターが UPDATE MSPLINK STOP または /PSTOP MSPLINK コマンドを入力したので、物理リンクが PSTOPPED されています。

メッセージ DFS3213I、理由コード 16 も参照してください。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: (マスター端末) PSTOPPED 状況が保証されていない場合は、/RSTART MSPLINK または UPDATE MSPLINK START コマンドをリモート・サイトで使用してください。

関連情報:

762 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

DFS3213I

**DFS3209 MULTI-RU ERP OR SYMSMG
RECEIVED LINK *nnnn***

説明: 単独チェーン・メッセージではない、エラー・リカバリー手順 (ERP) メッセージまたは SYMSMG が、指定されたリンクで受信されました。

システムの処置: 示されているリンク ID に関する MSC およびすべてのリンク・セッションが終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3210I AREAS RESTART DURING IRLM
RECONNECT HAS COMPLETED**

説明: IRLM 再接続時に、再始動または再オープン・プロセスの、再始動部分が完了しました。再オープン・プロセスが開始されました。

システムの処置: エリア再始動/再オープン・プロセスが続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3211I MISMATCH RESYNCH CONDITION.
THIS SYSTEM IS
PRIMARY|SECONDARY STSN:
aabbxxxxxyyyy RESP: *ccddwwwwzzzz*
LINK *nnn***

説明: パートナー間の STSN 交換でコールド/ウォーム・ミスマッチ、または示されている時点での非論理的条件が示されました。このメッセージは、通常、ローカルとリモートの両方のマスター端末に表示されます。ただし、場合によっては、非論理的状態をラップアラウンド状態と区別できるのが片側だけであり、したがって、このメッセージがその片側のマスター端末でしか表示されないことがあります。次の値は、16 進値です。

<i>aa</i>	1 次側のアウトバウンド・アクション・コード
<i>bb</i>	1 次側のインバウンド・アクション・コード
<i>xxxx</i>	1 次側のアウトバウンド・シーケンス番号
<i>yyyy</i>	1 次側のインバウンド・シーケンス番号
<i>cc</i>	2 次側のアウトバウンド・アクション・コード
<i>dd</i>	2 次側のインバウンド・アクション・コード
<i>wwww</i>	2 次側のアウトバウンド・シーケンス番号

zzzz 2 次側のインバウンド・シーケンス番号

システムの処置: これは単なる通知メッセージです。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、15

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3212I MISMATCH RESYNCH CONDITION
ACCEPTABLE|UNACCEPTABLE TO
PRIMARY|SECONDARY LINK nm**

説明: FORCSESS/SYNCSSESS MSLINK マクロ・パラメーターおよびリカバリー論理によって、DFS3211I メッセージで示されているミスマッチのために、その後続のセッション開始が進む場合も進まない場合もあると判別されました。

システムの処置: IMS は、メッセージによって示されているように、セッションの開始を許可しない場合があります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。開始処理が進行せず、同期が重要でない場合は、ローカル・システムかリモート・システム、または両方のシステムで最初に /CHANGE または UPDATE MSLINK コマンドを発行することにより、開始を強制できます。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、15

関連情報:

DFS3211I

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3213I REMOTE INITIATED LINK START
FAILED, REASON CODE=nm.
PARTNER ID xx. INITIATOR IS
NODE nodename.**

説明: ノード (*nodename*) およびパートナー ID (*xx*) で識別されているリモート IMS システムが、リンクの開始を試み、次の理由コード (*nm*) の理由で失敗しました。

コード 理由

04 示されているパートナー ID がこのシステムに

存在しないか、NODENAME = *nodename* の論理リンクを検出できなかった。

08 示されているパートナー ID は、このシステムの別の物理リンクの下にあるか、存在しているが、物理リンクに未割り当てである。

12 関連ローカル物理リンクに関して、セッションの最大数に達している。

16 関連ローカル物理リンクは PSTOPPED されている。

20 要求されたリンクに関して指定されたバッファースizeが、パートナーの場合と互換性がない。

24 受信されたバインド・パラメーターが無効である。

28 1 次と 2 次の LU 間に極性のミスマッチがある。コールドで起動した側が最後のセッション障害時に 2 次側でした。あるいは、両側がともにウォームで起動した場合は、少なくとも一方は間違っただけチェックポイントの後で再始動しました。

32 示されているパートナー ID は、すでにセッション中である。

36 極性のミスマッチ。両側がともに 2 次 LU 状況を要求しています。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。処理は正常に続行されます。

オペレーターの応答: QUERY MSLINK または /DISPLAY LINK コマンドを使用して、リンク (複数の場合もある) の状況を判別してください。理由コードに応じて、次のように続けてください。

コード 応答

04 システム・プログラマーに通知してください。

08 /DISPLAY ASMT を使用して、論理物理リンク間割り当てを表示させ、エラーである場合は、/MSASSIGN LINK または UPDATE MSLINK を使用して訂正してください。システム・プログラマーに通知してください。

12 システム・プログラマーに通知してください。

16 セッションが保証されている場合は、このシステムからリンクを再始動してください。

20 システム・プログラマーに通知してください。

24 システム・プログラマーに通知してください。

28 いずれかのシステムから再試行してください。

28 パートナーをウォーム・リスタート (/ERE) で再始動するか、両側をコールド・リスタートするか、こちら側からリンクを再始動するか、正しいチェックポイントの後に続けて再始動してください。

32 /PSTOP を使用してリンクを停止するか、

VARY NET INACT APPLID を使用して、前のセッションを終了します。新しいセッションを確立します。

- 36 両側がともに適正なチェックポイントからしどうしたか検証してください。この問題が発生する可能性があるのは、両側がともにウォーム・スタートした場合のみです。この問題を回避するには、片側をウォーム 1 次に設定するか、コールド状況に設定するか、いずれかにする必要があります。

システム・プログラマーの応答: 次のように、理由コードに応じて異なります。

コード 応答

- 04 IMS システム定義が必要です。
 08 IMS システム定義が必要な場合があります。
 12 さらに多くのセッションが保証される場合は、IMS システム定義または一時的 JCL 変更が必要である可能性があります。
 16 該当しません
 20 IMS システム定義が必要です。
 24 バインドの VTAM トレースを取ってください。
 28 ありません。
 32 リンクがセッション状況にあつて、保証されていない場合は、メモリー・ダンプを作成してください。IMS リンク・トレースおよび VTAM トレースを実行して、リンクがセッション状況のままになっている理由を判別する必要がある場合もあります。
 36 リンクがセッション状況にあつて、保証されていない場合は、メモリー・ダンプを作成してください。IMS リンク・トレースおよび VTAM トレースを実行して、両方のリンクがともに 2 次側状況を要求している理由を判別する必要がある場合もあります。

問題判別: 8、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3214 COMMAND COMPLETED WITH EXCEPTIONS

説明: トランザクションの 1 つまたは幾つかでは、次のすべてには応じられませんでした。

1. トランザクションが停止する。
2. このトランザクション・コードに関しては、メッセージはキューに入らない。
3. ローカル APPLCTN が SYSDEF で定義される。

システムの処置: コマンドは、上記のトランザクションを除くすべてに関して完了します。

764 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

オペレーターの応答: QUERY TRAN SHOW(ALL) または /DIS TRAN ALL コマンドを使用して、再割り当てされなかったトランザクション、それらのうち停止されなかったもの、またはメッセージがキューに入れられているものを判別します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

DFS3215W QMGR DISCARDED NON-RECOVERABLE MESSAGE(S) DUE TO CQSPUT COMMIT FAILURE

説明: 1 つ以上のリカバリー不能なメッセージが、正常にコミットされませんでした。そのようなメッセージは廃棄されました。IMS DFS3215W メッセージは、廃棄されたメッセージの数に関係なく、チェックポイント間隔ごとに一度だけ出されます。廃棄される各メッセージについて、1 セットのタイプ 67D00A 診断レコードがログに記録されます。

システムの処置: メッセージは、ローカル IMS から削除されます。共用キュー上のステージング・キューに入れられたメッセージのすべての部分が削除されます。ステージング・キューからの削除が失敗した場合、次のチェックポイントで再試行されることとなります。

プログラマーの応答: DFS3215W メッセージが予想されるのは、例えば、IMS メッセージ・キュー基本構造またはオーバーフロー構造が満杯になり、キューまたは構造にこれ以上メッセージが入れられないような、特定のケースです。このような場合、構造のサイズを大きくすること、(ランナウェイ・メッセージの場合は) 構造に含まれている多数のメッセージのソースを停止することにより、構造満杯の問題を修正してください。

DFS3215W メッセージの原因が不可解な場合、DFS3215W メッセージより 2 つ前のチェックポイントから DFS3215W の次のチェックポイントまでの IMS ログを保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して問題を報告してください。

問題判別: タイプ 67D00A 診断レコードを確認して、CQSPUT 要求の状況を判別してください。67D00A レコードのヘッダーに、エラーを起こした機能とその説明が含まれているはずですが。

モジュール: DFSQXF00

DFS3216A STRUCTURE *structure_name* IS BEING DELETED. IT WILL BE REMOVED FROM AREA *area_name*

説明: 構造への接続を試みているときに、IMS は構造の状況をチェックするために IXCQUERY コマンドを発

行しました。IMS は、構造が削除中であることを示す戻りコード QUASTRCFHOLD を受け取りました。

システムの処置: エリアがカップリング・ファシリティにロードされていません。

オペレーターの応答: この構造の削除が正しい場合は、カップリング・ファシリティ・ポリシーから構造を除去してください。そうでない場合は、構造を再度割り振り、STOP AREA コマンドの後に START AREA コマンドを続けて発行して構造に接続してください。

モジュール: DBFVXAS0

DFS3217 POLARITY MISMATCH ON SESSION RESTART

説明: このメッセージは、コールド・スタートであった IMS システムのマスター端末に表示されます。以前に 1 次パートナーであったのがウォーム・パートナーであるからです。セッション再始動には、このシステムが適切に再始動される (/ERE) か、/RSTART コマンドをウォーム・パートナー上で入力する必要があります。また、両側がともにウォーム・スタートであった可能性もあり、その場合は、少なくとも片側は、間違っただけチェックポイントの後で再始動しました。

メッセージ DFS3213I、および理由コード 28 と 36 も参照してください。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: 上記の説明を参照してください。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

関連情報:

763 ページの『DFS3213I』

DFS3218 INVALID RESTART MESSAGE OR RESTART RESPONSE MESSAGE RECEIVED RSN=xyyy, LINK link#

説明: MSC リンクが再始動されました。再始動メッセージの交換中に、無効または予期しないメッセージが検出されたか、再始動メッセージの値がパートナー IMS システム間の非互換 MSC リンク定義を示しました。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

xx モジュールを識別します。

- 01 DFSCM7D0 (VTAM 再始動ルーチン)
- 02 DFSCMSW0 (CTC または MTM 再始動ルーチン)
- 03 DFSCM7A0 (VTAM 再始動ルーチン)
- 04 DFSCM7B0 (VTAM 再始動ルーチン)

yy 05 DFSTC7B0 (TCP/IP 再始動ルーチン) 理由コード。

- 01 パートナー IMS リリースがゼロであるか、または無効です。一般的に、MSC は 2 つ下までのバージョンまたは 2 つ上までのバージョンをサポートします。例えば、バージョン 10 はバージョン 8 と 9、および 2 つ上までのバージョンをサポートします。パートナーがサポートされるリリースであることを確認してください。リリースがサポートされる場合、この問題は IMS 内部エラーです。
- 02 パートナー IMS は、拡張接頭部をサポートしません。拡張接頭部サポートは、IMS バージョン 5 で導入され、IMS バージョン 8 以上に接続する場合は必要です。パートナーがサポートされるリリースであることを確認してください。リリースがサポートされる場合、この問題は IMS 内部エラーです。
- 03 パートナー IMS ID が無効です。リンクの両側で、2 文字のパートナー ID が同じでなければなりません。
- 04 無効な再始動メッセージが検出されました。おそらく、再始動メッセージ ID が無効です。この問題は IMS 内部エラーです。
- 05 帯域幅が非互換です。パートナー IMS システムは、両方とも BANDWIDTH (OFF) または BANDWIDTH (ON) でなければなりません。
- 06 無効な FMH5 です。MSC VTAM の場合、再始動メッセージは FMH5 ブロックによって進められる必要があります。この問題は IMS 内部エラーです。
- 07 FMH5 に、無効な DPN フィールドが含まれていました。MSC VTAM の場合、FMH5 ブロックに DFSCMS00 がなければなりません。この問題は IMS 内部エラーです。
- 08 バッファー・サイズが等しくありません。リンクの両側で、MSLINK バッファー・サイズが同じでなければなりません。
- 09 QMGR によって使用されている QMBA または QLST ブロックの帯域幅再始動中にストレージを取得しようとしてエラーが発生しました。この問

- 題は、おそらくストレージ不足のエラーです。そうでない場合、これは IMS 内部エラーです。
- 10 V10 VTAM リンクでバッファの再作成中にエラーが発生し、VTAM 制御ブロックはバージョン 8 またはバージョン 9 のパートナーと非互換でした。この問題は、おそらく IMS 内部エラーです。
- 11 TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、並行する論理リンクが、既にアクティブであるか、IMS システムの IMS ID を指定している別の物理リンク上で ERE 状況になっているかのいずれかです。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。
- 12 IMS システムの IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、並行する論理リンクが、既にアクティブであるか、TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している別の物理リンク上で ERE 状況になっているかのいずれかです。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。
- 13 TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、IMS システムには、アクティブな物理リンクであって、競合する IMS ID 値を指定しているものがあります。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。この問題は、内部論理エラーです。
- 14 IMS システムの IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、IMS システムには、アクティブな物理リンクであって、競合する IMS ID 値を指定しているものがあります。同じ IMS システムへのすべての物理リンクでは、ある TCP/IP 総称リソース・グループの同じ総称 IMS ID か、その IMS システムの IMS ID を指定する必要があります。この問題は、内部論理エラーです。
- 15 TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を指定している MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、ローカル IMS システムまたはリモート IMS システムでの物理リンクについて、STOGENLGN 状況が設定されています。
- 16 MSC TCP/IP 物理リンク上で、論理リンクを始動しようとした。ただし、ローカル IMS システムまたはリモート IMS システムでの物理リンクについて、STOLGN 状況が設定されています。
- 17 IMS DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターの値と、IMS Connect PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターの値が、同じではありません。MSC TCP/IP リンクに適用されます。
- 18 IMS DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターが指定されていませんが、IMS Connect HWSCFGxx PROCLIB メンバーの GENIMSID= パラメーターの値が空白ではありません。
- 19 リモート・パートナー IMS システムが、IMS ID を使用して、TCP/IP 総称リソース・グループ内の IMS システムにログオンしようとした。TCP/IP 総称リソース・グループ内の IMS システムにログオンするには、リモート IMS システムは、参加 IMS システムそれぞれの DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID パラメーターで指定されているとおりに、TCP/IP 総称リソース・グループの総称 IMS ID を使用する必要があります。
- 20 parmlib メンバー DFSDCxxx の GENIMSID は、実サブシステム ID (IMSID) または XRF サービス名 (RSENAME) のいずれかと同じ値です。これらは異なる必要があります。

- 21 リモート IMS から XRF 代替 IMS への再始動メッセージが受け取られました。再始動は DFS3218 RSN=0521 でリジェクトされました。このイベントは、GENIMSID を使用する XRF 環境では正常な条件です。内部でエラー条件が発行され、IMS Connect がこの再始動をリジェクトするよう知らせます。アクティブ IMS への再始動メッセージが受理されます。このメッセージは、MTO 対しては発行されません。

link# リンクを識別します。

システムの処置: IMS がリンクの開始を妨げます。

オペレーターの応答: 考えられる原因および処置については、理由コードを参照してください。DFS3218 理由コードは、マクロ DFSKEYRC で説明されています。

リンクのそれぞれの側で QUERY MSLINK、/ DISPLAY LINK、または /DISPLAY LINK OPTION BUFSIZE コマンドを使用して、リンクに互換性があるかどうか判別します。エラーの原因が非互換のリンク・パラメーターである場合、UPDATE MSLINK または /UPDATE MSLINK コマンドを使用して、互換性のあるパラメーターを設定します。引き続きエラーが発生する場合は、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因がリンクのこちら側とそのパートナーの間の非互換リンク・オプションでない場合、あるいは非互換性を判別できないか、UPDATE MSLINK コマンドを使用して訂正できない場合、エラー発生時に作成された 6701 MSSx ログ・レコードを分析してください。

タイプ 6701-MSSx (x = 1, 2, 3, および 4) ログ・レコードを印刷するには、以下の制御カードを使用して DFSERA10 ログ印刷ユーティリティを使用します。

```
CONTROL CNTL
OPTION PRINT 0=5,V=6701,L=2,C=M,E=DFSER30
OPTION PRINT 0=9,V=MSS,L=3,T=C,C=E,E=DFSER30
```

TCP/IP 総称リソースの使用に関連したエラーがある場合は、必ず、IMS システムへのすべての MSC TCP/IP 物理リンクで、TCP/IP 総称リソースの IMSID、または IMS システムの IMS ID が指定されているようにしてください。始動しようとしているリンクで TCP/IP 総称リソースが使用される場合は、リンクを、TCP/IP 総称リソース・グループ内の別の IMS システムに向かわせるよう試行してください。

次のリンク状況のいずれかに関連したエラーがある場合には、START(LOGON) または START(GENLOGON)

キーワードを使用して、/RSTART LINK コマンドまたは UPDATE MSPLINK コマンドを発行します。

- PSTOPPED
- PSTOPGEN
- STOLGN
- STOGENLGN

タイプ 1 の /PSTOP MSPLINK コマンドは、DFSDCxxx PROCLIB メンバーの GENIMSID パラメーターの指定に依存して、適切な停止状況 (PSTOPPED か PSTOPGEN のいずれか) を設定します。状況が ACTIVE である場合には PSTOPGEN が設定され、DISABLED である場合には PSTOPPED が設定されます。この状況は、/DISPLAY ASMT MSPLINK または QUERY MSPLINK NAME(msplink_name) SHOW(STATUS) コマンドによって表示することができます。

問題判別: 1、5、6、7、17b

モジュール: DFSCMSW0、DFSCM7D0、DFSCM7A0、DFSCM7B0、DFSTC7B0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3220I RECEIVED ERROR RETURN CODE.
REQ CODE=xx, REG 0=yy, REG 15=zz,
LINK=nnn, CLSDST SCHEDULED.

説明: 次の 2 つの条件のうちいずれかが存在します。

1. RPL 要求が失敗した。
2. VTAM のストレージ不足により、VTAM 要求 (EXECRPL を使用) が 25 回失敗した。IMS が MSC/VTAM リンクを終了します。REG15 は X'04'、REG0 は X'08' です。

次の情報が示されます。

コード	意味
xx	10 進要求コード
yy	IMS に制御権が戻された時点で VTAM によってレジスター 0 に置かれる値 (10 進数)
zz	IMS に制御権が戻された時点で VTAM によってレジスター 15 に置かれる値 (10 進数)
nnn	要求が失敗した MSC/VTAM リンク ID

システムの処置: 示されているリンクに関する MSC/VTAM リンク・セッションが終了します。関係のある情報を含む、ID が MSSx (x=1, 2, または 3) の IMS ログ・レコード (X'67') が書き込まれました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: この戻りコードの原因については、「VTAM V4R3 for MVS/ESA Programming」および「VTAM Messages and Codes」を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3221 SHOULD NOT OCCUR TYPE LOGIC ERROR LINK *nnn*

説明: 非論理的条件が、MSC/VTAM 装置従属モジュールによって、示されているリンク *nnn* に関して検出されました。

システムの処置: 示されているリンクに関する MSC/VTAM リンク・セッションが終了します。関係のある情報を含む、ID が MSS*x* (*x* = 1、2、または 3) の IMS ログ・レコード (X'67') が書き込まれました。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3222I UNEXPECTED STATUS|FORCE CLEANUP DONE | LINK=*nnn*, UNDEFN | SIMLOG | OPNDST | CLSDST | SESSNC | RECEIV | SEND | RESTR | RQSESS | OPNSEC | TRMSESS | ***** , RC=*xx*, FDB2=*yy*, LOSTERM | NSEXIT | UNBIND=*zz*, SENSE=*www*

説明: UNEXPECTED STATUS がメッセージに表示されている場合は、RPL 要求 (不明の場合は ***** を含む、大括弧内の値の 1 つによって示される) の結果が、VTAM からの予想外の戻り状況となりました。

FORCE CLEANUP DONE がメッセージに表示されている場合は、RPL 要求 (不明の場合は ***** を含む、大括弧内の値の 1 つによって示される) が /PSTOP LINK FORCE コマンドによって取り消され、また、NSEXIT イベントが IMS によってシミュレートされて、それが原因でリンクが PSTOPPED および IDLE になりました。

メッセージには、次の情報が含まれています。

コード 意味

nnn 条件が生じた MSC/VTAM リンク ID
xx RPL の RPLRTNCD フィールドの 16 進値
yy RPL の RPLFDB2 フィールドの 16 進値
zz 16 進 IMS LOSTERM/NSEXIT/UNBIND 標識 (*zz* 値の説明については、メッセージ DFS970I を参照してください。)
www RPL の RPLSSNSI フィールドの 16 進値

システムの処置: MSC/VTAM セッションは、指定されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: コードの意味についての説明は、「VTAM Messages and Codes」(SC31-6493)を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

303 ページの『DFS970I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3223 INVALID EXCP RESPONSE RECEIVED LINK *nnn*

説明: 指定された MSC/VTAM リンク *nnn* で例外応答を受信しましたが、0846 タイプの例外応答ではありませんでした。

システムの処置: MSC/VTAM リンク・セッションは、示されているリンク ID に関して終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3224 EXCP RESPONSE RECEIVED FOR WRONG RU NUMBER LINK *nnn*

説明: RU 番号が無効のため、0846 例外応答が、示されているリンク *nnn* で受信されました。

システムの処置: リンク・セッションは、示されている MSC/VTAM リンク ID に関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3225 UNEXPECTED RRN RESPONSE
RECEIVED LINK *nnn***

説明: 予期しない VTAM RRN 応答が、示されているリンク *nnn* で受信されました。

システムの処置: リンク・セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3226 CHAINING ERROR ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明: SNA チェーニング・エラーが、示されているリンク *nnn* で受信された RU で検出されました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3227 RU SEQUENCE ERROR ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明: SNA シーケンス・エラーが、示されているリンク *nnn* で受信された RU で検出されました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3228 BRACKETS ERROR ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明: SNA 大括弧エラーが、示されているリンク *nnn* で受信された RU で検出されています。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3229 UNEXPECTED FMH ON DATA
RECEIVED LINK *nnn***

説明: FMH 付き RU が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で受信されましたが、FMH が予期されていないときでした。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3230 EXPECTED FMH7 NOT RECEIVED
LINK *nnn***

説明: 示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で予測されていたのは、選択受信側 ERP メッセージでしたが、それとは別のものが受信されました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3231 INVALID FMH5 RECEIVED LINK
nnn

説明: 無効の FMH タイプ 5 付き RU が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で受信されました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3232 EXPECTED FMH5 NOT RECEIVED
LINK *nnn*

説明: 予想されていた FMH タイプ 5 が、示されているリンク *nnn* で受信された RU で生じませんでした。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3233 INVALID FMH6 RECEIVED LINK
nnn

説明: 無効のタイプ 6 FMH が、示されているリンク *nnn* で受信されました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3234 DR1 RESPONSE RECEIVED FOR
WRONG RU LINK *nnn*

説明: VTAM コマンドに関して受信された DR1 に、コマンドの VTAM シーケンス番号がありませんでした。

システムの処置: セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3235 BIS/SBI RECEIVED TWICE LINK *nnn*

説明: SNA BIS または SBI コマンドが、示されているリンク *nnn* で 2 回受信されました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3236 DR2 RESPONSE RECEIVED FOR
WRONG RU NUMBER LINK *nnn*

説明: SNA データに関して受信された DR2 に、OIC/LIC の VTAM シーケンス番号がありませんでした。

システムの処置: セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3237 UNEXPECTED FME RESPONSE
RECEIVED LINK *nnn***

説明: 予期しない SNA FME 応答が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で生じました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3238 INVALID/UNEXPECTED
INFORMATION RECEIVED LINK *nnn***

説明: SNA コマンドまたは LU が受信されましたが、MSC/VTAM でサポートされていないものです。

システムの処置: セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3239 CLSDST/TERMSS ISSUED LINK *nnn*

説明: VTAM CLSDST または TERMSESS が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で、オペレーター要求と以前に検出されたエラー状態のいずれかの結果として発行されています。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

**DFS3240 DATA RECEIVED EXCEEDS
ALLOCATED INPUT BUFFER LINK
*nnn***

説明: 示されている MSC/VTAM リンク *nnn* で受信されたデータが、入力バッファ割り振りを超えました。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3241 DATA FRAME COUNT DOES NOT
AGREE WITH RPL BYTES-RECEIVED
COUNT LINK *nnn***

説明: MSC データ・フレーム・カウント (MSC RU の先頭の 2 バイト) が、示されている MSC/VTAM リンク *nnn* に関して、RECEIVE RPL の VTAM によって示されている値に合致しません。

システムの処置: セッションは、示されている MSC/VTAM リンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3242I PARTNER SHUTTING DOWN LINK
*nnn***

説明: リンク・パートナーに送信された最後のメッセージがリジェクトされましたが、そのメッセージが到着したのが、パートナーがシャットダウンをちょうど始めたところであったためです。

システムの処置: メッセージは、現行システムによってキューに戻されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

**DFS3243I PARTNER SHUTTING LINK DOWN
LINK *nnn***

説明: リンク・パートナーに送信された最後のメッセージがリジェクトされましたが、そのメッセージが到着したのが、パートナーがリンク・シャットダウンをちょうど始めたところであったためです。

システムの処置: メッセージは、現行システムによってキューに戻されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

**DFS3244I PARTNER NOT ACCEPTING INPUT
LINK *nnn***

説明: リンク・パートナーに送信された最後のメッセージがリジェクトされました。このリンク上で入力がかこれ以上受け付けられなくなるようなエラー条件を、パートナーが検出したためです。

システムの処置: メッセージは、現行システムによってキューに戻されます。

オペレーターの応答: エラーの原因について、パートナーのシステム・オペレーターに連絡してください。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

問題判別: ありません。

**DFS3245 INVALID RESPONSE TYPE
REQUESTED BY RU RECEIVED LINK
*nnn***

説明: 受信された RU が、誤ったタイプの SNA 応答を要求して、MSC/VTAM プロトコルに違反しています。

システムの処置: セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3246 INVALID CD INDICATOR SET ON
RU RECEIVED LINK *nnn***

説明: 受信された RU に、MSC/VTAM プロトコルに違反して、CD 標識があります。

システムの処置: セッションは、示されているリンクに関して終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3247I UNEXPECTED FME AND RRN
RESPONSE RECEIVED ON LINK
*nnnn***

説明: 予期しない SNA FME に RRN を加えた応答が、示されている VTAM リンクで受信されました。

システムの処置: 示されているリンク ID に関する MSC およびすべてのリンク・セッションが終了します。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 問題判別を参照してください。

問題判別: 1、5、6、7、17b

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3248W A LONG DELAY IN LOG
SURVEILLANCE**

説明: XRF アクティブ IMS でロギング・アクティビティが中断されている時間が、IMS PROCLIB データ・セットの DFSHSBxx メンバーの LOG= パラメーターに指定されている限度より長くなっています。

システムの処置: IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答: XRF アクティブ IMS システムを調べてロギング・アクティビティが長時間にわたって中断されている理由を判別し、異常条件が存在する場合には訂正します。

モジュール: DFSHTK00

**DFS3249W A LONG DELAY IN LINK
SURVEILLANCE**

説明: アクティブ IMS で XRF LINK 監視が中断されている時間が、IMS PROCLIB データ・セットの DFSHSBxx メンバーの LNK= パラメーターに指定されている限度より長くなっています。

システムの処置: IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答: XRF アクティブ IMS システムを調べて XRF ISC LINK 監視が長時間にわたって中断されている理由を判別し、異常条件が存在する場合には訂正します。

モジュール: DFSHTK00

**DFS3250 COMMAND NOT ENTERED FROM
MASTER TERMINAL OR SYSTEM
CONSOLE**

説明: 制限付きバージョンの /LOCK または /UNLOCK コマンドが、リモート端末から入力されましたが、これが許されるのは、マスター端末またはシステム・コンソールからの場合のみです。キーワード DB、PROG、または TRAN を指定した /LOCK コマンド、およびキーワード DB、PROG、TRAN、または SYSTEM を指定した /UNLOCK コマンドが入力できるのは、マスター端末またはシステム・コンソールからのみに限られます。

システムの処置: /LOCK または /UNLOCK コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (ローカル/リモート端末オペレーター) コマンドをシステム・コンソールまたはマスター端末で再入力してください。

第 69 章 DFS メッセージ DFS3251W - DFS3300I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3251W A LONG DELAY IN RDS SURVEILLANCE

説明: アクティブ IMS で XRF RDS (再始動データ・セット) 監視が中断されている時間が、IMS PROCLIB データ・セットの DFSHSBxx メンバーの LNK= パラメーターに指定されている限度より長くなっています。

システムの処置: IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答: XRF アクティブ IMS システムを調べて RDS 監視が長時間にわたって中断されている理由を判別し、異常条件が存在する場合には訂正します。

モジュール: DFSHTK00

DFS3252I DATA EXISTS ON *yyy* LOG THAT DOES NOT EXIST ON *zzz* LOG.

説明: CLS モードでログ・リカバリー・ユーティリティーを処理中に、DFSULG20 は、一方の入力ログにデータが存在するものの、もう一方のログには存在しないことを検出しました。また、WADS からログ・レコードをコピーするために DFSFDLW0 が呼び出されたときに、すべてのレコードはすでにいずれかの入力ログに存在しました。このシナリオが生じるのは、例えば、いずれかの OLDS に書き込みエラーがある場合です。これは必ずしもエラー状態であるとは限りません。ログ保存ユーティリティーもこの不整合を検出し、すべてのデータがある OLDS から SLDS または RLDS を作成するからです。

どちらの場所にどちらが適切かに応じて、メッセージ・テキストの *yyy* と *zzz* の値は PRIMARY と SECONDARY であるか、またはその逆の場合があります。

システムの処置: ユーティリティーはエラー・ブロック (書き込みエラーが検出された場合、ファイル終了マークである可能性があります) をダンプし、CLS モードで処理を続行します。どちらの OLDS にも、DBRC のエラーであるとしてフラグが立てられることはありません。

ユーザーの処置: 応答は必要ありません。1 つの OLDS に、想定されているすべてのデータが入っているわけではないことを認識するように、このメッセージは通知として出されます。ログ・リカバリー・ユーティリティーを実行する前に、書き込みエラーなどの問題が

OLDS で検出されたことがすでに分かっていた可能性があります。

問題判別: 一方の OLDS にあり、もう一方の OLDS がないブロックを判別するには、IMS Problem Investigator for z/OS または DFSERA10 などのツールを使用して、タイプ 4800 ログ・レコードを調べることができます。ブロックごとに 1 つのタイプ 4800 ログ・レコードがあり、ブロック・シーケンス番号などのフィールドが含まれています。

DFS3253W WADS PROCESSING WARNING. FUNCTION = XX. REASON = YY.

説明: データ機能記憶管理サブシステム (DFSMS) は、WADS をオープンすると、ジョブ・ログ内に IEC メッセージを書き込みます。DFS3253W メッセージは、ジョブ・ログ内の IEC メッセージがそれ以上の処置を必要としないことを示します。

以下の表に、関数 XX および対応する理由 YY の考えられる値をリストします。

関数 XX	理由 YY	説明
04 (OPEN)	ACBERFLG の内容	<p>WADS のオープン時に通知メッセージが生成されました。ACBERFLG について詳しくは、z/OS: 非 VSAM マクロ命令の OPEN 戻りコードと理由コードを参照してください。</p> <p>XX = 04 である場合の ACBERFLG の最も一般的な理由コードは x'74' です。これは、データ・セットが正しくクローズされなかったことを示しています。これは、例えば、IMS の異常終了時に WADS をクローズできなかったために、IMS の異常終了後にログ・リカバリ・ユーティリティー (DFSULTR0) が実行される場合に発生します。</p>


システムの処置: IMS は正常に処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

モジュール: DFSFDLW0

関連資料:

 z/OS: 非 VSAM マクロ命令の OPEN 戻りコードと理由コード

**DFS3254I BUFSTOR FORCED TO 31 BECAUSE
 BLKSIZE NOT A MULTIPLE OF 4K**

説明: OLDS のログ・バッファ用 64 ビットのア
ドレス可能ストレージを取得する前に、IMS は、IMS
PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの
OLDSDEF ステートメントに定義された BLKSIZE パラ
メーターの値を検査します。IMS は、BLKSIZE パラメ
ーター値が 4096 の倍数でない場合に、このメッセージ
を出します。

システムの処置: IMS は、OLDSDEF ステートメント
で 64 ビットのアドレス可能ストレージを指定する
BUFSTOR=64 というパラメーターをオーバーライドし
て、ログ・バッファ用 31 ビットのアドレス可能ス
トレージを取得して、処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

BLKSIZE に指定された値が 4096 の倍数でない限り、
IMS は、必ず、OLDS ログ・バッファ用に 31 ビッ
トのアドレス可能ストレージを取得します。OLDS ロ
グ・バッファ用に 64 ビットのアドレス可能ストレ
ージを使用する場合は、BLKSIZE パラメーターに指定さ
れた値が 4096 の倍数であることを確認してください。

モジュール: DFSPRSL0

**DFS3255I MAXSESS TOO LARGE FOR
 MSC/VTAM LINK *nnn*, DEFAULTING
 TO 676**

説明: システム定義時に定義された MAXSESS フィー
ルドと NLXB JCL パラメーターの合計が、示されてい
る *nnn* MSC/VTAM リンクに関して、676 を超えてい
ます。許容最大 MAXSESS は 676 です。

システムの処置: 関連 LCB の MAXSESS フィールド
が 676 に設定され、処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知し
てください。

システム・プログラマーの応答: このリンクに関するシ
ステム定義の MAXSESS フィールドをチェックし、
IMS 制御領域 JCL の NLXB パラメーターをチェック
してください。

**DFS3256I OPEN FAILED ON *ddname* - DURING
 ONLINE LOG READ (*xx*)**

または

OPEN/ALLOCATION FAILED ON *ddname*

または

OPEN FAILED ON *ddname* - DD CARD SPECIFICATION ERROR

説明: *ddname* で指定されたログ・データ・セットがロギングのために開けなかったか、割り振りできませんでした。DD ステートメントが正しく指定されなかったため、もしくは事前割り振りデータ・セットに矛盾する DCB 属性があったためです。

このメッセージの最初の形式が該当するのは、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) と先行書き込みデータ・セット (WADS) のいずれかに関する、ログ書き込み操作の場合です。

このメッセージの 2 番目の形式が出されるのは、次の条件に該当する場合です。

- ブロック・サイズ (BLKSIZE) にメッセージ DFS2207I で表示された値とは異なるものがある、OLDS が開かれたとき。
- 十分なスペースが割り振られていない先行書き込みデータ・セット (WADS) が開かれたとき。
- RECFM が VB ではないとき。
- 拡張フォーマットの OLDS が検出されましたが、このリリースの IMS では、拡張フォーマットの OLDS は使用できません。

このメッセージの 3 番目の形式が表示されるのは、ログ読み取り操作に必要な OSAM DCB で、GETMAIN ストレージが利用不能のときです。また、OSAM OPEN 機能が失敗したときも出されます。GETMAIN ストレージが利用不能のときは、xx に x'FF' という値が入ります。OSAM OPEN 機能が失敗したときは、OSAM OPEN 機能によって戻された戻りコードの値が xx になります。

システムの処置: WADS を開いている最中にエラーが発生し、1 つ以上の WADS がまだ使用可能な場合、IMS は処理を続行します。使用可能な WADS がないときは、メッセージ DFS3262I が出され、IMS は処理を続行します。

OLDS を開いている最中にエラーが発生し、3 つ以上の OLDS がまだ使用可能な場合、IMS は処理を続行します。使用可能な OLDS が 2 つ以下のときは、メッセージ DFS3260I が出されます。メッセージ DFS3260I に関するシステムの処置を参照してください。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連情報:

552 ページの『DFS2207I』

778 ページの『DFS3260I』

778 ページの『DFS3262E』

DFS3257I ONLINE LOG NOW OPENED ON *ddname*

または

ONLINE LOG NOW SWITCHED - FROM *ddname1* TO *ddname2*

または

ONLINE LOG CLOSED ON *ddname*

または

OLDS|WADS DEALLOCATED ON *ddname*

説明: このメッセージの最初の形式が表示されるのは、IMS 再始動が行われ、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) が使用できる準備ができています。

このメッセージの 2 番目の形式は、OLDS (*ddname1*) がいっぱいになったり、EOV が強制されたり、OLDS (*ddname1*) に入出力エラーが生じてクローズしたりすると、そのつど出されることとなります。さらにロギングを行う場合は、次の OLDS (*ddname2*) が開かれます。XRF テークオーバー時には、このメッセージの 2 番目の形式が表示されます。*ddname1* は、テークオーバーが要求されると、WADS から終了される OLDS です。

このメッセージの 3 番目の形式が表示されるのは、通常シャットダウンがスケジュールされ、OLDS がクローズされたときです。

このメッセージの 4 番目の形式がマスター端末で発行されるのは、いくつかの OLDS が /STOP コマンドまたは入出力エラーにより強制的に停止されるときです。ログ・データ・セットはオンライン・データベース・バックアウト用としてももう必要がなくなり、将来使用される可能性の高いリストから除去されます。この OLDS は、制御アドレス・スペースから動的に割り振り解除されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 自動アーカイブが指定されていない場合は、OLDS 状況を表示させて、アーカイブ・ジョブをサブミットする必要があるかどうか判断してください。

メッセージの 4 番目の形式が表示されたときは、示されている OLDS は修復の準備ができています。OLDS がアーカイブされてしまえば、データ・セットはスクラッチして、別のボリュームに再割り振りできます。そうすれば、/START OLDS コマンドを入力して、OLDS をオンライン IMS に再接続できます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3258A LAST ONLINE LOG DATA SET IS
BEING USED - NEED ARCHIVE**

または

**SYSTEM WAITING FOR AN ONLINE LOG DATA
SET - NEED ARCHIVE**

説明: このメッセージの最初の形式が送信されるのは、アーカイブされていない最後のオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) が使用されていたことを、IMS™ が検出したときです。その他の OLDS は、まだアーカイブされていないか、停止されているため、すべてが出力操作で再使用できるわけではありません。

このメッセージの 2 番目の形式が送信されるのは、停止されていない OLDS すべてがアーカイブを必要とするときです。この 2 番目の形式のメッセージは、状態がアーカイブの完了によって解決されるまで、5 分間隔で繰り返されます。

システムの処置: 最初の形式のメッセージの場合は、IMS は処理を続行します。IMS 2 番目の形式のメッセージの場合は、一部の OLDS が使用可能になるまで、IMS は待ち状態です。

オペレーターの応答: アーカイブ・ジョブが現在実行中でない場合は、アーカイブ・ジョブをサブミットして、OLDS を解放してください。z/OS 環境でも、/START OLDS コマンドを使用して、新しいデータ・セットが追加できるのは、使用可能なログ・バッファがある場合のみです。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3259I ONLINE LOG DATA SET NOT YET
ARCHIVED FOR *ddname***

説明: *ddname* で識別されているオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) は、通常なら、アーカイブされていて、再使用の準備ができています。しかし、アーカイブされていなかったのです。

システムの処置: IMS は別の使用可能 OLDS を使用し、処理を続行します。

システム・オペレーターの応答: 示されているログ・データ・セットに関するアーカイブ・ジョブが実行されていない場合は、アーカイブ・ジョブをサブミットしてください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3260I ONLINE LOG DATA SET
SHORTAGE - NEED ANOTHER
DATA SET**

説明: 入出力エラーまたは /STOP OLDS コマンドのため、IMS によって使用できるオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) で使用可能なものは、2 つ以下です。

システムの処置: OLDS が 2 つ残っている場合は、IMS は処理を続行します。1 つしかない場合は、IMS は /CHE FREEZE を開始します。

オペレーターの応答: /DISPLAY OLDS コマンドを使用して、すべての OLDS の状況を表示することができます。残っているデータ・セットが 2 つあるときは、次のいずれの応答も許容されます。

- 応答なしで、IMS は処理を続ける。
- z/OS 環境では、/START OLDS コマンドを使用して、追加の OLDS を活動化することができます。
- チェックポイント・コマンドを使用して、IMS シャットダウンを開始できる。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3261I WRITE AHEAD DATA SET NOW ON
*ddname***

説明: ログ先書き機能が、*ddname* で識別されているデータ・セットを現在使用しています。IMS 実行中は、WADS 入出力エラー・メッセージの後に続いて、このメッセージが出る場合があります。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3262E NO DATA SET AVAILABLE FOR
LOG WRITE AHEAD**

説明: WAD が小さすぎるか、WADS に対する OPEN または書き込みでエラーが発生したか、いずれかであって、使用可能な WADS がもうなくなっています。

システムの処置: IMS は処理を続行します。ただし、ログ先行書き込みサポートのため、オンライン・ログ・バッファが切り捨てられることになるため、システム・パフォーマンスは低下する可能性があります。

システム・オペレーターの応答: 応答はまったく必要ありません。チェックポイント・コマンドを使用して、IMS をシャットダウンできます。IMS の次回再始動後に、WADS に対する書き込みが再試行されます。

プログラマーの応答: 新しい WAD を割り振ってください。

**DFS3263I ARCHIVE UTILITY ENDED
UNSUCCESSFULLY (rrrrrrrr)**

または

ARCHIVE UTILITY ENDED SUCCESSFULLY

または

**ARCHIVE UTILITY ENDED SUCCESSFULLY
(rrrrrrrr)**

説明: ログ保存ユーティリティーが終了しました、正常に終了したか、終了したが正常にはなかったか、いずれかです。終了した理由については、プログラマーの応答が必要な事例に示してあります。rrrrrrrr の値は、次のとおりです。

- SUCCESSFULLY - (BUT NOT ALL OLDS WERE ARCHIVED)
- UNSUCCESSFULLY - (OPEN ERROR) (DBRC VERIFICATION FAILED: INPUT LOG(S), SSID OR RECON(S) ARE INVALID)
- (EXEC PARAMETER ERROR)
- (CONTROL STATEMENT ERROR)
- (DATA SET SPECIFICATION ERROR)
- (ERROR IN SINGLE INPUT LOG)
- (DUPLICATE ERROR IN DUAL INPUT LOG)
- (OUTPUT DATA SET I/O ERROR)
- (OUT-OF-SPACE IN OUTPUT DATA SET)
- (UNSUCCESSFUL EXCHANGE BETWEEN DUAL INPUT DATA SETS)
- (USER EXIT ROUTINE ERROR)
- (DEVICE TYPE ERROR)
- (OUTPUT DATA SET BLOCK/TRACK SIZE IS TOO SMALL)
- (DBRC MODULE NOT FOUND)
- (NON-ZERO RETURN CODE FROM ISITMGD)

システムの処置: ログ保存ユーティリティーが SUCCESSFULLY に終了し、戻りコードが 0 で、理由コードが付随していないのは、SYSPRINT 出力メッセージで識別されているすべてのオンライン・ログ・データ・セット (OLDS) がアーカイブされた場合です。ユーティリティーは正常に終了しました。

ログ保存ユーティリティーが SUCCESSFULLY に終了し、戻りコードが 4 で、"(BUT NOT ALL OLDS WERE NOT ARCHIVED)" という理由が付随しているのは、次の理由の一方または両方がこのアーカイブ・ジョブに該当する場合です。

- システムが OLDS にリカバリー・ポイントを検出し、その OLDS をアーカイブし、それ以外の OLDS はアーカイブしないで終了した。/DBR または /DBD コマンドによって OLDS 切り替えが強制されるつど、その結果がリカバリー・ポイントになります。
- このジョブが実行されたとき、保存ユーティリティーへの入力として指定されている OLDS が、すでにアーカイブされていた。すでにアーカイブされていた OLDS は、SYSPRINT 出力メッセージで識別されません。

ログ保存ユーティリティーの終了が

UNSUCCESSFULLY であった場合は、付随している理由、追加の DFS メッセージ、および SYSPRINT 出力内のメッセージに、異常終了の理由が示されています。

プログラマーの応答: リカバリー・ポイントが検出されたため、OLDS がすべてはアーカイブされなかった場合は、未アーカイブ OLDS に関して、ログ保存ユーティリティーを実行してください。

ユーティリティーの終了が UNSUCCESSFULLY であった場合は、エラーを訂正し、ログ保存ユーティリティーを再実行してください。

DFS3264I ARCHIVE UNABLE TO OPEN zzzz

または

ARCHIVE UNABLE TO OPEN|CLOSE xxxx ddname

説明: 最初のメッセージの xxxx 値は、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS)、システム・ログ・データ・セット (SLDS)、または USER です。フィールド xxxx は、オープンまたはクローズできなかったデータ・セットのタイプを示します。ddname は、データ・セットに関する DD ステートメントの名前です。

2 番目のメッセージの zzzz 値は、SYSIN または SYSPRINT で、データ・セットは開かれたが、正常には開かれなかったことを示します。

システムの処置: 重複入力またはユーザー出力データ・セットの場合は、処理は続行されます。それ以外の場合は、ログ保存ユーティリティーは終了し、戻りコードが示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: ログ保存ユーティリティーが失敗した場合は、DD ステートメントが存在しているか、指定は正しいか確認したうえで、ジョブを再実行してください。

**DFS3265I xxxxxx ERROR DURING WADS
PROCESSING**

または

xxxxxx ERROR IN WADS DD - ddname

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティーが、CLOSE オプションを指定して、CLS または DUP モードで実行されている最中に、示されている先行書き込みデータ・セット (WADS) エラーが検出されました。xxxxxx の値は、次のいずれかになります。

OPEN WADS を開いている最中に、エラーが発生しました。

READ

WADS を読み取っている最中に、エラーが発生しました。

DEVICE TYPE

WADS として指定されているデータ・セットの装置タイプが DASD ではありません。

SEQUENCE #

オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) を適切にクローズするために必要なデータが、WADS から欠落しています。

CLOSE

WADS をクローズしている最中に、エラーが発生しました。

TRKCALC

エラーが MVS TRKCALC 機能で発生しました。

LOGIC

内部論理エラーが、WADS 読み取りモジュール (DFSFDLW0) によって検出されました。

VERIFY

WADS DD ステートメント (DFSWADS0) に、エラーが検出されました。

MISSING RCD

WADS レコードのシーケンスは、あるべき数よりも少ないレコード数でした。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTR0 が、異常終了 3265 で終了します。

DFS3266I CONTROL STATEMENT ERROR

rrrrrr

説明: 制御ステートメントにエラーが含まれています。rrrrrr でエラーのタイプを記述し、エラーのタイプに応じて、rrrrrr の値の 1 つが表示されます。rrrrrr の値は、次のとおりです。

- (NO OPERATION CODE)
- (INVALID OPERATION CODE OR PARAMETER)

(NO DDNOUT1 OR DDNAME LENGTH ERROR IN COPY)

(INVALID SPECIFICATION IN NOLOG)

(NO NAME OR NAME LENGTH ERROR IN EXIT)

(NO NOLOG AND NO FEOV IN SLDS)

('MUST BE WRITTEN' LOG IN NOLOG)

(CONCATENATION ERROR)

(DUPLICATE SPECIFICATION)

(PARENTHESIS ERROR)

(INVALID OFFSET SPECIFICATION)

(INVALID FLDLEN SPECIFICATION)

(INVALID FLDTYP SPECIFICATION)

(INVALID COND SPECIFICATION)

(INVALID VALUE SPECIFICATION)

(INVALID FEOV SPECIFICATION)

(INVALID DBRECOV SPECIFICATION)

(INVALID DDNAME SPECIFIED IN COPY STATEMENT)

システムの処置: ログ保存ユーティリティーは終了し、戻りコードが示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**DFS3267I USER EXIT ROUTINE entryname
FAILED AT zzzz EXIT RC=xx**

説明: zzzz の値は、INITIALIZATION、PROCESSING、または TERMINATION です。出口ルーチンがログ保存ユーティリティーに戻され、2 進ゼロ以外の戻りコードが示されます。xx は、指定された (エントリー・ポイント) 出口ルーチンによって戻される 10 進戻りコード値です。

システムの処置: ログ保存ユーティリティー処理は終了します。

オペレーターの応答: ありません。

プログラマーの応答: 出口ルーチンの処理の機能が必要な応答です。

DFS3268I DD CARD ERROR - rrrr

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティーの処理中に、データ・セット指定エラーが検出されました。rrrr は、エラー理由の記述です。rrrr の値は、次のとおりです。

- NO OUTPUT LOG IS SPECIFIED
- NO INPUT LOG IS SPECIFIED
- BOTH OLDS AND SLDS ARE SPECIFIED

- INPUT LOG DEVICE TYPE ERROR
- OUTPUT LOG DEVICE TYPE ERROR
- PRIMARY AND SECONDARY SLDS HAVE DIFFERENT BLOCK SIZE
- NO PRIMARY NEXT OLDS IS SPECIFIED
- BOTH WADS AND NEXT OLDS ARE SPECIFIED
- INCORRECT NEXT OLDS IS SPECIFIED
- WADS IS SPECIFIED, BUT NO WADS WAS AVAILABLE AT TIME OF LAST OLDS WRITE
- WADS IN USE AT TIME OF LAST OLDS WRITE NOT SPECIFIED
- DUP OR REP MODE AND PRIOR OLDS ARE SPECIFIED
- OLDS INPUT IS REQUIRED
- NO PRIMARY INPUT IS SPECIFIED
- WADS OR NEXT OLDS SPECIFIED WITH DUP/REP MODE
- OUTPUT LOG SHOULD NOT BE SPECIFIED
- PRIOR OLDS NEEDED BUT NOT SPECIFIED
- CLS FAILS - PRIOR OLDS INVALID
- CLS FAILS - PRIOR OLDS POSITIONING FAILED
- INVALID INPUT DATA SET ATTRIBUTES ON *dsname*

dsname は、無効の属性があった入力を記述する変数です。例として、DFSOLP、DFSOLS、IEFRDTER、IEFRDTER2 などがあります。

- PSB MODE REQUIRES IEFRDTER INPUT DD CARD

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーは失敗です。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

DFS3269I TRACK SIZE OF *xxxx ddname* IS TOO SMALL, OLDS BLKSIZE=*yyyy*

または

BLOCK SIZE OF *xxxx ddname* IS TOO SMALL, OLDS BLKSIZE=*yyyy*

説明: 指定された出力データ・セットのブロックまたはトラックのサイズが小さすぎて、入力データ・セットからコピーする必要があるログ・レコードが取りません。値 *xxxx* は、システム・ログ・データ・セット (SLDS)、ユーザー・データ・セット (USER)、またはリカバリー・ログ・データ・セット (RLDS) です。値 *yyyy* は、入力データ・セットのブロック・サイズです。

システムの処置: ログ保存ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: このエラーが検出されたデータ・セットに関して表示されている OLDS ブロック・サイズに等しいブロック・サイズを指定し、ジョブを再実行してください。


DFS3270I INVALID INPUT LOG IS SPECIFIED

説明: 入力ログの DBRC 検査が失敗しました。入力ログが既に閉じられている可能性があるか、あるいは DBRC が、指定された入力ログの RECON レコードを検出できません。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティー DFSULTR0 は失敗しました。

プログラマーの応答: SYSPRINT に DBRC エラー・メッセージが含まれているはずですが、メッセージ DSP0311I の説明を参照してください。正しい IMSID が EXEC パラメーターで指定されたか、正しいデータ・セット名が入力ログ DD ステートメントで指定されたか、検証してください。指定された IMSID または入力ログが間違っている場合は、JCL を訂正し、ジョブを再実行してください。

関連情報:

 DSP0311I (メッセージおよびコード)

DFS3271I zzzzzz = LOG DATA DOES NOT SATISFY LSN KEYWORD

または

zzzzzz = REQUIRED LOG DATA NOT FOUND

または

zzzzzz = LOG DATA EXISTS BEYOND EXPECTED CLOSE POINT

説明: このメッセージの最初の形式では、zzzzzz 値は REQUIRED LOG DATA NOT FOUND ですが、ログ・リカバリー・ユーティリティーが次のいずれかの条件を検出していることを示しています。

- NOWADS が指定されている。

DFSⁿWADS DD カードが、まだ実行 JCL 内に存在する場合があります。

- NEXT OLDS および CLS が指定された。

入力 OLDS に正常に書き込まれた最後のブロックが見つかっています。そのブロック・シーケンス番号は、NEXT OLDS の最初のブロックのブロック・シーケンス番号より小さい番号ではありませんでした。

- NEXT OLDS および DUP が指定された。

ERRC 値またはファイルの終わりに対応するブロックが入力 OLDS で検出されています。そのブロック・シーケンス番号は、NEXT OLDS の最初のブロックのブロック・シーケンス番号より小さい番号ではありませんでした。

- WADS が指定されている。

最初のエラーが CLS モードで、または DUP モードの ERRC 数のエラーで検出されましたが、入力 OLDS は、そのブロック・シーケンス番号が WADS の最初のブロックよりも小さい番号になるように位置指定されませんでした。

CLS モードのファイルの終わり検査で、OLDS の最後の正しいブロックを正常に再読み取りできませんでした。

このメッセージの 2 番目の形式では、zzzzzz 値が LOG DATA EXISTS BEYOND EXPECTED CLOSE POINT ですが、ログ・リカバリー・ユーティリティが次の条件を検出していることが示されています。

- 入力データは SLDS

ERRC 数のエラーが入力 SLDS で検出されましたが、SLDS には、タイム・スタンプ値がそれよりも新しい追加ブロックが含まれています。つまり、SLDS が正しく位置指定されていないので、クローズができないことを示しています。

- CLS モード

最初のエラーは CLS モードで検出されましたが、ファイルの終わり検査で、タイム・スタンプ値がそれよりも新しい追加ブロックが検出されました。

このメッセージの 3 番目の形式では、zzzzzz 値は LOG DATA DOES NOT SATISFY LSN KEYWORD ですが、CLS または DUP モードで読み取られた最後のログ・シーケンス番号が、LSN キーワードに関して指定されている値より小さいことが示されています。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティ DFSULTR0 が終了しますが、正常な終了ではありません。REQUIRED LOG DATA NOT FOUND およびデータの終わりが検出された事例では、異常終了コード U3271 が出されます。

プログラマーの応答: CLS モードが指定された場合は、エラー件数がゼロ以外の DUP モードに変更してください。DUP モードが指定された場合は、エラー件数の値を大きくして、ジョブを再実行してください。NOWADS が指定されていた場合は、DFSWADSn DD カードが存在しないようにし、存在する場合は、そのジョブを除去して再実行してください。

**DFS3272I OLDS ERROR. ACTIVE PSB
MESSAGES NOT GENERATED.**

または

**X'47' LOG RECORD NOT FOUND. RECOVERY
REQUIREMENTS NOT GENERATED.**

または

**X'47' LOG RECORD NOT FOUND. ACTIVE PSB
MESSAGES NOT GENERATED.**

説明: このメッセージは DFS3272E に関連していません。詳しい説明および処置については、そのメッセージに関する情報を参照してください。

関連情報:

DFS3272E

**DFS3272E INTERNAL ERROR DURING LOG
RECOVERY**

説明: 先行書き込みデータ・セット WADS が、ログ・リカバリー・ユーティリティへの入力として指定されました。ログ・リカバリー・ユーティリティでは、処理されたログ・データからのアクティブ PSB を判別できませんでした。

このメッセージの最初および 2 番目の形式が出されるのは、チェックポイント時点で書き込まれたアクティブ PST ログ・レコード X'47' が、入力 (オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) および WADS) で検出されなかったときです。

X'47' レコードに、すべてのアクティブ PSB のリストが含まれ、PSB 報告書が完全であるか確認することが要求されます。

このメッセージの 3 番目の形式が出されるのは、OLDS エラーが検出されたときです。つまり、ログ・レコードが欠落し、したがって、アクティブ PSB の分析が正しく実行できないことを意味します。

このメッセージの 4 番目の形式が出されるのは、ログ・リカバリー・ユーティリティ処理中に、内部エラーが発生したときです。

システムの処置: これが PSB モードでのログ・リカバリー・ユーティリティの "再実行" でない場合は、OLDS クローズ・プロセスは完了します。それ以外の場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティが単に終了します。

プログラマーの応答: このメッセージの最初の 2 つの形式を受信し、アクティブ PSB 情報が必要な場合は、次のことを行ってください。

- 直前および現行 OLDS を入力の連結データ・セットとして指定して、ジョブを CLS モードで再実行する。
- DBRC 処理が迂回されるように、PSBLIST=YES および DBRC=NO を EXEC パラメーターとして指定する。

このメッセージの 3 番目の形式の場合は、直前および現行 OLDS が正しい順序で連結されたか確認してください。OLDS が正しく指定されている場合は、ログ・リ

カバリー・ユーティリティを DUP モードで使用して、有効な OLDS を作成してください。

このメッセージの 4 番目の形式を受信した場合は、IEFRDOR DD ステートメントのログ・レコード連結をチェックしてください。ログ・レコード・シーケンス・エラーが発生した可能性があります。

**DFS3273I UNABLE TO PROCESS xxx
COMMAND FOR ddname, REASON
CODE nn**

説明: /START OLDS、/START WADS、/STOP OLDS、/STOP WADS、または /SWITCH WADS コマンドが処理できませんでした。xxx の値は、/START、/STOP、または /SWI で、処理できなかったコマンドを示します。理由コード nn は 16 進数です。

/START コマンドが失敗した場合は、次のいずれかの理由コードが示されます。

コード (16 進数)
意味

- 04 OLDS または WADS が動的に割り振りできませんでした。指定された OLDS または WADS の DFSMDA メンバーが存在しないか、動的割り振り要求が失敗したか、いずれかです。
- 08 指定された OLDS がすでにこの IMS に割り振られ、書き込みエラーが検出されたか、OLDS または WADS が装置タイプ・エラーを検出したか、WADS が DD DUMMY として割り振られたか、これらのエラーのいずれかが発生しました。
- 0C 指定された WADS がこの IMS にすでに割り振られているか、または OLDS DSET テーブルがいっぱいです。
- 10 WADS 装置タイプが、DLOG 初期設定時に確立された WADS 装置タイプと同じではありません。
- 14 指定された WADS のフォーマットを試みている最中に、永続入出力エラーが発生しました。

/STOP コマンドが失敗した場合は、次のいずれかの理由コードが示されます。

コード (16 進数)
意味

- 04 指定された OLDS または WADS は現在使用中であり、停止できません。
- 08 この IMS で現在使用可能な OLDS は、2 つ

未満です。このコマンドが実行された場合は、内部チェックポイント凍結シャットダウンが生じる結果になります。

- 0C 指定された OLDS または WADS は、現在この IMS に対して定義されていません。

/SWI コマンドが失敗した場合は、次のいずれかの理由コードが示されます。

コード (16 進数)
意味

- 01 WADS が不十分で切り替えできません。予備 WADS は少なくとも 1 つ必要であり、IMS が二重 WADS を使用して実行している場合は、予備 WADS が 2 つ必要です。
- 02 IMS は現在 WADS を使用していません。WADS が開始されてからでないと、切り替えコマンドは意味がありません。
- 03 予備 WADS を開いていて、障害が起きました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 現在使用可能な OLDS が 2 つに達しない場合は、/START OLDS コマンドを使用して、追加の OLDS を開始してから、/STOP OLDS コマンドを再試行することが可能です。現行の OLDS を停止する必要がある場合は、まず、次の OLDS に切り替えさせるコマンド (/DBR など) を使用して、現行の OLDS を閉じる必要があります。

/START OLDS 障害の場合は、システム・プログラマーに通知してください。

問題判別: 1、3、8、11、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3274I DBRC LOG xxxx EXIT FAILED (yy)

説明: IMS ログ保存ユーティリティまたはログ・リカバリー・ユーティリティによって実行依頼された DBRC 要求が正常に行われなかったか、RECON データ・セットに対するアクセスまたは更新の要求が失敗したかのいずれかです。呼び出された特定のタイプの DBRC 出口が xxxx で示されています。xxxx の値は、次のいずれかです。

ARCHIVE INIT
ARCHIVE COMPLETE
RECOVERY INIT
RECOVERY OPEN
RECOVERY EOVS
RECOVERY CLOSE


DBRC 戻りコード値は、メッセージには *yy* (16 進数) として表示されます。この値を 10 進数に変換して、DBRC 要求の戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: ログ保存ユーティリティーまたはログ・リカバリー・ユーティリティーが、異常終了コード 3274 を出します。

プログラマーの応答: 間違った RECON データ・セットが識別されていたり、RECON 1 および RECON 2 DD ステートメントが欠落していたりする場合は、それらを訂正してください。それ以外の場合は、DBRC 出口障害の理由を判別するには、分析が必要です。

問題判別: 1、2、3、8、11、36

関連資料:

 DBRC 要求戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3275I EXEC PARAMETER ERROR

説明: EXEC パラメーターの指定に誤りがあるか、EXEC パラメーター、DD ステートメント、および制御ステートメントの指定された組み合わせが無効であるか、いずれかです。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正して、ジョブを再実行してください。ログ・リカバリー・ユーティリティーの EXEC パラメーターについては、「IMS V15 システム・ユーティリティー」および「IMS V15 オペレーションおよびオートメーション」の説明を参照してください。

DFS3276I PRIMARY OR SECONDARY OLDS HAS BAD CONTENTS

説明: 1 次入力 OLDS の内容が、2 次 OLDS とは異なっています。1 次または 2 次 OLDS は、書き込みエラーを検出し、再使用されなかったのに大して、他のデータ・セットは再使用されましたが、正常にクローズされませんでした。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

プログラマーの応答: 内容に誤りがある、OLDS に関する DD ステートメントを除去し、他の OLDS を 1 次入力ログとして指定した上で、ジョブを再実行してください。

DFS3277I END OF PRIMARY EXTENT DURING OLDS WRITE OPERATION

説明: WADS 付き OLDS に関する DUP モードまたは CLS モードが指定されました。十分な余地がなく、WADS からのログ・ブロック、出力ログ (DUP モード) または入力ログ (CLS モード) の 1 次エクステンション内のアカウント・ログ・レコード (X'06') を書き込めませんでした。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが失敗しました。

プログラマーの応答: CLS モードが指定された場合は、DUP モードに変更し、十分なスペースがある出力ログを指定してください。DUP モードが指定された場合は、出力ログ用のスペースを大きくして指定し、ジョブを再実行してください。

DFS3278A DATA ERROR *nm* IN INPUT LOG DD *ddname*

説明: バッチ・ログ入力を読み取っている最中に、バッチ・バックアウトが次のいずれかのコード *nm* のエラーを検出しました。

コード 意味

- 02 DASD ログの逆方向処理中に、バッチ・バックアウトが、フィールド長内のデータを解釈できなかった。
- 03 DASD ログの逆方向処理中に、最後のトラックを超えて処理する試みがなされた。ログは適切にクローズできません。
- 05 順方向読み取り中に読み取られた最後のログ・レコードのログ・レコード・シーケンス BCKSEQNR 番号が、IMS バッチ・ログ入力データ・セットに関する逆方向読み取り中に読み取られた最初のレコードのログ・シーケンス番号 (BCKSEQNR) と一致しない。このエラーの原因は、IMSLOGR DD ステートメントでの JCL エラーである可能性があります。

システムの処置: データベース・バックアウト・ユーティリティー DFSBBO00 が正常には終了しないで、戻りコード RC=68 (X'44') が示されます。ABENDMSG 制御ステートメントが指定された場合は、異常終了コード U507 が出されます。

プログラマーの応答: ログ入力が適切にクローズされない可能性があります。ログが適切にクローズされるか検証し、バックアウト・ジョブを再実行してください。ログが適切にクローズされる場合は、ログ入力および異常終了コード U0507 のダンプを保持してください。その

上で、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3279I INCOMPLETE DEDB LOG CHAIN
MAY REMAIN IN PREVIOUS LOG
DATA SET**

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティーが正常に終了しました。"同期点コンプリート" ログ・レコード (X'5937' または X'37') が検出されなかったため、不完全な DEDB が、直前のログ・データ・セット (OLDS または SLDS) 内のログ・レコード・チェーンに残っている可能性があります。

システムの処置: ログ・リカバリー・ユーティリティーが終了し、戻りコード X'04' が示されます。

プログラマーの応答: 直前のログが OLDS である場合は、ジョブを CLS モードで再実行し、直前の OLDS を現行 OLDS の連結データ・セットとして組み込んでください。また、PSBLIST=YES および DBRC=NO を EXEC パラメーターとして指定してください。

直前の OLDS が SLDS にすでにアーカイブされていた場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティーを DUP モードで実行し、SLDS を入力データ・セットとして指定してください。また、PSBLIST=YES および DBRC=YES を EXEC パラメーターとして指定してください。

注: コールド・スタート以降に使用された唯一の OLDS が、クローズされた OLDS である場合は、このメッセージを無視してください。

DFS3280W REORG# updated for partition yyyyyyy

説明: IMS は、yyyyyy で識別される HALDB 区画の RECON データ・セットの再編成番号と比較した際に、データ・セット内の再編成番号の方が小さいことを検出しました。データ・セットは更新されました。

システムの処置: IMS は、RECON データ・セットからの再編成番号を使用して、区分データ・セットを更新しました。

システム・プログラマーの応答: 間接リスト項目 (ILE) がデータ・セットと同じ再編成番号を使用して作成された場合は、間接リスト・データ・セット (ILDS) を再作成する必要があります。

モジュール: DFSDDUI0


**DFS3281A CONTROL STATEMENT NOT VALID
FOR INPUT LOG: statement - logtype**

説明: SYSIN データ・セットに含まれている制御ステートメントが、入力ログのタイプと互換性がありません。このメッセージは、制御ステートメントと入力ログ・タイプを識別しています。

システムの処置: バックアウトが始まる前に、ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 識別されている制御ステートメントを除去して、ジョブを再実行依頼してください。バッチ・バックアウト・ユーティリティーの制御ステートメントの説明を参照してください。

関連資料:

 バッチ・バックアウト・ユーティリティー (DFSBBO00) (データベース・ユーティリティー)

**DFS3282W REORG# needs update for partition
yyyyyy**

説明: IMS は、指定された HALDB 区画の RECON 内の再編成番号と比較した際に、データ・セット内の再編成番号の方が小さいことを検出しました。区画データ・セットは入力専用でオープンされているため、正しい再編成番号を使用してデータ・セットを更新できません。IMS は、区画データ・セットがオープンされている場合、このメッセージを出します。

システムの処置: IMS は内部制御ブロックの再編成番号を更新しますが、データ・セットが更新用にオープンされるまでは、データ・セットには小さい再編成番号が入ったままです。

システム・プログラマーの応答: 区画アクセスを変更して、データ・セット上の再編成番号を更新できるようにしてください。ILE がデータ・セットと同じ再編成番号を使用して作成された場合は、ILDS を再作成する必要があります。

モジュール: DFSDDUI0

**DFS3283A BACKOUT INCOMPLETE FOR PSB
psbname DATABASES dbname1
dbname2...**

説明: バッチ・バックアウトが、DATABASE 制御ステートメントを使用して複数ステップで実行されているときは、最後のステップの場合を除いて、このメッセージは通常応答です。メッセージに示されている dbnames は、DATABASE 制御ステートメントで指定されているすべてのデータベースです。COLDSTART ステートメントが DATABASE ステートメントと一緒に使用され

る場合は、ワード ALL が *dbnames* の代わりに表示されます。

システムの処置: 入力ログ・データ・セット・シリーズで検出された、指定された PSB に関して識別されているデータベースに対する更新は、すべてバッチ・バックアウトでバックアウトされました。条件コード 88 が戻されます。

プログラマーの応答: ログ・データ・セットの直前のセットに対して、バッチ・バックアウトを実行することで、バックアウトを続けてください。同じ DATABASE 制御ステートメントを使用してください。

DFS3284A INCOMPATIBLE CONTROL STATEMENTS: *s1* - *s2*

説明: SYSIN データ・セットには、*s1* と *s2* の 2 つの制御ステートメントが含まれていますが、これらには使用できません。

システムの処置: バックアウトが始まる前に、ジョブは終了します。

プログラマーの応答: 不適切な制御ステートメントを除去して、ジョブを再実行依頼してください。すべての制御ステートメントの説明については、「IMS V15 データベース・ユーティリティ」を参照してください。

DFS3286W REORG# NOT FOUND FOR PARTITION *yyyyyyyy*

説明: 新規レコードが区画に移動された場合、再ロード時に HALDB 区画の再編成番号を判別できません。1 次データ・セットおよび RECON からの再編成番号は、判別できないか、ヌルです。

IMS が再ロード中に正しい再編成番号を判別できない場合、再編成番号がこの区画に対して誤って設定されている可能性があります。再編成番号が誤っていると、論理関係または副次索引のターゲット、あるいは両方に関与するセグメントの間接ポインターの解決時に障害が起こる可能性があります。この障害により、IMS は無効なポインターに従い、データ保全性の障害を引き起こす可能性があります。

システムの処置: 再編成番号は、その区画にロードされた最初のレコードの再編成番号を使用してデータ・セットに設定されました。

システム・プログラマーの応答: このデータベースにいずれの論理関係または副次索引データベースもない場合、処置は不要です。

データベースに論理関係または副次索引ターゲットがある場合は、再編成番号が逆行したかどうか判別してくだ

さい。番号が逆行したかどうか判別するには、以下のステップに従います。

1. 再ロード後の区画で最初のレコードのキーを判別します。
2. 再ロード前の最初のレコードの区画の再編成番号を判別します。
3. 再ロード後の最初のレコードの区画の再編成番号を判別します。

再ロード後の再編成番号が再ロード前の再編成番号より小か等しい場合、データ保全性の障害が発生する可能性があります。データ保全性の障害を防止するには、以下のステップを実行します。

1. 区画境界での変更を逆にして、区画をその元の区画に復元します。
2. 再編成番号の検証機能を使用可能にします。これは、DBRC CHANGE.RECON REORGV コマンドを使用して実行できます。
3. 区画を更新するか、HD アンロード・ユーティリティを実行することによって、RECON の再編成番号を設定します。
4. 区画境界の変更を再実行します。

重要: 再編成番号の妥当性検査を使用可能にできない場合、1 次データベース・データ・セットがスクラッチおよび再割り振りされていないか、区画が空に最初期設定されてからになっていない限り、IMS が再ロード中の再編成番号の逆行を防止することができます。

モジュール: DFSPSELO

DFS3287E STORAGE NOT AVAILABLE FOR BLOCK SERIALIZATION TABLE, RETURN CODE X'*xx*'

説明: ブロック逐次化ラッチ・テーブル用にストレージの GETMAIN を試行しているときに、エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx IMODULE GETMAIN からの戻りコード。これらのコードの説明については、IMODULE 戻りコードを参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

システム・プログラマーの応答: 使用可能なストレージが不足している場合は、IMS で使用できる主記憶域を増やしてください。

問題判別: 1、2、3、4、18、22

モジュール: DFSDVBI0

関連資料:

IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3288I INPUT LOG RECORD LENGTH
ERROR - SEQ NUMBER = nnnnnnnnn
INPUT LOG SEQUENCE NUMBER
ERROR - SEQ NUMBER = nnnnnnnnn
INPUT LOG CONTAINS RECORD
GAPS - SEQ NUMBER = nnnnnnnnn**

説明: ログ・リカバリー・ユーティリティ
(DFSULTR0) が PSB モードで実行中に、入力ログ
(IEFRDER) でエラーが検出されました。

システムの処置: 最初のバージョンのメッセージが出されるのは、レコード長が最小レコード長より短いログ・レコードが読み取られたときです。SEQ NUMBER 値は、最後に読み取られた有効なレコードのログ・レコード・シーケンス番号です。ユーティリティ処理は終了します。

2 番目のバージョンのメッセージが出されるのは、シーケンス番号が前のレコード・シーケンス番号より小さいログ・レコードが読み取られたときです。SEQ NUMBER 値は、最後に読み取られた有効なレコードのログ・レコード・シーケンス番号です。ユーティリティ処理は終了します。

3 番目のバージョンのメッセージが出されるのは、シーケンス番号が前のレコードのシーケンス番号より 2 以上大きいログ・レコードが読み取られたときです。つまり、ログ・レコードにギャップがあることを意味します。SEQ NUMBER 値は、最後に読み取られた有効なレコードのログ・レコード・シーケンス番号です。ユーティリティは処理を続けますが、入力データにギャップがあるため、出力報告書は不完全になる可能性があります。

オペレーターの応答: このメッセージは、通知目的で出されます。連結ログ入力を使用される場合は、ログが作成された順序になっているか検証してください。OLDS と SLDS が混合している場合は、ログ・レコード内容にオーバーラップがあってはなりません。入力が RLDS であるか、OLDS に書き込まれたレコードがすべては含まれていない他のログである場合は、3 番目のバージョンのメッセージが受信される可能性が大です。この場合は、代わりに OLDS または SLDS が使用される必要があります。

**DFS3289A LOG RECORD SEQUENCE ERROR
IN INPUT LOG-*nnnnnnnnnn*
*nnnnnnnnnnnn dddddd***

説明: DDNAME *ddddddd* に関連した入力ログ・データ・セットを読み取っている最中に、バッチ・バックアウトが、順序が狂っているログ・レコードを検出しました。シーケンス番号が *nnnnnnnnnn* であるログ・レコードが予想されていました。シーケンス番号が *nnnnnnnnnnnn* のログ・レコードが、その代わりに検出されました。このエラーが生じる原因になりうるのは、次のいずれかの場合です。

- ログ・データ・セットが、JCL 内で正しい順序になっていない。
- ログ・データ・セットに無効のデータがある。
- ユーザー作成プログラムによってログが変更された。

システムの処置: バックアウトがまったく試みられないうちに、バッチ・バックアウトが終了し、条件コード 108 が示されます。

プログラマーの応答: JCL 内のログ・データ・セットの順序が正しいか検証してください。順序が正しい場合は、ログ・リカバリー・ユーティリティの DUP モードを使用して、メッセージで識別されているログ・データを訂正した上で、ジョブを再実行してください。

入力ログにバッチ・バックアウトに必要なレコードのすべてが正しい順序で含まれていると確信できる場合は、BYPASS SEQVER ステートメントを使用して、シーケンス検査をスキップしてかまいません。

**DFS3290I NO PENDING BACKOUT FITS
CRITERIA - RSN= r1[,r2[,r3[,
r4[,r5[,r6]]]]]**

説明: バッチ・バックアウト・ユーティリティのこの実行に関する要件に適合する RECON バックアウト・レコードのリカバリー単位 (UOR) がありません。メッセージに付加されている理由コードで、バックアウトが実行されない理由が示されます。理由コードとその意味は、次のとおりです。

コード (10 進数)

意味

- 0 このサブシステムに関して、保留中のバックアウトがない。
- 1 UOR はすでにバックアウトされている。
- 2 UOR が、バッチ・バックアウト EXEC ステートメントで名前が指定されている PSB 用ではない。
- 3 UOR が未確定である。コールド・スタートが行われておらず、COLDSTART ステートメントが使用されなかった。

- 4 UOR が進行中ではなく、ACTIVE ステートメントが使用された。
- 5 UOR が未確定である。いずれの制御ステートメントでも再始動が暗黙指定されていない。再始動は完全ではありません。
- 6 UOR が進行中、または未確定である。最新ログ・データが入力に含まれていません。

システムの処置: バッチ・バックアウト・ユーティリティーは、バックアウトをまったく実行しないで終了します。

プログラマーの応答: 実行される必要があったのに未解決のバックアウトがある場合は、説明にリストしてある理由コードから問題を判別し、JCL を訂正し、バッチ・バックアウトを再実行してください。

DFS3291I UORS IDENTIFIED TO DBRC - IN-FLIGHTS=*nnn*, IN-DOUBTS=*mmm*

説明: バッチ・バックアウトによって、入力ログの終了時に進行中または未確定であった UORS のリストが DBRC に付与されています。進行中が *nnn* あり、未確定が *mmm* ありました。コールド・スタートが行われる場合は、必要なバックアウトが実行されるまで、登録済みデータベースを保護するために、この情報が使用されます。未確定がある場合は、バッチ・バックアウトでは適切に解決されないため、コールド・スタートを行わないようにする必要があります。

システムの処置: RECON バックアウト・レコードが、バッチ・バックアウトによって DBRC に提供された情報から、作成または変更されています。バッチ・バックアウト実行の結果とは関係なく、情報は RECON に残っています。

DFS3292I RESTART IN PROGRESS CONFLICTS WITH BBO CONTROL STATEMENT - *ssssssss*

説明: 制御ステートメント *ssssssss* が、バッチ・バックアウトにバックアウトの実行を指示しますが、バックアウトを実行する再始動が進行中です。

システムの処置: バッチ・バックアウトは、バックアウトをまったく試みることなく終了します。

プログラマーの応答: 再始動が失敗した場合は、バッチ・バックアウトを再実行する前に、その出力ログをクローズしてください。

DFS3293W PERFORMED BACKOUT NOT NEEDED

説明: バッチ・バックアウトは正常に完了しました。バッチ・バックアウトが、DBRC に完了したバックアウトを知らせました。RECON バックアウト・レコード内の情報によれば、UORS の 1 つに関しては、バックアウトされたデータベースのうち少なくとも 1 つは、バックアウトする必要がありませんでした。BYPASS LOGVER 制御ステートメントが使用されなかった場合は、このことは、バッチ・バックアウトの実行中に、RECON バックアウトが異なるプロセスによって変更されたことを意味します。

システムの処置: バッチ・バックアウト・ユーティリティーが実行された PSB に関連したデータベースから、必要な変更が正常にバックアウトされています。

DFS3294A LOG VERIFICATION FAILURE *nn- rrrrrrrrrr*[DSN= *DSNExamined*], VOL=*VOLSERExamined*] EXPECTED= [*DSNExpected* | *VOLSERExpected*]

説明: DBRC からの情報を使用して、バッチ・バックアウト・ユーティリティーが、JCL で指定されているログ・データ・セットは、要求されたバックアウトの実行には適切でないと判別しました。一般理由 *rrrrrrrrrr* およびサブコード *nn* がメッセージに示されています。サブコードはそれぞれ、バッチ・バックアウト・モジュールでの特定のテストに関連付けられています。サブコード 20 から 40 で特定のエラーを識別します。

メッセージに示されている変数とそのそれぞれの意味は、次のとおりです。

nn バッチ・バックアウト・モジュールでの特定のテストを識別するサブコード

rrrrrrrrrr

問題の一般的な記述

表示される可能性のある値は、次のとおりです。

- DATA SET NOT FOUND IN RECON
- CONTINUITY
- LATER DATA SET OR VOLUME
NEEDED
- DATA SET NOT CLOSED.
- LOG INCLUDES RESTART

DSNExamined

問題の検出時に調べる DD ステートメントの DSN で、1 から 44 文字から成る。問題はこの DD ステートメントか、その前の DD ステートメントに存在します。

VOLSERExamined

問題の検出時に調べる VOLSER。問題はこの VOLSER か、その前の VOLSER に存在します。

DSNExpected

問題の検出時に予測された DD ステートメントの DSN で、1 から 44 文字から成る。

VOLSERExpected

問題の検出時に予測された VOLSER

それぞれのサブコードごとに、最も可能性の高い問題について以下で説明します。

注: サブコードが 20 より小さい場合は、次のいずれもが問題となりえます。

- ログ・データ・セットが DBRC に対して識別されなかった (IMS 以外の手段で作成された)。
- ログ・データ・セットが RECON データ・セットから除去された。
- DSNAME または VOLSER が無効であるか、JCL 内で順序が狂っている。
- ログ・データ・セットまたは VOLSER がスキップされた。

コード (16 進数)

意味

- 01 最初のログ・データ・セットが、IMS 以外の手段で作成された。
- 02 *DSNExpected* が予測されていたのに、検出されたのは *DSNExamined* であった。
- 03 *VOLSERExpected* が予測されていたのに、検出されたのは *VOLSERExamined* であった。
- 10 指定されたのはコンプリート・データ・セットであったが、そうではなく、直前のログ・データ・セットの次の VOLSER が指定される必要があった。
- 11 直前のログ・データ・セットの最後の VOLSER がスキップされた。
- 12 無効の VOLSER が指定されたか、繰り返されたか。
- 13 *VOLSERExpected* が予測されていたのに、検出されたのは *VOLSERExamined* であった。
- 14 DD ステートメント *DSNExamined* で指定されたログ・データ・セットより前にあるべきログ・データ・セットが、入力から欠落している。
- 20 バッチからの入力ログである。VOLSER が終了時に欠落します。

- 21 バックアウトが再始動に関連している。VOLSER が終了時に欠落します。
- 22 バッチ・ジョブからの入力ログであり、そのジョブ名に関する最新のログが DBRC 情報で示されている。このコードは、バッチ・ジョブの複数回の実行からログが指定されたことも意味しています。
- 23 バックアウトが再始動に関連していることが、制御ステートメントで示されている。再始動より前の最後のログ・データ・セットは、入力に組み込まれません。
- 30 DD ステートメント *DSNExamined* で指定されたログ・データ・セットがクローズされていない。
- 40 最初のデータ・セット以外を入力ログ・データ・セットの 1 つに正常な再始動が組み込まれている。バッチ・バックアウトは、再始動の両側からのログ・データを、ログ検査時の 1 回の実行では処理できません。

システムの処置: バッチ・バックアウトは、バックアウトをまったく実行せずに終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、バッチ・バックアウトを再実行してください。

DFS3295A READ BACKWARD NOT ALLOWED FOR BACK OUT FROM IMS CHECKPOINT

説明: READBACK オプションを指定して、バッチ・バックアウトが実行中です。IMS チェックポイントで、バッチ・バックアウトが UOR を検出し、そのバックアウトを試みました。ただし、バッチ・バックアウトでは、その UOR に関する元のログ・レコードは検出されませんでした。

バッチ・バックアウトでは、読み取りバックアウト技法を使用して、システム・チェックポイントの情報からのバックアウトは実行できません。バッチ・バックアウトは、バックアウトを実行せずに終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- READBACK ステートメントを SYSIN データ・セットから除去する。バッチ・バックアウトは、変更を仮想記憶域にバッファリングすることで、バックアウトを実行します。
 - バッチ・バックアウトへの入力で、バックアウトを必要とするアプリケーションの実行時にアクティブであった、ログ・データ・セットを組み込む。
-

DFS3296A DBRC=C REQUIRES BYPASS LOGVER

説明: DBRC を使用して正常に完了したジョブをバックアウトする試みで、DBRC=C を使用しました。ジョブは正常に完了したので、データベースを変更したのは、後続のジョブであった可能性があります。ユーザーが提供したログは、このサブシステムで最後に使用されたログではない可能性があり、ログ検査は失敗します。バッチ・バックアウト・ユーティリティーおよび DBRC では、ユーザーが提供したログが正しいか検証できず、ジョブの完了後に変更された場合は、データベースが損傷するのを防げません。

システムの処置: バッチ・バックアウトは、バックアウトをまったく実行せずに終了します。

プログラマーの応答: DBRC=C を使用してバッチ・バックアウト・ユーティリティーを実行する前に、バックアウトするデータベースが他のプログラムによって変更されていないか、確認する必要があります。他のジョブでデータベースが変更されていないことが確信でき、なおかつやはりこの完了ジョブをバックアウトしたいと考える場合は、BYPASS LOGVER ユーティリティー制御ステートメントを SYSIN データ・セットに組み込む必要があります。他の必要な条件すべてに適合すれば、バッチ・バックアウトは完了ジョブをバックアウトします。

モジュール: DFSBACK0

DFS3298E CICS IPIC ERROR DURING ISC TCP/IP SESSION INITIATION
RC=ipicrc TEXT=cics_rs_code
USER=isc_user

説明: IBM CICS Transaction Server for z/OS との ISC TCP/IP セッションの開始時に、IMS は、IP 相互接続 (IPIC) 例外エラーを示す機能交換応答 (タイプ X'02') を受け取りました。セッション開始は失敗しました。

「TEXT」フィールドに、エラー・メッセージの意味を簡単に説明するテキストが入っています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ipicrc CICS によって返された 2 バイトの応答コード。

以下のリストで考えられる応答コードについて説明します。

- 02 例外
- 03 災害イベント
- 04 メッセージは CICS には無効です
- 05 カーネル・エラー
- 06 CICS はエラーをパージしました

cics_rs_code CICS がエラーのために IMS に返した理由コードを簡単に説明する最大 12 文字のテキスト。返される可能性のある *cics_rs_code* の値の説明については、次の表を参照してください。

isc_user セッション開始要求に関連付けられているユーザー名。

次の表に、「TEXT」フィールドに表示される可能性がある理由コードを示します。

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
APPLID		X'06'	<p>CICS が受信した機能交換メッセージで、<i>server_applid</i> またはその高位修飾子が CICS サブシステムの APPLID および高位修飾子と一致していません。</p> <p>このエラーの原因として最も考えられるのは、ISC ステートメントの CICSAPPL キーワードの値がリモート CICS サブシステムの APPLID と一致していないことです。</p> <p>IMS.PROCLIB データ・セットの IMS Connect 構成メンバーの ISC ステートメントで CICSAPPL キーワードの値を修正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_INVALID_APPLID</p>

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
AUTOINSTALL		X'01'	<p>CICS 自動インストール機能は、CICS サブシステム内に必要な IPCONN リソースを作成できませんでした。</p> <p>自動インストール機能は、新規 IPCONN リソースの名前が、既存の IPCONN リソースの名前と同じ場合に失敗する可能性があります。</p> <p>自動インストール機能によって作成される IPCONN リソースの名前は IMS セッション開始要求 (/OPNDST NODE コマンドなど) で指定されるユーザー ID から生成されるため、別のユーザー ID を指定してセッションの開始を試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: AUTOINSTALL_FAILED</p>
CAPEXRACE		X'15'	<p>機能交換の競合。IMS と CICS の間のセッションが IMS と CICS によって同時に開始されたため、2 つの機能交換要求の間で競合状態が生じました。IMS /OPNDST コマンドの実行を再試行してください。</p> <p>IMS または CICS のいずれかからセッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: CAPEX_RACE</p>
DFHxxxx			<p>API 会話エラー。</p> <p>DFHxxxx は、IMS Connect に返された CICS API エラー・メッセージです。ここで xxxx は番号、DFH は CICS メッセージ接頭語です。</p> <p>このエラーはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPRQST	X'400'		<p>HTTP プロトコルまたは TCP/IP サーバーによって定義され、構文が誤った形式であるために要求がサーバーによって解釈されなかったことを示します。</p> <p>セッション開始要求はおそらく無効であり、受信側のサブシステムが認識できませんでした。</p> <p>セッションを開始しているサブシステムで ISC TCP/IP セッション開始要求が正しく構成されていることを確認してください。</p> <p>問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>
HTTPERR		X'0B'	<p>コールバック接続に関連する機能交換応答に、エラーを示す HTTP 状況コードが含まれていました。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_HTTP_ERROR</p>

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
IPCONNNO		X'13'	<p>IPCONN リソースがありません。</p> <p>CICS TCPIP SERVICE リソースに対して接続を獲得または解放しようとしたが、TCPIP SERVICE リソースに関連する IPCONN リソースがありません。</p> <p>エラーの原因は、CICS サブシステム内の不適切な TCPIP SERVICE または IPCONN リソース定義である可能性があります。リソース定義のエラーがあればすべて訂正して、セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: NO_IPCONN</p>
IPCONNNOTFND		X'04'	<p>IPCONN が見つからない。</p> <p>CICS サブシステムとの接続を獲得または解放する試みが行われましたが、必要な IPCONN リソースが現在存在していないか、見つかりません。</p> <p>CICS 理由テキスト: IPCONN_NOT_FOUND</p>
IPCONNONEWAY		X'14'	<p>ISC TCP/IP セッションには、両方向接続が必要ですが、CICS IPCONN リソースは、片方向接続を使用するように定義されています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義を訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_ONE_WAY_IPCONN</p>
IPCONNSTATE		X'02'	<p>IPCONN 状態が無効。</p> <p>ISCO ACQUIRE_CONNECTION が発行されましたが、CICS IPCONN リソースが適切な状態ではないため失敗しました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は IN SERVICE および RELEASED でなければなりません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_IPCONN_STATE</p>

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
OPENERR		X'0D'	<p>オープン・セッションのエラーです。</p> <p>IMS は、IMS Connect を使用して CICS との ISC TCP/IP セッションを開始しようとしたが、IMS と CICS サブシステム間の機能交換が失敗しました。</p> <p>以下のシナリオは、このエラーが発生する可能性がある状況の例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> IMS Connect ポートが停止しています。 CICS DFHCSO データ・セットの IPCONN リソース定義の PORT キーワードで指定された値が、IMS Connect HWSCFGxx PROCLIB メンバーの TCPIP ステートメントの CICSSPORT キーワードの ID サブパラメーターで指定された値と一致していません。 <p>このエラーの原因として考えられるのは、構成または定義の問題です。</p> <p>IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーおよびリソースがすべて正しく定義されていることを確認してください。定義ステートメントにエラーがあれば訂正してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: SESSION_OPEN_FAILED</p>
PARTNERSTATE		X'03'	<p>パートナー状態が無効です。</p> <p>CICS は、無効な状態にある IPCONN リソースの機能交換要求を受け取りました。</p> <p>IPCONN リソースの状態は INSERVICE である必要がありますが、まだ獲得されていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: INVALID_PARTNER_STATE</p>
RECOVERR		X'08'	<p>機能交換リカバリー・エラー。</p> <p>CICS はサポートされない <i>isce_preferred_recovery</i> 値を含む機能交換要求を受け取り、フォールバック先として一致する <i>isce_supported_protocols</i> フラグが設定されていません。</p> <p>このエラーはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_BAD_RECOV</p>

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
RESPBAD		X'09'	<p>CICS IPIC 応答が不適切です。</p> <p>CICS が受け取ったコールバック機能交換応答には、不適切な応答と理由コードが含まれています。</p> <p>CICS IPCONN リソース定義の PORT 属性で定義されたポートが、IMS Connect PROCLIB 構成メンバーの TCPIP ステートメントの CICSSPORT キーワードの ID サブパラメーターで IMS Connect にも定義されていない場合に、このエラーが機能交換中に発生する可能性があります。</p> <p>IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーおよびリソースがすべて正しく定義されていることを確認してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_BAD_RESPONSE</p>
RESPERR		X'0A'	<p>機能交換応答エラー。</p> <p>コールバック機能交換応答が無効なことが判明しました。</p> <p>このエラーは、IMS、IMS Connect、または CICS のいずれかの内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_ERROR</p>
RESPTIMEOUT		X'0C'	<p>機能交換応答がタイムアウトになりました。</p> <p>機能交換要求への応答を、指定されたタイムアウト期間内に受け取りませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC で CICS IPIC 要求タイムアウト値 (RTIMOUT) を増やしてください。</p> <p>RTIMOUT 値は mmss 形式です。ここで、mm は分、ss は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE(DFHCICSx) GROUP(IMSISCIPI) RTIMOUT(0100) と指定します。</p> <p>タイムアウト値を表示または更新するには、CICS トランザクション CEDA を使用します。</p> <p>CICS 理由テキスト: IS CER_TIMED_OUT</p>
RQSTERR		X'05'	<p>機能交換要求エラー。</p> <p>機能交換要求は無効なことが判明し、パートナー CICS サブシステムにリジェクトされました。IMS または IMS Connect がセッションを開始するために誤った機能交換要求メッセージを作成しました。</p> <p>IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト:</p>

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
RQSTTIMEOUT		X'07'	<p>CICS IPIC 要求がタイムアウトになりました。</p> <p>IPCONN リソースに対する接続を初期設定するために TCPIPSERVICE トランザクション (デフォルトで CISS) が接続されましたが、トランザクション・プロファイルで定義されているタイムアウト期間内に機能交換要求を受け取りませんでした。</p> <p>システム・プロファイル DFHCICSC で CICS IPIC 要求タイムアウト値 (RTIMOUT) を増やしてください。</p> <p>RTIMOUT 値は <i>mmss</i> 形式です。ここで、<i>mm</i> は分、<i>ss</i> は秒です。例えば、タイムアウト値を 1 分に変更するには、ALTER PROFILE(DFHCICSC) GROUP(IMSISCI) RTIMOUT(0100) と指定します。</p> <p>タイムアウト値を表示または更新するには、CICS トランザクション CEDA を使用します。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_TIMED_OUT</p>
SECURITY		X'16'	<p>セキュリティ・エラー。呼び出し元のセキュリティ資格情報が、パートナー・システムに受け入れられません。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_SECURITY_VIOLATION</p>
SHUTDOWN		X'0E'	<p>CICS がシャットダウンされています。</p> <p>IPCONN リソースを獲得または初期設定するために DFHISCO に対して呼び出しが行われましたが、呼び出しが完了する前に CICS がシャットダウンしました。</p> <p>CICS がアクティブであることを確認してください。CICS がアクティブになっていない場合は、開始してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: SHUTDOWN</p>
SOCKETERR		X'18'	<p>クライアント・ソケット・エラークライアント接続はクローズされています。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_CLIENT_CONNECTION_CLOSED</p>
SOCKETSECERR		X'19'	<p>2 次ソケット・エラー。2 次ソケットを取得しようとしたときにエラーが発生しました。</p> <p>CICS 理由テキスト: ISCE_SEC SOCK_ERROR</p>
SRVCCLOSED		X'0F'	<p>TCP/IP サービスが使用不可です。</p> <p>接続を得ようとする試みは、TCP/IP サポートが使用不可のために失敗しました。</p> <p>TCP/IP サービスを開始してから、ISC TCP/IP セッションの開始を再試行してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIP_CLOSED</p>

表 19. DFS3298E によって表示される可能性がある CICS 理由コードの説明 (続き)

サービス・コード	HTTP 状況コード	IPIC 理由コード	意味
SRVCMISMATCH		X'10'	<p>TCPIPSERVICE ミスマッチ。</p> <p>TCPIPSERVICE とは異なる TCPIPSERVICE を使用するように定義されている IPCONN リソースに対する機能交換要求を受け取りました。</p> <p>このエラーは、CICS TCPIPSERVICE と IPCONN のリソース定義に定義されているポートが一致しない場合に発生する可能性があります。</p> <p>IMS、IMS Connect、および CICS PROCLIB メンバーおよびリソースがすべて正しく定義されていることを確認してください。エラーがあれば訂正します。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_MISMATCH</p>
SRVCNOTFOUND		X'11'	<p>IPCONN リソースに参照される TCPIPSERVICE リソースが CICS サブシステムで見つかりませんでした。</p> <p>IPCONN リソース定義内で参照されている TCPIPSERVICE リソースがインストールされていないか、削除されたために、CICS は接続を獲得または解放できませんでした。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。TCPIPSERVICE リソースを再インストールして開くことが必要な場合があります。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_NOT_FOUND</p>
SRVCNOTOPEN		X'12'	<p>CICS サブシステムの TCPIPSERVICE リソースがオープンされていません。</p> <p>CICS サブシステムは、IPCONN リソースの接続を獲得しようとしたが、IPCONN リソース定義で指定されている TCPIPSERVICE がオープンされていません。</p> <p>セッションの開始を再度試みてください。問題が引き続き発生する場合は、CICS システム管理者に連絡してください。</p> <p>CICS 理由テキスト: TCPIPSERVICE_NOT_OPEN</p>
SRVCUNAVAIL	X'503'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーにより定義され、過負荷または保守のためのサービス停止が理由で TCP/IP サーバーが一時的に使用不可であることを示します。</p> <p>TCP/IP サーバーがアクティブであることを確認してください。TCP/IP サーバーがアクティブになっていない場合は、開始してください。</p>
SRVRERR	X'500'		<p>HTTP プロトコルまたは z/OS TCP/IP サーバーによって定義され、TCP/IP サーバーで予期しない状態が検出されたために、要求を実行できなかったことを示しています。</p> <p>Hypertext Transfer Protocol -- HTTP/1.1</p>
UNKNOWN		X'63'	<p>不明なエラー。このエラーはおそらく内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。</p>

システムの処置: CICS との ISC TCP/IP セッションを開始しようとしたが、失敗しました。IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: DFS3298E メッセージに含まれていた CICS 応答コードおよび理由コードの説明を参照してください。コードと、エラーを修正するために実行できる処置について詳しくは、CICS サポート担当員にお問い合わせください。

以下のエレメントが正しく構成されていることを確認します。

- IMS の ISC 端末。ETO ログオン記述子または TYPE、TERMINAL、および SUBPOOL などのステージ 1 システム定義マクロを使用します。
- IMS Connect の ISC リンク。ISC および RMTIMSCON ステートメントを使用します。
- CICS の TCPIP SERVICE および IPCONN ステートメント。

モジュール: DFSIPIC0

関連タスク:

☞ TCP/IP の ISC サポート (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

☞ QUERY IMSCON TYPE(PORT) コマンド (コマンド)

☞ CICS: ISMF - ISC IP メッセージ形式

**DFS3299I FPBP64M INCREASED FROM xxxxxxxx
 TO yyyyyyyyyy DUE TO SYSTEM
 REQUIREMENTS RSN=rrrrrrrr**

説明: IMS は、システムが計算した FPBP64M の値が最小範囲より下であることを検出し、FPBP64M を増やしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

FPBP64M の初期値

yyyyyyyyy

FPBP64M の新しい値

rrrrrrrrr サービスで使用

システムの処置: IMS は FPBP64M の新しい値を計算して FPBP64M に適用しました。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFBPN61

**DFS3300I aaaa IGNORED, FPBP64 PARAMETER
 USED**

説明: 高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャー (FPBP64=Y) と、現行バッファの高速機能マネージャー (DBBF、DBFX、BSIZ) の両方が指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaa 無視されるパラメーター: DBBF、DBFX、および BSIZ。

システムの処置: 高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャーが使用され、DBBF、DBFX、および BSIZ は無視されます。

オペレーターの応答: 高速機能 64 ビット・バッファ・マネージャーを使用する場合は、処置は必要ありません。現行のバッファ・マネージャーを使用する場合は、FPBP64=Y を DFSDFxxx メンバーから削除し、IMS をコールド・スタートします。

モジュール: DBFINI20

第 70 章 DFS メッセージ DFS3301W - DFS3350E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3301W AN INVALID REQUEST WAS MADE TO DELETE A SUBPOOL

説明: 静止されておらず、論理的に削除されていないサブプールまたはエクステントを削除する内部要求が行われました。この問題は、内部システム・エラーです。

システムの処置: IMS は削除要求を無視しました。

プログラマーの応答: IMS サブシステムのメモリー・ダンプをとり、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、具体的な問題を判断する支援を受けてください。

DFS3303I PSB *psbname* PCB *pcbname* DBD *dbdname*xxxx JOBNAME *jobname*RGNNnn

説明: このメッセージが疑似異常終了 3303 の前に表示されるのは、PSB *psbname* を使用してスケジュールされたアプリケーション・プログラムが、データベース PCB *pcbname* に対して、互換性のない DL/I 呼び出しを試みたときです。PSB の DL/I スケジューリング中は、データベース *dbdname* には条件 *xxxx* がありました。このデータベースに対する DL/I 呼び出しは、条件しだいで、部分的または全的に制限されます。

このメッセージが表示されるのは、プログラムがスケジュールされ、プログラムによって DL/I INIT STATUS 呼び出しが発行されていない時点では使用不能であった、データベース内のデータへの、DL/I によるアクセスの試みが原因の 3303 異常終了の前だけです。

xxxx は、次のいずれかです。

CF FAIL

カップリング・ファシリティ障害が発生しました。リカバリーが行われ、データ共有が再開されるまでは、データベースにアクセスできません。

INVDBVER

アプリケーション・プログラムによって発行された PCB または INIT VERSION 呼び出しで、全機能データベースの無効なバージョン番号が指定されました。指定されるデータベース・バージョン番号は、IMS システムでアクティブである現行データベースのバージョン番号と等しいか、それより小さい番号でなければなりません。また、データベースのバージョン管

理が使用不可である場合、PCB でデータベース・バージョンを指定できません。データベースのバージョン管理を使用可能にするには、DFSDFxxx PROCLIB メンバーのデータベース・セクションで DBVERSION=Y を指定します。

INVDBCHG

全機能データベースの現行のデータベース構造に、データベースのバージョン管理でサポートされない変更が含まれています。データベースの以前のバージョンは現行バージョンと互換性がないので、アクセスできません。データベースのバージョン管理でサポートされる変更は次のとおりです。

- セグメントのサイズの拡張
- 既存フィールドに変更を加えることなく、新規フィールドの追加

LOCKED

識別されているデータベースは、/LOCK コマンドを使用してセキュリティ・ロックされていました。

NOACCESS

データベース ACCESS は "RO" に設定され、PCB 処理意図 (PROCOPT) は "GO" より大でした。ACCESS "RO" で許されるのは、保全性を伴わないデータベース読み取りのみであるため、保全性を暗黙指定する処理インテントは無効です。

NOCATALOG

IMS カタログが使用不可です。データベースのバージョン管理には IMS カタログが必要です。

NO DBRC

PCB *pcbname* は HALDB を参照していますが、このバッチ・ジョブについて、DBRC の使用が抑止されていました。

NODELETE

このデータベースへの DL/I DLET 呼び出しが、スケジュールリング時に許容されなかったのは、制限付きまたは使用不能のデータベースが論理関係、または副次索引にかかわっていたためです。削除呼び出しを処理できないのは、呼び出しには、使用不可になっているか、更新用に使用不可になっている、論理的に関連するデ

DFS3304I

ータベースまたは副次索引データベースの更新が必要である場合があります。

NOTAUTHD

DL/I スケジューリング時点では、データベースが DBRC によって許可されなかったか、許可できませんでした。メッセージ DFS047A が出されました。DL/I がこのデータベースに対する呼び出しを一切許可しません。

NOUPDATE

識別されているデータベースに関するデータベース ACCESS が RD であったか、/DBD コマンドがデータベースに関して発行されたか、いずれかです。データベース ACCESS が RD である (明示的でも、/DBD コマンドゆえに暗黙的でも) ときは、DL/I 呼び出し (ISRT、REPL、または DLET など) は使用できません。ISRT、REPL、または DLET 呼び出しで更新される必要がある可能性のある、論理的関連または副次索引データベースへのアクセスが使用不能または制限付きであることによっても、この条件が生じる可能性があります。

NOSTORAG

現行バージョン以外の、全機能データベースのバージョンに対する要求を満たすのに必要な内部ブロックを構築中に、ストレージ・エラーが発生しました。

NOVERFND

要求されたバージョンの全機能データベースを IMS カタログで検出できません。

PARTUNAV

dbdname によって示されている HALDB データベース内の区画を参照する試みがなされましたが、使用不能の区画でした。

STOPPED

識別されているデータベースに対して、/STOP または /DBR コマンドが発行されました。データベースが停止されているときは、DL/I はデータベース・アクセスを許しません。

SYSTEM

IMS システムが、一時的にデータベースを使用不能にしました。理由として可能性がある場合の 1 つに、XRF テークオーバーが生じ、データベースを再検査する必要がある場合があります。

システムの処置: OS *jobname* および領域番号によって識別されている IMS オンライン従属領域が異常終了します。

BMP の場合、領域が異常終了 3303 で終了します。MPP の場合、データベースは停止しますが、領域は終了しません。

処理されるメッセージが中断キューに置かれますが、

SERIAL=YES オプションが TRANSACT マクロで指定されていた場合は例外です。この場合は、トランザクションが停止されます。メッセージが中断キューに初めて置かれたときは、そのトランザクションに関するカウンターが 1 だけ増分されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) データベース条件を訂正した上で、データベースを開始してください。

中断キューをドレーンし、開始されたデータベースへのアクセスが許可されているプログラムによって処理される、トランザクションに関する USTOPPED 状況をリセットするには、/START DATABASE または UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを発行してください。

開始済みトランザクションに関して中断キューをドレーンし、USTOPPED 状況をリセットする場合は、/START TRAN または UPDATE TRAN START(SUSPEND) コマンドを発行してください。

すべてのトランザクションに関して中断キューをドレーンするには、/DEQ SUSPEND コマンドを発行してください。

中断キューの働きについて詳しくは、「IMS V15 システム管理」を参照してください。

関連資料:

➡ INIT 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 3303

DFS3304I IRLM LOCK REQUEST REJECTED.
PSB=*psb_name* DBD=*dbd_name*
JOBNAME=*job_name* RGN=*nnn*
SUBSYSTEM=*subsystem*

説明: この通知メッセージが疑似異常終了コード 3303 の前に表示されるのは、アプリケーション・プログラムが、IRLM によって保持ロックの取得を試みたときです。メッセージ・テキストにある変数は、次のとおりです。

psb_name

失敗した呼び出しを発行した PSB の名前

dbd_name

保持ロックがあるデータベースの名前

job_name

3303 異常終了を受信した z/OS ジョブの名前

nnn

3303 異常終了コードを受信する PST の番号 (10 進数)


subsystem

ロックを保持する IMS サブシステムの名前

システムの処置: システムの処置については、異常終了 3303 の説明を参照してください。

モジュール: DFSLRH00

関連情報:

 IMS 異常終了 3303

DFS3305E DEFINITION ERROR IN PROCLIB MEMBER *name* STMTNT (*nnn*), 'xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx' (yyyyyyyyyyy)

説明: 1 つ以上のエラーが外部サブシステム定義の処理中に検出された場合に、このメッセージが出されます。それぞれの定義エラーごとに、メッセージが出され、エラーのステートメントおよびエラーのテキストが指摘されます。PROCLIB メンバー内の個々のエラーごとに、STMTNT エラー・メッセージが 1 つずつ出されます。単一ステートメントの複数のエラーは、複数のメッセージを生成します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 処理中であった PROCLIB メンバーの名前を示します。

nnn メンバー内のステートメント番号
xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
エラーのテキスト。

yyyyyyyyyyy
理由コード。以下のいずれかの値になります。

OMITTED

必要パラメーターが定義から省略されていました。定義は無効でした。

IGNORED

適応されないパラメーターが定義に指定されていました。このパラメーターは無視され、処理は続行されます。

INVALID

エラー・テキストは、ステートメント内の無効のデータを表しています。文字ストリング KEYWORD がエラー・テキストに先行している場合は、パラメーターの値が無効です。その他の場合は、エラー・テキストは、定義の一部として解釈できないデータを表しています。定義は無効でした。

DUPLICATE


パラメーターの特定の値が、複数の定義で指定されていました。定義は、無効として扱われ、無視されました。

システムの処置: IMS 初期設定は 0071 異常終了で終了します。

プログラマーの応答: PROCLIB メンバー定義を訂正して、IMS 初期設定を再試行してください。

モジュール: DFSCSL10

関連情報:

 IMS 異常終了 0071

DFS3306A CTL REGION WAITING FOR *csltype*

説明:

このオペレーター宛メッセージ (WTO) は、以下のいずれかの問題が検出されたことを示します。

- IMS (最初の登録で SCI、OM または RM が使用不可であるとき)。
- IMS オンライン処理 (IMSplex に作動可能な RM、OM、または SCI システムがないとき。例えば、すべての RM、OM、または SCI が終了したか、静止したとき)

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

csltype CSL タイプ。SCI、OM または RM のいずれかです。

システムの処置: IMS は処理を続行します。ただし、CSL アドレス・スペースを必要とする、アクティブでない機能は使用可能になりません。次のリストに、例をいくつか示します。

- タイプ 2 コマンドは OM が再始動されるまで使用可能になりません。
- IMS リポジトリへのアクセスは、RM が再始動されるまで実行できません。
- SCI が再始動されるまで CSL サービスは使用可能になりません。

プログラマーの応答: 使用可能でなかった CSL を開始します。IMS 初期設定中に CSL を開始したくない場合は、IMS を取り消す必要があります。

モジュール: DFSCSL20、DFSCSL30、DFSCSL40、DFSSNTF0

DFS3307E OM CMD REG ERROR, VERB

=vvvvvvvvvvvvvvvv

KEYWORD=kkkkkkkkkkkkkkk CC=cccccccc

説明: このオペレーター宛メッセージ (WTO) は、オペレーション・マネージャー (OM) コマンド登録が失敗したときに IMS 制御領域によって出される WTO メッセージです。失敗したコマンドとキーワードの組み合わせごとに、DFS3307E メッセージが 1 つずつ出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

vvvvvvvvvvvvvvvv

OM で登録されたコマンド

kkkkkkkkkkkkkkkk

OM で登録されたキーワード

cccccccc

コマンドおよびキーワード登録の完了コード。
cccccccc の値は、CSLORR マクロで定義されています。

システムの処置: IMS は、リスト内の残りのコマンドの登録を試みます。試みが失敗するごとに DFS3307E メッセージが出力されます。すべての試みが完了した後、DFS3308E メッセージが表示され、IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: 状態が一時的である場合は、失敗した処理を再試行してください。

モジュール: DFSCSL30

関連情報:

DFS3308E

DFS3308E *csltype* **REQUEST ERROR**, *macroname*
RC=xxnnnnnnn RSN=sssssssss

説明: このメッセージは、IMS 処理が、CSL サービス要求から予期しない戻りコードまたは理由コード、あるいはその両方を受け取ったときに出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

csltype CSL タイプは、CQS、OM、RM、または SCI です。

macroname

失敗したサービス・マクロの名前

xx エラーに関連した IMSplex コンポーネントを示します。

- 00** IMS サブシステム
(DB/DC、DBCTL、DCCTL)
- 01** SCI (構造化呼び出しインターフェース)
- 02** OM (オペレーション・マネージャー)
- 03** RM (リソース・マネージャー)

nnnnnnnn

サービスからの戻りコード

sssssssss *macroname* で特定されるサービスからの理由コード。サービス・マクロの理由コードと戻りコードについては、「IMS V15 システム・プログラミング API」を参照してください。

重要: CSLTYPE が SCI 以外を表示して、戻りコード (*xx*) が X'01' の場合、CSLSRR マクロ

を調べて理由の意味を確認してください。多くの OM および RM 要求の結果、SCI 戻りコードおよび理由コードが出される可能性があります。

システムの処置: このエラーが IMS 初期設定の過程で発生した場合は、システムが 3308 で異常終了する可能性があります。それ以外の場合は、現行処理がリジェクトされ、オンライン処理が続行されます。新規の OM アドレス・スペースが IMSplex に結合した場合、IMS がそれに登録した場合、およびコマンド登録呼び出しの 1 つが失敗した場合にも、異常終了が起こる可能性があります。

オペレーターの応答: 状態が一時的である場合は、失敗した処理を再試行してください。

モジュール: DFSCSL20、DFSCSL30、DFSCSL40、DFSOLC30、DFSRMCL0、DFSRMD00、DFSRMFD0、DFSRMIU0、DFSRMSR0、DFSSLGF0、DFSSLON0

DFS3311I **DFS3311I USER EXIT, XXXXXXXX, WAS NOT FOUND**


説明: データ・キャプチャー出口ルーチン XXXXXXXX が DBDGEN で指定されましたが、この名前のロード・モジュールが検出されませんでした。

システムの処置: ジョブは、異常終了 3314 で終了されます。

プログラマーの応答: ロード・モジュールが検出されなかった理由を判別し、エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

問題判別: 1、2、3、8

関連情報:

 IMS 異常終了 3314

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3312A **DBRC PROCESSING FAILED - REASON = nm.**

説明: DBRC 要求が、次のいずれかの理由で失敗しました。

コード 意味

- 04** DBRC サインオン要求が正常に行われなかった。
- 08** BLDL が IMS/DBRC モジュールの 1 つ、DSPCRTR0 に関して失敗しました。
- 12** データベース・リカバリー管理初期設定の最初のパス (INIT-0) が正常に行われませんでした。

- 16 データベース・リカバリー管理初期設定の最初のパス (INIT-0) が正常に行われませんでした。
- 20 DBRC サインオフ要求が正常に行われなかった。

システムの処置: このメッセージには、後に異常終了コード 3312 が続きます。

プログラマーの応答: 異常終了 3312 に関する情報を参照してください。

問題判別: 1、2、3、4、8、12

関連情報:

➡ IMS 異常終了 3312

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3313I xxxxxxxx USER EXIT HAS
TERMINATED**

説明: 出口を DBD ステートメントで定義して、セグメントを更新するアプリケーション・プログラムのため、出口 xxxxxxxx が変更済みデータの処理中に異常終了しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムが終了しました。

オペレーターの応答: 出口が終了する原因となった状態を訂正してください。

問題判別: 2、3、8、および出口ルーチンのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3314W RETURN CODE xxx, REASON CODE
yyy FROM EXIT zzzzzzzz IN REGION
n**

説明: 領域 *n* の出口 zzzzzzzz が、IMS に xxx 戻りコードおよび yyy 理由コードを戻したので、戻りコードを基にして例外処理が行われます。

データ・キャプチャー出口ごとに発行できる

DFS3314W メッセージは 6 個に制限されています。この制限は、IMS PROCLIB データ・セット (オンラインの場合) または DFSVSAMP DD データ・セット (バッチの場合) の DFSVSMxx メンバーに ALL3314W 制御ステートメントを指定することで除去できます。

プログラマーの応答: 出口が戻りコードを戻す原因となった状態を訂正してください。

問題判別: 2、3、8、および出口ルーチンのリスト

関連資料:

➡ 発行される DFS3314W メッセージの数に関する制限の除去 (システム定義)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3315 ACCESS INVALID FOR GLOBAL
COMMAND**

説明: キーワード ACCESS は、グローバル・コマンドでは無効でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

**DFS3315W xxxxxxxx USER EXIT HAS
TERMINATED**

説明: 出口を DBD ステートメントで定義して、セグメントを更新するアプリケーション・プログラムのため、出口 xxxxxxxx が変更済みデータの処理中に終了しました。

システムの処置: アプリケーション・プログラムが終了しました。

プログラマーの応答: 出口が終了する原因となった状態を訂正してください。

問題判別: 2、3、8、および出口ルーチンのリスト

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3316 DATABASE|AREA ALL INVALID
FOR GLOBAL COMMANDS**

説明: グローバル・コマンドでは、DATABASE または AREA ALL をサポートしません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正し、再入力してください。

**DFS3317I ACCESS INVALID FOR FAST PATH
MSDB dbname**

説明: データベース・アクセスは、高速機能主記憶データベース (MSDB) に関しては変更できません。

システムの処置: 指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3318I FAST PATH MSDB dbname NOT SUPPORTED BY GBL COMMANDS

説明: 高速機能主記憶データベース (MSDB) は、グローバル・コマンドでサポートされていません。

システムの処置: 指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3319 IRLM NOT ACTIVE.

説明: グローバル・コマンドまたは /DEQ SUSPEND が入力される時は、IRLM がシステムでアクティブである必要があります。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: グローバル・コマンドまたは /DEQ SUSPEND を入力する前に、IRLM がアクティブであることを確認してください。

DFS3320I DBRC INDICATES DATA BASE|AREA xxxxxxxx NEEDS BACKOUT/RECOVERY

説明: 指定されたデータベースまたはエリアがリカバリーされてからでないと、データベースまたはエリアに対して、コマンドは処理できません。

システムの処置: 指定されたデータベースまたはエリアは、コマンドから除去され、残りのデータベースまたはエリアがある場合は、それが処理されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3321I DBRC INDICATES DATA BASE x IS AUTHORIZED BY AT LEAST ONE BATCH SUBSYSTEM.

説明: データベース x の使用を許可されているバッチ・サブシステムが、少なくとも 1 つありました。

システムの処置: 指定されたデータベースは、ローカルかつグローバルに (SCOPE = GLOBAL の場合) 処理されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3322 DBRC NOT ACTIVE.

説明: /RMx コマンドが入力されましたが、DBRC が存在していません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: リカバリー管理コマンド (/RMx)

を入力するのは、DBRC が存在している時のみにしてください。

DFS3323E TRANSACTION REQUEST WAS DISCARDED BY BACKEND IMS xxxxxxxx DUE TO MAX TPIPE CONDITION

説明: 以下の説明は、非高速機能トランザクションにのみ適用されます。

IMS 共用キューのバックエンド IMS が、アプリケーション GU 時に OTMA フロントエンドによって開始されたトランザクションで T パイプあふれ状態を検出しました。OTMA クライアント記述子で指定される限度は、OTMA クライアントまたは DFSOTMA の MAXTP 限度の場合があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

共用キューのバックエンド IMS の IMS ID。

このメッセージが発行されるのは、フロントエンドとバックエンドの両方の IMS システムに MAXTP の機能拡張の APAR PM71035 が適用されている場合だけです。

システムの処置: IMS 共用キューのバックエンド・システムは、このトランザクションを停止せずに破棄します。この DFS3323E メッセージは、OTMA クライアントのフロントエンド IMS に送信されます。

プログラマーの応答: /DISPLAY OTMA コマンドを発行して、使用中の TPIPE の合計数である TPCNT 値と、OTMA クライアント記述子で指定されている TPIPE 限度である MAXTP 値を表示します。IMS /CHECKPOINT コマンドを 3 回発行して、T パイプのクリーンアップを強制実行し、システム内のアイドル状態の T パイプを削除できます。

モジュール: DFSYLUS0、DFSDLA30

DFS3324I TRAN tttttttt SUSPENDED

説明: IRLM 疑似異常終了 3303 が発生したため、トランザクション tttttttt によって処理中の入力メッセージは、中断キューに置かれました。3303 に関する説明に、異常終了の理由となる可能性のある場合がリストしてあります。異常終了 3303 が発生すると、このメッセージがメッセージ DFS554A と共に送られます。ただし、DFS3324I が出されるのは、この入力メッセージが初めて中断キューに置かれたときだけであることを承知しておいてください。

アプリケーション・プログラムに疑似異常終了が起こ

り、領域に関して次に適用されるトランザクションがスケジュールされます。

システムの処置: 疑似異常終了 3303 が発生したときに処理中の入力メッセージは、中断キューに置かれます。この特定の入力メッセージが初めて中断キューに置かれる場合であれば、そのトランザクションに関するカウンターが 1 だけ増分されます。それぞれのメッセージが正常に処理されるごとに、このカウンターは 2 だけ減分されます。カウンターが 10 を超えると、トランザクションは停止します。

中断キューにあるメッセージが、このトランザクション・タイプ用の通常キューに転送されると、入力メッセージがあらためて処理のためにスケジュールされます。この状態は、次のいずれかの状況で発生します。

1. このトランザクション・タイプに関する /START TRAN または UPDATE TRAN START(SUSPEND) が発行される。
2. このトランザクション・タイプの処理中にアクセスできるデータベースに関して、/START DATABASE または UPDATE DB START(ACCESS) が発行される。

すべてのトランザクションに関する中断キューに入っているメッセージは、/DEQ SUSPEND コマンドによって通常キューに転送されます。

オペレーターの応答: (マスター端末オペレーター) 発信元端末が会話型モード、排他モード、または応答モードにあった場合は、端末オペレーターに障害のある条件を通知してください。/EXIT コマンドを入力して、端末を解放するか、障害のあるサブシステムがそのリカバリーを完了し、中断メッセージのスケジュール変更が可能になるまで待ってください。

(端末オペレーター) 操作のモードが会話の場合は、マスター端末オペレーターがオペレーターに通知します。/EXIT コマンドを入力して、端末を解放するか、中断メッセージがスケジュール変更できるまで待ってください。

関連情報:

173 ページの『DFS554A』



IMS 異常終了 3303

DFS3325I DBRC INDICATES AREA xxxxxxxx IS NOT ELIGIBLE FOR LCL CMD

または

DBRC INDICATES DB xxxxxxxx IS NOT ELIGIBLE FOR LCL CMD

説明: 名前の示されているデータベースまたはエリア

に、PREVENT FURTHER AUTHORIZATION フラグが設定されていることを、DBRC が示しています。グローバル /START DB コマンドまたは /START AREA コマンドが発行されるまで、この状態が続きます。

システムの処置: コマンドは、指定されたエリアに関しては無視されます。

オペレーターの応答: グローバル /START DB コマンドまたは /START AREA コマンドを入力する必要のあることを、データベース管理者に通知してください。

DFS3326I TEMPORARY IRLM FAILURE, UNABLE TO PROCESS GLOBAL COMMAND

説明: IRLM が、GLOBAL コマンドの処理中に一時的な問題を検出しました。

システムの処置: コマンドは、ローカル・サブシステムで処理されていますが、受信側サブシステムには送信されていません。

オペレーターの応答: グローバル・コマンドを発行するか、それぞれの共用サブシステムでコマンドを発行してください。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3327 MORE THAN 29 DB or 27 AREA NAMES NOT SUPPORTED BY GLOBAL COMMANDS

説明: グローバル・コマンドで指定できるのは、最大 29 個のデータベース名または最大 27 個のエリア名です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 入力されたコマンドを訂正し、それを再入力してください。

DFS3328I GLOBAL cmd COMMAND seqno IN PROGRESS

説明: seqno は、処置を開始したグローバル・コマンドにこのメッセージを結び付ける場合に使用する順次番号です。

システムの処置: システムは処理を続行します。

**DFS3329I CHECKPOINT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明: 以前に入力されたコマンドからのチェックポイント、または自動システム・チェックポイントが現在進行中です。 *Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドのシーケンス番号です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 現在のチェックポイントが完了したら、コマンドを再入力してください。

**DFS3330I ERESTART IN PROGRESS, CANNOT
PROCESS GLOBAL COMMAND *seqno***

説明: 再始動コマンドが現在処理されています。 *seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドの順次番号です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

マスター端末オペレーターの応答: /ERE コマンドが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

**DFS3331I DBDUMP ALREADY IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明: 前に入力された /DBDUMP コマンドが、まだ完了していません。 *Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドのシーケンス番号です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) ダンプ・コマンドが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

**DFS3332I DBRECOVERY ALREADY IN
PROGRESS, CANNOT PROCESS
GLOBAL COMMAND *seqno***

説明: 前に入力されたデータベース・リカバリー・コマンドが、まだ完了していません。 *Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドの順次番号です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

マスター端末オペレーターの応答: データベース・リカバリー・コマンドが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

**DFS3333I MSDB CHKPT IN PROGRESS,
CANNOT PROCESS GLOBAL
COMMAND *seqno***

説明: DFS2717I に等価のグローバル・コマンドです。以前に入力されたコマンドからの MSDB チェックポイント、または自動システム・チェックポイントが現在進行中です。 *Seqno* は、処置を開始したグローバル・コマンドのシーケンス番号です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) チェックポイントが完了するのを待ち、コマンドを再入力してください。

**DFS3334I hh:mm:ss GLOBAL *cmd* COMMAND
seqno INITIATED BY
SUBSYSTEM=*ssid* FOR THE
FOLLOWING DATA
BASES|AREA|ADS(s)**

説明: 示されているグローバル・コマンドは、別のサブシステムから開始され、このサブシステムで処理されています。次で *cmd*、*seqno*、および *ssid* を定義します。

キーワード

	意味
<i>cmd</i>	処理中のコマンド
<i>seqno</i>	このサブシステムによって発行されたコマンドに対する応答で使用される、このコマンドに割り振られた順次番号
<i>ssid</i>	グローバル・コマンドを発行した指示サブシステムのサブシステム ID

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3335A LOG INPUT IS NOT IN SEQUENCE
FOR FUNCTION CA; REASON
CODE=*r***

説明: ログ入力が CA 機能に関して順序どおりではありません。戻りコード *r* の値は、次のいずれかです。

- 01 変更累積ユーティリティの使用によるログ・データ・セットの作成中に、エラーが発生した。DB 共用リリースの IMS システムと、DB 共用より前の IMS システムの両方からのログ入力がありました。
- 02 変更累積データ・セットの作成中に、エラーが発生した。DB 共用リリースの IMS システムと、データ共用より前の IMS システムの両方からのログ入力がありました。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: ログ入力の正しい順序を判別し、ログ入力が正しい順序になるように、JCL を訂正してください。

問題判別: 2、3、8、36。また、ユーティリティ制御機能の下で実行中であった場合は、DFSYSIN データ・セット内の FUNCTION=OP, MSGNNN=3335 制御ステートメントを使用して、ジョブを再実行してください。DFSUDUMP DD ステートメントをこのステップで指定してください。

DFSUSNAP DD ステートメントが指定されると、診断情報がそのデータ・セットにダンプ・フォーマットで書き込まれて、エラーのログ・レコードを見つけるのに役立ちます。情報は次の 4 つの部分にダンプされます。

1. 部分ログ・レコード・データ。直前のログ・レコードの末尾の 4 バイトの後に続けて、エラー・ログ・レコードの 246 バイトが含まれます。
2. ログ・レコード・シーケンス番号データ。エラー・ログ・レコードに関するデータの末尾の 8 バイトが含まれます。
3. UCSTAT テーブル・エントリ。ログ・シーケンス検査を実行する場合に、モジュール DFSUC150 によって使用される UCSTAT テーブル・エントリ・データ全体が含まれます。
4. DFSULOG JFCB 情報。処理される DFSULOG データ・セットに関する JFCB データが含まれます。この情報を使用して、データ・セット名およびボリューム通し番号を判別してください。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3336I SUSPEND QUEUE DRAINED

説明: 中断されたトランザクションが、中断キューから除去されて、元のトランザクション・キューに再エンキューされています。

システムの処置: 中断されたトランザクションはこれで処理対象として適格になります。

問題判別: ありません。

DFS3337W DBRC IS NOT ACTIVE, BUT WAS ACTIVE WHEN THE INPUT LOG WAS CREATED.

説明: 発行ユーティリティ・プログラムが、入力ログ・データ・セットが作成された時点で、DBRC がアクティブであったことを示す X'42' ログ・レコードからの指示を発見しました。ただし、DBRC は、このユーティリティ・プログラム実行時にはアクティブではありませんでした。

システムの処置: 処理は正常に続行されますが、ユーテ

ィリティ実行について、DBRC に通知はなされません。

プログラマーの応答: ユーティリティの実行中、DBRC がアクティブである必要があったかどうか検証してください。DBRC 通知が必要である場合は、DBRC コマンドを使用して、RECON データ・セット・レコードを手動で更新して、最新ログ情報が反映されるようにしてください。

DFS3338A OLIC AUTHORIZATION FAILURE - nnnncccc ALREADY AUTHORIZED

説明: このエラーが発生するのは、再始動がデータ・セット・コピーに関して要求され、示されているサブシステム名が DBRC にサインオンされていないときです。また、再始動が要求されていないが、示されているサブシステム名が DBRC にすでにサインオンされているときも、このエラーが発生する可能性があります。名前 nnnncccc は、グローバル・データ管理ブロック番号、DCB 番号、およびオンライン・イメージ・コピーの接続先であるオンライン IMS サブシステムに関する IMSID を表します。

システムの処置: 実行した結果、エラーで終了します。

プログラマーの応答: 再始動が要求されなかった場合は、再始動を指定して、オンライン・イメージ・コピーが再実行される必要があります。再始動が指定された場合は、再始動を指定しないで、オンライン・イメージ・コピーが再実行される必要があります。チェックポイント・リスタート機能が使用されていない場合は、DBRC コマンド CHANGE.SUBSYS を発行して、名前 nnnncccc に関して異常サインオフを実行し、オンライン・イメージ・コピーを再実行して、完全なデータ・セットをあらためてコピーする必要があります。

DFS3339A DATABASE AUTHORIZATION FAILURE. CODE - n

説明: コード *n* で、許可障害に関する理由を識別します。

コード (16 進数)
意味

- 4 IMS オンライン・サブシステムが、コピー対象データベースに関するデータベース許可を取得できませんでした。データベースに関して /DBR コマンドを発行した場合は、/START コマンドを発行して、それがオンライン・システムで使用可能であるか確認してください。
- 8 オンライン・イメージ・コピーに関する許可が失敗しました。オンライン・イメージ・コピーが接続されているオンライン IMS サブシステ

ム以外の、別の IMS サブシステム (バッチまたはオンライン) に、コピー対象データベースに関する更新許可があります。

- C データベースがリカバリー可能ではないため、オンライン・イメージ・コピー許可は失敗しました。

システムの処置: 実行した結果、エラーで終了します。

プログラマーの応答: オンライン・イメージ・コピーが接続されているオンライン IMS サブシステムが、更新機能に関して許可されている唯一のサブシステムである必要があります。このエラーでは、また、別のオンライン IMS サブシステムに接続された別のオンライン・イメージ・コピーに、データベース内のこのデータ・セットのコピーを作成する許可が現在あることも示されません。データベースが HALDB 区画であり、マスター・データベースが割り振り解除されている場合は、許可が区画レベルで付与される前に、データベースが開始されている必要があります。

モジュール: DFSUICP0

DFS3340I DFS3340I - IRLM VERIFY REQUEST FAILED. RC=xxx,yyy

説明: データベース許可処理中に、データベースを更新または読み取りインテントで使用する許可が以前に与えられたサブシステムを検査するために、IRLM が呼び出されました。IRLM からの戻りコードがゼロ以外であったため、IRLM 検査要求は失敗しました。戻りコード xxx は IRLM 戻りコードを表し、戻りコード yyy は IRLM フィードバック・サブコードを表します。XXX=012 および YYY='zz' の場合は、検査要求に関するサブシステム・エントリーの数、現在サポートされている最大容量を超えていることを示す値です。

システムの処置: IMS サブシステムは、オンライン中続きますが、スケジュールされたアプリケーションは終了します。バッチまたはユーティリティの場合は、サブシステムは終了し、理由コード 09 を伴うメッセージ DFS047A を受信します。

オペレーターの応答: (マスター端末) IMS システム・プログラマーに、このメッセージを通知してください。

関連情報:

31 ページの『DFS047A』

DFS3341I DATA BASE dbname IS USING DATA SETS NOT REGISTERED WITH DBRC

説明: メッセージ内の dbname で示された DDNAME または DSNAME が DBRC に渡されましたが、DBRC に登録されている名前と一致しませんでした。IMS が

DBRC によるデータベースの使用を許可すると、最初のデータベース・データ・セットの DDNAME および DSNAME が DBRC に渡されます。DBRC は、データベースに関して登録されている名前と、これらの名前を比較します。

システムの処置: IMS は、データベースが DBRC にまったく登録されていない場合と同様に処理します (つまり、このデータベースに関しては、DBRC 許可保護はまったく提供されません)。つまり、このデータベースに関しては、データベース・レベルまたはブロック・レベルのデータ共有が行えないことを意味します。

プログラマーの応答: DBRC RECON に登録されたものと一致しないデータ・セットを使用したい場合は、処置は何も必要ありません。正しいデータベース・データ・セットを使用する意図である場合は、始動 JCL または動的割り振りメンバー、あるいは DBRC 登録を訂正してください。

DFS3342I AREA areaname IS NOT REGISTERED WITH DBRC. INVALID FOR GLOBAL CMND

説明: DBRC に登録されなかったエリアを登録するために、グローバル・コマンドが発行されました。グローバル・コマンドが許容されるのは、エリアが DBRC に登録される場合のみであり、そうでない場合は、コマンドは無効と見なされます。

システムの処置: IMS はコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 指定されたエリアが DBRC に登録される必要があるかどうか、データベース管理者に尋ねてください。エリアが登録されない場合は、正しいコマンドを入力してください。

DFS3343E CANNOT PROCESS DFSTCF LOAD COMMAND, REASON=xx

説明: IMS が DFSTCF LOAD コマンドを処理できませんでした。理由コードで、IMS がこのコマンドを処理できなかった理由を説明します。

理由コード

意味

- 01 キュー・モジュールが新規回線またはノード上の TCO 論理端末 DFSTCFI をエンキューできなかった。
- 02 TCO 論理端末 DFSTCFI でメッセージがデキューされていた、または送信されていた。終了するまで、再割り当てできません。
- 03 DFSTCF LOAD OUTPUT コマンドで指定された LTERM に関連付けられる物理端末と、

TCO LTERM DFSTCFI が割り当てられる物理端末のいずれかが、会話モード、事前設定モード、または応答モードか、サインオン・サブプールにあった。

- 04 DFSTCF LOAD OUTPUT コマンドで指定された LTERM に関連付けられる物理端末か、TCO LTERM DFSTCFI が割り当てられる物理端末が、交換回線であった。
- 05 TCO LTERM DFSTCFI が、PTERM 定義 MSGDEL=SYSINFO に割り当てできない。例えば、TCO LTERM DFSTCFI は、メッセージがシステム・キューに入れられています。
- 06 TCO LTERM DFSTCFI が、PTERM 定義 MSGDEL= NONIOPCB に割り当てできない。例えば、TCO LTERM DFSTCFI は、メッセージがシステム・アプリケーション出力キューに入れられています。
- 07 別のスクリプト・メンバーに関する要求がすでに進行中であった。

システムの処置: DFSTCF LOAD コマンドは、処理されません。IMS は続行されます。

プログラマーの応答: 受け取った下記理由コードに対応する処置を取ってください。

理由コード

- 処置
- 01 このコードはシステム・エラーを表します。システムをシャットダウンし、問題の分析のために、できるだけ早くメモリー・ダンプを作成してください。IMS システム・プログラマーに通知してください。
- 02 現行メッセージが完了したら、DFSTCF LOAD コマンドを再入力するか、OUTPUT オプションを指定しないで、DFSTCF LOAD コマンドを再入力してください。
- 03 端末が解放されるのを待つか、別の LTERM 名を使用して、DFSTCF LOAD コマンドを再入力してください。
- 04 有効な回線に関連付けられる LTERM を指定して、DFSTCF LOAD を再入力してください。
- 05 別の LTERM 名を使用して、DFSTCF LOAD コマンドを再入力してください。
- 06 別の LTERM 名を使用して、DFSTCF LOAD コマンドを再入力してください。
- 07 DFSTCF LOAD コマンドを再入力してください。

DFS3344E DFSTCF LOAD CONTAINS INVALID CHARACTER IN FIELD *x*

説明: DFSTCF LOAD コマンドに誤りがあります。FIELD *x* で識別しているキーワードまたはパラメーターが無効です。

DFSTCF LOAD コマンドの形式は、次のとおりです。
DFSTCF LOAD XXXXXXXX (OUTPUT YYYYYYYY) (CONT ZZ)

x (FIELD *x*) の値は、次のいずれかになります。

- 01 最初の定位置キーワードが DFSTCF ではない。
- 02 2 番目の定位置キーワードが LOAD ではない。
- 03 3 番目の定位置パラメーターが指定されなかった。3 番目の定位置パラメーター *xxxxxxx* は、1 から 8 文字のスクリプト名です。
- 04 4 番目の (オプション) 定位置キーワードが OUTPUT ではない。
- 05 5 番目の定位置パラメーターが指定されなかったか、8 文字より大きい。*yyyyyyyyy* は、1 から 8 文字の LTERM 名です。
- 06 6 番目の (オプション) 定位置キーワードが CONT ではない。
- 07 7 番目の定位置パラメーターが指定されなかったか、2 桁より大きい数値である。*zz* は、1 から 99 の数値です。

システムの処置: DFSTCF LOAD コマンドは無視されます。処理は続行されます。

オペレーターの応答: DFSTCF LOAD コマンドを訂正し、再実行依頼してください。

DFS3345E DFSTCF DOES NOT CONTAIN MEMBER *name*

説明: DD ステートメントで指定されたデータ・セットに、メッセージで識別されているタイム・テーブル・メンバーが含まれていませんでした。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) 検査ユーティリティーが実行中であった場合は、そのユーティリティーは終了します。IMS オンラインが実行中であった場合は、DFSTCF LOAD コマンドは失敗しますが、IMS 処理は続行されます。

プログラマーの応答: タイム・テーブル・メンバーが正しく指定されているか、タイム・テーブル・メンバーが、DFSTCF DD ステートメントで指定されたデータ・セットにあるか、検証してください。ユーティリティーを再実行するか、DFSTCF LOAD コマンドを再発行してください。

DFS3346E TCO EXIT RECEIVED STATUS CODE
status code

説明: Time-Controlled Operations (TCO) 言語インターフェース・ルーチンが、TCO 出口ルーチンに状況コードを戻しました。

システムの処置: TCO メッセージは処理されませんでした。TCO は次の時刻要求を処理します。

DFS3347A CHANGE ACCUM PROCESSING IN
DFSUCMN0 FAILED - REASON = *n*.

説明: 以下のいずれかの理由により、モジュール DFSUCMN0 でエラーが検出されたため、変更累積要求は失敗しました。

コード (16 進数)

意味

- 1 SYSIN 制御カードでエラーが検出されました。
- 2 DBRC 初期設定が失敗しました。
- 3 DFSUC150 でのログ処理が失敗しました。

システムの処置: 処理が終了し、ゼロ以外の戻りコードが示されます。


プログラマーの応答: 理由コード 1 の場合は、SYSIN 制御カードのエラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

理由コード 2 の場合、ジョブ出力で DBRC メッセージ DSP0351I を見つけて、追加情報を入手してください。RECON データ・セットと JCL に不整合がないか調べてください。その後、ユーティリティを再実行してください。

理由コード 3 の場合は、すべての入力ログが正しいことを確認してから、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSUCMN0

関連情報:

 DSP0351I (メッセージおよびコード)

DFS3348E UNABLE TO ESTABLISH ESTAE
Created by ActiveSystems 12/24/96
Entity not defined. TCO
UNAVAILABLE

説明: Time-Controlled Operations (TCO) ESTAE ルーチンが確立されませんでした。

システムの処置: TCO は終了しますが、IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: ESTAE ルーチンが正しくバインドされたか、十分なストレージが使用可能か確認してください。

DFS3349I UNABLE TO INITIALIZE TIME
CONTROL OPTION, REASON=....

説明: IMS が Time-Controlled Operations (TCO) を初期設定できませんでした。理由コードに、TCO の初期設定が失敗した理由が示されています。

理由コード

意味

- OPEN** データ・セットの OPEN 不能
- CTT** TCO 用の通信端末テーブル (CTT) の検出不能
- CTB** TCO 用の通信端末ブロック (CTB) の検出不能
- GET0** サブプール 0 からのストレージの獲得不能
- GETC** サブプール 231 からのストレージの獲得不能
- NODD** DFSTCF DD カードが存在しない
- CIRL** TCO CLB 用の ITASK の作成不能
- LOAD** ユーザー出口 DFSTCNT0 のロード不能

システムの処置: TCO は初期設定されません。IMS の処理は続行します。

プログラマーの応答: 受信した理由コードを基にして、次のいずれかの処置を取ってください。

理由コード

処置

- OPEN** DFSTCF DD ステートメントで TCO に関して正しいデータ・セットが指定されているか、あるいはデータ・セットが存在しているか検証してください。
- CTT** IMS 中核のリンクをチェックして、TCO 装置依存のモジュールが組み込まれていたか確認してください。
- CTB** IMS システム定義をチェックして、端末ブロックが偶発的に削除されたのか判別してください。
- GET0** 十分なストレージが使用不可である場合は、制御領域のサイズを大きくしてください。
- GETC** 十分なストレージが使用不可である場合は、制御領域のサイズを大きくしてください。
- NODD** 通知目的専用。現時点で TCO を使用する場合は、IMS を停止した上で再始動して、DFSTCF DD カードを組み込んでください。
- CIRL** ITASK の作成が正常に行われない理由を判別し、IMS を実行してください。
- LOAD** DFSTCNT0 がシステムにあるかチェックしてください。

**DFS3350E TCO ABNORMALLY TERMINATED,
SEE DUMP**

説明: 障害が Time-Controlled Operations (TCO) 出口ルーチン・モジュールで発生しました。

システムの処置: IMS スピンオフ・メモリー・ダンプ機能が TCO 環境を SNAP します。そこで、TCO はオペレーターが DFSTCF LOAD コマンドを発行するのを待ちます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 同じタイム・テーブル・メンバーまたは異なるタイム・テーブル・メンバーを再ロードするために、DFSTCF LOAD コマンドの発行を試みてください。

プログラマーの応答: TCO 環境のスナップ・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。

第 71 章 DFS メッセージ DFS3351E - DFS3400I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3351E TCO ABNORMALLY TERMINATED, SYSTEM ABEND, SEE DUMP

説明: システム異常終了によって、Time-Controlled Operations (TCO) が終了しました。

システムの処置: IMS スピンオフ・メモリー・ダンプ機能が TCO 環境を SNAP し、TCO は終了します。

プログラマーの応答: TCO 環境のスナップ・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。

DFS3352E INCOMPLETE MESSAGE ENCOUNTERED, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnnn

説明: メッセージ・セットを処理している最中に、Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーが、継続セグメントまたはメッセージが予想されていたときに、時刻スケジュール要求を検出しました。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: TCO または TCO 検査ユーティリティーがメッセージ・セット全体を廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答: メッセージ・セットのエラーを訂正してください。メッセージに遊離継続文字がないか、セグメントまたはメッセージが省略されていないかチェックしてください。

DFS3353E INVALID CONTINUATION CHARACTER, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnnn

説明: Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーが、メッセージ・セット・ステートメントの 72 桁目にブランク (メッセージの終わり)、S (メッセージの終わり)、または X (セグメント継続) 以外の文字を検出しました、シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: TCO または TCO 検査ユーティリティーがメッセージ・セットを廃棄し、処理は続行されません。

プログラマーの応答: メッセージ・セット・ステートメントの 72 桁目のエラーを訂正してください。

DFS3354E TOO MANY SEGMENT CONTINUATIONS, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnnn

説明: 単一セグメント (710 文字) に継続できるのは、10 セグメントのみです。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーがメッセージ・セットを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 最大を超えることがないように、必要な数のステートメントを削除してください。

DFS3355E I/O ERROR READING DFSTCF *script-member name*

説明: DFSTCF DD ステートメントで指定されているデータ・セットを読み取っている最中に、入出力エラーが発生しました。エラーの発生時に Time-Controlled Operations (TCO) が処理していたタイム・テーブル・メンバーの名前が、メッセージで識別されています。

システムの処置: タイム・テーブル・メンバーの処理は終了します。TCO では、処理したのがリストの一部であった可能性があり、可能な場合は、リストの残りを処理します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、タイム・テーブル・メンバーを再ロードするか、別のタイム・テーブル・メンバーをロードしてください。

DFS3356E END TIME PRIOR TO START TIME, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnnn

説明: スケジューリングを停止する時刻 (21 ~ 24 桁目) が、スケジューリングを開始する時刻 (7 ~ 10 桁目) より早くなっていました。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティーが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 時刻スケジュール要求エラーを訂正してください。次の点を確認してください。

- 開始時刻が終了時刻より早い。

- 開始時刻が 7 から 10 桁目で、終了時刻が 21 から 24 桁目である。

その上で、このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3357E RESIDENT INDICATOR INCORRECT, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnn

説明: 時刻スケジュール要求の 31 桁目の常駐標識は、ブランク (常駐出口ルーチン) と D (動的ロード) のいずれかである必要があります。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: TCO が時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 時刻スケジュール要求を訂正してください。次の点を確認してください。

- 常駐標識が有効である。
- 常駐標識が 31 桁目に指定されている。

このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3358E DISPATCH INDICATOR INCORRECT, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnn

説明: 時刻スケジュール要求の 32 桁目に指定できる有効なコードは、ブランク (毎日同時刻にスケジュール)、O (最初の日にスケジュールして削除)、または S (始動時にスケジュール) のみです。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 時刻スケジュール要求エラーを訂正してください。次の点を確認してください。

- ディスパッチ標識が 32 桁目である。
- ディスパッチ標識が有効である。

このライブラリー・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3359E MESSAGE SET INDICATED, NO MESSAGE FOUND SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnn

説明: 時刻スケジュール要求では、以前のメッセージ・セットを指定 (56 から 59 桁目に ****) しましたが、メッセージ・セットが提供されていませんでした。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) または TCO 検査ユーティリティが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 欠落しているメッセージ・セットを追加するか、時刻スケジュール要求を削除してください。このライブラリー・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3360E USER EXIT xxxxxxxx REQUESTED NOT FOUND, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnn

説明: IMS.SDFSRESL に、時刻スケジュール要求の 12 から 19 桁目で指定されている出口ルーチン xxxxxxxx が含まれていませんでした。シーケンス番号で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) が時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 名前のスペルか位置調整、またはその両方を確認してください。名前が 8 文字未満の場合は、左寄せして、ブランクで埋め込む必要があります。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティを再実行してください。

DFS3361E INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE FOR TABLES

説明: Time-Controlled Operations (TCO) が十分なストレージを獲得できなかったため、メッセージ・テーブルまたは要求テーブルが作成できませんでした。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO) がタイム・テーブル・メンバー・ロードを終了し、ストレージすべてを解放します。

プログラマーの応答: ストレージを広げて指定した上で、ジョブを再始動してください。TCO 検査ユーティリティによって生成された要約報告書を参照して、特定のタイムテーブル・メンバーに必要なストレージの量を判別してください。

DFS3362E TIME tttt SPECIFIED IS INVALID, SEQUENCE NUMBER=nnnnnnnnn

説明: 時刻スケジュール要求の時刻フィールドの 1 つ (7 から 10、21 から 24、または 26 から 29 桁目) に、ブランクも 0001 から 2359 の範囲の値も入っていませんでした。tttt は、無効の時刻を特定します。シーケンス番号 nnnnnnnn で、エラーが含まれるステートメントを識別します。

システムの処置: Time-Controlled Operations (TCO)

または TCO 検査ユーティリティーが時刻スケジュール要求をリジェクトし、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 時刻が有効で、正しい桁範囲に指定されているか確認してください。有効値は、HH が 00 から 23、MM が 00 から 59 です。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティーを再実行してください。

DFS3363E UNABLE TO OPEN SYSIN

説明: TCO 検査ユーティリティーが、SYSIN 入力データ・セットを開けませんでした。

システムの処置: TCO 検査ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントが存在しているか、存在している場合は、SYSIN データ・セットが存在するか、確認してください。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティーを再実行してください。

DFS3364E UNABLE TO OPEN SYSPRINT

説明: TCO 検査ユーティリティーが、SYSPRINT 出力データ・セットを開けませんでした。

システムの処置: TCO 検査ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: SYSPRINT DD ステートメントが存在しているか、SYSOUT クラスが有効であるか、確認してください。このタイム・テーブル・メンバーに関して TCO 検査ユーティリティーを再実行してください。

DFS3365I TCO MESSAGE MODULE REQUIRES MAINTENANCE

説明: Time-Controlled Operations (TCO) がユーティリティーがメッセージを表示できませんでした。

システムの処置: システムは、TCO が表示できなかったメッセージに記述されている処置を実行します。

プログラマーの応答: TCO メッセージ・モジュールを再度バインドしてください。

DFS3366E NO TIMER ELEMENT FOUND. SCRIPT WILL NEVER BE EXECUTED. MEMBER *name*

説明: TCO スクリプトに関する処理は完了しましたが、タイマー・エレメントが指定されていませんでした。スクリプトでは、*TIME ステートメントが組み込まれている必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 スクリプト・メンバーの名前。

システムの処置: TCO または TCO 検査ユーティリティーがスクリプトを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要な *TIME ステートメントを TCO スクリプト・メンバーに追加して、エラーを訂正してください。

DFS3367E TIMER ELEMENT NOT FOUND FOLLOWING THE LAST MESSAGE ELEMENT, SEQUENCE NUMBER=*nnnnnnnn*

説明: TCO スクリプトの最後のステートメントが *TIME ステートメントではありませんでした。最後のメッセージ・エレメントが、処理に備えてスケジュールされません。

システムの処置: TCO または TCO 検査ユーティリティーが最後のメッセージ・ステートメントを廃棄し、処理は続行されます。

プログラマーの応答: *TIME ステートメントの位置に誤りがないか検証して、エラーを訂正してください。*TIME ステートメントを、TCO スクリプトの最後のステートメントとして追加してください。

DFS3368E ERROR PROCESSING RDDS, RC=*rc*, RDDSDSN =*dsname*

説明: システムで、リソース定義データ・セット (RDDS) にアクセスしようとしてエラーが発生しました。

コード
説明

- 4 RDDS からデータを読み取ろうとして、エラーが発生しました。
- 8 RDDS にデータを書き込もうとして、エラーが発生しました。
- 12 RDDS を割り振ろうとして、エラーが発生しました。
- 16 RDDS を開こうとして、エラーが発生しました。
- 20 RDDS は別の IMS によって所有されています。
- 24 RDDS RECFM が可変ブロック (VB) ではありません。
- 28 RDDS BLKSIZE 値が無効です。次のいずれかの条件が存在します。
 - RDDS BLKSIZE が 32 760 より大きです。
 - RDDS BLKSIZE が 4096 より小です。

システムの処置: 自動インポートが進行中で、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで RDDSER=ABORT を指定した場合、IMS は終了して 3368 異常終了を示します。

RDDSERR=NOIMPORT を指定した場合、IMS は、どのリソース定義または記述子定義もインポートせずに、コールド・スタート処理を続行します。IMS は、RDDS のランタイム・リソース定義または記述子定義を使用せずに開始します。

自動エクスポートが進行中の場合、自動エクスポート・プロセスは異常終了します。

プログラマーの応答: 戻りコード 4、8、12、および 16 は、オープンまたはクローズのエラー、動的割り振り、またはメッセージで示されている RDDS との間の読み取りおよび書き込みを示します。IOS または動的割り振りからサポート・メッセージを探して、エラー条件をさらに明確にして修正してください。

戻りコード 20 は、別の IMS システムがこの RDDS を要求したことを示します。エラーを報告しているシステムで DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの RDDSDSN= パラメーターからこの RDDS を除去します。


戻りコード 24 は、可変ブロック以外の LRECL を使用して RDDS が割り振られたことを示します。RECFM=VB を指定して RDDS を再割り振りすることによって、この状態を修正してください。

戻りコード 28 は、32 760 より大きいか 4096 より小さいブロック・サイズを使用して RDDS が割り振られたことを示します。4096 から 32 760 の範囲内の BLKSIZE を指定して RDDS を再割り振りしてください。すべての RDDS が同じ BLKSIZE で割り振られない場合、自動エクスポート中のパフォーマンスに影響が及びます。すべての RDDS に対して BLKSIZE=32760 を使用することをお勧めします。

また、必要な処置については、異常終了 3368 に関する情報を参照してください。

モジュール: DFSRDD00

関連情報:

 IMS 異常終了 3368

DFS3369I RDDS INITIALIZATION COMPLETED

説明: リソース定義データ・セット (RDDS) の初期設定処理が完了しました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRDD10

DFS3370E NO SYSTEM RESOURCE DEFINITION DATA SETS AVAILABLE FOR AUTOMATIC EXPORT

説明: 自動エクスポート処理に使用できる有効なシステム・リソース定義データ・セットがありませんでした。このメッセージは強調表示され、リソース定義データ・セットが使用可能になるまで強調表示されたままになります。

システムの処置: IMS は処理を続行します。自動エクスポート・プロセスは、1 つ以上のシステム・リソース定義データ・セットが修正されるまで使用不可になります。

プログラマーの応答: このメッセージの前に出された DFS3368E メッセージを参照して、データ・セットが使用不可である理由を判別してください。障害のあるデータ・セットが使用可能であることを確認します。

モジュール: DFSRDD00

関連情報:

DFS3368E

DFS3371I SUCCESSFUL AUTO EXPORT TO RDDSDSN=*dsname* TIME=*timestamp*-UTC

説明: 自動エクスポートは正常に完了しました。*dsname* は、リソース定義および記述子定義のエクスポート先となったシステム・リソース定義データ・セット (RDDS) の名前を示します。*timestamp* は、最新の RDDS を示すために使用される UTC 時刻値を示します。この値は、RDDS ヘッダー・レコードに配置されます。ISPF または同様の読み取りユーティリティを使用して RDDS データ・セットの値を表示できます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSXP000

DFS3372E AUTOMATIC EXPORT FAILED, RC=*rc*

説明: 自動エクスポートが失敗しました。*rc* は、失敗の理由を示します。戻りコード *rc* 値は、次のとおりです。

コード
説明

- 4 リソース定義データ・セット (RDDS) にアクセスしようとして、入出力エラーが発生しました。
- 8 使用可能な RDDS データ・セットはありません。
- 12 64 ビット・バッファの取得を試みているとき、エラーが発生しました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 失敗の原因を判別するために、このメッセージより前に出された DFS3368E メッセージを参照してください。

モジュール: DFSXP000

関連情報:

DFS3368E

DFS3373I AUTOMATIC EXPORT IS ENABLED TO *target*

説明: 自動エクスポート処理が *target* に対して使用可能になっています。ここで、*target* には次のものを使用できます。

RDDS MODBLKS リソース定義および記述子定義は、チェックポイント時点で自動的にシステム・リソース定義データ・セット (RDDS) にエクスポートされます。

REPOSITORY

(コマンドまたは自動エクスポートを使用して) 最後に正常に実行されたエクスポート以降に新たに作成または変更された MODBLKS リソース定義および記述子定義がチェックポイント時点で自動的に IMSRSC リポジトリにエクスポートされることを示します。




AUTOEXPORT=AUTO が定義されており、IMSRSC リポジトリと RDDS の両方を使用して IMS が使用可能になっている場合、DFS3373I メッセージが 2 回発行されます。*target*=RDDS に関して 1 回と、*target*=REPOSITORY に関して 1 回です。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSDFN10

関連概念:

-  動的リソース定義環境の保守 (システム定義)
-  RDDS への MODBLKS リソース定義および記述子定義のエクスポート (システム定義)
-  IMSRSC リポジトリへの MODBLKS リソース定義および記述子定義のエクスポート (システム定義)

DFS3374W AUTOMATIC EXPORT IS DISABLED RC=*rc*

説明: 自動エクスポート処理が使用不可になっています。*rc* は、自動エクスポートが使用不可になった理由を示します。考えられる理由は次のとおりです。

コード

説明

- 4 AUTOEXPORT=NO が指定されました。
- 8 AUTOEXPORT=AUTO が指定されましたが、RDDS が定義されていないため、IMSRSC リポジトリは使用不可です。
- 12 DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーが定義されていません。
- 16 DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの DYNAMIC_RESOURCE セクションが定義されていません。
- 20 デフォルトで AUTOEXPORT=AUTO が使用され、AUTOEXPORT=AUTO パラメーターが指定されなかったために、IMS は IMSRSC リポジトリに対して自動的にエクスポートできません。
- 24 AUTOEXPORT=REPO が指定されましたが、IMSRSC リポジトリが使用不可です。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 自動エクスポート処理を使用しない場合は、処置は必要ありません。

自動エクスポート処理を使用する場合は、戻りコードを使用して DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの指定エラーを識別して訂正してください。

モジュール: DFSDFN10、DFS RDD10

DFS3375 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE IN SUBPOOL 0 FOR MODIFY COMMAND

説明: /MODIFY または INITIATE OLC コマンド・プロセッサが、専用領域でストレージの取得に失敗しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 専用領域でアクティビティが減り、使用可能なストレージが増えたら、コマンドを再入力してください。問題がしばしば生じる場合は、専用領域の使用可能なストレージを増やしてください。

DFS3376 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE IN THE WORK AREA POOL FOR MODIFY

説明: /MODIFY または INITIATE OLC コマンド・プロセッサが、作業域プール (WKAP) でストレージの取得に失敗しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: WKAP で使用可能なスペースが増えたら、コマンドを再入力してください。

DFS3377 INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE IN CIOP

説明:

コマンド・プロセッサが、通信入出力プール (CIOP) でストレージの取得に失敗しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: CIOP で使用可能なスペースが増えたら、コマンドを再入力してください。

DFS3378W BLDL FAILED FOR xxxxxxxx DURING ONLINE CHANGE

説明: /MODIFY または INITIATE OLC コマンドを処理している最中に、IMS がディレクトリー・エントリー・リストの作成でエラーを検出しました。エラーは、ACBLIB xxxxxxxx に関して発生しました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: オンライン IMS システムで現在使用中の ACBLIB でエラーが発生した場合は、そのオンライン・システムでエラーが再発する可能性があります。非アクティブ ACBLIB についてエラーが発生した場合は、その ACBLIB を再作成してください。

DFS3379E DFSTCF LOAD CONTAINS INVALID OUTPUT LTERM

説明: DFSTCF LOAD コマンドの LTERM が、IMS によって認識されません。

システムの処置: IMS はコマンドを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: LTERM 名をチェックし、コマンドを再発行してください。

DFS3380 TCO INACTIVE, CANNOT LOAD/PROCESS SCRIPTS

説明: LTERM DFSTCF へのメッセージ通信が出されました。メッセージ通信は、TCO スクリプトをロードするための DFSTCF LOAD コマンドであった可能性があります。TCO が現在はアクティブではなく、要求を処理できません。

LTERM DFSTCF の使用は、TCO 機能に制限されています。DFSTCF に切り替えられたメッセージがあれば、いずれも TCO スクリプトをロードする要求であると想定されます。

システムの処置: メッセージ通信は無視され、IMS は続行されます。

プログラマーの応答: TCO スクリプトのロードおよび処理を行いたい場合は、IMS を停止してください。その後、IMS を再起動し、//DFSTCF DD カードを組み込んで、TCO 機能を活動化してください。

DFS3381E CF INITIALIZATION FAILED, DATA=aa bbbbbbbb ccccccc ddeeffgg

説明: カップリング・ファシリティ・サービス機能は初期設定されませんでした。メッセージの DATA 部分で、障害の理由が識別されています。

aa どこでエラーが検出されたかを識別する場所コードです。aa は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 10 | OSAM 構造に接続している最中 |
| 20 | 順次バッファリングのために OSAM 構造に接続している最中 |
| 30 | VSAM 構造への接続中 |
| 40 | データ共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡している最中 |
| 50 | 索引共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡している最中 |

bbbbbbbb

最後に開始されたサービスからの戻りコード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) を参照してください。

cccccccc

対応する理由コード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) を参照してください。

ddeeffgg

対応するフラグ・バイト。

dd は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

	意味
80	無効の機能が要求された。
40	OSAM 構造への接続が失敗した。
20	OSAM 構造への接続時に戻された OSAM バッファが少なすぎた。
10	VSAM 構造への接続が失敗した。
08	データ共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。
04	索引共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。
02	OSAM 構造からの切断が失敗した。
01	VSAM 構造からの切断が失敗した。

ee は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

	意味
80	ダミー PST が、カップリング・ファシリティ・サービスの初期設定または実行中に取得された。
40	OSAM 構造への接続が正常に行われた。
20	OSAM 構造からの切断が正常に行われた。
10	VSAM 構造への接続が正常に行われた。
08	VSAM 構造からの切断が正常に行われた。

ff は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

	意味
80	カップリング・ファシリティ・サービス初期設定が失敗したため、データ共用を停止する要求が受信された。

gg は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

	意味
80	OSAM バッファに関する読み取り後登録操作が失敗した。
20	OSAM バッファに関するバッファ無効化が失敗した。

システムの処置: メッセージ DFS3384I に関するシステムの処置を参照してください。

プログラマーの応答: *aa* が 10、20、または 30 の場合は、障害の原因を識別するエラー戻りコードおよび理由

コードについて、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) を参照してください。*aa* が 40 または 50 の場合は、障害の原因を識別するエラー戻りコードについて、該当する DFSMS の資料を参照してください。

問題判別: 1、2、3、36

関連情報:

820 ページの『DFS3384I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3382I CF INITIALIZATION COMPLETE

説明: カップリング・ファシリティ・サービス機能は正常に初期設定されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3383E STOP DATA SHARING FAILED, DATA=*aa bbbbbb ccccccc ddeeffgg*

説明: カップリング・ファシリティの VSAM または OSAM 構造、あるいはその両方から切断する試みが失敗しました。メッセージの DATA 部分で、障害の理由が定義されています。

aa 場所コード。これにより、エラーが検出された場所が特定される。*aa* は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

	意味
60	OSAM 構造からの切断が失敗した。
70	VSAM 構造からの切断が失敗した。

bbbbbbb

最後に開始されたサービスからの戻りコード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) を参照してください。

ccccccc

対応する理由コード。このコードの値については、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) を参照してください。

ddeeffgg

対応するフラグ・バイト。

dd は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

	意味
80	無効の機能が要求された。
40	OSAM 構造への接続が失敗した。

- 20 OSAM 構造への接続時に戻された OSAM バッファが少なすぎた。
- 10 VSAM 構造への接続が失敗した。
- 08 データ共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。
- 04 索引共用リソース・プール用として接続データを VSAM に渡す試みが失敗した。
- 02 OSAM 構造からの切断が失敗した。
- 01 VSAM 構造からの切断が失敗した。

ee は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80 ダミー PST が、カップリング・ファシリティ・サービスの初期設定または実行中に取得された。
- 40 OSAM 構造への接続が正常に行われた。
- 20 OSAM 構造からの切断が正常に行われた。
- 10 VSAM 構造への接続が正常に行われた。
- 08 VSAM 構造からの切断が正常に行われた。

ff は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80 カップリング・ファシリティ・サービス初期設定が失敗したため、データ共用を停止する要求が受信された。

gg は、次のいずれかの値になります。

コード (16 進数)

意味

- 80 OSAM バッファに関する読み取り後登録操作が失敗した。
- 20 OSAM バッファに関するバッファ無効化が失敗した。

システムの処置: カップリング・ファシリティから切断する IMS の試みは失敗しても、データ共用は正常に停止されました。

プログラマーの応答: 障害の原因を識別するエラー戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) を参照してください。

問題判別: 1、2、3、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3384I DATA SHARING STOPPED

説明: データ共用は正常に停止されました。データ共用が停止するのは、次の状況の場合です。

- カップリング・ファシリティへの接続の逸失
- カップリング・ファシリティの再作成の失敗
- カップリング・ファシリティの初期設定の失敗

システムの処置: OSAM または接続が VSAM 構造に関して失われたか否かに関係なく、この両構造が CFNAMES 制御ステートメントで指定された場合は、データ共用は両構造に関して停止され、両構造への接続が失われます。指定されたのが一方の構造のみであった場合は、もう一方の構造は、通知プロトコルを使用してデータ共用を継続できます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3385I DUPLICATE CF STRUCTURE NAME SPECIFIED


説明: CFNAMES 制御ステートメントで指定されたカップリング・ファシリティ構造名が重複しています。IRLM、OSAM、および VSAM 構造を指定するときは、構造名がすべて異なっている必要があります。

システムの処置: IMS は終了し、異常終了コード 0430 が示されます。

プログラマーの応答: CFNAMES 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、36

関連情報:

 IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3386I OSAM CF CACHING RATIO = ddd:eeer

説明: カップリング・ファシリティ構造が OSAM に関して定義されました。ddd および eee に関して指定された値は、カップリング・ファシリティ・ディレクトリー/エレメント間比率を表します。ディレクトリー/エレメント間比率がアクティブなのは、発行 IMS の場合です。これらの値は、OSAM 構造を構成するために使用される場合もあります。カップリング・ファシリティに接続する最初の IMS の場合にアクティブの比率値によって、ディレクトリー/エレメント間比率が確立されます。同じ構造に接続する他の IMS 領域では、以前に構成された構造を使用します。

r で表される値は、アクティブなのがデフォルトの比率

か、外部指定比率かを示します。r は、次の値のいずれかになります。

- 1 CFNAMES ステートメントの CFOSAM= キーワードがディレクトリー/エレメント間比率を指定しなかった。IMS がデフォルトの比率 999:1 を示します。
- 2 ディレクトリー/エレメント間比率が CFOSAM= キーワードによって指定され、アクティブである。
- 3 ディレクトリー/エレメント間比率が CFOSAM= キーワードによって指定されたが、定義している比率が間違っていて、使用できない。エレメント値をディレクトリー値で割った結果が、最大数である 16 エレメントを超えてはなりません。外部指定比率ではなく、IMS が提供した比率が使用されます。
- 4 CFOSAM= キーワードで指定された、ディレクトリー/エレメント間比率のエレメント部分がゼロである。結果の比率は 1:0 になります。この比率では、OSAM 構造がディレクトリー専用処理の構成になります。したがって、データ・キャッシングで使用可能なデータ・エレメントはありません。

システムの処置: IMS 初期設定処理は続行されます。指定された比率がアクティブなのは、発行 IMS の場合です。

プログラマーの応答: 応答は必要ありませんが、OSAM 構造を構成する場合に使用されたディレクトリー/エレメント間比率が、ユーザーが必要とする比率ではない場合は別です。この場合は、CFNAMES ステートメントでディレクトリーおよびエレメントの値を指定または変更し、IMS シスプレックスを再始動してください。

**DFS3387I DUPLICATE xxxxxx KEYWORD
 SPECIFIED FOR CFNAMES**

説明: CFNAMES 制御ステートメントのキーワード (CFIRLM、CFOSAM、または CFVSAM) が複数回指定されました。これらのキーワードは、それぞれ 1 回しか指定できません。

システムの処置: 重複キーワードは無視され、ステートメントの残りは迂回されます。

プログラマーの応答: IMS システム定義の説明でメンバー DFSVSMxx の項を参照してください。CFNAMES 制御ステートメントを検査し、必要な場合は、適切な変更を行ってください。

問題判別: 1、2、3、36

関連資料:

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSVSMxx メンバー (システム定義)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3388I ALL CF KEYWORDS ARE REQUIRED
 ON CFNAMES CARD**

説明: すべてのキーワード (CFIRLM、CFOSAM、および CFVSAM) を CFNAMES 制御ステートメントで指定する必要があります。それぞれの構造は使用されない場合でも、すべてのキーワードが指定される必要があります。

システムの処置: IMS は 0430 で終了します。

プログラマーの応答: CFNAMES 制御ステートメントを修正し、ジョブを再実行依頼してください。

問題判別: 1、2、3、36

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0430

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3389I MISMATCH - xxxx yyyyyyyyyyy
 zzzzzzzzzzzzzzzz ++
 wwwwwwwwwwwwwwww**

説明: IRLM に対する IDENTIFY 要求が失敗しました。IRLM が、次のものの間の不一致を検出しました。

- 使用していたカップリング・ファシリティ構造名と IDENTIFY 要求で指定されているカップリング・ファシリティ構造名
- 使用していた DBRC RECON タイム・スタンプと IDENTIFY 要求で指定されている DBRC RECON タイム・スタンプ

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx 次のいずれかの値

OSAM
VSAM
IRLM
MADSIOT

yyyyyyyyyy

次のいずれかの値

CFNAME++

カップリング・ファシリティ構造名の不一致を示す。

DBRC RECON

DBRC RECON タイム・スタンプの不一致を示す。

MADSIOFUNC

MADSIOT 機能指定の不一致を示す。

zzzzzzzzzzzzzzzzzzzz

CFNAMES 制御ステートメントで指定された構造名、または、DBRC RECON タイム・スタンプにかかわる不一致であった場合は、ブランク。

wwwwwwwwwwwwwwwwww


IRLM で使用中の構造名、または、DBRC RECON タイム・スタンプにかかわる不一致であった場合は、ブランク。

システムの処置: IMS は異常終了 0039 で終了します。

プログラマーの応答: カップリング・ファシリティを共用しているすべての IMS サブシステムが、使用されていた OSAM、VSAM、または IRLM 構造のいずれに関しても、IRLM に対して同じ名前を指定しているか検証してください。すべての共用サブシステムも同じ RECON データ・セットを使用する必要があります。

問題判別: 1、4、10、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0039

DFS3390I NO CF CONNECTION EXISTS. /ERE BACKUP NOT ALLOWED.

説明: XRF 代替サブシステムで入力された /ERE コマンドがリジェクトされました。その理由は、コマンドの処理時には、カップリング・ファシリティへの接続が存在しなかったからです。

システムの処置: カップリング・ファシリティへの接続が確立されるまでは、/ERE BACKUP コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: カップリング・ファシリティ接続が確立されたら、/ERE BACKUP コマンドを再試行してください。

問題判別: 1、36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3391I CFNAMES SPECIFIED BUT IRLM IS NOT USED

説明: CFNAMES 制御ステートメントが IMS.PROCLIB の DFSVSMxx メンバー、または DD 名が DFSVSAMP のデータ・セットで指定されましたが、IRLM がこの実行のために存在していません。

システム・プログラマーの応答: IRLM がこの実行中使

用されているか確認してください。

IMS ユーティリティには、IRLM を必要としないものもあり、そのような場合は、このメッセージは無視できます。

モジュール: DFSTRA00、DFSXRLM0

DFS3392W DL/I CF DATA CACHING INOPERATIVE FOR NNNNNNNNNNNNNNNNN

説明: NNNNNNNNNNNNNNNNN という名前の OSAM 構造の場合は、データ・キャッシングが使用不可になっています。この状態が生じたのは、CF 構造に接続した IMS が最初に非キャッシング環境を確立したためです。

システムの処置: IMS は、DL/I データ・キャッシングなしで実行を継続します。

システム・プログラマーの応答: バッチであれ、オンラインであれ、IMS データ共用サブシステムはすべて、OSAM DL/I データ・キャッシング (ODC) を使用するときは、同じ構造およびキャッシング・オプション (CO) を使用するか、確認してください。これらのオプションは、オンラインの場合は、DFSVSMxx PROCLIB メンバーで、バッチの場合は、DFSVSAMP DD カードで、CFNAMES および IOBF ステートメントを使用して定義されます。

複数の IMS サブシステム全般にわたって構造の保全性を確保することに失敗すると、データ保全性およびパフォーマンスの問題が生じる結果になる恐れがあります。

すべての IMS サブシステムが IMS バージョン 6.10 以降を使用して稼働している場合は、IMS では、最初に接続した IMS によって定義された特性をもつ構造の使用を試みます。後続の IMS では、接続中に構造にキャッシングの対象となるデータ・エレメントがないことを検出すると、その固有の ODC を作動不能にらしめます。

IMS バージョン 6.10 のサブシステムが、IMS バージョン 5.10 のサブシステムと一緒に稼働している場合は、バージョンが古い方の IMS を最初に構造に接続する必要があります。ODC が導入されたのは IMS バージョン 6.10 以降であり、IMS バージョン 5.10 ではキャッシュ・データにアクセスできません。異なる IMS サブシステムで、DFSVSMxx/DFSVSAMP の IOBF ステートメントの異なるコピーを使用した場合も、結果的にデータ保全性の問題が生じる恐れがあります。

問題判別: 1、ならびに IMS 共用サブシステムすべてに関するすべての DFSVSMxx または DFSVSAMP ステートメントのコピーを保管してください。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3394W OSAM/VSAM CF STRUCTURE NAME
IS SPECIFIED WITH NO IOBF/VSRRBF**

説明: DFSVSAMP または DFSVSMxx で、OSAM、VSAM、またはその両方の構造名が指定されましたが、IOBF ステートメント、VSRRBF ステートメント、またはその両方がそれぞれありませんでした。

システムの処置: オンライン環境では、CFNAMES ステートメントに OSAM 構造名が存在する場合は、IXLCONN マクロにバッファの数を渡すために、IOBF ステートメントが必要です。ただし、バッチでは、IMS がバッファ数をデフォルトで 4 つにしているため、IOBF ステートメントは必要ありません。VSAM の場合は、CFNAMES ステートメントに VSAM 構造名が存在するので、IXLCONN マクロにバッファの数を渡すために、VSRRBF ステートメントが常に必要です。

プログラマーの応答: DFSVSAMP または DFSVSMxx の CFNAMES ステートメント、および対応する IOBF ステートメント、VSRRBF ステートメント、またはその両方を検討してください。

モジュール: DFSDMAW0

**DFS3395I AUTOMATIC IMPORT STARTED
FROM xxxxxxxxxxxxxxxx**

説明: 自動インポートが開始されました。
xxxxxxxxxxxxx の有効値は次のとおりです。

MODBLKS

リソース定義が MODBLKS データ・セットからインポートされることを示します。

RDDSDSN=dsname

リソース定義および記述子定義がリソース定義データ・セット (RDDS) からインポートされることを示します。メッセージ・テキストの dsname は、RDDS の名前を示します。

REPOSITORY REPOTYPE=reptype

REPONAME=reponame

リソース・マネージャー (RM) が IMSRSC リポジトリに接続されていること、およびリソース定義がリポジトリからインポートされる予定であることを示します。reptype はリポジトリ・タイプを示し、reponame はリポジトリ名を示します。reptype の有効な値は、IMSRSC のみです。

自動インポートがリポジトリからのもので、リポジトリが空の場合、IMS は、DFS4405W メッセージおよび別の DFS3395I メッセージを

出して、リソース定義のインポート元 (MODBLKS または RDDS) を示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIP000、DFSIP300、DFSRRSCO

**DFS3396I AUTOMATIC IMPORT COMPLETED,
RC=rc**

説明: 自動インポートが完了しました。rc で示される戻りコードは次のとおりです。

コード

説明

- 0 すべてのリソース定義および記述子定義が正常にインポートされました。
- 4 すべてのリソース定義および記述子定義がインポートされましたが、1 つ以上のリソースまたは記述子を完全に初期設定できませんでした。DFSDFxxx PROCLIB メンバーで IMPORTERR=CONTINUE が指定されました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRIMP0

**DFS3397E AUTOMATIC IMPORT FAILED,
RC=rc**

説明: 自動インポートが失敗しました。rc は、失敗の理由を示します。戻りコード値は次のとおりです。

コード

説明

- 4 リソース定義データ・セット (RDDS) にアクセスしようとして、入出力エラーが発生しました。
- 8 64 ビット・バッファの取得を試みているとき、エラーが発生しました。
- 12 定義した RDDS のいずれにもエクスポートされたデータが入っていません。
- 32 IMSRSC リポジトリからリソース定義を読み取るうとしたときにエラーが発生しました。
- 40 すべてのリソース定義および記述子定義がインポートされましたが、定義のエラーが原因で、1 つ以上のリソースまたは記述子を初期設定できませんでした。DFSDFxxx PROCLIB メンバーで IMPORTERR=ABORT が指定されました。

44 これらの理由のいずれかのために、IMSRSC リポジトリから、リソースがまったくインポートされませんでした。

- リポジトリが空で、AUTOIMPORT=REPO が指定された。IMS コールド・スタートは、リソースがインポートされないまま続きます。
- IMSRSC リポジトリから読み取られたリソース定義の処理中にエラーが起こった。

IMPORTERR= の指定に基づいて処置が行われま
す。

システムの処置: システム・リソース定義データ・セッ
トにアクセスしようとしてエラーが発生し、DFSDFxxx
PROCLIB メンバーで RDDSER=ABORT を指定した
場合は、IMS は終了して 3368 異常終了を示します。

IMS がリソース定義または記述子定義のエラーを検出し
て、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで
IMPORTERR=ABORT を指定した場合、IMS は終了し
て 3397 異常終了を示します。

IMSRSC リポジトリからリソース定義を読み取ろうと
したときにエラーが発生した場合、エラーの詳細につい
ては、このメッセージの前に出された DFS4401E メッ
セージを参照してください。DFSDFxxx PROCLIB メン
バーで REPOERR=ABORT を指定していた場合、IMS
は終了して 3368 異常終了を示します。

プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を特定するに
は、このメッセージの前に出された DFS3368E メッ
セージを確認してください。いずれの RDDS にもエク
スポートされたデータが入っていない場合、自動エク
スポートが使用可能になっています。定義のエラーが原因で
初期設定できなかったリソースを特定するには、このメ
ッセージの前に出されたすべての DFS3423E メッセ
ージを確認してください。

リポジトリ・エラーの原因を特定するには、このメッ
セージの前に出された DFS4401E メッセージを確認し
てください。


モジュール: DFSIP000、DFSRIMP0、DFSIP300

関連情報:

815 ページの『DFS3368E』

834 ページの『DFS3423E』

1057 ページの『DFS4401E』

 IMS 異常終了 3368

**DFS3398E LOAD FAILED FOR TRANSACTION
INPUT EDIT ROUTINE xxxxxxxx,
RC=rc**

説明: 1 つ以上のトランザクション用に定義された入力

編集ルーチンをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

xxxxxxx

ルーチンの名前を示します。

rc IMODULE LOAD 呼び出し (DFSMODU0) か
らの戻りコードです。これらの戻りコードにつ
いては、IMODULE 戻りコード情報を参照し
てください。

システムの処置: 入力編集ルーチンで定義されたトラン
ザクションは、NOTINIT 状況の場合、キューイングお
よびスケジューリングのために停止されます。自動イン
ポートが進行中で、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで
IMPORTERR=ABORT が指定された場合、自動インポート・
プロセスは終了され、IMS は終了して 3397 異常終了を
示します。


自動インポートが進行中で、IMPORTERR=CONTINUE が指
定された場合、IMS はコールド・スタート処理を続行し
ます。

出力宛先: システム・コンソール

プログラマーの応答: トランザクションの入力編集ルー
チンが IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つに
存在することを確認してください。ロード障害の原因を
識別して修正した後、UPDATE TRAN
START(Q,SCHD) コマンドを発行してキューイングお
よびスケジューリングのためにトランザクションを開始で
きます。IMS は、編集ルーチン・モジュールのロードを
試行します。モジュールが正常にロードされた場合、
NOTINIT 状況はリセットされ、トランザクションがキ
ューイングおよびスケジューリングのために開始されま
す。

1 | モジュール: DFSIP000、DFSRTR20、DFSRRSC0

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

**DFS3399I AUTOMATIC IMPORT IS ENABLED
FROM xxxxxxxx**

説明: 自動インポート処理が使用可能になっています。
xxxxxxx は、リソース定義および記述子定義のインポ
ート元のデータ・ソースを示します。xxxxxxx は次の
いずれかの値です。

MODBLKS
RDDS
REPOSITORY

AUTOIMPORT=AUTO が、IMSRSC リポジトリに関
する REPOSITORY セクションおよび REPOSITORY=

ステートメントとともに、DFSDFxxx PROCLIB メンバーで指定されている場合、IMS 初期設定の間には DFS3399I メッセージは出されません。IMS 初期設定の間には、DFS3399I の代わりに DFS3409I メッセージが出されますが、それは、IMS がリポジトリに接続したかどうか、またはリポジトリが IMS 用のリソース定義を保管したかどうかについて、まだ判別されていないためです。

コールド・スタートの間には、IMS は、DFS3399I および DFS3395I メッセージを出して、コールド・スタートのためにリソース定義が読み取られる場所を示します。DFS3395I は、リポジトリ、MODBLKS または RDDDS から自動インポートが可能であるかどうかを示します。自動インポートがリポジトリからのもので、リポジトリが空の場合、IMS は、DFS4405W メッセージおよび別の DFS3395I メッセージを出して、リソース定義のインポート元 (MODBLKS または RDDDS) を示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRRDD10、DFSDFN10、DFSDFN00、DFSIP300

DFS3400I RETURN CODE *rrrr* FROM
RACROUTE MACRO FUNCTION
ffffff FOR CLASS *ccccccc*

または

**RACLIST FAILED, AUTHORIZATION RACROUTE
RETURN CODES *aa, bb, cc, dd* RACLIST RETURN
CODES *ee, ff, gg, hh* RACLIST REASON CODES *ii,
jj, kk, ll.***

説明: オンライン変更準備処理中に、許可機能に関連した 4 つのクラスのうちの少なくとも 1 つに関して、ゼロ以外の戻りコードが検出されました。このメッセージは、準備プロセスの障害を示すものではありません。コードには、それぞれ次の意味があります。

コード

説明

- aa** DATABASE クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- bb** SEGMENT クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- cc** FIELD クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- dd** OTHER クラスに関する RACROUTE 戻りコード
- ee** DATABASE クラスに関する RACLIST 戻りコード

ff SEGMENT クラスに関する RACLIST 戻りコード

gg FIELD クラスに関する RACLIST 戻りコード

hh OTHER クラスに関する RACLIST 戻りコード

コード

説明

ii DATABASE クラスに関する RACLIST 理由コード

コード

説明

jj SEGMENT クラスに関する RACLIST 理由コード

kk FIELD クラスに関する RACLIST 理由コード

ll OTHER クラスに関する RACLIST 理由コード

システムの処置: オンライン変更準備処理が続行され
ます。

第 72 章 DFS メッセージ DFS3401I - DFS3450

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3401I RACF NOT AVAILABLE

説明: /MODIFY PREPARE コマンドが RACF または ALL を指定し、RACF プロダクトは現在 IMS でアクティブではありませんでした。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

DFS3402W NO bbbbb IN THE INACTIVE LIBRARY

説明: 制御ブロックが、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) 処理中に、非アクティブ・ライブラリーから欠落していました。

フィールド *bbbb* は、ACBLIB からの DMB、または MODBLKS からの DDIR など、特定の IMS 制御ブロック・タイプです。

システムの処置: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) 処理が終了します。

プログラマーの応答: オンライン変更ユーティリティを使用し、データベース定義をライブラリーに組み込んでください。ライブラリーが APF 許可されているか確認してください。IMS では、IMS DB/TM システム用に ACBLIB に少なくとも 1 つの DMB が必要です。

DFS3403W AUTOMATIC IMPORT IS DISABLED, RC=*rc*

説明: 自動インポート処理が使用不可になっています。*rc* は、自動インポートが使用不可になった理由を示します。考えられる理由は次のとおりです。

コード
説明

- 4 AUTOIMPORT=NO が指定されました。
- 8 AUTOIMPORT=AUTO を指定しましたが、リソース定義データ・セット (RDDS) を定義しておらず、MODBLKS データ・セットが存在しません。IMS が IMSRSC リポジトリで定義されている場合、リポジトリが空です。
- 12 複数の RDDS が定義されていますが、RDDS が空で、MODBLKS データ・セットが存在しません。

- 16 RDDS 初期設定中に RDDS エラーが発生して、RDDS からの自動インポートが行われなくなっています。メッセージ DFS3368 は、RDDS および関連するエラーを示します。

DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの Dynamic_Resources セクションに AUTOIMPORT=RDDS または AUTOIMPORT=AUTO を指定し、IMS がコールド・スタートされた場合 (/NRE CHKPT 0 または /ERE COLDSYS)、DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの Dynamic_Resources セクションの RDDSERR= パラメーターに指定された値により、IMS のとる処置が決まります。

RDDSERR=NOIMPORT を指定する場合、IMS は、保管されたリソースをインポートせずにコールド・スタートで再始動します。

RDDSERR=ABORT を使用する場合、IMS は異常終了して RC=4 で IMS 異常終了 3368 を示します。


システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 自動インポート処理を使用しない場合は、処置は必要ありません。

自動インポート処理を使用する場合は、戻りコード *rc* を使用して自動インポートが使用不可になった理由を識別してください。必要な場合、DFSDFxxx IMS.PROCLIB メンバーの指定エラーを修正してください。リソース定義データ・セット (RDDS) にエクスポートされたデータが含まれることが予想される場合、自動エクスポートが使用可能になっていることを確認します。MODBLKS データ・セットから定義をインポートする予定の場合、MODBLKS DD ステートメントが IMS 制御領域 JCL に存在することを確認します。

関連情報:

815 ページの『DFS3368E』

 異常終了 3368

DFS3404I EXPORT COMMAND COMPLETE FOR xxxx, DSN=*dsname*

説明: EXPORT コマンドが完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx 指定されたすべてのリソース定義および記述子定義に対して EXPORT コマンドが完了したかどうかを示します。*xxxx* は、ALL、SOME、または NONE です。

dsname リソース定義および記述子定義のエクスポート先となったリソース定義データ・セット (RDDS) の名前を示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 指定したすべてのリソース定義および記述子定義に対して EXPORT コマンドが正常に完了しなかった場合、エラーの原因を判別して、EXPORT コマンドを再発行します。

モジュール: DFSXP100

DFS3405I IMPORT COMMAND COMPLETE FOR *xxxx*, DSN=*dsname*

説明: IMPORT コマンドが完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx 指定されたすべてのリソース定義および記述子定義に対して IMPORT コマンドが完了したかどうかを示します。*xxxx* は、ALL、SOME、または NONE です。

dsname リソース定義および記述子定義のインポート元となったリソース定義データ・セット (RDDS) の名前を示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 指定したすべてのリソース定義および記述子定義に対して IMPORT コマンドが正常に完了しなかった場合、エラーの原因を判別して、IMPORT コマンドを再発行します。

モジュール: DFSIP100

DFS3406I *cmd* COMMAND COMPLETE FOR ALL, REPOTYPE=*repotype*, REPONAME=*reponame*

説明: メッセージ中の *cmd* で特定されるコマンドが完了しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cmd 処理されるコマンド *verb* を示す。*cmd* は、DELETE、EXPORT、または IMPORT のいずれかになります。

reponame

リソース定義を処理する場所である IMSRSC リポジトリの名前 (44 バイト) を示す。

- DELETE の場合、この名前は、保管されたリソース定義が削除されるリポジトリを示す。
- EXPORT の場合、この名前は、ランタイム・リソース定義のエクスポート先のリポジトリを示す。
- IMPORT の場合、この名前は、保管されたリソース定義のインポート元のリポジトリを示す。

repotype

リポジトリの接続先である RM のタイプ (8 バイト) を示します。サポートされる値は IMSRSC のみです。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIP100、DFSXP100、DFSDEL00

DFS3407E *cmd* COMMAND COMPLETE FOR NONE, REQUEST=*rqstname* RC=*retcode*, RSN=*rsncode*, ERRORTXT=*errtext*, MBR=*mbr*, REPOTYPE=*repotype*, REPONAME=*reponame*

または

cmd COMMAND COMPLETE FOR *var1*, REPOTYPE=*repotype*, REPONAME=*reponame*

説明: 指定されたコマンドがエラーで終了しました。エラーの原因が RM 要求エラーである場合にのみ、*rqstname*、*retcode*、*rsncode*、*errtext*、および *mbr* の値が戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cmd 処理されるコマンド *verb* を示す。*cmd* は、DELETE、EXPORT、IMPORT、または QUERY のいずれかになります。

var1 SOME または NONE になる。

reponame

リソース定義を処理する場所である IMSRSC リポジトリの名前 (44 バイト) を示す。

- DELETE の場合、この名前は、保管されたリソース定義が削除されるリポジトリ名を示す。
- EXPORT の場合、この名前は、ランタイム・リソース定義のエクスポート先のリポジトリ名を示す。

- IMPORT の場合、この名前は、保管されたリソース定義のインポート元のリポジトリ名を示す。
- QUERY の場合、この名前は、保管されたリソース定義が照会された元のリポジトリ名を示す。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。reptype の有効な値は IMSRSC です。

rqstname

成功しなかった RM 要求を示す。rqstname は、次のいずれかになります。

- DELETE コマンドの場合、CSLRPDEL
- EXPORT コマンドの場合、CSLRPUPD
- IMPORT or QUERY コマンドの場合、CSLRPQRY

retcode

RM 要求の戻りコードを示します。戻りコードの説明については、CSLRRR または CSLSRM マクロを参照してください。

rsncode

RM 要求の理由コードを示します。理由コードの説明については、CSLRRR または CSLSRM マクロを参照してください。

errtext

リポジトリ要求からのエラー・テキストを示します。エラー・テキストは、ヌルまたは 6 単語のテキストです。

mbr

エラーのある要求のタイプを示します。値は LST または RSC のいずれかです。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: 要求が失敗した理由を判別します。エラーが解決された後、コマンドを再実行してください。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

**DFS3409I AUTOIMPORT=AUTO
 DETERMINATION IS DEFERRED**

説明: AUTOIMPORT=AUTO が、IMSRSC リポジトリに関する REPOSITORY セクションおよび REPOSITORY= ステートメントとともに、DFSDFxxx メンバーで指定されている場合、IMS 初期設定の間には DFS3399I メッセージは出されません。IMS 初期設定の間には、DFS3399I の代わりに DFS3409I メッセージが出されますが、それは、IMS がリポジトリに接続したかどうか、またはリポジトリが IMS 用のリソース定義を保管したかどうかについて、まだ判別されていないためです。

コールド・スタートの間には、IMS は、DFS3399I および DFS3395I メッセージを出して、コールド・スタートのためにリソース定義が読み取られる場所を示します。DFS3395I メッセージは、リポジトリ、MODBLKS または RDDS から自動インポートが可能かどうか

を示します。リポジトリからの自動インポートが可能で、リポジトリが空の場合、IMS は、DFS4405W メッセージおよび別の DFS3395I メッセージを出して、リソース定義のインポート元 (MODBLKS または RDDS) を示します。

システム・プログラマーの応答: IMS 初期設定時に DFS3399I メッセージが出されそうな自動化プログラムがあれば、すべて変更します。

モジュール: DFSRDD10

関連情報:

823 ページの『DFS3395I』

824 ページの『DFS3399I』

DFS3410I DATA SETS USED ARE DDNAME

acbib-name format-name

'MODBLKS-name' (time/date stamps if they exist)

説明: 示されている *ddnames* は、IMS オンライン処理で使用されるものです。時刻/日付スタンプが存在する場合は、正常に実行された最後の INITIATE OLC PHASE(PREPARE) または /MODIFY PREPARE と、INITIATE OLC PHASE(COMMIT) または /MODIFY COMMIT コマンドが出された日時を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

acbib-name

IMS JCL 内のアクティブ IMSACB DD。これは、アクティブな ACBLIB ライブラリーを識別します。acbib-name ddname は、IMSACBA または IMSACBB です。

注: DFSDFxxx PROCLIB メンバーに ACBMGMT=CATALOG を指定することによってこの IMS システムで ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、ACB ライブラリー DD 名を無視してください。ACB を管理する IMS システムでは、いずれのライブラリーに対しても IMSACBA および IMSACBN の DD 名を使用しません。

format-name

IMS JCL 内のアクティブ FORMAT DD。これは、アクティブな MFS フォーマット・ライブラリーを識別します。format-name は FORMATA と FORMATB のどちらかです。このシステムが DBCTL の場合、format-name はブランクです。

modblks-name

IMS JCL 内のアクティブ MODBLKS DD。これは、アクティブな MODBLKS ライブラリー

を識別します。 *modblks-name* は、MODBLKSA と MODBLKSB のどちらかです。

modblks-name は、ブランクでかまいません。*modblks-name* がブランクの場合、IMS JCL で MODBLKS DD は定義されません。MODBLKS DD ステートメントは、動的リソース定義が使用可能になっている場合はオプションです。

システムの処置: IMS の処理は継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。


DFS3411X UNABLE TO OPEN THE MODSTAT DATA SET

説明: IMS が、DD 名が MODSTAT のデータ・セットを開こうとしていて、エラーを検出しました。MODSTAT DD ステートメントが存在しないか、オペレーティング・システムがオープン処理中に入出力エラーを検出しました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3411 が示されます。

プログラマーの応答: 欠落している DD ステートメントの指定、または INITMOD プロシージャの使用による、MODSTAT DD ステートメントで参照されているデータ・セットの作成、あるいはその両方を行い、IMS を実行してください。INITMOD プロシージャについては、IMS システム定義の説明を参照してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3411

DFS3412 ERROR READING MODSTAT DATA SET


説明: MODSTAT データ・セットを読み取ろうとしているときに、入出力エラーが検出されました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3412 が示されます。


プログラマーの応答: 最後の正常な DFS3410I、または DFS3499I メッセージに示されている DD 名を指定した INITMOD プロシージャを使用して、MODSTAT データ・セットを再構成し、IMS を実行してください。INITMOD プロシージャの説明については、IMS システム定義の説明を参照してください。XRF 環境での適切なリカバリー処置については、拡張リカバリー機能に関する情報を参照してください。このメッセージが高速データベース・リカバリー領域によって出される場合は、アクティブな IMS を終了し、MODSTAT デー

タ・セットを再構成してください。その後、IMS を再始動し、高速データベース・リカバリー領域を再開します。

関連概念:

 拡張回復機能の概要 (システム管理)

関連情報:

 IMS 異常終了 3412

DFS3413X INVALID CONTENTS IN THE MODSTAT DATA SET

説明: MODSTAT データ・セットに無効のデータが含まれています。

MODSTAT データ・セットは、以下のフィールドを、示された順序で含んでいる必要があります。

modifyid, *MODBLKSx*, *IMSACBx*, *FORMATx*

値は、組み込みブランクを使用せずに、コンマで区切る必要があります。

modifyid

MODSTAT の ID 番号であり、制限なしの可変長です。通常、このフィールドは 1 に初期設定されます。

MODBLKSx

アクティブ MODBLKS データ・セット (IMS システム定義出力が入っている IMS.MODBLKSA または IMS.MODBLKSB データ・セット) の DD 名。通常、このフィールドは MODBLKSA に初期設定されます。MODBLKS データ・セットを定義しない IMS システムでも MODBLKSx フィールドを定義する必要があります。

IMSACBx

データ・セット接尾部 *x* に指定できる値は、A および B です。

FORMATx

データ・セット接尾部 *x* に指定できる値は、A および B です。通常このフィールドは FORMATA に初期設定されます。FORMAT ライブラリーを使用しない IMS DBCTL 環境でも FORMATx フィールドを定義する必要があります。

注: これらのフィールドについて詳しくは、IMS.MODSTAT データ・セットの初期設定 (システム・ユーティリティ) を参照してください。オンライン変更が 1 つ以上正常にコミットされると、これらのフィールドの後にオンライン変更準備タイム・

スタンプおよびオンライン変更コミット・タイム・スタンプ (形式は *YYYYDDD HHMMSS offset*) が続きます。タイム・スタンプ内の項目は以下のとおりです。

- *YYYY* - 年
- *DDD* - ユリウス日
- *HH* - 時間
- *MM* - 分
- *SS* - 秒
- *offset* - 形式が *-xx:xx* または *+xx:xx* の UTC 時間のオフセット

注: 該当する場合、これらのタイム・スタンプは、IMS の再始動が失敗しないよう、正しい形式になっていなければなりません。

次の例は、有効な MODSTAT データ・セットの値を示しています。

108,MODBLKSA,IMSACBA,FORMAT 2016099 191653 -07:00 2016100 041751 -07:00

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3413 が示されます。


プログラマーの応答: MODSTAT データ・セットの内容を調べて、*modifyid*、オンライン変更フィールド、およびタイム・スタンプが正しい形式であることを確認してください。

MODSTAT データ・セット内の変更 ID 番号またはオンライン変更フィールドにエラーがあるためにこのメッセージが発行された場合は、INITMOD プロシージャを使用してエラーを訂正し、再試行してください。




MODSTAT データ・セット内のタイム・スタンプにエラーがあるためにこのメッセージが発行された場合は、タイム・シェアリング・オプション (TSO) を使用してエラーを訂正し、再試行してください。

それ以外の場合は、最後に正常に発行された DFS3410I メッセージまたは DFS3499I メッセージに示されている DD 名を指定した INITMOD プロシージャを使用して、MODSTAT データ・セットを再構成し、IMS を実行してください。

関連資料:

 IMS.MODSTAT データ・セットの初期設定 (システム・ユーティリティ)

関連情報:

-  IMS 異常終了 3413
-  DFS3410I (メッセージおよびコード)
-  DFS3499I (メッセージおよびコード)


DFS3414X NOT ENOUGH STORAGE TO INITIALIZE

説明: IMS がストレージを割り振れませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3414 が示されます。

プログラマーの応答: 領域で使用可能なストレージの量を増やし、IMS を実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3414


DFS3415X LIBRARY xxxxxxxx IN USE BY ANOTHER OS/VS TASK

説明: DD 名 *xxxxxxx* に関連したライブラリーは、別の OS/VS タスクによって常に使用中であったため、使用できませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3415 が示されます。

プログラマーの応答: 他のタスクがライブラリーを解放するまで待ち、IMS を実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3415


DFS3416X OPEN FAILED FOR LIBRARY xxxxxxxx

説明: DD 名 *xxxxxxx* に関連したライブラリーが、IMS 初期設定時に開けませんでした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3416 が示されます。

プログラマーの応答: オープンに失敗した理由を判別した上で、IMS を実行してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3416

DFS3417E CICS IPIC ERROR ON ACTIVE ISC TCP/IP SESSION SENSE=*sensecode* TEXT=*cicsmsgnm*

説明: アクティブな ISC TCP/IP セッションでの IMS と IBM CICS Transaction Server for z/OS の間のメッセージ交換時に、IMS は、CICS から IP 相互接続 (IPIC) 会話エラー (IS7) を受け取りました。

センス・コードは、エラーのタイプを示しています。CICS がエラー・メッセージ ID を IMS に渡した場

DFS3418X • DFS3419X

合、メッセージ ID は TEXT フィールドに表示されま
す。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

cicsmsgnm

CICS が IMS に返した場合の CICS エラー・
メッセージ番号を含む 9 文字のフィールド。
このテキストは、CICS ジョブ・ログに発行さ
れた CICS エラー・メッセージです。

sensecode

エラーの性質を示す 4 バイトのコード。これ
らのコードは、CICS によって発行されます。

080F0983

アクセスがリジェクトされました。

080F6051

セキュリティーが無効です。

08240000

無効になった会話 ID。タスクは
CICS でバックアウトされました。

08390000

トランザクションの接続がリジェクト
されました。IMS システムは静止して
います。

084C0000

トランザクションの接続がリジェクト
されました。トランザクションは認識
されていますが、CICS で使用不可に
設定されました。

08640001

ミラー・トランザクションが CICS で
異常終了しました。

1008600B

CICS システム・エラー。

10086021

トランザクションの接続がリジェクト
されました。トランザクションは、
CICS に認識されていません。

システムの処置: センス・コード 08640001 の場合、
IMS は出力メッセージをデキューします。セッションは
アクティブなままになります。

その他すべてのセンス・コードの場合、IMS は、出力メ
ッセージをメッセージ・キューに戻してセッションを終
了します。

IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: IMS が出力メッセ
ージをメッセージ・キューに戻してセッションを終了する

場合、セッションの再確立を試行する前に、問題の原因
を判別して訂正し、同じエラーの再発を防止してくださ
い。

センス・コードについては、CICS の資料を参照
するか、CICS 管理者に連絡してください。CICS の資
料で CICS エラー・メッセージを調べてください。

モジュール: DFSIPIC0

関連タスク:

➡ TCP/IP の ISC サポート (コミュニケーションお
よびコネクション)

関連資料:

➡ QUERY IMSCON TYPE(PORT) コマンド (コマ
ンド)

➡ CICS: ISMF - ISC IP メッセージ形式

➡ CICS メッセージ

DFS3418X UNABLE TO DELETE MODULE

xxxxxxx

説明: モジュール xxxxxxxx をアクティブ
MODBLKSA(B) データ・セットから削除できませんで
した。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: これは、多くの場合、IMS 内部
エラーです。

問題判別: 35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3419X UNABLE TO LOAD MODULE

xxxxxxx RC=xx

説明: モジュール xxxxxxxx がアクティブ
MODBLKSA(B) データ・セットで検出されなかつた
か、またはデータ・セットが APF 許可されていませ
んでした。あるいは、このメッセージが、IMS 制御領域に
使用可能な仮想記憶域が十分になかったことを示して
いる場合もあります。IMODULE LOAD 戻りコードにつ
いての説明は、IMS システム・サービスの戻りコード情
報を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード
3419 が示されます。

プログラマーの応答: モジュールが欠落している理由を
判別し、IMSIMS を実行してください。アクティブ
MODBLKSA(B) データ・セットが APF 許可されて
いるかどうかを確認します。

関連資料:

➡ IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 3419

DFS3420X RESIDUAL MESSAGES EXIST FOR DELETED TRANSACTIONS

説明: IMS が、存在しないトランザクションに関する既存のメッセージを検出しました。トランザクション定義が、IMS システム・ログで示されているメッセージ・アクティビティーと一致しません。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3420 が示されます。

プログラマーの応答: ログ・データ・セットが、MODBLKS データ・セットでの定義と矛盾していません。初期設定時に MODBLKS からロードされた SMB ブロックが、直前の IMS 実行時に最後にアクティブであったものと同じではありません。この状態が生じる可能性があるのは、アクティブ MODBLKS データ・セットの DD 名を誤って指定して MODSTAT データ・セットが再構成された場合です。この状態は、IMS がアクティブでないときに MODBLKS データ・セットの内容を変更した場合にも、生じる可能性があります。最後の IMS 実行時に使用中であった MODBLKS のコピーと同じコピーを使用し、memory dumpq によって取られた最後のチェックポイントからの /ERE を使用して IMS を再始動してください。

関連情報:

➡ IMS 異常終了 3420

DFS3421X UNABLE TO FIND xxxx CONTROL BLOCK NAMED yyyyyyyyy.

説明: このメッセージは、IMS コールド・スタート時に PDIR が存在しないか、RCTE が存在しないために PDIR または RCTE が見つからない場合に出されます。xxxx は制御ブロック・タイプで、PDIR または RCTE です。yyyyyyyyy は、内部リソース制御ブロックのハッシュ・テーブルが空であることを示すために DFSHSHT に設定されます。

これらのブロックは、MODBLKS からロードするか、リソース定義データ・セット (RDDS) からの自動インポートを使用してロードできます。

システムの処置: IMS はメッセージ DFS3421X に続いて異常終了コード 3421 を出します。IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 動的リソース定義 (DRD) が使用可能でない場合は、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール

DFSSMB0x、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DFSRCTEx が含まれているか確認してください。上記の確認で問題が特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を依頼してください。

DRD が使用可能で、リソース定義がコールド・スタート時に IMS.MODBLKSx データ・セットからインポートされている場合、IMS.MODBLKSx に正しい制御ブロック・モジュール

DFSSMB0x、DFSPDIRx、DFSDDIRx、および DFSRCTEx が含まれているか確認してください。リソース定義がコールド・スタート時に RDDS からインポートされている場合、正しい RDDS が使用されていること、および RDDS に完全なリソース定義セットがあることを確認してください。上記の確認で問題が特定できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を依頼してください。

問題判別: 36

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3422X INSUFFICIENT STORAGE FOR resource_type CONTROL BLOCKS.

説明: IMS は、必須サブプールに十分なストレージを獲得できませんでした。サブプール 231 (共通 CSA/ECSA) は、ほとんどのリソースに使用されますが、一部のリソースではサブプール 0 またはサブプール 251 が使用されます。これらのブロックは、MODBLKS から IPAGE にロードされた制御ブロックのグループ、または動的に作成された個別リソースの可能性がありま

す。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_type

リソース・タイプは次のいずれかです。

DBBD データベース記述子。

DDIR.

データベース。

HSMB ハッシュ SMB。SMB ハッシュ・テーブルが満杯です。ハッシュ・テーブル・スロットがフリー・プール・スロットも含めて十分でないため、SMB をハッシュ・テーブルに追加できません。

PDIR プログラム。

PGMD

プログラム記述子。

RCNT リモート lterm ブロック。
 RSCX リソース拡張ブロック。
 RTCD 宛先コード記述子。
 RTCE 宛先コード。
 SMB トランザクション・リソース。
 TRND トランザクション記述子。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 3422 が示されます。

システム・プログラマーの応答: RCNT および RSCX を除くすべてのリソース・タイプで、サブプール 231 のストレージ量を増やします。


リソース・タイプが RSCX の場合、サブプール 0 のストレージ量を増やします。

リソース・タイプが RCNT の場合、サブプール 251 のストレージ量を増やします。

問題判別: 36

モジュール: DBFRRT00、DFSCPDM0、DFSIIINM0、DFSRDB00、DFSRCM00、DFSRRPG00、DFSRRTR00

関連情報:

 IMS 異常終了 3422

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3423E RESOURCE ERROR TYPE=resource type
 SERVICE=servicename FUNC=function
 RC=returncode NAME=resource name
 MODULE=module name**

説明: IMS が、リソース制御ブロックの初期設定中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

resource type

- リソース・タイプは次のいずれかです。
- **DBBD** - データベース記述子
 - **DDIR** - データベース
 - **LLB** - 複数システム結合機能 (MSC) 論理リンク制御ブロック
 - **LNB** - MSC 論理リンク・パス (msname) 制御ブロック
 - **MSCL** - MSC 論理リンク制御ブロック
 - **MSCP** - MSC 物理リンク制御ブロック
 - **PDIR** - プログラム
 - **PGMD** - プログラム記述子
 - **RCNT** - リモート論理端末
 - **RSCX** - リソース拡張ブロック
 - **RTCD** - 宛先コード記述子
 - **RTCE** - 宛先コード
 - **SMB** - トランザクション
 - **TRND** - トランザクション記述子

servicename

エラーが発生したサービスの名前。DFSBCB 以外のサービスは、IMS の内部サービスです。

function

エラーが発生したサービス機能の名前。

returncode

サービスの戻りコード。 *servicename* が DFSBCB の場合は、DFSBCB 戻りコードを参照してください。

resourcename

エラーが発生したリソースの名前。

module name

エラーが発生したモジュールの名前。


システムの処置: 場合によっては、IMS は異常終了し、異常終了コード 3423 が示されます。それ以外の場合は、IMS はリソースを使用せずに処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: MODBLKS データ・セットが、適切な IMS リリース・レベルで生成されているかどうかを確認してください。以前の IMS リリース・レベルで生成された MODBLKS データ・セットを参照する IMS を始動しようとする場合、その不整合は、通常、DFS3423E メッセージが出される結果になります。


MODBLKS データ・セットが同じ IMS リリース・レベルで生成されている場合は、SYSLOG および IMS メモリー・ダンプをコピーした上で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を依頼してください。また、*servicename*、*function*、*returncode*、およびメッセージにある他の情報を保管してください。

モジュール: DBFNRS00、DBFRRT00、DFSIP300、DFSRDB00、DFSRRPG00、DFSRRTR00

関連資料:

 DFSBCB 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

 IMS 異常終了 3423

**DFS3424I DFSINSX0 CREATE resource type
 ERROR RC=returncode RSN=reasoncode
 CC=completioncode NAME=resource name**

説明: DFSINSX0 ユーザー出口がプログラムを動的に作成しようとしたか、トランザクションが失敗しました。この失敗の原因は、無効な属性または属性の組み合わせです。属性エラーの例は次のとおりです。

- トランザクションに無効なプログラム名が付けられています。
- 高速機能トランザクションが非応答モードとして定義されています。

- 高速機能として定義されなかったトランザクションが高速機能プログラムを参照しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resourcetype

リソース・タイプは次のいずれかです。

PGM - アプリケーション・プログラム

TRAN - トランザクション

returncode

CREATE コマンドの戻りコード。CREATE PGM コマンドまたは CREATE TRAN コマンドの戻りコードと理由コードの表を参照してください。

reasoncode

CREATE コマンドの理由コード。

completioncode

CREATE コマンドの完了コード (該当する場合)。

resourcename


エラーが発生したプログラムまたはトランザクションのリソース名。

システムの処置: プログラムまたはトランザクションの作成は失敗します。IMS は、メッセージ DFS064I を発行して、宛先が検出されなかったか、作成されなかったことを示します。

システム・プログラマーの応答: DFSINSX0 ユーザー出口のエラーを訂正します。DFS3424I メッセージは、エラーの判別に必要な診断情報を提供します。

モジュール: DFSPGS00、DFSTRS00

関連資料:

 CREATE PGM コマンド (コマンド)

 CREATE TRAN コマンド (コマンド)

DFS3425I PLEXPARM INIT VALUE
rrrrrrrr=vvvvvvvv OVERRIDDEN WITH
GLOBAL PLEXPARM VALUE
rrrrrrrr=vvvvvvvv

説明: リソース *rrrrrrrr* の PLEXPARM 値が、グローバル Plex Parm エントリーの値と一致しませんでした。グローバル Plex Parm エントリーの値が使用されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rrrrrrrr PLEXPARM 値がグローバル Plex Parm エントリーの値で指定変更されるグローバル Plex Parm。

vvvvvvvv

グローバル Plex Parm の値。

システムの処置: 指定されたリソースに対してグローバル Plex Parm エントリーの値が使用されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

指定されたリソースの値が IMSplex に望ましい値と一致しない場合、UPD IMS SET コマンドを使用して、グローバル Plex Parm 値を変更してください。

モジュール: DFSGPM00

DFS3426A CTL REGION WAITING
COMPLETION OF RM PROCESS
ppppppppp

説明: IMS 制御領域の初期設定が、IMS によって開始された Resource Manager (RM) プロセス *ppppppppp* が完了するのを待機しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

PPPPPPPPP

IMS 初期設定が待機している、IMS によって開始された RM プロセス。指定できる値は、次のとおりです。

UPDIMS

IMS は、UPD IMS コマンドが進行中であることを検出しました。

システムの処置: プロセスが完了するまで、または IMSplex にアクティブな IMS が他になくなるまで、IMS は待ち続けます。

システム・プログラマーの応答: RM プロセス UPD IMS については、UPD IMS コマンドが現在進行中の場合はコマンドが完了するまで待ちます。エラー条件のため前の UPD IMS コマンドが完了しなかった場合、エラー条件を解決してください。その後、コマンドで CONTINUE オプションを使用して前のコマンドを完了してください。

モジュール: DFSGPM00

DFS3427W RM REQUEST ERROR - PLEXPARM
PARAMETERS NOT OBTAINED
FROM RM

説明: リソース・マネージャー (RM) のエラーが原因で、システムは RM から PLEXPARM パラメーターを読み取ることができませんでした。RM エラー戻りコードおよび理由コードは、このメッセージの前に発行された DFS3308 にリストされています。RM の値と同じ IMS PLEXPARM 値を使用することはできません。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: IMS と RM が同期していることを確認するには、以下の処置を実行します。

1. IMS 再始動が完了した後、QRY IMS TYPE(PLEXPARM) SHOW(ALL) コマンドを発行します。
2. QRY IMS 出力の IMS および RM 値が同一である場合、これ以上の処置は必要ありません。
3. QRY IMS コマンド出力の PLEXPARM 値が IMS と RM で一致しない場合、ユーザーは以下を選択できます。

オプション 1

IMS を取り消すかシャットダウンして、DFS3308 メッセージで報告された RM エラーを訂正し、IMS を再始動します。

オプション 2

以下の処置を行ってください。

- PLEXPARM GSTSTRAN の RM 値が N で、IMS 値が Y である場合、UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSTRAN(N))) コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。
- PLEXPARM GSTSDB の RM 値が N で、IMS 値が Y である場合、UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSDB(N))) コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。
- PLEXPARM GSTSAREA の RM 値が N で、IMS 値が Y である場合、UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSAREA(N))) コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。
- PLEXPARM GSTSTRAN の RM 値が Y で、IMS 値が N である場合、UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSTRAN(Y))) コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。また、QRY TRAN SHOW(GLOBAL) コマンドを発行してから該当する UPD TRAN SCOPE(ACTIVE) コマンドを発行して、IMS リソースの状況が RM と同じであることを確認します。
- PLEXPARM GSTSDB の RM 値が Y で、IMS 値が N である場合、UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSDB(Y))) コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。また、QRY DB SHOW(GLOBAL) コマンドを発行してから該当する UPD DB SCOPE(ACTIVE) コマンドを発行して、

IMS リソースの状況が RM と同じであることを確認します。

- PLEXPARM GSTSAREA の RM 値が Y で、IMS 値が N である場合、UPD IMS SET(PLEXPARM(GSTSAREA(Y))) コマンドを発行して、IMS が RM と同期していることを確認します。また、QRY AREA SHOW(GLOBAL) コマンドを発行してから該当する UPD AREA SCOPE(ACTIVE) コマンドを発行して、IMS リソースの状況が RM と同じであることを確認します。

モジュール: DFSGPM00

関連情報:

802 ページの『DFS3308E』

DFS3428W THE TOTAL OTMA INPUT MESSAGES(TIB) HAVE REACHED XX% OF THE GLOBAL LIMIT ZZZZ

説明: OTMA は、すべてのメンバーからの各アクティブ入力メッセージを追跡するために、内部でトランザクション・インスタンス・ブロック (TIB) を作成します。OTMA が CM1 メッセージ処理を完了するか、CM0 メッセージをエンキューした後、YTIB が解放されます。この警告メッセージは、すべての OTMA メンバーからの TIB の総数が最大限度に達しようとしていることを知らせるためのものです。ここで、xx は 80、85、90、または 95 パーセントを表し、zzzz は、OTMA クライアント記述子または /START TMEMBER ALL INPUT コマンドで指定されたグローバルあふれ限界を表します。この警告メッセージが出されると、潜在的な OTMA グローバル・メッセージあふれ条件が存在する可能性があります。

システムの処置: IMS OTMA は、メッセージの最大数に達するまで、すべてのメンバーからの新規入力メッセージを引き続き処理します。

システム・プログラマーの応答: 以下を判別してください。

- OTMA メッセージを処理するために従属領域がアクティブであるかどうか。
- リモート・プログラムが OTMA メッセージのために入出力 PCB に挿入し直されているかどうか。
- OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうか。

IMS メッセージあふれ条件の発生を防止するために、OTMA 入力メッセージを別の IMS に転送するか、OTMA クライアントを停止することが必要な場合があります。OTMA トランザクションを実行するために、

IMS 領域が開始済みであることを確認してください。必要な場合は、システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSYMOM0

**DFS3429E THE TOTAL OTMA INPUT
MESSAGES(TIB) HAVE REACHED
THE GLOBAL LIMIT ZZZZ**

説明: 未処理の OTMA メッセージがシステムに多すぎます。これは、重大なメッセージあふれ条件です。IMS 同期プログラム間通信を含めて、すべての新規 OTMA トランザクションがリジェクトされます。

システムの処置: IMS OTMA は、メッセージあふれ条件が解消されるまで、すべてのメンバーからの新規入力メッセージをリジェクトします。

システム・プログラマーの応答: 以下を判別してください。

- OTMA メッセージを処理するために従属領域がアクティブであるかどうか。
- リモート・プログラムが OTMA メッセージのために入出力 PCB に挿入し直されているかどうか。
- OTMA クライアントが IMS メッセージあふれを起こしているかどうか。

OTMA トランザクションを実行するために、IMS 領域が開始済みであることを確認してください。必要な場合は、システム・プログラマーに連絡して、支援を要請してください。

モジュール: DFSYMOM0

**DFS3430I THE FOLLOWING MODIFICATIONS
WILL OCCUR DURING /MODIFY
COMMIT: resource-type 8 chars
resource-name 13 chars action 40 chars**

説明: 指定されたリソースは、後続の正常な /MODIFY COMMIT コマンド時にオンラインにされる変更を表しています。このメッセージは、オプションの LTERM キーワードが指定されている場合にのみ生成されます。リソース・タイプ (resource-type) (8 文字)、リソース名 (resource-name) (13 文字)、およびアクション (action) (40 文字) には、その前に空白が入ります。

resource-type

DDIR, DMB, AREA, FORMAT,
PDIR, PSB, RCT, SMB

resource-name

SYSDEF に与えられた名前、非グラフィック・シンボルは、2 文字の等価 16 進数に変換されます。

action

- ADDED
- CHANGED
- CHANGED (DSID CHANGED)
- DELETED
- NONE
- NOT CHANGED (PDIR/PSB CHANGE ONLY)
- REPLACED
- SAME (DSI CHANGED)

プログラマーの応答: DSID が変更されている場合は、ブロック・レベル・データ共用環境で、キーワード GLOBAL を使用して /DBR AREA コマンドを入力します。エリアをアンロードし、イメージ・コピーを取ってください。DELETE.DBDS コマンドを使用して、RECON データ・セットにある古い DSID を除去します。INIT.DBDS コマンドを使用して、RECON データ・セットにあるエリアを再初期設定してください。重複 DSID が同じ DEDB にある場合は、INIT.DBDS は失敗します。特定のユーザー開発アプリケーション・プログラムまたは OEM ユーティリティを使用し、DEDB に関する変更システム定義により DEDB を再ロードしてください。再ロード・プロセスが完了した後で、イメージ・コピーを取ってください。

モジュール: DFSICV20

**DFS3431 /MODIFY PROCESSING ALREADY
ACTIVE**

説明: このオンライン変更コマンド (/MODIFY、/DISPLAY MODIFY) は、以下のどちらかの状態が存在するためにリジェクトされました。

- 別のオンライン変更コマンド (/MODIFY、INITIATE OLC、TERMINATE OLC、または /DISPLAY MODIFY) が進行中である。
- IMS が、前に正常に実行された /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドによって、すでにオンライン変更準備状態になっている。
- グローバル・オンライン変更を使用しており、以前のオンライン変更コマンドが予想よりはるかに時間がかかる場合、内部エラーによりオンライン変更コマンドがハングしていることが考えられます。この状態から抜け出す唯一の方法は、IMS コマンド・マスターを取り消すことです。メンバー・タイプ照会 (IMS) コマンドを発行して、どの IMS がオンライン変更フェーズのマスターであるかを確認します。

- DEDB の追加または DEDB の削除を行う CREATE DB または DELETE DB コマンドが現在アクティブです。CREATE DB または DELETE DB が完了した後で、/DIS MODIFY または /MODIFY コマンドを再試行してください。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 次のいずれかの処置を実行します。

- 別のオンライン変更コマンドが進行中の場合は、そのオンライン変更コマンド (/MODIFY または /DISPLAY MODIFY) が完了するまで待ってから、このオンライン変更コマンドを入力してください。
- IMS がすでにオンライン変更準備状態になっている場合は、オンライン変更を終了またはコミットしてから、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドを再試行してください。

モジュール: DFSICVD0, DFSICLV0, DFSICV10, DFSIDPG0

DFS3432 RACF PARAMETER INVALID IF RACF DATA SPACE USED

説明: GLOBAL=YES サポートを備えた RACF (または等価プロダクト) が使用されるときは、RACF 定義の IMS トランザクションおよびコマンド・プロファイルが、RACF データ・スペースにロードされます。これらのプロファイルが RACF データ・スペースにあるときは、IMS オンライン変更コマンド /MODIFY PREPARE RACF を使用して、これらのプロファイルをリフレッシュすることはできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: RACF データ・スペースにある RACF 定義の IMS プロファイルは、RACF コマンド SETROPTS RACLIST (classname) REFRESH を使用することでリフレッシュできます。classname の例としては、TIMS があります。TIMS は、IMS トランザクション・プロファイルの RACF classname です。

モジュール: DFSICVF0

DFS3433W ACBLIB MEMBER OLC ID MISMATCH MOLCID=yyyyddd hhhmmss

説明: IMS が IMSplex でアクティブでなかったときに 1 つ以上の ACB ライブラリー・メンバー・オンライン変更が行われました。IMS 再始動処理が、再始動チェックポイント・ログ・レコード (X'4001') の MOLCID フィールドの値が OLCSTAT データ・セットの MOLCID フィールドの値と同じでないことを検出しました。

MOLCID=yyyyddd hhhmmss は、IMS が IMSplex でア

クティブでなかったときにコミットされた最後のメンバー・オンライン変更プロセスのローカル・タイム・スタンプです。

システムの処置: IMS 再始動は正常に続きます。

システム・プログラマーの応答: ACBSHR=Y の場合、ACB ライブラリー・メンバー・オンライン変更が組み込まれ、再始動する IMS は処置を取る必要はありません。

ACBSHR=N の場合は、IMS の再始動が停止されている間、ACB ライブラリーに ACB メンバー・オンライン変更は組み込まれません。

この IMSplex に対して ACBSHR=N が指定されたためにこのメッセージが出された場合、次のことを意味しています。

- OLCSTAT データ・セット内の IMS システムは ACB ライブラリーを共有しません。
- この IMS が IMSplex でアクティブでなかったときに 1 つ以上の ACB ライブラリー・メンバー・オンライン変更プロセスが行われました。
- この IMS が IMSplex でアクティブでなかったときに行われた ACB メンバー・オンライン変更は、この IMS のアクティブ ACB ライブラリー内にありません。

ACB ライブラリーの ACB メンバーを手動で更新して、X'4001' ログ・レコードの 1MOLCID フィールドが OLCSTAT データ・セットの MOLCID フィールドと一致するようにしてください。

重要: MOLCID 値が一致する前にこの IMS を実行すると、IMS でデータ保全性の問題が起こるか、異常終了する可能性があります。

MOLCID 値を一致させるには、以下のいずれかのタスクを実行してください。

1. 1 つ以上の ACB メンバー・オンライン変更プロセスを実行して、X'4001' ログ・レコードの MOLCID フィールドを OLCSTAT データ・セットの MOLCID フィールドと同期します。
2. IMS をシャットダウンして、ACB 保守ユーティリティを実行します。
 - a. IMS を通常の方法でシャットダウンします。
 - b. これらのメンバー・オンライン変更に対して ACB 保守ユーティリティを実行して、変更された ACB をアクティブ ACB ライブラリーに直接適用します。ACB ライブラリーに DFS3433W の MOLCID の時刻までにオンラインであったすべての ACB ライブラリー・メンバーが含まれていることを確認します。
 - c. IMS を再始動してください。

モジュール: DFSRLP00

DFS3434W UNABLE TO OPEN DDNAME
'ddname'

説明: IMS は、*ddname* を使用してデータ・セットを開こうとしたときに、エラーを検出しました。その DD ステートメントが存在しないか、オペレーティング・システムがオープン処理中に入出力エラーを検出したかいずれかです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: *ddname* に対応するデータ・セットが作成されていないことが考えられます。これが入出力エラーであれば、データ・セットを作成する必要があります。

DFS3435A UNABLE TO LOCATE OR LOAD
MODULE DFSnnmns RETURN
CODE=abcd

説明: IMS が、示されているモジュール *DFSnnmns* を見つけられないか、非アクティブ *MODBLKS* データ・セットからロードできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


nnmn *MODBLKS* メンバー名、*DDIR*、*PDIR*、*RCTE*、または *SMB0* を表します。
s メンバー名の接尾部を表します。
abcd 4桁の戻りコードを表します。ここで、*ab* は *IMODULE LOAD* 戻りコードであり、*cd* は *IMODULE LOCATE* 戻りコードです。

IMS システム・サービスの戻りコード情報に記載されている *IMODULE LOAD* 戻りコードおよび *IMODULE LOCATE* 戻りコードを参照してください。

システムの処置: 継続操作のためにモジュールが必要な場合は、*/MODIFY* or *INITIATE OLC* コマンド準備が終了されます。そうでない場合は、メッセージは警告となり、コマンドは完了を試みます。

プログラマーの応答: ライブラリーが *APF* 許可されているか確認してください。オフライン *MODBLKS* システム定義ステップを実行して、必要なモジュールを作成するか、オンライン変更ユーティリティを実行して、*MODBLKS* データ・セットをコピーしてください。

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS3436E INTERNAL BLOCKS MISSING:
ERROR CODE= errcode PST=pstno PSB
psbname DBD=dbname

説明: 内部エラーが原因で、IMS 異常終了 U1143 が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname 欠落しているブロックが検出されたときに、アプリケーション・プログラムによって変更中であつたかアクセスされていたデータベースの名前。

psbname アプリケーション・プログラムがアクセスを行っているデータベースとバージョンを指定する *PSB* の名前。

pstno ゼロを基準とするプログラム仕様テーブル (*PST*) の番号。

errcode 欠落しているブロックが検出されたことを示すエラー・コード。各コードの説明については、下記のエラー・コードのリストを参照してください。

エラー・コード

説明

- 01** 変換プロセスの開始時に、IMS が、*HALDB* 変更機能に必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。
- 02** データベースのバージョン管理方式のテーブルが欠落しています。
- 03** データベースのバージョン管理方式のテーブルで項目が欠落しています。
- 05** データベースを読み取る *DL/I* 呼び出しでのデータ変換中に、IMS は、*HALDB* 変更機能に必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。
- 06** データベースを更新する *DL/I* 呼び出しでのデータ変換中に、IMS は、現行バージョン以外のバージョンのデータベースにアクセスするために必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。
- 07** データベースを読み取る *DL/I* 呼び出しでのデータ変換中に、IMS は、現行バージョン以外のバージョンのデータベースにアクセスするために必要なデルタ・ブロックが作成されていないことを検出しました。
- 08** アプリケーション・プログラムが、新しいデータベ

ース定義の変更された DMB に定義されている最大セグメント長より長いデータで可変長セグメントを更新しようとした。

- 09** PSB スケジューリング時間中にブロック DBVW用のストレージを取得できません。
- 0A** HALDB オンライン変更処理中に、デルタ・ブロックのサイズが予期されたサイズより大きくなりました。
- 0B** データベースのバージョン管理方式が使用可能になっているデータベースで、デルタ・ブロックのサイズが予期されたサイズより大きくなりました。
- 0C** HALDB 変更機能は、既存のデータベース定義に定義されているフォーマットから新しいデータベース定義に定義されているフォーマットにセグメント・データを再フォーマット設定するために必要なストレージを取得できませんでした。
- 0D** 既存のデータベース定義に定義されているフォーマットから新しいデータベース定義に定義されているフォーマットにセグメントを変更するために必要な内部デルタ・ブロックが作成されていませんでした。


システムの処置: アプリケーション・プログラムは、異常終了 U1143 で終了します。

システム・プログラマーの応答: エラー・コード 08 の場合は、DBD ソースを確認して可変長セグメントの最大長を判別してください。DBD ソースに定義されている最大長を変更して、オンライン変更機能を使用して変更をコミットします。あるいは、アプリケーション・プログラムを変更して、アプリケーション・プログラムがセグメントを更新するために使用するデータの長さを最大セグメント長以下になるように縮小します。

その他のエラー・コードの場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS5DBB0、DFSDFLS0

関連情報:

-  IMS 異常終了 1143
9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3437E ERROR PROCESSING *variable text* RELEASE *iii* INVALID

説明: ユーティリティ・プログラム DBFUMINO は、システムと ACB メンバーの間で IMS リリース・レベルが一致しないことを検出しました。

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ERROR PROCESSING ACBLIB - ACBLIB DMB MEMBER RELEASE *iii* INVALID

使用されている IMS のリリース・レベルが ACBLIB 内のメンバーのレベルと一致しない場合に発行されます。

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

ERROR PROCESSING CATALOG: CATALOG MEMBER RELEASE *iii* INVALID

使用されている IMS のリリース・レベルが IMS カタログ内のメンバーのレベルと一致しない場合に発行されます。

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。


iii ACB メンバーに定義されている IMS リリース・レベル。


システムの処置: ユーティリティは終了し、戻りコード 8 が示されます。

システム・プログラマーの応答: ACBLIB または IMS カタログに定義されている IMS リリース・レベルを修正した後で、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMINO

関連資料:

 IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS3438 RESERVED INDEX AREA IN MFS BUFFER POOL TOO SMALL.

説明: メッセージ・フォーマット・バッファ・プール (MFBP) マネージャーによって使用される 2 つの索引を大きくするために IMS 初期設定時に予約された MFBP 内のエリアが、大きさが不十分なために、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの結果大きくなった PDS ディレクトリー索引を収容できません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

- | プログラマーの応答: 次回の IMS 再始動時に MFBP
| 内の予約エリアを大きくするか、PDS ディレクトリー
| 索引を大きくするための所要量を削減するか、いずれか
| を行ってください。PDS ディレクトリー索引には、フ
| ォーマット・ライブラリー・ディレクトリー・ブロック
| ごとに 12 バイトのエントリーが 1 つずつ入ります。
| 予約エリアは、IMS プロシージャの EXEC パラメー

| ター (FBPR=) として指定されます。追加のスペース所
| 要量は、次のようにして計算できます。

| (12 x (1 + 追加の MFS フォーマット・
| ブロックの数/10))
| +
| (14 x (新しい \$IMSDIR エントリーの数))

**DFS3439W I/O ERROR READING THE
DIRECTORY FOR *ddname* {-*nnn*}**

説明: 入出力エラーが、以下のいずれかのコマンドの処理において、*ddname* で示されたデータ・セットの読み取り中に発生しました。

- /MODIFY PREPARE
- INITIATE OLC PHASE(PREPARE)
- /MODIFY COMMIT
- INITIATE OLC PHASE(COMMIT)

エラーが発生したのが、連結データ・セットがある
FORMAT ライブラリーの場合は、*nnn* は、エラーが受信された連結データ・セットを示します。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: 入出力エラーが発生したのが、現在オンライン IMS システムで使用中のデータ・セットの場合は、そのシステムで間もなく同様の条件が生じる可能性があります。非アクティブ・データ・セットでエラーが発生した場合、そのデータ・セットを再作成する必要があります。

**DFS3440E CHECKPOINT IS REJECTED -
ONLINE CHANGE COMMIT IS IN
PROGRESS**

説明: オンライン変更コミットが進行中であったため、/CHECKPOINT コマンドはリジェクトされました。

システムの処置: /CHECKPOINT コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: オンライン変更コミットが完了した後、/CHECKPOINT コマンドを再試行してください。

モジュール: DFSICM30、DFSRCPO0

**DFS3441 NOT ENOUGH STORAGE IN
SUBPOOL 231 FOR MODIFY**

説明: /MODIFY または INITIATE OLC コマンド・プロセッサが、サブプール 231 からストレージを取得できませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: システム・アクティビティーが低下し、使用可能なストレージが増えたら、コマンドを再入力してください。

**DFS3442I CHECKPOINT IS DEFERRED -
ONLINE CHANGE COMMIT IS IN
PROGRESS**

説明: 単純チェックポイントが開始されましたが、オンライン変更コミットが進行中であるため据え置かれました。単純チェックポイントは、/CHECKPOINT コマンドによって開始されたか、CPLOG 値に達したために IMS によって内部で開始されました。

システムの処置: 単純チェックポイントは据え置かれます。オンライン変更コミットが完了すると、IMS は単純チェックポイントを内部で開始します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRCPO0

DFS3443I /DISPLAY MODIFY ACTIVE

説明: /MODIFY COMMIT または /MODIFY ABORT コマンドが入力されましたが、/DISPLAY MODIFY コマンドが進行中でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 待った上で、コマンドを再発行してください。

**DFS3444W TRAN *tranname* CONFLICTS WITH
DYNAMIC LTERM, /MODIFY
ABORTED**

説明: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが入力されて、追加を試みたトランザクション名が、動的 LTERM 名と競合しています。*tranname* 変数は、動的に作成された LTERM としてすでに存在しているトランザクションの名前です。

システムの処置: /MODIFY PREPARE コマンドまたは INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドは打ち切られます。

プログラマーの応答: *tranname* が LTERM であるべきかトランザクションであるべきかを判別してください。LTERM であるべき場合は、変更を試みている非アクティブ MODBLKS から *tranname* を除去して、オンライン変更を再試行してください。*tranname* がトランザクションであるべき場合は、状況カウントおよびキュー・カウントを除去し、単純チェックポイントを開始することによって、動的 LTERM を削除してください。このためには、次のようなコマンドを出してください。

```
/STOP USER tranname
/DEQ USER tranname PURGE
(or /DEQ LTERM tranname PURGE)
/START USER tranname
/CHE
```

動的 LTERM が削除されたら、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドを再試行してください。

DFS3445 INACTIVE FORMAT LIBRARY IS EMPTY

説明: 非アクティブ・フォーマット・ライブラリーにメンバーがありません。

システムの処置: /MODIFY PREPARE コマンドまたは INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドは打ち切られます。

プログラマーの応答: 更新済みステージング・フォーマット・ライブラリーを非アクティブ・フォーマット・ライブラリーにコピーし、コマンドを再発行してください。

DFS3446I INDEX AREA IN MFS BUFFER POOL TOO SMALL. *nnnn* ENTRIES TRUNCATED

説明: メッセージ・フォーマット・バッファー・プール(MFBP) マネージャーが使用する 2 つの索引用に IMS の初期設定時に予約された MFBP 内のエリアの大きさが不十分なために、入力中の /MODIFY PREPARE コマンドまたは INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの結果として増加する索引を収容できません。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが正常に完了した場合は、下記のいずれかのコマンドを入力してください。

- /MODIFY ABORT
- TERMINATE OLC
- /MODIFY COMMIT
- INITIATE OLC PHASE(COMMIT)

/MODIFY ABORT コマンドに続けて /MODIFY PREPARE コマンド、あるいは TERMINATE OLC コマンドに続けて INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドを入力すると、常駐索引 (\$\$IMSDIR) が小さくなる可能性があります。

| /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC
| PHASE(COMMIT) コマンドを入力した場合は、このメ
| ッセージに示されているエントリーの数だけ常駐索引が

| 切り捨てられますが、非アクティブ・フォーマット・ラ
| イブラリーへの切り替えは続くはずで、MFS バッフ
| ー・プール内の索引の拡張に備えた予約エリアを、次
| 回の IMS 再始動時に大きくするか、2 つの索引の所要
| 量を削減する必要があります。予約エリアは、IMS プロ
| シージャの EXEC パラメーター (FBP=) として指定
| されます。

追加のスペース所要量は、次のようにして計算できま
す。

$$12 \times (1 + \text{追加された MFS フォーマット・ブロックの数}/12) + 14 \times (\text{新しい } \$\$IMSDIR \text{ 項目の数})$$

DFS3447 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE FOR INACTIVE FORMAT LIBRARY DIRECTORIES

説明: IMS 拡張専用エリア内のストレージは、ハッシュ・テーブルとしても、基本区域 (\$\$IMSDIR)、または MFS 動的ディレクトリーの索引域としても、あるいは /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) 時の PDS ディレクトリー索引としても使用不能です。

システムの処置: /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドは無視されます。

プログラマーの応答: システム・アクティビティーが低下し、使用可能なストレージが増えた時点で、コマンドを再入力してください。

DFS3448W UNEXPECTED EOF ON DDNAME *ddname -nn*

説明: 名前に *ddname* を指定した DD ステートメントで参照されているライブラリーに、予想されたデータが含まれていません。DD ステートメントが "DD DUMMY" を指定したためである可能性があります。EOF が発生したのが、連結データ・セットがある FORMAT ライブラリーの場合は、*nn* は、EOF が受信された連結データ・セットを示します。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: DD ステートメントを訂正するか、データ・セットを再作成し、コマンドを再入力してください。

**DFS3449W AN INVALID DIRECTORY BLOCK
WAS READ FOR xxxxxx - nn**

説明: MFS フォーマット・ライブラリーの変更を含む、オンライン変更操作に関する /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの実行中に、メッセージで xxxxxx によって DDNAME が示され (FORMATA または FORMATB)、その DDNAME に関する連結データ・セットを番号 nn で示している、データ・セットに関して読み取られたディレクトリー・ブロックが無効でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: このメッセージに示されているデータ・セットは、区分データ・セット・ディレクトリーにエラーがあります。このデータ・セットは、バックアップから復元するか、または再作成する必要があります。

**DFS3450 /DBR NEEDED BEFORE
PARTITIONED DATABASE CAN BE
CHANGED/DELETED**

説明: /DBR コマンドを使用してオフラインにされていない 1 つ以上の HALDB の変更と削除のいずれかを行うために、オンライン変更が開始されました。

オペレーターの応答: 変更または削除対象の HALDB と共に、論理的に関連したデータベース、1 次索引、または副次索引があれば、それらに関しても、/DBR コマンドを発行してください。

モジュール: DFSICV30

第 73 章 DFS メッセージ DFS3451 - DFS3500W

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3451 A /MODIFY PREPARE COMMAND IS NOT IN EFFECT

説明: /MODIFY PREPARE コマンドが有効になってからでないと、/MODIFY COMMIT または ABORT コマンド、または /DISPLAY MODIFY コマンドは処理されません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 要求された変更を指定する、/MODIFY PREPARE コマンドを発行してください。

DFS3452 WORK IN PROGRESS FOR RESOURCES TO BE CHANGED/DELETED

説明: INITIATE OLC PHASE(COMMIT) または /MODIFY COMMIT コマンド処理によって、変更または削除の対象となっているリソースで、アクティブ作業がまだ保留になっており、このオンライン変更によって直接影響を受けることが検出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: /DISPLAY MODIFY コマンド、または /DISPLAY MODIFY ALL コマンドを発行して、アクティブ作業がまだ保留になっているリソースを判別してください。/DISPLAY MODIFY コマンドによって、すべてのリソースが変更または削除の対象であり、アクティブ作業がもう保留になっていないことが示されたら、INITIATE OLC PHASE(COMMIT) または /MODIFY COMMIT コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICV30

DFS3453 ERROR WRITING MODSTAT DATA SET


説明: MODSTAT データ・セットの誤りを試みている最中に、入出力エラーが検出されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: 最後の正常な DFS3410I、または DFS3499I メッセージに示されている DD 名を指定して、MODSTAT データ・セットを再構成してください。MODSTAT の再構成については、IMS システム定義の説明を参照してください。XRF 環境での適切なり

カバリー処置については、IMS システム管理情報を参照してください。

関連概念:

 XRF 複合システムでのリカバリー (システム管理)

DFS3454I I/O ERROR READING RESIDENT DIRECTORY (\$\$IMSDIR) ddname {-nn}

説明: /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドが非アクティブ FORMAT ライブラリーから常駐ディレクトリー (\$\$IMSDIR) メンバーを読み取っていたとき、入出力エラーが発生しました。エラーが発生したのが、連結データ・セットがある FORMAT ライブラリーであった場合は、nn は、エラーが受信された連結データ・セットを示します。ddname は、入出力エラーが発生したライブラリーに関する DD ステートメントの名前です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: 非アクティブ FORMAT ライブラリーに、常駐ディレクトリー (\$\$IMSDIR) を再作成します。MFS サービス・ユーティリティーを使用して、アクティブ FORMAT ライブラリーからの \$\$IMSDIR メンバーを非アクティブ・データ・セットにコピーし、さらに、その時点で再適用された更新にコピーしてください。

DFS3455I /MODIFY ABORT IN PROGRESS

説明: /DISPLAY MODIFY、/MODIFY PREPARE、または /MODIFY COMMIT が入力されましたが、/MODIFY ABORT が進行中でした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 終了が完了するのを待ってから、コマンドを再実行依頼してください。

モジュール: DFSICVD0

DFS3457 CHECKPOINT IN PROGRESS. COMMAND REJECTED.

説明: チェックポイントが進行中です。コマンドを正常に実行できず、コミットを実行できません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 後で /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドを再入力してください。

**DFS3458 INSUFFICIENT STORAGE
AVAILABLE IN AOIP POOL**

説明: 自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) 出口インターフェース・モジュールが、コマンドをタイプ 1 自動化操作プログラム出口ルーチン (DFS AOUE0) に渡すために呼び出されましたが、インターフェース・モジュールは自動化操作プログラム・インターフェース・バッファ・プール (AOIP) からストレージを取得できませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

出力宛先: エラー・メッセージは、コマンドが入力されたコンソールに返されます。

ユーザーの処置: この状態は、後でコマンドを再入力することで解決できるような、一時的な状態である可能性があります。コマンドが再度失敗した場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: /DISPLAY POOL コマンドは、AOIP のプロセス・ストレージ使用状況統計を表示するために使用します。

モジュール: DFSICLP0、DFSICM20、DFSYCM20

関連資料:

 /DISPLAY POOL コマンド (コマンド)

**DFS3459 MODIFY COMMIT TERMINATED -
ALL DATABASE IN-DOUBTS MUST
BE RESOLVED**

説明: システム内の未確定データがすべて解決されてからでないと、オンライン変更は実行できません。

システムの処置: IMS 処理は続行されますが、オンライン変更は実行されません。

プログラマーの応答: コーディネーター・コントローラーと IMS を再接続するか、オペレーター・コマンドを使用するか、いずれかを行うことで、未確定データは解決できます。そうすれば、オンライン変更を実行できます。

DFS3460 /MODIFY PREPARE IN PROGRESS

説明: IMS コマンド・モジュールが現在 /MODIFY PREPARE コマンドを処理中であり、IMS コマンド・モジュールは、入力端末に対して、コマンドの完了をまだ確認していません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /MODIFY PREPARE コマンドに対するコマンド応答を受信した後で、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICVD0

DFS3461 /MODIFY COMMIT IN PROGRESS

説明: IMS コマンド・モジュールは現在 /MODIFY COMMIT コマンドを処理中であり、入力端末に対して、コマンドの完了をまだ確認していません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: /MODIFY COMMIT コマンドに対するコマンド応答を受信した後で、コマンドを再入力してください。

モジュール: DFSICVD0

**DFS3462I DEDB xxxxxxxx NOT VALID FOR
/DBD COMMAND.**

説明: /DBDUMP コマンドは、DEDB には適用されません。

システムの処置: 指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3463I SPECIFIC MSDB xxxxxxxx NOT
VALID FOR /DBD COMMAND**

説明: /DBDUMP DB コマンドの入力時に、DATABASE キーワードを使用して、特殊パラメーター MSDB を指定するか、または /DBDUMP DB ALL コマンドを入力することによって、/DBDUMP コマンドを使用して、すべての MSDB を MSDB ダンプ・データ・セットにダンプできます。

システムの処置: 指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3464I MSDB xxxxxxxx NOT VALID FOR
/DBR COMMAND.**

説明: /DBRECOVERY コマンドは、高速機能 MSDB には適用されません。

システムの処置: 指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それが処理されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3465I DATABASE xxxxxxxx IN ERROR

説明: 示されているデータベースについて動的バックアウト障害が発生したため、/START DB コマンドは処理されませんでした。

システムの処置: 指定されたデータベースは、コマンドから除去され、残りのデータベースがある場合は、それがいずれも処理されます。

プログラマーの応答: /DBR コマンドを発行して、示されているデータベースをオフラインにし、バッチ・バックアウトを実行してから、/START DB コマンドまたは UPDATE DB START(ACCESS) コマンドを発行してください。

DFS3466I DDIR FOR DATABASE dddddddd NOT FOUND

説明: /START、/STOP、/DBD、または /DBR コマンド内のデータベース・キーワード・パラメーター dddddddd が、IMS システムに既知ではありません。コマンド処理モジュールは、データベース dddddddd の DDIR を検出できませんでした。

システムの処置: IMS は、無効なパラメーターを無視し、他にデータベース・キーワード・パラメーターがコマンド上にあれば、その処理を続行します。

プログラマーの応答: 訂正されたデータベース・パラメーターを指定して、コマンドを再入力してください。

DFS3467I ERROR READING MODSTAT DATA SET


説明: MODSTAT データ・セットを読み取っている最中に、入出力エラーが発生したか、または MODSTAT データ・セットが無効です。エラーが検出されたのは、バッチ DBD タイプの IMS 領域に関する初期設定中でした。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード U821 が示されます。

プログラマーの応答: バッチ・ジョブを実行する前に、訂正された DD 名を使用して、MODSTAT データ・セットを再構成してください。

問題判別: 1、3、17

関連情報:

 IMS 異常終了 0821

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3468I UNABLE TO OPEN DDNAME ddname IN DLS REGION

説明: DL/I 従属アドレス・スペース・オプションが選択されました。/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの処理の一環として、DL/I 従属アドレス・スペース内で、示されている DDNAME が開けません。示されている DDNAME が DL/I 従属アドレス・スペース領域 JCL で定義されなかったか、オペレーティング・システムが、OPEN 処理中にエラーを検出したか、いずれかです。

システムの処置: /MODIFY PREPARE コマンドまたは INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドは無視されます。

プログラマーの応答: 示されている DDNAME が DL/I 従属アドレス・スペース JCL で定義されていないか、指定されたデータ・セットが存在しない可能性があります。

DFS3469I IN= PARAMETER IGNORED FOR TYPE=ACTVACB

説明: OLCUTL プロシージャの IN= パラメーターは、TYPE=ACTVACB の場合には必要ありません。

システムの処置: オンライン変更コピー・ユーティリティ (DFSUOCU0) は IN= パラメーターを無視して、処理を続行します。

モジュール: DFSUOCU0

DFS3470 TRANSACTION CURRENTLY NOT AVAILABLE FOR USE (I:sss1/name1, D:sss2/name2)

説明: トランザクションが変更されている最中か、トランザクションに関連したアプリケーション・プログラムおよびデータベースが現在変更されている最中です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

sss1/name1

入力システムの送信元 SYSID および送信元 LTERM 名。

sss2/name2

処理システムの宛先 SYSID および宛先 LTERM または TRAN コード

システムの処置: 入力されたトランザクションは、IMS にリジェクトされます。

オペレーターの応答: 後で、トランザクションまたはそのリソースが変更中ではなくなり、使用可能になった時点で、トランザクションを再入力してください。

DFS3471 ROUTING CODE CURRENTLY NOT AVAILABLE FOR USE

説明: このトランザクションに関して選択された宛先コードは、現在変更されている最中です。

システムの処置: 入力されたトランザクションは、IMS にリジェクトされます。

オペレーターの応答: 後で、宛先コードが変更中ではなくなり、使用可能になった時点で、トランザクションを再入力してください。

DFS3472 DEVICE FORMAT CHANGED, MESSAGE RETURNED TO QUEUE

説明: IMS MFS は、この装置をフォーマット設定するために現在使用されているフォーマットが、オンライン変更機能によって動的に変更されたことを検出しました。

システムの処置: 進行中であった出力メッセージは、IMS メッセージ・キューに戻されました。

オペレーターの応答: メッセージは再度要求できますが、新規 MFS フォーマットの結果、データによっては、異なったフォーマットになる可能性があります。

DFS3476I UPDATE MSLINK COMMAND COMPLETED, CC= xx

説明: IMS 端末から発行した /UPDATE MSLINK コマンドが完了しました。xx は、完了コードを示します。

Operations Manager (OM) から UPDATE MSLINK コマンドを発行する場合、タイプ 2 コマンドとして処理され、このメッセージは出されません。

システムの処置: 完了コードが 00 である場合、/UPDATE MSLINK コマンドは正常に完了しました。完了コードがゼロ以外の場合、コマンドで問題が発生しました。

オペレーターの応答: 完了コードが 00 である場合、処置は必要ありません。

完了コードがゼロ以外の場合は、UPDATE MSLINK コマンドに関する説明にある完了コード表を参照してください。問題を訂正して、コマンドを再発行します。

システム・プログラマーの応答: オペレーターの応答を参照してください。

モジュール: DFSIU100

関連資料:

 UPDATE MSLINK コマンド (コマンド)

DFS3480I INVALID LIBRARY TYPE PARAMETER

説明: ライブラリー・タイプ・パラメーターが、オンライン変更ユーティリティに関する、次のいずれでもありませんでした。

ACB
FORMAT
MODBLKS

システムの処置: コピーは行われず、ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSUOCU0

DFS3481I INVALID INPUT DDNAME PARAMETER

説明: オンライン変更ユーティリティに関する入力 DD 名パラメーターが、次の値のいずれでもありません。

S
I

システムの処置: コピーは行われず、ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

DFS3482I INVALID OUTPUT DDNAME PARAMETER

説明: オンライン変更ユーティリティに関連する出力 DD 名パラメーターが、次の値のいずれでもありません。

B
A
O
U

システムの処置: コピーは行われず、ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

DFS3483 ERROR DURING ENQUEUE DDNAME=ddddddd

説明: コピーする前に、DD 名 dddddddd のエンキューを試みている最中に、エラーが検出されました。

システムの処置: コピーは行われず、ユーティリティーは終了します。

システム・プログラマーの応答: DD ステートメントを訂正してください。

DFS3484I ERROR READING THE MODSTAT DATA SET

説明: コピーする前に MODSTAT データ・セットの読み取りを試みている最中に、エラーが発生しました。

システムの処置: コピーは行われず、ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: MODSTAT の内容が正しいかどうか判断してください。データ・セットが破棄されている場合は、最後の DFS3499I メッセージを基にして、データ・セットを再作成し、ジョブを再実行依頼してください。

関連情報:

860 ページの『DFS3499I』

DFS3485I *jobname* WAITING FOR DATASET *data set name*

説明: メッセージに示されているデータ・セットが別のタスクですでに使用中でした。そのことが原因で、示されているジョブは、データ・セットの解放を待っているところです。

システムの処置: 示されているジョブは、データ・セットが使用可能になるまで待ちます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

データ・セットが使用可能になると、ジョブは実行されます。

DFS3486 IEBCOPY PARAMETER ERROR

説明: 指定した IEBCOPY パラメーターの 1 つ (WORK、SIZE、または LIST) に、無効なパラメーターが入っていました。以下は、エラーの例です。

- PROC および EXEC ステートメントで 1 つ以上の IEBCOPY パラメーターが指定されていますが、入力パラメーターとして指定されていません。
- PROC および EXEC ステートメントで 1 つ以上の IEBCOPY パラメーターが指定されていますが、入力パラメーターとして指定されていません。

システムの処置: オンライン変更コピー・ユーティリティーは失敗します。

システム・プログラマーの応答: オンライン変更コピー・ユーティリティーの IEBCOPY パラメーターを訂正し、ユーティリティーの実行を再試行してください。

モジュール: DFSUOCU

DFS3487 ALL KEYWORD INVALID


説明: ALL キーワードは、動的リソース定義 (DRD) と IMS ディレクトリーの両方が使用可能な場合は無効です。IMS システムは /MODIFY コマンドをリジェクトします。

システムの処置: コマンドは実行されません。

ユーザーの処置: ALL キーワードを指定せずに /MODIFY コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICV10

関連資料:

 /MODIFY コマンド (コマンド)

DFS3488 ERROR DURING ENQUEUE FOR DDNAME *ddddddd*

説明: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの実行時に、非アクティブ・ライブラリー *ddddddd* のエンキューを試みている最中に、エラーが検出されました。ライブラリーが存在しないか、またはコピー・ユーティリティーによって使用中でした。

システムの処置: ライブラリーが MATRIXA または MATRIXB の場合は、/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの処理が続行され、そうでない場合は、このコマンドの処理は終了します。

オペレーターの応答: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドが終了され、メッセージ DFS3499I が出されなかった場合は、データ・セットが使用可能になったら、コマンドを再実行依頼してください。

DFS3489 OUTPUT MESSAGE CANCELED BY USER OUTPUT EDIT ROUTINE

説明: IMS が、ユーザーの物理端末出力編集ルーチンの要求に応じて、出力メッセージを取り消しました。端末が応答モードの場合は、IMS は、応答モードに応じたはずの出力メッセージの代わりに、このメッセージを送信します。システム再始動が行われた場合は、IMS は応答モードをリセットし、応答メッセージの廃棄要求後は、メッセージ DFS3489 を送信しません。

システムの処置: IMS は、取り消されたメッセージではなく、このメッセージを送信します。

オペレーターの応答: これは通知メッセージです。ご使

用の手順を調べて、何らかの処置を取る必要があるか判断してください。

問題判別: 5、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3490I APPC TIMEOUT ACTIVE, MVS=xxxx
MINS, yy SECS, IMS=zzzz MINS.**

説明: APPC タイムアウトがアクティブです。xxxx は APPC MVS タイムアウト値の分数であり、yy はその秒数です。zzzz は、APPC IMS タイムアウト値の分数です。これらの値は、DFSDCxxx PROCLIB メンバーの APPCIOT パラメーターによって定義されます。

システムの処置: IMS は、従属領域のタスク制御ブロック (TCB) の下で発行される APPC 呼び出しが、xxxx 分を超える時間にわたって非アクティブであるかどうかを、xxxx 分または yy 秒ごとに確認します。追加情報については、DFS3492W のメッセージ・テキストを参照してください。

zzzz は、アプリケーションが継続して非アクティブであることが許される分数です。非アクティブとは、アプリケーションがタイムアウト制限内に応答できなかったことを意味します。

プログラマーの応答: このメッセージは通知のみを目的としています。

関連情報:

DFS3492W

**DFS3491I APPC/IMS TIMEOUT DEACTIVATED.
(SYSTEM SHUTDOWN) (TIMER
CANCELED) (DFSTIMER ERROR,
RC=xx) (APPC NOT ACTIVE
(APPCIOT = 0) (NO MVS SUPPORT)**

説明: APPC/IMS タイムアウトが非アクティブです。メッセージに、APPC/IMS タイムアウトが非アクティブである理由が組み込まれています。

理由が NO MVS SUPPORT の場合は、APPC/MVS がタイムアウト・サービスをサポートしていません。現行の z/OS レベルは、APPC/MVS タイムアウト・サービスをサポートしません。

APPCIOT = 0 がリストされているときは、DFSDCxxx メンバーの APPCIOT パラメーターは、ゼロとして定義されているか、/CHANGE コマンドによってゼロに変更されています。

プログラマーの応答: 理由が (DFSTIMER ERROR) の場合は、問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告し

てください。それ以外の場合は、これは通知メッセージです。

**DFS3492W APPC/IMS TIMEOUT LIMIT
REACHED FOR LU luname, TP-ID
tp-id, ASYNC. CONVERSATION.
INACTIVE SINCE xxxx SECONDS.**

または

**APPC/IMS TIMEOUT LIMIT REACHED FOR LU
luname, TP-ID tp-id, REGION region-id. INACTIVE
SINCE xxxx SECONDS.**

説明: APPC/IMS タイムアウトによって、ハングした可能性のある従属領域または非同期会話が検出されました。メッセージ・テキストの値は、それぞれ次のとおりです。

luname セッションの VTAM LU 名

tp-id APPC 会話の TP-ID

region-id

IMS 従属領域 ID または ASYNC。非同期会話の場合は、領域 ID は CONV です。

xxxx 会話が APPC 呼び出しに対する応答を待っている秒数

プログラマーの応答: *luname* が潜在的にハングしている可能性がある従属領域または非同期会話をクリーンアップするように、V NET,INACT コマンドを出してください。V NET,INACT では、*luname* に関する会話はすべて停止するので、単に会話がハングした以上の結果になる可能性があります。

ハングした会話がバッチ・ジョブである場合は、*luname* は APPC/MVS であり、この場合は、V NET,INACT を発行すると、APPC/MVS セッションがすべて停止します。*tp-id* を使用して、D APPC,TP,ALL コマンドを発行することでジョブ名を判別し、バッチ・ジョブを取り消してください。

**DFS3493I MODBLKS KEYWORD INVALID
WHEN DYNAMIC RESOURCE
DEFINITION ENABLED**

説明: 動的リソース定義 (DRD) が使用可能になっている IMS システムでは、このキーワードは無効のため、コマンドが処理されませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: DRD コマンドを使用して、リソースをオンラインに変更します。

**DFS3494E OTMA HAS TIMED OUT FOR
TMEMBER/TPIPE *xxxx/yyyy***

または

**OTMA HAS TIMED OUT FOR TMEMBER/TPIPE
xxxx/yyyy RT=*rt_token***

または

**OTMA HAS TIMED OUT FOR TMEMBER/TPIPE
xxxx/yyyy AND MOVED THE OUTPUT TO *zzzz***

説明: トランザクション・パイプ (T パイプ) *yyyy* を使用する OTMA ターゲット・メンバー (tmember またはクライアント) *xxxx* からの ACK または NAK を待っていた OTMA がタイムアウトになり、ACK または NAK の欠落に対して CM0 タイムアウト・アクションを開始しました。

OTMA T パイプが複数のアクティブ RESUME TPIPE 要求をサポートする場合、RESUME TPIPE 呼び出しを識別する 16 進トークン番号 *rt_token* も表示されます。

zzzz フィールドが存在する場合、CM0 出力メッセージは出力 T パイプ *zzzz* に転送されました。メンバーが保留キューをサポートする場合、メッセージは T パイプ *zzzz* の保留キューに移動されます。

ICAL からの IMS コールアウト・メッセージについては、同期コールアウト要求を発行する IMS アプリケーションが戻りコード X'100' および理由コード X'104' を受け取ります。メッセージは廃棄されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rt_token

RESUME TPIPE 呼び出しの 16 進トークン番号を示します。

xxxx OTMA クライアントの名前。

yyyy タイムアウトが発生した TPIPE の名前。

zzzz 出力の転送先の TPIPE 名。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: このタイムアウト条件に関する ACK または NAK の欠落の原因を特定します。アプリケーション・プログラムまたはネットワーク・コンポーネントの障害の可能性があります。

プログラマーの応答: プログラムが、受信した CM0 出力メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。また、ネットワーク障害があるために ACK または NAK が IMS OTMA に到着できない可能性もあります。

OTMA クライアントが IMS Connect である場合、IMS コマンド QUERY IMSCON TYPE(CLIENT) RTOKEN(*rt_token*) を発行して、IMS Connect クライアントを特定することができます。

問題判別: ネットワーク・トレースを調べて、ネットワーク内のどのコンポーネントが ACK または NAK を IMS に転送しなかったのかを特定します。プログラムが、受信した CM0 出力メッセージまたは同期コールアウト・メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。

この問題の考えられる原因の 1 つとして、ネットワーク障害があるために ACK または NAK が IMS OTMA に到着できないということがあります。

モジュール: DFSYPSO0

**DFS3495W OTMA HAS BEEN WAITING FOR
AN ACK FROM TMEMBER/TPIPE
xxxx/yyyy FOR OVER *zzzz* SECONDS.**

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) *yyyy* のメンバー *xxxx* が、*zzzz* 秒を超えて確認応答を待っていることを検出しました。OTMA CM0 ACK タイムアウト機能がオフになっているため、OTMA は出力メッセージを転送するタイムアウト・アクションをとりません。

システムの処置: 処理を続行します。T パイプは停止状況のままです。T パイプのキューに入れられたすべての出力メッセージは、ACK または NAK を受信するまで送信されません。

オペレーターの応答: このタイムアウト条件に関する ACK または NAK の欠落の原因を特定します。問題は、アプリケーション・プログラムまたはネットワーク・コンポーネントの障害の可能性があります。

/STOP TMEMBER *tpipe* の次に /START TMEMBER *tpipe* コマンドを使用して T パイプを手動で再開できます。

プログラマーの応答: プログラムが、受信した CM0 出力メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。また、ネットワーク障害があるために ACK または NAK が IMS OTMA に到着できない可能性もあります。

問題判別: ネットワーク・トレースを調べて、ネットワーク内のどのコンポーネントが ACK または NAK を IMS に転送しなかったのかを特定します。

モジュール: DFSYPSO0

**DFS3496W DMB XXXXXXXX IN INACTIVE
ACBLIB NOT COMPATIBLE WITH
IMS**

説明: 非アクティブ・ライブラリーのレベルが現行のIMS リリースと互換性がありません。

システムの処置: /MODIFY PREPARE ACBLIB または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドが終了します。

プログラマーの応答: JCL が正しいライブラリーを指定しているかどうか、ACBGEN が IMS の現行リリースに適したレベルで実行されているかどうかを検証してください。

**DFS3497A AN INVALID MOLC LOG RECORD
DETECTED AND IGNORED
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=ccccccccccccccc**

または

**A PRIOR MOLC UOW FOUND, THE UOW IS
BEING IGNORED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=ccccccccccccccc**

または

**INTERNAL MOLC ERROR RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=ccccccccccccccc**

または

**INTERNAL MEMBER ONLINE CHANGE ERROR
RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=ccccccccccccccc**

または

**MOLC ERROR PROCESSING AN INCOMPLETE
UOW RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=ccccccccccccccc**

または

**MOLC ERROR, PDIR BLOCK COULD NOT BE
FOUND PDIR=ddddddd RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=ccccccccccccccc**

または

**MOLC ERROR, DDIR BLOCK COULD NOT BE
FOUND PDIR=eeeeeee RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=ccccccccccccccc**

説明: IMS の再始動、拡張リカバリー機能 (XRF)、または高速データベース・リカバリー (FDR) トラッキングの間に、メンバー・オンライン変更ログ・レコードを処理してリカバリー不能エラーが発生しました。メンバー・オンライン変更作業単位は完了しなかった可能性が高く、メンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。詳細情報については、理由コードの説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

欠落している PDIR の名前

eeeeeee

欠落している DDIR の名前

aaaaaaaa

理由コード

bbbbbbbb

戻りコード

ccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更作業単位トークン

理由コードは、次のいずれかの値を取ります。

コード

説明

- 01** 内部エラー。無効なログ・レコード・タイプ 70xx が、メンバー・オンライン変更処理モジュールに渡され、無視されました。
- 02、03、05、06、07、または 0A**
新規メンバー・オンライン変更作業単位のタイプ 70xx (7002、7003、7004、または 7005) のログ・レコードが読み取られましたが、前回のメンバー・オンライン変更作業単位には作業単位終了ログ・レコード (タイプ 7006 または 7010) が含まれていませんでした。前回のメンバー・オンライン変更作業単位は終了して、クリーンアップが実行され、新しい作業単位が初期設定されます。脱落ログ・レコードまたはログ・テープによってこの問題が発生する可能性があります。
- 04** 7002 ログ・レコードには、処理するメンバーが含まれていませんでした。このメンバー・オンライン変更作業単位によって生成された作業はありません。最も考えられる原因は、メンバー・オンライン変更が ACBLIB メンバーを更新しなかったことです。
- 08** メンバー・オンライン変更について 7005 ログ・レコードが処理され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。メンバー・オンライン作業単位は終了されます。
- 09** 7005 ログ・レコードが処理され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位をコミットしたこと

が示されました。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=N が指定されていることである場合、メンバー・オンライン作業単位はコミットされます。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=Y が指定されていることである場合、この IMS による処置は必要ありません。アクティブな IMS 上のコミットは正常に完了したからです。

- 0B** 7010 ログ・レコードが、この作業単位で唯一のログ・レコードとして検出されました。後続の DFS3497I を参照して、IMS がこのメンバー・オンライン変更作業単位を処理した理由を判別してください。
- 0C** 7010 ログ・レコードがトラッキング IMS によって作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を打ち切ったことが示されました。ACBSHR=N が指定されていたため、IMS はメンバー・オンライン作業単位を打ち切りました。
- 0D** 7010 ログ・レコードが作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を打ち切ったことが示されました。ACBSHR=Y が指定されていたため、IMS による処置は必要ありません。これは単なる通知メッセージです。
- 0E** 7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が打ち切られたことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を打ち切りました。
- 0F** 7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン
- 10** 7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン

変更作業単位が完了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位をコミットしました。

- 11** 7004 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7004 の存在は、作業単位が完了したことを意味します。ただし、後続の 7010 が欠落していたため、変更されているリソースの状態は不明です。メンバー・オンライン変更作業単位はコミットされます。
- 12** これは内部エラーによるもので、内部制御ブロック構造の一部が欠落しています。メンバー・オンライン変更プロセスは打ち切られます。
- 1B または 21**
この問題は、GETMAIN 障害によるものです。最も可能性の高い原因は、使用可能なストレージが不足していることです。GETMAIN の戻りコードは、メッセージに示されています。
- 1C** メンバー・オンライン変更プロセスは OLCSTAT データ・セットを読み取ることができませんでした。メンバー・オンライン変更プロセスは打ち切られます。
- 1D** メンバー・オンライン変更処理中に DDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。
- 1E** メンバー・オンライン変更処理中に PDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。
- 1F または 20**
メンバー・オンライン変更の初期設定処理中に内部エラーが発生しました。メンバー・オンライン変更プロセスは打ち切られます。
- 13、15、17、または 19**
ACBSHR=NO を指定するトラッキング中に、メンバー・オンライン変更プロセスはメンバーをトラッキング ACBLIB から削除しようとしたましたが、そのメンバーは存在しません。このコードは、ACBLIB がアクティブとトラッカーの間で同期されていないことを示します。IMS が異常終了します。
- 22** 7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位がコミットされたことを検出しまし

た。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を再コミットしました。

**2D、 2E、 2F、 30、 31、 32、 33、 34、 35、 41、
または 42**

ログ・レコード 7002、 7003、 7004、 7005、
7007、 7008、 7012、 7013、 7014、 7015 のい
ずれかの処理時に、メンバー・オンライン変更の以
前の作業単位がまだ存在していました。処置は必要
ありません。脱落ログ・レコードまたはログ・テ
ープによってこの問題が発生する可能性があります。

**36、 37、 38、 39、 3A、 3B、 3C、 3D、 43、または
44**

ログ・レコード 7002、 7003、 7004、 7005、
7007、 7008、 7012、 7013、 7014、 7015 のい
ずれかが処理されましたが、関連付けられた 7002
レコードがそのログ内にありませんでした。処置は必
要ありません。脱落ログ・レコードまたはログ・テ
ープによってこの問題が発生する可能性があります。

システムの処置: メンバー・オンライン変更の不完全な
作業単位はコミットされるか、打ち切られます。追加情
報については、「プログラマーの応答」の下にある理由
コードの説明を参照してください。

プログラマーの応答: 応答は、次のように理由コードに
応じて異なります。

01 無効なログ・レコードが、メンバー・オンライ
ン変更ログ・レコードを処理するモジュールに
渡されました。この内部エラーの訂正を支援す
るために、DFSERA10 を実行してすべての
7002、 7003、 7004、 7005、 7006、 7010、
および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM
ソフトウェア・サポートに連絡してください。

02、 03、 05、 06、 07、または 0A

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明さ
れているトークンに関するすべての 7002、
7003、 7004、 7005、 7006、 7010、および
70FF ログ・レコードを抽出します。不完全な
メンバー・オンライン変更作業単位に関する
7002 には、処理されなかったメンバー名が含
まれています。これらを処理するには、欠落し
ているメンバーに対してメンバー・オンライン
変更を再実行する必要があります。また、IBM
ソフトウェア・サポートに連絡してください。

04 DFSERA10 を実行してすべての 7002、
7003、 7004、 7005、 7006、 7010、および
70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウ
ェア・サポートに連絡してください。7002 には
処理するメンバー名が含まれている必要があ
るため、この問題は内部エラーです。この時間
枠にメンバー・オンライン変更が実行された場
合、すべてのメンバー・オンライン変更が完全

かどうかを検査してください。いずれかのメン
バー・オンライン変更が失敗したことが検出さ
れた場合、メンバー・オンライン変更を再実行
する必要があります。

12 DFSERA10 を実行して、メッセージで説明さ
れているトークンに関するすべての 7002、
7003、 7004、 7005、 7006、 7010、および
70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウ
ェア・サポートに連絡してください。この問
題は内部エラーです。メンバー・オンライン変
更作業単位は完了しておらず、再実行する必
要があります。これらのメッセージを誤って受け
取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウ
ェア・サポートに連絡してください。

1D DFSERA10 を実行して、メッセージで説明さ
れているトークンに関するすべての 7002、
7003、 7004、 7005、 7006、 7010、および
70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウ
ェア・サポートに連絡してください。メンバ
ー・オンライン変更への PDIR または DDIR
が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB
から欠落していました。これらの欠落してい
るメンバーに対するメンバー・オンライン変
更を再実行する必要があります。これらのメッ
セージを誤って受け取ったと考えられる場
合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し
てください。

1E DFSERA10 を実行して、メッセージで説明さ
れているトークンに関するすべての 7002、
7003、 7004、 7005、 7006、 7010、および
70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウ
ェア・サポートに連絡してください。メンバ
ー・オンライン変更への PDIR または DDIR
が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB
から欠落していました。これらの欠落してい
るメンバーに対するメンバー・オンライン変
更を再実行する必要があります。これらのメッ
セージを誤って受け取ったと考えられる場
合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し
てください。

1F または 20
IBM がこの内部エラーを訂正するために、
DFSERA10 を実行してすべての 7002、
7003、 7004、 7005、 7006、 7010、および
70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウ
ェア・サポートに連絡してください。

**08、 09、 0B、 0C、 0D、 0E、 0F、 10、または
11** これらは通知メッセージであるため、応答は必
要ありません。これらのメッセージを誤って受
け取ったと考えられる場合、または問題があ
ると考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サ
ポートに連絡してください。

- 1C OLCSTAT データ・セットが存在すること、およびそれを読み取り専用モードのメンバー・オンライン変更で使用できることを確認します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。
- 1B メンバー・オンライン変更プロセスのために ECSA ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。
- 21 メンバー・オンライン変更プロセスのために専用ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。
- 13、15、17、または 19 欠落しているメンバー名がメッセージに含まれていました。このメンバーのメンバー・オンライン変更は、トラッキング IMS ACBLIB に対して再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、このメンバー・オンライン変更の一部であったメンバーのリストを取得します。その後、タイプ 7002 ログ・レコードのその他のメンバーに対するメンバー・オンライン変更が完了していることを確認します。

モジュール: DFSMOL10、DFSMOL20

DFS3497I MOLC 7005 LOG RECORD FOUND,
UOW ABORTED RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=cccccccccccccc

MOLC 7005 LOG RECORD FOUND, UOW
COMMITTED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc

または

MOLC 7010 LOG RECORD FOUND, NO
PROCESSING REQUIRED RSN=aaaaaaaa
RC=bbbbbbbb TOKEN=cccccccccccccc

または

MOLC 7010 LOG RECORD FOUND, UOW
ABORTED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc

または

MOLC 7003 LOG RECORD FOUND, UOW
ABORTED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc

または

MOLC 7002 LOG RECORD FOUND, UOW
COMMITTED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc

または

MOLC 7003 LOG RECORD FOUND, UOW
COMMITTED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc

または

MOLC 7004 LOG RECORD FOUND, UOW
COMMITTED RSN=aaaaaaaa RC=bbbbbbbb
TOKEN=cccccccccccccc

説明: IMS の再始動、拡張リカバリー機能 (XRF)、または高速データベース・リカバリー (FDR) トラッキング中に、不完全なメンバー・オンライン変更作業単位が検出されました。最も可能性が高い原因は、メンバー・オンライン変更がアクティブであったか、XRF/FDBR トラッキング中の IMS の異常終了でした。メンバー・オンライン変更ログ・レコードには、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位 (UOW) をコミットしたか、または終了したかを IMS が判別するのに十分な情報が含まれていました。この情報に基づいて、作業単位は再コミットされたか、終了しました。詳細情報については、理由コードの説明を参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

理由コード

bbbbbbbb

戻りコード

cccccccccccccc

メンバー・オンライン変更作業単位トークン

理由コードは、次のいずれかの値を取ります。

コード

説明

- 01** 内部エラー。無効なログ・レコード・タイプ 70xx が、メンバー・オンライン変更処理モジュールに渡され、無視されました。
- 02、03、05、06、07、または 0A**
新規メンバー・オンライン変更作業単位のタイプ 70xx (7002、7003、7004、または 7005) ログ・レコードが読み取られましたが、前回のメンバー・オンライン変更作業単位には作業単位終了ログ・レコード (タイプ 7006 または 7010) が含まれていませんでした。前回のメンバー・オンライン変更作業単位は終了して、クリーンアップが実行され、新しい作業単位が初期設定されます。脱落ログ・レコードまたはログ・テープによってこの問題が発生する可能性があります。
- 04** 7002 ログ・レコードには、処理するメンバーが含まれていませんでした。このメンバー・オンライン変更作業単位によって生成された作業はありません。原因として、メンバー・オンライン変更が ACBLIB メンバーを更新しなかったことが考えられます。
- 08** メンバー・オンライン変更について 7005 ログ・レコードが処理され、メンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。メンバー・オンライン作業単位は終了します。
- 09** 7005 ログ・レコードが処理され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位をコミットしたことが示されました。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=N が指定されていることである場合、メンバー・オンライン作業単位はコミットされます。この問題が、XRF が IMS をトラッキングしていて、FDBR および ACBSHR=Y が指定されていることである場合、この IMS による処置は必要ありません。アクティブな IMS 上のコミットは正常に完了したからです。
- 0B** 7010 ログ・レコードが、この作業単位で唯一のログ・レコードとして検出されました。IMS がこのメンバー・オンライン変更作業単位を処理した方法については、後続の DFS3497I を参照してください。
- 0C** 7010 ログ・レコードがトラッキング IMS によって作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。ACBSHR=N が指定されていたため、IMS はメンバー・オンライン作業単位を終了しました。
- 0D** 7010 ログ・レコードが作業単位ログ・ストリームの終わりで検出され、ユーザーがメンバー・オンライン変更作業単位を終了したことが示されました。ACBSHR=Y が指定されていたため、IMS による処置は必要ありません。
- 0E** 7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が終了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を終了しました。
- 0F** 7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が終了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を終了しました。
- 10** 7003 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7003 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位が完了したことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位を再コミットしました。
- 11** 7004 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された最後のログ・レコードでした。7004 の存在は、作業単位が完了したことを示しています。しかし、後続の 7010 が欠落しているため、オンライン変更されているリソースの状態は不明です。メンバー・オンライン変更作業単位はコミットされます。
- 12** この問題は内部エラーによるもので、内部制御ブロック構造の一部が欠落しています。メンバー・オンライン変更プロセスは終了します。
- 1B または 21**
この問題は、GETMAIN 障害によるものです。最も可能性の高い原因は、使用可能なストレージが不足していることです。GETMAIN の戻りコードは、メッセージに示されています。
- 1C** メンバー・オンライン変更プロセスは OLCSTAT データ・セットを読み取ることができませんでした。メンバー・オンライン変更プロセスは終了します。
- 1D** メンバー・オンライン変更処理中に DDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プ

ロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。

- 1E** メンバー・オンライン変更処理中に PDIR がライブラリーから欠落していました。オンライン変更プロセスはこのメンバーをスキップして、メンバー・オンライン変更プロセスは続行されます。

1F または 20

メンバー・オンライン変更の初期設定処理中に内部エラーが発生しました。メンバー・オンライン変更プロセスは終了します。

13、15、17、または 19

ACBSHR=NO を指定するトラッキング中に、メンバー・オンライン変更プロセスはメンバーをトラッキング ACBLIB から削除しようとしたのですが、そのメンバーは存在しません。これは、ACBLIB がアクティブとトラッカーの間で同期されていないことを示します。IMS は異常終了します。

- 22** 7002 は、このメンバー・オンライン変更作業単位のログ・ストリームで検出された唯一のログ・レコードでした。7002 の存在は、作業単位が開始されたが、後続の 7004、7005、および 7010 が検出されなかったことを意味します。IMS は、OLCSTAT データ・セットを読み取り、メンバー・オンライン変更作業単位がコミットされたことを検出しました。そのため、IMS は、メンバー・オンライン変更作業単位をコミットしました。

システムの処置: メンバー・オンライン変更の不完全な作業単位はコミットされるか、終了します。追加情報については、「プログラマーの応答」の下にある理由コードの説明を参照してください。

プログラマーの応答: 応答は、次のように理由コードに応じて異なります。

- 01** 無効なログ・レコードが、メンバー・オンライン変更ログ・レコードを処理するモジュールに渡されました。この内部エラーの修正に役立つために、DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

02、03、05、06、07、または 0A

DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出します。不完全なメンバー・オンライン変更作業単位に関する 7002 には、処理されなかったメンバー名が含まれています。これらのメンバーを処理するには、IBM ソフトウェア・サポートに連絡する

とともに、欠落しているメンバーに対してメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。

- 04** DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。7002 には処理するメンバー名が含まれている必要があるため、この問題は内部エラーです。この時間枠にメンバー・オンライン変更が実行された場合、すべてのメンバー・オンライン変更が完全かどうかを検査してください。いずれかのメンバー・オンライン変更が失敗したことが検出された場合、メンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。

- 12** DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。この問題は内部エラーです。メンバー・オンライン変更作業単位は完了しておらず、再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

- 1D** DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバー・オンライン変更への PDIR または DDIR が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB から欠落していました。これらの欠落しているメンバーに対するメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

- 1E** DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関するすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メンバー・オンライン変更への PDIR または DDIR が、ステージングまたはアクティブ ACBLIB から欠落していました。これらの欠落しているメンバーに対するメンバー・オンライン変更を再実行する必要があります。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1F または 20

この内部エラーの修正に役立てるために、DFSERA10 を実行してすべての 7002、7003、7004、7005、7006、7010、および 70FF ログ・レコードを抽出し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

08、09、0B、0C、0D、0E、0F、10、または 11 これらは通知メッセージであるため、応答は必要ありません。これらのメッセージを誤って受け取ったと考えられる場合、または問題があると考えられる場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

1C OLCSTAT データ・セットが存在すること、およびそれを読み取り専用モードのメンバー・オンライン変更で使用できることを確認します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

1B メンバー・オンライン変更プロセスのために ECSA ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

21 メンバー・オンライン変更プロセスのために専用ストレージを解放します。メンバー・オンライン変更作業単位を再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、再実行するメンバーのリストを取得します。

13、15、17、または 19

欠落しているメンバー名がメッセージに含まれていました。このメンバーのメンバー・オンライン変更は、トラッキング IMS ACBLIB に対して再実行する必要があります。DFSERA10 を実行して、メッセージで説明されているトークンに関する 7002 を抽出し、このメンバー・オンライン変更の一部であったメンバーのリストを取得して、タイプ 7002 ログ・レコードのその他のメンバーに対するメンバー・オンライン変更が完了していることを確認します。

モジュール: DFSMOL10、DFSMOL20

DFS3498W bbbb nnnnnnnnn eeeeeeeeee....

説明: /MODIFY PREPARE、INITIATE OLC PHASE(PREPARE)、または /MODIFY COMMIT 処理で、MODBLKS または ACBGEN の出力内に有効でない条件が検出されました。この問題または状態は、準備処理のときに発生しました。ただし、コミット処理として別の注記がある場合は除きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

bbbb 該当する DMB が ACBLIB 内の DMB を表している場合はブロック・タイプ。DDIR は、MODBLKS 内のデータベースを表します。PSB は、ACBLIB 内の PSB を表します。SMB は、MODBLKS 内のトランザクションを表します。

nnnnnnnnnn

ブロックの名前 (ただし、該当する場合)

eeeeeeeee....

問題または状態が検出され、それは以下のいずれかであることが考えられます。

ALREADY DEFINED AS PARTITION CHANGE

MODBLKS データ・セット内で定義されたデータベースが、すでに HALDB 区画として定義されているときに発行されます。いったんデータベースが DBRC および IMS に対して HALDB 区画として定義されると、そのデータベースは IMS がコールド・スタートされるまで、IMS に対して HALDB 区画として定義されたままで残り、MODBLKS データベースに変更することはできません。これは、たとえその HALDB 区画が DBRC から削除された場合でも同じです。

ALREADY DEFINED AS DATABASE CHANGE

オンライン変更準備で、追加されようとしている MODBLKS データ・セット内の DDIR が、存在することが検出されたときに発行されます。この状態が発生した場合は、内部エラーが考えられます。オンライン変更準備はリジェクトされます。

ALREADY DEFINED AS DATABASE COMMIT

オンライン変更コミットで、追加されようとしている MODBLKS データ・セット内の DDIR が、存在することが検出されたときに発行されます。こ

の状態が発生した場合は、内部エラーが考えられます。オンライン変更コミットは、このエラーが起きても進行します。いったんデータベースが DBRC および IMS に対して HALDB 区画として定義されると、そのデータベースは IMS がコールド・スタートされるまで、IMS に対して HALDB 区画として定義されたままで残り、MODBLKS データベースに変更することはできません。これは、たとえその HALDB 区画が DBRC から削除された場合でも同じです。

ALREADY DEFINED AS PARTITION COMMIT

オンライン変更コミットで、MODBLKS データ・セットのメンバーが、準備フェーズ以降に追加された既存の HALDB 区画と同じ名前を使用して定義されていることが検出されたときに発行されます。HALDB 区画定義が優先されます。オンライン変更コミットは、このエラーが起きても進行します。後続の PREPARE コマンドは、データベースが非アクティブ MODBLKS データ・セット内に残留する限り、DFS3498W DDIR *dbname* ALREADY DEFINED AS PARTITION CHANGE で失敗します。

ALREADY DEFINED AS TRANSACTION

このストリングが発行されるのは、オンライン変更によって追加されようとしているトランザクションが PREPARE 以降に同じ名前 CPIC トランザクションとして追加されたことを、/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) が検出した場合です。オンライン変更は、このエラーが起きても進行します。トランザクションは CPIC トランザクションを保持します。MODBLKS 定義の方が望ましい場合は、非アクティブ MODBLKS データ・セットでトランザクションを再定義して、再びオンライン変更を実行します。

NOT IN ACTIVE LIBRARY

/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) が BLDL オプションを使用して指定されたときに発行され、非アクティブ

ACBLIB 内で検出されない PSB または DMB があるたびに、通知メッセージ DFS3498I が発行される原因となります。このメッセージは、コマンドの成否には影響しません。

NOT IN INACTIVE LIBRARY

/MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) が BLDL オプションを使用して指定されたときに発行され、アクティブ ACBLIB 内で検出されない PSB または DMB があるたびに、通知メッセージ DFS3498W が発行される原因となります。このメッセージは、コマンドの成否には影響しません。

PDIR NAME IS INVALID

追加または変更されようとしているトランザクションで、存在しないアプリケーション・プログラム名が定義されているときに発行されます。

SID NUMBER IS INVALID

追加または変更されようとしているトランザクションで、大きすぎる SYSID が定義されているときに発行されません。

SNO - COMPARE

ACBLIB 内の DMB または PSB が変更されようとしており、それに関連したローカル制御ブロック (DDIR または PDIR) が検出されないことをオンライン変更比較機能が検出したときに発行されます。このエラーは、起きてもならないもの (SNO) です。なぜなら、ローカル制御ブロックは、BLDL リストが構築された時点では存在していたはずだからです。

SNO - INSERT CHANGE

オンライン変更で、変更された DMB または PSB を変更リストに挿入しようとして、関連するローカル制御ブロック (DDIR または PDIR) を検出できないときに発行されます。このエラーは、起きてもならないもの (SNO) であり、通常は、誤った MODBLKS データ・セットが使用されていることを示しています。また、内部エラーを示している場合もあります。

SNO - INSERT DELETE

オンライン変更で、削除された DMB または PSB を削除リストに挿入しようとして、関連するローカル制御ブロック (DDIR または PDIR) を検出で

きないときに発行されます。このエラーは、起きてはならないもの (SNO) であり、通常は、誤った MODBLKS データ・セットが使用されていることを示しています。また、内部エラーを示している場合もあります。

SYSID CHNG IS INVALID

トランザクションがローカルからリモートへ変更されようとしており、それと同時に、トランザクションまたはアプリケーション・プログラムに対して別のタイプの変更が 1 つ以上試みられているときに発行されます。

UNSUPPORTED MSDB ADDITION

オンライン変更で、サポートされていない MODBLKS 内の MSDB データベース、または ACBLIB 内の DMB を追加、変更、または削除しようとしたときに発行されます。

UNSUPPORTED MSDB CHANGE

オンライン変更で、サポートされていない MODBLKS 内の MSDB データベース、または ACBLIB 内の DMB を変更しようとしたときに発行されます。

UNSUPPORTED MSDB DELETION

オンライン変更で、サポートされていない MODBLKS 内の MSDB データベース、または ACBLIB 内の DMB を削除しようとしたときに発行されます。

システムの処置: /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE) コマンドの場合、コマンドは終了します。/MODIFY COMMIT コマンドの場合、示されているデータベースを除いて、オンライン変更コミットは成功します。データベースは HALDB 区画を保持します。

プログラマーの応答: 問題を訂正し、MODBLKS GEN または ACBGEN をあらためて実行し、オンライン変更ユーティリティを実行し、オンライン変更を再試行してください。

/MODIFY COMMIT コマンドが DFS3498W DDIR *dbname* ALREADY EXISTS AS PARTITION COMMIT を示して失敗した場合は、オンライン変更を実行して、このデータベース定義を MODBLKS *gen* から除去してください。さもないと、後続のオンライン変更の試みは、そのつど /MODIFY PREPARE コマンドが DFS3498W DDIR *dbname* ALREADY EXISTS AS PARTITION CHANGE で失敗します。また、データベースは、次回 IMS コールド・スタート時に非 HALDB データベースに戻されます。

モジュール: DFSCPD00、DFSRMDD0、DFSRMDM0、DFSRMPS0、DFSRMSM0

DFS3499I ACTIVE DDNAMES: *modblks-name*
acblib-name format-name MODSTAT ID:
nnnn

説明: このメッセージは、アクティブなオンライン変更ライブラリーおよび現在の変更 ID を含むオンライン変更状況を示しています。IMS がこのメッセージを出すのは、次の場合です。

- IMS 再始動
- 単純チェックポイント
- 新しい定義がコミットされる前に現在アクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE)。
- オンライン変更がコミットされた後で新しいアクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modblks-name

IMS JCL 内のアクティブ MODBLKS DD。これは、アクティブな MODBLKS ライブラリーを識別します。*modblks-name* は MODBLKSA または MODBLKSB のどちらかです。MODBLKS DD カードが IMS JCL から省略され、MODBLKS のオンライン変更が使用不可になっている場合、この変数はブランクです。

acblib-name

IMS JCL 内のアクティブ IMSACB DD。これは、アクティブな ACBLIB ライブラリーを識別します。*acblib-name* は IMSACBA または IMSACBB のどちらかです。

format-name

IMS JCL 内のアクティブ FORMAT DD。これは、アクティブな MFS フォーマット・ライブラリーを識別します。*format-name* は FORMATA または FORMATB のどちらかです。このシステムが DBCTL の場合、*format-name* はブランクです。

nnnn

変更 ID 番号。MODSTAT データ・セットを初期設定するときに、変更 ID としてどの番号を割り当てるかを決めてください。この番号は、オンライン変更が成功するたびに 1 ずつ増分されます。この番号を 0 に初期設定した場合、この値は、コールド・スタート以来、何回のオンライン変更が成功したかを示します。

変更 ID は、緊急時再始動のときに、セキュリティー状況をリカバリーするために使用されます。

このメッセージは、次の後にも出されます。

- /DBD によって呼び出された単純チェックポイント
- /DBR によって呼び出された単純チェックポイント
- /CHE によって呼び出された単純チェックポイント

DFS3500W GLOBAL STATUS FOR *rsrctype* RESOURCES IS DISABLED

説明: データベース、DEDB エリア、またはトランザクション・リソースのグローバル状況が、この IMS で使用不可になっています。*rsrctype* は、DB (データベース)、AREA、または TRAN (トランザクション) です。SCOPE(ALL) と一緒に発行される DB、AREA、または TRAN コマンドは SCOPE(ACTIVE) として扱われ、グローバル状況は更新されません。DB または AREA コマンドが GLOBAL として発行された場合、グローバル状況は更新されません。

システムの処置: IMS は、再始動処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

この IMS から処理されたコマンドのグローバル状況を維持したい場合、次の処置を実行してください。

1. 再始動が完了した後、IMS を取り消すか、IMS をシャットダウンします。DFS3308 メッセージで報告されたエラー条件が修正された後、IMS を再始動します。IMS は RM 状況と同期されるため、これ以上の処置は必要ありません。
2. IMS の再始動が完了するのを待ちます。その後で、以下のことを行います。
 - a. DFS3308 メッセージで報告されたエラー条件を修正します。
 - b. 該当する UPDATE IMS SET(PLEXPARM) コマンドを発行して、この IMS でグローバル状況を使用可能にします。
 - c. QRY TRAN (または DB または AREA) SHOW(GLOBAL) コマンドを発行して、グローバル状況のリソースを表示します。
 - d. 該当する SCOPE(ACTIVE) コマンドを発行して、この IMS が RM 状況と同期されていることを確認します。

モジュール: DFSGST20

関連情報:

DFS3308E

第 74 章 DFS メッセージ DFS3501W - DFS3550I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3501W GLOBAL STATUS NOT OBTAINED FOR xxxx RESOURCES ADDED WITH ONLINE CHANGE

説明: オンライン変更処理で、追加されたトランザクションまたはデータベース・リソースのグローバル状況を判別しようとしてエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx DB または TRAN。データベースまたはトランザクションのいずれかを示します。

追加されたデータベースまたはトランザクションの状況は、RM リソース構造で維持されている状況と異なる場合があります。

このメッセージには、Resource Manager (RM) 要求エラーに関する追加のエラー情報および RM 戻りコードと理由コードを含む DFS3308 メッセージが付随する場合があります。

システムの処置: オンライン変更によって追加されたデータベースまたはトランザクションは、RM からのグローバル状況を適用せずに使用できます。

ユーザーの処置: QRY TRAN SHOW(GLOBAL) または QRY DB SHOW(GLOBAL) を発行して RM から情報を取得することにより、追加されたトランザクションおよびデータベースのグローバル状況を取得します。次に、UPD TRAN または UPD DB コマンドを SCOPE(ACTIVE) および該当する START または STOP と共に使用して、IMS が RM グローバル状況と同期されていることを確認します。

モジュール: DFSGST40

関連情報:

DFS3308E

DFS3503 リソース初期設定が完了しませんでした。
コマンドを再試行してください。

説明: 必要なリソースが完全に初期設定されていなかったため、コマンドを完了できません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: コマンドを再試行してください。

モジュール: DFSICL30

DFS3505E parmname=value IS NOT SPECIFIED IN PROCLIB MEMBER proclibmem, JOBNAME=job_name

説明: PROCLIB データ・セットの DFSDF パラメーターを処理しているときにエラーが検出された場合、このメッセージが発行されます。IMS またはバッチの初期設定時に必須パラメーターが使用可能に設定されない場合、このメッセージがトリガーされます。

CATALOG が使用可能にされずに ACB の IMS 管理が使用可能になった場合にも、このメッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

parmname=value

使用可能になっていなかった、PROCLIB メンバー内のパラメーターの名前を示します。

proclibmem

PROCLIB メンバーの名前を示します。

job_name


初期設定が失敗したジョブの名前を示します。

システムの処置: IMS 初期設定は 0071 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答: PROCLIB メンバー定義を訂正して、IMS 初期設定を再試行してください。

モジュール: DFS3DF00, DFS3DF10

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

DFS3507E parmname=value IS NOT SPECIFIED IN USER EXIT userexit, JOBNAME=job_name

説明: Catalog Definition ユーザー出口を処理しているときにエラーが検出された場合、このメッセージが発行されます。バッチ初期設定時に必須パラメーターがこのユーザー出口によって使用可能に設定されない場合、このメッセージがトリガーされます。

CATALOG が使用可能にされずに ACB の IMS 管理

DFS3511I • DFS3513E

が使用可能になった場合にも、このメッセージが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

parmname=value

使用可能になっていなかった、ユーザー出口定義内のパラメーターの名前を示します。

userexit

PROCLIB メンバーの名前を示します。

job_name


初期設定が失敗したバッチ・ジョブの名前を示します。

システムの処置: バッチ・ジョブの初期設定が、0071 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答: ユーザー出口のパラメーター定義を訂正し、バッチ・ジョブを再試行してください。

モジュール: DFS3DF10

関連資料:

 IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

DFS3511I ODBA failed to connect to ODBM for reason: xxxxxxxxxxxx RC=nnnn

説明: データベース・リソース・アダプター (DRA) の初期設定中に、ODBA は ODBM に接続しようとした。しかし、このメッセージで「reason」の後に示される以下のいずれかの理由で、この試みは失敗しました。

UNABLE TO OBTAIN STORAGE

DFSCDA ブロック用にストレージを入手できなかったことを示します。

RRMS REGISTRATION FAILED

RRMS に登録する要求が失敗したことを示します。

ODBM REGISTRATION FAILED

ODBM に登録する要求が失敗したことを示します。

SCI REGISTRATION FAILED

SCI に登録する要求が失敗したことを示します。

戻りコード *nnnn* は、エラーの原因に関する追加情報を提供します。

- 理由テキストが UNABLE TO OBTAIN STORAGE である場合、*nnnn* は CSLSCREG 要求からの戻りコードです。

- 理由テキストが RRMS REGISTRATION FAILED である場合、*nnnn* は 4 (CDA が存在しなかったために失敗が生じた場合)、または 8 (無効な IMSplex 名が指定されたためにエラーが発生した場合) です。

- 理由テキストが ODBM REGISTRATION FAILED である場合、*nnnn* は、CSLSCQRY 要求からの戻りコードであるか、または 8 (CSLSCQRY 要求が失敗の原因ではない場合) です。

- 理由テキストが SCI REGISTRATION FAILED である場合、*nnnn* は STORAGE OBTAIN サービスからの戻りコードです。

システムの処置: 通常の ODBA パスを使用して初期設定が続行されます。トランザクションは、ODBM を通じて転送されるのではなく、ODBA に直接送信されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

重大度: 8

DFS3513E THE DIRECTORY DATA SET NAMES IN THE FAILED IMS AND THE TRACKING IMS DO NOT MATCH. UOW ABORTED. TOKEN=cccccccccccccccc.

説明: 障害が発生した IMS の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子が、高速データベース・リカバリー (FDBR) 領域の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子と一致していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc


メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置: FDBR 領域が、メンバー・オンライン変更作業単位 (UOW) を完了できません。障害が発生した IMS が再始動されると、IMS がその作業単位をコミットします。


システム・プログラマーの応答: 再始動された IMS によって使用されている DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションの内容は、障害が発生した IMS によって使用されていた DFSDFxxx メンバーと同じでなければなりません。矛盾を訂正し、IMS を再始動してください。

モジュール: DFSMOL20

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

DFS3515E BLDL PROCESSING FOR *rsc_name* ENCOUNTERED AN I/O ERROR IN THE DIRECTORY DATA SET THAT IMS CANNOT FIX.

説明: システムが IMS ディレクトリーを検索しているときに、IMS が修正できない入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name


この入出力エラーに関連する DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置: IMPORT コマンドまたは DDL 定義の自動活動化は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS ディレクトリー・データ・セットを、IMS カタログ ACB リカバリ・ユーティリティーを実行して再作成する必要があります。

モジュール: DFSMOLSO

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

DFS3521W CHECKPOINT IS REJECTED – DEDB ALTER IS IN PROGRESS


説明: DEDB 変更ユーティリティーが実行中だったため、チェックポイント要求はリジェクトされました。

システムの処置: /CHECKPOINT コマンドは失敗します。

プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティーが終了した後に、/CHECKPOINT コマンドを入力してください。

モジュール: DFSRCP00、DFSICM30

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

 /CHECKPOINT コマンド (コマンド)

DFS3523W CA RECEIVED RC *mmmm* RSN *nnnn* FROM INIT DBRC DUE TO EXTRA LOGS IN JCL

説明: 変更累積ユーティリティー・モジュール DFSUCMN0 が Init DBRC 呼び出しを行い、理由コード 1 を受け取りました。この理由コードは、DBRC が許容する数を超えるログが DFSULOG DD ステートメント内にあることを示しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mmmm DBRC から返された戻りコードを示します。

nnnn DBRC から返された理由コードを示します。


この状態は、GENJCL.CA コマンドの実行と変更累積ユーティリティーの実行の間に時間が経過した結果として生じたものです。この間に RECON データ・セットの状態が変更されました。この 2 つのステップが相次いで実行されていれば、この状態は起こらないはずですが。

システムの処置: RC=03 で処理は終了します。

プログラマーの応答: GENJCL.CA コマンドと変更累積ユーティリティーを連続して再実行してください。

モジュール: DFSUCMN0

関連資料:

 データベース変更累積ユーティリティー (DFSUCUM0) (データベース・ユーティリティー)

DFS3525E IMS COULD NOT REGISTER WITH ENF FOR RACF EVENT NOTIFICATION, RC=*ret_code*.

説明: IMS の初期設定時に、IMS が、RACF 内の OTMA セキュリティー定義に対する変更の通知を listen するために z/OS イベント通知機能 (ENF) に登録しようとしたのですが、登録の試みは失敗しました。IMS が ENF に登録されると、RACF 定義に対する変更が行われたときに OTMA のキャッシュされた ACEE を自動的にリフレッシュできます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ret_code

z/OS から受信した ENFREQ 戻りコード。

z/OS ENFREQ マクロは、ENF への登録のために z/OS サブシステムによって使用されません。

システムの処置: 初期設定は続行されますが、OTMA のキャッシュされた ACEE は、対応する RACF 定義に対する変更が行われても自動的にリフレッシュされません。

DFS3527E • DFS3537E

システム・プログラマーの応答: 「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」の ENFREQ 戻りコードを検索してください。

モジュール: DFSYCTL0

DFS3527E THE OLCSTAT DATA SET NAME IS NOT SPECIFIED

説明: DFSUOCU0 が &OUT パラメーター G を指定して呼び出されました。このパラメーターは、ターゲット・ライブラリーが OLCSTAT データ・セットによって示されることを表します。しかし、OLCSTAT データ・セット名が指定されていません。OLCSTAT データ・セットが OLCSTAT DD ステートメントまたは SYSIN DD ステートメントで指定されていないか、または SYSIN DD ステートメントが指定されていても OLCSTAT データ・セット名が列 1 で開始されていません。

システムの処置: コピーは行われず、ユーティリティーは終了します。

システム・プログラマーの応答: OLCSTAT データ・セット名を列 1 で開始して SYSIN DD ステートメント・データ域に指定し、OLCSTAT データ・セットを動的に割り振ることができるようにしてください。

あるいは、OLCSTAT DD ステートメントで OLCSTAT データ・セット名を指定し、ジョブによって OLCSTAT データ・セットが割り振られるようにしてください。

モジュール: DFSUOCU0

DFS3529 /TRACE SET ON FOR MONITOR IN PROGRESS, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: /TRACE SET OFF MONITOR コマンドが入力されましたが、前の /TRACE SET ON MONITOR コマンドが完了していませんでした。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: コマンドが自動化プログラムで入力される場合は、プログラムを変更して、/TRACE SET ON MONITOR コマンドと /TRACE SET OFF MONITOR コマンドの間の時間を延ばしてください。

モジュール: DFSICLN4

DFS3531E MAXIMUM NUMBER OF OTMA TMEMBERS REACHED. NO NEW TMEMBERS CAN BE CREATED

説明: IMS OTMA は TMEMBER の最大数に達したた

め、それ以上の TMEMBER を結合できません。

システムの処置: 新しいクライアント・ビッド要求は OTMA NAK X'0007' でリジェクトされます。新しい TMEMBER を必要とする、共有キュー・バックエンド・システム上の IMS トランザクションは、異常終了 U0367 でリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: OTMA TMEMBER は、IMS ウォーム・リスタートと緊急時再始動が行われると再作成されます。OTMA TMEMBER をリセットする場合は IMS コールド・スタートを行う必要があります。それまでは、新しい TMEMBER を必要とする要求を他の IMS システムに送ってください。

モジュール: DFSYMOM0

DFS3537E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED. CHANGED PSB *psb_name* REFERENCES A DELETED DBD *dbd_name*. REGION *regionname*

説明: *psb_name* の DDL ALTER PROGRAMVIEW ステートメントに、IMS から削除されたデータベースを参照する SCHEMA ステートメントが含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

削除されたデータベースの名前。

psb_name

削除されたデータベースを参照する ALTER PROGRAMVIEW ステートメントに指定されている *psb_name*。

システムの処置: DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべて、IMS カタログからバックアウトされます。

プログラマーの応答: *psb_name* の DDL ALTER PROGRAMVIEW ステートメントで、削除されたデータベースを参照する SCHEMA ステートメントを削除します。修正が完了したら、DDL を再実行依頼してください。

モジュール: DFSOLC70

関連資料:

 CREATE PROGRAMVIEW (アプリケーション・プログラミング API)

DFS3539E AN I/O ERROR OCCURRED FOR MEMBER *rsc_name* ON THE STAGING DATA SET.

説明: IMS がステージング・データ・セットにアクセスしようとして入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name


入出力エラーが発生した DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置: IMPORT コマンドと DDL 活動化プロセスは異常終了します。

プログラマーの応答: z/OS システム管理者によってステージング・データ・セットがオフラインにされていた場合は、データ・セットをオンラインに戻すように依頼してください。そうでない場合は、IMS ディレクトリー・データ・セットを復元するか再作成します。データ・セットがオンラインになるか IMS ディレクトリーが復元されたら、IMPORT コマンドまたは DDL 定義ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSMOLSO

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

DFS3541E AN I/O ERROR OCCURRED FOR RESOURCE *rsc_name* ON THE DIRECTORY DATA SET.

説明: IMS がディレクトリー・データ・セットにアクセスしようとして入出力エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name

入出力エラーが発生した DBD リソースまたは PSB リソースの名前。


システムの処置: IMPORT コマンドと DDL 活動化プロセスは異常終了します。

プログラマーの応答: IMS ディレクトリーがオフラインの場合は、オンラインにしてください。そうでない場合は、IMS ディレクトリー・データ・セットを復元するか再作成します。

IMPORT コマンドまたは DDL 定義ステートメントを再サブミットしてください。再サブミットされた変更の処理中に SPOC 出力またはメッセージ DFS4387I 内に理由コード 121 (リソースに変更がない) が表示されるのは、正常な状態です。

モジュール: DFSMOLSO

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

DFS3542I THE NAME OPERAND IS OMITTED OR INVALID ON THE FOLLOWING MSPLINK STATEMENT(S): STATEMENT NOS - *nnn*,...

説明: *nnn* で指示されたそれぞれのステートメントで、次のいずれかが発生しました。

- NAME キーワード・パラメーターが指定されていたが、TYPE=VTAM が指定されなかった。
- TYPE=VTAM で指定されていない NAME キーワード・パラメーターが指定された。
- 複数の NAME オペランドが指定された。
- オペランドが、英字で始まらないか、または 8 文字を超える英数字を含んでいた。

システムの処置: 指定されたステートメントの NAME パラメーターは無視され、処理は続きます。

プログラマーの応答: TYPE=VTAM で NAME パラメーターを指定します。指定している場合には、そのパラメーターが、英字で始まっていること、および英数字が 8 文字を超えないことを確認してください。

重大度: 8

DFS3543I UOW IGNORED. TIMESTAMP IN THE DIRECTORY DATA SETS DOES NOT MATCH THE LOG RECORD 7002. TOKEN=cccccccccccccccc

説明: IMS ディレクトリー・データ・セット内のメンバーのタイム・スタンプが、ログ・レコード 7002 のタイム・スタンプと一致していません。この UOW は、この IMS が停止している間に別のタスクによって完了された可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置: IMS の再始動または FDBR のテークオーバー中に、IMPORT コマンドまたは自動 DDL 活動化からの UOW の処理がスキップされています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSMOL20

**DFS3544I DUPLICATE VTAM NODE NAMES
ARE SPECIFIED ON THE
FOLLOWING MSPLINK
STATEMENTS: NAME - name1
STATEMENT NOS - nnn,... NAME -
name2 STATEMENT NOS - nnn,...**

説明: *namex* で示されているリモート・システム
VTAM ノード名が、ステートメント *nnn* の複数の
MSPLINK マクロで指定されていました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 示されている MSPLINK ステ
ートメントの VTAM ノード名の指定を訂正し、重複を除
去します。

重大度: 8

**DFS3545 ACBLIB KEYWORD IS INVALID
WHEN THE IMS DIRECTORY IS
ENABLED**


説明: /MODIFY コマンドでは ACBLIB キーワードが
無効です。IMS システムが ACB ライブラリーの代わ
りに IMS ディレクトリーを使用するように構成されて
いるためです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置: ACBLIB キーワードを指定せずに
/MODIFY コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSICV10

関連資料:

 /MODIFY コマンド (コマンド)

**DFS3547E UNABLE TO LOAD ALTERED
DEFINITIONS FOR DATABASE
db_name, RSN=rsn**

説明: 現在変更中のデータベースにアクセスする要求に
対応しようとして、IMS は、ACB ステージング・ライ
ブラリーからデータベースの新しい構造を含むデータ
管理ブロック (DMB) をロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

rsn ロード・エラーの原因を示す理由コード。各理
由コードの説明については、下記のリストを参
照してください。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキ
ストに含まれる理由コードによって示されます。考えら
れる原因には、以下のものがあります。

1 ステージング ACB ライブラリーの動的割り振

りが失敗しました。詳しくは、メッセージ
DFS2503W を参照してください。

2 ステージング ACB ライブラリーの動的割り振
り解除が失敗しました。詳しくは、メッセージ
DFS2503W を参照してください。

3 ステージング ACB ライブラリーのオープンが
失敗しました。詳しくは、DFS0730I を参照し
てください。

4 ステージング ACB ライブラリーからのロード
を試行しているときに、入出力エラーが発生し
ました。データ・セットが置かれているポリユ
ームを確認してください。

5 要求された DMB がステージング ACB ライ
ブラリーで検出されなかったか、ステージング
ACB ライブラリーが空です。ステージング
ACB ライブラリーに、メッセージ・テキスト
で示されているデータベースの ACB メンバ
ーが含まれていることを確認してください。

6 要求された DMB をステージング ACB ライ
ブラリーから読み取ろうとして、エラーが発生
しました。データ・セットが置かれているポリ
ユームを確認してください。

7 メモリー内の DMB を解決しているときにエラ
ーが発生しました。ステージング ACB ライブ
ラリーからロードされた DMB は、予期された
形式ではありません。IMS バージョン 13 以降
のシステムを使用して、ACB メンバーの再生
成を試行してください。

8 ストレージを取得できない。これはおそらく内
部エラーです。

9 要求されたメンバーは、IMS に定義されてい
ないようです。これはおそらく内部エラーです。

10 内部パラメーター・リスト・エラーが発生しま
した。これはおそらく内部エラーです。

システムの処置: 変更されたデータベースの DMB は
ロードされません。データベース許可の試行は失敗しま
す。IMS は DFS047A を発行します。

システム・プログラマーの応答: 上記のリストで理由コ
ードを調べて、エラーの原因を判別します。失敗の原因
を示す z/OS メッセージがないか調べてください。

必要なメンバーがステージング ACB ライブラリーにあ
ることを確認してください。ステージング ACB ライブ
ラリーが IMS からアクセス可能であり、MDA メンバ
ーに含まれていることを確認してください。

問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポ
ートに連絡してください。

問題判別: 1、9、18、19、36、40

モジュール: DFS5OP00

関連情報:

31 ページの『DFS047A』

615 ページの『DFS2503W』

224 ページの『DFS0730I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3549E DB VERSIONING ERROR: RS=rsnc
PST=pstno PSB=psbname DB=dbname
VERSN=vernum SEGM=segmname**

または

**DB VERSIONING ERROR: RS=rsnc PST=pstno
PSB=psbname DB=dbname VERSN=vernum
SEGM=segmname FIELD=fld_name**

説明: アプリケーション・プログラムは以前のバージョンの高可用性ラージ・データベース (HALDB) にアクセスしようとしたが、IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスに必要な内部ブロックを作成できません。最新バージョンのデータベースには、データベースのバージョン管理方式によってサポートされていないデータベース定義 (DBD) の変更が含まれているためです。

アプリケーション・プログラムが変更されるか、サポートされない変更がデータベースから削除されていない限り、アプリケーション・プログラムは以前のバージョンのデータベースにアクセスできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname サポートされない変更を含むデータベースの名前。

fld_name サポートされない変更を含むフィールドの名前。

psbname アプリケーション・プログラムがアクセスを試行しているデータベースとバージョンを指定する PSB の名前。

pstno ゼロを基準とする PST 番号。

rsnc ALTER オプションでサポートされない DBD の変更を識別する理由コード。各コードの説明については、以下の理由コードのリストを参照してください。

segmname サポートされない変更を含むセグメントの名前。

vernum

アプリケーション・プログラムがアクセスを試行していたデータベース・バージョンのバージョン番号。

理由コード

サポートされない変更

3 出口ルーチンが変更されました。

4 セグメント数が変更されました。

9 セグメントが固定長から可変長に、またはその逆に、可変長から固定長に変更されました。

10 挿入規則が変更されました。

11 削除規則が変更されました。

12 セグメント・コードが変更されました。

14 副次索引が追加または変更されました。SRCH オペランド、SUBSEQ オペランド、または DDATA オペランドのいずれかが、新しく追加されたフィールドを参照します。

16 セグメントの名前が変更されたか、セグメント内のフィールドが削除されたか、別のセグメントに移動されました。

17 フィールドのキー長が変更されました。

18 フィールド長が変更されました。

19 FIELD ステートメントの TYPE キーワードの値が変更されました。

22 セグメントは切り捨てられます。

23 論理関係に関与する固定長セグメントの長さが変更されたか (副次索引を除く)、可変長セグメントの最小長または最大長が変更されたかのいずれかです。

システムの処置: IMS は、以前のバージョンのデータベースへのアクセスを提供するために必要な内部ブロックを構築できません。アクセスできるのは最新バージョンのデータベースのみです。

IMS がアプリケーション・プログラムに状況コードを返すか、アプリケーション・コードは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: データベースで変更を維持する必要があるか、削除する必要があるかを判別します。

変更を維持するには、新しいデータベース構造にアクセスするためにすべてのアプリケーション・プログラムを変更する必要があります。以前のバージョンのデータベースには、これ以上、アクセスできません。


変更を削除すると、データベースのバージョン管理方式を使用できます。ただし、変更が行われた後にデータベースが更新された場合は、物理データベースを以前のバ

DFS3549E

ージョンにリカバリーする必要があります。現行バージョンのデータベースを使用するアプリケーション・プログラムによって行われたデータベースに対する更新はすべて失われます。

モジュール: DFS5DBB0

関連概念:

 データベースのバージョン管理方式によってサポートされるデータベースの変更 (データベース管理)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 75 章 DFS メッセージ DFS3551E - DFS3600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3551E ACBMGMT=CATALOG OR CATALOG=Y CANNOT BE SPECIFIED IN A DCCTL SYSTEM.


説明: DCCTL IMS システムが、ACBMGMT=CATALOG または CATALOG=Y (あるいはこの両方) が指定された DFSDFxxx メンバーによってオンラインにされました。DCCTL システムでは IMS カタログはサポートされません。

システムの処置: IMS システムは U0071 異常終了で終了します。


プログラマーの応答: DFSDFxxx メンバーから上記のパラメーターを除去し、DCCTL IMS システムを再度起動してください。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

 DCCTL 環境 (システム管理)

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

DFS3553E AN ISC TCPIP SESSION FAILED TO INITIATE - NODE = *nodename* USER = *username* RSNCD=*nnn*

説明: ISC TCP/IP セッションは開始できませんでした。セッションを開始する要求は、IMS または CICS サブシステムなどのリモート・セッション・パートナーで発信された可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nodename

ISC TCP/IP セッションを開始するために要求で使用されたノード名。

IMS から発信された要求の場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名は、ログオン出口ルーチン (DFSLGNX0)、ログオン記述子、/OPNDST コマンドの NODE キーワード、または TERMINAL システム定義マクロの NAME キーワードによって提供される可能性があります。

セッション・パートナーから発信された要求の場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名はセッション・パートナーによって提供されます。

username

セッション開始要求に関連付けられているユーザー名。

nnn

失敗の考えられる原因を示す理由コード。表示される可能性があるコードとその意味には、以下のものがあります。

003 IMS データ通信処理が開始されませんでした。/START DC コマンドを発行して、セッションの開始を再試行してください。

004 新しく作成された IMS 端末制御ブロックに対する SOPB ストレージ要求が失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

005 インストールで提供されるログオン出口ルーチン (DFSLGNX0) が、静的 ISC TCP/IP 端末に対して AUTOSIGN と NOAUTSGN の両方を指定しています。AUTOSIGN と NOAUTSGN の値は相互に排他的です。

007 セッション・パートナーが IMS に静的に定義されていない端末との ISC TCP/IP セッションを開始しようとして、この IMS システムでは ETO が使用可能に設定されていません。DFSDCxxx PROCLIB メンバーで TYPE および TERMINAL システム定義マクロと ISCTCPIP キーワードをコーディングして端末を静的に定義するか、あるいは、IMS または DCC 始動プロシージャで ETO=Y を指定して端末の ETO ログオン記述子をコーディングすることによって ETO 動的端末を使用可能に設定します。

- 009** システム・ラッチを取得できません。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 010** インストールで提供されるログイン出口ルーチン (DFSLGNX0) が、ISC TCP/IP セッションを開始する要求のログオン試行をリジェクトしました。DFSLGNX0 出口ルーチンのコードを確認して、ログオン試行がリジェクトされた理由を判別してください。
- 011** ログオン記述子が見つかりませんでした。
- 012** IMS 端末制御ブロックを取得できません。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 013** 内部ディスパッチャー接頭部ブロックが見つかりません。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 014** IMS は、IMS 端末制御ブロックのハッシュに失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 015** セッション・パートナーが、ISC TCP/IP をサポートしていないノードとの ISC TCP/IP セッションを開始しようとした。
- 016** ISC TCP/IP ノードが停止しました。
- 017** ターゲット・ノードを切断するために /CLSDST コマンドが発行されました。
- 018** 新しく作成された IMS 端末制御ブロックに対する TCPWORK ストレージ要求が失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。

- 019** 既存の IMS 端末制御ブロックに対する TCPWORK ストレージ要求が失敗しました。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 022** セッションを開始する要求で、1 つ以上の既存のセッションがあるノード名が指定されました。この要求で指定されたログオン記述子が、このノードでアクティブになっている既存のセッションによって使用されているログオン記述子と異なっています。要求で使用されているログオン記述子を変更してセッションを開始するか、別のノード名を指定してください。このノードによって現在使用されているログオン記述子を確認するには、QUERY NODE コマンドを使用します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: エラーの考えられる原因と実行できる処置の説明については、上記のリストでメッセージ・テキストに表示された理由コードを見つけてください。

問題判別: 1、5、6、14、36

モジュール: DFSTCPS0

関連タスク:

➡ TCP/IP の ISC サポート (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

➡ QUERY NODE コマンド (コマンド)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3555E AN INTERNAL ISC TCPIP ERROR WAS DETECTED - NODE = *nodename* USER = *username* RSNCD=*nnnn*

説明: ISC TCP/IP セッションが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nodename

ISC TCP/IP セッションのノード名。

IMS から開始されたセッションの場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名は、ログオン出口ルーチン (DFSLGNX0)、ログオン記

述子、/OPNDST コマンドの NODE キーワード、または TERMINAL システム定義マクロの NAME キーワードによって提供される可能性があります。

セッション・パートナーから開始されたセッションの場合、メッセージ・テキストに表示されるノード名はセッション・パートナーによって提供されます。

username

セッションに関連付けられているユーザー名。

mmn

失敗の考えられる原因を示す理由コード。表示される可能性があるコードとその意味には、以下のものがあります。

- 001** リモート・システムから無効なメッセージを受信しました。このエラーは、IMS またはセッション・パートナーによって検出された内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 002** リモート・システムから受信した入力メッセージで IPIC 要求セグメント IS-06 が見つかりませんでした。このエラーは内部エラーです。問題判別のセクションに示されている文書を収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡し、支援を要請してください。
- 008** 宛先 IMS 端末制御ブロックが見つかりません。ターゲット端末が静的に定義されていないか、動的端末制御ブロックが存在しません。
- 021** IMS は、IMS Connect またはセッション・パートナーから否定応答を受信しました。


システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: エラーの考えられる原因と実行できる処置の説明については、上記のリストでメッセージ・テキストに表示された理由コードを見つけてください。

問題判別: 1、5、6、14、36

モジュール: DFSTCPS0

関連タスク:

 TCP/IP の ISC サポート (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

 QUERY NODE コマンド (コマンド)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3561E INSUFFICIENT STORAGE ABOVE 16 MEG FOR PSB xxxxxxxx.

説明: ブロック・ビルダーが、必要な PSB 制御ブロックを作成するために十分な 16 MB 境界より上のストレージを取得できませんでした。メッセージ・テキストで、xxxxxxx は PSB ブロックを示します。

システムの処置: IMS は異常終了します。

プログラマーの応答: 領域サイズまたは区画サイズを増やしてから、プログラムを再実行します。

DFS3565E INSUFFICIENT STORAGE ABOVE 16 MEG FOR DBD xxxxxxxx.

説明: ブロック・ビルダーが、必要な DBD 制御ブロックを作成するために十分な 16 MB 境界より上のストレージを取得できませんでした。メッセージ・テキストで、xxxxxxx は DBD ブロックを示します。

システムの処置: IMS が異常終了します。

プログラマーの応答: 領域サイズまたは区画サイズを増やしてから、プログラムを再実行します。

DFS3571A THE OPCODE ON THE FOLLOWING STATEMENT IS INVALID.

説明: 8 文字を超える OPCODE コードが検出されました。

システムの処置: 名前検査は続行します。ただしステージ 2 入力は生成されません。

プログラマーの応答: エラーのある OPCODE を訂正してから、プリプロセッサを再実行します。

重大度: 8

DFS3573A MISSING PARM FIELD ERROR DETECTED.

説明: DFSLGD00 ユーティリティ JCL で、入力パラメーターの 1 つが欠落していました。

システムの処置: 戻りコード 8 で処理は終了します。

プログラマーの応答: 適切なパラメーターを訂正して、ジョブを再実行してください。

重大度: 8

DFS3575I UOW IGNORED. TIMESTAMP IN STAGING DATA SET DOES NOT MATCH THE LOG RECORD 7002.
TOKEN=cccccccccccccccc

説明: IMS ディレクトリーのステージング・データ・セット内のメンバーのタイム・スタンプが、ログ・レコード 7002 のタイム・スタンプと一致していません。この UOW は、この IMS が停止している間に別のタスクによって完了された可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置: IMS の再始動または FDBR のテークオーバー中に、IMPORT コマンドまたは自動 DDL 自動化からの UOW の処理がスキップされています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSMOL20

DFS3576A OPEN ERROR FOR DDNAME
 xxxxxxxx

説明: モジュール DFSLGD00 でオープン・エラーが発生しました。

システムの処置: 戻りコード 12 で処理は終了します。

プログラマーの応答: エラーのある DDNAME を訂正してから、ジョブを再実行します。

重大度: 12

DFS3578A OPEN ERROR FOR DDNAME =
ddname RETURN CODE = 12

説明: BPAM データ・セットのオープンが失敗しました。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、OPEN の戻りコードではありません。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: 詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」(SC26-4506)を参照してください。

DFS3579I USER EXIT2 REQUEST = 90 FROM DFSS060. INPUT IS NOT IN STANDARD FORMAT, END STATEMENT MISSING. RESOURCE TYPE = resource type.

説明: 戻りコード 90 は、SORT/SPLIT ユーティリティに、現在のユーザー・リソース・タイプを標準リソースとして処理することを指示します。この場合は、出口ルーチンは、現在残っているユーザー・リソース・タイプに対して呼び出されません。このメッセージは、END ステートメントが欠落していることを警告します。これによって、Sort / Split ユーティリティの完了後に、コンパイラー・エラーが発生することがあります。報告書が生成されます。

システムの処置: SORT/SPLIT ユーティリティは、戻りコード 02 を生成します。処理は続行されます。

プログラマーの応答: コンパイラー・エラーが発生した場合は、ステージ 1 の初期入力、または出口ルーチン 2 のいずれかで END ステートメントを追加する必要があります。出口ルーチンで END ステートメントを追加する場合は、それぞれのメンバーの最後にも END ステートメントを追加する必要があります。

DFS3580A READ ERROR IN RESOURCE INFORMATION FILE. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 12

説明: リソース情報ファイル (RIFL) の読み取りエラーが、次のいずれかによって発生しました。

- レコードが見つからない。
- 入出力エラーが発生した。
- 最初のレコードが、RIFL レコードではない。

報告書は生成されません。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: RIFL を検討し、最初のレコードが RIFL レコードで、そのレコードに RIFL にあるリソース・タイプ数が含まれていることを確認します。詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

DFS3581A READ ERROR. MEMBER NAME = member name RETURN CODE = 12

説明: 入力メンバーからのブロックの読み込み中に、I/O エラーが発生しました。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

DFS3581W READ ERROR. MEMBER NAME =
member name **RETURN CODE = 04**

説明: ファイルが早期終了しました。下記の状態のうちのいずれかが起こっています。メンバーの最初のブロックの読み取り中に、ファイルの終わり (EOF) に到達しました。これ以上読み取り可能なブロックはありません。ただし、Resource Information File 内のレコード数には到達していません。多重レコード・リソースは完全には読み取りされませんでした。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: RIFL 内のリソース読み取り数が正しいかどうかを判別します。入力リソース・レコード数を検証し、レコードが欠落しているのか、数が無効なのかを判別します。

DFS3582W WRITE ERROR. MEMBER NAME =
member name **RETURN CODE = 04**

説明: ブロックの書き込みで、I/O エラーが発生しました。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、I/O の戻りコードではありません。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: 詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

DFS3583A GETMAIN FAILED. STORAGE REQUESTED = *bytes of storage*
STORAGE ALREADY GETMAINED
location of storage 16M LINE =
accumulated bytes of storage **RETURN CODE = 12**

説明: すでに GETMAIN によって取得されたストレージの量と要求された量の合計が、使用可能な総ストレージを超えています。報告書が生成されます。戻りコード

12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、GETMAIN の戻りコードではありません。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: 領域サイズを増やしてから、このユーティリティ機能を再実行します。

DFS3584A FIND ERROR. MEMBER NAME =
member name **RETURN CODE = 12**

説明: リソース情報ファイル (RIFL) メンバーが見つかりませんでした。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、FIND の戻りコードではありません。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: ステージ 1 で RIFL メンバー名の接尾部を含むメンバー名が正しいことを確認します。

DFS3584W FIND ERROR. MEMBER NAME =
member name **RETURN CODE = 04**

説明: リソース・タイプに対するメンバーが見つかりませんでした。戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、FIND の戻りコードではありません。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: 正しいメンバー数およびメンバー名が、ステージ 1 で生成されていることを確認します。

DFS3585I STOW DELETE FAILED. MEMBER NAME = *member name* **RETURN CODE = 02**

説明: 終結処理で、ユーザー・リソース・タイプ・メンバーを入力データから削除するときに、STOW DELETE が失敗しました。戻りコード 02 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、STOW の戻りコードではありません。

システムの処置: ユーティリティ機能は継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3585W STOW stow function FAILED.
MEMBER NAME = member name
RETURN CODE = 04

説明: 次のいずれかの問題が発生しました。

- STOW ADD 戻りコードが、4 より大きい。
- STOW ADD が戻りコード 4 と戻したあと、8 よりも大きい戻りコードが STOW REPLACE から戻された。
- STOW REPLACE 戻りコードが、8 より大きい。
- STOW DELETE 戻りコードが、8 より大きい。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティの戻りコードで、STOW の戻りコードではありません。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソート、または書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: 詳しくは、「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。

DFS3586W SORT ERROR. RESOURCE TYPE =
resource type RETURN CODE = 04

説明: DFSS030 に渡される数が、許可された最大数を超えたか、許可された最小値を下回っていました。戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソート、または書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: ステージ 2 を最初から再実行します。問題が継続する場合には、ステージ 1 を最初から再実行します。

DFS3587I MEMBER ALREADY EXISTS AND
WAS REPLACED. MEMBER NAME =
member name.

説明: このメッセージは、終結処理中に発行されます。戻りコード 02 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3588W EXPECTED record type RECORD NOT
FOUND AT input RECORD
LOCATION resource read count
RESOURCE TYPE = resource type
RETURN CODE = 04

説明: レコード・タイプ CSECT、GEN、END、または LAST が、入力ファイルの所定の場所がありませんでした。

戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を停止します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソートまたは書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: 指定されているレコードが、ステージ 1 で、入力ファイルの正しい場所にあることを確認します。ステージ 1 が、誤った数を渡している場合があります。これによって、レコード数は、実際の数よりも大きいか、小さくなります。

DFS3589A INVALID RESOURCE TYPE FROM
RESOURCE INFORMATION FILE.
RESOURCE TYPE = resource type
RETURN CODE = 12

説明: 認識されないリソース・タイプがステージ 1 で渡されました。戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: Sort / Split ユーティリティに渡されたリソース・タイプが、ガイドラインに準拠していることを確認します。

DFS3590A INVALID COUNT(S) FROM
RESOURCE INFORMATION FILE.
RESOURCE TYPE = resource type
RETURN CODE 12

説明: リソース情報ファイルで、問題が検出されました。次のストリングの 1 つ以上がメッセージで示され、何が誤りだったか分かります。

- RECORD COUNT: 数が 0 より大きくなっていない。
- RECORDS PER RESOURCE: 数が 1 より小さい、または 9 より大きい。
- MEMBER COUNT: 数が 1 より小さい、または 9 より大きい。

- SPLIT COUNT: 数が 0 より大きくなっていない。

戻りコード 12 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: 入力数が、ガイドラインに準拠していることを確認します。

DFS3591W INVALID RETURN CODE URC = user exit return code FROM user exit module.
RESOURCE TYPE = resource type
RETURN CODE = 04

説明: DFSS050 または DFSS060 が、ガイドラインに準拠していない戻りコードを発行しました。戻りコード 04 は、Sort / Split ユーティリティからのものです。

システムの処置: このリソース・タイプの処理を終了します。Sort / Split ユーティリティは、これ以上のリソース・タイプのソート、または書き込みを行いません。ただし、このユーティリティは、リソース・タイプの読み込みを継続し、読み込み数の検証を行います。出口ルーチンは、このジョブでは呼び出されません。報告書が生成されます。

プログラマーの応答: 出口ルーチンで許可されたこれらの戻りコードのみが使用されていることを確認します。

DFS3592A THE RECFM FOR DDNAME=ddname IS NOT F OR FB RETURN CODE=12

説明: LGENIN および LGENOUT データ・セットが、RECFM=F または RECFM=FB の DCB パラメータを持っている必要があります。

システムの処置: ユーティリティ機能は終了しました。

プログラマーの応答: 指定されたデータ・セットを RECFM=F または RECFM=FB で再定義します。

重大度: 12

DFS3594E AN ISC CSLSCMSG REQUEST FAILED, active_process, RETCODE = rc, RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause, MODULE =mod_name , NODE = nodename , USER = username

説明: SCI は、ISC TCP/IP 並列セッション用のサービスを求める CSLSCMSG 要求に回答して、IMS にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを返しました。端末セッションは終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

SENDMSG

SCI がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

SCI がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS サブシステムに向けて、端末セッションが終了したという通知を試行していた。

SESSINIT

SCI がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション端末のセッション開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

IMS とローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

IMS とローカル IMS Connect インスタンス

タンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、シャットダウンされた。

username

影響を受けたユーザーの名前。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

nodename

影響を受けた並列セッションの名前。

rc SCI が発行した CSLSCMSG 戻りコード。

rsn SCI が発行した CSLSCMSG 理由コード。

考えられる原因: このメッセージの原因は、SCI 戻りコードおよび理由コードによって特定され、さらに、場合によっては、メッセージ・テキスト内の LOSTSESS フィールドに表示される値によっても特定されます。

システムの処置: 端末セッションは終了します。IMS の処理は継続します。


システム・プログラマーの応答:

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。ローカルまたはリモートいずれかの IMSplex ネットワークに問題がある可能性があります。CSLSCMSG 要求についての戻りコードおよび理由コードを調べてください。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

問題判別: 1、5、6、14、36

モジュール: DFSCTER0

関連資料:

 CSLSCMSG: メッセージ送信要求 (システム・プログラミング API)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3595E **IMS CONNECT ERROR MESSAGE RECEIVED**, *active_process*, **RETCODE** = *rc*, **RSNCODE** = *rsn*, **LOSTSESS** = *cause*, **MODULE** = *mod_name*, **NODE** = *nodename*, **USER** = *username*

説明: IMS Connect が、ISC からの要求またはメッセージの処理中にエラーを検出し、IMS にゼロ以外の戻りコードまたは理由コードを戻しました。エラー・メッセージは、要求またはメッセージを発行したローカル IMS システムに戻されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

SENDMSG

IMS Connect がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

IMS Connect がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、端末セッションが終了したという通知を試行していた。

SESSINIT

IMS Connect がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで示されている並列セッション端末のセッション開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause

セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

nodename

影響を受けた並列セッション端末の名前。

rc

IMS Connect が発行した戻りコード。IMS Connect によって返される可能性が高い戻りコードをいくつか下記の表に示します。IMS Connect のすべての戻りコードと理由コードは、HWSHRR マクロに記載されています。

rsn

IMS Connect が発行した理由コード。IMS Connect によって返される可能性が高い理由コードをいくつか下記の表に示します。IMS Connect のすべての戻りコードと理由コードは、HWSHRR マクロに記載されています。

考えられる原因: このメッセージの原因は、戻りコード、理由コード、および LOSTSESS の値を検討することで判別できます。

次の表に、IMS Connect によって IMS に返される可能性が高い戻りコードと理由コードのいくつかをリストしています。次の表に示されていない IMS Connect の戻りコードと理由コードは、IMS Connect HWSHRR マクロで見つかります。

表 20. メッセージ DFS3595E での一般的な IMS Connect の戻りコードおよび理由コード

戻りコード	理由コード	意味
X'0C00001C'	X'0000700C'	メッセージを CICS に送信できませんでした。通常、メッセージ HWSG4040W または HWSG4080W も発行されます。
X'0C00001C'	X'00007020'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。
X'0C00001C'	X'00007030'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。
X'0C00001C'	X'00007040'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。

表 20. メッセージ DFS3595E での一般的な IMS Connect の戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
X'0C00001C'	X'00007060'	IMS Connect の ISC データ・ストアが見つかりませんでした。IMS Connect 構成の ISC ステートメントを確認してください。
X'0C00001C'	X'00007084'	IMS Connect の ISC データ・ストアが停止されました。始動するには、UPDATE IMSCON TYPE(ISC) START(COMM) を使用します。

システムの処置: 並列セッションは終了します。IMS の処理は続行されます。


システム・プログラマーの応答:

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。IMSplex ネットワークで問題が発生している可能性があります。そのほかに、SCI、IMS Connect インスタンス、または TCP/IP からの、診断に役立つ可能性のあるメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

問題判別: 1、5、6、14、36

モジュール: DFSCTER0

関連資料:

 HWS メッセージ (IMS Connect) (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3596E **ISC TCPIP DETECTED AN ERROR,**
active_process, **RETCODE = rc,**
RSNCODE = rsn, LOSTSESS = cause,
MODULE =mod_name, NODE =
nodename, USER = username

説明: ISC の TCP/IP 装置依存モジュール (DDM) が、メッセージ・テキストに示されている ISC 論理リンクに関連付けられたメッセージまたは要求の処理中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

SENDACK

ISC TCP/IP がエラーを検出したと

き、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッション経由での ISC ACK/NACK メッセージの送信を試行していた。

SENDMSG

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESTERM

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、端末セッションが終了したという通知を試行していた。セッションは、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されています。

SESSINIT

ISC TCP/IP がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている ISC TCP/IP 並列セッションのセッション開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理している SCI インスタンスがシャットダウンされた。

nodename

影響を受けた並列セッション端末の名前。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

rc

ISC 機器依存モジュール (DDM) が発行した戻りコード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

ISC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

username

影響を受けたユーザーの名前。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる戻りコードおよび理由コードによって示されています。次の表に説明を示します。

戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セットの LU6WA マクロの TCPWORK DSECT にもリストされています。

表 21. メッセージ DFS3596E での IMS ISC DDM 戻りコードおよび理由コード

戻りコード	理由コード	意味
X'00000004'	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー。(DFSC7B0)

表 21. メッセージ DFS3596E での IMS ISC DDM 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
X'00000004'	X'00000064', X'00000068', X'00000070', X'0000009C', X'000000C8', X'000000D0', X'000000D4', X'000000DC', X'000000E0', X'000000EC', X'000000F0', X'00000104'	IMS がセッションの開始中にエラーを検出しました。詳しくは、DFS3649A の理由コードを参照してください。(DFSCT7B0)
X'00000004'	IS07 IPIC 要求からのセンス・コード X'08640001'	IMS が、送信中の出力メッセージについてセンス・コード DEALLOCATE_ABEND_SVC を受け取りました。出力メッセージはデキューされます。(DFSCT2A0)
X'00000008'	IS07 IPIC 要求からのその他のセンス・コード	IMS が、送信中の出力メッセージについて DEALLOCATE_ABEND_SVC 以外のセンス・コードを受け取りました。出力メッセージはメッセージ・キューに押し戻され、セッションは終了します。(DFSCT2A0)
X'00000008'	X'00000000'	IMS が受け取り中の入力メッセージに対する応答を送信しようとして、エラーが発生しました。セッションは終了します。(DFSCT3B0)
X'0000000C'	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー。(DFSCT7F0)
X'00000014'	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー。(DFSCT7C0)
X'00000216'	X'00000000'	IMS は、CICS からの IS02 CAPEX 応答メッセージ内でセキュリティの指定を検出しました。(DFSCT7B0)

表 21. メッセージ DFS3596E での IMS ISC DDM 戻りコードおよび理由コード (続き)

戻りコード	理由コード	意味
X'0000xxyy'	X'00000000'	IMS は、CICS からの IS02 CAPEX 応答メッセージ内でゼロ以外である応答と理由の値を検出しました。(DFSCT7B0)
xx	IS02 CAPEX メッセージからの 応答	
yy	IS02 CAPEX メッセージからの 理由	

システムの処置: 並列セッションは終了します。IMS の処理は継続します。

システム・プログラマーの応答:

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

エラーの原因を訂正した後に、リンクを再始動してください。

問題判別: 1、5、6、14、36

モジュール: DFSTCER0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3597E **ISC DETECTED AN INTERNAL LOGIC ERROR**, *active_process*,
RETCODE = rc, **RSNCODE = rsn**,
LOSTSESS = cause, **MODULE = mod_name**, **NODE = nodename**, **USER = username**

説明: ISC の装置依存モジュール (DDM) が、内部論理エラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

active_process

エラー発生時にアクティブであった ISC 処理。指定できる値は、次のとおりです。

SENDMSG

ISC がエラーを検出したとき、ISC

は、リモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッション経由での ISC メッセージの送信を試行していた。

SESSTERM

ISC がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、並列セッションが終了されたという通知を試行していた。並列セッションは、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されています。

SESSINIT

ISC がエラーを検出したとき、ISC は、IMS Connect およびリモート CICS システムに向けて、メッセージ・テキストで *nodename* および *username* の値によって示されている並列セッションの開始の通知を試行していた。

UNKNOWN

識別不能な ISC 処理中にエラーが発生した場合に表示される。トラブルシューティングおよびリカバリーの手順は、通常のタイプのアクティブ処理の場合に行うものと同じです。

cause セッション欠落の原因 (SCI により CSL SCI クライアント通知出口ルーチン経由で、または IMS により報告されるとおり)。

可能な値には、次のものがあります。

ICONABE

ローカル IMS Connect インスタンスが、予期せず終了した。

ICONSTOP

ローカル IMS Connect インスタンスがシャットダウンされた。

NONE IMS にも CSL SCI クライアント通知出口ルーチンにも、セッション欠落の原因が記録されていなかった。

SCIABE

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の通信を管理しているローカル SCI インスタンスが、予期せず終了した。

SCISTOP

ローカル IMS システムとローカル IMS Connect インスタンスとの間の

通信を管理しているローカル SCI インスタンスがシャットダウンされた。

mod_name

エラーを検出したモジュールの名前。

nodename

影響を受けた ISC TCP/IP 並列セッション端末の名前。

rc

ISC DDM が発行した戻りコード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

rsn

ISC DDM が発行した理由コード。このメッセージに関連する ISC DDM 戻りコードおよび理由コードは、次の表で説明されています。

username

影響を受けた ISC TCP/IP 並列セッション端末に関連付けられているユーザーの名前。

考えられる原因: 考えられる原因は、メッセージ・テキストに含まれる理由コードおよび戻りコードによって示されます。

メッセージ **DFS3597E** での、**IMS ISC** 機器依存モジュールの戻りコードおよび理由コード

次の戻りコードおよび理由コードは、IMS.SDFSMAC データ・セット内の LU6WA マクロの TCPWORK DSECT にもリストされています。

戻りコード	理由コード	意味
DFSPPOOL RC	X'00000004'	DFSPPOOL ストレージ取得エラー
DFSPPOOL RC	X'00000008'	DFSPPOOL ストレージ解放エラー
CELL POOL RC	X'0000000C'	セル・プール (CPOOL) 取得エラー
CELL POOL RC	X'00000010'	セル・プール (CPOOL) 解放エラー
	X'00000014'	無効な通知コードまたは通知条件の検出
	X'00000018'	無効な AWE の検出
	X'0000001C'	無効な ISC ディレクティブ (DFSMSDIR) の検出
	X'00000020'	無効なバッファ・ヘッダー制御ブロック (BUFMSHDR) の検出
	X'00000024'	無効なメッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の検出

戻りコード	理由コード	意味
	X'00000028'	パートナー IMS からの即時シャットダウン要求の受信
	X'0000002C'	無効または予期しない ISC リンク (MSLINK) 状況の検出
	X'00000030'	予期しないブラケット開始停止 (BIS) メッセージの受信
	X'00000034'	予期しないエラー・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000038'	無効な再始動メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'0000003C'	無効なシャットダウン・メッセージ制御ブロック (BUFMSCB) の受信
	X'00000040'	内部ルーチンからの予期しない戻りコードの受け取り
	X'00000044'	SCIWORK エリアのエラー
	X'00000048'	キュー・エラーの検出 (CTB5QERR セット)
	X'0000004C'	キュー・バッファのチェーニング・エラーの検出
	X'00000050'	AWE チェーニング・エラーの検出
	X'00000054'	出力編集エラー
	X'00000058'	入力編集エラー
QMGR RC	X'0000005C'	メッセージ・キュー・マネージャーからの予期しない戻りコード
	X'00000060'	DFSMGPL マクロ・エラー、メッセージ接頭語不良
	X'00000064'	無効な応答 MSCB (BUFMSCB) の受信
	X'00000068'	無効な内部条件の検出
	X'0000006C'	内部制御ブロック・エラー

戻りコード	理由コード	意味
	X'0000007C'	LXB (リンク拡張ブロック) が SCI MSG 出口 DFSSXIN0 によって通知されたが、LXBTCLBP がゼロ。この問題が発生してはなりません。
	X'000000FC'	未判別エラー

システムの処置: 並列セッションは終了します。IMS の処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答:

RETCODE、RSNCODE、および LOSTSESS の値から、エラーの原因を判別してください。メッセージ・テキストで特定されるモジュールは、エラーの発生した場所です。そのほかに、SCI、IMS Connect、または TCP/IP からの、診断に役立つメッセージがないか確認してください。IMS ログから、X'6701' エラー・レコードを収集してください。

DFS3597E は、内部論理エラーの場合に発行されます。問題が解消されない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: 1、5、6、14、36

モジュール: DFSCTER0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3600I UNABLE TO INITIALIZE EXTERNAL SUBSYSTEM(S) - member, RC=mm, JOBNAME=JJJJJJJ

または

SUBSYSTEM DEFINITION SPECIFICATION ERROR FOR SSM = member, JOBNAME=JJJJJJJ

または

STMT (nnn), 'xxxxxxxxxxxxxxxx' (yyyyyyyyyy)

または

STMT (nnn), (DB2AF DEF INVALID FOR DEP REG)

または

STMT (nnn), KEYWORD 'xxxxxxxx' (yyyyyyyyyy)

説明: IMS は、外部サブシステムの PROCLIB メンバー (SSM) の処理中に、エラーを検出しました。メンバ

一名は、4 バイトの IMSID と、それに続く 4 バイトの SSM パラメーターで構成されます。SSM パラメーターは、メンバー DFSPBxxx、または /START SUBSYS SSM xxxx コマンドのいずれかの実行パラメーターとして指定されます。JOBNAME 値 (該当する場合) は、エラーが検出された領域のジョブ名を指定します。少なくとも、DFS3600I メッセージの 3 つのバージョンの 1 つが、エラーのタイプに応じて表示されます。バージョンは、次のとおりです。

- UNABLE TO INITIALIZE

このメッセージは、PROCLIB メンバーの処理を不可能にするエラーを IMS が検出したことを示しています。そのメンバー内で定義された外部サブシステムは、IMS に接続されません。文字ストリング member は、処理中であった PROCLIB メンバー名を示します。値 mm は、次の戻りコードのいずれか 1 つです。

コード (16 進数)

意味

- 04 PROCLIB メンバーの読み取り中に障害が発生しました。指定されたメンバー名が、正しい名前で、PROCLIB に常駐することを確認します。
- 08 ストレージは、PROCLIB メンバー・ステートメントを含むためのバッファを取得できませんでした。
- 0C ストレージは、外部サブシステム定義エレメントを取得できませんでした。
- 18 PROCLIB メンバーは、有効なサブシステム定義を含んでいませんでした。

注: RC=18 を従属領域から受信する場合には、SSM= パラメーターが、項目を含まない PROCLIB メンバーを指示している可能性があります。この問題により、従属領域はサブシステム接続ができなくなります。この場合には、このメッセージは通知専用です。従属領域の初期設定は継続します。

- SUBSYSTEM DEFINITION SPECIFICATION ERROR

1 つ以上のエラーが外部サブシステム定義の処理中に検出された場合には、このメッセージが発行されます。変数 member は、処理されていた PROCLIB メンバー名を示します。それぞれの定義エラーごとに、メッセージが発行され、エラーのステートメントおよびエラーのテキストが示されます。PROCLIB メンバー内の個々のエラーごとに、STMNT エラー・メッセージが 1 つずつ出されます。単一ステートメント内の複数のエラーは、複数のメッセージを生成します。値 nmm は、メンバー内のステートメント番号です。文字ストリング xxxxx は、エラーがあるテキス

トです。文字ストリング KEYWORD がエラー・テキストを伴っている場合は、エラー・テキストはキーワード・パラメーターを表します。文字ストリング yyyyyyyy は、次のエラー理由コードのいずれか 1 つです。

- OMITTED

必要パラメーターが、外部サブシステム定義から省略されました。サブシステム定義は無効として認識されるため、サブシステム接続は確立されません。

- IGNORED

パラメーターは外部サブシステム定義に指定されています。これは、定義中のサブシステム・タイプには適用できません。このパラメーターは無視され、処理は続行されます。サブシステム定義の残りが有効な場合は、サブシステム接続は適宜確立されます。

- INVALID

エラー・テキストは、サブシステム定義ステートメントの無効のデータを表しています。文字ストリング KEYWORD がエラー・テキストを伴っている場合は、パラメーターの値が無効です。その他の場合は、エラー・テキストは、サブシステム定義の一部として解釈できないデータを表しています。サブシステム定義は無効として認識されたため、サブシステム接続は確立されません。

- DUPLICATE

パラメーターの特定の値が、複数のサブシステム定義で指定されていました。サブシステム定義は、無効として扱われ、無視されます。すべての SSN パラメーター値は、1 つのメンバー内では固有値である必要があります。

- DB2AF DEF INVALID FOR DEP REG

従属領域のジョブに対して SSM パラメーターが提供されました。このパラメーターは、DB2 接続機能を使用してアクセスされる DB2 サブシステムの定義を含んでいる PROCLIB メンバーを識別しています。この定義は MPP または BMP 領域では使用不可であり、無視されます。処理を続行します。DB2 接続機能の定義は、SSM パラメーターの制御領域に対してのみ提供できます。

システムの処置: UNABLE TO INITIALIZE メッセージが表示された場合、IMS 外部サブシステムの初期設定処理は失敗しました。そのメンバー内で定義された外部サブシステムは、IMS に接続されません。

ステートメントが処理されてエラーが発生し、そのためにサブシステム定義が無効になった場合、外部サブシステムは IMS に接続されません。

プログラマーの応答: SSM PROCLIB メンバーのエラーを訂正します。

UNABLE TO INITIALIZE エラーの場合は、/START SUBSYS SSM コマンドを使用して、外部サブシステム初期設定処理を開始します。この処理は、そのメンバーに定義されているすべての有効なサブシステムを開始します。

STMNT エラーの場合は、/START SUBSYS コマンドを使用して、1 つ以上の外部サブシステム接続を開始します。

問題判別: 1、3、34 および SSM PROCLIB メンバーを保管します。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 76 章 DFS メッセージ DFS3601 - DFS3650I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3601 EXTERNAL SUBSYSTEM(S) NOT DEFINED. COMMAND REJECTED.

説明: 外部サブシステムが定義されていません。コマンドはリジェクトされました。次のいずれかのエラーが発生しました。

1. IMS コマンドで指定された外部サブシステム名が、IMS に対して定義されなかった。
2. /START、/STOP、/DISPLAY、または /CHANGE コマンドで SUBSYS キーワードが使用されたが、SSM パラメーターを使用して外部サブシステムの存在を IMS に認識させなかった。
3. SSM が指定されましたが、SSM PROCLIB メンバーは有効なサブシステム定義を含んでいなかった。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。


オペレーターの応答: 指定されたサブシステム名が正しいことを確認し、コマンドを再入します。問題が継続する場合は、システム・プログラマーにこのメッセージを受信したことを通知します。

プログラマーの応答: 説明にあるエラー条件に対応して、次のアクションのいずれかを実行してください。

1. IMS SSM PROCLIB メンバー内でサブシステム名が誤って定義されたか、そのつづりが誤っていた。サブシステム名を訂正し、SSM PROCLIB メンバーを更新します。
2. IMS パラメーター SSM を有効なメンバー名で指定します。
3. この場合には、IMS 異常終了 3041 が以前に発生していた。この問題は、SSM 実行パラメーターを使用して指定されたサブシステム PROCLIB メンバーが、無効な外部サブシステム定義を含んでいることを示しています。サポートするサブシステムが存在しない場合は、サブシステム構造をサポートするタスク (TCB) は、アベンド 3041 で終了します。PROCLIB メンバー定義を訂正します。メンバーの訂正時に IMS が実行中の場合は、/START SUBSYS コマンドを入力して、IMS に新しい定義を読み込ませ、サブシステム接続を確立させます。

問題判別: 34

関連情報:

 IMS 異常終了 3041

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3602I xxxx SUBSYSTEM RESOLVE-IN-DOUBT FAILURE, RC=yyyy

説明: 示された外部サブシステム (xxxx) の resolve-in-doubt 出口は、リカバリーの解決が不成功だったことを示します。未解決のリカバリー単位が存在します。IMS および外部サブシステムは、直前のアクティブ・リカバリー単位 (処理要求) を解決 (COMMIT|ABORT) できません。

システムの処置: IMS は、外部サブシステム接続を終了します。IMS は、その外部サブシステム接続なしで機能を継続します。

オペレーターの応答: データベース管理者は、このメッセージが出ていることを認識する必要があります。データベース管理者の要求に従って、/CHANGE コマンドを発行するか、IMS をコールド・スタートできます。コールド・スタートの方法では、これらのリカバリー単位が未解決である事実が IMS メモリーから消去されることに注意してください。

システム・プログラマーの応答: IMS /CHANGE コマンドを使用して問題を訂正でき、IMS /START コマンドで障害のあるサブシステム接続を再始動するか、IMS をコールド・スタートすることができます。

DFS3603I xxxxxxxx RESOURCE FAILURE FOR SUBSYSTEM zzzz REASON CODE - yyzzaaaa

または

xxxxxxx LOAD FAILED FOR SUBSYSTEM zzzz REASON CODE - yyzz

説明: 外部サブシステム構造の初期処理中に、必要なりソース xxxxxxxx の割り振りまたは処理が失敗しました。zzzz は、関連するモジュールのサブシステム名を指定します。IMS は、SSM パラメーターが指定されていると、サブシステム・モジュールのロードを試行します。

yy 値で表された次のコード番号の 1 つが、障害の理由を示します。

コード (16 進数)
説明

DFS3604I

- 01 メッセージで示されたりソースが見つかりませんでした - zz 値は、IMODULE LOAD 戻りコードです。
- 02 使用可能なストレージが不足しています - zz 値は、IMODULE GETMAIN の戻りコードと同じです。
- 03 メッセージで示されたりソースが見つかりませんでした - zz 値は、IMODULE LOAD 戻りコードです。
- 04 使用可能なストレージが不足しています - zz 値は、IMODULE GETMAIN の戻りコードと同じです。
- 05 DFSESL DD ステートメントのオープン障害 - zz 値は、OPEN の戻りコードと同じです。
- 06 メッセージで示されたりソースが見つかりませんでした - zz 値は、IMODULE LOAD 戻りコードです。
- 07 メッセージで示されたりソースが見つかりませんでした (DFSESI40) - zz 値は、OS LOAD マクロ戻りコードと同じです。
- 08 メッセージで示されたりソースが見つかりませんでした - zz 値は、BLDL 戻りコードと同じです。
- 09 メッセージで示されたりソースがロードされませんでした - zz 値は、MVS システム・コード *aaaa* と関連した戻りコードと同じです。
- 0A データ・セット・タイプを判別できません - zz 値は ISITMGD マクロ呼び出しからの戻りコードです。 *aaaa* 値は、ISITMGD 理由コードです。

IMODULE 戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: IMS と指定されたサブシステムとの間のサブシステム接続は確立されず、初期設定処理は継続します。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: サブシステム・ロード・ライブラリーが、IMS からアクセス可能であることを確認します。IMS では、この問題を改善するために、DD ステートメント (DFSESL) が提供されています。外部サブシステム・モジュールは、IMS がアクセス可能な任意の z/OS 許可ライブラリー (つまり、JOBLIB、STEPLIB、または DFSESL) 内に存在することができます。

領域サイズを増やして、外部サブシステム・モジュールに適用させ、外部サブシステム文書にストレージ要件を文書化します。

関連資料:

➡ IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ z/OS: ISITMGD の完了コード

DFS3604I /STA COMMAND FAILED WITH RETURN CODE *xxxx*

説明: /START コマンド・プロセッサによって外部サブシステムのマザー・タスクを作成する試行は、次の戻りコードのいずれか 1 つによって失敗しました。

コード 意味

- 0050 サブシステム・メンバー名が、直前の /START SUBSYS SSM *xxxx* コマンドですでに指定されていたか、SSM=EXEC パラメーターが IMS JCL で指定されていました。
- 0051 SSM キーワード・パラメーター長が、1 文字から 4 文字ではありませんでした。
- 0052 SSM キーワードに続いてパラメーターが指定されていませんでした。
- 0053 パラメーターが、SUBSYS キーワードで指定されていました。SSM キーワードが指定されている場合、SUBSYS キーワードはパラメーターを持つことができません。
- 0054 SSM キーワードに続いて指定されているパラメーターが多過ぎます。
- 0401 PROCLIB プロセッサから無効の戻りコードを受信しました。
- 0403 IMODULE GETSTOR 要求が、サブシステム定義エレメントの取得に失敗しました。IMS に接続できるサブシステムはありません。
- 0404 有効な SSM 項目が指定されていません。
- 0501 ESET 接頭部がありません。
- 0502 接続リスト数がゼロです。
- 0503 サブシステムに ESET がありません。
- 0504 SIDX ブロックを取得できません。
- 0505 即時保管域を取得できません。
- 0506 グローバル ESET が既に接続されています。
- 05FF IMS は異常終了処理の SHUTDOWN/ESS タスクを実行中です。要求はリジェクトされました。
- 04FF IMS は異常終了処理の SHUTDOWN/ESS タスクを実行中です。要求はリジェクトされました。
- 0101 ルーチンの作成でリストが渡されていません。
- 0103 即時保管域を取得できません。
- 0104 グローバル外部サブシステム項目を取得できません。
- 01FF IMS は異常終了処理の SHUTDOWN/ESS タスクを実行中です。要求はリジェクトされました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: コードを基にして、次のいずれかの処置を取ってください。

コード 意味

0050 外部サブシステム接続処理は、すでに完了しています。特定のサブシステムを開始するには、/START SUBSYS xxxx コマンドを使用します。

0051 1 文字から 4 文字のパラメーター xxxx を使用して /START SUBSYS SSM xxxx コマンドを再入してください。

0052 1 文字から 4 文字のパラメーター xxxx を使用して /START SUBSYS SSM xxxx コマンドを再入してください。

0053 その他のパラメーターを付けずに /START SUBSYS SSM xxxx コマンドを再入してください。

0054 その他のパラメーターを付けずに /START SUBSYS SSM xxxx コマンドを再入してください。

0401 サブシステム PROCLIB メンバー名が無効になっているか、メンバーの読み取り中にエラーが発生しました。PROCLIB メンバー名が正しく、IMS.PROCLIB に常駐していることを確認して、コマンドを再入力します。

0403 IMS は、作業域で専用ストレージを取得できませんでした。/START SUBSYS コマンドを再入できます。リソースの不足が一時的であれば、ストレージは後で使用可能になります。ストレージがまだ不足している場合には、IMS 始動プロシージャーで領域 (RGN) パラメーターを増やすことによって、より多くの作業用ストレージが IMS に割り振られる可能性があります。

0404 SSM パラメーターで指定された IMS.PROCLIB メンバーに、有効な項目が含まれていません。メッセージ DFS3600I がそれぞれの特定期間ごとに発行されました。

0501 IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0502 IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0503 IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0504 IMS は、作業用ストレージを取得できませんでした。この条件は一時的である可能性があるため、コマンドを再入してください。この状態が継続する場合は、IMS 始動プロシージャーで領域 (RGN) パラメーターを増やすことによ

て、より多くの作業用ストレージが IMS に割り振られる可能性があります。

0505 戻りコード 0504 で示されたアクションを実行します。

0506 IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

05FF 処置は必要ありません。

04FF 処置は必要ありません。

0101 IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

0103 戻りコード 0504 で示されたアクションを実行します。

0104 戻りコード 0504 で示されたアクションを実行します。

01FF 処置は必要ありません。

問題判別: 5、6、34

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3605I ESS/ESI MODIFY COMMAND REJECTED, code xx (y)

説明: 外部サブシステムを MVS MODIFY コマンドで変更中に、エラーが検出されました。理由コード xx では、エラーについて説明されています。値 y は、12 バイトまでの MODIFY コマンドの入力データです。次の理由コードが表示されることになり、その意味は次のとおりです。

コード (16 進数)

意味

04 MODIFY コマンドで指定されたサブシステム名は、アクティブなサブタスクを持ちません。外部サブシステムの姉妹タスクには、タスク制御ブロック (TCB) が存在しません。

08 IMS には外部サブシステムが接続されていません。

0C MODIFY コマンドで外部サブシステム名が IMS に対して定義されていません。

10 IMS ID が無効です。

14 MODIFY コマンドの外部サブシステム名が長過ぎます。名前は 1 から 8 文字である必要があります。

18 MODIFY コマンドの外部サブシステム名は、通知メッセージを待ちません。

1C 内部 MODIFY コマンドの IMSID/RSENAME は、SCD/FRB の名前と一致しません。

20 外部サブシステム名が、MODIFY コマンドで指定されていませんでした。名前は 1 から 8 文字である必要があります。

システムの処置: IMS は、要求された処置を実行でき

ません。コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

コード (16 進数)

意味

- 04** MODIFY コマンドのスペルおよびフォーマットを検査します。
- 08** SSM が EXEC パラメーターで指定されていなかったか、外部サブシステムの初期設定で障害が発生しました。
- 0C** コマンドがオペレーターによって入力された場合は、MODIFY コマンドのスペルおよびフォーマットを検査してください。それ以外の場合、MODIFY コマンドは、外部サブシステムが識別処理を継続可能であることを IMS に通知するために外部サブシステムから送信された内部コマンドです。SSM PROCLIB メンバーが変更されていないことを確認してください。
- 10** IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。
- 14** IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。
- 18** この戻りコードは、IMS の起動と終了を外部サブシステムとの接続なしで行うと発生することがあります。
- 1C** IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。
- 20** IMS 論理エラー: ソフトウェア問題についての手順に従ってください。

問題判別: 5、6、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3606I *www* EXTERNAL SUBSYSTEM
INITIALIZATION FAILED, FC = xxxx,
RC = yy, JOBNAME = zzzzzzzz

説明: 外部サブシステム (*www*) に対する初期設定出口処理は、正常終了しませんでした。外部サブシステムは、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。機能コード xxxx は、エラーを検出したモジュールを示します。このモジュールは、IMS または外部サブシステムの出口モジュールとすることができます。機能コード値、およびエラーを検出したモジュール名については、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。検出したモジュールによって設定される戻りコード yy は、検出したモジュール内で失敗した機能を示します。

他の領域から 1 つの領域を識別するために、

JOBNAME = zzzzzzzz も提供されています。すべてのサポートされる領域が初期設定処理を行う必要があるので、この情報は必要です。

IMS DSECT DFSESFIC で定義されている機能コード値については、IMS 戻りコードおよび機能コードに関する情報を参照してください。

システムの処置: IMS の初期設定が継続されます。サブシステム接続は、確立されません。IMS 制御領域では、初期設定出口の処理がこの方法で失敗すると、外部サブシステム接続を表す TCB は、異常終了することなく終了します。

従属領域の場合、次の戻りコード・リストは、IMS の処置を示します。

yy = 08

Initialization unsuccessful 初期設定が成功しませんでした。IMS は、この IMS 従属領域の実行中は、サブシステムへの接続を開始しません。

yy = 20

要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効の条件が検出されました。これに参与しているアプリケーションは、異常終了 3044 で終了されます。

yy = ??

サポートされていない戻りコードを初期設定出口から受信しました。これに参与しているアプリケーションは、異常終了 3049 で終了されません。

オペレーターの応答: 適切なインストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、インストールの処置に従ってください。

プログラマーの応答: 示された問題を訂正し、IMS /START SUBSYS コマンドを使用して障害を起こした外部サブシステム接続を再始動します。または、アプリケーション・プログラムが関与している場合には、/START TRAN、UPDATE TRAN START(Q,SCHD)、および /START PROGRAM コマンドを使用して、そのアプリケーションを再始動します。

yy = 08

外部サブシステム初期設定出口がエラーを検出しました。実行する必要がある処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

yy = 20

外部サブシステム初期設定出口がエラーを検出しました。実行する必要がある処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

yy = ??

外部サブシステム初期設定出口がエラーを検出

しました。実行する必要がある処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。

問題判別: 35

関連資料:

➡ 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3607I *xxxx* SUBSYSTEM *yyyy* EXIT
 FAILURE, FC = *ww*, RC = *zz*,
 JOBNAME = *nnnnnnnn*

説明: IMS は、外部サブシステム (*xxxx*) 出口 (*yyyy*) の処理を正常に完了できませんでした。外部サブシステム接続パッケージは、ゼロ以外の戻りコードを戻しました。機能コード *ww* は、検出したエラーを示すモジュールの ID です。機能コード値、およびエラーを検出したモジュール名については、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。戻りコード *zz* が、外部サブシステム出口によって戻されました。

他の領域から 1 つの領域を識別するために、JOBNAME = *nnnnnnnn* も提供されています。必要な接続管理ルーチンは制御領域と従属領域で実行されるので、この情報は必要です。JOBNAME が提供されない場合は、問題が発生している領域を判別することはできません。

システムの処置: 外部サブシステム接続を表す TCB は、失敗した外部サブシステムを表す TCB なしで実行を継続します。

戻りコード値に対して、次のアクションが発生します。

戻りコード

説明

- X'08'** TERMINATE IDENTIFY が失敗しました。IMS は、機能が正常に完了したかのように終了処理を続行します。
- X'08'** SUBSYSTEM TERMINATE が失敗しました。IMS は、終了処理を続行します。今後の接続要求は受け入れられます。
- X'0C'** IDENTIFY が失敗しました。外部サブシステム内の障害のために、IMS はアプリケーション・プログラムを異常終了 3044 で終了します (関与するアプリケーション・プログラムがある場合)。
- X'20'** IMS は、アプリケーション・プログラムが関与していた場合、そのプログラムを 3044 異常終了で終了します。
- X'??'** サポートされていない戻りコード。IMS は、ア

プリケーション・プログラムが関与していた場合、そのプログラムを 3049 異常終了で終了します。

オペレーターの応答: 適切なインストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、インストールの処置に従ってください。

プログラマーの応答: 示された問題を訂正し、IMS /START SUBSYS コマンドを使用して、失敗した外部サブシステムを再始動します。または、アプリケーション・プログラムが関与していた場合は、/START TRAN、UPDATE TRAN START(Q,SCHD)、および /START PROGRAM コマンドでそのアプリケーション・プログラムを再始動します。

戻りコード

説明

- X'08'** TERMINATE IDENTIFY が失敗しました。処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。
- X'08'** SUBSYSTEM TERMINATE が失敗しました。処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。
- X'0C'** IDENTIFY が失敗しました。処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。
- X'20'** 処置については、外部サブシステムの資料を参照してください。
- X'??'** サポートされていない戻りコード。すべての資料 (つまり、コンソール・ログ、ログ・データ・セット、メモリー・ダンプ) を保管します。

問題判別: 35

関連資料:

➡ 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3608I *xxxx* SUBSYSTEM REQUIRED EXIT
 MISSING *yyyy*, JOBNAME = *zzzzzzzz*.

説明: IMS は、外部サブシステム (*xxxx*) の処理を正常に終了できませんでした。必要な出口 (*yyyy*) が使用不可でした。*zzzzzzzz* は、問題を検出したジョブ名です。JOBNAME は、複数の領域が外部サブシステムに接続できるため、必要な情報です。*yyyy* は次のいずれかの値です。

ID ID IDENTIFY EXIT
RID RESOLVE-IN-DOUBT EXIT
SNON SIGNON EXIT
CRT CREATE THREAD EXIT

CMP COMMIT PREPARE EXIT
 CMC COMMIT CONTINUE EXIT
 ABC ABORT AND CONTINUE EXIT
 TRTD TERMINATE THREAD EXIT
 SNOF SIGNOFF EXIT
 TERM TERMINATE IDENTIFY EXIT
 SNO SUBSYSTEM NOT OPERATIONAL EXIT
 STE SUBSYSTEM TERMINATION EXIT
 NORC NORMAL CALL EXIT
 ECHO ECHO EXIT
 CMD COMMAND EXIT

システムの処置: サブシステム接続は、確立されません。接続が存在する場合は、その接続は通常の終了シーケンスで終了し、タスク構造 (TCB) は、制御領域用に縮小されます。アプリケーションが関係している場合は、異常終了 3049 で終了する。

オペレーターの応答: インストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、インストールの処置に従ってください。

プログラマーの応答: サブシステム・ロード・ライブラリーが、IMS からアクセス可能であることを確認します。IMS では、この問題を改善するために、DD ステートメント (DFSESL) が提供されています。外部サブシステム・モジュールは、IMS がアクセス可能な z/OS 許可ライブラリー (つまり、JOB LIB、STEPLIB、または DFSESL) に入っている必要があります。問題が解決したら、IMS /START SUBSYS コマンドを使用して、失敗した外部サブシステム接続を再始動します。この処置で問題が解決しない場合は、外部サブシステム資料を確認して、どの出口が提供されているかを判別します。説明の記述は、必要な出口を示します。

問題判別: 34

関連情報:



IMS 異常終了 3049

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3609 EXTERNAL SUBSYSTEM TASK
 ABENDING/ABENDED. COMMAND
 REJECTED.**

説明: IMS 外部サブシステム・タスクが異常終了したか、または / START SUBSYS コマンドが入力されたときに終了の処理中でした。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 異常終了が完了した

ら、即時に /START SUBSYS コマンドを入力し、接続を再開してください。

**DFS3610 SUBSYSTEM STOPPED, COMMAND
 REJECTED.**

説明: 外部サブシステムは、既に停止状態です。停止状態は、次のいずれかの直接的な結果として発生します。

- 直前の /STOP SUBSYS コマンド
- 外部サブシステムの終了
- 親または姉妹タスクいずれかの異常終了
- 直前の IMS の実行から未解決になっているリカバリ・エレメントの存在
- IMS の異常終了。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにこのメッセージを通知します。

システム・プログラマーの応答: 外部サブシステム接続を再始動するには、/START SUBSYS コマンドを入力します。外部サブシステム接続が既に停止状態の場合は、/STOP SUBSYS コマンドを再入しても、影響はありません。

**DFS3611I EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx
 CONNECTION TERMINATED RC=y**

説明: 説明については、メッセージ DFS3611W を参照してください。

関連情報:

DFS3611W

**DFS3611E EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx
 CONNECTION TERMINATED RC=y**

説明: 説明については、メッセージ DFS3611W を参照してください。

関連情報:

DFS3611W

**DFS3611W EXTERNAL SUBSYSTEM xxxx
 CONNECTION TERMINATED RC=y**

説明: サブシステム xxxx に接続されている姉妹タスク制御ブロック (サブタスク TCB) が終了しました。

理由コード y (単一文字値) は、終了の原因を示します。このコードは、次のコードのいずれか 1 つです。

理由コード

意味

B IMS 外部サブシステムの姉妹タスク (接続され

ているサブシステムごとに接続された TCB) が、異常終了しました。異常終了条件のいくつかは、出口の呼び出しを禁止することができます。

- C** 外部サブシステムは、静止した状態で終了中であることを IMS に通知しました。IMS は、新規接続が確立されないことを保証し、既存の接続が正常に終了することを許可します。
- D** 外部サブシステムが、は、異常終了 (突然のシャットダウン) 中であることを IMS に通知しました。IMS は、新規接続が試みられないことを保証し、既存の接続を終了します。
- E** サブシステム間の接続は、IMS によって静止させられようとしています。IMS はシャットダウンせず、使用可能な状態のままです。接続の終了は、IMS /STOP コマンド、出口からの不良戻りコード、または必要な出口の欠落の結果です。
- F** TIMS 終了サービス出口が外部サブシステム出口によって開始され、外部サブシステム・コードに接続の終了を要求することを許可したため、サブシステム間の接続が終了しました。

システムの処置: IMS は、正常終了処理を続行します。

オペレーターの応答: 外部サブシステムは、/START コマンドで再始動できます。

プログラマーの応答: 理由コードを基にして、次のいずれかの処置を取ってください。

理由コード

意味

- B** 外部サブシステム TCB が終了しました。スピンオフ・メモリー・ダンプ機能がアクティブになっている場合は、スピンオフ・メモリー・ダンプがデバッグ用に作成されます。異常終了の原因を判別し、訂正処置を取ってください。
- C** IMS によって静止させられた外部サブシステムが終了しました。処置は必要ありません。
- D** 外部サブシステムは異常終了しました。外部サブシステムのシャットダウン (つまり、強制シャットダウン・コマンド) の原因を判別します。外部サブシステムから、適切な問題判別資料が提供されています。
- E** 接続は停止しました。処置は必要ありません。
- F** 接続は内部的に終了しました。外部サブシステム出口は、接続の終了を要求し、外部出口による適切な問題判別情報を提供しました。

問題判別: 34

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3612I OPTIONAL xxxxxxxx SUBSYSTEM EXIT NOT PRESENT.

説明: IMS は、オプションの外部サブシステム出口を開始しようとしたが、外部サブシステムは、その出口を提供しませんでした。このメッセージは、次の出口が不在の場合に送信されます。

xxxxxxx = command

システムの処置: オプションの出口のいずれかが存在しない場合、IMS は、このコマンドを実行します。

xxxxxxx = command

IMS は、端末、または簡易操作インターフェース (AOI) アプリケーションから有効な /SSR コマンドが入力されると、コマンド出口を実行します。その出口が存在しない場合、IMS は、このメッセージによってこの問題を示します。/SSR コマンドおよび外部サブシステム・コマンドは無視されます。IMS は通常の操作を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: この問題は、IMS または外部サブシステムの論理エラーの外的な症状であることも考えられます。最初に、外部サブシステムの資料を検査して、外部サブシステムがコマンド出口を終了させていることを確認します。コマンド出口が終了していれば、静止状態のサブシステムが始動していることを確認します。問題がまだ存在する場合には、問題の判別を支援するメモリー・ダンプが必要です。OS MODIFY (F) コマンドを使用して、IMS 外部サブシステム・マザー・タスク (ESSM) を終了してください。

問題判別: 34

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3613I xxx TCB INITIALIZATION COMPLETE.

説明: xxx で識別されるコンポーネントが、その初期設定処理を完了しました。

メッセージ・テキストの xxx は以下のものを示します。

- ALC** LU 6.2 タスク制御ブロック (TCB): LUM TCB の割り振り
- ALM** LU 6.2 TCB: 非同期 LUM TCB
- CTL** 制御領域 TCB (主データ通信)
- CTX** 制御領域補助 TCB
- DC** データ通信 TCB
- DGS** 診断サービス TCB
- DLG** DASD ログ TCB (ログの書き込み/読み取り)

DLI	DLI シリアライゼーション TCB
DRC	データベース・リカバリー、DBRC、TCB
DYC	動的割り振り TCB
DYC RECALL	動的割り振り再呼び出しサブタスク
ESS	外部サブシステム TCB (SSM が EXEC ステートメントで指定されている場合のみ使用されます)
FP	高速機能 TCB (高速機能がインストールされている場合のみ使用されます)
FP2	高速機能 TCB 2 (高速機能がインストールされている場合のみ使用されます)
LSO	ローカル・ストレージ・オプション TCB
LUM	LU 6.2 TCB: 論議装置マネージャー・マスター TCB
MOD	IMS 制御、MODIFY TCB
RCF	RACF サインオンおよびサインオフ TCB
ODM	ODBA 同期点タスク・マネージャー TCB
ODS	ODBA 同期点要求処理 TCB
RDS	再始動データ・セット TCB (再始動データ・セットの書き込み/読み取り)
RLM	LU 6.2 TCB: 受信 LUM TCB
RRS	リソース・リカバリー・サービス TCB
RST	再始動 TCB、IMS 再始動およびチェックポイント処理
STC	ストレージ圧縮 TCB
STM	ストレージ管理 TCB (ジョブ・ステップ TCB)
SQ1	共用キュー TCB 1
SQ2	共用キュー TCB 2
TCO	時間制御操作 TCB
TMC	Transaction Manager TCB
TRA	外部トレース TCB
XCF	システム間カップリング・ファシリティー TCB

IMS セッションの存続期間中にワークロードの要求に応じて TCB の複数のインスタンス (例えば、RRS、DYx、および RCF) を作成できます。新しい TCB を初期設定するたびに、このメッセージが生成されます。

システムの処置: このメッセージの送信後に、示されたコンポーネントはすべてのキューに入れられた処理要求を処理します。

システム・プログラマーの応答: IMS が、初期設定処理中、または初期設定処理直後に失敗した場合は、このメッセージ・ヘルプが存在しないため、障害が発生したコンポーネントの識別を容易に行うことができます。

モジュール: DFSXDGS0

DFS3614I DFSTRA (TRACE CONTROL BLOCK) CANNOT BE INITIALIZED

説明: トレース機能の初期設定処理中に、DFSTRA のストレージを取得するには、共用可能な十分な CSA ストレージがありません。

システムの処置: IMS トレース機能は、IMS の今回の実行中には活動化されません。この障害ではこれ以上の処置は取られず、初期設定処理は継続します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: CSA のサイズを増やしてください。

DFS3615I UNABLE TO IMODULE LOAD DFSTRA10

説明: トレース機能の初期設定処理中に、IMODULE LOAD はモジュール DFSTRAxx で異常終了しました。ここで xx は、10、20、または 30 です。

システムの処置: このメッセージは、初期設定中に発行されます。IMS トレース機能は、IMS の今回の実行中に活動化されず、初期設定処理は継続します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: すべての IMS モジュールが、ジョブ・ストリーム内で連結された許可ライブラリーに含まれていることを確認します。

DFS3616I - THE cccc PARM IS INVALID - THE TRACE IS ON IN CORE

説明: IMS は、cccc トレース・テーブルの無効のトレース・テーブル・オプション・ステートメントを検出しました。有効なトレース・オプションは、IMS システム定義の説明にリストされています。

有効な DFSVSMxx トレース行の例は、OPTIONS DISP=OUT

です。

システムの処置: 無効なパラメーターは無視され、IMS は初期設定を続行します。

オペレーターの応答: OLDS をトレースするには、/TRACE SET ON TABLE cccc OPTION LOG コマンドを発行します。DFSVSMxx メンバーを調べて、誤ったトレース指定を訂正するか、IMS システム・プログラマーに通知してください。

**DFS3618 SPECIFIED COMMAND
RECOGNITION CHARACTER (CRC)
NOT FOUND**

説明: /SSR コマンドで指定されたコマンド認識文字 (CRC) が、IMS に対して定義されていないか、コマンド上で誤って指定されています。したがって、IMS は、それを外部サブシステムへ関連付けることができませんでした。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: インストール担当者にこのメッセージを受信したことを通知し、サブシステム用に正しい CRC を保持していることを確認してください。コマンドを再入します。

プログラマーの応答: 外部サブシステムに定義されている CRC が、外部サブシステム PROCLIB メンバー項目で有効なことを確認します。


**DFS3619I UNABLE TO LOAD MODULE
DFSESI70 DUE TO RC xx**

説明: /CHA SUBSYS コマンドの処理中に、IMODULE LOAD がモジュール DFSESI70 に対して発行されました。ロードは、戻りコード *xx* で失敗しました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: IMODULE LOAD 戻りコード *xx* についての説明は、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。この問題は、ジョブ・ストリームでのライブラリーの連結で発生する場合があります。このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

関連資料:

 IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

**DFS3620I REQUIRED RESOURCE
UNAVAILABLE - RC=*uu* - FC=*vv*
RESOURCE ID=*xxxxxxx* - SUBSYS
NAME = *yyyy* - JOBNAME = *zzzzzzzz*.**

説明: IMS システムは、外部サブシステムへの接続要求の処理中に、リソースの制約を検出しました。

戻りコード (RC=*uu*)、機能コード (FC=*vv*)、リソース ID *xxxxxxx*、サブシステム名 *yyyy*、およびジョブ名 *zzzzzzzz* には、次の値が定義されています。

uu 戻りコードは、呼び出し元に戻されます。戻り

コードおよび機能コードに関する情報は、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

vv 機能コードは、問題を検出したモジュール名を示します。戻りコードおよび機能コードに関する情報は、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。

xx..xx リソース ID は、リソースが必要とされていて、取得できなかったか、存在していなかったかを示します。表示される可能性のある値は、次のとおりです。

GESE IMS が接続を試行していた外部サブシステムが、制御領域 JCL、またはプロシージャー (SSM=) で指定されているサブシステム PROCLIB メンバーに定義された外部サブシステム項目を持っていないことを示します。IMS では、さまざまな SSM 値を指定でき、それぞれの値には、制御領域および従属領域 (MPP、BMP、IFP) についての異なるサブシステム定義が含まれています。ただし、IMS は制御領域の中で指定されている PROCLIB メンバーについてののみ、接続を試みます。その領域 (JOBNAME によって示されている) に SSM パラメーターで指定されている PROCLIB メンバーは、その制御領域に存在していなかったサブシステム定義を含んでいます。

AWE IMS モジュールが、処理の初期設定のために、非同期作業エレメント (AWE) を獲得できなかったことを示します。

yyyy 接続に失敗したサブシステムを示します。

zzzzzzzz

接続に失敗した領域を示します。この領域用に SSM パラメーターを使用して指定された PROCLIB メンバーには、制御領域メンバーに含まれていないサブシステム定義が入っています。

システムの処置: 外部サブシステムへの接続の試行が停止しました。このメッセージは、問題の判別を支援するために発行されます。


オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: インストールの処置は、リソース ID に依存します。リソース ID に応じて、次のいずれかの処置を行います。

GESE 外部サブシステムに接続する場合は、サブシステム定義を制御領域サブシステム PROCLIB メンバーに追加します。

AWE IMS が正常に実行されるまで、共用可能ストレージ (CSA) のサイズを 4K の増分を単位として増やしてください。

関連資料:

 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

DFS3621I RECOVERY OUTSTANDING FOR SUBSYSTEM xxxx

説明: 外部サブシステム xxxx に、未解決のリカバリー単位、ネットワーク ID (NID) があります。ただし SSM PROCLIB メンバーによって定義されていません。項目が定義されていないため、IMS および外部サブシステムは、直前のアクティブな処理要求の COMMIT または ABORT を解決できません。

システムの処置: IMS は、プログラマーが訂正処置を行うまで、未解決のリカバリー単位を保存します。

プログラマーの応答: 次のいずれかを実行してください。

- SSM PROCLIB メンバーを使用して、外部サブシステムを IMS に対して定義し、/START コマンドまたは IMS 再始動コマンドを使用して始動する。
- /CHANGE コマンドを使用して、未解決のリカバリー単位を削除する。
- コールド・スタートを実行する。

DFS3622I STORAGE COMPRESSION DISABLED - STIMER FAILED, RC=y

説明: オンライン・ストレージ圧縮機能が STIMER マクロを発行しました。戻りコード y は、クロックの損傷が発生したことを示します。

システムの処置: IMS 処理は続行されます。ストレージ圧縮機能は、現在作動不能です。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにこのメッセージを受信したことを通知して、問題をハードウェア担当者にお問い合わせください。

問題判別: 35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3623E STRG-COMP IMODULE ERR=a BLK=b, ADDR=c, RTN=d, SP=e

説明: オンライン・ストレージ圧縮機能が、異常終了する前にこのメッセージを発行しました。ストレージ圧縮は、FREEMAIN ストレージに使用できませんでした。a、b、c、d、および e の値は、次のとおりです。

値	意味
a	16 進数の IMODULE 削除戻りコード
b	ストレージを所有するストレージ・プールの 4 文字の名前
c	IMS が FREEMAIN を試みたストレージのアドレス。
d	どの IMODULE 削除 DFSBCB60 が、X'00' (ラベル FREE におけるルーチン) を発行したかどうかを示す標識
e	IMODULE で 10 進数で指定されたサブプール番号


システムの処置: IMS は異常終了し、モジュール DFSBCB60 は、IMS 異常終了 3058、サブコード 12 を発行します。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 問題分析のために、異常終了 3058 のサブコード 12 の解説を参照してください。

問題判別: 35

関連情報:

 IMS 異常終了 3058

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3624I jobname- psbname- pstid- code - bbcc

説明: この通知メッセージは、複数の IMS の疑似異常終了に伴って出されます。このメッセージは、疑似異常終了したアプリケーションに診断情報を提供します。このメッセージには、次の情報が含まれています。

値	説明
jobname	疑似異常終了を検出したジョブ名。
psbname	アプリケーション・プログラム名 (PSB)。
pstid	PST ID。
コード	疑似異常終了コード。
bbbb	16 進数の戻りコード bbbb。異常終了の原因、およびその条件を検出したモジュールを識別します。
cccc	16 進数の戻りコード cccc。その条件を検出したモジュールの機能を識別します。

以下に例を示します。

```
JOBNAME PSBNAME PSTID CODE RC FC
DFS3624I IMF4MPR1 RCDBS4 00006 3045 0004 0293
```


システムの処置: このメッセージが原因で IMS が対抗する処置をとることはありません。これは情報メッセージです。随伴する疑似異常終了が、IMS の行う処置を示します。

プログラマーの応答: このメッセージが戻す可能性がある戻りコードと機能コードの可能な組み合わせについては、IMS の戻りコードおよび機能コード情報を参照してください。戻りコード (RC) は、エラーが検出された地点のレジスター 15 に設定されている値です。このコードは、デバッグ用のエラー条件を示します。機能コード (FC) は、問題を検出したモジュールを示します。モジュール名および戻りコードは、メモリー・ダンプを確認することなく、アプリケーション・プログラムが疑似異常終了した理由を判別する場合に役立ちます。

問題判別: 35

モジュール: DFSESPRO

関連資料:

 外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3625E STRG-COMP PAGE FREE ERROR RC=z


説明: オンライン・ストレージ圧縮機能が、異常終了する前にこのエラー・メッセージを発行しました。ストレージ圧縮は、IMSAUTH FUNC=PGFREE を使用して 1 つ以上の IPAGE の unfix を試行して、ゼロ以外の戻りコードを受信しました。

システムの処置: IMS は異常終了し、モジュール DFSBCB60 は、異常終了 3058、サブコード 13 を発行します。

オペレーターの応答: このメッセージを受信したことについて、システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: 問題を分析するためのサブコード 13 の説明は、3058 情報を参照してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3058

DFS3626I RESTART HAS BEEN ABORTED

説明: IMS は再始動処理を終了しました。このメッセージの前に、エラー・メッセージが発行され、問題を示します。

システムの処置: 再始動は終了し、他のコマンドを待機します。

オペレーターの応答: 問題の訂正後、IMS システムを再始動してください。

問題判別: 35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3627I DYC|DYS TCB RETRY IN PROGRESS DUE TO SYS|IMS xxxx

説明: 動的制御サービス TCB ESTAE は、制御を受け取り、エラーを検出した処理を再試行しています。DYC は、IMS 制御領域内の動的割り振りサービスです。DYS は、DL/I 従属アドレス・スペースの動的割り振りサービスです。再試行する理由は、異常終了コード xxxx です。これは、システム (SYS) コードか IMS コードです。

システムの処置: 動的制御サービス TCB に発行された要求が再試行されました。また、システム診断作業域 (SDWA) のコピーを含むソフトウェア・ログ・レコードが、SYS1.LOGREC データ・セットに書き込まれます。ログ・レコードには、"IMS DYN ALLOCATE" として障害を識別する目印フィールドが含まれています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: ほとんどの場合、このメッセージを受信しても、アラームの原因にはなりません。ただし、データベース、またはデータ・セットが、割り振られていない、または割り振りが解除されている場合があります。外部ユーザー処置が、要求を処理するために必要な場合があります。ただし、問題が継続する場合には、SYS1.LOGREC データ・セットを調査して、障害の診断情報を取得する必要があります。

DFS3628E DOUBLE AWE RELEASE DETECTED IN MODULE DFSBCB30

説明: IMS 制御ブロック・ストレージ・マネージャー DFSBCB30 が、AWE と呼ばれる IMS 内部制御ブロックの二重開放を検出しました。IMS は、この問題の内部診断情報を収集し、この状態が発生したことを記録するためにこのメッセージを出します。

このメッセージは、AWE の二重解放が発生した回数に

DFS3628I • DFS3631E

関係なく、IMS チェックポイント間隔ごとに 1 回だけ発行されます。

システムの処置: IMS 処理は続行しますが、AWE の二重解放は、IMS 内での内部処理エラーの徴候であり、予測不能な結果になる可能性があります。

システム・プログラマーの応答: IMS 制御領域および DLI 領域のメモリー・ダンプを取り、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSBCB30

DFS3628I DB2 RRSF SETUP FAILED - xxxxxxxxxx

説明: xxxxxxxx で示された理由により、Java™ 従属領域内で DB2 Attach Facility を確立できませんでした。この障害の理由となる可能性があるのは、次のような場合です。


- GETMAIN FOR AFB FAILED
- ACCESS TO *db2id* STOPPED
- UNABLE TO OPEN DFSDB2AF

システムの処置: 従属領域は 3056 で異常終了します。ただし、理由が ACCESS TO *db2id* STOPPED の場合は除きます。ここで、*db2id* は、/STOP SUBSYS コマンド内で提供されたサブシステム名です。

システム・プログラマーの応答: 「UNABLE TO OPEN DFSDB2AF」の場合、定義済みデータ・セットへのアクセスが従属領域で使用可能であることを確認します。DB2 ライブラリーが APF 許可されていることも確認してください。「ACCESS TO *db2id* STOPPED」の場合、従属領域がアクセスを必要としている場合は、領域を停止し、/STA SUBSYS コマンドを発行して、領域を再始動します。アクセスが必要でない場合は、何も行う必要がありません。

モジュール: DFSD2AF0

関連情報:

 IMS 異常終了 3056

DFS3629I DB2 RRSF FUNC=xxxx FAILED - RC=yyyy, RS=zzzz

説明: DB2 Attach Facility 機能 xxxx が、戻りコード yyyy と理由コード zzzz で失敗しました。考えられる機能は次のものです。

IDENTIFY
SIGNON
CREATE THD
TERM THD

システムの処置: 従属領域が 3056 で異常終了します。


プログラマーの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

モジュール: DFSD2AF0

関連概念:

 DB2 コード

関連情報:

 IMS 異常終了 3056

DFS3630 GENERIC PARAMETER IS NOT ALLOWED

説明: 総称パラメーターが、総称パラメーターを許可していないコマンドまたはキーワードで入力されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: コマンドを、非総称パラメーターを使用して再入します。

モジュール: DFSICLN0

DFS3631E MSC=Y IS SPECIFIED BUT NO SYSID IS DEFINED.

説明: IMS 実行パラメーターに MSC=Y が指定されていますが、IMS システムに割り当てられている MSC システム ID (SYSID) がありません。IMS 実行パラメーターに MSC=Y が指定されている場合は、少なくとも 1 つの SYSID を IMS システムに割り当てる必要があります。

システムの処置: IMS の初期設定は、異常終了コード 565 で終了します。


ユーザーの処置: IMS システムに少なくとも 1 つの SYSID を割り当てるか、IMS 実行パラメーターに MSC=N を指定してください。変更が完了したら、IMS をコールド・スタートします。


DFSDFxxx PROCLIB メンバーの MSC セクションに SYSID パラメーターを指定して、IMS システムに SYSID を割り当てます。

あるいは、IMS ステージ 1 システム定義プロセス中に入力として MSNAME マクロをコーディングして、IMS システムに SYSID を割り当てることもできます。ステージ 1 の入力には、MSPLINK マクロおよび MSLINK マクロも含める必要があります。

モジュール: DFSRMC10

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの MSC セクション (システム定義)

 MSNAME マクロ (システム定義)

DFS3632 COMMAND ONLY VALID FOR ISC SESSIONS

説明: キーワードの組み合わせ NODE または NODE および USER を使用したコマンドが入力されました。この NODE パラメーターは ISC ではありません。NODE または NODE および USER のキーワードが組み込まれたこのコマンドは、ISC ノードのみで有効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: コマンドを、USER キーワードなしで、または ISC の NODE パラメーターを付けて再入します。

DFS3633 GENERIC PARAMETER RESOURCES NOT FOUND, NO ACTION TAKEN

説明: 総称パラメーターのみが付いたコマンドが入力されました。総称パラメーターで、既存のリソースに適用されるものではありません。例えば、コマンド /IDLE NODE ABC* CD%F が入力された場合は、このメッセージが発行されるのは、ABC で名前が始まるリソースが存在しない場合と、最初、2 番目、および 4 番目の文字が C、D、および F のリソースがない場合のみです。

オペレーターの応答: 総称パラメーターが、意図されたリソースに適用されたかどうかを検査します。

モジュール: DFSICLN0

DFS3634 LOGOND OR USERD NOT VALID WITH STATIC RESOURCE

説明: 静的端末やユーザー、または動的 ISC 端末やユーザーが、/OPNDST NODE コマンドの LOGOND または USERD キーワードに誤って組み込まれています。LOGOND キーワードは、動的非 ISC 端末にのみ適用し、USERD キーワードは、動的非 ISC ユーザーにのみ適用します。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 端末が、静的、または動的で ISC の場合には、LOGOND キーワードを省略してコマンドを再入してください。ユーザーが、静的、または動的で ISC の場合には、USERD キーワードを省略してコマンドを再入してください。

DFS3635 COMMAND NOT ALLOWED FOR STATIC USERS

説明: 動的ユーザーにのみ適用するキーワード USER が付いたコマンドが、静的ユーザーに対して発行されました。コマンドは、次のいずれかです。

```
/BRO USER
/END USER
/EXC USER
/EXIT CONV USER
/RSTART USER
/TEST USER
```

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 動的ユーザーに対してコマンドを再入します。

DFS3636 INVALID ASSIGNMENT BETWEEN STATIC AND DYNAMIC USERS

説明: 次の /ASSIGN コマンドの誤った形式のいずれかが、試行されました。

- /ASSIGN LTERM static {T0} USER dynamic
- /ASSIGN LTERM dynamic {T0} USER static
- /ASSIGN USER static {T0} USER dynamic
- /ASSIGN USER dynamic {T0} USER static

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: 次の正しい /ASSIGN コマンドの形式のいずれかを発行します。

- /ASSIGN LTERM dynamic {T0} USER dynamic
- /ASSIGN LTERM static {T0} USER static
- /ASSIGN USER dynamic {T0} USER dynamic
- /ASSIGN USER static {T0} USER static

DFS3637 USER IN USE, CANNOT PROCESS COMMAND

説明: /ASSIGN コマンドで参照されているユーザーは、再度割り当てることはできません。これは、そのユーザーが、サインオンしているか、会話モード、事前設定モード、または応答モードになっているためです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: そのユーザーが、サインオフするか、会話モード、事前設定モード、または応答モードを終了するのを待ち、/ASSIGN コマンドをもう一度試行します。

DFS3638 IMPROPER REASSIGNMENT FOR LUTYPE6 OR DYNAMIC TERMINALS

説明: LUTYPE6、または、動的端末、ユーザーや LTERM を不正に割り当てて試行が行われました。次のいずれかの理由で誤って割り当てられています。

- /ASSIGN コマンドの /ASSIGN INPUT LTERM および /ASSIGN OUTPUT LTERM 形式は、動的または LUTYPE6 論理端末には許可されていません。
- LUTYPE6 または動的 LTERM は、ノードに割り当てできません。これは、これら論理端末のタイプが、ユーザーに関連付けされているためです。
- LUTYPE6 LTERM またはユーザーは、非 LUTYPE6 ユーザーに割り当てできません。
- 非 LUTYPE6 LTERM またはユーザーは、LUTYPE6 ユーザーに割り当てできません。
- LTERM は、動的または LUTYPE6 端末に割り当てできません。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: LUTYPE6 または動的ノード (あるいは LTERM またはユーザー) について適切な再割り当てを行ってください。

DFS3639 USER KEYWORD INVALID IF NODE PARAMETER IS GENERIC

説明: NODE および USER キーワードを組み合わせたコマンドが、総称 NODE パラメーターと共に指定されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

ユーザーの処置: USER キーワードと共に非総称 NODE パラメーターを入力します。

モジュール: DFSICLN0

DFS3640W xxxxxxxx HAS AN INVALID DYNAMIC TERMINAL DESCRIPTOR TYPE OF y

説明: ETO 記述子の処理中に、IMS は、LOGON、MSC、USER、または DEVICE 記述子タイプとして識別できない記述子を検出しました。

システムの処置: 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: リソース名 xxxxxxxx の記述子を見つけます。y の記述子タイプを L、M、U、または D に訂正します。この記述子が存在する必要がある場合は、IMS を再始動してください。

問題判別: 1、6

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3641W xxxxxxxx HAS AN INVALID PARAMETER FOR KEYWORD yyyyyyyy. DEFAULTS FOR THIS KEYWORD WERE USED.

説明: ETO 記述子を処理中に、IMS は、キーワード yyyyyyyy に誤ったパラメーターを検出しました。

システムの処置: キーワードに指定されたパラメーターは無視され、デフォルト値が使用されます。

システム・プログラマーの応答: リソース名 xxxxxxxx の記述子を見つけます。エラーになったパラメーターを訂正します。キーワードに選択されたデフォルトが誤っている場合は、IMS を再始動します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3642E THE STAGING DATA SET IS FULL.


説明: IMS ディレクトリーのステー징・データ・セットが満杯です。ステー징・データ・セットは、オンライン IMS システムで活動化されるために IMS ディレクトリーに書き込まれるのを待っているリソース変更を保持するために使用されます。

システムの処置: IMPORT コマンドまたは DDL 定義の自動活動化は異常終了します。

ユーザーの処置: カタログ・ユーティリティーを実行してステー징・データ・セットを拡張する必要があります。IMPORT コマンドを再サブミットするか、DDL 定義を再活動化してください。

モジュール: DFSMOLSO

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

DFS3643I USER xxxxxxxx HAS EXCEEDED DLQT VALUE. LAST ACCESSED ON yyyyddd.

説明: ユーザー xxxxxxxx は、メッセージまたは未解決の状況のキューに入れられ、yyyyddd 以降アクセスされていません。DLQT JCL パラメーターで指定された期間を超過しています。ユーザー xxxxxxxx が最後にアクセスされたのは、作成時、サインオン時、またはサインオフ時です。これ以外では、メッセージがデキューされたとき、またはキューの割り当てが解除された時です。ユーザー xxxxxxxx は、DEADQ 状況としてマークされています。

システム・プログラマーの応答: DLQT JCL パラメーターで指定された期間が短すぎないかどうか検査してください。

ISC ユーザーの場合は、ISC ユーザーが DLQT 期間中にノードに割り振られなかった理由を判別します。

動的ユーザーの場合、そのユーザー名が RACF などの拡張セキュリティーに対して定義されているなら、ユーザー xxxxxxxx がサインオンでキューにアクセスできることを確認してください。動的ユーザー名が RACF などの拡張セキュリティーに対して定義されていないためにサインオンできない場合は、メッセージがキューに入れられた理由またはそのユーザーに適用された状況を判別してください。

メッセージがキューに入れられた原因の調査を支援して、DEADQ の状況を除去するには、/ASSIGN コマンドを使用してキューを再度割り当て、評価するためのデータを検索します。

データをパージして、DEADQ 状況を除去するには、/DEQUEUE コマンドを使用します。状況をこれ以上ユーザーに適用しない場合は、コマンドを使用して状況を除去するか、ユーザーがサインオンし、必要な処置を行って不必要な状況をリセットします。

知らないうちに作成された動的ユーザーを削除します。ユーザー構造を削除するには、すべてのメッセージがデキューされているか、キューの割り振りが解除され、状況が除去されている必要があります。そうすれば、ユーザー構造は、次の単純チェックポイントで削除されます。

問題判別: 1、6

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3644 NO RESOURCES FOR NODE nnnnnnnn

説明: このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

- IMS が、動的端末構造の作成に必要な制御ブロックを獲得できなかった。
- 作成された端末構造を、その端末構造用の IMS ハッシュ・テーブルに追加できなかった。

いずれの理由も、重大なシステム障害を示します。

システムの処置: コマンドまたはログオンの試行は無視され、処理は継続します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 問題の症状について詳

細に識別する場合は、DFS3672I メッセージの情報を使用してください。示されたコードおよび修飾子の意味については、IMS 診断情報を参照してください。以後の処置については、IMS サポート担当者に連絡してください。

ユーザーの処置: このメッセージを生成した動作を再試行します。

問題判別: 1、6、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3645I LOGON REJECTED - NODE nnnnnnnn

説明: 端末は、IMS とのセッションを確立しようとしたましたが、その試みは失敗しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。


システム・プログラマーの応答: このメッセージは、次の場合に発生します。

- 端末が、XRF 環境で、代替システム用に 1 次マスター端末または 2 次マスター端末として定義されている。
- ETO=NO が有効だったため、IMS に対して定義されていない端末からのセッション確立の試みが妨げられた。始動時に ETO=YES が指定されていた場合は、IMSCtrl マクロに ETOFEAT=YES が指定されていて、メッセージ DFS3648I がインストール時に発生していないことを検査します。このメッセージは、初期設定出口 DFSINTX0 で発生します。
- 必要なユーザー・データが、並列セッション ISC および ETO FIN/SLU P 端末用に提供されていないか、またはインストールで提供されるログオン出口 DFSLGNX0 がユーザー・データをクリアしていません。ユーザー・データが提供され、クリアされていないことを確認してください。CINIT ユーザー・データ・パラメーターについては、「IMS V15 システム・プログラミング API」の『CINIT ユーザー・データ・パラメーターのフォーマット』のトピックを参照してください。
- インストールで提供されるログオン出口 DFSLGNX0 が、セッションがリジェクトされた原因を示す固有のメッセージを発行せずに、ログオンの試行をリジェクトした。
- セッションの確立を試行する端末の特性を記述するログオン記述子が見つからなかった。

- 総称リソース名を使用して ISC セッションが開始されましたが、IMS 初期設定ユーザー出口が、ISC について VGR を使用不可にするオプションを指定しました。

問題判別: 1、6、10

関連資料:

 CINIT ユーザー・データ・パラメーターの形式 (システム・プログラミング API)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3646I UNRECOGNIZED OR INCONSISTENT DEVICE ATTRIBUTES. DESC = nnnnnnnn - NODE = xxxxxxxx

または

UNRECOGNIZED OR INCONSISTENT DEVICE ATTRIBUTES. DESC = LLLLLLLL, NODE = NNNNNNNN, SCR/USE = AABCCDDXXYY/Z1Z2

説明: 最初のメッセージ形式の場合、指定されたノードの IMS ログオン記述子名が、CINIT で指定されたそのノードの特性と互換性がなかったか、装置特性テーブル (Device Characteristics Table) が見つかりませんでした。

2 番目のメッセージ形式の場合は、SCR フィールドが、ログオンしようとする端末によって IMS に提示される画面サイズ情報を参照しています。

AABB デフォルト画面サイズ (AA = 行、BB = 列) (16 進数)。

CCDD 代替画面サイズ (CC = 行、DD = 列) (16 進数)。

XX 画面サイズ制御バイト (16 進数)。

YY ビデオ / プリンター ID (非 SNA 3270 装置のみに適用)。

USE フィールドは、装置特性テーブルから一致する項目を検索する際に IMS が使用する実際の画面サイズを示します。

Z1 画面サイズの行数 (16 進数)。

Z2 画面サイズの列数 (16 進数)。

IMS は、機能情報について一致するものがあるかどうか、DCT も検索します。ETO ログオン記述子からの機能情報は、DCT 項目の機能情報と比較されます。

システムの処置: 処理は続行されます。


オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。


システム・プログラマーの応答: 最初のメッセージ形式では、記述子 *nnnnnnnn* が、ノード *xxxxxxx* を正しく記述しているかどうかを判別します。名前付き記述子を訂正するか、または特に名前付きノード用に、新規記述子を作成します。装置特性テーブルが存在していることを検査します。

2 番目のメッセージ形式では、MFS サービス・ユーティリティを使用して、DCT 内の項目をリストし、現在定義されている項目を表示できます。ETO ログオン記述子内の機能情報 (記述子 *LLLLLLLL* は、メッセージに示されています) および「USE」画面サイズ値 (メッセージで示されています) は、共に DCT 内の単一項目と一致する必要があります。ほとんどの場合、MFS DCT ユーティリティを使用して、見つからなかった画面サイズと機能の組み合わせに対する項目を DCT に追加する必要があります。


問題判別: 1、6、10

関連概念:


 LU2 と非 SNA 3270 の画面サイズとモデル情報 (コミュニケーションおよびコネクション)

 MFS 装置記述子 (システム定義)

関連タスク:

 拡張端末オプションの管理 (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

 MFS 装置特性テーブル・ユーティリティ (DFSUTB00) (システム・ユーティリティ)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3647W MISPLACED OR DUPLICATE DESCRIPTOR xxxxxxxx. CONTENTS ARE IGNORED.

説明: IMS 初期設定は、記述子名 *xxxxxxx* の記述子レコードを既に処理済みです。ただし、同一のリソース名の記述子が検出され、無視されました。

システムの処置: エラーになった記述子レコードは無視され、処理は続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要に応じて、IMS.PROCLIB の記述子を廃棄、または位置変更してエラーを訂正します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3648 ETO SUPPORT NOT AVAILABLE -
DISABLED VIA DFSINTX0**

説明: 初期設定出口ルーチン DFSINTX0 が、戻りコード 4 を IMS に戻しました。戻りコード 4 は、たとえ JCL の ETO= パラメーターまたは DFSPByyy メンバーを使用して動的端末サポートが要求されている場合でも、動的端末サポートが望ましくないことを示します。出力セキュリティは、ETO 端末でのみ使用可能なため、システム内に、出力セキュリティを持つ端末はありません。

システムの処置: IMS は、次回の IMS の再始動まで、ETO 端末または ETO ユーザーの作成を許可しません。

オペレーターの応答:

- ETO 端末サポートは必要とされていない場合、処置は必要ありません。
- ETO 端末サポートが必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡して支援を受けてください。

DFS3649A /SIGN COMMAND REQUIRED.

(3270/SLU2 タイプの装置) IMS サインオン・パネル

または

(非 3270/SLU2 装置) /SIGN COMMAND
REQUIRED FOR IMS *insid. NODE node name. (NO)
OUTPUT SECURITY AVAILABLE (,REJECTED
reason.)*

説明: サインオンを必要とする端末 (これには、ISC、SLU P、および FINANCE 端末を除くすべての ETO 端末が含まれます) のユーザーは、最初に有効なサインオン・データを入力しないと、IMS は他の入力データ (トランザクション、コマンド、メッセージ通信など) を受け入れません。この時点で許可されるコマンドは、/SIGN および /RCLSDST のみです。

3270 端末の場合は、最初のメッセージの形式が表示され、サインオン・データは、表示されるパネルに入力することができます。非 3270 端末の場合は、2 番目のメッセージの形式が表示されます。許可された時に /SIGN コマンドを使用してください。

このメッセージが、サインオンの試行がリジェクトされたために再送される場合は、リジェクトの原因が、REJECTED という単語の後に表示されます。

このメッセージの最後の形式、キー・メッセージは、事前編集メッセージを作成できなかった場合に表示されます。DFS3649 が送信されるすべての条件については、906 ページの『DFS3649 のサインオンの条件』を参照してください。

理由コード *reason* とその意味については、次のリストを参照してください。

コード (10 進数)

	意味
04	ユーザー・プロファイルが RACF に対して定義されていない。
08	パスワードが許可されていない、または指定されていない。
12	パスワードの期限切れ。
16	新規パスワードが無効。
20	ユーザーがグループに定義されていない。
24	RACINIT がインストール・システム出口ルーチンによって失敗した。
28	ユーザー・アクセスが取り消された。
32	RACF がアクティブでない。
36	指定したグループへのユーザーのアクセスが取り消されている。
40	OIDCARD パラメーターが必要ですが、指定されていない。
44	OIDCARD パラメーターが、指定されたユーザーには無効。
48	ユーザーが、端末の使用を許可されていない。
52	ユーザーがアプリケーションの使用を許可されていない。
56	予約済み。
60	予約済み。
64	予約済み。
68	予約済み。
72	予約済み。
76	SIGNON 内部エラー
80	端末が会話中。
84	予約済み。
88	端末が事前設定モード (Preset Mode) になっている。
92	端末が応答モード (Response Mode) になっている。
96	端末がこの会話を許可されていない。
	静的端末、またはノード名と同じ SPQBname を持つ動的端末の場合、すべての会話が保留にされているか、アクティブな会話のトランザクションの使用をユーザーが許可されていない限り、ユーザーのサインオンは許可されません。
100	DFSCSGNO 出口ルーチンによってリジェクトされた。
104	要求を処理するためのストレージが使用できない。
108	予約済み。
112	DFSSGNX0 出口ルーチンによってリジェクトされた。
116	/SIGN コマンドの構造が誤っている。
120	コマンドでリソースが使用できない。

- 124 DFSSGNX0 出口から戻される LTERM 名が、LU 6.2 記述子名として存在している
- 128 IMS が構文エラーを検出した。
- 132 サインオンまたはサインオフのパラメーターの処理中に、IMS が使用できるストレージがないか、またはパラメーターの 1 つが無効である。
- 136 ARM 呼び出しからの戻りコード 104。この呼び出しを完了するためのストレージが使用できませんでした。
- 140 ARM 呼び出しからの戻りコード 108。システム・エラーによってこの呼び出しが失敗しました。
- 144 ユーザー ID が、8 文字を超えている。
- 148 USERD パラメーターによって指定された記述子が見つからなかったか、または記述子がなにも見つからなかった (DFSUSER が検出されなかった)。
- 152 指定されたユーザー記述子が、8 文字を超えている。
- 156 ユーザー構造が、既に端末構造に割り振られている。
- 160 関連プリンター・ユーザー構造が一時的に存在している。
- 164 関連プリンター出力バッファーに DFSSGNX0 が戻す記述子名が、システムに存在しない。
- 168 DFSUSER ユーザー記述子が、システムに存在せず、関連プリンター構造を作成するために指定された記述子が他に存在しない。
- 172 関連プリンター構造が、DFSBCB を使用して取得できなかった。
- 176 指定されたユーザー ID が、現在動的ユーザーとして使用されている。この時点では、静的ユーザー ID として使用できません。または、指定されたユーザー ID が、システム定義 SUBPOOL マクロで静的 ISC 並列セッション・ノードと共に使用するよう静的に定義されているため、この端末では有効ではありません。
- 180 USERD パラメーターが、静的端末で指定できない。
- 184 既存ユーザー構造を変更する、ユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューが、既存ユーザーに属していない。
- 188 既存ユーザー構造を変更する、ユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューが、システムに定義されていない。
- 192 DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたユーザー ID に、無効文字が含まれている。
- 196 DFSSGNX0 から関連プリント出力バッファーに戻された関連プリント・ユーザー名に、無効文字が含まれている。
- 200 DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューに、IMS で予約済みの特殊な接頭部が含まれているか、無効文字が含まれている。DFSSGNX0 がバッファー・データをなにも戻さない場合は、エラーのパラメーターが、サインオン・データとして入力された可能性があります。
- 204 DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューが、この IMS システム内で固有でない。DFSSGNX0 がバッファー・データを戻さない場合は、DFSUSER が記述子として使用されています。ただし、ユーザー ID と同じ名前の LTERM が存在します。
- 208 DFSSGNX0 からユーザー出力キュー・バッファーに戻されたキューに、現在この IMS システム内でトランザクション名として定義されている名前が含まれている。
- 212 ユーザー構造ブロックが、DFSBCB を使用して取得できなかった。
- 216 ユーザーが割り振られているが、それが ISC/SLU P/FINANCE ではない。
- 220 ユーザーが割り振られ、それが ISC/SLU P/FINANCE であるが、ユーザー・アドレスが新規ユーザー・アドレスと一致していない。
- 224 ユーザーが存在し、サインオンを試行している。ただし、サインオンは、/STOP USER コマンドによって、ストップ・ビットがオンの状況になっている。
- 228 サインオン出口ルーチン DFSSGNX0 が、1 から 4 の間ではない無効の ICOMPT 値を戻した。
- 232 サインオン出口ルーチン DFSSGNX0 が、1 から 4 の間ではない無効の COMPT 値を戻した。
- 236 ユーザーが一時的ではない実ユーザーとして存在している。ただし、そのユーザーはキューを持っていない。
- 240 このユーザー ID を持つ静的、または動的端末が、システムに存在する。
- 244 LU6、SLU P、または FINANCE ETO 端末が /SIGN コマンドを入力したが、この端末の下には使用可能なユーザー構造が存在しない。
- 248 DFSSGNX0 からの関連プリンター・バッファーに、正しい命名規則に従う LUNAME が無い。
- 252 DFSSGNX0 からの関連プリンター・バッファーに、正しい命名規則に従うログオン記述子が無い。

- 256 DFSSGNX0 からの関連プリンター・バッファ
ーに、正しい命名規則に従うモード・テーブル
名がない。
- 260 静的ユーザーが静的 ISC 並列セッションのユ
ーザー割り振りで検出できなかった。動的ユ
ーザーが静的 ISC 並列セッションのユーザー割
り振りで使用されたか、または静的ユーザーが
ETO 端末セッションへのサインオンで使用さ
れた。
- 264 セッションが、出力専用装置である ETO 端
末用に開始された。ただし、サインオン・デー
タ(ユーザー ID、およびオプションでユーザー
・パスワードおよびユーザー記述子)が含ま
れていなかった。セッションは終了します。
- 268 ユーザーの MSGDEL 指定と静的 ISC 並
列セッション端末が一致しなかった。これら
は同じになっている必要があります。
- 272 ユーザー構造名が、DFSSGNX0 出口によ
ってオーバーライドされた。これは、名前が
USEQUESTN で提供されたか、接尾部が付いた
結果です。この名前は、ユーザー記述子と
して存在します。したがって、ユーザー・
サインオンでユーザー構造名として使用でき
ません。
- 276 ユーザーが存在し、現在 /ASSIGN、/S
TOP、または /OPNDST コマンドの一部と
して使用されている。
- 280 追加された接尾部付きの LTERM 名が、
8 文字を超えている。
- 284 一時ユーザー構造が、現在他の ITASK
によって使用されている。しばらく待機し、
再試行します。
- 288 ユーザー・サインオン出口 DFSSGNX0
が、SGNOSRM1 フィールドまたは SGNOSRM
2 フィールドに無効値を返しました。
- 292 静的端末がサインオンを試み、ユーザー
ID を RM に登録しようとした。しかし、RM
登録にエラーがあるために、サインオンがリ
ジェクトされた。
- 296 そのユーザーが存在するが、そのユ
ーザーの高速機能入力が進行中で、そのユ
ーザーは高速機能リカバリーなし (RCVYFP
=NO) で定義された。高速機能プログラム
は、ユーザーがサインオンを許可される前
に完了している必要があります。
- 300 パスワード検査が必要である。
- 304 パスワードの検証が失敗した。
- 308 CTBWORK の取得で障害が発生した。
- 312 ユーザーはサインオンをしないようにさ
れている。
- 316 高速機能応答モードのユーザーが、高
速機能に対応していないか EMHQ 構造を
使用していない IMS システムにサイン
オンしようとした。
- 320 ローカル IMS と RM の間に不一致
(ユーザー・タイプ) が生じた。
- 324 ローカル IMS と RM の間に不一致
(割り当て済み CNT の数) が生じた。
- 328 RM のユーザー・リソースが固定セグ
メントを持っていない。
- 332 ユーザーは現在アクティブである。
- 336 ユーザー更新の試みが限界に達した。
- 340 ユーザーが別の IMS に所有されてい
る。
- 344 ユーザー更新が失敗した。
- 348 ユーザー ID がアクティブ IMS に所
有されている。
- 352 割り当てられた CNT が検出されな
かった。
- 356 ノード照会によって RM 出力がま
ったく作成されなかった。
- 360 ノード照会が失敗した。
- 364 ユーザー・サインオンが失敗した。ユ
ーザーが静的端末としてログオンを試みた
が、そのノードはすでに動的端末として
RM に定義されていた。あるいは、ユ
ーザーが動的端末としてログオンを試みた
が、そのノードはすでに静的端末として
定義されていた。
- 368 ローカル IMS と RM の間に不一致
(セッション・マネージャー・セッション)
が生じた。
- 372 ローカル IMS と RM の間に不一致
(ユーザーまたはサブプール・サポート)
が生じた。
- 376 ローカル IMS と RM の間に不一致
(装置タイプ) が生じた。
- 380 ローカル IMS と RM の間に不一致
(出力専用) が生じた。
- 384 ローカル IMS と RM の間に不一致
(出力専用) が生じた。
- 388 ローカル IMS と RM の間に不一致
(出力編集) が生じた。
- 392 ノード更新によって RM 出力が作
成されなかった。
- 396 ノード更新が失敗した。
- 400 ストレージがない。
- 404 ノード・クリーンアップに RM 出力
がない。
- 408 ノード・クリーンアップが失敗した。
- 412 ノード削除に RM 出力がない。
- 416 ノード削除が失敗した。
- 420 このサインオンに関する LTERM
がない。
- 428 ユーザーは現在異なるノードに割
り振られている。
- 432 RACF データベース内でエラーが
発生した。詳しくは、「z/OS MVS シ
ステム・コード」(SA88-8592) 内の
システム異常終了 483-4C を参照して
ください。
- 436 CQS が使用不可であるために、
求める登録処理が失敗した。

DFS3649A

- ETO 端末の場合、ユーザーはサインオフされます。
- サインオンを必要とする静的非 stsn 端末の場合、セッションは存続します。すでにサインオンされているユーザーはサインオフされません。

- 440 ユーザーは現在、ローカル IMS システム上の異なるノードに割り振られている。
- 444 サインオン時に RM 内のノード・リソースを更新できなかった。この条件は一時的なものです。サインオンを再試行してください。
- 448 アプリケーションが、現在、このユーザーに関連した LTERM を使用している。この条件は一時的なものです。サインオンを再試行してください。

重要: 理由コード 4 から 52 についての詳細は、「z/OS Security Server RACF システム・プログラマーのガイド」(SA88-8611) を参照してください。

DFS3649 のサインオンの条件:

メッセージ DFS3649 は、いろいろな理由で送信されま

表 22. メッセージ DFS3649 を各種装置に送信する条件

条件	3270	3270P	FIN	SLU1	SLU2	SLU4	SLU P	LU6	NTO
セッション開始 (単純)	Y			Y	Y	Y			Y
セッション開始-NOTERM 指定、静的端末	N			N	N	N			N
セッション開始-NOTERM 指定、ETO 端末、ユーザー・データなし ¹	Y			Y	Y	Y			Y
セッション開始、サインオン・データあり	3650			3650	3650	3650			3650
セッション開始 (非接続モード)				N		N			
セッション開始 (自動ログオン)	N			N	N	N			N
セッション開始、正しくないサインオン・データあり	Y		Y	Y	Y	Y			Y
/SIGN ON の失敗、静的端末、サインオン不要	Y		2467	Y	Y	Y	2467	2467	Y
/SIGN ON の失敗、静的端末、サインオン必要	Y		Y	Y	Y	Y	Y		Y
/SIGN ON の失敗、動的端末	Y		2469	Y	Y	Y	2469	2469	Y
サインオン必要の静的端末のときに、サインオンの前にトランザクションまたはコマンドが入力された	Y		Y	Y	Y	Y	Y		Y
サインオン必要の動的端末のときに、サインオンの前にトランザクションまたはコマンドが入力された	Y		165 2469 064 3662	Y	Y	Y	165 2469 064 3662	165 2469 064 3662	Y

す。次の表には、これらのメッセージが各種の装置に送信される条件が示されています。

表の中に示されているセルの『Y』は、その条件が、その列のトップにリストされている装置に有効であることを示します。"N" は、その条件では、その列のトップにリストされている装置に対してメッセージ DFS3649 が送信されないことを示します。表のセルが空白の場合は、その条件が、その列のトップにリストされている装置に該当しないことを示します。

3270 プリンターは出力専用装置であるため、メッセージ DFS3649 を受信することはありません。

表の中の数字の

058、064、165、2467、2469、3650、3662、および 3664 は、メッセージ DFS3649 の代わりにメッセージ DFS058、DFS064、DFS165、DFS2467、DFS2469、DFS3650、DFS3662、および DFS3664 が受信されることを示しています。

出力専用装置に対するサインオンの失敗では、DFS3649 メッセージからの理由コードと一緒に、メッセージ DFS2085 が MTO に送信されます。

表 22. メッセージ DFS3649 を各種装置に送信する条件 (続き)

条件	3270	3270P	FIN	SLU1	SLU2	SLU4	SLU P	LU6	NTO
/SIGN OFF、静的端末、サインオン不要	058		058	058	058	058	058	058	058
/SIGN OFF、静的端末、サインオン必要	Y		Y	Y	Y	Y	Y		Y
/SIGN OFF、動的端末	Y		058	Y	Y	Y	058	058	Y

要確認:

¹ OPTION=NOTERM は、動的端末に対する DFS3649 メッセージの発行に影響を与えません。NOTERM は USER 記述子に指定されるからです。NOTERM が USER 記述子に指定されているときは、DFS3649 が抑止されません。NOTERM は、サインオンの後までノードのブロックに反映されないからです。

システムの処置: IMS は、サインオン入力データを、入力されたときに処理します。サインオンが成功すると、メッセージ DFS3650I が端末に送信されます。メッセージ DFS3650I は、端末セッションおよびユーザーの状況を提供します。

オペレーターの応答: 要求にしたがって、有効なサインオン・データを入力します。RACF の場合、サインオン・データは次のストリングからなっています。

ユーザー ID

8 文字またはそれ以下のユーザー識別。

ユーザー記述子

IMS がユーザー制御ブロック構造の作成に使用する 8 文字以下のユーザー記述子名を示すオプションのキーワードです。

パスワード

ユーザー識別に関連付けられている 8 文字以下のパスワードを示すオプションのキーワードです。このフィールドは、非表示属性です。パスワードは、RACF を使用してサインオンを検証するときに必要です。

グループ

ユーザー ID に関連付けられている 8 文字以下のグループ名を示すオプションのキーワードです。

新規パスワード

パスワード・フィールドで指定された現行ユーザー・パスワードを置換する 8 文字以下の新規ユーザー・パスワードを示すオプションのキーワードです。このフィールドは、非表示属性です。

関連資料:



z/OS: システム・コード 483

関連情報:

『DFS3650I』

DFS3650I SESSION STATUS. IMS Session Status Summary for 3270/SLU2 Devices

説明: セッション開始が IMS 端末について正常に完了しました。動的に定義された端末を含む、サインオン・セキュリティが必要な端末の場合、ユーザーは正常に IMS にサインオンしました。このメッセージは、セッションおよびユーザーの詳細な状況です。現行セッション状況に示される状況条件は、次のとおりです。

ASR	RESP	RESP-INP	LOCK
MFST	TEST	RESP-INP-FP	TRA
C1/C2/C3/C4/INOP	CONV-HLD	EXCL	ACTIV
INC-LTRM	*PWD-CHG*	CONV-ACT	

これら端末状態表示の定義は、「/DISPLAY コマンドの状況および属性 (コマンド)」にあります。

状況条件 *PWD-CHG* は、現行ユーザーのパスワードが、サインオン処理中に変更されたことを示します。

状況条件 INC-LTRM は、ユーザー・サインオン出口 (DFSSGNX0) によって要求された LTERM、またはユーザー構造の作成で使用するユーザー記述子の一部として定義された LTERM のすべてが、正常にユーザーに割り振られなかったことを示します。通常要求された LTERM は、CNT がその名前が存在し、現在別のユーザーに割り振られているために取得できません。/DIS ASMT USER コマンドを発行して、ユーザーに正常に割り振られた LTERM を判別することができます。

6 行から 11 行の ACF/VTAM 端末の場合は、PRESET DESTINATION および CURRENT SESSION STATUS 行は省略されます。ACF/VTAM 端末 6 行未満、MFS フォーマット設定されたマスター端末の場合は最初の行のみ、表示されます。

メッセージの 3 番目の形式、キー・メッセージは、事前編集メッセージを作成できなかった場合に表示されず、DFS3650I が送信されるすべての条件については、DFS3650 のセッション状況を参照してください。

DFS3650I のセッション状況

このメッセージは、いろいろな理由で送信されます。次の表には、これらのメッセージが各種の装置に送信される条件が示されています。

次の表の中に示されているセルの Y は、その条件が、その列のトップにリストされている装置に有効であるこ

とを示します。N は、その条件では、その列のトップにリストされている装置に対してメッセージ DFS3649A が送信されないことを示します。表のセルがブランクの場合は、その条件が、その列のトップにリストされている装置に該当しないことを示します。

表 23. DFS3650 メッセージの条件

条件	3270	3270P	FIN	SLU1	SLU2	SLU4	SLU P	LU6	NTO
セッション開始、静的端末、サインオン不要	Y	Y		Y	Y	Y			Y
サインオン完了- NOTERM 指定	N	N		N	N	N			N
セッション開始、正しいサインオン・データあり	Y	Y		Y	Y	Y			Y
セッション開始 (非接続モード)				N		N			
セッション開始 (自動ログオン)	N	N		N	N	N			N
/SIGN ON、静的端末	Y		Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y
/SIGN ON、動的端末	Y		Y	Y	Y	Y	Y	Y	Y

システムの処置: IMS システムは処理を継続します。

オペレーターの応答: セッションおよびユーザーの状況を検査します。トランザクション、コマンド、およびメッセージ通信などの入力データを入力することができます。

第 77 章 DFS メッセージ DFS3651I - DFS3700

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS3651I LOGON REJECTED - NODE
nnnnnnnn. DEFAULT LOGON
DESCRIPTOR xxxxxxxx REQUIRED
BUT NOT FOUND.**

説明: ノード *nnnnnnnn* 用の正しいセッション制御ブロックを作成中に、IMS は、デフォルト・ログオン記述子 *xxxxxxx* が必要であるのにそれを検出できないと判断しました。

システムの処置: ログオンの試行はリジェクトされません。

システム・プログラマーの応答: ノードが、インストールでサポートされていない LU タイプだったため、リジェクトされたのかどうかを判別します。ノードが有効なタイプの場合は、そのタイプのデフォルト・ログオン記述子が検出されなかったのかどうかを判別します。

ユーザーの処置: システム・プログラマーにお問い合わせください。

**DFS3652X DYNAMIC TERMINAL
DESCRIPTORS NOT AVAILABLE**

説明: IMS 初期設定、または MFS 装置特性テーブル・ユーティリティは、DD 名 PROCLIB のライブラリーから ETO 記述子を検出できませんでした。IMS 初期設定では、ETO=YES が要求された場合、少なくとも 1 つの有効なログオン記述子と、1 つの有効なユーザー記述子が必要です。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティでは、少なくとも 1 つの装置記述子が必要です。

システムの処置: IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0015 が示されます。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティは、戻りコード 12 で終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。


システム・プログラマーの応答: ETO 記述子を含む必要がある記述子のメンバーが、DD 名 PROCLIB のデータ・セットに存在しているかどうか判別してください。IMS 初期設定中のメンバー名は、DFSDSCMa および DFSDSCTb です。ここで、*a* は IMS の中核接尾部で、*b* は DSCT パラメーターからのものです。MFS 装置特性テーブル・ユーティリティを実行中の場合

は、*a* および *b* は DSCMSUF および DSCTSUF パラメーターからのものです。

これらのメンバーが存在していない場合は作成します。これらのメンバーが存在する場合は、IMS が DD 名 PROCLIB のデータ・セット内でメンバーを検出できなかった理由、または、それらのメンバー内に必要な記述子が存在しない理由を判別してください。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

 IMS 異常終了 0015

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3653 ATTRIBUTE MIXED WITH SPECIFIC
PARAMETER.**

説明: コマンドが、属性およびパラメーターを混在させて入力されました。属性が指定されている場合は、他のすべてのパラメーターがすべて属性になっている必要があります。非属性パラメーターが指定されている場合は、他のすべてのパラメーターが非属性パラメーターになっている必要があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: コマンドを、すべて属性パラメーターを付けて、またはすべて非属性パラメーターを付けて再入します。

**DFS3654 COMMAND NOT ALLOWED FOR
DYNAMIC TERMINALS.**

説明: /EXCLUSIVE NODE または /TEST NODE コマンドが、ETO 端末であるノードに対して入力されました。コマンド /EXCLUSIVE NODE および /TEST NODE は、ETO 端末では無効です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 静的なノード・パラメーターでコマンドを再入力するか、/EXCLUSIVE USER または /TEST USER を入力して、排他的状況またはテスト状況をユーザーに関連付けます。

モジュール: DFSICL50

DFS3655 USER SIGNED ON, /EXIT USER

COMMAND INVALID

説明: CONV および USER キーワードのみの /EXIT コマンド (NODE は指定されていない) では、指定されたユーザーがサインオンします。この形式の /EXIT コマンドは、ユーザーがサインオンしていない場合のみ有効です。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

オペレーターの応答: NODE キーワードで /EXIT コマンドを再入します。

DFS3656A IMS PASSWORD VERIFICATION

説明: 説明および処置については、DFS3656 を参照してください。

関連情報:

DFS3656

DFS3656 IMS PASSWORD VERIFICATION, PLEASE RE-ENTER NEW PASSWORD:

または

IMS PASSWORD VERIFICATION, SIGN ON WITH VERIFY KEYWORD

説明: VTAM 端末のユーザーが、サインオン中にパスワードを変更しようとしています。パスワードの検証が使用可能になっている場合、このメッセージは、ユーザーに新規パスワードを再入するよう要求するプロンプトを出します。

テキスト **PLEASE RE-ENTER NEW PASSWORD:** を含む最初の形式のメッセージが、ユーザーが通常受信するメッセージで、ユーザーに新規パスワードを再入するよう要求するプロンプトを出します。パスワードは端末に表示されません。

SIGN ON WITH VERIFY KEYWORD というテキストを含んでいる 2 番目の形式のメッセージは、リソースの制約がある場合に通常受信するメッセージで、IMS が最初の形式を発行する可能性はありません。この場合ユーザーは、/SIGN ON コマンドを使用してパスワードを再入するよう要求されます。

システムの処置: IMS は、このメッセージへの応答で入力された新規パスワードが、当初に入力されたパスワードと一致するかどうかを検証します。検証が成功すると、サインオンは正常終了し、状況 *PWD-CHG* が付いたメッセージ DFS3650I が表示され、パスワードが変更されたことを示します。検証が成功しなかった場合、サインオンは DFS3649A、戻りコード 304 で失敗します。

オペレーターの応答: 最初の形式のメッセージを受信したら、新規パスワードを再入してください。新規パスワードは端末に表示されません。

2 番目の形式のメッセージを受信したら、/SIGN ON VERIFY xxxxxxxx コマンドを入力します。ここで、xxxxxxx は新規パスワードです。

関連情報:

903 ページの『DFS3649A』

907 ページの『DFS3650I』

DFS3657 DESCRIPTOR yyyyyyyyyyyyyyyy IN MEMBER DFSYDTC EXCEEDS THE MAXIMUM OF 50 RECORDS. DESCRIPTOR IGNORED.

説明: IMS は、動的記述子を初期設定中に、最大値の 50 個を超えるレコードを持つ記述子を検出しました。

システムの処置: 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: 記述子が必要な場合は、50 レコード以下に短縮します。その後、IMS を再始動します。

問題判別: 1、6

モジュール: DFSYIDC0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3658X GET REQUEST FAILED FOR xxxxxxxx DESCRIPTOR BLOCK.

説明: IMS は、ETO 端末 LU 6.2 記述子の初期設定中に、記述子ブロック xxxxxxxx のストレージの獲得に失敗しました。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0095 が示されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: 動的リソースが必要な場合は、IMS 制御領域に使用可能なストレージを増加してください。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0095

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3659X SYN ERROR OCCURRED READING
DESCRIPTOR *yyyyyyyyyyyyyyyy* IN
MEMBER DFSYDTC**

または

**I/O ERROR OCCURRED READING DESCRIPTOR
yyyyyyyyyyyyyyyy IN MEMBER DFSYDTC**

説明: IMS 初期設定または MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーは、IMS.PROCLIB のメンバー *yyyyyyyy* から記述子名 *xxxxxxx* の記述子レコードを読み取り中に、入出力エラーを受信しました。このメッセージを MFS 装置特性テーブル・ユーティリティーから受信した場合は、*xxxxxxx* には DCTABLE が含まれます。

システムの処置: IMS 初期設定は異常終了し、異常終了コード 0015 が示されます。MFS DCT ユーティリティーは、戻りコード 12 で終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

システム・プログラマーの応答: I/O エラーが発生した IMS.PROCLIB のメンバー *yyyyyyyy* を再作成します。

問題判別: 1、6、10

モジュール: DFSYIDC0

関連情報:



IMS 異常終了 0015

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3660W EDIT ROUTINE *xxxxxxx* DEFINED
BY DESCRIPTOR *yyyyyyyy* CANNOT
BE FOUND. DESCRIPTOR IGNORED.**

説明: IMS は、物理編集ルーチン *xxxxxxx* の検索が失敗したときに、ログオン記述子 *yyyyyyyy* の EDIT=パラメーターを処理中でした。編集ルーチン *xxxxxxx* は、IMS システム定義内で定義されたどの静的端末からも使用されていない場合、IMS.SDFSRESL ヘバインドされている必要があります。

システムの処置: 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: 記述子 *yyyyyyyy* の物理編集ルーチン名が誤っている場合は、それを訂正します。物理編集ルーチン名 *xxxxxxx* が正しい場合は、そのモジュールを IMS.SDFSRESL にリンク・エディットします。問題が訂正されて IMS が再始動されるまで、記述子 *yyyyyyyy* は使用可能になりません。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3661W DESCRIPTOR *xxxxxxx* HAS AN
INVALID OR DUPLICATE
KEYWORD *yyyyyyyy*. THE KEYWORD
IS IGNORED.**

説明: IMS が ETO 記述子 *xxxxxxx* の処理中に、無効なキーワード (認識できないストリング、またはこの装置タイプでは無効)、または重複キーワード *yyyyyyyy* が検出されました。

システムの処置: 無効のキーワード、または重複キーワード・ストリングは無視されます。

システム・プログラマーの応答: *xxxxxxx* のリソース名を持つ記述子を見つけます。エラーになったキーワードを訂正します。エラーになったキーワード用に IMS が選択したデフォルトが正しくない場合は、正しい記述子を指定して IMS を再始動してください。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3662W COMMAND REJECTED BY *reason*

説明: このメッセージは、端末からのコマンドが、セキュリティ検査でリジェクトされた場合に発行されません。

拡張コマンド・セキュリティが IMS システムに組み込まれている場合、コマンドは、最初に RACF セキュリティ検査を受けます。

理由は、次のいずれかです。

RACF; *return code*

DFSCCMD0

DEFAULT COMMAND SECURITY

RACF がコマンドをリジェクトし、DFSCCMD0 ユーザー出口ルーチンが RACF のリジェクトをオーバーライドしなかった場合、IMS は COMMAND REJECTED BY RACF; *return code* のメッセージを表示します。

RACF からの可能な戻りコードは、次のとおりです。

USER NOT AUTH; RC=08

ユーザーは、コマンドを RACF から許可されていない。

SIGNON REQUIRED

コマンドは RACF 保護付きになっているが、ユーザーがサインオンしていない。

RACF NOT ACTIVE; RC=12

RACF はアクティブではなく、RACF トランザクション、またはコマンド・クラスがアクティブになっている。

INVALID EXIT RC; RC=16

RACF インストール・システム出口ルーチンが、無効な戻りコードを戻した。

INSTALL ERROR; RC=20

RACF がインストールされていないか、間違っ
たレベルの RACF がインストールされてい
る。

RACF POE ERROR; RC=24

RACF プロファイルに条件付きアクセス・リス
トがあり、セキュリティ・トークンの POE
(port-of-entry) フィールドはブランクで埋めら
れ、POE (port-of-entry) クラスはアクティブ
である。

NO PASSWORD; RC=36

RACF パスワード検証が必要とされているが、
パスワードが指定されなかった。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: ユーザーは、リジェクトされたコ
マンドの使用を許可されていません。リジェクトされた
コマンドの使用許可が必要な場合は、システム・プログ
ラマーに依頼してください。

モジュール: DFSCIOB0

**DFS3663I UNSUPPORTED DEVICE-TYPE
LOGON REJECTED- NODE xxxxxxxx**

説明: ログオンしようとしている端末の CINIT で指定
された LU タイプが、IMS によって許可されていな
い。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡し
てください。

システム・プログラマーの応答: 示されている LU の
モード・テーブル項目が、IMS の受け入れ可能な LU
タイプを指定していることを確認します。指定された
LU のモード・テーブル項目が、装置特性を正しく指定
していることを検証します。

**DFS3664I DFSDFxxx SYSID nnnn IS IGNORED
BECAUSE IT IS ALREADY DEFINED
AS A SYSID FOR A REMOTE
SYSTEM**

説明: DFSDFxxx PROCLIB メンバーの MSC セクシ
ョン内の SYSID= パラメーターに指定された nnnn 値
は、MSC ネットワーク内のリモート IMS システムで

既に SYSID として定義されています。この nnnn 値は
無効なローカル SYSID オーバーライド値であるため、
IMS はこの値をリジェクトします。

システムの処置: このメッセージは、IMS マスター端
末オペレーターにエラー状態を報告するために発行され
ます。

システム・プログラマーの応答: SYSID= 値を訂正し、
IMS を再始動してください。

モジュール: DFSRMC00

関連タスク:

➡ SYSID の定義 (コミュニケーションおよびコネク
ション)

関連資料:

➡ DFSDFxxx メンバーの MSC セクション (システ
ム定義)

**DFS3665W DESCRIPTOR MSNAME xxxxxxxx
CONTAINS DUPLICATE REMOTE
LTERM yyyyyyyyyy.**

説明: IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx に、システ
ム内の別のリモート LTERM と重複する yyyyyyyyyy の
リモート LTERM 名が含まれていることが検出されま
した。

システムの処置: リモート LTERM xxxxxxxx は無視さ
れ、処理は続行されます。

オペレーターの応答: MSNAME 記述子から、重複す
るリモート LTERM を除去します。

**DFS3666W DESCRIPTOR NAME xxxxxxxx
CONTAINS INVALID CHARACTERS.
DESCRIPTOR IS IGNORED.**

説明: IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx が無効文字
を含んでおり、有効なリソース名に関する IMS 規則に
準拠していないことが検出されました。すべての記述子
名は、1 文字から 8 文字までの英数字、つまり、文字
A から Z、数字 0 から 9、国別文字 #、\$、および @
である必要があります。ログオンおよびユーザー記述子
の場合、最初の文字は、英文字 (A から Z、#、\$、また
は @) である必要があります。

システムの処置: 記述子 xxxxxxxx は無視され、処理は
続行されます。

システム・プログラマーの応答: エラーになった名前を
訂正します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3667W DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS
AN INVALID NAME OF yyyyyyyyyy.
THIS REMOTE LTERM IS IGNORED.**

説明: IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx が、有効な LTERM 名に関する IMS 規則に準拠していないリモート LTERM 名 yyyyyyyyyy を含んでいることが検出されました。

LTERM 名の規則は、次のとおりです。

- トランザクション名、または MSNAME リンク名と一致させることはできない。
- INQU 文字で開始することはできない。
- WTOR または DFSMTCNT にすることはできない。
- すべてのリモート LTERM 名は、1 文字から 8 文字までの英数字、つまり、文字 A から Z、数字 0 から 9、国別文字 #、\$、および @ である必要がある。

キュー名が LTERM パラメーターで省略されている場合は、フィールド yyyyyyyyyy には N/A が含まれます。

システムの処置: リモート LTERM xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: エラーになった名前を変更します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3668W DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS
QUEUE yyyyyyyyyy WITH AN INVALID
NAME.**

説明: IMS 初期設定で、記述子 xxxxxxxx が、有効な LTERM 名に関する IMS 規則に準拠していないキュー名 yyyyyyyyyy を含んでいることが検出されました。

LTERM 名の規則は、次のとおりです。

- トランザクション名、または MSNAME リンク名と一致させることはできない。
- INQU 文字で開始することはできない。
- すべての LTERM 名は、1 文字から 8 文字までの英数字、つまり、文字 A から Z、数字 0 から 9、国別文字 #、\$、および @ である必要がある。

キュー名が LTERM パラメーターで省略されている場合は、フィールド yyyyyyyyyy には N/A が含まれます。

システムの処置: 記述子 xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: エラーになったキュー名を変更します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3669W DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS
QUEUE ALREADY DEFINED BY
DESCRIPTOR yyyyyyyyyy.**

説明: IMS 初期設定で、記述子名 yyyyyyyyyy の記述子レコードが処理されました。次に続く記述子 xxxxxxxx が、記述子 yyyyyyyyyy によって作成された制御ブロックと同じ名前で、制御ブロックの作成を試行しました。

システムの処置: 記述子 xxxxxxxx は無視され、処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 両方の記述子から重複キュー名を除去します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3670W DESCRIPTOR xxxxxxxx HAS
INVALID PARAMETER yyyyyyyyyy FOR
KEYWORD zzzzzzzzzz. THE DEFAULT
WAS USED.**

説明: IMS 初期設定で、キーワード zzzzzzzzzz のパラメーター yyyyyyyyyy について、記述子 xxxxxxxx 内のエラーが検出されました。

システムの処置: このパラメーターにはデフォルト値が使用されます。このキーワードの残りのパラメーターはスキップされ、代わりにデフォルトが使用されます。

システム・プログラマーの応答: 記述子 xxxxxxxx の無効なパラメーターを訂正してください。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3671I INVALID DESCRIPTOR SPECIFIED.
DESC = aaaaaaaaaa NODE = bbbbbbbb**

説明: IMS が、ログオン中のノードの CINIT のユーザー・データ・フィールドで指定されたログオン記述子名を認識しませんでした。このメッセージは、無効の記述子名にも発行され、ログオン出口 (DFSLGNX0) で提供されるメッセージをオーバーライドします。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ログオン要求の中で指定された記述子名が、IMS に対して定義されていることを確認してください。

**DFS3672I SESSION ERROR. TYPE=aaa CODE=bb
QUAL.=cc MSG=dddd
IPADDR..PORT=eee.eee.eee.eee..ffff**

説明: セッション確立エラーまたは切断エラーが発生しました。このメッセージは、メッセージ DFSdddd によって示される問題の診断を支援する情報を提供します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


aaa エラーが発生したときに駆動された VTAM 出口。
bb エラー位置のコード
cc エラー位置の修飾子
dddd DFS メッセージ番号
eee.eee.eee.eee TCP/IP アドレス
ffff TCP/IP ポート番号

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 問題の症状について詳細に識別する場合は、示された情報を使用してください。

関連資料:

 修飾子コード (診断)

**DFS3673W DESCRIPTOR xxxxxxxx CONTAINS
LTERM yyyyyyyy WHICH IS
STATICALLY DEFINED.**

説明: このメッセージは、リモート LTERM または記述子 xxxxxxxx のキューがシステムに定義済みの場合に出力されます。yyyyyyyy が定義済みの場合、システム定義を行うときにこれを定義する必要があります。

システムの処置: リモート LTERM の場合は、これは無視されます。記述子のキューの場合、ユーザー記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: システム定義の記述子または LTERM 定義を除去します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3674W MNPS SPECIFIED, USERVAR
IGNORED**

説明: 拡張リカバリー機能 (XRF) 環境において、IMS 初期設定中時に、IMS 実行パラメーターまたは DFSHSBxx PROCLIB メンバー内に MNPS および USERVAR キーワードの両方が指定されました。これらは相互に排他的なキーワードであり、MNPS キーワードは USERVAR キーワードに優先します。

システムの処置: IMS は、MNPS を使用して XRF を操作します。USERVAR は無視されます。

オペレーターの応答: MNPS が希望する環境であることを確認し、必要であれば、IMS を再初期設定してください。

システム・プログラマーの応答: MNPS と USERVAR が IMS 実行パラメーターか PROCLIB メンバー、またはその両方で正しく定義されていることを確認します。

モジュール: DFSAINB0

**DFS3675I INVALID LOGON TO THE APPLID
ACB - NODE nodename**

説明: 拡張リカバリー機能 (XRF) 環境では、IMS がセッション・パーシスタンスのために MNPS を使用していました。結果として、2 つの VTAM アプリケーション制御ブロック (ACB) (MNPS ACB および APPLID ACB) が使用されていました。APPLID ACB は、MTO および XRF 監視リンクでのみ使用できます。しかし、MTO でも監視リンクでもない VTAM 端末 nodename が、APPLID ACB にログオンしようとしていました。

システムの処置: IMS は、ログオンの試みをリジェクトします。

オペレーターの応答: その端末を MNPS ACB にログオンしてください。/OPNDST コマンドを使用して、この ACB を自動的に使用するか、/DISPLAY ACTIVE DC または /DISPLAY HSB を使用して MNPS ACB 名を判別してください。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSCNXA0

**DFS3676I ETO SUPPORT NOT AVAILABLE-
FEATURE NOT INSTALLED OR
LICENSED.**

説明: 拡張端末オプション (ETO) の初期設定が、実行パラメーター ETO=Y を使用して要求されていました。しかし、初期設定で、ETO 機能がインストールされて

いないかライセンスされていないことが検出されました。

システムの処置: IMS の初期設定は、異常終了コード 3476 で終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーの応答を参照してください。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、IMS 実行パラメーターを ETO=N に変更すれば発行を止められます。ETO が必要であれば、それがインストールされているかライセンスされている必要があります。

問題判別: 1、6、10、13

関連情報:



IMS 異常終了 3476

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3677W *aaaaaaaa* HAS AN INVALID
PARAMETER FOR KEYWORD
bbbbbbbb. KEYWORD IS IGNORED,
DEFAULT NOT USED.

説明: IMS は、動的端末記述子を処理していたときに、キーワード *bbbbbbbb* に無効なパラメーターを検出しました。

システムの処置: キーワードは無視されますが、デフォルトは使用されません。

システム・プログラマーの応答: リソース名 *aaaaaaaa* の記述子を見つけてください。無効なパラメーターを訂正します。このキーワードを使用せずに IMS を実行できない場合は、IMS を再始動する必要があります。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3678E TYPE *t* DESCRIPTOR *desc_id* IN
MEMBER *member* EXCEEDS THE
MAXIMUM OF *nnn*. IT WAS
IGNORED.

説明: DFSYDTx PROCLIB メンバー内のタイプ *t* 記述子の数が、その記述子タイプに定義できる最大数 *nnn* を超えています。メッセージで特定される記述子は無視されます。

OTMA では、記述子を、DFSYDTx PROCLIB メンバーにおいてコーディングされている順序で初期化します。メッセージ・テキストで *desc_id* により特定される記述子は、加えたことで最大数を超過することになった記述子ではない場合もあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

t 記述子タイプ (D または M)。

タイプ D 記述子は、OTMA 宛先記述子です。タイプ M 記述子は、OTMA クライアント記述子、および DFSOTMA 記述子 (定義されている場合) です。

desc_id 記述子の ID。タイプ D 記述子の場合、これは、宛先名です。タイプ M 記述子の場合、これは OTMA クライアント名です。

member その記述子が入っている、IMS.PROCLIB データ・セット内の OTMA DFSYDTx メンバーの名前。

nnn *t* で示される記述子タイプの記述子の最大許容数。

nnn *t* で示される記述子タイプの記述子の最大許容数。

システムの処置: このメッセージが発行され、OTMA では記述子が無視され、IMS 通常どおり実行を継続します。メッセージ・テキストで特定される記述子にあるクライアントまたは宛先の定義は使用不可です。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストに示された記述子タイプの記述子の最大許容数を調整するか、不要になった記述子を削除または再使用します。

クライアント (タイプ M) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の MDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、255 です。

宛先 (タイプ D) 記述子の最大数は、DFSOTMA 記述子の DDESCMAX パラメーターで定義されます。デフォルトは、510 です。

ALTPCB 宛先の宛先記述子の場合、新しい記述子を入れるために最大許容数を増やすことができず、かつ既存の宛先記述子の削除や変更もできない場合は、OTMA 宛先解決出口ルーチン (OTMAYPRX) および OTMA ユーザー・データ・フォーマット設定出口ルーチン (DFSYDRU0) で定義をコーディングすることができません。


クライアント記述子または DFSOTMA 記述子を変更した場合は、IMS を再始動して、変更内容をオンライン IMS システムに追加します。

DFSYDTx メンバー内の宛先記述子を変更した場合は、IMS をコールド・スタートして、変更内容をオンライン・システムに追加する必要があります。

UPDATE OTMADESC、DELETE OTMADESC、および CREATE OTMADESC の各コマンドを使用して宛先記述子を変更または置換した場合は、IMS を再始動する必要はありません。

モジュール: DFSYIDC0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSYDTx メンバー (システム定義)

DFS3679E THE DIRECTORY DATA SET IS FULL.


説明: IMS ディレクトリー・データ・セットが満杯です。

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドの処理または DDL 定義の自動活動化の処理は異常終了します。IMPORT コマンドまたは DDL ステートメントの再サブミット時に、IMS は自動的に、内部で IMS ディレクトリーに新規データ・セットを割り振ります。

ユーザーの処置: IMPORT コマンドまたは DDL ステートメントを再サブミットしてください。一部のリソース変更が既に処理されている可能性があるため、理由コード 121 (リソースに変更がない) またはメッセージ DFS4387I が表示されるのは正常な状態です。

モジュール: DFSMOLSO

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

**DFS3680W UNABLE TO ADD EDIT ROUTINE
xxxxxxx IN DESCRIPTOR yyyyyyyy
TO TABLE. DESCRIPTOR IGNORED.**

説明: IMS は、動的ユーザー編集ルーチン名およびアドレス・テーブルのサイズを拡張できない場合、初期設定中にこのメッセージを発行します。

システムの処置: 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: IMS で使用可能な仮想ストレージの量を増やしてください。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3681W DESCRIPTOR NAME XXXXXXXX
SAME AS TRANSACTION NAME.**

説明: このメッセージは、LU 6.2 記述子初期設定ルーチンが、ETO 初期設定ルーチンによって初期設定されたトランザクション名と同じ名前の記述子を作成しようとした場合に出力されます。

システムの処置: LU 6.2 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: 入力から記述子定義を除去します。

916 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3682W DESCRIPTOR NAME XXXXXXXX
SAME AS STATIC LTERM NAME.**

説明: このメッセージは、LU 6.2 記述子初期設定ルーチンが、ETO 初期設定ルーチンによって初期設定された静的 LTERM トランザクション名と同じ名前の記述子を作成しようとした場合に出力されます。

システムの処置: LU 6.2 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: 入力から記述子定義を除去します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3683W DESCRIPTOR NAME XXXXXXXX
SAME AS DESCRIPTOR LTERM
NAME.**

説明: このメッセージは、LU 6.2 記述子初期設定ルーチンが、ETO 初期設定ルーチンによって初期設定された記述子 LTERM トランザクション名と同じ名前の記述子を作成しようとした場合に出力されます。

システムの処置: LU 6.2 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: 入力から記述子定義を除去します。

問題判別: 1、6、10

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3684W DESCRIPTOR xxxxxxxx EXCEEDS THE
MAXIMUM OF 8 LTERMS.
DESCRIPTOR IGNORED.**

説明: IMS は、動的記述子の初期設定を実行していて、最大数の 8 を超える LTERM= キーワードを持つユーザー記述子を検出しました。

システムの処置: 記述子は無視されます。

システム・プログラマーの応答: ユーザー記述子上で指定されている LTERM キーワードの数を 8 個以下に減らして、IMS を再始動します。

問題判別: 1、6

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3685I *variable output headings*

説明: このメッセージは、ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) によって書き込まれた出力の可読性を向上させるために発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable output headings

このメッセージとともに表示される出力見出しには、次のものが含まれます。


- COMBINED ACB GEN & POPULATE UTILITY
- *** POPULATION INPUT PARMS ***
- *** END OF POPULATION PARMS ***

システムの処置: DFS3UACB ユーティリティは処理を継続し、コンソールへの出力の書き込みを継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3UACB

関連資料:

 ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) (システム・ユーティリティ)

DFS3686I *variable message text RC=rc*

説明: このメッセージは、ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) の処理状況を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc DFS3UACB ユーティリティによって発行された戻りコード (ある場合)。

variable message text

このメッセージとともに表示される出力見出しには、次のものが含まれます。

- DFS3UACB ACBGEN PROCESS COMPLETED SUCCESSFULLY, RC=00
- DFS3UACB ACBGEN PROCESS COMPLETE, RETURN CODE RC=xx
- DFS3PPRM DD CARD FOUND, DEFAULT PARMS BEING OVERRIDDEN
- DFS3UACB CATALOG POPULATE PROCESS COMPLETED SUCCESSFULLY, RC=00


- DFS3UACB CATALOG POPULATE PROCESS COMPLETE, RETURN CODE RC=xx

システムの処置: 処理は、最後の状況メッセージが出されるまで継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3UACB

関連資料:

 ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) (システム・ユーティリティ)

DFS3687E *variable message text*

説明: ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable message text

メッセージ番号に続くメッセージ・テキスト。メッセージ・テキストは、次のいずれかになります。

- DFS3PPRM DD DUMMY NOT ALLOWED
- AN ERROR OCCURRED OPENING THE DFS3PPRM DATASET
- NO DFS3PPRM STATEMENTS FOUND
- UNEXPECTED ERROR - UNABLE TO DETERMINE SOURCE


システムの処置: 処理は、最後の状況メッセージが出されるまで継続します。

プログラマーの応答: DFS3PPRM DD ステートメントを提供する意図があった場合は、エラーを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のデフォルト設定が受け入れ可能な場合は、何も処置を取る必要はありません。

モジュール: DFS3UACB

関連資料:

 ACB Generation and Catalog Populate ユーティリティ (DFS3UACB) (システム・ユーティリティ)

DFS3688I **Transaction** aaaaaaaa **expired:**
EXPRTIME=nnnnnn, ELAPSE=sssss

または

Transaction expired

または

Transaction aaaaaaaa expired: ELAPSE=ssssss
TPIPE=pp TMEMBER=mm

説明: トランザクションの有効期限が切れたため廃棄されました。このメッセージは、通知メッセージとして端末に送信されます。トランザクションが有効期限切れであるという判断は、トランザクションの到着時刻と GU 時刻でのストア・クロック (STCK) 値との差に基づいて行われました。差は、スケジューラー・メッセージ・ブロック (SMB) の EXPRTIME 値と比較されます。差が EXPRTIME 値と同じかそれ以上であれば、トランザクションは廃棄され、ログ・レコード X'67D0' が書き込まれます。メッセージで、TRAN は TRANSACT マクロの SMBNAME、EXPRTIME は EXPRTIME パラメーター、ELAPSE は GU 時刻の STCK 値とトランザクションの到着時刻との差です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaa

トランザクション・コード。

mm

OTMA 入力メッセージの tmember 名。

nnnnnn

SMB で指定されるタイム・スタンプ。

pp

OTMA 入力メッセージの T パイプ名。

ssssss

トランザクションの到着時刻と GU 時刻でのストア・クロック (STCK) 値との差。経過時間は 16 進数で表されます。

このメッセージは、DFSPOOL GET が失敗したときに限り、再度端末に送信されます。

システムの処置: トランザクションを廃棄した後、システムはメッセージ・キュー内の次のトランザクションを取り出して処理します。メッセージがない場合は、QC 状況コードがメッセージ処理プログラム (MPP) に返されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3689W USE OF {TRAN|LTERM|DB|PROG}
resourcenam **BY {LOCK|UNLOCK}**
REJECTED; reason

説明: /LOCK または /UNLOCK コマンドのパラメーターとして入力されたトランザクション、LTERM、データベース、またはプログラム・リソースは、コマンドを入力したユーザーによる使用が許可されていません。リジェクトの *reason* は、以下のとおりです。

RESOURCE NOT AUTH; RC=08

ユーザーは、その IMS リソースに対する許可を RACF から受けていない。

RACF NOT ACTIVE; RC=12

RACF がアクティブでない。

BY RACF EXIT; RC=16

RACF 出口が示した戻りコードが無効であった。

INSTALL ERROR; RC=20

RACF がインストールされていないか、間違ったレベルの RACF がインストールされている。

RACF POE ERROR; RC=24

RACF プロファイルに条件付きアクセス・リストがあり、セキュリティ・トークンの POE (port-of-entry) フィールドはブランクで埋められ、POE (port-of-entry) クラスはアクティブである。

RACF DS DELETED; RC=28

リソース・クラスが RACROUTE REQUEST=LIST GLOBAL=YES によって選択されたが、RACF データ・スペースは削除された。

NO PASSWORD; RC=36

ユーザー検査が必要だが、パスワードが提供されなかった。

WRONG PASSWORD; RC=40

ユーザー検査がパスワードで失敗した。

IMS EXIT CD; RC=xx

IMS リソースが許可されなかった。xx は戻りコードです。

注: RC= は 10 進値を表します。

ユーザー作成 IMS 出口ルーチンによって、追加のコードを提供できます。

システムの処置: 入力されたコマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 正しいパスワードを使用してコマンドを再入力するか、セキュリティに違反しない別の IMS リソースを入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: ありません。

モジュール: DFSICL90

DFS3690 XRF CLASS 1 RECOVERY CHANGED TO CLASS 2 NODE X (USER Y)

説明: ノード X が XRF クラス 1 サポート用に定義されましたが、代替 IMS システムによるテークオーバー・プロセス時にセッションを正しくリカバリーできませんでした。ノード X のテークオーバーは、クラス 2 サポートに変更されます。

システムの処置: ノード X を使用するセッションは終了され、その後、XRF クラス 2 サポートの定義に従って、IMS によって自動的に再始動されます。追加情報

は、IMS トレース・レコード (ID が「HCSW」、「CVCV」、および「CVCT」の X'6701') を使用して入手できます。サインオンが必要な場合は、DFS3649A /SIGN COMMAND REQUIRED メッセージが送信されます。

オペレーターの応答: (端末オペレーターの入力) 必要に応じて再度サインオンするには、端末オペレーターが必要です。最後の入力を再入力してください。そうすると、IMS によって最後の出力が再送信される場合があります。

プログラマーの応答: IMS は、ノード X を使用するセッションを自動的に終了し、その後、自動的に再度確立しようとしています。以降のセッションで障害が発生した場合、セッションもノード x または IMS /OPNDST コマンドによって再確立できます。

問題判別: 1、5、6、12、14、36

モジュール: DFSCMT50

関連情報:

DFS3649A

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』


DFS3691W GENERIC RESOURCES START/STOP FAILED, SETLOGON RC=xx,FDB2=yy

説明: IMS システムが総称リソース・グループを結合しようとしたが、失敗しました。

システム・プログラマーの応答: RC および FDB2 フィールドの説明については、「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」(SC31-8791) または「VTAM Messages and Codes」(SC31-6493) を参照してください。問題を訂正した後、再試行します。

RC=14x および FDB2=86x の場合、問題の原因は、IMS を使用する既存の VTAM セッションです。アクティブな VTAM 端末 (MTO を含む) について、VTAM 以外の端末 (システム・コンソールなど) から /CLSDST NODE コマンドを発行してください。

関連資料:

 z/OS: RPL RTNCD および FDB2 戻りコードの組み合わせ

DFS3692W GENERIC RESOURCES INVALID FOR XRF SYSTEMS, GRSNAME IGNORED.

説明: 総称リソース・コマンドが、拡張リカバリー機能 (XRF) 対応システムで試行されました。IMS XRF システムは、総称リソース・グループのメンバーとして加わることはできません。

DFS3693W SYSTEM NOT GENERIC RESOURCES CAPABLE - COMMAND REJECTED

説明: 総称リソース・コマンド (/DISPLAY AFFIN など) が、現在は総称リソースをサポートする構成ではない IMS システム上で発行されました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: TCP/IP 総称リソースまたは VTAM 総称リソースを使用可能にしてから、コマンドを再入力してください。

DFS3694W START GENERIC RESOURCES TERMINATED, VTAM FUNCTION NOT ENABLED

説明: IMS が総称リソース・グループを結合しようとしたが、VTAM が総称リソース機能用に使用可能になっていません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: VTAM がシスプレックスに対応しており、総称リソース CF 構造 ISTGENERIC に接続されていることを確認します。この訂正を行った後に、/START VGRS コマンドを使用して、IMS 総称リソースの開始を試みることができます。

プログラマーの応答: 総称リソースを使用可能にして、コマンドを再度入力します。


DFS3700 PARAMETER ALL NOT VALID WITH KEYWORD

説明: コマンドに指定されたキーワードに対して、パラメーター ALL を使用できません。IMS キーワード・テーブル (DFSCKWD0) が変更されたため、KEYWD マクロで ALL=NO を指定することによって IMS コマンド (ただし、AOI アプリケーションによって入力されるコマンドは除く) のこのキーワードに ALL パラメーターを使用することができなくなっています。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 可能な場合は、個別リソース名またはリソース名範囲を指定して、コマンドを再入力します。

関連資料:

 IMS コマンド言語変更機能 (DFSCKWD0) (出口ルーチン)

第 78 章 DFS メッセージ DFS3701I - DFS3750A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3701I INSUFFICIENT STORAGE TO RESTART AREA *areaname*-AREA STOPPED

説明: 緊急時再始動時に、緊急時再始動プロセッサ DBFERSTO が、指定された DEDB エリア・データ・セットのリカバリーに使用する内部制御ブロック ADSC のストレージを取得できませんでした。このため、DBFERSTO はエリアを再始動できませんでした。

システムの処置: 指示されたエリアは停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答: 仮想ストレージを増やして IMS を再始動するか、現行の再始動を続けて、指示されたエリアにデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を実行します。

DFS3702I AREA/ADS OPEN FAILED REASON CODE=*nn* *message* *subtext*

説明: IMS がシャットダウンされようとしているか、IRLM がこの IMS から切断されようとしています。

DEDB エリアまたは ADS のオープンに失敗しました。理由コードで障害の原因が示されます。2 番目のメッセージには、次のいずれかの理由コードが含まれ、*message subtext (nn)* には、エラーの理由が簡単に説明されています。

コード (10 進数)

- メッセージ・サブテキスト
- 01 AREA=*areaname* DD=*ddname* DEVICE TYPE NOT SUPPORTED
 - 02 AREA=*areaname* DD=*ddname* EQE EXISTS
 - 03 LOCK FOR UPDATE TO AREA=*areaname* FAILED
 - 04 AREA=*areaname* CI SIZE > USER DEFINED BUFFER SIZE
 - 05 AREA=*areaname* BUFFER PAGE-FIXING FAILED
 - 06 AREA=*areaname* AUTHORIZATION FAILED
 - 07 UNLOCK FOR UPDATE TO AREA=*areaname* FAILED
 - 08 LOCK FOR READ TO AREA=*areaname* FAILED
 - 09 AREA=*areaname* HAS NO AVAILABLE ADS

- 10 AREA=*areaname* DD=*ddname* DUPLICATE *ddname* FOUND
- 11 AREA=*areaname* SPACE FOR ADSC(S) UNAVAILABLE
- 12 AREA=*areaname* RECEIVED A BAD RETURN CODE FROM DBRC
- 13 AREA=*areaname* DD=*ddname* MEDIA MANAGER CONNECT FAILED
- 14 AREA=*areaname* DD=*ddname* INCONSISTENT DSN SPECIFIED BETWEEN IN RECON AND IN ALLOCATED DATA SET
- 16 AREA=*areaname* VSO I/O TOLERATED DATA LOST
- 17 AREA=*areaname* DD=*ddname* ALLOCATION FAILED
- 18 AREA=*areaname* UPDATE LEVEL INCONSISTENCY EXISTS
- 19 AREA=*areaname* DD=*ddname* 2ND CI I/O ERROR OCCURRED
- 20 AREA=*areaname* DD=*ddname* RDJFCB/MODCB ERROR
- 21 AREA=*areaname* ACCESS INTENT IS NOT UP/EX FOR REORGANIZATION RECOVERY
- 22 AREA=*areaname* REORGANIZATION IDENTIFICATION FAILED
- 23 AREA=*areaname* ALL THE ADS'S ENCOUNTERED 2ND CI ERROR
- 24 AREA=*areaname* NOTIFY TO OTHER SUBSYSTEM(S) FAILED
- 25 AREA=*areaname* SOME ADS ENCOUNTERED 2ND CI ERROR
- 26 AREA=*areaname* ACBLIB AREA NUMBER NOT EQUAL DMAC
- 27 AREA=*areaname* DD=*ddname* GETMAIN FOR MEDIA MANAGER CONTROL BLOCKS FAILED
- 28 AREA=*areaname* DBD AND DATA SET DEFINITIONS INCONSISTENT
- 29 AREA=*areaname* IMS LEVEL OF AREA NOT SUPPORTED
- 30 AREA=*areaname* CALC. NEXT SDEP NOT WITHIN SDEP RANGE.

- 31 AREA=areaname DD=ddname THE HIGH RBA IS LESS THAN THE END OF THE AREA
- 34 AREA=areaname 2ND CI EEQE OWNED BY SHARING SYSTEM
- 35 AREA=areaname UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
- 36 AREA=areaname UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
- 37 AREA=areaname REQUEST FOR DATA SPACE FAILED
- 38 AREA=areaname DATA SPACE AUTHORIZATION FAILED
- 39 AREA=areaname UNABLE TO OBTAIN VSO CONTROL BLOCK
- 40 AREA=areaname IMODULE GETMAIN FAILURE OCCURRED
- 41 AREA=areaname COUPLING FACILITY CONNECT FAILED
- 42 AREA=areaname VSO AREA HAS IOT EEQES
- 44 AREA=areaname DD=ddname MADS I/O timing is detected
- 45 AREA=areaname REQUEST FOR VLOCK FAILED.
- 46 AREA=areaname IS IN A QUIESCE STATE.

システムの処置: DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティーの処理中に ADS 障害が発生した場合は、指定エリアの処理が継続されます。無効の戻りコードがユーティリティーに戻されます。それ以外の場合、エリアは停止します。

プログラマーの応答:

コード (10 進数)

意味

- 01 指定 ADS にディスク装置が指定されている場合は、該当する VSAM カタログまたは JCL DD ステートメントをチェックします。動的割り振りが発生した場合は、動的割り振りパラメーター・リストをチェックして、指定の ADS に指定された装置タイプを見つけます。異なる装置タイプが指定されている場合は、装置タイプをディスク装置に訂正して、ジョブを再実行します。
- 02 この状態は発生してはなりません。指定された ADS が使用可能状況に変更された理由をチェックします。指定された ADS の状況を使用不能状況に変更した後、ジョブを再実行します。
- 03 アプリケーション・プログラムは、従属領域が異常終了すると終了します。ロックのトレース機能を準備した後、ジョブを再実行します。

この理由コードは、アクティブ待機者の PI 制限である 63 に達したため、高速機能エリアのオープンが失敗した場合に出力されます。

- 04 指定されたエリアのデータベース定義 (DBD) および VSAM 定義をチェックします。また、始動プロシージャの BSIZ もチェックします。制御インターバル (CI) サイズまたはバッファー・サイズ (BSIZ) を訂正して、ジョブを再実行します。
- 05 割り振りバッファーの数が、バッファー割り振り要求を満たすのに十分ではありません。割り振りバッファーの数は、IMS EXEC パラメーターの DBBF パラメーターによって定義されます。

dbbf 値の説明については、IMS システム定義の説明を参照してください。

- 06 メッセージ DFS3709A または DFS3711A のプログラマー応答に従ってください。このメッセージの前にどちらかのメッセージがあるはずです。
- 07 このメッセージの理由コード 03 についての説明を参照してください。
- 08 このメッセージの理由コード 03 についての説明を参照してください。
- 09 DBRC RECON データ・セットの ADS リストをチェックし、CHANGE.ADS コマンドを使用して、少なくとも 1 つの ADS を使用可能状態に変更します。
- 10 指定された DD 名は、IMS サブシステム内に存在し、これは、ADS のオープンが完了していることを意味します。ADS がすでに開いている場合は、指定された DD 名の DD ステートメントを削除します。指定された DD 名が誤っており、IMS サブシステム内の別の DD 名と一致している場合は、入力 DD 名を訂正してジョブを再実行します。
- 11 後で共通サービス域 (CSA) の使用率が低くなってからジョブを再実行します。
- 12 指定エリアの DBRC RECON データ・セットに対して指定された情報をチェックします。誤りがある場合は、エラーを訂正してジョブを再実行します。
- 13 このメッセージの前のメッセージ DFS2569I のプログラマー応答に従います。
- 14 DBRC RECON データ・セットの ADS リスト、JCL DD ステートメント、または動的割り振りパラメーター・リストに指定された DSNAM が誤って指定されています。指定された DSNAM を訂正して、ジョブを再実行します。
- 16

ケース 1

XRF テークオーバーが発生したときに、エリアの仮想記憶オプションがアクティブであり、EEQE が作成されて、エリアのデータ・スペースに I/O 許容データがあることが示されました。I/O 許容ページの前に、次のイベントのいずれかが発生しました。

- サーバー・エラーによりエリアが内部的にシャットダウンされ、リカバリーが行われていない。
- IMS に障害が起り、コールド・スタートで再始動されたが、まだリカバリーが行われていない。

ケース 2

VSO エリアがその構造への接続を失ったので、エリアには古い構造の I/O 許容データがあることを示すために、RBA 0 についての EEQE が作成されました。領域が古い構造に再接続することができる場合、IMS は I/O 許容データを解消し、EEQE を削除します。エリアが新しい構成に接続された場合、古い構造の I/O 許容データは失われます。

いずれの場合も、I/O 許容データが失われるため、エリアをリカバリーする必要があります。

ADS が使用不可とマーク付けされていることを確認してください。データベース・リカバリー・ユーティリティを実行して、失われたデータをリカバリーし、EEQE を削除します。

- 17 DD ステートメントが指定されている場合は、正しい DD 名を指定します。DD ステートメントが欠落している場合は、DD ステートメントを指定してください。(DD ステートメントは、制御領域 JCL 内にあります。)動的割り振りが失敗した場合は、DFS2502W または DFS2503W のプログラマーの応答に従います。それから、ジョブを再実行してください。
- 18 データベース印刷プログラムまたは VSAM アクセス方式サービス・プログラムを実行して、すべてのエリア・データ・セットを印刷します。少なくとも 1 つの正しい ADS を見つけて、正しくない ADS に対して

CHANGE.ADS コマンドを発行し、使用可能状況を使用不能状況に変更しジョブを再実行します。または、リカバリー手順に従います。

- 19、20 指定の ADS が使用不能状況に設定されている場合は、DBRC RECON データ・セットをチェックします。指定の ADS が使用可能状況に

- 21 設定されている場合は、CHANGE.ADS コマンドで状況を変更し、ジョブを再実行します。再編成リカバリーが要求されたが、ACCESS INTENT が UP または EX のいずれでもありません。/START DB ACCESS コマンドまたは UPDATE DB START(ACCESS) SET(ACCTYPE()) コマンドで ACCESS INTENT を UP または EX に設定し、ジョブを再実行します。

- 22 システムが、サブシステムで再編成ユーティリティが実行しているか、または実行されていたかを検出しようとしたが、失敗しました。IMS または IRLM が正しく機能していないために通知エラーが起きている可能性があります。ジョブを再実行し、同じエラーが続く場合は、IMS、IRLM、またはその両方を再始動してください。

- 23 ブロック・レベル共用環境で再編成リカバリーが正常に終了し、システムが 2 番目の CI またはエリアを更新しようとしたが、失敗しました。データベース・リカバリー・ユーティリティを実行してエリアをリカバリーし、ジョブを再実行します。

- 24 ブロック・レベル共用環境で再編成リカバリーが正常に終了し、システムが他のサブシステムのエリアの 2 番目の CI を更新しようとしたが、失敗しました。IMS または IRLM が正しく機能していないために通知エラーが起きている可能性があります。ジョブを再実行し、同じエラーが持続する場合は、IMS か IRLM、またはその両方を再始動し、その後、ジョブを再実行してください。

- 25 DBRC RECON データ・セットで使用不能なエリア・データ・セットをチェックします。エリア・データ・セットをリカバリーするには、DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティを実行するか、またはジョブを再実行します。

- 27 共通サービス域 (CSA) 使用率が低くなってからエリアを開始します。

- 28 DMAC の DBD 情報が、エリアまたはエリア・データ・セットの 2 番目の CI で検出されたエリア定義と矛盾しています。

注: このメッセージは、DEDB 変更ユーティリティが実行され、再始動前に PREOPEN によりエリアがオープンされるか、またはログ・レコード・ストリームに基づいて DEDB 変更を完了するために XRF トラッカーがログ・レコードを処理した場合に表示されます。DEDB エリアのリカバリーを試みる前に、IMS メモリーからの DMAC が、ADS 上の DMAC に一

致することを確認してください。この確認は、手動で DMAC を検査するか、または /STO AREA、/STA AREA を発行し、DEDB エリアにアクセスするためにジョブを実行することによってエリアを強制的にオープンすると実行できます。DMAC が一致するか、あるいはエリアにアクセスできる場合、それ以上の処置は必要ありません。

次のいずれかのイベントが発生しました。

1. エリア定義が DBDGEN によって変更された (CISIZE、UOW エレメントの数、RAPS の数など)。DBDGEN を変更するには、これを再定義してジョブを再実行します。
2. エリアが異なる特性 (CISIZE または CYLINDERS など) によって再定義された。エリア定義を変更するには、UNLOAD/LOAD 操作によってエリアを再編成する必要があります。最後の DBDGEN および VSAM DEFINE について、現行の特性またはエリア・データ・セットとの整合性を確認してください。

- 29 エリアのオープン中、エリアの 2 番目の CI に、バージョン 1 リリース 3 以前の IMS リリース・レベル用の構造が検出されました。ID の誤りの理由を判別してください。正しいデータ・セットを使用して、ジョブを再実行します。

エリアを再初期設定する必要があります。エリアをアンロードし、初期設定ユーティリティを実行してからエリアを再ロードします。

- 30 順次従属 (DMACNXTS) を挿入する次の位置として計算された RBA が、エリアの順次従属の有効な RBA の範囲内にありません。エリアの 2 番目の CI を印刷します。エラーが 2 番目の CI (DMAC) によるものでないことが明らかかな場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

- 31 AREA/ADS の高使用 RBA が、高割り振り RBA に等しくありません。VSAM に高速機能エリア (Fast Path AREA) が定義されていますが、高速機能フォーマット / 初期設定プログラムが実行されていないか、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティまたは DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティが正しく完了していません。

カタログのリスト (LISTCAT) コマンドを使用して、高使用および高割り振りの値を見つけます。AREA/ADS を削除して再定義します。DEDB 初期設定ユーティリティとデータ復元用のアプリケーション、またはデータベース・

イメージ・コピー・ユーティリティと順方向リカバリー方式を使用して、AREA/ADS をリカバリーします。

- 34 指定されたエリアをオープン処理している間、エリアの 2 番目の CI に対して EEQE が存在し、EEQE が共用 IMS サブシステムによって所有されていると判別されました。共用サブシステムで /UNLOCK SYSTEM コマンドを使用して、EEQE を除去してください。
- 35 エリアのオープン中に、VSO 制御ブロックへの要求に失敗しました。CSA 使用率が低くなってから、ジョブを再実行します。
- 36 エリアのオープン中に、新規 VSO 制御ブロックへの要求に失敗しました。CSA 使用率が低くなってから、ジョブを再実行します。
- 37 エリアのオープン処理中に新規データ・スペースが要求されましたが、要求に失敗しました。このメッセージの前の DFS2444I を参照してください。
- 38 エリアのオープン処理中に新規データ・スペースが取得されましたが、データ・スペースの許可要求に失敗しました。このメッセージの前の DFS2445I を参照してください。
- 39 エリアのオープン中に、新規 VSO 制御ブロックへの要求に失敗しました。CSA 使用率が低くなってから、ジョブを再実行します。
- 40 IMS に割り振られた CSA/ECSA ストレージが不十分でないかどうか、または過度のストレージが使用されていないかどうかを判別してください。
- 41 エリアがカップリング・ファシリティにロードされていません。前にメッセージ DFS2819A がなければ、この状態によりエリアへのアクセスは妨げられません。
- 42 /START AREA または UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドが発行されましたが、エリアは IOT EEQE があるために開始されませんでした。メッセージ DFS3702I RSN=42 より前に、メッセージ DFS2492I が生成されます。追加情報については、メッセージ DFS2492I を参照してください。
- 45 ADS は、オープン時に引き続き長時間使用中モードになっています。SVSO エリアのオープン処理中に、VLOCK を取得する要求が失敗しました。このロックは、データ共用環境全体で SVSO 処理をシリアルライズ化します。
- 46 UPDATE AREA STOP(QUIESCE) コマンドを発行して、静止を停止します。

関連情報:

611 ページの『DFS2492I』

926 ページの『DFS3709A』

930 ページの『DFS3711A』

**DFS3704E DFSFIDN0 VER/REL=vvvv/rrrr,
DFSRNID VER/REL=vvvv/rrrr**

説明: ESAF 未確定通知出口ルーチン・モジュール (DFSFIDN0) が、その出口ルーチンの入力パラメーター・リストである DFSRNID と互換性のあるリリースまたはバージョン・レベルではありません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

vvvv バージョン番号

rrrr リリース番号

DFSFIDN0 出口ルーチンのバージョン番号とリリース番号は、DFSRNID パラメーター・リストのものと同じでなければなりません。

システムの処置: この出口ルーチンは障害を報告し、制御を IMS に返します。

ユーザーの処置: IMS に対して正しい DFSFIDN0 出口ルーチン・モジュールが定義されていることを確認してください。

問題判別: このメッセージは、DFSRNID が入力データを出口ルーチン・モジュールに渡そうとしていること、およびその出口ルーチン・モジュールが同じレベルでないためにデータを解釈できないことを示します。

**DFS3703I SIZE OF INDEPENDENT OVERFLOW
HAS BEEN INCREASED FOR AREA
xxxxxxx AREA DATA SET DDN
adsname**

説明: DEDB エリア xxxxxxx のオープン処理中に、ACBLIB の DBD とエリア・データ・セットの間の違いが検出されました。これらの違いは、ユーザーが DBDGEN を使用して、エリアの独立オーバーフロー部分のサイズを増やしたことを示します。

システムの処置: ACBLIB の情報を含む制御ブロックが ADS の情報に基づいて更新され、通常のオープン処理が続行されます。

ユーザーの処置: エリアの IOVF のサイズが DBDGEN によって増加した場合、アクションは必要ありません。

DFS3705I AREA=areaname DD=ddname CLOSED

説明: エリアまたは ADS に対する /STOP ADS または /STOP AREA コマンドによる内部停止要求によって、データ・セットが正常にクローズされました。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: エラー条件または内部停止要求の発行によって ADS がクローズされ、このメッセージに続いてリカバリー必要状況を示すメッセージ DFS2574I がマスター端末オペレーターに出力された場合は、エリアまたは ADS のリカバリー・ユーティリティを実行依頼します。リカバリー必要状況と合わせてメッセージ DFS2574I が出ない場合、アクションは必要ありません。

関連情報:

630 ページの『DFS2574I』

**DFS3706I AUTOMATIC SDEP BUFFER
MANAGEMENT DID NOT RUN ON
AREA areaname OF DATABASE
database DUE TO UTILITY RUNNING
ims_id**

説明: 現在検討されている領域に対して、ユーティリティが実行されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

areaname

SDEP バッファ管理が処理されている領域の名前。

database

SDEP バッファ管理が処理されている領域のデータベース。

ims_id SDEP バッファ管理が処理されている領域を含む IMS の ID。

システムの処置: この領域に対する SDEP バッファ管理処理は、次の SDEP バッファ管理サイクルまで行われません。

システム・プログラマーの応答: ユーティリティが完了するのを待ちます。この領域は、次の SDEP バッファ管理サイクル時に処理されます。

モジュール: DBFAQC00

**DFS3707A PROCESSING INTENT VALIDATION
ERROR BECAUSE NO DMCB
FOUND. DBD=dbdname PSB=psbname**

説明: 従属領域スケジュール時の PSB PROCOPT 妥当性検査プロセスで、内部制御ブロック DMCB が、IMS オンライン・サブシステムを検出できませんでした。指定の DEDB の内部制御ブロック DMCB が、指定された PSB によって参照されています。


システムの処置: 指定された PSB が停止しています。MPP の場合、入力メッセージは処理されません。BMP

または IFP の場合、従属領域は、異常終了 0046 によって異常終了します。

プログラマーの応答: この問題は、IMS オンライン・サブシステムのデータベース・ステートメントに DEDB が定義されていない場合に発生することがあります。必要な場合は、IMSGEN リストをチェックして、IMS オンライン・サブシステムを再生成する必要があります。

問題判別: 6、8、9、10、18、19

関連情報:

 IMS 異常終了 0046

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3708W DATA BASE=*dbname* AREA=*areaname* IS NOT REGISTERED WITH DBRC

説明: 指定されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されていませんでした。IMS は、エリアを、サブシステム専用と指定したかのように扱います。

システムの処置: エリアの OPEN 処理が続行されません。

プログラマーの応答: データ共用環境でエリアの健全性を保護したい場合は、エリアを DBRC に登録してください。登録したくない場合は、複数の IMS サブシステムにわたってこのエリアを更新しているアプリケーション・プログラムが、現在は存在しないことを確認してください。

DFS3709A UNABLE TO OBTAIN AUTHORIZATION FOR DATA BASE *dbname* AREA *areaname*. REASON CODE=*nn*

説明: IMS オンライン・サブシステムが、DEDB エリアのオープン時に、DBRC によるデータベース使用許可を獲得できませんでした。以下のリストに、理由コード (*nn*) ごとの説明および処置を示します。

コード

説明

nn=01 の場合

要求された許可と現行の許可に互換性がありません。データ共用を使用する場合は、このエラーの原因として次のことが考えられます。

- DBRC データベース SHARELVL が無効である。
- サブシステム間でデータベースのアクセス意図が競合している。
- IRLM の相互接続および IMS への接続が正しくない。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次のいずれかの応答が必要です。

1. /STOP コマンドまたは /DBR コマンドを入力して、非互換のデータベース許可を保持している他のサブシステム内のエリアをクローズし、その後、このサブシステムで /START コマンドを入力してエリアを再始動する。
2. 他のサブシステムがエリアをクローズするまで待ち、このサブシステムで /START コマンドを入力して、エリアを再始動する。

nn=02 の場合

データベースが RECON データ・セットに登録されていません。

nn=03 の場合

DEDB またはエリアの状況が、DBRC RECON データ・セット内でこれ以上の許可を禁止しています。その理由は、グローバルな /DBR コマンドまたは /STOP コマンドにあるか、内部のデータベースまたはエリアの停止コマンドにあります。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次の応答が必要です。

1. 許可できない状況の理由を分析し、必要に応じてアクションを行う。
2. DBRC コマンド CHANGE.DB、または DBDS を使用して、データベースまたはエリアの許可状況をリセットし、このサブシステムで /START コマンドを使用してエリアを再始動する。

nn=05 の場合

DBRC RECON データ・セット内でエリアにイメージ・コピーを必要とするマークが付けられます。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 指定されたエリアに対してデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティ DFSUDMP0 を実行し、ユーティリティが正常に実行された後、/START コマンドを使用してエリアを再始動します。

nn=06 の場合

DBRC RECON データ・セット内に、そのエリアはリカバリーが必要としてマークが付けられている

か、またはそのエリアには AVAIL 状況のエリア・データ・セットがありません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 指定されたエリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 を実行し、ユーティリティーが正常に実行された後、/START コマンドを使用してエリアを再始動します。

nn=08 の場合

要求側のオンライン・サブシステムでは、他のサブシステムとの指定エリアの共用が許可されていません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次のいずれかの応答が必要です。

1. システム間でデータを共用し、2 つの IRLM を必要とする環境の場合は、DBRC CHANGE.DB コマンドを使用して、指定されたデータベースの SHARELVL を 2 から 3 に変更し、/START コマンドでエリアを再始動する。
2. システム間でデータを共用し、単一の IRLM を必要とする環境の場合は、指定エリアに対して許可されたホスト・プロセッサ下でオンライン・サブシステムを実行する。

nn=09 の場合

DBRC RECON データ・セットは、指定されたエリアが、以前に 1 つ以上のオンライン・サブシステムで許可されていたことを示します。出口検証はサブシステムが非アクティブであることを示しているため、指定されたエリアを許可することはできません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 他のオンライン・サブシステムが再始動処理を終了してエリアをクローズするまで待ち、その後、サブシステム内で /START コマンドを使用してエリアを再始動します。

エリアが複数の IRLM とデータ共用を行う場合は、IRLM を再接続する必要があります。

nn=10 の場合

エリアは、以前にサブシステムに対して許可されていました。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: /STOP コマンドまたは /DBR コマンドを入力して、非互換のデータベース許可を保持しているエリアをクローズし、その後、このサブシステムで /START コマンドを入力してエリアを再始動する。

nn=11 の場合

データベース使用互換性の評価プロセスで、無効なパラメーターが検出されました。DBRC RECON データ・セットのデータベース/エリア・レコードが壊れていると考えられます。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: この状態は発生する可能性が低いものです。DBRC に関連した問題を訂正し、IBM ソフトウェア・サポート に連絡して、さらに支援を求めてください。

nn=18 の場合

DBRC RECON データ・セットは、指定エリアに「Alter Count」が設定されていることを示しています。

指定されたエリアに対して DEDB 変更が現在進行中であるか、指定されたエリアに対して直前に DEDB 変更ユーティリティーを実行したマスター IMS が異常終了し、まだ再始動されていなかったかのいずれかのため、指定されたエリアを許可することができません。

システム処置: オンライン・システムの指定エリアが停止され、状況コード「FH」がアプリケーションに返されます。

プログラマー応答: DEDB 変更ユーティリティーが現在進行中の場合は、ユーティリティーが終了するまで待ってから、再試行します。DEDB 変更ユーティリティーが現在進行中ではない場合は、マスター IMS を再始動して、処理の再開時に RECON 状況がクリーンアップされるようにするか、あるいは次の DBRC コマンドを使用します。

- NOALTER を指定した CHANGE.DB を使用して、「Alter」状況をリセットする。
- NODBQUI を指定した CHANGE.DBDS を使用して、「Quiesce」状況をリセットする。

nn=20 の場合

指定されたデータベースまたはエリアが DBRC に登録されておらず、DBRC RECON データ・セット・レコードに FORCER オプションが指定されています。

システム処置: オンライン・サブシステムの指定エリアが停止し、状況コード 'FH' がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: INIT.DBDS コマンドおよび INIT.ADS コマンドを使用して、指定されたエリアおよびエリア・データ・セットを DBRC に登録し、このサブシステムで /START コマンドを使用して、指定されたエリアを再始動します。

nn=22 の場合

現在、データベースまたはエリアが他のサブシステムに対して許可されています。

システム処置: 要求されたアクティビティに対する許可はリジェクトされます。

プログラマー応答: 処置を再試行する前に、そのサイトのすべての IMS サブシステムのデータベースまたはエリアに対して /DBR コマンドを発行する必要があります。

nn=41 の場合

エリアが静止されたか、静止処理中です。

システム処置: 要求されたアクティビティに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、/DISPLAY AREA QSC、QUERY AREA コマンド、または LIST.DBDS DBD(*dbname*) AREA(*areaname*) を発行して出力を調べます。

nn=42 の場合

エリアが静止保留ではなく、イメージ・コピーが許可を試行しています。

システム処置: 要求されたアクティビティに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、/DISPLAY AREA QSC コマンド、QUERY AREA コマンド、または LIST.DBDS DBD(*dbname*) AREA(*areaname*) を発行して出力を調べます。

イメージ・コピーが失敗した場合、静止が終了するまで待つか、QUIESCE HELD フラグがオンに設定されるまで待ちます。QUIESCE HELD フラグをオンに設定するには、静止が行われたときに UPD START(QUIESCE) OPTION(HOLD) コマンドを使用します。

nn=43 の場合

DBRC RECON データ・セットは、指定されたエリアが ACBSHR=N 環境で渡された ACBLIB ランダマイザー名とは異なるランダマイザー名を持って

いることを示しています。ランダマイザー名が異なっているため、指定されたエリアを許可することができません。

システム処置: オンライン・システムの指定エリアが停止され、状況コード「FH」がアプリケーションに返されます。

プログラマー応答: ローカル・オンライン変更、メンバー・オンライン変更、またはグローバル・オンライン変更を使用して、ACB ライブラリーを更新し、DEDB ACB メンバーの変更を反映させます。

DFS3710A UNABLE TO OBTAIN AUTHORIZATION IN UTILITY FOR DATA BASE=*dbname* AREA=*areaname*. REASON CODE=*nn*

説明: メッセージの値 *nn* は、DEDB ユーティリティにおける許可が失敗した理由を示します。以下のリストに、*nn* コードごとの説明および処置を示します。

nn=01 の場合

要求された状態と現在の許可状態に互換性がありません。

システム処置: 使用されている高速機能ユーティリティが、このエリアで呼び出されていません。

プログラマー応答: 次のアクションのいずれか 1 つを実行する必要があります。

- /STOP コマンドまたは /DBR コマンドを入力して、データベース許可を保持する他のサブシステムのエリアをクローズする。
- 他の IMS サブシステムがそのエリアをクローズするまで待ち、ジョブを再実行する。

nn=06 の場合

使用可能な ADS がないか、または DBRC RECON データ・セット内でエリアにリカバリーが必要であることを示すマークが付けられています。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティ DFSUDMP0 は、リカバリーが必要なエリアに対する許可を取得できませんでした。

システム処置: ユーティリティは、このエリアに関しては呼び出されません。

プログラマー応答: データベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を実行した後、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティを実行して正しいメモリー・ダンプを取得します。

nn=07 の場合

オンライン・サブシステムの ACCESS パラメ

ーターは、DEDB オンライン・ユーティリティの
の実行に対して使用できません。

システム処置: エリアの処理が終了します。

プログラマー応答: オンライン・サブシステムの
ACCESS パラメーターを確認します。マス
ター端末オペレーターに問い合わせ、/START
コマンドを使用して、データベースの
ACCESS パラメーターを変更します。現在の
DEDB オンライン・ユーティリティと互換性
のあるレベルに変更します。

nn=08 の場合

要求側のオンライン・サブシステムでは、他の
サブシステムとの指定エリアの共用が許可され
ていません。

システム処置: オンライン・サブシステムの指
定エリアが停止し、状況コード FH がアプリケ
ーション・プログラムに戻されます。

プログラマー応答: 次のアクションのいずれか
1 つを実行する必要があります。

- システム間でデータを共用し、2 つの
IRLM を必要とする環境の場合は、DBRC
CHANGE.DB コマンドを使用して、指定さ
れたデータベースの SHARELVL を 2 から
3 に変更し、/START コマンドでエリアを
再始動する。
- システム間でデータを共用し、単一の
IRLM を必要とする環境の場合は、指定エ
リアに対して許可されたホスト・プロセッサ
ードでオンライン・サブシステムを実行す
る。

nn=10 の場合

エリアは、以前サブシステムに対して許可され
ていました。

システム処置: このエリアでオフライン・ユー
ティリティが呼び出されていません。

プログラマー応答: 重複するジョブ名が、同じ
エリアで使用されている可能性があります。別
の IMS サブシステムがそのエリアをクローズ
するまで待ち、ジョブを再実行依頼してくださ
い。

nn=15 の場合

他のすべてのサブシステムがデータベース・リ
カバリー・ユーティリティで異常終了したこ
を示すマークが付けられていない場合は、
DEDB エリアに対してデータベース・リカバ
リー・ユーティリティが実行されています。

システム処置: このエリアでデータベース・リ
カバリー・ユーティリティが呼び出されてい

ません。データベース・リカバリー・ユーティ
リティが終了します。

プログラマー応答: このエリアを許可して、異
常終了していないサブシステムがないことを確
認します。エリアを許可するサブシステムがあ
る場合は、サブシステムがエリアの許可を解除
するまで待機し、データベース・リカバリー・
ユーティリティを再実行します。

nn=16 の場合

DBRC RECON データ・セットにおいて、エ
リアがリカバリーを必要とすることを示すマー
クが付けられていません。DEDB 初期設定ユ
ーティリティは、リカバリーを必要としないエ
リアの許可を取得できませんでした。

システム処置: DEDB 初期設定ユーティリ
ティが終了します。

プログラマー応答: エリアが初期設定に対
して有効であることを確認します。エリアを初
期設定する必要がある場合は、CHANGE.DBDS
コマンドを使用してエリアにリカバリー必要状
況を強制し、VSAM アクセス方式サービス・プ
ログラムのコマンドでエリアを再定義して、初
期設定済みのものを除いてユーティリティの
エリア制御ステートメントを再度指定し、ユ
ーティリティを再実行します。

nn=20 の場合

指定されたデータベースまたはエリアが DBRC
に登録されておらず、DBRC RECON レコー
ドに FORCER オプションが指定されていま
す。

システム処置: 使用されている高速機能ユー
ティリティが、このエリアで呼び出されていま
せん。

プログラマー応答: INIT.DBDS コマンドおよ
び INIT.ADS コマンドを使用して、指定エ
リアおよびエリア・データを DBRC に登録
します。

nn=22 の場合

現在、エリアが他のサブシステムに対して許
可されています。

システム処置: 要求されたアクティビティに
対する許可はリジェクトされます。

システム・プログラマー応答: すべての IMS
サブシステムのエリアについて、/DBR コマ
ンドを発行します。

nn=41 の場合

エリアが静止されたか、静止処理中です。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、/DISPLAY AREA QUIESCE コマンド、QUERY AREA コマンド、または LIST.DBDS DBD(*dbname*) AREA(*areaname*) を発行して出力を調べます。

nn=42 の場合

エリアが静止保留ではなく、イメージ・コピーが許可を試行しています。

システム処置: 要求されたアクティビティーに対する許可はリジェクトされます。

プログラマーの応答: 静止が終了するまで待ち、許可が失敗したジョブを再実行します。エリアの状況を判別するには、/DISPLAY AREA QSC コマンド、QUERY AREA コマンド、または LIST.DBDS DBD(*dbname*) AREA(*areaname*) を発行して出力を調べます。

イメージ・コピーが失敗した場合、静止が終了するまで待つか、QUIESCE HELD フラグがオンに設定されるまで待ちます。QUIESCE HELD フラグをオンに設定するには、静止が行われたときに UPD START(QUIESCE) OPTION(HOLD) コマンドを使用します。

問題判別: 6、10、17

モジュール: DBFDDBAU0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3711A NONRECOVERABLE DEDB AUTHORIZATION ERROR DEDB=ddddddd AREA=aaaaaaaa

説明: DEDB 許可で、回復不能 DEDB に順次従属 (SDEP) セグメント・タイプが含まれていることが判別しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

エラーが起こったデータベース

aaaaaaaa

エラーが起こったエリア

システムの処置: 許可は失敗します。

プログラマーの応答: DEDB データベース定義 (DBD) を変更して、順次従属 (SDEP) セグメント・タイプを除去してください。

モジュール: DBFDDBAU0

DFS3711W NONRECOVERABLE DEDB INTEGRITY WARNING DEDB=ddddddd AREA=aaaaaaaa

または

NONRECOVERABLE DEDB INTEGRITY WARNING zzzzzzzzzzzz

説明: 緊急時再始動または XRF テークオーバーで、エリア aaaaaaaaa に対する 1 つ以上の DASD 書き込みが完了できなかったことが判別しました。そのエリアは壊れている可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddddddd

エラーが起こったデータベース

aaaaaaaa

エラーが起こったエリア

zzzzzzzzzzzz

警告テキスト。このテキストは、次のいずれかです。

REGISTRATION INCLUDED SDEPS

順次従属セグメント (SDEP) を使用する 1 つ以上の DEDB がリカバリー不能として登録され、現行の制御インターバル (CI) 内の SDEP セグメントが破壊された可能性があります。

システムの処置: エラーは無視され、ERE または XRF テークオーバー処理が続行されます。

プログラマーの応答: エリアまたはデータベースを、再初期設定するか、バックアップから復元するかのどちらかをスケジュールしてください。使用を継続すると、エラーとなる可能性があります (例えば、異常終了 1026)。

モジュール: DBFERS20

DFS3712A (ccccffss) AREA=areaname DD=ddname READ ERROR, CI-RBA=nnnnnnnn SEVERE ERROR

説明: 制御インターバル (CI) RBA nnnnnnnn で、読み取りエラーがデータ・セットで生じました。ccccffss は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置: そのデータ・セットがこのエリアで使用可能な唯一のデータ・セットである場合、IMS は、そのデータ・セットをクローズしてエリアを停止します。永続的な入出力エラー (メディア・マネージャー・エラ

一戻りコード X'0020FF10' によって示される) が発生しなかった場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、MVS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに取ることができます。

プログラマーの応答: エリアがリカバリー必要状況である場合は、このデータ・セットに対して DEDB 作成ユーティリティを実行するか、またはこのエリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行します。

問題判別: 1、6、11、20。問題判別は、エラー戻りコードが X'0020FF10' でない場合に有効です。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3713A (ccccffss) AREA=areaname DD=ddname
WRITE ERROR, CI-RBA=nnnnnnnn
SEVERE ERROR**

説明: 制御インターバル (CI) RBA nnnnnnnn で、書き込みエラーがデータ・セットで生じました。非活動化されたレコードの数が、システム定義のデータ・セット・エラーしきい値に達したか、または DEDB 制御 CI (2 番目の CI) 書き込みエラーが発生しました。変数 cccccffss は、問題判別に使用されるメディア・マネージャー・エラーの戻りコードを表します。

システムの処置: IMS は、そのデータ・セットをクローズします。そのデータ・セットがこのエリアで使用可能な唯一のデータ・セットである場合、IMS は、このエリアを停止します。永続的な入出力エラー (メディア・マネージャー・エラー戻りコード X'0020FF10' によって示される) が発生しなかった場合は、メディア・マネージャー FRR ルーチンまたは高速機能入出力エラー・ルーチンによって、MVS SDUMP を SYS1.DUMP データ・セットに作成することができます。

プログラマーの応答: エリアがリカバリー必要状況である場合は、このデータ・セットに対して DEDB 作成ユーティリティを実行するか、またはこのエリアに対してデータベース・リカバリー・ユーティリティを実行します。

問題判別: 1、6、11、20。問題判別は、メディア・マネージャー・エラー戻りコードが X'0020FF10' でない場合に有効です。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3714I RECORD DEACTIVATION
INITIATED BY SUBSYSTEM=ssid FOR
AREA=areaname DD=ddname
CI-RBA=nnnnnnnn**

説明: 制御インターバル (CI) RBA nnnnnnnn (16 進数) における、サブシステム ssid によるレコードの非活動化が完了しました。エラー・キュー・エレメント (EQE) 内の値 nn は、受け入れ可能な非活動レコード数を示します。ssid は、発生元サブシステムのサブシステム ID です。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

**DFS3715I DEDB AREA xxxxxxxx PROCESS
STARTED, RSN=rr**

説明: FPOPn および FPRLM 始動パラメーターの値に基づき、複数のエリアについて DEDB エリア・オープン始動処理が開始されました。プロセス xxxxxxxx は、次のいずれかです。

- PREOPEN
- REOPEN
- RESTART
- CLOSE
- RLM REVR

処理の結果は以下のとおりでした。

コード (16 進数)

意味

- 00 始動は成功しました。
- 01 始動はシャットダウン・クローズ始動のために終了しました。
- 02 始動は、IRLM 切断始動のために終了しました。
- 03 始動は、ストレージ不足状態のために失敗しました。

システムの処置: エリア・オープン始動処理は完了します。

**DFS3717I DEDB AREA CONTROL BLOCK
NOTIFY FAILURE - AREA STOPPED.
DBD=dbdname AREA=areaname**

説明: IMS が指定されたエリアのエリア状況を変更し、他のサブシステムに通知してエリア状況の同期をとうとしたときに、IRLM の問題を検出しました。

システムの処置: 指示された DEDB エリアがグローバルに停止され、DBRC RECON データ・セットに許可状況の禁止が設定されます。

プログラマーの応答: IRLM の状況をチェックします。IRLM がアクティブの場合は、/START AREA

DFS3718I • DFS3722I

GLOBAL コマンドを使用してエリアを再始動します。
IRLM がアクティブでない場合は、緊急時再始動の後に
/START AREA GLOBAL コマンドを使用してエリアを
再始動します。

DFS3718I WAITING FOR AREA READ I/O DURING DISCONNECT

説明: エリアの切断中に、完了しない未解決の READ
I/O がありました。IMS は、最大 2 分間待ってから、
切断を続行します。

切断でエリアに対する未解決の READ I/O が続行可能
かどうか 1 秒おきにチェックされますが、切断によ
って、エリアごとにメッセージが 1 つのみコンソール
に出力されます。

システムの処置: システム・アクションは継続します。
システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはあ
りません。

DFS3719I DEDB AREA xxxxxxxx PROCESS COMPLETED, RSN=rr

説明: DEDB エリア・オープン始動処理が完了しまし
た。プロセス xxxxxxxx は、次のいずれかです。

- PREOPEN
- REOPEN
- RESTART
- CLOSE
- RLM REVR

処理の結果は以下のとおりでした。

コード (16 進数)
意味

- 00 プロセスが正常に完了しました。
- 01 IMS サブシステムを終了するための /CHE
FREEZE コマンドが原因で、プロセスが完了前
に終了しました。
- 02 IRLM の切断が原因で、プロセスが完了前に終
了しました。
- 03 十分なストレージを取得できなかったことが原
因で、プロセスは実行されませんでした。

システムの処置: エリア・オープン始動処理は完了しま
す。

DFS3720I NOTIFIED AREA|ADS=areaname|adsname NOT FOUND IN THIS SUBSYSTEM

説明: 指定エリアまたは ADS が受け取り側のサブシ
ステムで見つかりませんでした。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

DFS3721I STOP ADS REJECTED DUE TO ONLY 1 AVAIL ADS.AREA=xxxxxxx DD=xxxxxxx

説明: エリア内の指定 ADS に対して /STOP ADS コ
マンドが無効でしたが、それは、この指定 ADS がエリ
アで唯一使用可能な ADS であるためです。

システムの処置: 指定された ADS に対する /STOP
ADS コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3722I IMS=iiiiiii SSID=ssss SSTYPE=tttttt ACTION=yyyyyyy RECOVERY TOKEN='aaaaaaaaxxxxxxxxxxxxxxxx'

説明: FDBR 未確定通知ユーザー出口ルーチンが、未
確定リカバリー単位 (UOR) を受け取りました。このメ
ッセージは、作業の生成元の IMS システム、UOR を
解決する必要がある外部サブシステムの名前、外部サブ
システムのタイプ (例えば、DB2、MQ、または
WOLA)、必要な解決アクション (COMMIT または
ABORT)、および UOR のリカバリー・トークンを示し
ます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

iiiiiii 8 文字の IMS システム名

ssss 8 文字の外部サブシステム名。

ttttttt 8 文字の外部サブシステム・タイプ。

yyyyyyy

この出口ルーチンが UOR を解決するために実
行しなければならない未確定アクション
(COMMIT、ABORT、または UNKNOWN)。

aaaaaaaaxxxxxxxxxxxxxxxx

印刷可能形式での UOR の 16 バイトのリカバ
リー・トークン。このトークンは空白を含
む場合があるため、単一引用符で囲まれます。
リカバリー・トークン内の項目は以下のとおり
です。

aaaaaaaa

リカバリー・トークンの 8 バイトの
文字セクション。文字データは左寄せ
され、空白が埋め込まれます。

xxxxxxxxxxxxxxxx

リカバリー・トークンの 8 バイトの
16 進数セクション。

システムの処置: IMS は正常に処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3723E DFSIDN0 GETSTORE FAILURE

説明: ESAF 未確定通知ユーザー出口ルーチン (DFSIDN0) からの GETSTORE 要求がストレージの獲得に失敗しました。

システムの処置: この出口ルーチンは障害を報告し、制御を IMS に返します。

オペレーターの応答: この出口ルーチンが必要とするストレージは少量であるため、ストレージ・プールが使い果たされそうになっていることを示しています。エラー発生時の前後に生成されたシステム・コンソール・ログと関連ダンプを調べて、何がストレージを消費しているかを特定してください。

DFS3724I ERROR OCCURRED WHEN PROCESSING DBRC RECON *variable text*

説明: DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) が、DBRC 呼び出しを正常に完了できませんでした。

メッセージ・テキストの *variable text* は、ACB の IMS 管理が使用可能かどうかに応じて、以下のいずれかのターゲットを示します。

ERROR OCCURRED WHEN PROCESSING DBRC RECON AREA=*areaname* FUNC=*function* RC=*nn*

この形式のメッセージ・テキストがデフォルトです。

ERROR PROCESSING DBRC RECON ALLOCATING IMS DIRECTORY RC=*nn*

IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) で ACB の IMS 管理が使用可能になっている場合は、この形式のメッセージ・テキストが発行されます。

機能の意味は、次のとおりです。

機能 意味

SIGNON

サインオン呼び出し

サインオフ

サインオフ呼び出し

AUTH

エリア許可呼び出し

UNAUTH

エリア許可取り消し呼び出し

INIT INIT 機能呼び出し

INIT0 INIT0 機能呼び出し

INIT1 INIT1 機能呼び出し

EOD EOD 機能呼び出し

EOJ EOJ 機能呼び出し

DFS3724I メッセージを詳しく説明するために、前に DBRC メッセージが出されている可能性があります。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: このメッセージの前の DBRC メッセージ (出された場合) をチェックして、そのメッセージのプログラマーの応答に従います。

関連資料:

➡ サインオン通常呼び出しからの戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ サインオフ通常呼び出しからの戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ 許可呼び出しからの戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ 無許可呼び出しからの戻りコード (メッセージおよびコード)

➡ IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

DFS3725I AREA=*areaname* JCL DD STATEMENT DOES NOT EXIST

説明: DEDB エリア初期設定ユーティリティ DBFUMIN0 が、DBRC RECON データ・セットの ADS リスト内の DD 名に対応する JCL DD ステートメントを見つけることができませんでした。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DEDB エリア (または複数のエリア・データ・セット) のすべての DD ステートメントが正しいことを確認します。エリアの複数のエリア・データ・セットを初期設定する場合、エリアは DBRC RECON データ・セットに登録され、これらのエリア・データ・セットが RECON データ・セットで使用不可状況になっている必要があります。DBRC を使用する場合は、デフォルトで YES に設定するか、DBFUMIN0 の EXEC パラメーターで DBRC=Y として指定する必要があります。

問題判別: 3、8、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3726A FPE AREA IMAGE COPY
TERMINATED ABNORMALLY FOR
AREA=areaname REASON CODE=nn**

説明: 指定エリアに対してデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティの処理に失敗しました。次の値 *nn* は、障害の理由を示します。

コード (10 進数)

意味

- 00** IMS SDFSRESL から主ストレージへのエリア許可モジュール DBFDBAU0 のロードに失敗しました。
- 04** DBRC インターフェースが失敗しました。
- 08** エリアの許可が失敗しました。
- 12** JCL に DATAIN DD ステートメントが指定されていません。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティの DATAIN DD ステートメントに指定された DD 名は、ターゲット・エリアの ADS リストに登録された名前と一致する必要があります。
- 16** 入力データ・セットの整合性検査に失敗しました。この検査では、入力されたデータ・セットごとに、2 番目の制御インターバルの CUSN が比較されます。
- 20** 入力 ADS が使用不能であり、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティは、エリア内のいずれのデータ・セットのバックアップ・コピーも取得できません。このメッセージの前に、メッセージ DFS3727I、DFS3728I、DFS3729I、DFS3730I、または DFS3762I が出力されている場合があります。
- 24** IC ユーティリティが、エリアに対するクリーン ADS (EQE がない) を見つけることができないか、入力として指定された唯一の ADS が EQE を持っているかのどちらかです。
- 28** イメージ・コピー操作中に、DBRC RECON データ・セットのエリア状況がリカバリー必要状況に変わりました。この問題は、XRF のテークオーバー中に、リカバリー必要状況が一時的である場合に発生することがあります。テークオーバーが完了すると、状況がリセットされ、リカバリーが不要であることが示されます。
- この状態は、IMS がカップリング・ファシリティーとの接続を失った場合にも発生する可能性があります。CASTOUT は失敗します。書き込みエラー (ヌル EQERBA による EEQE) が DBRC に登録され、エリアには、一時的にリカバリーが必要であることを示すマークが付けられま

す。CASTOUT が正常に終了すると、状況がリセットされ、リカバリーが不要であることが示されます。

- 32** DATAIN DD ステートメントに無効のデータ・セット名が指定されています。データベース・イメージ・コピー・ユーティリティの DATAIN DD ステートメントに指定されたデータ・セット名は、ターゲット・エリアの ADS リストに登録された名前と一致する必要があります。
- 36** DBRC RECON データ・セットの ADS リストに使用可能な ADS が見つかりませんでした。ADS が使用不能の場合は、エリアをデータベース・イメージ・コピー・ユーティリティへの入力として指定することはできません。
- 40** MADS I/O タイミング環境 (MADSIOT) が使用可能なときに、入力として 1 つだけの ADS が指定されています。

システムの処置: プログラムは終了します。

プログラマーの応答: 受け取ったコードに応じて、適切な処置を取ります。

コード (10 進数)

処置

- 00** DBFDBAU0 が SDFSRESL 内にあることを確認します。
- 04** このメッセージに関連した DBRC メッセージを参照してください。
- 08** このメッセージに関連したエリア許可のメッセージを確認します。
- 12** DATAIN DD ステートメントに正しい DD 名を指定して、ジョブを再実行依頼します。
- 16** すべての入力データ・セットが同じレベルにあることを確認し、DATAIN DD ステートメントに正しいデータ・セットを指定してジョブを再実行依頼します。
- 20** メッセージ DFS3727I、DFS3728I、DFS3729I、DFS3730I、または DFS3762I をチェックして、エラーを訂正します。次に、ジョブを再実行依頼してください。
- 24** エリアをリカバリーし、EQE を持たないデータ・セットを作成して、ジョブを再実行依頼します。
- 28** RECON をリストして、エリアがリカバリー必要状況にあるかどうかを判別します。必要な場合は、エリアをリカバリーして EQE を持たないデータ・セットを作成します。ジョブを再実行依頼してください。
- 32** DATAIN DD ステートメントに正しい dsname を指定して、ジョブを再実行依頼します。

- 36 正しいエリア名を指定するか、または AREA をリカバリーして、ジョブを再実行依頼します。
- 40 入力として少なくとも 2 つの ADS を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMDP0

DFS3727I (OPEN ERROR | RECORD SIZE ERROR) FOR AREA=areaname DD=ddname

説明: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーがデータ・セットのオープンに失敗したか、またはレコード・サイズが指定の DEDB エリアおよび ADS の制御インターバル (CI) サイズと整合性のないことが検出されました。この ADS は、これ以上使用することはできません。

システムの処置: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、次のデータ・セットを開きます。

DFS3728I VSAM ERROR REQUEST=(GET|VERIFY|POINT) FOR AREA=areaname DD=ddname

説明: 指定エリアおよび ADS に対する VSAM 要求に失敗しましたが、EQEON 要求が行われたときには失敗しませんでした。EQEON は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーがエラー・キュー・エレメント (EQE) を見つけて、ADS からの制御インターバルの読み取りが行われないことを示します。この場合でも、ADS は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーへの入力 DEDB として使用されます。

システムの処置: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、次の使用可能データ・セットを取得します。

DFS3729I (RDJFCB|MODCB) ERROR FOR AREA=areaname DD=ddname

説明: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、指定された ADS に RDJFCB マクロまたは MODCB OS マクロを発行して失敗しました。指定された ADS は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーへの入力 DEDB には使用されません。

システムの処置: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、次の使用可能データ・セットを取得します。

DFS3730I SECOND CI (READ|POINT) ERROR FOR AREA=areaname DD=ddname

説明: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーが、DEDB の 2 番目の制御インターバル (2 番目の CI) を読み取るか指し示そうとして失敗しました。ddname の ADS は、データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーへの入力 DEDB には使用されません。

システムの処置: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、次の使用可能データ・セットを取得します。

DFS3731I REORGANIZATION (BUILD|COPY) PHASE ENTERED FOR AREA=areaname UOW=nnnnnnnnn

説明: 再編成ユーティリティーが、ビルドまたはコピー・フェーズに入りました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3732I DUPLICATE DDNAME STATEMENT SPECIFIED

説明: プログラムで、以前に指定された DDNAME ステートメントが発生しました。

システムの処置: DEDB ユーティリティー・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止します。次の入力行のスキャンなど、以降の処理は、ERRORACTION ステートメントのユーザー指定に従って実行されます。

プログラマーの応答: DEDB ユーティリティー入力を訂正して、ジョブを再実行します。

DFS3733A FPE AREA OFFLINE RECOVERY TERMINATED ABNORMALLY FOR AREA=areaname (DD=ddname) REASON CODE=nn

説明: DEDB のオフラインのデータベース・リカバリーが失敗しました。次の値 nn は、障害の理由を示します。

コード (10 進数)

意味

- 00 エリア許可モジュール DBFDBAU0 を IMS 常駐ライブラリー内で検出できませんでした。
- 04 DBRC 呼び出しおよび FUNC=INIT が失敗しました。
- 08 エリアの許可が失敗しました。
- 12 JCL に data set1 DD ステートメントが指定

されていません。DBRC が使用されており、エリアが登録されている場合、data set1 DD ステートメントに指定された DD 名は、ターゲット・エリアの ADS に登録された名前と一致する必要があります。

DBRC が使用されていてエリアが登録されていないか、または DBRC が使用されていない場合、data set1 DD ステートメントに指定された DD 名は、*areaname* と一致する必要があります。

- 16 エリア状況が、要求されたりリカバリー・モードと競合しています。エリア状況が、要求されたりリカバリー・モードと一致していません。DEDB のリカバリーでは、エリアは次のいずれかの状況である必要があります。
- 全リカバリーの場合、エリアはリカバリー必要状況である必要がある。
 - トラック・リカバリーの場合、エリアはリカバリー不要状況で、データ・セットが使用可能である必要がある。
- 20 ターゲット・データ・セットの ACB をオープンできません。
- 24 ターゲット・データ・セットの 2 番目の制御インターバルを読み取ることができません。
- 28 この領域の DBRC を初期設定できず、エリアを許可することができませんでした。システムに DBRC がない場合は、このメッセージが出力されます。
- 36 ターゲット・データ・セットの制御インターバル・サイズを取得できません。DEDB トラック・リカバリーの場合は、SHOWCB が発行された後、2 番目の CI を読み取るために CI の長さを取得しようとしたましたが、失敗しました。
- 40 VSAM 制御ブロック (RPL) を変更できません。DEDB トラック・リカバリーの場合は、MODCB が発行され、読み取るために 2 番目の制御インターバルの相対バイト・アドレスを設定しようとしたましたが、失敗しました。
- 44 無効のデータ・セット名が発行されました。DEDB の場合、データベース・リカバリー・ユーティリティの data set1 DD ステートメントに指定された dsname は、ターゲット・エリアの ADS リストに登録された名前と一致する必要があります。
- 48 RDJFCB マクロが失敗しました。IEC131I メッセージをチェックしてください。
- 52 DBRC RECON データ・セットに ADS レコードが見つかりません。

システムの処置: プログラムは終了します。理由コード 32 では、DBRC エリア・レコードの ADS リスト中、

データ・セットが使用不可状況に設定されます。データ・セットがエリアの最後のデータ・セットの場合、エリア状況はリカバリー必要状況に設定されます。

プログラマーの応答: 応答は、次のように戻りコード *nn* に応じて異なります。

コード (10 進数)

- 意味
- 00 DBFDBAU0 が SDFSRESL 内にあることを確認します。
- 04 このメッセージに関連した DBRC メッセージを参照し、それを検査してください。
- 08 エリア許可に関連したメッセージをチェックします。
- 12 最初に DBRC が使用されているかどうかを確認します。(そのためには、EXEC パラメーター内の DBRC 定位置パラメーターまたは IMS システム定義マクロ内の IMSCTRL DBRC パラメーターを検査します。)

- DBRC が使用されており、エリアが登録されている場合は、data set1 DD ステートメントの ADS リストのいずれかの DD 名を指定します。DBRC が使用されていてエリアが登録されていないか、または DBRC が使用されていない場合は、data set1 DD ステートメントに *areaname* を指定して、ジョブを再実行依頼します。
- 16 DBRC RECON データ・セットのエリア状況に応じて適切なリカバリー・モードを指定し、ジョブを再実行依頼します。
- 20 このメッセージに関連した他のメッセージをチェックします。
- 24 このメッセージに関連した他のメッセージをチェックします。
- 28 システムに DBRC があるかどうかをチェックします。
- 32 エリアがリカバリー必要状況にある場合は、データ・セットおよびエリアをリカバリーします。
- 36 ジョブを再実行してください。
- 40 ジョブを再実行してください。
- 44 data set1 DD ステートメントに正しい dsname を指定して、ジョブを再実行依頼します。
- 48 IEC131I メッセージに記述されているオペレーターの応答に従います。
- 52 DBRC RECON データ・セットを印刷して、指定したエリアの ADS リストをチェックします。ADS リストに DD 名がない場合は、INIT.ADS コマンドを使用して、少なくとも 1 つの DD 名を DBRC RECON データ・セットに登録します。登録を行った後、データベ

ス・リカバリー・ユーティリティで指定エリアをリカバリーして、ジョブを再実行します。

関連資料:



z/OS: IEC131I

**DFS3734I AUTOMATIC SDEP BUFFER
MANAGEMENT HAS BEGUN ON
ims_id**

説明: 自動 SDEP バッファ管理が、この IMS の領域の処理を開始しました。

システムの処置: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFAQC00

**DFS3735I AUTOMATIC SDEP BUFFER
MANAGEMENT HAS COMPLETED
WITH RETURN CODE xx sysid**

説明: 自動 SDEP バッファ管理が、この IMS の領域の処理を完了しました。この戻りコードは診断のためのものです。

コード (10 進数)

意味

- 00 正常に実行されました。
- 04 領域がありません。
- 08 ストレージを取得できません。
- 12 領域リストが変更されました。

システムの処置: これらはすべて、自動 SDEP バッファ管理実行のそのインスタンスを停止させるエラーです。自動 SDEP バッファ管理は、次の実行時にトリガーされます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFAQC00

**DFS3736A VALIDATION CALL FAILED FOR
AREA=areaname DD=ddname Code=xx**

説明: IMS 高速機能が、DDNAME 制御ステートメント内で指定された DD 名の状況を検証しようとして、エラー条件を検出しました。メッセージ・テキストで、コード xx は次の値のいずれかになります。

コード 意味

- IA DDNAME ステートメントの ADS の状況が、DBRC RECON データ・セットの ADS リストの状況と競合します。DEDB Create ユーティリティが要求された場合は、RECON データ・セットの ADS の状況が使用できます。DEDB 比較ユーティリティが要求された場合は、ADS の状況が RECON データ・セットで使用できません。

タ・セットの ADS の状況が使用できます。DEDB 比較ユーティリティが要求された場合は、ADS の状況が RECON データ・セットで使用できません。

- IB RECON データ・セットに DD 名が見つかりませんでした。

システムの処置: このユーティリティは、要求されたエリアに対して活動化されません。

プログラマーの応答: DDNAME ステートメントに正しい DD 名を指定して、ジョブを再実行依頼します。

**DFS3737A DMAC SYNCHRONIZATION FAILED
FOR AREA=areaname**

説明: サブシステム間においてブロック・レベルでエリアを共用する環境の場合、エリア情報を含む DMAC は、サブシステム間で同じである必要があります。ロック障害、2 番目の制御インターバル書き込み障害、通知障害などの何らかのエラーによって、エリアで DMAC の同期化を維持できません。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティが終了して、エリアに停止のマークが付きます。

プログラマーの応答: エリアを再始動した後、ジョブを再実行依頼します。

**DFS3738A TOO MANY DDNAME
STATEMENTS SPECIFIED**

説明: プログラムで出現した DD 名が多過ぎます。DD 名ステートメント数は、DEDB Create ユーティリティの場合は 6 以下、比較ユーティリティの場合は 7 以下である必要があります。

システムの処置: DEDB ユーティリティ・プログラムは、現在の入力行のスキャンを停止し、以降の処理は ERRORACTION コマンドのユーザーが指定します。

プログラマーの応答: 入力を訂正して、DEDB ユーティリティを再実行します。

**DFS3739A I/O ERROR OCCURRED WHEN
ATTEMPTING TO READ FROM
AREA=areaname**

説明: ユーティリティ DBFUMRIO が、いずれかのエリアの開いたデータ・セットから読み取りを行い、I/O エラーが発生しました。

システムの処置: DEDB Create ユーティリティ DBFUMRIO が終了します。

プログラマーの応答: オフラインでデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を使用して障害

のある制御インターバルをリカバリーし、ジョブを再実行します。

**DFS3740I IN AREA=*areaname*, CI'S WITH
MATCHED CONTENT=*mmm*, CI'S
with UNMATCHED CONTENT=*nnn***

説明: ユーティリティがエリア内のすべてのレコードを比較して、*mmm* 制御インターバル (CI) に同一の内容があり、*nnn* 制御インターバルに異なる内容があることを検出しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: いずれかの CI に異なる内容がある場合は、SYSPRINT データ・セットをリストするメモリー・ダンプ・レコードをチェックします。

**DFS3741I EITHER ADS IN ERROR. COMPARE
IMPOSSIBLE FOR AREA=*areaname*
DD1=*ddname1* DD2=*ddname2***

説明: *ddname1* または *ddname2* エリア・データ・セットのいずれかで読み取りエラーが発生し、制御インターバル内容の比較を行うことができません。このメッセージの前にメッセージ DFS3739A が出力され、読み取りエラーが発生した ADS が示されます。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連情報:

937 ページの『DFS3739A』

**DFS3742A INTERNAL COMMAND TO STOP
AN ADS FAILED FOR
AREA=*areaname* DD=*ddname***

説明: エリア・データ・セット (ADS) を停止するための内部コマンドが、システム・エラー (エリア・ロックの障害、または通知の障害) のために失敗し、ADS を停止できませんでした。DEDB Create ユーティリティ DBFUMRIO のコピー・フェーズ中に、指定エリアおよび ADS で I/O エラーが発生した後でコマンドが発行されます。ADS は使用できません。

システムの処置: このユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: /STOP ADS コマンドを入力して ADS をグローバルに停止し、ジョブを再実行します。このエラーは、ロックまたは通知の障害によって発生する場合があります。

**DFS3743A SETTING AN ADS TO AVAILABLE
STATUS FAILED FOR AREA=*areaname*
DD=*ddname***

説明: 有効なフェーズにおいて、指定されたエリア・データ・セット (ADS) が停止されている、または DBRC RECON データ・セットの ADS リストから削除されているので、DEDB 作成ユーティリティ DBFUMRIO は、その ADS を使用可能な障害状況に設定しました。

システムの処置: 処理は終了します。

プログラマーの応答: ADS が正しく停止しているか、または DBRC RECON データ・セットから削除されていることを確認します。指定された ADS のエントリーが削除されている場合は、ADS のエントリーを DBRC RECON データ・セットに追加し、ジョブを再実行します。

**DFS3744A FORMATTING OF ALL NEW ADS(S)
FAILED FOR AREA=*areaname*
REASON CODE=*nn***

説明: 作成ユーティリティ DBFUMRIO は、フォーマット・フェーズで指定エリアのすべてのエリア・データ・セット (ADS) をフォーマットできませんでした。原因はエラー・コード *nn* です。理由コード *nn* は、次の値のいずれかになります。

コード (10 進数)

意味

- 01 エリアのロックが失敗しました。
- 02 DBRC インターフェースが失敗しました。RECON データ・セットからの ADS リストの読み取りか、または RECON データ・セットへの ADS リストの書き込みに失敗しました。
- 04 すべての新規 ADS をフォーマット設定できませんでした。
- 05 システム・エラー (エリア・ロックの障害、通知の障害など) によって、ADS を停止する内部コマンドが失敗しました。
- 06 VSAM 制御ブロック (RPL) の操作および MODCB RPL が失敗しました。
- 07 データ・セットの検証に失敗しました。このメッセージは、次の場合に出力されます。
 1. 定義された制御インターバル (CI) サイズが DBD パラメーターと矛盾している。
 2. 新規 ADS に定義されたスペースが不足している。
- 08 フォーマット設定を行うための新規 ADS の動的割り振りまたはオープンに失敗しました。このエラーは、VSAM クラスタが定義されていない場合に出力されることがあります。

- 09 VSAM 制御ブロック (RPL) 作業域のストレージ GETMAIN が失敗しました。
- 0A AREA に EEQE があります。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: すべてのサブシステムにおいて、新しく発行される ADS がすべて停止していることを確認します。停止していない場合は、/STOP ADS コマンドを入力して、エリア・データ・セットをグローバルに停止します。この処置が終了したら、次の処置を行ってください。

コード (10 進数)

意味

- 01 ジョブを再実行してください。
- 02 DBRC RECON データ・セット内にエリア・レコードが存在することを確認して、ジョブを再実行します。
- 03 オフラインでデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を使用して、現行のアクティブ ADS から EQE を除去します。この処置が終了したら、ジョブを再実行してください。
- 04 新しい ADS に対して別の VSAM データ・セットを定義して、ジョブを再実行します。
- 05 ジョブを再実行してください。
- 06 ジョブを再実行してください。
- 07 正しい制御インターバル・サイズおよびスペースを使用して別の VSAM データ・セットを定義し、ジョブを再実行します。
- 08 アプリケーション・プログラムは、従属領域が異常終了すると終了します。ロックのトレース機能を準備した後、ジョブを再実行します。原因の 1 つとして、VSAM クラスターが定義されていないことが考えられます。
- 09 ジョブを再実行してください。
- 0A オフラインでデータベース・リカバリー・ユーティリティ DFSURDB0 を使用して、現行のアクティブ ADS から EQE を除去します。その後でジョブを再実行します。

DFS3745I CREATE FAILED BECAUSE REGION STOP FOR AREA=*areaname*

説明: /STOP REGION コマンドが入力され、ユーティリティ領域が停止しました。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3746A FORMATTING OF AN ADS FAILED FOR AREA=*areaname* DD=*ddname* REASON CODE=*nn*

説明: 作成ユーティリティ DBFUMRI0 のフォーマット・フェーズにおいて、新規エリア・データ・セット (ADS) のフォーマット設定が失敗しました。次の理由コード *nn* のいずれかが、障害の理由を示します。

コード (10 進数)

意味

- 01 フォーマット設定を行うための新規 ADS の動的割り振りまたはオープンに失敗しました。
- 02 新規 ADS のフォーマット設定中に、I/O エラーまたは長いビジー・エラーが発生しました。
- 03 新規 ADS をフォーマット設定するには、最初に ADS を DBRC RECON データ・セットに登録する必要があります。この場合は、ADS が DBRC RECON データ・セットに登録されませんでした。
- 04 新規 VSAM データ・セット制御インターバル (CI) サイズが、DBD に指定されたサイズと同じではありません。
- 05 定義された VSAM データ・セット・スペースが、現行のアクティブ ADS VSAM データ・セットよりも小さくなっています。新しい ADS VSAM データ・セットは、現行のアクティブ ADS 以上である必要があります。
- 06 新規 VSAM データ・セットをフォーマット設定すると、ユーティリティ DBFUMRI0 は、データ・セットをクローズし、ICIP オプションを使用してデータ・セットを再オープンしましたが、クローズ・エラーが発生しました。
- 07 新規 VSAM データ・セットをクローズした後、ユーティリティ DBFUMRI0 は、ICIP オプションを使用してデータ・セットを開きましたが、オープン・エラーが発生しました。
- 08 指定された DD 名の ADS がオペレーターによって停止され、ADS のフォーマット設定が失敗しました。

システムの処置: ユーティリティは、指定された DD 名のフォーマット設定を停止します。

プログラマーの応答: RECON データ・セットをチェックして、指定された ADS が停止しているか、または RECON データ・セットから誤って削除されていないかどうかを確認します。停止していない場合は、ADS エントリを DBRC RECON データ・セットに追加して、ジョブを再実行します。

**DFS3747A OPEN PROCESS IN COPY PHASE
FAILED FOR AREA=*areaname*
REASON CODE=*nn***

説明: コピー・フェーズ中に、作成ユーティリティー DBFUMRIO は、ブロック・レベルでエリアを共用するすべてのサブシステム間のすべてのエリア・データ・セット (ADS) をオープンできませんでした。原因は、理由コード *nn* です。

コード (10 進数)

意味

- 01 エリアのロックが失敗した。
- 02 他のサブシステムへの ADS オープンの通知が失敗しました。
- 03 システム障害により ADS の停止が失敗しました。
- 04 すべてのサブシステムのすべての ADS のオープンに失敗しました。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: 作成するすべての新規 ADS が、ブロック・レベルでエリアを共用するすべてのサブシステムで停止していることを確認します。停止していない場合は、/STOP ADS コマンドを入力して、すべての新規 ADS をグローバルに停止します。この処置が終了したら、次の処置を行ってください。

コード (10 進数)

意味

- 01 ジョブを再実行してください。
- 02 ジョブを再実行してください。
- 03 ジョブを再実行してください。
- 04 ADS のオープンに失敗した理由を確認して、エラーを訂正します。この処置が終了したら、ジョブを再実行してください。

**DFS3748A OPENING AN ADS AMONG OTHER
SUBSYSTEMS FAILED FOR
AREA=*areaname* DD=*ddname***

説明: DEDB 作成ユーティリティー DBFUMRIO のコピー・フェーズの開始時に、このユーティリティーは、ブロック・レベルでエリアを共用する他のサブシステムに対して指定の *ddname* のエリア・データ・セット (ADS) を開くよう要求しましたが、一部のサブシステムで ADS を開くことができませんでした。

システムの処置: DEDB Create ユーティリティーは、この ADS の操作を終了して、新しい ADS の作成を続行します。

プログラマーの応答: ADS のオープンに失敗した理由を確認し、エラーを訂正してジョブを再実行します。

**DFS3749I CREATE (FAILED|COMPLETED) FOR
AREA=*areaname* DD=*ddname***

説明: *areaname* および *ddname* を使用したエリア・データ・セット (ADS) の作成操作が失敗または完了しました。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3750A I/O ERROR OR LONG BUSY
OCCURRED WHEN ATTEMPTING
TO WRITE TO AREA=*areaname*
DD=*ddname***

説明: DEDB 作成ユーティリティー DBFUMRIO が、ターゲット・データ・セットに *ddname* および *areaname* を書き込もうとしましたが、入出力エラーを検出しました。

システムの処置: DEDB Create ユーティリティーは、この ADS の作成操作を終了して、新しい ADS の作成を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

第 79 章 DFS メッセージ DFS3751A - DFS3800

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3751A CREATE FAILED IN AVAILABLE PHASE FAILED FOR AREA=*areaname* REASON CODE=*nm*

説明: DEDB 作成ユーティリティー DBFUMR10 が、有効なフェーズ中に、すべてのエリア・データ・セット (ADS) を使用可能状況に設定しようとしたが、理由コード *nm* が原因で失敗しました。

コード (10 進数)

意味

- 01 エリアのロックが失敗した。
- 02 他のサブシステムに ADS を使用可能状況にするよう通知しようとしたが、失敗しました。
- 03 DBRC インターフェースが失敗しました。RECON データ・セットからの ADS リストの読み取りか、または RECON データ・セットへの ADS リストの書き込みに失敗しました。
- 04 すべての ADS が、ADSC チェーンまたは RECON データ・セットの ADS リスト内に見つかりませんでした。
- 05 システム障害のため、ADSC チェーンが無効です。
- 06 /STOP ADS コマンドが、システム障害によって失敗しました。

システムの処置: この DEDB 作成ユーティリティーは終了します。すべての新しい ADS がまだ使用不能です。

プログラマーの応答: 作成するすべての新規 ADS が、すべてのサブシステムで停止していることを確認します。停止していない場合は、/STOP ADS コマンドを入力して、新規 ADS をグローバルに停止します。この処置が終了したら、次の処置を行ってください。

コード (10 進数)

意味

- 01 ジョブを再実行してください。
- 02 ジョブを再実行してください。
- 03 RECON データ・セット内にエリア・レコードが存在することを確認して、ジョブを再実行します。
- 04 作成する新しい ADS が RECON データ・セットに登録されていることを確認して、ジョブを再実行します。

- 05 ジョブを再実行してください。
- 06 ジョブを再実行してください。

DFS3752A CREATE FAILED IN COPY PHASE FOR AREA=*areaname*

説明: 最後に作成された新規のアクティブ・エリア・データ・セット (ADS) で入出力エラーが発生し、新規の ADS はそれ以上作成されません。

システムの処置: 使用中の高速機能ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: 次の手順を実行してください。

1. 作成するすべての新規 ADS が、すべてのサブシステムで停止していることを確認します。ADS が停止していない場合は、/STOP ADS コマンドを入力して、新しい ADS をグローバルに停止します。
2. 新規の VSAM データ・セットを定義してください。
3. ジョブを再実行してください。

DFS3753I COMPARE NOT PERFORMED BECAUSE I/O ERROR OR LONG BUSY OCCURRED FOR AREA=*areaname* DD=*ddname* RBA=*nnnnnnnnn*

説明: DEDB AREA データ・セット比較ユーティリティーが、要求されたすべての ADS から制御インターバル (CI) を読み取り、各 CI を比較しようとした。比較ユーティリティーは、*ddname* の ADS の CI で入出力エラーが発生したため、指示された制御インターバルを比較操作から除外しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

DFS3754A UTILITY=*utility-name* TERMINATED BECAUSE AREA=*areaname* STOPPED

または

UTILITY=*utility-name* SKIPPED PROCESSING FOR AREA=*areaname* BECAUSE AREA IS STOPPED | QUIESCED

説明: このメッセージの最初の形式では、指定された使用中の高速機能ユーティリティーが、指定エリアの停止

によって終了します。2 番目の形式では、エリアが停止されたことにより、*utility-name* がエリアの処理をスキップします。

エリアが静止される場合、このメッセージの 2 番目の形式が出され、*utility-name* はエリアの処理をスキップします。

システムの処置: このメッセージの最初の形式では、使用中の高速機能ユーティリティが終了します。2 番目の形式では、高速機能ユーティリティは、入力ストリームの次のエリアを続行します。

オペレーターの応答: /START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを使用してエリアを再始動し、指定されたユーティリティを再実行してください。

エリアが静止される場合、UPDATE AREA STOP(QUIESCE) コマンドを発行して静止を停止し、指定されたユーティリティを再実行します。

DFS3755E AN ERROR OCCURRED DURING A STOW OPERATION ON THE DIRECTORY DATA SET FOR RESOURCE *rsc_name* RC=*xx* RSN=*yy*.

説明: システムが z/OS STOW 操作の試行中にエラーが発生しました。


システムの処置: IMPORT コマンドと DDL 活動化プロセスは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの詳しい説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の STOW 完了コードを参照してください。


カタログ・ユーティリティを実行して IMS ディレクトリー・データ・セットを再作成するか、再作成しない場合は IMS ディレクトリーを復元してください。IMS ディレクトリーを復元したら、IMPORT コマンドまたは DDL 定義ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSMOLS0

関連概念:

 IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

関連資料:

 z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード

DFS3756A COMPARE UTILITY TERMINATED BECAUSE COMPARABLE ADS COUNT IS LESS THAN 2

説明: 比較処理時に、比較可能なエリア・データ・セット (ADS) の数が 2 より小さかったため、DEDB 比較ユーティリティが終了しました。これは、/STOP ADS コマンドか、または ADS を停止する内部コマンドが原因で起こった可能性があります。比較する ADS が停止しました。

システムの処置: DEDB 比較ユーティリティは終了します。

DFS3757I NO DATA SET REGISTERED IN DBRC RECON ADS LIST FOR AREA=*areaname*

説明: IMS DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) が、DBRC AREA レコードの ADS リスト内のエリアに対応して登録されるエリア・データ・セット (ADS) がないことを検出しました。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DBRC INIT.ADS コマンドを使用して DBRC RECON レコードに ADS を登録し、ユーティリティを再実行します。

問題判別: 3、8、35

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3758I DD=*ddname* DATA SET NAME MISMATCH IN DBRC RECON ADS LIST AND IN JCL DD STATEMENT FOR AREA=*areaname* DD=*ddname*

説明: IMS DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) は、DBRC RECON ADS リスト内のデータ・セット名が JCL DD ステートメント内の名前と一致しないことを検出しました。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DBRC RECON レコードおよび JCL DD ステートメント内のデータ・セット名が正しいことを確認して、ジョブを再実行します。

DFS3759I COMPARE NOT PERFORMED BECAUSE ADS IS STOPPED FOR AREA=*areaname* DD=*ddname* RBA=*nnnnnnnnnn*

説明: DEDB 比較ユーティリティが、要求されたすべてのエリア・データ・セット (ADS) から制御インタ

ーバル (CI) を読み取り、各 CI を比較しようとした。指定された DD 名の ADS が /STOP ADS コマンドまたは内部コマンドによって停止されたため、このユーティリティーは、指示された CI を比較操作から除外します。この ADS の他の CI については、読み取りまたは比較は行われません。

システムの処置: 処理は続行されます。

DFS3760A AREA=areaname NOT REGISTERED IN DBRC RECON DATA SET

説明: DEDB Create ユーティリティー DBFUMRIO、または DEDB 比較ユーティリティー DBFUMMH0 の場合は、エリア名が DBRC RECON データ・セットに登録されている必要があります。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

プログラマーの応答: 指定されたエリアおよびその ADS を DBRC RECON データ・セットに登録して、ジョブを再実行します。

DFS3761I OPEN/CLOSE RECOVERY FAILED FOR AREA=areaname, (READ|WRITE) ERROR, RBA=nnnnnnnn

説明: オープン/クローズのリカバリーの処理中に、指定エリア内で指示された CI 番号の読み取りまたは書き込みエラーが発生しました。このメッセージの前にメッセージ DFS2571I または DFS2572I が出力される場合があります。

システムの処置: オープンまたはクローズのリカバリー処理が終了します。DBRC RECON データ・セット中に、指定エリアが停止されてリカバリー必要状況に設定されます。

オペレーターの応答: データベース・リカバリー・ユーティリティーを実行して、指定エリアをリカバリーします。その後でジョブを再実行します。

DFS3762I CI-RBA=nnnnnnnn ERROR FEEDBACK=xxxxxxx IN RESPONSE TO A VSAM (GET|POINT) REQUEST ON AREA=areaname DD=ddname

説明: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーが、DEDB エリアから読み取りまたはポイントしようとしたときにエラーが発生しました。VSAM GET または POINT マクロで問題が検出されました。

システムの処置: データベース・イメージ・コピー・ユーティリティーは、次の使用可能データ・セットの DEDB エリアから読み取りまたはポイントします。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。

関連資料:

➡ z/OS: GET - レコードの取得 (VSAM マクロ)

➡ z/OS: POINT - アクセスのための位置付け (VSAM マクロ)

➡ z/OS: VSAM マクロの戻りコードおよび理由コード

DFS3763I DEDB AREA DATA SET CONTROL BLOCK NOTIFY FAILURE - AREA STOPPED. DBD=dbdname AREA=areaname DD=ddname

説明: IMS が、指定されたエリア・データ・セットのエリア・データ・セット状況を変更し、状況の同期をとるために、緊急時再始動時に他のサブシステムに通知しようとして、IRLM の問題を検出しました。状況の変更が、障害の発生したシステムで要求されました。

システムの処置: 指示された DEDB エリアが停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答: 緊急時再始動の後に /START AREA GLOBAL コマンドを使用してエリアを再始動します。

問題判別: 6、27

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3764I DEDB AREA DATA SET STOP SYNCHRONIZATION NOT AVAILABLE - AREA STOPPED. DBD=dbdname AREA=areaname DD=ddname

説明: IMS が、緊急時再始動中にエリア・データ・セットを停止しようとした。この状態は、緊急時再始動中に指定のエリア・データ・セットに入出力エラーがあった場合、またはシステム障害時に外部または内部でエリア・データ・セット (ADS) 停止処理が行われていた場合に起こります。外部または内部で ADS 停止処理が行われている場合は、緊急時再始動時に ADS 停止を使用できません。したがって、IMS は、強制的にエリアを停止しました。

システムの処置: 指示された DEDB エリアが停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答: 緊急時再始動の後に /START AREA GLOBAL コマンドを使用してエリアを再始動し

DFS3765I • DFS3770W

ます。指示されたデータ・セットに対して、DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティー DBFUMRI0 またはデータベース・リカバリー・ユーティリティー DFSURDB0 を実行する必要があります。

**DFS3765I DEDB AREA CONTROL BLOCK
NOTIFY FAILURE - AREA STOPPED.
DBD=dbname AREA=areaname**

説明: 緊急時再始動中に、IMS が指定されたエリアのエリア状況を変更し、他のサブシステムに通知して状況の同期をとろうとしたときに、IRLM の問題を検出しました。状況の変更が、障害の発生したシステムで要求されました。

システムの処置: 指示された DEDB エリアが停止し、緊急時再始動が続行されます。

プログラマーの応答: 緊急時再始動の後に /START AREA GLOBAL コマンドを使用してエリアを再始動します。

**DFS3766A NOTIFY REQUEST TO STOP AN
ADS FAILED FOR AREA=xxxxxxxx
DD=yyyyyyyyy**

説明: ERE 処理中に、ADS を共用する各サブシステムの指定されたエリア・データ・セット (ADS) を停止しようとしたのですが、失敗しました。すべてのサブシステムにおける ADS の状況は、コピー・フェーズ状況またはフォーマット・フェーズ状況のままとなります。

システムの処置: システムの操作が継続します。

オペレーターの応答: ユーザーは、/STOP ADS コマンドを入力して、この ADS を共用するすべてのサブシステムの ADS を停止する必要があります。

**DFS3766W PSB pppppppp REQUIRES STOPPED
DEDB DATA BASE dddddddd, PSB
STOPPED.**

説明: 必要な高速機能 DEDB dddddddd が使用不可であったため、スケジューリングが終了し、PSB pppppppp が停止しました。

システムの処置: 処理は停止します。

**DFS3767A NOTIFY REQUEST TO SET AN ADS
TO AVAILABLE STATUS FAILED
FOR AREA=xxxxxxxx DD=yyyyyyyyy**

説明: ERE 処理中に、ADS を共用するすべてのサブシステムで指定されたエリア・データ・セット (ADS) を使用可能状況にしようとしたのですが、失敗しました。各サブシステムの ADS の状況は、コピー・フェーズ状況

のままとなります。RECON D/S の ADS の状況は、使用可能です。

システムの処置: システムの操作が継続します。

オペレーターの応答: 各サブシステムと RECON D/S の間で ADS 状況に違いがあるため、オペレーターは、/STOP AREA コマンドまたは UPDATE AREA STOP(SCHD) コマンドを入力して、この ADS にアクセスするエリアをいったん停止してから、エリアを再始動する必要があります。

**DFS3768A DBRC REQUEST TO SET AN ADS
TO UNAVAILABLE STATUS FAILED
FOR AREA=xxxxxxxx DD=yyyyyyyyy**

説明: ERE 処理中に、RECON データ・セット内で指定されたエリア・データ・セット (ADS) を使用不可状況にしようとしたのですが、失敗しました。RECON データ・セットの ADS の状況は、コピー・フェーズ状況のままとなります。

システムの処置: システムの操作が継続します。

オペレーターの応答: オペレーターは、DBRC コマンドを使用して、ADS の状況を使用不可状況に設定する必要があります。ADS の状況が、RECON データ・セットおよび各サブシステムの両方で、使用不可状況であることを確認してください。

**DFS3769I INVALID SYNTAX IN START OR
STOP TIME PARM**

説明: 開始時または停止時パラメーターで、プログラムにエラーが発生しました。

システムの処置: DEDB ユーティリティー・プログラムは、戻りコード 08 で終了します。

オペレーターの応答: 無効な入力パラメーターを訂正して、ユーティリティーを再実行してください。

**DFS3770W SYNCHRONIZING PROCESS TIME
OUT DURING START AREA
PROCESSING FOR AREA areaname**

または

**SYNCHRONIZING PROCESS TIME OUT DURING
STOP AREA PROCESSING FOR AREA areaname**

または

**SYNCHRONIZING PROCESS TIME BETWEEN
SUBSYSTEMS HAS BEEN EXCEEDED**

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
(reason) areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
CTLBLK SYNC areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
ALLOC/OPEN ADS areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
UOW LOCK INIT areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
STOP ADS areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
STOP AREA areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
START AREA areaname

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
SHVSO SYNC

または

SYNCHRONIZING PROCESS TIME EXCEEDED -
SHSDEPS SYNC

説明: サブシステムのリソース同期化が、妥当な時間内に終了しませんでした。この状態は、有効な条件である可能性があり、自動的に解決する場合があります。IMS がハングが存在すると判断した場合、IMS は待ち状態を解決しようとしています。IMS は、プロセスをリジェクトして 2 番目の形式のメッセージを出力するか、または (プロセスを再試行できるように) ハングを解決しようとした可能性があります。いずれの場合でも、最初の形式のメッセージが外部介入なしで終了したときは、それ以上のアクションは必要ありません。

最初の形式のメッセージが続く場合は、停止条件が存在するため、手で解決する必要があります。メッセージ・テキスト内に、次の変数が示されます。

reason 超過時間の原因を示します。これは、次のいずれかの状態となります。

CTLBLK SYNC

IMS は、内部情報の同期をとる必要があります。

ALLOC/OPEN ADS

エリアのオープンまたは ADS 作成アクションの一部として ADS がオープン中です。

UOW LOCK INIT

IMS は、ユーティリティの開始によって、UOW ロック・モードに切り替わろうとしています。

STOP AREA

エリアが停止中です。この停止は、コマンドまたは内部の停止処理によるものです。

START AREA

エリアが開始中です。

SHVSO SYNC

SHVSO 情報が内部的にデータ同期されています。

SHSDEPS SYNC

SHSDEP 情報が内部的にデータ同期されています。

areaname

影響を受けるエリアを示します。

システムの処置:

最初の形式のメッセージが続く場合、発信元システム (メッセージを受け取るシステム) は、完了していない共有パートナーからのアクションを待機しています。この状態は、ハングを示します。最初の形式のメッセージに示された理由に基づく方法が、停止を解決する唯一の方法となります。

オペレーターの応答:

ブロック・レベルの共有に加わるいずれかのサブシステムに問題がないかどうかを判別します。プロセッサの過負荷によってサブシステムがビジー状態になっているか、またはプロセッサ STOP キーが押された場合、アクションは必要ありません。サブシステムが待ち状態またはループ状態にある場合は、/STOP コマンドまたは MVS MODIFY コマンドを入力して、そのサブシステムを終了する必要があります。このようにしないと、待ち状態またはループ状態が無制限に続く場合があります。

プログラマーの応答:

このメッセージが複数回出力された場合、他のサブシステムではプロセッサがビジー状態ではなく、プロセッサ STOP キーは押されておらず、他のサブシステム

に重大な問題があります。適切なデータを収集した後、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。シスプレックス内のすべての IMS サブシステムのメモリー・ダンプを収集してください。

問題判別: 1、3、4、5、6、8、10、11、14

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3771I AREA areaname CANNOT BE PROCESSED DUE TO 2ND CI EEQE (BUFFER)

説明: 次のいずれかの理由により、AREA areaname が処理できませんでした。

- AREA に 2 番目の CI EEQE バッファがあるために、/STO AREA (LOCAL) または UPDATE AREA STOP(SCHD) コマンドが処理されませんでした。
- AREA に 2 番目の CI EEQE があるために、/STOP AREA GLOBAL、UPDATE AREA STOP(SCHD)、/STOP ADS、/DBR DB、UPDATE DB STOP(ACCESS)、または /DBR AREA コマンドが処理されませんでした。

システムの処置: AREA のコマンド処理が終了します。

オペレーターの応答: 入出力防止が解決されたら、/UNLOCK コマンドまたは OS GO 応答コマンドを入力して、すべての EEQE をページします。その後、失敗したコマンドを再入します。

DFS3772I AREA areaname STOPPED. RECOVERY NEEDED DUE TO 2ND CI EEQE BUFFER

説明: /CHECKPT FREEZE の処理中に、指定された AREA が停止し、その状況に要リカバリーのマークが付けられました (AREA が DBRC に登録された場合)。この状態は、AREA に 2 番目の CI EEQE バッファがあり、それを物理データ・セットに書き込むことができなかった場合に発生します。

システムの処置: AREA を停止した後、システムは処理を継続します。

プログラマーの応答: データベース・リカバリー・ユーティリティを使用して、AREA をリカバリーします。

DFS3773I AREA=areanameDD=ddnameSTOP AREA GENERATED BY ADS CLOSE ERROR.

説明: 複数の IMS サブシステムによって共用されている複数のエリア・データ・セット (ADS) エリアの ADS データ・セットをクローズしようとしていたとき、その ADS データ・セットの 2 番目の CI の更新中に I/O エラーが発生しました。この状態により、内部 /STOP AREA コマンドが生成され、現在エリアを共用している IMS サブシステムに送られます。AREA を停止した後、システムは処理を継続します。

システムの処置: システムはエリアをクローズし、このメッセージを出力して処理を継続します。

オペレーターの応答: クローズしたエリアを再始動し、その他の ADS データ・セットを使用してエリアの処理を再開できるようにします。

モジュール: DBFMPCL0

DFS3774A INSUFFICIENT STORAGE FOR CONTROL BLOCKS

説明: GETMAIN マクロが、SP=0 用のメモリー不足のために失敗しました。この状態のために、DFSHALDB データ・セットの入力ステートメントが読み取られず、したがって妥当性検査されません。

システムの処置: ジョブは、疑似異常終了 0201 と下記の理由コードで終了します。


REASON=00000028

制御ブロック・ストレージに関する
GETMAIN 障害

プログラマーの応答: REGION パラメーターのサイズ値を増やします。

モジュール: DBFSHSP10

関連情報:

 IMS 異常終了 0201

DFS3775A OPEN FAILURE OF DDNAME DFSHALDB

または

DATASET ATTRIBUTES FOR DDNAME DFSHALDB ARE NOT VALID

説明: DFSHALDB データ・セットがオープンしなかったか、RECFM が固定ブロック形式でないか、または LRECL が 80 に等しくないかのいずれかです。

システムの処置: ジョブは、疑似異常終了 0201 と下記

のいずれかの理由コードで異常終了します。

REASON=00000016

RECFM を表す

REASON=00000020

LRECL を表す

REASON=00000024

DFSHALDB がオープンしなかったことを表す


プログラマーの応答:

- 理由コードが 16 の場合は、RECFM を必ず FB にしてください。
- 理由コードが 20 の場合は、LRECL を必ず 80 にしてください。
- 理由コードが 24 の場合は、付随している DFS0730I メッセージを使用して、オープン障害の原因を判別してください。

モジュール: DFSHSP10

関連情報:

224 ページの『DFS0730I』

 IMS 異常終了 0201

**DFS3776A HALDB SELECTIVE PARTITION
PROCESSING NOT ALLOWED IN
xxx REGION**

説明: 入力ステートメントを含んでいるデータ・セット DFSHALDB は、IFP、JMP、または MPP 用のジョブでは許可されません。メッセージ・テキスト内の xxx は、IFP、JMP、または MPP のいずれかです。

システムの処置: ジョブは、疑似異常終了 0201 と下記の理由コードで異常終了します。


REASON=00000012

IFP、JMP、または MPP を表す

プログラマーの応答: 入力ステートメントを除去して、データ・セット DFSHALDB は保存するか、またはデータ・セット DFSHALDB を JCL から除外するかしてください。

モジュール: DFSHSP10

関連情報:

 IMS 異常終了 0201

**DFS3777A HALDB STATEMENTS READ AND
VALIDATED FOR SELECTIVE
PARTITION PROCESSING RC=xx**

説明: メッセージ DFS3777A の戻りコード (xx) は、次のどちらかになります。

- 04** 少なくとも 1 つのステートメントが妥当性検査され、受け入れられました。しかし、少なく

とも 1 つの他のステートメントに構文エラーがあったか、構文が正しいステートメントの数が 20 を超えていました。


- 08** すべてのステートメントが妥当性検査され、構文エラーのためにリジェクトされました。

システムの処置: ジョブは、疑似異常終了 0201 と、理由コード 04 または 08 で終了します。

プログラマーの応答: 構文エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSHSP10

関連情報:

 IMS 異常終了 0201

**DFS3777I HALDB STATEMENTS READ AND
VALIDATED FOR SELECTIVE
PARTITION PROCESSING RC=xx**

説明: メッセージ DFS3777I の戻りコード (xx) は 00 です。これはすべてのステートメントが妥当性検査され、受け入れられたことを意味します。

システムの処置: ジョブは処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSHSP10

**DFS3778A INSUFFICIENT STORAGE TO
ACQUIRE HSPB CONTROL BLOCK**

説明: キー 7 の HSPB 制御ブロック用に使用可能なストレージが SP=241 にありませんでした。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: 状態を訂正するために、オペレーティング・システム・プログラマーの援助を求めてください。

モジュール: DFSHSPK0

DFS3779A PCB=(yyyyyyyyy,pppppppp),xxxxxxxxxxxxxx

または

PCB=(nnnn,pppppppp,NUM=yyy),xxxxxxxxxxxxxx

説明: このメッセージの最初の形式の場合、メッセージ・テキスト内の各項目は次のとおりです。

yyyyyyyyy

NAME/LABEL.

pppppppp

DFSHALDB によって提供されたステートメントに示されていた区画名です。

xxxxxxxxxxxxx

次のエラー条件のいずれかが存在します。

- DBPCB NUMBER IN ERROR
- PARTITION NAME IN ERROR
- NAME/LABEL IN ERROR
- PCB FOR NON-HALDB

このメッセージの 2 番目の形式の場合、メッセージ・テキスト内の各項目は次のとおりです。

nnnn DBPCB 番号*yyy* 範囲 (指定されている場合)

ppppppppp

DFSHALDB によって提供されたステートメントに示されていた区画名です。

xxxxxxxxxxxxx

次のエラー条件のいずれかが存在します。

- DBPCB NUMBER IN ERROR
- PARTITION NAME IN ERROR
- NAME/LABEL IN ERROR
- PCB FOR NON-HALDB

このメッセージの詳しい説明は、メッセージ DFS3779E を参照してください。

関連情報:

DFS3779E

DFS3779E HALDB SELECTIVE PARTITION PROCESSING ABEND U0202

説明: 「構文的に正しい」と正常に検証されたカードの少なくとも 1 枚に、次のようなエラー条件の理由があります。


- リスト内の DBPCB の数よりも大きい DBPCB 番号が、PSB に検出されました。
- 区画名が、つづりを誤ったか、または DBPCB 番号または NAME/LABEL によって参照されるデータベース内で見つけられませんでした。この状態は、PROCSEQ を持つ DBPCB を使用するとき、ターゲット・データベース内の区画名が提供された場合などが考えられます。
- 指定された NAME または LABEL は、PSB 内にあるリストに記載されている DBPCB で見つけられませんでした。
- DBPCB 番号または NAME/LABEL が非 HALDB PCB を参照しています。

システムの処置: 疑似異常終了 0202 が出されます。

プログラマーの応答: DBPCB 番号、NAME/LABEL、または区画名を訂正するか、ターゲット区画名を指定している項目を除去して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSHSPP0

関連情報:

 IMS 異常終了 0202

DFS3780I ACTIVE DDNAMES: *modblks-name*
DFSDIRC format-name MODSTAT ID:
nnnn

説明: このメッセージは、アクティブなオンライン変更ライブラリーおよび現在の変更 ID を含むオンライン変更状況を示しています。IMS がこのメッセージを出すのは、次の場合です。

- IMS 再始動
- 単純チェックポイント
- 新しい定義がコミットされる前に現在アクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための /MODIFY PREPARE または INITIATE OLC PHASE(PREPARE)。
- オンライン変更がコミットされた後で新しいアクティブなオンライン変更ライブラリーを示すための /MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

modblks-name

IMS JCL 内のアクティブ MODBLKS DD。これは、アクティブな MODBLKS ライブラリーを識別します。*modblks-name* は MODBLKSA または MODBLKSB のどちらかです。MODBLKS DD カードが IMS JCL から省略され、MODBLKS のオンライン変更が使用不可になっている場合、この変数はブランクです。

DFSDIRC

内部で管理されている IMS ディレクトリー・データ・セットのデータ・セット DD 名。

format-name

IMS JCL 内のアクティブ FORMAT DD。これは、アクティブな MFS フォーマット・ライブラリーを識別します。*format-name* は FORMATA または FORMATB のどちらかです。このシステムが DBCTL の場合、*format-name* はブランクです。

nnnn

変更 ID 番号。MODSTAT データ・セットを初期設定するとき、変更 ID としてどの番号を割り当てるかを決めてください。この番号は、オンライン変更が成功するたびに 1 ずつ増分されます。この番号を 0 に初期設定した場合、この値は、コールド・スタート以来、何回のオンライン変更が成功したかを示します。

変更 ID は、緊急時再始動のときに、セキュリティー状況をリカバリーするために使用されません。

このメッセージは、次の後にも出されます。

- /DBD によって呼び出された単純チェックポイント
- /DBR によって呼び出された単純チェックポイント
- /CHE によって呼び出された単純チェックポイント

**DFS3781 DB:name AREA:name DAMAGE AT
RBA:xxxxxxx OFFSET:mnnnn
LENGTH:aa**

説明: 緊急時再始動、XRF テークオーバー、または高速データベース・リカバリー (Fast Database Recovery) のリカバリー・フェーズ中に、制御インターバル (CI) の損傷が検出されました。AREA は停止されます。

メッセージ・テキストで、変数とそのそれぞれの意味は、次のとおりです。

DB データベース名

AREA エリア名

DAMAGE AT RBA

損傷を受けた制御インターバルの相対バイト・アドレス

OFFSET

CI 内の損傷の相対オフセット

LENGTH

損傷の長さ

システムの処置: IMS は、通常のエリア停止メッセージを発行します。

プログラマーの応答: エリアをリカバリーする必要があります。

**DFS3782I DB:O'name' AREA:name ADS:name
2ND CI DAMAGE DETECTED**

説明: XRF のテークオーバーの後の最初のオープン時の DMAC のリフレッシュ中に、2 番目の制御インターバル (CI) の損傷が検出されました。

ユーザーの処置: 次のいずれかの処置を取ってください。

- 複数のエリア・データ・セット (MADS) が定義されている場合は、2 番目の CI によって損傷を受けた ADS コピーを以降のリカバリーについて使用不可状況に変更する。その他の有効な ADS コピーを使用して、エリアを開始します。
- 複数のエリア・データ・セット (MADS) が定義されていない場合は、エリアをリカバリーする。

**DFS3784I PCB=(nnnn,ppppppp) IS REPLACED BY
DFS3784I PCB=
(ddddddd,ppppppp,NUM=yyy)**

説明: HALDB ステートメントの DBPCB 番号 *nnnn* を、DBPCB 制御ブロックに指定された DBPCB ラベルまたは名前と関連付けた後で、その処理が、*ddddddd* という DBPCB ラベルまたは名前をもつ重複する HALDB ステートメントを検出しました。これが発生した場合、DBPCB ラベルまたは名前が、番号 *nnnn* で参照される DBPCB より優先されます。*yyy* は範囲を表します (指定されている場合)。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSHSPP0

**DFS3785E DIAGNOSE AWE INITIALIZATION
FAILED - reason_text**

説明: 診断 AWE プロセッサの初期設定中にリカバリー不能エラーが検出されました。問題が訂正されて、IMS が再始動されるまで、この AWE プロセッサによって提供されるサービスは使用できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason_text

検出された特定のエラーを識別するために使用されます。理由は、次のいずれかです。

DGSW GETSTOR FAILED RC=retcode

診断 AWE プロセッサ DGS TCB の初期設定中に、DGSW (診断作業域) 用にストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われました。しかし、GETSTOR 呼び出しは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。

システムの処置: IMS は処理を続行しますが、問題が解決されて、IMS が再始動されるまで、診断 AWE プロセッサによって提供されるサービスは使用できません。

システム・プログラマーの応答: この問題が単に IMS の始動時のストレージ不足エラーである場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSDGS80

**DFS3786E DIAGNOSE AWE PROCESSING
ERROR – reason_text**

説明: 診断 AWE の処理中にリカバリー不能エラーが検出されました。このメッセージは、診断 AWE の処理中に、リカバリー不能エラーまたは無効な AWE 要求が検出された場合に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason_text

特定のエラーを識別します。

DUPLICATE INITIALIZATION AWE

重複した初期設定 AWE 要求を受け取りました。許可される初期設定 AWE 要求は 1 つだけであるため、重複した要求は無視されます。

DUPLICATE TERMINATION AWE

重複した終了 AWE 要求を受け取りました。許可される終了 AWE 要求は 1 つだけであるため、重複した要求は無視されます。

request **QUEUED PRIOR TO INIT**

初期設定 AWE 要求を受け取って処理する前に、AWE 要求を受け取りました。初期設定 AWE 要求は、最初にキューに入れられて処理される AWE でなければなりません。理由テキスト *request* は、受け取った AWE 要求のタイプを示しています。AWE は無視されます。

UNKNOWN AWE FUNCTION: hex_id

診断 AWE プロセッサに認識されていない AWE 要求を受け取りました。理由テキストで、*hex_id* は、要求された不明な AWE 機能の 16 進 ID を示します。AWE は無視されます。

システムの処置: IMS は処理を続行しますが、要求された診断 AWE サービスは正常に完了しませんでした。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSDGS80

**DFS3787E DIAGNOSE SYSOUT PROCESSING
ERROR – reason_text**

説明: /DIAGNOSE コマンドの SYSOUT 要求の処理中にリカバリー不能エラーが検出されました。このメッセージは、/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT 処理中

に、リカバリー不能エラーが検出された場合に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason_text

特定のエラーを識別します。

INVALID FUNCTION CODE SPECIFIED

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT I/O サービスに対する呼び出しが、無効な機能を要求しました。無効な要求は無視されます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、エラーを報告してください。

INVALID STATE FOR function REQUEST

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT I/O サービスに対する呼び出しが、理由テキストに示されている順不同の機能を要求しました。無効な要求は無視されます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、エラーを報告してください。

ALLOCATION FAILED RC=*retcode*

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。有効な SYSOUT クラスが指定されていること、および JES サービスが使用可能であることを確認してください。エラーが続く場合は、理由テキストの中の戻りコード *retcode* を書き留めてください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。

DCBB GETSTOR FAILED RC=*retcode*

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。DCBB ストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われましたが、GETSTOR はゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IMS のストレージの問題が一時的なものである場合は、後で要求を再発行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

SIQB GETSTOR FAILED RC=*retcode*

要求された SYSOUT データ・セット

の割り振り中にエラーが検出されました。SIOB ストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われましたが、GETSTOR はゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IMS のストレージの問題が一時的なものである場合は、後で要求を再発行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DECB GETSTOR FAILED RC=*retcode*

要求された SYSOUT データ・セットの割り振り中にエラーが検出されました。DECB ストレージを割り振るために GETSTOR 呼び出しが行われましたが、GETSTOR はゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IMS のストレージの問題が一時的なものである場合は、後で要求を再発行してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DATASET OPEN FAILED RC=*retcode*

要求された SYSOUT データ・セットのオープン時にエラーが検出されました。システムの OPEN サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、エラーを報告してください。

DATASET CHECK FAILED RC=*retcode*

要求された SYSOUT データ・セットの書き込みバッファの検査中にエラーが検出されました。システムの CHECK サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性が

あるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET CLOSE FAILED RC=*retcode*

SYSOUT データ・セットのクローズ中にエラーが検出されました。システムの CLOSE サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET WRITE FAILED RC=*retcode*

SYSOUT データ・セットへの書き込み中にエラーが検出されました。システムの WRITE サービスは、ゼロ以外の戻りコード *retcode* を返しました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET SYNAD/ABEND EXIT CALLED

SYSOUT データ・セットでエラーが検出されました。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してエラーを報告し、診断 X'67D0' ログ・レコードが入った IMS システム・ログを保管します。このログ・レコードは、エラーに関する詳細情報を提供します。また、エラーに関連する z/OS IEC メッセージが入っている可能性があるシステム・ログまたは IMS ジョブ・ログも保存してください。

DATASET WRITING PAST LAST BLOCK

/DIAGNOSE コマンドの SYSOUT I/O サービスに対する呼び出しが、順不同の WRITE 機能を要求しました。無効な要求は無視されます。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、エラーを報告してください。

DFS3788I • DFS3793E

システムの処置: IMS は処理を続行しますが、要求された /DIAGNOSE コマンドの SYSOUT は正常に完了しませんでした。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSDGS82

関連資料:

 /DIAGNOSE SNAP コマンド (コマンド)

DFS3788I DIAGNOSE SYSOUT DATA SET

*dsname action FOR SNAP resource
TKN(token)*

説明: /DIAGNOSE コマンドで要求された SYSOUT データ・セットがオープンまたはクローズされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname SYSOUT データ・セットの名前。

action データ・セットに対して実行されるアクション (OPENED または CLOSED)。

resource

SYSOUT データ・セット要求に関連付けられている /DIAGNOSE SNAP コマンド・リソースの名前。

token /DIAGNOSE SNAP コマンドの SYSOUT 要求に関連付けられている固有の 8 バイトの 16 進トークン。このトークンは、メッセージ DFS3789I に含まれているトークンと同じであり、コマンド・アクションと SYSOUT 結果を相関させるために使用できます。

システムの処置: /DIAGNOSE コマンドの SYSOUT データ・セットが正常にオープンまたはクローズされました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSDGS82

関連資料:

 /DIAGNOSE SNAP コマンド (コマンド)

DFS3789I DIAGNOSE COMMAND SNAP

*resource QUEUED TO SYSOUT
TKN(token)*

説明: OPTION(SYSOUT) が指定された /DIAGNOSE コマンドが発行され、SNAP データ・キャプチャー・プロセスが完了し、結果は SYSOUT 処理のために DGS AWE プロセッサに正常にエンキューされました。

952 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource

コマンドで指定されている SNAP リソース・タイプ。

token

/DIAGNOSE SNAP コマンドの SYSOUT 要求に関連付けられている固有の 8 バイトの 16 進トークン。このトークンは、メッセージ DFS3788I に含まれているトークンと同じであり、コマンド・アクションと SYSOUT 結果を相関させるために使用できます。

システムの処置: 要求された /DIAGNOSE コマンドが正常に処理され、要求された SNAP データが SYSOUT 処理のためにエンキューされました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSDGS9C

関連資料:

 /DIAGNOSE SNAP コマンド (コマンド)

DFS3792 QCNT KEYWORD INVALID WITH DISPLAY BY ATTRIBUTE OPTION

説明: ユーザーを属性ごとに表示するときに、QCNT キーワードを /DISPLAY USER コマンドで使用できません。ノードを属性ごとに表示するときに、QCNT キーワードを /DISPLAY NODE コマンドで使用できません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 特定のユーザーまたはノードを指定するか、または QCNT キーワードを省略します。コマンドを再入します。

モジュール: DFSIDPE0、DFSIDPB0

DFS3793E AN EMERGENCY RESTART CANNOT BE USED TO INTRODUCE THE CURRENT CHANGE TO ACBMGMT SUPPORT.

説明: 緊急時再始動時に、IMS は、緊急時再始動時にオンライン IMS システムに導入できない ACB の IMS 管理 (ACBMGMT) のサポートに対する変更を検出しました。

システムの処置: IMS の再始動は終了し、IMS は異常終了 U0071 を発行します。

システム・プログラマーの応答: チェックポイントを指定せずに (/NRE CHECKPOINT 0) コールド・スタートまたは正常再始動を使用して、ACB の IMS 管理の

サポートに対する現在の変更を活動化してください。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

➡ IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

関連資料:

➡ DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

関連情報:

➡ 0071 (メッセージおよびコード)

DFS3794W AN INCOMPLETE SNAPQ CHECKPOINT MAKES TAKEOVER IMPOSSIBLE. ALTERNATE SYSTEM IS TERMINATED.

説明: XRF 代替システムが、トラッキング・フェーズに必要な SNAPQ チェックポイントの読み取りを開始し、チェックポイントが完了していないことが検出されました。

システムの処置: 代替 IMS はシャットダウンされません。

プログラマーの応答: アクティブな代替システムを再始動します。

DFS3795I IOT EEQE PURGE FAILED.
AREA=areaname RBA=xxxxxxx RC=yy

説明: I/O 許容 EEQE パージ処理中に、少なくとも 1 つの EEQE をパージできませんでした。IMS は、パージされなかった EEQE ごとにこのメッセージを出力し、直後にメッセージ DFS0488I が続きます。

areaname は、関連エリアの名前を示し、*xxxxxxx* は、関連 CI の RBA を示します。理由コード *yy* の意味は、次のとおりです。

コード (10 進数)

意味

- 04 CI ロックの取得要求が失敗しました。
- 08 エリア・ロックの取得要求が失敗しました。
- 12 エリアの OPEN 要求が失敗しました。
- 16 EEQE をパージしようとしたときに I/O エラーが発生しました。
- 20 I/O 許容パージが VSO エリアの許容データの書き込み準備をしていましたが、2 番目の CI の書き込みエラーによって、エリア・データ・セットが停止しました (または停止処理中)。エリア・データ・セットの停止によって、エリア

全体が停止する場合があります。この場合は、パージが続行されると、異常終了します。

システムの処置: IMS は処理を続行しますが、EEQE パージをスキップします。

オペレーターの応答: /UNLOCK SYSTEM コマンドを発行した後、EEQE をパージします。

戻りコードが 12 の場合は、指定されたエリアについて /START AREA コマンドまたは UPDATE AREA START(ACCESS) コマンドを発行します。その後、再び /UNLOCK SYSTEM を発行してください。

IMS は、EEQE のパージを要求したときに XRF テークオーバー処理が完了していない場合にのみ、戻りコード 16 を発行します。テークオーバー処理が完了した後で /UNLOCK コマンドを再入すると、通常、パージは正常に終了します。パージされない EEQE を表示するには、/DIS DB ALL BKERR コマンドを入力します。

エリアが停止した場合は、エリアをリカバリーします。

DFS3796W AT LEAST ONE FAST PATH EEQE STILL EXISTS.

説明: 通常のシャットダウン処理中に、IMS は、まだ少なくとも 1 つの EEQE (拡張エラー・キュー・エレメント) が存在することを検出しました。

システムの処置: 通常シャットダウン処理が継続されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに通知してください。

プログラマーの応答: メッセージ DFS3867I を参照して、適当なアクションを判別します。

関連情報:

968 ページの『DFS3867I』

DFS3798 SB NOT INITIALIZED

説明: /START SB コマンドは、IMS.PROCLIB のメンバー DFSVSMxx の中で SBONLINE 制御ステートメントが提供されなかったために、処理されませんでした。

システムの処置: IMS は、順次バッファリング (SB) モジュールをロードしませんでした。/START SB コマンドは処理されません。

ユーザーの処置: SB を使用したい場合は、IMS.PROCLIB の適切な DFSVSMxx メンバーの中で SBONLINE 制御ステートメントを提供します。

DFS3799 SB NOT FUNCTIONAL

説明: /START SB コマンドは、前の IMS ソフトウェア問題が原因で順次バッファリング (SB) を使用できないために、処理されませんでした。

システムの処置: IMS は /START SB コマンドを破棄します。

ユーザーの処置: 前に発行され、IMS が SB を非活動化する原因となったソフトウェア問題を記述しているエラー・メッセージを調べてください。

DFS3800 UNABLE TO ACQUIRE STORAGE FOR MFS DYNAMIC DIRECTORY EXPANSION

説明: IMS 拡張専用域のストレージは、初期設定時に MFS 動的ディレクトリーの拡張に使用できません。

システムの処置: MFS 動的ディレクトリーが固定されます。フォーマット・ブロックは、これ以上必要ありません。ディレクトリーは固定された状態のままとなり、このメッセージは、次回に IMS が再始動されるか、または /CHANGE DIRECTORY MFS コマンドが正常に完了するまで再発行されません。このコマンドは、MFS 動的ディレクトリーを、IMS 初期設定の直後に存在していた「プライム状態」に復元します。

プログラマーの応答: 次回の再始動まで、固定された MFS 動的ディレクトリーを使用して IMS システムを稼働できるようにするか、可能であれば /CHANGE DIRECTORY MFS コマンドを発行してください。

第 80 章 DFS メッセージ DFS3801 - DFS3850A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3801 **CHKPT SNAPQ REQUIRED ON ACTIVE SYSTEM**

説明: 代替システムが、30 秒後に、アクティブ・システムの 'SNAPQ チェックポイントを見つけることができない場合は、XRF 複合システム内の代替システムがこのメッセージをマスター端末オペレーター (MTO) に送信します。

システムの処置: 代替システムが継続されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) アクティブ・システムが SNAPQ チェックポイントを取得したかどうかを判別します。これ以外の場合は、アクティブ・システムで /CHE SNAPQ コマンドを入力して、手動 SNAPQ チェックポイントを強制します。アクティブ・システムが SNAPQ チェックポイントを取得した後、このメッセージが続く場合は、問題が代替システムに存在する可能性があります。メモリー・ダンプ付きで代替システムをキャンセルします。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3802W **XRF NOT POSSIBLE - ONLY ONE RDS ALLOCATED.**

説明: XRF で定義された IMS システムは開始済みでしたが、JCL には 1 つの再始動データ・セット (RDS) DD ステートメントしか含まれていませんでした。

システムの処置: 始動されようとしていた IMS 代替システムは異常終了します。他の IMS システムの始動は継続しますが、システムは XRF に対応しなくなります。

プログラマーの応答: XRF 対応システムが必要な場合は、IMS システムをシャットダウンしてください。再始動データ・セット用の IMSRDS および IMSRDS2 DD ステートメントを組み込んでから、IMS システムを再始動します。

DFS3803I **ENTER /SWITCH TO CAUSE THE BACKUP TO TAKEOVER**

説明: 代替 (バックアップ) システムがアクティブ・システムに潜在的な障害を検出しましたが、オペレーターは、すべてのテークオーバーを承認する必要があります。

システムの処置: 代替システムは、アクティブ・システムのトラッキングを継続します。

オペレーターの応答: (マスター端末) テークオーバーを開始するには、代替システムで /SWITCH SYSTEM FORCE を入力します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3804I **LATEST RESTART CHKPT: yyddd/hhmmss, LATEST BUILDQ CHKPT: yyddd/hhmmss**

または

**[LATEST] [RESTART] CHKPT: yyddd/hhmmss,
HSBID=xx - [LATEST] BUILDQ CHKPT:
yyddd/hhmmss, HSBID=xx**

または

**LOG READ CHKPT: yyddd/hhmmss - RESTART
CHKPT: yyddd/hhmmss, HSBID=xx - BUILDQ
CHKPT: yyddd/hhmmss, HSBID=xx**

説明: このメッセージは、各 IMS チェックポイントの完了時に、DC ブロックのロードに有効な最後のチェックポイント ID を IMS がユーザーに示すために発行します。XRF 環境で実行している場合、それは、どの IMS システム (HSBID) が CHKPT を書き込んだかを示しています。最後の RESTART または RESTART CHKPT は、XRF システムが異常終了したときに、どの IMS システムを再始動する必要があるかを示します。これについての例外は BLDQ 再始動で、この再始動は、どの IMS システムでも行うことができます。

このメッセージの最初の形式は、非 XRF 環境で発行されます。

このメッセージの 2 番目の形式は、通常、XRF で実行中に発行されます。シャットダウン・チェックポイントまたは再始動後の XRF システムの場合は、LATEST という語はメッセージに表示されません。また、RESTART という語は、RST と略記されます。

このメッセージの 3 番目の形式が発行されるのは、テークオーバーが発生した後、しかも、IMS リカバリーに必要なシステム・チェックポイントが LAST DC CHKPT の前、またテークオーバーの前に書き込まれた

場合だけです。新しいチェックポイント ID の LOG READ CHKPT は、IMS が入力ログの読み取りを開始するチェックポイントだけを示しています。このチェックポイント ID は HSBID を持っておらず、どの IMS システムを再始動するかを判別するときに、これを使用してはなりません。

一部の環境では、シャットダウンまたは取り消し中に最後のチェックポイントになったために、IMS がこのメッセージを発行できなかった可能性があります。このような事情では、後で再始動すると異なる CHKPT が示される場合があります。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

オペレーターの応答: マスター端末オペレーターの応答 この情報は、XRF のテークオーバーの後に再始動する IMS システムを判別するのに役立ちます。

**DFS3805 SURVEILLANCE KEYWORD
INVALID - NO XRF CAPABILITY**

説明: /CHANGE SURVEILLANCE コマンドが、XRF 非対応のシステムで入力されました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

**DFS3806 BACKUP KEYWORD INVALID - NO
XRF CAPABILITY**

説明: /ERE BACKUP コマンドまたは /STOP BACKUP コマンドが、XRF 非対応のシステムで入力されました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

**DFS3807 MORE THAN 1 PARAMETER IN
/STA OR /STO SURVEILLANCE
COMMAND**

説明: /START コマンドまたは /STOP SURVEILLANCE コマンドが、複数の SURVEILLANCE パラメーターと共に入力されました。SURVEILLANCE パラメーターは、以下のいずれかであればなりません。

- LNK
- RDS
- LOG
- ALL

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: SURVEILLANCE パラメーターを 1 つのみ指定して、コマンドを再入します。

**DFS3808I RDS|LNK|LOG SURVEILLANCE
ALREADY STARTED|STOPPED**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- /START SURVEILLANCE コマンドが入力されましたが、指定されたタイプの監視はすでに開始していました。
- /STOP SURVEILLANCE コマンドが入力されましたが、指定されたタイプの監視はすでに停止していました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3809 NO LINK SURVEILLANCE - LINK
NOT DEFINED**

説明: /START または /STOP SURVEILLANCE LNK コマンドが入力されましたが、アクティブな IMS システムと代替 IMS システムの間のシステム間連絡 (ISC) リンクが IMS に対して定義されていません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: この監視が必要な場合は、XRF 対応 IMS システムへの ISC リンクを定義します。

**DFS3810 KEYWORD ACTIVE OR BACKUP
DOES NOT MATCH SYSTEM OR IS
MISSING**

説明: 次のいずれかが発生しました。

- /SWITCH SYSTEM コマンドが、アクティブ・システムまたは代替 (バックアップ) システム (ACTIVE/BACKUP) のいずれれに入力されたかを示すキーワードが、実際のシステムに対応していない。
- キーワード ACTIVE が欠落している。/SWITCH SYSTEM コマンドをアクティブ・システムで入力する場合は、キーワード ACTIVE を指定する必要があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: コマンドを入力するシステムの状態 (アクティブまたは代替) を確認してください。

**DFS3811I LNK|RDS|LOG SURVEILLANCE
ACTIVE|INACTIVE;
INTERVAL|TIMEOUT VALUE
CHANGED FROM *xx* TO *yy***

説明: この通知メッセージは、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドに対する応答であり、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。メッセージには、次の情報が含まれています。

- 変更された監視のタイプ (LNK|RDS|LOG)
- そのタイプの監視がアクティブであるか非アクティブであるか
- オリジナル (*xx*) および新規 (*yy*) のインターバル値またはタイムアウト値

システムの処置: システムは処理を続行します。

プログラマーの応答: コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。

関連情報:

40 ページの『DFS058I』

**DFS3812I BACKUP LNK|RDS|LOG INTERVAL
VALUE OF *xx* HAS BEEN FORCED
TO ACTIVE VALUE OF *yy***

説明: この通知メッセージは、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドに対する応答として発行され、そのコマンドの処理を継続するために、IMS がシステム・データを変更したことを示します。タイムアウト値またはインターバル値が、代替 (バックアップ) システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力することによって変更されており、インターバル値がアクティブなインターバル値よりも小さい場合、代替のインターバル値のデフォルトは、アクティブなインターバル値になります。このメッセージは、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。

システムの処置: IMS は、変更されたデータを使用し、コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。異なる結果が必要な場合は、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドを再入力してください。

関連情報:

40 ページの『DFS058I』

**DFS3813 SYSTEM NOT XRF CAPABLE -
COMMAND REJECTED**

説明: /DIS HSB コマンドまたは /UNLOCK SYSTEM コマンドが、XRF 非対応のシステムで入力されました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

モジュール: DFSICLN0

DFS3814 FORCE KEYWORD IS REQUIRED

説明: 代替システムで /SWITCH を入力する場合は、FORCE キーワードが必要です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 現行のアクティブ・システムから代替システムに処理を切り替える場合は、FORCE キーワードを追加してコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3815 RDS SURVEILLANCE NOT STARTED
DUE TO WRITE ERROR ON THE
ACTIVE**

説明: 直前にアクティブ・システムで書き込みエラーが発生したため、再始動データ・セット (RDS) の監視を開始するコマンドがリジェクトされました。

システムの処置: RDS 監視を開始するコマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 書き込みエラーの原因を判別します。再始動データ・セット (RDS) を再フォーマット設定する必要がある場合があります。

**DFS3816 COMMAND REJECTED - SNAPQ
CHECKPOINT NOT YET FOUND**

説明: アクティブ・システムから SNAPQ チェックポイントを処理して代替システムをアクティブ・システムに同期させるまでは、監視を開始または停止することはできません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) アクティブ・システムが INSYNCH メッセージ DFS3858I を発行するまで待機します。その上で、SURVEILLANCE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連情報:

966 ページの『DFS3858I』

**DFS3817 SURVEILLANCE KEYWORD
PARAMETER IS MISSING OR
INVALID**

説明: 次のいずれかの理由で、/CHANGE SURVEILLANCE コマンド、/START SURVEILLANCE コマンド、または /STOP SURVEILLANCE コマンドがリジェクトされました。

- SURVEILLANCE パラメーターが欠落しているか、または無効である。
- 複数の SURVEILLANCE パラメーターが入力された。

有効な SURVEILLANCE パラメーターは LNK、再始動データ・セット(RDS)、LOG、および ALL です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: SURVEILLANCE パラメーターを訂正した後、コマンドを再入力します。

**DFS3818 INTERVAL KEYWORD PARAMETER
IS MISSING OR INVALID**

説明: 次のいずれかの理由で、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドがリジェクトされました。

- INTERVAL 値が欠落しているか、または無効である。
- 複数の INTERVAL 値が入力された。

INTERVAL 値は、0 よりも大きく 100 よりも小さくする必要がありす。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: INTERVAL 値を訂正した後、コマンドを再入します。

**DFS3819 TIMEOUT KEYWORD PARAMETER
IS MISSING OR INVALID**

説明: 次のいずれかの理由で、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドがリジェクトされました。

- TIMEOUT 値が欠落しているか、または無効である。
- 複数の TIMEOUT 値が入力された。

TIMEOUT 値は、0 よりも大きく 100 よりも小さくする必要がありす。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: TIMEOUT 値を訂正した後、コマンドを再入します。

**DFS3820 TOD NOT OPERATIONAL/
AVAILABLE**

説明: 時刻機構 (TOD)クロックを監視機能で使用できませんでした。

システムの処置: 通常処理を継続しますが、ISC 監視および再始動データ・セット (RDS) 監視は使用できません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3821 GETMAIN FAILED FOR TIMER
WORKAREAS**

説明: 一時記憶領域が作業領域として使用不可だったため、監視が機能していません。

システムの処置: ISC および再始動データ・セット (RDS) 監視を使用せずに処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドを再試行してください。再度失敗する場合は、制御領域のサイズを増やしてから開始してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3822 INVALID SURVEILLANCE REQUEST

説明: /START コマンドまたは /STOP SURVEILLANCE コマンドが、無効なパラメーターと共に入力されました。SURVEILLANCE パラメーターは、LNK、RDS、LOG、または ALL のうちのいずれか 1 つである必要があります。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 正しいパラメーターでコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3823 I/O ERROR DURING
SURVEILLANCE READ/WRITE ON
xxxxxxx**

説明: 再始動データ・セット (RDS) の監視がアクティブのときに、RDS で読み取りまたは書き込みエラーが発生しました。変数 xxxxxx の値は、次のいずれかです。

IMSRDS

エラーは、IMSRDS DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

IMSRDS2

エラーは、IMSRDS2 DD ステートメントで定義されているデータ・セットで発生しました。

システムの処置: 処理は継続されますが、RDS 監視は停止し、テークオーバーの決定には参加しなくなります。

オペレーターの応答: (マスター端末) 入出力エラーの原因を判別し、必要な場合は、RDS を再フォーマットしてください。RDS フォーマットを行うことができるのは、アクティブ・システムの再始動時のみです。

DFS3824 COMMAND INVALID FOR BACKUP SYSTEM

説明: 代替 (バックアップ) システムで無効のコマンドが入力されたか、コマンド構文が代替システムにとって正しくありませんでした。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: アクティブ・システムでコマンドを再入力するか、コマンド構文を訂正して代替システムに再入力します。

DFS3825 COMMAND INVALID FOR ACTIVE SYSTEM

説明: /STOP BACKUP コマンドがアクティブ・システムで入力されました。/STOP BACKUP コマンドは、代替 (バックアップ) システムで入力された場合にのみ有効です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: 代替システムを終了する場合は、代替システムでこのコマンドを入力します。

DFS3826 TRANSACTION KEYWORD PARAMETER IS MISSING OR INVALID

説明: /CHANGE TRANSACTION MAXRGN コマンドの TRANSACTION パラメーターが無効か、または欠落していました。TRANSACTION パラメーターは、次のいずれかの理由で無効でした。

- トランザクション・コードが 8 文字より長い。
- トランザクション・コードが IMS に既知でなかった。
- 指定されたトランザクションに対してロード・バランシングが有効でなかった。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: トランザクション・コードを確認した後、コマンドを再入力します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3827 MAXRGN KEYWORD PARAMETER IS MISSING OR INVALID

説明: MAXRGN パラメーターが無効か、または欠落していたため、/CHANGE TRANSACTION MAXRGN コマンドがリジェクトされました。MAXRGN パラメーターは、次のいずれかの理由で無効でした。

- MAXRGN パラメーターの範囲は、0 から 255 の範囲内である必要がある (両端を含む)。
- 複数の MAXRGN パラメーターが入力された。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: MAXRGN パラメーターを訂正した後、コマンドを再入します。

DFS3828 UNABLE TO PROCESS /DISPLAY OLDS COMMAND - LOG NOT AVAILABLE

説明: ログ・データ・セットが使用不可であるときに、代替システムの初期設定中またはトラッキング・フェーズで /DISPLAY OLDS コマンドが入力されました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: 代替システムがテークオーバーしてアクティブ・システムになるまで待機した後、/DIS OLDS コマンドを入力します。この場合にのみ、ログ・データ・セットが使用可能になります。

DFS3829 NOBACKOUT KEYWORD INVALID WITH DATABASE ALL

説明: DATABASE パラメーターの ALL をパラメーター NOBACKOUT と共に使用することはできません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

プログラマーの応答: コマンドを 1 つ以上の特定の DATABASE パラメーターと共に再入します。

DFS3830 NO DEFERRED PAGE FIXING WAS DONE

説明: アクティブ・システムは、XRF 複合システム内の IMS システムに対する据え置きページ固定の要求を検出しませんでした。

システムの処置: システムは通常処理を継続します。

プログラマーの応答: 据え置きページ固定が必要な場合は、XRF の IMS.PROCLIB メンバーの定義に関する情報を参照してください。

関連資料:

 XRF のための IMS.PROCLIB メンバーの定義 (システム管理)

**DFS3831 MODETABLE KEYWORD INVALID
WITH DISPLAY BY ATTRIBUTE
OPTION**

説明: 属性によってノードを表示する場合、/DISPLAY NODE コマンドでは、MODETABLE キーワードが使用できません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 特定のノード名ではなく、ALL キーワードを指定してコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3832I LNK|RDS|LOG TIMEOUT VALUE
OF xx HAS BEEN FORCED TO yy**

説明: この通知メッセージは、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドに対する応答として発行され、そのコマンドの処理を継続するために、IMS がシステム・データを変更したことを示します。このメッセージは、次の場合に発行されます。

- 代替システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してタイムアウト値を変更し、新規のタイムアウト値が代替のインターバル値の 2 倍よりも小さい場合
- アクティブ・システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してタイムアウト値を変更し、新規のタイムアウト値がアクティブなインターバル値の 2 倍よりも小さい場合
- 代替システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してインターバル値を変更し、新規のインターバル値の 2 倍が代替のタイムアウト値よりも大きい場合
- アクティブ・システムで /CHANGE SURVEILLANCE を入力してインターバル値を変更し、新規のインターバル値の 2 倍がアクティブのタイムアウト値よりも大きい場合

このメッセージは、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。

システムの処置: IMS は、変更されたデータを使用して、コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。異なる結果が必要な場合は、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連情報:

40 ページの『DFS058I』

**DFS3833I BACKUP LNK|RDS|LOG INTERVAL
VALUE OF xx HAS BEEN FORCED
TO LNK|RDS|LOG INTERVAL
VALUE OF yy**

説明: このメッセージは、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドに対する応答として発行され、そのコマンドの処理を継続するために IMS がシステム・データを変更したことを示します。このメッセージは、次の場合に発行されます。

- 代替 (バックアップ) システムで /CHANGE SURVEILLANCE LNK または /CHANGE SURVEILLANCE RDS を入力してインターバル値が変更され、新しい代替インターバル値が代替 LOG インターバル値よりも小さい場合。
- 代替システムで /CHANGE SURVEILLANCE LOG を入力してインターバル値を変更し、新規の代替インターバル値が代替 RDS インターバル値および LNK インターバル値よりも大きい場合。
- LOG パラメーターで指定されたインターバル値が、RDS パラメーターまたは LNK パラメーターで指定されたインターバル値よりも大きい場合。LOG パラメーターのインターバル値は、再始動データ・セット (RDS) インターバル値および LNK インターバル値以下である必要があります。この制限は、メンバー DFSHSBxx で行われたオリジナルの指定か、または /CHANGE SURVEILLANCE コマンドを使用して変更された指定に適用されます。

このメッセージは、DFS058I CHANGE COMMAND COMPLETED メッセージと共に発行されます。

システムの処置: IMS は、変更されたデータを使用して、コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: (マスター端末) コマンドの結果が意図したものであることを確認してください。異なる結果が必要な場合は、/CHANGE SURVEILLANCE コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連情報:

40 ページの『DFS058I』

**DFS3834W ALTERNATE IS (IN DANGER OF)
FALLING BEHIND**

説明: IMS XRF 代替サブシステムにおいて、アクティブな IMS XRF サブシステムで作成されたログ・レコードの処理が遅れているか、または遅れる危険性があります。

1 分間の統計が収集され、これらの状態のいずれが発生したかが判別されます。いずれかの状態が発生している

場合は、その状態がクリアされるまでメッセージがシステム・コンソールで強調表示され、そのまま表示され続けます。

「遅れ」状態によってテークオーバーが必要になった場合は、時間が延びる可能性があります。

システムの処置: IMS 代替システムは、アクティブ・システムのトラッキングを継続して、時間が経過すると追いつくことができます。代替システムが追いつくまでは、このメッセージがシステム・コンソールで表示され、強調表示されます。その時点で、メッセージは強調表示されなくなり、画面がロールオフされます。

オペレーターの応答: 適切な予防措置を行うために、「危険な状態」を示すメッセージが表示され続けていることをシステム・プログラマーに警告してください。代替システムが遅れている場合は、テークオーバーの経過時間が延びることがあります。/DISPLAY HSB コマンドを入力すると、アクティブ・システムに対する時間のずれを見積もることができます。

システム・プログラマーの応答: 「遅れ」の期間の原因を判別し、適切な予防措置を行い、必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

次のアクションが考えられます。

- 短いメッセージ・キュー・データ・セットと長いメッセージ・キュー・データ・セットの間の使用状況のバランスをとる。
- すでにオフになっているデバイスに対するメッセージ・キューがいっぱいになっていないことを確認する。
- アクティブ・システムおよび XRF 代替システムに割り当てられているメッセージ・キュー・バッファの数を増やす。
- メッセージ・キュー・データ・セットを含むデバイスのいずれかで入出力の割合が高い場合は、最も高い入出力アクティビティのデータ・セットを別のデバイスに分割する。

DFS3835W WAITING FOR THE FDBR REGION RECOVERY FOR IMSID *imsid*

説明: 示されている IMS サブシステムは以前の障害発生後に再始動していますが、関連する高速データベース・リカバリー領域 (FDBR) が以前の障害からクリーンアップを完了するまで待ち状態になっています。次のいずれかの状態が発生した可能性があります。

- FDBR 領域が稼働中でリカバリーを実行している。
- FDBR 領域が FDBR 領域 `syslog` で示されている何らかの処置を待機している。

- FDBR 領域が稼働している中央演算処理複合システム (CPC) 内で障害 (例えば、XCF 通信の故障) が発生した。
- FDBR 領域が異常待ちまたはループ状態である。

システムの処置: このメッセージは、FDBR 領域によるリカバリー処理の間、オペレーター・コンソールに残されます。完了時に、システムはこのメッセージをコンソールから除去します。

オペレーターの応答: 示されている *imsid* の FDBR 領域が稼働中でリカバリーを実行している場合、リカバリーの進行状況を示すメッセージを生成します。処置は必要ありません。

FDBR 領域が FDBR 領域 `SYSLOG` で示されている何らかの処置を待機している場合、関連するメッセージで指定された処置を実行してください。

中央演算処理複合システム (CPC) で障害 (例えば、XCF 通信の故障) が発生した場合は、`z/OS MODIFY` コマンド (`F fdrproc,RECOVER`) を入力してデータベース・リカバリーを開始してください。

FDBR 領域が異常待ちまたはループ状態である場合は、FDBR 領域を取り消してください。

モジュール: DFSRST00

DFS3838I XRF INITIAL DB PRE-OPEN COMPLETE

説明: XRF 複合システム体で、アクティブ・システムが、初期の SNAPQ チェックポイントを処理したときに開いていたすべての DL/I データベースおよびすべての DEDB エリア・データ・セットを代替システムが事前に開こうとしました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3839I XRF INITIAL DC PRE-OPEN COMPLETE

説明: XRF 複合システムで、代替 IMS システムがすべての端末の状況をチェックし、初期 SNAPQ チェックポイントの時点でアクティブ・システムにログオンされたすべてのクラス 1 端末のバックアップ・セッションの開始をオープンし、スケジュールしました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3840 OPEN ERROR FOR
DDNAME=PROCLIB**

説明: PROCLIB DD ステートメントで定義されているデータ・セットを開くことができませんでした。

システムの処置: XRF 機能を持たずに処理を継続します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: PROCLIB DD ステートメントを訂正します。

**DFS3841I LNK|RDS|LOG SURVEILLANCE
INTERVAL VALUE EXCEEDS
ALLOWABLE LIMIT.**

説明: PROCLIB メンバー DFSHSBxx の LNK、再始動データ・セット (RDS)、または LOG 監視のインターバル値が 99 秒を超えました。

システムの処置: LNK、RDS、または LOG 監視のデフォルトのインターバル値が使用されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: PROCLIB メンバー DFSHSBxx に正しい値を定義します。

**DFS3842I LNK|RDS|LOG SURVEILLANCE
TIMEOUT VALUE EXCEEDS
ALLOWABLE LIMIT**

説明: PROCLIB メンバー DFSHSBxx の LNK、再始動データ・セット (RDS)、または LOG 監視のタイムアウト値が 999 秒を超えました。

システムの処置: LNK、RDS、または LOG 監視のデフォルトのタイムアウト値が使用されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: PROCLIB メンバー DFSHSBxx に正しい値を定義します。

**DFS3843I START COMMAND REJECTED-xxx
SURV. NOT STARTED ON ACTIVE
SYSTEM.**

説明: 代替システムで LNK、LOG、再始動データ・セット (RDS)、または ALL 監視を開始しようとしたのですが、対応する監視がアクティブ・システムで開始していませんでした。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) アクティブ・システムで該当する監視が最初に開始済みであることを確認してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3844I MSDB DDNAME= MSDBCPx
SUCCESSFULLY UNALLOCATED**

説明: XRF 対応システムにおいて、2 つの MSDB チェックポイント・データ・セットのペアが開始用として割り振られています。MSDB がロードされた後、2 つのデータ・セットのペアのうち 1 つのみが使用されず、使用されていない MSDB チェックポイント・データ・セットのペアは、割り振り解除されます。このメッセージは、ペアになっている 2 つのデータ・セットのそれぞれに対して割り振り解除された後に発行されます。

システムの処置: z/OS は、メッセージに示されている DD 名に関連したデータ・セットを動的に割り振り解除しました (SVC 99)。通常処理を継続します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3845 NO SURVEILLANCE VALUES
SPECIFIED, DEFAULTS WILL BE
USED**

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の XRF 関連パラメーターに、SURV (監視) 値が含まれていませんでした。

システムの処置: デフォルトの監視値を使用して処理を継続します。

オペレーターの応答: このメッセージが予期しないものである場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: デフォルトの監視値が受け入れ可能かどうかを検査します。可能でない場合は、メンバー DFSHSBxx に SURV エントリーを作成してください。

**DFS3846I SURVEILLANCE FUNCTION NOT
SUPPORTED IN A NON-XRF
ENVIRONMENT**

説明: XRF 非対応のシステムで監視を実行できません。

システムの処置: 監視は実行されません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: XRF 機能が必要な場合は、IMS システムを XRF 対応システムとして定義します。

**DFS3847 FORMAT ERROR IN READING
FROM PROCLIB PARAMETER IN
COLUMN xx**


説明: PROCLIB データ・セット・メンバー DFSHSBxx または DFSFDRxx のパラメーターのフォーマットが間違っています。値 xx は、エラーが検出された列番号を示します。

システムの処置: 処理は継続されますが、フォーマット・エラー後の DFSHSBxx 内のパラメーターは無視されます。DFSFDRxx でのエラーの場合、高速データベース・リカバリー (FDBR) は IMS 異常終了 0574 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: PROCLIB メンバー DFSHSBxx または DFSFDRxx のパラメーターのフォーマットを訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0574

**DFS3848 BLDL FAILED FOR FOLLOWING
MODULES**

説明: 1 つ以上のユーザー作成の事前初期設定ルーチンが見つかりませんでした。見つからなかったルーチンは、メッセージ内にリストされます。


システムの処置: 従属領域は、異常終了 0588 で終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: エラー・メッセージにリストされているロード・モジュールは、PROCLIB 内の DFSINTxx メンバーで指定されていますが、ジョブ・ステップで使用可能ないずれのプログラム・ライブラリーでも見つけることができません。これらのロード・モジュールを実行する必要がない場合は、DFSINTxx から除去します。実行する場合は、これらのロード・モジュールをジョブ・ステップで使用可能なライブラリーにリンクします。

問題判別: 1、2、6、11、35

関連情報:

 IMS 異常終了 0588

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3849 PERMANENT I/O ERROR ON
JOB/LINK/SVCLIB FOR FOLLOWING
MODULES**


説明: ユーザー作成の事前初期設定ルーチンを探索中に、永続的な入出力エラーが検出されました。入出力エラーが原因で見つからなかったロード・モジュールは、メッセージにリストされます。

システムの処置: 従属領域が、疑似異常終了 0588 で終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 異常終了 0588 に関する情報を参照してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 0588

**DFS3850A ENTER /STA DC COMMAND TO
OPEN VTAM ACB**

説明: アクティブ・システムは VTAM ACB を開くことができませんでしたが、XRF 複合システム内の代替 IMS システムは、システム初期設定中に VTAM ACB を開くことができませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: (マスター端末) VTAM ACB によって参照される VTAM マイナー・ノード (APPLID) が正しく初期設定されていることを確認した後、代替システムで /START DC を発行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、3、6、10、および IMS システム用の VTAM ACB によって参照される VTAM マイナー・ノード (APPLID) の VTAM 定義。

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 81 章 DFS メッセージ DFS3851I - DFS3900I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3851I YOU CANNOT CHANGE XRF SPECIFICATIONS IN THIS RESTART

説明: このメッセージは、次のいずれかの理由が原因で、XRF 環境でのみ発行されます。

- HSBID パラメーターが間違っている。
再始動されているシステムの JCL (NRE/ERE) の HSBID パラメーターは、XRF 複合システムで障害が発生している JCL の HSBID パラメーターと同じである必要があります。正しい JCL (アクティブ / 代替) を決定するには、次を実行します。
 1. 2 次コンソール (ハードコピー・デバイス) で、最後の「DFS3804I LAST CHKPT ID VALID FOR RESTART: yyddd/hhmmss」メッセージを見つける。
 2. DFS3804I メッセージから日時を判別する。
 3. 2 次コンソール (ハードコピー・デバイス) で、日時が DFS3804I メッセージと一致する「DFS994I *CHKPT yyddd/hhmmss*ctype rtype START COMPLETED」メッセージを見つける。
 4. DFS994I メッセージから IMS ID を判別する。
 5. この IMS ID の JCL を緊急時再始動に使用する。


- RSENAME パラメーターが間違っている。
再始動されている代替システムの JCL (/ERE BACKUP) 内の RSENAME パラメーターは、XRF 複合システム体内のアクティブ・システムの JCL 内の RSENAME パラメーターと同じである必要があります。RSENAME パラメーターは、IMS PROCLIB メンバー DFSHSBxx 内にあります。xx は、IMS 制御領域 JCL 内の HSMBR=xx パラメーターの 2 つの文字を表します。

- USERVAR パラメーターが間違っている。
再始動されている代替システムの JCL (/ERE BACKUP) 内の USERVAR パラメーターは、XRF 複合システム体のアクティブ・システムの JCL 内の USERVAR パラメーターと同じである必要があります。USERVAR パラメーターは、IMS PROCLIB メンバー DFSHSBxx 内にあります。xx は、IMS 制御領域 JCL 内の HSMBR=xx パラメーターの 2 つの文字を表します。

システムの処置: システムは、異常終了 3141 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) このメッセージの『説明』の情報に基づいてエラーを訂正してください。

関連情報:

 IMS 異常終了 3141

DFS3852I THE OTHER SYSTEM IS NOT THE ACTIVE SYSTEM

説明: 代替システムをアクティブにしている間、アクティブ・システムの X'4001' ログ・レコードに含まれている HSBID の値がゼロでした。ゼロの値は、XRF 複合システム内の IMS アクティブ・システムには無効です。


システムの処置: システムは、異常終了 3141 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 再始動用に正しいログ・ファイルが選択されていることを確認してください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 5、8 (アクティブ・システムおよび代替システムの両方)

関連情報:

 IMS 異常終了 3141

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3853I DEDB AREA IS NOT AUTHORIZED WITH DBRC. AREA STOP HAS BEEN REQUESTED FOR AREA = , DB = .

説明: 代替システムは、テークオーバー中に、障害のあるシステムのログを処理することによって開かれたすべての高速機能エリアが、DBRC で許可されているかどうかを検査します。このメッセージで指摘されたエリアは、DBRC では許可されていません。

システムの処置: 高速機能エリアは内部的に停止し、クローズされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) このエリアに関する問題を説明したエラー・メッセージが他にないかど

うか検索してください。他にない場合、このエリアは再始動できます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3854A WHEN THE PREVIOUS ACTIVE IMS SUBSYSTEM TERMINATES, REPLY 'UNLOCK' [IMSID=*imsid* ASID=*asid* RSE=*rsename*]

説明: XRF 複合システム内の IMS システムが入出力許容モードで終了しようとしています。前のアクティブ・システムが終了していない場合、現行 IMS システムが終了すると、データベースの健全性が脅かされます。

記憶域不足のため完全なメッセージを表示できない場合、大括弧内の情報は表示されません。

システムの処置: 直前のアクティブ・システムが終了したことをオペレーターが保証するまで、IMS システムは終了せずに待機します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

マスター端末オペレーターの応答: 直前のアクティブ・システムが終了した場合にのみ、UNLOCK を応答してください。

注: IOT EEQE は、UNLOCK によってパージされません。

DFS3855I DEDB AREA HAS NO OPEN ADSCS AT TIME OF TAKEOVER. AREA STOP REQUESTED FOR AREA = , DB = .

説明: 代替システムは、XRF 複合システムにおけるトラッキング・フェーズで、アクティブ・システムで開かれたすべてのエリア・データ・セット (ADS) を開けませんでした。テークオーバー時に有効な ADS が開いていなかったため、そのエリアは停止しました。

システムの処置: エリアはクローズされて停止します。ADS のオープン障害について説明しているエラー・メッセージが、このメッセージよりも前に発行されています。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: ADS オープン障害について説明している別のエラー・メッセージを検索してください。メッセージに従ってエラーを訂正した後、エリアを再始動します。

問題判別: 1、2、3、6

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3856I REQSYNC WAS PROCESSED TO TAKE SNAPQ CHKPT

説明: 代替システムから送信された REQSYNC (SNAPQ チェックポイント要求) が処理され、SNAPQ チェックポイント処理がアクティブ・システムでスケジュールされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3857I OKTOSYNC ARRIVED FROM THE ACTIVE SYSTEM

説明: 代替システムは、アクティブ・システムが SNAPQ チェックポイントの受け取りを開始したことを示す信号をアクティブ・システムから受け取りました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3858I INSYNCH ARRIVED FROM THE BACKUP SYSTEM

説明: アクティブ・システムは、SNAPQ チェックポイント・レコードを処理することによって、代替 (バックアップ) システムがアクティブ・システムと同期したことを示す信号を代替システムから受け取りました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3859I PRIORITY *n* TERMINAL SESSIONS SWITCHED

説明: 以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) は、直前のアクティブ・システムが失敗した時点でアクティブであった、優先順位が *n* の全端末セッションをテークオーバーしました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3860I ALL TERMINAL SESSIONS SWITCHED

説明: 以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) は、直前のアクティブ・システムが失敗した時点でアクティブであった全端末セッションをテークオーバーしました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3861 SYSTEM TAKEOVER OCCURRED

説明: このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、セッションのテークオーバー時に端末ユーザーに対して、ホスト・システムにおいてシステムのテークオーバーが完了したことを通知する場合に発行されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3862 INVALID LOGON REQUEST IN THE ALTERNATE SYSTEM

説明: 詳細情報および処置については、メッセージ DFS3862I を参照してください。

関連情報:

DFS3862I

DFS3862I INVALID LOGON REQUEST IN THE ALTERNATE SYSTEM - NODE *nodename*

説明: XRF 複合システム体内の代替システムは、トラッキング・フェーズ中に、次のいずれかから LOGON 要求を受け取ることができます。

- MTO 端末
- アクティブな IMS システムと代替の IMS システムの間の ISC リンク
- バックアップ・セッションとして適格で、アクティブ・システムにアクティブ・セッションを持っており、現在アクティブになっているバックアップ・セッションがないクラス 1 端末。ETO 端末の場合は、物理端末および端末ユーザーの制御ブロックの両方が存在し、結合されている必要があります。

最初の形式のメッセージは、/OPNDST コマンド・プロセッサによって出されます。コマンドは、無効のノード (MTO または ISC リンクではありません) を参照しています。LOGON が有効なノード名の 1 つでないノード ID を示す場合、メッセージの 2 番目のフォームは、LOGON または SCIP 出口によって発行されません。

システムの処置: LOGON 要求はリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 許容される端末からログオンします。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3863 FORMAT RDS CONFLICTS WITH BACKUP KEYWORD

説明: FORMAT RDS は、キーワード BACKUP を含む /ERE コマンド内では無効です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 代替 (バックアップ) システムをアクティブにしようとしている場合は、FORMAT RDS を含めずに BACKUP を指定して、コマンドを再入力します。SM、LM、QC、および SP のみが許可されています。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3864 FORMAT WADS CONFLICTS WITH BACKUP KEYWORD

説明: FORMAT WADS は、キーワード BACKUP を含む /ERE コマンド内では無効です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 代替 (バックアップ) システムをアクティブにしようとしている場合は、FORMAT WADS を含めずに BACKUP を指定して、コマンドを再入力します。SM、LM、QC、および SP のみが許可されています。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3865 FORMAT ALL CONFLICTS WITH BACKUP KEYWORD

説明: FORMAT ALL は、キーワード BACKUP を含む /ERE コマンド内では無効です。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: (マスター端末) 代替 (バックアップ) システムを起動しようとしている場合は、FORMAT ALL を含めずに BACKUP を指定して、コマンドを再入力します。SM、LM、QC、および SP のみが許可されています。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3866 BACKUP KEYWORD INVALID - NO MODSTAT2

説明: XRF 代替システム (バックアップ) IMS システムは、/ERE コマンドが BACKUP オプションと共に入力され、使用可能な MODSTAT2 がない場合に、このメッセージを発行します。

システムの処置: /ERE コマンドはリジェクトされません。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: MODSTAT2 の DD 名が JCL プロシージャで指定されており、データ・セットが存在していることを確認してください。

**DFS3867I AUTOMATIC /UNLOCK SYSTEM
 WILL BE DONE**

説明: 少なくとも 1 つの高速機能 EEQE (未書き込みバッファ) が、入出力容認バージ機能によって完全に書き込まれませんでした。緊急時再始動処理が完了した後、IMS システムは、内部的に /UNLOCK SYSTEM コマンドを処理し、入出力容認バージ機能を再実行します。

システムの処置: EEQE が存在している限り、通常のトランザクション入出力要求は受け入れられ続けますが、その要求は、EEQE バッファに保持されます。EEQE バッファからの実際の入出力は、/UNLOCK SYSTEM コマンド処理が完了した後に行われます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3868 THE IMSID NAME DOES NOT
 MATCH THE CHECKPOINT RSE
 NAME**

説明: 前の IMS の開始が XRF 対応システムであったため、次の ERE の開始は、XRF 対応でない場合でも、チェックポイントが取られたリカバリー可能サービス・エレメント (RSE) 名と一致する IMSID を指定する必要があります。

システムの処置: システムは、異常終了 3141 で終了します。

オペレーターの応答: 再始動されるシステムの JCL 内の IMSID PROCLIB パラメーターをチェックポイントが取られている RSE 名と一致するように変更します。

問題判別: 5、8 (障害のあるシステムおよび再始動されるシステムの両方)

関連情報:



IMS 異常終了 3141

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3869I THE ACTIVE SYSTEM MAY HAVE
 FAILED REASON CODE=xx.**

説明: 代替システムがアクティブ・システムに潜在的な障害を検出しましたが、オペレーターは、すべてのテークオーバーを承認する必要があります。メンバー DFSHSBxx で AUTO=NO を指定して非自動テークオ

ーバーが要求された場合にのみ、このメッセージが発行されます。オペレーターは、/SWITCH SYSTEM FORCE を入力して、テークオーバーが継続できるようにする必要があります。このメッセージは、テークオーバーが保留になっている限り、30 秒ごとに発行されません。

理由コード xx は、次のように定義されています。コードは、単独または組み合わせて発行することができません。例えば、X'82' は、X'80' と X'02' の組み合わせです。

コード (16 進数)

意味

02	ESTAE 出口が入力された
04	IRLM 障害
08	/SWITCH が入力された
10	LOG 監視
20	システム LNK 監視
40	再始動データ・セット (RDS) 監視
80	VTAM 終了

システムの処置: 代替システムは、アクティブ・システムのトラッキングを継続します。

オペレーターの応答: テークオーバーを継続する場合は、/SWITCH SYSTEM FORCE コマンドを入力します。

**DFS3870I RDS|LNK|LOG INTERVAL VALUE
 HAS BEEN FORCED TO *nnn***

説明: 代替システムの再始動データ・セット (RDS)、LNK、または LOG 監視に指定されたインターバル値は、アクティブ・システムに指定されているインターバル値未満でした。代替のインターバル値は、アクティブのインターバル値以上である必要があります。インターバル値は、同期化フェーズ中にチェックされ、アクティブ・システムでインターバル値が変更されると、タイプ X'6D' レコードがシステム・ログに書き込まれます。

ユーザーの処置: インターバル値をチェックしてください。

DFS3871I JOINAVM WAS SUCCESSFUL

説明: XRF 複合システムまたは高速データベース・リカバリー環境において、z/OS コンポーネントである可用性マネージャーとの接続が、JOINAVM 呼び出しで正常に確立されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3872I AVM CONNECTION FAILED

説明: XRF 複合システムまたは高速データベース・リカバリー環境において、z/OS コンポーネントである可用性マネージャーとの接続が失敗しました。テークオーバー中は、入出力防止などの AVM 機能は実行されません。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3873I JOINRSE MODE=ACTIVE|BACKUP WAS SUCCESSFUL

説明: IMS システムが、XRF 複合システムのアクティブ・システムか代替 (バックアップ) システムとして、正常に可用性マネージャーに登録されました。可用性マネージャーに対して、XRF 対応の IMS システムは、アクティブ・システムと代替システムの両方で構成されるリカバリー可能サービス・エレメント (RSE) です。この IMS システムが「結合」しようとしている RSE の名前は、PROCLIB の DFSHSBxx メンバーの RSENAME パラメーターで判明します。

高速データベース・リカバリー環境では、アクティブ IMS のサブシステム名は RSE として使用されます。高速データベース・リカバリー用に使用可能な IMS システムは、このメッセージを発行した時点で、入出力防止の起動準備が完了します。高速データベース・リカバリー領域は、このメッセージを発行しません。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3874I LEAVERSE MODE=IOP|TAKEOVER WAS ISSUED

説明: 可用性マネージャーは、このメッセージを発行している IMS システムが、もはや XRF リカバリー可能サービス要素 (RSE) の一部と見なされないという通知を受けました。RSE の名前は、PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の RSENAME パラメーターで判明します。FDBR 環境では、アクティブ IMS のサブシステム名は RSE として使用されます。

このメッセージがアクティブ IMS によって発行された場合、入出力防止またはテークオーバーが要求されました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3875I LEAVEAVM MODE=NORMAL|ABEND WAS ISSUED

説明: 通常モードまたは異常モードで LEAVEAVM 呼び出しが実行され、可用性マネージャーとの接続がリセットされました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3876 AVM I/O COMPLETED UNSUCCESSFULLY

説明: 可用性マネージャーに対する入出力要求は、正常に完了しませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、3、5

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3877I JOINRSE FAILED

説明: IMS システムが、XRF 複合システムのアクティブ・システムまたは代替システムとして登録することに失敗しました。リカバリー可能サービス・エレメント (RSE) の名前は、PROCLIB の DFSHSBxx メンバーの RSENAME パラメーターで判明できます。

高速データベース・リカバリー環境では、アクティブ IMS のサブシステム名は RSE として使用されます。このメッセージがアクティブ IMS によって発行された場合、入出力防止は IMS 障害があると呼び出されません。高速データベース・リカバリー領域は、このメッセージを発行しません。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3878I AVM RECEIVE THREAD
INITIALIZATION FAILED**

説明: 可用性マネージャー RECEIVE THREAD に対する ITASK 作成に失敗しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

問題判別: 1、3

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3879I RDS|LNK|LOG INTERVAL VALUE
HAS BEEN FORCED TO MINIMUM**

説明: 再始動データ・セット (RDS) 監視、LNK 監視、または LOG 監視に対して、インターバル値 0 が定義されたか、またはインターバル値が定義されませんでした。システムの初期設定中に 1 が設定されました。

ユーザーの処置: インターバル値を確認します。

**DFS3880I RDS|LNK|LOG TIMEOUT VALUE
HAS BEEN FORCED TO MINIMUM**

説明: 再始動データ・セット (RDS) 監視、LNK 監視、または LOG 監視に対して、タイムアウト値 0 または 1 が定義されたか、または定義されませんでした。

システムの処置: システムの初期設定中に 2 が設定されました。

ユーザーの処置: タイムアウト値を確認します。

**DFS3881I RDS|LNK|LOG TIMEOUT VALUE
HAS BEEN FORCED TO *nnn***

説明: 代替システムにおける再始動データ・セット (RDS) 監視、LNK 監視、または LOG 監視のタイムアウト値が、インターバル値の 2 倍よりも小さくなっていました。タイムアウト値は、強制的に *nnn* になりました。同期化フェーズ中に値の妥当性がチェックされ、アクティブ・システムのタイムアウト値またはインターバル値が変更されると、タイプ X'6D' レコードがログに書き込まれます。

ユーザーの処置: タイムアウト値を確認します。

**DFS3882I DEPENDENT REGION PROCESSING
ENABLED**

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージ

が要求された場合は、IMS 従属領域でのトランザクション処理が使用可能になると、このメッセージが送信されます。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3883I ALL BACKOUTS COMPLETE

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、アクセス可能データベースに対する再始動的バックアウトがすべて完了すると、このメッセージが送信されます。アクセス可能でなかったすべてのデータベースは停止します。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ります。

- LIST.DB ALL コマンドを入力して、バックアウト要求フラグをオンにしているデータベースを決定する。
- DISPLAY DATABASE コマンドを BKERR パラメーターと共に入力し、バックアウトされなかったデータベースを判別する。

DFS3884I NO BACKOUTS NEEDED

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、再始動的バックアウトが不要なときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3885I NO FAST PATH FORWARD
RECOVERY NEEDED**

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、高速機能順方向リカバリーが不要なときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3886I FAST PATH FORWARD RECOVERY
COMPLETE**

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、高速機能順方向リカバリーが完了したときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3887I IRLM TAKEOVER ISSUED

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、IRLM TAKEOVER が発行されるときに、このメッセージが送信されます。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3888I NORMAL IRLM OPERATION RESUMED

説明: PROCLIB の DFSHSBxx メンバー内の KEYEVENT パラメーターで重要なイベント・メッセージが要求された場合は、IRLM PURGE TAKEOVER に続いて通常の IRLM 操作が再開すると、このメッセージが送信されます。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3889A SYSTEM DATA SETS INCONSISTENT DDNAME-NNNNNNNN, RC=xx

説明: 通常の再始動または緊急時再始動中に、直前の (またはアクティブな) IMS システムからの X'4001' ログ・レコードを処理しているときに、直前の (またはアクティブな) システムのデータ・セット名およびボリューム、再始動システム内のデータ・セット名およびボリュームの間に矛盾が検出されました。

コード (16 進数)

- | | |
|----|---|
| | 意味 |
| 04 | アクティブ・システムを通常再始動または緊急時再始動している間、使用されている DSNames または VOLID が異なっていました。コールド・スタートまたは BLDQ オプションが指定されていない限り、これらは同じである必要があります。 |
| 08 | 緊急時再始動中は、短いメッセージ・データ・セットおよび長いメッセージ・データ・セットのデータ・セット数が整合している必要があります。変更が必要な場合は、コールド・スタートまたは BLDQ オプションのいずれかが必要です。 |
| 0C | XRF 環境で緊急時再始動している間、バックアップ・システム用のキュー・マネージャーのシステム・データ・セット (qblks-shmsg-lgmsg) が異なっていました。これらのシステム・データ・セットは、アクティ |

ブ・システムが使用するシステム・データ・セットとは異なっている必要があります。


- 10 XRF 環境で緊急時再始動している間、バックアップ・システムのオンライン変更用のシステム・データ・セットおよび再始動データ・セットが異なっていました。これらのシステム・データ・セットは、アクティブ・システムと同じである必要があります。

システムの処置: システムは、異常終了 0598 で終了します。

オペレーターの応答: (マスター端末) システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: メッセージ内で与えられている DD 名が矛盾しないよう JCL を訂正します。

関連情報:

 IMS 異常終了 0598

DFS3890I TAKEOVER REQUESTED REASON CODE=rc

説明: 代替システムは、テークオーバーを行う必要があると判断すると、このメッセージを送信します。理由コード (rc) は、次のとおりです。

コード (16 進数)

- | | |
|----|---------------------|
| | 意味 |
| 80 | VTAM 終了 |
| 40 | 再始動データ・セット (RDS) 監視 |
| 20 | システム LNK 監視 |
| 10 | LOG 監視 |
| 08 | /SWITCH が入力された |
| 04 | IRLM 障害 |
| 02 | ESTAE 出口が入力された |

これらの理由コードは、単独または組み合わせて発行できます。例えば、X'82' は、X'80' と X'02' を組み合わせたものであり、VTAM の終了と ESTAE 出口に入ったことを意味します。

システムの処置: テークオーバー処理が開始します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3891I TAKEOVER IN PROGRESS

説明: アクティブ・システムからの IMS システム・ログが代替システムによって処理された後、代替システムがこのメッセージを送信します。

システムの処置: テークオーバー処理は続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3892 WAITING FOR I/O PREVENTION TO COMPLETE

説明: 代替システムによるテークオーバーは、アクティブ・システム上の入出力防止が完了するまで続行することができません。

システムの処置: 代替システムは、メッセージ AVM005A に対する /UNLOCK 応答、または代替システムのマスター端末オペレーター (MTO) からの /UNLOCK SYSTEM コマンドのいずれかによって、入出力防止がアクティブ・システムで完了したことが通知されるまで待機します。

オペレーターの応答: (マスター端末) 障害のあるシステムが入出力要求を生成できないことを確認してください。これに該当する場合、代替システムの MTO は、/UNLOCK SYSTEM コマンドを入力するか、または MVS AVM メッセージに対する /UNLOCK 応答を入力して、テークオーバーの続行を許可できます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3893I F NET, USERVAR, ID=*varname*, VALUE=*value* FAILED WITH RTNFBK=*nnnn*, SENSE=*mmmm*

説明: MODIFY USERVAR コマンドを実行した結果、VTAM から予期しない戻りコードが戻されました。メッセージには、次の情報が含まれています。

nnnn RPL の RPLRTNCD/RPLFDB2 フィールドの 16 進値


mmmm RPL の RPLSSNSI フィールドの 16 進値

システムの処置: IMS XRF システムは続行されます。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードについては、「z/OS Communications Server SNA Programming」(SC31-8829) および「VTAM Messages and Codes」(SC31-6418) で説明されています。また、このアプリケーションの VTAM 定義ライブラリーで、SPO (2 次プログラム・オペレーター) または PPO (1 次プログラム・オペレーター) が指定されていることを確認してください。

関連資料:

 z/OS: RPL 戻りコード (RTNCD、FDB2) の組み合わせ

DFS3894I THE HOTID FOR THE XRF PRIMARY AND THE ALTERNATE CANNOT BE EQUAL


説明: このメッセージは、XRF 複合システムの同期化フェーズ中に IMS 代替システムによってのみ発行されます。代替システムの HSBID パラメーターは、1 次システムの HSBID パラメーターと比較されます。(HSBID パラメーターは、メッセージ・テキスト内では HOTID パラメーターと呼ばれます。)これらの ID は異なっている必要があります。代替システムの HSBID は、初期設定 JCL から取得します。1 次システムの HSBID は、現在読み取られているチェックポイント SNAPQ から取得します。

システムの処置: このメッセージは、3141 異常終了よりも前に発行されます。

プログラマーの応答: この問題に対しては、次の原因と解決策が考えられます。

- 1 次システムの JCL が代替の中央演算処理複合システム (CPC) で実行依頼されている。正しいジョブを実行依頼します。
- 1 次/代替 HSBID が変更された。HSBID パラメーターを変更します。
- テークオーバーが行われてから以降、アクティブ・システムがチェックポイントを受け取っていない。アクティブ・システムで /CHE SNAPQ コマンドを入力します。

関連情報:

 IMS 異常終了 3141

DFS3895 TAKEOVER OCCURRED - NO REPLY AVAILABLE

説明: 別のシステムが、端末で入力されたフロントエンド切り替えメッセージを処理することになっていました。応答を着信する前にテークオーバーが発生したため、応答が失われました。

システムの処置: 応答をテークオーバー後に着信した場合、応答メッセージは端末には送信されません。

ユーザーの処置: 入力メッセージを再入します。

DFS3896I ATTEMPTING TO PURGE OLDS BUFFERS

説明: IMS は、OLDS バッファのページを開始しようとしています。

システムの処置: システムは OLDS バッファをページしようとしています。ページが成功すると、メッセージ DFS616I、OLDS BUFFERS SUCCESSFULLY PURGED が出力され、IMS の終了処理が継続されます。ページが失敗す

ると、メッセージ DFS616I、OLDS BUFFER PURGE FAILED が出力され、IMS の終了処理が継続されます。これらのメッセージのいずれかが即時に表示されない場合は、障害のあるアクティブ・システムが、代替システムによる OLDS の予約時にハングしている可能性があります。システムが再度取り消されるまでは、他のアクションは発生しません。

プログラマーの応答: このメッセージの後にメッセージ DFS616I が続いている場合、オペレーターの介入は必要ありません。システムがハングした場合、オペレーターは 2 回目の取り消しを発行する必要があります。その結果、入出力防止が行われ、IMS の終了処理が継続されます。

モジュール: DFSFDLFO

関連情報:

192 ページの『DFS616I』

DFS3897W SCP LEVEL MUST BE AT LEAST MVS/XA 2.1.3 - NO XRF CAPABILITY

説明: 実行中の z/OS レベルは、XRF をサポートできません。このメッセージは、この IMS システムが XRF を使用して定義されたので、生成されました。SCP レベルが 2.1.3 の場合は、可用性マネージャーが z/OS を使用してシステム定義されていることを確認してください。

システムの処置: XRF 機能を持たずに処理を継続します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: XRF 機能が必要な場合は、適切なレベルの z/OS を使用して再 IPL してください。

DFS3898W NO HSB PROCLIB MEMBER - NO XRF CAPABILITY

説明: PROCLIB DD ステートメントによって定義されたデータ・セットが、IMS システムに XRF パラメーターを提供するメンバー DFSHSBxx を含んでいませんでした。

システムの処置: XRF 機能を持たずに処理を継続します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: XRF 機能が必要な場合は、DFSHSBxx という PROCLIB データ・セット・メンバーを作成してください。

DFS3899W HSBID NOT SPECIFIED IN EXEC PARM - NO XRF CAPABILITY

説明: 制御領域の EXEC パラメーターの中で HSBID パラメーターが指定されている場合を除き、IMS システムは XRF に対応しません。受け入れ可能な値は、1 または 2 のみです。XRF 機能を使用する処理はバイパスされます。

システムの処置: XRF 機能を持たずに処理を継続します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

DFS3900I DFSACCS0 PARAMETER ERROR, nnnnnnnnn, ccccccc

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターのストレージ・アクセス・モジュール (DFSACCS0) が、無効なストレージ・アクセス要求パラメーターを検出しました。変数 nnnnnnnn は、無効なパラメーター・フィールド名です。ccccccc は、無効なパラメーター・フィールドです。

システムの処置: DFSACCS0 は、次のことを行います。

1. このメッセージを発行する。
2. DFSATRY0 を呼び出して、メッセージ DFS2400I を発行する。
3. フォーマッター制御ブロックをスナップする。
4. ストレージ・アクセスの戻りコード 12 でフォーマッターの再試行ルーチンに戻る。

ユーザーの処置: 診断出力を使用して、問題の原因を判別します。

第 82 章 DFS メッセージ DFS3901W - DFS3950A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3901W IMS DUMP REQUEST ERROR - INVALID PARAMETER, aaaaaaaa,bbbbbbbb

説明: IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、DFSFDUMP 要求で渡された DFSDPARM 制御ブロックの解析中に、無効の IMS メモリー・ダンプ要求パラメーターを検出しました。メモリー・ダンプ要求の開始時のエラーか、または IMS の内部エラーが原因でこのメモリー・ダンプ要求エラーが発生した可能性があります。変数 *aaaaaaaa* は、無効なパラメーター・フィールド名です。*bbbbbbbb* は、無効なパラメーター・フィールド名です。

システムの処置: DFSFDMP0 は、エラー・フィールドの内容を無視して IMS メモリー・ダンプ要求を続行します。

オペレーターの応答: 即時に処置を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3902W IMS DUMP REQUEST ERROR -INVALID CALLER TYPE, xx

説明: IMS メモリー・ダンプ要求の DFSDPARM 制御ブロック内の IMS メモリー・ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) に渡された呼び出し元のタイプが無効でした。16 進フィールド *xx* は、呼び出し元のタイプを示します。次のいずれかの状態が原因で、このエラーが発生しました。

- DFSOFMD0 のレベルが、DFSFDUMP マクロおよび DFSDPARM 制御ブロックのレベルと同じではなかった。
- DFSDPARM 制御ブロックがオーバーレイされた。
- IMS メモリー・ダンプ要求側が、DFSFDUMP マクロを使用して DFSDPARM 制御ブロックに呼び出し元 ID フィールドを挿入しなかった。

システムの処置: DFSFDMP0 は、呼び出し元のアドレス・スペースと制御領域アドレス・スペースのみのメモリー・ダンプを作成します。

オペレーターの応答: 即時に処置を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3903W IMS DUMP REQUEST ERROR - INVALID DUMP TITLE LENGTH, yy

説明: IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、IMS メモリー・ダンプ要求を処理中に、無効なメモリー・ダンプ・タイトル長を検出しました。この長さは実際のタイトルよりも前にあり、長さバイトを除いて 98 バイト (10 進) を超えることはできません。フィールド *yy* は、無効な長さを示します。

システムの処置: DFSFDMP0 は、タイトルの最初の 98 バイトを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: 即時に処置を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

DFS3904I A DUPLICATE DUMP WAS SUPPRESSED BY DAE

説明: IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、IMS DUMP 要求の処理中に、SDUMP から戻りコード X'08' と理由コード X'0B' を受け取りました。

システムの処置: オペレーティング・システムは SDUMP を受け取りませんでした。IMS は、メモリー・ダンプを再試行しません。

オペレーターの応答: IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3905W IMS DUMP REQUEST ERROR - t SDUMP PROCESSING ERROR, RC=r-ccc

説明: IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) が、IMS SDUMP 要求を処理中に、SDUMP からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。変数の意味は、次のとおりです。

t P または S。要求が、1 次の SDUMP 要求か、または 2 次の SDUMP 要求のいずれであったかを示します。

r SDUMP の戻りコード
04=部分メモリー・ダンプがダンプされた
08=ダンプが作成されなかった

ccc SDUMP から受け取られた理由コード (理由コードが使用不可であった場合は、この値は UNK になります)。部分メモリー・ダンプ (戻

りコード=04) の場合、ccc の値は N/A です。この場合は、z/OS メッセージ IEA911E または IEA611E から理由コードを入手してください。

システムの処置: これが 1 次 SDUMP 要求である場合 (t=P)、IMS は次の状態のときに 2 次 SDUMP を再試行します。


- 受け入れられなかった QUIESCE=YES 要求によるものではない部分メモリー・ダンプが作成された (戻りコード 4)。
- メモリー・ダンプは作成されなかったが (戻りコード 8)、理由コードが 001、255、005 から 009 のいずれかである。ダンプ支援ルーチンの呼び出し元によって渡された内部パラメーター・リストに 2 次メモリー・ダンプが指定されていない場合は、再試行は行われません。

2 次 SDUMP に失敗すると、SDUMP の戻りコードが 4 であるか、または理由コードによって SVC メモリー・ダンプが抑止されていたことが示されていない (別の SVC ダンプが進行中か、または SYS1.DUMP データ・セットが使用不可であったため) 場合は、このメッセージが (t=S) として発行されます。

両方の SDUMP 要求が失敗した場合、IMS オンライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定は、指定した FMTO パラメーターがそれを許可していれば、許可されます。

オペレーターの応答: このメッセージの前に発行された SDUMP メッセージを参照して、何らかの処置が必要であるかどうかを判断してください。作成されたダンプが、インストールの手順に従って処理されることを確認してください。

関連資料:

 z/OS: SDUMP の戻りコードおよび理由コード

DFS3906A REPLY "S" TO SKIP, OR "U" TO RETRY AFTER CLEARING A DUMP DATA SET

説明: IMS SDUMP 要求は、すべてのシステム・メモリー・ダンプ・データ・セットが現在いっぱいなので、失敗しました。

システムの処置: オペレーティング・システムは SDUMP を作成できませんでした。

IMS はオペレーターが応答するのを待ちます。

オペレーターの応答: 要求を再試行するか、メモリー・ダンプの取得をスキップするか、1 次メモリー・ダンプに相当するものを再発行することができます。

SDUMP 要求を再試行する場合は、1 つ以上のメモリー・ダンプ・データ・セットを消去し、U を応答してください。

メモリー・ダンプの作成をスキップするには、S を応答しますが、IMS は、この IMS エラーについて、これ以上の SDUMP を作成しないことに留意してください。

1 次 SDUMP 要求に相当するものを再発行するには、IMS CTL、DL/I、DBRC、および IRLM アドレス・スペースについて、オペレーター DUMP コマンドを入力します。その後、受け取ったメッセージに対して S を応答します。

指定された FMTO パラメーターでオンライン・フォーマット設定が許可されており、S を応答した場合は、オンライン・フォーマット設定を開始できます。

関連情報:

DFS3906I

DFS3906I DFSDUMP FAILED BECAUSE ALL SYSTEM DUMP DATA SETS ARE FULL

説明: 詳しい説明および処置については、DFS3906A を参照してください。

関連情報:

DFS3906A

DFS3907A REPLY "S" TO SKIP, OR "U" TO RETRY AFTER CURRENT DUMP COMPLETES.

説明: SDUMP が発行されたときに、この IMS システムに属さない別のタスクの SDUMP ダンプが取られていました。

システムの処置: オペレーティング・システムは、一度に作成する SDUMP が 1 つだけであるため、IMS SDUMP 要求を満たしませんでした。

IMS の処置: IMS はオペレーターが応答するのを待ちます。

オペレーターの応答: 次のメッセージの 1 つを受け取った場合は、「U」を応答して、SDUMP 要求を再試行してください。

IEA911E COMPLETE DUMP ON
SYS1.DUMPxx....

または
IEA911E PARTIAL DUMP ON
SYS1.DUMPxx.....

現行のメモリー・ダンプが完了したかどうかがよく分からない場合は、「U」を応答してください。IMS は、現

行のメモリー・ダンプが完了していない場合、メッセージ DFS3907A を発行します。

メモリー・ダンプの取得をスキップしたい場合は S を応答しますが、IMS は、現行のエラーについてこれ以上の SDUMP を作成しないことに注意してください。IMS は、代替の診断情報 (オンライン・メモリー・ダンプ、スピンオフ・メモリー・ダンプ、ソフトウェア LOGREG エントリー、および従属領域メモリー・ダンプなど) を生成しようとします。

関連情報:

DFS3907I

DFS3907I DFSDUMP FAILED BECAUSE A DUMP IS IN PROGRESS.

説明: 詳しい説明および処置については、DFS3907A を参照してください。

関連情報:

DFS3907A

DFS3908E ABEND *code* IN OTMA SVC INIT MODULE DFSYSVIO, PSW=*psw1psw2*

説明: モジュール DFSYSVIO を制御しているときに、異常終了が発生しました。モジュール DFSYSVIO は、OTMA 呼び出し可能サービスの SVC サービスを初期設定するモジュールです。このモジュールは、通常、OTMA 呼び出し可能サービスを使用するアプリケーションを実行する前に、スタンドアロン・ジョブとして実行されます。DFSYSVIO の処理は、内部の ESTAE によって保護されています。ESTAE は、異常終了から再試行し、DFSYSVIO が取得したグローバル・リソース (共通ストレージなど) をクリーンアップしようとします。このメッセージの発行によって異常終了が発生したことをオペレーターに警告します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

コード 異常終了コード。システム異常終了の場合、*code* のフォーマットは Sxxx です (xxx は 3 桁の 16 進の異常終了コード)。ユーザー異常終了の場合、*code* のフォーマットは、Udddd で、dddd は、10 進 4 桁の異常終了コードです。

psw1 異常終了における PSW の最初のワードです。

psw2 異常終了時の PSW の 2 番目のワード。

システムの処置: DFSYSVIO ESTAE は、異常終了に関する診断データを収集した後、DFSYSVIO 内のクリーンアップ・ルーチンで実行を再開します。このルーチンは、DFSYSVIO が処理の一部として取得したグローバル・リソースを解放しようとします。次に、DFSYSVIO

は、メッセージ DFS3911E を発行して、呼び出し元に戻ります。一般的には、DFSYSVIO 処理が終了する直前に異常終了が発生しない限り、OTMA SVC ルーチンは初期設定されません。

DFSYSVIO 異常終了した最初の時点では、その ESTAE は、アドレス・スペースの SDUMP を作成し、異常終了を文書化するために SYS1.LOGREC データ・セットにレコードを書き込みます。DFSYSVIO が 1 回の実行で 2 回以上異常終了する場合は、その ESTAE は、さらに SDUMP を作成することはしません。ただし、SYS1.LOGREC に新しいレコードを書き込みます。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプ、SYSLOG、および SYS1.LOGREC 情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSYSVIO

関連情報:

978 ページの『DFS3911E』

DFS3909A CQS SUBSYSTEM IS UNAVAILABLE FOR <MSGQ|EMHQ> - REPLY RETRY WHEN READY OR ABORT TO TERMINATE IMS


説明: IMS の再始動中に、このメッセージに示されている共用キュー構造の CQS サブシステムとの再同期をとろうとしましたが、失敗しました。CQS サブシステムは使用不可です。

システムの処置: IMS は、このメッセージへの応答を待ちます。応答が RETRY の場合、IMS は CQS に接続しようとします。応答が ABORT の場合、IMS は異常終了 0231、戻りコード 01 で終了します。応答が認識されない場合は、このメッセージが再発行されます。

オペレーターの応答: CQS の準備ができたときに RETRY を入力するか、または ABORT を入力して IMS を終了します。このメッセージは、メッセージ・キュー (MSGQ) および急送メッセージ・ハンドラー・キュー (EMHQ) に対して発行できます。

モジュール: DFSRLP00 (MSGQ の場合)、DBFHCAS0 (EMHQ の場合)

関連情報:

 IMS 異常終了 0231

DFS3910I IMS IN A SHARED QUEUE ENVIRONMENT IS UNABLE TO RESYNC WITH CQS

説明: ウォーム再始動中または緊急時再始動中に、IMS が CQS サブシステムとの再同期化に失敗しました。


DFS3911E

システムの処置: IMS は、異常終了 0231-xx で終了します。サブコード xx についての説明は、異常終了 0231 を参照してください。

ユーザーの処置: 識別されたエラーを訂正して、IMS を再始動します。

モジュール: DFSRST00、DFSRLP00

関連情報:

 IMS 異常終了 0231

DFS3911E ERROR INITIALIZING OTMA SVC - details

説明: モジュール DFSYSV10 でエラーが発生しました。DFSYSV10 は、OTMA 呼び出し可能サービスの SVC サービスを初期設定するモジュールです。このモジュールは、通常、OTMA 呼び出し可能サービスを使用するアプリケーションを実行する前に、スタンドアロン・ジョブとして実行されます。DFSYSV10 は、呼び出し可能サービスの初期設定を完了できない場合、メッセージ DFS3911E を発行して、初期設定が失敗した理由を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details OTMA 呼び出し可能サービスの SVC の初期設定が失敗した理由の簡単な要約。*details* は、DFSYSV10 モジュールによって発行された戻りコードに対応しており、次のコードのいずれかの可能性があります。

NOT EXECUTING IN PSW KEY 7

PSW キー 7 において、DFSYSV10 に制御が渡されませんでした。

DFSYSV10 は、PSW キー 7 において許可プログラムとして実行する必要があります。DFSYSV10 をプログラム特性テーブルに追加します。手順については、「IMS V15 システム・プログラミング API」を参照してください。

ESTAE CREATE FAILED, RC=rc

DFSYSV10 は、z/OS リカバリー・ルーチン (ESTAE) を確立しようとしたが、ESTAE 呼び出しの作成に失敗しました。rc は、MVS ESTAE マクロからの戻りコードです。

BPESVC INIT FAILED, RC=rc

DFSYSV10 は、BPE SVC サービスを初期設定できませんでした。rc は、BPESVC 初期設定呼び出しからの戻りコードです。

BLDL FOR DFSYSVC0 FAILED, RC=rc

モジュール DFSYSVC0 についての

MVS BLDL 呼び出しが失敗しました。DFSYSVC0 が、DFSYSV10 の実行元のライブラリーに含まれていることを確認してください。rc は、MVS BLDL マクロ呼び出しからの戻りコードです。

GET FOR STORAGE FAILED, RC=rc

DFSYSV10 は、OTMA 呼び出し可能サービスの SVC モジュールに必要なストレージを取得できませんでした。rc は、MVS STORAGE マクロ呼び出しからの戻りコードです。

LOAD FOR DFSYSVC0 FAILED, RC=rc

モジュール DFSYSVC0 についての MVS LOAD 呼び出しが失敗しました。rc は、MVS LOAD マクロ呼び出しからの戻りコードです。

BPESVC REGISTRATION FAILED, RC=rc

OTMA 呼び出し可能サービスの SVC ルーチンを BPESVC (BPE SVC サービス) に登録できませんでした。rc は、BPESVC REGISTER マクロ呼び出しからの戻りコードです。

ABEND OCCURRED DURING INITIALIZATION


DFSYSV10 処理中に異常終了が発生しました。このメッセージの前に、異常終了コードと PSW を示す DFS3908E メッセージ、および DFSYSV10 ジョブのアドレス・スペースの SDUMP がある場合があります。


システムの処置: モジュール DFSYSV10 は終了しません。OTMA 呼び出し可能サービス SVC は初期化されません (あるいは、以前に初期化されている場合は、置き換えられません)。

システム・プログラマーの応答: 環境エラー (DFSYSVC0 が DFSYSV10 の実行元のライブラリーと同じライブラリーにないなど) の場合は、エラーを訂正して、DFSYSV10 を再実行します。「NOT EXECUTING IN PSW KEY 7」エラーの場合は、DFSYSVC0 があるライブラリーが APF で許可されていることを確認してください。その他の問題については、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSYSV10

関連資料:

 BPESVC コード (メッセージおよびコード)

 z/OS: ESTAE の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: BLDL の完了コード

➡ z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: LOAD の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

977 ページの『DFS3908E』

**DFS3912W IMS DUMP FORMAT CONTROL
PARAMETER ERROR, ccccccc**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、メモリー・ダンプ・フォーマット制御データ・セット内のオプション ccccccc が認識されなかったか、処理されませんでした。

システムの処置: DFSOFMD0 は、フォーマット・オプションのスキャンを続行しますが、無効なオプションを無視します。無効のオプションが 4 個以上検出された場合、DFSOFMD0 は、メモリー・ダンプ・フォーマット制御データ・セットをクローズし、受け取った有効なオプションを処理します。

ユーザーの処置: 以下を確認して、無効なオプションを修正します。

- オプションのスペルが正しいこと。
- オプションの修飾子が 1 つのみであること (オプションを繰り返すことは可能です)。

次に、これらのオプションに対してメモリー・ダンプ・フォーマット設定ジョブを再実行します。このメッセージの直後に、IMS オフライン・フォーマット設定が続行されるかどうかを示すメッセージ DFS3913I が続きます。

関連情報:

『DFS3913I』

**DFS3913I IMS DUMP FORMATTING
DISCONTINUED**

または

IMS DUMP FORMATTING CONTINUING

説明: このメッセージは、IMS オフライン・メモリー・ダンプフォーマット設定が直前のエラーの後も続行されているかを示します。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定は、続行されるか停止されます。

ユーザーの処置: オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマットが停止した場合は、以前のメッセージに基づいてエラーを訂正し、フォーマット設定しなかったフォー

マット・ジョブを再実行します。

**DFS3914I IMS DUMP FORMATTER BUFFER
CONTROL BLOCK INTERNAL
ERROR DETECTED**

説明: 以下のいずれかの内部 IMS ダンプ・フォーマッター処理エラー (IMS ダンプ・ストレージ・バッファに関するもの) が発生しました。

- メモリー・ダンプ・ストレージ・バッファ接頭部がオーバーレイされた。
- 接頭部の再チェーニングの進行中に、IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定に割り込みが発生した。
- IMS メモリー・ダンプ・フォーマット・ストレージ・アクセス・ルーチン内でエラーが発生した。

システムの処置: IMS は、メモリー・ダンプ・フォーマッター制御ブロックをスナップし、RC=8 で制御を AMDPRDMP/IPCS に戻します。

ユーザーの処置: 診断出力を使用して、問題の原因を判別します。

**DFS3915I GETMAIN FAILED FOR AN IMS
FORMATTING DUMP BUFFER.**

または

**FREEMAIN FAILED FOR AN IMS FORMATTING
DUMP BUFFER.**

説明: IMS ダンプ・フォーマッターが、IMS メモリー・ダンプ・ストレージ・バッファ用のストレージを取得または解放できませんでした。

システムの処置: GETMAIN または FREEMAIN の障害の後、プリント・サービス・ルーチンがメモリー・ダンプ・フォーマット設定の制御ブロックのスナップを出力し、IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定が終了し、AMDPRDMP が RC=4 で制御を受け取ります。

ユーザーの処置: 主記憶の解放中にエラーが発生した場合は、診断出力を使用して、問題の原因を判別します。GETMAIN 中にエラーが発生した場合は、領域のサイズを大きくしてジョブを再実行します。

**DFS3916W RC=01,DFSOFMD0 UNABLE TO
GETMAIN STORAGE FOR -
REGISTER SAVEAREA**

または

**RC=02, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN
STORAGE FOR - COMMUNICATION AREA**

または

RC=03, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - DUMP BUFFER PREFIXES

または

RC=04, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - DUMP BUFFERS

または

RC=06, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED SCD

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、必要な IMS オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定制御ブロック用のストレージを取得しようとして、GETMAIN からゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

システムの処置: メモリー・ダンプ・フォーマッターは、処理を続行できず、RC=4 で AMDPRDMP に制御を戻します。

ユーザーの処置: AMDPRDMP に提供されるストレージを増やした後、失敗したジョブを再実行します。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3917W RC=07, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - IMS DUMP FORMATTER MODULES.

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールを再配置するために必要なストレージを取得できませんでした。

システムの処置: DFSOFMD0 は、現行ライブラリーから必要なモジュールをロードして、処理を続行しようとしています。

ユーザーの処置: メモリー・ダンプ内のオフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールを使用してメモリー・ダンプをフォーマット設定する場合は、

AMDPRDMP に提供されているストレージを増やして、ジョブを再実行します。問題が継続する場合は、DFSARECT ベクトル・テーブル制御ブロックをチェックして、オーバーレイされていないことを確認してください。この制御ブロックのアドレスは、SCD 内のフィールド SCDCABN0 または SCDDABN0 でポイントされているロード・モジュール DFSABND0 の先頭にあります。

メモリー・ダンプ内の IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールをフォーマット設定に使用した

くない場合は、オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールがロード・モジュール DFSABND0 内で使用可能であることを確認してください。

さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3918W RC=05, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED FP ESCD.

または

RC=08, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED CBT HEADER

または

RC=10, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - RELOCATED CBT TABLE

または

RC=310, DFSOFMD0 UNABLE TO GETMAIN STORAGE FOR - FAST PATH EPST WORK BUFFER

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、高速機能 ESCD、高速機能作業バッファ、制御ブロック・テーブル・ヘッダー、または制御ブロック・テーブル (CBT) を再配置するために必要なストレージを取得できませんでした。IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、CBT サブセット・オプションか CBTE サブセット・オプション、または CBT FIND サービスを使用して制御ブロックを配置するその他のオプションをフォーマットできなくなります。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、高速機能の制御ブロックはフォーマット設定されません。

DFSOFMD0 はすべての CBT を使用不可にして IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定を続行します。

ユーザーの処置: AMDPRDMP に提供されるストレージを増やした後、ジョブを再実行します。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3919W RC=rc, reason_test

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、TCBFSA ポインターを使用して SCD を配置しようとしたましたが、必要なダンプ・

ストレージにアクセスできませんでした。この状態は、無効なダンプまたは不完全なダンプを使用したか、または無効な IMS ジョブ名を指定したことが原因である可能性があります。

メッセージ・テキストで、*rc* および *reason_test* は次の値のいずれかです。

- RC=00, UNKNOWN ERROR
- RC=01, RESERVED FOR FUTURE USE
- RC=02, RESERVED FOR FUTURE USE
- RC=03, UNABLE TO FIND IMS SCD
- RC=04, DUMP BUFFERS
- RC=05, RELOCATED FP ESCD
- RC=06, RELOCATED SCD
- RC=07, DUMP FORMATTER MODULES
- RC=08, RELOCATED CBT HEADER
- RC=09, SAP SORT WORK AREA
- RC=10, RELOCATED CBT TABLE
- RC=11, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND CVT
- RC=13, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND JESCT
- RC=14, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND SSCT
- RC=27, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND ASVT
- RC=45, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND IMS TCB

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定は終了します。

ユーザーの処置: 正しいレベルの DFSOFMD0 を使用していることを確認してください。SYSMDUMP、オペレーターが要求したダンプ、またはスタンドアロンのダンプを使用している場合は、システム・プログラマーと協力して、必要なストレージ・エリアがすべてダンプされていることを確認してください。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3920W RC=15, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND CBT HEADER

または

RC=18, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND CBT TABLE

または

RC=25, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND FP ESCD

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、ダンプ内から IMS CBT 制御ブロックまたは高速機能 ESCD 制御ブロックを検出できませんでした。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、高速機能に関連したフォーマット設定または CBT に関連したサービスはすべて使用不可となります。

ユーザーの処置: IMS システムのレベルと互換性のあるレベルの DFSOFMD0 のレベルを使用していることを確認してください。SYSMDUMP、オペレーターが要求したダンプ、またはスタンドアロンのダンプを使用している場合は、z/OS システム・プログラマーと協力して、必要なストレージ域がすべてダンプされているかどうかを確認してください。問題が継続する場合は、IMS システム・プログラマーに通知してください。

DFS3921W RC=26, DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP - UNABLE TO FIND DFSABND0

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、ダンプ内から指定されたモジュールを検出できませんでした。

システムの処置: DFSOFMD0 は、現行ライブラリーから名前付きモジュールの新規コピーをロードして、処理を続行しようとしています。

ユーザーの処置: SYSMDUMP、オペレーターが要求したダンプ、またはスタンドアロンのダンプを使用している場合は、z/OS システム・プログラマーに連絡して、必要なすべてのストレージ域がダンプされていることを確認してください。次に、ダンプを調べて、IMS が初期設定の早期段階や終了処理の後期段階になかったことを確認してください。さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3922W RC=16, DFSOFMD0 LOAD FAILED FOR - LOAD MODULE DFSABND0, ENTRY POINT = DFSABND0

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、ダンプ・フォーマッター・ロード・モジュールが欠落していたか DFSABND0 エントリー・ポイントを含んでいなかったために、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター・モジュールの新しいコピーを、現行ライブラリーからロードできませんでした。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定が停止し、RC=8 で AMDPRDMP に制御が戻されます。

DFS3923I • DFS3925W

システム・プログラマーの応答: DFSABND0 が正しい IMS リリースに使用可能であり、DFSABND0 のエントリー・ポイントを使用して正しくバインドされていることを確認してください。

ユーザーの処置: ダンプ内の IMS ダンプ・フォーマッター・モジュールを使用するか、またはロード・モジュール DFSABND0 が現行ライブラリー内にあることを確認します。その後、ジョブを再実行します。

**DFS3923I OTMA SVC INITIALIZATION
COMPLETE - DFSYSVC0 A=xxxxxxx
L=yyyyyyyy**

説明: モジュール DFSYSVC0 は正常にロードされ、BPE に登録されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

DFSYSVC0 がロードされたアドレス

yyyyyyyy

モジュール DFSYSVC0 の長さ

システムの処置: DFSYSVC0 は正常にロードされ、BPE に登録されています。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSYSVIO

**DFS3924W RC=19, DFSOFMD0 ERROR WITH
DFSFRMAT DATA SET- UNABLE TO
FIND DD STMT**

または

**RC=20, DFSOFMD0 ERROR WITH DFSFRMAT
DATA SET - UNABLE TO OPEN DATA SET**

または

**RC=21, DFSOFMD0 ERROR WITH DFSFRMAT
DATA SET - READ/CHECK FAILED**

または

**RC=36, DFSOFMD0 ERROR WITH DFSFRMAT
DATA SET - "FMTIMS" KEYWORD NOT FOUND**

または

**RC=41, DFSOFMD0 ERROR WITH DFSFRMAT
DATA SET - RECFM FORMAT INVALID**

または

982 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

**RC=42, DFSOFMD0 ERROR WITH DFSFRMAT
DATA SET- LRECL/BLKSIZE INCOMPATIBLE**

説明: DFSOFMD0 が IMS ダンプ・フォーマット制御データ・セットの検出、オープン、または読み取りを実行できなかったか、DFSFRMAT の DD ステートメントまたはデータ・セットに無効なデータが含まれていました。発行された特定の形式のメッセージに問題が示されています。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマット設定は、SUMMARY オプションを使用して続行されます。

ユーザーの処置: 次の点を確認してください。

- IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定用の有効な DFSFRMAT DD ステートメントが組み込まれている。
- ダンプ・フォーマット制御データ・セットが存在しており、有効である。
- DFSFRMAT データ・セットで、有効な LRECL 値および BLKSIZE 値と共に、RECFM=F または RECFM=FB が指定されている。
- FMTIMS 制御ステートメントが DFSFRMAT データ・セットの最初に指定されている。

さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3925W RC=22, DFSOFMD0 AMDPRDMP
PARMLIST ERROR - UNABLE TO
FIND EXTENSION**

または

**RC=23, DFSOFMD0 AMDPRDMP PARMLIST
ERROR - NO JOBNAME PARAMETER FOUND**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定 (DFSOFMD0) で、IMS ダンプ・フォーマット設定に必要な IMS ジョブ名を含む AMDPRDMP 出口パラメーター・リスト拡張を検出することができませんでした。

システムの処置: IMS オフライン・フォーマット設定が停止し、RC=8 で AMDPRDMP に制御が戻されません。

ユーザーの処置: 有効な IMSDUMP verb に有効なジョブ名が与えられていることを確認してください。問題が継続する場合は、z/OS システム・プログラマーに通知してください。

**DFS3926W RC=24, DFSOFMD0 EXIT
PARAMETER LIST ERROR -
JOBNAME IS NOT AN IMS
SUBSYSTEM**

または

**RC=28, DFSOFMD0 EXIT PARAMETER LIST
ERROR - JOBNAME ASCB NOT FOUND**

説明: AMDPRDMP 出口パラメーター・リスト内の IMSDUMP ジョブ名のアドレス・スペース制御ブロック (ASCB) が現行のダンプから欠落しているか、またはそのジョブ名の ASCB は存在しているが、サブシステム・タイプ "DB" または "DC" と一致する SSCT エントリーがありませんでした。このエラーは、次の条件のいずれかに該当する場合に発生します。

- 必要なストレージがダンプされなかった。
- ジョブ名が間違っていた。
- メモリー・ダンプが作成される前に、IMS ジョブが終了した。
- IMS 以外のジョブにジョブ名が与えられた。


システムの処置: IMS ダンプ・フォーマット設定が停止し、RC=8 で AMDPRDMP に制御が戻されます。

ユーザーの処置: 次の点を確認してください。

- 正しいダンプを提供している。
- IMS ジョブ名が有効である。
- 必要なストレージがすべてダンプされている。
- IMS がダンプ内にあった。
- IMS が初期設定の早期段階や終了処理の後期段階になかった。

さらに支援が必要な場合は、z/OS システム・プログラマーに連絡してください。

関連資料:

 オフライン・ダンプ・フォーマッター・ユーティリティー (DFSOFMD0) (システム・ユーティリティー)

**DFS3927W DFSDPARM PARAMETER LIST NOT
ALLOCATED, PARTIAL OFFLINE
DUMP MAY RESULT.**

説明: IMS ダンプ支援モジュール (DFSFDMP0) に特定の DFSDUMP オプションが入った DFSDPARM 制御ブロックが渡されませんでした。DFSFDMP0 は代わりにデフォルト・オプションを使用しました。

システムの処置: DFSFDMP0 は、RC=8 で DFSDUMP の発行者に戻ります。SDUMP 処理は継続します。

オペレーターの応答: 即時に処理を実行する必要はあり

ませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

**DFS3928W UNRECOVERABLE ERROR DURING
IMS DUMP REQUEST MAY RESULT
IN NO OFFLINE DUMP.**

説明: IMS SDUMP 要求の処理中に問題が検出されたため、IMS SDUMP の処理が停止しました。メモリー・ダンプがまだ作成されていない場合、メモリー・ダンプは作成されません。

システムの処置: DFSFDMP0 は、RC=8 で DFSDUMP の発行者に戻ります。スピノフ・メモリー・ダンプ、ソフトウェア LOGREG エントリー、および従属領域メモリー・ダンプなどの代替オンライン診断が許可されます。

オペレーターの応答: 即時に処理を実行する必要はありませんが、IMS システム・プログラマーに、このメッセージを受け取ったことを知らせてください。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプ処理エラーに対して作成された LOGREC エントリーも含めて診断出力を調べて、問題の原因を判別します。

**DFS3929W name ADDRESS SPACE STORAGE IS
NOT IN THIS DUMP**

説明: *name* アドレス・スペース用の専用アドレス・スペース・ストレージがダンプされませんでした。メッセージ・テキストで、*name* は次のいずれかです。

CTL

DLI

DBRC

システムの処置: IMS オフライン・メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、オプションがバイパスされたり、ブロックをフォーマット設定できなかったりする可能性があります。

ユーザーの処置: 正しいメモリー・ダンプを提供したことを確認してください。次のダンプの場合は、この状態が妥当である可能性があります。

- CTL、DL/I、または DBRC のアドレス・スペースが要求されなかった IMS メモリー・ダンプ。
- CTL か DL/I、またはその両方のアドレス・スペースを要求しなかった、SYSMDUMP、2 次要求 IMS メモリー・ダンプ、オペレーターが開始した SVC メモリー・ダンプ。
- z/OS が開始した SVC メモリー・ダンプ。

さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3930I DFSOFMD0 WAS NOT ASSEMBLED AT THE SAME MVS SP LEVEL AS THE IMS DUMPED OR THE DUMP IS NOT MACHINE READABLE

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定モジュールが、ダンプされた IMS システムと同じ z/OS SP レベルでアセンブルされなかったか、メモリー・ダンプをマシンで読み取れなかったか、またはデータ・セットがメモリー・ダンプではなかったため、z/OS 制御ブロックを正しく分析できません。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は終了します。

ユーザーの処置: DFSOFMD0 が、このメモリー・ダンプ用に正しい z/OS レベルでアセンブルされ、そのメモリー・ダンプがマシンで読み取り可能であることを確認してください。さらに支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3930W DFSOFMD0 ENCOUNTERED ERROR WITH DUMP- RC45, DFSOFMD0 IMS LEVEL DOES NOT MATCH DUMP

説明: DFSOFMD0 のバージョンまたはリリース・レベルが、メモリー・ダンプ内で検出された IMS のレベルと互換性がありません。IMS ダンプ・フォーマット設定の初期設定コードは、メモリー・ダンプ内の IMS 制御ブロックと互換性があることが必要です。IMS オフライン・ダンプ・フォーマット設定は実行されません。

システムの処置: 互換ライブラリーが使用されていることを確認して、メモリー・ダンプ・フォーマット設定ジョブを再実行します。

DFS3931W DFSFDMP0 UNABLE TO GET SRB BLOCK STORAGE, NO IMS OFFLINE DUMP ATTEMPTED.

または

DFSFDMP0 UNABLE TO GET WORK AREA STORAGE, NO IMS OFFLINE DUMP ATTEMPTED.

説明: IMS ダンプ支援モジュールが、内部作業域に必要な専用ストレージを取得できなかったか、SDUMP SRB インターフェースに必要な CSA ストレージを取得できませんでした。メッセージ DFS629I は送信されませんでした。また、IMS SDUMP メモリー・ダンプは作成されませんでした。

システムの処置: DFSFDMP0 は、RC=36 で DFSDUMP の発行者に戻ります。オンライン・メモリ

ー・ダンプ・フォーマット設定は抑止されません。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

メッセージによって、作業域ストレージが使用不可であることが示されている場合は、IMS システム・プログラマーに、失敗しているアドレス・スペースに追加の仮想記憶域を提供するよう指示してください。このメッセージによって、SRB ブロック・ストレージが使用不可であることが示されている場合は、システムを検査して、グローバル・ストレージの不足の原因を判別する必要があります。

関連情報:

197 ページの『DFS629I』

DFS3932I IMS DUMP REQUEST COMPLETED - RETURN CODE = ccc

説明: DFSFDMP0 は IMS SDUMP 要求を完了しました。ccc の意味は、次のとおりです。

- 00 正常終了。
- 04 DFSDUMP パラメーター・エラー。メモリー・ダンプは作成されました。
- 08 パラメーター・リストがないか、または GETMAIN が失敗しました。メモリー・ダンプは作成されました。
- 12 複数のアドレス・スペース ID (ASID) ダンプが失敗しました。単純なメモリー・ダンプが作成されました。
- 20 DFSDUMP はすでに進行中です。メモリー・ダンプは作成されません。
- 24 ダンプがすでに作成されているか、または許可されていません。
- 28 DFSDUMP パラメーター・エラー。メモリー・ダンプは作成されました。
- 32 WTOR オペレーター・メッセージに対してオペレーターが 'S' (スキップ) を応答したため、ダンプは作成されませんでした。
- 36 内部処理エラー。メモリー・ダンプは作成されませんでした。
- 40 直前のオフライン・メモリー・ダンプが失敗したため、ダンプは試行されませんでした。
- 48 SDUMP 処理エラー。SDUMP 理由コードの説明については、メッセージ DFS3905W を参照してください。

システムの処置: DFSFDMP0 は、メッセージ内にリストされた戻りコードで DFSDUMP の発行元に戻ります。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

**DFS3933W THIS APPEARS TO BE A DUMP OF
IMS DURING EARLY IMS
INITIALIZATION. DUMP
FORMATTING WILL BE ALLOWED
TO CONTINUE, BUT FORMATTING
ERRORS MAY OCCUR BECAUSE
CONTROL BLOCKS ARE NOT
FULLY BUILT.**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの初期設定ルーチンは、IMS アドレス・スペースのうちの 1 つ以上の初期設定が完全ではなかったため、IMS 制御ブロックの一部が完全には構築および初期設定されなかった可能性があるかと判断しました。直後に続くメッセージ DFS3934W で、初期設定が不完全だった IMS アドレス・スペースが示されます。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、予測不能なフォーマット設定エラーが起きる場合があります。

ユーザーの処置: フォーマット設定された出力は、注意して使用してください。完全に初期設定されていない制御ブロックには、フォーマット設定エラーが含まれている可能性があります。

関連情報:

『DFS3934W』

**DFS3934W RC=38 CTL ADDRESS SPACE WAS
NOT FULLY INITIALIZED.**

または

**RC=39 DL/I ADDRESS SPACE WAS NOT FULLY
INITIALIZED.**

または

**RC=40 DBRC ADDRESS SPACE WAS NOT FULLY
INITIALIZED.**

説明: 指定された IMS アドレス・スペースはメモリー・ダンプが作成されたときに完全には初期設定されていなかったため、このアドレス・スペース内の一部の IMS 制御ブロックは、完全には構築および初期設定されていない可能性があります。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定は続行されますが、予測不能なフォーマット設定エラーが起きる場合があります。

ユーザーの処置: フォーマット設定された出力は、注意して使用してください。完全には初期設定されていない制御ブロックに対してフォーマット設定エラーが発生する可能性があります。


**DFS3935I IMS SYMBOL SERVICE ERROR,
RC=*nn***

説明: IPCS が、IMS シンボル作成要求に対してゼロ以外の戻りコードを戻しました。*nn* は、IPCS シンボル作成サービスの戻りコードです。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、次の IMS シンボルへ処理を進めます。

ユーザーの処置: ただし、示されているシンボルは、現在のメモリー・ダンプに対しては存在しません。

関連資料:

 z/OS: シンボル・サービス

**DFS3936I IMS SYMBOL SERVICES
UNAVAILABLE**

説明: 現行のフォーマット設定呼び出しでは、シンボル作成サービスは使用不可です。他のシンボル・サービス・エラー・メッセージの 1 つが、このメッセージよりも前に発行されている場合があります。

システムの処置: 現行のフォーマット設定呼び出しでは、シンボル作成サービスは使用不可です。

ユーザーの処置: 前のシンボル作成サービスのメッセージを参照してください。

**DFS3937I UNABLE TO ACCESS STORAGE
WHILE FORMATTING THE *ccc...ccc***

説明: メモリー・ダンプ・フォーマット設定中、ダンプされたストレージにアクセスしているときにエラーが発生しました。フィールド *ccc...ccc* は、最大 16 バイトで、フォーマットされている制御ブロックまたはデータ域を示します。

オンライン環境において、メモリー・ダンプ・ストレージは、IMS ダンプ・フォーマッター内にあります。

最も一般的なメモリー・ダンプ・ストレージ・アクセス・エラーは、次のとおりです。

- STORAGE NOT AVAILABLE。要求されたストレージがメモリー・ダンプ内にありませんでした。
- PARTIAL STORAGE AVAILABLE。要求されたストレージの一部がメモリー・ダンプ内にありました。

システムの処置: ほとんどのエラーで、このメッセージの直後に診断メモリー・ダンプが続きます。この診断メモリー・ダンプは、次のもので構成されています。

- SDWA の内容。これには PSW、完了コード、モジュール ID、レジスター、および SDWA エリアのメモリー・ダンプが含まれます。
- 命令域。これには、障害のある命令の前と後の 128 バイトのデータ (合計 256 バイト) が含まれます。

- 通信域。これは、IMS ダンプ・フォーマッターがフォーマット設定モジュール間の相互通信のために使用する制御ブロックです。
- 保管域。これは、メモリー・ダンプ・フォーマッターが使用する保管域セットのメモリー・ダンプです。
- メモリー・ダンプ・フォーマッター・モジュールのベクトル・テーブル。
- ダンプ・フォーマッターのストレージ・バッファ・ヘッダーおよび接頭部 (オフライン・フォーマット設定のみ)。
- ダンプ・オプション要求ブロック・ストレージ (オフライン・フォーマット設定のみ)。

エラーの診断メモリー・ダンプの後、ダンプ・フォーマッターは、要求された次の IMS 制御ブロックのフォーマット設定を続行します。

次のいずれかの形式の `ccc...ccc` を受け取ると、診断メモリー・ダンプは抑止されます。

'PSB' (および、メモリー・ダンプに DL/I ストレージがない)
 'AUTO OPTION PROC' (および、デバッグが要求されなかった)
 'ABND DIAG. AREA'
 'SA - EP ADDRESS'
 'SAP'
 'ECB PREFIX'
 'SAVE AREA'
 'REGISTER AREA'
 'SA - INV FWD PTR'
 'QUEUE BUFFERS'
 'UEHB'
 'LATCH LIST'
 'ECB STORAGE'
 'XMCI BLOCK'
 'USE LIST (CULE)'

ユーザーの処置: IMS ダンプ・フォーマッターで失敗しても、元の問題の診断に役立つ情報が出力で提供されることもあります。メモリー・ダンプ・フォーマッター出力によって十分な情報が得られない場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 診断メモリー・ダンプを使用して、問題の原因を判別してください。診断メモリー・ダンプが抑止されている場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3938W TRACE TABLE WITH NAME cc
 REQUESTED -- NOT FOUND**


説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター TRACE 要求に対して、要求されたトレース・テーブルを検出できませんでした。このことは、通常、無効の名

前が要求されたことを示します。このことは、有効なトレースは存在するが、それが開始されなかったことを示しているではありません。

システムの処置: TRACE オプション・フォーマッターは現在の要求を終了して、次のトレース要求で継続します。

ユーザーの処置: 適切な IMS トレース・テーブル名が要求されたことを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

関連資料:

 タイプ 1 トレース・テーブル・インターフェース (診断)

**DFS3939I ccccccc FORMATTING TERMINATED
 -- WORKAREA STORAGE
 UNAVAILABLE**

説明: 要求の処理に必要な IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの内部作業域を取得できませんでした。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。作業域スペースを GETMAIN するために十分なストレージを取得できなかったため、エラーが発生しました。このメッセージは、同一のフォーマッター呼び出し中にダンプ・フォーマッターの低レベル・オプション要求が 64 以上になった場合にも発生します。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは現在の要求をスキップして、次のフォーマット設定要求を処理しようとしています。

ユーザーの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターに十分なストレージがあることを確認して、要求を再発行します。TSO 使用の場合は、領域サイズが十分であることを確認してください。バッチ・ジョブの場合は、領域サイズを増やして、ジョブを再実行します。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ユーザーの TSO CLIST 機能からメモリー・ダンプ・フォーマッター・オプションを要求している場合は、一度の呼び出しで使用するオプションは 63 以内にしてください。

**DFS3940I ccccccc FORMATTING TERMINATED
 -- UNEXPECTED DUMP STORAGE
 ACCESS ERROR**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションの要求のための制御ブロックを検索または処理している間、ストレージにアクセスできませんでした。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。IPCS ストレージ・アクセス・サービ

ス・ルーチンからのゼロ以外の戻りコードがこの状態を示します。この状態の原因は、次のいずれか 1 つです。

- 要求された制御ブロック・ストレージを含まないメモリー・ダンプをフォーマットしようとした。
- 無効のアドレスでダンプされたストレージ内のエラーによって、要求されたフォーマット設定が阻止された。
- 無効のフォーマッター要求によって、フォーマッターが利用不能のメモリー・ダンプ・ストレージを要求した。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。必要な情報を取得するには、DC、DB、または SPST など、関連付けられているハイレベルのフォーマット設定オプションでフォーマット設定された出力を要求します。このエラー・メッセージの前に、メモリー・ダンプ・フォーマッター・ブロックのメッセージ DFS3937I および SNAP が出力されます。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターは、それ以上のオプションの要求をスキップし、次のフォーマッター・オプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置: ストレージ (必要に応じて CTL、DL/I、または CSA) が存在していることを確認してください。フォーマッター要求が有効であったことを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

関連情報:

985 ページの『DFS3937I』

**DFS3941I TRACE TABLE FORMATTING
TERMINATED DUE TO BAD TRACE
CONTROL BLOCK ADDRESS -
cccccccc**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターが、TRACE オプション要求の処理中に無効なトレース・テーブル制御ブロックを検出しました。cccccccc が不良アドレスです。

システムの処置: TRACE オプションのフォーマット設定は終了し、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

ただし、要求されたトレース・テーブルの一部はフォーマットされませんでした。

**DFS3942I IMS DUMP FORMAT REQUEST
INCOMPLETE OR IN ERROR -
cccccccc**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターが、タイプまたは引数を要求しているフォーマット要求でエラーを検出しました。cccccccc は、エラーとなっているテキストです。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは現在の要求を無視して、残りの認識可能な修飾子をパージし、次のフォーマット要求の構文解析を続行します。

ユーザーの処置: フォーマット要求エラーを訂正して、失敗した要求を再実行依頼します。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3944I ccccccc FORMATTING TERMINATED
-- NO REQUEST CHAIN FOUND**

説明: 指定された IMS フォーマット設定オプションが選択されましたが、有効なフォーマット設定要求が検出されませんでした。cccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。引数は、無効の要求であった可能性があります (引数がないか、またはタイプが無効)。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプション要求をスキップし、次のメモリー・ダンプ・フォーマッター・オプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置: 名前付きオプション要求が、要求タイプ、引数、および修飾子キーワードと同じように有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3945I CLB/LLB FORMATTING
TERMINATED -- NO BLOCKS
FOUND**

説明: CLB/LLB オプション要求が出されましたが、要求されたブロックは、ダンプされたシステムには発生しませんでした。このエラー・メッセージが発行されるのは、ダンプされた IMS が損傷していて、CLB/LLB ブロック・ポインターがもはや無効である場合、またはダンプされた IMS が、要求されたブロックを持つように生成されなかった場合です。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数

が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは現在の要求をスキップして、次の要求へ処理を進めます。CLB は存在するが LLB がないか、または LLB は存在するが CLB がありません。

ユーザーの処置: CLB オプション要求または LLB オプション要求が有効で、メモリー・ダンプがフォーマット設定されていることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3946I PST NOT FORMATTED --
REQUESTED PST IS NOT A SYSTEM
PST**

説明: 要求された PST は、アクティブなシステム PST ではありませんでした。無効な SYSPST 要求 (PST は DPST である可能性があります) によって、この状態が発生しました。

システムの処置: SYSPST オプション・フォーマッターは現在の要求を終了し、次の要求で継続します。

ユーザーの処置: すべての SYSPST フォーマット設定要求が有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3947I ccccccc FORMATTING TERMINATED
-- UNEXPECTED FORMATTER
PROGRAM ERROR**

説明: 指定されたオプションの処理中に、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター ESTAE に入りました。ccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。通常は、DFS2400I メッセージおよび IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター制御ブロックの SNAP が、このエラー・メッセージに先行します。要求ヘッダ行 (これらのメッセージが生成される原因となった要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) は、通常、DFS2400I メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: メモリー・ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションについてのすべての要求をスキップし、次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置: 処理中であったメモリー・ダンプを保管し、IMS システム・プログラマーに問題を報告してください。

プログラマーの応答: 支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

問題判別: DIAG オプションで再実行してください。その後、2、4、8、11。

関連情報:

587 ページの『DFS2400I』

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

**DFS3948E OTMA C/I CLIENTS ARE STILL
ACTIVE**

説明: OTMA C/I クライアントがまだアクティブになっているときに、OTMA C/I 初期設定ユーティリティー DFSYSVIO が実行されました。既存の OTMA C/I クライアントで SVC 初期設定を実行すると、XCF エラーが発生します。

システムの処置: ユーティリティーは DFS3950A を発行して、応答を待ちます。

オペレーターの応答: OTMA C/I クライアントは、D GRS,RES=(DFSOTMA,*) を使用することによって識別できません。

ユーザーの処置: OTMA C/I クライアントを終了して、DFS3950A に応答します。

モジュール: DFSYSVIO

関連情報:

『DFS3950A』

**DFS3949W INSUFFICIENT VIRTUAL STORAGE
FOR COMPLETE SB
DUMP-FORMATTING**

説明: 順次バッファリング (SB) ダンプ・フォーマット設定モジュールが、すべての SB 制御ブロックおよび SB バッファーに必要な作業域を GETMAIN できませんでした。

システムの処置: ダンプ・フォーマット設定は続行されます。しかし、一部の SB 制御ブロックかバッファー、またはその両方がフォーマット設定されません。

ユーザーの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマット設定で使用可能な仮想ストレージの量を増やしてください。

DFS3950A REPLY RETRY, BYPASS OR CANCEL

説明: OTMA C/I クライアントがまだアクティブになっているときに、OTMA C/I 初期設定ユーティリティー DFSYSVIO が実行されました。既存の OTMA C/I クライアントで SVC 初期設定を実行すると、XCF エラーが発生します。

システムの処置: ユーティリティーは応答を待ちます。

オペレーターの応答: OTMA C/I クライアントは、DGRS,RES=(DFSOTMA,*) を使用することによって識別できます。

ユーザーの処置: クライアントを終了して、「RETRY」と応答し、SVC の初期設定を再試行してください。

クライアントを終了できない場合は、「CANCEL」と応答して、SVC を初期設定せずにユーティリティを停止します。

クライアントが孤立していて再び使用されない場合は、「BYPASS」と応答して、SVC の初期設定を続行します。

重要: 既存のクライアントが OTMA C/I の再使用を試行した場合に XCF エラーが発生する可能性があるため、このオプションを使用する際には細心の注意を払ってください。

モジュール: DFSYSVIO

第 83 章 DFS メッセージ DFS3951 - DFS4000I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS3951 TAKEOVER OCCURRED--ENTER PA2 FOR RESPONSE MODE REPLY

説明: このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告したときに発行されます。ユーザーは、応答モードに入っています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: PA2 を入力して、応答モードの応答を受け取ります。

DFS3952 TAKEOVER OCCURRED--ENTER PA2 FOR CONVERSATION MODE REPLY

説明: このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告した場合に発行されます。ユーザーは、会話モードに入っています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: PA2 を入力して、会話モードを継続します。

DFS3953 TAKEOVER OCCURRED--ENTER PA2 FOR OUTPUT MESSAGE

説明: このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告した場合に発行されます。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: PA2 を入力して、出力メッセージを受け取ります。

DFS3954 TAKEOVER OCCURRED--REENTER THE LAST INPUT (/FORMAT MAY BE NECESSARY)

説明: このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告したときに発行されます。また、このメッセージは、セッションを継続するために行う必要のあるアクションも示します。

テークオーバーの前に最後に入力された入力が失われま

した。入力は、データ、PA キー、PF キー、または CLEAR キーであった可能性があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 最後のフォーマットを取得するには、/FORMAT コマンドを入力します。次の入力によって予期しない出力が生成された場合は、PA2 を入力します。

DFS3955 TAKEOVER OCCURRED--ENTER PA2, THEN REENTER THE LAST INPUT

説明: このメッセージは、以前の代替システム (現在のアクティブ・システム) が、システムのテークオーバーが完了したことを端末ユーザーに報告したときに発行されます。ユーザーは、会話モードに入っています。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: PA2 を入力して、最後の入力を再入します。次の入力によって予期しない出力が生成された場合は、PA2 を入力します。

DFS3956I SYSTEM PST FORMATTING TERMINATED -- NO SYSTEM PSTS COULD BE FOUND

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター SYSPST オプション要求が出されましたが、ダンプされたシステムには、SYSPST がないように見えます。この状態が有効なのは、ダンプされた IMS システムが、メモリー・ダンプ時に初期設定の早期段階にあった場合だけです。ダンプされた IMS システム内のストレージ・エラーが、この状態の原因です。

システムの処置: SYSPST オプションのフォーマット設定が終了し、フォーマッターは、次のオプションで継続します。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

しかし、SYSPST のフォーマットは不可能です

DFS3957I ccccccc FORMATTING TERMINATED -- INVALID ADDRESS CHARACTERS IN ARGUMENT

説明: 名前付きオプションの ADDRESS 引数に、16 進文字以外の文字が含まれていました。ccccccc は、要

求されたフォーマッター・オプションです。要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションについて、現在の要求をスキップします。

ユーザーの処置: オプション要求引数が有効であることを確認してください。有効な 16 進値は、0 から 9、A から F です。アドレス引数の長さは、1 から 8 の範囲の 16 進文字である必要があります。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3958I CLB FORMATTING TERMINATED --
INVALID CHARACTERS IN CID
ARGUMENT**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター CLB 要求、VTAM 通信 ID (CID) 引数に、16 進文字以外の文字が含まれていました。要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは現在の CLB 要求をスキップして、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置: CID 引数が有効であることを確認してください。有効な 16 進値は、0 から 9、A から F です。CID の長さは 8 文字 (16 進) です。これは、ノードのネットワーク・アドレスです。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3959I ccccccc FORMATTING TERMINATED
-- ADDRESS ARGUMENT IS
INVALID**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの指定された要求の ADDRESS 引数が、オプション ccccccc にとって無効なストレージ・アドレス範囲内であると判別されました。ダンプされたストレージまたは無効のフォーマット設定要求内のエラーが、この状態の原因である可能性があります。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: メモリー・ダンプ・フォーマッターは、現在の要求を終了します。

ユーザーの処置: ADDRESS 引数が有効であることを

確認してください。IMS 制御ブロックは、ストレージの最初の 4 K 内では発生しません。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3960I ccccccc FORMATTING TERMINATED
-- INVALID NUMBER ARGUMENT
REQUESTED**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの指定されたオプションの要求に、最大のシステム定義番号より大きいか 0 の NUMBER 引数がありました。ccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。ダンプされた IMS システム内の無効なフォーマット設定要求の NUMBER 引数またはエラーが、この状態の原因となっている可能性があります。

要求ヘッダー行 (このメッセージを生成した、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、エラー・メッセージの前に出力されます。

システムの処置: メモリー・ダンプ・フォーマッターは現在の要求を終了して、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置: 要求された NUMBER 引数が有効であることを確認してください。番号は、ゼロ以外の 10 進数で、ダンプされた IMS システムにとって有効であることが必要です。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3961I THE REQUESTED PST IS EITHER A
SYSTEM PST OR A DPST THAT
HAS NEVER BEEN USED**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの DPST オプションは、要求を満たす PST を検出しましたが、その DPST/SYSPST 状況を確認できませんでした。未使用の DPST が選択されていた場合、この状態は妥当です。ただし、DPST フォーマット設定オプションの下でシステム PST に対して無効の要求が出されている場合は、この状態が発生していた可能性があります。

システムの処置: 要求は終了し、DPST オプション・フォーマット設定は、次の要求で継続します。

ユーザーの処置: すべての DPST フォーマット設定要求が有効であることを確認してください。要求された PST は、SYSTEM PST としてフォーマットできます。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3962I ccccccc FORMATting TERMINATED
-- NO BLOCKS FOUND**

説明: 指定されたオプションについて、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター要求が出されましたが、ダンプされた IMS システムには、ブロックがないように見えます。ccccccc は、要求されたオプションです。ブロックが生成されていない場合、この状態は有効です。ダンプされたシステム内のストレージ・エラーが、この状態の原因です。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションをスキップし、次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置: オプション要求引数が有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3963I CLB FORMATTING TERMINATED --
REQUESTED LTERM NOT FOUND**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッター通信回線ブロック (CLB) の処理中に、要求と一致する LTERM 名を持つ通信名テーブル (CNT) が検出されませんでした。通常は、要求に対する無効の LTERM 名引数が、この状態の原因です。ただし、アクティブでない LTERM に対する要求によって、この状態が発生する場合があります。

システムの処置: メモリー・ダンプ・フォーマッターは現在の CLB フォーマット設定要求を終了し、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置: CLB オプション要求が有効であることを確認してください。CLB LTERM 引数が、有効な IMS LTERM 名を参照していることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3964I CLB FORMATTING TERMINATED --
REQUESTED NODE NAME NOT
FOUND**

説明: CLB 要求の NODE 引数と一致するノード名を持つ通信回線ブロック (CLB) が見つかりませんでした。通常は、要求に対する無効の NODE 引数が、この状態の原因です。ただし、端末が現在 IMS に接続されていないときに動的に作成された端末ブロックの要求も、この状態を引き起こすことがあります。

要求ヘッダ行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは現在の CLB フォーマット設定要求を終了し、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置: CLB オプション要求が有効であることを確認してください。CLB NODE 引数が、有効な IMS ノード名を参照していることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3965I ccccccc FORMATting TERMINATED
-- BLOCK FAILED VALIDITY CHECK**

説明: オプション ccccccc に対して要求された制御ブロックが、制御ブロック妥当性検査にパスしませんでした。通常は、無効の要求 (アドレス引数) が、この状態の原因です。ダンプされた IMS 内のエラーが原因でこの状態が起きる場合もあります。

要求ヘッダ行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

妥当性検査は、制御ブロック内の指定されたポインターが、予想されているターゲットの位置を指していることを保証します。例えば、要求された CLB が要求された CLB 内の有効な CTB をポイントしていることが検証されます。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは現在の要求を終了して、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置: オプション要求およびその引数が有効であることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3966I CLB FORMATTING TERMINATED --
REQUESTED CID NOT FOUND**

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターの CLB オプションの処理中に、要求された CID 要求引数と一致する VTAM 通信 ID (CID) を持つ CLB が検出されませんでした。次のいずれかの状態が原因でこの状態が発生しました。

- CID 引数が無効である。
- 端末が IMS に接続されていないときに、動的に作成された端末ブロックが要求された。
- ダンプされた IMS システム内でストレージ・エラーがあった。
- 現在 IMS に接続されていない VTAM 端末が要求された。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: IMS メモリー・ダンプ・フォーマッターは現在の CLB フォーマット設定要求を終了し、次の要求へ処理を進めます。

ユーザーの処置: CLB オプション要求が有効であることを確認してください。CID 修飾子が、有効で接続済みの IMS ノードを参照していることを確認してください。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3967I INVALID SAP ADDRESS IN CLB/LLB -- SAP NOT FORMATTED

説明: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、要求された CLB/LLB に関連付けられている保管域接頭部をフォーマットしようとしているときに、無効な保管域接頭部アドレスを検出しました。ダンプされた IMS システム内のストレージ・エラーが、この状態の原因です。このメッセージの後の、フォーマットされた CLB/LLB ECB 接頭部に、無効のアドレスが検出されました。

システムの処置: IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、現行 CLB/LLB についての保管域接頭部フォーマット設定をスキップします。

ユーザーの処置: 支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

問題判別: 2、4、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS3968I ccccccc FORMATTING TERMINATED -- INVALID NUMBER CHARACTERS IN ARGUMENT

説明: 名前付きオプション NUMBER 引数に、10 進文字以外の文字が含まれていました。ccccccc は、要求されたフォーマッター・オプションです。

要求ヘッダー行 (このメッセージが生成される原因となった、要求されたフォーマッター要求タイプおよび引数が含まれています) が、このエラー・メッセージよりも前に出力されます。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは、指定されたオプションについて、現在の要求をスキップします。

ユーザーの処置: オプション要求引数が有効であることを確認してください。有効な 10 進値は 0 から 9 で

す。数字の引数は、1 から 4 桁の 10 進数である必要があります。支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

DFS3970 FAST PATH EXECUTION NOT POSSIBLE.

説明: このメッセージは、高速機能トランザクションを処理できない端末から、高速機能トランザクションが入力されようとした場合に発行されます。高速機能トランザクションを処理するには、端末で応答モードがサポートされている必要があります。

システムの処置: システムでは試行がリジェクトされ、トランザクションがスケジュールされません。

プログラマーの応答: このメッセージが発行された場合は、端末とトランザクションの間の関係をチェックして、すべてのシステム定義が正しいことを確認してください。

DFS3971 UNABLE TO PROCESS FAST PATH DUE TO EMH SHORTAGE

説明: IMS が、高速機能トランザクションを処理するために要求されたサイズの急送メッセージ処理 (EMH) バッファーを取得できませんでした。

システムの処置: IMS は、高速機能トランザクションをリジェクトして、このメッセージを端末ユーザーに送信します。

システム・プログラマーの応答: 現在の EMH バッファーの使用量を判別します。現在 EMH バッファーを持っているがこれらを必要としない端末およびセッションを停止またはクローズします。このアクションで、EMH バッファーを必要としている端末およびセッションで使用できるよう、これらのバッファーが解放されます。

次回に IMS を再始動するときに、必要なバッファー・サイズを獲得できるよう EMH バッファー・プール定義を増やしてください。

DFS3974W UNABLE TO WRITE OUTPUT RECORDS FROM THE IMS DUMP FORMATTER TO DATA SET: *data_set_name*

説明: IMS ダンプ・フォーマッターが、メッセージ・テキスト内で *data_set_name* で指定されているデータ・セットをオープンまたは割り振りできませんでした。ダンプ・ログ・バッファーからログ・レコードを書き込むためのデータ・セットを使用しようとしていました。

システムの処置: 既存のデータ・セットを提供した場合

は、正しいフォーマットで作成されたかどうか確認してください。データ・セットを自分で作成しなかった場合は、システムはデータ・セットの割り振りができませんでした。

システム・プログラマーの応答: レコードを書き込むために使用される有効なデータ・セットを提供するか、フォーマッターが作成するようにしてください。

モジュール: DFSAAED1

DFS3975W UNABLE TO WRITE REPORT DATA FROM THE IMS DUMP FORMATTER TO THE OUTPUT DATA SET:

data_set_name

説明: IMS ダンプ・フォーマッターが、メッセージ・テキスト内で *data_set_name* で指定されているデータ・セットを、レポート・データ書き込みに使用するためにオープンまたは割り振りができませんでした。

システムの処置: 既存のデータ・セットを提供した場合は、正しいフォーマットで作成されたか確認してください。データ・セットを自分で作成しなかった場合は、システムはデータ・セットの割り振りができませんでした。

システム・プログラマーの応答: レコードを書き込むために使用される有効なデータ・セットを提供するか、フォーマッターが作成するようにしてください。

モジュール: DFSAAED1

DFS3976E *utility name* UTILITY FAILED TO OPEN THE *ddname* DATA SET

説明: ユーティリティは、いずれかの必須データ・セットのオープンに失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティ。

ddname オープンが失敗したデータ・セット。 *ddname* の値には、以下のものがあります。

SYSUT1
REPORT
SYSPRINT
CONTROL
RDDSDSN

システムの処置: 示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール:

DFSJKJOB0、DFSURCM0、DFSURCL0、DFSURST0

DFS3977E *routine name* ROUTINE FAILED TO OPEN THE *ddname* DATA SET

説明: ルーチンは、いずれかの必須データ・セットのオープンに失敗しました。ルーチンはユーティリティ DFSURCM0 によって開始されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

routine name

問題が発生したルーチン。

ddname オープンが失敗したデータ・セット。 *ddname* の値には、以下のものがあります。

MODBLKS
JOB LIB
STEPLIB
SDFSRESL

システムの処置: 示されたルーチンは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール: DFSKMOD0、DFSKNUC0

DFS3978E *utility name* UTILITY FAILED TO CLOSE THE *ddname* DATA SET

説明: ユーティリティは、いずれかの必須データ・セットの正常なクローズに失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティ。

ddname クローズが失敗したデータ・セット。 *ddname* の値には、以下のものがあります。

SYSUT1
REPOR
SYSPRINT
CONTROL
MODBLKS
RDDSDSN

システムの処置: 示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール: DFSURCM0、DFSURCL0

**DFS3983E THE DFSURCM0 UTILITY FAILED
TO FIND THE TRANSACTION EDIT
ROUTINE FOR TRANSACTION
CODE *transaction code***

説明: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCM0) は、メッセージ・テキストで *transaction code* によって示されているトランザクションと関連付けるトランザクション編集ルーチンを判別できませんでした。このメッセージは、次のいずれかの結果として出された可能性があります。

1. IMS.SDFSRESL データ・セットが指定されなかったか、SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部を持つ中核メンバー DFSVNUCx を含んでいなかった。
2. リソース定義データ・セット (RDDS) がシステム定義入力から作成されている場合、CONTROL DD ステートメントが、DFSURST0 ユーティリティー OUTPARMS DD ステートメントによって作成されたデータ・セットを参照していない。
3. CONTROL DD ステートメントによって参照されるデータ・セットに、示されているトランザクション・コードの EDITRTN 制御ステートメントが含まれていない。

システムの処置: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 問題の考えられる原因に基づいて、次のいずれかを実行します。

- 1 の場合、SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部を持つ中核メンバー DFSVNUCx が含まれる IMS.SDFSRESL データ・セットが指定されていることを確認します。
- 2 の場合、DFSURST0 ユーティリティー OUTPARMS DD ステートメントによって作成されたデータ・セットが、CONTROL DD ステートメント・コードのデータ・セット連結に含まれていることを確認します。
- 3 の場合、*transaction code* に対して EDITRTN 制御ステートメントが指定されていることを確認します。

モジュール: DFSURCM0

**DFS3984I DUMP FOR ABEND xxxxx
SUPPRESSED BY DUMP OVERRIDE
TABLE.**

または

**DUMP FOR ABEND xxxxx FORCED BY DUMP
OVERRIDE TABLE.**

説明: メモリー・ダンプ・オーバーライド・テーブル

(DFSFDOT0) には、異常終了に対して生成されたメモリー・ダンプを強制または抑止するための、異常終了 xxxxx のエントリーがあります。

システムの処置: FORCE が指定されている場合は、異常終了が発生するとメモリー・ダンプが取られます。SUPPRESS が指定されている場合は、メモリー・ダンプは生成されません。この手順が処理された後、通常の異常終了後の処理が行われます。

プログラマーの応答: 情報が間違っている場合は、DFSFDOT0 内のメモリー・ダンプ・オーバーライド・テーブルのエントリーを修正します。メッセージが正しい場合は、それ以上のアクションは必要ありません。

**DFS3985W NO CBTE ENTRY FOUND FOR SAPS
- SUMMARY ENDS**

説明: 保管域接頭部 (SAP) ストレージが取得されなかったか、またはそのストレージへのポインターが損傷しています。

システムの処置: 保管域要約オプションが終了し、IMS オフライン・ダンプ・フォーマッターは、次のオプションへ処理を進めます。

ユーザーの処置: 支援が必要な場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

**DFS3986 IMS SYSTEM IS NOT FDR CAPABLE
- COMMAND REJECTED**

説明: /DIS FDR コマンドまたは /CHA FDR コマンドが、高速 DB リカバリーに対応していない IMS システムで入力されました。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 高速 DB リカバリーを使用して IMS システムを実行したい場合は、正しい EXEC パラメーターと DFSFDRxx IMS.PROCLIB メンバーを使用してジョブを再実行します。

モジュール: DFSCMT50

**DFS3987 FDR CAPABLE ENVIRONMENT NOT
COMPLETED - COMMAND
REJECTED**

説明: IMS システムは、高速 DB リカバリーに対応していましたが、再始動が進行中で、XCF JOIN 要求がまだ実行されていなかったため、高速 DB リカバリー環境は完了していません。

システムの処置: コマンドはリジェクトされます。

オペレーターの応答: 再始動操作またはコールド・スタートが完了した後、コマンドを再度入力します。

モジュール: DFSCMT50

DFS3988E THE DFSKMOD0 ROUTINE IS MISSING THE MODBLKS DD STATEMENT OR DD DUMMY IS SPECIFIED

説明: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCM0) に指定された JCL で DD MODBLKS ステートメントが欠落していたか、MODBLKS に DD DUMMY が指定されました。

システムの処置: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: JCL で MODBLKS DD ステートメントが指定されていること、および有効なデータ・セットが指定されていることを確認してください。

モジュール: DFSKMOD0

DFS3989W THE DATA SET SPECIFIED FOR THE *dd_name* DD STATEMENT DOES NOT CONTAIN MEMBER *member name*

説明: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーの JCL の DD ステートメントで指定されたデータ・セットには、示されているメンバーが含まれていませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dd_name

メンバーが欠落しているデータ・セット。値には次のものがあります。

MODBLKS
JOBLIB
STEPLIB
SDFSRESL

member name

欠落しているメンバー。

システムの処置: 処理を続行します。この問題が終了エラーである場合、このメッセージにはメッセージ DFS3990E が付随します。

プログラマーの応答: 示されている DD ステートメントが MODBLKS である場合、MODBLKS DD ステートメントに関連する正しい MODBLKS データ・セットを指定したことを確認してください。SUFFIX= 制御ステートメントに指定された値が、MODBLKS データ・セット内の必要なメンバーの正しい接尾部を指定していることを確認してください。

示されている DD ステートメントが JOBLIB、STEPLIB、または SDFSRESL である場合、デ

ータ・セットに、SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部値を持つ DFSVNUCx メンバーが含まれていることを確認します。SUFFIX= 制御ステートメントで指定された値と一致する接尾部値を持つ DFSVNUCx メンバーを含むデータ・セットに、MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーの実行可能モジュールが含まれていない場合、このデータ・セットを JOBLIB または STEPLIB DD ステートメントと共に指定せず、このステートメントを SDFSRESL DD ステートメントと共に指定してください。

モジュール: DFSKMOD0、DFSKNUC0

関連情報:

『DFS3990E』

DFS3990E NO MEMBERS WITH SUFFIX: *suffix* WERE FOUND IN THE MODBLKS DATA SET.

説明: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCM0) の MODBLKS DD ステートメントで指定されたデータ・セットに、制御ステートメントで指定された接尾部と一致する値またはデフォルト値が名前に含まれる MODBLKS メンバーが入っていませんでした。これらのメンバーは、処理のために必要です。このメッセージと共に、欠落しているメンバーを示すメッセージ DFS3989W が 1 つ以上表示されます。

システムの処置: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティーは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MODBLKS DD ステートメントに正しい MODBLKS データ・セットが指定されていることを確認します。また、SUFFIX= 制御ステートメントに指定された値が、MODBLKS データ・セットのメンバーの正しい接尾部を表していることを確認してください。

モジュール: DFSURCM0

関連情報:

『DFS3989W』

DFS3991E RECORDS FOR THE SELECTED CHECKPOINT ARE INCOMPLETE. THE RDDS WAS NOT CREATED.

説明: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCL0) によって処理される制御ステートメントまたはデフォルトの指定で示されるチェックポイント・レコードには、X'4098' レコードが含まれていませんでした。このレコードは、チェックポイント・レコードの終了を示します。この状態は、次のいずれかの事情の結果である可能性があります。

- 正しくないチェックポイント ID を処理のために指定した。
- ログ・データ・セットが、SYSUT1 DD ステートメント連結で欠落している可能性がある。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティは戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: チェックポイント ID が CHKPTID= ステートメントで指定されている場合、このチェックポイントに X'4001' レコード (チェックポイントの開始) と X'4098' レコードの両方が含まれていることを確認します。

チェックポイント ID が指定されていない場合、X'4098' レコードを含むログ・データ・セットが、ログ・データ・セットの最後のログ・データ・セットの SYSUT1 DD ステートメント連結に含まれていることを確認します。

モジュール: DFSURCLO

DFS3992E *utility name* **UTILITY ENCOUNTERED
AN ERROR PARSING THE
CONTROL DATA**

説明: メッセージ・テキストで *utility name* によって示されているユーティリティで、CONTROL データ・セットの制御ステートメントを構文解析しようとしてエラーが発生しました。このメッセージには、問題を説明する詳細なエラー・メッセージが付随します。

システムの処置: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 付随するメッセージを調べて、CONTROL データ・セットで訂正する必要がある構文解析エラーを判別します。

モジュール: DFSURCM0、DFSURCLO

DFS3993E **AN INVALID VALUE WAS
ENCOUNTERED BY THE DFSURCM0
UTILITY FOR THE SYSTYPE
CONTROL STATEMENT**

説明: CONTROL データ・セットのステートメントで SYSTYPE= キーワードに対して無効値が指定されました。許容される値は次のとおりです。

DB
DC
DBDC

システムの処置: 示されたユーティリティは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: キーワードの無効値を訂正します。

モジュール: DFSURCM0

DFS3994I **IMS SYNC WITH RM GLOBAL
STATUS COMPLETE- *yyyy.ddd*
*hh:mm:ss.ms***

説明: グローバル状況は、IMS の初期設定中に Resource Manager (RM) から読み取られます。このメッセージは、IMS が RM グローバル状況と同期されていることを示しています。

メッセージ内の項目は以下のとおりです。

yyyy - 年
ddd - 日付
hh:mm:ss.ms - 現地時間

システムの処置: IMS は処理を続行します。このメッセージが出された後から IMS の再始動が完了する前までに更新されたグローバル状況は、再始動中のこの IMS には適用されません。再始動が完了していないため、この IMS に送信されたすべてのコマンドは処理されません。

システム・プログラマーの応答: 再始動が完了した後、SCOPE(ACTIVE) を指定してコマンドを発行し、この IMS が RM 状況と同期されていることを確認します。

モジュール: DFSGST10

DFS3995E **REQUIRED KEYWORD
MODBLKSHLQ= WAS NOT
SUPPLIED**

説明: ステージ 1 プリパーサー (DFSURST0) に指定された JCL で DD MODBLKS ステートメントが欠落していたか、MODBLKS に DD DUMMY が指定されました。

システムの処置: ステージ 1 プリパーサーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: MODBLKSHLQ= 制御ステートメントが CONTROL DD ステートメントと一緒に指定されていることを確認します。

モジュール: DFSURST0

DFS3996E **ONLY ONE SPECIFICATION OF
CHKPTID IS ALLOWED**

説明: CONTROL データ・セットの CHKPTID= キーワードに複数の値が指定されていることがシステムによって検出されました。

DFS3997E • DFS4000I

システムの処置: ユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: CHKPTID= キーワードに 1 つ指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0

DFS3997E CHECKPOINT ID *checkpoint id* NOT FOUND IN THE LOG. THE RDDS DATA SET WAS NOT WRITTEN

説明: チェックポイント ID *checkpoint id* が CHKPTID= 制御ステートメントで指定されましたが、ログのどのチェックポイントとも一致していませんでした。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCL0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 特定の ID の処理が必要な場合は有効なチェックポイント ID を指定します。そうでない場合は、この制御ステートメントを省略します。その場合、ログの最後のチェックポイント ID が処理されます。

モジュール: DFSURCL0

DFS3998E NO COMPLETE CHECKPOINTS WERE FOUND IN THE LOG IN THE INDICATED TIME RANGE

説明: ログに、開始および終了の両方のチェックポイント・ログ・レコードが含まれていませんでした。チェックポイント・レコードは不完全でした。理由として、次のものが考えられます。

- チェックポイントのレコードが複数のログ・データ・セットにまたがっている。
- STARTTIME に対して、ログの開始チェックポイント・レコードのタイム・スタンプより後の値が指定された。
- STOPTIME に対して、処理中のチェックポイントの終了チェックポイント・レコードのタイム・スタンプより前の値が指定された。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCL0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: チェックポイントのすべてのレコードを組み込むのに十分なログ・データ・セットが連結されていることを確認します。STARTTIME を指定する場合、値がログの最後の開始チェックポイントより後の時刻を表していないことを確認します。STOPTIME を指定する場合、指定する値が処理中のチェックポイントの終了より前に起こらないことを確認します。

1000 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: DFSURCL0

DFS3999W A STOP TIME WAS SUPPLIED WHICH EXCEEDS THE TIME RANGE IN THE LOG. STOP TIME: *stop time* TIME ON LAST RECORD: *record time*

説明: CONTROL データ・セットで STOPTIME キーワードの値が指定されました。停止時刻値が、最後の処理されたログ・レコードの最後のタイム・スタンプを超えました。この状態が有効である可能性はありますが、DD SYSUT1 のログ・データ・セットの連結が不完全であることを示している可能性もあります。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティー (DFSURCL0) は処理を続行します。処理は正常に終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: 必要なすべてのログ・データ・セットが SYSUT1 DD 連結に含まれていることを確認します。

モジュール: DFSURCL0

DFS4000I OFFLINE DUMP FORMATTING INITIALIZATION *action*

説明: IMS は、オフライン・ダンプ・フォーマット設定の初期設定でエラーを検出した後、どのような処置を行うかを示します。エラーの重大度に応じて、処置は CONTINUING または DISCONTINUED のいずれかになります。

システムの処置: IMS は、メッセージに示された処置を行います。

オペレーターの応答: 処置が DISCONTINUED である場合、システム・プログラマーに連絡してください。処置が CONTINUING である場合、応答は必要ありません。

システム・プログラマーの応答: 入力データ・セット、入力パラメーター、および JCL が正しいかどうかを確認します。

問題判別: 1、2、3、4、6、8

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

第 84 章 DFS メッセージ DFS4001 - DFS4050A

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4002E FAILURE ENCOUNTERED
PROCESSING TYPE-2 COMMAND
LOG RECORDS**
DFSURCL0 ROUTINE: *routine name*
RESOURCE: *resource name*
TYPE:*type name* **FUNCTION:***function
type* **VERB:***verb type*

説明: メッセージ・テキストで示されているルーチンは、示されたリソースのタイプ 2 コマンド・ログ・レコードを処理していました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

routine name

リソースを処理していた DFSURCL0 に関連付けられているルーチン。指定できる値は、次のとおりです。

DFSKDB20
DFSKPG20
DFSKTR20
DBFKRT20

リソース名 (*resource name*)

障害発生時に処理中であったリソースの名前。

type name

障害発生時に処理中であったリソースのタイプ。指定できる値は、次のとおりです。

DDIR
PDIR
SMB
RCTE

function type

障害発生時に実行されていたプロセスのタイプ。可能な値は、以下のとおりです。

- FINDFAIL - リソースに関するデータの検索中のエラー。
- CREFAIL - リソースの作成中のエラー。
- DUP - 作成中のリソースが既に存在する。

verb type

タイプ 2 コマンド・ログ・レコードによって示された処理のタイプ。 *verb type* の値には、以下のものがあります。

CRE
DEL
UPD

システムの処置: 示されたルーチンは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: このメッセージは、モジュール DFSURCL0 の内部エラーを示します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSURCL0

**DFS4003E FAILURE EXTENDING THE ARRAY
FOR RECORD TYPE** *record type*. **RC:***rc*

説明: 示されているレコード・タイプの処理に使用される内部アレイ用に追加のストレージを取得しようとして、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

record type

レコードのタイプ。指定できる値は、次のとおりです。

X4004
X4006
X4007
X4083

rc MVS GETMAIN からの戻りコード。

システムの処置: ルーチンは、戻りコード *rc* で失敗します。

プログラマーの応答: MVS GETMAIN 要求からの戻りコードを調べて、障害の原因を判別してください。

モジュール: DFSURCL0

DFS4004W LOG WRAPS AFTER RECORD *record
number*
CURRENT RECORD TIME STAMP:
time stamp
PRIOR RECORD TIME STAMP : *time
stamp*

説明: 現行のレコードのストア・クロック時刻の値が前のレコードのストア・クロック時刻より前になっています。タイム・スタンプは常に昇順でなければなりません。この問題の考えられる理由には、次のものがあります。

DFS4005E • DFS4008E

- 処理中のログがオープンされた OLDS データ・セットである。オープンされた OLDS データ・セットにはファイル終了マークがないため、OLDS の現在のエントリーに続くレコードはログの最終使用時からの残りです。
- 複数のログが入力として連結され、順序が狂っている。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCL0) は、タイム・スタンプ値が大きい前のレコードをファイルの終わりとして処理し、ログ終了処理を実行します。処理は正常に終了し、戻りコード 4 が示されます。

プログラマーの応答: 複数のログ・データ・セットが処理されている場合、ログ・データ・セットが適切な順序で連結されていることを確認します。処理が正常に実行されているにもかかわらず、オープン OLDS を処理しているためにこのメッセージが示される場合、/SWI OLDS コマンドを発行して OLDS をクローズします。その後でユーティリティを再実行して、このメッセージが表示されないようにします。

モジュール: DFSURCL0

DFS4005E THE DFSKNUC0 ROUTINE IS MISSING THE *dd_name* DD STATEMENT

説明: ユーティリティ DFSURCM0 によって呼び出された DFSKNUC0 ルーチンに指定された JCL で、示された DD KS ステートメントが欠落していました。*dd_name* の値には、以下のものがあります。

JOBLIB
STEPLIB
SDFSRESL

システムの処置: MODBLKS からの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCM0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: JCL で JOBLIB、STEPLIB、または SDFSRESL DD ステートメントを指定していること、および有効なデータ・セットが指定されていることを確認してください。

モジュール: DFSKMOD0

DFS4006E AN INVALID CHKPTID (*chkptid*) WAS SUPPLIED IT MUST BE OF THE FORMAT: *yyddd/hhmmss*

説明: CONTROL データ・セットの CHKPTID= キーワードに指定した値が無効でした。値が、形式 *yyddd/hhmmss* ではありませんでした。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCL0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: CHKPTID= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0

DFS4007E AN INVALID STARTTIME OR STOPTIME WAS SUPPLIED

説明: CONTROL データ・セットの STARTTIME= または STOPTIME= キーワードに指定した値が無効でした。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCL0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: STARTTIME または STOPTIME= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0

DFS4008E THE STOPTIME PRECEDES THE STARTTIME

説明: STOPTIME= キーワードに指定した値は、CONTROL データ・セットの STARTTIME= キーワードに指定された値よりも早い時刻を表しています。STOPTIME は、STARTTIME より後でなければなりません。

システムの処置: ログ・レコードからの RDDS の作成ユーティリティ (DFSURCL0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: STARTTIME または STOPTIME= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0

第 85 章 DFS メッセージ DFS4101A - DFS4150I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4138E *utility name* UTILITY RDDSIN SPECIFIES AN INVALID RDDS.

説明: RDDSIN DD ステートメントで指定されたデータ・セットが無効です。次のいずれかの理由で無効でした。

- データ・セットが RDDS ではない可能性がある。
- データ・セットは RDDS の可能性があるが、状況 GOOD がヘッダー・レコードに含まれていなかった。

システムの処置: 示されたユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: RDDSIN DD ステートメントに有効な RDDS を指定します。

モジュール: DFSURCP0

DFS4139E IMSID IS MISSING OR INVALID. *imsid* WAS SPECIFIED.

説明: CONTROL データ・セットの IMSID= キーワードに指定した値が欠落していたか、無効でした。IMSID の値は、1 から 4 文字を含むストリングでなければなりません。

ユーティリティー DFSURCL0 および DFSURCP0 にはこのキーワードは必要ありません。このエラー状態は、値の指定が誤っている場合にこれらの 2 つのユーティリティーによってのみトリガーされます。このキーワードは、ユーティリティー DFSURCM0 では必要です。

システムの処置: ユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: IMSID= キーワードの指定を訂正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0, DFSURCM0, DFSURCP0

DFS4140E NULL VALUES ARE NOT ALLOWED IN UTILITY *utility name* FOR KEYWORD *keyword*.

説明: 示されたキーワードは、関連する値を指定せずに CONTROL または SYSIN データ・セットで指定されました。このキーワードの値を指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティーの名前。

keyword

値が欠落しているキーワード。

システムの処置: 示されたユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 示されたキーワードに値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0, DFSURCM0, DFSURCP0

DFS4141E A NUMERIC VALUE EXCEEDING 7 CHARACTERS WAS SUPPLIED TO UTILITY *utility name* FOR KEYWORD *keyword*.

説明: 示されたキーワードの CONTROL または SYSIN データ・セットで指定した数値が 7 文字を超えました。許容される数字の最大数は 7 です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティーの名前。

keyword

7 文字を超えたキーワード。

システムの処置: 示されたユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 示されたキーワードに有効な値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0, DFSURCM0, DFSURCP0

DFS4142E YOU SUPPLIED NON-NUMERIC DATA TO UTILITY *utility name* FOR KEYWORD *keyword*.

説明: 示されているキーワードの CONTROL または SYSIN データ・セットで指定した値が非数値でした。キーワードには、数値を指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

utility name

問題が発生したユーティリティーの名前。

keyword

数値を必要とするキーワード。

システムの処置: 示されたユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 示されたキーワードに値を指定して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSURCL0、DFSURCM0、DFSURCP0

DFS4143E AN EMPTY INPUT FILE TO UTILITY DFSKJOB0 WAS FOUND; CHECK THAT IMS SYSTEM STAGE 1 FAILED

説明: INFILE DD ステートメントによって参照されるファイルには、正常に実行された前回の IMS システム・ステージ 1 によって作成された JCL ストリームが含まれている必要があります。しかし、このファイルは空です。次のいずれかの理由で無効でした。

- IMS システム・ステージ 1 ステップが正常に完了しなかった。
- DFSKJOB0 の INFILE DD ステートメントが、IMS システム・ステージ 1 からの出力を含むデータ・セットを参照しない。

システムの処置: ユーティリティーは、戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: IMS システム・ステージ 1 が正常に実行されていること、および INFILE DD ステートメントが IMS システム・ステージ 1 からの出力を含むデータ・セットを参照することを確認します。

モジュール: DFSKJOB0

DFS4144E *utility name* UTILITY WAS UNABLE TO PROCESS MODBLKS: *member*

説明: メッセージ・テキストで *utility name* によって示されているユーティリティーで、MODBLKS データ・セットの *member* によって示されているメンバーを処理しようとしてエラーが発生しました。このメッセージには、問題を説明する詳細なエラー・メッセージが付随します。これらの追加のエラー・メッセージには、以下のものがあります。

DFS3977E
DFS3981E
DFS3988E

システムの処置: MODBLKS からの RDDDS の作成ユーティリティー (DFSURCM0) は戻りコード 8 で失敗します。

プログラマーの応答: 付随するメッセージを調べて、MODBLKS データ・セットの示されたメンバーの処理中に発生した問題を判別します。

モジュール: DFSURCM0

関連情報:

- 995 ページの『DFS3977E』
- 996 ページの『DFS3981E』
- 998 ページの『DFS3988E』

DFS4145I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* IS BEING INSERTED INTO THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *psb_name*.

説明: メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに示されているプログラム・ビュー (PSB) を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加しています。その PSB はそれ以前に IMS ディレクトリー・データ・セット内にありませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

IMS ディレクトリー・データ・セットに追加されているプログラム・ビュー (PSB)。

psb_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: PST タスクは、PSB を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加し、DDL ストリームからの命令の処理を続行します。

PSB を使用するアプリケーション・プログラムが DDL のサブミット前にオンライン IMS システム内で作成されていたかどうかによって、その PSB がアクティブで使用準備ができていても、そうでない場合もあります。

DDL が発行される前にアプリケーション・プログラムが作成されていた場合、PSB はアクティブで使用準備ができています。

DDL が発行される前にアプリケーション・プログラムが作成されていなかった場合、PSB はアプリケーション・プログラムが作成されるまで非アクティブのままです。




プログラマーの応答: 以下のいずれかのコマンドを発行して、アプリケーション・プログラムが IMS システム内で既に作成されていたかどうかを特定してください。

- QUERY PGM
- /DISPLAY PGM

PSB のアプリケーション・プログラムがまだ存在していない場合に、アプリケーション・プログラムを作成するには、CREATE PGM IMS タイプ 2 コマンドを発行するか、または APPLCTN ステージ 1 システム定義マクロをコーディングし、システム定義を実行し、IMS を再始動します。

モジュール: DFSOLC70

関連資料:

-  QUERY PGM コマンド (コマンド)
-  /DISPLAY PGM コマンド (コマンド)
-  CREATE PGM コマンド (コマンド)

**DFS4146W THE DIRECTORY DATA SET WAS
UPDATED WHILE THIS IMS WAS
OFFLINE.**


説明: この IMS システムがオフラインである間に、この IMS システムによって共有されている IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セット内のアクティブなアプリケーション制御ブロック (ACB) を、別の IMS システムが更新しました。

システムの処置: この IMS システムは再始動し、更新された ACB を使用します。

システム・プログラマーの応答: 更新された ACB が、この IMS システムがサポートするアプリケーション・プログラムに影響を与えるかどうかを確認し、適切な処置を行ってください。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

-  マルチシステム構成における IMS カタログ (システム定義)

**DFS4148I THIS IMS REGION IS REGISTERED
AS AN IMS VUE PRODUCT**

説明: IMS 領域は、システム管理機能 (SMF) に IMS Database Value Unit Edition (VUE) 製品として登録されています。IMS 領域は、初期設定時に SMF に登録されます。このメッセージは、IMS 制御領域の初期設定時および IMS バッチ領域の初期設定時に、その領域が SMF に IMS Database VUE 製品として登録されている場合に発行されます。

IMS 制御領域および IMS バッチ領域が IMS Database VUE 製品として登録されるのは、IMS Database VUE 製品の契約条件が受諾され、各領域が zNALC (System z® New Application License Charges) LPAR 内で実行されている場合です。

システムの処置: IMS 制御領域または IMS バッチ領域が SMF に IMS Database VUE 製品として登録されています。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSSMF00

第 86 章 DFS メッセージ DFS4151I - DFS4200I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4151I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* IS
INSERTED INTO THE IMS
DIRECTORY DATA SET. PST
*psb_name***

説明: *dbdname* で指定されたデータベースが停止され、トラッキング・サイトで再開された後に、データベース・トラッカーが、データベース更新ログ・レコードが予想された順序からはずれて適用されたことを判別しました。

ほとんどの場合、エラーはありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbdname

シャドールデータベースの名前。

imsid

ログの送信元の IMS システム。

pri

ログの PRILOG 時刻。

lsn

シャドールデータベースに適用されるデータベース・ログ・レコード (X'50') のログ・シーケンス番号。

usn

シャドールデータベースに適用されるデータベース更新ログ・レコードの更新シーケンス番号 (USN)。

システムの処置: データベース・トラッキングが続行されます。

オペレーターの応答: エラーが存在するかしないかが明白でない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してプログラミングの支援を受けてください。

モジュール: DFSDT210、DFSDT240

**DFS4154W The number of active APPC
conversations has reached *xx*% of the
maximum limit of *limit*.**

説明: 31 ビット・ストレージ内で現在 IMS によって処理されているアクティブ APPC/IMS 会話の数が、アクティブ APPC/IMS 会話の最大許容数の *xx* パーセントに達しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx アクティブ APPC/IMS 会話の現行数が占め

る、アクティブ APPC/IMS 要求の 31 ビットでの限度数に対する割合 (パーセント)。

limit IMS による並行処理が可能なアクティブ APPC/IMS 会話の最大許容数。

アクティブ APPC 会話のデフォルトの限度数は 5,000 です。

システムの処置: IMS は通常の処理を続行します。


オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール: DFS62FD0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー (システム定義)

**DFS4155W Maximum limit for active APPC
conversations has been reached. New
requests will be queued in 64 bit
storage.**

説明: 31 ビット・ストレージ内のアクティブ APPC 会話の数が、現在有効になっている限度数に達しました。

システムの処置: IMS は新しい APPC/IMS 会話要求を 64 ビット・ストレージに入れ、IMS がそれらを受け入れて処理できるようになるまでそこで待機させます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。


IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の

数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール: DFS62FD0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー (システム定義)

DFS4156W The number of APPC requests in 64 bit storage has reached xx% of the maximum limit of yyyyyyyy.

説明: 現在 64 ビット・ストレージで待機している APPC/IMS 要求の数が、最大許容数 yyyyyyyy の xx パーセントに達しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx 待機している APPC/IMS 要求の現行数が占める、最大許容数に対する割合 (パーセント)。

yyyyyyyy

64 ビット・ストレージに待機させておくことができる APPC/IMS 要求の最大許容数。

システムの処置: IMS は通常の処理を続行します。着信した APPC/IMS 要求は引き続き 64 ビット・ストレージに入れられ、IMS がそれらを受け入れて処理できるようになるまで待機します。


オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール: DFS62FD0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー (システム定義)

DFS4157W The number of queued APPC requests reached the maximum limit. All input from APPC clients is stopped.

説明: 64 ビット・ストレージ内で、IMS によって受け入れられ、処理されるのを待機している APPC/IMS 会話要求の数が、現在有効になっている限度数に達しました。

システムの処置: IMS は z/OS に対して要求を発生し、APPC クライアントからの追加の入力を停止するように求めます。


オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

IMS で APPC/IMS トランザクション要求の処理に問題が発生しているかどうか、または着信 APPC/IMS トランザクションが突然フラッディングを起こしたかどうかを確認してください。

IMS の処理パフォーマンスと着信 APPC/IMS 要求の数がいずれも許容範囲内であれば、現在有効になっている APPC/IMS の限度数を増やすことを検討してください。APPC/IMS の限度数は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー内の APPCMAXC パラメーターで指定します。

モジュール: DFS62FD0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー (システム定義)

DFS4158I Queuing of APPC requests to 64 bit storage has been stopped.


説明: APPC/IMS で、APPC 要求を待機させるための 64 ビット・ストレージの使用が停止されました。通常の処理を続行するのに十分な 31 ビット・ストレージが使用可能になっています。

システムの処置: IMS は、着信した APPC/IMS 要求を 64 ビット・ストレージに待機させずに、31 ビット・ストレージで通常どおり APPC/IMS 会話を受け取り、処理します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS62FD0

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSDCxxx メンバー (システム定義)

DFS4160E ACBSHR=N IS SPECIFIED, BUT THE DIRECTORY IS SHARED BY OTHER IMS SYSTEMS.

説明: この IMS システムは他の IMS システムによって共有されている IMS カタログを参照していますが、この IMS システムは、それが使用している PROCLIB メンバーに ACBSHR=N が指定されているため、IMS カタログを共有できません。アプリケーション制御ブロック (ACB) の IMS 管理が使用可能な場合、ACBSHR=N は、IMS カタログと、IMS ディレクトリー・データ・セット内の ACB が共有されないことを示します。

ACBSHR=N は、PROCLIB データ・セットの、DFSCGxxx メンバー内か、または DFSDFxxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション内で指定できます。

IMS システムの ACBSHR の指定が正しくないか、IMS システムが誤った IMS カタログを参照しているか、IMS カタログが ACBSHR=Y を指定する IMS システムによってセットアップされました。

システムの処置: IMS は異常終了コード U0071 で終了します。

オペレーターの応答: この IMS の ACBSHR パラメーターと ALIAS パラメーターの指定が正しいことを確認してください。

この IMS システムが IMS カタログを共有する必要がある場合は、適切な PROCLIB メンバーに ACBSHR=Y を指定します。ACBSHR パラメーターは以下の場所に指定できます。

- DFSDFxxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション (システム定義)
- IMS PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバー (システム定義)

IMS システムが誤った IMS カタログを参照している場合は、DFSDFxxx メンバーの CATALOG セクションで ALIAS= パラメーターの指定を訂正してください。必要であれば、いずれかの IMS カタログ・データ追加ユーティリティを実行して、この IMS システムが必要とする ACB を IMS カタログとその関連の IMS ディレクトリー・データ・セットにロードします。

IMS システムの ACBSHR と ALIAS の指定が正しい場合は、IMS カタログを再作成し、非共有 IMS カタログとしてセットアップする必要があります。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

➡ マルチシステム構成における IMS カタログ (システム定義)

関連タスク:

➡ IMS カタログのセットアップ (システム定義)

関連資料:

➡ DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバー (システム定義)

➡ DFSDFxxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション (システム定義)

DFS4161I FDR FOR (imsid) TRACKING STARTED

説明: 高速 DB リカバリー領域が確立され、*imsid* で識別される IMS システムをトラッキングしています。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSFDR10

DFS4162E ERROR OPENING THE IMS DIRECTORY DATA SET

説明: IMS ディレクトリー・データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: IMS の再始動またはコールド・スタートが 071 で異常終了しました。

システム・プログラマーの応答: 問題の原因を示している可能性がある z/OS メッセージ IEC143I などの他のエラー・メッセージがないか確認してください。エラーが訂正されたら、IMS を再始動します。

モジュール: DFSRDB30

DFS4164W FDR FOR (imsid) TIMEOUT DETECTED DURING LOG AND XCF SURVEILLANCE

説明: 高速 DB リカバリー領域で、ログおよび XCF の監視中に、タイムアウト状況が検出されました。次のいずれかの状態が発生した可能性があります。

- 示された IMS システムが待ち状態にある。
- 示された IMS システムがループ状態にある。
- 示された IMS システムが稼働している z/OS 上で障害が発生した。
- 示された IMS システムが稼働している中央演算処理複合システム (CPC) 内で障害が発生した。

DFS4165I • DFS4165W

システムの処置: このメッセージはオペレーター・コンソールで保存されます。高速 DB リカバリー領域はトラッキングを継続します。高速 DB リカバリー領域が新しいログ・レコードを読み取ることができた場合、または XCF 監視で IMS システムが通常処理を再開したことが検出された場合、このメッセージはコンソールから削除されます。

オペレーターの応答: IMS システムが待ち状態またはループ状態にある場合は、必要であれば IMS を取り消してください。z/OS または CPC に障害が起きた場合は、システムをリセットし、MVS MODIFY コマンド (F fdrproc,RECOVER) を入力して、高速 DB リカバリー領域内でデータベース・リカバリーを開始します。

モジュール: DFSFDR90

DFS4165I FDR FOR (imsid) XCF DETECTED ACTIVE SYSTEM RESUMED

説明: XCF が高速 DB リカバリー領域に、示された IMS システムが、メッセージ DFS4165W の中で示されたタイムアウト状況を終了し、通常の処理を再開したことを通知しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSFDR80

関連情報:

『DFS4165W』

DFS4165W FDR FOR (imsid) XCF DETECTED TIMEOUT ON ACTIVE IMS SYSTEM, REASON = reason

説明: XCF が高速 DB リカバリー領域に、imsid で識別された IMS システム上でタイムアウトが発生したことを通知しました。変数 reason は、次のいずれかです。

IMS SURV., DIAGINFO = nnnnnnnn

XCF がタイムアウトを報告した。IMS システム内で、少なくとも 1 つの IMS TASK または ITASK がループ状態または待ち状態になっている可能性があります。nnnnnnnn は、タイムアウトの原因となった可能性のある TASK または ITASK を示します。nnnnnnnn は、2 つの部分から構成されています。最初の 2 バイトは、タイムアウトになっている TASK または ITASK を示し、次の 2 バイトは、以下の表に示してあるように、別の TASK または ITASK が関係する可能性の有無を示します。

表 24. TASK または ITASK の関係

タイムアウトの TASK または ITASK	関係する可能性のある TASK または ITASK
ビット 0 x'8000' CTL TCB	IMS 制御タスク
ビット 1 x'4000' XFP TCB	高速機能制御タスク
ビット 2 x'2000' CST ITASK	共通サービス ITASK
ビット 3 x'1000' CHK ITASK	チェックポイント ITASK
ビット 4 x'0800' SAS ITASK	DLISAS ITASK
ビット 5 x'0400' FP CST00	高速機能共通サービス ITASK
ビット 6 x'0200' FP CST00	高速機能共通サービス従属 ITASK
ビット 7 x'0100' 予約	

IMS SURV., DIAGINFO = N/A

XCF がタイムアウトを検出した。IMS アドレス・スペースがディスパッチ不可であるか、状況出口ルーチンで障害が起きた可能性があります。

SYSTEM, DIAGINFO = nnnnnnnn

XCF がタイムアウトを検出した。障害またはイベントは z/OS システム・レベルでした。nnnnnnnn は、XCF グループ出口ルーチンからの入力パラメーター・リストの GEPLFLGS ワードを示しています。値は、「z/OS MVS Data Areas, Vol 3 (IVT-RCWK)」(GA22-7583) のマクロ IXCYGEPL に記載されています。また、この情報は SYS1.MACLIB の IXCYGEPL マクロにも記載されている場合があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

ログ監視もタイムアウト状況を検出した場合、DFS4164W がこのメッセージの後に続きます。

オペレーターの応答: IMS および z/OS システムの状況を調べます。IMS がループ状態または待ち状態にある場合は、MVS MODIFY コマンド (F activeims,DUMP) を使用して IMS を終了し、高速 DB リカバリー領域内でデータベース・リカバリーを開始します。

z/OS またはハードウェアの障害が発生した場合は、システムをリセットし、MVS MODIFY コマンド (F fdrproc,RECOVER) を入力して、データベース・リカバリーを開始します。

システム・プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・

サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSFDR80

関連資料:

 z/OS: IXCYGEPL 見出し情報

関連情報:

1009 ページの『DFS4164W』

**DFS4166I FDR FOR (imsid) DB RECOVERY
PROCESS STARTED, REASON =
reasonid**

説明: 高速 DB リカバリー領域が、示された IMS システムのトラッキングを停止し、*reasonid* で示された理由でデータベース・リカバリーを開始しました。この理由は、次のいずれかです。

IMS 障害

IMS システム障害が X'06' ログ・レコードによって検出された。高速 DB リカバリー領域は自動的にリカバリーを開始します。

RECOVER COMMAND

リカバリーが、MVS MODIFY コマンド (F *fdproc,RECOVER*) によって開始された。

XCF NOTIFICATION

リカバリーが、MVS XCF 通知によって開始された。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域はデータベース・リカバリーを開始します。

モジュール: DFSFDR00

**DFS4167A FDR FOR (imsid) WAITING FOR
ACTIVE SYSTEM TO COMPLETE I/O
PREVENTION. REPLY "UNLOCK"
WHEN I/O PREVENTION
COMPLETES.**

説明: 示された IMS システムが入出力防止を完了するまで、高速 DB リカバリー領域を続行できません。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域はオペレーターの応答を待機します。

オペレーターの応答: 次のようにして、障害のある IMS システムが入出力防止を完了したかどうかを確認します。

- このメッセージの *imsid* と一致する *rsetName* が示されているメッセージ AVM006E を探します。

- メッセージ AVM006E が見つからない場合、手動で IMS システムの入出力を停止します。このためには、手動で DASD を切り替えるか、またはシステムをリセットします。

このメッセージに応じて UNLOCK と応答します。

モジュール: DFSFDR00

**DFS4168I FDR FOR (imsid) DATABASE
RECOVERY COMPLETED**

説明: 高速 DB リカバリー領域がデータベース・リカバリーを完了しました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は正常に終了します。

オペレーターの応答: 示された IMS システムを再始動します。

モジュール: DFSFDR00

**DFS4169I FDR FOR (imsid) PROCESS
TERMINATED**

説明: 示された IMS システムが正常に終了したため、または MVS MODIFY TERM コマンド (F *fdproc,TERM*) が発行されたため、高速 DB リカバリー領域が終了しました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は正常に終了します。

モジュール: DFSFDR00

**DFS4170I FDR FOR (imsid) NORMAL
TERMINATION DETECTED FOR
ACTIVE SYSTEM**

説明: 示された IMS システムが正常に終了したことを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は、トラッキングを停止し、正常に終了します。

モジュール: DFSFDR10

**DFS4171I FDR FOR (imsid) ACTIVE IMS
TERMINATION NOTIFIED BY XCF.
OPERATION RESUMED.**

説明: アクティブ IMS システムが終了したことを、MVS XCF が高速 DB リカバリー領域に通知しました。メッセージ DFS4167A が出力されました。

システムの処置: メッセージ DFS4167A はコンソールから消去され、高速 DB リカバリー領域はデータベース・リカバリーを再開します。

DFS4172E • DFS4176E

モジュール: DFSFDR00

関連情報:

1011 ページの『DFS4167A』

DFS4172E FDR FOR (*imsid*) ACTIVE SYSTEM NOT FOUND OR IN FAILED STATUS

説明: IMS システムの *imsid* が、高速 DB リカバリー領域によって検査されました。しかし、*imsid* が IRLM に識別されなかったか、または示されたシステムが障害のある状況でした。

システムの処置:

高速 DB リカバリー領域は、アクティブ・システムがグループに結合するのを待ちます。

オペレーターの応答:

IRLM MODIFY コマンド (F *irlmproc,STATUS*) を使用して、示された IMS システムの状況を表示します。IMS システムがアクティブであるかどうかを確認するには、EXEC ステートメントの *IMSID* パラメーターで指定された *imsid* がアクティブ・システムの *imsid* と同じであるかどうかを調べます。エラーを訂正して、IMS アクティブ・システムを再始動するか、ARM に再始動させます。

IMS システムが XRF 対応の場合、このメッセージおよび異常終了を引き起こした *imsid* の代わりに *RSENAME* が ID として使用されます。

モジュール: DFSFDR70

DFS4173E FDR FOR (*imsid*) CHECKPOINT LOG HAS INCONSISTENCY

説明: 示された IMS システムによって作成されたチェックポイント・ログ・レコードに、次のいずれかの不整合があります。

- 示された IMS システムで、高速 DB リカバリーが使用できなかった。
- 示された IMS システムは、IRLM を使用しなかった。

この問題の原因として考えられるのは、以下のとおりです。

- IMS システムまたは高速 DB リカバリー領域のパラメーター指定に誤りがある。
- IMS または高速 DB リカバリー手順内の OLDS または *IMSRDS* の DD ステートメントが正しくない。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答: IMS システムで高速 DB リカバリーを使用できるかどうか、高速 DB リカバリーが正しい OLDS を読み取るかどうかを確認します。エラーがあれば訂正します。その後、IMS システムおよび高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール: DFSFDR10

DFS4174E NO FDRMBR EXEC PARAMETER SPECIFIED

説明: 高速 DB リカバリー手順の EXEC ステートメント、または *DFSPBxxx IMS.PROCLIB* メンバーの制御ステートメントで、*FDRMBR* パラメーターが指定されませんでした。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答: 高速 DB リカバリー手順または *DFSPBxxx IMS.PROCLIB* メンバーの制御ステートメントで、正しい *FDRMBR* パラメーターを指定します。その後でジョブを再実行します。

モジュール: DFSZINT0

DFS4175E NO ACTIVEIMSID PARAMETER SPECIFIED

説明: *DFSFDRxx IMS.PROCLIB* メンバーの制御ステートメントの *ACTIVEIMSID* パラメーターに、*imsid* が指定されていませんでした。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域がこのメッセージを出力した場合、高速 DB リカバリー領域は終了します。IMS システムがこのメッセージを出力した場合、高速 DB リカバリーなしで処理が続行されます。

オペレーターの応答: メンバー *DFSFDRxx* に正しい *ACTIVEIMSID* パラメーターを指定するか、またはこのプロシージャの *FDRMBR* パラメーターでメンバー *DFSFDRxx* の正しい接尾部を指定します。高速 DB リカバリー領域を再始動するか、または IMS システムをいったん終了し、高速 DB リカバリー付きで再実行します。

モジュール: DFSZINT0

DFS4176E FDR FOR (*imsid*) UNABLE TO ESTABLISH CHKPT - *reason*

説明: 高速 DB リカバリー領域が、開始の起点になるチェックポイント ID を確立できませんでした。*reason* は、理由を示します。以下のいずれかの場合が考えられます。

ACTIVE SYSTEM ALREADY SHUTDOWN

IMS 再始動データ・セットが、示された IMS システムはすでに終了していることを示しました。

CHKPT ID NOT FOUND IN IMSLOG

高速 DB リカバリー領域が、高速 DB リカバリー付きの IMS システムが書き込んだチェックポイント ID を見つけられませんでした。

このいずれの理由も表示されなかった場合は、詳細について、直前に発行されたメッセージに関する資料を参照してください。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は異常終了します。

オペレーターの応答: 以下の項目がすべて満たされていることを確認します。

- 示された IMS システムが稼働中である。
- 高速 DB リカバリー領域用に正しい再始動データ・セット (RDS) が使用されており、それが高速 DB リカバリー付きの IMS システムが使用している RDS と同じである。
- DBRC RECON データ・セットおよび OLDS が共用 DASD 環境で適切に割り振られた正しいものであり、IMS システムと高速 DB リカバリー領域の両方からアクセス可能である。

エラーを訂正し、ジョブを再始動します。

モジュール: DFSFDR00

DFS4177E FDR FOR (imsid) XCF JOIN FAILED.

説明: XCF JOIN が失敗しました。このメッセージの 2 行目に、エラーが詳しく説明されています。以下のいずれかのストリングになります。

MORE THAN ONE MEMBER JOINED XCF GROUP *groupname*

示された *imsid* および *groupname* を使用して複数のメンバーが XCF グループに結合しようとしたことを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。1 つの XCF グループには、1 つの IMS システムおよび 1 つの高速 DB リカバリー領域しか存在できません。高速 DB リカバリー領域はすでに、*imsid* で表された IMS システムをトラッキングしています。

XCF GROUP *groupname* XCF MEMBER STATE IS NOT ACTIVE

IMS システムが XCF グループに結合しましたが、状況がアクティブではないことを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答: このメッセージの最初の形式の場合:

imsid で表された IMS システムが、求めるトラッキングの対象であり、高速 DB リカバリー領域がすでにそれをトラッキング中であれば、処置は必要ありません。この IMS システムが、求めるトラッキング対象でなければ、IMS.PROCLIB のメンバー DFSFDRxx に正しい GROUPNAME または ACTIVEIMSID (あるいはその両方) を指定するか、あるいは高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。高速 DB リカバリー領域を再始動します。

このメッセージの 2 番目の形式の場合:

IMS システムが高速 DB リカバリーに対応しているかどうかを確認します。メンバー DFSFDRxx に正しい GROUPNAME または ACTIVEIMSID、あるいはその両方を指定します。あるいは、高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール: DFSFDR70

DFS4178E FDR FOR (imsid) IMSID OR XCF GROUP NAME IN CHECKPOINT RECORD AND FDR PROCEDURE ARE NOT IDENTICAL

説明: X'4001' チェックポイント開始ログ・レコードにある IMS システムの *imsid* または XCF グループ名 (あるいはその両方) が高速 DB リカバリー手順のそれらと不整合であることを、高速 DB リカバリー領域が検出しました。両者は同じではありませんでした。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答: IMS.PROCLIB のメンバー DFSFDRxx に正しい GROUPNAME パラメーターを指定するか、あるいは高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。その後、高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール: DFSFDR10

DFS4179E FDR FOR (imsid) IRLM request FAILED, RC=*nm*, REASON=*xxxx*


説明: 高速 DB リカバリー領域によって出された IRLM 要求 *request* が戻りコード *nm* および理由コード *xxxx* で失敗しました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答: IRLM 要求の戻りコードおよび理由コードを参照して、エラーの原因を判別してください。エラーを訂正してから、高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール: DFSFDR00、DFSFDR70

関連タスク:

 戻りコードおよび理由コード

DFS4180E UNEXPECTED RETURN CODE FROM
request, RC=nn REASON=xxxxxxx.
IMS IS NOT FDR CAPABLE.

または

FDR FOR (imsid) UNEXPECTED RETURN CODE
FROM *request, RC=nn REASON=xxxxxxx*


説明: 高速 DB リカバリー領域または示された IMS システムが、示された XCF 要求を出しましたが、要求は戻りコード *nn* および理由コード *xxxxxxx* で失敗しました。最初の形式のメッセージは高速 DB リカバリー領域によって出され、2 番目の形式のメッセージは IMS システムによって出されます。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域がこのメッセージを出した場合、高速 DB リカバリー領域は終了します。IMS システムがこのメッセージを出した場合、IMS は高速 DB リカバリーなしで処理を続けます。

オペレーターの応答: 「z/OS MVS プログラミング: シスプレックス・サービス解説書」(SA88-8584) の XCF 戻りコードおよび理由コードを参照してください。エラーの原因を訂正します。

モジュール: DFSFDRA0、DFSFDR70

関連資料:

 z/OS: z/OS MVS シスプレックス・サービス解説書

DFS4181W FDR FOR (imsid) DB RECOVERY
CANNOT START BECAUSE ACTIVE
SYSTEM IS STILL RUNNING

説明: 説明および処置については、DFS4181A を参照してください。

関連情報:

DFS4181A

DFS4181A FDR FOR (imsid) FOR DB
RECOVERY, ENTER "RECOV". TO
CONTINUE TRACKING, ENTER
"TRACK".

説明: データベース・リカバリーが MVS MODIFY コマンド (F *fdproc,RECOVER*) によって開始されました。高速 DB リカバリー領域が、データベース・リカバリーを開始するために IRLM に IDENTIFY RECOVERY 要求を出しましたが、示された IMS はまだ実行中でした。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域はオペレーターの応答を待機します。

オペレーターの応答: データベース・リカバリーが F *fdproc RECOVER* コマンドで呼び出された場合、正しい高速 DB リカバリー領域に対して正しいコマンドを入力したかどうか確認します。

正しい高速 DB リカバリー領域に対して正しいコマンドが入力された場合は、DFS4181A メッセージに対して RECOVER と応答します。

コマンドが正しくないか、または誤った領域に対して入力された場合は、DFS4181A メッセージに対して TRACK と応答します。

モジュール: DFSFDR00

DFS4182W FDR FOR (imsid) DB RECOVERY
CANNOT START BECAUSE ACTIVE
SYSTEM IS STILL RUNNING

説明: X'06' ログ・レコードが検出された後、データベース・リカバリーを開始するために、高速 DB リカバリー領域が IRLM IDENTIFY RECOVERY 要求を出しました。しかし、IRLM は、示された IMS システムが IRLM QUIT 要求を出さなかったことを示しました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は、IRLM 領域に対して再び IDENTIFY RECOVERY 要求を出そうとします。

オペレーターの応答: このメッセージの発行が続く場合は、アクティブ IMS システムが終了したかどうかを確認してください。終了していなければ、強制的に IMS を終了してください。アクティブ IMS が終了している場合は、アクティブ・システム上で MODIFY コマンド (F *irlmproc, STATUS*) を発行し、IRLM の状況を判別します。IRLM が正常に作動していない場合は、SDUMP を作成してから IRLM を終了させます。IRLM が正常に作動している場合は、おそらく、高速 DB リカバリーのエラーです。高速 DB リカバリー領域の SDUMP を作成し、MVS MODIFY (F) STOP コマンドで領域を終了させます。必要な場合は、IBM ソフトウ

エア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSFDR00

**DFS4183E FDR FOR (imsid) MODIFY cmdname
COMMAND REJECTED.FDR IS IN
INITIALIZATION OR RECOVERY
PHASE.**

説明: 高速 DB リカバリー領域が初期設定中か、すでにリカバリー処理中のため、示された MODIFY コマンドがリジェクトされました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は、現在の処理を継続します。

モジュール: DFSFDR60

**DFS4185E FDR FOR (imsid) UNEXPECTED
RETURN CODE FROM DBRC
SIGNON REQUEST, RC=return code**


説明: FDR が DBRC に SIGNON 要求を出し、予期しない戻りコードを受け取りました。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域は終了します。

オペレーターの応答: 問題を解決してから、高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール: DFSFDR10

関連資料:

 サインオン通常呼び出しからの戻りコード (メッセージおよびコード)

**DFS4186E THE HOUR VALUE FOR SDEPTIME
MUST BE BETWEEN 0 AND 23 imsid**


説明: SDEPTIME パラメーターは 24 時間形式であるため、時間の値は 00 から 23 でなければなりません。

システムの処置: SDEPTIME パラメーターはリジェクトされ、2300 というデフォルト値が取られます。

システム・プログラマーの応答: DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクションにある SDEPTIME パラメーターを訂正します。変更は、次に IMS が再始動されたときに有効になります。

モジュール: DBFFATC1

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション (システム定義)

**DFS4187E THE MINUTE VALUE FOR
SDEPTIME MUST BE BETWEEN 0
AND 59 imsid**


説明: SDEPTIME パラメーターの分の値は、0 から 59 でなければなりません。

システムの処置: SDEPTIME パラメーターはリジェクトされ、2300 というデフォルト値が取られます。

システム・プログラマーの応答: DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクションにある SDEPTIME パラメーターを訂正します。変更は、次に IMS が再始動されたときに有効になります。

モジュール: DBFFATC1

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション (システム定義)

**DFS4188E NON-NUMBER SPECIFIED AS HOUR
OR MINUTE FOR SDEPTIME imsid**


説明: SDEPTIME パラメーターの時間値または分の値が、有効な 10 進数ではありません。

システムの処置: SDEPTIME パラメーターはリジェクトされ、2300 というデフォルト値が取られます。

システム・プログラマーの応答: DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクションにある SDEPTIME パラメーターを訂正します。変更は、次に IMS が再始動されたときに有効になります。

モジュール: DBFFATC1

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの FASTPATH セクション (システム定義)

DFS4190I IMS SYSTEM IS FDR CAPABLE

説明: この IMS システムは、高速 DB リカバリーに対応しています。

システムの処置: 高速 DB リカバリー付きで処理は継続します。

モジュール: DFSZINT0

**DFS4191E FDR PROCLIB MEMBER DFSFDRxx
COULD NOT BE ACCESSED**

説明: システムは、IMS.PROCLIB のメンバー DFSFDRxx 内の DD ステートメントで定義されたデータ・セットにアクセスできませんでした。

システムの処置: 高速 DB リカバリー領域がこのメッセージを出力した場合、高速 DB リカバリー領域は終了します。このメッセージが IMS システムによって発行された場合、処理は高速 DB リカバリーなしで続行されます。

オペレーターの応答: IMS.PROCLIB DD ステートメントで正しいデータ・セットを指定します。あるいは高速 DB リカバリー手順の FDRMBR パラメーターでメンバー DFSFDRxx の正しい接尾部を指定します。その後、IMS システムまたは高速 DB リカバリー領域を再始動します。

モジュール: DFSZINT0

DFS4192E ACTIVEIMSID PARAMETER IS INCORRECT

説明: IMS.PROCLIB メンバー DFSFDRxx 内の ACTIVEIMSID パラメーターで指定された *imsid* が、開始中の IMS 制御領域の *imsid* と同じではありません。

システムの処置: 高速 DB リカバリーなしで処理は継続します。

オペレーターの応答: 高速 DB リカバリーを使用してシステムを実行したい場合は、IMS システムをシャットダウンします。IMS.PROCLIB メンバー DFSFDRxx の ACTIVEIMSID パラメーターで正しい *imsid* を指定します。その後、IMS システムを再始動します。

モジュール: DFSZINT0

DFS4194E IMSCATHLQ HIGH LEVEL QUALIFIER INVALID OR MISSING.


説明: ユーティリティの JCL 内の IMSCATHLQ= ステートメントに指定された値が無効であるか、値が指定されていません。

システムの処置: ユーティリティは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答: IMS カタログの高位修飾子が IMSCATHLQ= ステートメントで正しく指定されていることを確認してください。例えば、IMSCATHLQ=IMS.DFSCD000 です。

モジュール: DFS3LU00

関連資料:

 IMS Catalog Library Builder ユーティリティ (DFS3LU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4195E dd_name DD STATEMENT MISSING.

説明: IMS Catalog Library Builder ユーティリティの JCL に、必要な DD ステートメントが欠落しています。DD ステートメントはメッセージ・テキストに示されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dd_name

欠落している DD ステートメントの名前。可能な値には、次のものがあります。

- ACBLIB
- DBDLIB
- DBDSOR
- PSBLIB
- PSBSOR
- LUSYSPRT
- SYSAIN
- SYSLIB
- SYSLIN

システムの処置: ユーティリティは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答: 欠落している DD ステートメントをユーティリティの JCL に追加してください。


以下の DD ステートメントの場合、関連する出力が必要なければ、対応する制御パラメーターを SYSIN DD ステートメントから除去してエラーを訂正できます。

- ACBLIB
- DBDLIB
- DBDSOR
- PSBLIB
- PSBSOR

JCL を訂正したら、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3LU00

関連資料:

 IMS Catalog Library Builder ユーティリティ (DFS3LU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4196E THE variable text DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = yy.

説明: メッセージ・テキストに示されているデータ・セットのオープンに失敗しました。IMS カタログ API (DFS3CATQ) (システム・プログラミング API)によって、メッセージ・テキストに含まれる戻りコードが発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variable text

オープンに失敗したデータ・セットを記述します。表示される可能性のあるテキスト値は、以下のとおりです。

- ACB LIBRARY
- CATALOG DIRECTORY
- DBD LIBRARY
- DBD SOURCE LIBRARY
- PSB LIBRARY
- PSB SOURCE LIBRARY
- SYSAIN
- SYSLIN

rc IMS カタログ API (DFS3CATQ) (システム・プログラミング API)によって発行された戻りコード。

戻りコード 20 は、カタログ API から返された内容に出力域ポインターがなかったことを示す内部エラーです。

システムの処置: ユーティリティは終了します。出力は生成されません。


オペレーターの応答: データ・セットが使用可能であり、JCL 内で正しく指定されていることを確認してください。


IMS カタログ API の資料でこの戻りコードを調べてください。

問題を訂正したら、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3LU00

関連資料:

 IMS Catalog Library Builder ユーティリティ (DFS3LU00) (システム・ユーティリティ)

 IMS カタログ API (DFS3CATQ) (システム・プログラミング API)

**DFS4197E UNABLE TO GET CATALOG
MEMBER LIST, RC = xxxx.**

説明: IMS Catalog Library Builder ユーティリティが、IMS カタログ内のリソースのリストを取得するために、IMS カタログ API に対して LIST 要求を発行しました。LIST 要求は失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx IMS カタログ API の LIST 要求によって発行された戻りコード。


システムの処置: ユーティリティは終了します。出力は生成されません。


オペレーターの応答: IMS カタログ API の LIST 要求の資料でこの戻りコードを調べてください。

問題を訂正したら、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3LU00

関連資料:

 IMS カタログ API のリスト要求 (LIST) (システム・プログラミング API)

 IMS カタログ API (DFS3CATQ) (システム・プログラミング API)

**DFS4198E UNABLE TO GET CATALOG
MEMBER *mbr_name*, RC = *rc*.**

説明: IMS Catalog Library Builder ユーティリティが、IMS カタログから特定のリソースを取得するために、IMS カタログ API に対して GET 要求を発行しました。GET 要求が失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr_name

IMS Catalog Library Builder ユーティリティが IMS カタログから取得しようとした、ACB、DBD、または PSB リソースの名前。

rc IMS カタログ API の LIST 要求によって発行された戻りコード。

戻りコード 20 は、返された出力域アドレスがゼロだったことを示す内部コードです。


システムの処置: ユーティリティは終了します。出力は生成されません。


オペレーターの応答: IMS カタログ API の GET 要求の資料でこの戻りコードを調べてください。

問題を訂正したら、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3LU00

関連資料:

 IMS カタログ API の取得要求 (GET) (システム・プログラミング API)

 IMS カタログ API (DFS3CATQ) (システム・プログラミング API)

**DFS4199W A new mode of Resume TPIPE
request needs to be submitted for
IMS synchronous callout messages**

説明: 取得を待機している OTMA TPIPE キューに
IMS 同期コールアウト・メッセージがありました。ただ
し、受信した RESUME TPIPE 要求は非同期出力メッ
セージのみをターゲットにしていました。

システムの処置: 非同期コールアウト・メッセージに対
する処理のみが続行されます。

オペレーターの応答: 処理を待機している同期コールア
ウト・メッセージに対して正しい処理モードを指定し、
新しい RESUME TPIPE 要求を発行します。

OTMA 状態データ接頭部のバイト 3 を使用して、
RESUME TPIPE 処理モードを設定することができます。
バイトでフラグ X'80' が設定されている場合、同期
コールアウト・メッセージのみを取得するために
RESUME TPIPE を発行できることを意味します。

バイトでフラグ X'40' が設定されている場合、同期コー
ルアウト・メッセージおよび非同期メッセージの両方
を取得するために RESUME TPIPE を発行できることを
意味します。同期コールアウト・メッセージは、非同期
メッセージの前に処理および送信されます。

モジュール: DFSYQAB0

**DFS4200I - tcbtype TCB INITIALIZATION
COMPLETE**

説明: データベース・リカバリー・サービスが、データ
ベース・リカバリー・マネージャーまたはリカバリー・
データベース・マネージャーのマスター・タスク制御ブ
ロック (TCB) の初期設定を完了しました。tcbtype は、
次のいずれかです。

RWM データベース・リカバリーのマスター TCB が
初期設定を完了した。

RWD データベース・リカバリーのドーター TCB が
初期設定を完了した

メッセージがデータベース・リカバリー・マネージャー
によって発行された場合、メッセージ宛先は z/OS シ
ステム・コンソールおよび IMS マスター端末です。メ
ッセージがリカバリー・データ・マネージャーによって
発行された場合、メッセージ宛先は z/OS システム・
コンソールのみです。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSRVM00、DFSRWM00

第 87 章 DFS メッセージ DFS4201I - DFS4250

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4201I *ttt* TASK INITIALIZATION FAILED,
reason, RC=return code

説明: IMS データベース・リカバリー機能が、初期設定中にエラーを検出しました。メッセージ宛先はz/OS システム・コンソールとIMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttt どのタスク・クラスが問題を検出したかを識別します。

reason 問題を識別し、次のいずれかになります。

- LOAD モジュール
- OBTAIN 制御ブロック
- CREATE DISPATCHER WORK AREA
- CREATE WORK UNIT
- RELEASE QSAV

return code

内部診断情報を表します。

システムの処置: IMS データベース・リカバリー機能は正常に終了します。

システム・プログラマーの応答: 次のように、受け取った理由に適した処置を行ってください。

OBTAIN 制御ブロック

始動 JCL で領域サイズを大きくしてください。

LOAD モジュール

指定されたモジュールが IMS 用の RESLIB に入っていることを確認します。

該当する処置で問題が改善されないか、メッセージ内の理由について処置がリストされていない場合は、戻りコードを記録して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

DFS4214I *aaaaaaa* PIPE FAILURE DETECTED:
bbbbbbb, rc = nnnnnnnn

説明: 次のいずれかの理由でエラーが発生しました。

- 最初の /RECOVER コマンドの処理中に、データベース・リカバリー・サービスが IMS パイプを作成できなかった。

- リカバリー・データ・マネージャーの終了中、データベース・リカバリー・サービスが IMS パイプのクローズまたは割り振り解除を試みているときにエラーを検出しました。

メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaa エラーを検出した IMS パイプのタイプで、CONTROL または RECORD のいずれかである。

bbbbbbb

検出されたパイプ障害を示し、次のいずれかである。

- ALESERV
- BUFSIZE
- DSPSERV
- ESTAEX
- LOAD BUFSIZE
- STORAGE
- その他の値は z/OS 障害を示す。

nnnnnnnn

障害のあったサービスからの戻りコード。

システムの処置: データベース・リカバリー・サービス機能はシャットダウンします。

システム・プログラマーの応答: データベース・リカバリー・サービスのリカバリー・データ・マネージャー・コンポーネントで、パイプ処理に関連するストレージを取得しようとしているときに、エラーが発生しました。領域サイズを増やします。

bbbbbbb が LOAD BUFSIZE である場合、おそらく SDFSRESL からモジュールが欠落しているため、追加する必要があります。

bbbbbbb がその他の値の場合、エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWMI0, DFSRVWP0, DFSRWPR0, DFSRWPW0

DFS4215I UNABLE TO WRITE TO *type* PIPE,
RC=return code

DFS4216I • DFS4217I

説明: データベース・リカバリー・サービスのパイプへの書き出しサブコンポーネントの 1 つが、IMS パイプへの書き込み中にエラーを検出しました。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (この IMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type エラーを検出した IMS パイプのタイプで、CONTROL または RECORD のいずれかである。

return code 障害のあったサービスからの戻りコード。

システムの処置: データベース・リカバリー・サービスは、現在のリカバリー・インスタンスを終了します。

システム・プログラマーの応答: エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWPR0、DFSRWPW0

DFS4216I DATABASE RECOVERY SERVICE DISABLED FOR *type*: *reason*

説明:

データベース・リカバリー・サービスが、全機能データベース・データ・セットまたは高速機能エリアを検出できません。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (このIMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type 次のいずれかを示す。

FULL FUNCTION

DLISAS 領域が検出されなかった。

FAST PATH

高速機能が、システムに生成されていない。

reason 障害の理由を示し、次の機能のいずれかである。

- DLISAS REGION NOT DETECTED
- FAST PATH NOT DETECTED

システムの処置:

データベース・リカバリー・サービスはリカバリー処理をリジェクトします。

システム・プログラマーの応答:

FULL FUNCTION または FAST PATH 機能をリカバリーする必要がある場合は、IMS 上で適切な機能を使用可能にして、/RECOVER および /DISPLAY

RECOVERY データベース・リカバリー・サービス・コマンドを入力します。

モジュール: DFSRWM00

DFS4217I DATABASE RECOVERY SERVICE DISABLED: *reason* RETURN CODE =*return code*

説明:

データベース・リカバリー・サービスが、/RECOVER コマンドを処理する IMS 上でリカバリーを実行できません。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (このIMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason エラーの原因を示し、次のいずれかである。

- FACILITY NOT INSTALLED
- DLISAS REGION AND FAST PATH NOT DETECTED
- UNABLE TO ATTACH ORS TCB
- CREATE ADDRESS SPACE ERR
- UNABLE TO LOAD MODULES
- GET ORS STORAGE FAILURE

return code

マクロの戻りコード。

システムの処置:

データベース・リカバリー・サービスはリカバリー処理をリジェクトします。

システム・プログラマーの応答: 以下のように、受け取った *reason* に対応する処置を取ってください。

UNABLE TO LOAD MODULES

/RECOVER コマンドを処理する IMS の領域サイズを増やします。

FACILITY NOT INSTALLED

/RECOVER コマンドの処理中に、リカバリー機能が見つかりませんでした。RETURN CODE = 0 は、データベース・リカバリー・サービスが未インストールであることを意味します。リカバリー機能がインストールされている IMS で、/RECOVER コマンドを発行します。

DLISAS REGION AND FAST PATH NOT DETECTED

メッセージに示される機能を持つ IMS 上でデータベース・リカバリー・サービスを実行します。

UNABLE TO ATTACH ORS TCB

ATTACH マクロの *return code* を確認して、適切な処置を取ってください。

CREATE ADDRESS SPACE ERR

ASCRE マクロの *return code* を確認して、適切な処置を取ってください。

GET ORS STORAGE FAILURE

/RECOVER コマンドを処理する IMS の領域サイズを増やします。

メッセージでリストされた理由に応じて指定された処置に従ったが、問題が解決しなかった場合、エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWMI0、DFSRWM00

関連資料:



z/OS: ATTACH 戻りコード



z/OS: ASCRE マクロの戻りコードおよび理由コード

**DFS4218I UNABLE TO READ FROM *type* PIPE,
RC =*return code***

説明: *type* で示されたパイプからの読み取り中に、データベース・リカバリー・サービスがエラーを検出しました。メッセージ宛先はシステム・コンソールと IMS マスター端末です (このIMS が DB/DC である場合)。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

type エラーを検出した IMS パイプのタイプで、CONTROL または RECORD のいずれかである。

return code

障害のあったサービスからの戻りコード。

システムの処置: データベース・リカバリー・サービスは、現在のリカバリー・インスタンスを終了します。

システム・プログラマーの応答: エラー情報を記録し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWPR0、DFSRVPR0

第 88 章 DFS メッセージ DFS4251 - DFS4300

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4260I ERROR DETECTED FOR COMMAND: RECOVER ADD, REASON=*reason*

説明: データベース・リカバリー・サービス関連コマンドに関して、コマンド・エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason 理由が NOTHING TO ADD の場合、処理は継続する。理由が DBRC STORAGE FAILURE の場合、このリカバリー・インスタンスに関するリカバリー処理は終了する。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、IMS 内部エラーを示します。コマンドは、無視されます。

問題判別: エラー・メッセージに SLIP TRAP を設定し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWCM0、DFSRWCR0、
DFSRWCD0、DFSRWCP0、DFSRWCA0、
DFSRWME0

DFS4261I UNABLE TO ADD TO *rcvlist* *entrytype* *entryname: reason*

説明:

/RECOVER ADD コマンドに指定された *entryname* が、指定されたリカバリー・リストに追加できませんでした。リカバリー・リストが /RECOVER ADD コマンドで指定されなかった場合、メッセージ・テキストに「To *rcvlist*」が含まれていません。

重複項目が検出された場合、重複分は無視されます。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rcvlist 指定されたリカバリー・リスト。

entrytype

グループのメンバーが、/RECOVER ADD コマンドを処理する IMS の ACBGEN の一部で

はないか、または RECON 内で定義されていない場合、*entrytype* はメッセージに含まれない。

entrytype は、次のいずれかです。

- DBDS
- AREA
- DATABASE
- GROUP (/RECOVER コマンドで DBDSGRP、CAGRP、DATAGROUP、または RECOVGRP が指定された場合)

entryname

/RECOVER ADD コマンドで指定されたキーワードであり、DB、DBDS、DBGGRP、DBDSGRP、または CAGRP のいずれかである。

reason *reason* は、次のいずれかである。

ALREADY ON RECOVERY LIST

リストされた項目は、*rcvlist* によって指定されたリカバリー・リスト上にすでに存在する。

ALREADY STARTED

rcvlist によって指定されたリカバリー・リストは、すでにリカバリー処理を開始した。

COMMAND TOO LONG

/RECOVER ADD コマンドに指定されているエレメントの数が、単一の /RECOVER ADD コマンドに対してリカバリー製品によって許される数よりも多い。/RECOVER ADD コマンドを複数のコマンドに分割してください。

DATABASE IS OLR CAPABLE

entryname で指定されたオブジェクトは OLR 対応であり、/RECOVER ADD コマンドの発行先となった IMS のリリースが、OLR 対応データベースを使用したリカバリーをサポートしていない。OLR 対応データベースをサポートするレベルの IMS でリカバリーを再実行してください。

DATABASE HAS NO DATA SETS

データベースに対して定義されたデータベース・データ・セットがない。

DATABASE IS DEFINED AS GSAM

データベース・リカバリー・サービスは、GSAM データベース・タイプをリカバリーできない。

DLI/SAS REGION UNDETECTED

DL/I SAS 領域のないシステムのリカバリー・リストに、/RECOVER ADD コマンドによって全機能 DBDS を追加しようとした。

FAST PATH NOT INSTALLED

FP がインストールされていないシステムのリカバリー・リストに、/RECOVER ADD コマンドによって高速機能 AREA を追加しようとした。

INDEX OR ILE DATA SET

DBDS が、1 次索引または ILDS データ・セットのいずれかであり、リカバリーできないため、リカバリー・リストに追加されなかった。これらのデータ・セットは、索引/ILDS 再作成ユーティリティによってリカバリーされます。

NOT DEFINED IN RECON

entryname に示された項目が RECON に定義されていない。

NOT FOUND IN ACBGEN

entryname によって指定された項目が、メッセージを出した IMS に対して定義されていない。その項目が IMS Stage 1 で定義されていない可能性があります。

NOTHING ADDED

リカバリー・リストに何も追加されていない。

UNKNOWN REASON FROM DBRC

DBRC で予期しない状態が発生し、不明な理由コードがデータベース・リカバリー・マネージャーに戻された。

INVALID SMSOPTS PARAMETER

サポートされない、または正しくない SMSOPTS パラメーターが検出された。このメッセージに続いて、メッセージ DFS4289 が出力されます。詳しくは、DFS4289 を参照してください。

システムの処置: *entryname* を構成するデータベース・データ・セットは、リカバリー・リストに追加されません。データベースまたはエリア、あるいはその両方は、データベース・リカバリー・サービスではリカバリーされません。

システム・プログラマーの応答: /RECOVER ADD コマンドを調べて、対応する ACBGEN または RECON 項目と比べます。正しい項目名を指定してコマンドを再発行します。

reason が UNKNOWN REASON FROM DBRC の場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWCA0

関連情報:

1034 ページの『DFS4289』

**DFS4262I INVALID RESPONSE FROM DBRC
FOR COMMAND RECOVER ADD,
REASON=*reason***

説明: データベース・リカバリー・サービス関連コマンドが原因で、DBRC が無効な応答を戻しました。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reason DBRC によって戻された理由コードで、内部診断情報を示している。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、IMS 内部エラーを示します。コマンドは、無視されます。

問題判別: エラー・メッセージに SLIP TRAP を設定し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール:

DFSRWCR0、DFSRWCD0、DFSRWCP0、DFSRWCA0

**DFS4263I THE FOLLOWING ENTRIES ARE
ADDED TO THE RECOVERY LIST
token:**

説明: このメッセージの後に一連の DFS4265I メッセージが続きます。これは、/RECOVER ADD コマンドの結果、1 つ以上の項目がリカバリー・リストに追加されたことを示します。 *token* は、ユーザーにより /RECOVER ADD コマンドで提供されるか、または IMS により生成されます。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されません。

システムの処置: 後続の DFS4265I メッセージにリストされるデータベース・データ・セット名またはエリア

名が、リカバリー・リストに追加されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRWCA0

関連情報:

『DFS4265I』

DFS4264I RECOVERY STARTED FOR (options):

説明: /RECOVER START コマンドが発行され、エラーは検出されませんでした。後続の DFS4265I メッセージにリストされたデータベース・データ・セットおよびエリアに対して、データベース・リカバリー・サービス処理が開始されました。options は、/RECOVER START コマンドのパラメーターを示します。パラメーターが指定されなかった場合は、options に次のデフォルト値がリストされます。

```
ERRORCONT
STAGLOBAL
STALOCAL
NOSTA
```

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置: /RECOVER START コマンド処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRWCS0

DFS4265I name AUTHORIZED BY ssid

説明: このメッセージで、データベース・リカバリー・サービスがリカバリーを開始する対象のデータベース・データ・セットまたはエリアをリストします。このメッセージに続いて、DFS4263I または DFS4264I が出力されます。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 リカバリー対象のデータベース・データ・セット名 (dbname ddname) またはエリア名を示す。

ssid データベース・データ・セットまたはエリアが IMS によって許可されている場合、ssid は許

可している ssid を示す。このメッセージは、リカバリー・リスト内のデータベース・データ・セットまたはエリアを許可した IMS ごとに発行されます。

システムの処置: /RECOVER コマンド処理は継続します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

DFSRWCA0、DFSRWCS0、DFSRWCR0、DFSRWCP0

DFS4266I UNABLE TO RECOVER: dbname, reason

説明: データベース・リカバリー・サービス /RECOVER START コマンドが発行されたが、データベース・データ・セットまたはエリアをリカバリーすることができません。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname リカバリーできないデータベース・データ・セットまたはエリアを示す。

reason エラーの原因を示し、次のいずれかである。

AUTHORIZATION FAILED, RC = XX

許可処理で、リカバリー・リスト内のデータベース・データ・セットまたはエリアの 1 つ以上について、正しく許可できなかった。XX は DBRC 戻りコードを示します。

HALDB MASTER IS STOPPED

HALDB 区画のマスター・データベースが停止された。データベース・リカバリー・サービスでは、リカバリーされる区画を停止する必要があるが、マスター・データベースは開始されていなければなりません。マスター・データベースを開始してから、/RECOVER START コマンドを再発行します。

IMAGE COPY NOT AVAILABLE

DBRC がデータベース・データ・セットの使用可能なイメージ・コピーを見つけないことができなかった。

INVALID RCVTIME

DBRC が、指定された RCVTIME はこの項目の ALLOC の最中に期限切れになると判断した。PITR オプションは指定されませんでした。

LOGS MARKED IN ERROR

DBRC は、いずれのログ・データ・セットも使用不能であると判断した。エラーというマークが付けられます。

NEEDS HIGHER RELEASE LOG

DBRC が、上位リリースの IMS によって作成されたログを検出した。上位リリースで稼働する IMS によって更新されたデータベースを選択することはできません。

NO IC TAKEN AFTER A PITR

データベース・データ・セットまたはエリアのリカバリーが失敗した。その原因は、以前に時刻指定 (PITR) リカバリーが実行されており、それ以後、イメージ・コピーが取られていないためです。以前の PITR リカバリーによりバックアウト情報が RECON から削除されている可能性があるため、新たにリカバリーを行うと、データベースが破壊される可能性があります。

NO PRILOG FOUND

DBRC が PRILOG レコードを見つけることができなかった。この状態は発生してはなりません。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

NO RECOV RECORD FOUND

/RECOVER ADD コマンドで USEDDBS オプションが指定されたが、RECON に記録された最新のリカバリーがタイム・スタンプ・リカバリーでなかったか、あるいは、DBDS または AREA が RECON で「リカバリー必要」とマークされている。

NOT FOUND

リカバリー・リストにあるデータベース・データ・セットまたはエリアの 1 つ以上が、RECON データ・セットにリストされていない。

データベース・データ・セットまたはエリアがオンライン変更によりシステムから除去され、リカバリーする必要がなくなった場合は、/RECOVER REMOVE コマンドを使用して、リカバリー・リストからデータ・セットまたはエリアを除去してください。データベース・データ・セットまたはエリアがオンライン変更によりシステムから除去され、リカバリーする必要がある場合は、オンライン変更を使用し

て、それをシステムに再度追加します。その後で、/RECOVER START コマンドを再発行してください。

NOT OFFLINE

リカバリー・リストにあるデータベース・データ・セットまたはエリアの 1 つ以上が、IMS /DBR コマンドを使用してオフラインにされていない。データベースがこの状態にある場合、データベース・リカバリー・サービスの正しい作動を保証できません。

RECOV RECORD UNUSABLE

/RECOVER ADD コマンドで USEDDBS オプションが指定されたが、RECON に記録された最新のリカバリー以降、DBDS または AREA が更新されたか、または再編成された。

REORG LATER THAN IMAGE COPY

データベース・データ・セットに対して REORG ユーティリティが実行されたが、それ以降のイメージ・コピー・データ・セットが RECON に登録されていない。

システムの処置: データベース・データ・セットまたはエリアに対して ERRORCONT が指定された場合は、データベース・リカバリー・サービスのリカバリー・リストの残りのメンバーについて処理を継続します。

ERRORCONT が指定されなかった場合、リカバリーは停止します。

システム・プログラマーの応答: 以下のように、示された reason に対応する処置を取ります。

AUTHORIZATION FAILED

該当するデータベースまたはエリアを停止しなかった IMS を判別し、IMS /DBR コマンドを使用してデータベースまたはエリアを停止します。

HALDB MASTER IS STOPPED

リカバリーのために、HALDB 区画のマスター・データベースを開始する必要があります。マスター・データベースを開始して、/RECOVER START コマンドを再発行します。

IMAGE COPY NOT AVAILABLE

データベース・データ・セットにイメージ・コピーが使用可能であり、別のサイトにマイグレーションされていないか確認してください。

INVALID RCVTIME

非 PITR タイム・スタンプ・リカバリーは、ALLOC 境界の途中で止めることはできません。タイム・スタンプに使用された時刻を調整

するか、または PITR を指定して /RECOVER START コマンドを再発行します。

LOGS MARKED IN ERROR

ログ・データ・セットが使用可能で、別のサイトにマイグレーションされていないか確認してください。

NEEDS HIGHER RELEASE LOGS

上位リリースの IMS で作成されたログを、下位リリースの IMS でのリカバリーに使用することはできません。この状態は、複数の IMS システムを共存モードで稼働している場合に発生する可能性があります。ログが作成された IMS のレベルでリカバリーを再実行してください。

NO PRILOG FOUND

支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

NO IC TAKEN AFTER A PITR

時刻指定リカバリーの後、以降のリカバリーで有効な開始点を持てるように、イメージ・コピーを取ります。データベースの健全性が損なわれないことを確信している場合は、DBRC DELETE.RECOV コマンドを使用して RECOV レコードを削除してから、リカバリーを再実行します。

NO RECOV RECORD FOUND

標準外イメージ・コピーを使用して、DBDS または AREA をリカバリーします。次に、リカバリーが実行された時刻 (CURRENT)、および DBDS または AREA がリカバリーされる目標の時刻を指定した NOTIFY.RECOV コマンドを使用して、リカバリーを DBRC に通知します。それから、USEDDBDS パラメーターを指定したデータベース・リカバリー・サービスを使用して、DBDS または AREA をリカバリーすることができます。

NOT FOUND

/RECOVER ADD コマンドが発行された後、データベース・データ・セットまたはエリアが RECON から削除されました。そのデータベース・データ・セットまたはエリアが正当で、リカバリーする必要がある場合は、それを RECON に定義します。

NOT OFFLINE

リカバリーを実行している IMS で、データベース・データ・セットまたはエリアが停止されませんでした。IMS /DBR コマンドを使用して、データベースまたはエリアを停止します。

RECOV RECORD UNUSABLE

最新のリカバリー以後に、DBDS または AREA に対して変更が行われました。その結果、再びリカバリーを実行する必要があります。

す。標準外イメージ・コピーを使用して、DBDS または AREA をリカバリーします。次に、リカバリーが実行された時刻 (CURRENT)、および DBDS または AREA がリカバリーされる目標の時刻を指定した NOTIFY.RECOV コマンドを使用して、リカバリーを DBRC に通知します。それから、USEDDBDS パラメーターを指定したデータベース・リカバリー・サービスを使用して、DBDS または AREA をリカバリーすることができます。

REORG LATER THAN IMAGE COPY

再編成より前に取られたイメージ・コピーを使用して DBDS または AREA をリカバリーすることはできません。

モジュール: DFSRWCS0

DFS4267I RECOVERY NOT STARTED, reason

説明: データベース・リカバリー・サービス /RECOVER START コマンドが発行されたが、以下の reason で示された理由のため、リカバリーを継続できません。

DBRC AUTHORIZATION FAILURE

IMS が、リカバリー・リスト内に 1 つ以上の許可されたデータベース・データ・セットまたはエリアを持っている。

DBRC RECOVER START FAILURE

DBRC での IMS 内部エラーにより、リカバリーが失敗した。

ERRORABORT SPECIFIED

データベース・リカバリー・サービスがリカバリーを開始しようとしているときに、あるデータベース・データ・セットでエラーが検出されたが、/RECOVER START コマンドで ERRORCONT が指定された。障害のタイプについて詳しくは、DFS4266I を参照してください。

INCOMPLETE RECOVERY GROUP

リカバリー・グループの 1 つ以上のメンバーがリカバリー・リストに含まれていないため、リカバリーが失敗した。このメッセージの後に、リカバリー・リストに含まれていないリカバリー・グループのメンバーをリストする DFS4284I メッセージが 1 つ以上続きます。

NO RECOVERABLE ENTRIES

1 つ以上のエラーが原因で、リカバリー・リスト内の項目がどれもリカバリーできなかった。

ONLINE CHANGE IN PROGRESS

/RECOVER START コマンドが出されたとき、/MODIFY COMMIT または INITIATE

OLC PHASE(COMMIT) コマンドが処理中であった。 /RECOVER START コマンドはリジェクトされます。

RECOVERY LIST NOT FOUND

コマンドで指定されたトークンと一致するトークンのあるリカバリー・リストが見つからなかった。

RECOVERY NOT STARTED, ALREADY IN PROGRESS

すでに処理中のため、リカバリーが開始されなかった。

RECOVERY NOT STARTED, OTHER RECOVERY IN PROGRESS

別のリカバリーが現在は処理中のため、リカバリーが開始されなかった。

RECOVERY TIME GREATER THAN RUN TIME

/RECOVER START コマンドの入力リカバリー時刻が、現在時刻よりも後である。

UNABLE TO CREATE ITASK

IMS 内部エラーにより、リカバリーが失敗した。問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。

UNABLE TO GET CCCCCCCCCC

IMS 内部エラーにより、リカバリーが失敗した。問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。CCCCCCCCC は、次のいずれかの IMS 内部リソースです。

- QSAV
- PST
- EPST
- APSB LATCH
- PSBP LATCH
- AUTHORIZATION PARM LIST

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置: 現在のデータベース・リカバリー・サービスのリカバリー・インスタンスは打ち切られます。

システム・プログラマーの応答: 以下のように、受け取った *reason* に対応する処置を取ってください。

DBRC AUTHORIZATION FAILURE

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。詳しくは、前に発行された DBRC メッセージを参照してください。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

DBRC RECOVER START FAILURE

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で

障害が発生しました。詳しくは、前に発行された DBRC メッセージを参照してください。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

ERRORABORT SPECIFIED

エラーを訂正し、リカバリーを再始動します。適切な処置については、DFS4266I を参照してください。

INCOMPLETE RECOVERY GROUP

グループ全体を指定するか、グループを再定義するか、PITR (時刻指定リカバリー) を指定しないか、または NOCHECK を指定します。詳しくは、DFS4284I を参照してください。

NO RECOVERABLE ENTRIES

項目ごとの障害に関しては、前にメッセージが出力されています。適切な処置については、前のメッセージを参照してください。

ONLINE CHANGE IN PROGRESS

/MODIFY COMMIT または INITIATE OLC PHASE(COMMIT) コマンドの完了後に、/RECOVER START コマンドを再発行してください。

RECOVERY LIST NOT FOUND

指定した名前でもリカバリー・リストを作成するか、または既存のリストにある名前を入力します。

RECOVERY NOT STARTED, ALREADY IN PROGRESS

リカバリーは実行中です。アクションは不要です。

RECOVERY NOT STARTED, OTHER RECOVERY IN PROGRESS

他のリカバリーを停止するか、またはそれが終了するまで待ちます。

RECOVERY TIME GREATER THAN RUN TIME

リカバリーを開始すべき正しい時刻を指定して、コマンド /RECOVER START を入力します。

UNABLE TO CREATE ITASK

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

UNABLE TO GET CCCCCCCCCC

IMS がストレージ不足であるか、IMS 内部で障害が発生しました。エラーの原因を判別できない場合、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSRWCI0

関連情報:

1025 ページの『DFS4266I』

1033 ページの『DFS4284I』

DFS4268I THE FOLLOWING ENTRIES WERE REMOVED FROM THE RECOVERY LIST:

説明: このメッセージの後に一連の DFS4265I メッセージが続きます。これは、/RECOVER REMOVE コマンドの結果、1 つ以上の項目がリカバリー・リストから除去されたことを示します。

システムの処置: 後続の DFS4265I メッセージにリストされる *name* が、リカバリー・リストから除去されません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRWCR0

DFS4269I RECOVERY LIST IS NOW EMPTY

説明: 次のいずれかのインスタンスが発生しました。

- /RECOVER REMOVE コマンドが処理され、リカバリー・リストから最後のデータベース・データ・セットまたはエリアが除去された。
- /RECOVER REMOVE ALLENTS コマンドが処理された。
- /RECOVER STOP コマンドが処理され、リカバリー・リストの最後のデータベース・データ・セットまたはエリアが停止された。
- /RECOVER STOP ALLENTS コマンドが処理された。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置: リカバリー・インスタンスは削除されません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRWCR0、DFSRWCP0

DFS4270I UNABLE TO REMOVE *resource_type*
resource_name: reason

説明: データベース・リカバリー・サービス /RECOVER REMOVE コマンドが発行されたが、処理できませんでした。メッセージ宛先は z/OS システ

ム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_type

/RECOVER REMOVE コマンドが発行された対象のリソースのタイプを示し、次のいずれかである。

- LIST
- DBDS
- AREA
- DB

resource_name

/RECOVER REMOVE コマンドで指定されたリソースの名前を示す。

reason 次のいずれかの障害原因を示す。

COMMAND TOO LONG

/RECOVER REMOVE コマンドに指定されているエレメントの数が、単一の /RECOVER REMOVE コマンドに対してリカバリー製品によって許される数よりも多い。/RECOVER REMOVE コマンドを複数のコマンドに分割してください。

NOT IN RECOVERY LIST

コマンドで指定されたデータベース・データ・セットまたはエリアが、リカバリー・リストに含まれていない。

NOT DEFINED IN RECON

DB、CAGRP、DBDSGRP、または DATAGROUP リソース・タイプが RECON 内に見つからない。

NOTHING REMOVED

/RECOVER REMOVE コマンドの結果、除去されたデータベース・データ・セットまたはエリアはなかった。

RECOVERY IN PROGRESS

リカバリー・リストに応じてリカバリーを処理中に、/RECOVER REMOVE コマンドが発行された。

RECOVERY LIST DOES NOT EXIST

/RECOVER REMOVE コマンドが発行されたが、指定されたリカバリー・リストが存在しない。

THIS IS A FAST PATH AREA

コマンドで /RECOVER REMOVE

DBDS が指定されたが、その項目は高速機能エリアであった。

THIS IS NOT A FAST PATH AREA

/REC REMOVE AREA AREA 名コマンドが入力されたが、その AREA 名はリカバリー・リストで FF DBDS を示していた。

正しい AREA 名を判別するか、または /RECOVER REMOVE DBDS dbd dbds を入力してください。

システムの処置: *resource_type* が LIST の場合、/RECOVER REMOVE コマンドは打ち切られません。それ以外の場合、エラーで示されていないリソースに関しては処理を継続します。

システム・プログラマーの応答: コマンドが失敗した理由を判別し、必要な場合は、コマンドを再発行します。

モジュール: DFSRWCR0

DFS4273I RECOVER command COMMAND REJECTED, *rsn*

説明: /RECOVER コマンドが、メッセージ内にリストされている *rsn* のためにリジェクトされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

command

次のいずれかです。

- ADD
- REMOVE
- START
- STOP

rsn

次のいずれかです。

DRF WAS UNABLE TO START

データベース・リカバリーの初期設定時の障害により、/RECOVER コマンドがリジェクトされました。付随するメッセージを参照し、問題を訂正してから /RECOVER コマンドを発行してください。

RECOVERY ADDRESS SPACE FAILED

データベース・リカバリー・アドレス・スペースの初期設定時の障害により、/RECOVER コマンドがリジェクトされました。付随するか関連するメッセージを参照し、問題を訂正してから /RECOVER コマンドを発行してください。

TERMINATION IN PROGRESS

リカバリー環境が /RECOVER

TERMINATE コマンドのために終了しようとしています。終了処理が完了するのを待ってから、/RECOVER コマンドを発行してください。

FEATURE NOT INSTALLED

IMS が、データベース・リカバリー・プロダクトの存在を検出できません。データベース・リカバリー・プロダクトがインストールされている場合は、IMS が、データベース・リカバリー・プロダクトの入ったライブラリーにアクセスできることを確認してから、/RECOVER コマンドを発行してください。

システムの処置: /RECOVER コマンドはリジェクトされます。

システム・プログラマーの応答: メッセージの説明のセクションに書かれている適切な処置を行ってください。*rsn* が内部エラーの存在を示している場合は、症状とすべての診断データを IBM に報告してください。*rsn* が訂正可能な状態を示している場合は、エラーを訂正して /RECOVER コマンドを発行してください。

モジュール: DFSRWMO0

DFS4274I UNABLE TO STOP

resource_type resource_name: reason

説明: データベース・リカバリー・サービス /RECOVER STOP コマンドが発行されましたが、処理不能でした。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource_type

/RECOVER STOP コマンドの発行対象となったリソースのタイプを示し、次のいずれかである。

- LIST
- DBDS
- AREA
- DB

resource_name

/RECOVER STOP コマンドで指定されたリソースの名前を示す。

reason

エラーの原因を示し、次のいずれかである。

RECOVERY NOT IN PROGRESS

リカバリーが進行中でないときに
/RECOVER STOP コマンドが発行され
た。

NOT IN RECOVERY LIST

コマンド内で指定されたデータベー
ス・データ・セットまたはエリアがリ
カバリー・リストに入っていない。

NOT IN RECON

DB、CAGRP、DBDSGRP、または
DATAGROUP リソース・タイプを
RECON 内で検出できなかった。

SAVE REQUIRES ALLENT

/RECOVER STOP コマンドが SAVE
オプション付きで発行されたが、
ALLENTRIES が指定されなかった。

NOTHING REMOVED

/RECOVER REMOVE コマンドの結
果として、データベース・データ・セ
ットまたはエリアが停止されなかつ
た。

THIS IS A FAST PATH AREA

/RECOVER STOP コマンドが DBDS
オプション付きで発行されたが、その
項目は高速機能エリアである。

システムの処置: *resource_type* が LIST の場
合、/RECOVER STOP コマンドは異常終了します。そ
れ以外の場合、他のリソースに対する処理が続行されま
す。

システム・プログラマーの応答: コマンドが失敗した理
由を判別し、必要な場合は、コマンドを再発行します。

モジュール: DFSRWCP0

**DFS4275I THE FOLLOWING ENTRIES WILL
HAVE RECOVERY STOPPED:**

説明: このメッセージの後に一連の DFS4265I メッセ
ージが続きます。これは、/RECOVER STOP コマンド
の結果として、1 つ以上の項目がリカバリーを停止する
ことを示しています。メッセージ宛先は z/OS システ
ム・コンソールと IMS マスター端末です (それが
DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマン
ドの送付側にも送信されます。

システムの処置: 後続の DFS4265I メッセージ内にリ
ストされた *name* は、リカバリーを停止します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはあ
りません。

モジュール: DFSRWCP0

**DFS4277I RECOVERY COMPLETE FOR: *dbdname*
*ddname***

説明:

データベース・リカバリー・サービスは、このメッセ
ージを、リカバリーが完了したリカバリー・リスト内の各
項目ごとに発行します。*dbdname ddname* は、リカバリ
ーを完了した DBDS または AREA を表します。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS
マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。
このメッセージは、コマンドの送付側にも送信されま
す。

システムの処置: *name* に対する元の /RECOVER コマ
ンドで STAGLOBAL が指定された場合、DBDS または
AREA はグローバルに自動的に開始されます。
STALOCAL が指定された場合、それはメッセージを出
力した IMS 内で自動的に開始されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはあ
りません。

モジュール: DFSRWME0

**DFS4278I UNABLE TO COMPLETE RECOVERY
FOR: *dbdname ddname***

説明: データベース・リカバリー・サービスが、
dbdname および *ddname* で示された DBDS または
AREA に対するリカバリーを完了できません。このエ
ラーは、リカバリー中に発生した DBDS または AREA
障害の結果、または DBDS または AREA に対するイ
メージ・コピーの復元に失敗した結果です。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS
マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。
このメッセージは、コマンドの送付側にも送信されま
す。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 障害の原因を判別し、
訂正してから、リカバリーを再実行します。

モジュール: DFSRWME0

**DFS4279I THE FOLLOWING ENTRIES ARE
AUTHORIZED TO AN IMS:**

説明: データベース・リカバリー・サービスが、タイ
ム・スタンプ・リカバリー中に、リカバリーを必要とす
る全機能データベースまたは高速機能エリア、あるいは
その両方を検出しました。リカバリーされるデータベー
ス・データ・セットおよびエリアは、リカバリー単位に
よって更新されるが、このリカバリー単位によって、後
続の DFS4265I メッセージで示されるデータベース・デ

DFS4280I • DFS4282A

ータ・セットおよびエリアも更新されます。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されます。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 後続の DFS4265I メッセージにリストされるデータベース・データ・セットまたはエリア (あるいはその両方) を、このメッセージの原因となったリカバリーと同じ時刻指定でリカバリーする必要があるかどうか判別します。

モジュール: DFSRWPR0

関連情報:

1025 ページの『DFS4265I』

DFS4280I UNABLE TO START *type* FOR THE RECOVERY LIST *token*, RC=*return code*

説明: データベース・リカバリー・サービスが、*type* で示された、リカバリー・トークン (*token*) に関連するエリアまたはデータベースを開始できません。メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールです。

システムの処置: エリアまたはデータベースはリカバリーされるが、開始されません。

システム・プログラマーの応答: /START AREA、UPDATE AREA START(ACCESS)、または /START DATABASE コマンドを発行します。この障害を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。

モジュール: DFSRWME0

DFS4282A ERROR PROCESSING PROCLIB MEMBER DFSORSXX: *error*

説明: IMS PROCLIB メンバー DFSORSxx を処理中にエラーが検出されました。検出されたエラーの数に応じて、1 つ以上の DFS4282A メッセージが出力されます。処理中であった /RECOVER コマンドは失敗します。

メッセージ・テキストで、*error* は次のいずれかの問題を示します。

FAILURE PARSING, IKJPARS RC = *rc*

TSO IKJPARS サービスが、DFSORSxx メンバーで指定されたパラメーターにエラーを検出した。IKJPARS が、*rc* として示されているコードを戻しました。

PARAMETER IN ERROR: *yyyy*

DFSORSxx のパラメーターで無効な値が検出された。誤りのあるパラメーターが *yyyy* で示されます。

TSO ENVIRONMENT IS NOT AVAILABLE

TSO 環境が使用不能であった。この結果、DFSORSxx メンバーを処理できませんでした。

UNABLE TO DELETE STORAGE, IMODULE RC = *rc*

DFSORSxx メンバーの構文解析モジュール DFSRWPP0 が、メンバーを処理するために取得した作業用ストレージを解放できなかった。IMODULE GETMAIN が、*rc* として示されているコードを戻しました。IMODULE 戻りコードについては、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

UNABLE TO OBTAIN STORAGE, IMODULE RC = *rc*

DFSORSxx メンバーの構文解析モジュール DFSRWPP0 が、メンバーを処理するために必要なストレージを取得できなかった。IMODULE GETMAIN が、*rc* として示されているコードを戻しました。IMODULE 戻りコードについては、IMS システム・サービスの戻りコード情報を参照してください。

システムの処置: 処理中であった /RECOVER コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: 以下のように、受け取ったエラーに対応する処置を取ります。

FAILURE PARSING, IKJPARS RC = *rc*

SYSTSPRT データ・セットのメッセージから、DFSORSxx メンバーでエラーのあったパラメーターを判別します。パラメーターを訂正してから、/RECOVER コマンドを再発行します。

PARAMETER IN ERROR: *yyyy*

DFSORSxx に指定されるパラメーターを訂正してから、/RECOVER コマンドを再発行します。

TSO ENVIRONMENT IS NOT AVAILABLE

TSO 環境が使用可能であるかを確認し、ジョブを再実行依頼してください。

UNABLE TO DELETE STORAGE, IMODULE RC = *rc*

メッセージおよび IMODULE 戻りコードをメモし、問題を IBM ソフトウェア・サポートに報告してください。即時の訂正処置は必要ありませんが、このメッセージは、IMS の内部論理エラー、または (IMS か z/OS の) ストレージ管理に問題があることを示している可能性があります。

UNABLE TO OBTAIN STORAGE, IMODULE RC = *rc*

理由コードに基づいて、IMODULE GETMAIN 障害の原因を判別します。問題の原因がフラグメント化されたストレージにある場合は、z/OS の IPL が必要になることもあります。

モジュール: DFSRWPP0

関連資料:

➡ z/OS: 解析サービス・ルーチンからの戻りコードの確認

➡ IMS システム・サービス戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS4283I EARLY END OF RECOVERY FOR:
token

説明: データベース・リカバリー・サービスが、リカバリー中に発生した障害のため、早期に終了中です。このエラーが発生するのは、/RECOVER START コマンドで ERRORABORT が指定され、リカバリー中に DBDS または AREA 障害が発生した場合、あるいは DBDS または AREA のイメージ・コピーの復元に失敗した場合です。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、/RECOVER START コマンドを発行した LTERM にも送信されます。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 障害の原因を判別し、それを訂正してから、リカバリーを再実行します。

モジュール: DFSRWME0

DFS4284I RECOVERY GROUP *grpname*
MEMBER *member* NOT IN
RECOVERY LIST

説明: メッセージ内で *grpname* によって示されたリカバリー・グループのメンバーを指定して、/RECOVER START コマンドが発行されました。しかし、リカバリー・リストには、リカバリー・グループのメンバーのすべては含まれていません。リカバリー・リストのメンバーごとに DFS4284I が出力されます。このメッセージは、メッセージ DFS4267I の後に続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

grpname

リカバリー・グループの名前。

member

リカバリー・グループ内のデータベース名またはエリア名

システムの処置: コマンドは実行されません。

システム・プログラマーの応答: /RECOVER ADD コマンドを使用してリカバリー・グループの全メンバーをリカバリー・リストに追加し、/RECOVER START を

発行します。あるいは、NOCHECK パラメーターを指定した /RECOVER START を発行します。

DFS4285I END OF RECOVERY FOR: *token*

説明: 現行のリカバリーに関するすべてのリカバリー処理が完了したときに、オンライン・リカバリー・サービスはこのメッセージを発行します。*token* は、このリカバリーを開始した /RECOVER START コマンドで指定されたリカバリー・リスト・トークンを表します。

メッセージ宛先は z/OS システム・コンソールと IMS マスター端末です (それが DB/DC IMS である場合)。このメッセージは、コマンドの送出側にも送信されません。

システムの処置: 処理は続行されます。

モジュール: DFSRWME0

DFS4286I DATABASE RECOVERY SERVICE IS
BEING TERMINATED

説明:

/RECOVER TERMINATE コマンドが発行され、データベース・リカバリー・サービスをシステムから除去中です。

システムの処置:

データベース・リカバリー・サービスのリソースは、IMS によって解放されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRVM00

DFS4287I DATABASE RECOVERY SERVICE
HAS TERMINATED

説明:

/RECOVER TERMINATE コマンドが発行され、データベース・リカバリー・サービスが終了しました。

システムの処置:

データベース・リカバリー・サービスのリソースが解放されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRVM00

**DFS4288I DATABASE RECOVERY SERVICE IS
UNABLE TO TERMINATE**

説明: リカバリー処理中に、 /RECOVER
TERMINATE コマンドが発行されました。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

システム・プログラマーの応答: 現行のリカバリーが完了するまで待ってから、 /RECOVER TERMINATE コマンドを発行します。現行のリカバリーを完了させる必要がない場合は、 /REC STOP ALLENT コマンドを使用して、それを停止することができます。

モジュール: DFSRVM00

DFS4289 SMS_OPTION IGNORED

説明: SMS_OPTION はサポートされていないため、リジェクトされました。 /RECOVER ADD コマンドが失敗しました。このメッセージは、DFS4261I に続いて出力されます。

システムの処置: ORS リカバリーは開始されません。

システム・プログラマーの応答: サポートされる SMSOPTS パラメーターを指定して、 /RECOVER ADD コマンドを発行します。

モジュール: DFSRWCA0

関連情報:

1023 ページの『DFS4261I』

DFS4299I xxxx

説明: IMS オンライン・リカバリー・サービス ORS によってメッセージが発行されました。「message-id」および「message-text」については、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」(SC27-0944)に説明があります。

システムの処置: システムの応答については、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」に説明があります。

オペレーターの応答: (マスター端末) ユーザーは、「message-id」について、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」に示されている適切な処置を行う必要があります。

ユーザーの処置: 「message-id」について、「*IMS Online Recovery Service for z/OS, User's Guide*」に示されている適切な処置を取ってください。

モジュール: DFSRWPR0

第 89 章 DFS メッセージ DFS4301E - DFS4350E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4304E CALL TO DBRC FAILED. RC=*retcode*

説明: DBRC が DFSKARC0 から呼び出されましたが、処理が正しく完了しませんでした。

システムの処置: 処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置: 問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。問題の原因として、次のいずれかが考えられます。

- SYSIN 入力は文字ストリング LIST.LOG で構成されている必要がありますが、SYSIN 入力が無効であるか省略された可能性があります。
- RECON データ・セット用の DD ステートメントが JCL に組み込まれていなかった可能性があります。
- RECON データ・セットの IMS レベルが、JCL 内の JOBLIB または STEPLIB DD ステートメントに組み込まれた IMS.SDFSRESL のレベルと一致しなかった可能性があります。

DFSKARC0 からの SYSPRINT 出力を使用して問題を判別できます。

モジュール: DFSKARC0

DFS4305W THE MAXIMUM NUMBER OF VOLSERS WAS EXCEEDED FOR THE DATA SET: *data set name*

説明: 示されているデータ・セットは複数のボリュームにまたがっています。ユーティリティ DFSKARC0 によって自動的に抽出されるボリュームの最大数は 8 です。ただし、この場合は、VOLSER の数がこの値を超えています。最初の 8 個の VOLSER は生成された JCL に組み込まれますが、残りの VOLSER はすべて省略されます。

システムの処置: 処理を続行します。処理の終了時に、条件コード 4 が返されます。

システム・プログラマーの応答: 生成された JCL を更新して、示されているデータ・セット名に関連する DD ステートメントに省略された VOLSER 値を指定してから、JCL を実行依頼します。

モジュール: DFSKARC0

DFS4309E REQUIRED KEYWORD *keyword* HAS NOT BEEN SPECIFIED

説明: 示された *keyword* が必要ですが、ユーティリティの制御ステートメントに組み込まれていませんでした。

システムの処置: 処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置: キーワードに値を指定し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSKARC0

DFS4310E PREVIOUS CONTROL STATEMENT CONTAINED NO VALID KEYWORDS

説明: 有効なキーワードが入っていない制御ステートメントが検出されました。

システムの処置: 処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置: 制御ステートメントを訂正するか除去して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSKARC0

DFS4311E TIMESTAMP CONTROL STATEMENTS MUST INCLUDE CENTURY

説明: 日付の世紀部分で始まらない値が入った日付関連キーワードの開始または停止。

システムの処置: 処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置: 制御ステートメントを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFSKARC0

DFS4312E NO LOG DATASETS FOUND MATCHING SELECTION CRITERIA

説明: RECON 内の項目が、CNTLCRDS 内で指定された SSID、STRTTIME、または STOPTIME の組み合わせと一致しません。

システムの処置: 処理は条件コード 8 で終了します。

ユーザーの処置: 適切な選択基準をどのようなものにするればよいかを判別し、ジョブを再実行依頼してください。DFSKARC0 からの SYSPRINT 出力を使用して、

DFS4313I • DFS4324E

どのサブシステムと期間が適切であるかを判別できません。

モジュール: DFSKARC0

DFS4313I FEWER LOGS MATCHED SELECTION CRITERIA THAN WERE REQUESTED

説明: LOGCOUNT= パラメーターで、選択するログ・データ・セットが指定されました。しかし、制御ステートメント内で指定された選択基準と一致するログ・データ・セットの数が、それより少数でした。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSKARC0

DFS4320E SOME LOG DATA SET NAMES ARE UNAVAILABLE BECAUSE THEY WERE CHANGED BY DBRC PRILOG RECORD COMPRESSION. THE LOG DATA SET NAMES WERE NOT EXTRACTED.

説明: DBRC PRILOG レコード圧縮が、ユーティリティ DFSKARC0 による処理で指定された時刻範囲にわたるログ・データ・セットのデータ・セット名を RECON データ・セットの文字ストリング DSN=**** COMPRESSED DATA SET **** に置き換えました。データ・セット名は RECON に存在しなくなっているため、DFSKARC0 はこれらを抽出できません。

システムの処置: 処理を続行します。

DBRC PRILOG レコード圧縮の対象ではない DFSKARC0 による処理で指定された時刻範囲内でログ・データ・セット名の範囲が検出された場合、DFSKARC0 によって生成される要約報告書に時刻範囲のこのサブセットの標識が含まれます。処理の終了時に、条件コード 8 が返されます。

プログラマーの応答: STRTTIME および STOPTIME 制御ステートメントを指定して、ユーティリティをログ・データ・セット名が使用可能な範囲に制限し、ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DFSKARC0

DFS4321I ACTIVE OLDS DATA SET: *data set name* WAS NOT INCLUDED IN THE SELECTED DATA SETS

説明: ログ・データ・セット名の RECON 照会ユーティリティによって、オンライン・ログ・データ・セット (OLDS) が処理のために選択されました。ユーティ

リティーによって抽出されたデータ・セット名のリストからアクティブな OLDS を除外するために、NOACTIVEOLDS 制御ステートメントが指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data set name

リストから除外されたアクティブな OLDS の名前

システムの処置: ログ・データ・セット名の RECON 照会ユーティリティは処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSKARC0

DFS4324E PSB *psb_name* REFERENCED A DELETED DBD *dbd_name*. PST *pst_name*.

説明: プログラム・ビュー (PSB) *psb_name* を IMS ディレクトリー・データ・セットから削除できません。この作業単位内にこの PSB に対する DROP PROGRAMVIEW DDL ステートメントがないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

この作業単位で DROP DATABASE DDL ステートメントによって削除しようとしているデータベースの名前。

psb_name

データベース *dbd_name* への参照を含んでいますが、この作業単位では削除されないプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。


システムの処置: プログラム・ビュー (PSB) *psb_name* はこのディレクトリーから削除されません。DROP DATABASE ステートメント内のデータベース *dbd_name* はこのディレクトリーから削除されません。

ユーザーの処置: まだ PSB が必要な場合は、ALTER PROGRAMVIEW ステートメントをサブミットし、データベース *dbd_name* への参照をその PSB から除去してください。

PSB が不要になった場合は、DROP PROGRAMVIEW ステートメントをサブミットして、PSB を完全に削除してください。

モジュール: DFSOLC70

関連資料:

 DROP DATABASE (アプリケーション・プログラミング API)

 DROP PROGRAMVIEW (アプリケーション・プログラミング API)

DFS4325W MEMBER *mbr_name* WAS ALREADY DELETED FROM THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*.

説明: メッセージ・テキストに示されている DBD または PSB メンバーを削除するための DDL DROP ステートメントがサブミットされましたが、その DBD または PSB が IMS ディレクトリー・データ・セット内に存在しないか、そこから既に削除されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr_name

DDL DROP ステートメントに指定された DBD または PSB メンバーの名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: このメンバーを IMS ディレクトリー・データ・セットから除去するための要求は無視されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC70

DFS4326E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS SUBMISSION ABORTED. PST *pst_name*

説明: DDL 定義を活動化できません。このメッセージに先行して、エラーを示すエラー・メッセージ (例えば、DFS4328E、DFS4344E、DFS4340E、DFS4341E、DFS4349E、または DFS3537E) が発行されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: DDL ストリームからの命令の処理は終了します。

オペレーターの応答: 先行するエラー・メッセージ (例えば、DFS4328E、DFS4344E、DFS4340E、

DFS4341E、DFS4349E、または DFS3537E) を探して、障害の原因を特定してください。

オペレーターの応答: エラーを解決し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFS3DL40、DFS3DL50

DFS4328E DDL CHANGES COULD NOT BE ACTIVATED. OTHER CHANGES IN PROGRESS. REGION *regionname*

説明: IMS はデータベース・リソースに対する別の変更を既に処理しているため、現在サブミットされている DDL を処理できません。

進行中のリソース変更は、DDL ステートメントをサブミットすることによって開始されたか、以下のいずれかのコマンドを実行することによって開始された可能性があります。

- IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG)
- CREATE DB
- DELETE DB

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

regionname

EXPLANATION

システムの処置: DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

進行中の変更が完了するのを待ってから、IMS に DDL ステートメントを再サブミットしてください。

別のオンライン変更コマンドが進行中の場合は、そのコマンドが完了するのを待ってから、DDL 定義の自動活動化を再実行します。

IMS が既にオンライン変更コマンドによってオンライン変更準備状態になっていて、コマンドが IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) でない場合は、そのオンライン変更を終了するかコミットしてから、DDL 定義の自動活動化を再実行します。

モジュール: DFS3DL40

DFS4329I THE DDL-DEFINED DBD *dbd_name* IS INSERTED INTO THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*

説明: メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに示さ

れているデータベース (DBD) を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加しています。その DBD はそれ以前に IMS ディレクトリー・データ・セット内にありませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

IMS ディレクトリー・データ・セットに追加されているデータベース (DBD)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理している PST タスクの名前。

システムの処置: PST タスクは、DBD を IMS ディレクトリー・データ・セットに追加し、DDL ストリームからの以降の命令の処理を続行します。

指定されている活動化オプションに応じて、データベースは停止状態になっていることも、オンライン・システムにまだ認識されていないことも考えられます。




プログラマーの応答: 以下のいずれかのコマンドを発行して、データベースがオンライン・システムに認識されているかどうかを確認してください。

- QUERY DB
- /DISPLAY DB

データベースが見つからない場合は、CREATE DB IMS タイプ 2 コマンドを発行するか、または DATABASE ステージ 1 システム定義マクロをコーディングし、システム定義を実行し、IMS を再始動します。

モジュール: DFSOLC70

関連資料:

-  QUERY DB コマンド (コマンド)
-  /DISPLAY DB コマンド (コマンド)
-  CREATE DB コマンド (コマンド)

DFS4330I ACBLIB KEYWORD IS INVALID WHEN DIRECTORY IS ENABLED.

説明: /MODIFY PREPARE ACBLIB コマンドは処理されません。ACB の IMS 管理が使用可能になった IMS システム内で ACBLIB キーワードが無効であるためです。

システムの処置: コマンドは、無視されます。

プログラマーの応答: DDL コマンドを使用して IMS カタログで変更を行い、IMPORT DEFN コマンドを使用してディレクトリー内でそれらの変更を活動化し、オンラインにします。

DFS4331E ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY BOOTSTRAP DATA SET FOR REASON *rc*

説明: DFS4331E では以下の理由コードが返される可能性があります。

コード

説明

- 1 ストレージの取得に失敗しました。
- 2 データ・セットのエンキューに失敗しました。
- 3 データ・セットを割り振るために待機しています。データ・セットが既に割り振られているか、または別のジョブがそのデータ・セットを使用しています。
- 4 データ・セットの割り振りができるようになったことを検出するためのタイマーのセットアップに失敗しました。
- 5 データ・セットのオープンに失敗しました。
- 6 データ・セットの読み取り中にデータの終わりが発生しました。
- 7 データ・セットの読み取り中に入出力エラーが発生しました。
- 8 データ・セットをクローズしている最中に、エラーが発生しました。
- 9 データ・セットの割り振り解除中にエラーが発生しました。
- 10 データ・セットの割り振りに失敗しました。サブコード *sc* については、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」または「MVS/ESA プログラミング: 許可アセンブラー・サービスの手引き」の動的割り振りエラー・コードの項に説明があります。
- 11 データ・セットのデキュー時のエラー。
- 12 データ・セットの高位修飾子名を特定できません。高位修飾子名はカタログ・データベース・データ・セット名から取得されます。この名前は、DBRC=Y が指定されている場合は DBRC、DBRC=N が指定されている場合は IMS カタログ HALDB 区画定義データ・セットから取得されます。


システムの処置: 理由コード 3 の場合、IMS オンライン・システムは最大 150 秒待機し、バッチ・ジョブはデータ・セットの割り振りができるようになるまで無制限に待機します。それ以外の理由コードの場合、IMS オンライン・システムは異常終了 U071 で終了し、バッチ・ジョブは異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題の原因がデータ・

セットの競合にある場合は、問題を訂正し、IMS を再始動するかバッチ・ジョブを再実行します。

モジュール: DFSDSSM0

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

DFS4332E ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY DATA SET FOR REASON *rc* SUB CODE *sc* DATA SET NAME *name*

説明: DFS4332E では以下の理由コードが発行される可能性があります。

コード

説明

- 1 ストレージの取得に失敗しました。
- 2 データ・セットを割り振るために待機しています。データ・セットが既に割り振られているか、または別のジョブがそのデータ・セットを使用していないか。
- 3 データ・セットの割り振りができるようになったことを検出するためのタイマーのセットアップに失敗しました。
- 4 データ・セットのオープンに失敗しました。
- 5 データ・セットの割り振りに失敗しました。サブコード *sc* については、「z/OS MVS Programming Authorized Assembler Services Guide」または「MVS/ESA プログラミング: 許可アセンブラー・サービスの手引き」の動的割り振りエラー・コードの項に説明があります。
- 6 データ・セットのエンキューに失敗しました。
- 7 データ・セットをクローズしている最中に、エラーが発生しました。
- 8 データ・セットのデキュー中にエラーが発生しました。
- 9 データ・セットの割り振り解除中にエラーが発生しました。

システムの処置: 理由コード 2 の場合、IMS オンライン・システムは最大 150 秒待機し、バッチ・ジョブはデータ・セットの割り振りができるようになるまで無制限に待機します。それ以外の理由コードの場合、IMS オンライン・システムは異常終了 U071 で終了し、バッチ・ジョブは異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題の原因がデータ・セットの競合にある場合は、問題を訂正し、IMS を再始

動するかバッチ・ジョブを再実行します。

モジュール: DFSDSSM0

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC 戻りコードの解釈

DFS4333E ERROR ALLOCATING THE IMS DIRECTORY STAGING DATA SET FOR REASON *rc*

説明: IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットには、そのディレクトリーにインポートされる IMS アプリケーション制御ブロックが含まれています。DDL 要求または IMPORT コマンドの処理中に、IMS がステージング・データ・セットを読み取ろうとしてエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc エラーの理由コード。

DFS4333E では以下の理由コードが発行される可能性があります。

コード

説明


- 1 ストレージの取得に失敗しました。
- 3 IMS オンライン・システムで 150 秒の待機時間が満了しました。DDL プロセスは終了します。
- 4 データ・セットのオープンに失敗しました。
- 5 データ・セットの割り振りができるようになったことを検出するためのタイマーのセットアップに失敗しました。
- 6 データ・セットのエンキューに失敗しました。

システムの処置: DDL 要求または IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドが失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 割り振りについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Guide」の MVS 動的割り振り理由コードの説明を調べてください。

モジュール: DFSDSSM0

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

**DFS4334W WAITING TO READ THE IMS
DIRECTORY BOOTSTRAP DATA
SET. IT IS EITHER IN USE OR
ALREADY ALLOCATED.**

説明: オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中に、IMS またはバッチ・ジョブが IMS ディレクトリーのブートストラップ・データ・セットを読み取ることができませんでした。そのデータ・セットが別のジョブによって使用されていたためです。

システムの処置: IMS またはバッチ・アプリケーション・プログラムはデータ・セットが使用可能になるまで待つてから、始動処理を再開します。

オンライン IMS システムでは、150 秒を超えても競合が続くと、IMS システムは異常終了 U0071 で終了します。

バッチ・アプリケーション・プログラムの場合、IMS ではアプリケーション・プログラムが待機できる時間の制限はありません。データ・セットが使用可能にならない場合、アプリケーション・プログラムは、独自のタイマーを実装しているか、誰かが手動で終了しない限り、無制限に待機することになります。

システム・プログラマーの応答: 許容時間内にデータ・セットが使用可能になり、始動処理が再開されれば、処置は不要です。

バッチ・ジョブでは、許容時間内にデータ・セットが使用可能にならず、バッチ・アプリケーション・プログラムが独自でタイムアウトにならない場合は、データ・セットの競合を解決し、必要であればバッチ・ジョブを再始動します。

オンライン IMS システムでは、データ・セットが 150 秒以内に使用可能にならない場合、IMS システムは DFS4331E を発行し、異常終了 U0071 で終了します。

モジュール: DFSDSSM0

**DFS4335E ACBMGMT=CATALOG IS
SPECIFIED, BUT THE IMS
DIRECTORY DOES NOT EXIST.**

説明: オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中、ACBMGMT=CATALOG の指定があることで IMS ディレクトリーが使用可能になっていましたが、IMS ディレクトリーがまだ作成されていないか、(まれなケースですが) IMS ディレクトリーのブートストラップ・データ・セットが見つかりません。

システムの処置: IMS の始動が異常終了 U0071 で終了するか、バッチ・ジョブが異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS ディレクトリー

を使用せずに ACB ライブラリーから IMS を再始動するには、DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションにある ACBMGMT の指定を変更して ACBMGMT=ACBLIB に戻し、IMS を再始動します。


初めて ACB の IMS 管理を使用可能にしようとしているときにエラーが発生した場合は、ACB の IMS 管理の使用可能化 (システム定義) を参照してください。

既存の IMS ディレクトリーを使用して実行しているときにエラーが発生した場合、そのエラーの原因として可能性が高いのは、ブートストラップ・データ・セットの欠落または破損です。ブートストラップ・データ・セットが欠落しているか破損している場合は、IMS ディレクトリーの再作成が必要です。


IMS Catalog Database Library ユーティリティ (DFS3LU00) を使用して IMS カタログから IMS ディレクトリーを再作成するか、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を使用して ACB ライブラリー・データ・セットから IMS ディレクトリーを再作成できます。


モジュール: DFSDSSM0


関連タスク:

 ACB の IMS 管理の使用可能化 (システム定義)

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

 IMS Catalog Library Builder ユーティリティ (DFS3LU00) (システム・ユーティリティ)

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4336W WAITING TO READ THE IMS
DIRECTORY DATA SET. IT IS
EITHER IN USE OR ALREADY
ALLOCATED.**

説明: オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中に、IMS またはバッチ・ジョブが IMS ディレクトリー・データ・セットを読み取ることができませんでした。そのデータ・セットが別のジョブによって使用されていたためです。

システムの処置: IMS またはバッチ・ジョブはデータ・セットが使用可能になるまで待つてから、始動処理を再開します。

オンライン IMS システムでは、150 秒を超えても競合が続くと、IMS システムは異常終了 U0071 で終了します。

バッチ・アプリケーション・プログラムの場合、IMS ではアプリケーション・プログラムが待機できる時間の制限はありません。データ・セットが使用可能にならない場合、アプリケーション・プログラムは、独自のタイマーを実装しているか、誰かが手動で終了しない限り、無制限に待機することになります。

システム・プログラマーの応答: 許容時間内にデータ・セットが使用可能になり、始動処理が再開されれば、処置は不要です。

バッチ・ジョブでは、許容時間内にデータ・セットが使用可能にならない場合は、データ・セットの競合を解決し、必要であればバッチ・ジョブを再始動します。

オンライン IMS システムでは、データ・セットが 150 秒以内に使用可能にならない場合、IMS システムは DFS4332E を発行し、異常終了 U0071 で終了します。

モジュール: DFSDSSM0

DFS4337E THE IMS DIRECTORY DATA SET CANNOT BE FOUND.

説明: オンライン IMS システムまたはバッチ・ジョブの始動中に、IMS またはバッチ・ジョブが IMS カタログのディレクトリー・データ・セットを検出できませんでした。そのディレクトリー・データ・セットがまだ作成されていないか、他の何らかの理由でそのデータ・セットが見つかりません。

システムの処置: IMS の始動は異常終了 U0071 で終了します。バッチ・ジョブは異常終了 U0821 で終了します。

システム・プログラマーの応答: ディレクトリー・データ・セットが見つからなかった理由を判別してください。

ディレクトリー・データ・セットがまだ作成されていない場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行して作成します。

モジュール: DFSDSSM0

DFS4338W WAITING TO READ THE IMS DIRECTORY STAGING DATA SET. IT IS EITHER IN USE OR ALREADY ALLOCATED.

説明: DDL 要求または IMPORT コマンドの処理中に、IMS が IMS ディレクトリーのステー징・データ・セットを読み取ることができませんでした。そのデータ・セットが既に割り振られていたか、別のジョブによって使用されていたためです。

システムの処置: IMS は DDL 要求または IMPORT コマンドの処理を待機させ、データ・セットが使用可能

になると、その処理を再開します。

競合が 150 秒続くと、IMS はメッセージ DFS4333E を発行し、DDL 要求または IMPORT コマンドの処理を終了します。DDL 要求の処理中に行われた IMS カタログに対する更新はバックアウトされます。

システム・プログラマーの応答: 競合が解決されたら、処理を再試行してください。

モジュール: DFSDSSM0

DFS4339E THE IMS DIRECTORY STAGING DATA SET CANNOT BE FOUND.

説明: データベースまたはプログラム・ビューの定義を更新する DDL 要求または IMPORT コマンドの処理中に、IMS は IMS ディレクトリーのステー징・データ・セットを読み取ろうとしましたが、そのデータ・セットが見つかりませんでした。そのデータ・セットがまだ作成されていないか、それ以外の理由でそのデータ・セットが見つかりません。

システムの処置: DDL 要求または IMPORT コマンドは失敗します。

システム・プログラマーの応答: ステーjing・データ・セットが見つからなかった理由を判別してください。

ステーjing・データ・セットがまだ作成されていない場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行して作成します。

モジュール: DFSDSSM0

DFS4340E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED FOR DBD *dbd_name*. REASON=*reason_text* PST *pst_name*.

説明: メッセージの DBD 名に示されているデータベースに対する更新を、メッセージ・テキスト内の理由コードによって示されている理由が原因で自動的に活動化できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

活動化できなかったデータベース (DBD) の名前。

pst_name

IMS ディレクトリー・データ・セットを更新していたプロセスの PST 名。

reason_text

DDL 要求を活動化できなかった理由を説明するテキスト。

DFS4341E • DFS4342E

システムの処置: DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

管理者の応答: 理由コードを確認し、問題を訂正し、DDL ステートメントを IMS に再サブミットします。

モジュール: DFSOLC70

DFS4341E **AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED FOR PSB**
psb_name. **REASON=reason_text** **PST**
pst_name.

説明: メッセージの *psb_name* フィールドに示されているプログラム・ビュー (PSB) の定義に対する更新を、メッセージの *reason_text* フィールドに記述されている理由が原因で自動的に活動化できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

活動化できなかったプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name

IMS ディレクトリー・データ・セットを更新していたプロセスの PST 名。

reason_text

DDL 要求を活動化できなかった理由を説明するテキスト。

システムの処置: DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

システム・プログラマーの応答: 理由コードを確認し、問題を訂正し、DDL ステートメントを IMS に再サブミットします。

モジュール: DFSOLC70

DFS4342E **IMODULE INIT FAILED; RC=xx**
RSN=yyyyyyyy

説明: IMS IMODULE サービスの初期設定中にエラーが発生しました。IMS 初期設定は続行できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx 失敗した特定の初期設定の機能を示す戻りコード。指定できる値は、次のとおりです。

04 IMS ストレージ管理モジュール DFSMODU0 をロードできません。理由コードは、z/OS LOAD マクロから戻された 2 つの値の組み合わせです。理由コードの前半部分は、z/OS LOAD サービスが無条件に呼び出さ

れたとしたら発行したであろう異常終了コードです。理由コードの後半部分は、異常終了コードに関連した理由コードです。例えば、08060004 は、システムの異常終了 0806、理由コード 04 という意味です。

08 IMODSTAT ブロック (内部 IMS ストレージ・マネージャーのメイン制御ブロック) 用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

0C 内部 IMODULE トレース・テーブル用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

10 IMODULE サービス初期設定モジュール DFSMODX0 の動的ストレージ用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

14 専用ストレージのための 64 ビット・ストレージ・トラッキング・オブジェクトにストレージを取得できません。理由コードは、z/OS IARV64 マクロからの戻りコードです。

18 共通ストレージのための 64 ビット・トラッキング・オブジェクトにストレージを取得できません。理由コードは、z/OS IARV64 マクロからの戻りコードです。

1C IMS ストレージ・クリーンアップ・モジュール DFSMODU2 をロードできません。理由コードは、z/OS LOAD マクロから戻された 2 つの値の組み合わせです。理由コードの前半部分は、z/OS LOAD サービスが無条件に呼び出されたとしたら発行したであろう異常終了コードです。理由コードの後半部分は、異常終了コードに関連した戻りコードです。例えば、08060004 は、システムの異常終了 0806、理由コード 04 という意味です。

20 IMS ストレージ・クリーンアップ・ルーチン DFSMODU2 の作業域用のストレージを取得できません。理由コードは、z/OS STORAGE マクロからの戻りコードです。

24 DL/I 分離アドレス・スペース (DLISAS) 領域が IMS IMODULE サービスを初期設定しようとした

が、関連する IMS 制御領域が DLISAS を使用して稼働しておらず、DL/I 用の IMODULE IMODASCT ブロックを割り振りませんでした。このエラーの原因は、関連する制御領域が DCCTL IMS であるか、LSO=Y (DL/I なし) で稼働しているときに、IMS システムの制御が及ばないところで、誤って DL/I アドレス・スペースを直接開始したことである可能性があります。

- 28 DLISAS 領域が IMS IMODULE サービスを初期設定しようとした。しかし、別の DL/I 領域が、同じ制御領域用に IMODULE サービスをすでに初期設定していました。このエラーの原因は、同じ IMS 制御領域用に開始した DL/I アドレス・スペースがすでにあるときに、IMS システムの制御が及ばないところで、誤って 2 番目の DL/I アドレス・スペースを直接開始したことである可能性があります。

yyyyyyyy

失敗したサービスからの戻りコードである理由コード。IARV64 戻りコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 2」(SA22-7610) を参照してください。STORAGE からのコードについては、「z/OS MVS Programming: Authorized Assembler Services Reference Vol 4」(SA22-7612) を参照してください。LOAD から出される異常終了コードおよび理由コードについては、「z/OS MVS システム・コード」(SA88-8592) を参照してください。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード 0684 が示されます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージに記述されたエラーの原因が、ストレージ不足や IMS.SDFSRESL からのモジュール欠落などの環境条件である場合は、問題を訂正してください。その後、アドレス・スペースを再始動します。それ以外の場合は、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSMODX0

関連資料:

➡ z/OS: IARV64 マクロの戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: STORAGE OBTAIN の戻りコードおよび理由コード

➡ z/OS: z/OS MVS システム・コード

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0684

DFS4343E IMS STORAGE CLEANUPABEND

abend_code PSW=*psw* RSN=*rsn*
modname=module_address

説明: IMS の終了時に、IMS のストレージ・クリーンアップ処理で異常終了が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

abend_code

受け取った異常終了コード。Sxxx はシステムの異常終了、Uxxxx はユーザーの異常終了です。

psw

終了時の PSW (プログラム状況ワード) の内容。

rsn

ある場合は、異常終了の理由コード。ない場合は N/A。

modname

終了を検出した IMS クリーンアップ・モジュールの名前。このモジュールは、終了が発生したモジュールでない場合があります。

module_address

modname で識別されたモジュールのアドレス。

システムの処置: IMS のストレージ・クリーンアップ時に異常終了が発生すると、ストレージ・クリーンアップのリカバリー・ルーチンが z/OS から制御を受け取ります。リカバリー・ルーチンは、異常終了を分析し、適切な処置を実施し、診断データを収集します。リカバリー・ルーチンは、処理中に発生する最初の異常終了の SDUMP を取ります。可能な場合、リカバリー・ルーチンは終了からリカバリーし、ストレージの解放を続行するためにストレージ・クリーンアップ・ルーチンに制御を返します。

2 回目以降の異常終了では、リカバリー・ルーチンはこのメッセージを発行して LOGREC にエラー項目を作成しますが、これ以上は SDUMP を取りません。

システム・プログラマーの応答: メモリー・ダンプのコピーおよびこの終了に関連する LOGREC レコードを保管します。その上で、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSMODX0

DFS4344E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED.
REASON=reason_text PST pst_name.

説明: DDL ステートメントによって IMS にサブミットされたデータベースまたはプログラム・ビューに対する更新を、メッセージ・テキスト内の理由コードによって示された理由が原因で自動的に活動化できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pst_name

IMS ディレクトリー・データ・セットを更新していたプロセスの PST 名。

reason_text

DDL 要求を活動化できなかった理由を示すコード。

システムの処置: DDL 定義の自動アクティブ化が失敗しました。コミットされていない作業はすべてバックアウトされます。

管理者の応答: 理由コードを確認し、問題を訂正し、DDL ステートメントを IMS に再サブミットします。

モジュール: DFS3DL40、DFS3DL50、DFSOLC70

DFS4349E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL DEFINITIONS FAILED. PSB psb_name NOT REBUILT FOR DBD dbd_name. REGION pst_name

説明: DDL 定義を活動化できません。 *psb_name* フィールドに示されているプログラム・ビュー (PSB) はデータベース *dbd_name* を参照していますが、DBD 変更に対する PSB が再作成されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

変更されたデータベースの名前。

psb_name

再作成されなかったプログラム・ビュー (PSB)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: DDL 定義の自動アクティブ化が失敗します。

管理者の応答: この PSB の DDL 定義の変更を、この変更された DBD の DDL とともに追加し、DDL を再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

DFS4350E ddname function ERROR, RC=rc

説明: *ddname* データ・セットに対して、識別された機能が失敗しました。OPEN 機能および CLOSE 機能の戻りコードは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」に記載されています。RDJFCB 戻りコードは、「z/OS DFSMSdfp Advanced Services」に記載されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname データ・セット名。

function

以下の機能はいずれも、このメッセージが出される結果となる可能性があります。

- OPEN
- CLOSE
- RDJFCB

rc 機能からの戻りコード。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。

モジュール: DFS3UCD0

関連資料:

➡ z/OS: OPEN -- プログラムとデータの接続 (BDAM、VSAM への BISAM インターフェース、BPAM、BSAM、VSAM への QISAM インターフェース、および QSAM)

➡ z/OS: CLOSE - プログラムとデータの切断 (BDAM、BISAM、BPAM、BSAM、QISAM、および QSAM)

➡ z/OS: RDJFCB マクロの仕様

第 90 章 DFS メッセージ DFS4351E - DFS4400E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4351E *pgmname* ENCOUNTERED AN ERROR TRYING TO READ THE *ddname* DATA SET RC=*rc*

説明: *pgmname* で示されたユーティリティが、*ddname* で示されたデータ・セットを読み取ろうとしましたが、データ・セットを開いて読み取る BPERDPDS マクロでエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname

モジュール ID。

ddname 読み取りエラーを検出したデータ・セット。

rc BPERDPDS からの戻りコード。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答: データ・セット名が正しいことを確認してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4352E *pgmname* ENCOUNTERED AN ERROR TRYING TO READ THE *ddname* DATA SET RC=*rc*

説明: *pgmname* で識別されたユーティリティが、*ddname* で識別されたデータ・セット内の情報を構文解析しようとしてエラーを検出しました。BPEPARSE サービスを使用してデータ・セットが解析されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname

モジュール ID。

ddname 構文解析エラーが検出されたデータ・セット。

rc BPEPARSE からの戻りコード。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

システム・プログラマーの応答: 追加の BPE メッセージがこのメッセージと同時に生成されます。構文解析エラーの詳細については、これらのメッセージを参照してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4353I *pgmname* PROCESSING COMPLETED, RC=*rc* RSN=*rsn*

説明: *pgmname* ユーティリティは正常に処理を完了しました。通常、このメッセージには、追加のユーティリティまたはマクロのメッセージが続きます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname

モジュール ID。

rc ユーティリティからの戻りコード。


rsn ユーティリティからの理由コード。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: 戻りコードがゼロでない場合は、処理中にエラーが発生している可能性があります。このユーティリティで生成された他のメッセージを調べて、トラブルシューティングの必要があるかどうかを判断してください。

モジュール: DFS3UCD0

関連資料:

 IMS カタログ区画定義データ・セット・ユーティリティ (DFS3UCD0)

DFS4354E FAILURE OBTAINING STORAGE, RC=*rc* RSN= *rsn*

説明: *pgmname* で識別されたユーティリティがストレージの取得中にエラーを検出しました。通常、このエラーは、領域サイズが十分に大きくない場合に発生します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgmname

モジュール ID。

rc STORAGE OBTAIN マクロからの理由コード。

rsn ストレージ・ブロックのタイプを識別します。

1 Grammar

2 構文解析された出力

3 定義制御ブロック

システムの処置: ユーティリティは終了します。

DFS4355E • DFS4360E

プログラマーの応答: ユーティリティが実行している領域のサイズを増やして、ジョブを再実行します。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4355E HIKEY=YES CANNOT BE SPECIFIED WITH PARTSEL, HALDB=*dbname*

説明: HALDB は区画選択出口値またはハイ・キー値のいずれかを使用できますが両方を同時に使用することはできません。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DFS3UCD0 ユーティリティの HALDB SYSIN ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4356I HALDB *dbname* SUCCESSFULLY DEFINED

説明: DFS3UCD0 ユーティリティは、*dbname* データベースの区画定義データ・セットを正常に作成しました。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4357E NO PART STATEMENT SPECIFIED IN SYSIN FOR HALDB=*dbname*

説明: DFS3UCD0 ユーティリティの SYSIN ステートメントには、*dbname* で識別された HALDB の PART ステートメントが入っていません。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: データベースに PART ステートメントを追加するか、データベースの HALDB ステートメントを削除して、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4358E PART STATEMENT HAS NO CORRESPONDING HALDB STATEMENT, HALDB=*dbname* PART=*partname*

説明: 識別された区画に HALDB ステートメントが指定されていません。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DFS3UCD0 ユーティリティの SYSIN ステートメントを訂正します。適切な HALDB

ステートメントを追加するか、識別された PART ステートメントを削除するかのいずれかを実行し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4359E KEYWORDS KEYSTCHAR AND KEYSTHEX CANNOT BE SPECIFIED TOGETHER, HALDB=*dbname* PART=*partname*

説明: DFS3UCD0 ユーティリティの HALDB PART ステートメントのパラメーター、KEYSTCHAR と KEYSTHEX が相互に排他的です。区画にハイ・キー値または選択ストリングのいずれか一方を、文字形式 (KEYSTCHAR) または 16 進形式 (KEYSTHEX) のいずれかで指定します。

システムの処置: ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DFS3UCD0 ユーティリティの HALDB PART ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4360E *statement* STATEMENT CONTAINS AN INVALID VALUE IN KEYWORD *keyword*, HALDB=*dbname* PART=*partname*

説明: 示されたキーワード値は無効です。これは通常、値が長すぎるか短すぎる、あるいは、数値が有効な範囲外であることが原因の、正しくない文字が使用された場合に発生します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

statement

無効なパラメーター値が含まれているステートメント。

keyword

無効なパラメーター値が指定されたキーワード。

dbname ユーティリティに指定された HALDB データベース名。

partname

ユーティリティに指定された HALDB 区画名。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: キーワード値を訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4361E MORE BLOCKSIZE VALUES ARE SPECIFIED THAN THE NUMBER OF DATA SET GROUPS (*nn*), HALDB=*dbname* PART=*partname*

説明: *dbname* という名前の HALDB が *nn* 個のデータ・セット・グループを使用しています。DFS3UCD0 ユーティリティ・ジョブの PART ステートメントが、*nn* より多いブロック・サイズ値を BLOCKSIZE パラメーターに指定しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn *dbname* HALDB が使用するデータ・セット・グループの数。

dbname データベース名。

partname
HALDB 区画名。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: BLOCKSIZE パラメーターを訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4362E A HIGH KEY IS REQUIRED FOR THIS PARTITION, HALDB=*dbname* PART=*partname*

説明: 識別された HALDB 区画 (*partname*) の PART ステートメントが、ハイ・キー値を指定しませんでした。*dbname* で識別された HALDB は、区画選択出口ルーチンを使用していないため、ハイ・キー値は必須です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname データベース名。

partname
HALDB 区画名。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: KEYSTCHAR パラメーターまたは KEYSTHEX パラメーターのいずれかでハイ・キー値を指定し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4363E A PARTITION SELECTION EXIT IS REQUIRED WHEN HIKEY=NO IS SPECIFIED, HALDB=*dbname*

説明: DFS3UCD0 ユーティリティで HIKEY=NO キーワードを使用する HALDB ステートメントは、区画選択出口ルーチンを使用しなければなりません。PARTSEL キーワードが含まれているか、名前が無効です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname データベース名。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: PARTSEL キーワードを使用する区画選択出口ルーチンを指定し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。出口ルーチンの名前は、ユーティリティの SYSIN ステートメントとデータベースの DBDLIB メンバーのいずれかで指定できます。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4364E *statement* STATEMENT SPECIFIES A DUPLICATE *nametype* NAME, HALDB|PART=*name*

説明: HALDB 名および HALDB 区画名は全体を通じて固有でなければなりません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

statement
重複名のある SYSIN ステートメント。

nametype
重複名を使用しているリソースのタイプ。

名前 データベースまたはデータベース区画の名前。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: 重複名を訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4365E INVALID KEY OR STRING VALUE SPECIFIED IN PART STATEMENT, HALDB=*dbname* PART=*partname* RSN=*reason*

説明: DFS3UCD0 ユーティリティの PART ステートメントの *partname* に、KEYSTCHAR または

DFS4366E • DFS4368E

KEYSTHEX のいずれかのキーワードによる無効なハイ・キー値が指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname HALDB 名。

partname

HALDB 区画名。

reason 指定したキー値が無効である理由。

KEY TOO LONG

指定されたハイ・キー値は、HALDB のルート・キーの長さを超えています。

ODD NUMBER HEX

奇数個の文字が KEYSTHEX パラメーターに対して指定されました。16 進値には偶数個の文字が入っていなければなりません。

INVALID HEX

無効な文字が KEYSTHEX パラメーターに対して指定されました。16 進値には、1 から 9 の数字および A から F の文字を含めることができます。

DUPLICATE KEY

HALDB の各区画のハイ・キー値は、その HALDB 内部で固有でなければなりません。指定されたキー値は、直前の PART ステートメントで使用されました。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: KEYSTCHAR または KEYSTHEX のパラメーター値を訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4366E TOO MANY PARTITIONS SPECIFIED FOR HALDB=*dbname*

説明: HALDB には、1,001 個より多くの区画を指定することはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbname HALDB 名。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: この HALDB に定義された

HALDB 区画の数を減らしてから、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4367E *ddname* CANNOT CONTAIN CONCATENATED DATA SETS

説明: DFS3UCD0 ユーティリティで実行依頼された DD ステートメントに複数のデータ・セットが含まれています。このユーティリティでは複数のデータ・セットはサポートされていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname DD ステートメントの名前

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントを訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

DFS4368E DBDLIB PROCESSING ERROR, RSN=*rsncode* DB=*dbname*

説明: IMS カタログ区画定義データ・セット・ユーティリティが、IMS DBDLIB の処理中にエラーを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsncode 次のいずれかの理由コード。

- 1 IMS DD ステートメントがない
- 2 IMS DD オープン・エラー
- 3 データベースが DBDLIB に見つからない
- 4 指定された DB が HALDB ではない

dbname 理由コード 3 および 4 の場合、このフィールドは、見つからなかったデータベースか、HALDB ではないデータベースの名前を示します。理由コード 1 および 2 の場合、このフィールドはブランクです。

システムの処置: DFS3UCD0 ユーティリティは終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントを訂正し、DFS3UCD0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3UCD0

**DFS4369I THE DDL-DEFINED DBD *dbd_name*
REPLACED A PRIOR INSTANCE OF
THE DBD IN THE IMS DIRECTORY
DATA SET. PST *pst_name***

説明: メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに指定されているデータベース (DBD) の既存のインスタンスを、その DBD の更新された DDL 定義のインスタンスに置き換えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name

IMS ディレクトリー・データ・セット内で置き換えられているデータベース (DBD)。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。


システムの処置: PST タスクは、IMS ディレクトリー・データ・セット内の DBD を更新された DBD に置き換え、DDL ストリームからの命令の処理を続行します。

データベースは停止状態のままです。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC70

関連資料:

 QUERY PGM コマンド (コマンド)

 /DISPLAY PGM コマンド (コマンド)

**DFS4370I SHUTDOWN IS CHECKING
RESOURCES FOR AUTOEXPORT TO
REPOSITORY TYPE=*reptype*.
NAME=*reponame*.**

説明: IMS シャットダウン・コマンドが、IMSRSC リポジトリーへの自動エクスポート (autoexport) が使用可能に設定された IMS システムに発行されると、IMS シャットダウンでは最初にリポジトリーへの自動エクスポートが処理されてから、IMS シャットダウン処理が開始されます。DFS4370I メッセージは、IMSによってIMSRSC リポジトリーへの自動エクスポートが開始される前に発行されます。

DFS4370I メッセージは、前回の EXPORT または自動エクスポート以降に作成または更新され、リポジトリーに書き込む必要があるリソース定義および記述子定義があるかどうかの確認が、IMS シャットダウンによって開始されていることを示します。IMS シャットダウンのメインプロセスは、リソース・チェックが行われ、自動

エクスポート (必要な場合) が正常に完了するまで開始されません。

シャットダウン・コマンドが OM API から発行された場合でも、DFS4370I メッセージがシステム・コンソールと MTO に発行されます。このメッセージは IMS システム処置を示すもので、コマンド応答ではありません。

DFS4370I メッセージが発行されると、IMS システムが autoexport 処理を開始し、それによって以下のいずれかの結果が生じます。

- 別の自動エクスポート、EXPORT コマンド、IMPORT コマンド、あるいは CREATE、UPDATE、または DELETE のいずれかの IMS コマンドが進行中の場合、IMS シャットダウン時の autoexport 処理は待機します。
- IMS シャットダウン時の autoexport で、エクスポートするリソース定義が見つかり、autoexport が開始されます。この場合、DFS4390I INITIATED メッセージが発行され、その後に DFS4390I COMPLETED | FAILED メッセージが発行されます。IMS シャットダウン時の autoexport が失敗すると、IMS シャットダウン処理が強制終了されたことを示す DFS4391I メッセージが発行されます。実行できる処置については、メッセージ DFS4391I のユーザー処置を参照してください。
- IMS シャットダウン時の autoexport で、エクスポートするリソース定義が見つかりません。この場合、他の autoexport メッセージは発行されず、IMS シャットダウンが開始されます。

別の autoexport または他の IMS コマンド EXPORT、IMPORT、CREATE、UPDATE、または DELETE が進行中の場合、DFS4370I メッセージが発行されてから、IMS シャットダウンが開始されるか DFS4390I メッセージが発行されるまでの間に遅延が生じる可能性があります。リポジトリーに書き込まれるリソース定義の数が多いために autoexport または EXPORT コマンドに長時間かかる場合、この遅延が大幅に拡大する可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリー・タイプ。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリー名。

システムの処置: DFS4370I が発行された後の IMS の処置については、このトピック内の前出の説明を参照してください。リポジトリーへの自動エクスポートが正常

に完了した後、または autoexport を行うリソース定義がない場合、IMS シャットダウン処理が開始されます。autoexport 中にエラーが発生すると、IMS シャットダウンは失敗します。

ユーザーの処置: IMS によって DFS4370I メッセージが発行されたときに、IMS が IMS シャットダウン処理の開始も、DFS4390I AUTOEXPORT メッセージの発行も行わない場合、IMS はシャットダウン処理の自動エクスポートが開始されるのを待機しています。それ以前の自動エクスポートが進行中でないか、他の IMPORT、EXPORT、CREATE、UPDATE、または DELETE コマンドが進行中でないかどうかを確認してください。CREATE, UPDATE, or DELETE commands are in progress.

また、RM 内で強調表示されたメッセージを探して、IMS からの autoexport がロックを待機していないかどうかを確認してください。

IMS は、autoexport が完了するまでシャットダウン処理を開始できません。

モジュール: DFSICM30

DFS4371W IMS STOPPED TRANSACTION OR PROGRAM TO ACTIVATE DDL DEFINITIONS FOR PSB *psb_name*.

説明: メッセージ・テキストに示されているプログラム・ビュー (PSB) の定義を変更する DDL ステートメントが IMS にサブミットされました。これらの変更を活動化するために、IMS はトランザクションまたはプログラムを停止しました。

システムの処置: メッセージ・テキストに示されている PSB に関連付けられたトランザクションまたはプログラムが停止されています。PSB の定義変更は活動化されます。そのトランザクションまたはプログラムは停止したままです。

オペレーターの応答: IMS が PSB の変更の活動化を完了したら、トランザクションまたはプログラムを再始動してください。トランザクションの場合は、タイプ 2 コマンド UPDATE TRAN START(SCHD) またはタイプ 1 /START TRAN コマンドを使用します。プログラムの場合は、タイプ 2 コマンド UPDATE PGM START(SCHD) またはタイプ 1 /START PGM コマンドを使用します。

モジュール:

DFS4372I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* REPLACED A PRIOR INSTANCE OF THE PSB IN THE IMS DIRECTORY DATA SET. PST *pst_name*

説明: メッセージ・テキストに示されている区画仕様テーブル (PST) タスクが、メッセージ・テキストに示されているプログラム・ビュー (PSB) の既存のインスタンスを、その PSB の更新された DDL 定義のインスタンスに置き換えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

IMS ディレクトリー・データ・セットで置き換えられているプログラム・ビュー (PSB)。

pst_name


DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: PST タスクは、IMS ディレクトリー・データ・セット内の PSB を更新された PSB に置き換え、DDL ストリームからの命令の処理を続行します。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC70

関連資料:

 QUERY PGM コマンド (コマンド)

 /DISPLAY PGM コマンド (コマンド)

DFS4373I IMS INITIALIZATION IS WAITING FOR IMS *ims_id* TO COMPLETE AN IMPORT FROM THE SHARED IMS CATALOG

説明: この IMS システムは、IMS *ims_id* が IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理を完了するのを待機しています。

システムの処置: IMS システムは待機しています。

プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、インポート処理の現在の状況を判別してください。

モジュール: DFSRDB30

関連資料:

 IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド (コマンド)

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

**DFS4374W I/O ERROR READING MEMBER
DFSIMSL.**

説明: IMS システムは、共用 IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットの DFSIMSL メンバーを読み取ることができませんでした。 DFSIMSL メンバーは、IMS カタログを共用する IMS システムの自動生成リストです。

システムの処置: IMS システムはメンバー DFSIMSL の再作成を試みます。

プログラマーの応答: この同じ IMS カタログを共用する他の IMS システムのウォーム・スタートを実行して、DFSIMSL メンバー内のリストの IMS ID が最新であることを確認してから、IMPORT コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSRDB30

**DFS4375I UOW ABORTED FOR ONLINE
ACTIVATION OF ACB RESOURCE:
FOUND LOG RECORD 70nn.
TOKEN=cccccccccccccccc.**

説明: IMS の再始動または FDBR のテークオーバー時に、IMS カタログ・データベース内にコミットされていない更新が見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

nn 4 桁のログ・レコード番号の最後の 2 桁。例えば、以下のようなログ・レコードが表示される可能性があります。

- 7005
- 7007
- 7008
- 7014
- 7015

システムの処置: IMS は、IMS カタログ内のコミットされていない更新に対応する UOW での、IMS ディレクトリー・データ・セットに対するすべての更新をバックアウトします。

システム・プログラマーの応答: IMPORT コマンドを再発行するか、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSMOL20

**DFS4376I UOW COMMITTED FOR ONLINE
ACTIVATION OF ACB RESOURCE:
FOUND LOG RECORD 70nn.
TOKEN=cccccccccccccccc.**

説明: カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方に対する更新がコミットされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

nn 4 桁のログ・レコード番号の最後の 2 桁。例えば、以下のようなログ・レコードが表示される可能性があります。

- 7005
- 7007
- 7008
- 7014
- 7015

システムの処置: IMS の再始動時または FDBR のテークオーバー時に、カタログ・データベースに対する更新がコミットされたため、IMS は、この UOW での IMS ディレクトリー・データ・セットに対するすべての変更もコミットしました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSMOL20

**DFS4377I AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
SUBMISSION COMPLETE. RC=00.
PST pst_name**

説明: DDL ストリーム内のすべての命令が、IMS ディレクトリー・データ・セットに正常に適用されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

rc PST タスクが発行した戻りコード。





システムの処置: リソース更新のタイプおよび指定された活動化オプションに応じて、リソースの変更が直ちに活動化される場合も、それらの変更が IMS システムでアクティブになる前にリソースで追加のステップ (例えば、IMS タイプ 2 CREATE コマンドの発行) を行わなければならない場合もあります。

管理者の応答: IMS タイプ 2 QUERY コマンドを使用してリソースがアクティブであることを確認し、アクテ

イブでない場合は、必要な追加ステップを実行してリソースを活動化してください。

モジュール: DFS3DL50

関連資料:

-  QUERY DB コマンド (コマンド)
-  QUERY PGM コマンド (コマンド)
-  CREATE DB コマンド (コマンド)
-  CREATE PGM コマンド (コマンド)

DFS4379W IMS STOPPED DATABASE *dbd_name* TO ACTIVATE DDL DEFINITION CHANGES.

説明: メッセージ・テキストに示されているデータベースの定義を変更する DDL ステートメントが IMS にサブミットされました。これらの変更を活動化するために、IMS はデータベースを停止しました。

システムの処置: メッセージ・テキストに示されているデータベースが停止されています。データベースの定義変更は活動化されます。データベースは停止したままです。

オペレーターの応答: IMS がデータベース変更の活動を完了したら、タイプ 2 コマンド UPDATE DB START(ACCESS) またはタイプ 1 /START DB コマンドを発行してデータベースを再始動してください。

モジュール:

DFS4380W OTMA XCF MESSAGES FROM *member name* HAVE REACHED 80% OF THE MAXIMUM MESSAGE LIMIT *nmn*

説明: IMS システムが、RACF I/O、キュー・マネージャ I/O、またはその他の不明な内部コンポーネントの問題を検出したため、OTMA 処理がスローダウンする可能性があります。IMS Connect または IBM MQ などの OTMA クライアントからの XCF メッセージが IMS に停滞し、潜在的なあふれ状態が生じる可能性があります。OTMA は、この状態を検出するとこの警告メッセージを発行します。その後、OTMA クライアントが後続のトランザクションを他の IMS に転送できるように、プロトコル・メッセージを送出します。OTMA クライアントからの XCF メッセージは、後でスローダウン状態が軽減または解決したときに、この IMS によって処理されます。IMS システムで OTMA トランザクションの有効期限機能がアクティブ化されている場合は、これらの XCF メッセージは廃棄されることがあります。

1052 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

システムの処置: 処理を続行します。OTMA プロトコル・メッセージが警告状況とともに OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 潜在的な XCF メッセージあふれがこの IMS で発生しました。新規トランザクション要求を他の IMS に転送してください。

モジュール: DFSYSND0

DFS4381I OTMA XCF MESSAGE FLOOD CONDITION HAS BEEN RELIEVED FOR MEMBER *name*

説明: OTMA XCF メッセージ数が、最大限度の 50% に達しました。OTMA は、この状態を軽減状態とみなし、この通知メッセージを発行しました。

システムの処置: 処理を続行します。OTMA プロトコル・メッセージが OK 状況とともに OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答: XCF メッセージあふれは解決しました。この IMS は OTMA クライアントからの新規トランザクションを処理できます。

モジュール: DFSYSND0

DFS4382W THE TOTAL OTMA TPIPE COUNT *nnnnn* HAS REACHED 80% OF *mmmmmm* for MEMBER *name*

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の数が、記述子ファイルにユーザーが設定した最大数 *mmmmmm* の 80% に達したか超過したことを検出しました。OTMA は、各 OTMA メンバーにこの警告メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn 現在の T パイプの数

mmmmmm

ユーザーがこのメンバーに設定している T パイプの制限数

名前 メンバーの名前

システムの処置: システムは T パイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答: メンバーごとに T パイプの数のモニターを開始します。活動停止中の T パイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。

モジュール: DFSYFD00

DFS4383E THE TOTAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS REACHED 100% OF
mmmmmm for MEMBER name

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の数が、ユーザーが記述子ファイルに設定した *mmmmmm* で示す最大制限数に到達したか超過したことを検出しました。OTMA は、OTMA メンバーごとにこのメッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn 現在の T パイプの数

mmmmmm

ユーザーがこのメンバーに設定している T パイプの制限数

名前 メンバーの名前

システムの処置: 処理は停止します。IMS は T パイプの作成を停止し、このメッセージを発行します。

システム・プログラマーの応答: OTMA T パイプのオーバーフローがこの IMS で発生しました。OTMA は新規 T パイプの作成を停止します。活動停止中の T パイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。これでシステムは新規 T パイプの作成を続行できます。

モジュール: DFSYFD00

DFS4384I THE TOTAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS DECREASED BELOW xx%
OF mmmmm for MEMBER name

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の数が、ユーザーが記述子ファイルに設定した、*mmmmmm* に示されている最大限度の *xx* パーセントを下回ったことを検出しました。OTMA は、OTMA クライアントごとにこの警告解除メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn 現在の T パイプの数

xx 最大限度の警告解除レベル。この警告解除レベルは、OTMA クライアント記述子で設定できます。デフォルトは 50 です。

mmmmmm

ユーザーがこのメンバーに設定している T パイプの制限数

名前 メンバーの名前

システムの処置: システムは T パイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSYFD00

DFS4385W THE GLOBAL OTMA TPIPE
COUNT *nnnnn* HAS REACHED
100% OF *kkkkk*

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の総数が、*kkkkk* で示されるモニタリング・ポイントに到達したか超過したことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn T パイプの現在の総数。

kkkkk グローバル・モニタリング・ポイント。これは、すべてのメンバーに設定した T パイプの最大数です。

システムの処置: システムは T パイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答: メンバーごとに T パイプの数のモニターを開始します。活動停止中の T パイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。

モジュール: DFSYFD00

DFS4386I THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT
nnnnn HAS DECREASE BELOW 80%
OF *kkkkk*

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の総数が *kkkkk* で示されたモニタリング・ポイントの 80 % 未満になったことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn T パイプの現在の総数。

kkkkk グローバル・モニタリング・ポイント。これは、すべてのメンバーに設定した T パイプの最大数です。

システムの処置: システムは T パイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSYFD00

DFS4387I MEMBER *rsc_name* HAS NO CHANGE

説明: IMPORT コマンドまたは DDL 活動化の処理中に、ステー징・データ・セット内でディレクトリー・データ・セット内のものと同じメンバーが見つかりました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsc_name

変更されていない DBD リソースまたは PSB リソースの名前。

システムの処置: **IMPORT** コマンドまたは **DDL** 活動化のプロセスは続行されます。データ・セットの入出力エラーまたはデータ・セット満杯状態が発生したために **IMPORT** コマンドまたは **DDL** 活動化を再実行すると、メンバーがそのディレクトリーに再度コピーされる場合があります。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC70

DFS4388W THE TOTAL OTMA INPUT MESSAGES(TIB) HAVE REACHED OR EXCEEDED THE GLOBAL LIMIT
nnn

説明: OTMA は、コミット・モード 1 (CM1) メッセージ・ブロック (YTIB) の総数が、メッセージ・テキスト内で *nnn* で示される警告限度に達したかまたは超えたことを検出しました。OTMA は、このメッセージあふれ状態をすべての OTMA クライアントに関する全体的な警告とみなします。

システムの処置: 処理を続行します。OTMA プロトコル・メッセージが警告状況とともにすべての OTMA クライアントに送信されます。

システム・プログラマーの応答: OTMA メッセージあふれがこの IMS で発生しました。新規トランザクション要求を他の IMS に転送してください。

モジュール: DFSYFD00

DFS4390I AUTOMATIC EXPORT *funcdtype* FOR REPOSITORY TYPE=*repotype*, NAME=*reponame*

説明: DFS4390I メッセージは、IMSRSC リポジトリーへの自動エクスポートの開始、完了、または失敗を示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

funcdtype

INITIATED、COMPLETED、または FAILED。

funcdtype=INITIATED が指定された DFS4390I メッセージは、リポジトリーへの自動エクスポート処理が開始されたときに発行されます。

funcdtype=COMPLETED が指定された DFS4390I メッセージは、リポジトリーへの自動エクスポート処理が正常に完了したときに発行されます。

funcdtype=FAILED の DFS4390I メッセージは、リポジトリーへの自動エクスポート処理がエラーのために失敗したときに発行されます。

type

リポジトリー・タイプ。

名前

リポジトリー名。

システムの処置: IMS は処理を続行します。


ユーザーの処置: *funcdtype* に INITIATED と COMPLETED の両方が指定された DFS4390I メッセージが発行された場合、IMS とリポジトリーのリソース定義が同期されています。処置は不要です。

funcdtype に INITIATED と FAILED の両方が指定された DFS4390I メッセージが発行された場合、リポジトリーへの自動エクスポート中にエラーが発生しました。このエラーについて詳しくは、DFS4401E メッセージを参照してください。エラーが解決されたら、EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY) コマンドを発行するか、次回の自動エクスポートを待ちます。

自動エクスポートが行われなかったときに IMS のコールド・スタートが必要になった場合は、Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCL0) を EXPORTNEEDED パラメーターと一緒に使用して IMS ログからエクスポートされるリソースを取得する手順を参照してください。

モジュール: DFSXP000

関連資料:

 Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCL0) (システム・ユーティリティ)

関連情報:

1057 ページの『DFS4401E』

DFS4391E IMS SHUTDOWN CANNOT COMPLETE DUE TO *reasontext*

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reasontext

エラーの理由について説明します。*reasontext* は、次のいずれかです。

AUTOEXPORT ERROR

IMSRSC リポジトリーへの自動エクスポート中に、エラーが原因で IMS シャットダウン・チェックポイントを開始できません。

システムの処置: シャットダウンが取り消されます。

ユーザーの処置: ユーザー応答は、以下のように *reasontext* 値によって異なります。

AUTOEXPORT ERROR


自動エクスポート中のエラーを示す DFS4401E メッセージを参照してください。エラーを修正し、IMS シャットダウンを再試行してください。

あるいは、UPDATE IMS SET(AUTOEXPORT (N)) コマンドを使用して AUTOEXPORT をオフにしてから、IMS シャットダウン・コマンドを再試行することもできます。

AUTOEXPORT が使用可能でない場合、IMS は前回の EXPORT コマンドまたは IMSRSC リポジトリへの自動エクスポート以降に作成または変更されたリソース定義を自動的にエクスポートしません。

モジュール: DFSICM30

関連資料:

 UPDATE IMS コマンド (コマンド)

関連情報:


1057 ページの『DFS4401E』

システム・プログラマーの応答: DFSDFxxx PROCLIB メンバーの動的リソース定義のセクションで、リポジトリからの自動インポートを無効にするように AUTOIMPORT オプションを変更するか、RM によるリポジトリの使用を有効にしてください。


ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連概念:

 IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 (システム管理)

関連情報:

 IMS 異常終了 0400

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4400E RM IS NOT ENABLED TO USE REPOSITORY FOR REPOTYPE=*repotype*

説明: IMS は、AUTOIMPORT=REPO または AUTOIMPORT=AUTO、および REPOSITORY セクションでの指定どおり、格納されているリソース定義を IMSRSC リポジトリから自動的にインポートするように定義されています。ただし、Resource Manager (RM) は定義されているタイプのリポジトリを使用するように有効化されていません。以下のいずれかのアクションを実行する必要があります。

- IMS の再始動前に、リポジトリを RM で使用可能にする
- リポジトリからの自動インポートを無効にするように IMS を変更する
- REPOSITORY セクションの定義を削除する

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプを示します。*repotype* の有効な値は IMSRSC です。

システムの処置: IMS は異常終了コード 0400、サブコード 01 で異常終了します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

第 91 章 DFS メッセージ DFS4401E - DFS4450I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4401E RM *requestname* ERROR, RC=*rc*
RSN=*rsn* ERRORTXT=*errortext*

説明: 指定された RM 要求タイプの処理中に、エラーが発生しました。

IMSRSC リポジトリへの IMS autoexport 中にエラー・メッセージが発行された場合、autoexport は正常に行われませんでした。エラーの戻りコードと理由コードがエラーを示します。エラーが解決されたら、EXPORT DEFINITION(CHANGESONLY) コマンドを発行するか次回の autoexport を待って、変更されたリソース定義の IMSRSC リポジトリへの書き込みをトリガーできます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

requestname

失敗した RM 要求タイプを示します。

rc 指定された RM 要求タイプからの戻りコードを示します。戻りコードの説明については、CSLSRR または CSLRRR マクロを参照してください。

rsn 指定された RM 要求タイプからの理由コードを示します。理由コードの説明については、CSLSRR または CSLRRR マクロを参照してください。

errortext

エラー・テキストを示します。*errortext* はブランクの場合と、RM 要求タイプからのエラー・テキストの場合があり、後者のときはエラーに関する詳細情報が提供されます。

errortext は、次の値のいずれかです。

CHANGE LIST

変更リストを削除しようとして失敗したことを示します。変更リストが存在する場合、次回の IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に処理されるか、次回の IMS コールド・スタート時に削除されます。

このメッセージは、次のいずれかの状態で発行される可能性があります。

- IMS コールド・スタート時

- IMS ウォーム再始動または緊急時再始動時に IMS 変更リストを内部でインポート中
- IMS ウォーム・スタート、緊急時再始動、またはコールド・スタート時に IMS 変更リストを削除中
- IMSRSC リポジトリへの IMS 自動エクスポート中

システムの処置: IMS コールド・スタート時に、IMSRSC リポジトリからリソース定義が自動的にインポートされている間にこのメッセージが発行される場合、IMS システムは異常終了コード 3368 を出して異常終了します。このメッセージが IMS 変更リスト処理中に発行される場合、IMS システムは処理を続行します。

IMS の再始動が完了した後に ERRORTXT=CHANGE LIST が含まれる DFS4401E メッセージが発行された場合、IMS は、変更リストの時刻をチェックポイント・ログ・レコードに記録できるように単純チェックポイントを開始します。削除されなかった残りの変更リストが IMS の再始動時に再処理されないように、IMS チェックポイントが取られます。

DFS4401E メッセージが DFS4390I AUTOEXPORT INITIATED メッセージ後の autoexport 処理中に発行された場合、IMS は処理を続行します。リソース定義はまだ IMSRSC リポジトリにエクスポートされていません。DFS4401E メッセージが IMS シャットダウン処理中の autoexport 処理時に発行された場合、その IMS シャットダウンは打ち切られます。リソース定義がリポジトリに正常にエクスポートされるまで、またはリポジトリへの自動エクスポートがオフになるまで IMS をシャットダウンできません。

システム・プログラマーの応答: CSLRRR マクロに RM の戻りコードと理由コードの説明があります。

このメッセージの結果、IMS が終了した場合は、RM エラーを引き起こした問題を修正してから、IMS を再始動します。IMS が変更リストを処理中にこのメッセージが発行される場合、インポート中であつたリソース定義は NOTINIT-xx-REPOCHGLIST 状態である可能性があります。IMS が再始動し、変更リストからの次回の内部インポートが成功するまで、または IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを発行してリソースと記述子定義をリポジトリから正常にインポートするまで、リソースと記述子は NOTINIT のままです。QUERY DB、QUERY PGM、QUERY RTCODE、および QUERY

TRAN コマンドを発行すると、NOTINIT-xx-REPOCHGLIST 状態であるリソースを表示できます。記述子には状況がないため、NOTINIT 状態の記述子を表示するための QUERY コマンドはありません。変更リストからの内部インポートが失敗した場合、引き続き NOTINIT 状態である記述子の名前については、メッセージ DFS4414I を参照してください。

ERRORTEXT=CHANGE LIST が含まれる DFS4401E メッセージが IMS によって再始動処理中に発行された場合、IMS が IMS 変更リストを IMSRSC リポジトリから削除できなかったことを示しています。変更リストをリポジトリから削除するには、DELETE DEFN TYPE(CHGLIST) コマンドを発行する必要があります。

DFS4401E メッセージが DFS4390I AUTOEXPORT INITIATED メッセージ後の autoexport 処理中に発行された場合、IMS は処理を続行します。エラーの解決後、リソース定義はまだ IMSRSC リポジトリにエクスポートされていないため、EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY) コマンドを発行してリソース定義を手動でエクスポートするか、次の自動エクスポートを待つことができます。

DFS4401E メッセージが IMS シャットダウン処理中の autoexport 処理時に発行された場合、その IMS シャットダウンは打ち切られます。リソース定義がリポジトリに正常にエクスポートされるまで、またはリポジトリへの自動エクスポートがオフになるまで IMS をシャットダウンできません。エラーが解決されたら、IMS シャットダウンを試みて自動エクスポートが正常に行われるようにするか、UPDATE IMS SET(AUTOEXPORT (N)) コマンドを使用して自動エクスポートをオフにすることができます。

モジュール: DFSIP300、DFSRPS60

関連概念:

➡ IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 (システム管理)

関連タスク:

➡ IMSRSC リポジトリを使用する IMS システムのコールド・スタート (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー (システム定義)

関連情報:

➡ 0400 (メッセージおよびコード)

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4402W THE REPOSITORY SECTION IS IGNORED BECAUSE IMS IS ENABLED WITH *variabletext*

説明: IMS で DRD が使用可能 (MODBLKS=OLC) でないか、IMS が RM サービスを使用 (RMENV=N) していないために、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの REPOSITORY セクションは無視されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

variabletext

次のいずれかの値です。

MODBLKS=OLC

RMENV=N

DFS4402W メッセージは、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに、REPOSITORY セクションが MODBLKS=OLC および RMENV=N と共に定義されている場合にのみ発行されます。

システムの処置: IMS は、MODBLKS=OLC または RMENV=NO で処理を続行します。IMS は IMSRSC リポジトリを使用できません。

システム・プログラマーの応答: IMS で MODBLKS=OLC または RMENV=NO が使用可能になった場合は、DFSDFxxx メンバーから REPOSITORY=ステートメントを削除してください。これで、次の再始動時には DFS4402W メッセージが発行されなくなります。あるいは、IMSRSC リポジトリを使用可能にする場合は、MODBLKS=OLC の場合に DRD を使用可能にし、RMENV=NO ステートメントを削除して RM サービスを使用するように IMS を変更します。

モジュール: DFSDFN10

関連概念:

➡ IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 (システム管理)

関連資料:

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー (システム定義)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4403E REPOSITORY= STATEMENT IS NOT DEFINED FOR REPOSITORY TYPE=*repotype*

説明: IMS の初期設定中に、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの REPOSITORY セクシ

ョンに REPOSITORY= ステートメントがコーディングされていないことが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプを示します。

repotype が IMSRSC の場合、DFSDFxxx メンバーに REPOSITORY= ステートメントは定義されておらず、リポジトリのセクション・ヘッダーが定義されていない可能性があります。AUTOIMPORT=AUTO が指定されている場合、IMS はこのメッセージを発行し、RDDS または MODBLKS から AUTOIMPORT が実行されます。AUTOIMPORT=REPO が指定されている場合は、IMS の初期設定は異常終了 0071 および RC=27、2108 で異常終了します。

システムの処置: AUTOIMPORT=REPO が指定されている場合は、IMS 初期設定は IMS 異常終了コード 0071 および戻りコード 27、2108 で異常終了します。

AUTOIMPORT=AUTO が指定されている場合は、IMS 初期設定のリソース定義が定義されていて、空でない場合に RDDS または MODBLKS から読み取られます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

システム・プログラマーの応答:

AUTOIMPORT=REPO では、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに REPOSITORY= ステートメントを追加して、IMS を再始動します。

AUTOIMPORT=AUTO では、リソース定義をリポジトリからインポートする場合、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに REPOSITORY= ステートメントを追加して、IMS を再始動します。

RDDS または MODBLKS が有効であれば処置は必要ありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSDFN10

関連資料:

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー (システム定義)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 0071

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4404I **IMS CONNECTED TO**
RMNAME=rmname FOR REPOSITORY
TYPE=repotype
REPOSITORY NAME=reponame

説明: IMS は、メッセージに名前とタイプが表示されたリポジトリに正常に接続しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmname

Resource Manager (RM) の名前を示します。

repotype

リポジトリ・タイプを示します。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

関連概念:

➡ IMSRSC リポジトリを含む IMS の初期化 (システム管理)

関連タスク:

➡ IMSRSC リポジトリを使用する IMS システムのコールド・スタート (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー (システム定義)

DFS4405W **REPOSITORY FOR**
REPOTYPE=repotype IS EMPTY,
REPONAME=reponame

説明: IMS は、メッセージで名前とタイプが示されたリポジトリに正常に接続しました。それにもかかわらず、Resource Manager (RM) は、このリポジトリが空であると示しました。リソースがリポジトリからインポートされません。

IMS のコールド・スタートの最後で、EXPORT DEFN TARGET(REPO) コマンドを実行するか、RDDS-to-Repository ユーティリティ (CSLURP10) を実行して、実行時リソース定義をリポジトリに取り込む必要があります。

DFS4406E • DFS4407A

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。


システム・プログラマーの応答: EXPORT DEFN TARGET(REPO) コマンドを発行するか CSLURP10 を使用して、実行時のリソース定義をリポジトリにエクスポートしてください。

ユーザーの処置: EXPORT DEFN TARGET(REPO) コマンドを発行するか CSLURP10 を使用して、実行時のリソース定義をリポジトリにエクスポートしてください。


プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIP300

関連タスク:

 IMSRSC リポジトリを使用する IMS システムのコード・スタート (オペレーションおよびオートメーション)

関連資料:

 IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー (システム定義)

DFS4406E REPOSITORY= STATEMENT FOR REPOTYPE=*reptype* INCONSISTENT OVER RESTART

説明: IMS.PROCLIB メンバー DFSDFxxx は、再始動前の REPOSITORY FOR REPOTYPE=*reptype* の使用と矛盾しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプ

システムの処置: IMS は、異常終了 0168 およびコード X'1C' で終了します。

プログラマーの応答: IMS.PROCLIB メンバー DFSDFxxx を修正して、<SECTION=REPOSITORY> セクションにステートメント REPOSITORY=(TYPE=*reptype*) を追加したり、削除したりすることで、REPOSITORY の使用を含めたり、含めなかったりします。

非 XRF および XRF のアクティブ・システムは、以下


のようにリポジトリの使用を指定した上で始動する必要があります。

1. REPO(Yes) から REPO(No) への変更は、コード・スタートでのみ許容されます。
2. REPO(No) から Repo(Yes) への変更は、NRE で許容されます。再始動前にリポジトリに正常に接続するために UPD IMS コマンドを使用した場合は、ERE でも許容されます。
3. Repo(No) から Repo(No) への変更は、再始動前にリポジトリに接続するために UPD IMS コマンドを使用した場合を除き、常に許容されます。
4. Repo(Yes) から Repo(Yes) への変更は常に許容されます。

XRF 代替システムは、リポジトリの使用と、再始動したときの SNAPQ チェックポイントとの整合性が保たれた上で始動する必要があります。

モジュール: DFSRLP00

関連情報:

 IMS 異常終了 0168

DFS4407A IMS IS NOT ENABLED TO USE THE REPOSITORY FOR REPOTYPE=*reptype*

説明: UPD IMS SET(LCLPARM(REPO(Y) REPOTYPE(*reptype*))) コマンドの type22 レコード処理に失敗した XRF 代替システムで、TAKEOVER (TKO) が発生しました。XRF アクティブ・システムではコマンドは正常に処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプ

システムの処置: 処理は続行されますが、リポジトリに接続するための UPD コマンドが新規 XRF アクティブ・システムで処理されるまでの間、DFS4407A メッセージはコンソール上で強調表示されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

プログラマーの応答: リポジトリ接続障害の原因になる可能性のある問題を修正し、新しい XRF アクティブ・システム上で再度 UPD コマンドを発行してください。

モジュール: DFSIU130

DFS4407E IMS IS NOT ENABLED TO USE THE REPOSITORY FOR REPOTYPE=repotype

説明: 拡張リカバリー機能 (XRF) 代替システムが、コマンド UPD IMS SET(LCLPARM(REPO(Y) REPOTYPE(repotype))) の type22 レコードの処理に失敗しました。XRF アクティブ・システムではコマンドは正常に処理されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

repotype

リポジトリ・タイプ

システムの処置: 処理は続行されます。ただし、XRF アクティブでは現在リポジトリを使用している一方で、XRF 代替では使用していません。

プログラマーの応答: リポジトリの接続失敗の原因となっている可能性のある問題を訂正した上で、アクティブな IMS でもう一度 UPD IMS コマンドを発行してください。

モジュール: DFSIU130

DFS4408I REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING INITIATED

説明: このメッセージは、IMS の再始動 (ウォーム・スタートまたは緊急時再始動) の終了時に、再始動している IMS が IMSRSC リポジトリで使用可能になっている場合に、ログ・レコード処理の後で発行されます。再始動している IMS が IMSRSC リポジトリで使用可能になっている場合、IMS は、変更リストが存在して処理が必要であるかどうかを判別します。

変更リストが存在している場合、変更リストのリソースおよび記述子はすべて静止され、IMS の再始動とは非同期的にリポジトリから内部的にインポートされます。変更リストのリソースおよび記述子は、NOTINIT のマークを付けられて、NOTINIT-xx-REPOCHGLIST の状況になるため、変更リストのリソースが IMS からインポートされるまで、それらに対する処理を実行できません。変更リスト内のいずれかのリソースが存在しない場合、属性が定義されていない新規リソースが作成され、デフォルト値 (ある場合) を指定され、NOTINIT のマークを付けられます。

変更リストが存在しない場合、このメッセージは、メッセージ DFS4412I の後に出されます。

システムの処置: IMS は、リポジトリから変更リストを読み取り、保管済みリソース定義をランタイム・リソース定義として IMS にインポートしてリストの処理を開始します。変更リスト処理は、IMS の再始動の完了

後に終了する場合があります。変更リスト処理が正常に実行された場合、メッセージ DFS4412I が発行されません。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRPS20

DFS4409A REPOSITORY CHANGE LIST IS NOT ACCESSIBLE - IMS RESOURCES MAY BE OUT OF SYNC

説明: IMS の再始動 (ウォーム・スタートまたは緊急時再始動) 時に、IMS は、変更リストが存在するかどうかを判別するために IMSRSC リポジトリにアクセスできませんでした。

このメッセージの前に、以下のメッセージが出されます。

DFS4401E RM CSLRPxxx REQUEST FAILED, RC=xxxxxxxxx RSN=xxxxxxxxx ERRORTXT=

DFS4401E メッセージは、リポジトリがアクセス可能ではない理由を示します。例えば、リポジトリが停止されている場合、リポジトリ・サーバーがダウンしている場合、または RM がダウンしている場合、リポジトリはアクセス可能ではありません。

変更リストがリポジトリに存在していない場合は、問題ありません。

変更リストがリポジトリに存在している場合、IMS ランタイム・リソース定義とリポジトリ内の保管済みリソース定義との同期が失われています。変更リストには、IMS がダウンしていた間にインポートされたリソースと記述子のリストが含まれています。

システムの処置: IMS の再始動時に、IMS は、変更リストにリストされているリソースと記述子の作成も更新も行いません。IMSRSC リポジトリ内の変更リストは削除されません。変更リストは、次の IMS の再始動時に処理されて削除されます。

ユーザーの処置: 変更リスト処理を正常に完了でき、変更リストが削除されるように、問題を訂正して、IMS をシャットダウンしてから再始動します。

あるいは、IMS をシャットダウンしない場合は、以下のいずれかの処置を実行できます。

- タイム・スタンプを使用して QUERY DB、QUERY DBDESC、QUERY PGM、QUERY PGMDESC、QUERY RTC、QUERY RTCDESC、QUERY TRAN、または QUERY TRANDESC コマンドを発行し、古くなっているリソース定義を判別します。次に、IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを使用して、それらのリソースをインポートします。

- IMPORT DEFN SOURCE(REPO) NAME(*)
TYPE(ALL) OPTION(UPDATE) コマンドを発行して、すべてのリソースを再びインポートします。

IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドが発行されて、IMS ランタイム定義がリポジトリ内の保管済みリソース定義で更新された場合、DELETE DEFN TYPE(CHGLIST) コマンドを発行して、リポジトリから IMS 変更リストを削除する必要があります。

モジュール: DFSRPS60

**DFS4410I REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING SUCCEEDED FOR
RSCTYPE=*rsctype* COUNT=*count***

説明: IMS リソースおよび記述子のランタイム・リソース定義は、IMSRSC リポジトリ内の保管済み定義と同期されました。

IMS の再始動時に、IMS は、リポジトリ内で IMS の変更リストを検出して、指定されたリソース・タイプのリソースまたは記述子を作成および更新することにより、変更を適用しました。

処理されるリソース・タイプごとに 1 つの DFS4410I メッセージが発行されます。例えば、変更リストにプログラムとトランザクションのみが含まれている場合は、これらのメッセージを 2 つ受け取ります。1 つは PGM 用で、もう 1 つは TRAN 用です。

IMS 変更リストには、IMS がダウンしていた間にインポートされたリソースまたは記述子が含まれています。IMS がダウンしていた間に削除されたリソースまたは記述子は含まれていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rsctype リソース・タイプを示します。これは、DB、DBDESC、PGM、PGMDESC、RTCODE、RTCDESC、TRAN、または TRANDESC の場合があります。

count 作成、更新、あるいは両方が行われたリソースの数を示します。

システムの処置: リソースが作成または更新され、NOTINIT 状況がリセットされます。正常な IMS 変更リスト処理の終了時に、変更リストはリポジトリから削除されます。

ユーザーの処置: 更新されたデータベースを始動して、使用できるようにしてください。

モジュール: DFSIP100

**DFS4411E REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING FAILED RC=*rc*
RSN=*rsn***

説明: IMSRSC リポジトリの変更リスト処理でエラーが発生しました。変更リストには、IMS がダウンしていた間にインポートされたリソースと記述子の名前が含まれています。

メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

rc IMPORT コマンドの戻りコードを示します。これは、DFSCMDRR マクロに記載されています。

rsn IMPORT コマンドの理由コードを示します。これは、DFSCMDRR マクロに記載されています。

システムの処置: 変更リストで指定されているデータベース、プログラム、宛先コード、およびトランザクション・リソースのすべての状況は引き続き、NOTINIT-xx-REPOCHGLIST になります。この状況では、変更リスト処理の失敗の原因となった状態が訂正され、リソースがリポジトリから正常にインポートされるまで、これらのリソースは使用できません。

変更リストはリポジトリから削除されません。次の IMS の再始動時に処理されて削除されます。

ユーザーの処置: 問題を訂正して、以下のいずれかの処置を実行します。

- 変更リスト処理を正常に完了でき、変更リストが削除されるように、IMS をシャットダウンしてから再始動します。
- あるいは、IMS をシャットダウンしない場合は、以下のいずれかの処置を実行できます。
 - 以下のコマンドを発行して、変更リスト処理が失敗したために NOTINIT 状況になっているリソースを判別します。

```
QUERY DB STATUS(NOTINIT)
QUERY PGM STATUS(NOTINIT)
QUERY RTC STATUS(NOTINIT)
QUERY TRAN STATUS(NOTINIT)
```

NOTINIT-xx-REPOCHGLIST の状況になっているすべてのリソースについて、IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを使用してリソースをインポートします。IMPORT コマンドを発行する際、宛先コードおよびトランザクションより前に、データベースおよびプログラムをインポートします。

DFS4414I REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING INITIATED FOR DESCRIPTOR メッセージを見つけて、IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンド

を使用することにより、それらの記述子をリポジトリからインポートします。

- タイム・スタンプを使用して QUERY DB、QUERY DBDESC、QUERY PGM、QUERY PGMDESC、QUERY RTC、QUERY RTCDESC、QUERY TRAN、または QUERY TRANDESC コマンドを発行し、古くなっているリソース定義を判別します。次に、IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを使用して、それらのリソースをインポートします。
- IMS ランタイム定義を IMSRSC リポジトリ内の保管済みリソース定義で更新できるように、IMS 変更リストからすべてのリソースおよび記述子をインポートします。例えば、以下の IMPORT コマンドを発行できます。

```
IMPORT DEFN SOURCE(REPO) NAME(*) TYPE(ALL)
OPTION(UPDATE)
```

- リソース定義がインポートされて、IMS ランタイム定義がリポジトリからの保管済みリソース定義で更新された後、DELETE DEFN TYPE(CHGLIST) コマンドを発行して、リポジトリから IMS 変更リストを削除する必要があります。DELETE DEFN コマンドが発行されない場合、変更リストは、次の IMS の再始動時に処理されます。

モジュール: DFSIP100、DFSRPS60

関連資料:

 IMPORT DEFN SOURCE(REPO | RDDS) コマンド (コマンド)

DFS4412I REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING COMPLETED

説明: IMS の再始動で、IMSRSC リポジトリの変更リストの処理が完了しました。

再始動している IMS がリポジトリで使用可能になっていて、変更リストが存在しない場合は、メッセージ DFS4412I が DFS4408I メッセージの後に送られます。

再始動している IMS がリポジトリで使用可能になっていて、変更リストが存在する場合は、メッセージ DFS4412I がゼロ個以上の DFS4410I メッセージの後に送られます。メッセージ DFS4412I は、すべてのリソース・タイプが正常に処理されたことを示します。IMS 変更リスト処理は IMS の再始動と並行して実行されるため、このメッセージは、IMS の再始動が完了した後で発行される可能性があります。

変更リスト処理が失敗したことを示す DFS4411E メッセージが発行された場合、メッセージ DFS4412I は発行されません。

システムの処置: 変更リストは、存在している場合には、リポジトリから削除されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRPS60

DFS4413E REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING FAILED FOR RSCNAME=rscname RSCTYPE=rstype CC=cc

説明: 指定されたリソースの変更リストからのインポートが失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rscname

リソースの名前を示します。

rsctype

リソース・タイプを示します。これは、DB、DBDESC、PGM、PGMDESC、RTC、RTCDESC、TRAN、または TRANDESC の場合があります。

cc

IMPORT コマンドの完了コードを示します。これは、DFSCMDRR マクロに記載されています。

システムの処置: 変更リストからのインポートは失敗します。リソースには NOTINIT のマークが付けられたままになります。

ユーザーの処置: 変更リスト処理を正常に完了でき、変更リストが削除されるように、問題を訂正して、IMS をシャットダウンしてから再始動します。

あるいは、IMS をシャットダウンしない場合は、以下のいずれかの処置を実行できます。

- 以下のコマンドを発行して、変更リスト処理が失敗したために NOTINIT 状況になっているリソースを判別します。

```
QUERY DB STATUS(NOTINIT)
QUERY PGM STATUS(NOTINIT)
QUERY RTC STATUS(NOTINIT)
QUERY TRAN STATUS(NOTINIT)
```

NOTINIT-XX-REPOCHGLIST の状況になっているすべてのリソースについて、IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを使用してリソースをインポートします。IMPORT コマンドを発行する際、宛先コードおよびトランザクションより前に、データベースおよびプログラムをインポートします。

DFS4414I REPOSITORY CHANGE LIST PROCESSING
INITIATED FOR DESCRIPTOR メッセージを見つけて、

IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを使用することにより、それらの記述子をリポジトリからインポートします。

- タイム・スタンプを使用して QUERY DB、QUERY DBDESC、QUERY PGM、QUERY PGMDESC、QUERY RTC、QUERY RTCDESC、QUERY TRAN、または QUERY TRANDESC コマンドを発行し、古くなっているリソース定義を判別します。次に、IMPORT DEFN SOURCE(REPO) コマンドを使用して、それらのリソースをインポートします。
- IMPORT DEFN SOURCE(REPO) NAME(*) TYPE(ALL) OPTION(UPDATE) コマンドを発行して、すべてのリソースを再びインポートします。

モジュール: DFSIP100、DFSIP200

関連資料:

 IMPORT DEFN SOURCE(REPO | RDDS) コマンド (コマンド)

**DFS4414I REPOSITORY CHANGE LIST
PROCESSING INITIATED FOR
DESCRIPTOR NAME=*descname*
TYPE=*desctype***

説明: 指定された記述子名に対して IMSRSC リポジトリの変更リスト処理が開始されます。このメッセージが発行された後に変更リスト処理が失敗した場合、記述子は NOTINIT 状況のままになり、更新、モデルとしての参照、あるいはリポジトリまたは RDDS へのエクスポートは不可能になります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

descname

記述子の名前を示します。

desctype

記述子タイプを示します。これは、DBDESC、PGMDESC、RTCDESC、または TRANDESC の場合があります。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRPS60

**DFS4419I RESOURCE DEFINITIONS NOT
EXPORTED FOR REPOSITORY
TYPE=*reptype*, NAME=*reponame***

説明: /CHECKPOINT FREEZE、/CHECKPOINT DUMPQ、または /CHECKPOINT PURGE コマンドを使用して IMS が通常どおりシャットダウンするときに、IMSRSC リポジトリにエクスポートされなかった

新規または更新済みのリソース定義がある場合、DFS4419I メッセージがシャットダウン・プロセス時に発行されます。このメッセージは、リポジトリに保管された定義が、シャットダウン時に IMS システムのオンライン定義と同期しないことを示します。DFS4419I メッセージが発行された後、IMS はシャットダウンを続行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

reptype

リポジトリ・タイプを示します。有効な唯一の値は IMSRSC です。

reponame

リポジトリ名を示します。

システムの処置: IMS はシャットダウンを続行します。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

ユーザーの処置: DFS4419I メッセージが発行された通常シャットダウン後に、IMS がウォーム・スタートする場合、そのオンライン・リソース定義はログからリカバーされ、シャットダウン時と同じになります。最新のリソース定義が IMSRSC リポジトリにエクスポートされることを確実にするために、IMS がアップした後に EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION (CHANGESONLY) コマンドが発行されなければなりません。

DFS4419I メッセージが発行された通常シャットダウン後に IMS がコールド・スタートするとき、そのリソース定義がリポジトリからインポートされる場合、コールド・スタートの前にリポジトリが更新された場合を除き、オンライン定義はシャットダウン時と同じにはなりません。Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCL0) および RDDS to Repository ユーティリティ (CSLURP10) を使用すると、IMS をコールド・スタートする前に、IMS ログ内の最新の MODBLKS リソース定義によってリポジトリを更新できます。RDDS と CSLURP10 ユーティリティは MSC リソースをサポートしないため、IMS タイプ 2 CREATE コマンドを使用して MSC リソースを再作成する必要があります。

IMS がシャットダウンされる前に IMSRSC リポジトリにエクスポートされなかった新規または変更されたリソースを保持するために、EXPORTNEEDED パラメーターを指定した Create RDDS from Log Records ユーティリティ (DFSURCL0) によって RDDS が作成された場合、IMS がリポジトリからコールド・スタートされた後に、その RDDS を IMPORT コマンドに指定できます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSICM30

DFS4420E THE JCL IS MISSING A SYSIN DD STATEMENT.

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティー (DFS3PU10) では、SYSIN DD ステートメントが必要ですが、指定されませんでした。

ユーザーの処置: 入力パラメーターが含まれたデータ・セット名を指定した SYSIN ステートメントをユーティリティーに提供してください。データ・セットの DCB パラメーターは、RECFM=FB および LRECL=80 です。

モジュール: DFS3PU10

DFS4421E THE JCL IS MISSING A SYSUT1 DD STATEMENT.

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティーでは、分析機能からの出力およびページ機能への入力に SYSUT1 データ・セットが必要です。

ユーザーの処置: SYSUT1 DD ステートメントを提供して、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4422E THE SYSIN DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = 666666.

説明: MVS は、IMS Catalog Record Purge ユーティリティーの SYSIN データ・セットを開くことができませんでした。666666 は、要求からの戻りコードです。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4423E THE SYSUT1 DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = 666666.

説明: MVS は、IMS Catalog Record Purge ユーティリティーの SYSUT1 データ・セットを開くことができませんでした。666666 は、要求からの戻りコードです。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4424E UPDATE STATEMENTS WERE PROVIDED IN PURGE MODE.

説明: MODE PURGE と 1 つ以上の UPDATE ステートメントの両方が同時に指定されました。MODE PURGE が指定される場合、UPDATE ステートメントは IMS Catalog Record Purge ユーティリティーでサポートされません。このユーティリティーが UPDATE ステートメントをサポートするのは、MODE ステートメントが省略される場合、もしくは MODE ANALYSIS または MODE BOTH のどちらかが指定される場合です。

ユーザーの処置: SYSIN データ・セットから UPDATE ステートメントを除去するか、MODE ステートメントを ANALYSIS か BOTH のどちらかに変更してください。変更が完了したら、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4425E UNEXPECTED STATUS CODE 22 ON A 4444 CALL FOR CATALOG RECORD 88888888.

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティーは、カタログ DL/I 呼び出しから予期しない状況コードを受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

22 DL/I 呼び出しからの状況コード

4444 DL/I 呼び出しタイプ

88888888


カタログ・リソース名

システムの処置: ユーティリティーは異常終了 U1002 で終了します。

ユーザーの処置: SYSUT1 データ・セットに重複した DELETE ステートメントが含まれていないこと、およびすべての UPDATE ステートメントの DB 名が正しいことを確実にしてください。ユーティリティーの入力データ・セットでエラーが検出されない場合は、特定の DL/I 状況コードについてトラブルシューティング情報を調べてください。

モジュール: DFS3PU10

関連情報:

 IMS 異常終了 1002

DFS4426I A DELETE STATEMENT WAS WRITTEN TO THE SYSUT1 DATA SET FOR PSB *mbr-name* INSTANCE=*yydddhmmssth*

または

A DELETE STATEMENT WAS WRITTEN TO THE SYSUT1 DATA SET FOR DBD *mbr-name* INSTANCE=*yydddhmmssth* DBVER=*version*

説明: ユーティリティは、メッセージ・テキストで示されている DBD または PSB メンバーのインスタンスに対して SYSUT1 データ・セットの DELETE ステートメントを生成しました。このインスタンスは、タイム・スタンプ値 *yydddhmmssth* で一意的に識別されません。ユーティリティが PURGE モードで実行される場合、ユーティリティは SYSUT1 データ・セットから DELETE ステートメントを読み取り、インスタンスを IMS カタログから削除します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr-name

DBD または PSB メンバーの名前。

version

DBD インスタンスの DBD バージョン番号。PSB インスタンスの場合、このフィールドはメッセージ・テキストに含まれません。

yydddhmmssth

DBD または PSB メンバーのインスタンスを一意的に識別する ACBGEN タイム・スタンプ。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU10

DFS4427E INQY ENVIRON CALL FAILED, RC=*xxxx* REASON=*yyyy* STATUS=*aa*

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティのカタログ状況を取得するための INQY ENVIRON 呼び出しに対して、予期しない AIB 戻りコードおよび理由コードが返されました。TPPCB 状況コードも返される可能性があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx AIB 戻りコード

yyyy AIB 理由コード

aa TPPCB 状況コード

システムの処置: ユーティリティは異常終了 U1002 で終了します。

ユーザーの処置: エラー・コードの根本原因を訂正して、ジョブを再実行してください。

モジュール: DFS3PU10

関連資料:

➡ AIB 理由コードと戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ IMS 異常終了 1002

DFS4428E STATUS CODE 22 ON A 4444 CALL WAS RECEIVED FOR *dbdpsbnn* *segnamee* *timestampppppp*.

説明: IMS カタログ・データベースからレコードを取得するために IMS Catalog Record Purge ユーティリティが作成した DL/I 呼び出しに対して予期しない状況コードが返されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

22 状況コード

4444 DL/I 呼び出しタイプ

dbdpsbnn

リソース・タイプ

segnamee

メンバー名

timestampppppp

ACB で生成されるレコードのタイム・スタンプ

システムの処置: ユーティリティは異常終了 U1002 で終了します。

ユーザーの処置: 示されたタイム・スタンプで関連付けられているレコードのバージョンが、ユーティリティによって以前に削除されていないかどうか検査してください。状況コードの原因を訂正した上で、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4429E RETURN CODE *rc* WAS SET DUE TO AN ERROR. CORRECT THE ERROR AND RERUN THE JOB.

または

CONTROL STATEMENT ERROR. REASON
CODE=rs.

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティは、SYSIN または SYSUT1 データ・セットでユーティリティ制御ステートメントの問題を検出しました。問題が SYSIN データ・セットにある場合、たいていは、ユーティリティは引き続き残りのステートメントを処理します。ただし、MODE BOTH が指定されている場合、たいていは、パーズ機能の実行前にユーティリティは終了します。問題が SYSUT1 データ・セットにある場合、大部分のエラーで、ユーティリティは後続のステートメントを処理することなく即時に終了します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rs エラーの原因を示す理由コード。エラーの重大度に応じて、ユーティリティが終了後に出す戻りコードは 4 または 8 の場合があります。

DFS4429E には、以下の可能な理由コードのいずれかが含まれる場合があります。

- 01 SYSIN DD ステートメントに複数の MODE ステートメントが検出されました。
- 02 MODE タイプが欠落しているか、または無効です。
- 03 UPDATE ステートメントが、DBD と PSB のいずれかのキーワードを指定せずに実行依頼されました。
- 04 UPDATE ステートメントまたは DELDBVER ステートメントのメンバー名が欠落しているか、長すぎるか、またはその他の理由で無効です。
- 05 複数のワイルドカード文字 (*) がメンバー名に使用されました。
- 06 インスタンスの保持数が指定されていないか、5 桁を超えた数が指定されています。
- 07 保持する DBD または PSB インスタンスの指定数が無効です。
- 08 保持する DBD または PSB インスタンスの指定数が、最大数の 65535 を超えています。
- 09 DBD または PSB インスタンスの保持日数に指定した数が 5 桁を超えています。
- 10 DBD または PSB インスタンスの保持日数に指定した数が無効です。
- 11 DBD または PSB インスタンスの保持日数に指定した数が、最大数の 65535 を超えています。

12 ユーティリティの UPDATE ステートメントに含まれているメンバー名が重複していますが、インスタンス数または日数が異なっていません。メンバー・レコード内の保存基準が更新されませんでした。

13 SYSIN データ・セット内の無効なステートメントです。このステートメントは誤って指定されたか、複数のステートメントが相互に両立しない可能性があります。

14 SYSIN ステートメントの入力が欠落しています。

15 無効な DELETE ステートメントです。SYSUT1 データ・セットでこれより前に指定されたすべてのステートメントは、正常に実行されました。それ以降のステートメントが処理されませんでした。

16 無効な DELDBVER ステートメントです。MODE PURGE で、SYSUT1 データ・セットでこれより前に指定されたすべてのステートメントは、正常に実行されました。それ以降のステートメントが処理されませんでした。

17 UPDATE ステートメントの一致するレコードがありません。

実行は正常に続行され、ユーティリティは完了時に、戻りコード 4 を発行します。

18 ワイルドカード文字 (*) の無効な使用。

19 SYSUT1 データ・セット内の無効なステートメントです。

20 以下のいずれかのメッセージを生成するエラーが発生しました。

- DFS4420E
- DFS4421E
- DFS4422E
- DFS4423E
- DFS4424E
- DFS4485E

このコードは DFS4429E と一緒に発行されなくなりました。

24 print_DCB のオープンに失敗しました。

このコードは DFS4429E と一緒に発行されなくなりました。

システムの処置: エラーが SYSIN データ・セットで検出された場合、たいていは、ユーティリティは SYSIN データ・セット内の残りの制御ステートメントを引き続き処理します。ただし、MODE BOTH が指定

DFS4430I • DFS4433E

される場合、パージ機能の実行前にユーティリティーは終了します。エラーが SYSUT1 データ・セットで検出された場合、たいていは、ユーティリティーは SYSUT1 データ・セット内の残りの制御ステートメントを処理することなく終了します。

DFS4429E の理由コードの重大度に応じて、ユーティリティーは終了時に戻りコード 4 または 8 (大抵の場合) を発行します。

ユーザーの処置: コードの説明を検討し、根本的なエラーを訂正してから、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4430I NO MEMBERS WERE ADDED TO THE SYSUT1 DATA SET DUE TO AN ERROR OR CURRENT RETENTION CRITERIA.

または

AN ANALYSIS OF THE IMS CATALOG DID NOT FIND ANY DBD OR PSB INSTANCES THAT ARE ELIGIBLE FOR DELETION.

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティーは、IMS カタログ内のレコードを分析しましたが、削除に適切な DBD または PSB インスタンスを検出ませんでした。ユーティリティーは、DELETE ステートメントを SYSUT1 データ・セットに書き込みませんでした。

各レコード内の DBD および PSB の各インスタンスの経過日数も、DBD および PSB インスタンスの数量も、レコードのヘッダー・セグメントまたは DFSDFxxx PROCLIB メンバーの CATALOG セクションのいずれかで設定されている保存基準の値を超えていません。

SYSIN データ・セットで DELDBVER ステートメントが指定されていた場合、ユーティリティーが DBD レコードでバージョン番号を検出しなかったか、ユーティリティーが IMS カタログで DBD レコードを検出ませんでした。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU10

DFS4431I NO MEMBERS WERE DELETED DUE TO AN ERROR OR NONE MATCHED THE DELETE STATEMENT.

説明: SYSUT1 データ・セットの DELETE ステートメントが、IMS カタログ・データベースのすべてのレコー

ドと一致しませんでした。IMS Catalog Record Purge ユーティリティーはレコードを削除しませんでした。

ユーザーの処置: IMS Catalog Record Purge ユーティリティーを分析モードで実行して、SYSUT1 データ・セットの DELETE ステートメントが既存のカタログ・レコードと一致することを確認してください。

モジュール: DFS3PU10

DFS4432E UNEXPECTED STATUS CODE *sc* ON A GHNP CALL FOR AN INSTANCE OF *mbr-type mbr-name*.

説明: IMS カタログからメンバー *mbr-name* の DBD または PSB セグメントを取得しようとしていたときに、Catalog Record Purge ユーティリティーが、予期しない DL/I 状況コードを受け取りました。状況コードを受け取ったことは、ユーティリティーの問題または IMS カタログの破損のいずれかを示しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

mbr-name

GHNP 呼び出しがアクセスしようとした DBD または PSB メンバーの名前。

mbr-type

GHNP 呼び出しがアクセスしようとしたメンバーのタイプ (DBD または PSB)。

sc

返された DL/I 状況コード。

ユーザーの処置: 状況コードの情報を確認して、可能な場合は根本的な問題を修正してください。問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU10

関連資料:

➤ DL/I 状況コードの生命 (メッセージおよびコード)

➤ IMS Catalog Record Purge ユーティリティー (DFS3PU10) (システム・ユーティリティー)

DFS4433E THE SYSIN DATA SET CONTAINS DELDBVER STATEMENTS WITH A MODE PURGE STATEMENT OR WITHOUT A MODE STATEMENT.

説明: 1 つ以上の DELDBVER ステートメントが SYSIN データ・セットで指定されましたが、MODE ステートメントが指定されていなかったか、あるいは MODE PURGE が指定されていました。DELDDBVER ステートメントが SYSIN データ・セットで指定される場合は、MODE ANALYSIS または MODE BOTH の

いずれかも指定されている必要があります。


MODE PURGE が SYSIN データ・セットで指定される場合、DELDDBVER ステートメントは、SYSUT1 データ・セットでのみ指定できます。

ユーザーの処置: 必要に応じて、以下のいずれかの処置を実行してください。

- SYSIN データ・セットで MODE ステートメントを追加または変更して、ANALYSIS または BOTH のいずれかを指定する。
- DELDDBVER ステートメントを SYSIN データ・セットから除去する。MODE PURGE が指定される場合、DELDDBVER は、SYSUT1 データ・セットでのみ指定できます。

モジュール: DFS3PU10

関連資料:

 IMS Catalog Record Purge ユーティリティ (DFS3PU10) (システム・ユーティリティ)

DFS4434I **INSTANCE *yydddhmmssst* OF DBD name WAS ADDED TO A NEWLY CREATED RECORD IN THE IMS CATALOG.**

または

INSTANCE *yydddhmmssst* OF PSB name WAS ADDED TO A NEWLY CREATED RECORD IN THE IMS CATALOG.


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、DBD 名または PSB 名のメタデータのインスタンスを IMS カタログに正常に追加しました。これは、この DBD または PSB のメタデータの最初のインスタンスでした。つまり、この名前前のルート・セグメントを追加する必要がありました。タイム・スタンプ *yydddhmmssst* を持つ DBD または PSB のセグメント (および、その従属セグメント) が、この新しいルートの下に追加されました。

システムの処置: 処理を続行します。前のチェックポイント以降の、またはユーティリティの開始以降のすべての変更がコミットされた時点で、メッセージ DFS4437I が発行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4435I **INSTANCE *yydddhmmssst* OF DBD name WAS ADDED TO AN EXISTING RECORD IN THE IMS CATALOG.**

または

INSTANCE *yydddhmmssst* OF PSB name WAS ADDED TO AN EXISTING RECORD IN THE IMS CATALOG.


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、DBD 名または PSB 名のメタデータのインスタンスを IMS カタログに正常に追加しました。これは、この DBD または PSB のメタデータの最初のインスタンスではありませんでした。つまり、この名前前のルート・セグメントが既に存在していました。タイム・スタンプ *yydddhmmssst* を持つ DBD または PSB のセグメント (および、その従属セグメント) が、この既存のルートの下に追加されました。

システムの処置: 処理を続行します。前のチェックポイント以降の、またはユーティリティの開始以降のすべての変更がコミットされた時点で、メッセージ DFS4437I が発行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4436I **INSTANCE *yydddhmmssst* OF DBD name IS ALREADY IN THE IMS CATALOG AND WAS NOT ADDED.**

または

INSTANCE *yydddhmmssst* OF PSB name IS ALREADY IN THE IMS CATALOG AND WAS NOT ADDED.

説明: IMS カタログには、既に DBD 名または PSB 名のルート・セグメントが含まれており、このルートの下に、タイム・スタンプ *yydddhmmssst* を持つ既存の DBD または PSB のセグメントがありました。同じ名前と同じタイム・スタンプを持つ DBD または PSB は、その DBD または PSB の同一インスタンスを表すものと見なされるため、カタログには何も追加されませんでした。


システムの処置: 処理を続行します。

DFS4437I • DFS4441I

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4437I UPDATES TO THE IMS CATALOG HAVE BEEN COMMITTED. CHECKPOINT ID *nnnnnnnn*


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、前の更新を IMS カタログにコミットするために CHKP (チェックポイント) 呼び出しを発行しました。後にユーティリティに障害が起こった場合、メッセージ DFS4434I および DFS4435I で示されるように、この時点までの更新はバックアウトする必要はありません。

システムの処置: 処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4438E THE CONTROL STATEMENT DATA SET (DDNAME SYSINP) FAILED TO OPEN. OPEN RC = *rc*

説明: DD 名 SYSINP の DD ステートメントによって参照されたデータ・セットを開くときに、IMS Catalog Populate ユーティリティは、OPEN マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

システム・プログラマーの応答: DD 名 IMS の DD ステートメントが、80 文字の固定長レコードを使用する順次データ・セットを参照していることを確認してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4439E AN INVALID OPTION WAS SPECIFIED IN THE CONTROL STATEMENT DATA SET (DDNAME SYSINP)


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、DD 名 SYSINP の DD ステートメントによって参照されたデータ・セット内の情報を認識できませんでした。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

システム・プログラマーの応答: 複数のオプションを互いにブランクまたはコンマで区切って指定できます。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4440I THE DFS3PU00 UTILITY WILL LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ARE ADDED TO THE IMS CATALOG.


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、JCL 内で制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) を何も検出しなかったか、またはデータ・セット内でオプションの NOISRTLIST を何も検出ませんでした。

システムの処置: IMS カタログに追加された DBD または PSB のインスタンスごとに、IMS Catalog Populate ユーティリティは、メッセージ DFS4434I または DFS4435I を発行します。このメッセージは、新しい DBD または PSB のセグメントを識別します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4441I THE DFS3PU00 UTILITY WILL NOT LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ARE ADDED TO THE IMS CATALOG.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、制


御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) 内で、NOISRTLIST オプションを検出しました。

システムの処置: ユーティリティは、IMS カタログに挿入された DBD および PSB のセグメントに関するメッセージ DFS4434I または DFS4435I を発行しません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4442I THE DFS3PU00 UTILITY WILL LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ALREADY EXIST IN THE IMS CATALOG.


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) 内で、オプションの DUPLIST を検出しました。

システムの処置: 既存のインスタンスと重複しているために IMS カタログに追加されなかった DBD または PSB のインスタンスごとに、ユーティリティはメッセージ DFS4436I を発行します。このメッセージは、挿入されなかった重複する DBD または PSB のセグメントを識別します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4443I THE DFS3PU00 UTILITY WILL NOT LIST THE DBD AND PSB INSTANCES THAT ALREADY EXIST IN THE IMS CATALOG.


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティは、JCL 内で制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) を何も検出しなかったか、またはデータ・セット内でオプションの DUPLIST を何も検出しませんでした。

システムの処置: ユーティリティは、カタログ内の既存のインスタンスと重複しているために IMS カタログに追加されなかった DBD および PSB のインスタンスについて、DFS4436I メッセージを発行しません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4444I DISPLAY FROM ID=xxxx

説明: xxxx は IMSID です。DBCTL の場合、実行パラメーターのキーワード PREMSG=N を指定すると、接頭部メッセージ DFS000I なしでメッセージが出力されます。IMSID は、メッセージの終わりに付加されません。表示コマンド出力には、IMSID を含めるために、接頭部メッセージ DFS4444I が含まれます。

モジュール: DFSDQMG0

DFS4445I CMD ACCEPTED ON SUBSYSTEM INTERFACE: *command text imsid*

または

**CMD FROM MCS/E-MCS CONSOLE
USERID=xxxxxxx:*command text imsid***

または

CMD FROM INTERNAL READER: *command text imsid*

説明:

このメッセージは、MCS または E-MCS コンソール、内部読み取りプログラム、または別のソース (MGCR マクロなど) から入力されたコマンドを表示します。このメッセージの 3 つの形式すべてが、DBCTL システムで出力可能です。DB/DC または DCCTL システム (CMDMCD=Y、C、R、または B を指定) では、最初の形式のメッセージのみが表示されます。メッセージ変数は、次のとおりです。

xxxxxxx

コマンドが入力されたコンソールのユーザー ID

command text

入力されたコマンド

imsid コマンドを処理するシステムの名前

未解決の WTO に対する応答として入力されるコマンドは、ジョブ・ログに含まれます。MCS または E-MCS コンソールから入力されたコマンドにテキストがない場合は、メッセージが抑止されます。

モジュール: DFSDQMG0

DFS4446E xxxxxxxxxx yyyyyyyy DEFINED TO RM
AS zzzzzzzzzz

説明: IMS は、リソース (yyyyyyyy) を、リソース・タイプ xxxxxxxxxx として Resource Manager (RM) に登録しようとしていました。ただし、リソースはすでに、同じ名前タイプ・グループ内の異なるリソース・タイプ (zzzzzzzzzz) として登録されていました。

RM では、名前タイプはリソース・タイプのグループであり、そのなかでは、ある 1 つのリソースを複数のリソース・タイプとして同時に登録することはできません。

IMS では、finddest 名前タイプは、通常、メッセージ宛先であるリソースです。下記のリソース・タイプは、"finddest" 名前タイプに関連しています。

CPIC APPC のための CPIC 定義トランザクション
DESCRIPTOR

APPC 記述子

LTERM

VTAM 論理端末名。

MSNAME

MSC 論理リンク・パス

TRAN 静的定義済みトランザクション

システムの処置: このエラーが IMS 初期設定時に発生した場合は、システムが異常終了 3308 を出す可能性があります。それ以外の場合は、現行処理がリジェクトされ、オンライン処理が続行されます。

オペレーターの応答: リジェクトされたリソースが適切な場合は、RM に既存のリソースを削除してみてください。例えば、/CLS コマンドを使用して LTERM リソースを除去してください。それ以外の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: リジェクトされたリソースを再定義して、IMSplex に正しく整合性をもって定義されているようにしてください。

モジュール: DFSRMD00, DFSRMIU0, DFSSLON0

DFS4447E RM REQUEST ERROR, rmreq
RC=nnnnnnnnn RMRC=xxxxxxx
RMRSN=yyyyyyyyy

説明: このメッセージは、Resource Manager (RM) アクセス・サービス要求が失敗したときに、IMS 制御領域コマンドまたはその他のプロセスによって非同期に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rmreq RM 要求のタイプ。次のいずれかの値です。
• QUERY

- CLEANUP
- UPDATE (更新または削除要求の場合)

nnnnnnnn

RM アクセス・サービスからの戻りコード

戻りコード

意味

X'10000004'

入力パラメーターが無効です。

X'10000008'

AWE 制御ブロック用のストレージがありません。

X'1000000C'

ブロックまたはバッファ用ストレージがありません。

X'10000010'

更新が失敗しました。隠しブロックは戻されません。

X'10000012'

更新が失敗しました。バージョンが不一致です。隠しブロックが戻されました。

X'10000014'

照会が失敗しました。

X'10000018'

削除が失敗しました。

X'1000001C'

隠しブロックが作成されません。

X'10000020'

隠しブロックが戻されました。

X'10000024'

ローカル IMS が所有するリソースに対する更新が失敗しました。隠しブロックは戻されません。

xxxxxxx

RM 呼び出しからの戻りコード。

yyyyyyyy


RM 呼び出しからの理由コード。

システムの処置: コマンド・パラメーターはリジェクトされます。

オペレーターの応答: RM で、失敗したパラメーターに関連したリソースの検索または更新に問題があります。このコマンドおよび他のコマンドは、リソースの問題が訂正されるまで、エラーのあるパラメーターによる失敗が続く可能性があります。

モジュール: DFSICLC0, DFSICLE0, DFSICLJ0, DFSICLN0, DFSICLP0, DFSICL50, DFSICL60, DFSICL70, DFSIC440, DFSIC450, DFSIDPB0, DFSIDPE0, DFSIDP10, DFSIDP40, DFSIDP70, DFSIDP80, DFSOCM30, DFSRMCL0, DFSRMSR0, DFSRMS00

関連概念:

 グローバル・リソースを管理するための CSL RM 要求の発行 (システム・プログラミング API)

DFS4448A RM RESOURCE STRUCTURE USAGE MISMATCH

説明: IMS の初期設定時に IMS が Resource Manager (RM) に登録するとき、または RM が IMSplex に結合するとき、IMS は、RM がリソース構造を使用するかどうかに応じて通知されます。それ以後に、RM がリソース構造の使用状況を変更すると、メッセージ DFS4448A が出されます。

システムの処置: オンライン処理は続行されます。IMS は、リソース構造の使用状況を変更しません。IMS は、リソース構造を使用していなかった場合、新規のリソース構造を無視します。IMS がリソース構造を使用していた場合は、限定された端末処理が続行されます。しかし、新しい端末またはユーザーは IMS へのアクセスを許可されず、特定のプロセス (IMS のシャットダウンを含む) はリソース構造が使用可能になるまでハングします。

/NRESTART または /ERESTART コマンドを処理中 (COLDCOMM と COLDSYS は除く) に IMS がメッセージ DFS4448A を発行した場合、IMS は 0233 で異常終了します。

オペレーターの応答: RM が適切に開始されたかを判別し、適切でない場合は、RM を終了させてから再始動してください。それ以外の場合は、IMS を終了し、TM をコールド・スタートして、リソース構造の変更が TM に認識されるようにしてください。

モジュール: DFSCSL40、DFSRLP00

DFS4449W SNGLSIGN|MULTSIGN FORCED BY RESOURCE MANAGER

説明: IMSplex 環境で開始中の IMS システムが、単一サインオンまたは複数サインオンに関する値 (IMS 始動パラメーターの SGN= キーワード、または /NRE コマンドか /ERE コマンドのキーワードとして) を指定しようとした。その値は、Resource Manager (RM) が維持している値と矛盾します。IMSplex 内の各システムの整合性を確保するために、RM は IMSplex に結合した最初の IMS のサインオン指定を維持しています。その後、結合するすべての IMS も、最初に指定された値を使用する必要があります。

システムの処置: IMS 処理は続行されます。単一と複数サインオンでは、RM からのグローバル指定を使用します。

オペレーターの応答: ローカル IMS からのサインオン値を使用したい場合は、すべての IMS システムをシャットダウンしてください。正しいサインオン指定を使用して、最初にローカル IMS を再始動してください。

モジュール: DFSIRAC0

DFS4450I RESOURCE STRUCTURE REPOPULATION STARTING|COMPLETE

説明: IMSplex 環境で、IMS が Resource Manager から構造再移植ディレクティブを受け取りました。IMS は、ローカル側で既知のすべてのリソースを使用して、リソース構造の再移植を開始しているか、完了したかのどちらかです。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRMSR0

第 92 章 DFS メッセージ、DFS4451I - DFS4500E

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4451I LOGON REJECTED, NODE xxxxxxxx, RC=yy

説明: IMSplex 環境で、VTAM 端末 (xxxxxxx) が IMS にログオンを試み、IMS がその端末を Resource Manager (RM) に登録しようとした。しかし、IMS は、そのログオンの試みをリジェクトしました。ほとんどのログオン失敗は、前のログオンか、出されたコマンドによってノードがすでに RM に登録されていることと、状態データ検査が失敗したことの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

IMS が RM に登録しようとした VTAM 端末。

yy 失敗の理由コード。下記のリストに理由コードとその意味が示してあります。

理由 意味

- 01 ノードは停止しました。
- 02 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (静的端末と動的端末) が生じています。
- 04 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (単一セッションと並列セッション) が生じています。
- 05 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (ノードの装置タイプ) が生じています。
- 06 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (出力専用 (CTB4OUTP)) が生じています。
- 07 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (出力専用 (CTBCPRT1)) が生じています。
- 08 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (MFS 使用 (CTT2DIT)) が生じています。
- 09 そのノードは、すでに別のアクティブ IMS システムにログオンしています。
- 0A ノードは別の IMS システムにすでにログオンされていますが、この IMS は、所有する側のシステムの状態を判別できません。

- 0B 静的ノード・ユーザー・リソース DATA2 のデータは、無効です。
- 0C 静的ノード・ユーザー・リソースのデータは、無効です。
- 0D 静的ノード・ユーザー・リソースのデータは、無効です。
- 0E ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (割り当てられた LTERMS の数) が生じています。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない。/ASSIGN コマンドの使用には各 IMS システムで一貫性がなければなりません。
- 0F ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (ノードの装置タイプ) が生じています。
- 10 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (割り当てられた LTERM の順序) が生じています。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない。/ASSIGN コマンドの使用には各 IMS システムで一貫性がなければなりません。
- 11 LOCAL 状況リカバリー・モードのノードが、IMSplex 内の別のシステムによって所有されています。そのノードを所有する IMS は失敗しましたが、ユーザー・ログオン出口 DFSLGNX0 は、この状態でログオンが続行可能であることを示しませんでした。
- 12 ノードは別の IMS システムにすでにログオンされていますが、この IMS は、所有する側のシステムの状態を判別できません。
- 13 そのノードは、すでに別のアクティブ IMS システムにログオンしています。
- 14 ローカル定義と RM 定義の間に不一致が生じています。RM で割り当てられている LTERM がローカル・システムで見つかりません。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない。/ASSIGN コマンドの使用には各 IMS システムで一貫性がなければなりません。

- 15 ローカル定義と RM 定義の間に不一致 (静的/動的 LTERM) が生じています。
- 16 ローカル定義と RM 定義の間に不一致が生じています。ローカル・システムで割り当てられた LTERM が RM に存在していますが、異なるノードに割り当てられています。静的端末および LTERM 定義は整合していなければならない、/ASSIGN コマンドの使用には各 IMS システムで一貫性がなければなりません。
- 17 システム・エラーが発生しました。DFSPOOL GET ストレージ要求が失敗しました。
- 18 RM システム・エラーが発生しました。RM は CSLRMUPD 要求に出力を戻していません。
- 19 RM システム・エラーが発生しました。CSLRMUPD 要求に戻された出力に、無効なデータが含まれていました。
- 1A IMS は、ノードまたは LTERM を登録しようとしたのですが、それはすでに、同じ名前タイプ・グループ内の異なるリソース・タイプとして RM に登録されていました。メッセージ DFS4446E も出されます。
- 1B 認識されない条件コードが CSLRMUPD 出力リスト項目に戻されました。
- 1C 認識されない戻りコードまたは理由コードが CSLRMUPD 要求に戻されました。メッセージ DFS3308E も出す必要があります。
- 1D IMS はノードおよび LTERM の登録を試みましたが、特定のリカバリー可能エラーが発生した後に失敗しました。IMS は登録を再試行しましたが、再試行の限度に到達しました。
- 1E ノードは RM にユーザー情報を持っていましたが、ユーザー・リソースが RM に検出できませんでした。これは一時条件です。端末ログオンを再試行してください。
- 1F LOCAL 状況リカバリー・モードの STSN ノードが、IMSplex 内の別のシステムによって所有されています。所有する側の IMS は失敗しましたが、ユーザー・ログオン出口
- DFSLGNX0 は、この状態でログオンが続行可能であることを示していません。
- 20 高速機能応答モードのユーザーが、高速機能に対応していないか EMHQ 構造を使用していない IMS システムにログオンしようとした。
- 21 Resource Manager は使用不可です。
- 22 リソース構造は使用不可です。
- 23 動的 SLUP または FINANCE 端末がウォーム・セッション開始を試行しましたが、RM からの情報の処理中にエラーが発生しました。端末ログオンを再試行してください。
- 24 ISC 端末がウォーム・セッション開始を試行しましたが、RM からの情報の処理中にエラーが発生しました。端末ログオンを再試行してください。
- 25 IMS は Resource Manager からエラー戻りコードを受け取りましたが、エラーは一時的なものに見なされます。ログオンを再試行してください。

システムの処置: ログオンの試行はリジェクトされます。

オペレーターの応答: 戻りコードで指摘された、ログオンを妨げている問題を訂正してから、ログオンを再試行してみてください。/DISPLAY コマンドを使用して、IMSplex 内の各システムの各端末の状況を判別してください。

モジュール: DFSSLON0

**DFS4452I RESOURCE CLEANUP
STARTING | COMPLETE FOR xxxx**

説明: IMS は、IMSplex 環境内で終了したときは、Resource Manager (RM) 内に保守していたリソースをクリーンアップする必要があります。IMS が正常に終了したときは、シャットダウンのときに IMS がクリーンアップを行います。IMS が異常終了したときは、IMSplex 内に残っている IMS がクリーンアップを行います。ほかにアクティブな IMS が存在しない場合は、失敗した IMS が再始動のときにクリーンアップを行います。

このメッセージは、終了する IMS のためのクリーンアップ処理を IMS が開始したときと完了したときを示します。終了する IMS は、その IMS ID、xxxx で示されています。

システムの処置: クリーンアップが別の IMS によって行われる場合、クリーンアップ処理は非同期で実行され、通常のオンライン処理が続行されます。クリーンア

ップが、終了するか再始動する IMS によって行われる場合は、クリーンアップが完了した後に、通常のシャットダウンまたは再始動が再開されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRMCL0

**DFS4453I LTERM MSGQ|EMHQ MESSAGES
UNLOCKED FOR xxxx**

説明: IMS が IMSplex 環境内で異常終了したときは、MSGQ または EMHQ 構造からロックされた LTERM メッセージをアンロックして、IMSplex 内の別の IMS システムにアクセスする端末またはユーザーがそれらのメッセージを使用できるようにする必要があります。IMSplex 内に残っているIMS が、リソースのクリーンアップと共に、メッセージをアンロックします。さらに、再始動する IMS は、CQS に接続したとき、残っているメッセージをアンロックします。その結果、適切な CQS のクリーンアップが行われます。

メッセージ・テキストには、MSGQ または EMHQ のどちらのメッセージがアンロックされたかが示されています。変数 xxxx は、メッセージがアンロックされたシステムを示しています。

システムの処置: アンロック処理が別の IMS によって行われる場合、アンロック処理は非同期で実行され、通常のオンライン処理が継続されます。アンロック処理が再始動する IMS によって行われる場合は、アンロックが完了した後、正常再始動が再開されます。

モジュール: DFSRMCL0

**DFS4454A WAITING FOR xxxx TO COMPLETE
RESOURCE CLEANUP, REPLY,
RETRY OR CANCEL**

説明: IMSplex 内の別の IMS が、初期設定を行う IMS のためにクリーンアップを行っているときは、IMS の初期設定中にこの要応答オペレーター宛メッセージ (WTOR) が発行されます。IMS は、クリーンアップが完了するまで初期設定を続行できません。

RETRY で応答すると、IMS は初期設定を完了しようとして、CANCEL を応答すると、IMS はユーザー異常終了 3308 で異常終了します。


システムの処置: IMS は、WTOR への応答が入力されるまで待ちます。

オペレーターの応答: クリーンアップを行っているシステムの状況を判別してください。そのシステムは、完了時にメッセージ DFS4452I を出すはずですが、メッセージ DFS4452I が出されてから、RETRY を入力してください。システムがクリーンアップを完了できない場合

は、システムを終了してください。これによって、初期設定する IMS が再始動できるようになります。

モジュール: DFSRMCL0

関連情報:

 IMS 異常終了 3308

**DFS4455E RESOURCE CLEANUP ERROR FOR
xxxx, RC=yy**

説明: 終了または初期設定を行う IMS システムのために、リソースのクリーンアップまたはメッセージのアンロックが行われていた間にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx 終了または初期設定を行うシステムの IMS ID。

yy エラーの理由コード。下記のリストに理由コードとその意味が示してあります。

理由 意味

- | | |
|----|---|
| 01 | システム・エラーが発生しました。DFSPPOOL GET ストレージ要求が失敗しました。 |
| 02 | MSGQ LTERM メッセージがアンロックされるときに CQS が出すエラー戻りコード。 |
| 03 | EMHQ LTERM メッセージがアンロックされるときに CQS が出すエラー戻りコード。 |
| 04 | Resource Manager (RM) のノード・リソースがクリーンアップされていた間のエラー。 |
| 05 | RM のユーザー・リソースがクリーンアップされていた間のエラー。 |
| 06 | RM のユーザー ID リソースがクリーンアップされていた間に発生したエラー。 |
| 07 | IMS が CQS に登録されていないために、MSGQ および EMHQ メッセージをアンロックできませんでした。 |
| 08 | IMS が MSGQ 構造に接続されていないために、MSGQ LTERM メッセージをアンロックできませんでした。 |
| 09 | IMS が EMHQ 構造へ接続されていないために、EMHQ LTERM メッセージをアンロックできませんでした。 |

システムの処置: IMS は処理を続行します。

プログラマーの応答: 単純チェックポイントを出して、クリーンアップ処理を再実行できます。問題が持続する場合は、正しくクリーンアップされなかった IMS シ

DFS4456A • DFS4462E

システムを再始動するか、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSRMCL0

DFS4456A RESOURCE STRUCTURE FAILED

説明: IMS が Resource Manager から「resource structure failed」ディレクティブを受け取りました。

システムの処置: 限定されたオンライン処理は継続できますが、端末およびユーザー・リソースの状況は、リソース構造が使用可能になるまでコミットできません。そのときまで、新規の端末またはユーザーは IMS にアクセスできず、端末またはユーザー・アクセスがハングする可能性があります (IMS のシャットダウン中も含まれます)。

オペレーターの応答: リソース構造に関する問題を判別して、訂正してください。

モジュール: DFSRMSR0

DFS4457E RM REGISTRATION FAILED, NAME=xxxxxxx

説明: IMS が IMSplex 内の Resource Manager (RM) に登録しようとしたのですが、登録がリジェクトされました。エラーの戻りコードと理由コードが示されたメッセージ DFS3308E も発行されます。

メッセージ・テキスト内の xxxxxxx は、登録が失敗した Resource Manager の名前です。

システムの処置: IMS は処理を続行します。ほかにアクティブな RM システムがあれば、IMS はそれらのシステムとの通信を続行することができます。

オペレーターの応答: RM が登録をリジェクトした理由を判別してください。該当の RM システム上で、SCI、RM、および CQS が正しく作動しているかどうかを判別してください。必要であれば、RM を再始動してください。

モジュール: DFSCSL40

関連情報:

802 ページの『DFS3308E』

DFS4461E NEITHER AN ACB LIBRARY OR A CATALOG IMPORT DATA SET IS SPECIFIED IN THE UTILITY JCL.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) には、入力として ACB ライブラリーまたはカタログ・インポート・データ・セットのいずれかが必要ですが、ユーティリティの JCL には、いずれの

タイプの入力の DD ステートメントも含まれていません。

ACB ライブラリーを入力タイプとして指定するには、IMSACB01 DD ステートメントが必要です。カタログ・インポート・データ・セットを入力として指定するには、CCUCATIM DD ステートメントが必要です。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。IMS カタログに対して、レコードはロードも挿入もされませんでした。


プログラマーの応答: DFS3PU00 ユーティリティの JCL に、IMSACB01 DD ステートメントまたは CCUCATIM DD ステートメントを指定してください。

IMSACB01 DD ステートメントは、単一 ACB ライブラリーまたは連結した ACB ライブラリーを参照する必要があります。追加の IMSACB m DD ステートメントを指定する場合、ddnames は、最後の 2 つの文字位置に、増加した数値を中間の値なしで使用する必要があります。例えば、IMSACB02、IMSACB03、IMSACB04 のように使用します。

CCUCATIM DD ステートメントは、IMS カタログのコピーが含まれているカタログ・インポート・データ・セットを参照する必要があります。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4462E FAILURE OPENING THE ACBLIB WITH DDNAME IMSACBxx. OPEN RC = rc.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のために ACB ライブラリー・データ・セットを開くことができませんでした。ACB ライブラリーは、メッセージに示すように、ユーティリティの JCL で、ddname および IMSACBxx によって参照されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


rc ACB ライブラリーのオープン失敗時に、DFS3PU00 ユーティリティが z/OS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。
xx オープンに失敗した ACB ライブラリーを参照する ddname の最後の 2 文字を構成する数値。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。レコードは、IMS カタログにロードも挿入もされません。

プログラマーの応答: メッセージ・テキストで識別された DD ステートメントが ACB ライブラリー・データ・セットを正しく参照しているか調べてください。エラーが訂正されたら、DFS3PU00 ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4463E FAILURE OPENING THE ACBLIB WITH DDNAME IMSACBxx TO READ THE DIRECTORY. OPEN RC = rc.


説明: Catalog Populate ユーティリティが、ディレクトリーから ACBLIB メンバーを識別するための ddname IMSACBxx を指定した DD ステートメントで ACBLIB を開こうとして、OPEN マクロ命令からの戻りコード rc を検出しました。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答: ddname IMSACBxx を指定した DD ステートメントで ACBLIB を参照していることを確認してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4464E FAILURE OPENING THE ACBGEN CATALOG WORK FILE. (DDNAME ACBCATWK) OPEN RC = rc

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ACBCATWK DD ステートメントで参照される ACB 生成作業ファイルを開こうとして、OPEN マクロ命令から戻りコード rc を受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。


システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答: ddname ACBCATWK を指定した DD ステートメントが、ACB 生成時に作成された順次ファイルを参照していることを確認してください。作

業ファイルには、カタログ・レコードを作成する ACB ライブラリー・メンバーのリストが含まれています。DD ステートメントに DCB 情報を提供する必要はありません。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: OPEN 戻りコード

DFS4465W THE JCL IS MISSING AN IMS DD STATEMENT FOR THE PSB LIBRARY THAT CONTAINS PSB psb-name

説明: メッセージ・テキストの *psb-name* で識別された PSB が GSAM データベースを参照しましたが、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) の JCL に、PSB ライブラリーの IMS DD ステートメントが含まれていません。PSB が GSAM データベースを参照する場合、ユーティリティの JCL には、オリジナルの PSB メンバーが含まれた PSB ライブラリーのデータ・セットを識別する IMS DD ステートメントが含まれていなければなりません。

DFS3PU00 ユーティリティでは、GSAM データベースを参照する PSB の IMS カタログに PSB レコードを作成するために、オリジナルの PSB メンバーにアクセスする必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb-name


GSAM データベースを参照する PCB が含まれている PSB。

システムの処置: PSB *psb-name* に対しても、PCB が PSB で参照するいずれの GSAM データベースに対しても、カタログ・レコードは作成されません。ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントに ddname IMS を指定し、このステートメントで PSB *psb-name* と参照される GSAM DBD が含まれた IMS.PSBLIB と IMS.DBDLIB を参照するように設定した上で、Catalog Populate ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4466W PSB *psb-name* WAS NOT FOUND IN PSBLIB. BLDL RC = *rc*. THE PSB WAS NOT ADDED TO THE CATALOG.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、GSAM PCB が含まれる PSB *psb-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.PSBLIB から PSB を読み取ろうとしましたが、BLDL マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、IMS.PSBLIB に PSB が入っていないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb-name

GSAM データベースを参照する PCB が含まれている PSB。

rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS BLDL マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置: PSB *psb-name* に対しても、PCB が PSB で参照したいずれの GSAM データベースに対しても、カタログ・レコードは作成されませんでした。ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントに *ddname* IMS を指定し、このステートメントで PSB *psb-name* と参照される GSAM DBD が含まれた IMS.PSBLIB と IMS.DBDLIB を参照するように設定した上で、Catalog Populate ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: BLDL の完了コード

DFS4467W ERROR LOADING PSB *psb-name* FROM PSBLIB. LOAD RC = *rc*. THE PSB WAS NOT ADDED TO THE CATALOG.

説明: GSAM PCB が含まれる PSB *psb-name* のカタログ・レコードを作成するために、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS.PSBLIB から PSB を読み取ろうとしましたが、LOAD マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、メンバーの *psb-name* が標準の PSBGEN プロセスによって作成されたロード・モジュールでなかったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb-name

GSAM データベースを参照する PCB が含まれている PSB。

rc z/OS DFSMS LOAD マクロ命令から DFS3PU00 ユーティリティが受け取った戻りコード。

システムの処置: *psb-name* に対しても、PSB で PCB が使用するすべての GSAM データベースに対してもカタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: PSB *psb-name* と参照される GSAM DBD が含まれた IMS.PSBLIB および IMS.DBDLIB データ・セットを IMS DD ステートメントで参照するようにコーディングしてください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: LOAD - 仮想ストレージへのロード・モジュールのロード

DFS4468E THE PSB OR DBD LIBRARY DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = *rc*.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、*ddname* に IMS を指定した DD ステートメントで参照する PSBLIB および DBDLIB を開こうとして、OPEN マクロ命令からの戻りコード *rc* を検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答: *ddname* IMS を指定した DD ステートメントが、ユーザーの IMS.PSBLIB と IMS.DBDLIB との連結を参照していることを確認してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: OPEN 戻りコード

DFS4469W THE JCL IS MISSING AN IMS DD STATEMENT FOR THE DBD LIBRARY THAT CONTAINS DBD *dbd-name*

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、論理 DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードを作成しようとしたが、DFS3PU00 の JCL に DBD ライブラリーの IMS DD ステートメントが含まれていません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-name


DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログにレコードを作成できなかった DBD。

システムの処置: DBD *dbd-name* に対しても、このデータベースを参照する PCB が含まれるすべての PSB に対しても、カタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントに *ddname* IMS を指定し、このステートメントで DBD *dbd-name* が含まれた IMS.DBDLIB を参照するように設定した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4470W GSAM DBD *dbd-name* NOT IN DBDLIB. BLDL RC = *rc*. DBD AND REFERENCING PSBS WERE NOT ADDED TO THE CATALOG.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、GSAM DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.DBDLIB から DBD を読み取ろうとしたが、BLDL マクロ命令から戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、IMS.DBDLIB に DBD が入っていないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-name


DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログにレコードを作成できなかった GSAM DBD。

システムの処置: DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードは作成されませんでした。ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: DFS3PU00 ユーティリティの JCL 内の IMS DD ステートメントによって、必要な DBD ライブラリーが正しく参照されるようにしてください。DBD ライブラリーが正しく参照されている場合、DBD Generation ユーティリティで必要な DBD メンバーが生成されていることを確認してください。訂正の完了後、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: BLDL の完了コード

DFS4471W LOGICAL DBD *dbd-name* NOT IN DBDLIB. BLDL RC = *rc*. THE DBD AND REFERENCING PSBS WERE NOT ADDED TO THE CATALOG.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、論理 DBD *dbd-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.DBDLIB から DBD を読み取ろうとしたが、BLDL マクロ命令から戻りコード *rc* を検出しました。これはおそらく、IMS.DBDLIB に DBD が入っていないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-name

ユーティリティの JCL で参照される DBD ライブラリーで DFS3PU00 ユーティリティが検出しなかった論理 DBD の名前。

rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS BLDL マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置: DBD *dbd-name* に対しても、このデータベースを参照する PCB が含まれるすべての PSB に対しても、カタログ・レコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: DFS3PU00 ユーティリティの JCL 内の IMS DD ステートメントによって、必要な DBD ライブラリーが正しく参照されるようにしてください。DBD ライブラリーが正しく参照されている場合、DBD Generation ユーティリティで必要な DBD メンバーが生成されていることを確認してください。訂

DFS4472W • DFS4474E

正の完了後、ユーティリティを再実行します。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: BLDL の完了コード

DFS4472W ERRORS READING *dbd-count* GSAM OR LOGICAL DBDS. METADATA FOR PSB *psb-name* WAS NOT WRITTEN IN THE IMS CATALOG.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、PSB *psb-name* に対するカタログ・レコードを作成するために、IMS.DBDLIB データ・セットから 1 つ以上の GSAM または論理 DBD メンバーを読み取ろうとしました。これは、このデータベースが、PSB 内の PCB で参照されていたためです。IMS.DBDLIB データ・セットから DBD メンバーを読み取ることができなかったか、メンバーからカタログ・レコードへの変換中にエラーが検出されました。このエラー・メッセージの *dbd-count* の位置に、DBD メンバーのエラー数が表示されます。

このエラー・メッセージの前に DFS3PU00 ユーティリティによって発行されるエラー・メッセージで、DBD メンバーの特定のエラーが識別されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd-count

読み取れなかったかエラーが含まれていた、GSAM または論理 DBD メンバーの数。

psb-name

DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログに PSB レコードを作成できなかった PSB の名前。

システムの処置: PSB メンバー *psb-name* に対して、正しく処理できなかったいずれの DBD に対しても、IMS カタログにレコードは作成されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: このメッセージの前に DFS3PU00 ユーティリティで発行されたエラー・メッセージを調べてください。先行するエラー・メッセージは、*dbd-count* の位置に表示された数と少なくとも同数を検索してください。すべてのエラーが訂正されたら、DFS3PU00 Catalog Populate ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4473E DCPL RETURN CODE *ret_code* FROM DECODER-BUILDER PROCESSING MEMBER *resource-name*

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、DBD メンバーまたは PSB メンバーの *resource-name* の処理中に、内部デコーダー・ビルダー・パラメーター・リスト (DCPL) に認識されない戻りコードを受け取りました。これは、内部 IMS エラーです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ret_code

DCPL からの認識されない戻りコード。

resource-name

エラー検出時に DFS3PU00 ユーティリティが処理していた、DBD メンバーまたは PSB メンバー。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、他の DBD メンバーおよび PSB メンバーの処理を続行し、戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4474E UNEXPECTED STATUS CODE *status-code* INSERTING THE RECORD FOR *resource-name* IN THE CATALOG.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、エラー・メッセージの *resource-name* で識別された DBD または PSB メンバーのセグメントを IMS カタログに挿入するための DL/I 呼び出しの作成中に、予期しない PCB 状況コードを受け取りました。状況コードは、以下のいずれかのエラーを示す場合があります。

- IMS システム・エラー
- IMS カタログを定義する DBD のいずれか、または IMS カタログへのアクセスを提供する PSB のいずれかの構造上のエラー

- IMS カタログのコンテンツに対するサポートされない操作

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resource-name

エラー発生時に DFS3PU00 ユーティリティが IMS カタログに挿入しようとしていた DBD または PSB の名前。

status-code


DFS3PU00 ユーティリティが受け取った DL/I PCB の状況。


システムの処置: Catalog Populate ユーティリティは、ユーザー異常終了コード 1002 で失敗し、続いて戻りコード 16 を返します。ユーザーの JCL に SYSUDUMP、SYSABEND、または SYSMDUMP の DD ステートメントがある場合は、ダンプが生成されません。

プログラマーの応答: IMS カタログの DBD、DFSCD000、および DFSCX000 がユーザーの IMS.DBDLIB に正しくインストールされており、IMS カタログの PSB、DFSCP000、DFSCP001、および DFSCPL00 がユーザーの IMS.PSBLIB に正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 DL/I 状況コードの生命 (メッセージおよびコード)

DFS4475E ERROR ATTACHING DFSRRC00, PROGRAM *pgm-name*.ATTACH RC =rc.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、*pgm-name* と呼ばれる IMS システムの内部インスタンスに接続しようとしたときに、MVS ATTACH マクロ命令が戻りコード *rc* を返しました。ここで、*pgm-name* は DFS3PU01 または DFS3PU03 のいずれかです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

pgm-name

エラー発生時に DFS3PU00 ユーティリティが接続しようとしていたプログラムの名前。


rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS MVS ATTACH マクロから受け取った戻りコード。


システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: z/OS の資料で MVS ATTACH マクロの戻りコードを調べます。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: ATTACH および ATTACHX の戻りコードおよび理由コード

DFS4476E ERROR ATTACHING DFSUPNT0. ATTACH RC =rc.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、カタログのいずれかの区画の初期設定を行うために IMS システムの内部インスタンスに接続しているときに、MVS ATTACH マクロ命令から戻りコード *rc* を受け取りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS MVS ATTACH マクロから受け取った戻りコード。


システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: z/OS の資料で MVS ATTACH マクロの戻りコードを調べます。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: ATTACH および ATTACHX の戻りコードおよび理由コード

**DFS4477E ABEND cccc COLLECTING CATALOG
STRUCTURE INFORMATION FOR
DBD|PSB name**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のサブタスクで、異常終了 cccc が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc DFS3PU00 ユーティリティのサブタスクで発生した異常終了の番号。

名前 異常終了時に処理中であった DBD または PSB の名前。異常終了が特定の DBD 名または PSB 名に起因すると判別できない場合は、テキスト「FOR DBD|PSB name」は存在しません。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: 該当する資料で異常終了について調べてください。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連概念:

➡ IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4478E ABEND cccc INSERTING A
CATALOG RECORD FOR DBD|PSB
name**

または

何らかの不明なエラーにより **DFS4478E** 異常終了 cccc が発生しました。

説明: カタログ・レコードをカタログに挿入する、またはカタログ内のカタログ・レコードを更新する IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のサブタスクで、異常終了 cccc が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc DFS3PU00 ユーティリティのサブタスクで発生した異常終了の番号。

名前 異常終了時にインスタンスが挿入中であった DBD または PSB の名前。異常終了が特定の

DBD 名または PSB 名に起因すると判別できない場合は、テキスト「INSERTING A CATALOG RECORD FOR DBD|PSB name」は存在しません。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: 該当する資料で異常終了について調べてください。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連概念:

➡ IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

関連情報:

➡ 1002 (メッセージおよびコード)

**DFS4479E ABEND cccc IN PARTITION
INITIALIZATION SUBTASK.**

説明: カタログの区画の 1 つを初期設定する IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) のサブタスクで、異常終了 cccc が発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cccc DFS3PU00 ユーティリティのサブタスクで発生した異常終了の番号。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: 該当する資料で異常終了について調べてください。DFS3PU00 ユーティリティを実行するための JCL が正しいことを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連概念:

➡ IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4480E INCORRECT EXECUTION
PARAMETERS PASSED TO
DFS3PU00.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、誤った JCL EXEC ステートメントで呼び出されました。PGM パラメーターに不正な名前があったか、PARM パラメーターの情報に誤りがありました。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答: JCL を訂正し、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。EXEC ステートメントの PGM パラメーターは、DFSRR00 ではなく DFS3PU00 を指定しなければなりません。PARM パラメーターには、以下のように指定する必要があります。


- 領域タイプとして DLI、DBB、または BMP
- PSB 名として DFSCPL00、DFSCP001、または DFSCP000
- プログラム名 DFS3PU00

例えば、次のようになります。

```
EXEC PGM=DFS3PU00,
PARM=(DLI,DFS3PU00,DFSCPL00,.....Y,N,.....'DFSDF=001')
```

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4481E UNEXPECTED STATUS CODE
status-code ON PARTITION
INITIALIZATION OF CATALOG
DATABASE catalog-dbd.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS カタログ・データベースの区画を初期設定する DL/I 呼び出しの発行後に、予期しない PCB 状況コードを受け取りました。状況コードは、以下のいずれかのエラーを示す場合があります。

- IMS エラー
- IMS カタログを定義する DBD のいずれか、または IMS カタログへのアクセスを提供する PSB のいずれかの構造上のエラー
- IMS カタログのコンテンツに対するサポートされない操作

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

catalog-dbd

状況コードを受け取ったときに DFS3PU00 ユ

ーティリティが初期設定しようとしていた区画が含まれている IMS カタログ・データベースの名前。

status-code


ユーティリティの JCL で参照される DBD ライブラリーで DFS3PU00 ユーティリティが検出しなかった論理 DBD の名前。


システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で終了します。

プログラマーの応答: IMS カタログの DBD、DFSCD000、および DFSCX000 がユーザーの IMS.DBDLIB に正しくインストールされており、IMS カタログの PSB、DFSCP000、DFSCP001、および DFSCPL00 がユーザーの IMS.PSBLIB に正しくインストールされていることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 DL/I 状況コードについて (メッセージおよびコード)

**DFS4482E THE PSB USED TO INVOKE THE
DFS3PU00 UTILITY REFERS TO A
CATALOG WITH AN UNEXPECTED
STRUCTURE.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、自身の内部論理と IMS カタログの DBD との間に不整合を検出しました。この DBD は、DFS3PU00 ユーティリティの JCL の EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定される PSB で参照されるものです。この不整合とは、例えば、DBD のセグメント名やセグメント数、副次索引の数が予想と異なっているなどです。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティはカタログを更新しませんでした。戻りコード 20 で終了します。


プログラマーの応答: IMS カタログの DBD、DFSCD000、および DFSCX000 がユーザーの IMS.DBDLIB に正しくインストールされており、IMS カタログの PSB、DFSCP000、DFSCP001、および DFSCPL00 がユーザーの IMS.PSBLIB に正しくインストールされていることを確認してください。

DFS3PU00 ユーティリティの JCL が正しくコーディングされていることを確認してください。この JCL で

IMS カタログの PSB の 1 つを指定しなければならず、また、IMS カタログ自体の DBD と PSB が含まれているデータ・セットの IMS.DBDLIB、IMS.PSBLIB、および IMS.ACBLIB を参照しなければなりません。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4483E CATALOG DATA SET CREATION OR VALIDATION FAILED FOR THE DATA SET WITH DDNAME
catalog-dbds

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS カタログのデータベース・データ・セットを作成しようとしたが、以下のいずれかのエラーが検出されました。

- エラー・メッセージの ddname で識別されたデータベースのデータ・セットに対するデータ・セットの作成に失敗した
- エラー・メッセージの ddname が示している IMS カタログのデータベースのデータ・セットはすでに存在しているが、その特性がデータ・セットの新しい要件を満たしていない

ジョブの出力には、この問題を正確に説明する 1 つ以上のメッセージが記載されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

catalog-dbds


IMS カタログに対して作成または検証ができなかったデータベースのデータ・セットの ddname。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、カタログへのロードを行わず、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答: ジョブの出力のメッセージを確認し、必要な訂正を行ってください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4484E THERE WAS NO VOLUME SERIAL NUMBER TO CREATE THE DATA SET WITH DDNAME *catalog-dbds*

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、エラー・メッセージの ddname で識別された、IMS カタログ・データベースのデータ・セットを作成しようとした。このデータ・セットは、SMS 管理対象でない VSAM キー順データ・セット (KSDS) のため、ボリューム通し番号を指定する必要がありますが、指定されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

catalog-dbds

DFS3PU00 ユーティリティによって作成できなかった、データベースのデータ・セットの ddname。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、カタログへのロードを行わず、戻りコード 12 で終了します。

プログラマーの応答: IMS.PROCLIB データ・セットの適切な DFSDFxxx メンバーのカタログ・セクションの IXVOLSER パラメーターにボリューム通し番号をコーディングするか、IMS Catalog Definition ユーザー出口ルーチン (DFS3CDX0) に IXVOLSER を設定してください。IXVOLSER パラメーターで定義する単一ボリューム・シリアル番号は、次に挙げる IMS カタログ・データベースのすべての VSAM KSDS を作成するために、DFS3PU00 ユーティリティが使用します。

- 間接リスト・データ・セット (ILDS)
- 1 次索引データ・セット
- 副次索引データ・セット

複数のボリューム間にデータ・セットを分散させるなど、IMS カタログのデータベース・データ・セットの配置に関する制御を強化するために、データ・セットを独自に作成することができます。IMS カタログのデータ・セットのスペース所要量を見積もるために、DFS3PU00 ユーティリティを分析専用モードで実行することができます。

別のオプションでは、データ・セットを SMS 管理対象とすることを指定します。この場合は、ボリュームのシリアル番号を指定する代わりに、SMS ストレージ・クラス、データ・クラス、および管理クラスのパラメーターを DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたは DFS3CDX0 ユーザー出口ルーチンでコーディングします。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー (システム定義)

➡ IMS カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) (出口ルーチン)

DFS4485E THE CATALOG WAS NOT ENABLED.

説明: IMS カタログは、この IMS システムでは使用可能ではありません。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) は戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答: 次のいずれかの方法で IMS カタログを使用可能にしてください。

- オンラインの IMS システムに対しては、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの IMS カタログ・セクションで行う。
- バッチ・ジョブ DLI または DBB に対しては、DFS3PU00 ユーティリティの JCL の EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定されている DFSDFxxx メンバーの IMS カタログ・セクションで行う。
- バッチ・ジョブ DLI または DBB に対しては、ユーザーのシステムで IMS.SDFSRESL データ・セットにインストールされた IMS Catalog Definition ユーザー出口ルーチン (DFS3CDX0) で行う。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4486E THERE IS NO CATALOG PARTITION FOR THE RECORD WITH ROOT KEY "root-key".

説明: IMS カタログの更新またはロード以前の、入力 ACB ライブラリーの分析中に、IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS カタログの区画の最も高位のハイ・キーより高いレコード・キーが必要な DBD または PSB メンバーを検出しました。現行の区画定義では、エラー・メッセージで識別されているレコードを IMS カタログに含めることはできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

root-key

IMS カタログのすべての区画に定義されている最も高位のハイ・キーよりも高い、ルート・セグメントのキー。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、異常終了コード U1002-0C で異常終了します。

プログラマーの応答: 最高位の区画のハイ・キーで、いずれの DBD または PSB メンバーで必須のカタログ・レコードに指定可能な最高位のルート・キーでも対応できるように、IMS カタログの区画の定義を訂正してください。

IMS カタログ・レコードのルート・キーは、『DBD』または『PSB』で始まる 8 文字のストリングで構成され、これに 8 文字の DBD または PSB の名前が続きます。最後または唯一の区画には、可能なすべての PSB 名を含むことができる十分に高位のハイ・キー値がなければなりません。

モジュール: DFS3PU00

関連タスク:

➡ 区画のハイ・キーの変更 (データベース管理)

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4487E THERE IS A PARTITION SELECTION EXIT FOR THE CATALOG, BUT THIS IS NOT ALLOWED.

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、IMS カタログ・データベースの HALDB マスター・データベース定義に HALDB 区画選択出口ルーチンが指定されていることを検出しました。IMS カタログでは、HALDB 区画選択出口ルーチンをサポートしていません。


システムの処置: Catalog Populate ユーティリティは戻りコード 20 で終了します。

プログラマーの応答: 区画選択出口ルーチンではなく、キー範囲の区画選択を指定するように HALDB マスター・データベースの定義を変更してください。DBRC コマンドの CHANGE.DB を使用できます。

IMS カタログの最後または唯一の区画のハイ・キー値を定義する場合、この値は、可能なすべての PSB 名を含めることができる十分に高位の値にする必要があります。カタログ内のルート・キーは、『DBD』または『PSB』で始まる 8 文字のストリングで構成され、これに 8 文字のメンバー名が続きます。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4488W THE FORMAT OF THE DBD OR PSB MEMBER *member-name* IS NOT RECOGNIZED.

説明: エラー・メッセージの *member-name* の位置で識別されているメンバーの形式が予想された形式と一致していません。このエラーの原因としては、DBD または PSB のメンバーが廃止された形式を使用しているか、ターゲット・データ・セット内のメンバーが DBD または PSB のメンバーでないことが考えられます。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) は、エラー・メッセージで識別されたメンバーのレコードを IMS カタログに作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードの IMS カタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: IMS DD ステートメントが正しい IMS.DBDLIB および IMS.PSBLIB のデータ・セットを参照していることを確認してください。IMSACB*nn* DD ステートメントが正しい IMS.ACBLIB データ・セットを参照していることを確認してください。必要な場合は、エラーを訂正した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3PDBD、DFS3PPSB、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4489W AN ACB MEMBER CONTAINS INCOMPLETE INFORMATION FOR A VIRTUALLY PAIRED SEGMENT: DBD=*dbd-name*

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ACB ライブラリーの処理中に、仮想的な対セグメントに関する不完全な情報が含まれた DBD を検出しました。DBD はエラー・メッセージで識別されています。

IMS カタログをサポートしない IMS システムによって ACB メンバーが作成されたため、ACB ライブラリーの DBD は不完全です。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、エ

ラー・メッセージで識別された DBD に対し、IMS カタログにレコードを作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードの IMS カタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。


プログラマーの応答: 次のユーティリティ制御ステートメントを指定した ACB 生成ユーティリティを実行して、エラー・メッセージで識別された DBD に ACB メンバーを再作成してください。


BUILD DBD=(*dbd-name*),BLDPSB=NO

ACB メンバーが再作成されたら、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3DBD0、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティ
(システム・ユーティリティ)

DFS4490W AN ACB MEMBER CONTAINS AN INCOMPLETE REFERENCE TO A SECONDARY INDEX: PSB=*psb-name*

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、ACB ライブラリーの処理中に、副次索引の参照に関する不完全な情報を含む PSB を検出しました。PSB はエラー・メッセージで識別されています。

ACB ライブラリーの PSB は、IMS カタログをサポートしない IMS システムによって作成されたものであるため、不完全です。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、エラー・メッセージで識別された PSB に対し、IMS カタログにレコードを作成しません。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了します。


プログラマーの応答: 次のユーティリティ制御ステートメントを指定した ACB 保守ユーティリティを実行して、エラー・メッセージで識別された PSB に ACB メンバーを作成してください。


BUILD PSB=*psb-name*

ACB メンバーが再作成されたら、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3PCTL、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 アプリケーション制御ブロック保守ユーティリ
ティー (システム・ユーティリティ)

**DFS4491W AN INVALID DBD NAME WAS
FOUND IN MEMBER *member-name***


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) が、エラー・メッセージで識別されている
DBD または PSB 内部に、DBD の命名要件を満たして
いない DBD 名が参照されていることを検出しました。
このエラーはおそらく、IMS ソフトウェア・エラーで
す。

システムの処置: メンバーにカタログ・レコードは作成
されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他
のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4
で終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントに *ddname*
IMS を指定し、無効な DBD 名が含まれたユーザーの
IMS.DBDLIB または IMS.PSBLIB を参照するように指
定した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行して
ください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェ
ア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3DBD0、DFS3DEDB、
DFS3GSAM、DFS3INDX、DFS3LOG0、
DFS3MSDB、DFS3SDBD、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4492W AN INVALID SEGMENT NAME WAS
FOUND IN MEMBER *member-name***

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) が、エラー・メッセージで識別されている
DBD または PSB 内部に、セグメントの命名要件を満
たしていないセグメントを検出しました。このエラーは
おそらく、IMS ソフトウェア・エラーです。


システムの処置: メンバーにカタログ・レコードは作成
されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他
のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4
で終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントに *ddname*
IMS を指定し、メンバーが含まれたユーザーの
IMS.DBDLIB または IMS.PSBLIB を参照するように指
定した上で、DFS3PU00 ユーティリティを再実行して
ください。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェ

ア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3DBD0、DFS3INDX、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4493W AN INTERNAL ERROR OCCURRED
BUILDING CATALOG SEGMENTS
FOR *member-name***


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) が、エラー・メッセージで識別されたメン
バーのカタログ・レコードの作成中に、内部エラーを検
出しました。

システムの処置: メンバーにカタログ・レコードは作成
されませんでした。DFS3PU00 ユーティリティは、他
のレコードのカタログへの挿入を続行し、戻りコード 4
で終了します。

プログラマーの応答: DFS3PU00 ユーティリティを
実行するユーザーの JCL が正しいことを確認してくだ
さい。問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・
サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3DDB0、DFS3DPB0、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4494E *member-name* IS A BACK-LEVEL
ACBLIB MEMBER.**


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) は、IMS カタログをサポートしない IMS
システムで生成された ACB ライブラリー・メンバーを
検出しました。

システムの処置: メンバーにカタログ・レコードは作成
されませんでした。ユーティリティは、カタログへの
他のレコードの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了し
ます。

プログラマーの応答: DFS3PU00 ユーティリティを
実行する JCL が、IMS カタログをサポートするバー
ジョンの IMS によって生成された ACB ライブラリーを
参照することを確実にしてください。問題が解決しない
場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してくだ
さい。

モジュール: DFS3DDB0、DFS3DPB0、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4495E THE CATALOG IMPORT DATA SET
FAILED TO OPEN. OPEN RC = rc.**

説明: IMS Catalog Populate utility (DFS3PU00) が、
CCUCATIM DD ステートメントで参照されるカタロ
グ・インポート・データ・セットを開こうとして、
OPEN マクロ命令からの戻りコード rc を検出しまし
た。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。


rc DFS3PU00 ユーティリティが z/OS DFSMS
OPEN マクロ命令から受け取った戻りコード。

システムの処置: ユーティリティは戻りコード 12 で
終了します。カタログは更新されませんでした。

プログラマーの応答: CCUCATIM DD ステートメン
トがカタログ・インポート・データ・セットを参照する
ことを確認してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Copy ユーティリティ
(DFS3CCE0、DFS3CCI0) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: OPEN 戻りコード

**DFS4496E THE CATALOG IMPORT DATA SET
DOES NOT CONTAIN CATALOG
RECORDS.**

説明: IMS Catalog Copy ユーティリティのインポ
ート機能が、CCUCATIM DD ステートメントで参照さ
れるカタログ・インポート・データ・セットでカタロ
グ・レコードを検出ませんでした。


システムの処置: ユーティリティは戻りコード 8 で
終了します。カタログは更新されません。

プログラマーの応答: IMS Catalog Copy ユーティリ
ティのエクスポート機能によって CCUCATEX DD
ステートメントで参照されるエクスポート・データ・セ
ットにカタログ・レコードが正常にコピーされたことを
確認してください。

IMS Catalog Copy ユーティリティのインポート機能
によって作成されたエクスポート・データ・セットが、
現在は、IMS Catalog Copy ユーティリティの JCL
にある CCUCATIM DD ステートメントによって参照
されるデータ・セットであることを確認してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Copy ユーティリティ
(DFS3CCE0、DFS3CCI0) (システム・ユーティリティ)

**DFS4497E DBD MEMBER *dbd_name* USES ISAM,
WHICH IS NOT A SUPPORTED
ACCESS METHOD.**


説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) が、ISAM アクセス・タイプを使用するデ
ータベースの DBD メンバーを検出しました。IMS で
は、ISAM アクセス・タイプをサポートしていません。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは DBD
メンバーに対し、IMS カタログにレコードを作成しま
せん。DFS3PU00 ユーティリティは、他のレコードの
IMS カタログへの挿入を続行し、戻りコード 4 で終了
します。

プログラマーの応答: 処置は不要です。ただし、ISAM
データベースに関するメタデータは IMS カタログに保
管されません。ご使用のシステムで ISAM データベー
スがもう使用されていない場合は、ISAM データベー
スの入力ステートメントを、DBD 生成ユーティリティ
への入力から削除することを検討してください。そうす
れば、次の DBD および ACB ライブラリーの再作成
時にこのメッセージを受け取ることはなくなります。

モジュール: DFS3DDB0、DFS3DPB0、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4498W AN ACB MEMBER CONTAINS A
REFERENCE TO A DBD THAT IS
NOT FOUND IN ACBLIB:
MBR=*mbrname***

説明: ACB メンバーが、ACB ライブラリーから欠落
している DBD メンバーを 1 つ以上参照しています。
IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00)
は、IMS カタログに ACB メンバーのレコードを作成
できません。


システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは、エ
ラー・メッセージで識別された ACB メンバーのレコー
ドを IMS カタログに作成しません。DFS3PU00 ユー
ティリティは、他のレコードのカタログへの挿入を続行
し、戻りコード 4 で終了します。

プログラマーの応答: ACB 保守ユーティリティを実

行して、ACB ライブラリーで欠落しているメンバーを再作成してください。ACB メンバーの再作成後、DFS3PU00 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Copy ユーティリティ (DFS3CCE0、DFS3CCI0) (システム・ユーティリティ)

DFS4499E ERROR IN CALL TO DFS3DATE
cause

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) が、モジュール DFS3DATE の呼び出し中に、内部エラーを検出しました。DFS3DATE は、ACB メンバーのタイム・スタンプを、IMS カタログ・レコードで使用されているタイム・スタンプ形式に変換しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cause エラーの原因。考えられる原因は、以下のとおりです。

LESS THAN 3 PARMS SPECIFIED

モジュール DFS3DATE に渡された呼び出しモジュールのパラメーター・リストで、以下の 1 つ以上の必須エレメントが欠落しています。

- 状況コードの領域
- 機能コード
- タイム・スタンプ域

TOO MANY PARMS SPECIFIED

モジュール DFS3DATE に渡された呼び出しモジュールのパラメーター・リストに 5 つを超える数のパラメーターが含まれています。

UNKNOWN FUNCTION CODE

呼び出しモジュールは、モジュール DFS3DATE に無効な機能コードを指定しました。

INSUFFICIENT PARMS FOR FUNCTION

呼び出しモジュールは、モジュール DFS3DATE の指定の機能コードに、必須パラメーターのすべてを指定しませんでした。

INVALID DATE SPECIFIED IN CALL

呼び出しモジュールは、モジュール DFS3DATE に無効な日付形式を指定しました。

ERROR IN ROUTINE DT03

モジュール DFS3DATE は、ユーザー


定義のタイム・スタンプの検証を試行中、ルーチン DT03 で予期せぬ障害が発生しました。

システムの処置: DFS3PU00 ユーティリティは戻りコード 16 で異常終了し、診断目的で ABENDU1002 を発行します。

プログラマーの応答: DFS3PU00 ジョブのメモリー・ダンプを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFS3DATE、DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4500E THE MAXIMUM NUMBER OF ERROR MESSAGES SPECIFIED BY THE ERRORMAX OPTION HAS BEEN EXCEEDED.


説明: 制御ステートメント・データ・セット内に ERRORMAX=*n* オプションが存在するときに、IMS Catalog Populate ユーティリティは、DBD および PSB のメタデータの IMS カタログへの書き込みを抑制する問題の発生数が *n* を超えたことを検出しました。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは、戻りコード 8 で終了します。

プログラマーの応答: 診断メッセージの許容数を増やす場合は、制御ステートメント・データ・セット内の ERRORMAX オプションの値を増やします。それ以外の場合は、前のメッセージによって報告された問題を修正してください。

モジュール: DFS3PU00

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

第 93 章 DFS メッセージ DFS4501 - DFS4600I

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4503A INVALID IMSID ON SYSIN RECORD

説明: SYSIN レコードで指定された IMSID が無効です。IMSID は、1 列目で始まり、長さが 1 から 4 文字で、英数字を含み、レコードの残りの部分にブランクを含んでいる必要があります。

システムの処置: グローバル・オンライン変更ユーティリティーは失敗します。

オペレーターの応答: IMSID を訂正し、DFSUOLC0 ユーティリティーを再実行します。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4504A INVALID PARAMETER *xxxx=yyyy*

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティー (DFSUOLC0) で、入力パラメーターのエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx パラメーターが無効なキーワードです。これは、次のいずれかです。

FUNC
ACBS
MDBS
FMTS
MDID
PLEX
VERS

yyyy パラメーター。

システムの処置: 入力パラメーターが無効であるため、システムは SYSIN レコードに対して妥当性検査を実行しません。DFSUOLC0 ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置: エラーのあるパラメーターを訂正し、ユーティリティー機能を再実行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4505A DUPLICATE IMSID ON SYSIN RECORD

説明: SYSIN レコードで IMSID を複数回指定しました。特定の IMSID を SYSIN レコードで指定できるの

は 1 回だけです。SYSIN レコードでは複数の IMSID がサポートされますが、それらはすべて異なる名前であればなりません。

システムの処置: グローバル・オンライン変更ユーティリティー DFSUOLC0 は失敗します。

オペレーターの応答: 重複した IMSID を削除するか、名前を訂正します。その後で DFSUOLC0 ユーティリティーを再実行します。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4506A OLC IN PROGRESS. CANNOT ACCESS OLCSTAT

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティー (DFSUOLC0) で、グローバル・オンライン変更が進行中であるために OLCSTAT データ・セットの初期設定に失敗しました。グローバル・オンライン変更は OLCSTAT データ・セットをロックして、変更中に他に何も更新されないようにします。

システムの処置: グローバル・オンライン変更ユーティリティーは失敗します。

オペレーターの応答: グローバル・オンライン変更が完了するか、グローバル・オンライン変更を終了するまで待ってから、グローバル・オンライン変更ユーティリティーを実行します。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4507A SYSPRINT OPEN FAILED

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティー (DFSUOLC0) で、OLCSTAT データ・セットを開こうとしてエラーが発生しました。

システムの処置: DFSUOLC0 ユーティリティーは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置: この問題は、JCL エラーの結果であると考えられます。データ・セットの DD ステートメントが正しく定義されていることを確認します。問題を訂正し、ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4508A FUNC=UNL, NO LOCK HELD

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、データ・セットがロック・ワード OLCINP でロックされていないために、OLCSTAT データ・セットをアンロックできませんでした。

システムの処置: DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置: OLCSTAT データ・セットはロックされていないため、UNLOCK 機能は必要ありません。進行中のオンライン変更は完了して、OLCSTAT データ・セットをアンロックした可能性があります。

実行したい次の DFSUOLC0 処置に対して処理を続行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4509A FUNC=ADD, IMSID ALREADY IN OLCSTAT, SYSIN RECORD

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、IMSID を OLCSTAT データ・セットに追加しようとしたが、ID が既に OLCSTAT に存在しているためにエラーが発生しました。

システムの処置: DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置: 追加しようとしている IMSID が既に OLCSTAT に存在します。追加する IMSID を OLCSTAT データ・セットに存在しない IMSID に変更して修正し、ADD 機能を再試行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4510A FUNC=DEL, IMSID NOT IN OLCSTAT, SYSIN RECORD

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、ユーザーが指定した IMSID を OLCSTAT データ・セットから削除しようとしたが、ID が OLCSTAT に存在しないためエラーが発生しました。

システムの処置: DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置: 削除しようとしている IMSID が OLCSTAT にありません。削除する IMSID を OLCSTAT データ・セット内にある IMSID に変更して、DEL 機能を再試行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4511A SYSIN RECORD COUNT EXCEEDS MAX OF *nn*

説明: SYSIN レコードとして指定された IMSID の数が、サポートされる最大値 *nn* を超えました。

システムの処置: グローバル・オンライン変更ユーティリティ DFSUOLC0 は失敗します。

オペレーターの応答: 余分な IMSID を除去して、DFSUOLC0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4512A NO SYSIN RECORDS FOR FUNC=*xxx*

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) で、*xxx* の SYSIN レコードが検出されなかったため、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストで、*xxx* は次のいずれかです。

ADD

DEL

システムの処置: DFSUOLC0 ユーティリティは終了し、戻りコード 4 が示されます。

ユーザーの処置: JCL を変更して、追加または削除したい IMSID を持つ SYSIN レコードを追加して、ユーティリティ機能を再試行します。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4513A FUNC=ADD, ADDING SYSIN IMSIDS TO OLCSTAT *nn*

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティは、FUNC=ADD を指定して IMSID を OLCSTAT データ・セットに追加しようとした。IMSID は、SYSIN レコードで指定されていました。ただし、OLCSTAT データ・セットで既に定義されていた IMSID と追加する IMSID の合計数は、サポートされる最大値 *nn* を超えます。

システムの処置: グローバル・オンライン変更ユーティリティ DFSUOLC0 は失敗します。

オペレーターの応答: 余分な IMSID を除去して、DFSUOLC0 ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4514A MISMATCH IN UTILITY AND MACRO VERSION# DETECTED

説明: グローバル・オンライン変更ユーティリティ (DFSUOLC0) によって OLCSTAT データ・セットを初期設定しようとした。システムは、ユーティリティ

ーと DFSOLCS パラメーター・リストのバージョンの不一致を検出しました。

システムの処置: グローバル・オンライン変更ユーティリティーは、戻りコード 04 で失敗します。

ユーザーの処置: この問題は IMS 内部エラーです。ユーティリティーと DFSOLCS マクロのレベルが一致するように修理保守を適用してください。

モジュール: DFSUOLC0

DFS4515W THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT HAS REACHED THE 80% OF THE GLOBAL LIMIT OF nnnnnn.

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の総数が nnnnnn で示されるモニタリング・ポイントの 80% に到達したか超過したことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn グローバル TPIPE 警告しきい値。この数値は、OTMA クライアント記述子で DFSOTMA に指定されている MAXTP 値です。

システムの処置: システムは T パイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答: すべてのメンバーの T パイプの数のモニターを開始します。活動停止中の T パイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。

モジュール: DFSYFD00

DFS4516E THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT HAS REACHED THE GLOBAL LIMIT OF nnnnnn.

説明: MAXTP 限度は、すべての OTMA クライアントの TPIPE の増加をモニターするために、OTMA クライアント記述子の DFSOTMA 記述子項目に指定されます。使用中の TPIPE の数がこの限度に達すると、IMS はこのエラーを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnn グローバル TPIPE 警告しきい値。これは、OTMA クライアント記述子の DFSOTMA に指定される MAXTP 限度です。

システムの処置: IMS は、OTMA クライアントおよび IMS アプリケーションからの後続の TPIPE 作成要求をすべてリジェクトします。/DISPLAY OTMA コマンドは、OTMA サーバーの USER-STATUS の MAX TPIPE を表示します。

プログラマーの応答: /DISPLAY OTMA コマンドを発行して、使用中の TPIPE の合計数である TPCNT 値と、OTMA クライアント記述子で指定されている TPIPE 限度である MAXTP 値を表示します。IMS /CHECKPOINT コマンドを 3 回発行して、T パイプのクリーンアップを強制実行し、システム内のアイドル状態の T パイプを削除できます。

モジュール: DFSYFD00

DFS4517I THE GLOBAL OTMA TPIPE COUNT HAS DECREASED BELOW xx% OF THE GLOBAL LIMIT OF nnnnnn.

説明: OTMA は、すべての OTMA メンバーのトランザクション・パイプ (T パイプ) の総数が、DFSOTMA 記述子項目の MAXTP 値によって示されているモニタリング・ポイントの xx% を下回ったことを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx OTMA クライアント記述子の DFSOTMA の MAXTP パラメーターで指定されている警告解除レベル。

nnnnn OTMA クライアント記述子の DFSOTMA メンバーで指定される MAXTP であるグローバル TPIPE 警告しきい値。

システムの処置: システムは T パイプの作成を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSYFD00

DFS4518I UPDATES TO THE IMS CATALOG HAVE BEEN COMMITTED. CHECKPOINT ID nnnnnnnn

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティー (DFS3PU10) が、前の更新を IMS カタログにコミットするために CHKP (チェックポイント) 呼び出しを発行しました。この呼び出しは、更新が 200 回行われるたびに発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnn チェックポイント ID を示します。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU10

DFS4519E BOTH THE LOAD PSB DFSCPL00 AND THE STATEMENT MANAGEDACBS=UPDATE OR MANAGEDACBS=STAGE ARE SPECIFIED.


説明: ユーティリティ JCL の EXEC パラメーターにロード PSB DFSCPL00 が指定されている場合は、MANAGEDACBS ユーティリティ制御ステートメントに UPDATE も STAGE も指定できません。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: EXEC パラメーターの PSB を変更するか、MANAGEDACBS ユーティリティ制御ステートメントの値を SETUP に変更してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4520I INSTANCE yydddhhmmssth OF DBD|PSB name WAS ADDED TO THE IMS DIRECTORY.

説明: タイム・スタンプが yydddhhmmssth である IMSACBLIB メンバー name が、ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーにコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。

yydddhhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLIST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4521I INSTANCE acb-yydddhhmmssth OF DBD|PSB name REPLACED INSTANCE dir-yydddhhmmssth IN THE IMS CATALOG DIRECTORY.

説明: IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが dir-yydddhhmmssth である既存メンバー name が含まれていました。このメンバーは削除され、その置き換えとして、タイム・スタンプが acb-yydddhhmmssth である ACBLIB メンバー name が ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーに正常にコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACBLIB メンバー名。

acb-dddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに追加された ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

dir-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在していた ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLIST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4522I INSTANCE acb-yydddhhmmssth OF DBD|PSB name WAS NOT ADDED TO THE DIRECTORY. A LATER INSTANCE dir-yydddhhmmssth EXISTS

説明: IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが dir-yydddhhmmssth である既存メンバー name が含まれています。このメンバーはディレクトリー内に保持されました。ACBLIB メンバー name のタイム・スタンプ acb-yydddhhmmssth が、ディレクトリー内のこの既存メンバーより前の時点のものであるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name ディレクトリー内および ACBLIB 内のメンバー名。

acb-dddhmmssth

ディレクトリーへの組み込みがリジェクトされた ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

dir-yyddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。


システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

タイム・スタンプがより前の時点である ACBLIB メンバーによって、より新しい時点のタイム・スタンプを持つ対応するディレクトリー・メンバーを置き換える必要がある場合は、IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として、制御ステートメント・データ・セット (DD 名 SYSINP) に MANAGEDACBS=(UPDATE,ACBLIB) パラメーターを指定します。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4523E AN I/O ERROR OCCURRED
READING ACBLIB INSTANCE
yyddhhmmssth OF DBD|PSB *name*
*system-produced-SYNAD-message-text***

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティが、IMS ディレクトリーにコピーするために ACBLIB からメンバー *name* を読み取ろうとしました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 BPAM マクロ命令で入出力エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。

yyddhhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

system-produced-SYNAD-message-text

DFSMS によって生成された入出力エラー・メッセージ。


システムの処置: メンバー *name* は IMS ディレクトリ

ーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: *system-produced-SYNAD-message-text* の説明については「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の SYNADAF マクロの説明を参照し、推奨されている処置を行ってください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: DFSMS SYNADAF マクロ

**DFS4524E AN I/O ERROR OCCURRED
WRITING INSTANCE *yyddhhmmssth*
OF DBD|PSB *name*
*system-produced-SYNAD-message-text***

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティが IMS ディレクトリーにメンバー *name* を書き込もうとしました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 BPAM マクロ命令で入出力エラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。

yyddhhmmssth

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

system-produced-SYNAD-message-text


DFSMS によって生成された入出力エラー・メッセージ。

システムの処置: メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: DFSMS によって発行された *system-produced-SYNAD-message-text* の説明については「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」の SYNADAF マクロの説明を参照し、推奨されている処置を行ってください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4525E ADDING THE MEMBER DBD|PSB
name IN IMS DIRECTORY DATA SET
nn FAILED WITH STOW RETURN
CODE rc REASON CODE rs**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティーがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットにメンバー *name* を書き込もうとしました。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。
nn IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。
rc STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。
rs STOW マクロ命令によって発行された理由コード。
rsc STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置: メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) (システム・ユーティリティー)

➡ z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード

**DFS4526E THE IMS DIRECTORY DATA SET nn
FAILED TO OPEN. OPEN RC = rc**

説明: IMS ディレクトリー作成の一環として、IMS Catalog Populate ユーティリティーがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットをオープンしようとした。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 OPEN マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nn IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc OPEN マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置: IMS ディレクトリーは作成されず、IMS Catalog Populate ユーティリティーの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 非 VSAM OPEN マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) (システム・ユーティリティー)

➡ z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード

**DFS4527E THE IMS DIRECTORY BOOTSTRAP
DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN
RC = rc**

説明: IMS ディレクトリー作成の一環として、IMS Catalog Populate ユーティリティーが IMS ディレクトリーのブートストラップ・データ・セットをオープンしようとした。しかし、このユーティリティーが使用していた内部 OPEN マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc OPEN マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置: IMS ディレクトリーは作成されず、IMS Catalog Populate ユーティリティーは戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 非 VSAM OPEN マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティー (DFS3PU00) (システム・ユーティリティー)

➡ z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード

```
DFS4529E  DELETING MEMBER DBD|PSB name
          FROM IMS DIRECTORY DATA SET
          nn FAILED WITH STOW RETURN
          CODE rc REASON CODE rs
```

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットから既存メンバー *name* を削除しようとしていました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。

nn IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置: メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されませんでした。IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード

```
DFS4530E  RENAMING MEMBER DBD|PSB
          name IN IMS DIRECTORY DATA SET
          nn FAILED WITH STOW RETURN
          CODE rc REASON CODE rs
```

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティが、いずれかの IMS ディレクトリー・データ・セット内の暗号化された形式のメンバー名を実名に名前変更しようとしていました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。

nn IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。

rc STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置: メンバー *name* は IMS ディレクトリーに追加されませんでした。IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード

```
DFS4531I  INSTANCE yydddhhmmssth OF
          DBD|PSB name IS ALREADY IN THE
          IMS CATALOG DIRECTORY AND
          WAS NOT ADDED.
```

説明: IMS カタログ・ディレクトリーには既にタイム・スタンプが *yydddhhmmssth* である既存のメンバー名が含まれているため、このディレクトリーではこのメンバーの追加も置換も行われませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ディレクトリー内および ACBLIB 内のメンバー名。

yydddhhmmssth

ディレクトリーへの組み込みがリジェクトされた ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4532E THE IMS CATALOG DIRECTORY
DATA SET *nm* FAILED TO CLOSE.
CLOSE RC =*rc***

説明: IMS ディレクトリーの処理が完了する間に、IMS Catalog Populate ユーティリティがいずれかの IMS ディレクトリー・データ・セットをクローズしようとしました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 CLOSE マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


nm IMS ディレクトリーを構成するデータ・セットの連結内でのデータ・セット位置。
rc CLOSE マクロ命令によって発行された戻りコード。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は、戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 非 VSAM CLOSE マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

 z/OS: DFSMS の非 VSAM CLOSE マクロの戻りコード

**DFS4533I *nmn* MEMBERS WERE ADDED TO
THE IMS CATALOG DIRECTORY.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーに、新規メンバーとして合計 *nmn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


nmn IMS ディレクトリーに追加されたりソースの総数。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4534I *nmn* MEMBERS WERE REPLACED IN
THE IMS CATALOG DIRECTORY.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーに、置換メンバーとして合計 *nmn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


nmn ACB ライブラリーからの対応するリソースのインスタンスによって置き換えられた、IMS ディレクトリー内の既存リソースの総数。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4535I *nmn* MEMBERS WERE STAGED TO
BE ADDED TO THE IMS CATALOG
DIRECTORY.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに、後で IMS カタログ・ディレクトリーに新規メンバーとして追加されるように、合計 *nmn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


nmn ステージング・データ・セットに書き込まれた ACB の総数。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは、通常の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4536I *nnn* MEMBERS WERE STAGED TO
BE REPLACED IN THE IMS
CATALOG DIRECTORY.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに、後で IMS カタログ・ディレクトリーに置換メンバーとして追加されるように、合計 *nnn* 個の ACBLIB メンバーがコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


nnn 入力 ACB ライブラリーから IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされたリソース・インスタンスの総数。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4537I INSTANCE *yydddhmmssst* OF
DBD|PSB *name* WAS STAGED TO BE
ADDED TO THE IMS CATALOG
DIRECTORY.**

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティへの入力として使用される ACBLIB から IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに、後で IMS カタログ・ディレクトリーに新規メンバーとして追加されるように、タイム・スタンプが *yydddhmmssst* である IMS ACBLIB メンバー *name* がコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACLIB メンバー名。
yydddhmmssst

ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージや他の

同様の通知メッセージを抑制するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4538I INSTANCE *acb-yydddhmmssst* OF
DBD|PSB *name* WAS STAGED TO
REPLACE *dir-yydddhmmssst* IN THE
IMS CATALOG DIRECTORY.**

説明: IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが *dir-yydddhmmssst* である既存メンバー *name* が含まれています。タイム・スタンプが *acb-yydddhmmssst* である ACBLIB メンバー名が、後で IMS カタログ・ディレクトリーのメンバーを置き換えるために IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACBLIB メンバー名。
dir-yydddhmmssst

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

acb-yydddhmmssst


IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットに追加された ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑制するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セットに NOISRTLST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ
(DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

**DFS4539I INSTANCE *acb-yydddhmmssst* OF
DBD|PSB *name* WAS NOT STAGED.
A LATER DIRECTORY INSTANCE
dir-yydddhmmssst EXISTS.**

DFS4540E • DFS4541E

説明: IMS カタログ・ディレクトリーには既に、タイム・スタンプが *dir-yydddhhmmssth* である既存メンバー *name* が含まれています。タイム・スタンプが *acb-yydddhhmmssth* である ACBLIB メンバー名が、ディレクトリー・メンバーの置換として IMS カタログ・ディレクトリーのステーキング・データ・セットにコピーされませんでした。そのタイム・スタンプがディレクトリー・メンバーのタイム・スタンプより前の時点だったためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACBLIB メンバー名。

dir-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

acb-yydddhhmmssth

IMS カタログ・ディレクトリーのステーキング・データ・セットに追加されなかった ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。

システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティは引き続き実行されます。

システム・プログラマーの応答: このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4540E ADDING MEMBER DBD|PSB *name* IN THE DIRECTORY STAGING DATA SET FAILED WITH STOW RETURN CODE *rc* REASON CODE *rs*

説明: IMS Catalog Populate ユーティリティが IMS ディレクトリーのステーキング・データ・セットにメンバー *name* を書き込もうとしました。しかし、このユーティリティが使用していた内部 STOW マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

rs STOW マクロ命令によって発行された戻りコード。

名前 ACLIB メンバー名。

システムの処置: メンバー *name* は IMS ディレクトリ

ーに追加されず、IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードと理由コードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」内の STOW マクロの完了コードの説明を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード

DFS4541E THE IMS CATALOG DIRECTORY STAGING DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = *rc*

説明: IMS ディレクトリー作成の一環として、IMS Catalog Populate ユーティリティが IMS ディレクトリー・ステーキング・データ・セットをオープンしようとした。しかし、このユーティリティが使用していた内部 OPEN マクロ命令でエラーが検出されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc OPEN マクロ命令によって発行された戻りコード。

システムの処置: IMS ディレクトリーは作成されず、IMS Catalog Populate ユーティリティは戻りコード 8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: 非 VSAM OPEN マクロの戻りコードの説明については、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets」を参照してください。適切な処置を取って、問題を修正してください。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

➡ z/OS: DFSMS の非 VSAM OPEN マクロの戻りコード

DFS4542I **INSTANCE *yydddhmmssst* OF
DBD|PSB *name* IS ALREADY IN THE
IMS CATALOG DIRECTORY AND
WAS NOT STAGED.**

説明: IMS カタログ・ディレクトリーには既にタイム・スタンプが *dir-yydddhmmssst* である既存メンバー *name* が含まれているため、そのディレクトリー・メンバーの置換メンバーとして、同じタイム・スタンプの ACBLIB メンバー名が IMS カタログ・ディレクトリーのステージング・データ・セットにコピーされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

名前 ACBLIB メンバー名。

yydddhmmssst

IMS カタログ・ディレクトリーに既に存在している ACBLIB メンバーのタイム・スタンプ。


システムの処置: IMS Catalog Populate ユーティリティの実行は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

このメッセージや他の同様の通知メッセージを抑止するには、IMS Catalog Populate ユーティリティの入力制御ステートメントで、DD 名 SYSINP によって参照されているデータ・セット内に NODUPLIST を指定します。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4545I **DBD|PSB *name* WAS DELETED
FROM THE IMS DIRECTORY.**

説明: DELETE または DELDBVER ステートメントの処理の一環として、IMS Catalog Record Purge ユーティリティが IMS ディレクトリーからメンバー *name* を削除しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


名前 IMS ディレクトリー内の ACB 名。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4546I **DBD|PSB *name* WAS DELETED
FROM THE IMS DIRECTORY
STAGING DATA SET.**

説明: DELETE または DELDBVER ステートメントの処理の一環として、IMS Catalog Record Purge ユーティリティが IMS ディレクトリーのステージング・データ・セットからメンバー *name* を削除しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


名前 IMS ディレクトリーのステージング・データ・セット内の ACB 名。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DU10

関連資料:

 IMS Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) (システム・ユーティリティ)

DFS4547W ***name* WAS NOT PURGED BECAUSE
IT IS RESERVED AS THE NAME OF
AN IMS CATALOG RESOURCE.**

説明: DELETE ステートメントの処理の一環として、IMS Catalog Record Purge ユーティリティは、メンバー *name* が IMS カタログおよび IMS ディレクトリーから削除されるはずだったことを検出しました。しかし、*name* の先頭 4 文字が IMS カタログの別名と一致しているために、カタログ PSB および DBD の名前と競合が生じています。これらの名前はカタログ PSB および DBD 用に予約済みであるため、消去できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。


名前 IMS カタログおよび IMS ディレクトリー内の ACB 名。

システムの処置: IMS カタログおよび IMS ディレクトリーからのメンバー名の削除は抑止されます。

ユーザーの処置: IMS カタログから PSB インスタンスまたは DBD インスタンスを削除しないでください。

モジュール: DFS3PU10

関連資料:

 IMS Catalog Record Purge ユーティリティ (DFS3PU10) (システム・ユーティリティ)

DFS4548E THE IMS DIRECTORY CANNOT BE UPDATED BY THE CATALOG PURGE UTILITY EXCEPT IN A BATCH JOB.

説明: IMS Catalog Purge ユーティリティーは IMS ディレクトリーを更新する必要がありますが、このユーティリティーが実行されている IMS システムもこのユーティリティーとのシリアライゼーションを行わずにそのディレクトリーを使用している可能性があります。オンライン IMS システムとこのユーティリティーの間の競合を防ぐため、このユーティリティーの実行は許可されません。

システムの処置: IMS ディレクトリーは更新されず、IMS Catalog Purge ユーティリティーは戻りコード 12 で終了しました。

システム・プログラマーの応答: IMS Catalog Purge ユーティリティーを DL/I 領域または DBB 領域内でバッチ・ジョブとして実行し、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーに ACBMGMT=CATALOG が指定されたアクティブな IMS システムが同時に実行されていないことを確認してください。

モジュール: DFS3PU10

関連資料:

➡ IMS Catalog Record Purge ユーティリティー (DFS3PU10) (システム・ユーティリティー)

➡ DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

DFS4551E THE MSC= EXECUTION PARAMETER CANNOT CHANGE WITHOUT A COLD START

説明: MSC= 実行パラメーターの値が変更された後に、ウォーム・リスタートまたは緊急時再始動が試みられました。MSC= 実行パラメーターの値を変更するにはコールド・スタートを行う必要があるため、その再始動は失敗しました。

MSC= パラメーターの値が開始プロシージャー内で明示的に変更されたか、または始動プロシージャー内に MSC= パラメーターが指定されていない場合は、IMS が、IMS.SDFSRESL データ・セット内に MSC リソースの DFSCLL3x メンバーが存在するかどうかに基づいて MSC= 実行パラメーターの有効値を自動的に変更した可能性があります。

システムの処置: IMS は、異常終了 0168 および理由コード X'1E'で終了します。

ユーザーの処置: MSC= 実行パラメーターの値を前回

の IMS システムのコールド・スタート時の値に変更するか、IMS をコールド・スタートしてください。再始動中に DFS1929I が再度 SYSLOG に発行された場合、MSC= 実行パラメーターの値が正しくないことを示します。

モジュール: DFSRLP00

関連タスク:

➡ MSC= 実行パラメーターによる MSC の使用可能化 (コミュニケーションおよびコネクション)

関連資料:

➡ プロシージャーの MSC= パラメーター (システム定義)

DFS4552W I/O ERROR WRITING MEMBER DFSIMSL.

説明: IMS システムは、共用 IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットの DFSIMSL メンバーへの書き込みができませんでした。DFSIMSL メンバーは、IMS カタログを共用する IMS システムの自動生成リストです。

システムの処置: IMS システムは、再始動プロセスの完了後にメンバー DFSIMSL の再作成を試みます。

プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

モジュール: DFSRDB30

DFS4554E UNABLE TO WRITE TO LIBRARY.

説明: IMS Catalog Library Builder ユーティリティーが出力データ・セットへの書き込みを試みているときにエラーが発生しました。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。出力は生成されません。

オペレーターの応答: コンソールに書き込まれたエラー・メッセージを調べて、エラーの原因およびこのユーティリティーが書き込みを試みているデータ・セットを特定してください。

問題を訂正したら、ユーティリティーを再実行します。

モジュール: DFS3LU00

関連資料:

➡ IMS カタログ API の取得要求 (GET) (システム・プログラミング API)

DFS4560E TRACE TABLE *nnnn* IS NOT A VALID TRACE TABLE.

説明: DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクション内の TRCLEV ステートメントに指定されているタイプ 2 トレース・テーブル名が有効なトレース・テーブル名ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnn TRCLEV ステートメントに指定されているトレース・テーブル名。

システムの処置: IMS は処理を続行します。UPDATE TRACE コマンドを使用すると、トレースを開始できます。

システム・プログラマーの応答: TRCLEV ステートメントに有効なトレース・テーブル名を指定してください。有効なトレース・テーブル名については、トピック DFSDFxxx メンバーの DIAGNOSTICS_STATISTICS セクション (システム定義)にある TRCLEV パラメーターを参照してください。

モジュール: DFSDFN10

DFS4561E ERROR LOADING TRACE SERVICES MODULE *nnnnnnnnnnnn* IMODULE LOAD RC= *nnnnnnnn*

説明: IMS が指定されたモジュールをロードできませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnnnnnnnn
エラーが発生したモジュールの名前。


nnnnnnnnnn
IMODULE サービスからの戻りコード

システムの処置: IMS は、U0630 異常終了で終了します。

システム・プログラマーの応答: 返された RC 値から IMODULE LOAD の失敗の理由を判別し、問題を訂正してください。問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSTRIO0

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS4562E ERROR ALLOCATING SPACE FOR THE *tttt* TRACE TABLE. BLOCK TYPE *bbbb* BCB SERVICE RC= *nnnnnnnnnn*

説明: IMS は、BCB サービスを使用してタイプ 2 トレース・テーブルにスペースを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tttt スペースを割り振ることができなかったトレース・テーブルの名前。

bbbb 割り振ることができなかった BCB ブロック・タイプ。

nnnnnnnnnn
BCB サービスからの戻りコード。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSTRSV0

DFS4570E USER EXIT LOAD FAILURE. EXIT TYPE - *tttttttt* MODULE NAME - *nnnnnnnnnnnn* IMODULE LOAD RC - *rr*

または

USER EXIT SETUP FAILED. EXIT TYPE - *tttttttt* MODULE NAME - *nnnnnnnnnnnn* REASON - *rrrrrrrrrrrrrrrrrrrr* RC - *rr*

説明: IMS がユーザー出口ルーチンをロードできませんでした。出口ルーチン名は、DFSDFxxx メンバーの USER_EXITS セクションで定義されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

tttttttt ユーザー出口タイプ。このフィールドが USRXINIT の場合、エラーはユーザー出口初期設定サービスからのもので、個々のユーザー出口ルーチンに関連するものではありません。この場合は、*nnnnnnnnnnnn* はブランクです。このフィールドが USRXRFSH の場合は、エラーは REFRESH USEREXIT コマンド処理中のもので、特定のユーザー出口タイプに関連するものではありません。

nnnnnnnnnnnn
エラーが発生したユーザー出口ルーチンまたは制御ブロックの名前。

ユーザー出口ルーチン名が USXGRAMR の場合、メッセージは、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内のユーザー出口定義の構文解析された文法出力に必要なストレージを参照します。

rrrrrrrrrrrrrrrrrrrr

ユーザー出口のセットアップが失敗した理由。これは、以下のストリングのうちの 1 つです。

BCB RELEASE ERROR

制御ブロック USXI または USXS のストレージを BCB サービスによって解放できませんでした。

BCB GET ERROR

制御ブロック USXI または USXS のストレージを BCB サービスから取得できませんでした。

BLDL ERROR

BLDL が示されたモジュール名の処理に失敗しました。RC=04 の場合は、指定されたモジュールが検出されませんでした。

IMOD FREE ERROR

示されたモジュール名のストレージを IMODULE FREE を使用して解放できませんでした。

IMOD GETM ERROR

示されたモジュールのストレージを IMODULE GETMAIN を使用して取得できませんでした。

IMOD GETS ERROR

示されたモジュールのストレージを IMODULE GETSTOR を使用して取得できませんでした。

LOAD ERROR

LOAD が示されたモジュール名の処理に失敗しました。

NO EXITDEF STMT

指定された出口タイプの DFSDFxxx メンバーには、EXITDEF ステートメントがありません。

PARSE ERROR

DFSDFxxx メンバーの構文解析中にエラーが発生しました。このエラーが構文解析エラー (構文解析サービスのエラーではない) の場合、BPE003E メッセージはこのエラーに関するさらに詳しい情報を示します。

PDS READ ERROR

DFSDFxxx メンバーの読み取り中にエラーが発生しました。MODULE

NAME フィールドに読み取られていたメンバー名が示されます。

STOR OBTN ERROR

示されたモジュールのストレージを STORAGE を使用して取得できませんでした。

rr このメッセージの理由テキストに関連したサービスによって出された戻りコード。サービスからの戻りコードがない場合、このフィールドはブランクです。

このメッセージは、IMS 初期設定中または REFRESH USEREXIT コマンドの処理中に DFSDFxxx メンバーの USER_EXITS セクションの出力 EXITDEF パラメーターを処理する場合にも発行されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。


システム・プログラマーの応答: ストレージ・エラーのためにユーザー出口のセットアップが失敗した場合は、アドレス・スペースの領域サイズが十分に大きいかどうか確認してください。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターを変更して領域サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

BLDL または LOAD のエラーのためにユーザー出口のセットアップ失敗した場合は、出口ルーチンの名前が正しいかどうか、PROCLIB メンバーを確認してください。PROCLIB メンバーの名前が正しい場合は、制御領域に対してロード・モジュールが使用可能であることを確認してください。

モジュール: DFSUSRXI、DFSUSX00

注: モジュール・フィールドが **NONE** の場合、このエラーに関連付けられているユーザー出口モジュールはありません。

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

DFS4571E USER EXIT TYPE ttttttt IS NOT A VALID USER EXIT TYPE

説明: DFSDFxxx メンバーの USER_EXITS セクションの EXITDEF ステートメントで指定されたユーザー出口タイプは、有効なユーザー出口タイプではありません。メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttttttt EXITDEF ステートメントで指定されたユーザー出口タイプ。

このメッセージは、IMS 初期設定中または REFRESH USEREXIT コマンドの処理中に DFSDFxxx メンバーの

USER_EXITS セクションの出力 EXITDEF パラメーターを処理する場合にも発行されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: EXITDEF ステートメントで有効なユーザー出口タイプを指定します。有効なユーザー出口タイプについては、IMS システム定義の説明を参照してください。

モジュール: DFSUSRXI

DFS4572E USER EXIT TYPE IS NOT ELIGIBLE FOR MULTI-EXIT ROUTINE SUPPORT

説明: ユーザー出口タイプ *ttttttt* は有効なユーザー出口タイプですが、複数出口ルーチンのサポート対象としては適格ではありません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttttttt ユーザー出口タイプ。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: リストされているすべての出口が複数出口のサポート対象として適格であるか、PROCLIB メンバーを調べてください。適格でない出口は削除します。

モジュール: DFSUSRXI

DFS4573E UNABLE TO CALL USER EXIT TYPE - *ttttttt* FUNCTION - *ffffff* REASON - *cccccccccccccc* RC - *rr*

説明: IMS が、指定されたユーザー出口タイプの出口ルーチンを呼び出すことができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttttttt ユーザー出口タイプ。

ffffff 出口に渡される予定だった機能コード。機能コードがない場合、この部分はブランクです。

cccccccccccccc

出口タイプを呼び出すことができなかった理由。理由として、次のものが考えられます。

IMOD GETM ERROR

IMODULE GETMAIN エラーが検出されました。

NO DPST STORAGE

従属領域 PST (DPST) のためのインターフェース・ブロックおよびパラメーター・リスト用の事前割り振りスト

レージをポイントする PSTDUXIB フィールドが 0 でした。戻りコード *rr* は 8 です。

rr エラーを受け取ったサービスからの戻りコード。エラーに戻りコードがない場合、このフィールドはブランクです。

システムの処置: 報告された理由に関係なく、IMS は IMSMON 出口タイプを呼び出さず、IMS は処理を続行します。このメッセージは、IMS の存続期間中に一度だけ発行されます。最終的にストレージ不足が緩和されると、IMSMON 出口タイプの呼び出しが再開します。


システム・プログラマーの応答: これがストレージ不足である場合、アドレス・スペースの領域サイズが小さすぎることが原因の可能性があります。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターを変更して領域サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

問題が解決しない場合は、メモリー・ダンプと IMS ログをすべて保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メモリー・ダンプが生成されない場合、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成します。

問題判別: 1、2、3、4、25、36、41

モジュール: DFSFSTM0、DFSTRM00、DFSMNTR0

関連資料:

 IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4574W DUPLICATE USER EXIT ROUTINE DEFINED.TYPE- *ttttttt* MODULE NAME - *mmmmmmmmmm*

説明: EXITDEF ステートメントの EXITS パラメーターで、示されたユーザー出口タイプに対して、重複したユーザー出口ルーチンが定義されました。出口は、1 回だけロードされ、1 回だけ呼び出されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ttttttt ユーザー出口タイプ。

mmmmmmmmmm

ユーザー出口モジュール名

システムの処置: 2 番目のユーザー出口モジュール名は無視され、IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: エラー状態の EXITS パラメーターを確認し、ユーザー出口ルーチン名を訂正または削除します。

DFS4575E • DFS4586E

問題判別: 1、2、3、4、25、36、41

モジュール: DFSUSX00

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4575E ERROR IN ADD ROUTINE FOR EXIT TYPE tttttttt. SERVICE - SSSSSSSSSSSSSSSS SERVICE RC - rrrr

説明: ユーザー出口タイプ tttttttt の追加ルーチンでエラーが検出されました。REFRESH USEREXIT コマンドによってユーザー出口タイプが追加されるときに、ユーザー出口タイプの追加ルーチンが実行されます。

ttttttt ユーザー出口タイプ。

SSSSSSSSSSSSSSSS

エラーが検出されたサービス。

rrrr 失敗したサービスから受け取った理由コード。

システムの処置: ユーザー出口タイプは追加されません。

システム・プログラマーの応答: エラーがストレージ・エラーである場合、アドレス・スペースの領域サイズが十分に大きいかどうかを確認してください。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターの値を増やしてから、IMS を再始動します。

問題が解決しない場合には、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSIR010、DFSUSX90

DFS4576W ERROR IN DEL ROUTINE FOR EXIT TYPE tttttttt. SERVICE - SSSSSSSSSSSSSSSSS SERVICE RC - rrrr

説明: ユーザー出口タイプ tttttttt の削除ルーチンでエラーが検出されました。

REFRESH USEREXIT コマンドによってユーザー出口タイプが削除されるときに、ユーザー出口タイプの削除ルーチンが実行されます。

ttttttt ユーザー出口タイプ。

SSSSSSSSSSSSSSSS

エラーが検出されたサービス。

rrrr 失敗したサービスから受け取った理由コード。

システムの処置: ユーザー出口タイプは削除されます。エラーがストレージ解放エラーである場合、ストレージはまだ割り振られています。後の時点で REFRESH USEREXIT コマンドによってユーザー出口タイプが追加される場合、ストレージは再使用されます。

システム・プログラマーの応答: REFRESH USEREXIT コマンドを使用してユーザー出口コマンドを追加してから、REFRESH USEREXIT コマンドを使用してユーザー出口タイプを再び削除できます。IMS は、ユーザー出口タイプの削除ルーチンを実行して、失敗したサービスを再実行します。

問題が解決しない場合には、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSIR010、DFSUSX90

DFS4585W RASE SECURITY USER EXIT DELETED. NO RASE SECURITY USER EXIT CALL WITHpppppppppppppppp

説明: リソース・アクセス・セキュリティー・ユーザー出口 (RASE) が REFRESH USEREXIT コマンドによって削除されました。

PPPPPPPPPPPPPPPP

ISIS および ODBASE のパラメーター値。

ISIS 値 A または C は、RACF および RASE ユーザー出口 (ISIS=A)、またはユーザー出口のみ (ISIS=C) を使用してリソース・セキュリティー検査が実行されることを示します。

ODBASE=Y は、RASE ユーザー出口が存在する場合に呼び出されることを示します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: RASE ユーザー出口を使用して実行しない場合は、処置は必要ありません。RASE ユーザー出口を使用して実行する場合は、DFSDFxxx メンバーを変更して RASE ユーザー出口ルーチンを定義し、RASE ユーザー出口タイプに対して REFRESH USEREXIT コマンドを再発行します。

モジュール: DFSIR010

DFS4586E LOGEDIT USER EXIT COULD NOT BE ADDED. NO LOG RECORDS SELECTED FOR EDITING.

説明: LOGEDIT ユーザー出口に渡されるログ・レコードが選択されていないため、LOGEDIT ユーザー出口は追加されません。IMS の初期設定中、または REFRESH USEREXIT コマンドの結果として、このメッセージが発行される可能性があります。

IMS の初期設定中に発行された場合、LOGEDIT ユーザー出口は、DFSDFxxx メンバーの EXITDEF ステート

メントを指定して定義されています。LOGEDIT ユーザー出口は削除されます。

このメッセージが REFRESH USEREXIT コマンドの結果として発行される場合、LOGEDIT ユーザー出口は追加されません。

LOGEDIT ユーザー出口に渡されるログ・レコード・タイプは、DFSVMxx メンバーの LOGEDIT ステートメントで識別されます。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: IMS の始動時に、LOGEDIT ユーザー出口に渡されるログ・レコード・タイプを DFSVMxx メンバーの LOGEDIT ステートメントで識別する必要があります。ログ・レコード・タイプを選出するには、IMS を再始動する必要があります。

モジュール: DFSIR010、DFSXLGI0

DFS4587E IMSMON EXIT PROCESSING ERROR
- eeeeeeeeeeeeeee RC = rr

説明: IMS が、IMSMON 出口タイプの呼び出し、または関連するストレージの管理に関する問題を検出しました。

eeeeeeeeeeeeee

失敗の理由テキスト。考えられる理由テキストは次のとおりです。

FREESTR MONEXTBL

SLOG (DC モニター作業域) コードに対するインタレストを登録するために出口に渡される、配列のストレージに関する IMODULE FREESTOR エラー。戻りコード rr は IMODULE 戻りコードです。

FREESTR LMONARRY

いずれかの出口が特定の SLOG コードへのインタレストを登録したかどうかを確認するために IMS によってチェックされる、SLOG インタレスト配列のストレージに関する IMODULE FREESTOR エラー。戻りコード rr は IMODULE 戻りコードです。

GETSTOR SLOG ARY

IMS によって使用されている SLOG インタレスト配列の取得に関する IMODULE GETSTOR エラー。戻りコード rr は IMODULE 戻りコードです。

rr 理由テキストに関連付けられた戻りコード。

システムの処置: システム処置は理由テキストによって異なります。

FREESTR MONEXTBL

IMS は処理を続行します。

FREESTR LMONARRY

IMS は処理を続行します。

GETSTOR SLOG ARY

IMSMON 出口タイプは呼び出されません。その状態を示すために、LMONNSLA フラグが設定されます。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストが GETSTOR SLOG ARY である場合、アドレス・スペースの領域サイズが小さすぎることが原因の可能性があります。IMS 制御領域 JCL の REGION= パラメーターを変更して領域サイズを増やしてから、IMS を再始動します。

問題が解決しない場合は、メモリー・ダンプと IMS ログをすべて保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。メモリー・ダンプが生成されない場合、IMS 制御領域のコンソール・ダンプを作成します。問題の IMSMON 出口がベンダー製品である場合は、そのベンダーに連絡してガイダンスを求めてください。

問題判別: 1, 2, 3, 4, 5, 15, 25, 36, 41.

モジュール: DFSMNTR0

関連情報:

9 ページの『第 2 章 IMS 問題判別』

DFS4591E THE DIRECTORY DATA SET NAMES IN THE FAILED IMS AND THE RESTARTED IMS DO NOT MATCH. UOW ABORTED.
TOKEN=ccccccccccccccc.

説明: 障害が発生した IMS と再始動された IMS の、それぞれの DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <CATALOG> セクションが同じではありません。障害が発生した IMS の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子が、再始動された IMS の IMS ディレクトリー・データ・セットの名前にある高位修飾子と一致していません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ccccccccccccccc

メンバー・オンライン変更 (MOLC) 作業単位 (UOW) トークン。

システムの処置: IMS の再始動が異常終了 0053 で異常終了します。

DFS4593E • DFS4594W

システム・プログラマーの応答: 再始動された IMS によって使用されている DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションの内容は、障害が発生した IMS によって使用されていた DFSDFxxx メンバーと同じでなければなりません。矛盾を訂正し、IMS を再始動してください。

モジュール: DFSMOL20

関連概念:

➡ IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

関連資料:

➡ DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

DFS4593E ACBSHR=Y IS SPECIFIED, BUT THE DIRECTORY DATA SET IS FOR A NON SHARED IMS SYSTEM.

説明: この IMS システムは、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバーまたは DFSDFxxx メンバー内で ACBSHR=Y が指定されているため、IMSplex 内の他の IMS システムとアプリケーション制御ブロック (ACB) を共用するように構成されています。しかし、その IMS システムが参照する IMS カタログは、ACBSHR=N を指定する別の IMS システムが専用で使用するようにセットアップされています。

システムの処置: IMS は異常終了し、異常終了コード U0071 が示されます。

システム・プログラマーの応答: 再始動する IMS システムで ACBSHR パラメーターが正しく指定されていることを確認してください。ACBSHR パラメーターは、IMS.PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバーまたは DFSDFxxx メンバーに指定されています。

PROCLIB メンバー内の ACBSHR の指定が正しくない場合は、その指定を ACBSHR=N に変更します。

PROCLIB メンバーの ACBSHR の指定が正しい場合、再始動する IMS システムが誤った IMS カタログを参照しているか、IMS カタログが正しい ACBSHR 指定を使用してセットアップされませんでした。IMS システムが誤った IMS カタログを参照している場合は、再始動する IMS システムの DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクション内で、ALIAS パラメーターに正しい IMS カタログの別名を指定します。IMS カタログが正しい ACBSHR 指定を使用してセットアップされなかった場合は、IMS カタログを再作成する必要があります。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

1110 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

➡ マルチシステム構成における IMS カタログ (システム定義)

関連タスク:

➡ IMS カタログのセットアップ (システム定義)

関連資料:

➡ DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

➡ IMS PROCLIB データ・セットの DFSCGxxx メンバー (システム定義)

➡ DFSDFxxx メンバーの COMMON_SERVICE_LAYER セクション (システム定義)

DFS4594W THE CURRENT CHANGE TO ACBMGMT SUPPORT IS INADVISABLE WITH A RESTART USING CHECKPOINT

説明: IMS システムの再始動中に、IMS は、アプリケーション制御ブロック (ACB) がオンライン IMS システムに前回ロードされてから IMS カタログが変更されたことを検出しました。IMS カタログに対して行われた変更によってオンライン IMS システムの ACB と IMS ディレクトリー・データ・セットの ACB の間に不一致が生じると、その不一致が検出された時点で IMS は異常終了します。

システムの処置: IMS は処理を続行します。IMS は、IMS ディレクトリーの ACB ブロックと、緊急時再始動時に IMS がログからメモリーにロードした ACB ブロックの間の不一致を検出すると、異常終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS システムが正しい IMS カタログを参照していることを確認します。再始動された IMS によって使用されている DFSDFxxx メンバーの <CATALOG> セクションのパラメーターは、障害が発生した IMS によって使用されていた DFSDFxxx メンバーと同じでなければなりません。矛盾を訂正し、IMS を再始動します。

IMS カタログに対する変更が意図的なものであることを確認します。

IMS システムが正しい IMS カタログを参照していて、変更が意図的なものである場合は、コールド・スタートを使用して、IMS カタログに対する現在の変更を IMS システムに追加します。

モジュール: DFSRDB30

関連概念:

➡ IMS ディレクトリー・データ・セット (システム定義)

関連資料:

➡ DFSDFxxx メンバーの CATALOG および CATALOGxxxx セクション (システム定義)

DFS4596E OLC COMMIT REJECTED. INVALID MEMBER IN FMTLIB *ddname -nn mbrname*

説明: 非アクティブの FMTLIB データ・セットで無効なメンバーが検出されたため、オンライン変更コミット・コマンド /MODIFY COMMIT はリジェクトされました。メンバーに無効なディレクトリー・サイズ (負の値または 32767 バイトよりも大きい値) が含まれているため、メンバーは無効です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname 7 文字の FMTLIB DD 名。これは、FORMATA または FORMATB のいずれかです。

nn FMTLIB DD ステートメント内の FMTLIB データ・セット連結数 (2 バイト)。

mbrname FMTLIB データ・セット内の 8 文字の無効なメンバー名。

例えば、/MODIFY COMMIT コマンドが発行される前に、モジュールが誤って非アクティブな FMTLIB にコピーされると、/MODIFY COMMIT コマンドはこのエラーで失敗することがあります。メンバーが、無効なディレクトリー・サイズの実際の MFS 形式である場合、形式名の最初の 2 文字は、この出力に空白またはその他の英数字以外の文字として表示されることがある印刷不能な 16 進値です。TSO で FMTLIB を表示するときに、形式名の最初の 2 文字が異なる非英数字として表示されることがあります。

システムの処置: オンライン変更コミット・コマンドはリジェクトされます。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答: FMTLIB データ・セットから無効なメンバーを削除して、/MODIFY COMMIT コマンドを再発行するか、/MODIFY ABORT コマンドを使用してオンライン変更を打ち切ってください。

モジュール: DFSICV50

DFS4597I DBD *dbd_name* IS DELETED FROM THE CATALOG AND THE DIRECTORY. PST *pst_name*.

説明: DROP DATABASE DDL ステートメントによって、カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方からデータベースが削除されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name 削除されたデータベースの名前。

pst_name DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: IMS は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

モジュール: DFSMOLS0

DFS4598I PSB *psb_name* IS DELETED FROM THE CATALOG AND THE DIRECTORY. PST *pst_name*

説明: DROP PROGRAMVIEW DDL ステートメントによって、カタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方からプログラム・ビュー (PSB) が削除されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name 削除されたプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: IMS は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

モジュール: DFSMOLS0

DFS4599E RECOVERY UTILITY FAILED TO CLEANUP DIRECTORY REASON=*reasontext*

説明: ディレクトリーをクリーンアップするリカバリー・ユーティリティが失敗しました。失敗の原因が理由テキストで説明されています。

システムの処置: クリーンアップ・ジョブが失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を訂正し、

DFS4600E • DFS4600I

クリーンアップ・ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS4600E RSN=02 AREA *areaname* SERIALIZATION PROCESS FAILED


説明: エリアの直列化プロセスは失敗しました。これより前に出される 1 つ以上の DFS4600I メッセージで、エリアの直列化の失敗の理由が説明されています。

DEDB 変更プロセス中に、DEDB エリアは、1 つ以上のインスタンスについて、直列化および直列化解除されます。DEDB エリアの直列化が失敗した場合、最後の直列化インスタンスに対して DFS4600E RSN=02 メッセージが発行されます。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール: DBFDAQA0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

DFS4600I RSN=00 AREA *areaname* SERIALIZATION PROCESS STARTED

または

RSN=01 AREA *areaname* SERIALIZATION PROCESS ENDED SUCCESSFULLY

または

RSN=03 AREA *areaname* SERIALIZATION FAILED - THREAD yyyyyyyy UPDATED THE AREA BUT WAS NOT SERIALIZED

または

RSN=04 AREA *areaname* SERIALIZATION FAILED - THREAD yyyyyyyy WITH UPDATE INTENT FOR THE AREA WAS NOT SERIALIZED

または

RSN=06 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZE THE AREA

または

RSN=07 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT - RETRY STARTING

または

RSN=08 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT - RETRY STARTING

または

RSN=09 AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT - RETRY STARTING

または

RSN=0A AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT - RETRY STARTING

または

RSN=0B AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT - RETRY STARTING

または

RSN=0C AREA *areaname* SERIALIZATION TIMED OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZE THE AREA

説明: DEDB 変更プロセス中に、DEDB エリアをアプリケーション・スレッドで直列化する必要がありました。

- 直列化プロセスが正常に完了した場合、RSN=01 がストリーム内の最後のメッセージになります。
- 直列化プロセスが失敗した場合、ストリーム内の最後のメッセージは DFS4600E RSN=02 になり、その前に出される DFS4600I メッセージに失敗の説明が示されます。

DEDB 変更プロセス中に、DEDB エリアは、1 つ以上のインスタンスについて、直列化および直列化解除されます。各インスタンスについて、DEDB エリアが正常に直列化された場合、メッセージ DFS4600I RSN=00 および DFS4600I RSN=01 が発行されます。DEDB エリアの直列化が失敗した場合、最後の直列化インスタンスに対して、メッセージ DFS4600I RSN=00 および DFS4600E RSN=02 が発行されます。

理由コード

意味

RSN00 エリアの直列化プロセスがエリア *areaname* に対して開始されました。

RSN01 エリアの直列化プロセスは正常に終了しまし

た。エリアは DEDB 変更ユーティリティーによって直列化されました。

RSN03 エリアの直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyyy* はエリア *areaname* を更新しましたが、エリア *areaname* は正しく直列化されませんでした。

RSN04 エリアの直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyyy* がエリア *areaname* の直列化に関連していませんでしたが、タスクはこれを受け入れることができるかどうかを判別できませんでした。

RSN06, RSN0C

エリアの直列化を排他モードで試行しているときに、エリアの直列化プロセスはタイムアウトになりました。


RSN07, RSN08, RSN09, RSN0A, RSN0B

エリアの直列化を排他モードで試行しているときに、エリアの直列化プロセスはタイムアウトになりました。DEDB 変更ユーティリティーの入力オプションとして **RETRY YES** または **RETRY *retry_value*** が指定されていたため、エリアの直列化がもう 1 回再試行されます。

システムの処置: エリアの直列化が正常に実行された場合、DEDB 変更ユーティリティーは処理を続行します。エリアの直列化が正常に実行されなかった場合、DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール: DBFDAQA0

関連資料:

 **DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)**

第 94 章 DFS メッセージ DFS4601E - DFS4650I

ここでは、次のメッセージについて説明します。


**DFS4601E RSN=02 DEDB *dedbname*
SERIALIZATION PROCESS FAILED**

説明: DEDB の直列化プロセスは失敗しました。これより前に出される 1 つ以上の DFS4601I メッセージで、DEDB の直列化の失敗の理由が説明されています。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール: DBFDAQA0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

**DFS4601I RSN=00 DEDB *dedbname*
SERIALIZATION PROCESS STARTED**

または

**RSN=01 DEDB *dedbname* SERIALIZATION
PROCESS ENDED SUCCESSFULLY**

または

**RSN=03 DEDB *dedbname* SERIALIZATION FAILED
- THREAD *yyyyyyyy* UPDATED THE DEDB BUT
WAS NOT SERIALIZED**

または

**RSN=04 DEDB *dedbname* SERIALIZATION FAILED
- THREAD *yyyyyyyy* WITH UPDATE INTENT FOR
THE DEDB WAS NOT SERIALIZED**

または

**RSN=06 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZE THE
DEDB**

または

**RSN=07 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT - RETRY STARTING**

または

**RSN=08 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT - RETRY STARTING**

または

**RSN=09 DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT - RETRY STARTING**

または

**RSN=0A DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT - RETRY STARTING**

または

**RSN=0B DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT - RETRY STARTING**

または

**RSN=0C DEDB *dedbname* SERIALIZATION TIMED
OUT WHILE ATTEMPTING TO SERIALIZE THE
DEDB**

説明: DEDB 変更プロセス中に、DEDB データベースをアプリケーション・スレッドで直列化する必要がありました。

- プロセスが正常に完了した場合、RSN=01 はストリーム内の最後のメッセージになります。
- 直列化プロセスが失敗した場合、ストリーム内の最後のメッセージは DFS4601E RSN=02 になり、その前に出される DFS4601I メッセージに失敗の説明が示されます。

理由コード

意味

RSN00 DEDB の直列化プロセスが DEDB *dedbname* に対して開始されました。

RSN01 DEDB の直列化プロセスは正常に終了しました。エリアは DEDB 変更ユーティリティーによって直列化されました。

RSN03 DEDB の直列化プロセスは失敗しました。スレ

ッド *yyyyyyyy* は DEDB *dedbname* を更新しましたが、DEDB *dedbname* は正常に直列化されませんでした。

RSN04 エリアの直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* が DEDB *dedbname* の直列化に関連していませんでしたが、タスクはこれを受け入れることができるかどうかを判別できませんでした。

RSN06, RSN0C

エリアの直列化を排他モードで試行しているときに、DEDB の直列化プロセスはタイムアウトになりました。


RSN07, RSN08, RSN09, RSN0A, RSN0B

DEDB の直列化を排他モードで試行しているときに、DEDB の直列化プロセスはタイムアウトになりました。DEDB 変更ユーティリティの入力オプションとして `RETRY YES` または `RETRY retry_value` が指定されていたため、DEDB の直列化がもう 1 回再試行されます。

システムの処置: DEDB の直列化が正常に実行された場合、DEDB 変更ユーティリティは処理を続行します。DEDB の直列化が正常に実行されなかった場合、DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

モジュール: DBFDAQA0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4602E BOTH ACTIVE AND SHADOW ARE SPECIFIED


説明: DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) で `ACTIVE` と `SHADOW` の両方の制御ステートメントが指定されています。ユーティリティは同じ実行の中で `ACTIVE` ・ `エリア` ・ `データ` ・ `セット` と `シャドウ` ・ `データ` ・ `セット` の両方をフォーマット設定することはできないため、これらの制御ステートメントは相互に排他的です。

システムの処置: DEDB 初期設定ユーティリティは機能を処理せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 1 回の実行で `ACTIVE` 制御ステートメントを指定して、`ACTIVE` ・ `エリア` ・ `データ` ・ `セット` をフォーマット設定します。別の実行で `SHADOW` 制御ステートメントを指定して、`シャドウ` ・ `エリア` ・ `データ` ・ `セット` および `シャドウ` ・ `イメージ` ・ `コピー` ・ `データ` ・ `セット` をフォーマット設定します。

モジュール: DBFUMIN0

関連資料:

 DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティ)

DFS4603I DBRC QUIESCE END ERROR FOR DEDB ALTER, DEDB=*ddddddd* RC=*rrrrrrr* RSN=*rrrrrrr* MODULE=*bbbbbbb*

または

DBRC QUIESCE END ERROR FOR DEDB ALTER, AREA=*aaaaaaa* RC=*rrrrrrr* RSN=*rrrrrrr* MODULE=*bbbbbbb*

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。DBRC で `QUIESCE IN PROGRESS` フラグがまだアクティブになっていて、IMS が `QUIESCE` フラグをリセットしようとしたときに、DBRC 呼び出しが失敗しました。DSPDBQ END 呼び出しに対して RC が DBRC によって設定されず、RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: RECON データ・セットをリストして、`QUIESCE IN PROGRESS` フラグがまだオンになっているかどうかを確認します。オンである場合は、`QUIESCE IN PROGRESS` フラグをリセットします。

モジュール: DBFEDA00

DFS4604I DBRC ALTER EOJ ERROR FOR DEDB ALTER AREA=*aaaaaaa* RC=*rrrrrrr* MODULE=*bbbbbbb*

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。AREA=*aaaaaaa* の RECON で `DEDB ALTER` フラグがオンになっていました。ALTEREOJ 呼び出しに対して RC が DBRC によって設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: RECON データ・セットをリストして、`DEDB ALTER IN PROGRESS` フラグがまだオンになっているかどうかを確認します。オンである場合は、`ALTER IN PROGRESS` フラグをリセットします。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4605I RESTART ERROR PROCESSING 5961
LOG RECORD, COULD NOT FIND
AREA=aaaaaaaa MODULE=bbbbbbbb**

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。IMS は、AREA=aaaaaaaa を検出できず、関連する 5961 ログ・レコードを処理できませんでした。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: AREA が正常に削除された場合は、処置は必要ありません。削除されなかった場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4606I COULD NOT DELETE THE BLOCKS
FOR DEDB ALTER DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrrr RSN=aaaaaaaa
MODULE=bbbbbbbb**

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。ACTIVE ACBLIB に、IMS が削除できなかった暗号化されたメンバーが含まれていました。UNDO COPYLBOCKs 呼び出し時に DBFMOLS0 によって RC が設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: 暗号化されたメンバーが必要でなくなっていることを確認してください。必要ない場合は、そのメンバーを ACBLIB から削除します。共用 ACBLIB を使用している場合、再始動しているすべてのデータ共用 IMS サブシステムはクリーンアップを試行しますが、ACBLIB をロックする最初の IMS のみが削除対象のブロックを検出します。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4607I COULD NOT FIND THE DDIR FOR
DEDB ALTER DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrrr MODULE=bbbbbbbb**

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。IMS は、DEDB=ddddddd を検出できず、関連する 5961 ログ・レコードを処理できませんでした。DDIR が見つからない場合、RC が

DFSCBTS によって設定されます。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: AREA が適切に削除された場合は、処置は必要ありません。削除されなかった場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4608E COULD NOT UNDO MOLC FOR
DEDB ALTER DEDB=ddddddd
RC=rrrrrrrr RSN=aaaaaaaa
MODULE=bbbbbbbb**

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。IMS は、IMS の障害発生時に DEDB=ddddddd の STAGING メンバーがアクティブ・ライブラリーにコピーされたことを検出しました。ACTIVE ACBLIB メンバーをリストアする試行は失敗しました。UNDO MOLC 呼び出し時に RC が DBFMOLS0 によって設定されます。RSN コードは、コードの中でメッセージが発行された場所を識別します。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: ACTIVE ACBLIB の DEDB メンバーが STAGING メンバーからのものであることを確認します。そうである場合、ACTIVE ACBLIB の DEDB メンバーをアクティブ・メンバーのバックアップ ACBLIB から手動でリストアする必要があります。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4609I THE DEDB ALTER MOLC PROCESS
WAS CLEANED UP DURING
RESTART DEDB=ddddddd
MODULE=aaaaaaaa**

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。IMS は、IMS の障害発生時に DEDB=ddddddd の STAGING メンバーがアクティブ・ライブラリーにコピーされたことを検出しました。ACTIVE ACBLIB をリストアする試行は正常に完了しました。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFEDA00

DFS4610E ONLY ONE *keyword* KEYWORD IS ALLOWED PER UTILITY EXECUTION

説明: メッセージ・テキストで、*keyword* は、
 | ADDAREA、ALTERAREA、ALTERDB、
 | REPLRAND、RETRY、RETRYWAIT、TIMEOUT、
 | TYPE、または UNKEYSEG のいずれかの制御ステート
 | メントです。

DEDB 変更ユーティリティは、ユーティリティの 1 回の実行につき、これらの制御ステートメントの 1 つのみをサポートします。しかし、これらの制御ステートメントの 1 つ以上が複数回指定されていました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは機能を処理せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: メッセージの説明にリストされている制御ステートメントを 1 つを除きすべて削除し、ジョブを再サブミットしてください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4611E TIMEOUT VALUE SPECIFIED IS INCORRECT

説明: TIMEOUT 値は、1 から 999 までの 1 桁から 3 桁の数値でなければなりません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: TIMEOUT 値を訂正するか、削除してデフォルトの TIMEOUT 値の 15 秒が使用されるようにしてから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4613E DEDB ALTER TERMINATED BECAUSE EEQE EXISTS

説明: エリアをオンラインに変更するために、DEDB 変更ユーティリティが ALTERAREA 機能と一緒に実行されました。しかし、変更対象のエリアには 1 つ以上の拡張エラー・キュー・エレメント (EEQE) がありません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要

求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 変更対象のエリアをリカバリーして、EEQE を解決してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連概念:

➡ DL/I 入出力エラーおよびリカバリー (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4614E DEDB ALTER REQUIRES A 2 STAGE RANDOMIZER

説明: DEDB 変更ユーティリティは、変更対象の DEDB データベースが 2 ステージ・ランダムマイザーを使用していないことを検出しました。DEDB 変更ユーティリティは、2 ステージ・ランダムマイザーを使用する DEDB データベースのみをサポートします。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 2 ステージ・ランダムマイザーを使用するように DEDB データベースを変換します。

- ランダムマイザーが 1 ステージ・ランダムマイザーである場合、2 ステージ・ランダムマイザーを使用して DEDB データベースをアンロードしてから再ロードします。オンライン変更を実行して、ランダムマイザーを 1 ステージ・ランダムマイザーから 2 ステージ・ランダムマイザーに変更します。
- ランダムマイザーが 2 ステージ・ランダムマイザーに似たランダムマイザーである (1 ステージ・ランダムマイザーとして定義されているが、2 ステージ・ランダムマイザーとして動作する) 場合、オンライン変更を実行して、ランダムマイザーを 1 ステージ・ランダムマイザーから 2 ステージ・ランダムマイザーに変更します。

モジュール: DBFUMMS0

関連概念:

➡ DL/I 入出力エラーおよびリカバリー (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4615E ADDAREA, ALTERAREA, REPLRAND AND ALTERDB ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

説明:

DEDB 変更ユーティリティは、以下の制御ステートメントのうち、複数指定されていることを検出しました。しかし、以下の制御ステートメントは同時に指定できないため、指定できるステートメントはこのうち 1 つのみです。


- ADDAREA
- ALTERAREA
- REPLRAND
- ALTERDB

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 同時に指定できない制御ステートメントを複数指定したことによって生じたエラーを訂正し、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4616E RETRY VALUE SPECIFIED IS INCORRECT


説明: RETRY は、DEDB 変更ユーティリティが TIMEOUT 値の期限が切れた後にコミット・プロセスを再試行する回数を指定します。RETRY 値は、NO (再試行しない)、YES (ユーティリティが正常に実行されるまで再試行する)、または 1 から 99 の数値でなければなりません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: RETRY 値を訂正するか、削除してデフォルト値の NO が使用されるようにしてから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4617E RETRYWAIT VALUE SPECIFIED IS INCORRECT


説明: RETRYWAIT は、DEDB 変更ユーティリティが TIMEOUT 値の期限が切れた後にコミット・プロセスを再試行するのを待機する時間の長さを指定します。RETRYWAIT 値は、1 から 999 までの 1 文字から 3 文字の数値 (秒を表します) でなければなりません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: RETRYWAIT 値を訂正するか、削除してデフォルト値の 60 秒が使用されるようにしてから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4618E ANOTHER DEDB ALTER UTILITY IS ALREADY RUNNING AGAINST DEDB dedb_name


説明: 同じ DEDB データベースに対して別の DEDB 変更ユーティリティが既に実行されています。IMS データ共有システムで 1 つの DEDB データベースに対してアクティブにできる DEDB 変更ユーティリティは 1 つだけです。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 他の DEDB 変更ユーティリティが完了するのを待ってから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4619E MINVERS NOT MATCHING REQUIREMENT

説明: RECON データ・セットで MINVERS 値が 13.1 以上に設定されていないため、DEDB 変更ユーティリティを実行できません。DEDB 変更ユーティリティを実行するには、MINVERS 値が 13.1 以上でなければなりません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: CHANGE.RECON コマンドを発行することにより、RECON データの MINVERS 値を 13.1 以上に設定してから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

➡ CHANGE.RECON コマンド (コマンド)

DFS4620E DEDB ALTER VALIDATION ERROR:
Cause

説明: DEDB 変更ユーティリティは、変更対象の DEDB データベースのステージング ACB ライブラリーで DEDB DBD メンバーの無効な状態を検出しました。

メッセージ・テキストで、*Cause* は以下のいずれかの状態を示します。

- DEDB ALTER REQUIRES A 2-STAGE RANDOMIZER
- SAME RANDOMIZER NAME BUT ATTRIBUTE CHANGE
- SAME RANDOMIZER NAME FOUND FOR REPLRAND
- ALTERAREA ONLY SUPPORTS CHANGING ONE AREA
- AREA CHANGE FOUND FOR REPLRAND FUNCTION
- NUMBER OF AREAS IN DEDB CHANGE FOUND
- ORDER OF AREAS IN DEDB CHANGE FOUND
- AREA ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- FIELD ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- SECONDARY INDEX CHANGE NOT SUPPORTED
- SEGM ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- ATTRIBUTE CHANGE NOT SUPPORTED
- STAGING ACBLIB IS EMPTY
- AREA *area_name* DOES NOT EXIST
- DEDB *dedb_name* MEMBER NOT IN STAGING ACBLIB
- DEDB *dedbname* MEMBER NOT IN STAGING DIRECTORY
- SHADOW AREA SDEP PART IS LESS FOR ALTERAREA FUNCTION

- SHADOW RANDOMIZER IS NOT REENTRANT
- SEGMENT EDIT/COMPRESSION EXIT NOT SUPPORTED
- INCONSISTENCY FOUND IN DEDB AND RECON DEFINITIONS
- ADDED AREAS ARE NOT TO THE END OF DEDB *dedbname*

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB DBD 定義のエラーを訂正して、ステージング ACB ライブラリーに対して DBDGEN ユーティリティおよび ACBGEN ユーティリティを再実行し、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DBFDASP0

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

➡ データベース記述 (DBD) 生成ユーティリティ (システム・ユーティリティ)

➡ アプリケーション制御ブロック保守ユーティリティ (システム・ユーティリティ)

DFS4621E DEDB ALTER SYSTEM ERROR: *Cause*

説明: DEDB 変更ユーティリティがシステム・エラーを検出しました。

メッセージ・テキストで、*Cause* は以下のいずれかの状態を示します。

- GET STORAGE ERROR
- IMS INTERNAL ERROR
- DATA SHARING ERROR

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼して、診断情報 (IMS および DEDB 変更ユーティリティ領域のダンプ) を収集します。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DBFDASP0、DBFDAI60

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4622E DEDB ALTER ENVIRONMENT**ERROR: Cause**

説明: DEDB 変更ユーティリティがステージング ACB ライブラリーへのアクセス時に環境エラーを検出したか、DEDB 変更がオンライン変更と並行して実行されました。DEDB 変更ユーティリティおよびオンライン変更のプロセスを並行して実行することはできません。

メッセージ・テキストで、Cause は以下のいずれかの状態を示します。


- ONLINE CHANGE PHASE IN PROGRESS
- STAGING ACBLIB ACCESS ERROR
- STAGING ACBLIB ALLOCATION ERROR
- STAGING ACBLIB OPEN ERROR
- STAGING DIRECTORY ACCESS ERROR
- STAGING DIRECTORY ALLOCATION ERROR
- STAGING DIRECTORY OPEN ERROR ERROR
- DIRECTORY ACCESS ERROR
- DIRECTORY ALLOCATION ERROR
- DIRECTORY OPEN ERROR
- ACTIVE ACBLIB ACCESS ERROR
- ACTIVE ACBLIB ALLOCATION ERROR
- ACTIVE ACBLIB OPEN ERROR
- DRD OR DB QUIESCE COMMAND IN PROGRESS
- AUTHORIZED SUBSYSTEM *ims_name* IS NOT A MEMBER OF ALTERGRP *alter_group*
- ACBSHR= VALUE DOES NOT MATCH

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 環境エラーを訂正してから、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFDASP0、DBFDAI60

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

**DFS4623W NO AREA ATTRIBUTE CHANGE
FOUND FOR ALTERAREA
FUNCTION**

説明: *area_name* で指定されたエリアの属性を変更するために、DEDB 変更ユーティリティが実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティは、エリア属性が変更されていないことを検出しました。


システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能の実行を続行します。

システム・プログラマーの応答: エリア属性の変更が省

略された場合、DBDGEN ユーティリティおよび ACBGEN ユーティリティを再実行してエリア属性の変更を反映してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFDASP0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

**DFS4624I DEDB ALTER SHADOW
RANDOMIZER *randname* LOADED
FOR DEDB *dedbname***

説明: ランダマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行されました。*randname* で指定されているシャドー・ランダマイザーは、DEDB *dedbname* のために正常にロードされました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能の実行を続行します。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

モジュール: DBFDASP0

**DFS4625E DEDB ALTER SHADOW
RANDOMIZER *randname* UNLOADED
FOR DEDB *dedbname***

説明: ランダマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティは終了エラーを検出しました。*randname* で指定されているシャドー・ランダマイザーは、DEDB *dedbname* のために正常にアンロードされました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティが終了する原因となったエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFDASP0

**DFS4626I DEDB ALTER SHADOW
RANDOMIZER *randname* REPLACED
ACTIVE RANDOMIZER *randname* FOR
DEDB *dedbname***

説明: ランダマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行され、正常に完了しました。*randname* で指定されているシャドー・ランダマイザーは、DEDB *dedbname* のアクティブ・ランダマイザー *randname* に置き換えられました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された処置を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDASPO

**DFS4627E DEDB ALTER SHADOW
RANDOMIZER *randname* LOAD
FAILED FOR DEDB *dedbname***

または

**DEDB ALTER SHADOW RANDOMIZER *randname*
UNLOAD FAILED FOR DEDB *dedbname***

または

**DEDB ALTER OLD ACTIVE RANDOMIZER
randname UNLOAD FAILED FOR DEDB *dedbname***

説明: ランダマイザーの変更によってエリアを変更するため、またはランダマイザーを置き換えるために、DEDB 変更ユーティリティが実行されましたが、以下のいずれかの理由により、要求された機能を実行せずに終了しました。


- ユーティリティは、*randname* で指定されているシャドー・ランダマイザーをロードできませんでした。
- ユーティリティは、*randname* で指定されているシャドー・ランダマイザーをアンロードできませんでした。
- ユーティリティは、*randname* で指定されている以前のアクティブ・ランダマイザーをアンロードできませんでした。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された処置を完了するか、完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: ランダマイザーのロードの失敗を解決して、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFDASPO

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

**DFS4628I IMS *ims_name* JOINED | LEFT
ALTERGRP *alter_group***

説明: IMS システム *ims_name* は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの FASTPATH セクションの ALTERGRP パラメーターによって DBFxxxxx で定義されている DEDB 変更データ共用グループ *alter_group* に参加したか、このグループから離脱しました。

システムの処置: IMS システムは、DEDB 変更 DBFxxxxx データ共用グループに参加したか、このグループから離脱しました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDAI60

**DFS4629E IMS *ims_name* ERROR JOINING |
LEAVING ALTERGRP *alter_group*,
RC=*return_code*, RSN=*reason_code***

説明: IMS システム *ims_name* は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの FASTPATH セクションの ALTERGRP パラメーターによって DBFxxxxx で定義されている DEDB 変更データ共用グループ *alter_group* に参加したか、このグループから離脱したときに、エラーを検出しました。

システムの処置: IMS は、DEDB 変更 DBFxxxxx データ共用グループに参加するか、グループから離脱するときに、エラーを検出しました。

XRF テークオーバーの後、以前のアクティブ IMS システムがまだ ALTERGRP グループを離脱していない場合、新しいアクティブ IMS システムは、ALTERGRP グループに参加しようとすると DFS4629E を受け取ります。

新しいアクティブ IMS システムの参加のエラーの後、新しいアクティブ IMS は、ALTERGRP グループに正常に参加するまで、IMS システム・チェックポイント時に ALTERGRP グループへの参加を再試行します。

システム・プログラマーの応答: 処置は必要ありません。

モジュール: DBFDAI60

**DFS4630E AN UNEXPECTED STATUS CODE
OF *status_code* WAS ENCOUNTERED
WHEN ATTEMPTING AN *call_type*
CALL FOR SEGMENT *segment_name*
IN THE SHADOW ADS.**

説明: ALTERAREA 機能の DEDB 変更ユーティリティの処理中に、シャドー・エリア・データ・セットを

更新しようとしていた、示されている呼び出しで状況コードが返されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

status_code

呼び出しタイプで返された DL/I 状況コード。

call_type

次のいずれかです。

- DELETE
- INSERT
- LOCATE
- UPDATE


システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を実行せずに終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。FPTRACE を指定して DEDB 変更ユーティリティーを再実行し、問題の判別に必要となる可能性がある文書を収集してください。問題が解決しない場合は、オフライン再編成方式の使用を検討してください。

モジュール:

DBFDARD0、DBFDARI0、DBFDARR0、DBFDAR20

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

DFS4631E UTILITY FAILED DUE TO AN UPDATE TO UNKEYED SEGMENT
segname

説明: DEDB 変更ユーティリティーはオプション UNKEYSEG=ISRTFILA を指定しました。このオプションは、キーなしのセグメントに関わる更新がこのユーティリティーの処理中に行われた場合、このユーティリティーを終了する必要があることを示します。この状況で、このユーティリティーの処理中に以下のいずれかの条件が発生しました。

1. キーなしのセグメントが置換または削除されました。
2. 挿入規則 HERE によってキーなしのセグメントが挿入されました。

システムの処置: このユーティリティーは終了し、シャドー・エリア・データ・セットにはエラーのマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答: アクティビティーが少ない期間中にこのユーティリティーを再実行することを検討するか、DEDB 変更時にキーなしのセグメントに対

する更新が許可されるように UNKEYSEG オプションを変更してください。

モジュール: DBFDAR00

DFS4632E DEDB ALTER TERMINATED BECAUSE SEGMENT *segname* HAS AN UNKEYED PARENT

説明: DEDB 変更ユーティリティーはオプション UNKEYSEG=ISRTFILA を指定しました。このオプションは、キーなしのセグメントに関わる更新がこのユーティリティーの処理中に行われた場合、このユーティリティーを終了する必要があることを示します。この状況で、更新されたセグメントへの階層パス内の少なくとも 1 つのセグメントがキーなしのセグメントです。

システムの処置: このユーティリティーは終了し、シャドー・エリア・データ・セットにはエラーのマークが付けられます。

システム・プログラマーの応答: アクティビティーが少ない期間中にこのユーティリティーを再実行することを検討するか、DEDB 変更時にキーなしのセグメントに対する更新が許可されるように UNKEYSEG オプションを変更してください。

モジュール: DBFDAR00

DFS4634I THE DEDB ALTER COPY BLK PROCESS WAS CLEANED UP DURING RESTART DEDB=dddddddd MODULE=aaaaaaaa

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。ACTIVE ACBLIB に暗号化されたメンバーが含まれていて、IMS はそのメンバーを削除できました。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFEDA00

DFS4635I THE DEDB ALTER QUIESCE FLAGS WERE CLEANED UP IN DBRC DURING RESTART DEDB=dddddddd MODULE=aaaaaaaa

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。DBRC で QUIESCE IN PROGRESS フラグがまだアクティブになっていて、IMS はそのフラグをリセットできました。

DFS4636I • DFS4637I

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4636I THE DEDB ALTER ALTER EOJ
FLAGS WERE CLEANED UP IN
DBRC DURING RESTART
DEDB=dddddddd MODULE=aaaaaaaa**

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティーが実行中であったことを検出しました。RECON データ・セットで DEDB ALTER フラグがオンになっていて、IMS はそのフラグをリセットできました。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4637E RSN=06 type name FAILED TO
SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE
ENVIRONMENT - UTILTY TO BE
TERMINATED**

説明: ユーティリティーはオンライン・アクティビティーとの直列化に失敗し、終了中です。

メッセージ・テキストの *type* と *name* は、以下のいずれかの組み合わせになります。

AREA areaname

DEDB エリアの名前を示します。

DEDB dedbname

DEDB の名前を示します。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

直列化に失敗する原因は、DEDB ALTER がオンライン・アクティビティーとの直列化を試行している間にスレッドがコミットを発行しないことにあります。これは通常、長時間実行されている BMP、またはアクティビティーがないためにコミットを発行しなかった一部の会話型トランザクションが原因です。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDAQ00

**DFS4637I RSN=00 type name WAS ABLE TO
SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE
SYSTEM SYS3**

または

**RSN=01 type name WAS NOT ABLE TO
SYNCHRONIZE WITH THREAD yyyyyyyy SYS3**

または

**RSN=02 type name WAS NOT ABLE TO
SYNCHRONIZE AS DEDB ALTER WAS STOPPED
SYS3**

または

**RSN=03 type name WAS NOT ABLE TO
SYNCHRONIZE WITH THREAD yyyyyyyy SYS3**

または

**RSN=04 type name FAILED TO SYNCHRONIZE
WITH THE ONLINE ENVIRONMENT - RETRY
ATTEMPTED SYS3**

または

**RSN=05 type name TIMED OUT ATTEMPTING TO
SYNCHRONIZE WITH THE ONLINE
ENVIRONMENT SYS3**

説明: メッセージ・テキストの *type* と *name* は、以下のいずれかの組み合わせになります。

AREA areaname

DEDB エリアの名前を示します。

DEDB dedbname

DEDB の名前を示します。

このメッセージの意味は、以下のように理由コード (RSN=) によって異なります。

理由コード

意味

RSN00 エリア *areaname* のエリアまたは DEDB の直列化プロセスが終了しました。

RSN01 エリアまたは DEDB の直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* がエリア *areaname* にアクセスしており、DEDB 変更ユーティリティーでスレッドと直列化できるように、タイムリーにコミットを発行しませんでした。

RSN02 エリアまたは DEDB の直列化プロセスは失敗

しました。直列化の進行中に DEDB 変更ユーティリティが停止されました (内部的に、または /STO RGN コマンドを使用して)。

RSN03 エリアまたは DEDB の直列化プロセスは失敗しました。スレッド *yyyyyyyy* がエリア *areaname* にアクセスしており、DEDB 変更ユーティリティでスレッドと直列化できるように、タイムリーにコミットを発行しませんでした。

RSN04 エリア *areaname* のエリアまたは DEDB の直列化プロセスが失敗しました。DEDB 変更ユーティリティの入力オプションとして、TIMEOUT または RETRY YES またはその両方が指定されていたため、あるいは RETRY *retry_value* が指定されていたために、エリアの直列化がもう 1 回再試行されます。

RSN05 エリアをアクティブ・スレッドと直列化しようとしているときに、エリアまたは DEDB の直列化プロセスがタイムアウトになりました。

システムの処置: エリアまたは DEDB の直列化が正常に実行された場合、DEDB 変更ユーティリティは処理を続行します。エリアまたは DEDB の直列化が正常に実行されなかった場合、DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに処理を終了します。

直列化に失敗する原因は、DEDB 変更ユーティリティがオンライン・アクティビティとの直列化を試行している間にスレッドがコミットを発行しないことにあります。これは通常、長時間実行されている BMP、またはアクティビティがないためにコミットを発行しなかった一部の会話型トランザクションが原因です。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDAQ00

DFS4639E REQUESTED VERSION *req_v_nmbr* OF DEDB *dedbname* WAS NOT FOUND IN THE CATALOG

説明: IMS は、カタログで指定されたバージョンの高速処理データベース (DEDB) を検出できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

req_v_nmbr

バージョン番号。

dedbname

高速処理データベース (DEDB) の名前。

システムの処置: IMS は、以前のバージョンのデータ

ベースへのアクセスを提供するために必要な内部ブロックを作成できません。データベースの最新バージョンにのみアクセスできます。

システム・プログラマーの応答: カタログがオンラインになっていて適切に構成されているかどうかを判別してください。カタログが使用可能である場合、アプリケーションによって要求されたバージョンがカタログ内にあるかどうかを判別してください。カタログに以前のバージョンのデータベースに関する情報が設定されていなかった場合、このバージョンのデータベースにはアクセスできません。

モジュール: DBFVER00

DFS4640E SPECIFIED AREA IS NOT REGISTERED TO RECON

説明: DEDB 変更ユーティリティの ALTERAREA *area_name* 機能に指定された DEDB エリアは、RECON データ・セットの DBRC に登録されていません。

DEDB 変更ユーティリティは、RECON データ・セットに登録されている DEDB データベースのみをサポートします。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB データベースを RECON データ・セットの DBRC に登録してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

➡ CHANGE.RECON コマンド (コマンド)

DFS4641E AT LEAST ONE AVAILABLE SHADOW AREA DATA SET AND ONE AVAILABLE SHADOW IMAGE COPY DATA SET ARE REQUIRED

説明: 少なくとも 1 つのシャドー・エリア・データ・セットまたは 1 つのシャドー・イメージ・コピー・データ・セットが定義されていないか、RECON データ・セットの DBRC で使用可能としてマークされていません。

DEDB 変更ユーティリティでは、少なくとも 1 つのシャドー・エリア・データ・セットまたは 1 つのシャドー・イメージ・コピー・データ・セットが定義されていて、ALTERAREA 機能のために RECON データ・セ


ットの DBRC で使用可能としてマークされている必要があります。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットの可用性のエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4642E SPECIFIED DEDB *dedb_name* IS NOT REGISTERED TO RECON

説明: DEDB 変更ユーティリティの DBD パラメータに指定された DEDB データベースは、RECON データ・セットの DBRC に登録されていません。


DEDB 変更ユーティリティは、RECON データ・セットに登録されている DEDB データベースのみをサポートします。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: INIT.DB コマンドを使用して DEDB データベースを RECON データ・セットの DBRC に登録してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連資料:

 INIT.DB コマンド (コマンド)

DFS4643E PRIVATE BUFFER ALLOCATION FAILED

説明: DEDB 変更ユーティリティは、ALTERAREA 機能のための専用バッファを取得できません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。


システム・プログラマーの応答: 専用バッファ割り振りエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連概念:

 DFSVSMxx IMS.PROCLIB メンバーを使用する専用バッファ・プールの定義 (データベース管理)

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4644E DEDB ALTER SHADOW AREA DATA SET OR IMAGE COPY DATA SET OPEN FAILED

説明: DEDB 変更ユーティリティは、ALTERAREA 機能のためにシャドー・エリア・データ・セットまたはシャドー・イメージ・コピー・データ・セットをオープンできません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 具体的な OPEN の失敗については、SYSLOG で OPEN エラー・メッセージを見つけてください。その後、シャドー・エリア・データ・セットまたはシャドー・イメージ・コピー・データ・セットに対して適切な処置を実行します。OPEN の失敗を訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

DFS4645W RETRYWAIT IS IGNORED BECAUSE RETRY IS SPECIFIED OR DEFAULTED TO NO

説明: RETRY 制御ステートメントが指定されていた (またはデフォルトで NO に設定されていた) ため、DEDB 変更ユーティリティは RETRYWAIT *retrywait_value* 制御ステートメントを無視しました。RETRYWAIT と RETRY の制御ステートメントは相互に排他的です。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、RETRYWAIT *retrywait_value* 制御ステートメントを使用せずに処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: RETRYWAIT *retrywait_value* 制御ステートメントが使用されるようにしたい場合は、RETRY 制御ステートメントを RETRY *retry_value* または RETRY YES に変更してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行依頼します。

モジュール: DBFUMMS0

DFS4646I DEDB ALTER SHADOW XXX = *shadow_dataset_name*

説明: DEDB 変更ユーティリティが、ALTERAREA 機能を使用して実行されます。ユーティリティで使われるシャドー・エリア・データ・セット名およびシャドー・イメージ・コピー・データ・セット名のそれぞれ

に対してメッセージ DFS4646I が発行されます。

XXX は、エリア・データ・セットの場合の ADS、またはイメージ・データ・セットの場合の IDS のいずれかです。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFUMMS0

**DFS4648E DEDB ALTER TERMINATED
BECAUSE SORT FAILED**

説明: DEDB 変更ユーティリティーは、ソート処理でエラーが検出されたか、異常終了したために、終了しました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了しました。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・ログまたはシステム・ログに出された DFSORT メッセージを確認して、エラーの原因を調べてください。環境エラーをすべて修正したあとで、DEDB 変更ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DBFDAU70

**DFS4649A DEDB ALTER CANNOT ALLOCATE
TEMPORARY DATA SETS FOR
SORT MESSAGES**

説明: DEDB 変更ユーティリティーの実行中に、IMS は、重複するデータ・セット名を持つデータ・セットが存在するために、ソート・メッセージ用の一時データ・セットを割り振ることができません。

システムの処置: 代わりに、システム出力データ・セットがソート・メッセージ用に割り振られ、処理が続行されます。

プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティーのジョブ・ログにソート・メッセージを発行する必要がある場合は、ボリューム上の重複データ・セットを削除してください。

モジュール: DBFDAS10

**DFS4650I DEDB ALTER SHARING IMS LATE
REPLY IS RECEIVED AND IGNORED**


説明: IMS システムで DEDB 変更ユーティリティーが実行されました。共用 IMS システムは、マスター IMS システムに応答を送信しました。マスター IMS が応答を受信したとき、DEDB 変更ユーティリティーはマスタ

ー IMS で既に終了していました。DEDB 変更の共用 IMS の遅い応答は無視されました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーが実行されていた IMS は、共用 IMS システムからの遅い応答を受信して無視しました。

モジュール: DBFDAI60

関連資料:

 [DEDB 変更ユーティリティー \(DBFUDA00\) \(データベース・ユーティリティー\)](#)

第 95 章 DFS メッセージ DFS4651E - DFS4700

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4651E ALTERGRP GROUP NAME IS NOT DEFINED OR INVALID, BUT DBD *dedbname* IS SHRLEVEL=2|3

説明: ALTERAREA 機能の DEDB 変更ユーティリティー処理中に、シャドウ・エリア・データ・セットを更新しようとした、示されている呼び出しで予期しない状況コードが返されました。DBRC で SHRLEVEL=2 または SHRLEVEL=3 として定義されている DEDB データベースに対して DEDB 変更ユーティリティーが実行されました。ただし、DEDB 変更データ共用グループを定義する ALTERGRP=*xxxxx* パラメーターが DFSDF*xxx* PROCLIB メンバーの FASTPATH セクションで定義されていません。


ALTERGRP=*xxxxx* が定義されていない場合、DEDB データベースは、ローカル IMS システムでのみ変更されます。DEDB データベースは共用データベースとして定義されているため、DEDB 変更機能は許可されません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: ALTERGRP=*xxxxx* パラメーターを DFSDF*xxx* PROCLIB メンバーの <SECTION=FASTPATH> セクションに追加します。IMS システムを再始動して、ALTERGRP=*xxxxx* DEDB 変更データ共用グループに結合します。DEDB 変更ユーティリティーを再実行します。

モジュール: DBFDAU70

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

DFS4652E DEDB ALTER DATA SHARING ERROR: *error* AT *imsid*

説明: DEDB 変更ユーティリティーが、*imsid* で逐次化障害、コミット障害、初期設定障害、または無応答障害のいずれかを検出しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

error 次のいずれかです。

- SERIALIZATION FAILED
- COMMIT FAILED

- ONE OR MORE DATA SHARING IMS SYSTEMS DID NOT RESPOND
- INITIALIZATION FAILED

imsid このエラーを検出した IMS サブシステムの IMS ID。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 環境エラーを修正して、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFDAU70

DFS4660E DEDB ALTER WAS UNABLE TO READ DATA FROM THE ORIGINAL AREA: STATUS CODE XX RSN CODE XX RETURN CODE *nnnn*

説明: 変更を実行中のエリアからデータを読み取ろうとしているときに、エラーが発生しました。これは、長時間実行されている BMP が、変更中のエリアに対するロックを保持していることが原因と考えられます。

状況コード

状況コードの説明は、高速機能ユーティリティーの状況コードおよび理由コードのページを参照してください。

RSN コード


理由コードの説明は、高速機能ユーティリティーの状況コードおよび理由コードのページを参照してください。

戻りコード

これは、内部診断用です。

モジュール: DBFDAU70

関連資料:

 高速機能ユーティリティーの状況コードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

DFS4661E DEDB ALTER WAS UNABLE TO COMMIT DATA TO THE SHADOW AREA: STATUS CODE XX RETURN CODE *nnnn*

説明: DEDB 変更は、新しいエリアに対して同期点を

DFS4662E • DFS4664I

発行しているときにエラーを検出しました。

状況コード

状況コードの説明は、高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コードを参照してください。

戻りコード

これは、内部診断用です。

モジュール: DBFDAU70

関連資料:

➡ 高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

マイザーが同じキーを、それぞれ異なるエリアにランダム化しました。これは許可されません。

216 スレッドでシャドー・エリア・データ・セットにおける入出力エラーが検出されました。

モジュール: DBFDAU70

関連資料:

➡ 高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード (メッセージおよびコード)

関連情報:

➡ 1026 (メッセージおよびコード)

DFS4662E DEDB ALTER WAS UNABLE TO COPY DATA TO THE SHADOW AREA: STATUS CODE *xx* RETURN CODE *nnnn*

説明: DEDB 変更ユーティリティは、新しいエリアにデータをコピーしているときにエラーを検出しました。これは内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xx 状況コードの説明は、高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コードを参照してください。

nnnn この戻りコードは、内部診断用です。

DEDB 変更ユーティリティは、以下の理由コードを返します。理由コードは、変更ジョブ・ログのメッセージ内で見つけることができます。

理由コード

説明

- 200 非 IOVF CI を検出できません。これは内部エラーであり、IBM に報告する必要があります。U1026 異常終了も出されることがあります。
- 204 誤ったセグメント・コードが検出されました。これは内部エラーであり、IBM に報告する必要があります。U1026 異常終了も出されることがあります。
- 208 誤ったセグメント・コードが検出されました。これは内部エラーであり、IBM に報告する必要があります。U1026 異常終了も出されることがあります。
- 212 DEDB 変更処理中に、スレッドでランダムマイザー・エラーが検出されました。状況が設定され、DEDB 変更がその状況を検出しました。シャドー・ランダムマイザーとアクティブ・ランダ

1130 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

DFS4663E DEDB ALTER INITIALIZATION FAILED

説明: DEDB 変更ユーティリティは、DEDB ユティリティが処理する DEDB エリアを保持している他の従属領域を検出しました。また、これが別の初期設定障害によって引き起こされた可能性もあります。詳細については、ジョブ・ログを参照してください。

システムの処置: ユティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答: ジョブ・ログに示されているエラーを訂正し、後でユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール: DBFUDA00

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4664I ALL SHADOW ADS/IDS ARE MARKED UNAVAILABLE


説明: 重大エラーが原因で、DEDB 変更ユーティリティはシャドー・データ・セットを使用不可に設定しました。

システムの処置: ユティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答: シャドー・データ・セットの削除、定義、またはフォーマット設定を実行します。SYSLOG および JOB LOG を使用してエラーの理由を確認します。エラーを修正した後、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール: DBFUDA00

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4665I ALL SHADOW ADS/IDS REMAIN AVAILABLE


説明: エラーがシャドー・データ・セットに影響を与えなかったため、DEDB 変更ユーティリティは、シャドー・データ・セットを使用可能なままにしました。

システムの処置: ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答: SYSLOG および JOB LOG を使用してエラーの理由を確認します。エラーを修正した後、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール: DBFUDA00

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4666E CONNECT SETUP FAILED


説明: DEDB 変更ユーティリティは、AREA データ・セットへの接続時にロギング・エラーを検出しました。

システムの処置: ユーティリティ・ジョブは戻りコード 8 で失敗します。

システム・プログラマーの応答: SYSLOG および JOB LOG を使用してエラーの理由を確認します。エラーを修正した後、ユーティリティ・ジョブを再実行してください。

モジュール: DBFUDA00

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4667I MEMBER *imsname* LEFT ALTERGRP GROUPNAME=*grpname*

説明: DEDB 変更ユーティリティの実行中に、共用 IMS *imsname* が、指定された ALTERGRP から離れました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了しました。

システム・プログラマーの応答: 異常終了した場合は、共用 IMS が再始動された後で、ジョブを再実行依頼してください。共用 IMS が異常終了しなかった場合は、

いつでもジョブを再実行依頼できます。

モジュール: DBFDAU70

DFS4668I MEMBER *imsname* DID NOT PARTICIPATE IN DEDB ALTER FOR DEDB *dedbname*

説明: DEDB 変更ユーティリティが実行されている場合、共用 IMS *imsname* は、DEDB 変更のコミット時に ALTERGRP に参加します。共用 IMS が、DEDB *dedbname* の DEDB 変更プロセスに参加しませんでした。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、共用 IMS が参加せずに、要求された機能を完了しました。

システム・プログラマーの応答: 必要な場合は、共用 IMS でローカル・オンライン変更を行って、DEDB 変更ユーティリティでの変更を反映させてください。

モジュール: DBFDAI60

DFS4669E A FAILED IMS SUBSYSTEM HAS AUTHORIZED AT LEAST ONE AREA OF DEDB *dedbname*

説明: DEDB 変更ユーティリティは、障害が起きた IMS サブシステムによって許可されたエリアを少なくとも 1 つ含む DEDB データベースのエリアを変更しようとして失敗しました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了しています。

システム・プログラマーの応答: 障害が起きたサブシステムが再始動された後で、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DBFUMMS0

DFS4671I COULD NOT CLEAN UP AFTER DEDB ALTER DUE TO MISSING DATA IN LOGS. ALTER TOKEN=*tttt* *tttt*

説明: IMS の再始動時に、IMS は、IMS が異常終了したときに DEDB 変更ユーティリティが実行中であったことを検出しました。DEDB 変更ユーティリティの実行のログ・レコードのすべてが検出されたわけではないため、クリーンアップを実行できませんでした。この状態は、再始動チェックポイント、XRF 開始チェックポイント、または FDBR 開始チェックポイントが DEDB ALTER の実行前後をまたいでいた場合にも発生する可能性があります。

理由コード:

- 01 DEDB ALTER に対する緊急時再始動コマンドの処理中に、再始動チェックポイントが DEDB ALTER の実行前後をまたいでいました。DEDB ALTER を完了するために /ERE コマンドに必要なデータは、再始動チェックポイント前に記録されたログ・レコード上にありました。/ERE コマンドが必要なデータを検出できませんでした。
- 02 拡張リカバリー機能 (XRF) のトラッキング中、DEDB ALTER ADD AREA の処理時に内部エラーが発生しました。DEDB ALTER を完了するために XRF に必要なデータは、再始動チェックポイント前に記録されたログ・レコード上にありました。XRF が必要なデータを検出できませんでした。
- 03 高速データベース・リカバリー (FDBR) のトラッキング中、DEDB ALTER ADD AREA の処理時に内部エラーが発生しました。DEDB ALTER を完了するために FDBR に必要なデータは、再始動チェックポイント前に記録されたログ・レコード上にありました。FDBR が必要なデータを検出できませんでした。

システムの処置: 緊急時再始動が続行されます。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティーが完了しなかったため、AREA を使用するには、その前に手動でのクリーンアップを実行する必要があります。USER DFSERA10 に対して、指定されたトークンを使用してこの IMS のすべてのログ・レコードをプルし、処理されたログ・レコードを判別するように指示してください。使用前にクリーンアップする必要がある DEDB/AREA を判別するには、この情報を、IMS の異常終了時にアクティブであった DEDB 変更ユーティリティー・ジョブと比較してください。

モジュール: DBFEDA00

DFS4672E NO SHADOW AREAS EXIST for DEDB *dedbname*

説明: DEDB 変更ユーティリティーが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、RECON 内に *dedbname* DEDB データベースのシャドウ・エリアが定義されていません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: *dedbname* DEDB データベースのシャドウ・エリア、および各シャドウ・エリアの DEDB エリア・データ・セットを定義します。DEDB 初期設定ユーティリティー (DBFUMIN0) 用の

ACTIVE 制御ステートメントを使用して、DEDB エリア・データ・セットをフォーマットします。その上で、DEDB 変更ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連タスク:

➡ DEDB 変更ユーティリティーを使用した DEDB エリアのオンラインでの追加 (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

➡ DEDB 初期設定ユーティリティー (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティー)

DFS4673E NO AREA DATA SETS EXIST FOR SHADOW AREA *areaname* FOR DEDB *dedbname*

説明: DEDB 変更ユーティリティーが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、RECON 内に、*dedbname* DEDB データベースの *areaname* シャドウ・エリア用のエリア・データ・セットが定義されていません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: *dedbname* DEDB データベースの各シャドウ・エリアに DEDB エリア・データ・セットを定義します。DEDB 初期設定ユーティリティー (DBFUMIN0) 用の ACTIVE 制御ステートメントを使用して、DEDB エリア・データ・セットをフォーマットします。その上で、DEDB 変更ユーティリティーを再実行してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連タスク:

➡ DEDB 変更ユーティリティーを使用した DEDB エリアのオンラインでの追加 (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティー)

➡ DEDB 初期設定ユーティリティー (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティー)

**DFS4674E NUMBER OF SHADOW AREA
EXCEEDED UNDER DEDB dedbname**

説明: DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティの 1 回の実行で追加できるエリアの最大数である 100 を超えています。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 追加するエリア数を 100 以下に減らして、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連タスク:

➡ DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンラインでの追加 (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

➡ DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティ)

**DFS4675E DEDB ALTER FAILED TO ADD
AREAS**

説明: DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、DEDB 変更ユーティリティはエリアの追加に失敗し、要求された機能を実行せずに終了しました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティ障害の原因を判別します。問題を訂正して、DEDB 変更ユーティリティを再実行します。

モジュール: DBFUDA00

関連タスク:

➡ DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンラインでの追加 (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

➡ DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティ)

**DFS4676E ANOTHER DEDB ALTER WITH
ADDAREA FUNCTION IS ALREADY
RUNNING**

説明: DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。しかし、ADDAREA 機能を指定した別の DEDB 変更ユーティリティが既に実行されています。DEDB 変更ユーティリティは要求された機能を実行せずに終了しました。IMSpIex 内では、ADDAREA 機能を指定して実行できる DEDB 変更ユーティリティは一度に 1 つのみであるためです。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 既に実行中の DEDB 変更ユーティリティが完了するまで待ってから、この DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DBFUMMS0

関連タスク:

➡ DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンラインでの追加 (データベース管理)

関連資料:

➡ DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

➡ DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティ)

**DFS4677E DEDB ALTER DOES NOT SUPPORT
DBRC REUSE ATTRIBUTE FOR
AREA XXXXXXXX**


説明: DBRC は、DEDB エリア (XXXXXXX) 上で、DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の ALTERAREA 制御ステートメントによって指定された REUSE 属性を検出しました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された機能を完了せずに RC=8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティを実行するエリアの REUSE 属性を NOREUSE に変更してください。この属性を変更するには、コマンド CHANGE.DBDS DBD (name) AREA (name) NOREUSE を発行します。

モジュール: DBFUDA00

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

 CHANGE.DBDS コマンド (コマンド)

DFS4678E DBRC ENCOUNTERED ERRORS RECORDING THE IMAGE COPY CREATED BY DEDB ALTER

説明: DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の処理によって作成されたユーザー・イメージ・コピーを記録しようとして、DBRC は重大なエラーを検出しました。


システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは RC=8 で終了します。DEDB の状況は ALTER IN PROGRESS のままです。


システム・プログラマーの応答: 支援用の DBRC メッセージを参照し、適宜問題に対処します。DEDB 変更ユーティリティは異常終了したため、このユーティリティを再実行できるようにするには、まず DEDB の変更状況をリセットする必要があります。

1. CHANGE.DB DBD(name) NOALTER コマンドを発行して、DEDB の ALTER IN PROGRESS フラグをリセットします。
2. CHANGE.ADS コマンドを発行して、シャドウ ADS に使用不可としてマーク付けします。
3. シャドウ ADS を再フォーマットします。
4. DEDB 変更ユーティリティを再び実行する。

モジュール: DBFUDA00

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

 CHANGE.DB コマンド (コマンド)


DFS4679E DEDB ALTER FAILED TO LOAD MAIN PROGRAM

説明: DEDB 変更ユーティリティが STEPLIB から DBFDAU70 をロードできませんでした。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは RC=8 で終了します。

システム・プログラマーの応答: STEPLIB のライブラリがアクセス可能であること、および DBFDAU70 ライブラリが正しく作成されていることを確認してください。

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4682I DEDB ALTER SHADOW AREA areaname ADS = area_dsn

または

DEDB ALTER SHADOW AREA areaname

説明: DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。

このメッセージの最初のバージョンでは、追加される DEDB エリアは *areaname*、エリア・データ・セット名は *area_dsn* です。このメッセージは、DEDB 変更ユーティリティのジョブ出力に発行されます。


このメッセージの 2 番目のバージョンでは、追加される DEDB エリアは *areaname* です。このメッセージは IMS のジョブ出力に発行されます。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能の処理を続行します。


システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDAU70、DBFDASP0

関連タスク:

 DEDB 変更ユーティリティを使用した DEDB エリアのオンラインでの追加 (データベース管理)

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4683I DEDB ALTER ADDED AREA areaname for DEDB dedbname


説明: DEDB 変更ユーティリティが、DEDB データベースの最後に 1 つ以上の DEDB エリアを追加するための ADDAREA 機能を指定して実行されました。追加される DEDB エリアは *areaname* として指定され、DEDB データ・セット名は *dedbname* として指定されません。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDASP0

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4684I DEDB ALTER SHADOW SEGMENT EDIT/COMPRESSION EXIT *exitname* LOADED FOR SEGMENT *segmname* FOR DEDB *dedbname*

説明: セグメント *segmname* に対するセグメント編集/圧縮出口ルーチンを追加することにより、DEDB 変更ユーティリティがエリアの変更、エリアの追加、またはランダムマイザーの置換を行うために実行されました。


DEDB データベース *dedbname* のセグメント *segmname* に対する、シャドー・セグメント編集/圧縮出口ルーチン *exitname* が正常にロードされました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能の実行を続行します。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDASPO

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4685I DEDB ALTER SHADOW SEGMENT EDIT/COMPRESSION EXIT *exitname* UNLOADED FOR SEGMENT *segmname* FOR DEDB *dedbname*

説明: セグメント *segmname* に対するセグメント編集/圧縮出口ルーチンを追加することにより、DEDB 変更ユーティリティがエリアの変更、エリアの追加、またはランダムマイザーの置換を行うために実行されました。


DEDB データベース *dedbname* のセグメント *segmname* に対する、シャドー・セグメント編集/圧縮出口ルーチン *exitname* が正常にアンロードされました。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティが終了する原因となったエラーを訂正してから、DEDB 変更ユーティリティを再実行します。

モジュール: DBFDASPO

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4686E DEDB ALTER SHADOW SEGMENT EDIT/COMPRESSION EXIT *exitname* LOAD FAILED FOR SEGMENT *segmname* FOR DEDB *dedbname*

説明:

または

DEDB ALTER SHADOW SEGMENT EDIT/COMPRESSION EXIT *exitname* UNLOAD FAILED FOR SEGMENT *segmname* FOR DEDB *dedbname*

説明: セグメント編集/圧縮出口ルーチンを追加することにより、DEDB 変更ユーティリティがエリアの変更、エリアの追加、またはランダムマイザーの置換を行うために実行されました。

このメッセージの最初のバージョンは、DEDB 変更ユーティリティが DEDB データベース *dedbname* のセグメント *segmname* に対するシャドー・セグメント編集/圧縮出口ルーチン *exitname* をロードできないときに発行されます。


このメッセージの 2 番目のバージョンは、DEDB 変更ユーティリティが DEDB データベース *dedbname* のセグメント *segmname* に対するシャドー・セグメント編集/圧縮出口ルーチン *exitname* をアンロードできないときに発行されます。

システムの処置: DEDB 変更ユーティリティは、要求された DEDB 変更機能を実行せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: セグメント編集/圧縮出口ルーチンのロードまたはアンロードの失敗の原因となったエラーを訂正し、DEDB 変更ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DBFDASPO

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4687E ERROR PROCESSING SYNC PROGRAM SWITCH - details

説明: DL/I ICAL 呼び出しに対する同期プログラム間通信処理中にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details エラーの根本原因の要約。この説明は、エラーをスローした IMS モジュールによって発行される戻りコードに対応しており、以下のいずれかになります。

INTERNAL POST FAILED, RC=


IMS モジュール DFSYSCS0 が PST フィールドを検査して、同期プログラム間通信のために ICAL をポストできないことを判別しました。IMS は、このエラー・メッセージを DFSYSCS0 からの戻りコードと共にシステム・コンソールおよび MTO に対して発行します。IMS は、エラー詳細を示す X'67D0' ログ・レコードも作成します。

システムの処置: IMS は、この同期プログラム間通信要求に対してタイムアウトを発行しようとしています。

プログラマーの応答: X'6701' および X'67D0' のログ・レコードを収集して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSYTIB0 または DFSYSCS0

関連資料:

 X'67' ログ・レコードのフォーマット (診断)

DFS4688E ERROR PROCESSING ICAL - details

説明: DL/I ICAL の同期コールアウト処理でエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

details IMS がこの ICAL 処理に失敗した理由の簡潔な説明。*details* は、IMS モジュールによって発行された戻りコードに対応しており、次のいずれかの値の可能性があります。

- INTERNAL POST FAILED, RC= rc

IMS モジュール DFSYSCS0 がプログラム仕様テーブル (PST) のフィールドを調べ、ICAL をポストできないと判断しました。IMS は、このエラー・メッセージおよび DFSYSCS0 からの RC を、システム・コンソールおよび MTO に対して発行します。IMS は、エラー情報を示した 67D0 ログ・レコードも生成します。

システムの処置: 後に、IMS タイマー・ルーチンがこの ICAL のタイムアウトを試みます。

システム・プログラマーの応答: 6701 および 67D0 のログ・レコードを準備し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSYSCS0、DFSYMEM0

DFS4690I DEDB ALTER DATABASE STARTED FOR DEDB xxxxxxxx: Text

説明: DEDB xxxxxxxx のセグメント内の既存のフリー・スペースにフィールドを追加するために ALTERDB 制御ステートメントが指定されました。

メッセージ・テキストで、Text は以下のいずれかの状態を示します。


- ADD NEW FIELDS

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDASPO

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

DFS4691I DEDB ALTER DATABASE COMPLETED FOR DEDB xxxxxxxx


説明: DEDB xxxxxxxx に対する新規フィールドの追加機能が正常に完了しました。


システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DBFDASPO

関連資料:

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) (データベース・ユーティリティ)

 DEDB 変更ユーティリティ (DBFUDA00) の制御ステートメント (データベース・ユーティリティ)

DFS4692E DEDB ALTER DATABASE FAILED FOR DEDB xxxxxxxx または DEDB ALTER DATABASE FAILED FOR DEDB xxxxxxxx: Text

説明: DEDB xxxxxxxx に新規フィールドを追加する ALTERDB 機能が失敗しました。

メッセージ・テキストで、Text は以下のいずれかの状態を示します。

NEW FIELD OVERLAYS EXISTING FIELD

新規フィールドが既存のフィールドをオーバーレイする場合に、このテキストが出されます。

| **EXISTING FIELD CHANGE NOT SUPPORTED**
| 既存のフィールドのロケーションまたは長さが
| 変更された場合に、このテキストが出されま
| す。

| **NO ALTERDB ATTRIBUTES CHANGE**
| 新規フィールドが見つからない場合に、このテ
| キストが出されます。

| **FAILED TO GET WORKAREA**
| 新規フィールド用の作業用ストレージを取得で
| きなかった場合に、このテキストが出されま
| す。

| システムの処置: DEDB 変更ユーティリティーは
| RC=8 で終了します。


| システム・プログラマーの応答: ステージング
| ACBLIB に対する DEDB DBD 定義の変更で使用され
| る DBDGEN ユーティリティー入力で、以下のすべて
| の条件が満たされていることを確認してください。その
| 後、ALTERDB 機能を使用して、DEDB 変更ユーティ
| リティーを再実行してください。

- | • 新規フィールドが、相互にオーバーレイすることも、
| 既存のフィールドをオーバーレイすることもない。
- | • 既存のフィールドは変更されない。
- | • ALTERDB 機能用に属性が変更されている。
- | • 新規フィールドに十分なスペースがある。

| メッセージ DFS4692E に *Text* が含まれていない場合
| は、関連したエラー・メッセージを調べて、修正処置を
| 識別してください。

| モジュール: DBFDASP0、DBFDAU70

| 関連資料:

|  DEDB 変更ユーティリティー (DBFUDA00) (デー
| タベース・ユーティリティー)

第 96 章 DFS メッセージ DFS4701 - DFS4750

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4701I THE DEDB ALTER MOLC PROCESS
WAS COMPLETED BY THE
TRACKING IMS, DEDB=ddddddd
MODULE=DBFEDA00**

説明: ACBSHR=N を指定した DEDB ALTER の XRF
または FDBR のトラッキング中に、STAGING
ACBLIB からの ACBLIB に対する必須の更新が正常に
完了しました。これは単なる通知メッセージです。

システムの処置: ありません。

プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DBFEDA00

**DFS4704E THE SYSIN DATA SET FAILED TO
OPEN.**

説明: MVS は、IMS Catalog Alias Names ユーティ
リティー (DFS3ALI0) の SYSIN データ・セットをオー
プンできませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: データ・セットの根本的な問題を判別
し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3ALI0

**DFS4705E ALIAS THAT BEGINS WITH *nnnn* IS
INVALID.**

説明: SYSIN レコードの列 72 付近の別名が無効で
す。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: SYSIN レコードの列 72 付近にある
別名を調べてください。それが英数字 4 文字の別名で
あり、列 72 を超えていないことを確認します。

SYSIN 制御カードを更新し、ジョブを再サブミットし
てください。

モジュール: DFS3ALI0

**DFS4706E ALIAS *nnnn* DOES NOT BEGIN
WITH AN ALPHA CHARACTER.**

説明: *nnnn* 別名接頭部の先頭文字は英字でなければな
りません。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御カードを更新し、ジョブ
を再サブミットしてください。

モジュール: DFS3ALI0

**DFS4707E ALIAS *nnnn* CONTAINS
NON-ALPHANUMERIC CHARACTER.**

説明: *nnnn* 別名接頭部の 2 文字目から 4 文字目は英
数字でなければなりません。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御カードを更新し、ジョブ
を再サブミットしてください。

モジュール: DFS3ALI0

**DFS4708E NUMBER OF ALIASES IN SYSIN
EXCEEDED 250.**

説明: ユーティリティーで SYSIN データ・セットに含
めることができる別名は最大 250 です。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御カードを更新し、ジョブ
を再サブミットしてください。

モジュール: DFS3ALI0

**DFS4709E ALIAS THAT BEGINS WITH *nnnn*
HAS MORE THAN 4 CHARACTERS.**

説明: 4 文字を超える別名が検出されました。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: SYSIN 制御カードを更新し、ジョブ
を再サブミットしてください。

モジュール: DFS3ALI0

DFS4710E ERROR FOUND ON SYSIN RECORD.

説明: SYSIN データ・セット内のエラー (付随するエ
ラー・メッセージによって示されるエラー) が原因で、
ユーティリティーを実行できませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: データ・セットの根本的な問題を判別

し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3ALI0

DFS4711E THE SYSLIN DATA SET FAILED TO OPEN.

説明: MVS は、IMS Catalog Alias Names ユーティリティーの SYSLIN データ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは終了します。

ユーザーの処置: データ・セットの根本的な問題を判別し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3ALI0

DFS4712E DDL [GET STORAGE | LOAD | DFSDF READ] FAILURE OCCURRED

説明: DDL CREATE 機能は、自動インポートまたは自動作成の処理中にシステム・エラーを検出しました。新規リソースの状況は、DDL システム障害が自動インポート処理の前に発生したか後に発生したかによって異なります。以下に、考えられるシナリオを示します。

- シナリオ 1: DDL システム障害が自動インポート処理の前に発生した場合、DDL CREATE ジョブからの新しい定義は IMS カタログ内で保留状態のままになります。
- シナリオ 2: DDL システム障害が自動インポート処理の後に発生した場合、DDL CREATE ジョブからの新しいリソースは作成されて、IMS システムおよび IMS カタログ内で活動化されます。

システムの処置: シナリオ 1 では、自動インポート処理または自動作成処理のための DDL CREATE 機能は終了しますが、要求された機能は完了しません。DDL CREATE からの新しい定義は、IMS カタログ内で「保留」状態のままになります。

シナリオ 2 では、自動インポート処理または自動作成処理のための DDL CREATE 機能は終了します。自動インポート機能は、IMS システムおよび IMS カタログ内の新規リソースの作成および活動化を完了します。

システム・プログラマーの応答: シナリオ 1 の場合、IMPORT DEFN コマンドによって要求されたとおり、IMS カタログ内で「保留」状態である新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド(コマンド)を参照。

シナリオ 1 および 2 で、DDL によって新しく作成されたデータベース・リソースのデータ・セット作成に必要なすべてのステップを実行してください。DDL

CREATE ステートメントの自動化オプション (データベース管理)を参照。

モジュール: DFS3DD00, DFS3DD40, DFS3DD60

DFS4713E CYLINDERS OR TRACKS IS NEEDED WHEN DATACLAS IS NOT SPECIFIED

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中に DDL データ・セットの作成に失敗しました。SDEP を含む DEDB の DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <SECTION=DDL> に DATACLAS が指定されていない場合は CYLINDERS キーワードまたは TRACKS キーワードが必須であるためです。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずにこの DEDB の処理を終了し、次の DEDB の処理を開始します。

システム・プログラマーの応答: DDL で作成されたデータベースのデータ・セットを手動で作成するステップを実行してください。

DDL CREATE DATABASE によるデータ・セット作成の場合は、DFSDFxxx proclib メンバーの <SECTION=DDL> を訂正してください。非 SMS 管理データ・セットの場合は、CYLINDERS か TRACKS のいずれかのキーワードを指定します。CYLINDERS と TRACKS の両方のキーワードが使用されている場合は、CYLINDERS キーワードが使用されます。SMS 管理データ・セットの場合は、DATACLAS キーワードを指定します。

モジュール: DFS3DD00

DFS4714E VOLUME IS NEEDED WHEN STORCLAS IS NOT SPECIFIED

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中に DDL データ・セットの作成に失敗しました。DFSDFxxx PROCLIB メンバーの <SECTION=DDL> に STORCLAS が指定されていない場合は VOLUME キーワードが必須であるためです。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DDL で作成されたデータベースのデータ・セットを手動で作成するステップを実行してください。

DDL CREATE DATABASE によるデータ・セット作成

の場合は、DFSDFxxx proclib メンバーの <SECTION=DDL> を訂正してください。非 SMS 管理データ・セットの場合は、VOLUME キーワードを指定します。SMS 管理データ・セットの場合は、STORCLAS キーワードを指定します。

モジュール: DFS3DD00

DFS4715E AREA DATA SET *cluster_name* ALLOCATION FAILED

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DDL データ・セットの作成で *cluster_name* を使用する DEDB エリア・データ・セットの割り振りに失敗しました。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DDL で作成されたデータベースのデータ・セットを手動で作成するステップを実行してください。

割り振りについて詳しくは、付随する IDC メッセージを参照してください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4716E DDL SECTION IS NOT FOUND IN DFSDFxxx PROCLIB

説明: <SECTION=CATALOG> で AUTOCREATE=YES の場合: DDL CREATE 機能は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内に <SECTION=DDL> がないことを検出しました。AUTOCREATE=YES の場合は <SECTION=DDL> が必須です。

システムの処置: 自動作成処理のための DDL CREATE 機能は、要求された機能を完了せずに終了します。DDL CREATE からの新しい定義は、IMS カタログ内で保留状態のままになります。

システム・プログラマーの応答:

1. IMPORT DEFN コマンドで要求されたとおりに、IMS カタログ内で保留状態になっている新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド (コマンド)を参照。
2. DDL によって作成されるデータベース・リソースのデータ・セット作成に必要なすべてのステップを実行してください。DDL CREATE ステートメントの自動化オプション (データベース管理)

今後、DDL CREATE DATABASE によるデータ・セット作成の場合には、DFSDFxxx PROCLIB メンバーに <SECTION=DDL> を追加してください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4716I DDL SECTION IS NOT FOUND IN DFSDFxxx PROCLIB

説明: <SECTION=CATALOG> で AUTOCREATE=NO の場合: DDL CREATE 機能は、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー内に <SECTION=DDL> がないことを検出しました。<SECTION=DDL> は、AUTOCREATE=NO の場合必要ありません。

システムの処置: DDL CREATE 機能は、要求された機能の処理を続行します。

システム・プログラマーの応答:

- 自動インポート処理のための DDL CREATE 機能が正常に終了した場合、処置は不要です。
- 自動インポート処理のための DDL CREATE 機能が、要求された機能を完了せずに終了した場合、DDL CREATE からの新しい定義は IMS カタログ内で保留中のままになります。IMPORT DEFN コマンドを使用して要求されたとおりに、IMS カタログ内で保留状態になっている新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップを手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド (コマンド)を参照してください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4717E DDL SECTION PARAMETER IS INVALID

説明: DDL の自動インポートまたは自動作成の処理中に、IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの <SECTION=DDL> で無効なパラメーターが検出されました。

エラーのある DDL セクション・パラメーターは、BPE0003D メッセージに示されています。

システムの処置: 自動インポート処理または自動作成処理の DDL CREATE 機能は、要求された機能を完了せずに終了します。

DDL CREATE 機能からの新しい定義は、IMS カタログ内で保留状態のままになります。

システム・プログラマーの応答: <SECTION=DDL> パラメーター・エラーを解決してください。IMPORT DEFN コマンドで要求されたとおりに、IMS カタログ内で保留状態になっている新しい定義を使用して、新規リソースを作成および活動化するために必要なすべてのステップ

DFS4718E • DFS4732E

を手動で実行してください。IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンド (コマンド)を参照してください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4718E AREA *areaname* REGISTRATION FAILED

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたりソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、新たに DDL で作成されたデータベースを DBRC に登録できなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: DBRC データベース登録エラーを訂正し、DBRC へのデータベースの登録を手動で行ってください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4719E TYPEFP ONLY CREATE DEDB AREAS

説明: IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで **DSN=** パラメーターまたは **DSNDATA=** パラメーターに、無効なタイプが指定されました。

システムの処置: データ・セットを作成するために発行された DDL ステートメントの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 以下のいずれかの方法を使用して DEDB エリア・データ・セットを作成してください。

- IMS 生成ユーティリティを使用して、DEDB エリア・データ・セットを手動で作成する。
- CREATE DATABASE DDL ステートメントを使用して DEDB エリア・データ・セットを作成する場合は、DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで、**DSN=** パラメーターまたは **DSNDATA=** パラメーターで TYPEFP を指定するように DDL タイプを訂正する。

モジュール: DFS3DD00

DFS4720I DRA open thread option active/inactive

説明: このメッセージは、DRA オープン・スレッド・サポートがアクティブか非アクティブかを示します。

DRA オープン・スレッド・サポート処理がアクティブな場合、DRA は専用の IMS DRA スレッド・タスク制

御ブロック (TCB) をアタッチしません。それに代わり、DRA では、CICS/DRA 環境内における並列処理の向上を目的とした CICS TCB が使用されます。

DRA オープン・スレッド・サポートがアクティブになるのは、そのサポートが OPENTHRD=CCTL オプションによって使用可能に設定され、CICS バージョン 4.2 以降が使用されている場合です。

DFS4730E AREA DATA SET *dataset_name* FORMAT FAILED

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたりソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、新たに DDL で作成されたデータベースで DEDB エリア・データ・セットの初期設定ができなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4731E UNABLE TO OBTAIN STORAGE FOR [PARM|ALLOC|UNALLOC]

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたりソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定で作業用ストレージを取得できなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール: DFS3DD90

DFS4732E DYNAMIC [ALLOCATION|UNALLOCATION] FAILED RC=xx RS=yyyy FOR *dataset_name*

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたりソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定でエリア・データ・セットの動的な割り振りまたは割り振り解除ができなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

xx DYNALLOC 戻りコード。

yyyy DYNALLOC 理由コード。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール: DFS3DD90

DFS4733E FORMATTER LOAD FAILED RC=xx

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定で DBFUMIN0 をロードできなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

xx IMODULE LOAD 呼び出しからの戻りコード。

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール: DFS3DD90

DFS4734E FORMATTER FAILED RC=xx

説明: DDL CREATE 機能により、新たに DDL で作成されたリソースが IMS システムおよび IMS カタログに正常に自動インポートされました。

データ・セットの作成中、DEDB エリア・データ・セットの初期設定で AREA データ・セットをフォーマットできなかったために、DDL データ・セットの作成に失敗しました。

xx DBFUMIN0 からの戻りコード

システムの処置: DDL データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの意味および SYSPRINT 出力内の DBFUMIN0 メッセージについては、DEDB 初期設定ユーティリティ (DBFUMIN0) (データベース・ユーティリティ)を参照してください。

データ・セットのフォーマットおよび DDL で作成されたデータベースの登録を手動で行うためのステップを実行してください。

モジュール: DFS3DD90

DFS4735I cluster_name IS ALLOCATED

説明: DDL を使用してデータ・セットが割り振られました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

cluster_name

VSAM クラスタの名前。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DD40

DFS4736I DATA COMPONENT NAME is *data_component_name*

説明: **DSNDATA=** パラメーターが IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DDL セクション内に指定されている場合、このメッセージは DFS4735I メッセージの後に表示され、データ・コンポーネント名を示します。**DSNDATA=** パラメーターが指定されていない場合、このメッセージは発行されません。代わりに、前の IDC0512I メッセージにデータ・コンポーネント名が表示されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

data_component_name

VSAM データ・コンポーネントの名前。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3DD40

関連情報:

『DFS4735I』

DFS4741I PSB *psb_name* IS UPDATED IN THE CATALOG AND THE DIRECTORY. PST *pst_name*

説明: ADD PROGRAMVIEW DDL ステートメントによってカタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方にプログラム・ビュー (PSB) が追加されたか、または ALTER PROGRAMVIEW DDL ステ

ートメントによってカタログ・データベースとディレクトリー・データ・セットの両方でプログラム・ビューが変更されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

psb_name

追加または変更されたプログラム・ビュー (PSB) の名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: IMS は続行されます。

ユーザーの処置: 処置は必要ありません。

モジュール: DFSMOLS0

DFS4742E DBD *dbd_name2* MUST BE CHANGED TO REMOVE THE LOGICAL TIE TO A DELETED DBD *dbd_name1*. PST *pst_name*

説明: データベース *dbd_name1* は DROP DATABASE DDL ステートメントによって削除できません。データベース *dbd_name1* はデータベース *dbd_name2* と論理的に結合されており、データベース *dbd_name2* はこの作業単位では削除されていないためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dbd_name1

DROP DATABASE DDL ステートメントによって削除しようとしているデータベースの名前。

dbd_name2

dbd_name1 と論理的に結合されていて、この作業単位では削除されていないデータベースの名前。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: データベース *dbd_name1* はディレクトリーから削除されません。

ユーザーの処置: まだデータベース *dbd_name2* が必要な場合は、ALTER DATABASE DDL ステートメントをサブミットし、データベース *dbd_name1* への参照を DBD から除去してください。

データベース *dbd_name2* が不要になった場合は、DROP DATABASE DDL ステートメントをサブミットして DBD を削除してください。

モジュール: DFSOLC70

DFS4743I DBD *dbd_name* IS DELETED FROM THE STAGING DATA SET. PST *pst_name*

説明: データベース *dbd_name* は、IMS カタログ・データベースと IMS ディレクトリー・データ・セットの両方から削除されました。

システムの処置: IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

DFS4744E RM *errortype* ERROR, RSCNAME=*rscname* RSCTYPE=*rsctype* CC=*cc* CCTEXT=*cctext*

説明: このメッセージは、発生した RM エラーに関する追加情報を提供するためにメッセージ DFS4401E の後に発行されます。

IMSRSC リポジトリーへの IMS autoexport 中に RM エラーが発生した場合、その autoexport は正常に行われませんでした。発生したエラーのタイプはメッセージ DFS4744E に示されています。RM の戻りコードと理由コードは、メッセージ DFS4401E の ERRORTXT= フィールドの 2 番目と 3 番目のワード内に記載されています。RM の戻りコードと理由コードの説明については、CSLRRR マクロを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

errortype

発生した RM エラーのタイプを示します。

errortype は、次の値のいずれかです。

- RESOURCE VALIDATION

rscname

RM エラー発生時に処理されていたリソースの名前を示します。

rsctype RM エラー発生時に処理されていた、以下のいずれかのタイプのリソースを示します。

- DB
- DBDESC
- LTERM
- MSLINK
- MSNAME
- MSPLINK
- PGM
- PGMDESC

- RTC
- RTCDESC
- TRAN
- TRANDESC

cc このエラーを表す 4 文字の IMS 完了コードを示します。IMS 完了コードのリストについては、DFSCMDRR マクロを参照してください。

cctext このエラーについて説明する完了コード・テキストを示します。


システムの処置: **autoexport** 処理中にメッセージ DFS4401E および DFS4744E が発行された場合、IMS は **autoexport** が失敗した場合でも処理を続行します。IMS のシャットダウン中の **autoexport** 処理時にメッセージ DFS4401E および DFS4744E が発行された場合、IMS のシャットダウンは中止されます。

システム・プログラマーの応答: 以下のいずれかの処置を行ってください。

- RM エラーが **autoexport** 処理中に発生し、その **autoexport** が失敗した場合は、エラーの解決後に EXPORT DEFN TARGET(REPO) OPTION(CHANGESONLY) コマンドを発行し、新規または更新された MODBLKS リソース定義を手動でエクスポートしてください。または、次回の **autoexport** を待って、新規または更新された MODBLKS リソース定義か MSC リソース定義 (あるいはこの両方) をエクスポートすることもできます。
- IMS のシャットダウン中の **autoexport** 処理時にメッセージ DFS4401E および DFS4744E が発行された場合、リソースをリポジトリに正常にエクスポートできるようにするか、またはリポジトリを使用不可にして IMS を正常にシャットダウンさせる必要があります。

モジュール: DFSXP000"

関連資料:

 EXPORT コマンド (コマンド)

関連情報:

1057 ページの『DFS4401E』

DFS4745I PSB *psb_name* IS DELETED FROM THE STAGING DATA SET. PST *pst_name*

説明: DDL DROP プログラム・ビュー処理の一環として、PSB *psb_name* がステージング・データ・セットから削除されました。

システムの処置: IMS は、DDL ステートメントの自動

活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

DFS4746I PSB *psb_name* IS DELETED FROM THE STAGING DATA SET. IT REFERENCED A DELETED DBD *dbd_name* PST *pst_name*

説明: PSB *psb_name* が削除されたデータベース *dbd_name* を参照しており、そのデータベースは DDL DROP データベース処理の一環としてステージング・データ・セットから削除されています。

システムの処置: IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

DFS4747E AUTOMATIC IMPORT FAILED FOR RESOURCE=*resourcename* AS AN LNB / RCNT / SMB BECAUSE IT ALREADY EXISTS AS AN LNB / RCNT / SMB

説明: *resourcename* という名前のリソースをメッセージ宛先リソース・タイプ LNB / RCNT / SMB として IMSRSC リポジトリから自動インポートしようとしたが失敗しました。これは、同じ名前のリソースが別のメッセージ宛先リソース・タイプ LNB / RCNT / SMB として既に存在しているためです。メッセージ宛先リソース・タイプには、リモート論理端末 (LTERM)、トランザクション、および MSC 論理リンク・パス (MSNAME) が含まれます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

resourcename

エラーが発生したリソースの名前を示します。

リソースのメッセージ宛先タイプは、以下のいずれかになります。

LNB MSC 論理リンク・パス (MSNAME) 制御ブロック

RCNT MSC リモート LTERM 制御ブロック

SMB トランザクション制御ブロック

システムの処置: IMS コールド・スタートは、異なるメッセージ宛先リソース・タイプ LNB / RCNT / SMB についてリソース *resourcename* を作成せずに、自動インポートを続行します。代わりに、元のメッセージ宛先リソース・タイプ LNB / RCNT / SMB のリソース

DFS4748E • DFS4750W

resourcename が自動的にインポートされます。

システム・プログラマーの応答: 自動インポートおよび IMS コールド・スタートが完了した後、以下のタスクをすべて実行し、次の IMS コールド・スタートでメッセージ DFS4747E が発行されないようにしてください。

- リソース *resourcename* に定義したいメッセージ宛先リソース・タイプ (LTERM、MSNAME、またはトランザクション) を判別します。
- リソース *resourcename* に対して定義したくないすべてのメッセージ宛先リソース・タイプについて、DELETE DEFN TARGET(REPO) TYPE(LTERM | MSNAME | TRAN) NAME(*resourcename*) コマンドを発行します。
- リソース *resourcename* に対して定義したいメッセージ宛先リソース・タイプが自動インポート時に失敗した場合、IMS を再度コールド・スタートするか、リソースをローカルに削除した後、それを正しいメッセージ宛先リソース・タイプを使用して再度ローカルに作成します。

モジュール: DFSIP300

DFS4748E STOW ERROR, NO STORAGE AVAILABLE

説明: STOW マクロが IMS カタログ・ディレクトリーの PDSE ディレクトリーを更新するために使用できる仮想ストレージがありませんでした。

このエラーが有効なのは、ACB の IMS 管理を使用可能にするために、ACBMGMT=CATALOG が DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたは同等の DFS3CDX0 ユーザー出口で指定されている場合のみです。

プログラマーの応答: ストレージ・エラーの原因となった条件を訂正し、プログラムを再実行してください。JOB カードの領域サイズを大きくすることを検討してください。

問題が解決しない場合には、IBM サービスにお問い合わせください。

モジュール: DFSUAMB1

DFS4749E STOW ERROR RC = xxxxxxxx

説明: STOW マクロが IMS カタログ・ディレクトリーの PDSE ディレクトリーを更新中にエラーが発生しました。

このエラーが有効なのは、ACB の IMS 管理を使用可能にするために、ACBMGMT=CATALOG が DFSDFxxx PROCLIB メンバーまたは同等の

DFS3CDX0 ユーザー出口で指定されている場合のみです。

プログラマーの応答: STOW エラーに至った条件を訂正し、プログラムを再実行してください。

STOW 完了コードについて詳しくは、「z/OS DFSMS Macro Instructions for Data Sets - non-VSAM Macro Instructions」を参照してください。

モジュール: DFSUAMB1

関連資料:

 z/OS: DFSMS STOW マクロの戻りコードおよび理由コード

DFS4750W USING IRLM IS RECOMMENDED FOR DIRECTORY CLEANUP

説明: バッチ・リカバリー・ユーティリティーがディレクトリーをクリーンアップするために実行されていたときに、IRLM が使用されませんでした。IRLM は、ディレクトリー・データ・セットの更新をオンライン処理とバッチ処理の間でシリアライズするために使用されません。

システムの処置: バッチ・リカバリー・ユーティリティーは、ディレクトリーのクリーンアップを続行します。

プログラマーの応答: IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドと DDL 定義の活動化が同時に実行されていない場合にのみバッチ・リカバリー・ユーティリティーが実行されていることを確認してください。IMPORT MEMBER TYPE(IMS) SHOW(ALL) を発行して、インポート処理が進行中かどうかを判別してください。

モジュール: DFSOLC10

第 97 章 DFS メッセージ DFS4751 - DFS4800

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS4751I *utilityname* READING MEMBER *mbrname* FROM IMS CATALOG DIRECTORY

説明: このメッセージは、呼び出されたユーティリティーが、DBD、PSB、または ACB のいずれかのライブラリーからではなく、IMS カタログ・ディレクトリーから読み取られているどうかを示します。

これが有効なのは、ACB の IMS 管理を使用可能にするために、CATALOG=YES および ACBMGMT=CATALOG が IMS PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバー、または IMS™ カタログ定義出口ルーチン (DFS3CDX0) に指定されている場合のみです。

メッセージ・テキストで、各変数の意味は以下のとおりです。

utilityname

以下のいずれかのユーティリティーが呼び出されていることを示します。

- DBFUMIN0
- DFSBBO00
- DFSUDMP0
- DFSURDB0
- DFSUDMT0

mbrname

IMS カタログ・ディレクトリーから読み取られている DBD リソースの名前を示します。

システムの処置: ユーティリティーは要求された機能の処理を続行します。

出力宛先: システム・コンソール。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール:

DBFUMIN0、DFSBACK0、DFSUDMP0、DFSURDB0

DFS4755E DATABASE RESOURCE STATE ERROR. DBD *dbd_name* REASON= *reason_text* PST *pst_name*

説明: 単一の IMS システム上で変更または削除された

データベース *dbd_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置: DDL ステートメントの自動活動化に失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

DFS4756E PROGRAM RESOURCE STATE ERROR. PSB *psb_name* REASON= *reason_text* PST *pst_name*

説明: 単一の IMS システム上で変更または削除された PSB *psb_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置: DDL ステートメントの自動活動化に失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

DFS4764A ONLINE CHANGE COMMIT PHASE 2 FAILED, SO IMS IS STUCK IN AN ONLINE CHANGE STATE

説明: オンライン変更コミット・フェーズ 2 の間にエラーが発生しました。このエラーは内部エラーが原因で発生した可能性があります。IMS システムは、オンライン変更をコミットすることも打ち切ることもできません。

システムの処置: /MODIFY コマンドはリジェクトされます。IMS はオンライン変更状態のままになっています。オンライン変更で非活動化されたリソースは非アクティブのままです。

出力宛先: システム・コンソール。

ユーザーの処置: 以下のステップを実行してください。

- /DISPLAY MODIFY MODS コマンドを発行し、出力を保管します。
- IMS ダンプを生成します。
- X'22' と X'70' のログ・レコードを保管します。

DFS4768E

- IBM に連絡し、資料 (/DISPLAY MODIFY MODS コマンドの出力、システム・ダンプ、および X'22 と X'70' のログ・レコード) を提出します。
- /CHE FREEZE コマンドを使用して IMS をシャットダウンしてから、IMS を再始動します。この方法が機能しない場合は、IMS を取り消して、緊急時再始動を実行します。

リソースを変更し、X'22' ログ・レコードを記録できるようになる前にコミット・フェーズ 2 内部エラーが発生した場合、それらのリソース変更の一部が有効にならなかった可能性があります。IMS のシャットダウン前に /DISPLAY MODIFY MODS コマンド出力に指定されているリソースに対して /DISPLAY コマンドを使用すると、変更の一部が有効にならなかったかどうかを判別できます。

すべての変更が有効になっている場合、/DISPLAY コマンドの出力には新たに追加されたリソースが含まれ、削除されたリソースは除外され、変更されたリソースの新しい値が表示されています。

変更の一部が有効にならなかった場合は、失敗したオンライン変更を再試行するか、現行ライブラリーから IMS コールド・スタートを実行できます。

モジュール: DFSICLV0

関連資料:

 /DISPLAY ACT コマンド (コマンド)

 /DISPLAY MODIFY コマンド (コマンド)

**DFS4768E ERROR DETECTED DURING
AUTOMATIC IMPORT OF MSC CTC
LINK, MSPLINK=*msplink*, ADDR=*addr*,
RC=*rc***

説明: IMS コールド・スタート中に、IMSRSC リポジトリーからの MSC CTC 物理リンク定義の自動インポート時にエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

addr MSC CTC 物理リンク用に使用される CTC アダプター・デバイス ID。

msplink IMSRSC リポジトリーからインポートされる CTC 物理リンクの名前。

rc 障害の理由を示します。

8 CTC デバイスは使用できません。

- 12 CTC アダプター装置番号が CTC デバイスではありません。
- 16 CTC デバイスの動的割り振りが失敗しました。
- 20 CTC DCB のオープンに失敗しました。
- 24 使用可能な DDNAME がありません。

システムの処置: IMS コールド・スタートは続行され、CTC 物理リンク定義はインポートされますが、CTC リンクは IMS 通信には使用できません。

出力宛先: このメッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかのアクションを実行して、使用不能な CTC 物理リンクの通信を使用可能にしてください。

- DELETE MSPLINK コマンドを使用して CTC 物理リンクを削除した後、CREATE MSPLINK コマンドを使用して、有効な CTC アダプター装置番号で CTC リンクを再作成します。
- UPDATE MSPLINK コマンドを使用して、既存の定義を有効な CTC アダプター装置番号で更新します。

新しい CTC 物理リンクを作成するか、既存の CTC 物理リンクを更新する前に、ご使用のシステムで CTC アダプター装置番号が準備されていること、およびパートナー・システムの CTC 物理リンクも準備されていることを確認してください。

問題判別:

- 戻りコード 8 の場合は、MVS コマンドを使用して、CTC アダプター装置 ID が動的割り振りに失敗した理由を判別します。装置が、オフラインになっているか、別のシステムによって使用されている可能性があります。
- 戻りコード 12 の場合は、システムを検査し、装置が CTC 装置であることを確認します。
- 戻りコード 16 の場合は、システム・エラーです。
- 戻りコード 20 の場合は、DCB のオープンが失敗しました。
- 戻りコード 24 の場合は、DFSM0000 から DFSM9999 までのすべての DDNAME が使用中です。

モジュール: DFSMP00

**DFS4770I THE CTC DDNAME *ddname* WAS
DEALLOCATED AFTER ITS
ASSOCIATED MSPLINK WAS
DELETED**

説明: 指定された DD 名が静的に定義されたチャンネル間 (CTC) MSC 物理リンク (MSPLINK) に関連付けられました。しかし、その MSPLINK は前の IMS インスタンスで削除されていました。

このメッセージは、IMS が示された DD 名を割り振り解除したこと、およびその CTC デバイス・アドレスが使用可能になったことを示すために、IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname DD ステートメントの名前

システムの処置: IMS 再始動が続行されます。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRMP20

**DFS4771E DATABASE RESOURCE STATE
ERROR ON *ims_id* DBD *dbd_name*
REASON= *reason_text* PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* 上で変更または削除されたデータベース *dbd_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置: すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4772E PROGRAM RESOURCE STATE
ERROR ON *ims_id* PSB *psb_name*
REASON= *reason_text* PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* 上で変更または削除されたプログラム *psb_name* に対してまだ進行中の作業があります。

システムの処置: すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4774E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED FOR DBD
dbd_name ON *ims_id* REASON=
reason_text PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* でデータベース *dbd_name* の追加、変更、または削除に失敗しました。エラーの原因は *reason_text* に示されています。

システムの処置: すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4775E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED FOR PSB
psb_name ON *ims_id* REASON=
reason_text PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* で PSB *psb_name* の追加、変更、または削除に失敗しました。エラーの原因は *reason_text* に示されています。

システムの処置: すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4776E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED ON *ims_id*
REASON= *reason_text* PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* で調整自動活動化に失敗しました。エラーの原因は *reason_text* に示されています。

システムの処置: すべての IMS で DDL ステートメントの調整自動活動化が失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示された問題を訂正し、DDL ステートメントを再サブミットしてください。エラー・メッセージ DS4753E、DFS4771E、DFS4774E、DSF4756E、DFS4772E、および DFS4775E を確認してください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4777I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* IS
REFRESHED IN THE IMS
DIRECTORY DATA SET. PST
*pst_name***

説明: PSB *psb_name* がステージング・データ・セットからディレクトリー・データ・セットにコピーされました。ACB で生成されたタイム・スタンプの変更以外、PSB に対する内容の変更はありません。

システムの処置: IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4778I THE CTC DDNAME *ddname* WAS
DEALLOCATED BECAUSE THE CTC
ADDRESS WAS CHANGED FOR
MSPLINK *msplink***

説明: 指定された DD 名が静的に定義されたチャンネル間 (CTC) MSC 物理リンク (MSPLINK) に関連付けられました。しかし、そのリンクに割り当てられた CTC デバイス・アドレスが、前の IMS インスタンスで UPDATE MSPLINK コマンドを使用して変更されました。

このメッセージは、IMS が示された DD 名を割り振り解除したこと、およびそのデバイス・アドレスが使用可能になったことを示すために、IMS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動時に発行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ddname DD ステートメントの名前

msplink

CTC 物理リンクの名前。

システムの処置: IMS 再始動が続行されます。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

オペレーターの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSRMP20

**DFS4779I THE DDL-DEFINED PSB *psb_name* IS
COPIED TO THE IMS DIRECTORY
DATA SET. PST *pst_name***

説明: PSB *psb_name* がステージング・データ・セットからディレクトリー・データ・セットにコピーされました。

システムの処置: IMS は、DDL ステートメントの自動

活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4780I THE DDL-DEFINED DBD *dbd_name* IS
COPIED TO THE IMS DIRECTORY
DATA SET. PST *pst_name***

説明: データベース *dbd_name* がステージング・データ・セットからディレクトリー・データ・セットにコピーされました。

システムの処置: IMS は、DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4781I AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS COMPLETE ON *ims_id*
RC=00. PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* で DDL ステートメントの調整自動活動化が正常に完了しました。

システムの処置: IMS は、プレックス内のアクティブな共用 IMS 全体で DDL ステートメントの自動活動化を正常に完了しました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4782E AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS FAILED ON *ims_id*
REASON= *reason_text* PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* で DDL ステートメントの調整自動活動化に失敗しました。

システムの処置: プレックス内のアクティブな共用 IMS 全体での DDL ステートメントの調整自動活動化に失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正し、DDL ステートメントを再実行依頼してください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4783I AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS NOT DONE ON *ims_id*
REASON= *reason_text* PST *pst_name***

説明: IMS *ims_id* で DDL ステートメントの調整自動活動化が行われませんでした。この IMS はシャットダウンまたは異常終了されています。あるいは、その IMS は共用ディレクトリーにアクセスする必要がなくなった

ため、その ACBSHR パラメーターを Yes から No に変更しています。

システムの処置: DDL ステートメントの自動活動化は正常に完了しました。IMS *ims_id* は、この共用ディレクトリー・データ・セットにアクセスする IMS のリストから除去されました。

システム・プログラマーの応答: ありません。

モジュール: DFSOLC70

DFS4784E UNSUPPORTED KEYWORDS SPECIFIED IN DSN OR DSNDATA

説明: IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで、パラメーター **DSN=** または **DSNDATA=** に無効なキーワード (&DBNAME シンボルおよび &AREANAME シンボルが使用されている場合を除く) が指定されました。


システムの処置: DDL を使用した DEDB エリア・データ・セットの作成は、要求された機能を完了せずに終了します。

システム・プログラマーの応答: 以下のいずれかの方法で DEDB エリアを作成してください。

- IMS 生成ユーティリティを使用して、DEDB エリア・データ・セットを手動で作成する。
- CREATE DATABASE DDL ステートメントを使用して DEDB エリア・データ・セットを作成する場合は、DFSDFxxx メンバーの DDL セクションで、有効なキーワードを使用するように **DSN=** パラメーターまたは **DSNDATA=** パラメーターを変更する。

モジュール: DFS3DD00

関連資料:

 DFSDFxxx メンバーの DDL セクション (システム定義)

DFS4785W DEDB *dedb_name* AREA *area_name* DATASET *dataset_name* ALREADY EXISTS

説明: *dataset_name* を作成するために DDL ステートメントがサブミットされましたが、そのデータ・セットは既に存在しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dedb_name

DEDB の名前。

area_name

DEDB エリアの名前。

dataset_name

DEDB エリア・データ・セットの名前。

システムの処置: DEDB エリア・データ・セット *dataset_name* が既に存在しているため、IMS によって /START DB コマンドおよび /START AREA コマンドが発行されます。

システム・プログラマーの応答: DEDB エリア・データ・セット *dataset_name* が、必要なデータ・セットであるかどうかを確認してください。IMS により使用されている *dataset_name* データ・セットが、必要としているデータ・セットではない場合は、リソースを取り消すか、データ・セットを手動で変更してください。

モジュール: DFS3DD00

DFS4794I AFTER ABEND OF MASTER IMS *ims_id* THIS IMS COMPLETED IMPORT COMMAND PROCESSING.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。IMS カタログを共用する別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。この IMS システムはインポート処理をコミットし、そのシステム内でリソースはアクティブになっています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) はコミットされ、この IMS システム内でリソースはアクティブになっています。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC80

DFS4795I AFTER ABEND OF MASTER IMS *ims_id* THIS IMS COMPLETED THE ACTIVATION OF DDL-DEFINED SOURCES. PST *pst_name*

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、PST *pst_name* の DDL 定義データベース・リソースの活動化でマスター・システムの役目を果たしているときに異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。インポート処理はこの IMS システムによってコミットされました。

DFS4796E • DFS4798I

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了したマスター IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: DDL 定義の活動化はコミットされました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC80

DFS4796E AFTER ABEND OF MASTER IMS *ims_id* THE IMPORTED PSBS AND DMBS ARE NOT USABLE.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているコマンド・マスターの IMS システムが、グローバル IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。別の IMS システムが処理を引き継ぎましたが、IMS ディレクトリー・データ・セットに行われた更新のバックアウトに失敗しました。この影響を受けるデータベースとプログラム・ビューをスケジュールできません。詳しくは、これより前に発行された DFS4894E メッセージを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMS は IMS ディレクトリー・データ・セットに対して行われた更新をバックアウトできませんでした。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) を再発行してください。QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認することもできます。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4797E AFTER ABEND OF MASTER IMS *ims_id* THE DDL-DEFINED PSBS AND DMBS ARE NOT USABLE. PST *pst_name*

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL リソース定義の活動化中に異常終了しました。別の IMS システムが処理を引き継ぎましたが、IMS ディレクトリー・データ・セットに行われた更新をバックアウトできませんでした。この影響を受けるデータベースとプログラム・ビューをスケジュールできません。詳しくは、これより前に発行された DFS4895E メッセージを参照してください。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: IMS は IMS ディレクトリー・データ・セットに対して行われた更新をバックアウトできませんでした。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4798I AFTER ABEND OF MASTER IMS *ims_id* THIS IMS CANCELLED THE IMPORT COMMAND PROCESSING.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。IMS カタログを共用する別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。この IMS でカタログ・インポート処理が取り消されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドが打ち切られました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システ

ム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示されているエラーを訂正してください。QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行すると、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認できます。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:



QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4799I AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THIS IMS CANCELLED THE
 ACTIVATION OF DDL-DEFINED
 RESOURCES. PST *pst_name*

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL リソース定義の活動化中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎました。この IMS でカタログ・インポート処理が取り消されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: DDL 定義の活動化は打ち切られました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:



QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

第 98 章 DFS メッセージ DFS4801 - DFS4900

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4810I ALL MEMBERS IN THE SYSUT1
DATA SET WERE SUCCESSFULLY
DELETED.**

または

**ALL OF THE MEMBER INSTANCES THAT ARE
REFERENCED IN THE SYSUT1 DATA SET WERE
DELETED FROM THE IMS CATALOG.**

説明: IMS Catalog Record Purge ユーティリティーは、IMS カタログ・データベースから古くなったレコードを正常に削除しました。

システムの処置: 処理は続行されます。

ユーザーの処置: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFS3PU10

**DFS4830I OTMA ENDED RESUME TPIPE FOR
TMEMBER/TPIPE xxxx/yyyy RT= zzzz**

説明: OTMA が、トランザクション・パイプ (tpipe) *yyyy* を使用する OTMA ターゲット・メンバー (tmember またはクライアント) *xxxx* からの ACK または NAK を待っているときに、CM0 タイムアウト・アクションまたは IMS コマンド (/STOP TMEMBER TPIPE など) によって ACK または NAK の待機が取り消され、そのターゲット・メンバーからの RESUME TPIPE 要求が終了されました。また、IMSは、そのターゲット・メンバーにプロトコル・メッセージ "cancel resume output for tpipe hold queue request protocol command" も送信します。

説明: メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxx OTMA クライアント。

yyyy tpipe の名前。

zzzz OTMA クライアント (例えば、IMS Connect) によって設定された RESUME TPIPE トークン。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: RESUME TPIPE 要求に対して ACK も NAK も返されない原因を特定してください。原因は、アプリケーション・プログラムまたはネットワ

ーク・コンポーネントの障害の可能性にあります。

プログラマーの応答: プログラムが、受信した CM0 出力メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。また、ネットワーク障害が原因で ACK または NAK が IMS OTMA に到達できない可能性もあります。IMS に対して複数の RESUME TPIPE 要求をサブミットできます。1 つの要求が終了すると、別の要求が IMSからのメッセージの取得を続行できます。

問題判別: ネットワーク・トレースを調べて、ネットワーク内のどのコンポーネントが ACK または NAK を IMS に転送しなかったのかを特定します。アプリケーション・プログラムが、受信した CM0 出力メッセージまたは同期コールアウト・メッセージに対して ACK または NAK を IMS に必ず発行するようにしてください。

モジュール: DFSYQAB0

**DFS4831E NO STORAGE IN SUBPOOL 230 FOR
OTMA INPUT.**

説明: OTMA の IMS XCF メッセージ出口が入力メッセージを受け取りました。しかし、IMS は、その入力メッセージを処理するためにサブプール 230 から IMS AWE ブロックを割り振ることができませんでした。

システムの処置: IMS OTMA は、クライアントからの残りのメッセージを適切に処理できない可能性があります。

プログラマーの応答: 支援を受けるために DBA またはシステム・プログラマーへの連絡が必要になる場合があります。

モジュール: DFSYMGX0

**DFS4832E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP
AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND
THIS IMS COMPLETED
ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS. PST *pst_name*.**

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL 定義リソースの活性化処理のコミット・フェーズ中に異常終了しました。別の IMS がその処理を引き継ぎました。この IMS シ

DFS4833E • DFS4835I

システムでその処理がコミットされましたが、IMS ディレクトリーのクリーンアップを完了できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: この IMS システムで、DDL 定義リソースの自動活動化がコミットされました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS4833E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND THIS IMS CANCELLED IMPORT PROCESSING.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、グローバル IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。別の IMS がバックアウト処理を引き継ぎ、この IMS システムでインポート処理が取り消されましたが、IMS ディレクトリーのクリーンアップが完了しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: ディレクトリーに対して行われた更新は打ち切られました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS4834E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP AFTER IMS *ims_id* ABENDED AND THIS IMS COMPLETED IMPORT COMMAND PROCESSING.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示

されているマスター IMS システムが、グローバル IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドのコミット処理中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎ、この IMS システムで更新が反映されますが、IMS ディレクトリーのクリーンアップを完了できません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMS ディレクトリーに対して行われた更新はコミットされました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活動化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS4835I IMS INITIALIZATION IS WAITING FOR IMS *ims_id* TO COMPLETE A DDL DEFINITION ACTIVATION FROM THE SHARED IMS CATALOG

説明: この IMS システムは、メッセージ・テキストの *ims_id* に示されている IMS システムが DDL 定義活動化タスクの処理を完了するのを待機しています。このタスクの終了後に、この IMS システムの初期設定が続行されます。進行中のアクティブな DDL 定義活動化タスクがない場合、これはディレクトリー・データ・セットがクリーンアップされなかったことを示します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMS システムは待機しています。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行し、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認してください。

モジュール: DFSRDB30

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4840E THE JCL IS MISSING A SYSIN DD STATEMENT

説明: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティ (DFS3RU00) の JCL に、必要な SYSIN DD ステートメントが欠落しています。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: 欠落している SYSIN DD ステートメントを JCL に追加して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4841E AN INVALID OPTION WAS SPECIFIED IN THE CONTROL STATEMENT. DATA SET (DDNAME SYSIN).

説明: JCL の SYSIN DD ステートメントで指定されたメンバー名が無効でした。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

プログラマーの応答: SYSIN DD ステートメントを MBR=ALL に訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4842E THE SYSIN DATA SET FAILED TO OPEN. OPEN RC = nnnnnnn.

説明: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが SYSIN データ・セットをオープンしたときにエラーが発生しました。nnnnnn は戻りコードです。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

プログラマーの応答: SYSIN データ・セットを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4843E CONTROL STATEMENT ERROR

説明: IMS Catalog Directory Recovery ユーティリティの JCL で指定された SYSIN 制御ステートメントが無効です。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: SYSIN データ・セットを訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4844E MEMBER NAME INVALID

説明: JCL の SYSIN 制御ステートメントで指定されたメンバー名が無効でした。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: メンバー名を MBR=ALL に訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4845E MEMBER NAME IS LONGER THAN 3 CHARACTERS

説明: JCL の SYSIN 制御ステートメントに 3 文字より長いメンバー名が指定されています。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: メンバー名を MBR=ALL に訂正し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4846E UTILITY ONLY RUNS AS DLI BATCH REGION

説明: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは、DL/I バッチとしてのみ実行されます。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: EXEC パラメーターを DL/I に設定し、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4847E METADATA UNAVAILABLE FOR THE RESOURCE nnnnnnnnn

説明: IMS カタログ内のターゲット・リソースのメタデータ情報が使用不可です。nnnnnnnn は、ターゲット・リソースの名前です。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

システム・プログラマーの応答: IMS カタログ・リカバリー・プロセス中にすべてのリソースがリカバリーさ

DFS4848E • DFS4861W

れたことを確認してから、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4848E NOT ENOUGH STORAGE TO BUILD METADATA FOR *nnnnnnnn*

説明: IMS システムで、ターゲット IMS リソースのメタデータ情報をビルドするためのストレージが不足しています。*nnnnnnnn* は、ターゲット・リソースの名前です。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

システム・プログラマーの応答: システム・ストレージを増やしてから、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4849E DIRECTORY DATA SETS ALREADY IN USE

説明: IMS ディレクトリー・データ・セットは、開いているか使用中であるため、再作成できません。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

システム・プログラマーの応答: IMS ディレクトリー・データ・セットをクローズしてから、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4850E *nnnnnnnn* DATABASE TYPE NOT SUPPORTED

説明: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは、MSDB または共用副次索引データベース内のリソースにアクセスしようとしたが、これらのリソースはユーティリティによってサポートされていません。*nnnnnnnn* はリソース名です。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが失敗しました。

システム・プログラマーの応答: サポートされていないアクセス・タイプのデータベース内の ACB およびそれらを参照するプログラムを復元するには、ACBGEN を実行してから、ディレクトリー・セットアップ・オプションを指定して Catalog Populate ユーティリティ (DFS3PU00) を実行し、これらのメンバーをディレクトリー・データ・セットにリカバリーしてください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4851E INVALID PSB

説明: JCL の EXEC パラメーターで指定されている PSB が無効です。

システムの処置: IMS カタログ・ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティは失敗しました。

システム・プログラマーの応答: PSB 名を DFSCP000 (ACBMGMT=ACBLIB) または DFSCP001 (ACBMGMT=CATALOG) に訂正して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3RU00

DFS4861W EDIT ROUTINE DFSCNTE0 UNAVAILABLE FOR LTERM *xxxxxxx*

説明: 静的論理端末が NAME マクロで EDIT=YES を指定して定義されていましたが、メッセージ通信入力編集ルーチン DFSCNTE0 が IMS システムによって正常にロードされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

| *xxxxxxx*

| 論理端末 (LTERM) の名前を示します。

システムの処置: メッセージ通信入力編集ルーチンを使用するように定義されている (NAME マクロで EDIT=YES が定義されている) 静的端末は、DFSCNTE0 ルーチンにアクセスしません。端末は、NAME マクロで EDIT=NO が指定された場合と同様に処理されます。IMS は、このメッセージより前に、編集ルーチンをロードされなかったことを示す DFS1934E を発行します。

IMS は初期設定を続行します。

出力宛先: システム・コンソール

システム・プログラマーの応答: 以下のステップを実行してください。

1. これより前に発行されたメッセージ DFS1934E を調べてください。このメッセージは、DFSCNTE0 をロードできなかったことを示します。
2. DFSCNTE0 が IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つに存在することを確認してください。
3. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
4. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度コールド・スタートまたはウォーム・スタートしてください。

モジュール: DFSAINB0

関連情報:

| 473 ページの『DFS1934E』

| **DFS4862W EDIT ROUTINE xxxxxxxx**
| **UNAVAILABLE FOR NODE yyyyyyyy**

| 説明: IMS 初期設定時に、端末に定義されていた入力/
| 出力の物理端末編集ルーチンをロードできませんでし
| た。このルーチンは、静的端末の場合は、示されている
| 端末に関連した IMS システム定義 TYPE マクロの
| EDIT= キーワードで定義され、動的端末の場合は、
| ETO ノード記述子の EDIT= キーワードで定義されて
| いました。

| メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
| す。

| xxxxxxxx

| 物理端末編集ルーチンの名前を示します。

| yyyyyyyy

| 端末ノード名を示します。

| システムの処置: 物理端末編集ルーチンを使用するよう
| に定義された (TERMINAL マクロで EDIT=YES が指定
| された) 静的端末は、入力/出力ルーチンにアクセスし
| ません。端末は、TERMINAL マクロで EDIT=NO が
| 指定された場合と同様に処理されます。編集ルーチンが
| ロードされなかったことを示すメッセージ DFS1934E
| が発行されます。

| 物理端末編集ルーチンを使用するように定義された (ノ
| ード記述子で EDIT= が定義された) 動的端末は、入力/
| 出力ルーチンにアクセスしません。端末は、ノード記述
| 子で EDIT= が指定されていない場合と同様に処理され
| ます。ノード記述子が IMS.PROCLIB データ・セット
| の DFSDSCMx メンバーまたは DFSDSCTy メンバー
| に正しく定義されている場合は、その記述子について編
| 集ルーチンが無視されることを示すメッセージ
| DFS3660W が発行されます。

| IMS は、初期設定を続行するか、または再始動されま
| す。

| 出力宛先: システム・コンソール

| システム・プログラマーの応答: 以下のステップを実行
| してください。


1. これより前に発行されたメッセージ DFS1934E また
| は DFS3660W を調べてください。これらのメッセ
| ージには、ロードできなかった物理端末編集ルーチ
| ンが示されています。
2. 物理端末編集ルーチンが、IMS.SDFSRESL 連結デー
| タ・セットのいずれかに存在することを確認してく
| ださい。
3. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してくださ
| い。


4. 動的端末の場合は、端末を削除してください。SLUP
| 端末および FINANCE 端末の場合は、CHANGE
| NODE CLODESESS コマンドを発行して、必要な
| 場合に端末を削除できるようにしてください。


5. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを
| 再度ウォーム・スタートまたはコールド・スタート
| してください。

| モジュール: DFSAINB0、DFSCRPB0、DFSCRPD0

| 関連資料:

|  TERMINAL マクロ (システム定義)

|  IMS PROCLIB データ・セットの DFSDSCMx メ
| ンバー (システム定義)

|  IMS PROCLIB データ・セットの DFSDSCTy メ
| ンバー (システム定義)

| 関連情報:

| 473 ページの『DFS1934E』

| 911 ページの『DFS3660W』

| **DFS4863W EDIT ROUTINE xxxxxxxx**
| **UNAVAILABLE FOR LINE yyy**
| **PTERM zzzz**

| 説明: IMS 初期設定時に、端末に定義されている物理
| 端末入力/出力編集ルーチンをロードできませんでし
| た。このルーチンは、示されている端末に関連した IMS
| システム定義 LINEGRP マクロの EDIT= キーワードで
| 定義されていました。

| メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
| す。

| xxxxxxxx

| 物理端末編集ルーチンの名前を示します。

| yyy 通信回線番号を示します。

| zzzz 物理端末番号を示します。

| システムの処置: 物理端末編集ルーチンを使用するよう
| に定義された (TERMINAL マクロで EDIT=YES が指定
| された) 静的端末は、入力/出力編集ルーチンにアクセ
| スしません。端末は、TERMINAL マクロで EDIT=NO
| が指定された場合と同様に処理されます。編集ルーチン
| がロードされないことを示すメッセージ DFS1934E が
| 発行されます。

| IMS は初期設定を続行します。

| 出力宛先: システム・コンソール

| システム・プログラマーの応答: 以下のステップを実行
| してください。

1. これより前に発行されたメッセージ DFS1934E を調べてください。このメッセージには、ロードできない物理端末編集ルーチンが示されています。
2. 物理端末編集ルーチンが、IMS.SDFSRESL 連結データ・セットのいずれかに存在することを確認してください。
3. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
4. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度ウォーム・スタートまたはコールド・スタートしてください。

モジュール: DFSAINB0

関連情報:

473 ページの『DFS1934E』

**DFS4864W FRONT END SWITCH
UNAVAILABLE FOR NODE xxxxxxxx**

説明: 物理端末が、TERMINAL マクロまたは拡張端末オプション (ETO) ノード記述子で **OPTION=FES** を指定して定義されています。しかし、フロントエンド切り替え出口ルーチン DFSFEBJ0 が、IMS システムによって正常にロードされませんでした。ロードの失敗の原因は、以下のいずれかです。

- DFSFEBJ0 が使用不可である。
- IMS 始動パラメーターで **FESEXIT=Y** が指定されていない。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

物理端末ノード名を示します。

システムの処置: フロントエンド切り替え出口ルーチンを使用するように定義された (TERMINAL マクロまたは ETO ノード記述子で **OPTIONS=FES** が指定された) 端末は、DFSFEBJ0 ルーチンにアクセスしません。端末は、**OPTIONS=NOFES** が指定されている場合と同様に処理されます。IMS 始動パラメーターで **FESEXIT=Y** が指定されている場合は、DFSFEBJ0 が正しくロードされなかったことを示すメッセージ DFS1934E が発行されます。

IMS は、初期設定を続行するか、または再始動されます。

出力宛先: システム・コンソール

システム・プログラマーの応答: 以下のステップを実行してください。

1. IMS 始動パラメーターで **FESEXIT=Y** が指定されていることを確認してください。

2. 発行されたメッセージ DFS1934E を調べてください。このメッセージは、DFSFEBJ0 を正常にロードできないことを示します。
3. DFSFEBJ0 が IMS.SDFSRESL 連結データ・セットの 1 つに存在することを確認してください。
4. ロード障害の原因を特定し、障害を訂正してください。
5. 出口ルーチンをロードするために、IMS システムを再度ウォーム・スタートまたはコールド・スタートしてください。

モジュール: DFSAINB0、DFSCRPB0、DFSCRPD0

関連資料:

➡ フロントエンド切り替え出口ルーチン (DFSFEBJ0) (出口ルーチン)

➡ TERMINAL マクロ (システム定義)

関連情報:

473 ページの『DFS1934E』

**DFS4874I THE ALLOCATION OF THE IMS
CATALOG DIRECTORY DATA SETS
FAILED**

説明: IMS カタログ・ライブラリー・ビルダー・ユーティリティ (DFS3LU00) は、IMSCATHLQ ユーティリティ制御ステートメントに指定されたデータ・セット高位修飾子名を使用して、IMS カタログのシステム・データ・セットを割り振ることができませんでした。

システムの処置: ユーティリティは、出力を作成せずに終了します。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 正しい HLQ 名または DFSMDA メンバー名を入力して、ユーティリティを再実行してください。

モジュール: DFS3LU00、DFS3LU10、DFS3LU20

**DFS4876E CSL IS NOT ENABLED IN THIS
IMS. CSL IS REQUIRED TO ACCESS
A SHARED IMS CATALOG.**

説明: この IMS システムは他の 1 つ以上の IMS システムによって共有されている IMS カタログにアクセスしようとしたが、必要な IMS 共通サービス層 (CSL) コンポーネントが、この IMS で使用可能になっていません。共有 IMS カタログにアクセスするすべての IMS システムでは、CSL Operations Manager (OM)、リソース・マネージャー (RM)、および構造化呼

| び出しインターフェース (SCI) が使用可能でなければな
| りません。

| システムの処置: IMS は終了し、異常終了コード
| U0071 が示されます。

| メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システ
| ム・コンソールに送信されます。

| システム・プログラマーの応答: OM、RM、および
| SCI を有効にして IMS CSL を活動化してください。

| モジュール: DFSRDB30

**DFS4877E RM IS NOT ENABLED IN THIS IMS.
CSL WITH RM IS REQUIRED TO
ACCESS A SHARED IMS CATALOG.**

| 説明: この IMS システムは、1 つ以上の IMS システ
| ムによって共用されている IMS カタログにアクセスし
| ようとしましたが、IMS 共通サービス層 (CSL) のリソ
| ース・マネージャー (RM) コンポーネントが、この
| IMS で使用可能になっていません。共用 IMS カタログ
| にアクセスするすべての IMS システムでは、CSL
| Operations Manager (OM)、リソース・マネージャー
| (RM)、および構造化呼び出しインターフェース (SCI)
| が使用可能でなければなりません。

| システムの処置: IMS は終了し、異常終了コード
| U0071 が示されます。

| メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システ
| ム・コンソールに送信されます。

| システム・プログラマーの応答: OM、SCI、および
| RM を有効にして IMS CSL を活動化してください。

| モジュール: DFSRDB30

**DFS4880W AUTOMATIC ACTIVATION OF DDL
SUBMISSION NOT DONE ON *ims_id*
REASON= *reason_text* PST *pst_name***

説明: *ims_id* フィールドで識別されている IMS システ
ムがシャットダウンされたか異常終了したため、このシ
ステムで、DDL を使用してサブミットされたリソース
定義変更を自動的に活動化できませんでした。別の IMS
システムが IMS ディレクトリー内のリソース変更をコミ
ットした場合、IMS システムは、再始動時に更新済み
の ACB ブロックをロードします。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

ims_id 自動活動化が完了しなかったシステムの IMS
ID。

pst_name

DDL ステートメントをサブミットしたタスク
の名前。

reason_text

SHUTDOWN または ABENDED のいずれか
です。

システムの処置: コマンド・マスター・システムは、
DDL ステートメントの自動活動化を続行します。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS オペレー
ター・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: IMS *ims_id* の再始動
時に、アプリケーション・プログラムが ACB の変更と
同期されるようにするために必要な適切な処置をとって
ください。

モジュール: DFSOLC70

**DFS4894E AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THE TAKE OVER OF PSB
AND DMB IMPORT PROCESSING
FAILED. REASON= *reason_text***

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示
されている IMS システムが、IMPORT DEFN
SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しま
した。別の IMS システムがその処理を引き継ごうとし
ましたが、引き継ぎの試みは失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりで
す。

ims_id 異常終了した IMS システム。

reason_text

失敗の理由を示すテキスト。

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE
(CATALOG) コマンドが失敗しました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システ
ム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示され
ているエラーを訂正してください。QUERY MEMBER
TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行すると、
活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認で
きます。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4895E AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THE TAKE OVER OF THE
DDL DEFINITION ACTIVATION
FAILED. REASON= *reason_text* PST
pst_name

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、DDL 定義リソースの活動化処理中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ごうとしましたが、引き継ぎの試みは失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

reason_text

失敗の理由を示すテキスト。

システムの処置: DDL 定義リソースの活動化が失敗しました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 理由テキストに示されているエラーを訂正してください。QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行すると、活動化処理の状況と (必要な場合は) 対応方法を確認できます。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

第 99 章 DFS メッセージ DFS4901 - DFS5000

ここでは、次のメッセージについて説明します。

**DFS4901E THE LOAD FOR DFSMDA MEMBER
name FAILED FOR IMS CATALOG
HLQ. REASON= reason_text**

説明: IMS が IMS カタログの IMS ディレクトリー・データ・セットにアクセスしようとして、IMSCATHLQ DFSMDA メンバーから IMS ディレクトリー・データ・セットの高位修飾子を検索しようとしたときにエラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

name IMS ディレクトリー・データ・セットの高位修飾子を定義する IMSCATHLQ DFSMDA マクロ・ステートメントの名前。

IMS カタログ・ライブラリー・ビルダー・ユーティリティ (DFS3LU00) の実行中にエラーが発生した場合、メッセージに表示される名前は、ユーティリティ JCL の IMSCATHLQ 制御ステートメントで指定された値です。IMSCATHLQ 制御ステートメントで指定される名前は、IMS ディレクトリー・データ・セットの HLQ を含む IMSCATHLQ DFSMDA メンバーの DDNAME パラメーターで指定された名前と一致している必要があります。

アプリケーション・プログラムが GSAM データベースにアクセスしようとしたときにエラーが発生した場合、表示されている名前は、HLQ が付加された IMS カタログの別名です。IMS は、この値を使用して、IMS ディレクトリー・データ・セットの HLQ を定義する IMSCATHLQ DFSMDA メンバーを取得します。別名は、DFSDFxxx PROCLIB メンバーの CATALOG セクションまたは DFS3CDX0 出口ルーチンで指定されます。

reason_text

理由は、以下のいずれかのストリングになります。

GETMAIN FAILURE

ストレージに対する要求が失敗しました。

DFSMDA MEMBER NOT FOUND

メッセージ・テキストに表示されてい

る MDA メンバー名に一致する DFSMDA メンバーが見つかりませんでした。

BLDL ERROR

DFSMDA メンバー名に対する BLDL マクロ呼び出し中にエラーが発生しました。

INVALID DFSMDA MEMBER

メッセージ・テキストに示されている DFSMDA メンバーにエラーがあります。メンバーを定義する DFSMDA ステートメントを確認してください。

LOAD ERROR

DFSMDA メンバーをロードしようとして、エラーが発生しました。

BSDS FAILED OPEN

IMS ディレクトリーのブート・ストラップ・データ・セットをオープンできませんでした。

BSDS FAILED ALLOC

IMS ディレクトリーのブート・ストラップ・データ・セットの割り振りに失敗しました。

システムの処置: プロセスは異常終了します。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

モジュール: DFS3LU00、DFS3LU10、DFS3LU20、DFS3DF00、DFS3DF10

**DFS4913E IMS DIRECTORY NOT CLEANED UP
AFTER IMS ims_id ABENDED AND
THIS IMS CANCELLED
ACTIVATION OF DDL
DEFINITIONS. PST pst_name.**

説明: マスター IMS *ims_id* が、DDL 定義リソースの活動化中に異常終了しました。別の IMS システムがその処理を引き継ぎ、この IMS が DDL の活動化を打ち

切りましたが、IMS ディレクトリーのクリーンアップを実行できませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: DDL 定義ステートメントの自動活性化は打ち切られました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して、活性化処理の状況と対応方法を確認してください。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4934I CATALOG IMPORT COMMAND IN PROGRESS ON IMS *ims_id*. WAIT FOR COMPLETION.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムで、このバッチ・ジョブによって使用される PSB が IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドによって変更されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id PSB を変更する IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドを処理している IMS システム。

システムの処置: このバッチ・ジョブは IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドが完了するのを待機します。

メッセージの出力宛先: このバッチ・ジョブでは、メッセージは z/OS システム・コンソールに送信されません。

システム・プログラマーの応答: 処置は不要ですが、IMPORT コマンド処理の状況を確認する場合は、QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行できます。

モジュール: DFSBIND0

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4994I nnnnnn MESSAGE(S) MOVED TO THE type COLD QUEUE DURING IMS/CQS RESYNC

説明: IMS/CQS 再同期中に、IMS は CQS がコールド・キューに移動したメッセージの状況を解決しようとしています。IMS と CQS のログに十分な情報がないために、状況を解決できない場合があります。これが発生すると、IMS はメッセージをコールド・キューに残します。これは、以下の場合に発生します。

- IMS がコールド・スタートされた (メッセージが COLD 状況である)。または、
- 二重障害の状態が発生している。つまり、構造の障害 (これにより、構造をログから再作成する必要があります) と、CQS の障害 (メッセージが UNKNOWN 状況) の両方が発生しています。

1 つ以上のメッセージが「COLD」または「UNKNOWN」の状況であり、CQS コールド・キューに残されている場合、IMS は DFS4994I メッセージを発行します。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

nnnnnn

コールド・キューに移動されたメッセージの数を示す 6 桁の 10 進数。

type

IMS 構造タイプ - MSGQ (共用メッセージ・キュー構造の場合)、または EMHQ (共用急送メッセージ・ハンドラー・キュー構造の場合) のいずれかになります。

システムの処置: IMS は処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: CQS コールド・キュー上のメッセージは、前の IMS インスタンスによって処理されている場合も処理されていない場合もあります。キュー管理ツール (例えば、IBM IMS Queue Control Facility for z/OS や、これと同等のツール) を使用すると、コールド・キュー上のメッセージを調べ、必要に応じてそれらを削除またはアンロックできます。

モジュール: DFSSQ030, DBFSQ030

DFS4997I AFTER ABEND OF MASTER IMS *ims_id* THIS NEW MASTER IMS ABORTED THE ACTIVATION OF DDL-DEFINED RESOURCES. PST *pst_name*.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示

されている IMS システムが、DDL 定義リソースの調整活動化の処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、リソースの活動化を打ち切りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: IMS は DDL 定義リソースの活動化を打ち切っています。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 活動化のための DDL ステートメントを再サブミットします。活動化処理の状況を確認する場合は、QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行できます。

モジュール: DFSOLC80

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

DFS4998I AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THIS NEW MASTER IMS
COMMITTED THE ACTIVATION OF
DDL-DEFINED RESOURCES. PST
pst_name.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが、DDL 定義リソースの調整活動化の処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、リソースの活動化をコミットしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

pst_name

DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: DDL 定義リソースの活動化が完了しています。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC80

DFS4999I AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THIS NEW MASTER IMS
ABORTED IMPORT COMMAND
PROCESSING.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、グローバル IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、カタログ・ディレクトリー・データ・セットへの更新を打ち切りました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMS は IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理を打ち切っています。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再サブミットしてください。

モジュール: DFSOLC80

DFS5000I AFTER ABEND OF MASTER IMS
ims_id THIS NEW MASTER IMS
COMMITTED IMPORT COMMAND
PROCESSING.

説明: メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されているマスター IMS システムが、グローバル IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ぎ、IMS カタログ・ディレクトリー・データ・セットへの更新をコミットしました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id 異常終了した IMS システム。

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドが完了しました。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC80

第 100 章 DFS メッセージ DFS5001 - DFS5100

ここでは、次のメッセージについて説明します。

DFS5002I RECOVERY UTILITY WAITS FOR IRLM RECONNECT TO PROCEED WITH CLEANUP OF DIRECTORY

説明: ユーティリティの実行中に IRLM がアクティブではありませんでした。

システムの処置: バッチ・リカバリー・ユーティリティは、IRLM が再接続するのを待機します。

プログラマーの応答: IRLM を再始動して、IRLM に再接続するために IMS システムを変更してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS5004I IMS DIRECTORY RECOVERY UTILITY ABORTED UPDATES MADE BY IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) COMMAND ON *ims_id* DFS5004I TOKEN=*token_id*

説明: IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に IMS *ims_id* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが実行され、ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップが正常に行われました。ディレクトリー・データ・セットからバックアウトされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティを実行し、ログ x7002 を出力します。

OPTION PRINT OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLLEN=8,VALUE=*token_id*

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドが打ち切られました。

システム・プログラマーの応答: IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドを再度実行してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS5005I IMS DIRECTORY RECOVERY UTILITY ABORTED UPDATES MADE BY DDL DEFINITION ACTIVATION PST *pst_name* on *ims_id* DFS5005I TOKEN=*token_id*

説明: PST *pst_name* の DDL 定義活動化の処理中に IMS *ims_id* が異常終了しました。IMS ディレクトリ

ー・リカバリー・ユーティリティが実行され、ディレクトリー・データ・セットのクリーンアップが正常に行われました。ディレクトリー・データ・セットからバックアウトされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティを実行し、ログ x7002 を出力します。

OPTION PRINT OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLLEN=8,VALUE=*token_id*

システムの処置: DDL 定義の活動化は打ち切られました。

システム・プログラマーの応答: DDL DEFINITION 活動化コマンドを再度実行してください。

モジュール: DFSOLC80

DFS5006W IRLM IS NOT ACTIVE AND CATALOG LOCK NOT OBTAINED FOR UPDATES TO DIRECTORY

説明: マスター IMS システムが、IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドまたは DDL ステートメントの処理中に異常終了しました。この新しい IMS システムがその処理を引き継ごうとしましたが、IRLM がアクティブでなかったために IMS カタログ・ディレクトリーのロックを取得できませんでした。ディレクトリー・データ・セットはクリーンアップされませんでした。

システムの処置: クリーンアップ処理はローカルで続行されますが、IMS ディレクトリーはクリーンアップされませんでした。

メッセージの出力宛先: メッセージは、z/OS システム・コンソールに送信されます。

システム・プログラマーの応答: QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行して活動化処理の状況を確認し、表示された状況に応じて必要な処置を行います。

モジュール: DFSOLC80

DFS5007I {PSB | DBD} (*psbname* | *dbdname*) EXTENDED OPERAND TABLE SIZE = *xxxxxxx* BYTES

説明: メッセージに示されている PSB または DBD が

DFS5010I • DFS5013I

ACBLIB に挿入されたか、ACBLIB 内で置換されました。このメンバーには、拡張オペランド・テーブルに保管されている IMS カタログ用に xxxxxxxx バイトのデータベース・メタデータがあります。


システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: ACBLIB に保管されているメンバーの合計サイズを見積もるには、以下のいずれかのタスクを実行します。

- メッセージ DFS0940I に含まれる制御ブロック・サイズを、メッセージ DFS5007I に表示されている拡張オペランド・テーブルのサイズに加算します。
- ACBLIB に対して ACBGEN によって生成されたこの名前を持つメンバーを確認します。

モジュール: DFSUAMB0

関連情報:

 DFS0940I (メッセージおよびコード)

**DFS5010I IMS DIRECTORY RECOVERY
UTILITY COMMITTED UPDATES
MADE BY IMPORT DEFN
SOURCE(CATALOG) COMMAND ON
ims_id
DFS5010I TOKEN=token_id**

説明: IMPORT DEFN SOURCE(CATALOG) コマンドの処理中に IMS *ims_id* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティ (DFS3RU00) が実行され、ディレクトリー・データ・セットが正常にクリーンアップされました。ディレクトリー・データ・セットにコミットされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティを実行し、ログ x7002 を出力します。

OPTION PRINT OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLEN=8,VALUE=token_id

システムの処置: IMPORT DEFN SOURCE (CATALOG) コマンドはコミットされました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC80

**DFS5011I IMS DIRECTORY RECOVERY
UTILITY COMMITTED UPDATES
MADE BY DDL DEFINITION
ACTIVATION PST pst_name ON ims_id
DFS5011I TOKEN=token_id**

説明: DDL 定義活動化の処理中に PST *pst_name* が異常終了しました。IMS ディレクトリー・リカバリー・ユーティリティが実行され、ディレクトリー・デー

タ・セットのクリーンアップが正常に行われました。ディレクトリー・データ・セットにコミットされたリソース名のリストをログ x7002 から抽出できます。以下の制御カードを使用して DFSERA30 ユーティリティを実行し、ログ x7002 を出力します。

OPTION PRINT OFFSET=5,FLDTYP=X,FLDLEN=2,VALUE=7002

OPTION PRINT OFFSET=13,FLDTYP=X,FLDLEN=8,VALUE=token_id

システムの処置: DDL DEFINITION 活動化コマンドはコミットされました。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSOLC80

**DFS5013I DDL DEFINITION ACTIVATION IN
PROGRESS. PST pst_name ON IMS
ims_id. WAIT FOR COMPLETION.**

説明: このバッチ・ジョブによって使用される PSB が、メッセージ・テキストの *ims_id* フィールドに示されている IMS システムが処理する DDL ステートメントによって、オンラインで変更されています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ims_id DDL ステートメントを処理している IMS システム。

pst_name
DDL ストリームからの命令を処理しているタスクの PST 名。

システムの処置: このバッチ・ジョブは、DDL 定義の活動化プロセスが完了するのを待機します。

メッセージの出力宛先: このバッチ・ジョブでは、メッセージは z/OS システム・コンソールに送信されません。

システム・プログラマーの応答: 処置は不要ですが、DDL ステートメント処理の状況を確認する場合は、QUERY MEMBER TYPE(IMS) SHOW(STATUS) コマンドを発行できます。

モジュール: DFSBIND0

関連資料:

 QUERY MEMBER コマンド (コマンド)

第 101 章 DFSD メッセージ (DRD ユーティリティー)

動的リソース定義 (DRD) ユーティリティーの ISPF インターフェースは、DFSD で始まるメッセージを発行します。

DFSD001E Invalid data set specified for panel selection field

説明: ISPF パネルでデータ・セット名を値として指定しました。しかし、このデータ・セット名はシステム・カタログで検出されませんでした。データ・セットを検出できなかった理由として以下のいずれかが考えられます。

- データ・セット名が正しくない。
- データ・セット名は正しいが、このデータ・セットがカタログされていない。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- データ・セット名が正しくなかった場合、有効なデータ・セット名を指定します。
- データ・セットがカタログされていない場合は、そのデータ・セットをカタログするか、カタログされている別のデータ・セットを指定します。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD1、DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4

DFSD002E panel field is required for this function

説明: ISPF パネルで値の指定を省略しました。しかし、この値は、実行中の機能で必要です。メッセージ・テキストの *panel field* は、値を必要とするフィールドを示しています。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 示されているフィールドに値を指定します。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4

DFSD003E You must select a step to perform

説明: 実行する特定のステップを選択する必要がある ISPF パネルを起動しようとしていました。しかし、実行するステップが指定されませんでした。パネルには、実行するために選択できるステップが表示されます。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 実行する必要があるステップを示します。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD1、DFSRRDD2

DFSD004E You must specify at least one function

説明: 実行する 1 つ以上の機能を選択できる ISPF パネルを起動しようとしていました。しかし、実行する機能が指定されませんでした。パネルには、実行するために選択できる機能が表示されます。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 実行したい機能を指定します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD4

DFSD005E You must specify UNIT and VOLUME as a set

説明: 「Enter Log Data Set Names」パネルで、ログ・データ・セットのリストを作成するためのステップを選択しました。パネルの 1 つ以上のデータ・セット項目に対して、単位またはボリュームのどちらかを指定しましたが、両方を指定しませんでした。いずれか 1 つを指定する場合は、もう 1 つも指定する必要があります。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: アンカタログされたデータ・セットの場合、単位とボリュームの両方を指定してください。

カタログ式データ・セットの場合は、単位もボリュームも指定しないでください。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1A

DFSD006E You must specify a log data set name if volume or unit are specified

説明: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットのリストを作成するためのステップを選択しました。1 つ以上のデータ・セット項目に対して、単位およびボリュームを指定しましたが、ログ・データ・セット名を指定しませんでした。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 指定した単位およびボリュームに関連するログ・データ・セット名を指定します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1A

DFSD007E *log data set name is not cataloged*

説明: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットのリストを作成するためのステップを選択しました。パネルの 1 つ以上のデータ・セット項目に対して指定したログ・データ・セット名が、システム・カタログで検出されませんでした。以下のいずれかが理由として考えられます。

- データ・セット名が正しくない。
- データ・セット名は正しいが、このデータ・セットがカタログされていない。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 次のいずれかの処置を取ってください。

- データ・セット名が誤っていた場合、有効なデータ・セット名を指定します。
- データ・セットがカタログされていない場合は、そのデータ・セットをカタログするか、カタログされている別のデータ・セットを指定します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1A

DFSD008E **The list of log data sets was not found**

説明: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットの内容からリソース定義データ・セット (RDDS) を作成するステップを選択しました。リストを作成する技法の選択で、ログ・データ・セットのリストを入力したことを指定しましたが、このリストを検出できません。以下のいずれかが理由として考えられます。

- データ・セット名リストが含まれている可能性がある PDS メンバーが欠落している。
- データ・セット名リストが含まれている可能性がある PDS メンバーが空である。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログのリストを入力するためのステップを実行して、このステップがパネル・エラーなしで完了することを確認します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1

DFSD009E **The list of log data set names extracted from RECON was not found**

説明: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットの内容からリソース定義データ・セット (RDDS) を作成するステップを選択しました。リストを作成する技法の選択で、ログ・データ・セットのリストを RECON から抽出したことを指定しましたが、このリストを検出できません。この場合、抽出されたデータ・セット名を含む PDS メンバーが欠落しています。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、リストを RECON から抽出するためのステップを実行して、このステップがパネル・エラーまたはランタイム・エラーなしで完了することを確認します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1

DFSD010E **Member containing logs from RECON is empty**

説明: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・データ・セットの内容からリソース定義データ・セット (RDDS) を作成することを選択しました。リストを作成するために使用する技法の選択で、ログ・データ・セットのリストを RECON から抽出したことを指定しましたが、このリストは検出されませんでした。抽出されたデータ・セット名を含む PDS メンバーが空です。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、リストを RECON から抽出するためのステップを実行して、このステップがパネル・エラーまたはランタイム・エラーなしで完了することを確認します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1

DFSD011E The Stage 2 data set was not found
DSN: data set name
Select the Create Stage 2 JCL step to create it

説明: 「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Create Temporary MODBLKS」ステップを選択しました。ただし、メッセージ・テキストで *data set name* によって示されているデータ・セットは、以前に「Create Stage 2 JCL」ステップの処理で作成されている必要がありますが、検出されませんでした。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Create Stage 2 JCL」ステップを実行してください。正常に実行されることを確認します。その後で、「Create Temporary MODBLKS」ステップを再試行します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD012E The MODBLKS data set was not found
DSN: data set name
Select the Create Temporary MODBLKS step to create it

説明: 「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Process Temporary MODBLKS」のステップを選択しました。ただし、メッセージ・テキストで *data set name* によって示されているデータ・セットは、以前に「Create Temporary MODBLKS」ステップの処理で作成されている必要がありますが、検出されませんでした。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、「Process Temporary MODBLKS」ステップを実行してください。ステップが正常に実行されることを確認してから、「Process Temporary MODBLKS」ステップを再試行します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD013E Data Sets were not found for IMS
HLQ: ims hlq

説明: 「Create RDDS from System Definition」パネルで、IMS HLQ に値を指定しました。このフィールドに指定する値は、IMS システム・インストーラーが SYSGEN プロセス中に使用される IMS インストール・データ・セットを命名するために使用した高位修飾子を

表す必要があります (例えば、hlq.ADFSMAC)。しかし、システムは、高位修飾子を持つ IMS インストール・データ・セットを検出できませんでした。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: IMS システム・インストーラーを使用して、IMS HLQ の正しい値が使用されていることを確認します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD014E CHKPTID must contain all numerics and a slash in position 6

説明: 「Create RDDS from log records」パネルで、CHKPTID に対して無効値を指定しました。このフィールドに指定された値は、IMS ログ・レコードで使用されるチェックポイント値と正確に一致している必要があります。yyddd/hhmmss 形式でなければなりません。yyddd はユリウス日付を表し、hhmmss は時刻を表します。/ は必須です。

日付と時刻に使用されるすべての文字は数値でなければなりません。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: CHKPTID に対して正しい構文を使用していることを確認します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD1

DFSD015E CHKPTID must be 12 characters long

説明: 「Create RDDS from log records」パネルで、CHKPTID に対して無効値を指定しました。このフィールドに指定された値は、IMS ログ・レコードで使用されるチェックポイント値と正確に一致している必要があります。長さ 12 文字で、yyddd/hhmmss 形式でなければなりません。yyddd はユリウス日付を表し、hhmmss は時刻を表します。/ は必須です。

日付と時刻に使用されるすべての文字は数値でなければなりません。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: CHKPTID に対して正しい構文を使用していることを確認します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD1

DFSD016E Full Julian date is required

説明: 「Create RDDS from log records」パネルで、「Start or Stop date」に無効値を指定しました。指定する値は、*yyyyddd* 形式のユリウス日付でなければなりません。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Start or Stop date」に有効な値を指定します。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD1、DFSRRD1B

DFSD017E Century is required

説明: 「Create RDDS from log records」パネルで、「Start or Stop date」に対して無効な世紀の値を指定しました。世紀に指定する値は、19 以上でなければなりません。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Start or Stop date」に有効な世紀の値を指定します。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD1、DFSRRD1B

DFSD018E Invalid specification for Day

説明: 「Create RDDS from log records」パネルで、「Start or Stop date」に対して無効な日の値を指定しました。日に指定する値は、1 から 366 の間でなければなりません。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 「Start or Stop date」に有効な日の値を指定します。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD1、DFSRRD1B

DFSD019E Stop date/time cannot be before start date/time

説明: 「Create RDDS from log records」パネルで、停止の日付と時刻を入力しました。しかし、停止の日付と時刻が開始の日付と時刻より前になっています。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 停止の日付と時刻が開始の日付と時刻より後になるようにしてください。

1172 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1B

DFSD020E A start time is required for log type SLDS

説明: 「Create RDDS from Log Records」パネルで、ログ・タイプ SLDS を指定しましたが、開始時刻を指定しませんでした。ログ・タイプ SLDS の場合は開始時刻を指定する必要があります。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: ログ・タイプ SLDS が指定される場合、開始時刻を指定します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRD1B

DFSD021E HLQ fields must not contain quotes

説明: 「IMS Application Menu」パネルからの「Manage Resources」選択項目に関連する RDDS パネルの 1 つで、データ・セットの高位修飾子が指定されました。しかし、名前に引用符が含まれていました。高位修飾子の指定に引用符が含まれてはなりません。高位修飾子を指定するフィールドには、次のものがあります。

IMS HLQ
Temp MODBLKS HLQ
Work Data Set HLQDS

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 高位修飾子名の引用符を除去してください。

モジュール: REXX プログラム
DFSRRDD1、DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4

DFSD022E Invalid specification for ASM

説明: 「Create RDDS from SYSGEN」パネルで、正しい構文を使用していない ASM パラメーターの値を入力しました。エラーは次のいずれかの可能性があります。

- 複数のパラメーターを入力したが、それらをコンマで区切らなかった。
- 複数のパラメーターを入力したが、それらを括弧で囲まなかった。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: 構文エラーを訂正します。

モジュール: REXX プログラム DFSRRDD2

DFSD023E データ・セット・ボリュームとストレージ・クラスは相互に排他的です。

説明: 「IMS Application Menu」パネルの「Manage Resources」選択項目から、RDDS パネルのいずれかで、RDDS データ・セット・ボリュームと DFSMS の両方に値を入力しました。これら 2 つの指定は相互に排他的です。

システムの処置: ISPF パネル処理は、エラーの訂正を待機します。

システム・プログラマーの応答: RDDS データ・セット・ボリュームか、STORCLAS のいずれかを指定し、両方は指定しないでください。

モジュール: REXX プログラム

DFSRRDD1、DFSRRDD2、DFSRRDD3、DFSRRDD4
DFSRRDD5

第 102 章 DFSIX メッセージ (インストール検査プログラム・ダイアログ)

インストール検査プログラム (IVP) ダイアログから発行されるメッセージは、DFSIX で始まります。

IVP の使用については、「IMS インストール検査プログラム (IVP) の概要 (インストール)」を参照してください。

unnumbered INPUT PARM *parameter* IS TOO LONG

説明: キーワード *parameter* で識別されているパラメーターの値が長すぎます。パラメーターの値は、26 文字以下であることが必要です。 *parameter* は次のいずれかの値です。

- HLQDL
- HLQIPO
- HLQIV
- HLQSY

システムの処置: IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答: パラメーター値が長さ 26 文字以下になるように変更し、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール: DFSIXC01

unnumbered PARAMETER DLTA1, DLTA2, DLTA3, DLTA5, DLTA6, or DLTA7 IS TOO LONG

説明: DLTA パラメーターの 1 つ以上が長すぎます。パラメーターは、長さが 44 文字以下である必要があります。

システムの処置: IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答: パラメーターが長さ 44 文字以下になるように変更し、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール: DFSIXC01

unnumbered PARAMETER DLTA5 MUST NOT BE THE SAME AS DLTA1, DLTA2, OR DLTA3

説明: DLTA5 パラメーターは、DLTA1、DLTA2、ま

たは DLTA3 と同じ値をもてません。

システムの処置: IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答: パラメーターを固有値に変更した上で、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール: DFSIXC01

unnumbered PARAMETER DLTA6 MUST NOT BE THE SAME AS DLTA1, DLTA2, OR DLTA3

説明: DLTA6 パラメーターは、DLTA1、DLTA2、または DLTA3 と同じ値をもてません。

システムの処置: IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答: パラメーターを固有値に変更した上で、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール: DFSIXC01

unnumbered SYSISPF=NOT ACTIVE - THIS CLIST MUST BE INVOKED FROM WITHIN ISPF

説明: IVP インストール・ダイアログが ISPF 内から開始されませんでした。

システムの処置: IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答: IVP インストール・ダイアログを ISPF 内から実行してください。

モジュール: DFSIXC01

unnumbered PARAMETER DLTA7 MUST NOT BE THE SAME AS DLTA1, DLTA2, OR DLTA3

DFSIX000 • DFSIX010

説明: DLTA7 パラメーターは、DLTA1、DLTA2、または DLTA3 と同じ値をもてません。

システムの処置: IVP インストール・ダイアログが終了します。

プログラマーの応答: パラメーターを固有値に変更した上で、IVP インストール・ダイアログを再実行してください。

モジュール: DFSIXC01

DFSIX000 aaaaaaaaa THE INSTALL/IVP DIALOG DOES NOT SUPPORT MULTIPLE USERS

または

aaaaaaaa mmmmmmmmmmmmmmmmmmm

説明: これは一般的な切断エラー・メッセージです。INSTALL/IVP ダイアログは、同時に複数のユーザーが使用することはできません。現在 IVP を使用しているユーザーがあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

エラーが発生したモジュールを識別します。

mmmmmmmmmmmmmmmmmm

エラー・メッセージです。

mmmmmmmmmmmmmmmmmm が THE INSTALL/IVP DIALOG DOES NOT SUPPORT MULTIPLE USERS の場合は、メッセージ DFSIX000 の説明を参照してください。

システムの処置: IVP は処理を停止します。

プログラマーの応答: IVP が別の ISPF 画面で使用でないことを確認してください。IVP が別の ISPF 画面で使用の場合は、後で再度試みてください。

問題が解決しない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

モジュール: DFSIXX01、DFSIXX07、DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10、DFSIXX11、DFSIXX14、DFSIXX15、DFSIXX16

DFSIX001 aaaaaaaaa ENT ACTION COMPLETE

説明: 入力 (ENT) アクションが完了しました。これで ENT モードになったので、一度に 1 つの変数がヘルプ・テキストと共に表示されます。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX002 aaaaaaaaa LST ACTION COMPLETE

説明: リスト (LST) アクションが完了しました。これで LST モードになったので、複数の変数がヘルプ・テキストを伴わずに表示されます。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX006 aaaaaaaaa - NXT ACTION WRAPPED TO TOP OF TABLE

説明: 次へ (NXT) アクションが要求されましたが、テーブルの末尾に達していました。次のジョブ、タスク、または変数へとページ送りは行われず、NXT で折り返してテーブルの先頭に戻りました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX007 aaaaaaaaa - PRV ACTION WRAPPED TO BOTTOM OF TABLE

説明: 前へ (PRV) アクションが要求されましたが、テーブルの先頭に達していました。直前のジョブ、タスク、または変数へとページ戻しは行われず、PRV で折り返してテーブルの末尾に戻りました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX010 aaaaaaaaa - CHG ACTION COMPLETE

説明: 変更 (CHG) アクションが正常に完了しました。変更された変数は保管されました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX019 *aaaaaaaa* - LST ACTION REJECTED -
TABLE IS EMPTY

説明: リスト (LST) アクションは完了できませんでした。プログラムが LST モードに切り替わっていません。ISPF テーブルが空です。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 表示が入力 (ENT) モードに切り替わります。

プログラマーの応答: ENT モードでの処理を続けられる可能性があります。引き続き問題が発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、問題の報告および支援の要求を行ってください。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX023 *aaaaaaaa* - PRIOR SESSION
COMPLETED SUCCESSFULLY FOR
ivpenv

説明: 環境 *ivpenv* に関する直前の IVP セッションが正常に完了しました。メッセージ・テキスト内の項目は以下のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv 作成しようとしていた IMS 環境。次のいずれかです。

- DBB
- DBC
- DBT
- DCC
- XRF

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX01

DFSIX024 *aaaaaaaa* - PRIOR SESSION
COMPLETED UNSUCCESSFULLY
FOR *ivpenv*

説明: 環境 *ivpenv* に関する直前の IVP セッションは完了しましたが、正常完了ではありませんでした。この状態が生じたのは、作業が行われていたフェーズが不完全であるためです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv 作成しようとしていた IMS 環境。次のいずれかです。

- DBB
- DBC
- DBT
- DCC
- XRF

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: IVP 処理を最後に停止したところから続けてください。

モジュール: DFSIXX01

DFSIX025 *aaaaaaaa* - *vvvvvvvv* - MUST BE IN
THE RANGE *mnnnnn* TO *mxxxx* MAX

説明: *vvvvvvvv* 変数が必須範囲内にありません。この変数は *mnnnnn* から *mxxxx* の範囲にある必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

範囲外に外れている変数の名前です。

mnnnnn 変数の最小値です。

mxxxx 変数の最大値です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を *mnnnnn* から *mxxxx* の範囲の値に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX026 *aaaaaaaa* - REPORT GENERATION IN
PROCESS FOR *item*

説明: 文書 (DOC) アクションによって要求された報告書が生成されているところです。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

DFSIX029 • DFSIX035

item 現在処理されているジョブ、タスク、または変数です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX029 aaaaaaaaa - VARIABLE GATHERING PHASE ENDED FOR *ivpenv*

説明: *ivpenv* 環境に関する変数収集フェーズ (全入力を解決する) が完了しました。メッセージ・テキスト中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv IVP 環境です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX030 aaaaaaaaa - RFR ACTION COMPLETE - DEFAULT VALUE RESTORED

説明: 復元 (RFR) アクションが正常に完了しました。変数がデフォルト値に復元されています。メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX031 aaaaaaaa - RFR ACTION FAILED - TBMOD FAILED

説明: 復元 (RFR) アクションが失敗しました。変数がデフォルト値に復元されませんでした。メッセージ・テキスト中の aaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理を続行します。デフォルト値が復元されていません。

プログラマーの応答: 変数を望ましい値に設定し、処理を続けてください。引き続き問題が発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX032 aaaaaaaaa - CHG/RFR ACTION FAILED - DEFAULT VALUE NOT FOUND

説明: 変更 (CHG) または復元 (RFR) アクションが失敗しました。変数の値が変更されなかったか、または値がデフォルトに変更されませんでした。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理を続行します。デフォルト値が復元されていません。

プログラマーの応答: 変数を望ましい値に設定し、処理を続けてください。引き続き問題が発生する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX033 aaaaaaaaa - FILE TAILORING PHASE ENDED FOR *ivpenv*

説明: *ivpenv* 環境に関するファイル調整フェーズ (ジョブの実行前に変数を解決する) が完了しました。

メッセージ・テキスト中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv IVP 環境です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09

DFSIX034 aaaaaaaaa - FTL ACTION COMPLETE

説明: ファイル調整 (FTL) アクションが正常に完了しました。ジョブ、タスク、または変数がファイル調整されています。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09

DFSIX035 aaaaaaaaa - BRM ACTION COMPLETE

説明: ブラウズ (BRM) アクションが正常に完了しました。INSTALIB メンバーがブラウズされています。メッセージ・テキスト中の aaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX036 aaaaaaaa - BRS ACTION COMPLETE

説明: ブラウズ (BRS) アクションが正常に完了しました。ソース・メンバー (DFSSLIB または DFSISRC) がブラウズされています。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09

DFSIX037 aaaaaaaa - EDM ACTION COMPLETE

説明: 編集 (EDM) アクションが正常に完了しました。INSTALIB メンバーが編集されています。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09、DFSIXX10、DFSIXX14

DFSIX038 aaaaaaaa - vvvvvvvv - INVALID SUBPARAM - LENGTH EXCEEDS mxxx

説明: サブパラメーター vvvvvvvv の長さが最大長 mxxx を超えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

最大長を超えているサブパラメーターです。

mxxx vvvvvvvv サブパラメーターの最大許容長さです。

システムの処置: 変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: サブパラメーターを最大値 mxxx 以下の値に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX039 aaaaaaaa - ISPF/PDF EDIT RECOVERY IS NOT SUPPORTED BY INSTALL/IVP

説明: このメッセージが出されるのは、IVP 内でメンバーを編集したときです。IVP では ISPF EDIT リカバリーをサポートしません。ISPF EDIT プロファイル・リカバリー設定値は、IVP では使用されません。IVP でメンバーを編集すると、そのつどこのメッセージが表示されて、編集リカバリーはサポートされていないことが指摘されます。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09、DFSIXX10、DFSIXX14

DFSIX040 aaaaaaaa - BRM ACTION IGNORED - NOT AVAILABLE FOR jtname

説明: ブラウズ (BRM) アクションは、jtname ジョブまたはタスクでの使用はできません。INSTALIB メンバーは、ブラウズされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname BRM が有効に使用できないジョブまたはタスク名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX041 aaaaaaaa - BRS ACTION IGNORED - NOT AVAILABLE FOR jtname

説明: ブラウズ (BRS) アクションは、jtname ジョブまたはタスクでの使用はできません。ソース・メンバー DFSSLIB および DFSISRC はブラウズされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname BRM が有効に使用できなかったジョブまたはタスク名です。

DFSIX042 • DFSIX046

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIXX09

DFSIX042 aaaaaaaa - EDM ACTION IGNORED - NOT AVAILABLE FOR *jtname*

説明: 編集 (EDM) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。INSTALIB メンバーは編集されませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname EDM が有効に使用できなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIXX10

DFSIX043 aaaaaaaa - vvvvvvvv subparm - INVALID DATATYPE

説明: 変数 *vvvvvvvv* の *subparm* サブパラメーターが正しいデータ・タイプではないか、またはそこに無効文字が含まれています。例えば、変数は数値である必要があるのに、英字が含まれているような場合です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

データ・タイプが間違っている *subparm* サブパラメーターが含まれる変数です。

subparm

データ・タイプが間違っているサブパラメーターです。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *subparm* サブパラメーターを変更して、有効な文字のみが含まれるようにしてください。有効な文字に関する情報が必要な場合は、入力 (ENT) モードに切り替えれば、ヘルプ・テキストが用意されています。

1180 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

モジュール: DFSIXX11

DFSIX044 aaaaaaaa - FTL ACTION IGNORED - NOT AVAILABLE FOR *jtname*

説明: ファイル調整 (FTL) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。*jtname* ジョブまたはタスクに関するファイル調整は完了しませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname ファイル調整が完了しなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIXX09

DFSIX045 aaaaaaaa - VARIABLE vvvvvvvv IS UNKNOWN - ACCEPTED ASIS

説明: このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。変数 *vvvvvvvv* は、正しい値かどうかチェックされていませんが、現状のまま受け入れられ、処理は続行されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明の変数です。

システムの処置: 変数は現状のまま受け入れられ、処理は続行されます。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、エラーを報告してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX046 aaaaaaaa - EXECUTION PHASE ENDED FOR *ivpenv*

説明: *ivpenv* 環境に関する実行フェーズ (EXE) は完了しました。IVP ジョブは正常に実行されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

ivpenv IVP が実行されている環境です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX10

DFSIX047 *aaaaaaaa* - EXE ACTION IGNORED -
NOT AVAILABLE FOR *jtname*

説明: 実行 (EXE) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。INSTALIB ジョブまたはタスクはサブミットされませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname サブミットされなかったジョブまたはタスク名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 有効なジョブまたはタスクを指定して、コマンドを再発行してください。

モジュール: DFSIXX10

DFSIX048 *aaaaaaaa* - EXE ACTION COMPLETE
FOR *jtname*

説明: 実行 (EXE) アクションは、*jtname* ジョブまたはタスクに関して正常に完了しました。INSTALIB ジョブまたはタスクはサブミットされました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname サブミットされたジョブまたはタスク名です。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX10

DFSIX049 *aaaaaaaa* - ALL ACTION COMPLETE

説明: ALL アクションが正常に完了しました。ファイル調整は、現在の項目から始めて、すべてのジョブ、タスク、または変数に関して完了しました。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセー

ジが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX09

DFSIX052 *aaaaaaaa* - DOC ACTION COMPLETE

説明: 文書 (DOC) アクションが正常に完了しました。サブミットしたばかりのジョブまたはタスク文書が印刷されました。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX054 *aaaaaaaa* - CPYSPECL FAILED
DURING OPEN FOR *&ixfmsgt*

説明: IVP ISPF テーブルが、CPYSPECL 処理中に開けませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

&ixfmsgt

開けなかった IVP ISPF テーブルです。

システムの処置: 現行オプションの処理は終了します。直前の選択パネルに戻ります。

プログラマーの応答: 支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSIXX07

DFSIX055 *aaaaaaaa* - CPYSPECL FAILED
DURING TBADD FOR *&ixfmsgt*

説明: ISPF テーブル追加 (TBADD) コマンドが、CPYSPECL 処理中に失敗しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

&ixfmsgt

TBADD コマンドに失敗した IVP ISPF テーブルです。

システムの処置: 現行オプションの処理は終了します。

DFSIX056 • DFSIX060

直前の選択パネルに戻ります。

プログラマーの応答: 支援が必要な場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

モジュール: DFSIXX07

DFSIX056 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY Y (YES), OR N (NO)

説明: 変数 *vvvvvvvv* は、Y または N として指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を Y と N のいずれかに変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX057 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY 6250, 3480, OR 3490

説明: 磁気テープ装置形式 *vvvvvvvv* は、6250、3480、または 3490 である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を 6250、3480、または 3490 に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX058 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE ALPHNUMERIC (A-Z, 0-9)

説明: *vvvvvvvv* 変数は、英数字 A から Z、0 から 9 である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

英数字で指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を英数字ばかりに変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX059 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - INVALID LENGTH - MIN/MAX = mnnnnn / mxxxx

説明: *vvvvvvvv* 変数は、長さが正しくありません。この変数は *mnnnnn* から *mnnnnn* の範囲にある必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

長さに誤りがある変数の名前です。

mnnnnn *vvvvvvvv* 変数の最大許容長さです。

mxxxx *vvvvvvvv* 変数の最小許容長さです。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* が *mnnnnn* から *mxxxx* になるように変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX060 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY EITHER JES2 OR JES3

説明: z/OS プログラム変数 *vvvvvvvv* は、JES2 または JES3 として指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

指定する必要がある変数の名前です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を JES2 と JES3 のいずれかに変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX061 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - PLEASE SPECIFY A NON-BLANK VALUE*

説明: *vvvvvvvv* 変数は、非ブランク値である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

非ブランク値が指定されていることが必要な変数の名前です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を非ブランク値に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX062 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE MUST BE OF THE FORM nnnnnnnn K OR nnnn M*

説明: 変数 *vvvvvvvv* は、*nnnnnnnn* K バイト、または *nnnn* メガバイトの形式である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

正しいフォーマットで再指定する必要がある変数の名前です。

nnnnnnnn

vvvvvvvv の K バイト・フォーマットです。

nnnn *vvvvvvvv* のメガバイト・フォーマットです。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を *nnnnnnnn* K または *nnnn* M のフォーマットに変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX063 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE RANGE - mnnn K THROUGH mxxx K*

説明: *vvvvvvvv* 変数は、*mnnn* K バイトから *mxxx* K バイトである必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

適正な範囲で指定する必要がある変数の名前です。

mnnn *vvvvvvvv* 変数として指定できる最小値です。

mxxx *vvvvvvvv* 変数として指定できる最大値です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を *mnnn* K から *mxxx* K の範囲に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX064 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE RANGE - mnnn M THRU mxxx M*

説明: *vvvvvvvv* 変数が必須範囲外に外れています。変数は、*mnnn* メガバイトから *mxxx* メガバイトの範囲内である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

プログラム名です。

vvvvvvvv

必須範囲外に外れている変数の名前です。

mnnn *vvvvvvvv* が設定できる最小値です。

mxxx *vvvvvvvv* が設定できる最大値です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: 変数 *vvvvvvvv* を *mnnn* M から *mxxx* M の範囲の値に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX065 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - TOTAL LENGTH
WILL EXCEED mxxxx BYTES*

説明: JOB ステートメント・アカウント情報変数の値の合計長さが最大許容サイズを超えています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

サイズ制限を超えていた変数です。

mxxxx アカウント情報・フィールドで使用できる最大バイト数です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数が *mxxxx* 以下になるように変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX066 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - VALUE
CONTAINS ILLEGAL CHARACTERS*

説明: 変数 *vvvvvvvv* に、使用できない文字が含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

正しくない文字が含まれている変数です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を変更して、有効な文字のみが含まれるようにしてください。有効な文字に関する情報が必要な場合は、入力 (ENT) モードに切り替えれば、ヘルプ・テキストが用意されています。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX067 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - JESX
STATEMENTS MUST BEGIN WITH
/* or //*

説明: 変数 *vvvvvvvv* は、JESx ステートメントであり、したがって、*/** または *//* で始まる必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

*/** と *//* のいずれかで始まる必要がある変数の名前です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数が */** または *//* で始まるように変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX068 *aaaaaaaa - SPR ACTION COMPLETE*

説明: 特殊処理ルーチン (SPR) が正常に完了しました。メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX10

DFSIX069 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - subparm - MAY
NOT BE BLANK*

説明: *vvvvvvvv* 変数の *subparm* パラメーターがブランクであり、指定する必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

ブランク・パラメーターが含まれている変数です。

subparm

指定する必要があるブランク・パラメーターです。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *subparm* パラメーターの値を指定してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX070 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - HLQ GROUP*
 group IS UNKNOWN

説明: このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明の HLQ グループを含む変数です。

group グループ名。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* の処理は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援の要求と問題の報告を行ってください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX071 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - VOL GROUP vol*
 grp IS UNKNOWN

説明: このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明のボリューム・グループを含む変数です。

vol grp ボリューム・グループ。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* の処理は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援の要求と問題の報告を行ってください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX072 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - subparm -*
 MIN/MAX = mnnn / mxxx

説明: *vvvvvvvv* 変数のパラメーター *subparm* が、正しい長さではありません。パラメーター長は、*mnnn* から *mxxx* の範囲である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

変数 *subparm* に長さに誤りのあるパラメーターが含まれています。

subparm

長さに誤りのあるパラメーターです。

mnnn パラメーターの最小長です。

mxxx パラメーターの最大長です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *subparm* パラメーターを *mnnn* から *mxxx* の範囲の値に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX073 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - CYL / TRK /*
 mnnnn / REC

説明: オプションの 1 つが表示されます。 *vvvvvvvv* 変数に、間違ったパラメーター・タイプが含まれています。パラメーターは、次のいずれかのタイプである必要があります。

CYL シリンダー単位で割り振られたスペース

mnnnn レコード単位で割り振られたスペースで、これが平均ブロック・サイズです。

REC レコード単位で割り振られたスペース。この値を使用するのは、VSAM の場合のみにしてください。

TRK トラック単位で割り振られたスペース

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

タイプに誤りがあるパラメーターが含まれている変数です。

mnnnn レコード単位で割り振られたスペースで、これが平均ブロック・サイズです。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数のパラメーターを許容タイプのいずれかに変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX074 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - BLK GROUP blk grp IS UNKNOWN*

説明: このメッセージが出されることがあってはなりません。このメッセージが表示されるのは、プログラミング・エラーの結果です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

不明の BLK グループを含む変数です。

blk grp ブロック・グループ。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* の処理は終了します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援の要求と問題の報告を行ってください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX075 *aaaaaaaa - DOC ACTION FAILED - NO RECORDS TO PRINT*

説明: 文書 (DOC) アクションが、印刷対象レコードを検出できませんでした。変数、ジョブ、またはタスクに関して、文書が印刷されていません。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: レコードは印刷されませんでした。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX076 *aaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE A MULTIPLE OF reclen*

説明: *vvvvvvvv* 変数は、ブロック・サイズ・パラメーターであり、レコード長 *reclen* の倍数である必要があります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

レコード長に誤りがある変数です。

reclen *vvvvvvvv* の値の約数である必要があるレコード長です。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

1186 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数が *reclen* の倍数になるように変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX078 *aaaaaaaa - SPR ACTION NOT AVAILABLE FOR JOB/TASK jtname*

説明: 特殊処理ルーチン (SPR) は、*jtname* ジョブまたはタスクでの使用はできません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

jtname 特殊処理ルーチンが利用不能であったジョブまたはタスクです。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSIXX10

DFSIX079 *aaaaaaaa - REPOSITIONING FAILED - DEFAULTING TO TOP OF TABLE*

説明: IVP は、望ましいエントリーにテーブルを位置変更できませんでした。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: テーブルは先頭から表示されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

メッセージが続く場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を要求してください。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

DFSIX080 *aaaaaaaa - BRS ACTION FAILED - DFSISRC IS NOT AVAILABLE*

説明: ブラウズ (BRS) アクションで SDFSISRC データ・セットにアクセスできません。ソース・メンバーは、ブラウズされませんでした。

メッセージ・テキスト中の *aaaaaaaa* は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: BRS が実行されません。処理は続行されます。

プログラマーの応答: SDFSISRC データ・セットが利用不能であった理由を判別し、問題を訂正してください。

モジュール: DFSIXX09

**DFSIX081 aaaaaaaaa - MUST CORRECT ERROR
IN VG BEFORE PROCEEDING**

説明: インストールおよび検査処理の変数収集 (VG) フェーズで、エラーが発生しました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: エラーが訂正されるまでは、IVP が次のフェーズに進むことはありません。

プログラマーの応答: エラーの変数が表示されます。変数を訂正してください。

モジュール: DFSIXX07、DFSIXX07、DFSIXX08

**DFSIX082 aaaaaaaaa - vvvvvvvv - INVALID VALUE
SPECIFIED**

説明: vvvvvvvv 変数に、無効の値または間違っただフォーマットが含まれています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

無効の値が含まれている変数です。

システムの処置: 変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: vvvvvvvv 変数を有効な値またはフォーマットに変更してください。有効な変数に関する情報が必要な場合は、入力 (ENT) モードに切り替えれば、ヘルプ・テキストが用意されています。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX085 aaaaaaaaa - CHG/RFR ERROR EXISTS

説明: 1 つ以上の変数の処理中に、エラーが発生しました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: エラーを訂正します。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX15

**DFSIX086 aaaaaaaaa - DOC ACTION FAILED -
INCOMPLETE SELECTION**

説明: 必要な選択がすべては「Document Options」パネルで作成されなかったため、文書 (DOC) アクションが失敗しました。変数、ジョブ、またはタスク文書で印刷されたものはありません。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: DOC アクションは終了します。

プログラマーの応答: DOC を再発行し、すべてのオプションに完全な入力を示してください。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX09、DFSIXX10

**DFSIX087 aaaaaaaaa - VALUES MUST BE EITHER
YES OR NO**

説明: 変数は YES と NO のいずれかである必要があります。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 変数 vvvvvvvv アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: 変数を許容値に変更してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX088 aaaaaaaaa - PLEASE SPECIFY HIR2101

説明: 変数は、HIR2101 に設定する必要があります。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 変数アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: 変数を HIR2101 に訂正してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX089 aaaaaaaaa - TCP/IP host name is invalid

説明: 無効な TCP/IP ホスト名が指定されました。

メッセージ・テキスト中の aaaaaaaaa は、このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

システムの処置: 変数アクション・フィールドが ERR

DFSIX090 • DFSIX094

に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: TCP/IP ホスト名の値を訂正してください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX090 *ivpenv* ENVIRONMENT NOT AVAILABLE (*envmemb*)

説明: 選択された IVP 環境は、IVP INSTATBL データ・セット内では使用不可です。これは、環境が作成されなかったことを意味しています。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ivpenv IVP 環境 (DBB、DBC、DBT、XRF、DCC)。

envmemb

環境のメンバー名。

システムの処置: このメッセージと一緒に IVP 変数エクスポート・ユーティリティ・パネルが表示されません。

プログラマーの応答: IVP INSTATBL で作成された環境を選択してください。

モジュール: DFSIVPEX

DFSIX091 IVP TABLE DATASET *ivptbl not found*

説明: IVP INSTATBL データ・セットが見つかりません。IVP 変数エクスポート・ユーティリティ・メインパネルで入力された IVP 高位修飾子は、データ・セット名を作成するために INSTATBL と連結されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

ivptbl IVP INSTATBL データ・セット名。

システムの処置: このメッセージと一緒に IVP 変数エクスポート・ユーティリティ・パネルが表示されません。

プログラマーの応答: IVP 高位修飾子を訂正してください。

モジュール: DFSIVPEX

DFSIX092 *errmsg* DSN: *ivpdsn* MEMBER: *ivpmem*

説明: IVP INSTATBL データ・セットにアクセスしていて、エラーが発生しました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

errmsg 次のようなエラーが入っています。

- MEMBER SPECIFIED, BUT DATASET IS NOT PARTITIONED
- ERROR PROCESSING REQUESTED DATASET
- PROTECTED DATASET
- VOLUME NOT ON SYSTEM
- INVALID DATASET NAME, *ivpdsn*
- MISSING DATASET NAME
- UNAVAILABLE DATASET

ivpdsn IVP INSTATBL データ・セット名。

ivpmem

IVP INSTATBL メンバー名。

システムの処置: このメッセージと一緒に IVP 変数エクスポート・ユーティリティ・パネルが表示されません。

システム・プログラマーの応答: IVP 高位修飾子を訂正してください。

モジュール: DFSIVPEX、DFSIXX08、DFSIXX22

DFSIX093 EXPORT DATASET *expdsn* NOT ALLOCATED

説明: このメッセージは、IVP エクスポート割り振りパネルに表示されます。エクスポート・データ・セットは存在しなかったため、IVP エクスポート割り振りパネルが表示され、TSO 割り振りまたは「ISPF Dataset Utility Panel (3.2)」を使用してデータ・セットを割り振るオプションがユーザーに与えられました。何らかの理由により、エクスポート・データ・セット・パネルは割り振られませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

expdsn IVP エクスポート・データ・セット名。

システムの処置: このメッセージと一緒に IVP エクスポート割り振りパネルが表示され、データ・セットを割り振るオプションがユーザーに与えられます。

プログラマーの応答: エクスポート・データ・セットの割り振りに関連した問題を解決してから、再度試行してください。

モジュール: DFSIXX22

DFSIX094 ALLOCATION ERROR. RC=*rc* DSN: *expdsn*

説明: IVP は、割り振りエラーのために、エクスポート・データ・セットを割り振ることができませんでした。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

rc TSO 割り振りエラー。
expdsn エクスポート・データ・セット名。

システムの処置: エクスポート・データ・セット名パネルにメッセージが表示され、ユーザーの入力を待ちます。

プログラマーの応答: エクスポート・データ・セットの問題を訂正し、再試行してください。

モジュール: DFSIXX08、DFSIXX22

DFSIX095 EXPORT DATASET *expdsn*. MEMBER NOT FOUND.

または

EXPORT DATASET *expdsn* DOES NOT EXIST

説明: エクスポート・データ・セットが存在しないか、PDS ならば、そのメンバーは存在しません。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

expdsn エクスポート・データ・セット名

システムの処置: エクスポート・データ・セット名パネルにメッセージが表示され、ユーザーの入力を待ちます。

プログラマーの応答: エクスポート・データ・セットの問題を訂正し、再試行してください。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX096 EXPORT OF VARIABLES COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: IVP 変数のエクスポートが正常に完了しました。

システムの処置: 通知メッセージ。

モジュール: DFSIVPEX、DFSIXX08

DFSIX097 IMPORT OF VARIABLES COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: IVP 変数のインポートが正常に完了しました。

システムの処置: 通知メッセージ。

モジュール: DFSIXX08

DFSIX098 aaaaaaaa - vvvvvvvv - MUST BE A MULTIPLE OF *reclen* + 4

説明: *vvvvvvvv* 変数は BLKSIZE パラメーターであり、レコード長 *reclen* の倍数に、ブロック記述子ワー

ド用の追加の 4 バイトをプラスしたものであることが必要です。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

aaaaaaaa

このメッセージが出されたとき実行されていたモジュールです。

vvvvvvvv

その変数。

reclen レコード長。

システムの処置: 変数 *vvvvvvvv* アクション・フィールドが ERR に設定されていますが、これは変数が無効であることを示しています。

プログラマーの応答: *vvvvvvvv* 変数を変更し、それが *reclen* の倍数 + 4 になるようにしてください。

モジュール: DFSIXX11

DFSIX100 (C) COPYRIGHT IBM CORP. 2003. ALL RIGHTS RESERVED.

説明: このメッセージは、IBM の著作権文を発行します。

システムの処置: 処理は続行されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: REXX プログラム DFSAPPL

DFSIX101 THE HLQ PARAMETER IS MISSING

説明: 必要なパラメーターが指定されませんでした。

システムの処置: プログラムは、求められた機能を実行せずに終了します。

プログラマーの応答: コマンドを再発行し、HLQ パラメーターを指定してください。HLQ は、IMS データ・セットの高位修飾子です。

モジュール: (REXX プログラム)

DFSAPPL、DFSHDSRT、DFSKBSRT、DFSSCSRT、DFSSPSRT

DFSIX102 AN UNKNOWN PARAMETER WAS SPECIFIED: *parm*

説明: 余分のパラメーターが提供されました。そのパラメーターは認識されません。

システムの処置: プログラムは、求められた機能を続行します。

プログラマーの応答: パラメーターのスペルが正しかったかどうかを確認してください。プログラムをいったん終了し、正しいパラメーターを指定してプログラムを開

DFSIX103 • DFSIX107

始してください (該当する場合)。

モジュール: (REXX プログラム)

DFSAPPL、DFSHDSRT、DFSKBSRT、DFSSCSRT、
DFSSPSRT

DFSIX103 **IPCS is not set up correctly. Please
EXIT from ISPF and issue this
command: EXEC '&hlq.SDFSEXEC
(DFSDFSRT)' 'HLQ(&hlq)'**

説明: IMS ダンプ・フォーマッターが IPCS を必要とし、IPCS はまだ開始されていません。ここで、*&hlq* は、ユーザーが定義した高位修飾子です。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは開始されません。

システム・プログラマーの応答: このメッセージによって推奨されるコマンドを発行するか、ローカル手順を使用して IPCS を開始してください。

モジュール: DFSDFSRT

DFSIX104 **Enter a VOLID for the allocation of
the IPCS dump directory or null to
exit.**

説明: IPCSDDIR の DD 名が、ユーザーに割り振られていないことが分かりました。

システムの処置: ユーザーに VOLID の入力を促すプロンプトが表示されます。プログラムは、ユーザーが VOLID で応答するまで待ちます。ユーザーが VOLID を入力せずに Enter を押すと、プログラムは IMS ダンプ・フォーマッターを開始することなく終了します。

システム・プログラマーの応答: VOLID を入力して Enter を押してください。

モジュール: DFSDFSRT

DFSIX105 **The VOLID specified is not valid:
&volid**

説明: ユーザーが入力した VOLID が無効です。この名前は、1 から 6 文字の英数字とすることができます。

システムの処置: システムは、再度、メッセージ DFSIX104 でユーザーに入力を促します。

システム・プログラマーの応答: メッセージ DFSIX104 に応答してください。VOLID を入力して Enter を押してください。

モジュール: DFSDFSRT

DFSIX106 **Allocation of IPCS dump directory
failed.**

説明: システムがお客様に代わって DEFINE CLUSTER コマンドの発行を試みましたが、それが正常に完了しませんでした。

システムの処置: IMS ダンプ・フォーマッターは開始されません。

システム・プログラマーの応答: クラスタ定義コマンドが正しく機能しなかった理由を判別し、解決してください。

回避策として、ユーザーは手動で IPCS ダンプ・ディレクトリー・データ・セットを割り振ることができます。このダンプ・ディレクトリーは、DD 名 IPCSDDIR へ割り振られます。詳しくは、「z/OS MVS Interactive Problem Control System (IPCS) User's Guide」を参照してください。

DFSIX107 **THE DBDLIB WAS NOT FOUND:
dddddd**

説明: IMS DD ステートメントが割り振られず、データ・セット名が xxx.DBDLIB の形式ではありません。ここで、xxx は高位修飾子です。

メッセージ・テキストの ddddddd は、欠落している DBDLIB データ・セット名を示します。

システムの処置: 区画定義ユーティリティが開始します。

システム・プログラマーの応答: IMS DD ステートメントを表示するには、PDU パネルでオプション 6 を選択してください。DBDLIB を含む IMS DD ステートメントを割り振るか、または DBDLIB データ・セット名を xxx.DBDLIB (ここで、xxx は高位修飾子です) に変更することができます。

第 103 章 DFSI メッセージ (構文チェッカー)

構文チェッカーは、DFSI で始まるメッセージを発行します。

DFSI920E Parameter value invalid xxxxxxxx

説明: 画面のトップにあるパラメーターが無効です。xxxxxxx は、オプションであり、追加情報を提供します。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正してください。パラメーターの説明を表示するには、F1 (ヘルプ・キー) を使用してください。

モジュール: DFSWPBVP

DFSI921W (C) Copyright IBM Corp. 2002. All Rights reserved.

説明: 構文チェッカーが開始されると、IMS 構文チェッカーの著作権文が表示されます。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBC

DFSI922I Member xxxxxxxx is new or empty. All parameters are displayed.

説明: 要求されたメンバーが空です。可能なすべてのパラメーターが表示されます。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWMBLD

DFSI923I No errors found in a parameter value.

説明: どのパラメーター値にもエラーは検出されませんでした。

システムの処置: 処理は続行されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWMBLD

DFSI924I Member xxxxxxxx not currently

processed by Syntax Checker

説明: メンバー xxxxxxxx は、構文チェッカーによって処理されません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 構文チェッカーを使用してメンバーを処理するには、そのメンバーが構文チェッカーにサポートされなければなりません。

モジュール: DFSWSMBC

DFSI925I Member xxxxxxxx has no new keywords

説明: ユーザーは新規キーワードの表示を要求しました。メンバー内には新規キーワードがありません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWMBLD

DFSI926W Keyword kkkkkk not valid in Release rrrrr

説明: ユーザーが、その PROCLIB メンバーを IMS リリース rrrrr で処理することを選択しました。現在メンバーに入っているキーワード kkkkkk は、そのリリースでは無効です。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: そのキーワードを削除してください。

モジュール: DFSWPBKP

DFSI927W Keyword kkkkkk is not valid for Control Region ccccc

説明: ユーザーが、その PROCLIB メンバーを IMS 制御領域 ccccc で処理することを選択しました。現在メンバーに入っているキーワード kkkkkk は、その制御領域では無効です。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: そのキーワードを削除してください。

モジュール: DFSWPBKP

DFSI930I Member xxxxxxx saved in dsn

説明: メンバーが *dsn* に正常に保管されました。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWMSAV

DFSI932I Command ccccc is undefined

説明: コマンド行のコマンド *cccccc* は、構文チェッカーに既知のものではありません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: コマンドを訂正してください。

モジュール:

DFSWSMBM、DFSWUPCR、DFSWUPDM、
DFSWUPNR、DFSWUPSA、DFSWUPSV

DFSI933I No keywords selected for ccccccc command

説明: コマンド行のコマンド *ccccccc* は、選択されたキーワードに作動する必要があります。キーワードが選択されていません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: SEL フィールドに / を入れて、キーワードを選択してください。

モジュール: DFSWSMBM

DFSI934I No command selected for keyword kkkkkk

説明: キーワードが選択されましたが、コマンド行にコマンドが入力されていません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: コマンド行にコマンドを入力してください。

モジュール: DFSWSMBM

DFSI935I Invalid keyword selected option: o

説明: 選択されたオプション *o* が無効です。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 選択オプションを訂正してください。

モジュール: DFSWSMBM

DFSI937I Equal sign in same line comment changed to dash

説明: ユーザーは、等号 (=) が含まれている同一行コメントを入力しました。同一行コメント内では、等号は使用できません。ダッシュ (-) に変更されました。

システムの処置: 通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWPBKP

DFSI938I P COMMAND IGNORED. KEYWORD DOES NOT IDENTIFY A MEMBER.

説明: *P* コマンドで選択されたキーワードが、IMS.PROCLIB のメンバーを識別しません。*P* コマンドを処理することができません。

システムの処置: *P* コマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS.PROCLIB のメンバーを識別するキーワードを選択してください。有効なキーワードには、キーワード表示パネル内で下線が付いています。

モジュール: DFSWKOPR

DFSI939I P COMMAND IGNORED. KEYWORD DOES NOT HAVE A VALUE OR VALUE IS IN ERROR

説明: *P* コマンドで選択されたキーワードが、値を持っていないか、その値にエラーがあります。*P* コマンドを処理することができません。

システムの処置: *P* コマンドの処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 問題を訂正して再試行してください。

モジュール: DFSWKOPR

DFSI998I MEMBER memb WILL BE PROCESSED UNDER IMS rel (ctlreg)

説明: 処理が、メンバー *memb* について要求されました。このメンバーは、元のメンバーと同じ IMS リリースおよび制御領域の下で処理されます。この問題は、そのメンバーを処理する IMS 領域および制御領域を知らせる通知メッセージです。

memb 処理されるメンバーのメンバー名。

rel IMS リリース。

ctlreg IMS 制御領域。このフィールドは、メンバーが制御領域によって変化する場合にのみ表示されます。

システムの処置: 通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBM

DFS1999I MEMBER *memb* PROCESSING CONTINUES

説明: メンバー *memb* の処理は、P オプションを使用した別のメンバーの処理が完了した直後に続行されます。

memb メンバー名。

システムの処置: 通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBM

DFS1991I Member name must be entered as part of the DSN

説明: メンバー名は、データ・セット名の一部として入力しなければなりません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: メンバー名を、データ・セット名の一部として TSO 形式で入力してください。

モジュール: DFSWUPSA

DFS1992I Member must be 1-8 characters

説明: メンバー名が無効です。メンバー名は、1 から 8 文字でなければなりません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: メンバー名を訂正してください。

モジュール:

DFSWUICR、DFSWUIDH、DFSWUIDM、DFSWUOSA

DFS1993I No members in dataset *dsn*

説明: 構文チェッカーが処理するように要求されたデータ・セットは、空です。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 処理する新規メンバー

を入力するか、別のデータ・セットを選択してください。

モジュール: DFSWIOOI

DFS1994I Member is being used by you or another user

説明: メンバーは、別のユーザーか、または別の ISPF 画面の現行ユーザーによって使用中です。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWPBMC

DFS1995I Change release option cancelled - user request

説明: ユーザーが、リリース変更処理をキャンセル (F3) しました。

システムの処置: 直前のキーワード表示パネルが表示されます。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBM

DFS1996I Exit of member cancelled - user request

説明: ユーザーが、構文チェッカーの実行を終了またはキャンセルすることを要求しましたが、そのメンバーが変更されていたことを通知されました。ユーザーは、終了しないことを選択します。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBM

DFS1997I Comment not allowed on "blank", Unknown or keywords without values

説明: コメント "C" 選択コードが "blank" または不明のキーワードに入力されました。コメントはキーワードには許されません。

システムの処置: ありません。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWPBMC

**DFSI998I MEMBER *memb* WILL BE
PROCESSED UNDER IMS *rel* (*ctlreg*)**

説明: 処理が、メンバー *memb* について要求されました。このメンバーは、元のメンバーと同じ IMS リリースおよび制御領域の下で処理されます。この問題は、そのメンバーを処理する IMS 領域および制御領域を知らせる通知メッセージです。

memb 処理されるメンバーのメンバー名。

rel IMS リリース。

ctlreg IMS 制御領域。このフィールドは、メンバーが制御領域によって変化する場合にのみ表示されます。

システムの処置: 通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBM

**DFSI999I MEMBER *memb* PROCESSING
CONTINUES**

説明: メンバー *memb* の処理は、P オプションを使用した別のメンバーの処理が完了した直後に続行されます。

memb メンバー名。

システムの処置: 通知メッセージ。

システム・プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

モジュール: DFSWSMBM

第 104 章 DFSS メッセージ (IMS 異常終了検索および通知)

IMS 異常終了検索および通知機能から発行されるメッセージは、DFSS で始まります。

IMS 異常終了検索および通知機能の使用については、IMS システム定義情報を参照してください。

IMS異常終了の検索および通知機能の場合、バッチからの実行時に以下のメッセージを取得できます。

DFS2225E
DFS2226E
DFS2227E
DFS2228E
DFS2229E

このトピックのメッセージを受け取ることができるのは、IMS 異常終了検索および通知 ISPF パネルを使用している場合です。

DFSS001E "Skeleton lib" DS and "Runtime" DS must not be the same

説明: IMS 異常終了検索および通知プロシージャの名前を含むメンバーをユーザーが使用できるようにするには、スケルトン・ライブラリーを使用します。メンバーは、ISPF ドリブンの呼び出しに関する IMS 異常終了検索および通知によって生成された JCL に含まれています。呼び出しが異常終了ドリブンまたは ISPF ドリブンのどちらであっても、ランタイム・データ・セットは、IMS 異常終了検索および通知を呼び出すすべての JCL で指定されます。

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: スケルトン・ライブラリー・データ・セットとランタイム・データ・セットに 2 つの異なる有効なデータ・セット名を指定します。

「**Recipient e-mail address**」フィールドに E メール・アドレスを指定するか、「**Specify additional addresses?**」フィールドに「Y」と入力して CONTROL メンバーで E メール・アドレスを指定します。

モジュール: DFSRASN1

DFSS002E e-mail address must be specified

説明: IMS 異常終了検索および通知をセットアップする場合、「System Setup」パネルの「**Recipient e-mail address**」フィールドに E メール・アドレスを指定する

か、「**Specify additional addresses?**」フィールドに Y と入力します。

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: 「**Recipient e-mail address**」フィールドに E メール・アドレスを指定するか、「**Specify additional addresses?**」フィールドに「Y」と入力して CONTROL メンバーで E メール・アドレスを指定します。

モジュール: DFSRASN1、DFSRASN2

DFSS003E Data set xxxxxxxx not found

説明: 「System Setup」パネルで指定されたデータ・セットが、z/OS システムで検出されませんでした。xxxxxxx は、データ・セット名を識別します。

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: 「System Setup」パネルで有効な既存のデータ・セットを指定します。

モジュール: DFSRASN1

DFSS004E No search argument has been provided

説明: E メールを生成するための「**On demand interface**」パネルでは、少なくとも 1 つの検索引数を指定する必要があります。

DFSS005E • DFSS100E

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: 「**On demand interface**」パネルの次のいずれかのフィールドで、少なくとも 1 つの Web 検索指数を指定します。

- PSP for FMID
- Abend Code
- Return Code (RC)
- Module Name
- APAR Number (PE or other)
- Message ID
- Generic Search Argument

モジュール: DFSRASN2

DFSS005E APAR search and MSG search are mutually exclusive

説明: 「**On demand interface**」パネルで「**APAR number**」フィールドと「**Message ID**」フィールドの両方を同時に指定することはできません。

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: APAR 番号またはメッセージ ID のいずれかを指定してください。両方は指定しないでください。

モジュール: DFSRASN2

DFSS006E Abend prefix must be an S or a U

説明: 異常終了コードの入力時に、接頭部として、システム異常終了の場合は S を、IMS 異常終了コード (ユーザー異常終了) の場合は U を使用します。

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: 異常終了コードの有効な接頭部を「**Abend Code**」フィールドに入力します。

モジュール: DFSRASN2

DFSS007E The edit of the Abend Search and Notification generated JCL failed with RC=xx

説明: REXX プログラムは、特定のメンバーを編集のためにオープンできませんでした。

システムの処置: 処理は終了し、メッセージが表示されます。

システム・プログラマーの応答: ユーザー ID にデータ・セットにアクセスするための適切な権限があることを確認します。

モジュール: DFSRASN1、DFSRASN2

DFSS008I xxxxxxxx member already exists

説明: 「**System Setup**」パネルで指定したメンバーは存在しており、最新の状態です。

メッセージ・テキストで、xxxxxxx はメンバーを示し、次のいずれかです。

URLS
SYSUT1
CONTROL
SMS
SMSCNTL
PROCLIB
DFSDFXXX

システムの処置: 処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール: DFSRASN1

DFSS009I xxxxxxxx member was updated

説明: 「**System Setup**」パネルで指定したメンバー xxxxxxxx は更新されています。xxxxxxx は、次のいずれかです。

URLS
SYSUT1
CONTROL
SMS
SMSCNTL
PROCLIB
DFSDFXXX

システムの処置: 処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール: DFSRASN1

DFSS100E Abend code must be specified with return code (RC)

説明: 戻りコード (RC) パラメーターの値を指定する場合、異常終了コード・パラメーターの値も指定する必要があります。異常終了コードの値が指定されませんでした。

システムの処置: 処理は停止します。

システム・プログラマーの応答: 戻りコード (RC) を指定すると同時に異常終了コードも指定していることを確認します。

モジュール: DFSRASN2

DFSS101I Change to recipient info: xxxxxxxx member is copied again

説明: 受信者情報が変更され、更新が特定のメンバーに伝搬されました。既存のメンバーは、新しい情報を含むコピーに置換されます。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

xxxxxxx

メンバー。これは、CONTROL または SMSCNTL です。

システムの処置: 処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール: DFSRASN1

DFSS102I PROCLIB member has been updated due to change to xxxxxxxx

説明: PROCLIB メンバーには、「System Setup」パネルを使用して変更できる情報が含まれています。このパネルで行う変更は、更新された情報を含む PROCLIB メンバーのコピーを作成することによって、メンバーに伝搬されます。

システムの処置: 処理を続行します。

システム・プログラマーの応答: 続行するには、Enter キーを押してください。

モジュール: DFSRASN1

DFSS103E The HLQ parameter is missing

説明: 該当するデータ・セットにアクセスするには、IMS のインストールに使用された高位修飾子を指定する必要があります。

システムの処置: 処理は終了して、IMS 異常終了検索および通知は開始されません。

システム・プログラマーの応答: IMS のインストールに使用された高位修飾子を指定します。

モジュール: DFSRASN0

DFSS104E An unknown parameter was specified: xxxxxxxx

説明: IMS 異常終了検索および通知に指定できる唯一の有効なパラメーターは、HLQ です。xxxxxxx で示されているパラメーターは認識されませんでした。

システムの処置: 処理は終了して、IMS 異常終了検索

および通知は開始されません。

システム・プログラマーの応答: HLQ をパラメーターとして使用して、IMS のインストールに使用された高位修飾子も指定していることを確認してください。

モジュール: DFSRASN0

DFSS105E Member DFSKCAT0 in data set "dsname" not found

説明: プログラムは、DFSKCAT0 を開始して、ISPF パネルで指定されたデータ・セットが有効であることを検査しようとしています。しかし、エラー・メッセージで示されているデータ・セット名にはモジュールが含まれていません。パネルで、IMS.SDFSRESL パラメーターの値として、DFSKCAT0 を含んでいる必要があるデータ・セットの名前が指定されました。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

dsname メンバー DFSKCAT0 を含んでいる必要があるデータ・セット

システムの処置: 処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: IMS.SDFSRESL パラメーターとして正しいデータ・セット名が指定されていること、およびそのデータ・セットが存在することを確認します。

モジュール: DFSRASN1

DFSS106E Skeleton skeleton not found

説明: IMS ASN オンデマンド・インターフェースが選択され、システムは、制御ステートメント・スケルトンがプログラムで使用可能であることを検証しようとしてしました。プログラムは、メッセージに示されているスケルトンにアクセスできませんでした。これらのスケルトンは、IMS 異常終了検索および通知のセットアップの一部として作成されました。これらは、「IMS ASN System Setup」パネル (オプション 1) の「Skeleton lib DS」として指定されたデータ・セットにあります。

メッセージ・テキストの中の各項目は、次のとおりです。

skeleton

使用不可だったスケルトンの名前。これは DFSSPCLI または DFSSPRCI です。

システムの処置: 処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: スケルトンがデータ・セットに存在すること、および IMS 異常終了検索および通知のインストールがスケルトン・ライブラリー・データ・セットにアクセスするよう正しく構成されていることを確認してください。

モジュール: DFSRASN2

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

プログラミング・インターフェース情報

この情報の目的は、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断するのを支援することです。また、IMS が提供する診断、修正、またはチューニング情報についても記述しています。

診断、修正、チューニングの情報は、IMS の診断、変更、またはチューニングをお客さまが行う手助けをするために提供されます。診断、修正、またはチューニング情報は、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

診断、修正、またはチューニング情報は、節またはトピックの場合はその冒頭で識別され、それ以外の場合は次のようにマーク付けされています。診断、変更、またはチューニング情報。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場

合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/privacy/details>) を参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS 15 ライブラリーのすべての資料が記載されています。

表題	頭字語	資料番号
IMS V15 アプリケーション・プログラミング	APG	SC27-6778
IMS V15 アプリケーション・プログラミング API	APR	SC27-6779
IMS V15 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M	CR1	SC27-6780
IMS V15 コマンド 第 2 巻: IMS コマンド N-V	CR2	SC27-6781
IMS V15 コマンド 第 3 巻: IMS コンポーネント および z/OS コマンド	CR3	SC27-6782
IMS V15 コミュニケーションおよびコネクション	CCG	SC27-6783
IMS V15 データベース管理	DAG	SC27-6784
IMS V15 データベース・ユーティリティー	DUR	SC27-6785
IMS Version 15 Diagnosis	DGR	GC27-6786
IMS V15 出口ルーチン	ERR	SC27-6787SC43- 3856
IMS V15 インストール	INS	SC27-6788
IMS Version 15 Licensed Program Specifications	LPS	GC27-6799
IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ	MC1	GC27-6789
IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ	MC2	GC27-6790
IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード	MC3	GC43-4469
IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード	MC4	GC43-4470
IMS V15 オペレーションおよびオートメーション	OAG	SC27-6793
IMS V15 リリース計画	RPG	GC27-6794
IMS V15 システム管理	SAG	SC27-6795
IMS V15 システム定義	SDG	GC27-6796
IMS V15 システム・プログラミング API	SPR	SC27-6797
IMS V15 システム・ユーティリティー	SUR	SC27-6798



プログラム番号: 5635-A06
5655-DS5
5655-TM4

Printed in Japan

GC43-4282-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IMS バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ

